岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 671 集

中村（なかむら）遺跡発掘調査報告書

北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）関連遺跡発掘調査

〈第 1 分冊　本文・図版・表〉

２０１７

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団

中村遺跡発掘調査報告書

北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）関連遺跡発掘調査

〈第１分冊　本文・図版・表〉

千苅遺跡・中村遺跡調査区全景（上が西）

中村遺跡調査区全景（上が東）

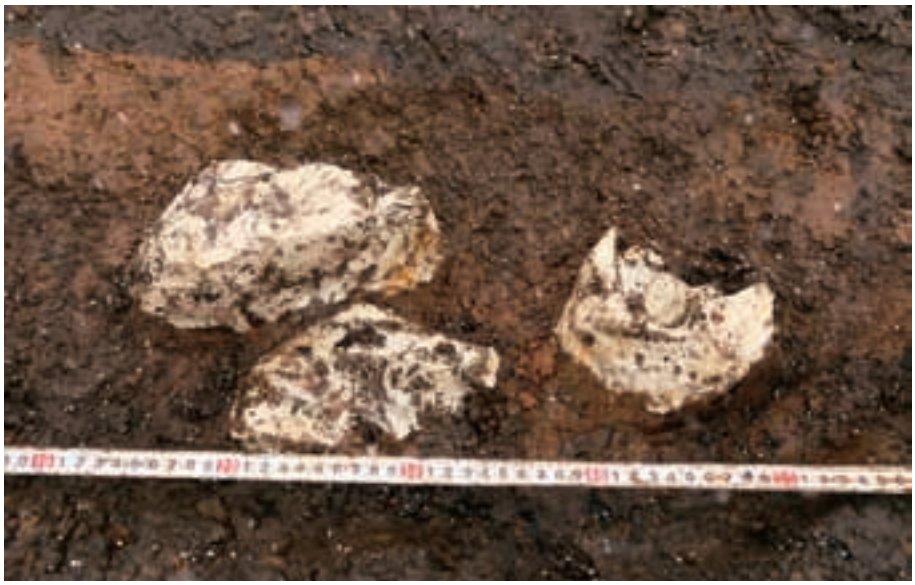
大型の住居跡（SI70）

焼失した住居跡（SI43）

石組み構造を持つカマド
（SI15）

カマド内・床面から出土した土師器甕（SI76）

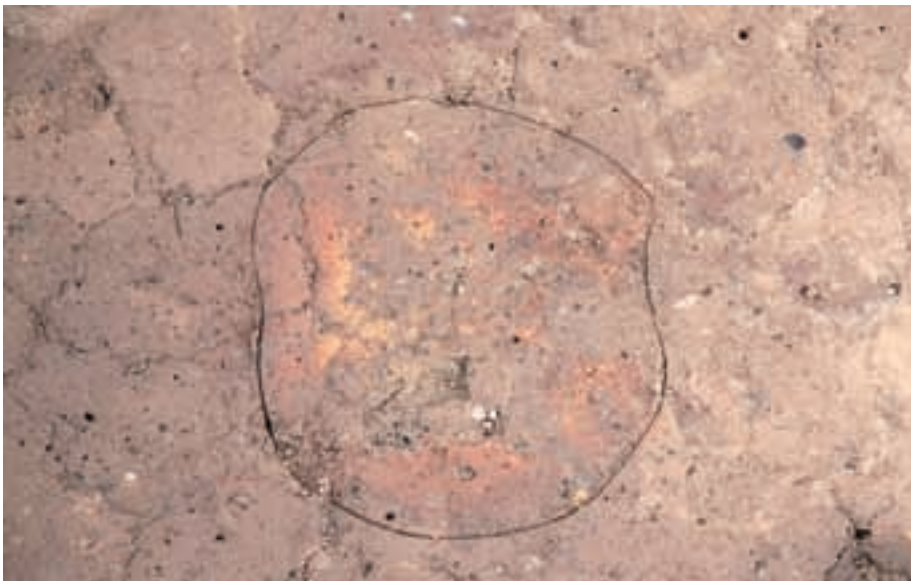
カマド脇貯蔵穴内土器出土状況（SI04）



住居内から出土した白色粘土塊（SI80）

住居内から出土した鉄鏃
（SI135）

掘立柱建物跡（鍛冶工房）
の微細遺物採取作業風景



鍛冶炉（SB01）

大型の土坑（SK07）

焼成遺構（SX87）

焼成遺構（SX10）

区画溝の可能性を持つ大溝（SD23）

溝の埋土上位に堆積する洪水砂（SD23）

畝間状遺構（UM01）

赤彩土器集合 1

赤彩土器集合 2

赤彩土器集合 3

SX36 焼成遺構内出土土器（赤彩土器含む）

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行ない、その調査の記録を保存とする措置をとってまいりました。

本報告書は、北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）に関連して、平成 26 年度から平成 27 年度にかけて実施した中村遺跡の成果をまとめたものであります。

今回の調査では、古代の竪穴住居跡や焼成遺構をはじめ各種の遺構が多数検出され、北上川に面した土地利用の様子を明らかにすることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成 29 年 3 月

公益財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　菅　野　洋　樹

例　　言

1　本報告書は、岩手県北上市二子町字中村地内に所在する中村遺跡の発掘調査の成果を収録したものである。

2　岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号・調査略号は次の通りである。

　　中村遺跡　遺跡番号：ME56-1385　　遺跡略号：NM-14・NM-15

3　本遺跡の発掘調査は北上川中流部緊急治水対策事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。

4　野外調査（調査面積）及び室内整理期間、担当者は次の通りである。従事期間は個々で異なる。

〈野外調査〉　合計面積 21,870 m^2

平成 26 年 4 月 7 日～12 月 22 日（18,290 m^2）	丸山直美　高木晃　佐々木清文　高橋義介 村木敬　川村均　伊東格　佐藤奈津季 清水彩　藤原雅仁
平成 27 年 4 月 16 日～7 月 2 日（3,580 m^2）	高木晃　佐々木清文　伊東格　佐藤奈津季 清水彩

〈室内整理〉

平成 26 年 11 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日	丸山直美　高木晃　伊東格　佐藤奈津季 清水彩　藤原雅仁
平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日	丸山直美　高木晃　伊東格　佐藤奈津季

5　本報告書の執筆分担は以下の通り。

　　第Ⅰ章：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

　　第Ⅱ章：伊東・高木　　第Ⅲ章：丸山

　　第Ⅳ章 1・2・3（2）～（8）・4（1）・（2）・（6）・（7）：丸山

　　第Ⅳ章 3（1）・4（3）～（5）：高木

　　第Ⅴ章 1（1）・（2）・（4）～（7）・2：丸山

　　第Ⅴ章 1（3）：高木

6　各種委託業務は次の機関に依頼した（順不同・敬称略）。

基準点測量	：（株）キタテック
航空写真	：東邦航空
出土石器・石製品の石質肉眼同定	：花崗岩研究会
出土炭化材の樹種肉眼同定	：阿部利吉（前岩手県木炭協会）
炭化物の放射性炭素年代測定	：株式会社加速器分析研究所
土器胎土・生粘土分析	：パリノ・サーヴェイ株式会社
微細遺物水洗選別・分類	：パリノ・サーヴェイ株式会社
種実・骨類同定	：パリノ・サーヴェイ株式会社
プラントオパール・花粉分析	：古代の森研究舎
坩堝の化学分析	：（株）第四紀地質研究所
出土金属製品の保存処理	：（公財）大阪市博物館協会

7　野外調査、及び室内整理にあたり、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上市教育委員会、遺跡周辺住民の方々、ならびに以下の方々よりご協力を得た（五十音順・敬称略）。
安藤邦彦、岩田貴之、遠藤聡、小田嶋知世、君島武史、菅原祥夫、杉本良、関根達人、高橋文明、高橋静歩、沼山源喜治、平野修、森泰通

8　これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報、遺跡報告会等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

9　本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡　　例

1　本書では国土地理院発行２万５千分の１地形図「口内」、５万分の１地形図「北上」を使用した。

2　遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第Ⅹ系（世界測地系）に基づく。

3　遺構図等の方位は真北を表示している。

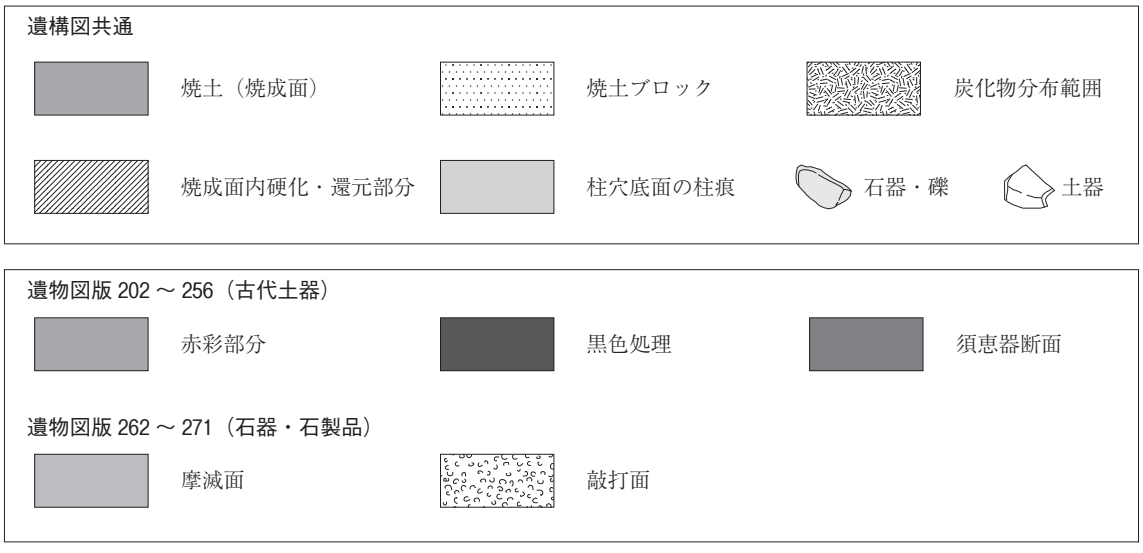
4　挿図の縮尺は各図毎にスケールを付した。

5　土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

6　遺構規模数値は第 4～11 表各遺構一覧表に記している。

7　遺構図中で使用したアミ等の表現は下図の通り。また、必要に応じ各図に凡例を示した。

8　遺物の取り上げに際し次の略号を用いた。
土器類：Ｐ　　石器類：Ｓ　　鉄製品：Ｆ　　炭化物：Ｃ



目　　次

分冊構成

第１分冊　本文・遺構図版・遺物観察表・遺物実測図版

第２分冊　付編 自然科学的分析・写真図版

（第１分冊）
本 文 目 次

Ⅰ　調査に至る経過……1

Ⅱ　遺跡の立地と環境……1

1　地理的環境……1

(1)　遺跡の位置と立地……1

(2)　遺跡周辺の地形……3

2　周辺の遺跡……5

Ⅲ　調査と整理の方法……9

1　野外調査……9

2　室内整理……14

Ⅳ　検出された遺構と遺物……27

1　概　　要……27

2　基本層序……27

3　検出遺構……28

(1)　竪穴住居跡……31

(2)　掘立柱建物跡（工房含む）・柱穴列……89

(3)　土　　坑……90

(4)　焼成遺構……114

(5)　焼土遺構……130

(6)　溝　　跡……133

(7)　畝間状遺構……137

(8)　柱穴状小土坑……139

4　遺　　物……481

(1)　土師器・須恵器……481

(2)　灰釉陶器……485

(3)　縄文・弥生土器……493

(4)　土製品……495

(5)　石器・石製品……497

(6)　金属製品……502

(7)　その他……505

Ⅴ　遺構・遺物の検討……533

1　古代の遺構と遺物……533

2　総　　括……554

報告書抄録……557

表　目　次

第１表　周辺遺跡一覧表……6

第２表　検出遺構数一覧……28

第３表　遺構一覧……29

第４表　古代竪穴住居跡一覧……324

第５表　掘立柱建物跡・柱穴列一覧……335

第６表　土坑一覧……335

第７表　焼成遺構一覧……345

第８表　焼土遺構一覧……352

第９表　溝跡一覧……353

第10表　畝間状遺構一覧……355

第11表　柱穴状小土坑一覧……356

第12表　土師器・須恵器観察表……438

第13表　灰釉陶器観察表……469

第14表　縄文・弥生土器観察表……470

第15表　土製品観察表……472

第16表　焼成粘土塊一覧……473

第 17 表　石器・石製品観察表……474
第 18 表　金属製品観察表……476
第 19 表　古銭観察表……478
第 20 表　鉄滓観察表……478
第 21 表　羽口・坩堝観察表……480
第 22 表　赤彩土器遺構別重量集計……485
第 23 表　剥片集計……501
第 24 表　遺構別古代土器組成……541
第 25 表　カマド設置方位……546
第 26 表　焼成遺構内出土焼け弾け土器片内訳……548

図 版 目 次

第 1 図　遺跡の位置……2
第 2 図　地形分類図……4
第 3 図　周辺遺跡分布図……6
第 4 図　調査区位置図……10
第 5 図　グリッド配置・区割り図……11
第 6 図　遺構分布図……15
第 7 図　遺構分布図部分（1）……17
第 8 図　遺構分布図部分（2）……18
第 9 図　遺構分布図部分（3）……19
第 10 図　遺構分布図部分（4）……20
第 11 図　遺構分布図部分（5）……21
第 12 図　遺構分布図部分（6）……22
第 13 図　遺構分布図部分（7）……23
第 14 図　遺構分布図部分（8）……24
第 15 図　遺構分布図部分（9）……25
第 16 図　遺構分布図部分（10）……26
第 17 図　基本土層……28
第 18 図　SI01 住居跡……140
第 19 図　SI02 住居跡（1）……141
第 20 図　SI02（2）・SI03 住居跡……142
第 21 図　SI04 住居跡……143
第 22 図　SI05 住居跡（1）……144
第 23 図　SI05 住居跡（2）……145
第 24 図　SI05（3）・SI06 住居跡……146
第 25 図　SI07 住居跡……147
第 26 図　SI08 住居跡……148
第 27 図　SI09 住居跡 ……149
第 28 図　SI10 住居跡……150
第 29 図　SI11 住居跡（1）……151
第 30 図　SI11（2）・SI12 住居跡（1）……152
第 31 図　SI12 住居跡（2）……153
第 32 図　SI13・14 住居跡……154
第 33 図　SI15 住居跡（1）……155
第 34 図　SI15（2）・SI16 住居跡（1）……156
第 35 図　SI16（2）・SI17 住居跡……157
第 36 図　SI18・SI19 住居跡……158
第 37 図　SI20 住居跡……159
第 38 図　SI21 住居跡（1）……160
第 39 図　SI21 住居跡（2）……161
第 40 図　SI22 住居跡……162
第 41 図　SI23 住居跡（1）……163
第 42 図　SI23 住居跡（2）……164
第 43 図　SI24 住居跡（1）……165
第 44 図　SI24 住居跡（2）……166
第 45 図　SI25 住居跡（1）……167
第 46 図　SI25 住居跡（2）……168
第 47 図　SI26 住居跡……169
第 48 図　SI27・SI28 住居跡（1）……170
第 49 図　SI28（2）・SI29・SI30 住居跡……171
第 50 図　SI31・SI32・SI33 住居跡（1）……172
第 51 図　SI33 住居跡（2）……173
第 52 図　SI34 住居跡……174
第 53 図　SI35 住居跡……175
第 54 図　SI36 住居跡……176
第 55 図　SI37 住居跡……177
第 56 図　SI38 住居跡（1）……178
第 57 図　SI38 住居跡（2）……179
第 58 図　SI39 住居跡……180
第 59 図　SI40 住居跡（1）……181
第 60 図　SI40 住居跡（2）……182
第 61 図　SI41 住居跡（1）……183
第 62 図　SI41 住居跡（2）……184
第 63 図　SI42 住居跡（1）……185
第 64 図　SI42（2）・SI43 住居跡（1）……186
第 65 図　SI43 住居跡（2）……187
第 66 図　SI44 住居跡……188
第 67 図　SI45 住居跡（1）……189
第 68 図　SI45 住居跡（2）……190
第 69 図　SI45 住居跡（3）……191
第 70 図　SI46 住居跡……192
第 71 図　SI47 住居跡……193
第 72 図　SI48・SI49 住居跡……194

第 73 図　SI50 住居跡……195
第 74 図　SI51・SI53 住居跡……196
第 75 図　SI54 住居跡……197
第 76 図　SI55・SI57 住居跡……198
第 77 図　SI56・SI58 住居跡……199
第 78 図　SI59 住居跡（1）……200
第 79 図　SI59 住居跡（2）……201
第 80 図　SI60 住居跡……202
第 81 図　SI61 住居跡（1）……203
第 82 図　SI61（2）・SI62 住居跡……204
第 83 図　SI63 住居跡……205
第 84 図　SI64・SI65 住居跡……206
第 85 図　SI66・SI67 住居跡……207
第 86 図　SI68 住居跡……208
第 87 図　SI69 住居跡……209
第 88 図　SI70 住居跡（1）……210
第 89 図　SI70（2）・SI71 住居跡……211
第 90 図　SI72・SI73 住居跡……212
第 91 図　SI74・SI75 住居跡（1）……213
第 92 図　SI75（2）・SI76 住居跡……214
第 93 図　SI77 住居跡……215
第 94 図　SI78・SI79 住居跡（1）……216
第 95 図　SI79（2）・SI80 住居跡（1）……217
第 96 図　SI80（2）・SI81 住居跡（1）……218
第 97 図　SI81（2）・SI82・SI83 住居跡……219
第 98 図　SI84・SI85 住居跡……220
第 99 図　SI86 住居跡……221
第 100 図　SI87・SI88 住居跡……222
第 101 図　SI89 住居跡（1）……223
第 102 図　SI89 住居跡（2）……224
第 103 図　SI90 住居跡（1）……225
第 104 図　SI90 住居跡（2）……226
第 105 図　SI91・SI92 住居跡（1）……227
第 106 図　SI92（2）・SI93 住居跡……228
第 107 図　SI94 住居跡……229
第 108 図　SI95 住居跡……230
第 109 図　SI96・SI97 住居跡……231
第 110 図　SI98 住居跡（1）……232
第 111 図　SI98 住居跡（2）……233
第 112 図　SI99 住居跡（1）……234
第 113 図　SI99 住居跡（2）……235
第 114 図　SI102・SI103 住居跡……236
第 115 図　SI104・SI105・SI106 住居跡……237
第 116 図　SI107・SI108 住居跡……238
第 117 図　SI109・SI110 住居跡（1）……239
第 118 図　SI110（2）・SI111・SI113 住居跡……240
第 119 図　SI114・SI115 住居跡……241
第 120 図　SI116・SI117 住居跡……242
第 121 図　SI118 住居跡（1）……243
第 122 図　SI118（2）・SI119 住居跡……244
第 123 図　SI120 住居跡（1）……245
第 124 図　SI120（2）・SI121 住居跡（1）……246
第 125 図　SI121 住居跡（2）……247
第 126 図　SI122・SI123 住居跡……248
第 127 図　SI124 住居跡……249
第 128 図　SI125 住居跡……250
第 129 図　SI126 住居跡……251
第 130 図　SI127・SI128 住居跡（1）……252
第 131 図　SI128（2）・SI129 住居跡……253
第 132 図　SI130・SI131 住居跡……254
第 133 図　SI132 住居跡……255
第 134 図　SI133 住居跡……256
第 135 図　SI134・SI136 住居跡……257
第 136 図　SI135 住居跡（1）……258
第 137 図　SI135 住居跡（2）……259
第 138 図　SI138・SI139 住居跡……260
第 139 図　SB01・02 掘立柱建物跡（工房）1……261
第 140 図　SB01・02 掘立柱建物跡（工房）2……262
第 141 図　SB03・04 掘立柱建物跡、SA01 柱穴列 263
第 142 図　SK01～09 土坑……264
第 143 図　SK11～19 土坑……265
第 144 図　SK20～31 土坑……266
第 145 図　SK32～34・36～38・40～45 土坑……267
第 146 図　SK46～50・52～58 土坑……268
第 147 図　SK59・60・62・65～73 土坑……269
第 148 図　SK74～76・78～87 土坑……270
第 149 図　SK88～97 土坑……271
第 150 図　SK98～101・103～108 土坑……272
第 151 図　SK110～116 土坑……273
第 152 図　SK117・127～131・134・136 土坑……274
第 153 図　SK138～146 土坑……275
第 154 図　SK147～152 土坑……276
第 155 図　SK154～159 土坑、SX01・02 焼成遺構 277
第 156 図　SX03～07・09～11 焼成遺構……278
第 157 図　SX12～20 焼成遺構……279
第 158 図　SX23・25～27・29・30・32～34 焼成遺構……280
第 159 図　SX36～40・42・43 焼成遺構……281
第 160 図　SX46・48～52 焼成遺構……282
第 161 図　SX53・54・56～62 焼成遺構……283

第 162 図　SX71～75・77～80 焼成遺構……284
第 163 図　SX81～87・89 焼成遺構……285
第 164 図　SX90・91・93～95 焼成遺構、
　　SN01～04・09・10 焼土遺構……286
第 165 図　SN11～16・20～23 焼土遺構……287
第 166 図　SD01 溝跡……288
第 167 図　SD02 溝跡……289
第 168 図　SD03・05・10・13 溝跡……290
第 169 図　SD04・09・17 溝跡……291
第 170 図　SD06 溝跡……292
第 171 図　SD07・16・27 溝跡……293
第 172 図　SD18 溝跡……294
第 173 図　SD20・21・24 溝跡……295
第 174 図　SD23 溝跡……296
第 175 図　SD25 溝跡……297
第 176 図　SD26・28 溝跡……298
第 177 図　UM01 畝間状遺構……299
第 178 図　UM03・04 畝間状遺構……300
第 179 図　UM05・08 畝間状遺構……301
第 180 図　UM09・10 畝間状遺構……302
第 181 図　柱穴状土坑分布図（1）……303
第 182 図　柱穴状土坑分布図（2）……304
第 183 図　柱穴状土坑分布図（3）……305
第 184 図　柱穴状土坑分布図（4）……306
第 185 図　柱穴状土坑分布図（5）……307
第 186 図　柱穴状土坑分布図（6）……308
第 187 図　柱穴状土坑分布図（7）……309
第 188 図　柱穴状土坑分布図（8）……310
第 189 図　柱穴状土坑分布図（9）……311
第 190 図　柱穴状土坑分布図（10）……312
第 191 図　柱穴状土坑分布図（11）……313
第 192 図　柱穴状土坑分布図（12）……314
第 193 図　柱穴状土坑分布図（13）……315
第 194 図　柱穴状土坑分布図（14）……316
第 195 図　柱穴状土坑分布図（15）……317
第 196 図　柱穴状土坑分布図（16）……318
第 197 図　柱穴状土坑分布図（17）……319
第 198 図　柱穴状土坑分布図（18）……320
第 199 図　柱穴状土坑分布図（19）……321
第 200 図　柱穴状土坑分布図（20）……322
第 201 図　柱穴状土坑分布図（21）……323
第 202 図　古代土器（1）……360
第 203 図　古代土器（2）……361
第 204 図　古代土器（3）……362
第 205 図　古代土器（4）……363
第 206 図　古代土器（5）……364
第 207 図　古代土器（6）……365
第 208 図　古代土器（7）……366
第 209 図　古代土器（8）……367
第 210 図　古代土器（9）……368
第 211 図　古代土器（10）……369
第 212 図　古代土器（11）……370
第 213 図　古代土器（12）……371
第 214 図　古代土器（13）……372
第 215 図　古代土器（14）……373
第 216 図　古代土器（15）……374
第 217 図　古代土器（16）……375
第 218 図　古代土器（17）……376
第 219 図　古代土器（18）……377
第 220 図　古代土器（19）……378
第 221 図　古代土器（20）……379
第 222 図　古代土器（21）……380
第 223 図　古代土器（22）……381
第 224 図　古代土器（23）……382
第 225 図　古代土器（24）……383
第 226 図　古代土器（25）……384
第 227 図　古代土器（26）……385
第 228 図　古代土器（27）……386
第 229 図　古代土器（28）……387
第 230 図　古代土器（29）……388
第 231 図　古代土器（30）……389
第 232 図　古代土器（31）……390
第 233 図　古代土器（32）……391
第 234 図　古代土器（33）……392
第 235 図　古代土器（34）……393
第 236 図　古代土器（35）……394
第 237 図　古代土器（36）……395
第 238 図　古代土器（37）……396
第 239 図　古代土器（38）……397
第 240 図　古代土器（39）……398
第 241 図　古代土器（40）……399
第 242 図　古代土器（41）……400
第 243 図　古代土器（42）……401
第 244 図　古代土器（43）……402
第 245 図　古代土器（44）……403
第 246 図　古代土器（45）……404
第 247 図　古代土器（46）……405
第 248 図　古代土器（47）……406
第 249 図　古代土器（48）……407
第 250 図　古代土器（49）……408

第 251 図　古代土器（50）……409
第 252 図　古代土器（51）……410
第 253 図　古代土器（52）……411
第 254 図　古代土器（53）……412
第 255 図　古代土器（54）……413
第 256 図　古代土器（55）……414
第 257 図　縄文・弥生土器（1）……415
第 258 図　縄文・弥生土器（2）……416
第 259 図　縄文・弥生土器（3）……417
第 260 図　土製品（1）……418
第 261 図　土製品（2）……419
第 262 図　石器・石製品（1）……420
第 263 図　石器・石製品（2）……421
第 264 図　石器・石製品（3）……422
第 265 図　石器・石製品（4）……423
第 266 図　石器・石製品（5）……424
第 267 図　石器・石製品（6）……425
第 268 図　石器・石製品（7）……426
第 269 図　石器・石製品（8）……427
第 270 図　石器・石製品（9）……428
第 271 図　石器・石製品（10）……429
第 272 図　金属製品（1）……430
第 273 図　金属製品（2）……431
第 274 図　金属製品（3）……432
第 275 図　金属製品（4）……433
第 276 図　金属製品（5）……434
第 277 図　金属製品（6）……435
第 278 図　金属製品（7）……436
第 279 図　金属製品（8）・その他・土器胎土分析
　　試料……437
第 280 図　土師器・須恵器分類（1）……486
第 281 図　土師器・須恵器分類（2）……487
第 282 図　土師器・須恵器分類（3）……488
第 283 図　土師器・須恵器分類（4）……489
第 284 図　赤彩土器集成（1）……490
第 285 図　赤彩土器集成（2）……491
第 286 図　墨書・朱書・線刻・穿孔土器集成……492
第 287 図　縄文・弥生土器分布状況……493
第 288 図　古代土製品分布状況……495
第 289 図　土錘のサイズ分布……496
第 290 図　石器類分布状況……498
第 291 図　砥石石材別重量分布……500
第 292 図　金属製品集成（1）……506
第 293 図　金属製品集成（2）……507
第 294 図　金属製品集成（3）……508
第 295 図　古代遺物集成（1）……509
第 296 図　古代遺物集成（2）……510
第 297 図　古代遺物集成（3）……511
第 298 図　古代遺物集成（4）……512
第 299 図　古代遺物集成（5）……513
第 300 図　古代遺物集成（6）……514
第 301 図　古代遺物集成（7）……515
第 302 図　古代遺物集成（8）……516
第 303 図　古代遺物集成（9）……517
第 304 図　古代遺物集成（10）……518
第 305 図　古代遺物集成（11）……519
第 306 図　古代遺物集成（12）……520
第 307 図　古代遺物集成（13）……521
第 308 図　古代遺物集成（14）……522
第 309 図　古代遺物集成（15）……523
第 310 図　古代遺物集成（16）……524
第 311 図　古代遺物集成（17）……525
第 312 図　古代遺物集成（18）……526
第 313 図　古代遺物集成（19）……527
第 314 図　古代遺物集成（20）……528
第 315 図　古代遺物集成（21）……529
第 316 図　古代遺物集成（22）……530
第 317 図　古代遺物集成（23）……531
第 318 図　古代遺物集成（24）……532
第 319 図　古代土器の各段階資料（1）……535
第 320 図　古代土器の各段階資料（2）……536
第 321 図　古代土器の各段階資料（3）……537
第 322 図　古代土器の各段階資料（4）……538
第 323 図　古代土器の各段階資料（5）……539
第 324 図　古代土器の各段階資料（6）……540
第 325 図　古代遺構分布状況……542
第 326 図　竪穴住居跡規模……544
第 327 図　住居跡規模と主柱穴の関連……544
第 328 図　偏った主柱穴配置の住居跡……545
第 329 図　カマド煙道側壁の補強事例……546
第 330 図　焼成遺構分布状況……549
第 331 図　区画溝分布状況……550
第 332 図　ロクロ高台坏ＢⅠ類……551
第 333 図　東日本出土の鉄製獣脚・鉄製煮炊具……553

Ⅰ　調査に至る経過

中村遺跡は、北上川中流部緊急治水対策事業二子地区築堤工事の施工に伴って、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

北上川は、岩手県岩手町御堂にその源を発し、大小支川を合わせて岩手県を南に縦断し、岩手・宮城県境の狭窄部を経て宮城県石巻市で太平洋に注ぐ、幹線流路延長 249 km の一級河川である。

事業対象地域である「二子地区」は、北上川上流右岸 79 km 付近に位置し、平成 14 年 7 月洪水及び平成 19 年 9 月洪水により、5 年間で 2 度にわたる甚大な浸水被害が発生している。後背地には住家等の資産が集中していることから､災害防止対策として緊急的な治水対策が必要となっているため、平成 22 年度に事業着手したものである。

中村遺跡は、岩手県教育委員会作成の県遺跡台帳登録済、周知の遺跡である。当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県河川国道事務所から岩手県教育委員会に対し、平成 23 年 9 月 2 日付け国東整岩一工第 24 号「北上川中流部治水対策事業（二子地区）における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼)」により試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会が平成 23 年 11 月 15～16 日に試掘調査を実施した結果、事業用地全域において遺構、遺物の検出が確認され、工事着手に先だって用地内全域についての発掘調査が必要となる旨、平成 23 年 12 月 6 日付教生第 1051 号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答)」により当事務所へ回答がなされた。

その結果を踏まえて当事務所は岩手県教育委員会と協議を行い、発掘調査を公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化センターの受託事業とすることとした。これにより平成 26 年 4 月 1 日付けで岩手河川国道事務所長と公益財団法人岩手県文化振興事業団理事長との間で受託事業を締結し、中村遺跡の発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

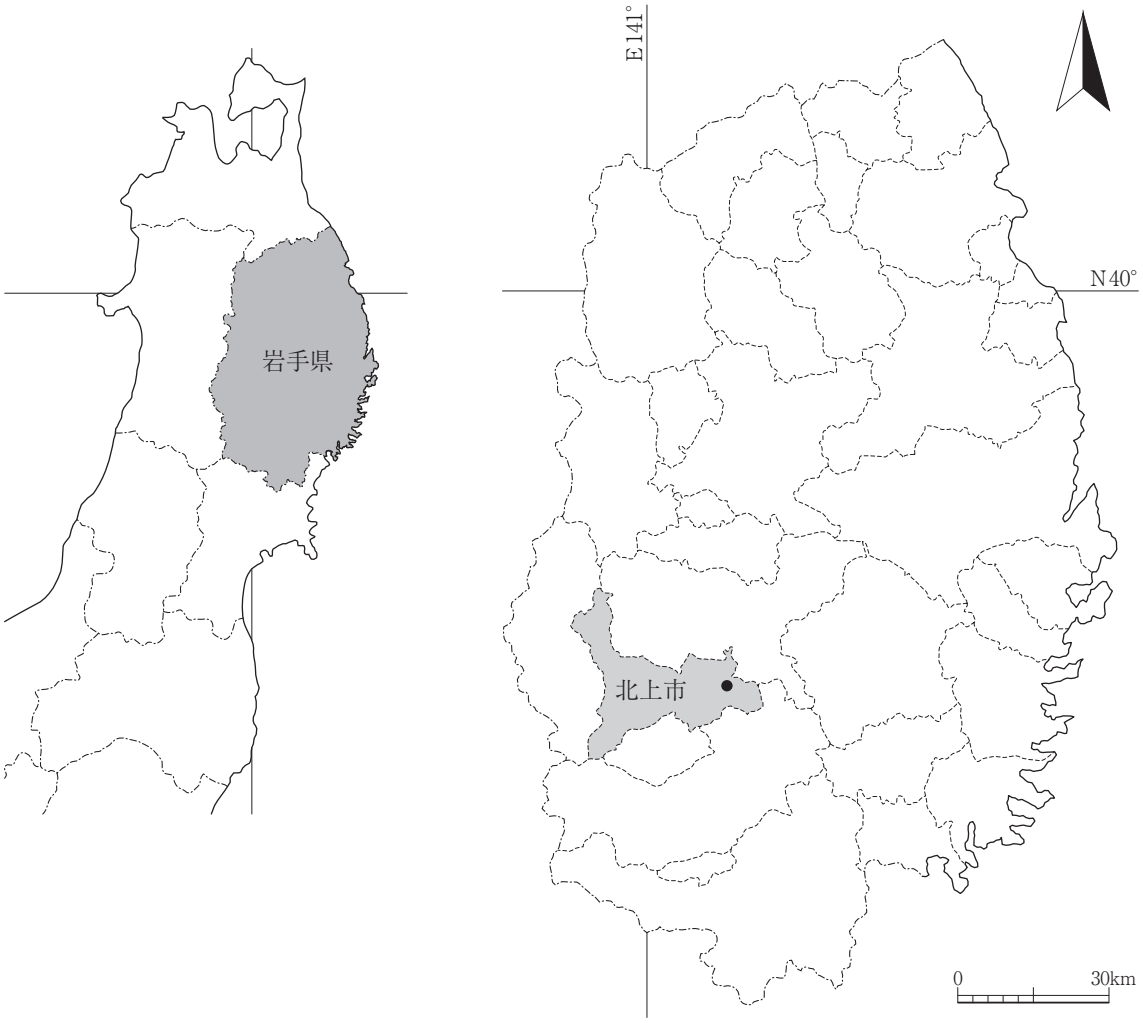
Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地 理 的 環 境

(1)　遺跡の位置と立地（第 1・4 図）

中村遺跡は岩手県北上市二子町字中村地内に所在する。北上市は岩手県内陸の北上川に沿って南北に広がる北上盆地のほぼ中央に位置する。北は花巻市、東は奥州市江刺区・花巻市東和町、南は胆沢郡金ケ崎町、西は和賀郡西和賀町と接し、面積は 43,755 km^2、人口は平成 28（2016）年 12 月現在で 93,279 人を数える。交通の要衝に位置し県南部の商工業、流通の拠点として発展してきた都市である。北上市は昭和 29（1954）年に黒沢尻町、飯豊村、二子村、更木村、鬼柳村、相去村、福岡村が合併して成立した。平成 3（1991）年には和賀町、江釣子村と合併し、現在の市域となっている。

遺跡は JR 東北本線村崎野駅の南東約 2.8 km、同北上駅の北東 4 km に位置する。国土地理院発行 5 万分の 1 地形図「北上」、2 万 5 千分の 1 地形図「口内」の図幅に含まれ、北緯 39 度 18 分 32 秒、東経 141 度 8 分 57 秒付近に位置する。調査区は調査原因となった堤防用地内の幅約 20～63 m、延長約 600 m の細長い範囲で、面積は 21,870 m^2、標高は 60～61 m である。調査前の現況は主に畑地で



1：25,000　口内

第１図　遺跡の位置

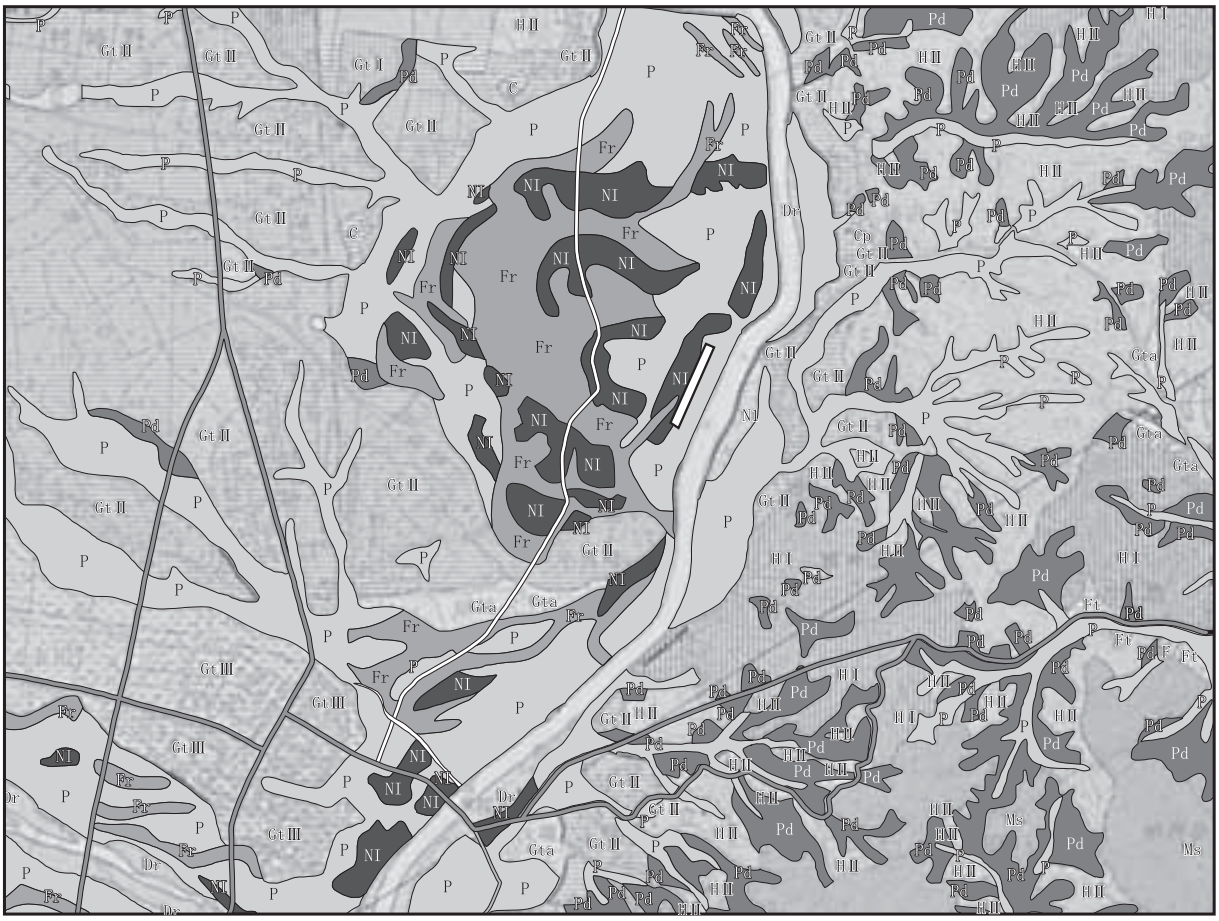
あり、他に水田、及び道路の地点が含まれる。なお、調査区南端にある市道岡島線以南には千苅遺跡が隣接して所在しており、本事業に係る調査が中村遺跡調査に先立って、平成 23～25 年度に 27,548 m^2 を対象として実施されている。調査内容は『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 652 集　千苅遺跡』に収録されている。また、千苅遺跡調査区南端の大堰川排水樋門の南には中世城館である小鳥崎館跡が隣接しており、同様に本事業に係る発掘調査が平成 24 年度に千苅遺跡と並行して 2,100 m^2 を対象に実施されている。調査内容は『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 620 集』内に収録されている。

(2)　遺跡周辺の地形（第 2 図）

中村遺跡は北上川の中流域の右岸に形成された自然堤防上に立地する。北上川は流路延長 249 km、流域面積 10,150 km^2、東北地方一の大河である。源流は岩手郡岩手町御堂にあり、奥羽山脈及び北上山地に源を発する支流を合わせながら岩手県内を南流し、宮城県の平野部を経て河口に至る。沿岸には平野が広く発達するが、盛岡市北部と一関市南東の 2 箇所で狭窄部を流れる。この 2 箇所によって北上川は上・中・下流に分けられる。北上川は中流域において、壮年期の急峻な地形を呈している奥羽山脈と、それとは対照的に老年期に入り緩慢な地形となっている北上高地の間を流れる。北上盆地は北上川とその支流の土砂運搬作用および開析作用によって形成されたものであるが、奥羽山脈に源をもつ支流による流出土砂が北上高地からに比べて圧倒的に多いので、北上川は盆地の東側に偏った流れとなっており、西側には奥羽山脈沿いに複合扇状地と河岸段丘が、東側は準平原である北上高地の残丘の丘陵が発達している。

北上市周辺においてもこうした地形上の特徴は明瞭に見受けられる。北上市周辺の地形は北上川を境として、西部の扇状地性の台地群と東部の小起伏山地を含む丘陵地帯の二つに区分される。西部の台地群は奥羽山脈から東流する河川が洪水と流路の変遷を繰り返して形成した扇状地や、北上川の旧河床が段丘化したもので、段丘群は高位のものから順に西根段丘・村崎野段丘・金ケ崎段丘に区分されるが、地域によっては村崎野・金ケ崎段丘はさらに細分される。現在はこれらの台地群を刻んで、和賀川およびその支流の夏油川の両岸に幅 1～2 km の谷底平野がみられる。東部では一部に台地が発達する地域はあるものの大部分は標高 200 m～300 m 内外の丘陵地で、その中に小起伏山地が散在する。北上川沿いでは幅 1～4 km の平野が開けており、北上川の流路変遷をうかがうことのできる旧河道と自然堤防地形が残存する。本遺跡のある二子地区は北及び東は北上川を境とし、西は旧奥州街道、南は江戸時代初期に和賀川から引かれた用水路である新堰川を境界とし、更木地区、飯豊地区、黒沢尻地区と接している。北西部に標高 112 m の一つ森と、これに次ぐ二子の地名の元となった「八幡山」「秋葉山」の二つの小山がある。これに続いて西部から南端までの境界に沿った幅数百 m 以内の台地は村崎野段丘に区分される。それ以外の二子地区の大部分は標高約 60～70 m の平坦地で、旧河道と自然堤防、氾濫原が複雑に入り組んだ地形となっている。

中村遺跡の立地する自然堤防は現況では幅 100 m 程度と捉えられる。調査区は自然堤防地形の中央を縦断する形である。北上川の平均河床面は標高約 55 m であり、調査区現地表標高約 60 m とは 5 m 程度の比高差がある。なお、周辺住民の方からの情報では、昭和 20 年代に行われた耕地整理以前には遺跡の西端には明瞭な旧河道が存在し、周辺の水田面との比高差は 2～3 m 程はあったという。現在は遺跡の西側は平坦な水田に造成されているが、今回の調査区が立地する畑地とは 1 m 未満の段差が残っている。



山　地　MOUNTAINS

- Ms　小起伏山地（起伏量200m未満）　Low relief mountain (relief energy〈200m)
- Pd　山麓地及び他の緩斜面　Piedmont low land and other gentle slope

丘陵地　HILLY LANDS

- HⅠ　丘陵地 Ⅰ（起伏量200～100m）　Hilly land Ⅰ(relief energy 200～100m)
- HⅡ　丘陵地 Ⅱ（起伏量100m未満）　Hilly land Ⅱ(relief energy〈100m)

台　地　TABLE LANDS

- GtⅡ　砂礫段丘 Ⅱ　Gravelly terrace Ⅱ
- GtⅢ　砂礫段丘 Ⅲ　Gravelly terrace Ⅲ
- Gta　沖積段丘　Alluival terrace

低　地　PLAINS

- F　扇状地　Fan
- Ft　崖錐性扇状地　Talus like fan
- P　谷底平野及び氾濫平野　Valley plain flood plain
- NI　自然堤防　Natural levee
- Fr　旧河道　Former river course
- Dr　河　原　Dry river bed

その他　MISCELLANEOUS

- C　人工改変地　Cut and rolled surface
- 崖　Cliff
- 遷起点　Knick point
- 崖 錐　Talus
- 壁　岩　Precipice rock
- 国　道
- 県　道
- 主要水系流域界
- １級河川
- ２級河川

第２図　地形分類図

2　周 辺 の 遺 跡（第3図　第1表）

岩手県遺跡登録台帳によると、平成24年12月現在で北上市には登録遺跡が534遺跡あり、二子地区には34遺跡が分布している。このうち、まず二子地区に所在する遺跡で発掘調査が行われその内容が知られているものについて記載する。続いて、縄文時代晩期～弥生時代、及び本遺跡で中心となる奈良時代～平安時代と関連する、北上市域における同時代の状況について概観する。（以下、遺跡名に続き第3図中の番号）

【二子地区の遺跡】

二子城跡（29）は中世の和賀地方を支配した和賀氏の居城である。村崎野段丘にある標高100ｍを超える残丘および周囲の段丘上に立地する。飛勢公園（二子城詰丸比定地）を中心とした地域からは、縄文時代の土器片、石器、平安時代の土師器や須恵器の破片などが採集されており、各時代にわたる複合遺跡として注目されている。二子城跡に包含される物見崎遺跡からは縄文時代前期から弥生時代にかけての竪穴住居跡18棟、土坑1基、炭窯跡5基、溝跡4条が検出された。竪穴住居跡は縄文時代前期のものが14棟、縄文時代後期が2棟、弥生時代2棟である。ただし、物見崎遺跡は第三北上中部工業用水道事業による工業用水道施設の建設に伴いその多くが消滅している。二子城跡坊館遺跡および二子城跡白鳥館跡遺跡からは縄文時代早期の遺物が出土しているが、どちらの遺跡からも居住域は検出されていない。

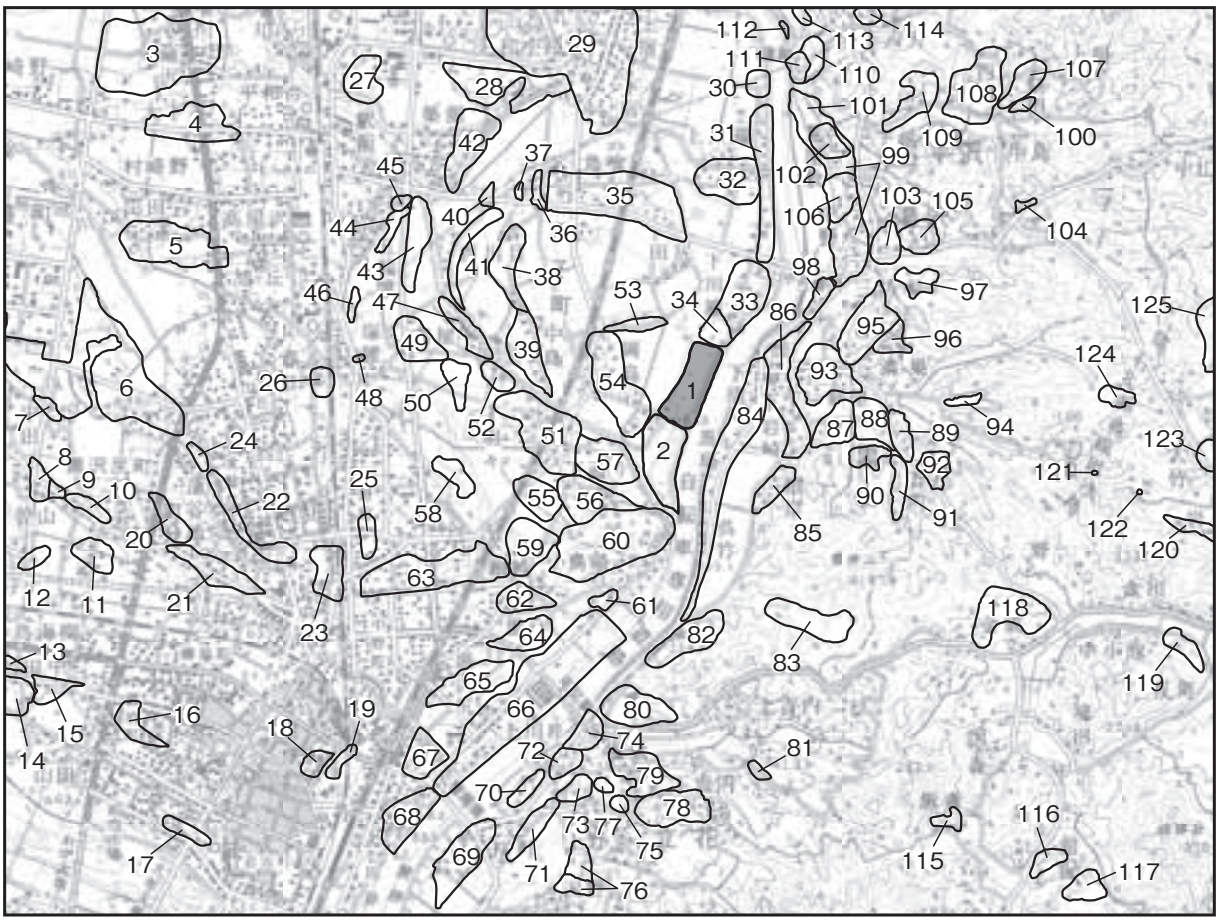
秋子沢遺跡（28）は北上北中学校のグラウンドの西側の段丘にひろがる9～10世紀にかけての集落跡で、部分調査で16棟の竪穴住居跡が見つかっている。竪穴住居跡からは土器とともに緑釉陶器が出土しており、地域の有力者に関連した遺跡と考えられる。二子地区の南端にある中居俵Ⅱ遺跡(56)では9世紀後半の竪穴住居跡6棟が検出された。縄文時代前期から晩期にかけての土器や石器も出土しているが遺構外からの出土である。

北上川からやや離れた平坦地の西側の地域には、旧河道によって形成された自然堤防上に西川目・堰向・南田・野田Ⅰなどの遺跡が立地する。西川目遺跡（38）と堰向Ⅱ遺跡（41）は旧河道をはさんで向かいあう自然堤防上にあり、西川目遺跡では平安時代の竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡6棟などのほか、江戸時代中期の掘立柱建物跡1棟、墓坑10基など、堰向Ⅱ遺跡では平安時代の竪穴住居跡46棟、掘立柱建物跡2棟、江戸時代の掘立柱建物跡1棟が発見されている。両遺跡で検出された平安時代の掘立柱建物跡には廂付、総柱式のものがあること、また、硯・緑釉陶器などの特殊な遺物が出土していることなどから、秋子沢遺跡と同様に一般的な集落とは異なる性格が想定されている。野田Ⅰ遺跡（51）も自然堤防上にある9～10世紀にかけての集落跡で、竪穴住居跡が5棟確認されている。

一方、二子地区の東端にあたる北上川右岸の自然堤防上には上川端塚群・上川端Ⅰ・尻引・中村・千苅の各遺跡が分布する。上川端塚群（30）は大小8基以上の塚が分布する土葬墓群で、そのうちの1基からは人骨が出土した。中世末期から江戸時代初期のものと考えられている。尻引遺跡（34）は奈良時代から平安時代中期にかけての集落跡で、竪穴住居跡7棟、集落を区切る大溝1条がある。特に尻引遺跡は千苅遺跡・中村遺跡と続く自然堤防上の遺跡群に含まれる立地であり、遺跡の時代・内容も深い関連を有する調査結果が得られていることから注目すべき遺跡である。

【北上市内の縄文～弥生時代遺跡】

これまで二子地区では奈良・平安時代の遺跡が集中しているのに比較し、縄文時代から古墳時代に



第３図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時　代
1	中村	奈良・平安
2	千苅	縄文･弥生･奈良･平安
3	蒲沢	縄文
4	大下	縄文
5	旭ヶ岡西	縄文
6	藤沢	縄文･弥生･奈良･平安
7	中田	平安
8	清水端	奈良・平安
9	曽山Ⅰ	平安
10	曽山Ⅱ	平安
11	柳田	平安・縄文
12	萩島	平安
13	高橋	平安
14	八幡	奈良･平安･縄文
15	鳥海柳	奈良・平安
16	大曲西	平安
17	九年橋	縄文
18	諏訪神社境内	平安
19	和野	縄文
20	蒲谷地Ⅰ	
21	蒲谷地Ⅱ	縄文･奈良～平安
22	常盤台	平安
23	黒沢尻北高グラウンド	平安
24	藤沢窯跡群	平安
25	黒沢尻上野町住宅	平安
26	下春木場	縄文
27	伊勢	近世
28	秋子沢	平安
29	二子城	中世・縄文
30	上川端塚群	中世
31	上川端Ⅰ	平安
32	上川端Ⅱ	古代

No.	遺跡名	時　代
33	下川端	平安
34	尻引	平安
35	鳥喰Ⅰ	古代
36	鳥喰Ⅱ	古代
37	鳥喰Ⅲ	古代
38	西川目	平安
39	中島	古代
40	堰向Ⅰ	縄文・古代
41	堰向Ⅱ	平安・近世
42	築館	平安
43	南田Ⅰ	縄文・平安
44	南田Ⅱ	縄文
45	五輪壇	中世
46	明神Ⅰ	古代
47	明神Ⅱ	古代
48	二子一里塚	近世
49	高屋Ⅰ	古代
50	高屋Ⅱ	古代
51	野田Ⅰ	弥生･縄文･古代
52	野田Ⅱ	縄文
53	相野野	古代
54	岡島	古代
55	中居俵Ⅰ	
56	中居俵Ⅱ	縄文・古代
57	中居俵Ⅲ	古代
58	上野	
59	蟹沢	縄文・平安
60	小鳥崎館(館山)	中世
61	小鳥崎	縄文
62	細越	縄文
63	梨子山	縄文
64	幅下	縄文･弥生･平安

No.	遺跡名	時　代
65	里分	平安
66	牡丹畑	縄文･弥生･奈良･平安
67	方八丁館	平安
68	川岸	平安･中世･近世･縄文
69	立花南	縄文･奈良･平安
70	立花館(館)	平安
71	館Ⅰ	縄文
72	館Ⅱ	縄文
73	館Ⅲ	縄文
74	館Ⅳ	縄文･平安･中世･近世
75	館Ⅴ	縄文
76	沢野	縄文
77	立花小学校下	縄文
78	高館	縄文・中世
79	塩釜	縄文・平安
80	横町	縄文･奈良･平安･中世
81	橘内七ツ森	中世
82	岩渓	縄文
83	法勝坊	中世・近世
84	黒岩宿	縄文･弥生･平安
85	根岸	縄文
86	黒岩城	縄文･平安･中世
87	菅田	縄文・平安
88	四十九里Ⅰ	縄文・平安
89	四十九里Ⅱ	縄文
90	四十九里Ⅲ	縄文・中世
91	大平沢	縄文
92	万内	縄文
93	白山廃寺	平安
94	大畑	縄文・古代
95	鴻巣Ⅰ	縄文・平安
96	鴻巣Ⅱ	古代

No.	遺跡名	時　代
97	神行田	縄文
98	三坊木館	中世・縄文
99	三坊木	縄文・平安
100	小田島館	中世
101	烏森	縄文・平安
102	平沢堀ノ内	中世
103	湯沢Ⅰ	古代
104	湯沢Ⅱ	縄文
105	湯沢館	縄文・中世
106	小田嶋館	中世
107	祭田	縄文
108	長洞	縄文
109	沢目	縄文
110	八天	縄文
111	下欠野館	中世
112	八天北	平安
113	羽久保館	中世
114	天王館	中世
115	飯森	平安・縄文
116	柧ノ木田城	中世
117	柧ノ木田古館(大和館)	中世
118	金成	縄文・平安
119	一本杉	平安
120	ミミトリⅠ	平安
121	水押西Ⅰ	平安
122	水押西Ⅱ	平安
123	中屋敷古館	中世
124	中山館	中世
125	鹿の子	平安・縄文

かけての遺跡の密度は薄いとされてきた。しかし中村遺跡の南側に隣接する千苅遺跡（2）からは、縄文時代晩期から弥生時代にかけての竪穴住居跡と遺物包含層が確認され、縄文時代から弥生、古代にかけての複合遺跡であることが明らかとなった。そこで北上市内の遺跡のうち、まず縄文時代晩期末から弥生時代にかけての遺跡、続いて奈良・平安時代の遺跡について概観する。

前述の物見崎遺跡では弥生時代初頭の竪穴住居跡2棟が検出され、遺構埋土から変形工字文を文様の主体とし、一部磨消縄文を伴う蓋型土器、鉢形土器、口縁部まで縄文を施文するかあるいはヘラ削り状の調整がみられる甕形土器、器表面が無文でミガキ調整された壺形土器、高坏の脚部などの弥生時代の土器が出土している。これと隣接する馬場野遺跡では、土坑7基のうち5基から縄文時代晩期（大洞C2式～A式期）の土器片が出土しており、中位段丘である村崎野段丘上に遺跡が分布することがわかる。和賀川右岸の下位・中位段丘上には規模は小さいが当該時期の遺跡が連続する。上鬼柳Ⅰ遺跡では弥生時代初頭前期の竪穴住居跡3棟、土壙墓1基、東に隣接する上鬼柳Ⅱ遺跡でも竪穴住居跡1棟が検出されている。兵庫館跡では弥生時代の土壙墓1基と埋設土器3基がみつかっている。土壙墓は再葬墓で、鉢と壺、蓋を伴う壺の3点が並んで埋納されていた。壺は遠賀川系土器の大型のものである。東に隣接する梅ノ木台地Ⅱ遺跡でも埋設土器が出土している。土器棺で前期～中期の時期と推測される。和賀川左岸にある本宿遺跡にも土壙墓があり、埋土下部および底面から合計4個体分の甕が出土している。弥生時代後期天王山式段階に比定される。また土壙墓底面出土の甕胴部内面には籾痕が認められた。北上川左岸の金附遺跡は縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての遺跡である。谷地形に形成された遺物包含層から出土した大量の土器は、縄文時代晩期末から徐々に増え始めて、弥生時代前期段階のものが最も多い。また、多量の磨製石斧未成品をはじめとして製作に関係した石器が出土している点から、豊富な河川礫を素材とした石器製作が盛行していたと考えられる。北上川右岸の自然堤防上に立地する牡丹畑遺跡（66）、北上川と和賀川の合流点から3km西に遡った地点にある大橋遺跡では縄文晩期の土器が大量に出土している。大橋遺跡は縄文時代晩期中葉を中心時期とする遺跡で、大規模な遺物包含層2箇所、掘立柱建物跡のほか、盛土遺構、配石遺構などがみつかっている。和賀川左岸の九年橋遺跡（17）も晩期後半の遺物を大量に出土している遺跡である。竪穴住居跡3棟が発見されているが、617点もの破損した土偶が出土しており、破損品の廃棄を主な目的として形成された遺跡と推定されている。

【北上市内の奈良～平安時代遺跡】

次に奈良・平安時代の遺跡について見ると、村崎野段丘上に位置する藤沢遺跡(6)では竪穴住居跡、土坑、製銅遺構などが検出されている。竪穴住居跡は8世紀後半から9世紀代の、製銅遺構は出土遺物から8世紀末の年代が与えられている。竪穴住居跡にはいわゆるロクロピットが確認されたものや緑釉・灰釉陶器が出土している竪穴住居跡を含む。北上川右岸の自然堤防上に立地する上川岸Ⅱ遺跡は9世紀から10世紀にかけての集落跡とされ、竪穴住居跡25棟が見つかっている。これに隣接する牡丹畑遺跡（66）では8世紀後半から10世紀代にかけての竪穴住居跡7棟、竪穴状遺構5基、土坑12基などが確認されている。牡丹畑遺跡の北側に位置する千苅遺跡からは8世紀中葉から10世紀後半にかけての竪穴住居跡が89棟見つかったほか、多数の焼成遺構が確認されている。また、その北側に隣接する中村遺跡（1）からは、今回の調査によって8世紀中葉から10世紀代にかけての竪穴住居跡136棟のほか、焼成遺構73基・土坑137基、区画溝を含む溝跡19条などが新たに確認され、北上川西岸の自然堤防上に千苅遺跡と一続きの古代大規模集落が形成されていることが明らかとなった。北上川左岸の台地上に立地する横町遺跡（80）では奈良・平安時代の集落が確認されている。横町遺跡では竪穴住居跡77棟、掘立柱建物跡3棟、仏堂と考えられる礎石建物跡1棟が検出され、竪

穴住居跡は大半が9世紀後半のものである。立花南遺跡（69）では、8世紀後半から9世紀前半の竪穴住居跡6棟が調査された。

北上川東岸下流の国見山南麓一帯に展開する国見山廃寺跡は9世紀中葉から造営が開始された山岳寺院で、10世紀には五重塔を備える大寺院となり隆盛を極める。中村遺跡の対岸に位置する白山廃寺跡（93）、更木地区の大竹廃寺跡も含め、平安時代の仏教関連遺跡が集中する地域となっている。

和賀川右岸の下位・中位段丘の北側縁辺上には規模は多様であるが、平安時代の遺跡が連続しており、当該期の竪穴住居跡の総数は202棟にも及ぶ。なかでも岩崎台地遺跡群は竪穴住居跡140棟が集中している､9世紀初頭から11世紀代までの変遷を追うことのできる県内では例を見ない遺跡である。また、墨書・刻書土器合計85点もの出土が注目される。上鬼柳Ⅲ遺跡は9世紀末から10世紀代の集落跡であるが、竪穴住居跡22棟に加えて5段階の変遷が想定される掘立柱建物跡12棟が確認されている。二彩・緑釉・灰釉陶器が発見されているが、他にも「寿」「寺」と墨書された土師器坏や「佛」と刻まれた土師器坏が出土している。施釉陶器が出土し掘立柱建物跡が検出されている前述の二子地区の秋子沢遺跡、西川目遺跡、堰向Ⅱ遺跡や藤沢遺跡とあわせて、古代和我郡の支配のあり方を示唆する遺跡として興味深い。

第Ⅱ章引用・参考文献

北上市 1968『北上市史第一巻原始・古代（1)』
北上市 1970『北上市史第二巻古代（2)・中世』
北上市立博物館『北上市の原始・古代の遺跡』
杉本良 2007「奥六郡安倍氏の諸寺院」『紀要』第4号　北上市立埋蔵文化財センター
二子史誌編纂委員会 2010『二子史誌』二子町振興協議会
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発行発掘調査報告書
1991『上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集
1992『上鬼柳Ⅱ・Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第161集
1992『上鬼柳Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第179集
1993『兵庫館跡・梅ノ木台地に遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180集
1995『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第214集
2005『西川目・堰向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第464集
2006『大橋遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第481集
2006『金附遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第482集
2013『平成24年度発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第620集
2016『千苅遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第652集
北上市教育委員会発行発掘調査報告書
1972『北上市極楽寺跡』北上市文化財調査報告第11集
1977『二子城跡坊館遺跡調査報告書』北上市文化財調査報告第21集
1977『尻引遺跡調査報告書』北上市文化財調査報告第17集
1989『藤沢遺跡（1988年度)』北上市文化財調査報告第54集
1989『牡丹畑遺跡（1988年度)』北上市文化財調査報告第55集
1990『藤沢遺跡（Ⅱ）(1989年度)』北上市文化財調査報告第58集
1991『二子地区遺跡詳細分布調査報告書』北上市文化財調査報告第65集
1992『馬場野遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第2集
1993『藤沢遺跡Ⅲ』北上市埋蔵文化財調査報告第13集
1999『藤沢遺跡Ⅴ（1997・98年度遺構編)』北上市埋蔵文化財調査報告第37集
1999『横町遺跡（古代・中世編)』北上市埋蔵文化財調査報告第38集
2002『立花南遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第49集
2003『国見山廃寺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第55集
2003『牡丹畑遺跡（2002年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第58集
2004『立花南遺跡（2003年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第63集
2004『二子城跡』北上市埋蔵文化財調査報告第65集
2006『西川目遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第75集
2007『立花南遺跡（2005年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第82集

Ⅲ　調査と整理の方法

1　野　外　調　査

(1)　調査区・調査年度（第5図）

平成26年4月7日より調査を開始した。調査地は遺跡範囲の中央を南北方向に縦断し、調査区現況は畑地、市道、用水路である。調査に際しては、東西に横断する市道を区切りとして全体を1～6区の6区分とした。実際の調査では、調査区全面を掘削した場合に生じる排土の置き場が周辺用地内に確保できなかったことから、調査区内で細かく反転しながら着手可能になった範囲を順次調査してゆく方法を取った。作業の進行上、調査区を更に細分する必要が生じた際には区毎に番号を付して2区-1、2区-3、5区-2などと呼称した。5月14日、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、岩手県教育委員会生涯学習文化課、公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによる部分終了確認検査が行われ、2区-1（1,280 m^2）、3区-1（1,150 m^2）の調査を終了した。（ ）内は終了面積。以降の部分終了確認検査実施状況は、表の通りである。

部分終了確認日	確認対象区・（ ）内は終了面積
平成26年6月26日	3区-2（1,500 m^2）
平成26年7月10日	2区-3（650 m^2）
平成26年7月18日	2区-2（1,675 m^2）
平成26年8月19日	2区-5（500 m^2）、3区-3（1,088 m^2）
平成26年10月3日	2区-4（1,560 m^2）
平成26年10月17日	1区（882 m^2）
平成26年10月23日	4区-1（3,000 m^2）
平成26年11月26日	4区-2（740 m^2）、5区-1（1,828 m^2）、
平成26年12月18日	5区-2（157 m^2）、6区-1（2,280 m^2）

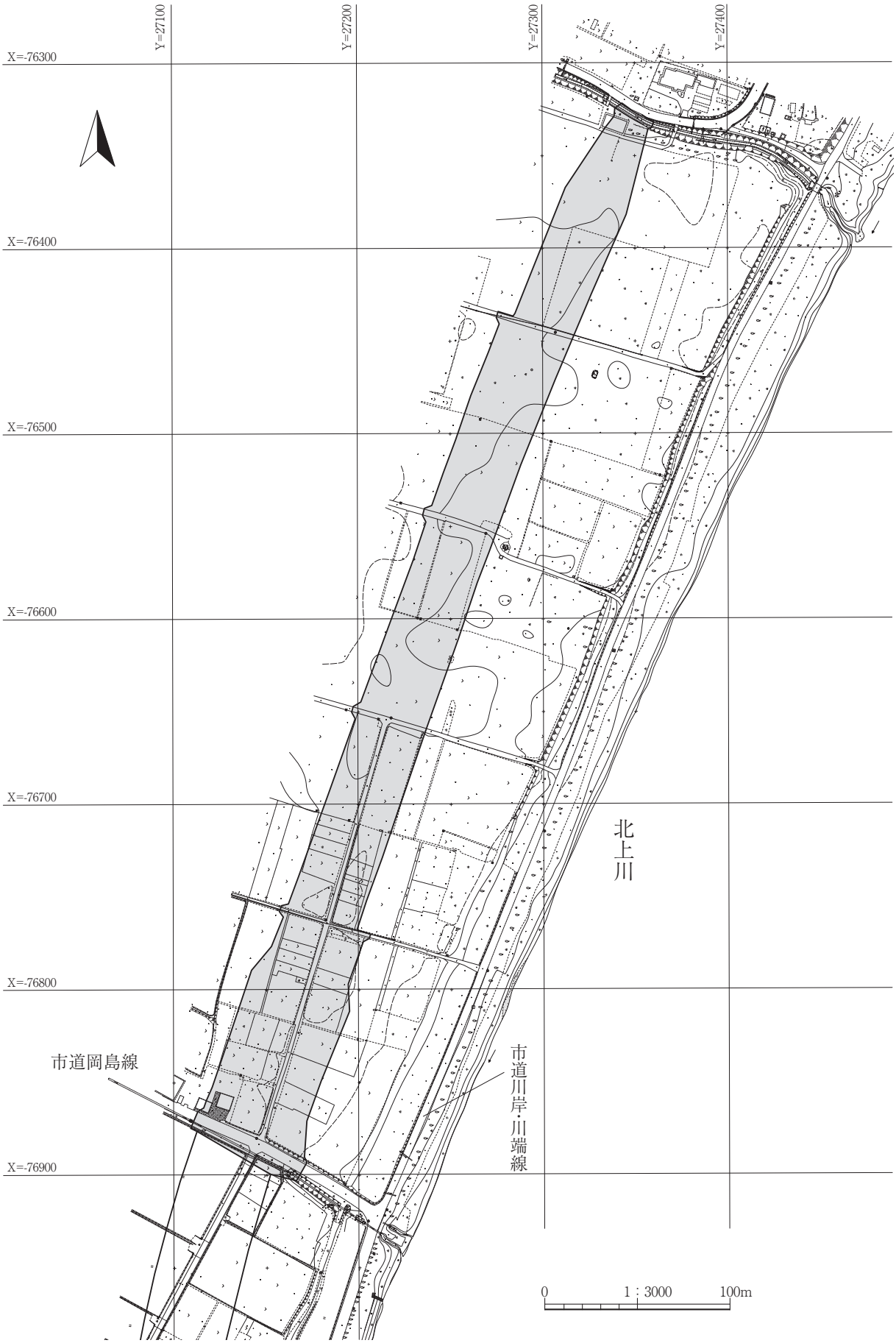
9月27日（土）には現地説明会を開催し、県内外から134名の来客があった。平成26年度の野外調査は12月22日で終了した。平成27年1月10日（土）には北上市埋文遺跡報告会にて中村遺跡の報告を行った。

平成27年度調査は4月16日より重機による表土除去・残土運搬を開始した。4月20日より野外作業を再開し、前年度からの継続範囲の調査を行った。6月20日（土）に現地説明会を開催し、90名の来客があった。6月18日に終了確認検査を受け、平成27年7月9日に埋戻し作業等を含めた野外作業が終了した。平成28年1月9日(土)には北上市埋文遺跡報告会にて中村遺跡の報告を行った。また、平成28年2月6日（土）には当センター遺跡報告会にて中村遺跡の報告を行った。

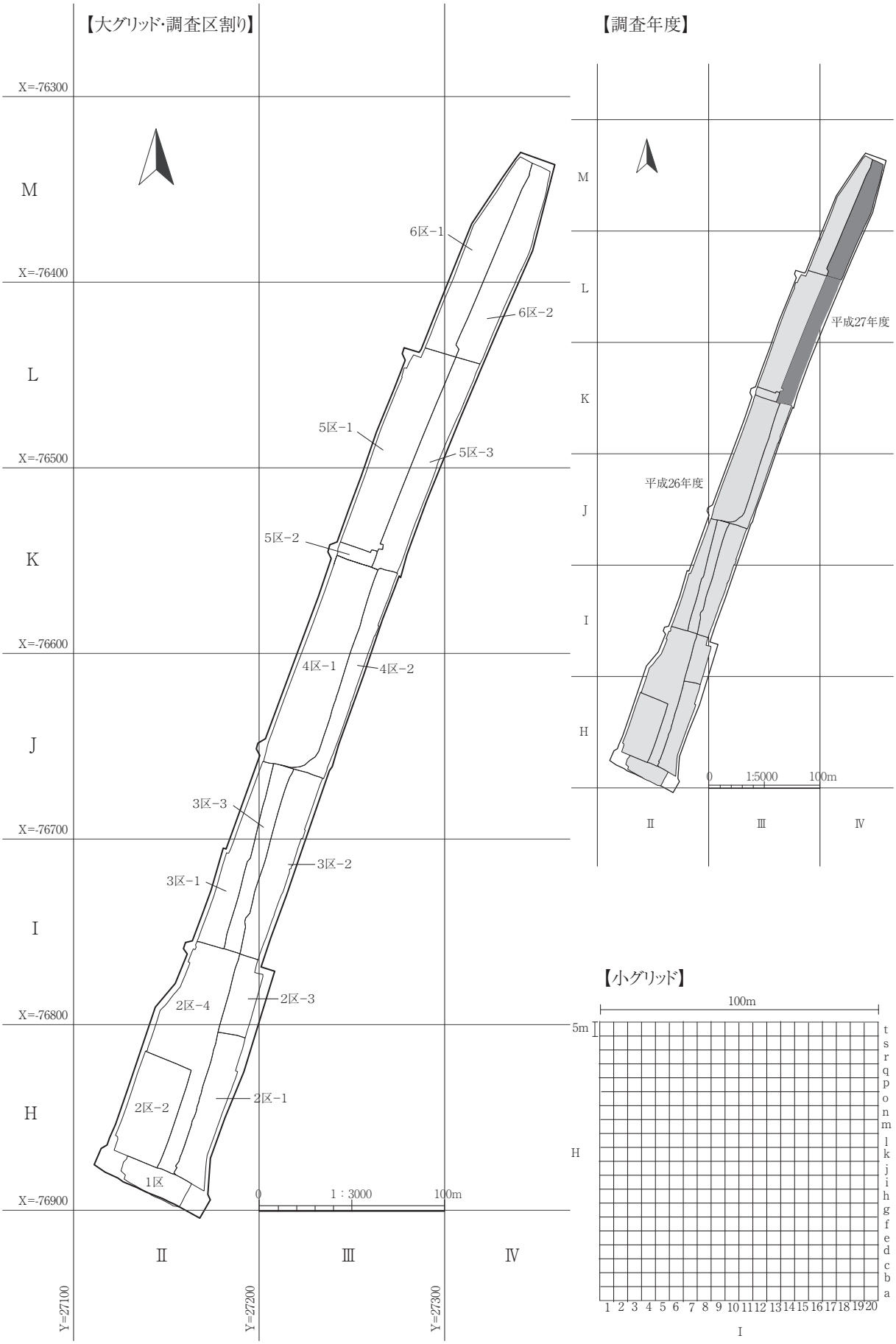
調査面積は、平成26年度18,290 m^2、平成27年度3,580 m^2、合計21,870 m^{2}の調査終了面積となる。

(2)　グリッドの設定（第5図）

グリッド設定に際しては、平成23・24・25年度に当埋蔵文化財センターが調査を実施している北


Y=27100
Y=27200
Y=27300
Y=27400
X=-76300
X=-76400
X=-76500
X=-76600
X=-76700
X=-76800
X=-76900
北上川
市道岡島線
市道川岸・川端線
0
1：3000
100m

第 4 図　調査区位置図



第 5 図　グリッド配置・区割り図

上市千苅遺跡のグリッドを延長して使用した。平面直角座標（第Ⅹ系）を採用し、大グリッドは100ｍ、小グリッドは５ｍとした。グリッドはすべて南西隅を原点とし、西から東にⅡ～Ⅳのローマ数字と、南から北に大文字アルファベットH～Mで大区画を表し、更に西から東に向かって昇順する算用数字1～20と、西から東に小文字アルファベットa～tで小グリッドを表した。図版中の座標値、標高値はすべて世界測地系で示している。

3 No.1（基1）：X＝－76772.878　Y＝27204.642　H＝60.611
3 No.2（基2）：X＝－76660.043　Y＝27238.834　H＝60.945
T-1（補1）　：X＝－76599.433　Y＝27220.889　H＝60.694
T-2（補2）　：X＝－76493.714　Y＝27259.232　H＝60.481
T-3（補3）　：X＝－76437.334　Y＝27281.379　H＝60.703
T-4（補4）　：X＝－76369.059　Y＝27314.704　H＝60.897

(3)　粗掘り・遺構検出

遺跡の調査前現況は主に畑地および市道で、調査区内には築堤工事で生じた排土が所々に残置された状態であった。このため着手可能な地点から人力による試掘トレンチを入れ、その後重機による表土掘削を行った。中村遺跡の基本層序は、前年度まで調査された千苅遺跡の隣接地であることからこれと同様の堆積が予想された。試掘の結果、表土直下で旧耕作土層にあたるⅡ層、古代の遺構検出面にあたるⅢ層、無遺物層に当たるⅤ層が確認され、それより下位層は洪水堆積の互層であることが確認された。千苅遺跡において弥生時代の遺物包含層として確認されていたⅣ層は中村遺跡では層状堆積をなさず、旧河道でのみ局所的に認められた。以上の試掘結果から、Ⅲ層上面までの掘り下げは重機で行い、その後人力により遺構検出・精査を行った。Ⅴ層以下については、遺構・遺物の有無を確認するためのトレンチを適宜掘削し、これをもって最終確認とした。

(4)　遺構名の登録

①　野　外　調　査

遺構種別ごとに略号を用い、竪穴住居跡「SI01」～、土坑「SK05」などと命名した。遺構略号は以下の通りである。

竪穴住居跡…SI　　掘立柱建物跡…SB　　柱穴列…SA　　土坑…SK　　焼成遺構…SX
焼土遺構…SN　　溝跡…SD　　畝間状遺構…UM　　柱穴状小土坑…P　　遺構内柱穴…Pit

②　報　告　書　掲　載

野外調査時に使用していた遺構名を基本的にはそのまま使用したが、検討の結果、遺構種類を変更したものに関しては室内整理段階で新規に掲載名称を登録した（第３表）。名称を変更した遺構の旧遺構名（仮名称）、および検出段階で遺構登録を行ったものの、精査の結果、遺構と判断されなかったものに関しては欠番扱いとしている。

各遺構の番号は平成26年度の調査から続く通し番号を付した。前年度の調査区にまたがり明らかに同一遺構と判断された場合は、これと同一遺構名としている。野外調査終了後に同一遺構であることが判明した場合は遺構名を統合し、後から付したものは欠番としている。

なお、柱穴状小土坑（P）は野外調査時の番号をそのまま使用しているが、遺構内柱穴は野外調査時の命名の重複、またはP・pit・Pitなど略号の混在が発生したため、室内整理時に略号を統一し新

たな番号を付している。

(5)　遺構精査・遺物の取り上げ

精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残し埋土の堆積状況を記録した。遺構内遺物の大半は埋土の層別取り上げが行えず、上位・中位・下位・埋土一括と区分した遺構が大半である。遺構外の遺物については出土グリッド、層序を記録した。鍛冶工房が想定された掘立柱建物については、50 cm メッシュで床面を南北方向に A～P の 18 区画、東西方向に 1～6 の 6 区画して土壌を採取し、現地にて鍛造剥片抽出を目的とした土壌洗浄を行った。採取土壌量は一律 13 号ビニール 1 袋、約 3500 cc としている。但し、工房内炉跡（SN05～SN08）に限っては微細鉄滓類が肉眼で確認されなくなるまで更に採取を行った為、この限りではない。また、竪穴住居のカマド、焼成遺構の焼成面の土壌を採取し、炭化種子・獣骨片・炭化材の採取を目的としたフローテーションを行った。対象とした土壌量は第2分冊付編・自然科学的分析 2-表 1 分析試料一覧に示している。

(6)　実　　測

遺構の平面実測は、光波トランシットを用いた電子平板による実測を主とし、遺物出土状況・カマドなどの微細図は 1 m 方眼を基準にした簡易遣り方測量と写真実測を補助的に使用した。断面実測は手取り実測による。

(7)　写　真　撮　影

写真撮影は、中判カメラ（モノクロフィルム使用）と 35 mm 判デジタルカメラを併用した。これらのカメラでは、各遺構の全景・断面・遺物出土状況を中心に撮影を行い、遺跡全体は空撮による俯瞰写真を撮影した。なお銀塩写真は記録保存用、デジタル写真は報告書の写真図版原版に使用している。

2 室 内 整 理

(1) 遺 物 整 理

土器類は接合後に器形を復元できる個体を中心に遺構ごとの器種組成を把握できるように努め、掲載遺物を選択した。石器・土製品・石製品・金属製品は遺構に伴う個体を中心に登録・図化している。なお、石器・石製品については外部委託による実測図を掲載している。土製品・金属製品・自然遺物は一部図化せずに写真・表のみの個体も存在する。

遺物は登録時に土器・石器など、遺物の種類ごとに仮番号を付した。室内整理中は仮番号のまま作業を行い、その後編集段階で全ての遺物に改めて掲載順の番号を付し、これを掲載番号とした。掲載番号もそれぞれ種類ごとに１から番号を付しており、先頭に以下の小文字アルファベットをつけて区別している。

a…古代土器　　b…縄文・弥生土器　　c…土製品　　d…石器・石製品　　e…金属製品
g…古銭　　l…羽口・坩堝

遺物整理担当者は以下のように分担した。

縄文・弥生土器：高木　　古代土器：丸山　　土製品・石器・石製品：高木
金属製品：丸山　　自然遺物：丸山

(2) 遺 構 整 理

遺構の平面図はドローイングソフト上で編集作業を行った。断面図は原図をスキャナーで読み込み、パソコン上で平面図との整合性を点検しこれをデジタルトレースした。

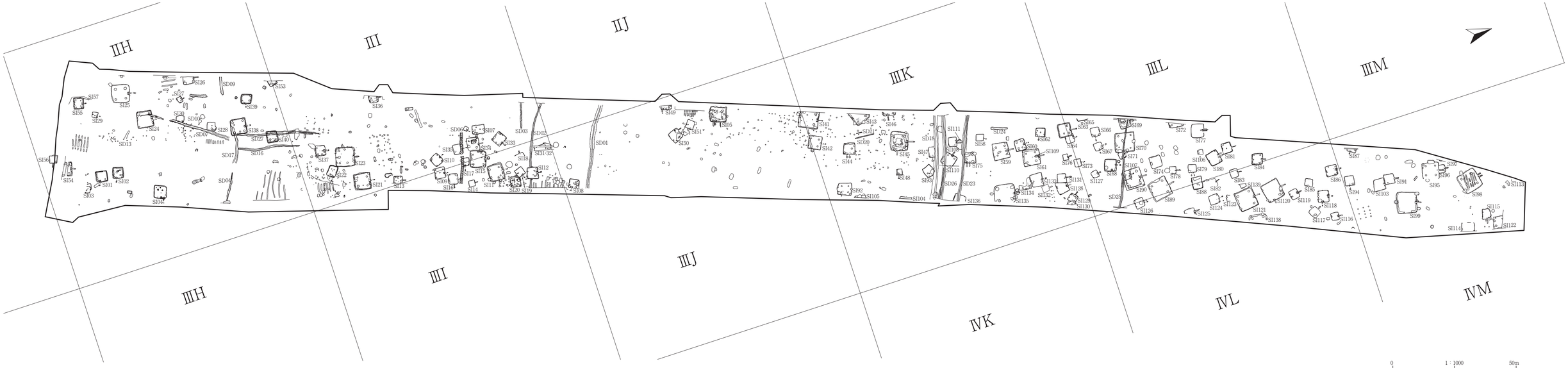
遺構図編集基礎作業は調査時の担当調査員、作業員が行い、最終的に丸山・高木・伊東が編集した。

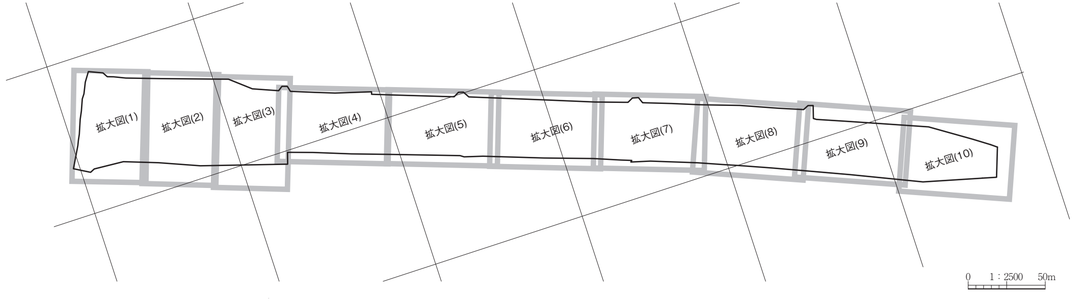
(3) 図 版 作 成

遺構ごとに平面・断面図を作成し掲載した。縮尺は、竪穴住居跡：1/60・1/80、掘立柱建物跡：1/60・1/80、土坑：1/60、焼成遺構：1/40、焼土・炉跡：1/40 を基本とし、微細図等は適宜縮尺を変更している。また溝跡、畝間状遺構については規模に応じた縮尺を採用した。図版には縮尺率を表すスケールと方位を付している。

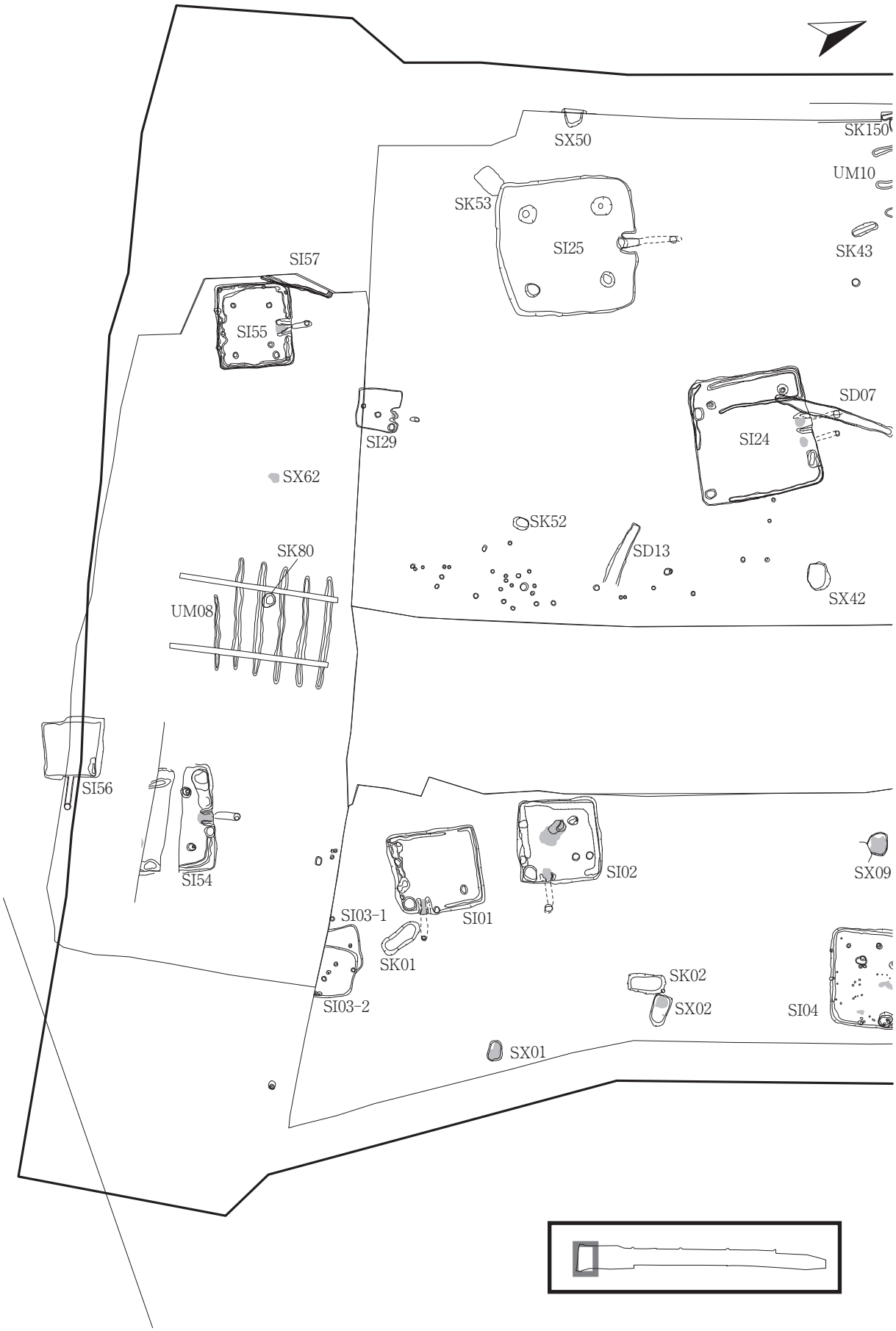
遺物の縮尺は、縄文・弥生土器・陶磁器：1/3、古代土器：1/4、土製品・金属製品：1/2、石器・石製品：2/3・1/3、銭貨：1/1 を原則としているが、適宜縮尺を変更している個体もある。図版には縮尺率を表すスケールを付している。

なお遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と同一である。

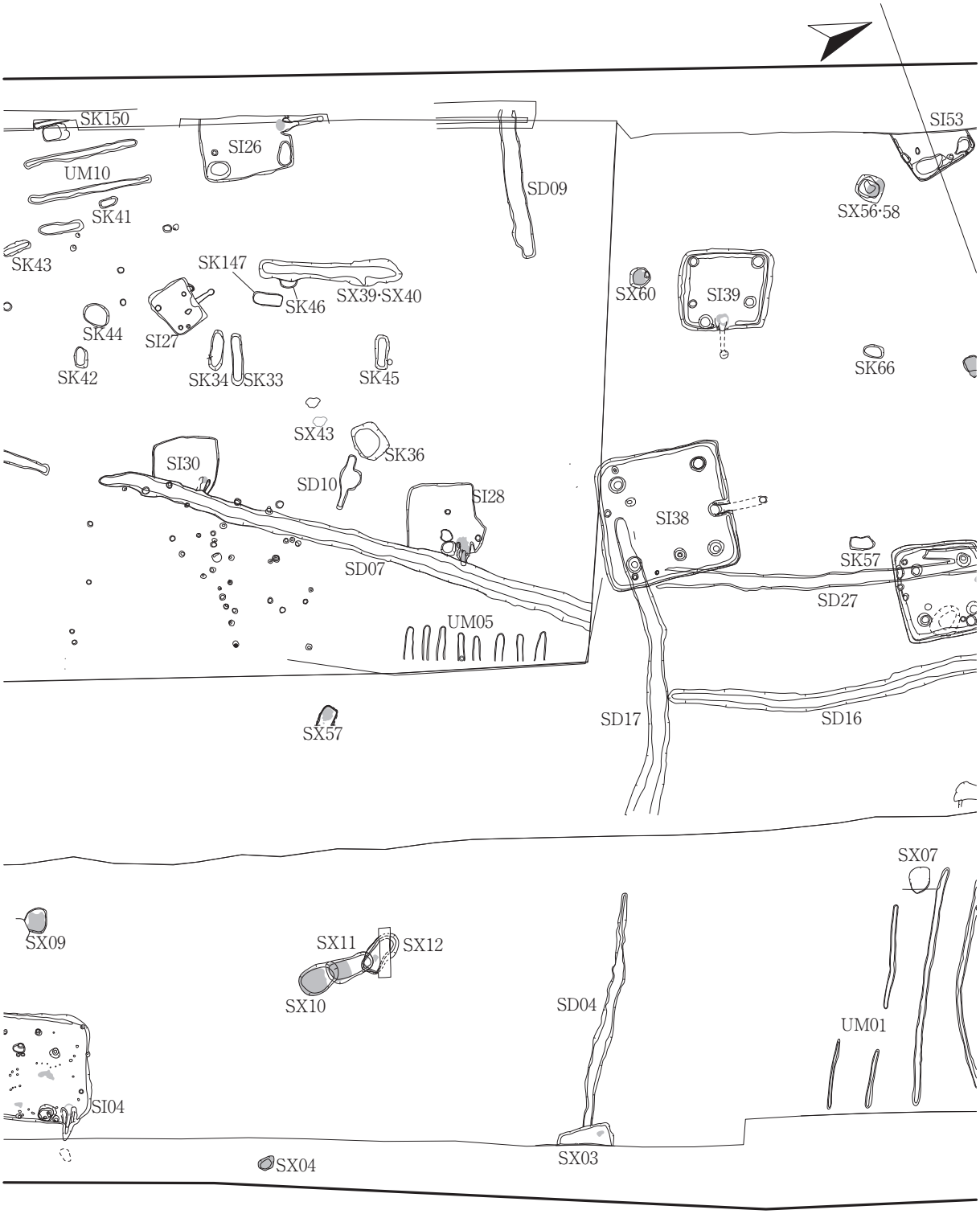

ⅢH
ⅢI
ⅢJ
ⅢK
ⅢL
ⅢM
ⅣH
ⅣI
ⅣJ
ⅣK
ⅣL
ⅣM
0　1：1000　50m


拡大図(1)
拡大図(2)
拡大図(3)
拡大図(4)
拡大図(5)
拡大図(6)
拡大図(7)
拡大図(8)
拡大図(9)
拡大図(10)
0　1：2500　50m

第６図　遺構分布図

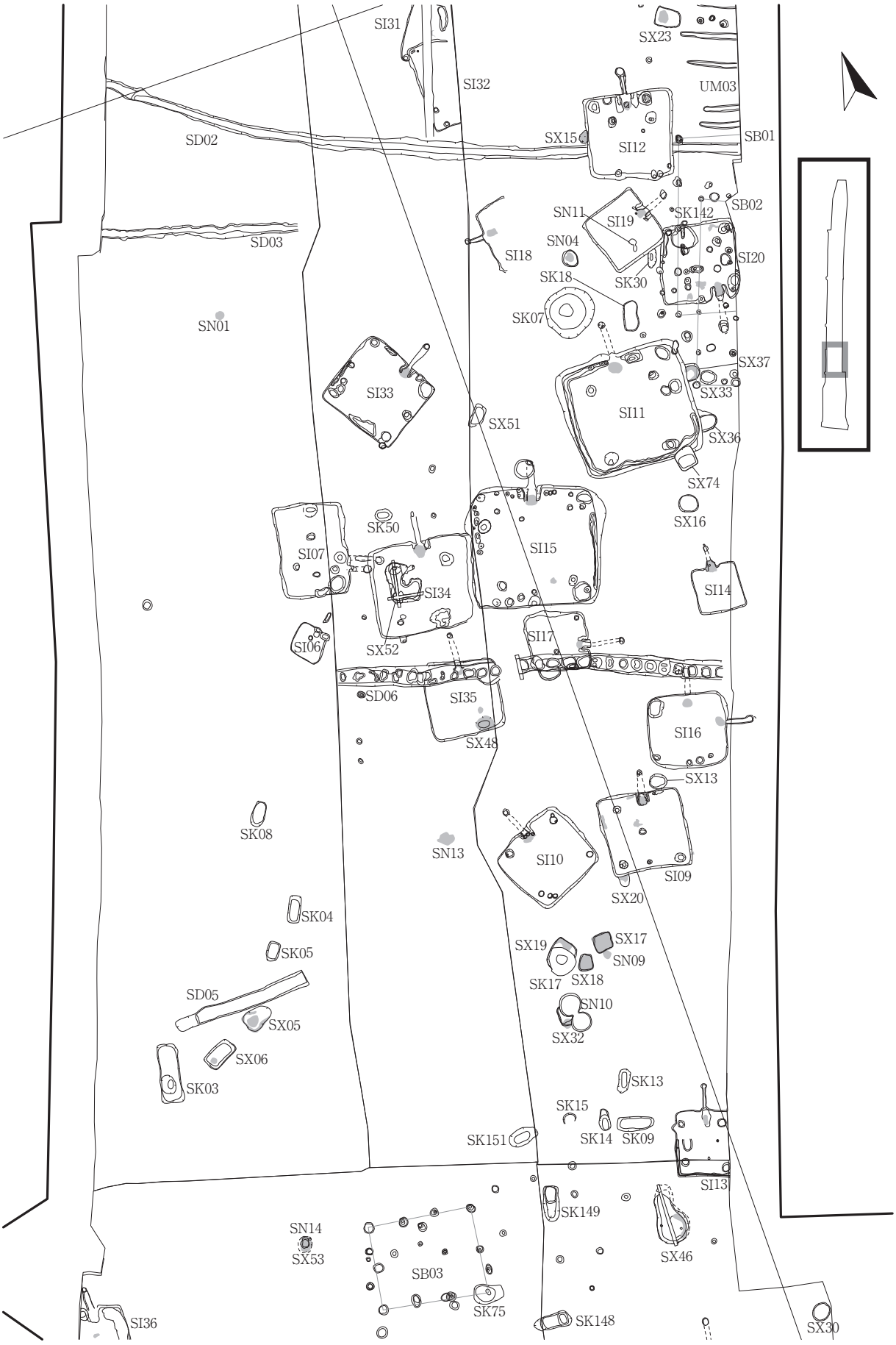


第７図　遺構分布図部分（1）

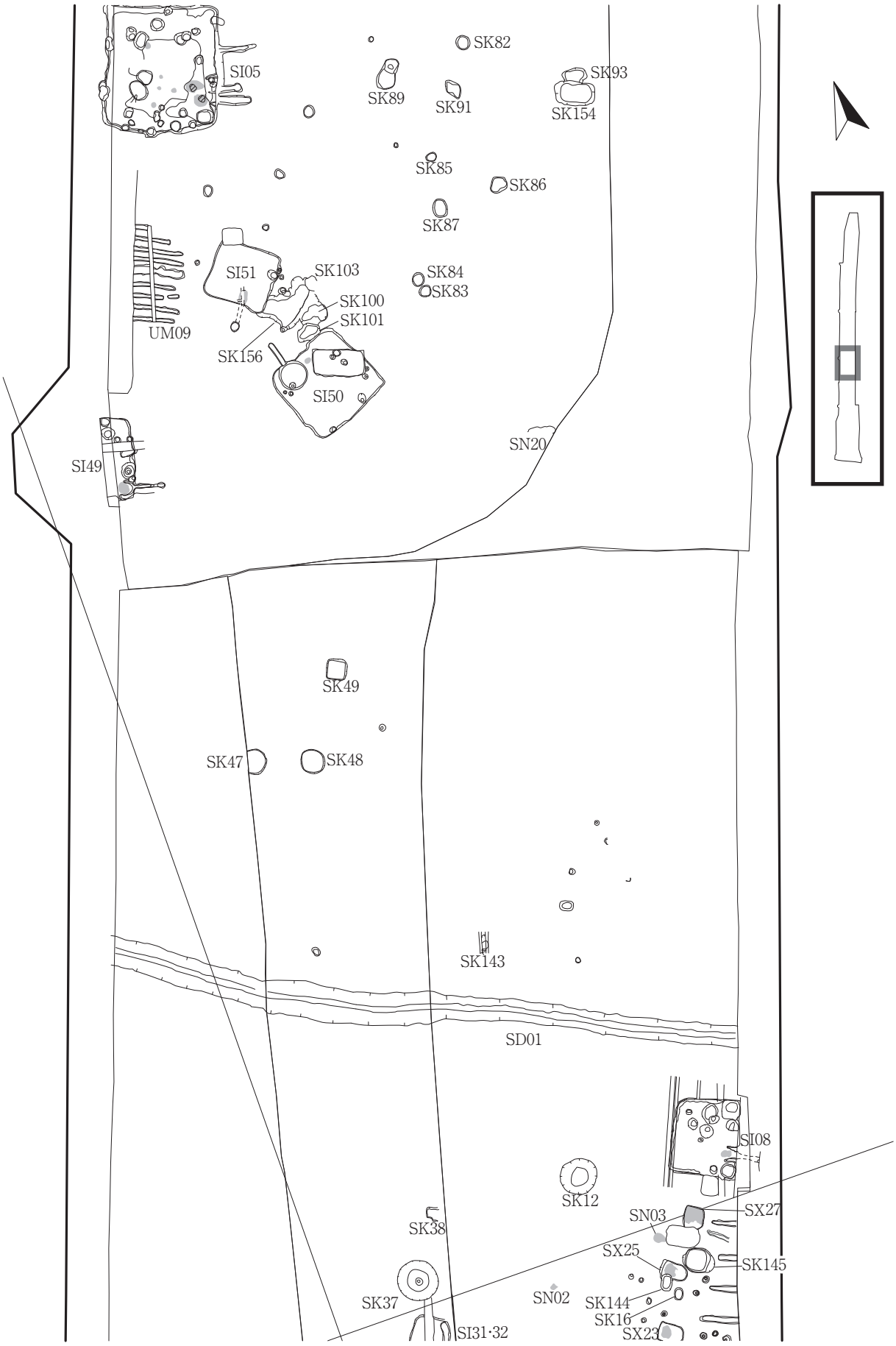


第 8 図　遺構分布図部分（2）

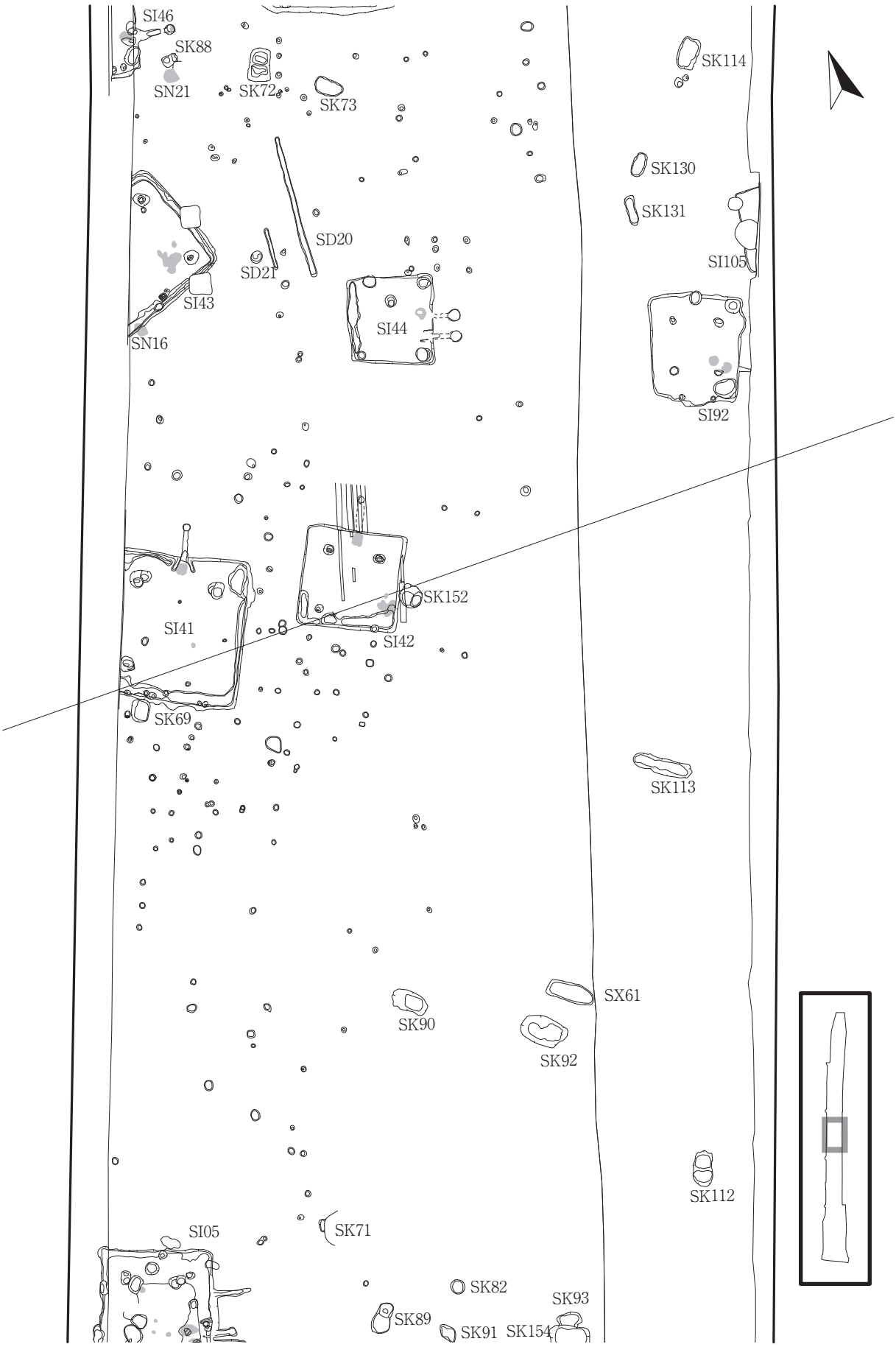
第９図　遺構分布図部分（3）



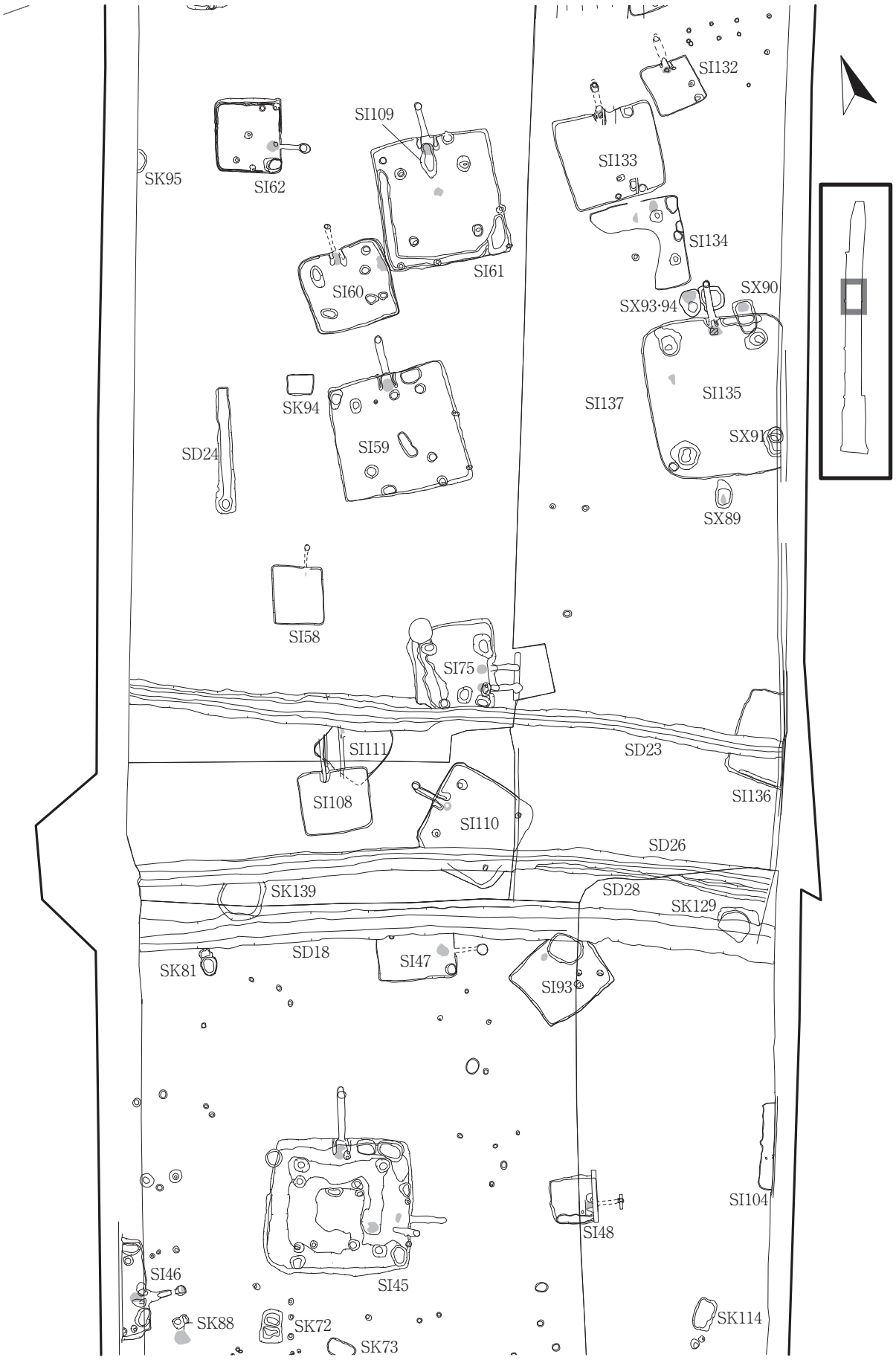
第 10 図　遺構分布図部分（4）



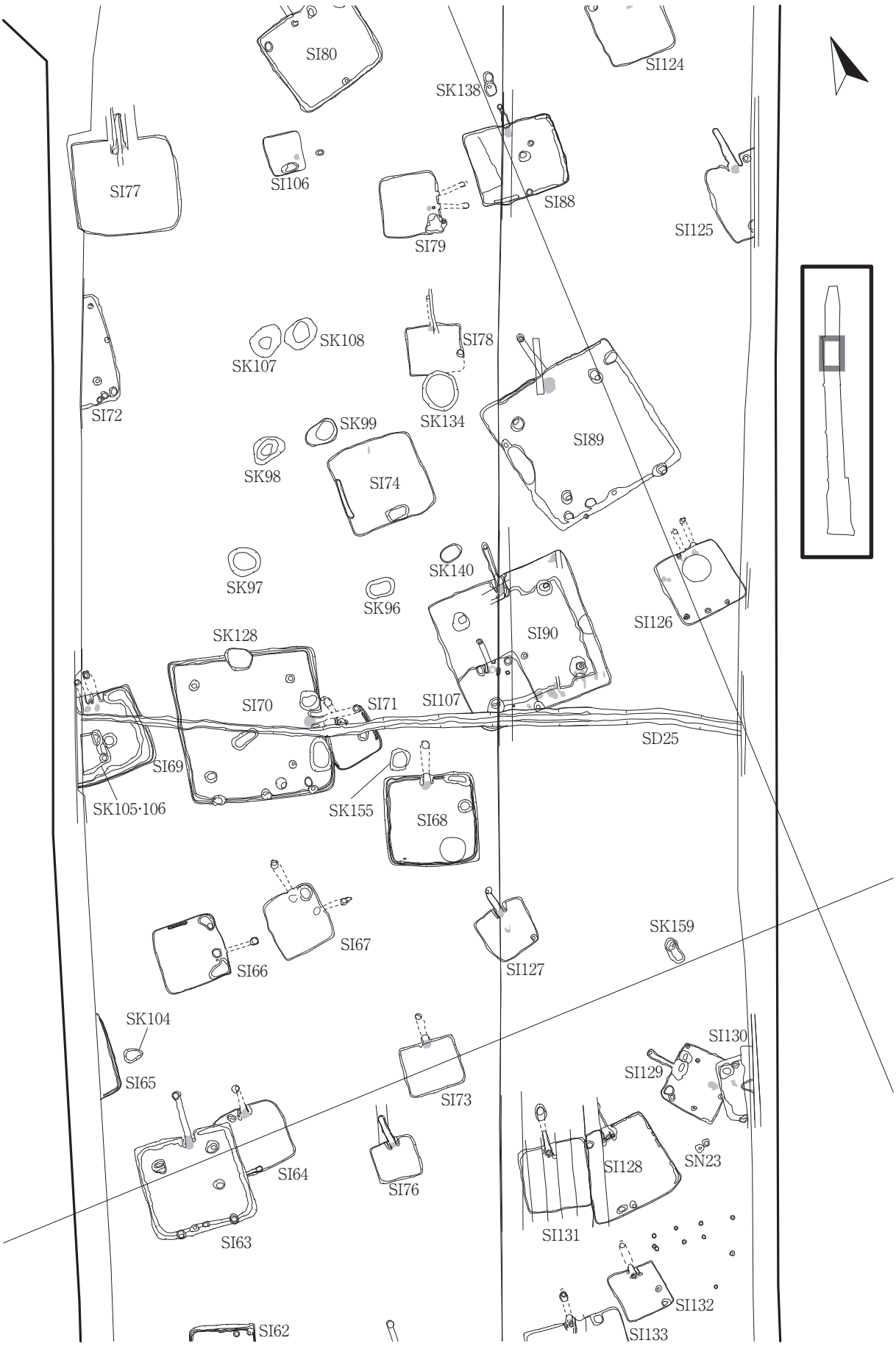
第 11 図　遺構分布図部分（5）



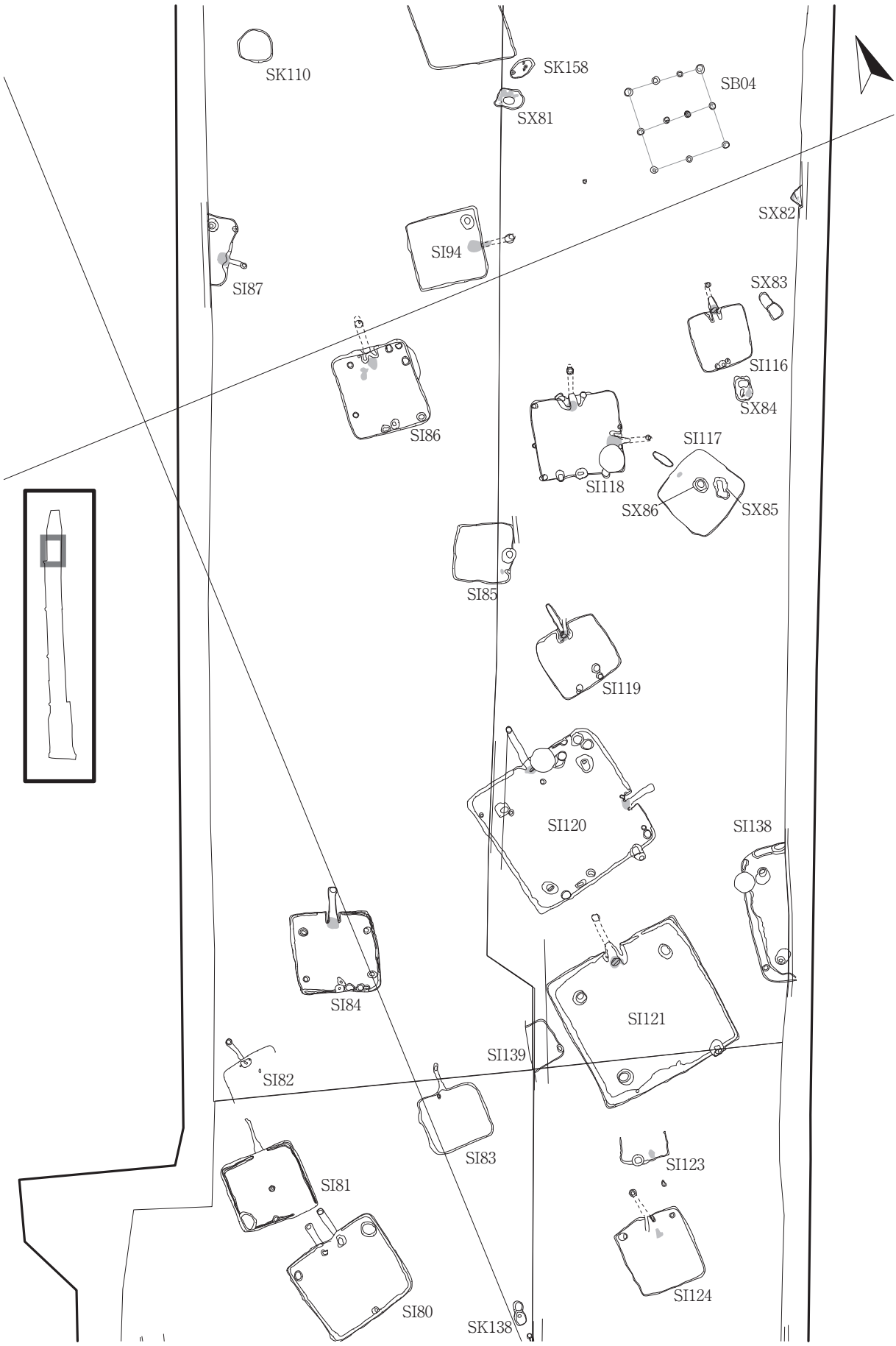
第 12 図　遺構分布図部分（6）



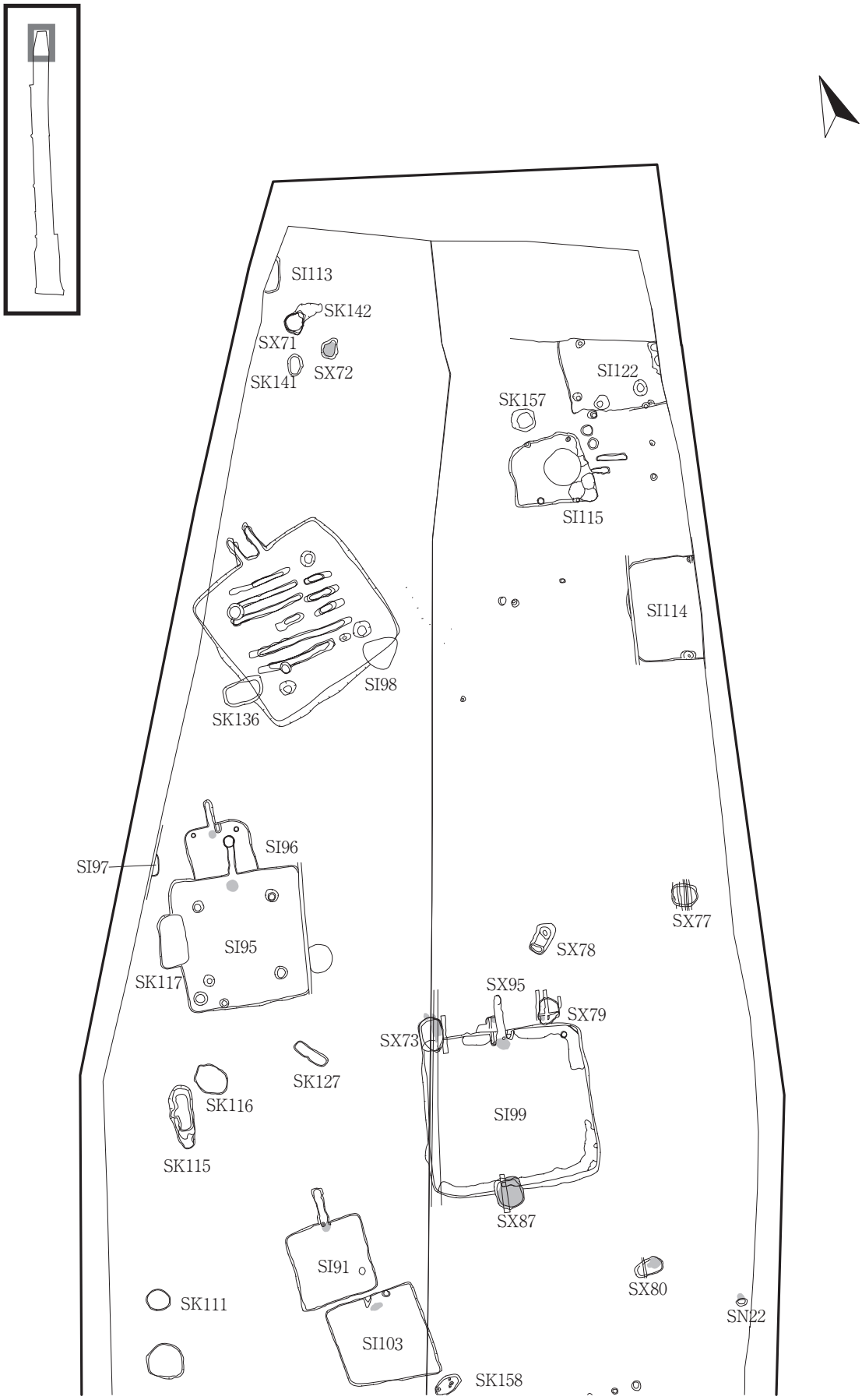
第 13 図　遺構分布図部分（7）



第 14 図　遺構分布図部分（8）



第 15 図　遺構分布図部分（9）



第 16 図　遺構分布図部分（10）

Ⅳ　検出された遺構と遺物

1　概　　要

遺跡範囲は北上市二子町字中村地内である。調査前現況は畑地、市道、用水路であった。遺跡は北上川西岸の川縁に沿って細長く、自然堤防および後背湿地が複雑に入り組む地点にあたる。標高は約60ｍで、現河床面からの比高は約５ｍである。

調査区は１区～6区-2の計15箇所に分けて調査を行った（第５図）。検出遺構は奈良・平安時代の竪穴住居跡136棟、掘立柱建物跡２棟、柱穴列１条、土坑137基、焼成遺構73基、焼土遺構16基、溝跡19条、畝間状遺構７箇所、柱穴状小土坑516個、古代末～中世にかけての掘立柱建物跡（鍛冶工房）２棟である。

出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、縄文土器、弥生土器、土製品、石器、石製品、金属製品、羽口、坩堝、鉄滓類、炭化種子、骨片である。

2　基　本　層　序

(1)　中村遺跡の基本層序

本遺跡は千苅遺跡と市道を介して隣接することから、同様の層位が予想された。よって調査時の層序の決定は、千苅遺跡と共通のものとし、同一の層位番号を用いて分層を行っている。

Ⅰａ層　10YR4/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚50～80㎝。

表土。現耕作土。

Ⅰｂ層　10YR4/2灰黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚0～20㎝

旧表土。旧耕作土。Ａ区、Ｄ区で確認。

Ⅲ層　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚50～60㎝。

上面は古代の遺構検出面。古代遺物包含層。３区以北には存在しない。

Ⅳ層　10YR3/2黒褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚0～30㎝。

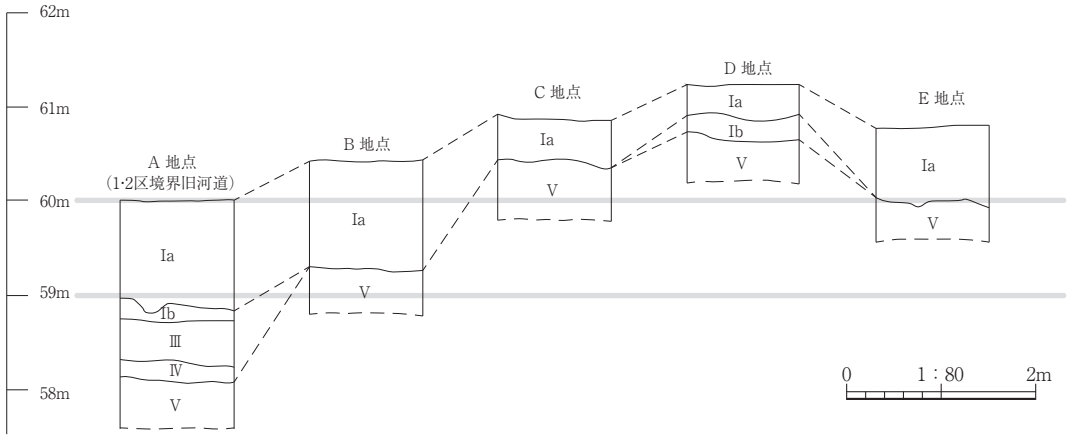
縄文時代～弥生時代の遺物包含層。旧河道のみで確認。

Ⅴ層　10YR6/6明黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚不明。

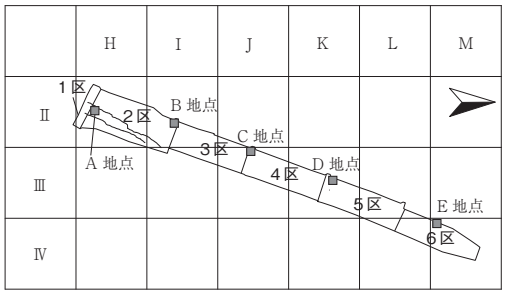
上面は古代の遺構検出面。地山。Ⅴ層以下は水成堆積による粘土・砂層・礫層の互層となる。

(2)　千苅遺跡との層序対応関係

中村遺跡	千苅遺跡
Ⅰａ層　表土（耕作土）。	Ⅰ層　表土（耕作土）。
Ⅰｂ層　旧表土（旧耕作土）。	Ⅱ層　弥生時代～古代遺構検出面。
Ⅲ層　古代遺構検出面。	Ⅲ層　弥生時代～古代遺構検出面。
Ⅳ層　旧河道にのみ局所的に確認。	Ⅳ層　縄文時代晩期～弥生時代の遺物包含層。
Ⅴ層　古代遺構確認面。地山。	Ⅴ層　古代遺構検出面。地山。



Ⅰa層　10YR4/3 にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚 50 ～ 80 ㎝。
　　表土。現耕作土。
Ⅰb層　10YR4/2 灰黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚 0 ～ 20 ㎝
　　旧表土。旧耕作土。A 区、D 区で確認。
Ⅲ層　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚 50 ～ 60 ㎝。
　　上面は古代の遺構検出面。古代遺物包含層。3 区以北には存在しない。
Ⅳ層　10YR3/2 黒褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚 0 ～ 30 ㎝。
　　縄文時代～弥生時代の遺物包含層。旧河道のみで確認。
Ⅴ層　10YR6/6 明黄褐色シルト　粘性・しまり共中　層厚不明。
　　上面は古代の遺構検出面。地山。
※Ⅴ層以下は水成堆積による粘土・砂層・礫層の互層となる。



第 17 図　基本土層

調査の結果、基本層序においてはⅡ層・Ⅳ層の層状堆積を欠くものの極めて近い様相を示すことが判明した。弥生時代～古代の遺構検出面にあたるⅡ層は千苅遺跡の南端、縄文時代晩期～弥生時代遺物包含層にあたるⅣ層は、主に千苅遺跡の中央部においてのみ確認されている。その中間に堆積するⅢ層は両遺跡で認められるが、中村遺跡においては中央部以北には存在せず部分的な分布状況となり、Ⅰ層下面がⅤ層に達している地点が多い。千苅遺跡で認められた弥生時代の遺構（墓域）、遺物包含層（捨て場）は中村遺跡では未確認である。

3　検出遺構

今回の中村遺跡の遺構報告にあたっては、遺構種別ごと、また野外調査段階で登録命名した遺構名順に記載している。遺構所属時期は古代から中世まで幅の広いものであるが、必ずしも時代順の記載とはなっていないことに留意されたい。全体の遺構数は第 2 表のとおりである。また遺構記載順およ

第 2 表　検出遺構数一覧

種類	平成 26 年度	平成 27 年度	合計
竪穴住居跡	109	27	136
掘立柱建物跡	3	1	4
柱穴列	1	0	1
土坑	134	3	137
焼成遺構	54	19	73
焼土遺構	14	2	16
溝跡	15	4	19
畝間状遺構	7	0	7
柱穴状土坑	479	37	516

第３表　遺構一覧（1）　※仮名称は現地での仮登録名

遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当
SI01		丸山	SI57		丸山	SI115		高木	SK27		清水
SI02		佐藤	SI58		藤原	SI116		伊東	SK28		清水
SI03		丸山	SI59		丸山	SI117		伊東	SK29		清水
SI04		丸山	SI60		藤原	SI118		伊東	SK30		佐藤
SI05		高木	SI61		高木	SI119		高木	SK31		清水
SI06		高木	SI62		丸山	SI120		高木	SK32		藤原
SI07		高木	SI63		丸山	SI121		伊東	SK33		高木
SI08		佐藤	SI64		清水	SI122		高木	SK34		高木
SI09		伊東	SI65		丸山	SI123		高木	SK36		高木
SI10		伊東	SI66		藤原	SI124		佐藤	SK37		藤原
SI11		高木	SI67		藤原	SI125		佐藤	SK38		藤原
SI12		佐藤	SI68		藤原	SI126		伊東	SK40		藤原
SI13		高木	SI69		藤原	SI127		高木	SK41		高木
SI14		高木	SI70		藤原	SI128		佐藤	SK42		高木
SI15		高木	SI71		藤原	SI129		佐藤	SK43		佐藤
SI16		高木	SI72		高木	SI130		佐藤	SK44		佐藤
SI17		高木	SI73		清水	SI131		高木	SK45		伊東
SI18		佐藤	SI74		丸山	SI132		高木	SK46		伊東
SI19		佐藤	SI75		高木	SI133		高木	SK47		藤原
SI20		伊東	SI76		清水	SI134		高木	SK48		藤原
SI21		丸山	SI77		高木	SI135		伊東	SK49		藤原
SI22		丸山	SI78		清水	SI136		伊東	SK50		藤原
SI23		清水	SI79		清水	SI137		高木	SK52		伊東
SI24		佐藤	SI80		丸山	SI138		高木	SK53		伊東
SI25		高木	SI81		丸山	SI139		高木	SK54		伊東
SI26		高木	SI82		丸山	SB01	SB01	丸山	SK55		佐藤
SI27		高木	SI83		丸山	SB02	SB01	丸山	SK56		伊東
SI28		伊東	SI84		丸山	SB03		藤原	SK57		藤原
SI29		高木	SI85		伊東	SB04		高木	SK58		藤原
SI30		佐藤	SI86		伊東	SA01		藤原	SK59		藤原
SI31		高木	SI87		伊東	SK01		丸山	SK60		藤原
SI32		高木	SI88		清水	SK02		丸山	SK62		藤原
SI33		高木	SI89		藤原	SK03		高木	SK65		藤原
SI34		高木	SI90		藤原	SK04		高木	SK66		藤原
SI35		丸山	SI91		丸山	SK05		高木	SK67		清水
SI36		高木	SI92		伊東	SK06		伊東	SK68		藤原
SI37		佐藤	SI93		伊東	SK07		高木	SK69		伊東
SI38		丸山	SI94		伊東	SK08		丸山	SK70		藤原
SI39		丸山	SI95		丸山	SK09		丸山	SK71		伊東
SI40		丸山	SI96		丸山	SK11		丸山	SK72		伊東
SI41		高木	SI97		丸山	SK12		佐藤	SK73		伊東
SI42		伊東	SI98		丸山	SK13		高木	SK74		丸山
SI43		伊東	SI99		丸山	SK14		高木	SK75		丸山
SI44		清水	SI102		高木	SK15		高木	SK76		藤原
SI45		高木	SI103		丸山	SK16		丸山	SK78		藤原
SI46		伊東	SI104		伊東	SK17		高木	SK79		藤原
SI47		清水	SI105		伊東	SK18		丸山	SK80		藤原
SI48		伊東	SI106	SK109	藤原	SK19		丸山	SK81		清水
SI49		高木	SI107		藤原	SK20		丸山	SK82		高木
SI50		高木	SI108		高木	SK21		丸山	SK83		清水
SI51		清水	SI109		高木	SK22		丸山	SK84		清水
SI53		丸山	SI110		高木	SK23		丸山	SK85		清水
SI54		丸山	SI111		清水	SK24		丸山	SK86		清水
SI55		丸山	SI113		藤原	SK25		丸山	SK87		清水
SI56		丸山	SI114		佐藤	SK26		清水	SK88		伊東

第 3 表　遺構一覧（2）

遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当	遺構名	仮名称	担当
SK89		清水	SX01		丸山	SX77		高木	SD01		高木
SK90		清水	SX02		丸山	SX78		高木	SD02		高木
SK91		清水	SX03		丸山	SX79		高木	SD03		高木
SK92		清水	SX04		高木	SX80		高木	SD04		丸山
SK93		清水	SX05		高木	SX81		高木	SD05		伊東
SK94		藤原	SX06		高木	SX82		伊東	SD06		高木
SK95		丸山	SX07		丸山	SX83		伊東	SD07		佐藤
SK96		伊東	SX09		丸山	SX84		伊東	SD09		佐藤
SK97		伊東	SX10		高木	SX85		伊東	SD10		高木
SK98		伊東	SX11		高木	SX86		伊東	SD13		高木
SK99		伊東	SX12		高木	SX87		清水	SD16		丸山
SK100		清水	SX13		伊東	SX89		高木	SD17		佐藤
SK101		清水	SX14		伊東	SX90		高木	SD18		高木
SK103		清水	SX15		伊東	SX91		高木	SD20		伊東
SK104		清水	SX16		丸山	SX92		高木	SD21		伊東
SK105		藤原	SX17		丸山	SX93		高木	SD23		丸山
SK106		藤原	SX18		丸山	SX94		高木	SD24		藤原
SK107		清水	SX19		丸山	SX95		高木	SD25		藤原
SK108		清水	SX20		丸山	SN01		丸山	SD26		高木
SK110		丸山	SX23		丸山	SN02		佐藤	SD27		丸山
SK111		丸山	SX25		丸山	SN03		佐藤	SD28		佐藤
SK112		伊東	SX26		丸山	SN04		丸山	UM01		丸山
SK113		伊東	SX27		丸山	SN09		丸山	UM03		丸山
SK114		伊東	SX29		丸山	SN10		丸山	UM04		丸山
SK115		丸山	SX30		丸山	SN11		丸山	UM05		伊東
SK116		丸山	SX32		高木	SN12		丸山	UM08		丸山
SK117		丸山	SX33		高木	SN13		丸山	UM09		高木
SK127		丸山	SX34		丸山	SN14		丸山	UM10	SD11・12・14・15	高木
SK128		藤原	SX36		高木	SN15		伊東			佐藤
SK129		伊東	SX37		高木	SN16		伊東			
SK130		伊東	SX38		藤原	SN20		伊東			
SK131		伊東	SX39		高木	SN21	SX66	伊東			
SK134		清水	SX40		高木	SN22		高木			
SK136		丸山	SX42		高木	SN23		佐藤			
SK138		清水	SX43		高木						
SK139		高木	SX46		藤原						
SK140		藤原	SX48		藤原						
SK141		藤原	SX49		伊東						
SK142	SX08	藤原	SX50		伊東						
SK143	SX22	佐藤	SX51		藤原						
SK144	SX24	丸山	SX52		藤原						
SK145	SX28	丸山	SX53		伊東						
SK146	SX35	丸山	SX54		伊東						
SK147	SX41	高木	SX56		丸山						
SK148	SX44	藤原	SX57		高木						
SK149	SX45	藤原	SX58		丸山						
SK150	SX47	高木	SX59		藤原						
SK151	SX55	伊東	SX60		藤原						
SK152	SX64	清水	SX61		清水						
SK154	SX67	清水	SX62		藤原						
SK155	SX69	藤原	SX71		藤原						
SK156	SX70	清水	SX72		藤原						
SK157		高木	SX73		清水						
SK158		高木	SX74	SK10	丸山						
SK159		高木	SX75	SK61	藤原						

び遺構名の変更、精査主担当者名を第3表遺構一覧に記した。

以下、各遺構について次により記述する。

① 遺構の深さは、検出面からの深さを測る。

② 遺構の方向については、座標北からの長軸の傾きを測る。竪穴住居跡の傾きは、カマドを持つ壁と直交する方向を主軸として座標北からの傾きを測り、カマドを検出しないものは北壁もしくは南壁と直交する方向を主軸として測る。

③ カマド燃焼部の幅については両袖の間を測るが、袖の残存しないものについては焼土の幅を測る。また、カマド燃焼部や炉跡・焼成遺構等の焼土、焼失住居跡の床面焼土は実測図版中に薄いアミで示す。

④ 出土遺物については重量、実測遺物の点数、特記事項のみを記し、詳細は観察表およびⅣ章4出土遺物の項に記す。

⑤ 竪穴住居跡内出土遺物の位置については、住居本体のセクションラインにより4分割し、北壁の右側から時計回りにQNE、QSE、QSW、QNWとして取り上げた。

(1)　竪穴住居跡

奈良・平安時代の竪穴住居跡は合計136棟がある。検出順に連番で登録しており、SI01からSI139までが遺構名称である。このうち精査の結果、遺構と認められないものが複数あり（SI51・100・101・112）これらは欠番扱いとした。1棟と認識して精査着手したものの、2棟の重複であることが判明したSI03については、SI03-1・SI03-2として登録した。この他、プラン全体の拡張、建て替えが想定される住居跡が複数あるため、実数は更に増加するものと考えられる。南に隣接する千苅遺跡調査区と今回の中村遺跡調査区にまたがって位置するSI56については、千苅遺跡報告のSI98と同一の住居跡である。両遺跡を合計すると224棟を報告することとなる。

住居跡の分布はほぼ全域に広がる。南側の3区北半から4区南半にかけて分布の空白が見られるが、これを除くと遺構密度が高い状況は北端から南端まで連続する。調査区東西両側の調査区境にかかる遺構も多数あるため、分布範囲は調査区両側に更に広がるものと考えられる。

全体を通じた特徴として、埋土中に見られる洪水堆積層の存在、カマドの強い被熱痕跡、長く刳り抜きかれたカマド煙道、大型の住居跡柱穴底面に見られる柱痕、壁寄りが深い床面掘り方が挙げられる。これらの特徴は千苅遺跡ともほぼ共通するものである。

洪水堆積層が観察された住居跡は14棟である。調査区全域に散在して分布する。洪水堆積層は褐色～黄褐色のシルト層として観察されるものが多く、千苅遺跡において細砂層、粗砂層が確認された状況とはやや異なる。概ね埋没途中の窪地への流入が推定できる確認層位となっている。

カマド燃焼部の被熱痕跡は、一部を除き非常に明瞭に観察され、燃焼面上部に硬化還元面が生じているものが多い。遺構堆積土と地山基本土層との区別が難しい住居跡についても、カマド燃焼部の確認面を床面として遺構全体の把握に至ったものが含まれる。カマド煙道は大多数が刳り抜き式の長煙道である。検出面の状態から天井そのものが残存しない遺構についても、煙道内部に崩落天井ブロックが確認される遺構が多い。燃焼部から煙出しに至る傾斜は多様で、水平に伸びるものから、きつい下り勾配で伸びるものまでの変異があるが、上り勾配で伸びるものはごく少数である。

大型の住居跡柱穴では底面に柱痕が観察されるものが一定数確認される。柱痕は概ね酸化色を帯びた粘土質の皮膜となっており、形状は長方形、長楕円形が多く、円形の柱痕は少ない。粘土質に変化した成因は不明である。なお、主柱穴配置に規格的な「ずれ」を指摘できる住居跡が複数あり、これ

については第Ⅴ章で後述する。

SI01 住居跡

遺構（第 18 図、写真図版 8）

［位置・重複関係］2 区-1、ⅡH12e グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.4m、東辺 4.7m、南辺 4.5m、西辺 5.0m の隅丸方形で、床面積は 18.3 m^2。深さは最大 64 cm。［堆積土］5 層に分層される。にぶい黄褐色～暗褐色シルトを主体としており、中央が窪む自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面は全体に平坦で中央が硬化する。［カマド］東壁南寄りに設置される。燃焼部の残存状況は良好で、両袖と天井部分の芯材礫が残る。焼成面中央には支脚の礫が埋め込まれている。煙道は刳り抜き式で急傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井部と煙出し壁面は強く被熱する。また、カマド前床面には最大径 115 cm で楕円形に広がる現地性の焼土がある。上面は硬化し、カマド焼成面と同様の被熱である。［柱穴・土坑］8 基を検出。Pit 2・8・7 は深さ 50 cm 前後で、位置的に主柱穴と考えられる。北西部では対応する柱穴を確認できない。カマド右脇に円形の貯蔵穴 Pit 3 がある。Pit 3 堆積土上位からは須恵器長頸瓶体部（P①）が出土した。［周溝］幅 18 cm 前後で、壁際をほぼ全周する。

遺物（第 202・264・265・266 図、写真図版 188・236・237）

出土重量は、古代土器 9,403 g、焼成粘土塊 1 点 3.5 g、石器 8 点 8077.8 g、縄文土器 193 g である。うち、古代土器 9 点（a1～a9）、石器 4 点（d21・d37・d38・d41）を掲載した。

SI02 住居跡

遺構（第 19・20 図、写真図版 9）

［位置・重複関係］2 区-1、ⅡH12e グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.6m、東辺 4.7m、南辺 4.5m、西辺 4.4m の隅丸方形で、床面積は 17.9 m^2。深さは最大 64 cm。［堆積土］3 層に分層される。暗褐色シルトを主体として黄褐色土ブロックを含む。中央が窪み自然堆積と捉えられる。中央西側の床面直上には炭化物と焼土の分布がある。［壁・床面］壁面は全周とも外傾して立ち上がる。床面は平坦で全体的に硬化し、特に中央部は顕著である。［カマド］東壁南寄りに設置される。燃焼部の残存状況はやや不良で、芯材の礫が横転した状態で出土した。煙道は水平に延び天井部と煙出し壁面が強く被熱する。煙出しには径約 25～40 cm の礫が充填される。そのうち 2 個には被熱痕跡が見られる。［柱穴・土坑］7 基検出した。配置から見て、Pit 1・2・3・6 の 4 基が主柱穴と考えられる。カマド右脇に Pit 5 の貯蔵穴がある。堆積土に焼土ブロックが含まれ、上部には径 5～30 cm 程の多量の礫が集中する。［周溝］東壁を除く住居壁際に巡る。幅は約 20～35 cm、深さは約 10～25 cm である。

遺物（第 202・203・260・272 図、写真図版 188・233・240）

出土重量は、古代土器 9,711 g、土製品 1 点 123.1 g、焼成粘土塊 1 点 15.4 g、石器 1 点 5.3 g、金属製品 1 点 8.0 g、鉄滓 1 点 1.3 g、縄文土器 481 g である。うち、古代土器 9 点（a10～18）、土製品 1 点（c4）、金属製品 1 点（e1）を掲載した。

SI03-1 住居跡

遺構（第 20 図、写真図版 10）

［位置・重複関係］2 区-1、ⅡH13d グリッド付近に位置する。Ⅲ層下部で検出した。南側は現道下の

調査区外である。検出段階ではやや不整形な 1 棟の竪穴を想定したが、精査の結果 2 棟の重複と判断し、SI03-1・SI03-2 住居跡として登録した。［規模・形状］北辺 2.3 m の方形基調を呈する。東半部で SI03-2 住居跡に切られる。深さは最大 15 cm。［堆積土］焼土、炭化物を含む黒褐色土単層である。［壁・床面］壁面は外傾する低い立ち上がり。床面はほぼ平坦である。［カマド］調査した範囲では未検出である。［柱穴］Pit 7 の 1 基がある。［遺物］SI03 住居跡一括で取り上げており、SI03-1 住居跡帰属と特定できる遺物はない。

SI03-2 住居跡

遺構（第 20 図、写真図版 10）

［位置・重複関係］2 区-1、ⅡH13d グリッド。断面観察の結果、SI03-1 住居跡を切る遺構と判断した。［規模・形状］北辺 2.5 m の方形基調。深さは最大 15 cm。［堆積土］焼土、炭化物を含む黒褐色土単層である。［壁・床面］壁面は外傾、床面はほぼ平坦である。［カマド］調査した範囲では未検出であり、南壁に設置されるか、もしくはカマドを伴わない竪穴状遺構の可能性もある。［柱穴］Pit 1～6 の 6 基がある。配置は不規則で主柱穴の特定はできない。

遺物（第 266 図、写真図版 237）

SI03-1・SI03-2 住居跡一括での出土重量は、古代土器 1,089 g、焼成粘土塊 1 点 7 .5g 、石器 4 点 42.5 g、縄文・弥生土器 413 g である。うち、石器 1 点（d40）を掲載した。

SI04 住居跡

遺構（第 21 図、写真図版 11）

［位置・重複関係］2 区-1、ⅡH15i グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 5.4 m、東辺 5.2 m、南辺 5.2 m、西辺 5.1 m の隅丸方形で、床面積は 24 m^2。深さは最大で 79 cm。［堆積土］基本的には 4 層に分層される。中央が窪む自然堆積と捉えられる。最上部 1 層はにぶい黄褐色を呈する砂質シルトで、洪水堆積物由来の可能性が高い。床面直上では東壁寄りに炭化物が分布する。［壁・床面］壁面は概ね直線的に立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央部が硬く締まる。［カマド］東壁の北東コーナーに近い位置に設置される。燃焼部の両袖は低く残存し、芯材礫が埋め込まれている。煙道は燃焼部奥側で一段高くなり、煙出しに向かい上り勾配で伸びる。ただし検出段階で一部削平したため正確ではない。煙道天井の有無は不明で、刳り抜き式かどうかは判断不能である。［柱穴・土坑］Pit 1～13 の 13 基を検出した。配置から Pit 2・3・5・6 の 4 基が主柱穴を構成すると考えられる。東壁際の Pit 5・6 は Pit 2・3 に比較して浅いのが特徴である。カマド右脇にある Pit 1 は貯蔵穴で内部から完形の坏類が出土した。柱穴の他に径 5 cm 程度、深さ 15～20 cm 程度の杭穴が床面中央付近、及び東壁寄りに散在する。断面形状は先端が尖るものが多い。一部は列状に配置されている可能性があるが、性格は判断し難い。［周溝］幅 20 cm 前後で、北辺を除く壁際を巡る。［焼土］床面に焼成面が 2 箇所ある。中央の焼土 1 は強い焼成を受け上面の一部が硬化する。

遺物（第 203・260・272 図、写真図版 189・233・240）

出土重量は古代土器 16,419 g、土製品 1 点 14.2 g、焼成粘土塊 1 点 2.4 g、石器 3 点 61.3 g、金属製品 1 点 12.8 g、鉄滓 2 点 25.2 g、縄文・弥生土器 898 g である。うち、古代土器 16 点（a19～34）、土製品 1 点（c18）、金属製品 1 点（e2）を掲載した。

SI05 住居跡

遺構（第 22・23・24 図、写真図版 12）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢJ3n グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 6.2 m、東辺 6.8 m、南辺 6.1 m、西辺 6.8 m のやや南北に長い長方形を呈する。床面積は 37.7 m^2。深さは最大 77 cm。［堆積土］黒褐色シルト主体の堆積土である。床面直上を覆う 2 層には焼土粒、炭化物、黄褐色土ブロックが多めに含まれる。［壁・床面］壁面は概ね直立して立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央部が硬く締まる。床下の掘り方は幅 2 m 程度と広く、全周にわたって深く掘られており、上面に貼床が施される。［カマド］東壁に 3 基が設置される。中央から南寄りに 1 号・2 号カマドが並列し、北寄りに 3 号カマドがある。このうち、燃焼部の残存状況が比較的良好で、焼成面が東壁に近い 1 号カマドが新期、焼成面が中央寄りで煙道手前側が削平されている 2 号カマドが旧期と判断した。3 号カマドは煙道のみの確認で燃焼部が失われていることから 2 号カマドより古い可能性が高い。1 号カマドは短く袖が伸び、先端付近に芯材の亜角礫が埋め込まれる。焼成は強く上面に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かってやや急傾斜で伸びる。煙道天井上面には被熱部分がある。煙出しは上部を耕作トレンチャーによる攪乱を受け明確な形状を把握し難いが、底部に向かって広がる形態となっている。2 号カマドは右袖を 1 号カマドと共有すると見られる。左袖は基部の残存がある。焼成面は 1 号カマドよりも中央に位置し、煙道との間が新段階の掘り方によって削平される。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井の被熱が強い。3 号カマドは焼成面が残存せず、溝状に掘り込まれた煙道のみの確認である。煙道取り付き部のレベルが 1・2 号カマドよりも 30 cm 程高く、古い段階の竪穴が浅かったことを示している。3 号カマド煙道堆積土中には天井部崩落ブロックが認められるため、刳り抜き式の構造であったと判断される。［柱穴・土坑］Pit 1～33 がある。床面中央寄り、及び南壁際に集中する状況となっている。このうち位置、深さから主柱穴を構成すると推定できるものは、北西部の Pit 1・2・15、北東部の Pit 6・13・14、南東部の Pit 9・10・24、南西部の Pit 18・20 がある。3 段階の建て替えが想定される。南東コーナーの Pit 8 は 1 号カマドに隣接する貯蔵穴と考えられる。これらの他、床面に分布する柱穴状土坑についての性格は判断し難い。［焼土］床面中央部に複数の焼成面を検出した。いずれも円形で径 20～30 cm と小規模である。明赤褐色に熱変色するが被熱の厚さは 5 cm 未満と薄い。

遺物（第 204・260・266・272 図、写真図版 189・233・237・240）

出土重量は、古代土器 15,847 g、土製品 5 点 58.4 g、焼成粘土塊 1 点 2.2 g、石器 3 点 456.5 g、金属製品 3 点 230.2 g、鉄滓 1 点 11.2 g、縄文土器 47 g である。うち、古代土器 12 点（a35～46）、土製品 4 点（c19～22）、金属製品 3 点（e3～5）、石器 3 点（d42・d43・d45）を掲載した。

SI06 住居跡

遺構（第 24 図、写真図版 13）

［位置・重複関係］3 区-1、ⅡI18n グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］遺構上部が耕作による削平を受け、全体の残存状況は不良である。規模は北東辺 1.6 m、南東辺 1.9 m、南西辺 1.9m、北西辺 1.8m の小型でやや歪な隅丸方形を呈する。床面積は 2.7m^2。深さは最大 17 cm。［堆積土］焼土粒、炭化物を含む黒色シルトの単層を確認した。［壁・床面］残存する壁面下部は外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦で全体にやや硬化する。［カマド］北東壁中央に設置される。燃焼部奥側に攪乱があり残存状況は不良である。円形の焼成面と煙道先端部の溝状の落ち込みを確認した。煙道構造は不明である。［柱穴・土坑］中央部のカマド手前側に円形の浅い Pit 1 がある。焼土

ブロックを含む堆積土である。
遺物（第 264・266 図、写真図版 236・237）
出土重量は、古代土器 1,061 g、石器 2 点 1295.7 g である。うち、石器 2 点（d22・d44）を掲載した。

SI07 住居跡

遺構（第 25 図、写真図版 14）
［位置・重複関係］3 区-1、ⅡI18o グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［形状・規模］北辺 3.9 m、東辺 5.1 m、南辺 3.7 m、西辺 5.2 m の南北に長い長方形を呈する。床面積は 16.5 m^2。深さは最大 23 cm。［堆積土］上部の 1 層にぶい黄褐色シルトと下部の 2 層黒褐色シルトに分層される。1 層は洪水堆積層の可能性がある。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面は凹凸があり、中央部が若干高く硬化する。［カマド］東壁南寄りに 2 基が並列して設置される。焼成面にレベル差があり、焼成面が高く外側に位置する中央寄りの 1 号カマドを新段階、焼成面が低く内側に位置する南寄りの 2 号カマドを旧段階と判断した。両者とも燃焼部の袖は確認されず焼成面のみ残存する。1 号カマドは円形焼成面中央上部が硬化還元し被熱は非常に強い。煙道は刳り抜き式でやや急傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井部は被熱で焦土化する。2 号カマドは燃焼部奥側に複数の礫があり、芯材礫の散在したものと考えられる。焼成面の硬化還元は 1 号カマドに比較し弱い。煙道は刳り抜き式で、奥側に段差があり煙出しに達する。煙道天井部は全体に被熱痕跡を残す。煙出し底部先端は壁面を抉り込む状態となっている。［柱穴・土坑］Pit 1～6 の 6 基がある。南東コーナーの Pit 4 はカマド脇の貯蔵穴と考えられる。南北壁際の Pit 1・3 は掘り方の一部を誤認した可能性が高い。
遺物（第 204・260・266・272 図、写真図版 189・233・237・240）
出土重量は、古代土器 5,508 g、土製品 6 点 80.2 g、石器 3 点 224.7 g、金属製品 2 点 42.0 g、縄文土器 8.0 g である。うち、古代土器 9 点（a47～55）、土製品 6 点（c23～28）、金属製品 2 点（e6～7）、石器 1 点（d46）を掲載した。

SI08 住居跡

遺構（第 26 図、写真図版 15）
［位置・重複関係］3 区-2、ⅡJ5a グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体に耕作の攪乱が及んでいる。［規模・形状］東壁が攪乱を受けており正確な規模、形状は不明だが、全長が判明する西辺は 4.0m で、住居跡全体も約 4 m 四方の隅丸方形と捉えられる。床面積は残存範囲で約 14 m^2。深さは最大 34 cm。［堆積土］暗褐色～黒褐色シルトを主体に堆積し、住居中央部床面直上には炭化物が多量に堆積する。焼土は住居壁際沿いに分布する。［壁・床面］東西壁は攪乱のため正確な状態は不明。床面は全体的に表面が硬く締まり、若干の凸凹が見られる。［カマド］東壁南寄りに設置される。煙道の一部は攪乱を受ける。また煙出し先端は調査区外に位置し記録していない。燃焼部の残存状況は比較的良好で、袖の芯材礫を抜き取った痕跡が確認される。焼成面の被熱は強く、上部には硬化還元部分が生じている。煙道上部は攪乱のため天井部が残存しないが、堆積土 4 層に焼成を受けた天井部分の剥落ブロックが集中していることから、刳り抜き式であったと考えられる。［柱穴・土坑］10 基検出した。Pit 1 はカマド右脇に設置された貯蔵穴。北壁際の大型の Pit 5 も貯蔵穴の可能性が高い。Pit 5 堆積土下部には焼土ブロックが多量に含まれる。［周溝］住居北西から南西の壁際にかけて検出した。いずれの地点も比較的浅いものである。
遺物（第 204 図、写真図版 190）

出土重量は、古代土器 4,604 g、鉄滓 1 点 26.4 g、縄文土器 304 g である。うち、古代土器 2 点（a56～57）を掲載した。

SI09 住居跡

遺構（第 27 図、写真図版 16）

［位置・重複関係］3 区-2、ⅢI1k グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南西隅で SX20 を切る。［規模・形状］北辺 4.7m、東辺 4.3m、南辺 4.3m、西辺 4.4m の方形を呈する。床面積は 17.3 m^2。深さは最大 44 cm。［堆積土］4 層に分層される。1 層は暗褐色、2～4 層は黒褐色シルトである。中央が窪む自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央の若干東寄りに設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、内側が顕著な焼成を受けた袖が伸び、芯材の礫が残る。燃焼部奥側左寄りに支脚として土師器甕底部が倒立状態で埋め込まれ、その右には支脚抜き取り痕と考えられる小径のピットがある。横並び二つ掛けの可能性が高い。煙道は刳り貫き式で、燃焼部から煙出しに向かって緩やかに下る。煙道天井、及び煙出し壁面は被熱変色する。［柱穴・土坑］Pit 1～5 の 5 基がある。Pit 1・2・3 は規模、位置から主柱穴を構成すると考えられるが、北東部ではこれに対応する柱穴は検出されていない。［遺物出土状況］床面の西半に礫が集中する。またカマド右の壁際から鉄製品が、南東隅から甕型土器口縁が出土している。

遺物（第 205・272 図、写真図版 190・240）

出土重量は、古代土器 6,773 g、石器 1 点 85.8 g、金属製品 1 点 34.5 g、鉄滓 1 点 0.6g、縄文土器 176 g である。うち、古代土器 6 点（a58～63）、金属製品 1 点（e8）を掲載した。

SI10 住居跡

遺構（第 28 図、写真図版 17）

［位置・重複関係］3 区-2、ⅡI20k グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.7m、東辺 4.2m、南辺 4.3m、西辺 4.2m の方形を呈する。床面積は 16.0 m^2。深さは最大 45 cm。［堆積土］4 層に分層した。黒褐色～暗褐色シルト主体である。1・2 層の層界には部分的に炭化物層が形成される。また 1・2 層には礫の混入が多い。全体には中央が窪む自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁のほぼ中央に設置される。燃焼部の残存状況は非常に良好で、両袖の基部には扁平な亜円礫を立てて芯材とし、右袖の先端には倒立した土師器甕が設置される。燃焼部には中～小型土師器甕が 2 個体横並びで出土した。使用当時の原位置を留めていると考えられる。左側土器の下位には土師器底部破片を倒立で埋め込んだ支脚がある。煙道は刳り抜き式でほぼ水平に煙出しに伸びる。煙出し上部からは土師器甕の大破片が出土しており、カマド廃絶後に故意に入れられた可能性が高い。［柱穴］Pit 1～5 の 5 基がある。このうち各コーナー付近に位置する Pit 1～4 が主柱穴を構成すると考えられる。北半の Pit 1・4 は深さが約 40 cm であるが、南半の Pit 2・3 は径・深さの規模が小さい。［遺物出土状況］南壁寄り床面、南西隅脇床面に土師器がまとまって出土する。中央部では炭化材が集中する。材の方向は概ね南北を向く。

遺物（第 205・206・262 図、写真図版 190・191・235）

出土重量は、古代土器 23,394 g、石器 2 点 4.4 g、縄文土器 157 g である。うち、古代土器 22 点（a64～85）、石器 1 点（d1）を掲載した。

SI11 住居跡

遺構（第 29・30 図、写真図版 18）

［位置・重複関係］3 区-2、ⅡI2p グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。検出当初は全体プランを把握できず、断面観察用ベルトが北西部に偏る状態の設置となっている。中央部で床面を確認した後、掘り広げての全体検出とした。東側で SX74、P102 に切られ、SX37、SX38 を切る。［規模・形状］北辺 7.2 m、東辺 6.4 m、南辺 6.7 m、西辺 6.3 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 37.7 m^2。深さは最大 79 cm。［堆積土］壁際を除くと大別 3 層に分層される。上部 1 層黒褐色シルトは均質で、層相は基本層序Ⅲ層に近似する。中間の 2 層黒褐色シルトは 1 層よりやや暗色、遺物の含有が多い。2・4 層界には部分的に褐色砂大ブロックの 3 層が介在する。床面を覆う 4 層は均質な黒褐色シルトである。四周の壁際堆積土は東西で異なる状況が観察される。［壁・床面］壁面の下部は直立気味に立ち上がり、上部は外傾する。床面はほぼ平坦で中央が硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は不良で両袖は確認されず、円形の焼成面を検出した。被熱は強く中央に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し側壁は熱変色が顕著である。内部からは円礫が多数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～11 の 11 基がある。このうち各コーナー付近に位置する Pit 3～6 が主柱穴を構成する。それぞれ断面で柱痕跡が観察される他、東側の Pit 3・5 底面には楕円形の柱痕が見られる。カマド右脇の Pit 10、北東コーナーの Pit 1 は貯蔵穴と考えられる。Pit 10 上部には焼土ブロックが集中する。［周溝］幅 20 cm 前後で北東部を除き周溝が巡る。［掘り方］掘り方底面のうち、主に壁寄りの部分に半円形の掘削痕が観察される。複数列が整列する状態の箇所がある。

遺物（第 207・264・271 図、写真図版 191・192・236・239）

出土重量は、古代土器 16,402 g、焼成粘土塊 1 点 18.9 g、石器・石製品 23 点 635.2 g、金属製品 1 点 8.0 g、鉄滓 4 点 705.3 g、縄文土器 176 g である。うち、古代土器 15 点（a86～100）、石器・石製品 2 点（d23・d67）を掲載した。

SI12 住居跡

遺構（第 30・31 図、写真図版 19）

［位置・重複関係］3 区-2、ⅡI3r グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で焼土と炭化物が集中するプランとして検出した。SD02 に切られ、SX15 を切る。［規模・形状］北辺 4.9 m、東辺 4.9 m、南辺 4.6 m、西辺 4.3 m の方形を呈する。床面積は約 19 m^2、深さは最大 57 cm。［堆積土］下部は黒褐色シルト主体で壁際から埋没し、中位 3 層はラミナが発達する細砂と粘土層の互層状堆積が見られる洪水堆積物である。［壁・床面］壁面は緩やかに外へ開きながら立ち上がる。床面は壁際でやや窪み、中央部の Pit 2・4・5・8 に囲まれた部分は若干凹凸があり硬く締まる。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好である。袖は褐色シルト層で構築され、内側は被熱で赤変する。煙道は刳り抜き式で燃焼部から一旦上がった後に再び下がる勾配である。煙出し内部には拳大の礫が混入する。［柱穴・土坑］Pit 1～10 の 10 基がある。このうち Pit 2～5・8 では柱痕跡が確認され、4 本で主柱穴を構成する。Pit 3 は Pit 4 から建て替えたものか。カマド両脇の Pit 1・6・7 はいずれも貯蔵穴の可能性がある。

遺物（第 207・272 図、写真図版 192・240）

出土重量は、古代土器 6,932 g、焼成粘土塊 1 点 13.3 g、石器 2 点 67.8 g、金属製品 1 点 15.2 g、縄文土器 132 g である。うち、古代土器 7 点（a101～107）、金属製品 1 点（e9）を掲載した。

SI13 住居跡

遺構（第 32 図、写真図版 20）

［位置・重複関係］3 区−2 南端、ⅡI20h グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。東側が調査区外に位置する。調査工程の関係から、北半と南半で分割して精査を行った。［規模・形状］全長が判明する西辺は 3.6 m で、全体は約 3.5 m 四方程度の方形とみられる。床面積は 10 m^2 強。深さは最大 19 cm。［堆積土］均質な暗褐色シルト 1 層が主体で、北壁際に焼土粒の含有が観察される。［壁・床面］壁面はわずかな立ち上がりのみ確認している。床面を検出した南半では概ね平坦である。北半では床面の認識に手違いがあり、正確な床面の状態を把握していない。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、楕円形の焼成面を確認した。煙道は水平に伸びる溝状の浅い掘り込み状態で検出され、煙出し底面が一段深くなる。［柱穴・土坑］Pit 1〜5 の 5 基がある。四隅に位置する Pit 1〜4 は主柱穴の可能性を持つが、いずれも浅いことから不確実である。［遺物出土状況］中央部床面直上から炭化材が出土する。板状の材が東西方向に伸びる状態である。

遺物（第 208・260 図、写真図版 192・233）

出土重量は、古代土器 3,284 g、土製品 1 点 8.9 g、石器 1 点 2.4 g、縄文土器 118 g である。うち、古代土器 5 点（a108〜112）、土製品 1 点（c17）を掲載した。

SI14 住居跡

遺構（第 32 図、写真図版 21）

［位置・重複関係］3 区−2、ⅡI2m グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 2.5 m、東辺 2.7 m、南辺 2.6 m、西辺 2.5 m の若干歪な方形を呈する小型の住居跡である。床面積は 5.8 m^2。深さは最大 39 cm。［堆積土］黒褐色シルトの堆積土で、上半には褐色土ブロックが斑状に含まれる。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況はやや不良で、両袖の基部が短く残る状態となっている。焼成面は壁面よりも奥側に偏り、煙道入口側壁も強い被熱を受ける。焼成面中央やや左寄りに支脚の円礫が埋め込まれている。煙道は刳り抜き式で煙出しに向かって緩い傾斜で短く伸びる。煙道天井面には被熱痕跡が見られる。

遺物

出土重量は、古代土器 388 g、縄文土器 15 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI15 住居跡

遺構（第 33・34 図、写真図版 22）

［位置・重複関係］3 区−2、ⅢI1n グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。調査工程の関係により、西壁際のみ分割して後からの精査を行っている。西側で SI34 に切られる。［規模・形状］北辺 7.4 m、東辺 6.3 m、南辺 6.9 m、西辺 6.6 m で東西にやや長い隅丸方形を呈する。床面積は 41.2 m^2。深さは最大 71 cm。［堆積土］主体は水平に堆積する 1〜4 層である。中位 2 層黒褐色シルトの上部には灰白色テフラブロックが含まれる。下半の 3 層黒色シルトには焼土ブロック、炭化物が集中する。［壁・床面］壁面の下部は直立気味に立ち上がり、上部は外傾する。床面はほぼ平坦で中央が硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は非常に良好である。両袖は小型の礫を芯材に埋め込んだ砂質シルト積み上げの袖が伸び、先端には長さ 30 cm を越す大型の楕円形の礫が縦に設置される。燃焼部はやや手前側で円形に強く被熱する。煙道は刳り抜き式で煙出しに向かってほ

ぼ水平に伸びる。煙道側壁の手前側では両壁面に 10 cm 前後の亜円礫を貼り付けた構造が見られる。礫は隙間なく 4〜5 段にわたって積み上げられ、石垣状を呈する。煙出し底部は煙道より一段低い。［柱穴・土坑］壁際を中心に Pit 1〜31 の合計 31 基を検出した。このうち位置、深さから Pit 2・7・12・15 が主柱穴を構成する可能性が高い。開口部規模の大きい Pit 8・17・31 等は貯蔵穴と考えられるが確定はできない。これらの他、東壁際を除く 3 方の壁際に小型のピットが集中する。［周溝］東壁際に幅・深さ 20 cm 前後の周溝が巡る。［遺物出土状況］中央部の床面から上位 10 cm 程度の間に炭化材が多数残存する。手違いにより図化していないが、方向は不規則で板状の材が多い。北壁際カマド両側では土師器甕・坏類の出土が集中する。

遺物（第 208・209・266・272 図、写真図版 192・193・237・240）

出土重量は、古代土器 25,365 g、石器 2 点 1003.9 g、金属製品 1 点 7.1 g、鉄滓 6 点 278.9 g、羽口 1 点 15.2 g、縄文土器 221 g である。うち、古代土器 19 点（a113〜131）、金属製品 1 点（e10）、石器 2 点（d39・d47）を掲載した。

SI16 住居跡

遺構（第 34・35 図、写真図版 23）

［位置・重複関係］3 区−2、ⅡI2l グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。北側の 1 号カマド煙道部を SD06 に切られる。［規模・形状］北辺 4.4 m、東辺 4.1 m、南辺 4.1 m、西辺 3.9 m の隅丸方形を呈する。床面積は 14.9 m^2。深さは最大 54 cm。［堆積土］概ね上下の 2 層に分層される。層界に介在する粗砂ブロックは、洪水堆積物の可能性が高い。［壁・床面］壁面は直線的に外傾して立ち上がる。床面は平坦で中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央と東壁中央やや北寄りの 2 基が設置される。燃焼部の残存状況は両者とも不良であり、残存状態からの新旧判断はできない。北壁側を 1 号カマド、東壁側を 2 号カマドと称する。1 号カマドは円形の焼成面と刳り抜き式の煙道を持つ。煙道底面は一定傾斜で煙出しに向かって伸び、天井面には被熱痕跡が著しい。煙出し下部は奥側に抉れる状態である。2 号カマドも同様に円形焼成面と煙道が確認される。焼成面奥側からは支脚と考えられる礫が出土した。煙道天井は残存しないが深さから見て刳り抜き式の可能性が高い。［柱穴・土坑］Pit 1〜7 の 7 基が散在する。北西コーナーの Pit 6 は貯蔵穴と考えられる。その他の Pit 1〜5・7 はいずれも浅いもので、主柱穴は抽出できない。

遺物（第 209・260・272 図、写真図版 193・233・240）

出土重量は、古代土器 14,537 g、土製品 1 点 1.5 g、焼成粘土塊 1 点 7.3 g、金属製品 1 点 3.3 g、鉄滓 3 点 211.5 g、縄文土器 129 g である。うち、古代土器 12 点（a132〜143）、土製品 1 点（c15）、金属製品 1 点（e11）を掲載した。

SI17 住居跡

遺構（第 35 図、写真図版 24）

［位置・重複関係］3 区−2、ⅡI1r グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南側を SD06 に切られる。［規模・形状］北辺 3.5 m、東辺 3.2 m、南辺 3.1 m、西辺 3.2 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 8.9 m^2。深さは最大 61 cm。［堆積土］主体は上部 1 層の暗褐色砂質シルト、下部 3 層の黒褐色シルトの 2 層に分層される。層界に局所的に炭化物が集中する 2 層が介在する。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面は平坦で中央がやや硬化する。［カマド］東壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、暗褐色シルト積み上げの両袖先端に長さ 40 cm 近い大型の楕円

形礫がやや内傾気味で縦に埋め込まれる。燃焼部奥側ではやや小振りの芯材礫が両側に残る。煙道は刳り抜き式で煙出しに向かって緩い傾斜で伸びる。煙道手前側の内部には崩落した天井部がブロック状に堆積する。煙出し内部からは円礫が多数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～3 を検出した。いずれも浅く、柱穴とは考えにくい。［遺物出土状況］床面から 10 cm ほど上位で炭化材が集中する。東西方向に伸びる板状の材が多い。また炭化材に隣接して焼土ブロックも散見される。

遺物（第 209・271・272 図、写真図版 193・194・239・240）

出土重量は、古代土器 3,813 g、石製品 1 点 6.4 g、金属製品 1 点 15.4 g、縄文土器 68 g である。うち、古代土器 9 点（a144～152）、金属製品 1 点（e12）、石製品 1 点（d70）を掲載した。

SI18 住居跡

遺構（第 36 図、写真図版 25）

［位置・重複関係］3 区-2 中央、ⅢI12r グリッド付近に位置する。住居プランの半分が消失しているのは、当初の検出作業段階で遺構プランの確認ができず掘りすぎたためである。カマドに伴う焼土と煙道を確認し住居跡の認識に至った。［規模・形状］残存部からは方形のプランと推測される。西辺は 3.6 m の規模である。［堆積土］土層記録を欠くが、概ね黒褐色シルト主体である。［壁・床面］壁の形状は不明、床面は残存範囲ではほぼ平坦である。［カマド］西壁中央やや北寄りに設置される。燃焼部は焼成面のみの確認。中央部上面は硬化する。煙道は緩い傾斜で煙出しに下る。天井部からの剥落ブロックが含まれるため、刳り抜き式と推測される。煙出し壁面は被熱により赤変する。

遺物

出土重量は、古代土器 273 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI19 住居跡

遺構（第 36 図、写真図版 25・26）

［位置・重複関係］3 区-2、ⅢI3q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で暗褐色土の方形プランを確認した。南東部で SI20、SK30 を切る。［規模・形状］方形基調で、規模は北辺 3.4 m、東辺、南辺、西辺共に 3.5 m、床面積は 10.3 m^2。深さは最大 42 cm。［堆積土］黒褐色シルトと暗褐色シルトが概ね交互に堆積する。2 層は水成堆積によるラミナが局所的に発達し、3・4・5 層にも褐色砂のラミナ状ブロックが含まれる。洪水堆積層を主とした自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は南北は緩やかに開きながら、東西はほぼ直立しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦だが中央に若干の凹凸が見られる。［カマド］東壁中央のやや北寄りに設置される。燃焼部の残存状態は良好で、両袖先端には芯材礫が横転状態で出土した。左袖の礫は熱変色を受ける。燃焼部の焼土上面は硬化還元し、この直上には天井部の崩落土が堆積する。煙道は刳り貫き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって下る。煙道内部断面では天井が大きく崩落している状況が観察される。［遺物出土状況］カマド右脇の床面では複数の土師器が集中的に出土している。器形復元可能な個体が多く、使用段階での原位置に近い状態の可能性が高い。

遺物（第 210 図、写真図版 194）

出土重量は、古代土器 10,390 g、縄文土器 56 g である。うち、古代土器 7 点（a153～159）を掲載した。

SI20 住居跡

遺構（第 37 図、写真図版 27）

［位置・重複関係］3区-2、ⅢI3q グリッド付近に位置する。SI19、SB01、SK142、SN07 に切られる。当初、Ⅲ層上面では明確なプランを確認できなかったため、調査区に沿ってトレンチを設定し、東壁の立ち上がりを確認した。また、重複する柱穴状小ピットのいくつかに本遺構の床面を確認したので、遺構の中央から外側に向かって掘り広げながらその他の壁面を確定し、精査を行った。［規模・形状］やや不整な方形で、規模は北辺 4.1 m、東辺 4.6 m、南辺 4.3 m、西辺 4.2 m、床面積は 15.5 m^2。深さは最大 55 cm。［堆積土］5層に分層される。黒褐色シルト主体で、堆積土中位から下位にかけては焼土粒を含む。［壁・床面］壁は床面からやや外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。北西部では床面に炭化物が分布する。また北東部と南壁際では焼土ブロックが検出された。［カマド］南壁の東寄りに設置される。燃焼部の残存状況は良好で、両袖はそれぞれ3個の亜円礫を芯材としてやや内傾させ、外側に暗褐色シルトを貼り付けて構築されている。焼成面奥側の左寄りには拳大の礫を埋め込み、上面に土師器甕底部を被せた支脚が残る。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって長く下り勾配で伸びる。煙出し内部には多数の礫が充填されていたが、取り上げてからの断面記録となった。煙出しの深さは 90 cm 以上と深く、底面からは土師器大破片が出土する。［柱穴・土坑］Pit 1～7 の7基がある。このうち北東隅の Pit 2、北西の Pit 3、南西の Pit 4・5 が主柱穴を構成するものと推定されるが、これらに対応する南東には確認されていない。カマド左脇にある Pit 7 が貯蔵穴と考えられる。［周溝］西壁際の一部に全長 150 cm の溝を検出した。また Pit 3 から南北に間仕切り的な溝が伸びる。

遺物（第 210・262・264・272 図、写真図版 194・195・235・236・240・244）

出土重量は、古代土器 6,842 g、石器3点 1,785 g、金属製品1点 125.2 g、鉄滓2点 935.4 g、羽口1点 130.7 g、縄文土器 92 g である。うち、古代土器9点（a160～168）、金属製品1点（e13）、羽 口1点（l1）、石器2点（d8・d24）を掲載した。

SI21 住居跡

遺構（第 38・39 図、写真図版 28）

［位置］2区-3、ⅡI19e グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 6.5 m、東辺 6.2 m、南辺 6.4 m、西辺 6.8 m の方形を呈し、四隅はほぼ直角に曲がる。床面積は 41.4 m^2。深さは最大で 63 cm。［堆積土］上半黒褐色土1層と下半にぶい黄褐色土2層に大別される。中央が窪む自然堆積の様相である。1層には To-a の可能性が高いテフラ小ブロックが含まれる。床面直上は局所的な人為堆積と見られ、炭化物、焼土ブロックが分布する。［壁・床面］壁面は直線的に外傾する。床面はほぼ平坦で、4基の主柱穴に囲まれた中央部が硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部両袖は細く伸び、芯材礫の一部が残存する。焼成面の被熱は強い。煙道は刳り抜き式で、天井部、煙出し壁面が強く被熱する。煙出しには礫が充填され合計 66 個に達する。［柱穴・土坑］Pit 1～16 の 16 基がある。配置から Pit 1・4・14・16 の4基が主柱穴を構成するものと考えられるが、このうち南半の Pit 14・16 は北半の Pit 1・4 に比較し浅い。Pit 1・4 の底面からは根固め石とみられる扁平礫が出土した。これらの他に、Pit 1・14 の延長線上南壁との接点に Pit 2、Pit 4・16 の延長線上に Pit 3 が位置し、これらも上部構造に関わる柱穴と考えられる。南壁中央には Pit 6・10 が並列する。2基1組で出入り口施設に関連する可能性がある。カマド右脇には貯蔵穴 Pit 8 があり、土師器甕、須恵器甕が出土する。南東隅にある Pit 15、南壁際の Pit 9、北西隅の Pit 5 も同様に貯蔵穴に類するものかと考えられる。［周溝］壁際をほぼ全周する。幅 15 cm 前後である。［焼土］北東部に焼土1、南東部に焼土2がある。両者とも床面上に薄く広がる炭化物層の上位に乗っており、廃絶後に形成さ

れた焼土ブロックの可能性が強い。

遺物（第 211・257・262・264・272 図、写真図版 195・196・231・235・236・240）

出土重量は古代土器 25,355 g、焼成粘土塊 1 点 4.6 g、石器 11 点 20,282.8 g、金属製品 2 点 47.3 g、縄文土器 846 g である。うち、古代土器 28 点（a169～196）、石器・石製品 2 点（d8、d24）、金属製品 2 点（e14～15）、縄文土器 1 点（b1）を掲載した。

SI22 住居跡

遺構（第 40 図、写真図版 29）

［位置・重複関係］2 区-3、ⅡI18c グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北東辺 4.9 m、南東辺 3.7 m、南西辺 4.6 m、北西辺 3.7 m の隅丸長方形を呈する。床面積は 15.6 m^2。深さは最大 32 cm。［堆積土］焼土ブロックを含む暗褐色土の 1 層単層と把握した。自然堆積と考えられる。［壁・床面］壁面は上部急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央が若干硬化する。［カマド］南東壁の東コーナー付近に設置される。両袖には芯材の亜円礫が残存する。燃焼部奥側中央に支脚として土師器坏が正位で置かれる。煙道の残存は浅く天井の有無は明確ではないが、刳り抜き式の可能性が高い。［柱穴・土坑］Pit 1～9 の 9 基がある。配置から Pit 3・4・7・8 が主柱穴を構成すると見られる。カマド右脇には貯蔵穴 Pit 6 があり、底面付近から土師器坏が出土した。

遺物（第 212 図、写真図版 196）

出土重量は古代土器 7,109 g、石器 3 点 11.1 g、鉄滓 1 点 161.8 g、縄文土器 382 g である。うち、古代土器 9 点（a197～205）を掲載した。

SI23 住居跡

遺構（第 41・42 図、写真図版 30）

［位置・重複関係］2 区-4、ⅡI17d グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］規模は北辺 8.0 m、東辺 7.9 m、南辺 7.7 m、西辺 7.7 m で、若干歪な方形を呈する。床面積は 57.3 m^2 と大型で、深さは最大 53 cm。［堆積土］8 層に分層される。堆積土の主体となる 1～3 層はにぶい黄褐色シルト主体で構成され、全体に炭化物、焼土を多量に含む。［壁・床面］壁面はいずれも急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦で硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。残存状況は比較的不良で左袖の基部のみが確認できる。右袖の位置には芯材礫の脱落痕がある。焼成面は強く被熱し上部が硬化する。煙道はほぼ水平に伸び、煙出し底部が一段下がる。現況は溝状の掘り込みとして検出され、天井の有無は不明だが刳り抜き式の可能性が高いと考えられる。［柱穴・土坑］Pit 1～34 を検出した。このうち四隅に位置する Pit 2・8・10・33 の 4 基が主柱穴を構成すると考えられる。Pit 8・10 内部では下部から亜角礫が出土した。柱根周囲に設置されていたものか、埋没時に落ち込んだものか不明瞭である。壁際には Pit 18・21・22・23・24・29・30・31・32 が 100～150 cm 前後の間隔で並ぶ。いずれも住居壁面を抉る構造が確認された。カマド右脇に位置する Pit 1・16 は炭化物を含む浅い貯蔵穴。［周溝］カマド周辺と南壁中央を除き、ほぼ全周する周溝がある。黒褐色土が堆積し炭化物を含む。［焼土］床面中央南寄りに 2 箇所の焼成面がある。焼土 2 はカマド燃焼部と同等の強い被熱を受けており、上面に硬化還元部分が形成される。［遺物出土状況］南壁際床面では敷物状に薄く広がる炭化物の集中部分がある。材の方向は不明瞭で、カヤのように一定方向に揃う状態ではない。この他、南西コーナーの壁際の周溝堆積土中からは、生粘土塊が検出された。

遺物（第 212・213・260・267・273 図、写真図版 196・197・233・238・240・244）

出土重量は、古代土器 41,576 g、土製品 1 点 1.8 g、焼成粘土塊 1 点 4.7 g、石器 8 点 1221.8 g、金属製品 6 点 106.2 g、鉄滓 2 点 4.7 g、羽口 2 点 104.7 g、縄文土器 898 g である。うち、古代土器 28 点（a206～233）、土製品 1 点（c12）、金属製品 6 点（e16～21）、羽口 1 点（l2）、石器 1 点（d49）を掲載した。

SI24 住居跡

遺構（第 43・44 図、写真図版 31）

［位置・重複関係］2 区-2、ⅡH9j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北側の一部を SD07 に切られる。［規模・形状］北辺 6.7 m、東辺 6.8 m、南辺 7.0 m、西辺 6.1 m の隅丸方形を呈し、床面積は約 41 m^2。深さは最大 37 cm。なお、後述する 2 号カマドと溝 4 の位置関係から南壁・西壁の拡張がなされていると捉えられる。拡張前の規模は東西 4.8 m、南北 5.2 m 前後のやや歪んだ方形と考えられる。［堆積土］暗褐色シルトの 1 層が主体となる。下部の 2～5 層は焼土ブロック・炭化物を多く含み、3 層は強い被熱を受けて橙色を呈する。特に南西側に集中する。［壁・床面］壁は全周ともほぼ直立して立ち上がる。床面は全体に平坦で中央部が硬化する。［カマド］北壁に 2 基設置される。残存状況から中央に位置する 1 号カマドが新しく、東寄りの 2 号カマドが古いと捉えられる。1 号カマドは燃焼部両袖内に芯材礫が残存し、焼成面上部は硬化する。煙道は刳り抜き式で、上部を SD07 に破壊される。煙出し壁面に強い被熱痕が残る。2 号カマドは東壁と溝 4 の中央に位置しており、拡張前の北壁中央に設置されたと見ることが可能である。燃焼部は焼成面のみ残存する。煙道は刳り抜き式で 1 号カマドよりやや短く緩い傾斜で伸びる。こちらも煙出し壁面の被熱痕跡が強く残る。［柱穴・土坑］8 基検出した。配置から Pit 1・2・3・8 の 4 基が新期段階の主柱穴と捉えられる。Pit 4 は拡張前の南東側主柱穴か。2 号カマド右脇の Pit 6 は旧期段階の貯蔵穴と考えられる。［周溝］東西壁際に溝 1・3、南壁際に溝 2 がある。これに加えて西壁に平行して約 1.5 m 内側に溝 4 がある。溝 4 の南端は Pit 2 手前で屈曲気味となっており、東壁際の溝 3 と揃う。堆積土は他と同様である。［遺物出土状況］北東側の堆積土上～下位にかけて拳大程の礫が大量に出土している。

遺物（第 213 図、写真図版 197）

出土重量は、古代土器 6,948 g、焼成粘土塊 8 点 58.3 g、縄文土器 61 g である。うち、古代土器 5 点（a234～238）を掲載した。

SI25 住居跡

遺構（第 45・46 図、写真図版 32）

［位置・重複関係］2 区-2、ⅡH7i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南西コーナー部分で SK53 を切る。［規模・形状］北辺 7.4 m、東辺 7.5 m、南辺 7.3 m、西辺 7.6 m で、各辺がやや胴張り形の方形を呈する。床面積は 48.4 m^2。深さは最大 68 cm。［堆積土］暗褐色砂質シルトを基調としており、含有物等から 9 層に分層される。床面全体を一定の厚さで覆う 9 層は比較的明色な褐色砂質シルトで、掘り方堆積土の 10 層暗褐色砂質シルトとの差が小さい。［壁・床面］壁面は一定傾斜で立ち上がり、一部では上部が直立する。床面は概ね平坦だが中央部がやや窪む。特に硬化部分は生じていない。［カマド］北壁中央に設置される。残存状況は非常に良好で、両袖が長く伸びる。袖内部には芯材として土師器長胴甕が倒立状態で 2 個体ずつ埋め込まれる。手前側は底部欠損個体（P③・④）、奥側は完形個体（P⑤・⑥）で、意図的に左右対称の芯材とした可能性が高い。焼成面奥側には支脚として土師器甕口縁部（P②）が倒立状態で設置される。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって一定傾斜で長く伸びる。煙出し下部は奥側が大きく抉れた状態となっている。また煙出し内部からは礫

が多数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～4 がある。4 基とも各コーナーから等距離にあり、比較的整った主柱穴配置となっている。柱穴の径、深さとも大きい数値である。Pit 1 上部には炭化物が集中し落ち込んだ状態で出土した。

遺物（第 213・214・263・273 図、写真図版 197・198・235・240）

出土重量は、古代土器 21,715 g、石器 3 点 438.4 g、金属製品 1 点 0.5 g、縄文土器 157 g である。うち、古代土器 21 点（a239～259）、金属製品 1 点（e22）、石器 1 点（d15）を掲載した。

SI26 住居跡

遺構（第 47 図、写真図版 33）

［位置・重複関係］2 区-2、ⅡH7n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西側半分が調査区外に位置する。［規模・形状］全長の判明する東辺は 4.6 m で、全体では 4.5 m 四方程の方形を呈すると考えられる。深さは最大 38 cm。［堆積土］5 層に分層される。主体は焼土粒・炭化物を含む 2 層黒褐色シルトで、南北壁際、東側床面直上には含有物の少ない 3・4 層が堆積する。［壁・床面］壁面は直立気味の立ち上がり。床面は概ね平坦だが、東壁際では一段落ち込む状態となっている。［カマド］北壁中央部に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、暗褐色砂質シルトの積み上げによる両袖が短く伸び、楕円形の焼成面が確認される。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって一定傾斜で伸びる。煙道天井部には被熱痕跡が残る。［柱穴・土坑］東壁両端にある楕円形の Pit 1・2 が貯蔵穴と考えられる。Pit 2 堆積土には焼土ブロックが含まれる。

遺物（第 215 図、写真図版 198）

出土重量は、古代土器 9,818 g、焼成粘土塊 1 点 9.6 g、石器 1 点 409.8 g、縄文土器 79 g である。うち、古代土器 5 点（a260～264）を掲載した。

SI27 住居跡

遺構（第 48 図、写真図版 34）

［位置・重複関係］2 区-2、ⅡH9m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 2.4 m、東辺 1.8 m、南辺 2.6 m、西辺 2.2 m の小型の長方形を呈する。床面積は 4.0 m^2。深さは最大 59 cm。［堆積土］暗褐色シルトを主体としているが、西寄りには 3 面の炭化物集中層が堆積する。竪穴住居埋没後の窪地を利用して、焼成遺構に転用した可能性が考えられるが、その場合のプランは把握できていない。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面は平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部は残存せず壁面の煙道入口付近に被熱部分が確認されたのみである。煙道底面は床面よりも 50 cm 近く高い位置にあることから、竪穴の掘り下げを伴う建て替えが行われた可能性がある。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で伸びる。煙道天井は被熱痕跡が著しい。煙出しは煙道より深く掘り込まれる。［柱穴・土坑］Pit 1～5 が床面に散在する。いずれも浅く柱穴とは考えにくい。

遺物（第 215・273 図、写真図版 198・199・240）

出土重量は、古代土器 11,186 g、焼成粘土塊 1 点 38.3 g、石器 2 点 35.4 g、金属製品 5 点 29.4 g、縄文土器 399 g である。うち、古代土器 19 点（a265～283）、金属製品 5 点（e23～27）を掲載した。

SI28 住居跡

遺構（第 48・49 図、写真図版 35）

［位置・重複関係］2 区-2、ⅡH11o グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。東壁の一部とカ

マド煙道がSD07に切られる。［規模・形状］規模は北辺3.4m、西辺3.3m。南辺は3.5m程度と推測される。北壁の東半が張り出す歪な方形、床面積は残存範囲で10.9 m^2、深さは最大27cm。［堆積土］ほぼ全体が2層暗褐色シルトで占められ、壁際下部に焼土粒を含む3層が堆積する。［壁・床面］残存する3方の壁面はほぼ直立して立ち上がる。床面は平坦である。北壁東半の張り出し部から南西隅にかけての床面から土器、礫が出土した。［カマド］東壁の北寄りに設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、南側袖先端には芯材礫が残る。燃焼部奥側やや右寄りに支脚として亜円礫が1個埋め込まれている。煙道は前述のように大半をSD07に破壊されているが、残存部には天井部分が観察されることから、刳り抜き式と判断される。［柱穴・土坑］Pit 1～4の4基を検出した。カマド右脇のPit 4は貯蔵穴と考えられるが、内側にある同規模のPit 2は浅く、床面の窪みに過ぎない可能性もある。北壁際のPit 3堆積土上部には焼土ブロック、炭化物が集中する。

遺物（第215・257図、写真図版199・231）

出土重量は、古代土器3,990g、石器1点262.3g、縄文土器205gである。うち、古代土器3点（a284～286）、縄文土器1点（b2）を掲載した。

SI29住居跡

遺構（第49図、写真図版36）

［位置・重複関係］2区-2、ⅡH8fグリッド付近に位置する。Ⅴ層中で検出した。［規模・形状］北辺2.4m、東辺2.3m、南辺2.1m、西辺2.4mの小型の方形を呈する。床面積は4.7 m^2。深さは最大11cm。［堆積土］検出段階で既に床面が露出した状態であったため、堆積土は確認していない。［壁・床面］壁面は下部のわずかな立ち上がりのみ残存する。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央付近に設置される。残存状況は不良で、両袖の低い高まりと焼成面、煙道先端付近のみの確認である。煙道堆積土中には焼土粒が多量に含まれる。［柱穴・土坑］Pit 1～3がある。カマド脇のPit 2は貯蔵穴の可能性がある。

遺物

出土重量は、古代土器36gである。図示可能な遺物は出土していない。

SI30住居跡

遺構（第49図、写真図版36）

［位置・重複関係］2区-2中央、ⅡH10mグリッド付近に位置し、東壁側をSD07に切られる。［規模・形状］全長の判明する西辺は3.4m、残る3辺も同程度と推測される。北壁の東寄りがカーブしやや歪な方形を呈する。床面積は推定8 m^2程度、深さは最大18cm。［堆積土］上下2層に分層された。上半は炭化物と焼土粒を含む褐色シルト、下半は暗褐色シルトである。［壁・床面］壁面の残存は低く直線的に立ち上がる。床面は概ね平坦である。［カマド］東壁北寄りに設置される。燃焼部の袖は基部が残り、南側袖には芯材礫が並ぶ。礫内側は被熱により赤変する。焼土は厚く形成され上部は硬化還元する。煙道は全体がSD07に破壊されており、構造は不明である。［柱穴］東壁際にあたる位置の、SD07底面にPit 1がある。堆積土は単層で炭化物が少量含まれる。

遺物（第216図、写真図版199）

出土重量は、古代土器388g、縄文土器4gである。うち、古代土器1点（a287）を掲載した。

SI31 住居跡

遺構（第 50 図、写真図版 37）

［位置・重複関係］3 区-3、ⅢI1r グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。調査工程の関係から東半を先に精査しているが、遺構の存在を把握できず削平してしまっており、検出したのは西半である。SI32 と重複しており同時に精査を行った結果、南側で SI32 を切ることを確認した。また中央を現代の攪乱溝が縦断する。［規模・形状］全長が判明する西辺は 3.5 m で、全体では 3.5 m 前後四方の方形と考えられる。深さは最大 17 cm。［堆積土］上部の暗褐色砂質シルト 1 層と下部の炭化物層を挟む褐色砂質シルト 2・3 層に区分される。SI32 堆積土との違いは小さいが、焼土粒の有無を判断基準とした。［壁・床面］壁面は下部の立ち上がり部分のみ確認している。床面は概ね平坦である。SI32 堆積土中の床面では部分的に薄く貼床の痕跡が確認できる。［カマド］中央部に焼土 1 がある。位置から見て東壁に設置されたカマド燃焼部の可能性があるが、断定はできない。焼成面は皿状に窪み、炭化物が集中する黒色シルトが上部に堆積する。［柱穴・土坑］南西隅に Pit 1 がある。

遺物（第 216 図、写真図版 199）

出土重量は、古代土器 570 g、石器 1 点 41.4 g、縄文土器 50 g である。うち、古代土器 2 点（a288～289）を掲載した。

SI32 住居跡

遺構（第 50 図、写真図版 37）

［位置・重複関係］3 区-3、ⅢI1r グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。SI32 と同様に西半のみの検出である。北半を SI31 に切られる他、西寄りを現代の攪乱溝が縦断する。［規模・形状］全長が判明する西辺は 4.7 m で、全体では 5 m 弱前後四方の方形と考えられる。深さは最大 27 cm。［堆積土］褐色土ブロック、焼土粒を含む暗褐色砂質シルト層である。［壁・床面］壁面は直立気味に立ち上がる。床面は概ね平坦である。［カマド］燃焼部は確認できないが、北壁外側の SI31 内に検出した短い溝が SI32 のカマド煙道と考えられる。住居主軸とややずれるものの、奥側が深くなる状態、堆積土中に崩落天井ブロックが含まれることから判断した。上部では SI31 の貼床が施される。［柱穴・土坑］南西隅に Pit 1・2 がある。

遺物（第 216・263 図、写真図版 199・236）

出土重量は、古代土器 366 g、石器 1 点 49.9 g、縄文土器 104 g である。うち、古代土器 2 点（a289～290）、石・石製品 1 点（d20）を掲載した。

SI33 住居跡

遺構（第 50・51 図、写真図版 38）

［位置］3 区-3、ⅡI20q グリッド付近に位置しⅤ層上面で検出した。南コーナー付近で P143・P248 に切られる。［規模・形状］北東辺 4.7 m、南東辺 4.2 m、南西辺 4.7 m、北西辺 4.5 m の方形を呈する。床面積は 19.2 m^2。深さは最大 26 cm。［堆積土］1 層黒褐色シルトが全体を占め、床面付近に黄褐色土ブロックの 2 層が分布する。［壁・床面］壁面は低い立ち上がりのみ確認した。床面は平坦で中央が硬化する。［カマド］北東壁中央やや南寄りに設置される。燃焼部の残存状況は良好で、暗褐色シルト積み上げの両袖が焼成面を囲むように伸びる。焼成は強く上面に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し下部は奥側がやや抉れる状態である。［柱穴・土坑］壁際に Pit 1～9 を確認した。このうちコーナーに位置する Pit 2・4、南東壁際中央にある

Pit 5 がやや深く柱穴の可能性があるが、全体の配置は判然としない。カマド右脇の Pit 1・9 は堆積土中に炭化物と焼土ブロックが含まれる貯蔵穴である。［周溝］西側を中心に断続的に周溝が確認される。［遺物出土状況］カマド右側床面に、土師器甕類を中心に略完形個体が集中する。いずれも破損散乱の程度は小さく、ほぼ原位置に近い位置と考えられる。

遺物（第 216・217 図、写真図版 199・200）

出土重量は、古代土器 12,612 g、縄文土器 16 g である。うち、古代土器 15 点（a291～305）を掲載した。

SI34 住居跡

遺構（第 52 図、写真図版 39）

［位置］3 区-3、ⅡI19n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東壁部分で SI15 を切るが、精査段階では新旧が把握できず両遺構を同時に掘り下げている。［規模・形状］北辺 5.6 m、南辺 5.2 m、西辺 5.0 m の方形を呈する。東辺は SI15 との重複部分にあたり壁長は把握していない。床面積は 24 m^2 前後。深さは最大 53 cm。［堆積土］壁際の一部を除き暗褐色シルトの 1 層が占める。中央やや北寄りに焼土ブロックの集中部分があるが、これは平断面図を省略した。1 層全体にも焼土粒が含まれる。［壁・床面］壁面は全体に外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央部が硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、芯材の亜角礫を伴う両袖が伸びる。右袖基部の内部からは完形の土師器坏（P③）、土師器高台坏（P②）が出土した。カマド設置前に埋め込まれた状態と見られる。焼成面奥側右寄りに土師器小型甕（P①）を伏せた支脚が設けられる。P① 下位には甕底部破片を伏せており、重ねて設置した状態である。煙道は刳り抜き式で、一定勾配で煙出しに向かって伸びる。煙道天井の被熱痕跡が著しい。煙出し下部は奥側が抉れる状態となっている。［柱穴・土坑］Pit 1～10 がある。このうち北半の Pit 1・3 は深く、断面に柱痕跡が確認される。南側では小径だが深い Pit 4 が主柱穴を構成すると考えられるが、南東部の Pit 8 は浅いため柱穴とはなり得ず、壁際の Pit 9 が候補となるか。不整形の Pit 2 は掘り方の一部を誤認した可能性がある。

遺物（第 217・260・262・263・273 図、写真図版 200・233・235・240・241）

出土重量は、古代土器 12,309 g、土製品 2 点 13.6 g、石器 9 点 2558.6 g、金属製品 3 点 129.9 g、鉄滓 22 点 624 g、羽口 5 点 113.3 g、縄文土器 31 g である。うち、古代土器 12 点（a306～317）、土製品 2 点（c13・c29）、石器 2 点（d10・d16）、金属製品 3 点（e28～30）、羽口 1 点（l3）を掲載した。

SI35 住居跡

遺構（第 53 図、写真図版 40）

［位置］3 区-3、ⅡI19m グリッド付近に位置しⅤ層上面で検出した。北側を SD06 に切られる。［規模・形状］隅丸方形を呈する。全長の判明する東辺と南辺はともに 4.0 m、北辺と西辺は北西コーナーが SD06 に切られるため推定値となるが概ね 4 m 前後と捉えられる。床面積は推定 14.7 m^2。深さは最大 29 cm。［堆積土］上下 2 層に分層される。全体に細砂ブロックを含み、自然堆積と捉えられる。［壁・床面］東壁は外傾、その他は直線的に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖外側に拳大の礫を積み上げ芯材としている。焼成面奥側右寄りに支脚が残る。礫を埋め込み、この上に土師器甕底部を伏せ、更に土師器坏を被せている状態である。煙道は緩い勾配で伸びる。一部に天井部の残存があり、刳り抜き式と判断される。煙出し底面は煙道より一段深く掘り込まれる。［焼土］南東部床面に径 40 cm 弱の焼土 1 を検出した。

焼成は強くはないが、熱変色は深さ 6 cm に及ぶ。［遺物出土状況］南西部床面に炭化材が散在する。最大長 60 cm 程の部材で木目方向は揃わない。

遺物（第 217 図、写真図版 200）

出土重量は古代土器 1,251 g、縄文・弥生土器 5 g である。うち、古代土器 3 点（a318～320）を掲載した。

SI36 住居跡

遺構（第 54 図、写真図版 41）

［位置］2 区−4、ⅡI13h グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。西側は調査区外に伸びる。［規模・形状］全長の判明する東辺は 3.8 m で、全体では 4 m 弱四方の隅丸方形とみられる。深さは最大 32 cm。［堆積土］上部に均質な暗褐色シルトの 2 層、下部に褐色土ブロックを含む黒褐色シルトの 3 層と分層される。［壁・床面］壁面は低い立ち上がりのみ確認した。床面はほぼ平坦である。東壁際に分布する黒褐色土の床面を掘り下げた結果、コの字状の広い溝となった。掘り方溝が床面に現れた状態と考えられる。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は非常に良好である。両袖先端には大型の板状礫、基部付近には亜円礫が芯材に埋め込まれている。燃焼部内では二つ掛け状態で支脚上に設置された土器が原位置を保つ。右側は礫上に土師器甕底部（P⑤）を伏せて支脚とし、土師器長胴甕（P④）が手前に倒れる状態で出土した。左側は粘土塊を支脚とし、土師器長胴甕（P③）がやはり手前に倒れる状態で出土している。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。［柱穴・土坑］南壁際に小径の Pit 1～4、カマド左に隣接して貯蔵穴の Pit 5 がある。Pit 5 内部からは完形の土師器坏（P②）が出土した。［焼土］床面中央に焼土 1、南壁際に焼土 2 がある。両者とも現地性の小規模な焼成面である。焼土 2 は Pit 4 埋没後に生じたものである。

遺物（第 217・218・264 図、写真図版 200・201・236）

出土重量は、古代土器 5,284 g、石器 2 点 1025.4 g、縄文・弥生土器 66 g である。うち、古代土器 9 点（a321～329）、石器 1 点（d25）を掲載した。

SI37 住居跡

遺構（第 55 図、写真図版 42）

［位置・重複関係］2 区−4、ⅡI16c グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南西部で SK79 に切られる。［規模・形状］方形基調で、規模は北辺 4.1 m、東辺 4.4 m、南辺 4.3 m、西辺 4.0 m。床面積は約 16 m^2。深さは最大 36 cm。［堆積土］4 層に分層される。褐色シルトを主体とし、炭化物と焼土粒を含み、特に上部に集中する。中央が窪む堆積状況で自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は概ね直立して立ち上がる。床面は全体に若干の凸凹があり、中央が硬化する。［カマド］北側中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖が外側に崩落気味に広がり、内部に芯材礫が残る。左袖奥に芯材礫の脱落痕と考えられる窪みが確認される。焼成面の被熱は強く上部が硬化還元する。煙道は一定傾斜で下降し煙出しに至る。刳り抜き式煙道の天井面と、煙出し壁面の被熱痕跡が著しい。［柱穴・土坑］Pit 1～4 の 4 基がある。いずれも浅いもので、主柱穴とは考えにくい。［周溝］住居壁際に沿って断続的に巡る。幅は約 10～30 cm、深さは最大約 15 cm 程度。［焼土］中央部に焼土 1 がある。径 35×30 cm の楕円形で、被熱は強く深さ 5 cm まで熱変色が及ぶ。上面では中央部が焦土化しやや黒味を帯びる。

遺物（第 218 図、写真図版 201）

出土重量は、古代土器 1,076 g、石器 4 点 20.5 g、縄文・弥生土器 272 g である。うち、古代土器 2 点（a330～331）を掲載した。

SI38 住居跡

遺構（第 56・57 図、写真図版 43）

［位置・重複関係］2 区-4、ⅡH12q グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南側を SD17 に切られる。［規模・形状］北辺 6.3 m、東辺 6.8 m、南辺 6.5 m、西辺 6.3 m の隅丸方形で、床面積は 39.2 m^2。深さは最大 51 cm。［堆積土］1～7 層に分層される。上部 1 層には To-a の可能性を持つ浅黄色のテフラブロックが含まれる。床面全体は 7 層灰黄褐色シルト層に覆われる。全体に中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は全周とも急傾斜で外傾して立ち上がる。床面は平坦で中央部がやや硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、両袖の先端と基部に長楕円形の亜円礫が芯材として埋め込まれる。焼成面奥側右寄りに土師器小型甕底部を倒立で埋め込んだ支脚が残る。煙道は緩い勾配で伸びる刳り抜き式。煙出し内から礫が多数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～9 の 9 基を検出した。四隅に位置する Pit 1～4 が主柱穴を構成する。いずれも断面には径 20～30 cm 程の柱痕跡を確認することができ、底面は一段深く掘り込まれる。東壁中央にある Pit 8 は断面擂鉢形で底面に柱痕を持ち、形状からロクロピットの可能性がある。［周溝］幅 20 cm 前後で、壁際を全周する。［遺物出土状況］北西部を中心とした床面に拳大の亜角礫、亜円礫が多数出土した。検出状況から周囲にあった礫が廃絶後の窪地に堆積した可能性が高い。またこれらの周囲、カマド手前側床面に大きめの土器が散在する。

遺物（第 218・219・262・264・267・273 図、写真図版 201・202・235・236・238・241）

出土重量は古代土器 18,298 g、焼成粘土塊 1 点（12.5 g）、石器・石製品 16 点（8063.8 g）、金属製品 4 点（141.2 g）、羽口片 1 点（15.1 g）、鉄滓 8 点（1773.8 g）、縄文・弥生土器 232 g である。うち、古代土器 16 点（a332～347）、石器・石製品 5 点（d2・26～28・50）、金属製品 4 点（e31～34）を掲載した。

SI39 住居跡

遺構（第 58 図、写真図版 44）

［位置・重複関係］2 区-4、ⅡH10r グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 3.9m、東辺 4.4m、南辺 4.0m、西辺 4.8m でやや南北に長い隅丸方形を呈する。床面積は 14.6 m^2。深さは最大 51 cm。［堆積土］1～5 層に分層される。全体に褐色を呈する粘土質シルト層で、一部の壁際に崩落ブロックと推測される褐色土層が含まれる。中央が窪む自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面はやや内湾しながら立ち上がる。床面は平坦で中央が若干硬化する。［カマド］東壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好である。両袖先端には土師器甕が倒立状態で置かれ、後方の板状礫とともに芯材を構成する。土師器甕は両方とも口縁部が残存する個体で、焼成面下位に口縁部が埋め込まれた状態となっている。焼成面奥側やや左寄りに扁平な礫が支脚として設置されている。煙道は刳り抜き式で煙出しに向かって下降して伸びる。煙出しからは礫が多数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～5 の 5 基がある。このうち、配置から Pit 1～4 が主柱穴を構成するとみられる。カマド右脇の Pit 5 は浅い皿状の土坑で、貯蔵穴と考えられる。［周溝］幅 12～20 cm で、壁際を全周する。

遺物（第 219 図、写真図版 202）

出土重量は古代土器 7,999 g、石器・石製品 3 点（572.8 g）、羽口 3 点（44.5 g）、鉄滓 4 点（150.5 g）、縄文・弥生土器 62 g である。うち、古代土器 9 点（a348～356）、羽口 1 点（l4）を掲載した。

SI40 住居跡

遺構（第 59・60 図、写真図版 45）

［位置・重複関係］2 区-4、ⅡH14s グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.5 m、東辺 4.7 m、南辺 4.9 m、西辺 4.5 m、南側がやや広がる歪な隅丸方形を呈する。床面積は 18.8 m^2。深さは最大 40 cm。［堆積土］概ね暗褐色シルト質で 3 層に分層される。中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁は 4 辺とも外傾して立ち上がる。床面は平坦で中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央やや西寄りに設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖には芯材礫が埋め込まれる。焼成面奥側左寄りに長楕円形の亜円礫が支脚として設置されている。煙道は刳り抜き式で、緩い勾配で煙り出しに向かって伸びる。［柱穴・土坑］Pit 1～10 の 10 基を検出した。四隅にある Pit 1～4 では断面に柱痕跡が確認され、4 本で主柱穴を構成するものと考えられる。このうち、Pit 2・4 では底面に柱痕が残る。［周溝］幅 15～28 cm で、壁際を全周する。［焼土］床面中央に 2 箇所の焼成面を検出した。東側の焼土 1 は強い焼成を受け、上面に還元色部分が生じている。焼土 2 は小規模で焼成は弱い。［遺物出土状況］堆積土中から拳大の礫が多数出土した。層位は 2 層上部から 1 層にかけてが多い。また礫の下位には草本類の炭化物が薄く面をなす。取り上げた礫の総重量は 582 kg に達する。周囲にあった礫が廃絶後の窪地に堆積した可能性が高い。

遺物（第 219・220・263・264・265・267・271 図、写真図版 202・235・236・238・239）

出土重量は古代土器 12,624 g、石器・石製品 14 点（8358.8 g）、鉄滓 3 点（119.7 g）、縄文・弥生土器 59 g である。うち、古代土器 5 点（a357～361）、石器・石製品 5 点（d19・29・30・51・68）を掲載した。

SI41 住居跡

遺構（第 61・62 図、写真図版 46）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢK6a グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。西壁部分が調査区外に位置する。［規模・形状］全長の判明する東辺は 8.2 m、全体では 8 m 強四方で大型の隅丸方形と捉えられる。床面積は 60 m^2 を超す可能性が高い。深さは最大 70 cm。［堆積土］概ね黒褐色シルト質で 6 層に分層される。壁際には均質な黒色土（4・5 層）が堆積する。床面直上は 6 層暗褐色砂質シルトで覆われる部分が多い。［壁・床面］壁は直立して立ち上がる。床面は平坦で中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖先端付近には亜角礫が芯材として埋め込まれる。焼成面奥側からは左右に礫と土器片が積み重なった状態で出土しており、両者とも支脚の可能性が高いと考えられる。煙道は刳り抜き式で、一定の傾斜で煙り出しに向かって伸びる。煙道天井と煙出し側壁上部には被熱痕が残る。また煙出し中位から礫が集中して出土した。［柱穴・土坑］13 基を検出した。Pit 3 は欠番である。四隅にある Pit 1・2・4 の 3 本は、径、深さの数値とも大きく、底面に楕円形の柱痕が観察される主柱穴である。南東コーナーの対応する位置には同規模の柱穴が確認されない。南壁際にある Pit 13・14 とも細く浅めの柱穴である。［周溝］北壁東半を除き幅広の周溝が巡る。［焼土］床面中央南東寄りに焼土 1 がある。現地性で被熱は弱い。この他、南壁際堆積土下部に焼土ブロックが分布する。

遺物（第 220・260・265・273 図、写真図版 202・203・233・236・241）

出土重量は、古代土器 25,934 g、土製品 1 点 12.9 g、焼成粘土塊 1 点 3.6 g、石器 3 点 3986.9 g、金属製品 1 点 9.3 g、縄文・弥生土器 26 g である。うち、古代土器 19 点（a362～380）、土製品 1 点（c30）、金属製品 1 点（e35）、石器 1 点（d31）を掲載した。

SI42 住居跡

遺構（第 63・64 図、写真図版 47）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢK8a グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。東側で SK152 に切られる。また遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 5.4 m、東辺 5.3 m、南辺 5.4 m、西辺 5.5 m の方形である。床面積は 26.2 m^2。深さは最大 65 cm。［堆積土］3 層に分層される。概ね黒色シルトで、下部の 3 層には焼土粒、炭化物が含まれる。［壁・床面］壁面は全体に直立気味に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部、煙道ともに耕作痕の攪乱を受け残存状況は不良である。燃焼部の袖は失われており、歪な楕円形の焼成面を検出した。煙道は刳り抜き式で、燃焼部から一段高くなり再び煙り出しに向かって下降する。煙出し底面付近には炭化物が集中する。［柱穴］Pit 1～4 の 4 基がある。このうち Pit 1・2・4 ではいずれも断面で腐食した柱痕跡が観察され、底面にグライ化した長方形の柱痕が見られる。設置位置も各コーナーから凡そ等距離にある。南東コーナー部の Pit 3 のみ南壁面に食い込む位置にあり他と異なる。西側の Pit 1-2、東側の Pit 3-4 はほぼ平行するため、Pit 3 はずれた位置にあるものの主柱穴を構成すると考えられる。［周溝］南壁壁際を中心に伸びる溝は、周溝と見て精査を行ったが、幅が広い部分が多いことから掘り方の一部を誤認した可能性もある。

遺物（第 221・274 図、写真図版 203・241）

出土重量は、古代土器 13,198 g、金属製品 2 点 19.2 g、鉄滓 1 点 6.8 g、縄文・弥生土器 10 g である。うち、古代土器 15 点（a381～395）、金属製品 2 点（e36～37）を掲載した。

SI43 住居跡

遺構（第 64・65 図、写真図版 48）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢK7e グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南東部で SN16 に切られる。また南東部と北東部に攪乱が入る。遺構の西半は調査区外となる。［規模・形状］全長が判明する北東辺は 6.5 m である。南東辺はやや長い可能性があり、床面積は 40 m^2 を超すものと考えられる。深さは最大 54 cm。［堆積土］6 層に分層される。黒色～黒褐色シルト主体である。炭化材、焼土粒の混入度によって細分した。床面に密着する 5・6 層に炭化物が含まれる。［壁・床面］北東壁は直立して立ち上がるが、南壁はやや緩やかな傾斜となる。床面はほぼ平坦である。［カマド］調査範囲内には設置されておらず、北西壁にカマドを持つものと推定される。［柱穴］Pit 1～4 の 4 基を検出した。うち、コーナーに位置する Pit 1・3 では断面に柱痕跡が観察される。柱痕跡の黒色土は非常にしまりが弱く、部分的に空洞となっていた。底面ではグライ化した長方形の柱痕が認められる。南東壁中央付近にある Pit 2 でも底面に柱痕がある。［周溝］壁面に周溝が連続して巡る。深さは平均で 35 cm である。［遺物出土状況］床面から堆積土中位にかけて多量の炭化材が出土した。一定程度以上の大きさがあり平面実測し得たものが 40 点程ある。このうち北東壁際から約 2.5 m の範囲では、壁面と直交方向の状態が主体となる。長さは 1 m を超え幅も 10 cm 以上が多いのに対し、厚さは 5 cm 未満と薄い板状を呈するものが多い。樹種はクリが多数を占め、他にナラ・ケヤキがある。また南コーナー付近では炭化材下位に焼土ブロックが分布する。東コーナー、Pit 3 脇では床面が被熱

により変色した範囲がある。これらの状況から焼失家屋と判断される。

遺物（第 221・274 図、写真図版 203・241）

出土重量は、古代土器 9,468 g、焼成粘土塊 1 点 34.9 g、金属製品 4 点 5 6g 、縄文・弥生土器 236 g である。うち、古代土器 5 点（a396～400）、金属製品 4 点（e38～41）を掲載した。

SI44 住居跡

遺構（第 66 図、写真図版 49）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢK9c グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.8 m、東辺 5.0 m、南辺 4.5 m、西辺 4.6 m の、若干歪な方形を呈する。床面積は 19.4 m^2。深さは最大 36 cm。［堆積土］8 層に細分される。床面付近 4～5 層は褐色土の混入が多く、上部 1～3 層は粘性の弱い黒褐色土に変化する。6 層と 7 層は周溝堆積土である。［壁・床面］壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央付近は硬化するが、焼土ブロック、炭化物が集中する北壁側と西壁側はややしまりがない。［カマド］東壁中央に並列して 2 基のカマドが設置される。このうち残存状況の良好な南側のカマドを 1 号カマド、北側を 2 号カマドとする。2 号カマドから 1 号カマドへの作り替えが想定される。なお、壁面から焼成面中央までの間隔は 1・2 号カマドともほぼ等しく、煙道全長も同程度である。1 号カマドは東壁南寄りに設置される。燃焼部は両袖に亜角礫の芯材が埋め込まれており、また両袖をつないで天井石が掛けられた状態で残る。焼成面は径 60 cm 程度の円形を呈し、明赤褐色に変色した焼土が最大 12 cm の厚さで形成されている。煙道は刳り抜き式で緩い勾配で煙出しに向かって伸び、煙出し底面は一段深く掘り込まれる。煙道天井面、煙出し壁面には被熱痕跡が顕著に残る。2 号カマドは東壁中央やや北寄りに設置される。燃焼部は焼成面のみ残存する。煙道は燃焼部から段差を持って立ち上がり、煙出しに向かい一定傾斜で下る。明確な天井面は残存しないが、検出状況から刳り抜き式と判断した。［柱穴・土坑］Pit 1～6 の 6 基がある。1 号カマド右脇の Pit 2、2 号カマド左脇の Pit 1 はそれぞれ貯蔵穴と考えられる。中央寄りの Pit 3 は壁面の一部が階段状を呈する。また、北壁際の Pit 5 は一部が壁面を横穴状に抉り込んで掘られている。［周溝］南壁際に帯状に広がる黒褐色シルトのプランが検出された。周溝堆積土は床面より粘性が強く、確認面における周溝の最大幅は 65 cm である。

遺物（第 222・260・265・268・274 図、写真図版 204・233・236・238・241）

出土重量は、古代土器 4,616 g、土製品 3 点 37.9 g、石器・石製品 2 点 855.3 g、金属製品 1 点 3 .0g である。うち、古代土器 8 点（a401～408）、土製品 3 点（c31～33）、金属製品 1 点（e42）、石器・石製品 2 点（d33・d55）を掲載した。

SI45 住居跡

遺構（第 67～69 図、写真図版 50）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢK10g グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。ほぼ確実に同一地点での建て替え拡張状態が把握されており、古段階をⅠ期住居跡、新段階をⅡ期住居跡とする。［規模・形状］Ⅱ期住居跡は北辺 7.6 m、東辺 7.5 m、南辺 8.0 m、西辺 7.2 m の、若干歪な隅丸方形を呈する。床面積は 47.1 m^2。深さは最大 79 cm。Ⅰ期住居跡は約 5.5 m 四方の方形と見られる。［堆積土］大きくは上部 1・2 層の黒色～黒褐色シルト層と、下部 3 層にぶい黄褐色シルトの洪水堆積層に 2 分される。3 層は非常に細粒で、砂層ブロックは介在しない。中央では床面を直接覆うが、壁際では黒褐色シルト層の上位となっている。［壁・床面］壁面は直立気味に立ち上がる。Ⅱ期住居跡床面は外

周が掘り方埋め戻し、内側はⅠ期住居跡に貼床を施しており上面が硬化する。Ⅰ期住居跡床面は貼床下面が該当すると考えられるが、精査手順のミスにより面的な確認を行っていない。［カマド］北壁中央の1号カマド、東壁中央からやや南寄りの2号カマド、東壁の更に南寄りで燃焼部が内側に位置する3号カマドを検出した。残存状況等から3→2→1号カマドの作り替えが推定される。このうち3号カマドはⅠ期住居跡に伴うものと判断した。1号カマドはシルト積み上げによる低い両袖が伸びる。右袖基部には芯材として埋め込まれた長楕円形の棒状礫が残存する。焼成面の被熱は強く、上面に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって長く伸びる。煙道天井、煙出し側壁の被熱痕跡が著しい。煙道内堆積土の手前側下部には、住居堆積土3層と同じ洪水堆積層が含まれる。煙出し内部からは円礫が多数出土した。2号カマドの燃焼部は焼成面のみの残存である。焼成範囲は比較的狭い。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井は一部残存しており、煙出し側壁と合わせて被熱痕跡が顕著に残る。煙出し内では下部を中心に円礫が出土した。3号カマドは2号カマドと並列するが、燃焼部は1m程内側に位置する。煙道はⅡ期住居跡の貼床を除去する過程で検出されており、確実にⅠ期住居跡に伴い設置されたカマドと捉えられる。煙道は刳り抜き式で、煙出し側壁には被熱痕跡が残る。［柱穴・土坑］18基を確認した。Pit 13・16は欠番である。Ⅰ期住居跡に伴う主柱穴はPit 5・6・14・18で、正方形に近い配置となる。Pit 5・6底面には長方形の柱痕が観察される。Ⅱ期住居跡に伴う主柱穴はPit 3・7・12・15と考えられる。Pit 12がやや壁寄りにずれた配置となっている。Pit 7・15底面にはやはり長方形の柱痕が残る。貯蔵穴は、北壁際のPit 1・2が1号カマドに伴うもの、東壁際のPit 8・10が2号カマドに伴うものと考えられる。［遺物出土状況］1号カマド右側の床面を中心に土師器、須恵器類の出土が多い。南西床面からは磨製石斧が1点出土した。

遺物（第222・223・261・262・268・274図、写真図版204・205・234・235・238・241）

出土重量は、古代土器40,845g、土製品4点42.3g、焼成粘土塊1点3.7g、石器4点2472.3g、金属製品2点137.7gである。うち、古代土器27点（a409～435）、土製品4点（c34～37）、金属製品2点（e43～44）、石器2点（d3・d56）を掲載した。

SI46住居跡

遺構（第70図、写真図版51）

［位置・重複関係］4区-1、ⅢK7gグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。遺構の半分以上は西側調査区外にある。［規模・形状］規模は調査区内にある東壁全長が3.8m。全体では4m弱四方の方形を呈すると考えられる。深さは最大56cm。［堆積土］3層に分層される。概ね黒褐色シルト主体で、中央が窪み自然堆積の状況を呈する。［壁・床面］壁面は全体に緩い傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、特に強い硬化面は見られない。［カマド］東壁の中央やや南寄りに設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖に芯材の角礫が並んで埋め込まれる。焼成面上部は強い被熱により硬化還元が生じている。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で煙出しに向かって下る。煙出し内部には巨礫を含む礫が充填されている。［柱穴・土坑］Pit 1～5の5基を検出した。北東コーナー脇のPit 1、南東コーナー脇のPit 2が深く掘り込まれ、主柱穴を構成すると推定される。カマド右脇の楕円形を呈するPit 4は貯蔵穴と考えられ、内部から土器が多数出土した。［遺物出土状況］床面から堆積土下部にかけて、特に南側で礫が多数出土する。またこれらに混じって土器片の出土が多い。

遺物（第223図、写真図版205）

出土重量は、古代土器11,476g、縄文・弥生土器35gである。うち、古代土器8点（a436～443）を

掲載した。

SI47 住居跡

遺構（第 71 図、写真図版 52）

［位置・重複関係］4 区−1 北端、ⅢK11j グリッド付近に位置する。北半が SD18 に切られる。また南半は耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。南壁は断片的な残存である。［規模・形状］残存する南辺は 4.2 m、全体では 4 m 強四方の方形と推定される。深さは最大 20 cm。［堆積土］3 層に細分され、褐色〜黒色シルト主体で構成される。［壁・床面］壁面は概ね直立気味である。床面はほぼ平坦で締まりがあるが、明瞭な硬化面は見られない。［カマド］東壁のやや南寄りと推定される位置に設置される。燃焼部は攪乱を受け焼成面の一部のみ残存する。a-a' 断面の煙道入口付近、及び b-b' 断面では天井部の被熱ブロックが観察される。煙道は浅く平坦に伸びるが、天井ブロックの存在から刳り抜き式と判断した。［柱穴・土坑］2 基のピットが確認された。カマド右脇の南東コーナーにある Pit 1 が貯蔵穴の可能性が高い。Pit 2 は北半を SD18 に切られる。残存部分では浅く焼土、炭化物を含む堆積土が見られる。

遺物（第 261 図、写真図版 234）

出土重量は、古代土器 901 g、土製品 1 点 7.7 g である。うち、土製品 1 点（c38）を掲載した。

SI48 住居跡

遺構（第 72 図、写真図版 53）

［位置・重複関係］4 区−2、ⅢK12g グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 2.6 m、東辺 2.6 m、南辺 2.6 m、西辺 2.5 m と小型で、やや不整な方形を呈する。床面積は 5.5 m^2。深さは最大 25 cm。［堆積土］3 層に分層される。黒褐色シルトが主体である。［壁・床面］北壁と南壁は床面から緩やかに立ち上がる。東壁は攪乱によってほぼ失われており状態は不明。床面も 3 割程が攪乱される。残存部分は概ね平坦である。［カマド］東壁中央のやや南寄りに設置される。燃焼部奥側は攪乱を受けるが、両袖先端部分と焼成面は残存する。袖内部からは芯材の角礫が複数出土した。焼成面の被熱は弱く、薄い焼土が形成されている。煙道は刳り抜き式で、東壁際の残存部分から煙出しに向かってやや急角度で下降する。煙出し下部からは円礫が出土した。［周溝］南壁に沿って幅最大 50 cm、深さ 10〜15 cm の溝がある。周溝と認識したが、掘り方の一部である可能性もある。

遺物

出土重量は、古代土器 651 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI49 住居跡

遺構（第 72 図、写真図版 54）

［位置・重複関係］4 区−1、ⅢJ1j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。調査区境に位置し、また南側が現代の攪乱を受けていることから、精査したのは東壁寄りで全体の 1/3 程度の部分である。北側を攪乱溝に切られる。［規模・形状］東辺は 4.4 m の残存で、カマドの位置から推定して 1 辺 6 m 四方程の可能性がある。深さは最大 29 cm。［堆積土］上部 1 層の暗褐色シルトと下部 2 層の黒褐色シルトに分層される。［壁・床面］検出した壁面はわずかな立ち上がりのみである。床面は検出範囲では平坦でやや硬化する。［カマド］東壁中央部に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、

褐色シルト積み上げによる細い両袖が、円形の焼成面を囲むような状態で残る。煙道は刳り抜き式で、やや急傾斜で煙出しに向かって伸びる。［柱穴・土坑］壁寄りに 7 基を確認した。このうちカマド左側の Pit 1 が貯蔵穴と捉えられる。Pit 2・5 は主柱穴の位置にあるが、細く浅いため疑問がある。

遺物（第 224・269 図、写真図版 205・206・238）

出土重量は、古代土器 13,791 g、石器 1 点 5481.2 g、縄文・弥生土器 12 g である。うち、古代土器 10 点（a444～453）、石器 1 点（d57）を掲載した。

SI50 住居跡

遺構（第 73 図、写真図版 55）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢJ4j グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。中央部と北西壁際が耕作による円形、長方形の攪乱を受ける。［規模・形状］北東辺 4.5 m、南東辺 4.8 m、南西辺 4.6 m、北西辺 4.5 m の方形を呈する。床面積は 19.3 m^2。深さは最大 32 cm。［堆積土］全体は 1 層黒色シルトが堆積し、下部～床面を褐色土ブロックが集中する 2 層が覆う。［壁・床面］壁面はわずかな立ち上がりを検出した。床面は概ね平坦である。［カマド］北西壁の西寄りに設置される。燃焼部は攪乱により失われており、煙道の一部と煙出しを確認した。煙道は刳り抜き式で短く伸びる。煙出し内部からは大きめの礫が多数出土した。［柱穴］10 基が不規則に分布する。このうち、Pit 3・4・9・10 が方形の位置関係にあり主柱穴を構成する可能性がある。［焼土］北西壁際に楕円形の焼土 1 を検出した。カマド燃焼部に類似する状態だが、対応する煙道は確認できず、カマドかどうかは判断できない。

遺物（第 225・274 図、写真図版 206・241）

出土重量は、古代土器 4,455 g、石・石製品 1 点 623.1 g、金属製品 1 点 23.6 g、縄文・弥生土器 79 g である。うち、古代土器 3 点（a454～456）、金属製品 1 点（e45）を掲載した。

SI51 住居跡

遺構（第 74 図、写真図版 56）

［位置・重複関係］4 区-1、ⅢJ3l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南東部で SK156 を切る。また北壁の一部は耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北東辺 3.6 m、南東辺 3.4 m、南西辺 3.5 m、北西辺 3.2 m の方形を呈する。床面積は 10.3 m^2。深さは最大 19 cm。［堆積土］黒色シルトの単層である。夾雑物は少ない。［壁・床面］壁面は外傾し立ち上がる。床面は概ね平坦である。［カマド］南西壁中央のやや南寄りに設置される。燃焼部は攪乱により残存状況は不良である。右袖の一部が残存し、拳大の亜円礫が芯材に埋め込まれている。焼成面は楕円形を呈する。煙道中央部は攪乱を受けており、煙道から下降する煙出し下部が楕円形の土坑となって残存する。煙出し内部に天井部からの崩落ブロックと推測される褐色土ブロックが含まれており、刳り抜き式の可能性が高いと考えられる。［柱穴］南東壁際に Pit 1 を検出した。堆積土上部に焼土粒が含まれ浅い皿状を呈する。

遺物（第 225 図、写真図版 206）

出土重量は、古代土器 2,246 g、縄文・弥生土器 40 g である。うち、古代土器 4 点（a457～460）を掲載した。

SI53 住居跡

遺構（第 74 図、写真図版 57）

［位置・重複関係］2区-4、ⅢJ10aグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西半は調査区外となっており、全体の約半分を精査した。［規模・形状］東辺3.3mの隅丸方形である。深さは最大25cm。［堆積土］3層に分層される。灰黄褐色シルトを基調としており、北側に分布する床面直上の2層には焼土ブロック、炭化物が多い。カマド周囲に堆積した焼土を含む土層の可能性がある。［壁・床面］壁面は全体に外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］未検出だが、前述の通り北壁に設置されている可能性がある。［柱穴］Pit 1〜4の4基を検出した。北東コーナーのPit 1は不整な楕円形を呈し、貯蔵穴と考えられる。南壁際のPit 3は周溝の一部が落ち込んだ状態である。［周溝］幅10cm前後で、壁際を断続的に巡る。

遺物

出土重量は古代土器182g、縄文・弥生土器2gである。図示可能な遺物は出土していない。

SI54住居跡

遺構（第75図、写真図版57・58）

［位置・重複関係］1区、ⅢH11cグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。中央を東西に横断する近代の溝に切られ、南半は現道下部の埋設物掘削による攪乱を受ける。［規模・形状］規模が判明する北辺は5.7m、全体では約6m弱四方の方形と推定される。深さは最大68cm。［堆積土］4層に分層される。灰黄褐色シルトを基調とし、下部には炭化物、焼土ブロックが比較的多く含まれる。中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］残存する北側壁面は直立気味に立ち上がり、上部は外に開く。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部、煙道ともに残存状況は良好である。燃焼部は両袖内部に芯材の礫が埋め込まれ、上部に天井部の芯材礫が横たわる。焼成は強く袖の内側壁面も厚い焼土が形成されている。焼成面奥側中央に支脚がある。支脚は角礫を直立で設置し、上部に土師器甕下半を倒立で被せた状態である。煙道は刳り抜き式でやや急角度で煙出しに向かって伸びる。煙出しは残存値で1.1mに達する深い穴で、中程に礫が集中する。煙出し側壁も被熱痕跡が強く残る。［柱穴・土坑］Pit 1〜5の5基を検出した。このうちPit 3・5が主柱穴を構成する。両者とも底面に柱痕が残存する。カマド両側にあるPit 1・2は貯蔵穴と考えられる。Pit 2では完形の土師器甕が2個体出土した。［焼土］南東部床面に現地性の焼土1がある。径60cm以上、焼成は強く焼土厚は10cm以上だが、攪乱を受けているため全体形状は判明しない。［周溝］幅20〜60cm前後で、壁際を巡る。

遺物（第225・261・263図、写真図版206・207・234・235）

出土重量は古代土器17,216g、土製品1点(5.1g)、石器3点(390.8g)、縄文・弥生土器174gである。うち、古代土器6点（a461〜466)、土製品1点（c39)、石器1点（d17）を掲載した。なお、北東部床面から出土した炭化材の放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施した（試料No.4)。その結果、暦年較正年代（1σ）で713〜863calADの間に4つの範囲で示される年代観が得られた。

SI55住居跡

遺構（第76図、写真図版58・59）

［位置・重複関係］1区、ⅢH6eグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。北西部でSI57住居跡に接するが新旧ははっきりしない。［規模・形状］北辺4.1m、東辺4.2m、南辺4.7m、西壁4.1mの隅丸方形を呈し、床面積は17.4m^2。深さは最大44cm。［堆積土］4層に分層される。下部は比較的均質な灰黄褐色〜にぶい黄褐色シルトで、中央上部に炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。自然

堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面はほぼ直立する。床面は全体に平坦で、中央部がやや硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、低い両袖下部が残存し、左袖には芯材礫が埋め込まれる。焼成面の被熱は強く、上部に硬化還元部分が生じている。燃焼部奥から煙道にかけて一段高く上がり、煙道手前側は削平され残存しない。刳り抜き式の煙道奥側はやや急角度で下降し、煙出しに接続する。［柱穴］Pit 1～13 の 13 基を検出した。四隅に位置する Pit 2～5 が主柱穴を構成すると考えられる。北東コーナーでは Pit 1 もあるが、堆積状況から柱穴ではなく規模の小さい土坑と判断した。この他、壁際に Pit 6～13 が不規則な配置で検出されている。［周溝］幅 12～50 cm の周溝が壁際を全周する。

遺物（第 225 図、写真図版 207）

出土重量は古代土器 9,995 g、石器 1 点（657.3 g）、縄文・弥生土器 351 g である。うち、古代土器 4 点（a467～470）を掲載した。

SI56 住居跡

遺構（第 77 図、写真図版 59）

［位置・重複関係］1 区南端、ⅡH10b グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南半は平成 25 年度に実施した千苅遺跡調査において、SI98 住居跡として精査を行っている。ここでは南半を含めた全体について記載する。［規模・形状］北辺 3.2 m、東辺 3.1 m、南辺 3.2 m、西壁 3.4 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 8.0 m^2。深さは最大 61 cm。［堆積土］5 層に分層されたが、上部 1 層は上位旧河道の堆積土であり、実質的には 2～5 層が住居跡堆積土である。暗褐色シルトを基調とした自然堆積である。［壁・床面］直立して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］東壁中央に設置される。燃焼部の残存は不良で、焼成面の範囲は把握できない。ただし、煙道は刳り抜き式で、天井部の崩落も見られずしっかり残っている。煙道の燃焼部側開口部が床面から 20 cm 程上位にあたり、検出した床面より上位に燃焼部が設置されていた可能性がある。［周溝］北壁際の一部に周溝が巡る。［遺物出土状況］西壁際中央付近で、床面から土師器の一括出土がある。土器片に混じり炭化物が分布する。

遺物（第 226 図、写真図版 207）

出土重量は古代土器 5,270 g、縄文・弥生土器 7 g である。うち、古代土器 1 点（a471）を掲載した。

SI57 住居跡

遺構（第 76 図、写真図版 60）

［位置・重複関係］1 区西端、ⅢH6f グリッドの調査区境に位置し、住居の東壁際のみを検出した。直線的に伸びる壁面の状態から竪穴住居跡と判断した。SI55 住居跡に接するが新旧は不明である。［規模・形状］平面形は方形と推測される。正確な規模は不明。南東壁は 4 m 以上の全長がある。深さは最大で 17 cm。［堆積土］断面記録を欠くが、暗褐色シルトを基調とする堆積土である。［壁・床面］南東壁面は直立する。床面は調査範囲内ではほぼ平坦である。［カマド・柱穴］調査範囲では未検出。［遺物］出土遺物はない。

SI58 住居跡

遺構（第 77 図、写真図版 60）

［位置・重複関係］5 区-1、ⅢK12n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。耕作トレンチャー

による攪乱を受ける部分が多い。［規模・形状］北辺 2.2 m、東辺 3.0 m、南辺 2.2 m、西辺 3.2 m のやや南北方向に長い長方形を呈する。床面積は 7.8 m^2。深さは最大 23 cm。［堆積土］堆積土は黒色シルト単層である。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁やや東寄りに設置される。燃焼部の残存状況は不良で、右袖の一部と芯材礫が残る。礫は攪乱により移動しているものと推測される。焼成面は西半が攪乱を受け、断片的な残存である。煙道は刳り抜き式で緩い勾配で煙出しに向かう。煙出し内部からは礫が複数出土した。

遺物（第 226 図、写真図版 207）

出土重量は、古代土器 1,018 g である。うち、古代土器 1 点（a472）を掲載した。

SI59 住居跡

遺構（第 78・79 図、写真図版 61）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢK13o グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体に耕作トレンチャーの攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 6.5 m、東辺 6.7 m、南辺 7.0 m、西辺 6.3 m で、やや東側が広がる歪な方形を呈する。床面積は 40.3 m^2。深さは最大 82 cm。［堆積土］6 層に分層される。主に下部の 5・6 層黒褐色シルト層と、上部 1 層黒褐色シルト層からなり、1・5 層間に 2 層にぶい黄褐色シルト層、3 層灰白色粘土ブロック、4 層焼土集中ブロック等が介在する。層界は水平に伸び、自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は四辺とも直立気味に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部には南北方向の耕作攪乱が入り、残存状況はやや不良である。両袖は暗褐色シルトで構築され細く残存する。芯材礫は見られない。焼成面の被熱は強く上部に硬化還元部分が生じている。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で煙出しに向かい伸びる。煙出し内部からは礫が多数出土した。［柱穴］13 基を検出した。このうち、位置から Pit 4・5・6・12 が主柱穴を構成すると考えられる。また、Pit 4・6・12 の底面では長方形の柱痕が検出された。カマド右脇には貯蔵穴の Pit 3 がある。北西コーナーの Pit 2 も貯蔵穴的なものかと考えられる。南壁際には主柱穴 Pit 4・5 に対応する Pit 1、Pit 6・13 に対応する Pit 12 があり、それぞれ壁柱穴として設置された可能性が高い。［遺物出土状況］中央からカマド前にかけての床面から複数の白色生粘土塊を検出した（粘土①〜⑥）。①は最大の粘土塊で径 60×55 cm。これらの粘土塊を対象に成分分析を実施している（付編 3）。

遺物（第 226・267 図、写真図版 207・238）

出土重量は古代土器 27,481 g、焼成粘土塊 1 点（12.0 g）、石器 1 点（140.5 g）、縄文・弥生土器 10 g である。うち、古代土器 23 点（a473〜495）、石器 1 点（d52）を掲載した。なお、南東部床面から出土した炭化材の放射性炭素年代測定（AMS 測定）を実施している（試料 No.5）。結果は、暦年較正年代（1σ）で 725〜867calAD の間に 4 つの範囲で示される年代観が得られた。

SI60 住居跡

遺構（第 80 図、写真図版 62）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢK13q グリッド付近に位置する。東壁の一部が SI61 に接し、これより新しい。また、全体に耕作トレンチャーの攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 4.8 m、東辺 4.5 m、南辺 4.6 m、西辺 4.1 m で、若干歪な方形を呈する。床面積は 19.1 m^2。深さは最大 41 cm。［堆積土］堆積土の大半を占める 2 層黒褐色シルト層には、褐色土ブロックが少量含まれる。［壁・床面］壁面は四辺ともに急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦だが、中央に若干高まりがあり硬化する。［カマド］

北壁中央に設置される。残存状況は比較的良好で両袖が伸びる。やや小振りの亜円礫を埋め込んで袖芯材としている状況である。ただし、耕作による攪乱を受け、芯材礫は原位置から多少移動している可能性が高い。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し下部からは礫が複数出土した。［柱穴・土坑］Pit 1～6 の 6 基を検出した。このうち、位置関係から Pit 1・3・5・6 が主柱穴を構成すると考えられる。いずれも深さ 20 cm 程度と浅い柱穴である。［周溝］カマド付近を除きほぼ全周する。幅は 10～15 cm 程度と狭い。［焼土］東壁際に現地性焼土を検出した。床面に薄く焼成面が形成される。被熱は弱い。［遺物出土状況］カマド左側床面に拳大の生粘土塊 2 個を検出した。

遺物（第 226・274 図、写真図版 208・241）

出土重量は、古代土器 4,535 g、金属製品 2 点 35.0 g である。うち、古代土器 3 点（a496～498）、金属製品 3 点（e46～48）を掲載した。

SI61 住居跡

遺構（第 81・82 図、写真図版 63）

［位置・重複関係］5 区-1、ⅢK14g グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南西コーナー部分で SI60 に接し、これより古い。中央部では床下に SI109 カマドを検出した。SI109 上部に構築された住居跡である。［規模・形状］北辺 6.3 m、東辺 7.0 m、南辺 6.9 m、西辺 7.0 m の方形を呈する。床面積は 41.9 m^2。深さは最大 58 cm。［堆積土］壁際を除くと 3 層に分層される。上部 1 層黒褐色シルトと下部 3 層黒色シルトを画する 2 層は、ラミナ状の構造が観察される洪水堆積のシルト層である。［壁・床面］壁面は一定傾斜で立ち上がり、一部では上部が直立する。床面は概ね平坦で中央が硬化する。［カマド］北壁中央やや西寄りに設置される。残存状況は良好で、芯材の亜円礫を埋め込んだ両袖が細長く伸びる。燃焼部焼成面はほぼ円形で、焼土厚は最大 40 cm に達する。焼成面奥側には左右に支脚が設置される。右側は土師器坏を 3 個体重ねて伏せられた状態、左側は円礫を置いた状態である。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し側壁下部は奥側が抉り込まれる。［柱穴・土坑］主柱穴の Pit 1～4 は正方形に近い配置で、いずれも底面に楕円形の柱痕が見られる。カマド右の Pit 6 は小規模だが貯蔵穴か。他に壁際から小径の柱穴を複数検出した。［周溝］南半壁際に比較的幅広の周溝が巡る。

遺物（第 227・269 図、写真図版 208・238）

出土重量は、古代土器 13,621 g、石器 4 点 2509.3 g である。うち、古代土器 12 点（a499～510）、石器 1 点（d58）を掲載した。

SI62 住居跡

遺構（第 82 図、写真図版 64）

［位置・重複関係］5 区-1、ⅢK13r グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 3.6 m、東辺 4.0 m、南辺 3.5 m、西辺 3.9 m のやや南北に長い方形を呈する。床面積は 12.7 m^2。深さは最大 26 cm。［堆積土］2 層に分層される。黒褐色シルトを主体として、下部には焼土粒、炭化物が含まれる。［壁・床面］壁面は緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］東壁南寄りに設置される。燃焼部の残存状況は不良で、袖の痕跡は見られず円形の焼成面を検出した。焼成面奥側にある土師器甕下半は支脚として設置されていた可能性が高い。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。天井が崩落しているためか、煙道本体は低く潰れた状態である。［柱穴・土坑］Pit 1～6 の 6 基がある。いずれも浅く主柱穴とは考えにくい。南東コーナーにある Pit 1 は貯

蔵穴と考えられる。［周溝］幅 10～20 cm の周溝が壁際をほぼ全周する。

遺物（第 227・274 図、写真図版 208・241）

出土重量は古代土器 5,279 g、土製品 1 点（12.9 g）、焼成粘土塊 2 点（17.3 g）、金属製品 1 点（18.2 g）、鉄滓 2 点（24.8 g）である。うち、古代土器 2 点（a511～512）、金属製品 1 点（e49）を掲載した。

SI63 住居跡

遺構（第 83 図、写真図版 65）

［位置・重複関係］5 区-1、ⅢK13t グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北東部で SI64 を切る。［規模・形状］北辺 5.4 m、東辺 5.5 m、南辺 5.8 m、西辺 5.4 m のやや歪な隅丸方形を呈する。床面積は 25.6 m^2。深さは最大 51 cm。［堆積土］3 層に分層した。上半の黒色シルト 1 層と下半のにぶい黄橙色シルト 2 層に大別される。2 層は地山Ⅴ層と非常に近い層相だが、人為的な埋め戻しの可能性は低いと推測される。［壁・床面］壁面は全周とも外傾して立ち上がる。床面は中央がやや高まり硬化する。［カマド］北壁中央と東壁中央南寄りにそれぞれ 1 基設置される。前者を 1 号カマド、後者を 2 号カマドとした。残存状況により 2 号カマドから 1 号カマドへの作り替えが行われたと判断される。1 号カマドは両袖に芯材礫が埋め込まれ、燃焼部奥側に天井石が落下して横たわる。刳り抜き式の煙道はやや急角度で長く伸び、煙出しに至る。煙道天井面は被熱痕跡が著しい。煙出しは深さ 1.2 m に達し、上部から礫が複数出土した。2 号カマドは焼成面と煙道のみ確認される。燃焼部本体は作り替えに伴い破壊されたと考えられる。煙道は短く残存する刳り抜き式である。2 号カマド焼成面の位置は住居東壁から 1 m 以上の間隔があり、竪穴そのものを拡張した可能性が高いが、柱穴、周溝等には拡張の痕跡は確認できなかった。［柱穴］Pit 1～6 の 6 基がある。Pit 1・3・5・6 の 4 基で主柱穴を構成すると考えられる。いずれも底面に柱痕が観察された。このうち、Pit 2・4 は南壁に接する位置にある。［周溝］幅 15～30 cm の周溝が壁際を全周する。

遺物（第 227 図、写真図版 208）

出土重量は古代土器 6,855 g、縄文・弥生土器 4 g である。うち、古代土器 9 点（a513～521）を掲載した。

SI64 住居跡

遺構（第 84 図、写真図版 66）

［位置・重複関係］5 区-1、ⅢL14a グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。SI63 に南西部を切られる。また、全体に耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］全長が判明する東辺は 3.5m の規模である。全体では約 3.5m 四方の隅丸方形を呈すると考えられる。深さは最大 34 cm。［堆積土］3 層に分層される。下位ほど夾雑物は少なく、上位ほど粘質のある暗褐色土ブロックの混入が見られる。また壁際下位には、暗褐色粘土が周囲から流入した状態で堆積する。［壁・床面］壁面は外傾し立ち上がる。床面はほぼ平坦で硬くしまる。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖中程に芯材礫が直立して埋め込まれた状態で出土した。焼成面奥側中央に亜角礫がやや斜位で設置される。支脚礫が転倒したものと考えられる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井面の被熱痕跡が顕著に残る。［柱穴・土坑］カマド左脇に貯蔵穴の Pit 1 が検出された。底面の凹凸が著しい。

遺物（第 227 図、写真図版 208）

出土重量は、古代土器 1,464 g である。うち、2 点（a522～523）を掲載した。

SI65 住居跡

遺構（第 84 図、写真図版 67）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL13b グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。調査区西側境界にあり、明らかとなったのは東壁際のみである。規模と形状から見て竪穴住居跡と判断した。［規模・形状］規模は東辺で約 4.5 m と推定される。南東コーナーは鈍角気味で、隅丸方形を呈する可能性がある。深さは最大 25 cm。［堆積土］壁際の黒色土 2 層以外は 1 層黒褐色シルトで占められる。［壁・床面］壁面は外傾する。床面は残存範囲ではほぼ平坦である。［周溝］幅 20 cm 前後の周溝が壁際を巡る。

遺物

古代土器 532 g が出土した。図示可能な遺物は出土していない。

SI66 住居跡

遺構（第 85 図、写真図版 67・68）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL14c グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.6 m、東辺 3.6 m、南辺 3.9 m、西辺 3.7 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 12.4 m^2。深さは最大 26 cm。［堆積土］黒褐色シルト 1 層の単層である。黄褐色土ブロックが含まれる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］東壁のやや南寄りに設置される。燃焼部の残存状況は不良で、両袖は確認できない。円形の焼成面は強い被熱で上部に硬化還元部分が生じている。壁際から出土した礫は袖芯材であった可能性があるが、攪乱により移動している模様である。煙道は刳り抜き式で一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し底面は一段低い。［柱穴・土坑］カマド両脇のコーナーに不整形の土坑 Pit 1・2 がある。貯蔵穴と考えられる。［周溝］北壁際の一部に検出した。

遺物（第 227・269 図、写真図版 208・238）

出土重量は、古代土器 4,217 g、石器 1 点 346.4 g である。うち、古代土器 3 点（a524〜526）、石器 1 点（d59）を掲載した。

SI67 住居跡

遺構（第 85 図、写真図版 68・69）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL15c 付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.1 m、東辺 3.4 m、南辺 3.4 m、西辺 3.5 m のやや歪な方形である。床面積は 9.5 m^2。深さは最大 20 cm。［堆積土］顕著な 2 層構造である。下部 2 層黒色シルト堆積後の窪地を、1 層明黄褐色砂質シルトが水成堆積によって覆う。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面は中央に若干の高まりがあり硬化する。［カマド］北壁中央やや東寄りに 1 号カマド、東壁中央に 2 号カマドが設置される。前者の残存状況が良好で新段階のカマドと判断される。1 号カマドは右袖が芯材礫を伴い残存する。左袖は攪乱を受け消失している。刳り抜き式の煙道はやや急傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し上部からは礫が複数出土した。2 号カマドの燃焼部は焼成面のみの残存である。煙道底面は階段状に煙出しに向かい、先端が煙出し壁面を抉る状態となっている。攪乱と崩落により天井の有無は不明だが、奥側の深さから判断して刳り抜き式の可能性が高い。［柱穴・土坑］1 号カマド右側に隣接して Pit 1 の貯蔵穴がある。

遺物（第 228 図、写真図版 208・209）

出土重量は、古代土器 6,334 g である。うち、5 点（a527～531）を掲載した。

SI68 住居跡

遺構（第 86 図、写真図版 69・70）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL17c グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南東部に直径 1 m の攪乱坑がある。［規模・形状］北辺 5.0 m、東辺 5.0 m、南辺 5.1 m、西辺 5.1 m、整った方形を呈する。床面積は 22.2 m^2。深さは最大 48 cm。［堆積土］全体では 3 層に分層される。黒褐色シルトを主体として、中位の 2 層にはにぶい黄褐色土ブロックが多量に含まれる。中央部が窪み自然堆積の状態と捉えられる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、両袖に板状の角礫を芯材として並列させる。手前側の焼成面上位で V 字状に並ぶ扁平礫は、天井部芯材礫の落下したものの可能性が高い。焼成面奥側では右に円礫、左に土師器小型甕を倒立状態で設置している。二つ掛けの支脚と考えられる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井の被熱痕跡が著しい。煙出しは上半から礫が多数出土した。［柱穴・土坑］北東コーナーから北壁際に楕円形の Pit 1、東壁際に円形の Pit 2 を確認した。Pit 2 は黄褐色土ブロックで埋め戻された状態で、掘り方の一部を誤認している可能性がある。［周溝］カマド付近を除きほぼ全周する。［遺物出土状況］床面直上から拳大の生粘土塊が複数出土している。また堆積土中では完形に近い土器が複数ある。

遺物（第 228・229・274 図、写真図版 209・241）

出土重量は、古代土器 11,393 g、石器 1 点 8.9 g、金属製品 3 点 77.6 g、縄文・弥生土器 6 g である。うち、古代土器 16 点（a532～547）、金属製品 3 点（e50～52）を掲載した。

SI69 住居跡

遺構（第 87 図、写真図版 70・71）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL14e グリッド付近に位置する。Ⅲ～Ⅴ層上面で検出した。中央部を SD25、SK105、SK106 に切られる。北西部は調査区外に伸びる。また遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］全体形状は不明だが、東辺 4.4 m であり、5 m 弱四方の方形に近いと見られる。深さは最大 31 cm。［堆積土］2 層に分層される。黒褐色シルトを主としており黄褐色土ブロックが含まれる。［壁・床面］壁面は緩く立ち上がる。床面の残存部分は平坦である。［カマド］北壁中央付近に 2 基並列した状態で設置される。残存状況が良好な西側の 1 号カマドが新しく、東側の 2 号カマドが古いと判断した。1 号カマドは低い両袖が伸び、先端付近に芯材礫が散在する。焼成面奥側中央に亜角礫が支脚として埋め込まれている。煙道は精査手順の不手際により断面記録を欠くが、刳り抜き式の煙道が緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。2 号カマドは 1 号カマドと片方の袖を共有する位置にある。2 号カマドの左袖を残して 1 号カマドの右袖とした可能性が高い。焼成面は 1 号カマドより住居中央寄りにあるが煙道は長く伸びる。断面図では明確でないが刳り抜き式と捉えられる。［周溝］カマド付近を除き全周する周溝を検出しているが、幅広であり掘り方の一部を誤認した可能性がある。

遺物（第 229 図、写真図版 209）

出土重量は、古代土器 3,149 g である。うち、4 点（a548～551）を掲載した。

SI70 住居跡

遺構（第 88・89 図、写真図版 71・72）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL15d グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。中央部を SD25 に、北壁際を SK128 に切られる。また東壁側で SI71 を切る。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］規模は北辺 8.0 m、東辺 8.3 m、南辺 8.0 m、西辺 7.9 m でやや歪な方形を呈する。床面積は 61.6 m^2。深さは最大 30 cm。［堆積土］3 層に分層された。黒褐色シルトを主体とし、上部はにぶい黄褐色土ブロックの混入があり、下部は炭化物や焼土粒、生粘土塊が多めに含まれる。［壁・床面］壁は 4 辺共に急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦だが、中央部に若干の凹凸がある。［カマド］東壁の中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、亜円礫を芯材に直列状態で埋め込んだ両袖が伸びる。礫は人頭大で重量が 10 kg を超えるサイズのものが使用されている。焼成面の被熱は強いが、硬化還元部分は見られない。煙道は刳り抜き式で煙出しに向かいやや急傾斜で伸びる。煙出し内部からは礫が多数出土した。［柱穴・土坑］四隅に位置する Pit 2・3・4・5 の 4 本が主柱穴と見なされる。それぞれ断面では明瞭な柱痕跡が観察された。また南壁際にある Pit 8・9・10 は壁柱穴の可能性がある。カマド両脇の Pit 7・11 が貯蔵穴と考えられる。［周溝］カマド付近を除き全周する。幅、深さは 20 cm 前後である。

遺物（第 229・230・271 図、写真図版 210・239）

出土重量は、古代土器 10,847 g、石器・石製品 2 点 1080.5 g である。うち、古代土器 13 点（a552〜564）、石製品 1 点（d70）を掲載した。

SI71 住居跡

遺構（第 89 図、写真図版 72・73）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL16d グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。中央部を SD25、西側を SI70 に切られる。また全体に耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］重複により全体形状は不明だが、東辺 3.5 m、南辺 2.9 m であり、3 m 四方の隅丸方形と推測される。深さは最大 21 cm。［堆積土］焼土粒を含む黒褐色シルトの単層である。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面の残存部分はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況はやや不良で、右袖の大部分は攪乱で消失する。また壁際は SI70 の煙道による破壊を受ける。残存する左袖は低く伸び、右袖側には袖芯材礫が埋め込まれた状態で出土した。焼成面奥側中央には支脚の亜円礫が設置される。煙道は刳り抜き式でほぼ水平に煙出しに向かって伸びる。煙道天井は陥没し、黒褐色シルトが堆積する。［柱穴・土坑］東壁寄りに Pit 1 がある。［周溝］東壁、西壁際の一部で検出した。

遺物（第 230 図、写真図版 210）

出土重量は、古代土器 2,517 g である。うち、4 点（a565〜568）を掲載した。

SI72 住居跡

遺構（第 90 図、写真図版 73）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL16i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西側約 2/3 が調査区外である。［規模・形状］全長の判明する東辺は 5.9 m で、全体では約 6 m 四方の方形と推測される。深さは最大 38 cm。［堆積土］概ね黒色〜黒褐色シルトの堆積土で、6 層に分層される。このうち中位の 4 層には洪水堆積物と考えられるにぶい黄褐色土のブロックが含まれる。全体に中央が窪

む自然堆積の状況である。[壁・床面]壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。[カマド]検出範囲にはカマドはない。北壁際に設置されていた可能性が高いとみられる。[柱穴・土坑]壁際を中心に7基が分布する。南東コーナーに近いPit 5は深く、主柱穴を構成するものと考えられる。

遺物（第230・231・274図、写真図版210・241）

出土重量は、古代土器6,767g、金属製品3点77.1gである。うち、古代土器7点（a569～575）、金属製品3点（e53-a・53-b・54）を掲載した。

SI73住居跡

遺構（第90図、写真図版74）

[位置・重複関係]5区-1、ⅢL16aグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。[規模・形状]北辺3.2m、東辺2.7m、南辺3.2m、西辺2.8m、やや歪な東西方向に長い長方形である。床面積は7.6m^2。深さは最大33cm。[堆積土]3層に細分される。上半の1層黒色シルト層では褐色土ブロックが含まれるが、下半2層では夾雑物が少ない。壁際に暗色の黒色シルトが分布する。中央が窪み自然堆積と捉えられる。[壁・床面]壁面はほぼ直立して立ち上がる。床面は概ね平坦である。[カマド]北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、断片的な袖の高まりが確認された。焼成面奥側中央には、支脚として亜角礫が埋め込まれている。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。

遺物（第231図、写真図版211）

出土重量は、古代土器1,713gである。うち、3点（a576～578）を掲載した。

SI74住居跡

遺構（第91図、写真図版75）

[位置・重複関係]5区-1、ⅢL18gグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。耕作土がⅤ層中まで及ぶ地点で、全体の残存状況は不良である。また耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。[規模・形状]北辺4.8m、東辺4.7m、南辺4.9m、西壁4.7mの隅丸方形を呈する。床面積は20.6m^2。深さは最大15cm。[堆積土]床面上の1～3層を確認した。黒褐色シルトを主体とする。[壁・床面]壁面の立ち上がりはわずかしか確認できないが、外傾すると見られる。床面はほぼ平坦である。[カマド]北壁中央で検出された焼土がカマド燃焼部と推測される。煙道、煙出しにあたる位置を掘り下げたが、それらの痕跡は確認できない。[周溝]西壁際の一部に巡る。[柱穴・土坑]南壁際床面にPit 1がある。

遺物

古代土器420gが出土した。図示可能な遺物は出土していない。

SI75住居跡

遺構（第91・92図、写真図版76）

[位置・重複関係]5区-1、ⅢK13lグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。南壁部分をSD23に切られる。また北西コーナー付近は現代の攪乱を受ける。[規模・形状]全長の判明する北辺は4.1mで、全体では約4m四方の方形と捉えられる。深さは最大46cm。[堆積土]2層黒褐色シルトが大半を占める。上部には褐色土ブロックの集中部分である1層が乗る。[壁・床面]壁面は外傾して立ち上がる。床面は中央に若干の高まりがあり、やや硬化する。[カマド]東壁に2基が並列して設置される状態である。2基とも燃焼部の残存状況は不良だが、袖基部が残る南寄りの1号カマドが新しく、

東壁中央に位置する2号カマドが古いと判断した。1号カマドは燃焼部奥側中央に支脚の扁平礫がある。焼土下位では楕円形のPit 6を検出した。これは2号カマド右脇に位置し、古段階の貯蔵穴であったと考えられる。土坑底部付近から完形に近い土師器坏（P①）が出土した。煙道は溝状で煙出しに向かって伸びる。天井部は残存しないが、本来は刳り抜き式の可能性が高い。2号カマドは円形の焼成面と溝状に伸びる煙道を持つ。こちらも刳り抜き式か。［柱穴・土坑］前述のPit 6を含め6基がある。1号カマド右脇のPit 1は新段階の貯蔵穴、2号カマド左脇のPit 3も貯蔵穴の可能性が高い。

遺物（第231・261図、写真図版211・234）

出土重量は、古代土器7,101 g、土製品1点20.3 gである。うち、古代土器10点（a579～588）、土製品1点（c41）を掲載した。

SI76 住居跡

遺構（第92図、写真図版77）

［位置・重複関係］5区−1、ⅢK15tグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺2.5 m、東辺2.5 m、南辺2.4 m、西辺2.1 mのやや歪な方形を呈する。床面積は4.6 m^2。深さは最大40 cm。［堆積土］3層に細分される。黒褐色～黒色シルト主体で、堆積土下部は混入物の割合が大きい。［壁・床面］壁面はほぼ直立して立ち上がる。床面は平坦である。顕著な硬化面は見られない。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好である。両袖はシルト積み上げで作られ、芯材礫を伴わない。燃焼部内では焼成面奥側に左右2対で支脚の亜円礫が埋め込まれ、この上位にそれぞれ土師器甕（P③、P④）が原位置を留めた状態で出土した。右側のP③は小型完形品で、口縁開口部が内側を向く。左側のP④はやや大きめで、同様に口縁が内側を向くように横転している。煙道は攪乱により天井の痕跡がはっきりしないが、深さ等から見て刳り抜き式と推測される。底面は一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道内堆積土の3・4層は天井部分、もしくは陥没後堆積土の可能性がある。［遺物出土状況］カマド右側の北壁際床面に土師器赤彩球胴甕が2個体直立状態で出土した（P①・②）。P①は下半を欠き、破損部が床面に密着する。P②は底面まで残存し、カマド袖脇をやや掘りくぼめて置いた状態である。2点とも原位置を留めていると考えられる。

遺物（第231図、写真図版211）

出土重量は、古代土器4,850 gである。うち、4点（a589～592）を掲載した。

SI77 住居跡

遺構（第93図、写真図版78）

［位置・重複関係］6区−1、ⅢL17kグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体に耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺5.7 m、東辺5.3 m、南辺5.7 m、西辺5.2 mの隅丸方形を呈する。床面積は26.6 m^2。深さは最大33 cm。［堆積土］上半の夾雑物が少ない1層黒色シルトと、下半の焼土粒・褐色土ブロックを含む2層黒褐色シルトに分層される。［壁・床面］壁面は直立する低い立ち上がりが残存する。床面はやや起伏があり中央が若干硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好だが、耕作トレンチャーが複数縦断し、煙道中央や燃焼部が削平される。両袖には亜角礫が芯材として埋め込まれ、間に焼成面が形成される。煙道は溝状の浅い掘り込みとして残存しており、刳り抜き式かどうかは不明である。煙道底面はほぼ平坦で、煙出し下部がやや低く掘り込まれる。

遺物（第 232・260・275 図、写真図版 211・233・241）
出土重量は、古代土器 12,534 g、土製品 4 点 128.3 g、焼成粘土塊 1 点 3.7 g、石器 1 点 1400.0 g、金属製品 2 点 12.4 g である。うち、古代土器 5 点（a593～597）、土製品 4 点（c5・c9～11）、金属製品 2 点（e55～56）を掲載した。

SI78 住居跡

遺構（第 94 図、写真図版 79）
［位置・重複関係］6 区-1、ⅢL19h グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南側で SK134 に切られる。耕作土がⅤ層中まで及んでいる地点で、全体の残存状況は不良である。特に南東側は床面まで削平を受け、推定プランを図示した。また耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.0 m、東辺 2.6 m、南辺 3.0 m、西辺 2.6 m の隅丸長方形を呈する。床面積は 7.0 m^2 前後。深さは最大 19 cm。［堆積土］検出段階でほぼ床面が露出する状態であり、堆積土の残存は床面直上のわずかな部分に限られる。粘性の強い黒色シルトを主体に、暗褐色土ブロックが混入する。［壁・床面］残存する北西側の壁面は外傾し立ち上がる。床面は全体的に平坦でしまりがあるが、明瞭な硬化面は見られない。［カマド］北壁中央に設置される。耕作トレンチャーにより東半が失われている。燃焼部は楕円形の焼成面のみ確認される。煙道は溝状の掘り込み状態で残存する。底面には凹凸があり煙出し部分が一段低い。本来は刳り抜き式であった可能性があるが判断不能である。［柱穴・土坑］東壁際に Pit 1 がある。円筒形で深い土坑である。
遺物
出土重量は、古代土器 1,082 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI79 住居跡

遺構（第 94・95 図、写真図版 80）
［位置・重複関係］6 区-1、ⅢL19i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。耕作土がⅤ層中まで及んでいる地点で、全体の残存状況は不良である。［規模・形状］北辺 3.2 m、東辺 3.5 m、南辺 3.2 m、西辺 3.5 m の隅丸方形を呈する。床面積は 9.5 m^2。深さは最大 24 cm。［堆積土］断面記録を欠き堆積土の状態は不正確だが、締まりのやや強い黒色土で構成される。［壁・床面］残存する壁面は外傾し立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］東壁中央付近に 2 基のカマドを検出した。このうち南側を 1 号カマド、北側を 2 号カマドとする。残存状態が比較的良好な 1 号が新しく、2 号が古いと判断される。1 号カマドは燃焼部に円形の焼成面があり、その上位に天井の一部が陥没状態で残存する。焼成面奥側中央には支脚として土師器甕下半が倒立状態で設置される。煙道は刳り抜き式で、やや急傾斜で煙出しに向かって伸びる。2 号カマドは燃焼部にあたる位置に焼土粒と炭化物がやや集中する状況であったが、焼成面は残存しない。煙道は床面から一段高い位置から煙出しに向かってやや左にカーブしながら急傾斜で伸びる。精査手順の手違いにより正確な断面記録を欠くが、深さから見て刳り抜き式と推測される。煙道先端は煙出し底面より更に奥に掘り込まれる。［柱穴・土坑］南東コーナーに Pit 1 が検出された。浅い皿状で底面に凹凸がある。東側は住居壁面を抉る状態となっている。
遺物（第 232 図、写真図版 212）
出土重量は、古代土器 1,018 g である。うち、1 点（a598）を掲載した。

SI80 住居跡

遺構（第 95・96 図、写真図版 81）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅢL19k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 5.7 m、東辺 5.0 m、南辺 5.5 m、西辺 5.2 m の隅丸方形を呈する。床面積は 26.2 m^2。深さは最大 24 cm。［堆積土］主体は炭化物と褐色土ブロックを含む黒褐色シルトで、壁際に焼土ブロックが混入する。中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面は概ね平坦で、中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央付近に 2 基のカマドが並列する。残存状況が良好で新期と判断した東側を 1 号カマド、残存状況が不良で旧期と判断した西側を 2 号カマドとする。1 号カマドは両袖がやや開き気味に伸び、先端に芯材として土師器甕上半部分を倒立状態で設置する（P①・②）。土器の後方には角礫が埋め込まれる。燃焼部奥側のやや右寄りに、これも土師器甕上半が倒立状態で出土する。支脚として設置されたものと考えられる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道中央の天井は、ほぼ完全に崩落陥没しており、上部に黒色土が堆積する。煙出し底面は煙道より 30 cm ほど深い。2 号カマドの燃焼部は焼成面のみ残存する。被熱は強く上部に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、1 号カマド同様にごく緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。こちらは天井部が崩落せず完存する。煙出し底面は煙道より 20 cm ほど深い。［柱穴・土坑］Pit 1～4 の 4 基がある。北東コーナーの Pit 1 では堆積土中に焼土ブロックが多量に含まれており、位置から見て貯蔵穴と考えられる。南壁際中央の Pit 2 は壁柱穴か。［焼土］床面中央部西寄りに現地性の焼土 1 がある。上面に硬化還元部分が生じている。［周溝］幅 10～25 cm の周溝が壁際を全周する。

遺物（第 232・275 図、写真図版 212・242）

出土重量は古代土器 5,958 g、金属製品 1 点 5.9 g である。うち、古代土器 7 点（a599～605）、金属製品 1 点（e57）を掲載した。

SI81 住居跡

遺構（第 96・97 図、写真図版 82）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅢL19l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.3m、東辺 4.1m、南辺 4.4m、西壁 3.9m の隅丸方形を呈する。床面積は 15 m^2。深さは最大 47 cm。［堆積土］3 層に分層される。下半の 2 層より上半の 1 層がやや明色で黄褐色土ブロックの混入が多い。壁際下部には混入物の少ない 3 層が堆積する。中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は概ね外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、中央が硬化する。［カマド］北壁中央のやや東寄りに設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好である。両袖が低く伸び、右袖中間付近には土師器甕の底部欠損個体を倒立で据え、芯材としている。左袖では複数の扁平礫が芯材として埋め込まれる。焼成面奥側に複数の土器片が出土しているが、カマドに掛けられた土師器甕の破片と見られる。煙道は刳り抜き式で、傾斜して煙出しに向かって伸びる。煙道天井の一部は被熱変色する。［柱穴・土坑］南壁際中央の Pit 1、床面中央の柱穴 Pit 2、南西コーナーにある皿状の土坑 Pit 3 がある。このうち Pit 1 では正立状態の土師器鉢（No.a608）とその内部に倒立状態の土師器坏（No.a606）が組み合った状態で出土している。意図的に埋設されたと考えられる。Pit 2 はロクロピットの可能性がある。［周溝］幅 10～20 cm の周溝が壁際を全周する。

遺物（第 232・233 図、写真図版 212）

出土重量は古代土器 8,115 g である。うち、5 点（a606～610）を掲載した。

SI82 住居跡

遺構（第 97 図、写真図版 83）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅢL20o グリッド付近に位置する。この区域は耕作深度が大きく、遺構の大半は削平されており、床面の一部とカマド燃焼部の焼成面、煙道下部のみが確認された。掘り方堆積土の分布範囲から凡そのプランを推定図示している。［規模・形状］北辺 3.0 m 前後と推測される。［堆積土］ごく一部にのみ残存しており、正確な状況は不明である。［床面］Ⅴ層を掘り込んだ掘り方堆積土を床面としている。平坦と見られる。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部本体は削平を受け、焼土の下部が残存する。周辺に角礫が複数あり、袖芯材礫の一部と見られる。煙道は煙出し側の下部が掘り込みとなって確認された。天井の有無は不明である。［遺物］出土遺物はない。

SI83 住居跡

遺構（第 97 図、写真図版 83）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅣL11 グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.7 m、東辺 3.1 m、南辺 3.6 m、西壁 3.3 m とやや東西に長い隅丸方形を呈する。床面積は 9.9 m^2。深さは最大 27 cm。［堆積土］黄褐色土ブロックが多量に含まれる黒褐色シルトの単層である。［壁・床面］壁面の残存は低いが、ほぼ外傾して立ち上がる。床面は平坦で、特に硬化範囲は見られない。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、両袖は失われている。焼成面は楕円形で比較的強い被熱で赤変する。また左袖基部にあたる位置に楕円形の礫据え方痕跡が小穴で確認された。煙道は先端の煙出し下部のみ残存する。

遺物

古代土器 385 g が出土した。図示可能な遺物は出土していない。

SI84 住居跡

遺構（第 98 図、写真図版 84）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅢL19n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 4.9 m、東辺 4.4 m、南辺 4.4 m、西壁 4.5 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 19 m^2。深さは最大 23 cm。［堆積土］確認されたのは床面直上の暗褐色シルト 1 層である。［壁・床面］外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦だが中央部に若干の凹凸がある。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況はやや不良で、低く両袖基部が伸びる。左袖の先端に芯材礫が埋め込まれる。焼成面の被熱は強く、上部に硬化還元部分が生じる。煙道は溝状の掘り込みとして検出したが、煙道堆積土中に焼土化した天井部の崩落土が認められることから、刳り抜き式と考えられる。煙出し部分の下部から礫が複数出土した。［柱穴］Pit 1〜8 の 8 基がある。四隅に近い位置にある Pit 1〜4 が主柱穴を構成する。深さは 30 cm 前後と浅い。南壁際に Pit 5〜8 が集中するが、これらの性格は不明である。［周溝］幅 10〜25 cm の周溝が壁際を全周する。

遺物（第 233 図、写真図版 212）

出土重量は古代土器 2,470 g、焼成粘土塊 6 点 28.0 g である。うち、古代土器 5 点（a611〜615）を掲載した。

SI85 住居跡

遺構（第 98 図、写真図版 85）

［位置・重複関係］6区−1、ⅣL3r グリッド付近に位置する。この区域は耕作深度が大きく、遺構の上部は削平される。西側は平成26年度調査区、東側は平成27年度調査区にあたる。［規模・形状］北辺3.1m、東辺3.4m、南辺3.4m、西辺3.1mのやや歪な方形を呈する。床面積は8.8m^2。深さは最大25cm。［堆積土］焼土粒、炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面は概ね平坦である。［カマド］東壁南寄りに設置される。残存状況は不良で、燃焼部焼成面、および袖基部と推測される高まりを検出したのみである。煙道、煙出しは確認されない。［柱穴・土坑］カマド左側にあたる東壁際中央にPit 1がある。円形で貯蔵穴と推測される。

遺物

出土重量は、古代土器847gである。図示可能な遺物は出土していない。

SI86 住居跡

遺構（第99図、写真図版85・86）

［位置・重複関係］6区−1、ⅣL3t グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺4.2m、東辺4.9m、南辺4.4m、西辺4.7mの南北にやや長い隅丸方形を呈する。東壁の一部が張り出すが、これは壁面上部の崩落によるものと考えられる。床面積は18.2m^2。深さは最大42cm。［堆積土］4層に分層される。黒褐色シルト主体で、中央が窪み自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で全体的に硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、袖と天井部が崩落した状態で検出された。両袖には亜円礫が芯材礫として外側に傾いた状態で埋め込まれる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道内堆積土には焼土粒、炭化物の混入が著しい。煙道奥側は煙出し壁面を抉り込む状態となっている。［柱穴・土坑］Pit 1〜8の8基を検出した。径40〜50cm程で、Pit 4を除けば深さは20cm程度と浅いものである。いずれも壁際にあり、主柱穴配置を明確にはできない。

遺物（第233図、写真図版212）

出土重量は、古代土器2,403g、焼成粘土塊1点18.9g、石器1点80.3gである。うち、古代土器6点（a616〜621）を掲載した。

SI87 住居跡

遺構（第100図、写真図版86）

［位置・重複関係］6区−1、ⅣM2b グリッド付近に位置する。西半は調査区外にある。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］東辺は3.6mで、隅丸方形を呈すると推測される。深さは最大24cm。［堆積土］黒褐色シルトの堆積土で、下部2層には黄褐色土ブロックが含まれる。［壁・床面］壁面の残存はわずかで、立ち上がりの状態は不明である。床面のレベルは基盤礫層に達しており、床面には多数の礫が露出している。［カマド］東壁中央のやや南寄りに設置される。燃焼部残存状況は不良で、焼成面と煙道下部が確認された状態である。煙道構造は不明。煙道先端の煙出しは一段深く掘り込まれる。［柱穴］北壁際のPit 1と北東隅のPit 2を検出した。Pit 1は深く、主柱穴を構成する可能性がある。

遺物（第233・275図、写真図版213・242）

出土重量は、古代土器1,350g、金属製品1点31.0gである。うち、古代土器4点（a622〜625）、金属製品1点（e58）を掲載した。

SI88 住居跡

遺構（第 100 図、写真図版 87）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢL20e グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西半は平成 26 年度調査、東半は平成 27 年度調査において精査を行った。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 5.2 m、東辺 4.2 m、南辺 5.0 m、西壁 4.2 m で、やや東西に長い長方形である。床面積は 19.1 m^2。深さは最大 24 cm。［堆積土］確認されたのは床面直上の黒褐色シルトを主体とする堆積土である。［壁・床面］壁面はわずかな立ち上がりを確認した。床面は若干の起伏があり、中央が硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、不整形の焼成面のみが検出された。煙道はごく浅い溝状の掘り込み底部として残存し、煙出し下部が一段低く掘り込まれる。本来、刳り抜き式であったかどうかは判断できない。［柱穴］Pit 1〜3 の 3 基がある。中央部の Pit 1 は堆積土中に焼土粒の含有が目立つ。［周溝］東壁・南壁際に幅 10〜20 cm の周溝が巡る。西側では検出段階での見落としがあり得る。

遺物

出土重量は、古代土器 1,405 g、焼成粘土塊 1 点 4.4 g である。

SI89 住居跡

遺構（第 101・102 図、写真図版 88）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢL19h グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーの攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 8.1 m、東辺 7.7 m、南辺 7.9 m、西辺 8.0 m の大型方形である。床面積は 59.0 m^2。深さは最大 47 cm。［堆積土］1 層の黒褐色シルトが主体である。床面直上には貼床の可能性がある褐色粘土質シルト 2 層の分布が観察される。［壁・床面］壁面は低く直立する立ち上がりを確認した。床面は平坦で、中央が硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、円形の焼成面が残る状態である。奥側左寄りに、支脚の棒状角礫が埋め込まれた状態で出土した。煙道は溝状の掘り込みとして検出され、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。堆積土の状態からは煙道構造の特定は困難だが、先端部が深くなることから本来は刳り抜き式であった可能性が高い。煙道中央部から土師器甕大破片が出土する。［柱穴・土坑］Pit 1〜8 がある。このうち、各コーナー付近に位置する Pit 1・2・4 と、南東部の南壁際にある Pit 3 を加えた 4 基が主柱穴を構成する。いずれも底面に柱痕が観察される。Pit 3 は竪穴上端からはみ出す状態で掘り込まれる。西壁際の Pit 5 は掘り方の一部を誤認した可能性が高い。［周溝］ほぼ全周して周溝が巡る。北半の一部では断続的になっている。この他、床面中央部に南北方向の溝を 3 条検出した。貼床がなされていないことから、居住時点で開口していた可能性が高いと考えられる。

遺物（第 233・234・261 図、写真図版 213・234）

出土重量は、古代土器 5,306 g、金属製品 1 点 54.5 g である。うち、古代土器 6 点（a626〜631）、土製品 1 点（c59）を掲載した。

SI90 住居跡

遺構（第 103・104 図、写真図版 89）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢL18e グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北西部を平成 26 年度調査、東半を 27 年度調査で精査した。南西部では SI107 をかさ上げ、拡張した状態である。また南壁の一部を SD25 に切られる。遺構全体が耕作トレンチャーの攪乱を受ける。［規模・形状］北

辺 8.0 m、東辺 7.9 m、南辺 7.8 m、西辺 7.7 m の大型方形である。床面積は 58.0 m^2 で、北東に隣接する SI89、西に位置する SI70 とほぼ同規模である。深さは最大 58 cm。［堆積土］全体には 1 層の黒褐色シルトが主体である。褐色土ブロックの含有が多く、南東部では焼土ブロック、炭化材の集中が見られる（第 104 図上段）。［壁・床面］壁面は低く直立する立ち上がりである。床面は平坦で中央部が硬化する。カマド周囲と Pit 3・4 を取り囲むように黄褐色土の分布があり、局所的に貼床がなされていると考えられる。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、両袖が細く伸びる。右袖は大小の亜角礫と土師器甕破片を芯材に埋め込んだ状態、左袖は対照的に芯材礫が少なく基部側に土師器甕を倒立状態で埋め込んでいる。焼成面奥側左寄りに支脚の礫が設置されている。煙道は溝状の掘り込みとして検出された。緩い傾斜で煙出しに向かって伸びており、本来は刳り抜き式であった可能性が高い。堆積土中には焼土ブロックが多量に含まれる。［柱穴・土坑］Pit 1～7 の 7 基がある。このうち四隅に近い位置にある Pit 1～4 は開口部径、深さとも 90 cm 前後に達し、断面で柱痕跡が観察される主柱穴である。Pit 3 では上部に粘土塊がある。この他、中央に Pit 6・7、南壁際に Pit 5 があるがこれらの性格は不明である。［周溝］平面図に図示した壁際の溝状の落ち込みは掘り方の一部である。周溝は確認していない。

遺物（第 234・235・265・278 図、写真図版 213・214・236・242）

出土重量は、古代土器 18,300 g、石器 3 点 416.3 g、金属製品 1 点 49 g である。うち、古代土器 30 点（a632～661）、金属製品 1 点（e60）、石器 1 点（d34）を掲載した。

SI91 住居跡

遺構（第 105 図、写真図版 90）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅣM5d グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。この区域は耕作深度が大きく遺構上部は削平される。［規模・形状］北辺 4.0 m、東辺 4.8 m、南辺 4.1 m、西壁 4.0 m の隅丸方形を呈する。床面積は 15 m^2。深さは最大 14 cm。［堆積土］褐色土ブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。［壁・床面］壁面はわずかな立ち上がりのみ残存する。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、焼成面と煙道下部を確認した。焼成面奥側に円形の小ピットがあり、支脚設置痕跡もしくは袖芯材礫設置痕跡と見られる。煙道は緩い傾斜で伸びる。煙道内堆積土上部は天井部崩落ブロックの可能性があり、刳り抜き式と考えられる。

遺物

古代土器 896 g が出土した。図示可能な遺物は出土していない。

SI92 住居跡

遺構（第 105・106 図、写真図版 91）

［位置・重複関係］4 区−2、ⅢK13i グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。調査区東側境に位置し、煙道先端は調査区外にある。［規模・形状］北辺 5.2 m、東辺 5.8 m、南辺 4.5 m、西辺 5.6 m の南北に長いやや歪な長方形を呈する。床面積は 25.6 m^2。深さは最大 50 cm。［堆積土］2 層に分層される。黒褐色シルト主体である。［壁・床面］壁面は直立して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］東壁南寄りに 2 基設置される。両者とも燃焼部の残存状況は不良で焼成面のみ確認された。右側にあり焼成面が住居壁面に近いものを 1 号カマド、左側で焼成面が住居壁面から遠いものを 2 号カマドとする。焼成面の被熱はどちらも強く、上部に硬化還元部分が生じる。1 号カマドの煙道は溝状の掘り込みとして検出した。煙道先端と煙出しは調査区外に伸びる。2 号カマドの煙道は精査段階

での手違いにより正確な形状を把握していないが、1号カマドと同様に溝状の掘り込みである。燃焼部の位置関係により2号カマドから1号カマドへの作り替えが想定される。［柱穴・土坑］壁際と中央寄りに合計9基を検出した。このうちPit 1～4が方形に配置され、主柱穴を構成する。南壁際のPit 5・6は補助的な柱穴か。1号カマド右側の住居南東コーナーにあるPit 7、住居北東コーナーのPit 8は貯蔵穴と推測される。

遺物（第235図、写真図版214）

出土重量は、古代土器7,175 g、縄文・弥生土器1 gである。うち、古代土器3点（a662～664）を掲載した。

SI93 住居跡

遺構（第106図、写真図版92）

［位置・重複関係］4区-2、ⅢK12bグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。北東側がSD18に切られる。また遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］南辺4.3 m、西辺4.0 mのやや東西に長い長方形を呈する。北東コーナー部分の推定プランに基づけば北辺4.7 m、東辺4.1 m。床面積は14.7 m^2。深さは最大23 cm。［堆積土］褐色土ブロックを含む黒褐色シルト1層が全体を占める。［壁・床面］壁面は残存状況が不良で低い立ち上がり。床面は耕作攪乱が著しい。残存部分は概ね平坦である。［カマド］北壁中央付近に希薄な焼成面が確認された。カマド燃焼部の可能性が高いと見られるが、攪乱により部分的な残存であり、断定はやや躊躇せざるを得ない状況である。また煙道も検出されなかった。［柱穴・土坑］床面に4基のPitを検出した。このうち北東部に位置するPit 1は長径2 m近い規模を持ち、住居内貯蔵穴としては非常に大型であるため、別遺構の可能性もある。

遺物（第235図、写真図版214）

出土重量は、古代土器2,698 g、鉄滓2点284.2 g、羽口1点11.3 gである。うち、古代土器3点(a665～667)、羽口1点（15）を掲載した。

SI94 住居跡

遺構（第107図、写真図版93）

［位置・重複関係］6区-2、ⅣM4aグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。［規模・形状］北辺4.0m、東辺3.9m、南辺3.9m、西辺3.8mの方形を呈する。床面積は13.7 m^2。深さは最大51 cm。［堆積土］3層に分層される。このうち床面全体を覆う3層は褐色の細砂、砂質シルトで、洪水堆積物の層相である。［壁・床面］壁面はほぼ直立して立ち上がる。床面は平坦である。［カマド］東壁の中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、袖は確認できない。奥側には天井部芯材と推測される長方形の礫が横位で出土した。焼成面の被熱は比較的強い。煙道は刳り抜き式で、やや急な傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し上部からは礫が多数出土した。［土坑］北東隅にあるPit 1は形状から貯蔵穴と推定される。柱穴は確認していない。

遺物（第235・236図、写真図版214）

出土重量は、古代土器4,571 g、焼成粘土塊1点33.9 gである。うち、古代土器9点（a668～676）を掲載した。

SI95 住居跡

遺構（第 108 図、写真図版 94）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM6h グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北側で SI96 を切る。また西壁際の一部が SK117 に切られる。東壁部分は耕作トレンチャーの攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 7.2 m、東辺 6.9 m、南辺 6.4 m、西壁 6.9 m の隅丸方形を呈する。床面積は 42.3 m^2。深さは最大 27 cm。［堆積土］2 層に分層される。下部は暗褐色シルト、上部の東側には黒色シルト層が堆積する。［壁・床面］壁面は低い立ち上がりを検出した。床面は概ね平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で袖は確認されない。焼成面上位には角礫が集中しており、袖や天井部芯材礫が散乱した状態と考えられる。燃焼部奥側には支脚として土師器甕下半が倒立状態で据えられる。煙道は低い溝状の掘り込みとして確認された。刳り抜き式であった可能性があるが断定はできない。煙道底面は水平に伸びる。［柱穴・土坑］四隅から等距離にある Pit 2～5 の 4 基が主柱穴を構成する。いずれも深さ 60 cm 以上に達する。他に南西コーナー付近に浅い Pit 1・6 がある。

遺物（第 236・275 図、写真図版 214・215・242）

出土重量は古代土器 21,496 g、焼成粘土塊 2 点（33.9 g）、石器・石製品 1 点（37.6 g）、金属製品 3 点（73.3 g）である。うち、古代土器 17 点（a677～693）、金属製品 3 点（e61～63）を掲載した。

SI96 住居跡

遺構（第 109 図、写真図版 95）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM6i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南側を SI95 に切られる。［規模・形状］北辺 3.4 m の隅丸方形を呈する。深さは最大 26 cm。［堆積土］暗褐色土ブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。［壁・床面］低く外傾して立ち上がる。床面は礫層上面で、ほぼ平坦である。［カマド］北壁中央やや西寄りに設置される。燃焼部の残存状況はやや不良で、右側の袖が低い高まりとして確認された。焼成面左奥側には土師器小型甕が横転状態で出土する。左側袖の芯材として設置された可能性がある。煙道は浅い溝状の掘り込みとして検出した。刳り抜き式であった可能性があるが断定はできない。［柱穴］北東・北西コーナー付近に浅い 2 基の小 Pit がある。

遺物（第 236 図、写真図版 215）

古代土器 950 g が出土した。うち、18 点（a694・a695）を掲載した。

SI97 住居跡

遺構（第 109 図、写真図版 95）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM5i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。調査区西側境にあり、大部分が調査区外のため南東側の一部のみ精査を行った。コーナーの形状から住居跡と判断している。［規模・形状］平面規模は不明、深さは最大 10 cm。［堆積土］断面図記録を欠き正確な状態は不明だが、概ね黒褐色シルトの堆積土である。［壁・床面］壁面は調査区際の土層観察では直線的に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド他］精査範囲内では検出していない。［遺物］出土遺物はない。

SI98 住居跡

遺構（第 110・111 図、写真図版 96）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM7j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西壁の一部が

SK136 に切られる。また南東コーナー付近、北壁際カマド脇に径 1 m を超す攪乱坑がある。［規模・形状］北辺 8.5 m、東辺 7.9 m、南辺 8.3 m、西辺 8.4 m の規模を持つ大型の隅丸方形を呈する。床面積は 59 m^2。深さは最大 48 cm。［堆積土］細かく分層したが、基本的には上部の黒色～黒褐色シルト層群、中位の褐色～灰黄褐色砂質シルト層群、下部から床面にかけての黒色～黒褐色シルト層群に大別される。中位の砂質土は洪水堆積物の可能性が高い。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦である。中央部は掘り方堆積土上面を床面としており硬化が見られる。壁際は礫層上面が床面で若干の凹凸がある。［カマド］北壁中央に 2 基が並列して設置される。残存状況の良好な東側の 1 号カマドが新期、残存状況が不良な西側の 2 号カマドが旧期と判断した。1 号カマドは両袖が短く伸びる。袖内部には亜角礫が芯材として埋め込まれる。焼成面左側から土師器甕胴部破片が出土した。支脚として設置された可能性がある。煙道は天井崩落ブロックが確認できることから刳り抜き式と判断され、ほぼ水平に煙出しに向かって伸びる。2 号カマドは 1 号カマドよりやや内側に燃焼部が位置する。両袖は残存せず焼成面のみが検出された。煙道は 1 号カマドと同様に水平に伸びる溝状の掘り込みで、天井崩落ブロックの存在からこれも刳り抜き式と判断される。［柱穴］Pit 1～6 の 6 基を検出した。このうち直径が 80 cm を超え、深さも 60 cm 前後に達する Pit 1～4 が主柱穴を構成する。Pit 5・6 はそれぞれ、Pit 3・4 に接する位置にある補助的な柱穴と考えられる。［床面溝群］床面中央部から幅 30～40 cm、深さ 10～20 cm の小溝がほぼ等間隔で 6 条検出された。主柱穴に囲まれた区画に掘られており、床面の排水、除湿等が目的とされた可能性がある。

遺物（第 237・275 図、写真図版 215・242）

出土重量は古代土器 42,633 g、焼成粘土塊 1 点（4.5 g）、石器・石製品 2 点（81.7 g）、金属製品 4 点（40.4 g）である。うち、古代土器 18 点（a696～713）、金属製品 4 点（e64～67）を掲載した。

SI99 住居跡

遺構（第 112・113 図、写真図版 97・98）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM7f グリッド付近に位置する。検出面はⅤ層上面。西壁際の一部を平成 26 年度調査で検出、登録、大部分は平成 27 年度調査で精査を行った。北西コーナー付近で SX73、北東コーナー付近で SX79、南壁中央部で SX87 にそれぞれ切られる。カマド付近で SX95 を切る。［規模・形状］北辺 8.1 m、東辺 8.3 m、南辺 9.0 m、西壁 8.3 m の規模を持つ大型の隅丸方形を呈する。床面積は 64 m^2。深さは最大 57 cm。［堆積土］5 層に分層される。堆積土の主体となる 1～3 層は、洪水堆積層と見られる黄褐色土を黒褐色土が挟む。3 層は焼土・骨・炭化物を多量に含み、これは南東側に顕著である。4～5 層は夾雑物の少ない黒色～黒褐色シルト層で壁際に堆積する。［壁・床面］壁面は全周とも急角度で立ち上がる。床面は西側では礫層上面、中央から東側では掘り方上に貼床を設置している。概ね平坦で中央には硬化部分が観察される。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、左袖先端には亜角礫の芯材礫が出土した。右袖中央部では土師器甕上半が芯材となる。燃焼部奥側やや右寄りに土師器坏が伏せた状態で支脚として設置される。煙道は刳り抜き式で緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道内堆積土の上半 7 層は竪穴堆積土 2 層から連続する洪水堆積層で、一定程度煙道が埋没した後に燃焼部側から流入した状況を示している。煙道奥側には天井部の被熱痕跡が観察される。煙出しからは上部を中心に拳大の亜円礫が密集して出土した。［柱穴・土坑］11 基が検出された。このうち、四隅に位置する Pit 2・4・5・6 が主柱穴と見られる。Pit 5 底面には柱痕が残る。Pit 3・7 は中間に設置された補助的な柱穴か。南東部に集中する Pit 1・8・10・11 については性格不明である。［周溝］西壁際を除き、断続的にコの字状に周溝が巡る。

幅が広く、最大で 50 cm に達する。南側では周溝に平行して内側に全長 2 m の溝が 1 条検出された。

遺物（第 237～242・265・269・270・275 図、写真図版 215～220・236～239・242）

出土遺物が非常に多いのが特徴である。出土重量は古代土器 130,016 g、焼成粘土塊 1 点 2.5 g、石器・石製品 11 点 6514.1 g、金属製品 6 点 115.5 g である。うち、古代土器 92 点（a714～805）、石 器6 点（d35・d36・d60～62・d64）、金属製品 6 点（e68～73）を掲載した。人工遺物に加えて、堆積土中、特に 1～3 層からは全体的に獣骨の出土も多い。中央部 3 層では馬歯列が出土した。

SI102 住居跡

遺構（第 114 図）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢK15q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西半を平成 26 年度調査、東半を 27 年度調査で精査した。北西部を SI109 に切られる。［規模・形状］東辺 4.5 m、南辺 3.5 m でやや南北に長い長方形を呈する。深さは最大 21 cm。［堆積土］均質な黒色シルトで構成されており、中位に To-a と見られる灰白色のテフラブロックが介在する。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］精査範囲には痕跡が確認されず、西壁際に設置されていた可能性がある。

遺物

出土重量は、古代土器 310 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI103 住居跡

遺構（第 114 図、写真図版 98）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅣM5c グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺 4.8 m、東辺 5.0 m、南辺 4.8 m、西壁 4.8 m の歪な方形を呈する。北壁と南壁の角度は約 10° のずれがある。床面積は 20 m^2。深さは最大 32 cm。［堆積土］黒褐色シルトを主体とする。［壁・床面］壁面は概ね直立して立ち上がる。礫層上面を床面としており、平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、右袖は確認できない。左袖はシルト積み上げで短く残存する。煙道は削平されており、煙出しの下部のみが検出された。

遺物（第 243・275 図、写真図版 220・242）

出土重量は古代土器 11,274 g、焼成粘土塊 1 点 2.4 g、金属製品 1 点 17.7 g である。うち、古代土器 6 点（a806～811）、金属製品 1 点（e74）を掲載した。

SI104 住居跡

遺構（第 115 図、写真図版 99）

［位置・重複関係］4 区−2、ⅢK13i グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。調査区東側境にあり、遺構の大部分は調査区外となる。西壁周辺のみ精査した。［規模・形状］西辺 3.6 m の規模があり、全体は 3.5 m 四方ほどの方形と推測される。深さは最大 10 cm。［堆積土］黒褐色シルトの 1 層が堆積土である。［壁・床面］壁面はほぼ直立して立ち上がる。床面の検出範囲は概ね平坦である。［付属施設］カマド、柱穴、周溝等の施設は精査範囲では検出していない。

遺物（第 243 図、写真図版 220）

出土重量は、古代土器 206 g である。うち、2 点（a812～813）を掲載した。

SI105 住居跡

遺構（第 115 図、写真図版 99）

［位置・重複関係］4 区−2、ⅢK13c グリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で検出した。調査区東側境にあり、遺構の大部分は調査区外となる。西壁際と北壁際の一部のみ精査した。複数の耕作攪乱土坑に切られる。［規模・形状］西辺全長が 4.3 m である。全体では 4 m 余り四方の方形と推測される。深さは最大 14 cm。［堆積土］1 層堆積土は黒褐色シルト層で、褐色土ブロックを含む。［壁・床面］壁面は床面からほぼ直立して立ち上がる。床面の検出範囲は概ね平坦である。［付属施設］カマド、柱穴、周溝等の施設は検出されなかった。

遺物（第 243・261・275 図、写真図版 221・234・242）

出土重量は、古代土器 700 g、土製品 1 点 22.1 g、金属製品 1 点 4.5 g である。うち、古代土器 1 点（a814）、土製品 1 点（c42）、金属製品 1 点（e75）を掲載した。

SI106 住居跡

遺構（第 115 図、写真図版 100）

［位置・重複関係］6 区−1、ⅢK18j グリッド付近に位置する。耕作の削平により残存状況は全体に不良である。［規模・形状］北辺 2.1 m、東辺 2.2 m、南辺 1.9 m、西辺 2.2 m の小規模な方形を呈する。床面積は推定で 4.0 m^2。深さは最大 16 cm。［堆積土］1 層黒褐色土は一部に焼土粒を含む。［壁・床面］残存する西壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は概ね平坦でやや硬化する。［カマド］東壁際にある焼土がカマド燃焼部と見られる。熱変色はわずかで、焼成は弱い状態である。煙道は削平され残存しない。煙出しはピット下部のみ検出した。［土坑］南壁際に楕円形の Pit 1 がある。堆積土中から少量の土器片が出土する。

遺物

出土重量は、古代土器 142 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI107 住居跡

遺構（第 116 図、写真図版 100・101）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢL18d グリッド付近に位置する。全体が SI90 の床下にあり、また南西部では SD25 に切られる。北西側を平成 26 年度調査、南東側を 27 年度調査において精査を行った。［規模・平面形］残存する北辺は 3.5 m、東辺は 3.7 m で概ね 3.5 m 四方の方形と見られる。深さは最大 25 cm。［堆積土］主体となる 2 層は夾雑物の少ない黒褐色シルト層である。上位 SI90 の貼床褐色土が部分的に確認される。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面は概ね平坦だが、中央部で小さい起伏が目立つ。西側では上位 SI90 の掘り方掘削により、床面が削平され残存しない範囲がある。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖がハの字状に開いて伸びる。芯材に小さめの亜円礫が複数埋め込まれる。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し部分からは礫が多数出土した。［柱穴・土坑］カマド左脇に Pit 1、住居北東部に Pit 2 がある。Pit 1 は貯蔵穴状で、内部に焼土ブロックが集中する。

遺物（第 243 図、写真図版 221）

出土重量は、古代土器 934 g、焼成粘土塊 1 点 9.8 g である。うち、古代土器 3 点（a815〜817）を掲載した。

SI108 住居跡

遺構（第 116 図、写真図版 101・102）

［位置・重複関係］5 区−2、ⅢK11k グリッド付近に位置する。北東部で SI111 を切る。全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・平面形］北辺 3.8 m、東辺 3.3 m、南辺 3.6 m、西辺 3.3 m のやや東西に長い方形を呈する。床面積は 11.5 m^2。深さは最大 28 cm。［堆積土］均質な黒色シルト 1 層を主体として、床面付近には褐色土ブロックが集中する。［壁・床面］壁面は下部のわずかな立ち上がりを確認した。床面は概ね平坦である。［カマド］北壁中央やや西寄りに設置される。燃焼部の残存状況は不良で、住居跡北壁よりやや張り出す位置に円形の焼成面が形成されている。煙道は緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる溝状の掘り込みとして検出されたが、堆積土中に天井部の崩落ブロックと考えられる褐色土層が確認されることから、本来は刳り抜き式であったと判断される。

遺物（第 243 図、写真図版 221）

出土重量は、古代土器 589 g である。うち、1 点（a818）を掲載した。

SI109 住居跡

遺構（第 117 図、写真図版 102）

［位置・重複関係］5 区−1、ⅢL18d グリッド付近に位置する。SI61 の床面精査段階で本住居跡に伴うカマドの一部を検出した。竪穴本体は SI61 に切られ全く残存しない。［規模・平面形］住居跡としての規模、形状は不明である。カマドの方向から見て軸方位は SI61 に近いと考えられる。［カマド］燃焼部の焼成面下部と煙道奥側を検出した。焼成面は上部を SI61 に切られ、強い熱変色の焼土下部が残る。煙道はやや急傾斜で煙出しに向かって伸びる刳り抜き式の構造で、煙出し内部からは円礫が多数出土した。煙出し上部に SI61 の燃焼部が形成されている。

遺物

出土重量は、古代土器 75 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI110 住居跡

遺構（第 117・118 図、写真図版 102・103）

［位置・重複関係］5 区−2、ⅢK13k グリッド付近に位置する。南側を SD26 と現代の攪乱溝に切られる。東コーナーの一部は平成 27 年度調査で精査を行った。［規模・平面形］北西辺 5.2 m、北東辺 5.0 m、南東辺 5.0 m、南西辺 4.9 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 22.6 m^2。深さは最大 53 cm。［堆積土］均質な黒色シルトを主体とする。南東壁際には、堆積土中位に焼土ブロックの分布が見られる。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦で、中央がやや硬化する。［カマド］北西壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、褐色シルト積み上げによる両袖が伸び、手前側に円形の焼成面が形成される。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。［柱穴］四隅に近い位置に Pit 1〜4 があり主柱穴を構成する。カマド側の Pit 1・4 が深く、反対側の Pit 2・3 はこれより浅い。このうち、南コーナーの Pit 3 では底面に長方形の柱痕が観察される。

遺物（第 243・244・260・271 図、写真図版 221・233・239）

出土重量は、古代土器 11,401 g、土製品 1 点 35.5 g、石製品 1 点 18.5 g である。うち、古代土器 9 点（a819〜827）、土製品 1 点（c8）、石製品 1 点（d71）を掲載した。

SI111 住居跡

遺構（第 118 図、写真図版 103）

［位置・重複関係］5区-2、ⅢK121グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北東側をSD23、南西側を SI108 に切られる。また全体に耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］南東辺の推定値は 3.3 m である。形状はやや歪な方形であると見られる。深さは最大 14 cm。［堆積土］堆積土 1～2 層は黒褐色～黒色シルトによって形成される。［壁・床面］壁面は緩やかに外傾し立ち上がる。床面は全体にほぼ平坦でしまりがある。明瞭な硬化面は見られない。［カマド］北西壁際中央付近にカマド燃焼部と考えられる焼成面がある。耕作により焼土の西側は削平され残存しない。比較的強い焼成で焼土厚は 12 cm に達する。煙道部分は SD23 に切られる位置にあり確認できない。

遺物

出土重量は、古代土器 44 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI113 住居跡

遺構（第 118 図、写真図版 103）

［位置・重複関係］6 区-1、ⅣM8j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。調査区西側境にあり、遺構の大部分は調査区外となるため南東側の一部のみ精査を行った。コーナーの形状から住居跡と判断している。［規模・形状］平面規模は不明、深さは最大 24 cm。［堆積土］黒褐色シルトが堆積する。［壁・床面］壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で硬化する。礫層上面に貼床を施した状態である。［遺物］出土遺物はない。

SI114 住居跡

遺構（第 119 図、写真図版 103）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣM11i グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東壁側は調査区外となる。耕作トレンチャーによる攪乱を受け、西壁の一部は残存しない。［規模・平面形］全長がほぼ判明する西辺は 5.2m で、全体では約 5 m 四方の隅丸方形を呈すると見られる。深さは最大 27 cm。［堆積土］全体では焼土粒・炭化物を含む 1 層黒褐色シルトと、外周に分布する暗褐色シルト 2 層に分層される。床面直上ではにぶい黄褐色土ブロックの 3 層が部分的に分布する。［壁・床面］壁面は直立気味の低い立ち上がり。床面は概ね平坦で、中央がやや硬化する。［カマド］検出範囲では確認していないため、東壁に設置されていた可能性が高い。［柱穴］南北壁際の中央付近に Pit 1・2 がある。Pit 1 堆積土上部には焼土粒が含まれる。

遺物（第 244・276 図、写真図版 221・242）

出土重量は、古代土器 5,273 g、石器 1 点 1.7 g、金属製品 1 点 76.3 g である。うち、古代土器 11 点（a828～838）、金属製品 1 点（e76）を掲載した。

SI115 住居跡

遺構（第 119 図、写真図版 104）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣM10k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。床面中央部に耕作攪乱坑があり、カマドの一部が破壊される。また全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.8 m、東辺 4.1 m、南辺 4.5 m、西辺 3.1 m で、南側が開く歪な台形を呈する平面形である。この形状は今回の調査区では他に類似するものがない。床面積は 9.9m^2。深さは最大

41 cm。［堆積土］黒褐色シルト層が堆積する。下部は焼土粒の含有が確認される。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦である。［カマド］東壁中央付近に2基が並列して設置される。残存状況の比較的良好な北側の1号カマドが新期、残存状況が不良な南側の2号カマドが旧期と判断した。1号カマドは燃焼部手前側を攪乱に破壊され、半円形の焼成面が残存する。煙道は平坦に伸びる浅い溝状の掘り込みとして検出された。本来の構造は不明である。2号カマドは1号カマドよりも内側に位置していたと見られ、燃焼部は攪乱のために全く残存しない。煙道は短い溝状の掘り込みとして検出された。底面は煙出し側に低くなり、大型の礫が多数出土する。傾斜から推測して刳り抜き式であった可能性が高い。［柱穴・土坑］2号カマド右脇に浅い皿状の土坑が3基接する状態である。これらは貯蔵穴が重複しているものと見られる。南北壁際には小径の柱穴状ピットが検出されたがいずれも浅いものである。

遺物（第244図、写真図版221・222）

出土重量は、古代土器9,041 g、焼成粘土塊2点52.1 g、縄文・弥生土器5 gである。うち、古代土器4点（a839～842）を掲載した。

SI116 住居跡

遺構（第120図、写真図版104・105）

［位置・重複関係］6区-2、ⅣL7sグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。［規模・形状］北辺3.1 m、東辺3.0 m、南辺2.9 m、西辺3.3 mのやや歪な隅丸方形を呈する。床面積は8.9 m^2。深さは最大23 cm。［堆積土］黒色～黒褐色シルト層が主体で、中位2層に褐色土ブロックが含まれる。中央が窪む自然堆積と捉えられる。［壁・床面］壁面は外傾して立ち上がる。床面は全体に平坦で中央がやや硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、両袖先端付近と基部に亜角礫が埋め込まれた状態となっている。焼成面は住居跡北壁よりやや外側に張り出した状態で、円形範囲が強い焼成を受ける。焼成面手前中央の円礫は天井部芯材礫の転落したものか。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井は部分的に被熱変色が観察される。また煙道内手前側には土師器大破片が複数出土した。支脚に設置された土器が散乱したものの可能性がある。煙出し底部は一段深く掘り込まれ、奥側下部壁面も抉れる状態となっている。［柱穴］南壁際中央に2基を検出した。このうち西側のPit 2は二つの小柱穴状ピットが連結した状態である。［遺物出土状況］床面中央部とカマド右側床面に、土師器甕・坏類略完形個体が複数ある。

遺物（第245図、写真図版222）

出土重量は、古代土器8,999 gである。うち、9点（a843～851）を掲載した。

SI117 住居跡

遺構（第120図、写真図版105）

［位置・重複関係］6区-2、ⅣL6rグリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。上部の耕作が深く及んでいる区域にあたり、遺構全体の残存状況は不良である。部分的には推測した床面残存範囲を図示している。［規模・形状］推定プランに基づけば、北西辺3.4 m、北東辺3.4 m、南東辺3.8 m、南西辺3.7 mのやや歪な隅丸方形を呈する。床面積は13.2 m^2。深さは最大14 cm。［堆積土］黒褐色シルト層が部分的に残存するが、断面記録は欠落し正確な状態は把握できない。［壁・床面］壁面の立ち上がりは部分的にごくわずかのみ検出した。床面は若干凹凸がある。［カマド］北西壁中央に設置される。楕円形の小規模な焼成面と、煙道奥側の溝状の掘り込みが残存する。煙道内堆積土には炭

化物と焼土粒が含まれる。本来的な構造は不明である。

遺物

出土重量は、古代土器 74 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI118 住居跡

遺構（第 121・122 図、写真図版 106）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣL5s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南東隅が円形の攪乱坑に切られる。［規模・形状］北辺 4.7 m、東辺 4.4 m、南辺 4.5 m、西辺 4.4 m の、若干歪な方形を呈する。床面積は 19.5 m^2。深さは最大 31 cm。［堆積土］黒色～黒褐色基調のシルト層が堆積する。下部では褐色土ブロックの混入が見られる。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面は概ね平坦で、中央が若干硬化する。［カマド］北壁中央の 1 号カマド、東壁中央からやや南寄りの 2 号カマドを検出した。燃焼部の残存状況は両者とも同程度で、新旧関係は判断できない。1 号カマドはシルト積み上げによる低い両袖が伸びる。袖基部にはカマド構築以前に掘られたと見られる Pit 11・12 があり、これを埋めて袖が作られている。燃焼部焼土は比較的薄い残存である。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井奥側に被熱痕跡が顕著に残る。煙出し下部は一段深く掘り込まれている。また、煙出し中位から大型礫が出土した。2 号カマドは右袖を攪乱により失われているが、基部に土師器甕上半を倒立状態で埋め込み、芯材としている。左袖はシルト積み上げで低く伸びる。焼成面の被熱は強く、上部に硬化還元部分が生じる。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かい一定傾斜で伸びる。［柱穴・土坑］前述の 1 号カマド袖基部に掘られた 2 基を含め、合計 12 基を確認した。このうち、Pit 1・3・4・6 が 1 号カマドを通る軸線に対して対称に配置されており、主柱穴を構成すると考えられる。Pit 1・3 は南壁から張り出すように掘られ、外側が一段低い。断面では柱痕跡が確認できる。南壁際中央の Pit 2 も同形状である。［遺物出土状況］住居北西側を中心に床面、Pit 6 上面等から土師器大破片が複数出土している。

遺物（第 245・246・260・276 図、写真図版 222・223・233・242）

出土重量は、古代土器 8,253 g、土製品 1 点 2.4 g、金属製品 8 点 264.55 g である。うち、古代土器 14 点（a852～865）、土製品 1 点（c14）、金属製品 8 点（e77～84）を掲載した。

SI119 住居跡

遺構（第 122 図、写真図版 107）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣL4p グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.9 m、東辺 3.7 m、南辺 3.8 m、西辺 3.5 m の、やや歪な方形を呈する。床面積は 12.6 m^2。深さは最大 26 cm。［堆積土］黒褐色シルト層が堆積する。下部では黄褐色土ブロックの混入が多い。［壁・床面］壁面はわずかな立ち上がりのみ検出した。床面は概ね平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、先端部に芯材の亜角礫を複数埋め込んだ両袖が伸びる。焼成面奥側中央には、支脚として土師器甕下半が倒立状態で設置される。煙道は溝状の掘り込みとして検出された。緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。本来の構造は不明である。［柱穴・土坑］南壁際に Pit 1・2、更に Pit 2 に隣接して Pit 3 がある。Pit 1・2 堆積土中には焼土粒の含有が多い。

遺物（第 246・260 図、写真図版 223・233）

出土重量は、古代土器 1,505 g、土製品 1 点 80.6 g である。うち、古代土器 3 点（a866～868）、土製

品 1 点（c6）を掲載した。

SI120 住居跡

遺構（第 123・124 図、写真図版 108）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣL3n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北西コーナー部分は平成 26 年度調査で精査を行った。北壁際の 2 号カマド脇が円形の攪乱坑に切られる。［規模・形状］北辺 7.9 m、東辺 7.4 m、南辺 7.8 m、西辺 7.5 m の隅丸方形を呈する。床面積は 53.4 m^2 と大型である。深さは最大 46 cm。［堆積土］全体的には黒褐色シルトが主体で、下部 3 層には炭化物が含まれる。上半 2 層は褐色土ブロックが集中し、その上位を洪水堆積層と見られる黄褐色細砂の 1 層が覆う。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦である。中央の主柱穴に囲まれた範囲が硬化する。［カマド］東壁南寄りの 1 号カマド、北壁中央の 2 号カマドを検出した。燃焼部の残存状況から、1 号カマドが新段階と判断される。1 号カマドは、右袖に板状礫を深く埋め込んだ芯材、左袖には土師器甕胴部破片（P⑥・⑦）と亜円礫による芯材が残存する。燃焼部の焼成は強く上部に硬化還元部分が生じている。煙道は刳り抜き式で、やや急な傾斜で煙出しに向かって伸びる。2 号カマドに比較し、煙道全長が短い。煙出し内から円礫が多数出土した。2 号カマドは両袖の基部付近が残る。カマド右側を攪乱で失うが、焼成面の大部分は残存する。こちらも強い焼成により上部に硬化還元部分が生じている。煙道は刳り抜き式で、やや緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井奥側では被熱により変色する部分がある。2 号カマド煙出し内部からも円礫が多数出土した。［柱穴・土坑］合計 20 基を確認した。Pit 1～4 の 4 基が主柱穴を構成すると見られる。このうち南東部の Pit 3 を除く 3 基は、それぞれ北東・北西・南西コーナー内側にあり、底面に長方形の柱痕が観察される。Pit 3 は南壁から張り出す位置にあるが、東壁からの距離は北東部の Pit 4 と等しい。北東コーナー付近には Pit 13～16 のやや大きめの土坑が複数分布しており、この中にカマド脇の貯蔵穴が含まれている可能性がある。これらの他、壁際に小規模な柱穴状ピットがある。［周溝］1 号カマド脇の東壁際南半と、北壁際の 2 号カマド周囲を除き、一定幅の周溝が巡る。周溝内部は褐色土ブロックが含まれる黒褐色シルト層が堆積する。

遺物（第 246・247 図、写真図版 223・224）

出土重量は、古代土器 17,984 g である。うち、18 点（a869～886）を掲載した。

SI121 住居跡

遺構（第 124・125 図、写真図版 109）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣL3l グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北隣に 3 m 程 隔 てて SI120 住居跡がある。［規模・形状］北辺 8.0 m、東辺 7.7 m、南辺 8.2 m、西辺 7.7 m の隅丸方形を呈する。床面積は 60.7 m^2 と大型である。深さは最大 28 cm。［堆積土］全体的には褐色土ブロックを含む暗褐色シルトが大部分を占める。［壁・床面］急傾斜で立ち上がる低い壁面を検出した。床面はほぼ平坦で、全体に硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、シルト積み上げによる両袖が伸び、基部側には芯材の亜角礫が埋め込まれる。焼成は強く、焼土上部に厚い硬化還元部分が観察される。焼成面周辺に大型の亜角礫が複数分布していたが、カマド天井部の芯材構成礫が含まれている可能性が高い。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって一定傾斜で伸びる。煙道天井は全体に被熱痕跡が残る。煙出し内部からは亜角礫が多数出土した。［柱穴］検出した Pit 1～4 の 4 基が主柱穴を構成すると見られる。南東部の Pit 3 のみ南壁際に張り出す配置は SI120

と共通する。Pit 1・2・4 では底面に楕円形、長方形の柱痕が観察される。［周溝］カマド部分を除く壁際に一定幅の周溝が全周する。

遺物（第 247・248・277 図、写真図版 224・225・243）

出土重量は、古代土器 19,076 g、焼成粘土塊 1 点 7.5 g、金属製品 1 点 196.6 g である。うち、古代土器 22 点（a887～906・908～909）、金属製品 1 点（e85）を掲載した。

SI122 住居跡

遺構（第 126 図、写真図版 110）

［位置・重複関係］6 区-2 北端、ⅣM11l グリッド付近に位置する。隣接する SI115 の精査段階で本住居跡の存在を把握した。検出面はⅤ層上面である。東側は調査区外にあたり、北側は現代の攪乱により削平される。［規模・形状］全長の判明する壁面はないため、規模は不正確であるが推定 5 m 四方程度の方形と考えられる。深さは最大 14 cm。［堆積土］上部に褐色砂質シルトの洪水堆積層があり、下半は焼土粒を含む黒褐色シルト層で構成される。［壁・床面］西壁は直立する低い立ち上がり。床面は概ね平坦で、中央がやや硬化する。［カマド］検出範囲内ではカマドが確認されず、北壁際、東壁際のいずれに設置されていたのかは不明である。［柱穴］壁際、及び壁面から一定距離に円形の柱穴状ピット 5 基が分布する。東側調査区境にある Pit 5 は不整形の土坑で、堆積土中に焼土粒が含まれる。

遺物（第 248・249 図、写真図版 225）

出土重量は、古代土器 5,576 g である。うち、8 点（a910～917）を掲載した。

SI123 住居跡

遺構（第 126 図、写真図版 110）

［位置・重複関係］6 区-2、ⅣL2k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。全体が耕作による削平を受け、南半が残存する状態である。［規模・形状］全長の判明する南辺は 2.8 m で、全体では 3 m 弱四方程の方形を呈すると考えられる。深さは最大 21 cm。［堆積土］焼土粒・炭化物を含む黒褐色～暗褐色シルト層を確認した。全体的には褐色土ブロックを含む暗褐色シルトが大部分を占める。［壁・床面］南壁はごく低い立ち上がりを検出したのみ。床面はほぼ平坦である。［カマド］南壁際のやや東寄りにカマド燃焼部と見られる焼成面を検出した。楕円形で被熱は強く、上部が硬化還元する。煙道は全く残存せず、住居跡壁面から 1.3 m 隔てて煙出し底部と考えられる楕円形のピットがある。焼土粒を含む黒褐色シルトが堆積する。［柱穴］南壁と重なる位置のカマド右脇に Pit 1 がある。貯蔵穴の可能性が考えられるが、重複する別遺構かも知れない。

遺物

出土重量は、古代土器 292 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI124 住居跡

遺構（第 127 図、写真図版 111）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅣL2j グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 4.0 m、東辺 4.5 m、南辺 3.9 m、西辺 4.0 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 14.4 m^2。深さは最大 27 cm。［堆積土］全体的には黒褐色シルトが主体で、下部には褐色土ブロックの集中部がある。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。

床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好だが、左袖側が耕作による攪乱で削平される。右袖は内部に棒状の芯材礫が埋め込まれ、褐色シルトを積み上げて構築されている。燃焼部焼成面奥側に土師器大破片があるが、支脚かどうかは判断できない。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井は部分的に被熱で変色し、ブロック状に崩落している。煙出し堆積土中位は褐色土ブロックが集中する。［柱穴・土坑］北壁際両端コーナーに 2 基検出した。北東の Pit 1 は柱穴状に深いが、北西の Pit 2 は浅い。

遺物（第 249 図、写真図版 225）

出土重量は、古代土器 3,944 g である。うち、4 点（a918～921）を掲載した。

SI125 住居跡

遺構（第 128 図、写真図版 112）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅣL3h グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南東部が調査区外に伸びる。また遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］全長の判明する西辺は 4.2 m で、全体では 4 m 強四方の方形を呈すると考えられる。深さは最大 24 cm。［堆積土］褐色土ブロックを含む黒褐色シルトが主体である。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面は中央部が若干高く盛り上がり硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好で、低く両袖が伸びる。左袖に沿って楕円形の小穴が並び、袖芯材礫を据えた痕跡と捉えられる。焼成面奥側には支脚が 2 個 1 対で設けられている。両者とも土師器甕底部を伏せた状態である。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって緩い傾斜で伸びる。煙道手前側では扁平楕円形の板状礫が側壁に沿って配置されている。礫表面は焼成で赤変する部位が見られるため、カマド構築時に側壁の補強用に据えられたものと考えられる。［柱穴・土坑］カマド右脇に貯蔵穴の Pit 1、カマド対辺の南壁際に Pit 2 がある。

遺物（第 249 図、写真図版 225）

出土重量は、古代土器 1,971 g である。うち、2 点（a922～923）を掲載した。

SI126 住居跡

遺構（第 129 図、写真図版 113）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅣL1d グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。中央部カマド手前に円形の攪乱坑がある。また、遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.8 m、東辺 3.6 m、南辺 3.9 m、西辺 3.8 m のやや歪な方形である。床面積は 13.3 m^2。深さは最大 35 cm。［堆積土］全体的には褐色土ブロックを含む黒～暗褐色シルト層がレンズ状の堆積状況を示しており、下部 3～4 層には褐色土ブロックが多く含まれる。［壁・床面］壁面は直立する立ち上がり。床面はほぼ平坦で、中央が若干硬化する。［カマド］北壁中央付近に 2 基並列して設置される。東側を 1 号カマド、西側を 2 号カマドとする。両者とも燃焼部の残存状況はやや不良である。また焼成面手前側は攪乱により削平される。北壁中央の 2 号カマドが先に設置され、東寄りの 1 号カマドに作り替えられたものと判断している。1 号カマドは左袖を 2 号カマドと共有する。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。2 号カマドの燃焼部はやや内側に位置する。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井面、煙出し側壁には被熱痕跡が残る。［柱穴］南壁際に Pit 1～3 がある。いずれも浅く小径の Pit である。［遺物出土状況］床面に複数の土師器略完形個体が分布する他、東壁際に白色の生粘土塊、南～西壁際床面に焼土ブロックの分布を検出した。

遺物（第 249・260 図、写真図版 226・233）
出土重量は、古代土器 4,976 g、土製品 1 点 4.8 g である。うち、古代土器 5 点（a924～928）、土製品 1 点（c16）を掲載した。

SI127 住居跡

遺構（第 130 図、写真図版 114）
［位置・重複関係］5 区-3、ⅢL17b グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.0 m、東辺 2.7 m、南辺 2.4 m、西辺 2.8 m の南側が狭まる歪な方形である。床面積は 6.9 m^2。深さは最大 21 cm。［堆積土］全体には均質な黒色シルト 2 層が堆積する。上部に洪水堆積の細砂ブロックを含む 1 層が部分的に確認される。［壁・床面］壁面は低い立ち上がりを確認した。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、芯材の亜円礫を埋め込んだ両袖が伸びる。燃焼部断面の観察により、天井部の一部も崩落して残存することが確認された。煙道は刳り抜き式で、ほぼ平坦に煙出しに向かって伸びる。煙出し底面は煙道より一段低く掘り込まれている。また、煙出し内から礫が集中して出土した。［柱穴］南東コーナーに Pit 1 がある。［焼土］床面中央に焼土 1 を検出した。床面が弱い焼成を受ける。
遺物
出土重量は、古代土器 692 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI128 住居跡

遺構（第 130・131 図、写真図版 115）
［位置・重複関係］5 区-3、ⅢK18s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北西部を SI131 に切られる。また、西側が耕作トレンチャーによる攪乱を大きく受ける。［規模・形状］全長の判明する東辺は 4.8 m、南辺は推定 5.5 m で、全体では 5 m 四方前後のやや歪な方形と捉えられる。深さは最大 31 cm。［堆積土］壁際を除き、砂ブロックを含む黒褐色シルト層が堆積する。全体には褐色土ブロックを含む黒～暗褐色シルト層がレンズ状の堆積状況を示しており、下部 3～4 層には褐色土ブロックが多く含まれる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦で、中央が若干硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は良好である。やや低い両袖が伸び、それぞれの先端付近から芯材の土師器甕下半が倒立状態で出土した（P⑨・⑩）。焼成面手前にある長楕円形の扁平礫は天井部架構材が落下したものと考えられる。その内側にはカマド内設置土器（P⑧）の土師器甕下半が残存する。煙道は攪乱により先端側が失われており、燃焼部側は平坦に伸びる溝状の掘り込みとして確認された。堆積土中に天井部から崩落した可能性のある焼土ブロックが含まれていることから、本来は刳り抜き式であった可能性が高い。［柱穴・土坑］床面中央から南壁際にかけて不規則な配置で Pit 1～6、カマド左脇に貯蔵穴と考えられる Pit 7 がある。［周溝］北壁～東壁際に断続的に周溝が巡る。幅は 10～20 cm 未満と細い。［遺物出土状況］カマド右脇から北東コーナーにかけての床面に坏類をはじめとした複数個体の土師器略完形個体がある（P①～⑤）。
遺物（第 250 図、写真図版 226）
出土重量は、古代土器 6,313 g である。うち、8 点（a929～936）を掲載した。

SI129 住居跡

遺構（第 131 図、写真図版 116）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢK19s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東コーナー付近が SI130 に切られる。［規模・形状］全長の判明する南西辺は 3.3 m、北西辺は 3.4 m で、全体では 3.5 m 四方前後の方形と捉えられる。深さは最大 21 cm。［堆積土］残存状況が不良で、確認したのは床面直上の黒褐色シルト層である。褐色土ブロックが若干含まれる。［壁・床面］壁面は下部の立ち上がり部分のみ残存する。床面はほぼ平坦である。［カマド］北西壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は不良で、袖、天井部と焼成面が耕作により攪乱を受けた状態となっている。原位置を保つ焼成面は確認されない。煙道は浅い溝状で検出された。底面は緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。堆積土中に褐色土ブロックが含まれており、刳り抜き式であった可能性が高い。煙出しは柱穴状に深く掘り込まれており、上部には礫が集中して出土した。［柱穴・土坑］カマド両脇に貯蔵穴と考えられる Pit 1・2 がある。この他、壁際を中心に Pit 3〜8 が不規則な分布となっている。

遺物（第 250 図、写真図版 226）

出土重量は、古代土器 935 g である。うち、2 点（a937〜938）を掲載した。

SI130 住居跡

遺構（第 132 図、写真図版 117）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢK19s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西側で SI129 を切る。遺構東半は調査区外に伸びる。［規模・形状］全長の判明する西辺は 3.1 m である。部分的に検出した南北壁は平行しないため、全体では 3 m 四方前後のやや歪な方形と捉えられる。深さは最大 31 cm。［堆積土］褐色砂ブロックを含む黒褐色粘土質シルト層が大半を占める。床面直上には褐色土ブロックを含む暗褐色土が堆積する。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はやや中央が窪む状態で検出された。全体に硬化が進んでいる。［カマド］調査範囲内にはカマドの痕跡がないため、北壁もしくは東壁際設置の可能性が高いと見られる。［柱穴・土坑］北西コーナーの Pit 3 は不整形の土坑で、堆積土中に焼土粒と炭化物を含む。中央の Pit 4 も楕円形と考えられる土坑の一部で、焼土ブロックが含まれる。［遺物出土状況］北壁際の Pit 2 周辺に鉄製品 F①〜③、西壁際に F④がある。また、北西コーナー付近の床面上位から炭化材が複数出土する。

遺物（第 250・277 図、写真図版 226・243）

出土重量は、古代土器 694 g、金属製品 4 点 695.49 g である。うち、古代土器 4 点（a939〜942）、金属製品 4 点（e86〜89）を掲載した。

SI131 住居跡

遺構（第 132 図、写真図版 118）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢK17s グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東側で SI128 を切る。また、遺構全体が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 3.9 m、東辺 3.9 m、南辺 3.5 m、西辺 3.4 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 12.1 m^2。深さは最大 30 cm。［堆積土］全体では黒褐色シルト層が主体となる。上部 1 層中には洪水堆積による砂ブロックが含まれており、特に南西側に多い状態と捉えられる。床面直上の壁際を中心として、褐色シルトブロックが集中する 3 層が堆積する。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面は平坦と見られるが、攪乱により中央部の残存状況が悪いため正確には把握できない。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の

残存状況は比較的良好である。両袖基部が確認され、右袖には芯材の可能性がある土師器大破片が埋め込まれている。煙道は刳り抜き式で、煙出しに向かって一定傾斜で伸びる。煙道天井面には被熱痕跡が残る。煙出し底部は煙道より一段深く掘り込まれ、また煙出し上半からは亜角礫が集中的に出土した。

遺物（第 250 図、写真図版 226）

出土重量は、古代土器 814 g である。うち、2 点（a943～944）を掲載した。

SI132 住居跡

遺構（第 133 図、写真図版 119）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅢK17q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。遺構の一部が耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］北辺 2.8 m、東辺 2.6 m、南辺 2.7 m、西辺 2.8 m のやや歪な方形を呈する。床面積は 6.6 m^2 と小型である。深さは最大 30 cm。［堆積土］黄褐色土ブロックを多量に含む黒褐色シルト層が主体である。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］北壁中央に設置される。燃焼部の残存状況は比較的良好である。褐色シルト積み上げによる両袖が伸び、楕円形の焼成面が残る。右袖先端から芯材の可能性がある亜円礫が出土した。煙道は刳り抜き式で、一定傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙出し内堆積土上半には洪水堆積による砂ブロックが大量に含まれる。これは住居跡本体の堆積土では確認されていない。［柱穴・土坑］南東コーナー付近に Pit 1・2 がある。両者とも浅く小型のピットである。［遺物出土状況］Pit 1・2 に挟まれる位置の床面から、土師器甕略完形個体（P①）がその場で潰れた状態で出土した。

遺物（第 250・260 図、写真図版 226・233）

出土重量は、古代土器 1,853 g、土製品 1 点 53.1 g、焼成粘土塊 1 点 8.5 g である。うち、古代土器 2 点（a945～946）、土製品 1 点（c7）を掲載した。

SI133 住居跡

遺構（第 134 図、写真図版 120）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅢK16q グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。南壁側で SI134 とほぼ接する位置にあり、精査段階では確定できなかったが SI134 カマドが本住居跡堆積土中に構築されていたと考えられる。［規模・形状］北辺 5.4 m、東辺 4.9 m、南辺 5.1 m、西辺 5.0 m の方形を呈する。床面積は 24.0 m^2。深さは最大 37 cm。［堆積土］上部の洪水堆積砂ブロックを含む黒色シルト 1 層と、下部の黄褐色土粒を含む黒色シルト 3 層に大別される。層下位には部分的に焼土ブロックが集中する 2 層が介在する。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦で中央部がやや硬化する。［カマド］北壁中央に設置される。耕作トレンチャーによる攪乱を受けるものの、燃焼部の残存状況は比較的良好である。芯材の亜円礫を埋め込んだ袖が細く伸びる。焼成面の被熱は強く、上部には硬化還元が生じている。煙道は刳り抜き式で、緩い傾斜で煙出しに向かって伸びる。煙道天井部は中間で複数のブロック状に崩落しており、断面では天井部の被熱面が断続的に観察される。［柱穴・土坑］カマド右脇に貯蔵穴の可能性が高い Pit 1 があり、他は南東コーナー付近に集中して小径のピットが確認された。このうち、Pit 6・7 は本住居跡に伴うものとして精査を行ったが、堆積土中に焼土ブロックを含む点と、位置関係から見て隣接する SI134 のカマド煙出しである可能性が高い。

遺物（第 250 図、写真図版 227）

出土重量は、古代土器 1,985 g である。うち、1 点（a133）を掲載した。

SI134 住居跡

遺構（第 135 図、写真図版 121）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅢK16p グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。北壁側で SI133 とほぼ接する位置にあり、これより新しいと見られる。南西側は耕作により床面が削平される。また残存部分も耕作トレンチャーによる攪乱を受ける。［規模・形状］全長の判明する北辺は 4.8 m、東辺は 4.9 m で、全体では 5 m 四方程度の方形と捉えられる。深さは最大 23 cm。［堆積土］堆積土として把握できたのは東側の一部で、黒色シルト層を確認した。［壁・床面］残存する北～東壁と南壁の一部は下部の立ち上がり部分のみ検出している。床面は残存範囲では概ね平坦である。［カマド］北壁際で検出した 2 箇所の焼成面（焼土 1・2）がカマド燃焼部の焼成面であった可能性が高い。いずれも攪乱により断片的な残存だが、強い焼成を受ける。煙道は確認されていないが、煙出しとして焼土 1 に対応する SI133 Pit 7、焼土 2 に対応する SI133 Pit 6 をそれぞれ特定することができる。焼土 1 がより外側に位置し、北壁際でも東に偏る点から見て、焼土 1 カマドが新しいものと考えられる。［柱穴・土坑］合計 9 基のピットを検出した。このうち Pit 3・8 は深さがあり、断面で柱痕跡を確認していることから、主柱穴を構成した可能性が高い。

遺物（第 250 図、写真図版 227）

出土重量は、古代土器 1,224 g である。うち、3 点（a948～950）を掲載した。

SI135 住居跡

遺構（第 136・137 図、写真図版 121・122）

［位置・重複関係］5 区-3、ⅢK16n グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東壁部分が調査区外に伸びる。北側のカマド煙道部は SX94 に切られる。［規模・形状］全長の判明する北辺は 7.8 m、西辺は 8.5 m で、全体では 8 m 四方程の大型の隅丸方形を呈すると捉えられる。床面積は調査区内のみで 57 m^2 に達し、全体では 60 m^2 を超すことは確実である。深さは最大 61 cm。［堆積土］堆積土上部に明瞭な洪水堆積層（2 層）が確認される。特に東側に多く、西側では断片的な分布となっている。洪水層下部は褐色土ブロックを含む黒褐色シルト層が主体である。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、中央の主柱穴に囲まれた範囲が硬化する。［カマド］北壁中央付近に設置される。燃焼部の残存状況は良好で、芯材の亜円礫を埋め込んだ両袖が伸び、手前側に不整形の焼成面が広がる。被熱は強く、焼土上部には硬化還元部分が生じている。焼成面奥側やや左寄りに、土師器甕下半を伏せた状態の支脚がある。焼成面上部には天井部の崩落に伴う焼土ブロックと、洪水堆積層のブロックが確認される。煙道は刳り抜き式で、ほぼ平坦に煙出しに向かって伸びる。煙道上部は SX94 に切られ、天井部は残存しない。煙出し下部は一段深く掘り込まれる。［柱穴・土坑］四隅に近い位置に Pit 1～4 の主柱穴が長方形に配置される。柱穴の開口部径は大きく、1.5 m を超す規模となっている。それぞれ、底面には円形、楕円形の柱痕、断面でも柱痕跡が確認される。この他、南西コーナーに小径の Pit 5 がある。［周溝］北壁際の東半に浅く短い周溝を検出した。［遺物出土状況］床面各所に遺物が散在する状態である。南西隅に鉄鏃（F①）、南壁際に赤彩土器（P①）等がある。

遺物（第 250・251・270・278 図、写真図版 227・239・243）

出土重量は、古代土器 21,185 g、焼成粘土塊 1 点 3.8 g、石器 3 点 2035.8 g、金属製品 3 点 207.03 g、縄文・弥生土器 15 g である。うち、古代土器 23 点（a951～973）、金属製品 3 点（e90～92）、石器 3 点（d63・d65・d66）を掲載した。

SI136 住居跡

遺構（第 135 図、写真図版 122）

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢK16k グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。東半は調査区外に伸びており、全体の半分を精査した。中央を SD23 が横断する。［規模・形状］全長の判明する西辺は 4.6 m で、全体では 4.5 m 四方程の方形を呈すると捉えられる。深さは最大 29 cm。［堆積土］黒褐色シルトの単層と捉えられる。［壁・床面］壁面は急傾斜で立ち上がる。床面はほぼ平坦である。［カマド］検出範囲では確認されず、北壁もしくは東壁際に設置されているものと考えられる。

遺物（第 251 図、写真図版 227・228）

出土重量は、古代土器 4,663 g である。うち、6 点（a974〜979）を掲載した。

SI137 住居跡

遺構

［位置・重複関係］5 区−3、ⅢK15o グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。カマドの可能性がある焼成面の一部と、その周囲の掘り込みを確認したため、竪穴住居跡と判断したが全体は不明瞭である。床面範囲、壁面の立ち上がりは検出していない。平断面図記録、写真を欠く。推定では小型の竪穴で北側にカマドが設けられているとみられる。焼成面上位から出土した遺物を本遺構帰属として取り上げた。

遺物（第 251 図、写真図版 228）

出土重量は、古代土器 328 g である。うち、1 点（a980）を掲載した。

SI138 住居跡

遺構（第 138 図、写真図版 123）

［位置・重複関係］6 区−2、ⅣL5m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。中央から東側が調査区外に伸び、全体の 1/3 程を検出した。西壁の一部を耕作の攪乱坑に切られる。［規模・形状］全長の判明する西辺は 7.0 m で、全体では 7 m 四方程のやや大型の隅丸方形を呈すると捉えられる。深さは最大 35 cm。［堆積土］全体としては上部の黒褐色シルト層（1 層）と下半の黒色シルト層（2 層）に分層される。2 層には焼土粒、炭化材が含まれる。［壁・床面］壁面は急傾斜で外傾して立ち上がる。床面はほぼ平坦で、中央寄りが若干硬化する。［カマド］検出範囲では確認されず、北壁もしくは東壁際に設置されているものと考えられる。［柱穴・土坑］南東部に Pit 1、北西部に Pit 2 を検出した。1 m 近い深さがあり、主柱穴の一部と捉えられる。［周溝］壁際にやや幅の広い周溝が連続して巡る。深さは位置によって異なり、北壁際では 50 cm を超す部分がある。

遺物

出土重量は、古代土器 328 g である。図示可能な遺物は出土していない。

SI139 住居跡

遺構（第 138 図、写真図版 123）

［位置・重複関係］6 区−2、ⅣL2m グリッド付近に位置する。Ⅴ層上面で検出した。西側が耕作トレンチャーによる攪乱を受け、全体は判明しない。［規模・形状］全長の判明する東辺は 2.3 m で、全体では 2 m 強四方程の小型の方形を呈すると捉えられる。深さは最大 12 cm。［堆積土］黒褐色〜にぶい黄褐色シルト層を確認した。焼土粒の含有が見られる。［壁・床面］壁面は下部のわずかな立ち

上がりのみ検出している。床面の残存範囲は概ね平坦である。［カマド］カマドは検出範囲では確認されていない。堆積土東側にある焼土粒の分布を考慮すれば、本来は東壁際に設置されていたものの、現代の耕作により削平されている可能性が考えられる。［柱穴］南東部に Pit 1 がある。

遺物

出土重量は、古代土器 328 g である。図示可能な遺物は出土していない。

（2）　掘立柱建物跡（工房含む）・柱穴列

SB01・02 掘立柱建物跡（工房）

遺構（第 139・140 図、写真図版 124・125）

［検出状況］複数の柱穴プランおよび焼土の周辺に鉄滓、坩堝片等が散在していたもので、検出段階で鉄生産関連施設であることが想定された。［位置］3 区-2、ⅢI3p グリッド。平坦面に立地する。［平面形式］検出できた柱穴が少ないため正確な規模は不明であるが、2 棟分の柱配置を想定した。尚、いずれも梁行を構成する柱穴を検出できなかったが、本来は同一検出面上に存在していた可能性が高いと考えられる。以下に SB01・02 を併記する。

（SB01）桁行 4 間の建物跡であると推定される。梁行を構成する柱穴は検出できなかった。調査範囲における規模は桁行 9.45 m（31.2 尺）、使用した柱穴は 5 個である。［柱間寸法］桁行の柱間寸法は 2.30 m（7.6 尺）を基準としている。

（SB02）桁行 5 間の建物跡であると推定される。梁行を構成する柱穴は検出できなかった。調査範囲における規模は桁行 10.10 m（33.3 尺）、使用した柱穴は 5 個である。［柱間寸法］桁行の柱間寸法は 1.90 m（6.3 尺）を基準としている。［付属施設］SB01・02 の建物内部からは炉跡が 4 箇所確認された。以下に列記する（SN05～08）。なお、個々の建物への帰属は明らかにできなかった。

（SN05 炉）検出した焼土範囲は径 1.24 m の不整楕円形基調を呈する。断面形は皿状で層厚は最深部で 22 cm を測る。埋土は 6 層に細分され、上位は還元色を示す淡い赤橙色焼土層、中位は極固くしまる浅黄橙色シルト層、下位は明赤褐色焼土層が形成されている。5・6 層は掘り方埋土と考えられる。環状鉄製品 1 点（e99）、鍛造剥片が 29.9 g、粒状滓が 1.1 g 出土している。

（SN06 炉）検出した焼土範囲は径 1.58 m の不整楕円形基調を呈する。断面形は皿状で層厚は　12 cm を測る。埋土は 2 層に細分され、上位はしまりのやや強い明赤褐色焼土層、下位は焼土と炭化物ブロックを含む暗褐色シルト層が形成されている。鍛造剥片が 0.2 g 出土している。

（SN07 炉）検出した焼土範囲は径 0.32 m の円形基調を呈する。断面形は皿状で層厚は 7 cm を測る。埋土は 3 層に細分され、上位は焼土ブロックを含む暗灰黄（還元色）シルト層、中位はしまりのある明赤褐色焼土層、下位は灰黄褐色シルト層が形成されている。鍛造剥片が 51.3 g、粒状滓が 0.4 g 出土している。

（SN08 炉）検出した焼土範囲は径 0.26 m の不整形を呈する。南西側が調査区域外にかかり、径は残存値である。断面形は皿状で層厚は 7 cm を測る。埋土は 2 層に細分され、上位は焼土ブロックを含む暗灰黄（還元色）シルト層、下位はしまりのある明赤褐色焼土層が形成されている。

遺物（第 278 図、写真図版 244）

SB01 掘立柱建物跡内からの出土重量は古代土器 57 g、石器・石製品 1 点 1,000 g、金属製品 5 点 102.8 g、鉄滓 3 点 307 g、羽口片 3 点 281 g、坩堝片 1 点 51.1 g である。このうち、金属製品 5 点（e93～97）、古銭 1 点（g1）、羽口・坩堝片各 1 点（l6・l9）を掲載した。

このほか、建物内部および鍛冶炉内の土壌を対象として微細遺物の洗い出し作業を実施している。

その結果、全区域の総量として鍛造剥片 2141.9 g、粒状滓 70.55 g、鉄滓小片 2271.3 g が得られた。重量内訳は第 140 図に図示した。

SB03 掘立柱建物跡

遺構（第 141 図、写真図版 126）

［位置］2 区−4、ⅡI17h グリッド。平坦面に立地する。［平面形式］梁間 2 間、桁行 3 間の建物跡である。規模は梁間 4.6 m（15.2 尺）、桁行 5.7 m（18.9 尺）、面積は 26.220 m^2（約 7.9 坪）である。使用した柱穴は 10 個である。［柱間寸法］桁行の柱間寸法は 1.9 m（6.3 尺）を基準とし、梁間の柱間寸法は 2.3 m（7.6 尺）を基準としている。［付属施設］なし。

遺物

出土していない。

SB04 掘立柱建物跡

遺構（第 141 図、写真図版 126）

［位置］6 区−2、ⅣM7a グリッド。平坦面に立地する。［平面形式］柱筋の通りが悪く、間隔が各列で異なる。南辺の柱穴を 1 個欠いているが梁間 2 間、桁行 3 間の建物跡と推定される。規模は梁間 4.4 m（14.6 尺）、桁行 4.0 m（13.2 尺）、面積は 17.600 m^2（約 5.3 坪）である。使用した柱穴は 11 個である。［柱間寸法］桁行の柱間寸法は 1.3 m（4.3 尺）を基準とし、梁間の柱間寸法は 2.2 m（7.3 尺）を基準としている。［付属施設］P520〜522 は梁間 1 間、桁行 3 間の母屋に付属する柱穴列の可能性もある。

遺物

出土していない。

SA01 柱穴列

遺構（第 141 図）

［位置］2 区−4、ⅡI14b グリッド。平坦面に立地する。［形状］5 個の柱穴で構成される。調査区内で長さ 9.5 m（31.3 尺）の範囲が確認された。

遺物

出土していない。

（3）土　　坑

SK01 土坑

遺構（第 142 図、写真図版 127）

［位置］2 区−1、ⅡH13d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.36 m×短軸 0.86 m の楕円形で、深さ 0.28 m を測る。断面は皿状である。底面は南側がやや深く掘りこまれる。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 12 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（ヒエ主体・イネ・オオムギ・アワ・アサ・ソバ・アズキ類・ダイズ類）が多量に検出された。

SK02 土坑

遺構（第 142 図、写真図版 127）

［位置］2区−1、ⅡH14gグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸2.00ｍ×短軸1.02ｍの隅丸長方形で、深さ0.20ｍを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器36ｇ、縄文・弥生土器13ｇが出土した。

SK03土坑

遺構（第142図、写真図版127）

［位置］3区−1、ⅡI15jグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸3.16ｍ×短軸1.04ｍの隅丸長方形で、深さ0.42ｍを測る。断面は皿状である。底面は南側が局所的にやや深く掘りこまれる。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器58ｇが出土した。

SK04土坑

遺構（第142図、写真図版127）

［位置］3区−1、ⅡI17lグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.47ｍ×短軸0.60ｍの隅丸長方形で、深さ0.15ｍを測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器33ｇが出土した。

SK05土坑

遺構（第142図、写真図版128）

［位置］3区−1、ⅡI16kグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.98ｍ×短軸0.78ｍの隅丸長方形で、深さ0.28ｍを測る。断面は皿状で、底面はほぼ平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第252・260図、写真図版228・233）

出土重量は古代土器476ｇ、縄文・弥生土器9ｇ、土製品1点9.2ｇである。うち、古代土器1点(a981)、土製品1点（c3）を掲載した。

SK06土坑

遺構（第142図、写真図版128）

［位置］2区−1、ⅡH7sグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.35ｍ×短軸1.16ｍの円形で、深さ0.35ｍを測る。断面は擂鉢状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器135ｇ、石器・石製品4.3ｇである。

SK07土坑

遺構（第142図、写真図版128）

［位置］3区−2、ⅡI2qグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸2.57ｍ×短軸2.54ｍの円形で、深さ1.75ｍを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 928 g、縄文・弥生土器 183 g、石器・石製品 1 点 8.7 g である。

SK08 土坑

遺構（第 142 図、写真図版 128）

［位置］3 区−2、ⅢI13q グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.46 m×短軸 1.23 m の楕円形で、深さ 0.26 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 174 g が出土した。

SK09 土坑

遺構（第 142 図、写真図版 129）

［位置］3 区−2、ⅡI20h グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.92 m×短軸 0.78 m の楕円形で、深さ 0.44 m を測る。断面は逆台形で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

出土重量は古代土器 1,217 g、縄文・弥生土器 28 g である。うち、古代土器 3 点（a982〜984）を掲載した。

SK11 土坑

遺構（第 143 図、写真図版 129）

［位置］2 区−3。ⅡI20c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.7 m の楕円形で、深さ 0.3 m を測る。断面は袋状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 107 g が出土した。

SK12 土坑

遺構（第 143 図、写真図版 129）

［位置］3 区−2、ⅢJ3a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.04 m×短軸 1.93 m の円形、深さ 1.52 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 127 g、縄文・弥生土器 12 g である。

SK13 土坑

遺構（第 143 図、写真図版 129）

［位置］3 区−2、ⅡI20i グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.27 m×短軸 0.54 m の楕円形、深さ 0.57 m を測る。断面は逆台形である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

古代土器 278 g が出土した。うち、1 点（a985）を掲載した。

SK14 土坑

遺構（第 143 図、写真図版 130）

［位置］3区−2、ⅡI19hグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.11ｍ×短軸0.61ｍの楕円形、深さ0.52ｍを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器267ｇが出土した。

SK15土坑

遺構（第143図、写真図版130）

［位置］3区−2、ⅡI19hグリッド。平坦面に立地する。南側を攪乱に切られる。［形状］長軸1.18ｍ×短軸1.26ｍの円形で、深さ0.06ｍを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器395ｇが出土した。

SK16土坑

遺構（第143図、写真図版130）

［位置］3区−2、ⅢI4tグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.65ｍ×短軸0.48ｍの楕円形、深さ0.10ｍを測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器4ｇが出土した。

SK17土坑

遺構（第143図、写真図版130）

［位置］3区−2、ⅡI19jグリッド。平坦面に立地する。北東側でSX19と重複し、これを切る。［形状］長軸1.57ｍ×短軸1.31ｍの円形、深さ1.47ｍを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第252図、写真図版228）

出土重量は古代土器2,455ｇ、縄文・弥生土器8ｇである。うち、古代土器2点（a986〜987）を掲載した。

SK18土坑

遺構（第143図、写真図版131）

［位置］2区−3、ⅢI20jグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.67ｍ×短軸0.79ｍの隅丸長方形、深さ0.12ｍを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器12ｇ、縄文・弥生土器4ｇである。

SK19土坑

遺構（第143図、写真図版131）

［位置］2区−3、ⅡI19bグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.07ｍ×短軸0.90ｍの円形、深さ0.32ｍを測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器311ｇが出土した。

SK20 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 131）

［位置］2 区−3、ⅡI19a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.89 m × 短軸 0.56 m の楕円形、深さ 0.19 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 278 図、写真図版 244）

出土重量は古代土器 36 g、金属製品 1 点 30.3 g である。うち、金属製品 1 点（e98）を掲載した。

SK21 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 131）

［位置］2 区−3、ⅡI19a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.31 m × 短軸 0.94 m の隅丸長方形、深さ 0.26 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 358 g、縄文・弥生土器 6 g である。

SK22 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 132）

［位置］2 区−3、ⅡI19a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.18 m × 短軸 0.83 m の隅丸長方形、深さ 0.30 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

出土重量は古代土器 461 g、縄文・弥生土器 59 g である。うち、古代土器 1 点（a988）を掲載した。

SK23 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 132）

［位置］2 区−3、ⅡI9c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.04 m × 短軸 0.97 m の円形、深さ 0.23 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 79 g、縄文・弥生土器 41 g である。

SK24 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 132）

［位置］2 区−3、ⅡI20c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.84 m × 短軸 0.88 m の楕円形、深さ 0.22 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 430 g、縄文・弥生土器 3 g である。

SK25 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 132）

［位置］2 区−3、ⅡI18b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.18 m × 短軸 0.78 m の楕円形、深さ 0.12 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 61 g が出土した。

SK26 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 133）

［位置］2 区−3、ⅡI20b グリッド。平坦面に立地する。東半部は調査区域外にかかる。［形状］長軸 0.78 m×短軸 0.44 m の円形で、深さ 0.14 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 57 g が出土した。

SK27 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 133）

［位置］2 区−3、ⅡI19b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.90 m×短軸 0.56 m の楕円形、深さ 0.24 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 70 g が出土した。

SK28 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 133）

［位置］2 区−3、ⅡI19b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.67 m×短軸 0.50 m の楕円形、深さ 0.25 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 59 g、縄文・弥生土器 18 g である。

SK29 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 133）

［位置］2 区−3、ⅡI19c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.77 m×短軸 0.89 m の楕円形、深さ 0.18 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

古代土器 85 g が出土した。うち、1 点（a989）を掲載した。

SK30 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 134）

［位置］3 区−2、ⅢI13q グリッド。平坦面に立地する。北側で SI19 と重複し、これを切る。［形状］長軸 1.03 m×短軸 0.39 m の楕円形、深さ 0.35 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 38 g が出土した。

SK31 土坑

遺構（第 144 図、写真図版 134）

［位置］2 区−3、ⅡH16s グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.69 m×短軸 0.57 m の円形、深

さ 0.54 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 217 g、縄文・弥生土器 24 g である。

SK32 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 134）

［位置］2 区−3、ⅡH18t グリッド。平坦面に立地する。北側を調査時の不手際により欠失している。［形状］長軸 0.97 m × 短軸 0.56 m の隅丸方形基調を呈するもので、深さ 0.07 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 241 g、縄文・弥生土器 29 g である。

SK33 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 134）

［位置］2 区−2、ⅡH9m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.55 m × 短軸 0.52 m の長楕円形、深さ 0.30 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK34 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 134）

［位置］2 区−2、ⅡH9 m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.93 m × 短軸 0.60 m の長楕円形、深さ 0.27 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 73 g が出土した。

SK36 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 135）

［位置］2 区−2、ⅡH10n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.97 m × 短軸 1.81 m の不整形、深さ 0.67 m を測る。断面は逆台形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 263 g、縄文・弥生土器 4 g である。

SK37 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 135）

［位置］3 区−3、ⅢJ1a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.20 m × 短軸 2.09 m の円形、深さ 1.63 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 230 g、縄文・弥生土器 15 g である。

SK38 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 135）

［位置］3 区−3、ⅢJ2a グリッド。平坦面に立地する。東半部は削平のため残存しない。［形状］長軸 0.72 m ×短軸 0.63 m の不整形、深さ 0.15 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 62 g が出土した。

SK40 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 135）

［位置］2 区−3、ⅡI17a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.57 m×短軸 0.92 m の不整形、深さ 0.46 m を測る。断面は皿状で、底面は凹凸が顕著である。柱穴状小土坑の可能性もある。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

出土重量は古代土器 754 g、縄文・弥生土器 4 g である。うち、古代土器 1 点（a990）を掲載した。

SK41 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 136）

［位置］2 区−2、ⅡH7m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.94 m×短軸 0.39 m の楕円形、深さ 0.24 m を測る。断面は逆台形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 18 g、縄文・弥生土器 10 g である。

SK42 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 136）

［位置］2 区−2、ⅡH9l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.01 m×短軸 0.63 m の楕円形、深さ 0.41 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 10 g が出土した。

SK43 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 136）

［位置］2 区−2、ⅡH7l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.44 m×短軸 0.51 m の長楕円形、深さ 0.61 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 15 g が出土した。

SK44 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 136）

［位置］2 区−2、ⅡH8l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.30 m×短軸 1.02 m の円形、深さ 0.43 m を測る。断面は皿形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK45 土坑

遺構（第 145 図、写真図版 137）

［位置］2 区−2、ⅡH10o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.68 m×短軸 0.63 m の長楕円形、深さ 0.33 m を測る。断面は逆台形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

縄文・弥生土器 64 g が出土した。

SK46 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 137）

［位置］2 区−2、ⅡH9n グリッド。平坦面に立地する。西半部で SX39 と重複し、これにより切られる。［形状］長軸 0.87 m×短軸 0.42 m の円形で、深さ 0.45 m を測る。断面は長方形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK47 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 137）

［位置］3 区−3、ⅢJ2g グリッド。平坦面に立地する。西側が調査区域外にかかる。［形状］長軸 1.32 m×短軸 0.97 m の円形で、深さ 0.25 m を測る。断面は長方形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK48 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 137）

［位置］3 区−3、ⅢJ2f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.33 m×短軸 1.24 m の円形、深さ 0.36 m を測る。断面は長方形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK49 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 138）

［位置］3 区−3、ⅢJ3g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.09 m×短軸 1.09 m の隅丸方形、深さ 0.65 m を測る。断面は逆台形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK50 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 138）

［位置］3 区−3、ⅡI19o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.90 m×短軸 0.63 m の楕円形、深さ 0.36 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 50 g、石器・石製品 1 点 7.4 g、鉄滓 1 点 2.3 g である。

SK52 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 138）

［位置］2 区−2、ⅡH9g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.85 m×短軸 0.67 m の楕円形、深さ 0.39 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK53 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 138）

［位置］2 区−4、ⅡI15g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.81 m×短軸 1.29 m の楕円形、深さ 0.23 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 83 g が出土した。

SK54 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 139）

［位置］2 区−4、ⅡI15g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.21 m×短軸 1.00 m の楕円形、深さ 0.32 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK55 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 139）

［位置］2 区−4、ⅡI16a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.88 m×短軸 0.69 m の楕円形、深さ 0.38 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK56 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 139）

［位置］2 区−4、ⅡI14c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.93 m×短軸 0.41 m の楕円形、深さ 0.53 m を測る。断面は擂鉢状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 48 g、縄文・弥生土器 8 g である。

SK57 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 140）

［位置］2 区−4、ⅡH13s グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.25 m×短軸 0.65 m の隅丸長方形、深さ 0.08 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 9 g、縄文・弥生土器 2 g、鉄滓 1 点 2.8 g である。

SK58 土坑

遺構（第 146 図、写真図版 140）

［位置］2 区−4、ⅡI14b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.81 m×短軸 0.63 m の長楕円形、深さ 0.13 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 2 g、縄文・弥生土器 17 g である。

SK59 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 140）

［位置］2 区−4、ⅡH15t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.04 m×短軸 0.83 m の円形、深さ 0.28 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 322 g が出土した。

SK60 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 140）

［位置］2 区−4、ⅡH16t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.79 m×短軸 0.53 m の隅丸三角形、深さ 0.11 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 55 g が出土した。

SK62 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 141）

［位置］2 区−4、ⅡI16a グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.39 m×短軸 1.15 m の円形、深さ 0.23 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 262 図、写真図版 235）

出土重量は古代土器 179 g、縄文・弥生土器 40 g、石器・石製品 1 点 3.9 g である。うち、石器 1 点（d4）を掲載した。

SK65 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 141）

［位置］2区−4、ⅡH16sグリッド。平坦面に立地する。西側は掘り過ぎ、東側は削平のため詳細不明である。［形状］長軸2.00 m、深さ0.35 mを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第252・257図、写真図版228・231）

出土重量は古代土器1,697 g、縄文・弥生土器131 gである。うち、古代土器1点（a991）、弥生土器1点（b5）を掲載した。

SK66土坑

遺構（第147図、写真図版141）

［位置］2区−4、ⅡH16tグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.01 m×短軸0.63 mの楕円形、深さ0.35 mを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器7 g、鉄滓1点19.1 gである。

SK67土坑

遺構（第147図、写真図版141）

［位置］2区−4、ⅡI16cグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.37 m×短軸0.78 mの楕円形、深さ0.41 mを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK68土坑

遺構（第147図、写真図版142）

［位置］2区−4、ⅡI14bグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.67 m×短軸0.57 mの円形、深さ0.34 mを測る。断面はU字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器174 gが出土した。

SK69土坑

遺構（第147図、写真図版142）

［位置］4区−1、ⅢJ5tグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.19 m×短軸0.95 mの隅丸方形、深さ0.23 mを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器157 gが出土した。

SK70土坑

遺構（第147図、写真図版142）

［位置］2区−4、ⅡI16bグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.70 m×短軸0.44 mの楕円形、深さ0.23 mを測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK71 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 142）

［位置］4 区−1、ⅢJ5n グリッド。平坦面に立地する。攪乱により東半分を欠失している。［形状］長軸 0.66 m×短軸 0.32 m、深さ 0.28 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 32 g が出土した。

SK72 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 143）

［位置］4 区−1、ⅢI9f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.78 m×短軸 1.06 m の隅丸長方形、深さ 0.93 m を測る。断面は逆台形で、底面は凸凹が著しい。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 1,924 g が出土した。

SK73 土坑

遺構（第 147 図、写真図版 143）

［位置］4 区−1、ⅢI9f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.57 m×短軸 0.89 m の楕円形、深さ 0.17 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK74 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 143）

［位置］2 区−4、ⅡI11b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.85 m×短軸 1.11 m の楕円形、深さ 0.93 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 257 図、写真図版 231）

出土重量は古代土器 36 g、縄文・弥生土器 42 g である。うち、縄文土器 1 点（b4）を掲載した。

SK75 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 143）

［位置］2 区−4、ⅡI17g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.58 m×短軸 0.99 m の楕円形、深さ 0.35 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 278 図、写真図版 244）

出土重量は古代土器 161 g、縄文・弥生土器 45 g、金属製品 1 点 2.4 g である。うち、金属製品 1 点（e99）を掲載した。

SK76 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 144）

［位置］2 区−4、ⅡI15e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.18 m×短軸 0.92 m の楕円形、深さ 0.29 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK78 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 144）

［位置］2 区−4、ⅡI17b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.74 m × 短軸 0.55 m の楕円形、深さ 0.20 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK79 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 144）

［位置］2 区−4、ⅡI15b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 3.05 m × 短軸 1.71 m の楕円形、深さ 0.63 m を測る。断面は皿状で、南側が浅い。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK80 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 144）

［位置］1 区、ⅡH9e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.79 m × 短軸 0.67 m の円形、深さ 0.32 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 8 g が出土した。

SK81 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 145）

［位置］4 区−1、ⅢI9j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.74 m × 短軸 0.67 m の楕円形、深さ 0.59 m を測る。断面は袋状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 320 g、焼成粘土塊 1 点 25.4 g である。

SK82 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 145）

［位置］4 区−1、ⅢJ7l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.80 m × 短軸 0.69 m の円形、深さ 0.21 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK83 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 145）

［位置］4 区−1、ⅢJ5k グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.64 m×短軸 0.63 m の円形、深さ 0.18 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物（第 252 図、写真図版 228）
古代土器 152 g が出土した。うち、1 点（a992）を掲載した。

SK84 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 145）
［位置］4 区−1、ⅢJ5k グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.70 m×短軸 0.63 m の円形、深さ 0.20 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物
古代土器 16 g が出土した。

SK85 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 146）
［位置］4 区−1、ⅢJ6l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.58 m×短軸 0.42 m の円形、深さ 0.20 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物
出土していない。

SK86 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 146）
［位置］4 区−1、ⅢJ6l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.96 m×短軸 0.90 m の不整形、深さ 0.22 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物（第 252 図、写真図版 228）
古代土器 850 g が出土した。うち、4 点（a993〜996）を掲載した。

SK87 土坑

遺構（第 148 図、写真図版 146）
［位置］4 区−1、ⅢJ5k グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.04 m×短軸 0.77 m の楕円形、深さ 0.25 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物
古代土器 67 g が出土した。

SK88 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 146）
［位置］4 区−1、ⅢI8g グリッド。平坦面に立地する。SN21 と重複し、これにより切られる。［形状］長軸 0.84 m×短軸 0.53 m の隅丸長方形、深さ 0.09 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。
遺物
出土していない。

SK89 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 146）

［位置］4 区−1、ⅢJ5m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.74 m×短軸 0.85 m の楕円形、深さ 0.65 m を測る。断面は長方形である。底面は北東側の掘り込みが深い。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 405 g が出土した。

SK90 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 147）

［位置］4 区−1、ⅢJ7p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.00 m×短軸 1.03 m の楕円形、深さ 0.67 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 154 g が出土した。

SK91 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 147）

［位置］4 区−1、ⅢJ6m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.17 m×短軸 0.72 m の不整形、深さ 0.27 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK92 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 147）

［位置］4 区−1、ⅢJ8p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.55 m×短軸 1.51 m の楕円形、深さ 0.47 m を測る。断面は皿状で、底面は凸凹がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK93 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 147）

［位置］4 区−1、ⅢJ6l グリッド。平坦面に立地する。南側で SX154 と重複し、これに切られる。［形状］長軸 1.34 m×短軸 0.74 m の不整形、深さ 0.30 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 218 g が出土した。

SK94 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 148）

［位置］5 区−1、ⅢK12p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.44 m×短軸 1.06 m の隅丸長方形、深さ 0.10 m を測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK95 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 148）

［位置］5 区−1、ⅢK12s グリッド。平坦面に立地する。西半部は調査区域外にかかる。［形状］長軸 1.24 m ×短軸 0.44 m の円形、深さ 0.30 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 142 g が出土した。

SK96 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 148）

［位置］5 区−1、ⅢL17e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.56 m×短軸 0.93 m の楕円形、深さ 0.15 m を測る。断面は皿状で、底面は凸凹している。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 23 g が出土した。

SK97 土坑

遺構（第 149 図、写真図版 148）

［位置］5 区−1、ⅢL16f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.73 m×短軸 1.54 m の円形、深さ 0.26 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 48 g が出土した。

SK98 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 149）

［位置］5 区−1、ⅢL17g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.80 m×短軸 1.22 m の楕円形、深さ 0.65 m を測る。断面は擂鉢状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 24 g が出土した。

SK99 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 149）

［位置］5 区−1、ⅢL17g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.83 m×短軸 1.17 m の楕円形、深さ 0.83 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 53 g が出土した。

SK100 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 149）

［位置］4 区−1、ⅢJ4k グリッド。平坦面に立地する。北西側で SK156 と重複し、これを切る。［形状］

長軸 1.52 m×短軸 1.09 m の不整形、深さ 0.31 m を測る。断面は皿状で、底面は凸凹が著しい。[埋土] 自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 2,001 g、縄文・弥生土器 39 g である。

SK101 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 149）

[位置]4 区-1、ⅢJ4k グリッド。平坦面に立地する。南東側で SI51 と重複、これにより切られる。[形状] 長軸 1.35 m×短軸 0.84 m の楕円形、深さ 0.25 m を測る。断面は皿状である。[埋土] 自然堆積である。

遺物

古代土器 132 g が出土した。

SK103 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 150）

[位置] 4 区-1、ⅢJ4k グリッド。平坦面に立地する。西側で SK156 と重複し、これを切る。[形状] 長軸 0.79 m×短軸 0.65 m の楕円形、深さ 0.25 m を測る。断面は皿状である。[埋土]自然堆積である。

遺物

古代土器 90 g が出土した。

SK104 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 150）

[位置] 5 区-1、ⅢL13b グリッド。平坦面に立地する。[形状] 長軸 0.74 m×短軸 1.01 m の楕円形、深さ 0.21 m を測る。断面は皿状で、底面は凹凸がある。[埋土] 自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK105 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 150）

[位置] 5 区-1、ⅢL14e グリッド。平坦面に立地する。SK106 と西側で重複し、これにより切られる。[形状] 長軸 0.78 m×短軸 0.69 m の円形、深さ 0.44 m を測る。断面は皿状である。[埋土] 自然堆積である。

遺物

古代土器 894 g が出土した。

SK106 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 150）

[位置] 5 区-1、ⅢL14e グリッド。平坦面に立地する。東側で SK105 と重複し、これを切る。また、西側は調査区域外にかかる。[形状] 長軸 2.12 m×短軸 1.38 m の隅丸方形、深さ 0.48 m を測る。断面は皿状で、底面はほぼ平坦である。[埋土] 人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SK107 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 150）

［位置］6 区−1、ⅢK17g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.84 m×短軸 1.41 m の楕円形、深さ 0.78 m を測る。断面は擂鉢状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 85 g、縄文・弥生土器 11 g である。

SK108 土坑

遺構（第 150 図、写真図版 151）

［位置］6 区−1、ⅢL18g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.85 m×短軸 1.40 m の楕円形、深さ 0.96 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 155 g が出土した。

SK110 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 151）

［位置］6 区−1、ⅣM3d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.96 m×短軸 1.76 m の円形、深さ 0.15 m を測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK111 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 151）

［位置］6 区−1、ⅣM3d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.26 m×短軸 1.08 m の円形、深さ 0.11 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK112 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 151）

［位置］4 区−2、ⅢJ9n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.93 m×短軸 0.96 m の楕円形、深さ 0.56 m を測る。断面は皿状で、底面は凸凹がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 974 g が出土した。

SK113 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 152）

［位置］4 区-2、ⅢJ10r グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 3.23 m×短軸 0.83 m の長楕円形、深さ 0.44 m を測る。断面は皿状で、底面は平坦である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 189 g が出土した。

SK114 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 152）

［位置］4 区-2、ⅢK13e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.76 m×短軸 1.10 m の隅丸長方形、深さ 0.36 m を測る。断面は皿状で、底面は凹凸がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 1061 g が出土した。

SK115 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 152）

［位置］6 区-1、ⅣM4f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 3.24 m×短軸 1.21 m の長楕円形、深さ 0.53 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 16 g が出土した。

SK116 土坑

遺構（第 151 図、写真図版 152）

［位置］6 区-1、ⅣM5f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.85 m×短軸 1.41 m の楕円形、深さ 0.04 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK117 土坑

遺構（第 152 図）

［位置］6 区-1、ⅣM6h グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.69 m×短軸 1.33 m の隅丸長方形、深さ 0.19 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK127 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 153）

［位置］6 区-1、ⅣM6f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.82 m×短軸 0.62 m の長楕円形、深さ 0.14 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK128 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 153）

［位置］5 区−1、ⅢL16e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.49 m×短軸 1.22 m の楕円形、深さ 0.62 m を測る。断面は袋状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 252 図、写真図版 228）

古代土器 410 g が出土した。うち、2 点（a997〜998）を掲載した。

SK129 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 153）

［位置］4 区−2、ⅢK15i グリッド。平坦面に立地する。南側で SD18 と重複し、これにより切られる。［形状］長軸 2.25 m×短軸 1.64 m の不整形、深さ 1.26 m を測る。断面は長方形である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 107 g が出土した。

SK130 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 153）

［位置］4 区−2、ⅢK12d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.31 m×短軸 0.73 m の楕円形、深さ 0.20 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 719 g が出土した。

SK131 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 154）

［位置］4 区−2、ⅢK12d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.62 m×短軸 0.49 m の長楕円形、深さ 0.55 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 253 図、写真図版 228）

古代土器 1,834 g が出土した。うち、1 点（a999）を掲載した。

SK134 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 154）

［位置］5 区−1、ⅢL19g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.14 m×短軸 1.92 m の円形、深さ 1.08 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 253・278・279 図、写真図版 229・244）

出土重量は古代土器 1,829 g、金属製品 2 点 143.3 g である。うち、古代土器 2 点（a1000〜1001）、金属製品 2 点（e100〜101）を掲載した。

SK136 土坑

遺構（第 152 図、写真図版 154）

［位置］6 区−1、ⅣL5j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.15 m×短軸 1.24 m の隅丸長方形、

深さ 0.33 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 574 g が出土した。

SK138 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 154）

［位置］6 区−1、ⅣL1p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.29 m × 短軸 0.52 m の不整形、深さ 0.73 m を測る。断面は袋状で、南側の掘り込みが深い。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 293 g、焼成粘土塊 1 点 2.9 g である。

SK139 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 155）

［位置］5 区−2、ⅢK10k グリッド。平坦面に立地する。北側で SD26、南側で SD18 と重複。SD26 より古く、SD18 より新しい。［形状］長軸 2.67 m × 短軸 2.49 m の円形、深さ 0.80 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 152 g が出土した。

SK140 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 155）

［位置］5 区−1、ⅢL18f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.22 m × 短軸 0.80 m の楕円形、深さ 0.19 m を測る。断面は皿状で、底面は凹凸がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK141 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 155）

［位置］6 区−1、ⅣM7l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.13 m × 短軸 0.76 m の楕円形、深さ 0.22 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 45 g が出土した。

SK142 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 155）

［位置］6 区−1、ⅣM7l グリッド。平坦面に立地する。SX71 と重複し、これを切る。［形状］長軸 1.37 m × 短軸 0.66 m の楕円形、深さ 0.18 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK143 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 156）

［位置］3 区−2、ⅢJ3d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.80 m の楕円形、深さ 0.31 m を測る。断面は袋状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK144 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 156）

［位置］3 区−2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.91 m×短軸 0.59 m の楕円形、深さ 0.53 m を測る。断面は U 字状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK145 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 156）

［位置］3 区−2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.77 m×短軸 1.36 m の楕円形、深さ 0.55 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

縄文・弥生土器 15 g が出土した。

SK146 土坑

遺構（第 153 図、写真図版 156）

［位置］2 区−3、ⅡI18b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.25 m×短軸 0.97 m の不整形、深さ 0.17 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 253 図、写真図版 229）

古代土器 782 g が出土した。うち、2 点（a1002〜1003）を掲載した。

SK147 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 157）

［位置］2 区−2、ⅡH9n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.44 m×短軸 0.60 m の長楕円形、深さ 0.54 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 253 図、写真図版 229）

古代土器 351 g が出土した。うち、1 点（a1004）を掲載した。

SK148 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 157）

［位置］2 区−3、ⅡI18f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.04 m×短軸 0.75 m の長楕円形、深さ 0.72 m を測る。断面は皿状で、東側の掘り込みが深い。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は、古代土器 1,442 g、焼成粘土塊 1 点 57.8 g である。

SK149 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 157）

［位置］2 区−3、ⅡI18f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.90 m×短軸 0.81 m の長楕円形、深さ 0.54 m を測る。断面は皿状で、北側がやや深く掘り込まれる。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 253 図、写真図版 229）

古代土器 1,207 g が出土した。うち、1 点（a1005）を掲載した。

SK150 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 157）

［位置］2 区−2、ⅡH7l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.31 m×短軸 0.81 m の隅丸方形、深さ 0.11 m を測る。断面は皿状で、底面は凸凹がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 204 g が出土した。

SK151 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 158）

［位置］2 区−2、ⅡH7l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.59 m×短軸 0.89 m の楕円形、深さ 0.34 m を測る。断面は皿状である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器少量が出土した。

SK152 土坑

遺構（第 154 図、写真図版 158）

［位置］4 区−1、ⅢJ8t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.29 m×短軸 1.14 m の円形、深さ 0.21 m を測る。断面は皿状で、底面は凹凸がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SK154 土坑

遺構（第 155 図、写真図版 158）

［位置］4 区−1、ⅢJ6l グリッド。平坦面に立地する。北側で SK93 と重複し、これを切る。［形状］長軸 2.23 m×短軸 1.27 m の隅丸長方形、深さ 1.15 m を測る。断面は逆台形である。東側底面に副穴状の掘り込みを伴う。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器が 6,747 g 出土している。

SK155 土坑

遺構（第 155 図、写真図版 158）

［位置］5区-1、ⅢL17dグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.28ｍ×短軸1.10ｍの不整形、深さ0.22ｍを測る。断面は皿状で、底面はやや凸凹がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器が110ｇ出土している。

SK156土坑

遺構（第155図、写真図版159）

［位置］4区-1、ⅢJ4kグリッド。平坦面に立地する。南東側でSK100、東側でSK103と重複し、これらにより切られる。［形状］長軸2.79ｍ×短軸1.78ｍの不整形、深さ0.11ｍを測る。断面は皿状で、底面は凹凸している。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器218ｇが出土した。

SK157土坑

遺構（第155図、写真図版159）

［位置］6区-2、ⅣM10kグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.30ｍ×短軸1.17ｍの円形、深さ0.17ｍを測る。断面は皿状で、底面はやや凹凸がある。［埋土］自然堆積である。

遺物（第253図、写真図版229）

出土重量は古代土器42ｇ、石器・石製品1点39.5ｇである。うち、古代土器1点（a1010）を掲載した。

SK158土坑

遺構（第155図、写真図版159）

［位置］6区-2、ⅣM6cグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.47ｍ×短軸0.84ｍの楕円形、深さ0.16ｍを測る。断面は皿状で、底面はやや凹凸がある。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器103ｇが出土した。

SK159土坑

遺構（第155図、写真図版159）

［位置］5区-3、ⅢL17aグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.48ｍ×短軸0.71ｍの楕円形、深さ0.68ｍを測る。断面は袋状で、北側底面に副穴状の掘り込みを伴う。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器107ｇが出土した。

（4）　焼成　遺　構

SX01焼成遺構

遺構（第155図、写真図版160）

［位置］2区-1、ⅡH14eグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.14ｍ×短軸0.73ｍ、深さ0.23ｍの楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁・側壁・床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋

土］人為堆積と考えられる。第 4 層は掘り方である。

遺物

古代土器 391 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（アワ主体・キビ・イネ）が多量に検出された。

SX02 焼成遺構

遺構（第 155 図、写真図版 160）

［位置］2 区−1、ⅡH15g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.73 m×短軸 0.94 m、深さ 0.26 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。西側の底面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 259 g、縄文・弥生土器 1 g、石器・石製品 1 点 0.3 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（キビ主体・アワ）が多量に検出された。

SX03 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 160）

［位置］2 区−1、ⅡH18n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.77 m×短軸 0.92 m、深さ 0.33 m の隅丸方形の土坑で、東半部が調査区域外にかかる。全容が不明であるため、焼失住居の可能性もある。断面は長方形で、底面は平坦である。西側床面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 101 g、縄文・弥生土器 11 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ科・マメ科）が中量検出された。なお、底面から出土した炭化材（試料 No.6）の放射性炭素年代測定（AMS 測定）を実施している。その結果、暦年較正年代（1σ）で 683〜766calAD の間に 2 つの範囲で示される年代観が得られた。

SX04 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 160）

［位置］3 区−1、ⅡI17l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.88 m×短軸 0.57 m、深さ 0.08 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。底面から壁面に沿って焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 85 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・アワ）が多量に検出された。

SX05 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 161）

［位置］3 区−1、ⅡI16k グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.28 m×短軸 0.80 m、深さ 0.30 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 339 g の遺物が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ・キビ・アワ）が多量に検出された。

SX06 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 161）

［位置］3 区−1、ⅡI16j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.67 m×短軸 0.96 m、深さ 0.20 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状で、底面は平坦である。西側の底面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積である。中央部から赤彩土師器甕の上半部が倒立した状態で出土した（a1011）。遺構廃絶に関わる何らかの祭祀が行われた可能性がある。

遺物（第 253 図、写真図版 229）

古代土器 1,632 g が出土した。うち、1 点（a1011）を掲載した。

SX07 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 161）

［位置］2 区−1、ⅡH16r グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.37 m×短軸 0.99 m、深さ 0.10 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面は形成されず、西半部に焼土と炭化物の不整な広がりを認めるものである。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。

遺物

古代土器 548 g が出土した。

SX09 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 161）

［位置］2 区−1、ⅡH14j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.27 m×短軸 1.03 m、深さ 0.14 m の楕円形の土坑である。南側を攪乱に切られる。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積である。

遺物（第 253 図、写真図版 229）

出土重量は古代土器 243 g、縄文・弥生土器 25 g である。うち、古代土器 1 点（a1012）を掲載した。

SX10 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 162）

［位置］2 区−1、ⅡH15l グリッド。平坦面に立地する。北側で SX11 と重複し、これを切る。［形状］長軸 1.48 m×短軸 1.35 m、深さ 0.35 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積である。

遺物

古代土器 233 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・アワ・アズキ類）が多量に検出された。

SX11 焼成遺構

遺構（第 156 図、写真図版 162）

［位置］2区-1、ⅡH15l グリッド。平坦面に立地する。南側でSX10と重複し、これにより切られる。また、北側でSX12と重複し、これを切る。［形状］長軸1.89ｍ×短軸1.14ｍ、深さ0.29ｍを測る。南側隅丸方形、北側楕円形の土坑である。断面は逆台形である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積である。

遺物

出土重量は古代土器385ｇ、縄文・弥生土器23ｇが出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、多量の炭化種実（イネ主体・キビ・アワ）と、微量の被熱した骨類（種類不明）が検出された。

SX12 焼成遺構

遺構（第157図、写真図版162）

［位置］2区-1、ⅡH15m グリッド。平坦面に立地する。南側でSX11と重複、これにより切られる。［形状］長軸2.23ｍ×短軸1.14ｍ、深さ0.58ｍを測る。南側隅丸方形、北側楕円形の土坑である。断面は逆台形である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］埋土中に炭化物の薄層が挟まる人為堆積の様相を呈す。第8層は掘り方である。

遺物

古代土器285ｇが出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、多量の炭化種実（イネ・モモ・キビ）と、微量の被熱した骨類（種類不明）が検出された。

SX13 焼成遺構

遺構（第157図、写真図版162）

［位置］3区-2、ⅢI1l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.93ｍ×短軸0.78ｍ、深さ0.14ｍの円形の土坑である。断面は皿状である。床面立ち上がりから側壁にかけて焼成面が形成されている。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器368ｇが出土した。

SX14 焼成遺構

遺構（第157図、写真図版163）

［位置］3区-2、ⅢI3p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.90ｍ×短軸0.40ｍ、深さ0.08ｍの楕円形の土坑である。奥壁、側壁、床面にかけて焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器39ｇ、鉄滓1点5.6ｇである。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・ヒエ・アワ）が少量、被熱した骨類（種類不明）が微量、鉄生産関連遺物である粒状滓が少量検出された。

SX15 焼成遺構

遺構（第157図、写真図版163）

［位置］3区-2、ⅢI3r グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸0.70ｍ×短軸0.50ｍ、深さ0.10ｍの楕円形の土坑である。南側の床面に弱い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 145 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ）が中量検出された。

SX16 焼成遺構

遺構（第 157 図、写真図版 163）

［位置］3 区−2、ⅢI12n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.09 m × 短軸 0.91 m、深さ 0.20 m の円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。

遺物

古代土器 41 g が出土した。

SX17 焼成遺構

遺構（第 157 図、写真図版 163）

［位置］3 区−2、ⅡI20j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.20 m × 短軸 0.92 m、深さ 0.16 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。壁面〜床面全域にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 87 g が出土した。

SX18 焼成遺構

遺構（第 157 図、写真図版 163）

［位置］3 区−2、ⅡI20j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.02 m × 短軸 0.72 m、深さ 0.11 m の隅丸長方形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 104 g、縄文・弥生土器 40 g である。

SX19 焼成遺構

遺構（第 157 図、写真図版 163）

［位置］3 区−2、ⅡI19j グリッド。平坦面に立地する。南側で SK17 と重複し、これにより切られる。［形状］長軸 1.67 m × 短軸 1.36 m、深さ 0.29 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面の一部に焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 438 g、縄文・弥生土器 61 g である。

SX20 焼成遺構

遺構（第 157 図、写真図版 164）

［位置］3 区−2、ⅡI20k グリッド。平坦面に立地する。北側で SI09 と重複、これとの新旧は不明である。［形状］長軸 0.58 m × 短軸 0.57 m、深さ 0.06 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。中央

部の底面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 98 g、縄文・弥生土器 131 g である。

SX23 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 164）

［位置］3 区−2、ⅢI4s グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.47 m × 短軸 1.00 m、深さ 0.10 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。中央から西側床面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 65 g、縄文・弥生土器 49 g である。

SX25 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 164）

［位置］3 区−2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.50 m × 短軸 0.87 m、深さ 0.32 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］2 枚の焼成面が認められる。第 6 層が初回の焼成面、その後人為的に埋め戻して 2 回目の焼成が行われたと考えられる。第 1 層は 2 回目に伴う焼成面と判断している。

遺物

出土重量は古代土器 217 g、縄文・弥生土器 51 g である。

SX26 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 164）

［位置］3 区−2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.83 m × 短軸 1.08 m、深さ 0.29 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。底面は焼けておらず、奥壁と側壁のみ焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 181 g、縄文・弥生土器 12 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・オオムギ・ヒエ・キビ・アワ・ダイズ類 ?）が中量、鉄生産関連遺物である粒状鉄が少量検出された。

SX27 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 164・165）

［位置］3 区−2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.41 m × 短軸 1.07 m、深さ 0.22 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 147 g が出土した。

SX29 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 165）

［位置］2 区−3、ⅡI18d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.18 m×短軸 0.75 m、深さ 0.26 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁にかけてコの字状に強い焼成を受けている。床面には炭化物が分布している。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 25 g、縄文・弥生土器 25 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・コムギ・エゴマ・シソ属）が多量に検出された。

SX30 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 165）

［位置］2 区−3、ⅢI1f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.04 m×短軸 0.86 m、深さ 0.09 m の円形の土坑である。断面は皿状である。南西側の床面に焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SX32 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 165）

［位置］3 区−2、ⅡI19j グリッド。平坦面に立地する。東側が攪乱を受け、残存状態は不良である。［形状］長軸 1.03 m×短軸 0.72 m、深さ 0.14 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。西側の側壁から中央部床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］記録なし。

遺物

出土していない。

SX33 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 165）

［位置］3 区−2、ⅢI3p グリッド。平坦面に立地する。残存状態が悪く、詳細は不明である。［形状］長軸 0.89 m×短軸 0.74 m、深さ 0.07 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。床面に焼成面が形成される。［埋土］残存しない。

遺物

縄文・弥生土器 6 g が出土した。

SX34 焼成遺構

遺構（第 158 図、写真図版 166）

［位置］2 区−3、ⅡI20c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.94 m×短軸 0.79 m、深さ 0.05 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。

遺物

出土重量は古代土器 49 g、焼成粘土塊 7 点 44.8 g、石器・石製品 1 点 0.8 g である。

SX36 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 166）

［位置］3 区−2、ⅢI3o グリッド。平坦面に立地する。西側で SI11 と重複、これとの新旧は不明である。［形状］長軸 1.24 m×短軸 0.83 m、深さ 0.23 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積するものである。床面に厚さ 5 mm の炭化物層が形成されている。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 624 g が出土した。

SX37 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 166）

［位置］3 区−2、ⅢI3p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.92 m×短軸 0.66 m、深さ 0.03 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁と側壁に沿って環状の焼成面が形成されている。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 69 g、縄文・弥生土器 1 g、鉄滓 1 点 6.7 g である。

SX38 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 166）

［位置］2 区−3、ⅡH17t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.91 m×短軸 1.27 m、深さ 0.37 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁から底面の全域にかけて焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 2,054 g、縄文・弥生土器 48 g、焼成粘土塊 1 点 5.8 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・モモ）が中量検出された。

SX39 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 166・167）

［位置］2 区−2、ⅡH9n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸（最大）7.0 m×短軸 0.9 m、深さ 0.54 m を測る。溝形若しくは長楕円形の土坑である。断面は U 字状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 4 層は掘り方である。

遺物（第 253・278 図、写真図版 229・244）

出土重量は古代土器 410 g、縄文・弥生土器 65 g、金属製品 4 点 50 g である。うち、古代土器 2 点（a1013〜1014）、金属製品 4 点（e102〜104）を掲載した。

SX40 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 167）

［位置］2 区−2、ⅡH9o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸（最大）7.0 m×短軸 1.2 m、深さ 0.54 m を測る。溝形若しくは長楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。

遺物（第 253 図、写真図版 229）
古代土器 509 g が出土した。うち、2 点（a1015～1016）を掲載した。

SX42 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 167）
［位置］2 区-2、ⅡH11j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.56 m×短軸 1.25 m、深さ 0.42 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。西側の底面に弱い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。
遺物（第 254 図、写真図版 229）
出土重量は古代土器 1,162 g、石器・石製品 2 点 37.1 g である。うち、古代土器 2 点（a1017～1018）を掲載した。

SX43 焼成遺構

遺構（第 159 図、写真図版 167）
［位置］2 区-2、ⅡH10n グリッド。平坦面に立地する。［形状］削平の為、炭化物範囲のみ確認した。長軸 0.70 m×短軸 0.47 m、深さ 0.04 m の楕円形の範囲に炭化物が分布するものである。［埋土］削平の為、なし。
遺物
出土していない。

SX46 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 167）
［位置］2 区-3、ⅡI20g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 2.76 m×短軸 0.52 m、深さ 0.38 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。南側の壁面（奥壁と側壁の一部）から北側の底面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 7・8 層は掘り方である。
遺物（第 254 図、写真図版 229）
出土重量は古代土器 3,543 g、縄文・弥生土器 109 g である。うち、古代土器 6 点（a1019～1024）を掲載した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（オニグルミ・モモ・イネ）が多量に検出された。

SX48 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 168）
［位置］3 区-3、ⅡI19m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.04 m×短軸 0.80 m、深さ 0.29 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物のブロックがレンズ状に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。
遺物（第 261 図、写真図版 234）
出土重量は古代土器 80 g、土製品 1 点 12.4 g である。うち、土製品 1 点（c43）を掲載した。

SX49 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 168）

［位置］2 区-2、ⅡH6h グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.64 m×短軸 1.63 m、深さ 0.19 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 157 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ）が中量検出された。

SX50 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 168）

［位置］2 区-2、ⅡH5i グリッド。平坦面に立地する。西半部は調査区域外にかかるため未調査である。［形状］長軸 0.95 m×短軸 0.92 m、深さ 0.23 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。側壁から床面にかけて、強い焼成面が形成される。［埋土］2 枚の焼成面が認められる。第 6 層が初回の焼成面、その後人為的に埋戻して 2 回目の焼成が行われたと考えられる。第 2 層は 2 回目に伴う焼成面と判断している。

遺物

出土重量は古代土器 230 g、縄文・弥生土器 10 g、焼成粘土塊 4 点 40.2 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・アワ）が中量検出された。

SX51 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 168）

［位置］3 区-3、ⅡI20p グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.26 m×短軸 0.64 m、深さ 0.44 m の隅丸長方形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はないが、焼土・炭化物ブロックが層状に堆積する。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

微細物洗い出し分析の結果、巻貝類（ヒメコハク）2 個体が検出された。現生の混入と判断される。

SX52 焼成遺構

遺構（第 160 図、写真図版 169）

［位置］3 区-3、ⅡI19n グリッド。平坦面に立地する。SI34 と重複し、これより新しい。［形状］長軸 2.41 m×短軸 1.68 m、深さ 0.11 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。床面に強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 635 g、鉄滓 1 点 1.5 g である。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（オニグルミ・スモモ・イネ・オオムギ・ムギ類・コムギ・ヒエ・キビ・アワ）が多量に検出された。

SX53 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 169）

［位置］2 区-4、ⅡI16n グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.86 m×短軸 0.75 m、深さ 0.11 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。床面に均一な焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物（第 254 図、写真図版 229）
古代土器 136 g が出土した。うち、2 点（a1025～1026）を掲載した。

SX54 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 169）
［位置］2 区−4、ⅡI14d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.01 m×短軸 0.53 m、深さ 0.13 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。第 4 層は掘り方である。
遺物
出土していない。

SX56 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 169）
［位置］2 区−4、ⅡH9t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.06 m×短軸 1.01 m、深さ 0.09 m の円形の土坑である。断面は皿状である。床面全体に均一な焼成面が形成される。［埋土］2 枚の焼成面が認められる。第 4 層が初回の焼成面、その後人為的に埋戻して 2 回目の焼成が行われたと考えられる。第 2 層は 2 回目の焼成面と判断している。
遺物
出土していない。

SX57 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 170）
［位置］2 区−5、ⅡH13m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.17 m×短軸 0.78 m、深さ 0.23 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面の一部に弱い焼成面が認められる。［埋土］人為堆積と考えられる。第 4 層は掘り方である。
遺物
古代土器 186 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・アワ）が多量に検出された。

SX58 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 170）
［位置］2 区−4、ⅡH10t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.34 m×短軸 1.25 m、深さ 0.24 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。
遺物（第 254 図、写真図版 229）
古代土器 36 g が出土した。うち、1 点（a1027）を掲載した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（キビ主体・イネ・アワ）が多量に検出された。

SX59 焼成遺構

遺構（第 161 図、写真図版 170）

［位置］2区-4、ⅡH12tグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.10ｍ×短軸0.81ｍ、深さ0.19ｍの楕円形の土坑である。断面は皿状である。床面全域に焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第3層は掘り方である。

遺物

古代土器161ｇが出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（キビ）が微量検出された。

SX60 焼成遺構

遺構（第161図、写真図版170）

［位置］2区-4、ⅡH10qグリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸1.08ｍ×短軸0.99ｍ、深さ0.24ｍの円形の土坑である。断面は皿状である。床面全域に均一な焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器95ｇが出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（モモ主体・イネ・オオムギ・ムギ類・キビ・アワ）が多量に検出された。

SX61 焼成遺構

遺構（第161図、写真図版171）

［位置］4区-1、ⅢJ8pグリッド。平坦面に立地する。南北方向に多数の攪乱を受け、残存状態は不良である。［形状］長軸2.56ｍ×短軸1.00ｍ、深さ0.26ｍの楕円形の土坑である。断面は皿状である。南東側の底面に断続的な焼成面が認められる。［埋土］削平のため、なし。

遺物（第261図、写真図版234）

古代土器21ｇ、縄文・弥生2ｇ、土製品26点621.3ｇが出土した。うち、土製品26点（c48～69）を掲載した。

SX62 焼成遺構

遺構（第161図、写真図版171）

［位置］1区、ⅡH8eグリッド。平坦面に立地する。上部削平により残存状態は不良である。［形状］長軸0.70ｍ×短軸0.60ｍの不整形な範囲に、焼土ブロック・炭粒が認められるのみである。検出状況から焼成遺構と認定した。［埋土］残存せず。

遺物

出土重量は古代土器3ｇ、縄文・弥生土器5ｇである。

SX71 焼成遺構

遺構（第162図、写真図版171）

［位置］6区-1、ⅣM71グリッド。平坦面に立地する。SK142と重複し、これにより切られる。［形状］長軸1.07ｍ×短軸1.04ｍ、深さ0.26ｍの楕円形の土坑である。断面は皿状である。西側の壁面から東側底面にかけて均一な焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SX72 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 171）

［位置］6 区−1、ⅣM8l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.10 m×短軸 0.91 m、深さ 0.36 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、埋土下位に焼土・炭化物ブロックが堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SX73 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 171・172）

［位置］6 区−1、ⅣM7f グリッド。平坦面に立地する。SI99 と重複し、これより新しい。［形状］長軸 1.73 m×短軸 1.20 m、深さ 0.31 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面にかけて焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物（第 254 図、写真図版 229）

古代土器 754 g が出土した。うち、1 点（a1028）を掲載した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体）が中量検出された。

SX74 焼成遺構（旧 SK10 土坑）

遺構（第 162 図、写真図版 172）

［位置］3 区−2、ⅢI2o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.13 m×短軸 1.05 m、深さ 0.38 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はないが、炭化物と焼土ブロックが壁面から床面に沿って堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SX75 焼成遺構（旧 SK61 土坑）

遺構（第 162 図、写真図版 172）

［位置］2 区−4、ⅡH16t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.61 m×短軸 0.91 m、深さ 0.30 m を測る。北東側隅丸方形、南西側楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はないが、炭化物と焼土ブロックが北壁側から床面にかけて堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

縄文・弥生土器 16 g が出土した。

SX77 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 172）

［位置］6 区−2、ⅣM10f グリッド。平坦面に立地する。南北方向に多数の攪乱を受け、残存状態は不良である。［形状］長軸 1.39 m×短軸 1.19 m、深さ 0.15 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。床面に明確な焼成面は形成されていないが、炭化物の分布状況、形状から焼成遺構と判断した。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 96 g が出土した。

SX78 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 173）

［位置］6 区-2、ⅣM8f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.69 m×短軸 0.87 m、深さ 0.33 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はないが、焼土・炭化物ブロックが埋土の下位に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物（第 254 図、写真図版 229）

古代土器 471 g が出土した。うち、1 点（a1029）を掲載した。このほか微細物洗い出し分析の結果、中量の炭化種実（イネ主体・キビ）と、微量の被熱骨類（種類不明）が検出された。

SX79 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 173）

［位置］6 区-2、ⅣM8f グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.41 m×短軸 1.06 m、深さ 0.12 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、側壁、床面の一部にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 286 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・ヒエ・アワ）が多量に検出された。

SX80 焼成遺構

遺構（第 162 図、写真図版 173）

［位置］6 区-2、ⅣM8c グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.52 m×短軸 0.85 m、深さ 0.20 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。東側の壁面から床面にかけて弱い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 1,265 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ・キビ）が微量に検出された。

SX81 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 173）

［位置］6 区-2、ⅣM5b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.66 m×短軸 1.13 m、深さ 0.28 m を測る。西側隅丸方形、東側楕円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物ブロックが埋土の下位に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 590 g が出土した。

SX82 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 174）

［位置］6 区-2、ⅣL8t グリッド。平坦面に立地する。東側は調査区域外にかかるため全容は不明、小

形の焼失住居の可能性もある。[形状]調査した範囲での計測値は長軸0.74 m×短軸0.79 m、深さ0.18 mを測る。隅丸方形の土坑である。断面はビーカー状である。西側の床面にかけて焼成面が形成される。[埋土] 人為堆積と考えられる。

遺物

微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ）が中量検出された。

SX83 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 174）

[位置] 6 区-2、ⅣL7s グリッド。平坦面に立地する。残存状態は不良である。[形状] 長軸 1.66 m×短軸 0.74 m、深さ 0.10 m を測る。南側隅丸方形、北側楕円形の土坑である。断面は皿状である。検出時、奥壁、側壁に沿って環状の焼土ブロックを確認したことから上部を削平された焼成遺構と判断した。[埋土] 人為堆積と考えられる。

遺物

出土重量は古代土器 168 g、焼成粘土塊 1 点 5.4 g である。

SX84 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 174）

[位置] 6 区-2、ⅣL7r グリッド。平坦面に立地する。[形状] 長軸 1.30 m×短軸 0.90 m、深さ 0.15 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。南東側の壁面から底面にかけて焼成面が形成される。[埋土] 人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 2,975 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ）が少量検出された。

SX85 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 174）

[位置] 6 区-2、ⅣL6r グリッド。平坦面に立地する。[形状] 長軸 1.14 m×短軸 0.64 m、深さ 0.1 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。北側の床面にかけて焼成面が形成される。[埋土] 人為堆積と考えられる。第 3 層は掘り方である。

遺物

古代土器 10 g が出土した。

SX86 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 175）

[位置] 6 区-2、ⅣL6r グリッド。平坦面に立地する。[形状] 長軸 0.79 m×短軸 0.70 m、深さ 0.30 m の楕円形の土坑である。断面は袋状である。床面中央に焼成面が形成される。[埋土] 人為堆積と考えられる。

遺物

出土していない。

SX87 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 175）

［位置］6 区−2、ⅣM7b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.64 m×短軸 1.42 m、深さ 0.45 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。ほぼ全域の壁面から底面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 621 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ）が中量検出された。

SX89 焼成遺構

遺構（第 163 図、写真図版 175）

［位置］5 区−3、ⅢK16m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.48 m×短軸 0.88 m、深さ 0.22 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。検出時に南半部中央にかけて焼成面が形成されていたことから上部を削平された焼成遺構と判断した。［埋土］焼成面より上層は残存していない。第 2 層は人為堆積（掘り方）である。

遺物

古代土器 25 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ・オオムギ・ムギ類・コムギ・ヒエ）が中量検出された。

SX90 焼成遺構

遺構（第 164 図、写真図版 175）

［位置］5 区−3、ⅢK17o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.82 m×短軸 0.99 m、深さ 0.29 m を測る。北側隅丸方形、南側楕円形の土坑である。断面は皿状である。奥壁、床面の一部にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］埋土中に礫を多量に含む人為堆積である。

遺物

古代土器 564 g が出土した。

SX91 焼成遺構

遺構（第 164 図、写真図版 176）

［位置］5 区−3、ⅢK17m グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.88 m×短軸 0.79 m、深さ 0.28 m の円形の土坑である。断面は皿状である。明確な焼成面はなく、埋土の下位に焼土ブロックが堆積するものである。第 2 層は炭化物層である。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 12 g が出土した。このほか微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・コムギ・アワ）が多量に検出された。

SX92 焼成遺構

遺構（写真図版 176）

［位置］5 区−3、ⅢK16o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.89 m×短軸 0.78 m の焼成面と炭化物の広がりを確認した。検出状況から焼成遺構と判断したものである。［埋土］なし。

遺物

古代土器 364 g が出土した。

SX93 焼成遺構

遺構（第 164 図、写真図版 176）

［位置］5 区−3、ⅢK17o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.41 m×短軸 1.13 m、深さ 0.33 m の隅丸方形の土坑である。断面は皿状である。北側の壁面から床面にかけて強い焼成面が形成される。［埋土］人為堆積と考えられる。第 5 層は掘り方である。

遺物

古代土器 34 g が出土した。

SX94 焼成遺構

遺構（第 164 図、写真図版 176）

［位置］5 区−3、ⅢK17o グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.40 m×短軸 1.29 m、深さ 0.30 m の楕円形の土坑である。断面は皿状である。1 層と 2 層との境に薄い焼成面が形成されている。［埋土］人為堆積と考えられる。第 2 層は掘り方である。

遺物

古代土器 11 g が出土した。

SX95 焼成遺構

遺構（第 164 図、写真図版 177）

［位置］6 区−2、ⅣM7f グリッド。平坦面に立地する。SI99 と重複し、これにより南側と東側を切られている。残存状態は不良である。［形状］残存値で、長軸 0.51 m×短軸 0.40 m、深さ 0.19 m を測る。隅丸方形基調で、断面は皿状である。明確な焼成面はなく、焼土・炭化物ブロックが埋土の下位に堆積するものである。［埋土］人為堆積と考えられる。

遺物

古代土器 78 g が出土した。

（5）　焼土　遺　構

SN01 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 177）

［位置］3 区−1、ⅡI18r グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.50 m×短軸 0.45 m、厚さ 7 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物

古代土器 16 g が出土した。

SN02 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 177）

［位置］3 区−2、ⅢI3t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.38 m×短軸 0.34 m、厚さ 2 cm の不整形の淡い焼成痕跡である。

遺物

古代土器 10 g が出土した。

SN03 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 177）

［位置］3 区-2、ⅢI4t グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.52 m×短軸 0.37 m、厚さ 2 cm の楕円形の焼成痕跡である。

遺物

出土していない。

SN04 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 178）

［位置］3 区-2、ⅢI2q グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.52 m×短軸 0.44 m、厚さ 6 cm の円形の焼成痕跡である。上部を削平された焼成遺構の可能性もある。

遺物

出土していない。

SN09 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 178）

［位置］3 区-2、ⅡI20j グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.48 m×短軸 0.43 m、厚さ 3 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物

出土していない。

SN10 焼土

遺構（第 164 図、写真図版 178）

［位置］3 区-2、ⅡI19i グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.52 m×短軸 0.50 m、厚さ 6 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物

出土していない。

SN11 焼土

遺構（第 165 図、写真図版 178）

［位置］3 区-2、ⅢI3q グリッド。平坦面に立地する。SI19 と重複し、これを切る。［形状］長軸 0.70 m×短軸 0.33 m、厚さ 3 cm の不整形の焼成痕跡である。

遺物（第 254 図、写真図版 229）

古代土器 313 g が出土した。うち、1 点（a1030）を掲載した。このほか焼土の微細物洗い出し分析の結果、炭化種実（イネ主体・ムギ類・キビ）が中量検出された。

SN12 焼土

遺構（第 165 図、写真図版 179）

［位置］2区-3、ⅡI17b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 1.23 m×短軸 0.60 m、厚さ 10 cm の楕円形の焼成痕跡である。上部を削平された焼成遺構の可能性もある。
遺物（第 254 図、写真図版 229）
出土重量は古代土器 479 g、縄文・弥生土器 48 g である。うち、古代土器 1 点（a1031）を掲載した。

SN13 焼土
遺構（第 165 図、写真図版 179）
［位置］3区-3、ⅡI 19l グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.95 m×短軸 0.71 m、厚さ 4 cm の不整形の焼成痕跡である。
遺物
出土していない。

SN14 焼土
遺構（第 165 図）
［位置］2区-4、ⅡI16h グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.56 m×短軸 0.42 m、厚さ 4 cm の円形の焼成痕跡である。
遺物
出土していない。

SN15 焼土
遺構（第 165 図、写真図版 179）
［位置］2区-4、ⅡI17e グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.48 m×短軸 0.41 m、厚さ 5 cm の円形の焼成痕跡である。
遺物
古代土器 13 g が出土した。

SN16 焼土
遺構（第 165 図、写真図版 179）
［位置］4区-1、ⅢK7d グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.88 m×短軸 0.62 m、厚さ 7 cm の楕円形の焼成痕跡である。
遺物
出土していない。

SN20 焼土
遺構（第 165 図、写真図版 180）
［位置］4区-2、ⅢJ6i グリッド。平坦面に立地する。南半部は攪乱の為欠失している。［形状］長軸 1.47 m×短軸 0.26 m、厚さ 8 cm の楕円形の焼成痕跡である。
遺物
出土していない。

SN21 焼土（旧 SX66 焼成遺構）

遺構（第 165 図、写真図版 180）

［位置］3 区−3、ⅡI8g グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.86 m×短軸 0.73 m、厚さ 8 cm の楕円形の焼成痕跡である。

遺物

出土していない。

SN22 焼土

遺構（第 165 図、写真図版 180）

［位置］6 区−2、ⅣM9b グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.37 m×短軸 0.27 m、厚さ 7 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物

出土していない。

SN23 焼土

遺構（第 165 図、写真図版 180）

［位置］5 区−3、ⅢK19s グリッド。平坦面に立地する。［形状］長軸 0.65 m×短軸 0.38 m、厚さ 7 cm の円形の焼成痕跡である。

遺物

古代土器 23 g が出土した。

（6）溝　　跡

SD01 溝

遺構（第 166 図、写真図版 181）

［位置］3 区−1、ⅡJ20e グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 1.9 m、深さ 1.3 m、長さ 34.1 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

出土重量は古代土器 1,537 g、縄文・弥生土器 57 g、石器・石製品 1 点 22.1 g である。うち、古代土器 3 点（a1032〜1034）を掲載した。

SD02 溝

遺構（第 167 図、写真図版 181）

［位置］3 区−1、ⅡJ18a グリッドほか。平坦面に立地する。東側で SI12 と重複し、これを切る。［形状］幅 0.7 m、深さ 0.8 m、長さ 35.0 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

古代土器 1,628 g が出土した。うち、3 点（a1035〜1037）を掲載した。

SD03 溝

遺構（第 168 図、写真図版 182）

［位置］3 区−1、ⅡI17s グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.7 m、深さ 0.4 m、長さ 10.6 m

以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 4 g、縄文・弥生土器 8 g である。

SD04 溝

遺構（第 169 図、写真図版 182）

［位置］2 区−1、ⅡH17n グリッドほか。平坦面に立地する。東端部で SX03 と重複し、これを切る。［形状］幅 0.9 m、深さ 0.2 m、長さ 11.7 m 以上の直線的に延びる溝である。別遺構として調査しているが、平面の形状から本来は SD09、SD17 と同一の遺構であった可能性が高いと考えられる。その場合、溝の全長は 50 m 以上となる。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 257・279 図、写真図版 231・244）

出土重量は古代土器 413 g、縄文・弥生土器 26 g、石器・石製品 2 点 58.9 g、金属製品 1 点 6 .6g である。うち、縄文土器 1 点（b3）、金属製品 1 点（e105）を掲載した。

SD05 溝

遺構（第 168 図、写真図版 182）

［位置］3 区−1、ⅡI15k グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.9 m、深さ 0.2 m、長さ 7.4 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 182 g、縄文・弥生土器 11 g である。

SD06 溝

遺構（第 170 図、写真図版 183）

［位置］3 区−2、ⅡI18n グリッドほか。平坦面に立地する。SI35、SI17、SI16 と重複し、これらを切る。［形状］幅 1.1 m、深さ 0.3 m、長さ 20.8 m 以上の直線的に延びる溝である。 底面に径 40〜60 cm の隅丸方形〜楕円形の連続する掘り方を持つ。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 267 図、写真図版 238）

出土重量は古代土器 2,066 g、縄文・弥生土器 6 g、石器・石製品 1 点 180.5 g である。うち、石器・石製品 1 点（d53）を掲載した。

SD07 溝

遺構（第 171 図、写真図版 183・184）

［位置］2 区−2、ⅡH9j グリッドほか。平坦面に立地する。南側で SI24、SI30、中央部で SI28 と重複し、これらを切る。［形状］幅 1.2 m、深さ 0.5 m、長さ 34.0 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

出土重量は古代土器 2,359 g、縄文・弥生土器 32 g、石器・石製品 3 点 540.4 g である。うち、古代土器 1 点（a1038）を掲載した。

SD09 溝

遺構（第 169 図）

［位置］2 区−2、ⅡH8q グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.9 m、深さ 0.1 m、長さ 7.4 m 以上の直線的に延びる溝である。別遺構として調査しているが、平面形状から判断して本来は SD17、SD04 と同一の遺構であった可能性が高いと考えられる。その場合、溝の全長は 50 m 以上となる。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 44 g、縄文・弥生土器 11 g である。

SD10 溝

遺構（第 168 図、写真図版 184）

［位置］2 区−2、ⅡH11n グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 1.1 m、深さ 0.4 m、長さ 2.7 m 以上の直線的な溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 720 g が出土した。

SD13 溝

遺構（第 168 図、写真図版 184）

［位置］2 区−2、ⅡH10h グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.8 m、深さ 0.3 m、長さ 4.0 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

古代土器 77 g が出土した。うち、1 点（a1039）を掲載した。

SD16 溝

遺構（第 171 図、写真図版 184）

［位置］2区−4、ⅡH14p グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 1.0m、深さ 0.3m、長さ 25.2 m 以上の緩い S 字を描く溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 122 g、縄文・弥生土器 11 g である。

SD17 溝

遺構（第 169 図）

［位置］2 区−4、ⅡH12p グリッドほか。平坦面に立地する。西端部で SI38 と重複し、これを切る。［形状］幅 0.7 m、深さ 0.2 m、長さ 14.9 m 以上の緩い S 字を描く溝である。別遺構として調査しているが、平面形状から判断して、本来は SD09、SD04 と同一遺構であった可能性が高いと考えられる。その場合、溝の全長は 50 m 以上となる。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土重量は古代土器 51 g、縄文・弥生土器 2 g である。

SD18 溝

遺構（第 172 図、写真図版 185）

［位置］4 区−1、ⅢK9k グリッドほか。平坦面に立地する。東側で SK129、中央部で SI93、SI47、西側で SK139 と重複し、これらを切る。［形状］幅 2.0 m、深さ 1.0 m、長さ 34.0 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。第 1 層に北上川の洪水によって運ばれたと考えられるにぶい黄橙細砂が堆積する。

遺物（第 255・279 図、写真図版 230・244）

出土重量は古代土器 5,559 g、金属製品 1 点 38.8 g である。うち、古代土器 2 点（a1040〜1041）、金属製品 1 点（e106）を掲載した。

SD20 溝

遺構（第 173 図）

［位置］4 区−1、ⅢK9d グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.3 m、深さ 0.2 m、長さ 7.8 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SD21 溝

遺構（第 173 図）

［位置］4 区−1、ⅢK8d グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 0.2 m、深さ 0.1 m、長さ 2.3 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SD23 溝

遺構（第 174 図、写真図版 185）

［位置］5 区−1、ⅢK9m グリッドほか。平坦面に立地する。東端部で SI136、中央部で SI75、SI111 と重複し、これらを切る。［形状］幅 2.0 m、深さ 1.0 m、長さ 20.1 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。第 1 層に北上川の洪水によって運ばれたと考えられるにぶい黄橙細砂が堆積する。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

古代土器 2,125 g が出土した。うち、3 点（a1042〜1044）を掲載した。

SD24 溝

遺構（第 173 図、写真図版 186）

［位置］5 区−1、ⅢK11o グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］幅 1.1 m、深さ 0.7 m、長さ 6.8 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

古代土器 26 g が出土した。

SD25 溝

遺構（第 175 図、写真図版 186）

［位置］5 区−1、ⅢL14e グリッドほか。平坦面に立地する。東側で SI90、中央部で SI71、SI70、西側で SI69 と重複し、これらを切る。［形状］幅 0.7 m、深さ 0.6 m、長さ 21.8 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

古代土器 727 g が出土した。うち、1 点（a1045）を掲載した。

SD26 溝

遺構（第 176 図、写真図版 186）

［位置］5 区−2、ⅢK19k グリッドほか。平坦面に立地する。東端部で SD28、中央部で SI110、西側で SK139 と重複し、これらを切る。［形状］幅 1 m、深さ 1 m、長さ 13.3 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物（第 255 図、写真図版 230）

出土重量は古代土器 1,397 g、石器・石製品 1 点 203.7 g、鉄滓 1 点 51.7 g である。うち、古代土器 3 点（a1046〜1048）を掲載した。

SD27 溝

遺構（第 171 図）

［位置］2 区−4、ⅡH13q グリッドほか。平坦面に立地する。南側で SI38、中央部で SI40 と重複し、これらを切る。［形状］幅 1.1 m、深さ 0.6 m、長さ 33.1 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

SD28 溝

遺構（第 176 図、写真図版 186）

［位置］2 区−4、ⅢK13j グリッドほか。平坦面に立地する。北半部を SD26 と重複し、これにより切られる。［形状］幅 0.68 m、深さ 0.57 m、長さ 12.4 m 以上の直線的に延びる溝である。［埋土］自然堆積である。

遺物

出土していない。

（7）　畝間状遺構

UM01 畝間状遺構

遺構（第 177 図、写真図版 187）

［位置］2 区−1、ⅡH17r グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W−22°−N。［面積］最小耕地面積は 106 m^2。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 2.2 m、断面形は皿状である。

遺物（第 257 図、写真図版 231）
出土重量は古代土器 105 g、縄文・弥生土器 267 g である。うち、弥生土器 1 点（b6）を掲載した。

UM03 畝間状遺構

遺構（第 178 図、写真図版 187）
［位置］3 区−2、ⅢI4r グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W−22°−N。［面積］最小耕地面積は 28 m²。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 1.7 m、断面形は皿状である。
遺物
出土重量は古代土器 332 g、縄文・弥生土器 53 g である。

UM04 畝間状遺構

遺構（第 178 図、写真図版 187）
［位置］2 区−3、ⅡI19b グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W−12°−N。［面積］最小耕地面積は 24 m²。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 1.2 m、断面形は皿状である。
遺物（第 262 図、写真図版 235）
出土重量は古代土器 2,137 g、縄文・弥生土器 72 g、石器・石製品 2 点 87.6 g、鉄滓 1 点 3.6 g である。うち、石器・石製品 2 点（d5、d11）を掲載した。

UM05 畝間状遺構

遺構（第 179 図）
［位置］2 区−2、ⅡH12n グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W−23°−N。［面積］最小耕地面積は 12 m²。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 0.9 m、断面形は皿状である。
遺物
出土重量は古代土器 34 g、縄文・弥生土器 37 g である。

UM08 畝間状遺構

遺構（第 179 図、写真図版 187）
［位置］1 区、ⅡH9d グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W−24°−N。［面積］最小耕地面積は 39 m²。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 1.2 m、断面形は皿状である。
遺物
古代土器 87 g が出土した。

UM09 畝間状遺構

遺構（第 180 図、写真図版 187）

［位置］4 区-1、ⅢJ2l グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］東西方向に連続する筋状を呈する。畝方向は W-26°-N。［面積］最小耕地面積は 13 m^2。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 0.6 m、断面形は皿状である。

遺物

古代土器 38 g が出土した。

UM10 畝間状遺構

遺構（第 180 図）

［位置］2 区-2、ⅡH7l グリッドほか。平坦面に立地する。［形状］南北方向に連続する筋状を呈する。畝方向は N-9°-E。［面積］最小耕地面積は 28 m^2。［埋土］Ⅴ層黄褐色砂質シルトの基盤層を掘り込んだ畝間に堆積した灰黄褐色砂で、自然堆積である。畝は後世の耕作等により消失している。畝間芯々距離は約 1.7 m、断面形は皿状である。

遺物

出土していない。

(8)　柱穴状小土坑

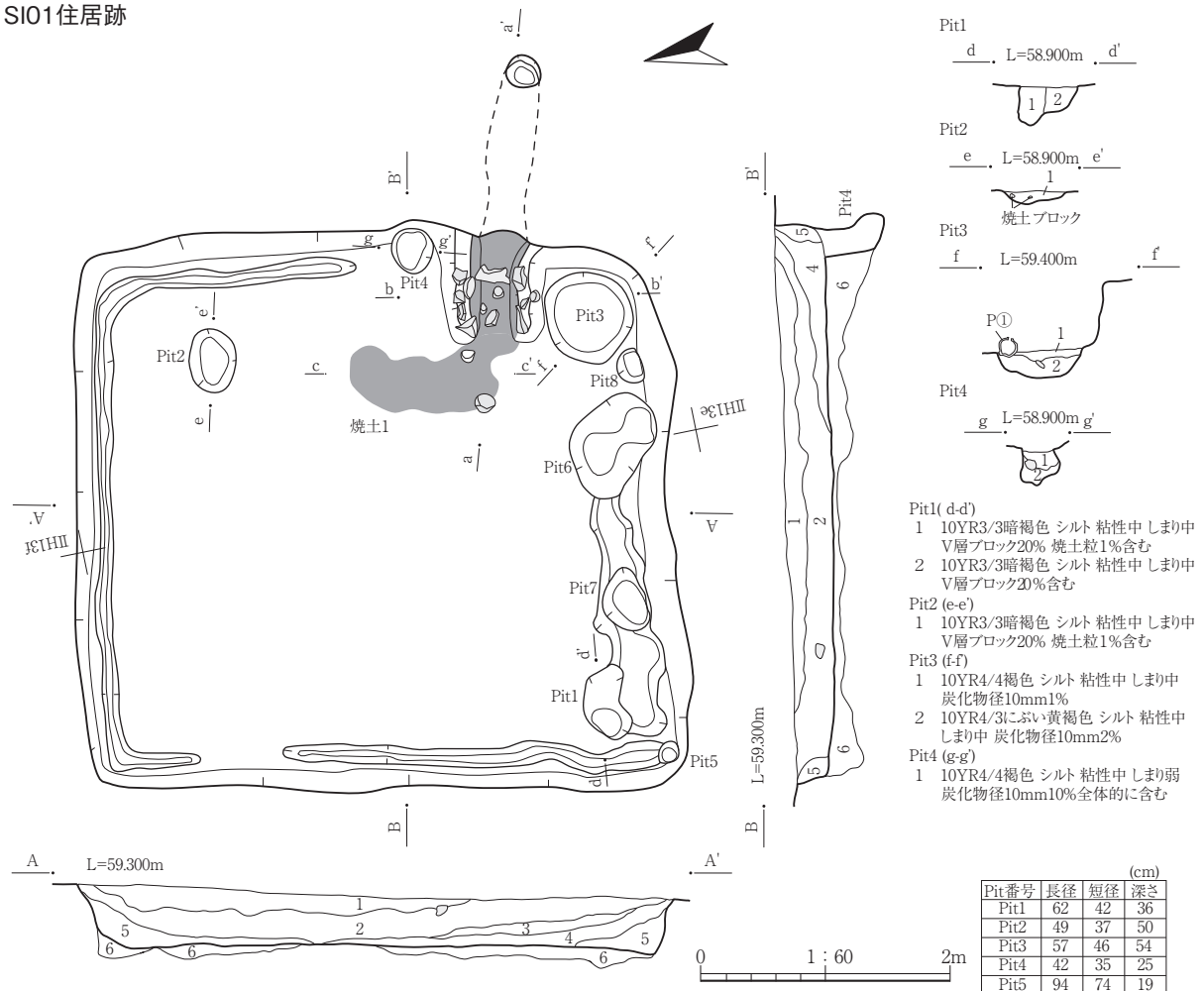
遺構（第 181～201 図、第 11 表）

竪穴住居跡や土坑等の遺構に伴わない柱穴状小土坑を一括した。P10 から P539 まで、途中に欠番も生じているが合計 516 基を検出している。第 11 表は柱穴状小土坑の計測値、主体土等を示した一覧である。このうち一部には、調査後に掘立柱建物跡の柱穴であることが判明したものを含んでいるが、一覧からは除外せずそのまま掲載した。なお、掘立柱建物跡を構成する柱穴については柱穴状小土坑の検出総数には含めていない。

遺物（第 255・261・279 図、写真図版 230・234・244）

P10 から P539 の埋土から出土した遺物の総重量は、古代土器 3251.3 g、縄文・弥生土器 231.1 g、金属製品 70.8 g、羽口片 210.9 g である。うち、古代土器 2 点（a1049～1050）、土製品 1 点（c70）、金属製品 6 点（e107～112）を掲載した。

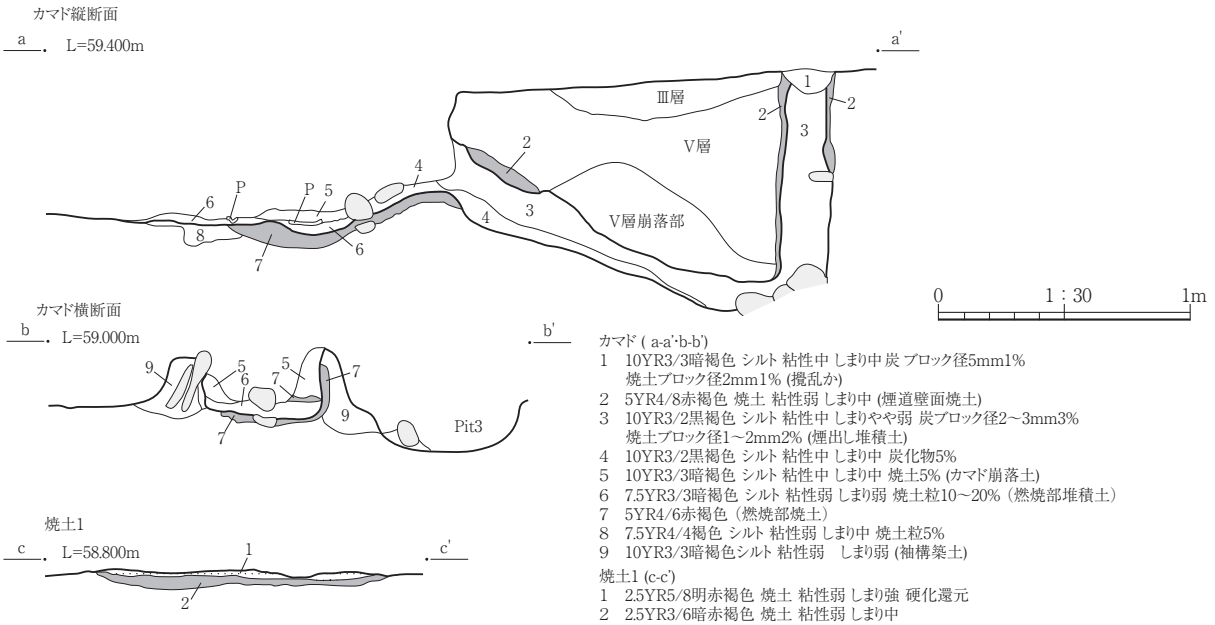
SI01住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	62	42	36
Pit2	49	37	50
Pit3	57	46	54
Pit4	42	35	25
Pit5	94	74	19
Pit6	44	41	28
Pit7	97	59	48
Pit8	28	20	46

SI01 (A-A'･B-B')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄褐色土ブロック含む
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック40%含む
焼土粒･炭化物微量含む
3　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強 2層と類似する
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 にぶい黄褐色土ブロック･炭･焼土微量含む
5　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
6　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 黄褐色土ブロック径10mm微量
焼土ブロック径2～3mm微量含む (掘り方埋土)

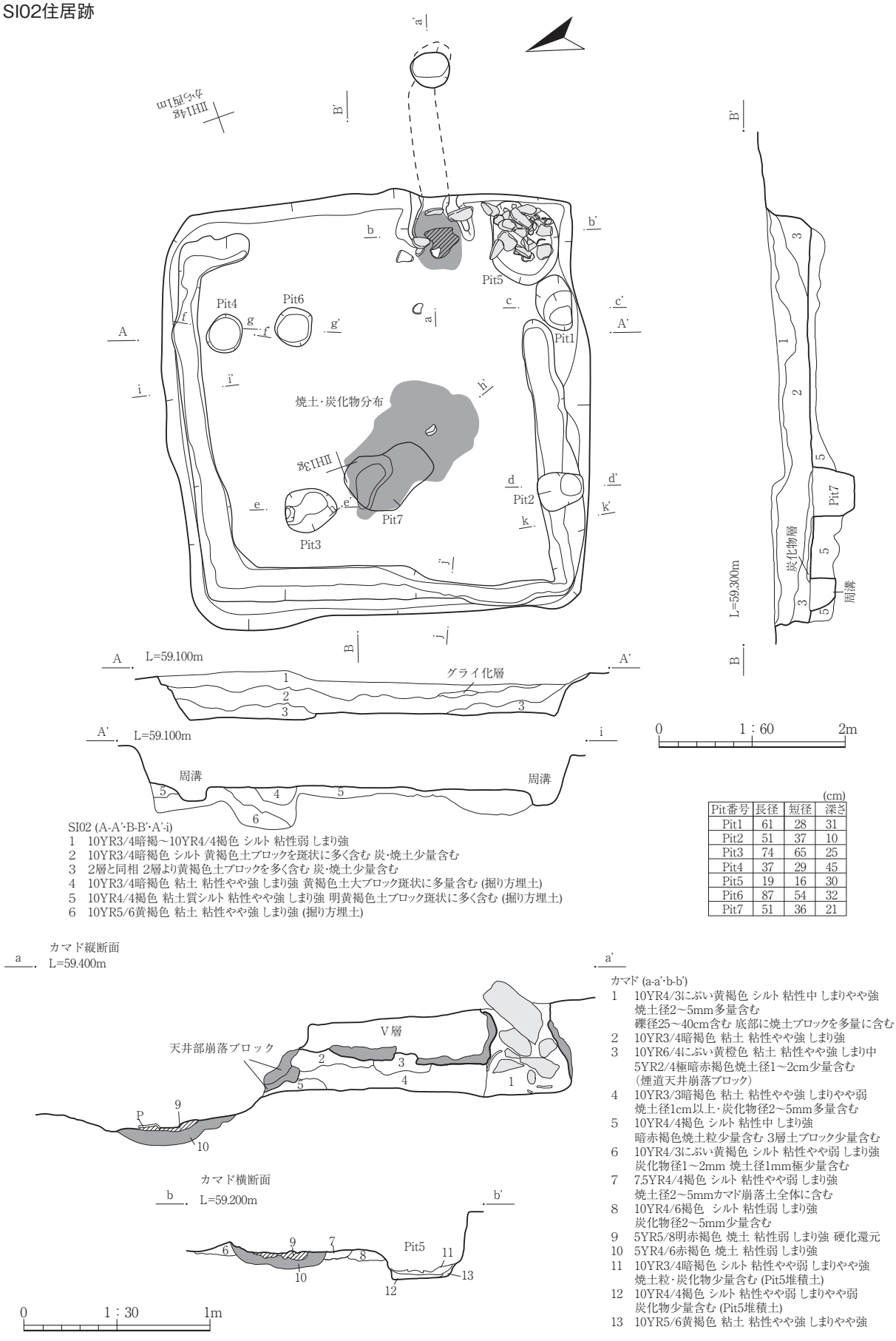


カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭 ブロック径5mm1%
焼土ブロック径2mm1% (攪乱か)
2　5YR4/8赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中 (煙道壁面焼土)
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 炭ブロック径2～3mm3%
焼土ブロック径1～2mm2% (煙出し堆積土)
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物5%
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土5% (カマド崩落土)
6　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒10～20% (燃焼部堆積土)
7　5YR4/6赤褐色 (燃焼部焼土)
8　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒5%
9　10YR3/3暗褐色シルト 粘性弱　しまり弱 (袖構築土)

焼土1 (c-c')
1　2.5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 硬化還元
2　2.5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

第 18 図　SI01 住居跡

SI02住居跡



SI02 (A-A'･B-B'･A'-i)
1　10YR3/4暗褐～10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR3/4暗褐色 シルト 黄褐色土ブロックを斑状に多く含む 炭･焼土少量含む
3　2層と同相 2層より黄褐色土ブロックを多く含む 炭･焼土少量含む
4　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり強 黄褐色土大ブロック斑状に多量含む (掘り方埋土)
5　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり強 明黄褐色土ブロック斑状に多く含む (掘り方埋土)
6　10YR5/6黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり強 (掘り方埋土)

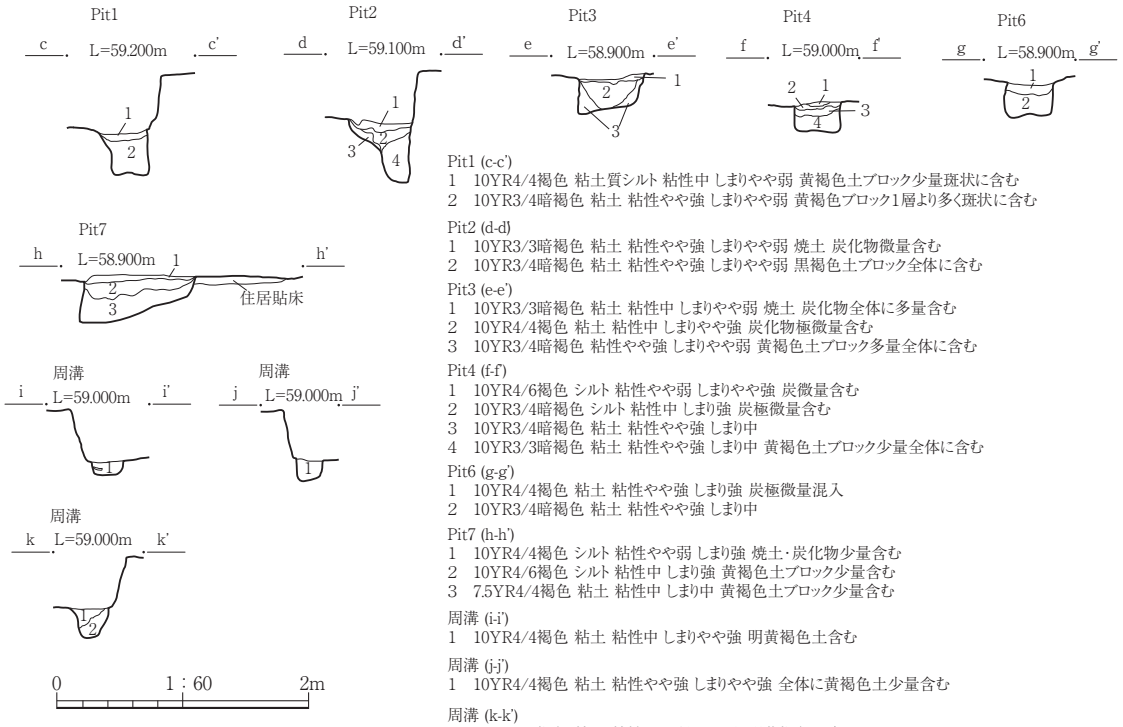
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	61	28	31
Pit2	51	37	10
Pit3	74	65	25
Pit4	37	29	45
Pit5	19	16	30
Pit6	87	54	32
Pit7	51	36	21

カマド (a-a'･b-b')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
　焼土径2～5mm多量含む
　礫径25～40cm含む 底部に焼土ブロックを多量に含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり強
3　10YR6/4にぶい黄橙色 粘土 粘性やや強 しまり中
　5YR2/4極暗赤褐色焼土径1～2cm少量含む
　(煙道天井崩落ブロック)
4　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや弱
　焼土径1cm以上･炭化物径2～5mm多量含む
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり強
　暗赤褐色焼土粒少量含む 3層土ブロック少量含む
6　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　炭化物径1～2mm 焼土径1mm極少量含む
7　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　焼土径2～5mmカマド崩落土全体に含む
8　10YR4/6褐色　シルト 粘性弱 しまり強
　炭化物径2～5mm少量含む
9　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 硬化還元
10　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強
11　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
　焼土粒･炭化物少量含む (Pit5堆積土)
12　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
　炭化物少量含む (Pit5堆積土)
13　10YR5/6黄褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強

第19図　SI02住居跡（1）

SI02住居跡



Pit1 (c-c')
1　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色土ブロック少量斑状に含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや弱 黄褐色ブロック1層より多く斑状に含む

Pit2 (d-d)
1　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや弱 焼土 炭化物微量含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや弱 黒褐色土ブロック全体に含む

Pit3 (e-e')
1　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中 しまりやや弱 焼土 炭化物全体に多量含む
2　10YR4/4褐色 粘土 粘性中 しまりやや強 炭化物極微量含む
3　10YR3/4暗褐色 粘性やや強 しまりやや弱 黄褐色土ブロック多量全体に含む

Pit4 (f-f')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭微量含む
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 炭極微量含む
3　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり中
4　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり中 黄褐色土ブロック少量全体に含む

Pit6 (g-g')
1　10YR4/4褐色 粘土 粘性やや強 しまり強 炭極微量混入
2　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり中

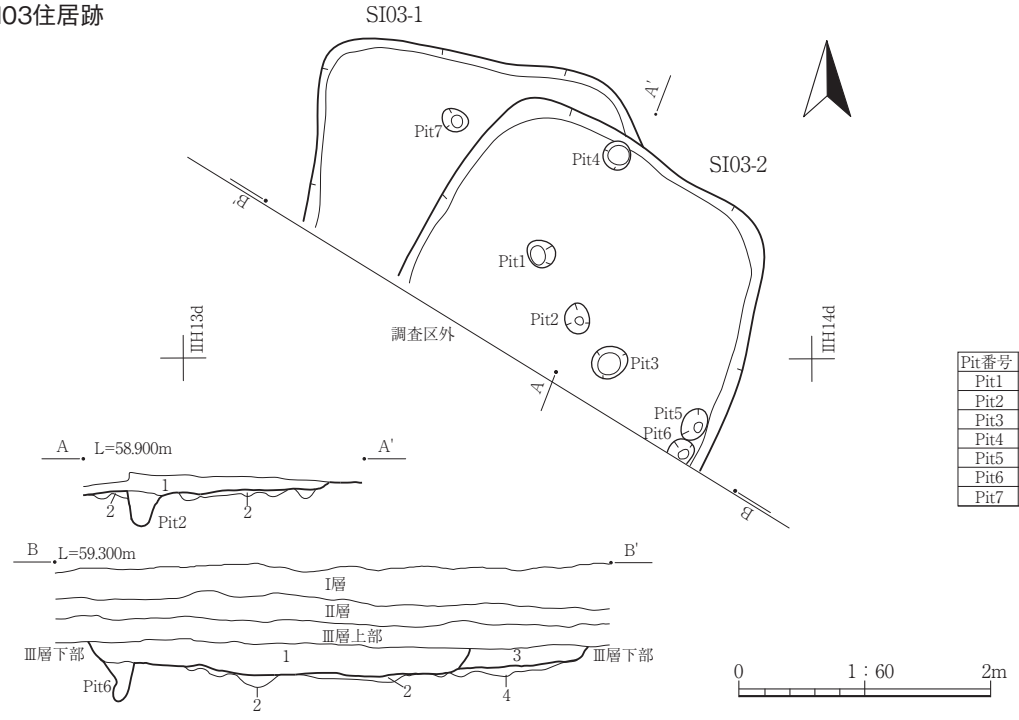
Pit7 (h-h')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 焼土・炭化物少量含む
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり強 黄褐色土ブロック少量含む
3　7.5YR4/4褐色 粘土 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック少量含む

周溝 (i-i')
1　10YR4/4褐色 粘土 粘性中 しまりやや強 明黄褐色土含む

周溝 (j-j')
1　10YR4/4褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強 全体に黄褐色土少量含む

周溝 (k-k')
1　10YR4/4褐色 粘土 粘性中 しまりやや強 明黄褐色土含む
2　10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強 グライ化土含む

SI03住居跡

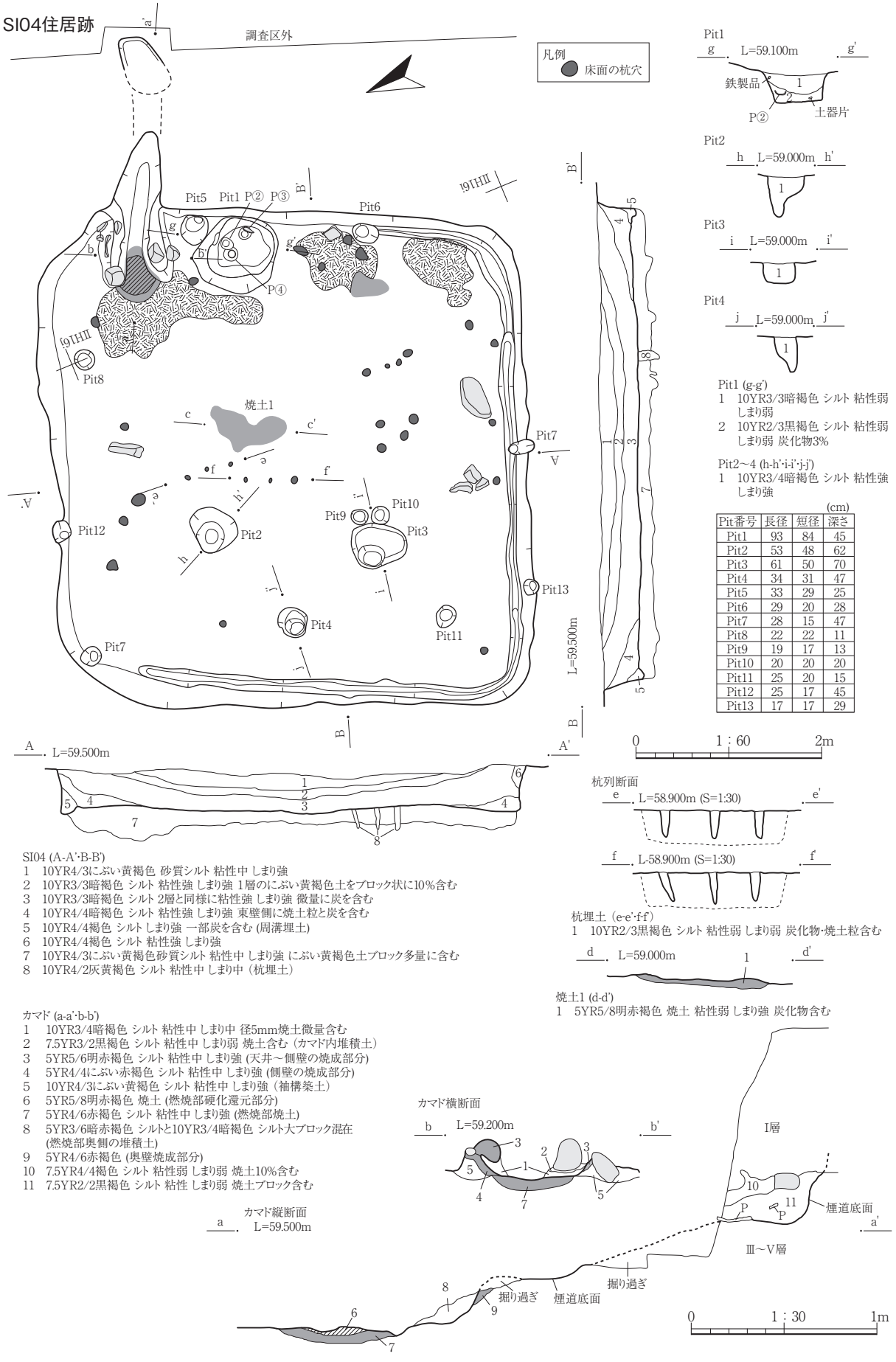


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	24	22	32
Pit2	24	23	24
Pit3	30	25	10
Pit4	25	21	9
Pit5	28	21	35
Pit6	22	16	26
Pit7	22	20	11

SI03 (A-A'･B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 V層ブロック径10～20mm10% 炭化物径5mm2% 焼土ブロック径2mm1%
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 V層ブロック径10～20mm5% (掘り方埋土)
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 V層ブロック径10～20mm10% 炭化物径5mm 焼土ブロック径2mm各1% (SI03-1堆積土)
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 V層ブロック径10～20mm3% (掘り方埋土)

第 20 図　SI02 住居跡（2）・SI03 住居跡



Pit1 (g-g')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物3%

Pit2～4 (h-h'･i-i'･j-j')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	93	84	45
Pit2	53	48	62
Pit3	61	50	70
Pit4	34	31	47
Pit5	33	29	25
Pit6	29	20	28
Pit7	28	15	47
Pit8	22	22	11
Pit9	19	17	13
Pit10	20	20	20
Pit11	25	20	15
Pit12	25	17	45
Pit13	17	17	29

SI04 (A-A'･B-B')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり強
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 1層のにぶい黄褐色土をブロック状に10%含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 2層と同様に粘性強 しまり強 微量に炭を含む
4　10YR4/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 東壁側に焼土粒と炭を含む
5　10YR4/4褐色 シルトしまり強 一部炭を含む (周溝埋土)
6　10YR4/4褐色 シルト 粘性強 しまり強
7　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト 粘性中 しまり強 にぶい黄褐色土ブロック多量に含む
8　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 (杭埋土)

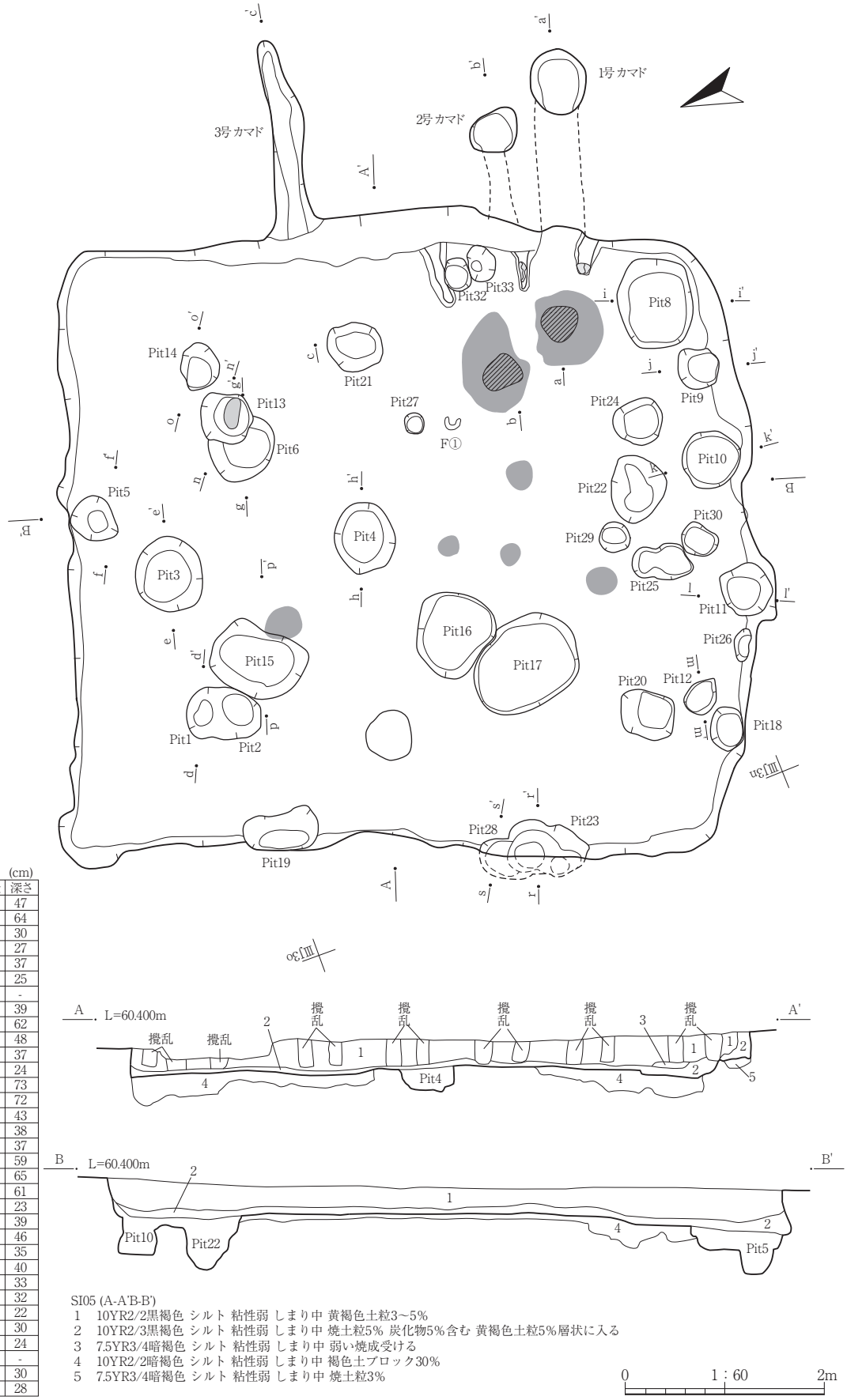
杭埋土 (e-e'･f-f')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物･焼土粒含む

焼土1 (d-d')
1　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 炭化物含む

カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 径5mm焼土微量含む
2　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 焼土含む (カマド内堆積土)
3　5YR5/6明赤褐色 シルト 粘性中 しまり強 (天井～側壁の焼成部分)
4　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 粘性中 しまり強 (側壁の焼成部分)
5　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強 (袖構築土)
6　5YR5/8明赤褐色 焼土 (燃焼部硬化還元部分)
7　5YR4/6赤褐色 シルト 粘性中 しまり強 (燃焼部焼土)
8　5YR3/6暗赤褐色 シルトと10YR3/4暗褐色 シルト大ブロック混在 (燃焼部奥側の堆積土)
9　5YR4/6赤褐色 (奥壁焼成部分)
10　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土10%含む
11　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性 しまり弱 焼土ブロック含む

第 21 図　SI04 住居跡

SI05住居跡



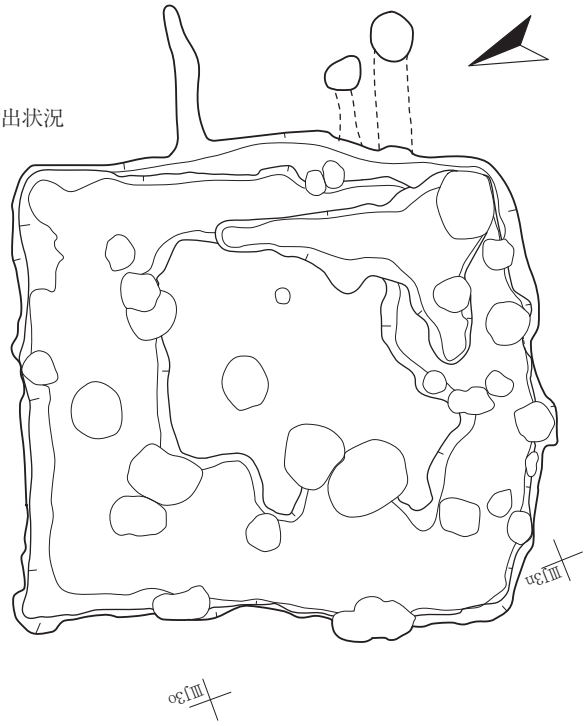
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	50	27	47
Pit2	49	45	64
Pit3	76	64	30
Pit4	72	61	27
Pit5	49	42	37
Pit6	71	67	25
Pit7	-	-	-
Pit8	94	75	39
Pit9	46	40	62
Pit10	59	54	48
Pit11	53	47	37
Pit12	38	29	24
Pit13	54	50	73
Pit14	48	38	72
Pit15	100	81	43
Pit16	88	81	38
Pit17	115	85	37
Pit18	45	34	59
Pit19	75	39	65
Pit20	62	43	61
Pit21	57	52	23
Pit22	56	55	39
Pit23	82	49	46
Pit24	50	47	35
Pit25	61	31	40
Pit26	34	18	33
Pit27	22	17	32
Pit28	58	43	22
Pit29	32	30	30
Pit30	38	29	24
Pit31	-	-	-
Pit32	34	27	30
Pit33	38	29	28

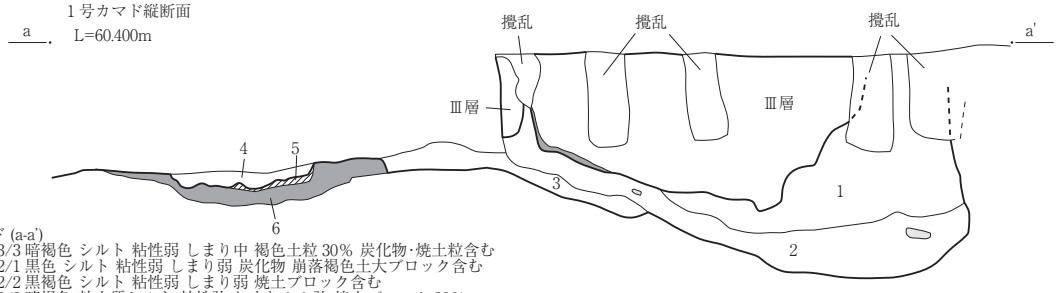
第 22 図　SI05 住居跡（1）

SI05住居跡

SI05掘り方検出状況

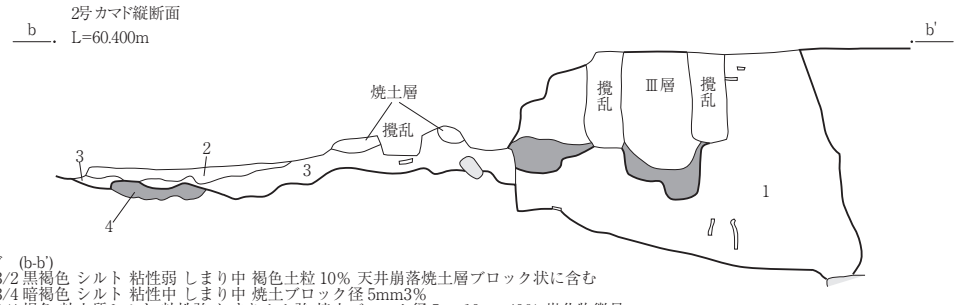


1号カマド縦断面



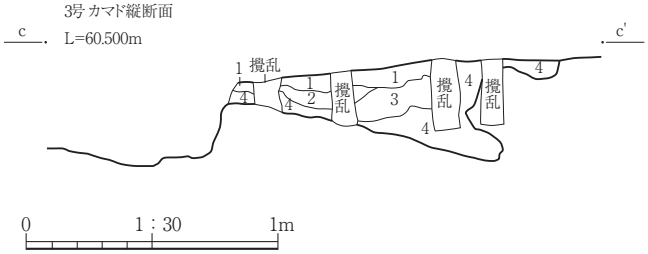
1号カマド (a-a')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 30% 炭化物･焼土粒含む
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物 崩落褐色土大ブロック含む
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
4　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック 30%
5　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR3/6 暗赤褐色 焼土

2号カマド縦断面

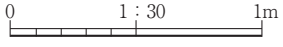


2号カマド　(b-b')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 10% 天井崩落焼土層ブロック状に含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック径 5mm3%
3　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック径 5 ～ 10mm40% 炭化物微量
4　5YR4/4 にぶい赤褐色 砂質シルト 焼土

3号カマド縦断面

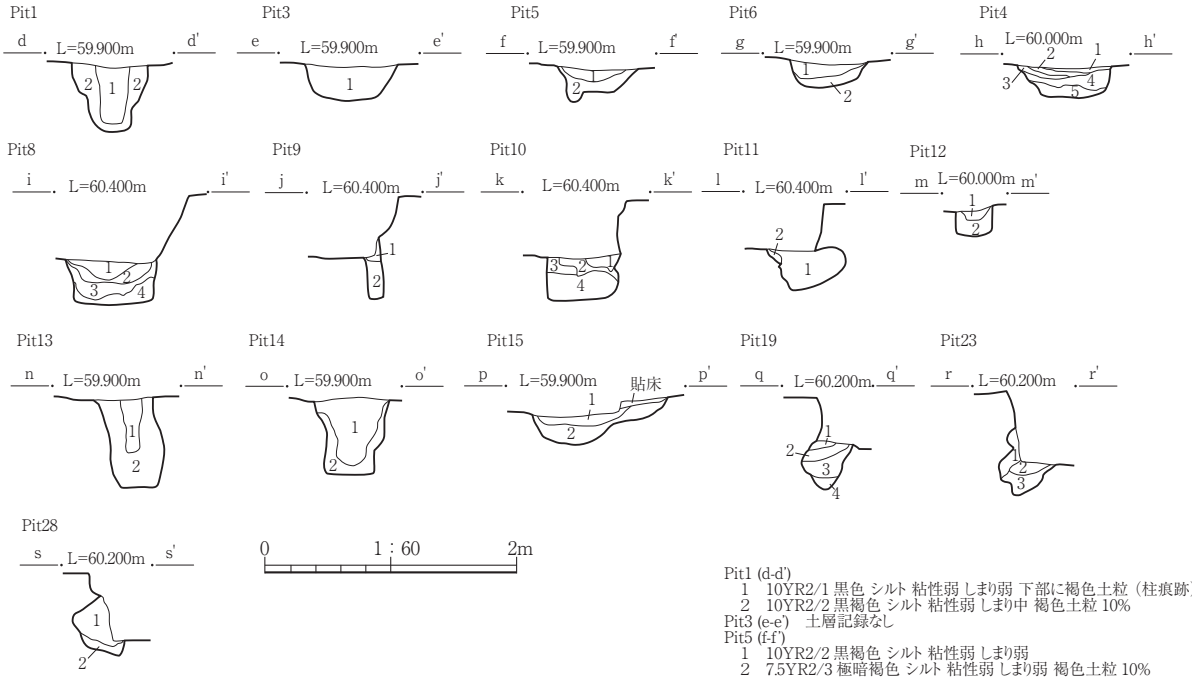


3号カマド (c-c')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 煙道陥没後の埋土
2　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
3　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 天井崩落ブロック
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 5% 含む



第 23 図　SI05 住居跡（2）

SI05住居跡



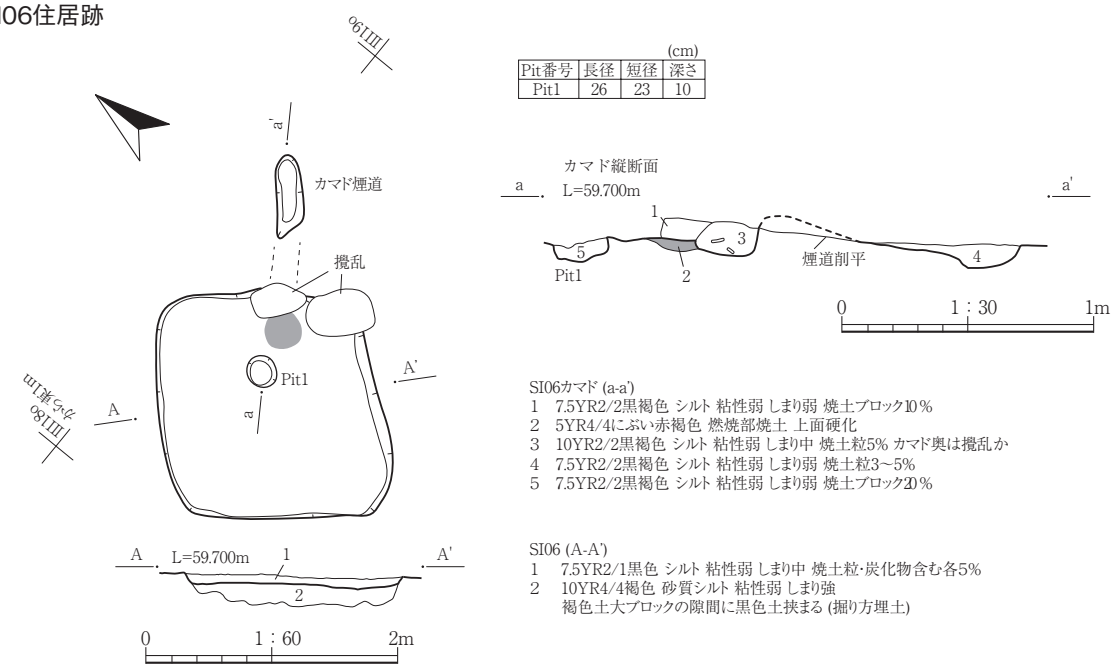
Pit1 (d-d')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 下部に褐色土粒（柱痕跡）
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 10%
Pit3 (e-e')　土層記録なし
Pit5 (f-f')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　7.5YR2/3 極暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒 10%

Pit6 (g-g')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒 5%含む
Pit4 (h-h')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 灰層の感あり 粘性弱 しまり弱
2　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 貼床状
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
4　7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 10%含む
5　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中大 ブロック主体
Pit8 (i- i')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 下部に褐色土粒集中
2　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
3　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
Pit9 (j-j')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中

Pit10 (k-k')
1　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルトしまり強 貼床状
3　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 10%
Pit11 (l-l')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 均質
2　7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土大ブロック含む
Pit12 (m-m')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 10%
Pit13 (n-n')
1　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 隙間に黒色土挟まる
2　10YR5/6 黄褐色 砂質シルト

Pit14 (o-o')　土層記録なし
Pit15 (p-p')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 10%・焼土粒含む
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 10%
Pit19 (q-q')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック含む
2　7.5YR4/3 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック含む
4　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 黒色土挟まる
Pit23 (r-r')
1　10YR2/2 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
2　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
3　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
Pit28 (s-s')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり共弱 焼土粒2層ブロック 30%含む
2　10YR4/6 褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

SI06住居跡



(cm)

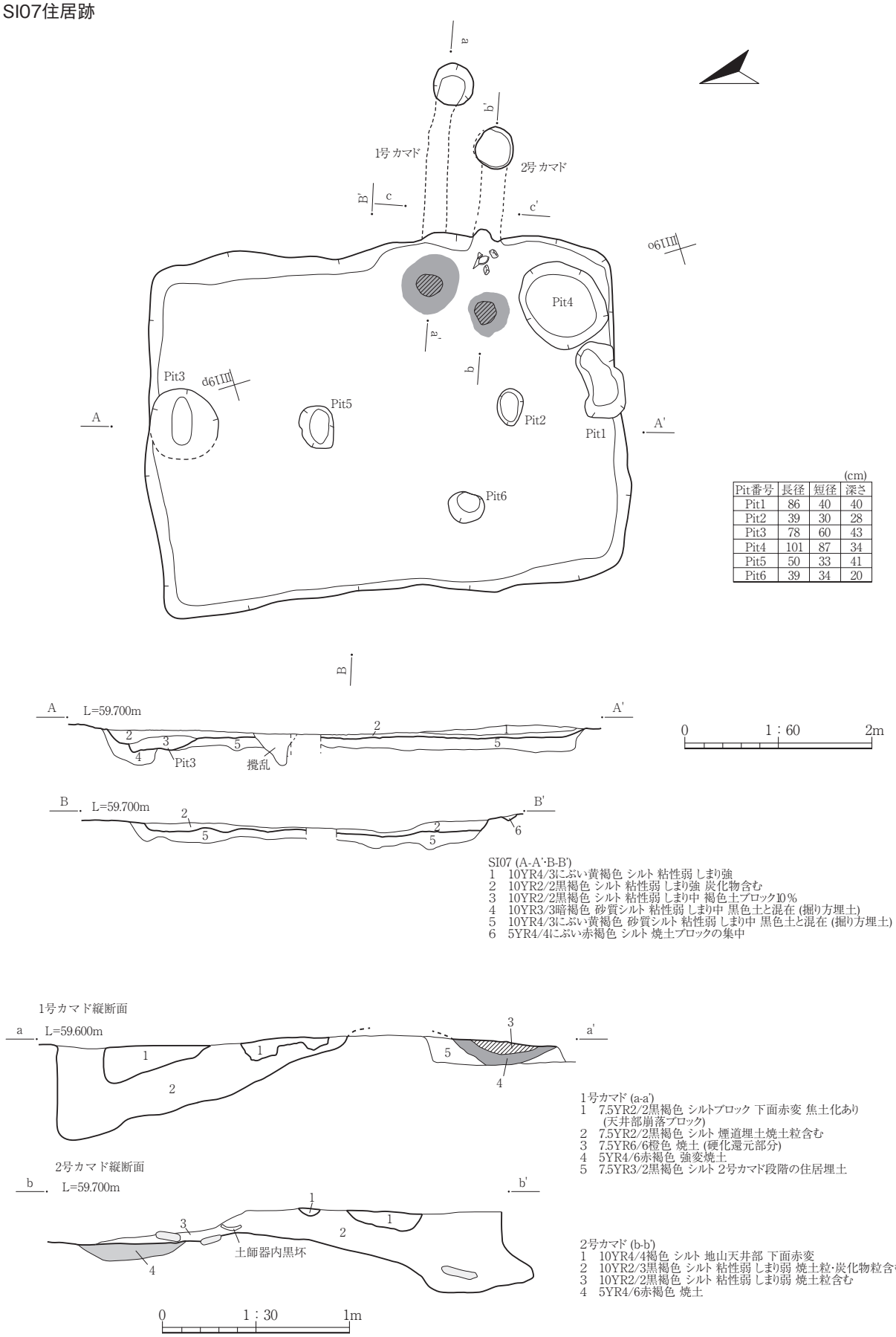
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	26	23	10

SI06カマド (a-a')
1　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック10％
2　5YR4/4にぶい赤褐色 燃焼部焼土 上面硬化
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒5% カマド奥は攪乱か
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒3～5%
5　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック20％

SI06 (A-A')
1　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒・炭化物含む各5%
2　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強
褐色土大ブロックの隙間に黒色土挟まる (掘り方埋土)

第 24 図　SI05 住居跡（3）・SI06 住居跡

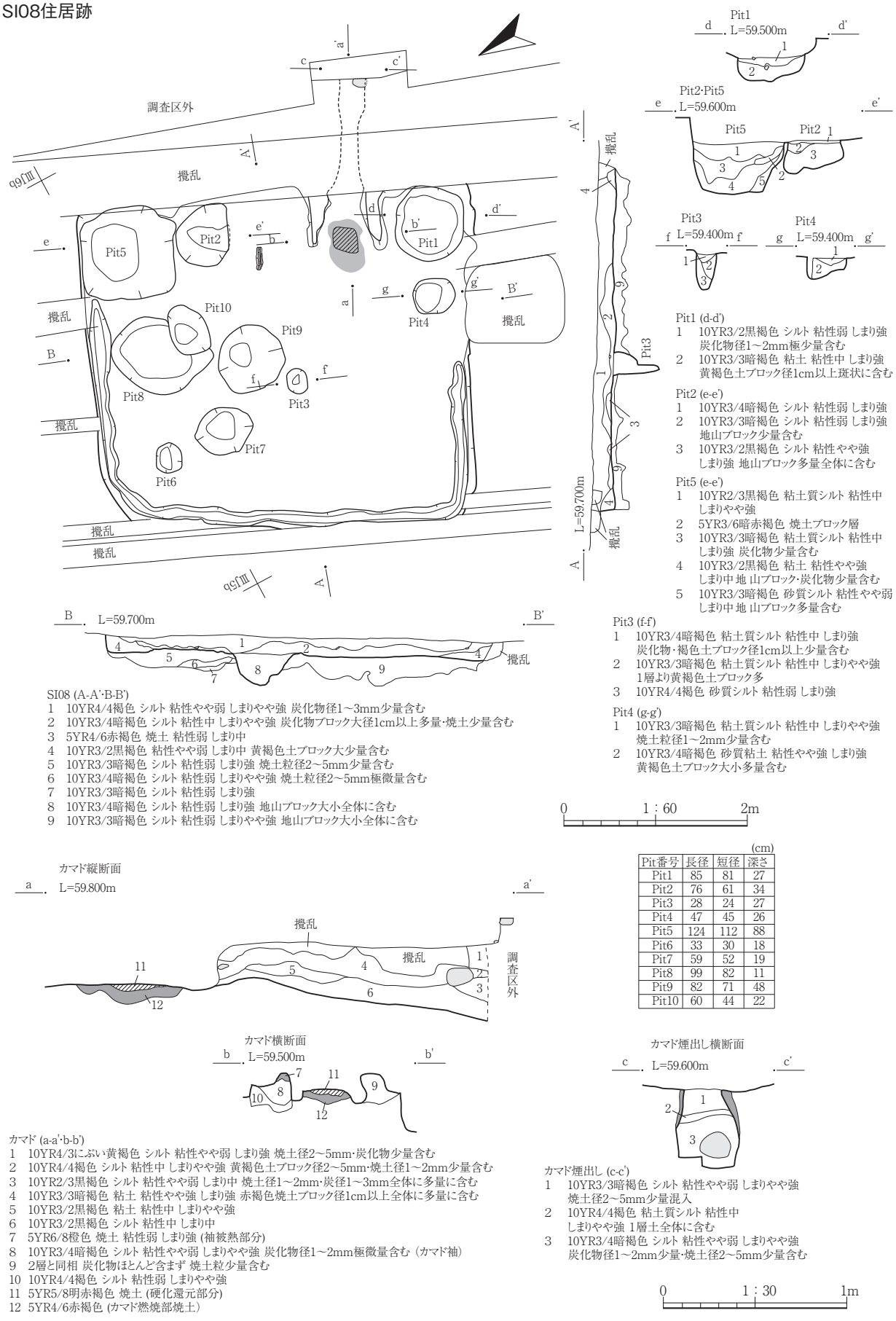
SI07住居跡



(cm)			
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	86	40	40
Pit2	39	30	28
Pit3	78	60	43
Pit4	101	87	34
Pit5	50	33	41
Pit6	39	34	20

第 25 図　SI07 住居跡

SI08住居跡



SI08 (A-A'･B-B')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭化物径1～3mm少量含む
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 炭化物ブロック大径1cm以上多量･焼土少量含む
3　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
4　10YR3/2黒褐色 粘性やや弱 しまり中 黄褐色土ブロック大少量含む
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土粒径2～5mm少量含む
6　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒径2～5mm極微量含む
7　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
8　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 地山ブロック大小全体に含む
9　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック大小全体に含む

Pit1 (d-d')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
炭化物径1～2mm極少量含む
2　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中 しまり強
黄褐色土ブロック径1cm以上斑状に含む

Pit2 (e-e')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
地山ブロック少量含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや強
しまり強 地山ブロック多量全体に含む

Pit5 (e-e')
1　10YR2/3黒褐色 粘土質シルト 粘性中
しまりやや強
2　5YR3/6暗赤褐色 焼土ブロック層
3　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中
しまり強 炭化物少量含む
4　10YR3/2黒褐色 粘土 粘性やや強
しまり中 地 山ブロック･炭化物少量含む
5　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱
しまり中 地 山ブロック多量含む

Pit3 (f-f')
1　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
炭化物･褐色土ブロック径1cm以上少量含む
2　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強
1層より黄褐色土ブロック多
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強

Pit4 (g-g')
1　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強
焼土粒径1～2mm少量含む
2　10YR3/4暗褐色 砂質粘土 粘性やや強 しまり強
黄褐色土ブロック大小多量含む

(cm)

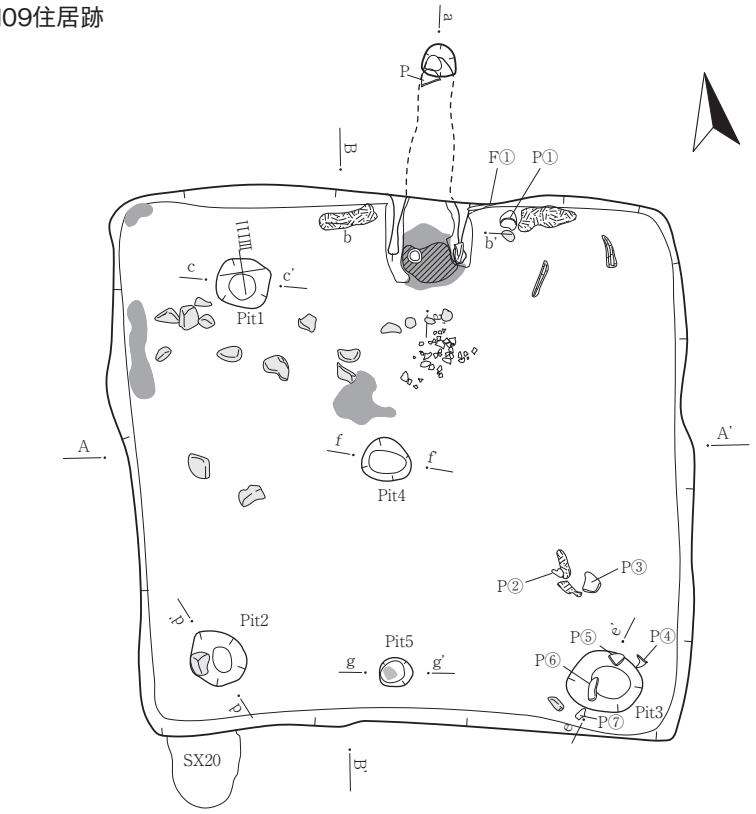
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	85	81	27
Pit2	76	61	34
Pit3	28	24	27
Pit4	47	45	26
Pit5	124	112	88
Pit6	33	30	18
Pit7	59	52	19
Pit8	99	82	11
Pit9	82	71	48
Pit10	60	44	22

カマド (a-a'･b-b')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 焼土径2～5mm･炭化物少量含む
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 黄褐色土ブロック径2～5mm･焼土径1～2mm少量含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 焼土径1～2mm･炭径1～3mm全体に多量に含む
4　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性やや強 しまり強 赤褐色焼土ブロック径1cm以上全体に多量に含む
5　10YR3/2黒褐色 粘土 粘性中 しまりやや強
6　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7　5YR6/8橙色 焼土 粘性弱 しまり強 (袖被熱部分)
8　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭化物径1～2mm極微量含む（カマド袖）
9　2層と同相 炭化物ほとんど含まず 焼土粒少量含む
10　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
11　5YR5/8明赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
12　5YR4/6赤褐色 (カマド燃焼部焼土)

カマド煙出し (c-c')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
焼土径2～5mm少量混入
2　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
しまりやや強 1層土全体に含む
3　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物径1～2mm少量･焼土径2～5mm少量含む

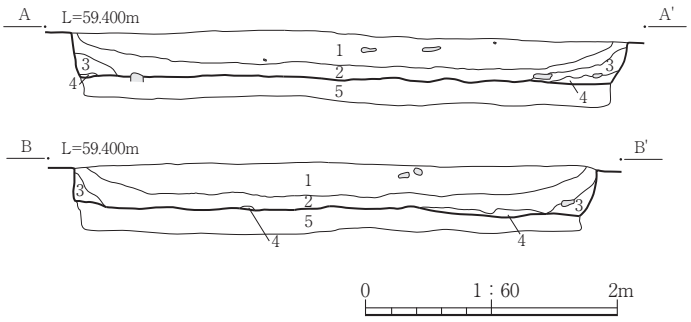
第 26 図　SI08 住居跡

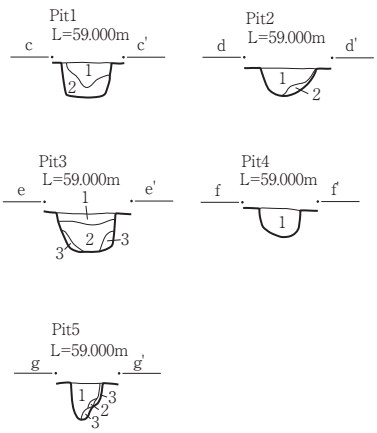
SI09住居跡



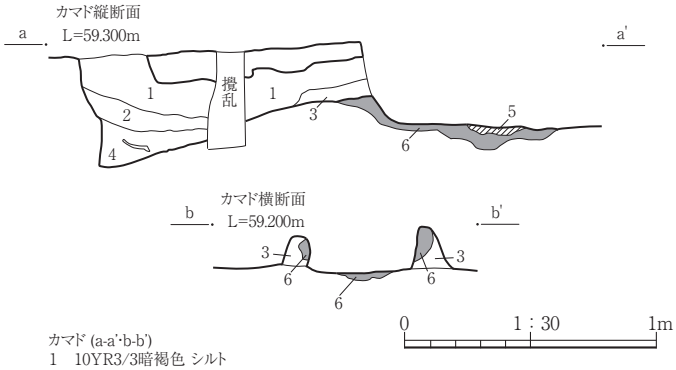
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	45	38	32
Pit2	49	41	24
Pit3	55	49	36
Pit4	38	33	45
Pit5	27	24	30





SI09 (A-A'･B-B')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 全体にしまり強 径1～2㎜大の焼土粒･炭を含む1%
2　10YR2/3黒褐色 シルトしまり強 焼土粒･炭微量含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
4　10YR2/3黒褐色 シルトしまり強 炭化物を帯状に含む
5　10YR4/4褐色 砂質シルト～細砂 粘性弱 しまり中～弱 黒褐色土ブロック状に含む



カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/3暗褐色 シルト
2　7.5YR3/4暗褐色 シルト
3　7.5YR3/4暗褐色 シルト 径5～10㎜大の焼土粒20%含む
4　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
5　5YR5/6明赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

Pit1 (c-c')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中
2　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや弱

Pit2 (d-d')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
2　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中

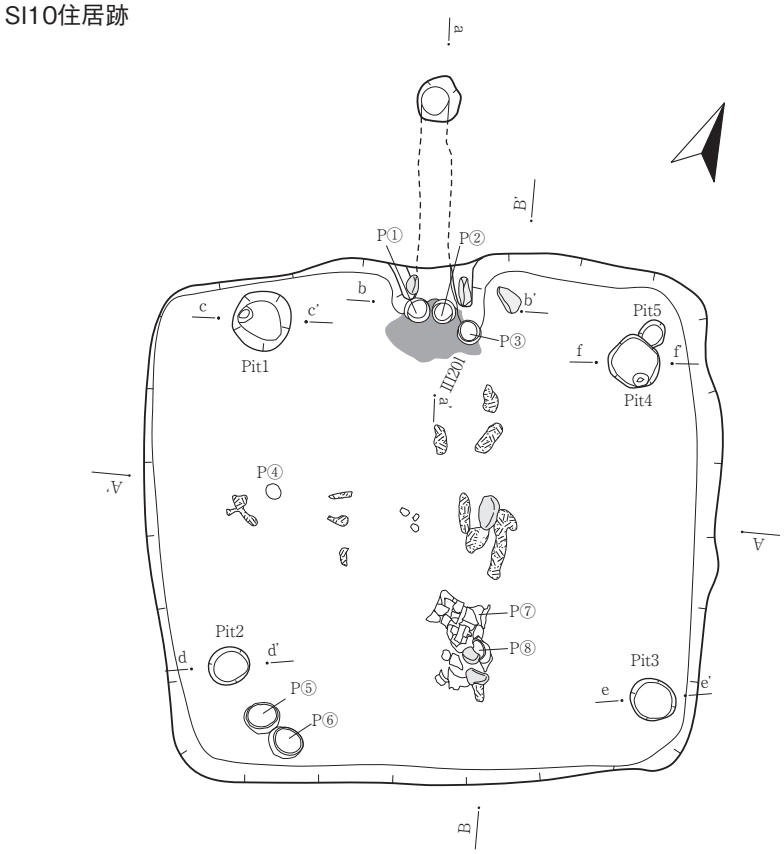
Pit3 (e-e')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
2　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中
3　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや弱

Pit4 (f-f')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強

Pit5 (g-g')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強
3　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強

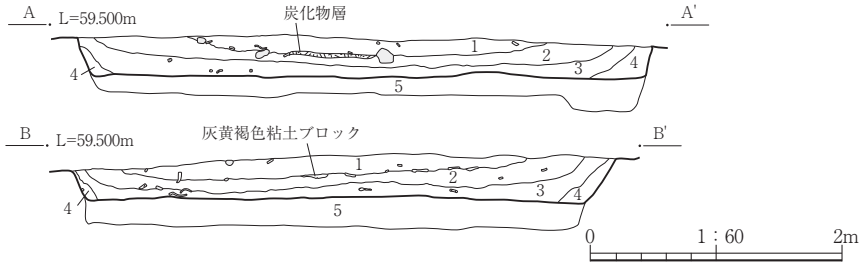
第 27 図　SI09 住居跡

SI10住居跡

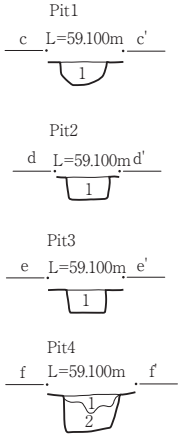


(cm)

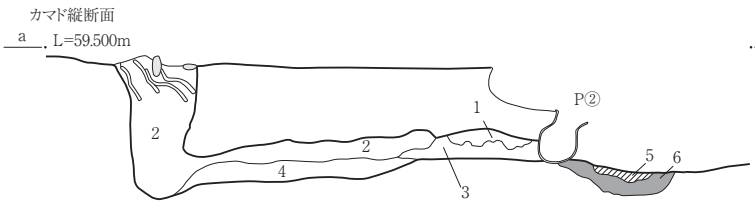
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	49	46	37
Pit2	33	32	20
Pit3	38	35	19
Pit4	43	39	34
Pit5	22	21	18



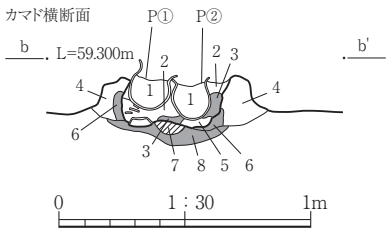
SI10 (A-A'･B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 焼土粒と炭を帯状に含む 土器多い
2　10YR2/2黒褐色 シルト 全体にしまり強 焼土粒と炭を含む (1層より少ない)
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 下部に焼土粒と炭を多く含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
5　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり強 (掘り方埋土)



Pit1～4 (c-c'･d-d'･e-e'･f-f')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中



カマド (a-a')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
　上部に焼土ブロック含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 3層との境に薄い炭化物層が堆積
3　10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
　炭化物･焼土粒微量含む
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
5　2.5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR3/4暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強



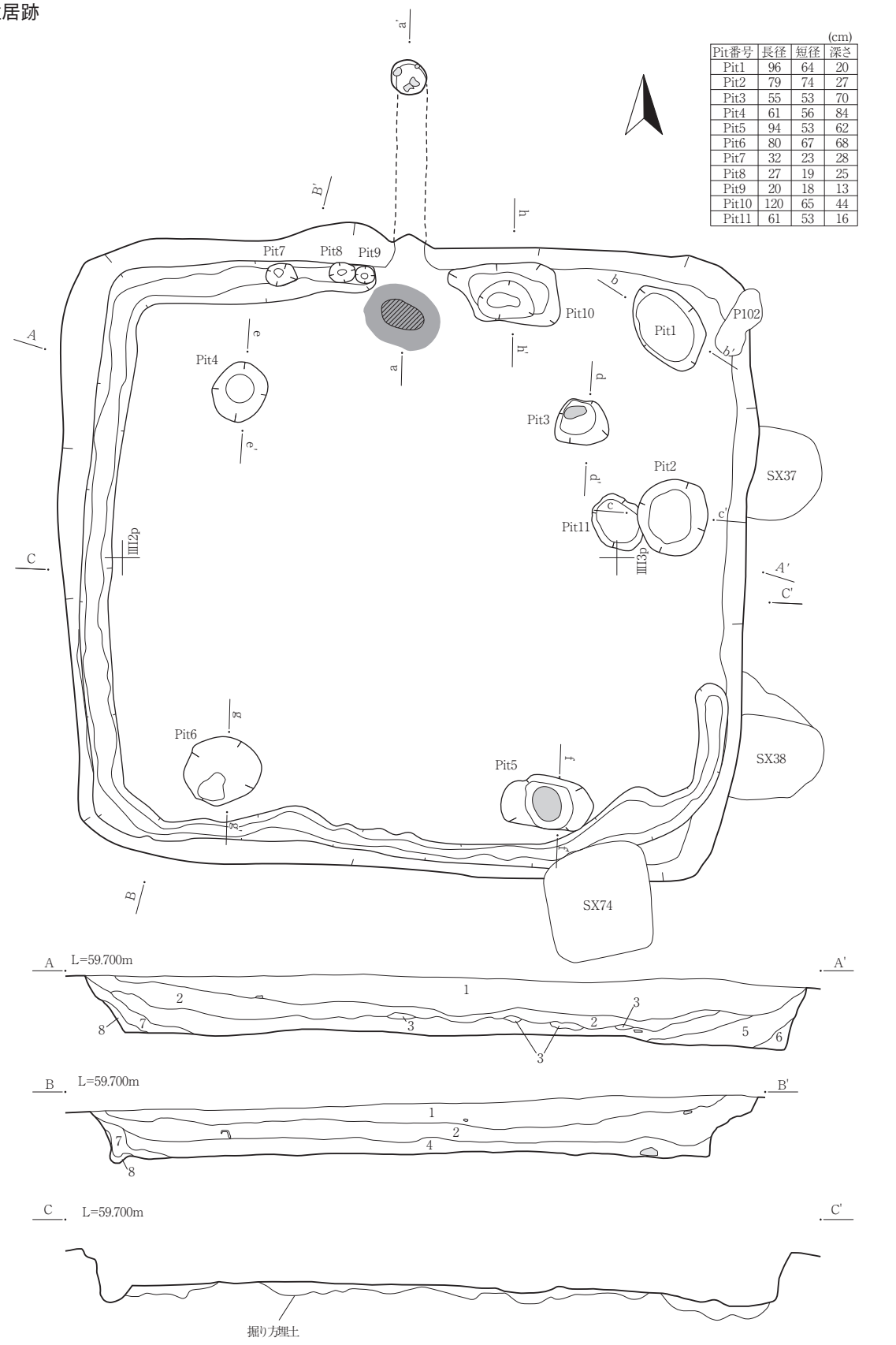
カマド横断面 (b-b')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 (土器内充填土)
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
3　5YR4/6赤褐色 焼土ブロック 粘性弱 しまりやや強
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 (袖構築土)
5　10YR3/3暗褐色 シルトに焼土粒少量含む 粘性弱 しまりやや弱
6　5YR3/4暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強
7　5YR3/4暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
8　5YR3/3暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強

第 28 図　SI10 住居跡

SI11住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	96	64	20
Pit2	79	74	27
Pit3	55	53	70
Pit4	61	56	84
Pit5	94	53	62
Pit6	80	67	68
Pit7	32	23	28
Pit8	27	19	25
Pit9	20	18	13
Pit10	120	65	44
Pit11	61	53	16

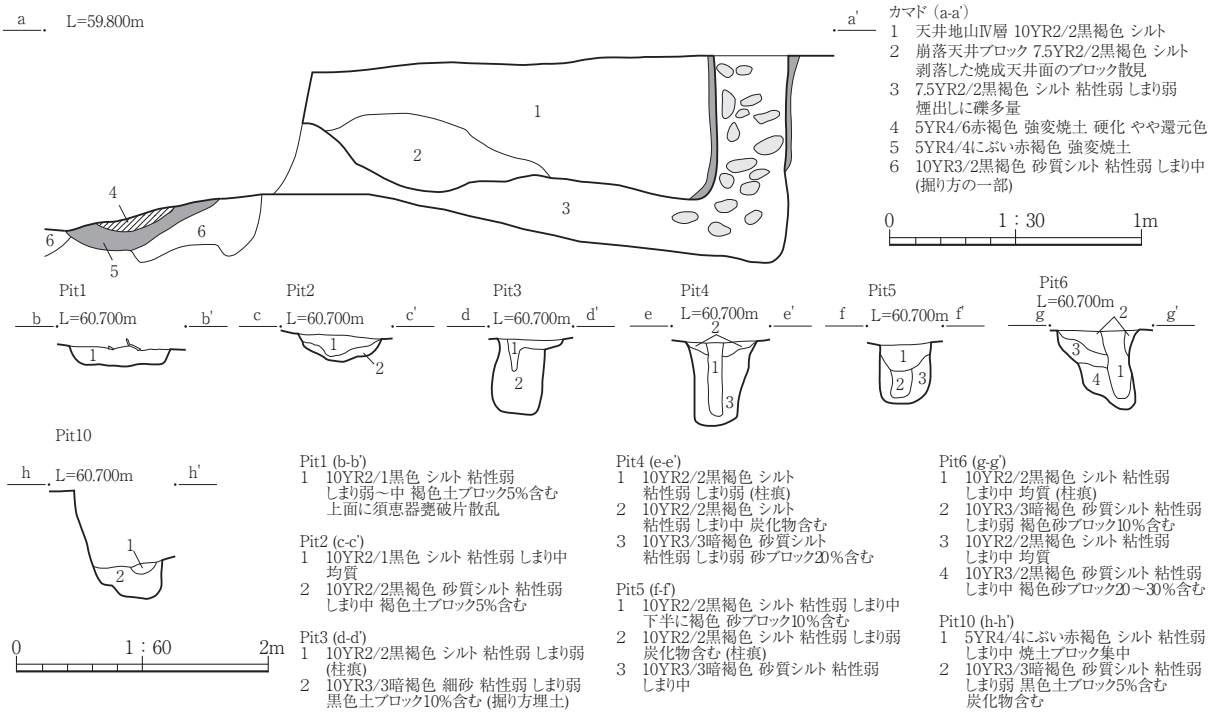


SI11(A-A'･B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 Ⅲ層に近似
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中砂 ブロック下部に含む
3　10YR4/4褐色 砂 大ブロック含む
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
7　7.5YR2/1黒色 シルト～粘土質シルト 粘性弱 しまり中
8　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中

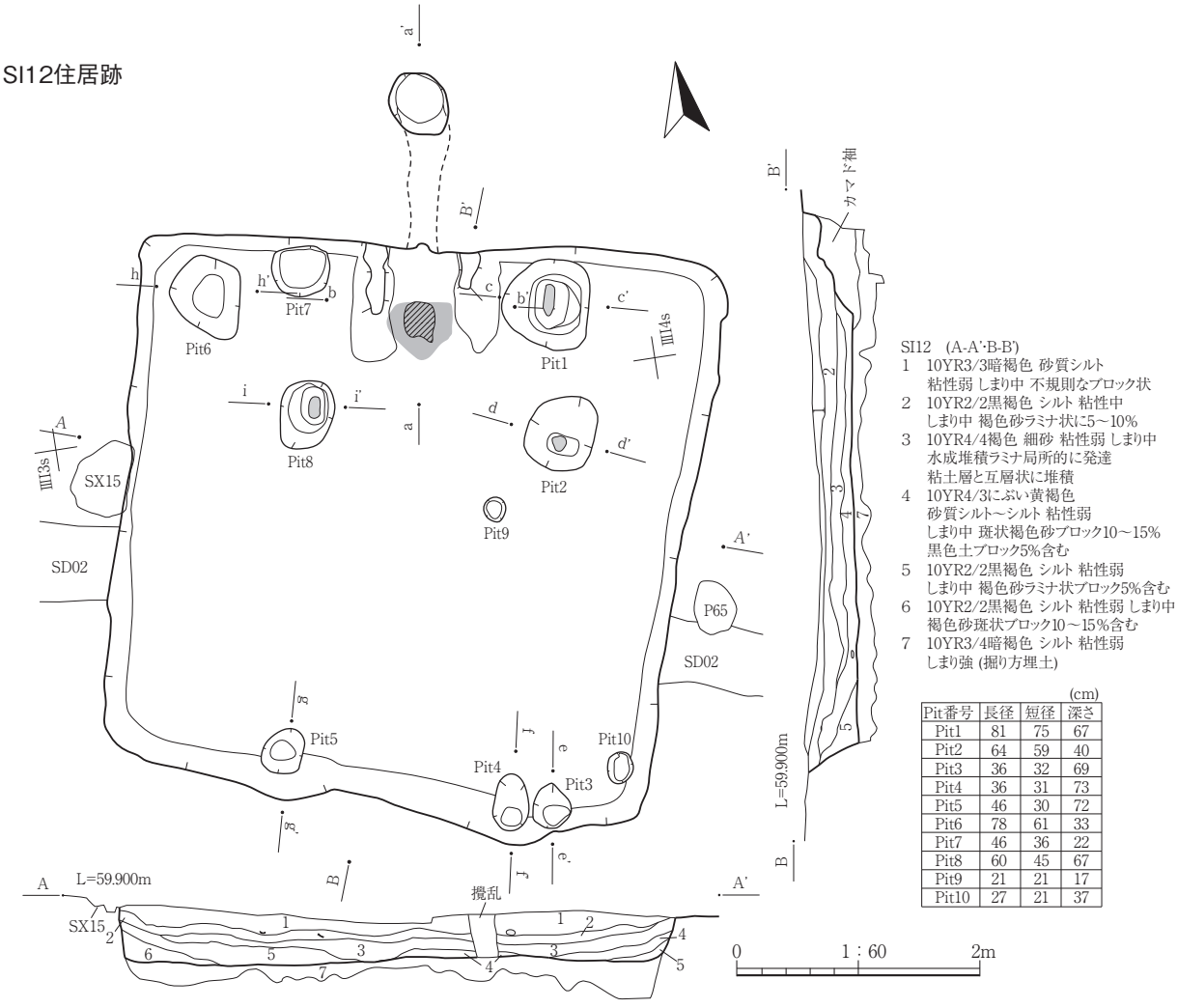
0　1：60　2m

第29図　SI11住居跡（1）

SI11住居跡



SI12住居跡

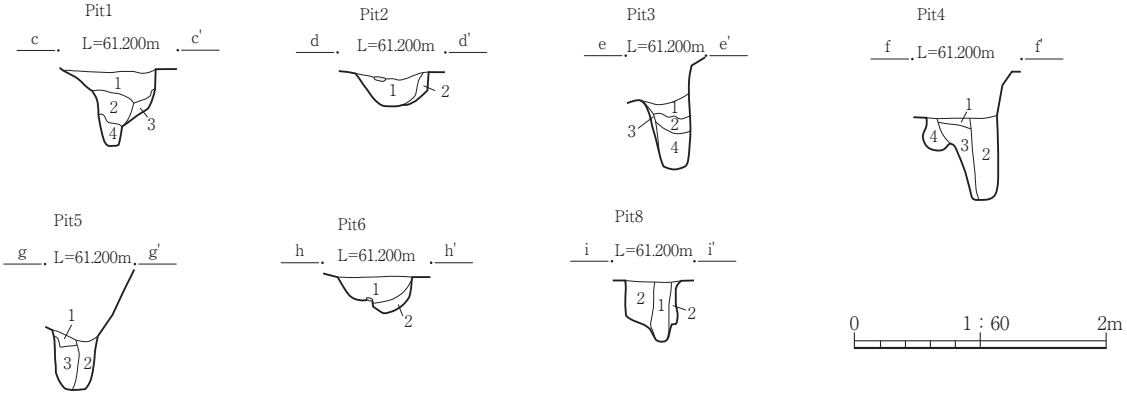


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	75	67
Pit2	64	59	40
Pit3	36	32	69
Pit4	36	31	73
Pit5	46	30	72
Pit6	78	61	33
Pit7	46	36	22
Pit8	60	45	67
Pit9	21	21	17
Pit10	27	21	37

第30図　SI11住居跡（2）・SI12住居跡（1）

SI12住居跡



Pit1（c-c'）
1　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中 しまりやや強 黄褐色土ブロック径1～3cm少量含む
2　10YR3/2黒褐色 粘土 粘性中 しまりやや強 黄褐色土ブロック大小多量に含む
3　10YR3/2黒褐色 粘土 粘性中 しまりやや強
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱

Pit2(d-d')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 黄褐色土ブロック少量含む
2　1層よりしまりやや弱く、全体に黄褐色土ブロック多量に含む

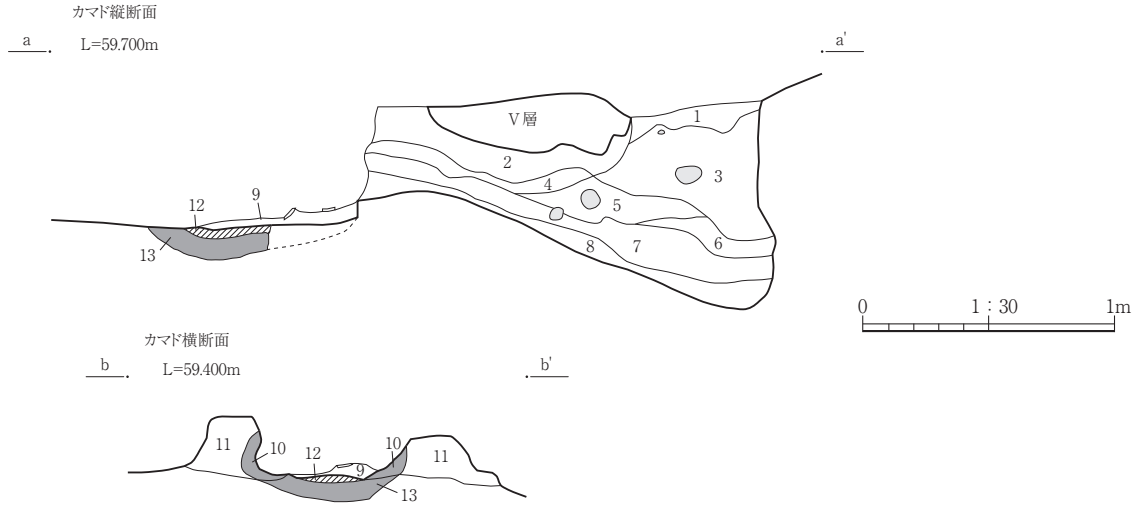
Pit3(e-e')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック斑状に全体に含む
2　10YR4/4褐色 粘土 粘性中 しまりやや強
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強
4　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中 しまり強

Pit4(f-f')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土ブロック全体に含む (柱痕)
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 (掘り方)
4　住居掘り方の一部 Pit3の建て替えか

Pit5(g-g')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック径1～2cm少量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 黄褐色土ブロック少量含む (柱痕)
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 (掘り方)

Pit6(h-h')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 黄褐色土ブロック大小含む
2　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強

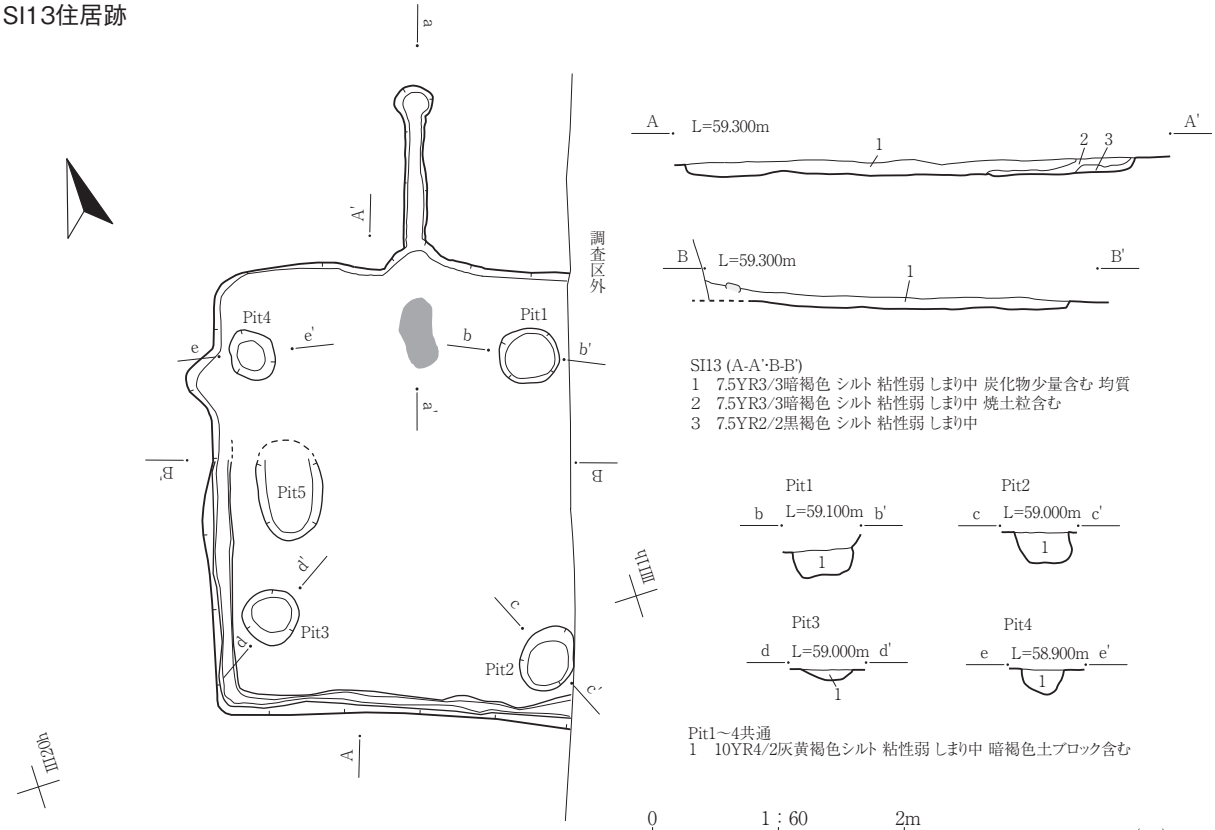
Pit8(i-i')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (柱痕)
2　Pit6の2層に同じ

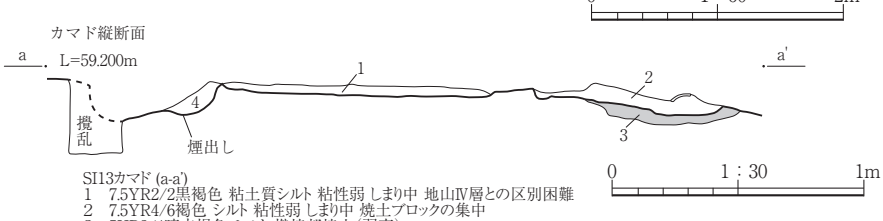


カマド（a-a'･b-b'）
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 炭化物少量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 地山ブロック大小多量･焼土･炭化物少量含む (煙道埋土)
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 黄褐色土ブロック大小多量･焼土粒･炭化物少量含む
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 2層土少量含む (煙道埋土)
5　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり中
6　10YR4/4褐色 粘土 粘性やや弱 しまり中
7　7.5YR4/2灰褐色 粘土 粘性中 しまり中 6層粘土 ブロック少量斑状に含む
8　7.5YR3/3暗褐色 粘土 粘性中 しまり中 暗赤褐色焼土ブロック少量含む
9　7.5YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 炭化物少量含む
10　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (カマド袖被熱部分)
11　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土粒･炭少量含む
12　5YR6/8橙色 焼土 (硬化還元部分)
13　5YR4/6赤褐色 焼土

第31図　SI12住居跡（2）

SI13住居跡



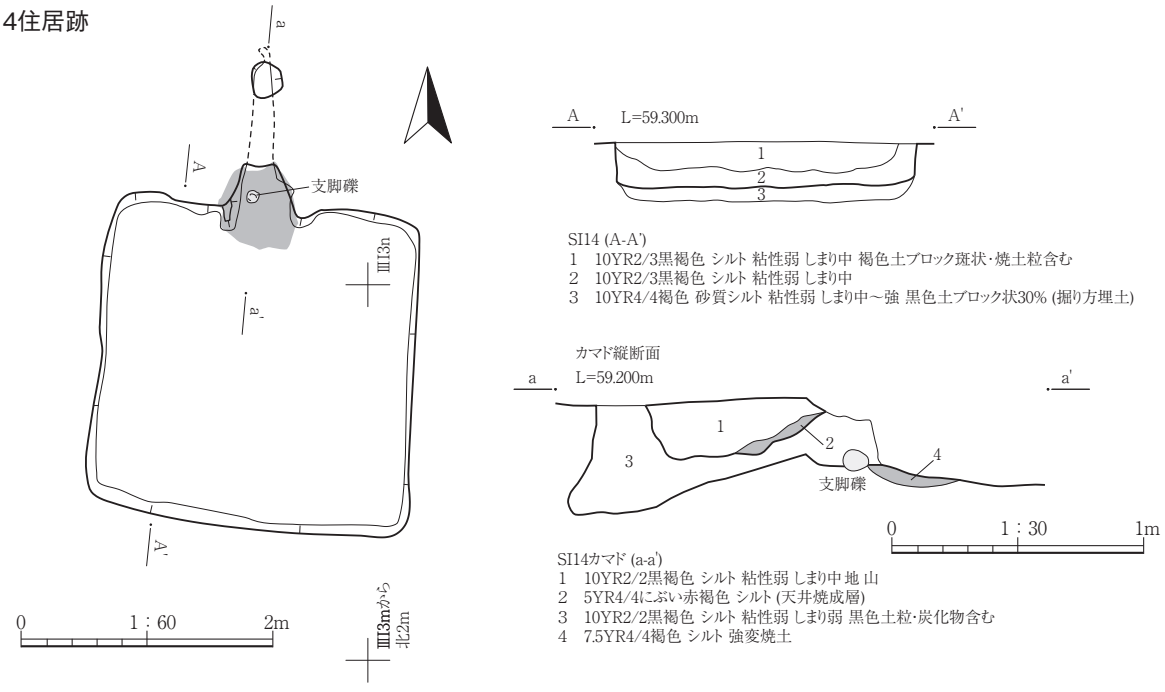


SI13カマド (a-a')
1　7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 地山Ⅳ層との区別困難
2　7.5YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロックの集中
3　5YR3/4暗赤褐色 シルト 燃焼部焼土(弱変)
4　7.5YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒5～10%

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	49	42	25
Pit2	55	38	25
Pit3	46	44	10
Pit4	43	36	22
Pit5	63	51	17

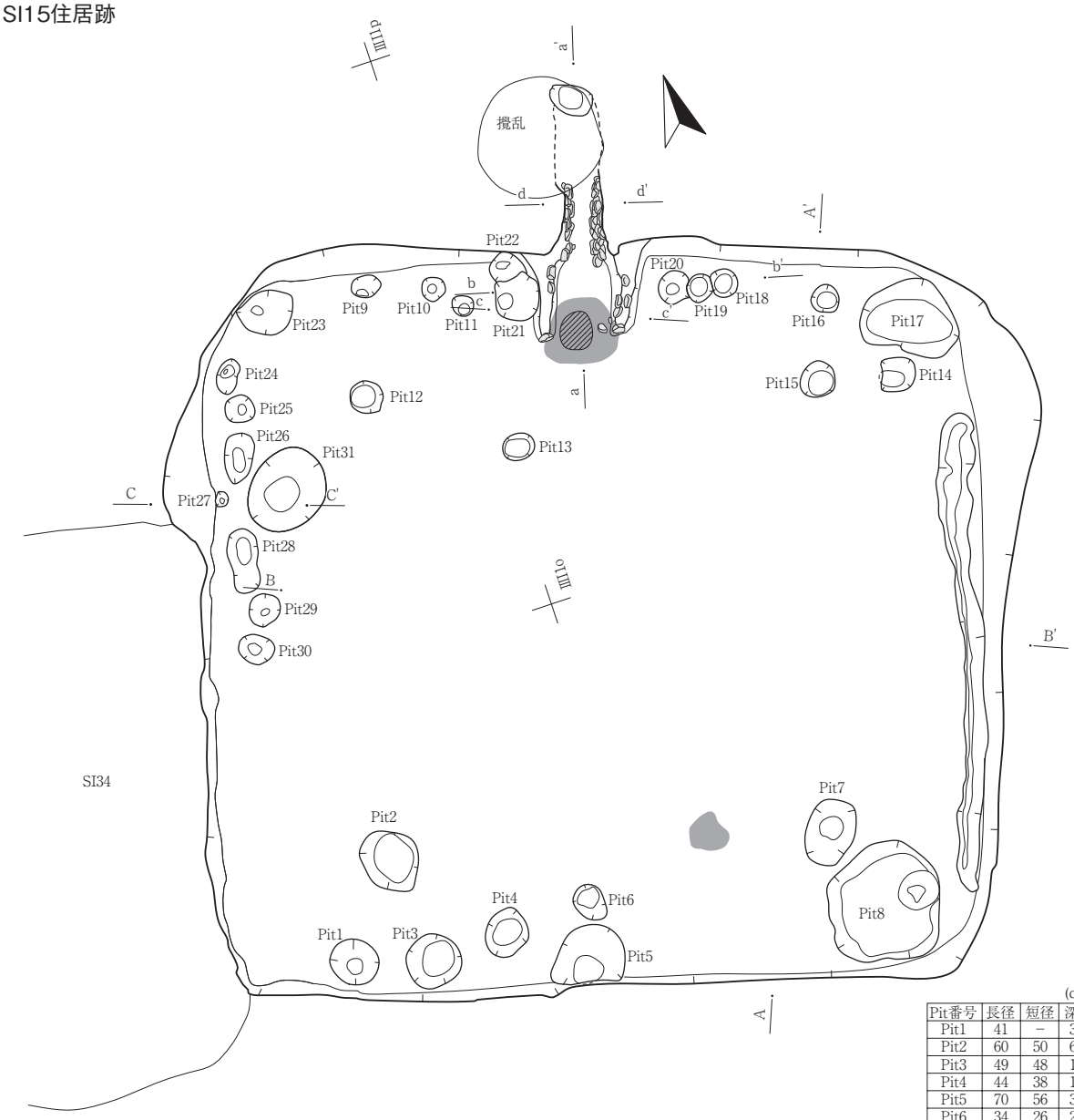
SI14住居跡

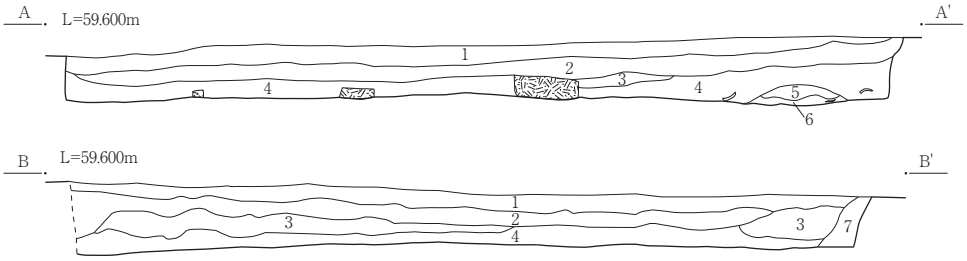


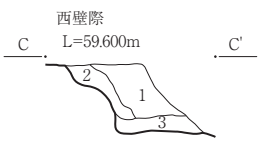
SI14カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 地 山
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト (天井焼成層)
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 黒色土粒･炭化物含む
4　7.5YR4/4褐色 シルト 強変焼土

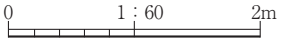
第 32 図　SI13 住居跡・SI14 住居跡

SI15住居跡









SI15（A-A'･B-B'）
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 上部に灰白色火山灰ブロック(斑状断続的)
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物 焼土粒 焼土ブロック含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5～10%
5　10YR4/4褐色 細砂 粘性弱 しまり中 下面やや焼成
6　10YR2/2黒褐色 シルト 4層に同じ
7　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中

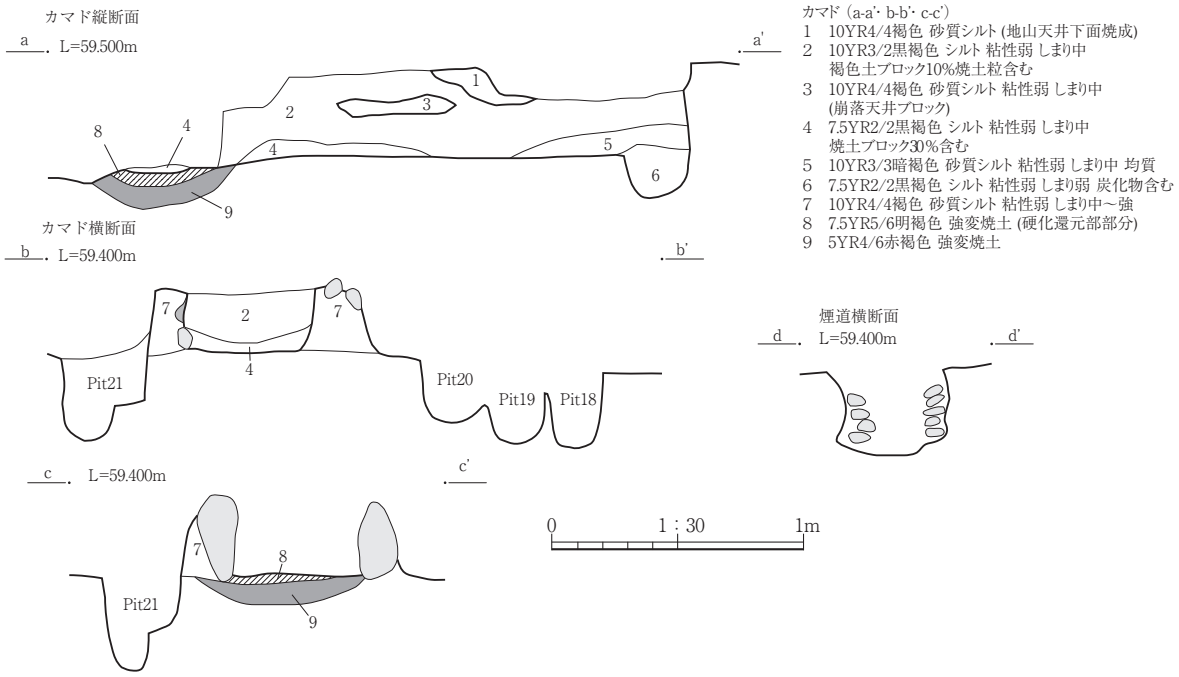
SI15 (C-C')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 褐色 砂ブロックを斑状に30%
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック5% 褐色土ブロック20%

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	41	−	33
Pit2	60	50	65
Pit3	49	48	13
Pit4	44	38	16
Pit5	70	56	35
Pit6	34	26	27
Pit7	59	44	80
Pit8	111	106	27
Pit9	27	19	47
Pit10	21	21	15
Pit11	20	17	30
Pit12	31	28	49
Pit13	29	23	10
Pit14	36	33	40
Pit15	33	31	71
Pit16	26	26	46
Pit17	88	67	21
Pit18	26	25	32
Pit19	25	22	31
Pit20	31	30	25
Pit21	43	40	38
Pit22	33	24	42
Pit23	51	39	31
Pit24	31	18	20
Pit25	27	26	13
Pit26	45	25	20
Pit27	14	11	8
Pit28	57	27	17
Pit29	31	27	30
Pit30	32	26	37
Pit31	77	63	68

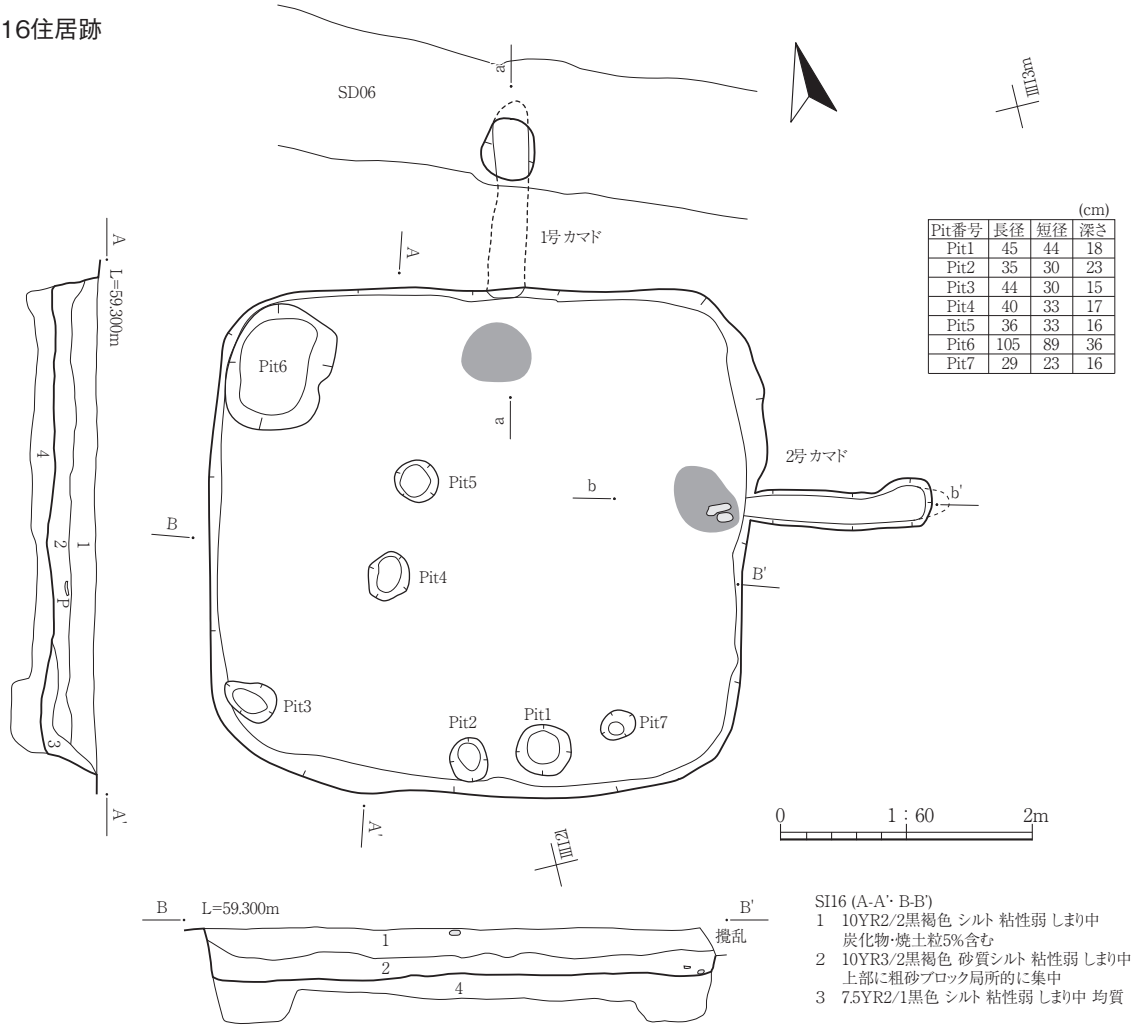
第33図　SI15住居跡（1）

SI15住居跡



カマド（a-a'・b-b'・c-c'）
1　10YR4/4褐色 砂質シルト (地山天井下面焼成)
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック10%焼土粒含む
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　(崩落天井ブロック)
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土ブロック30%含む
5　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 均質
6　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
7　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中～強
8　7.5YR5/6明褐色 強変焼土 (硬化還元部部分)
9　5YR4/6赤褐色 強変焼土

SI16住居跡



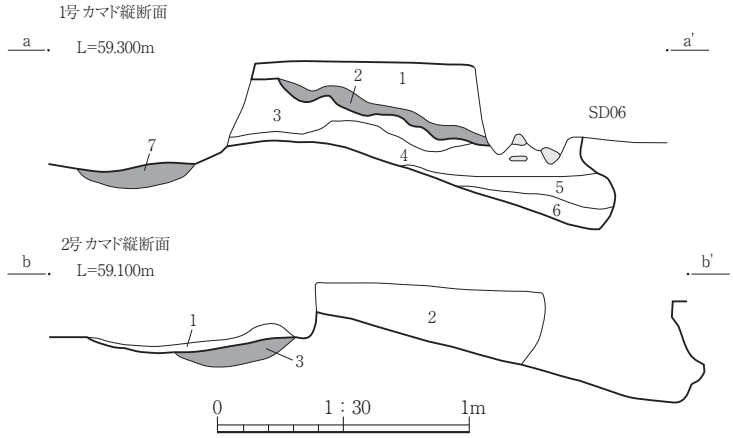
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	45	44	18
Pit2	35	30	23
Pit3	44	30	15
Pit4	40	33	17
Pit5	36	33	16
Pit6	105	89	36
Pit7	29	23	16

SI16 (A-A'・B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物・焼土粒5%含む
2　10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　上部に粗砂ブロック局所的に集中
3　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質

第 34 図　SI15 住居跡（2）・SI16 住居跡（1）

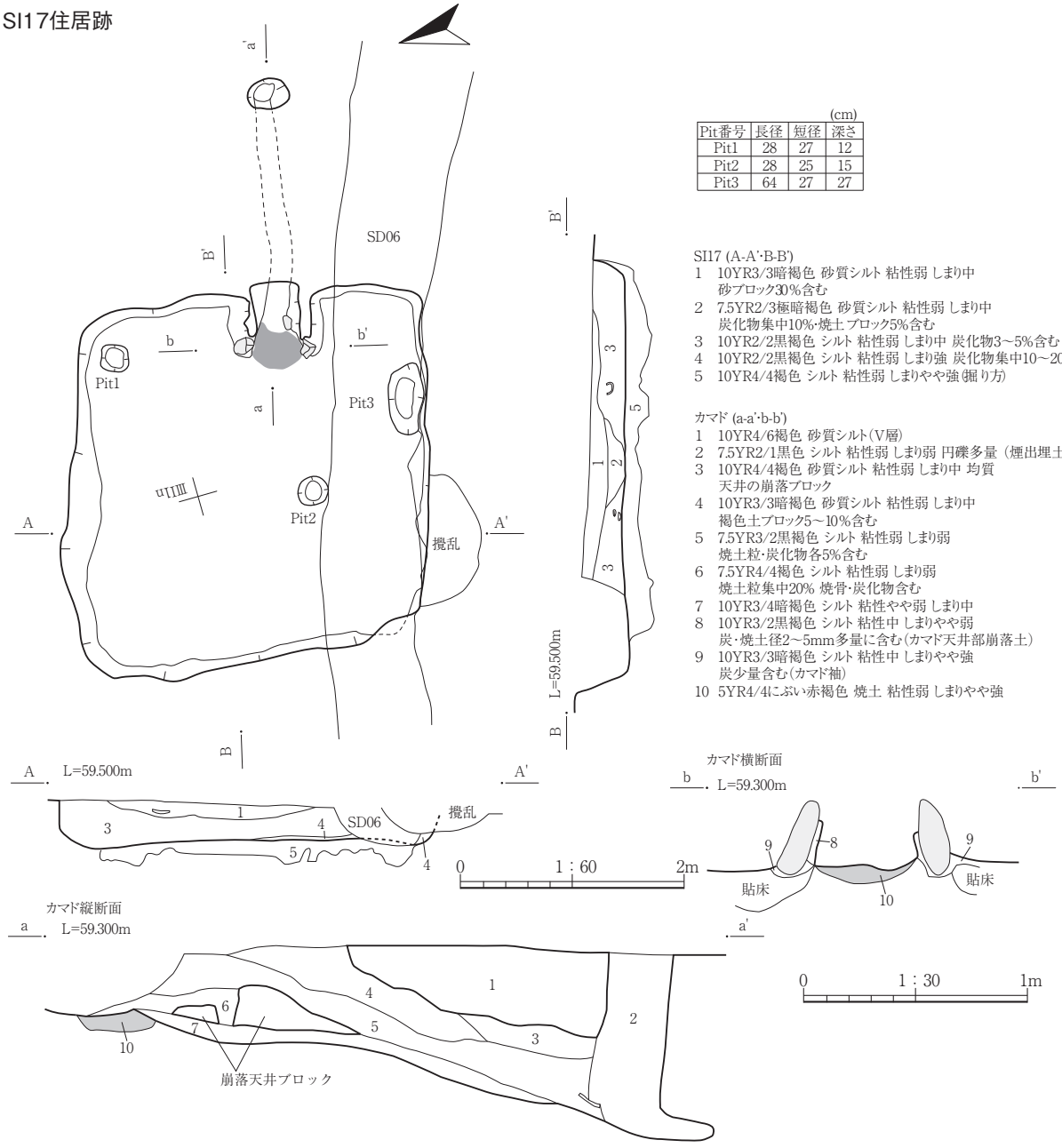
SI16住居跡



1号 カマド (a-a')
1　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
　(天井部)
2　7.5YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
　(下面焼成で焼土化した部分)
3　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒3～5%含む
4　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒10～15% 煙出し側に炭化物多量に含む
5　10YR4/6褐色 砂 粘性弱 しまり中 均質 地山砂の崩落ブロックか
6　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
7　5YR4/6赤褐色 強変焼土 上面硬化

2号 カマド (b-b')
1　5YR4/4にぶい赤褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
　焼土ブロック・炭化物集中
2　7.5YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒3%含む
3　5YR4/6赤褐色 強変焼土 上面硬化

SI17住居跡



(cm)

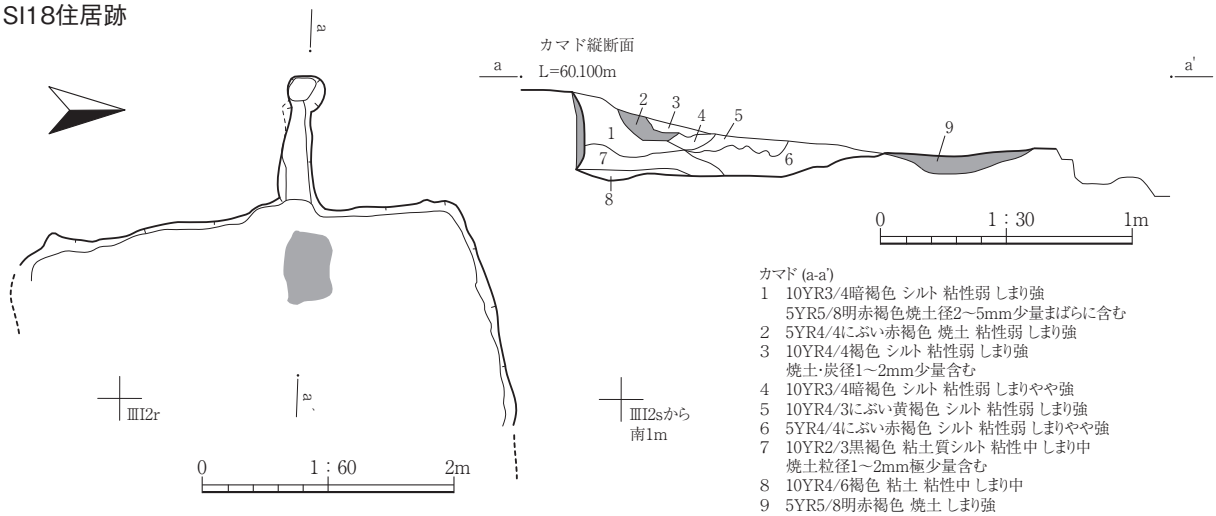
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	28	27	12
Pit2	28	25	15
Pit3	64	27	27

SI17 (A-A'・B-B')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　砂ブロック30%含む
2　7.5YR2/3極暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物集中10%・焼土 ブロック5%含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3～5%含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 炭化物集中10～20%
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強(掘り方)

カマド (a-a'・b-b')
1　10YR4/6褐色 砂質シルト(V層)
2　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 円礫多量 (煙出埋土)
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 均質
　天井の崩落ブロック
4　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック5～10%含む
5　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒・炭化物各5%含む
6　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒集中20% 焼骨・炭化物含む
7　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
8　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　炭・焼土径2～5mm多量に含む(カマド天井部崩落土)
9　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
　炭少量含む(カマド袖)
10　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強

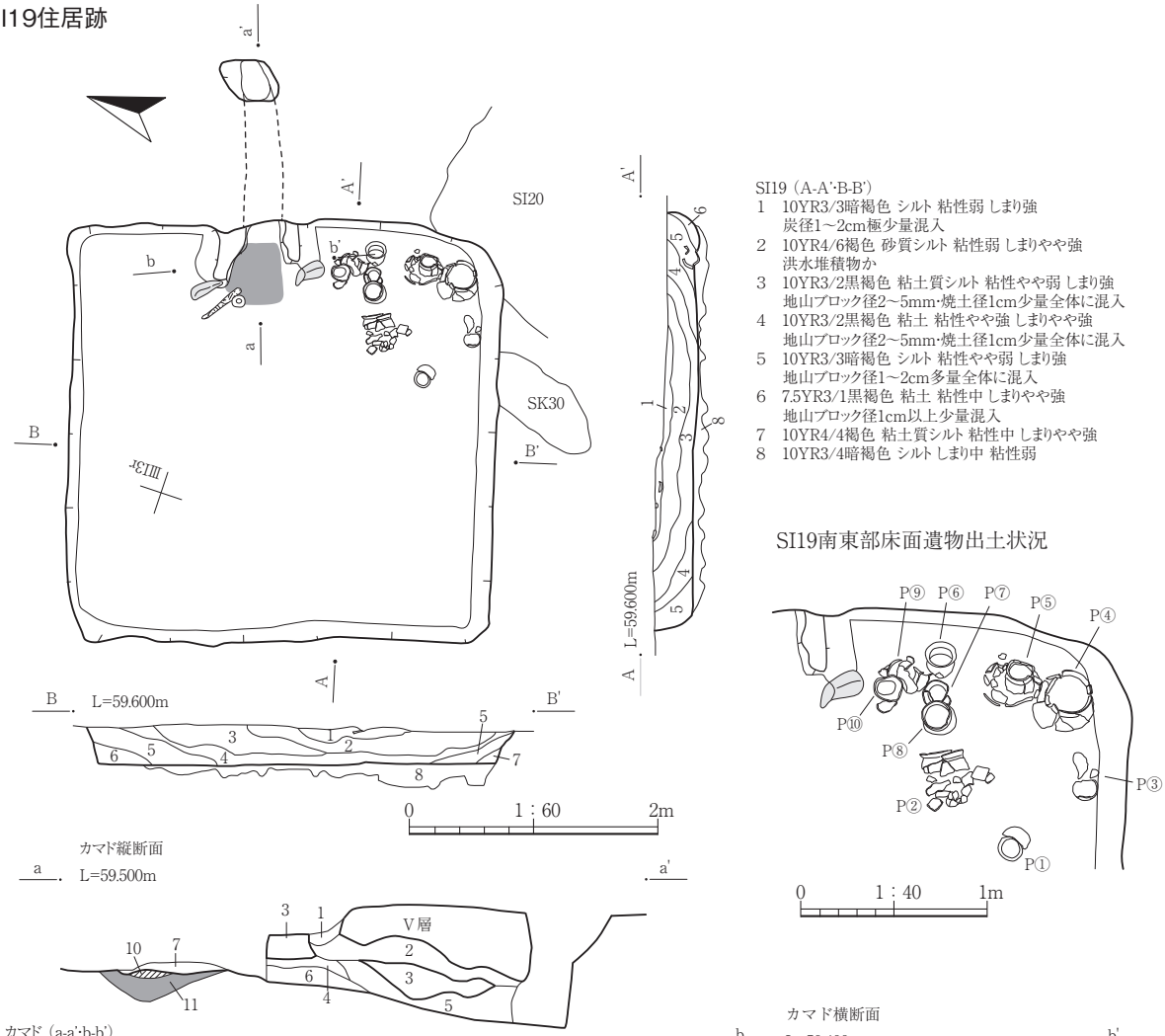
第 35 図　SI16 住居跡 (2)・SI17 住居跡

SI18住居跡



カマド (a-a')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　5YR5/8明赤褐色焼土径2～5mm少量まばらに含む
2　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　焼土･炭径1～2mm少量含む
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
5　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
6　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
7　10YR2/3黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
　焼土粒径1～2mm極少量含む
8　10YR4/6褐色 粘土 粘性中 しまり中
9　5YR5/8明赤褐色 焼土 しまり強

SI19住居跡



SI19（A-A'･B-B'）
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　炭径1～2cm極少量混入
2　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強
　洪水堆積物か
3　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり強
　地山ブロック径2～5mm･焼土径1cm少量全体に混入
4　10YR3/2黒褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強
　地山ブロック径2～5mm･焼土径1cm少量全体に混入
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　地山ブロック径1～2cm多量全体に混入
6　7.5YR3/1黒褐色 粘土 粘性中 しまりやや強
　地山ブロック径1cm以上少量混入
7　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強
8　10YR3/4暗褐色 シルト しまり中 粘性弱

SI19南東部床面遺物出土状況

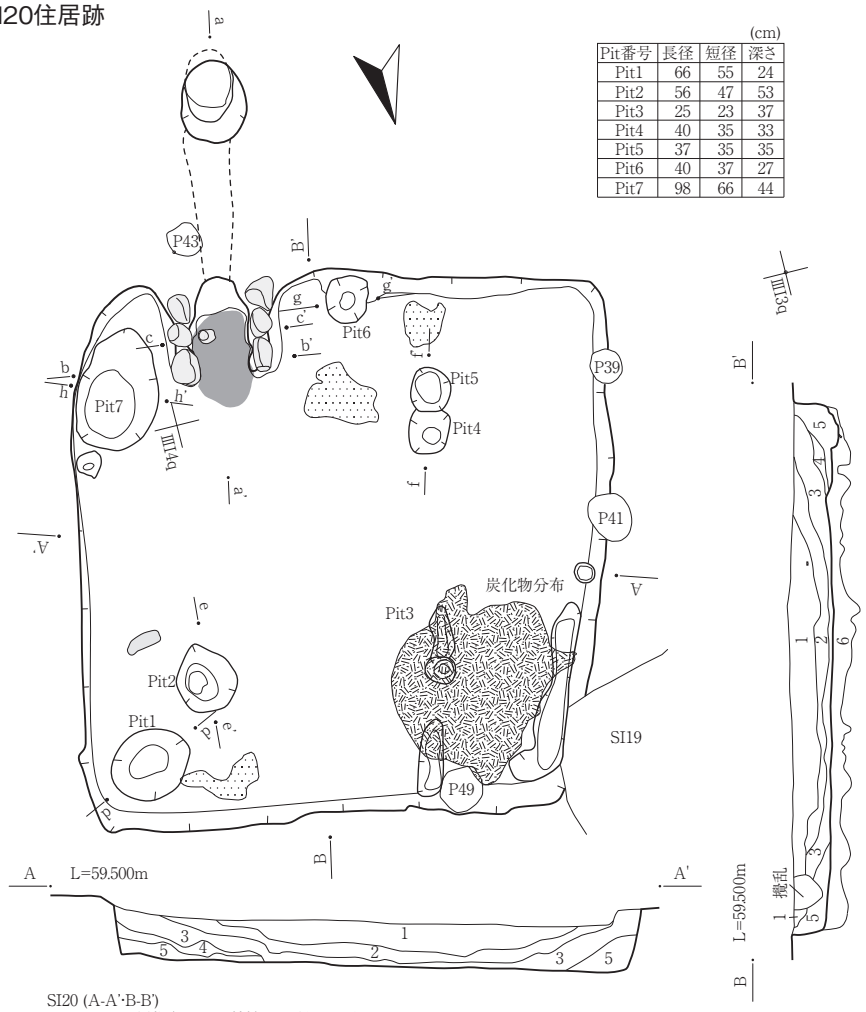
カマド（a-a'･b-b'）
1　Ⅲ層落ち込み
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
3　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 赤褐色焼土粒少量混入（天井崩落土）
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
5　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 3層の焼土･炭径2～5mm少量全体に混入
6　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 炭径1～2mm少量混入
7　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土ブロック径1～30mm多量全体に混入（燃焼部堆積土）
8　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色土径2～5mm少量混入（カマド袖構築土）
9　8層に同じ
10　5YR6/8橙色 焼土 (硬化還元部分)
11　5YR4/6赤褐色 焼土

第 36 図　SI18 住居跡・SI19 住居跡

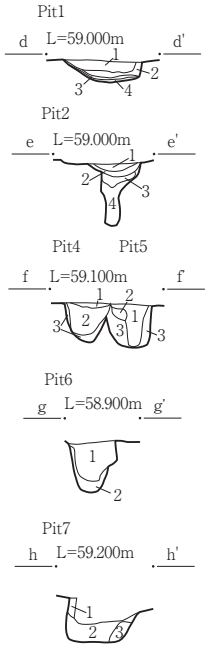
SI20住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	66	55	24
Pit2	56	47	53
Pit3	25	23	37
Pit4	40	35	33
Pit5	37	35	35
Pit6	40	37	27
Pit7	98	66	44



SI20 (A-A'･B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
2　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 極微量の焼土粒含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 暗赤褐色焼土ブロック含む
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色土ブロック少量含む
6　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 褐色土ブロック含む

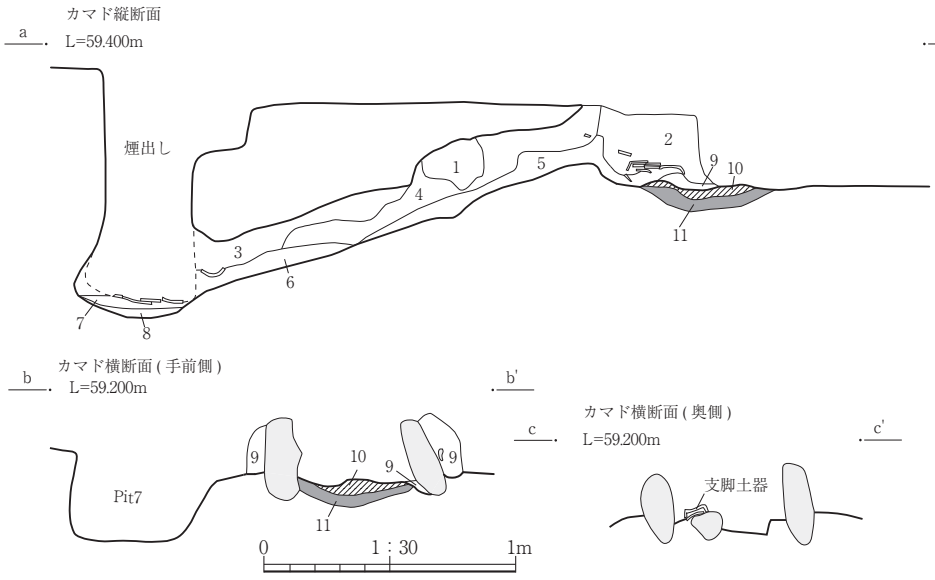


Pit1 (d-d')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　にぶい黄褐色土ブロック少量含む
3　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱
　しまり弱
4　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

Pit2 (e-e')･Pit4･5 (f-f')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱
　しまりやや強 炭化物･焼土粒少量含む
2　10YR4/6褐色 砂質シルト
　黒褐色土ブロック(1層起源)含む
3　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱
　しまりやや弱

Pit6 (g-g')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱
　しまり弱

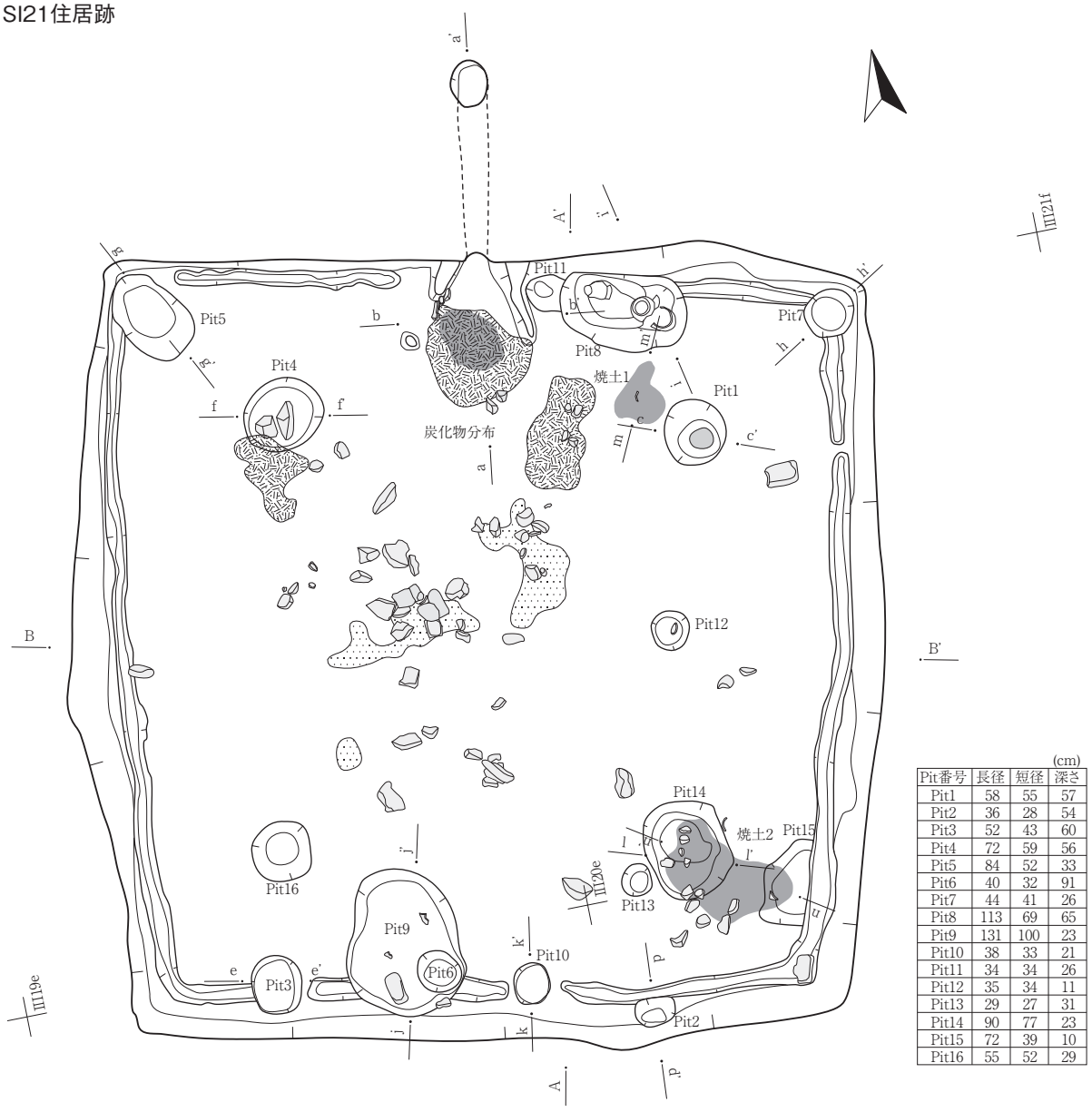
Pit7 (h-h')
1　7.5YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱
　しまり中
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　にぶい黄褐色土ブロック少量含む



カマド (a-a'･b-b'･c-c')
1　10YR3/4暗褐色 シルト
　東方向より斜位に入る攪乱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中
　しまりやや強 極微量の焼土粒含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱
　しまり弱 焼土ブロック含む
4　10YR2/5黒褐色 シルト 粘性やや弱
　しまりやや弱 焼土粒微量含む
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり中
6　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強
　しまり強
7　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強
　しまりやや弱
8　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強
　しまりやや弱
9　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや強
　しまり強(カマド袖構築土)
10　2.5YR4/6赤褐色焼土 硬化顕著
　しまり強
11　2.5YR3/4暗赤褐色焼土

第 37 図　SI20 住居跡

SI21住居跡



(cm)

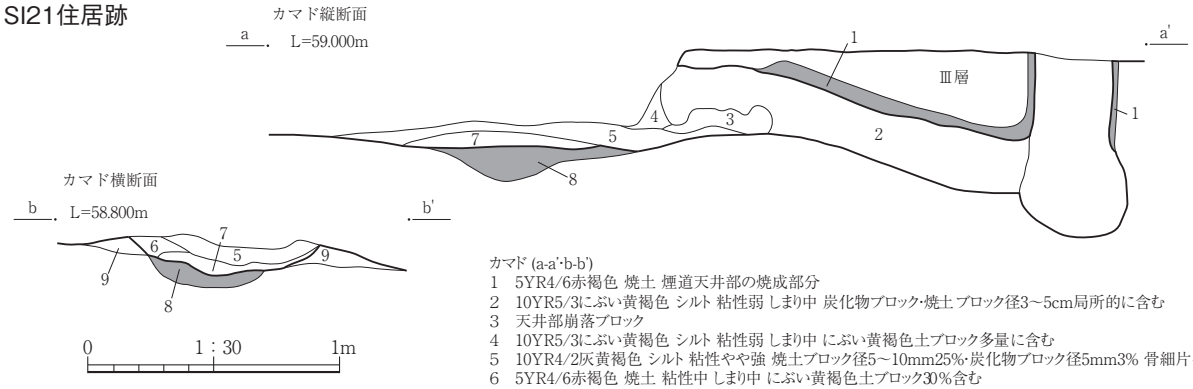
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	58	55	57
Pit2	36	28	54
Pit3	52	43	60
Pit4	72	59	56
Pit5	84	52	33
Pit6	40	32	91
Pit7	44	41	26
Pit8	113	69	65
Pit9	131	100	23
Pit10	38	33	21
Pit11	34	34	26
Pit12	35	34	11
Pit13	29	27	31
Pit14	90	77	23
Pit15	72	39	10
Pit16	55	52	29

SI21 (A-A'･B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 浅黄橙色土ブロック少量含む(To-aか) 炭化物ブロック径2～5mm1%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 褐色土ブロック･浅黄橙色土ブロック少量含む 炭化物ブロック径2～5mm3%
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物ブロック径5mm1%
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック多量に含む(掘り方埋土)

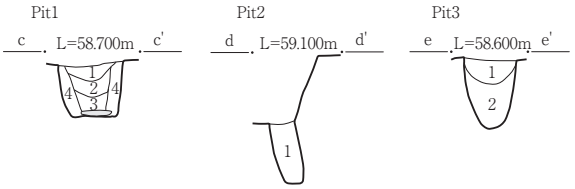
0　1：60　2m

第38図　SI21住居跡（1）

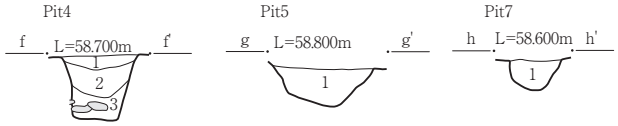
SI21住居跡



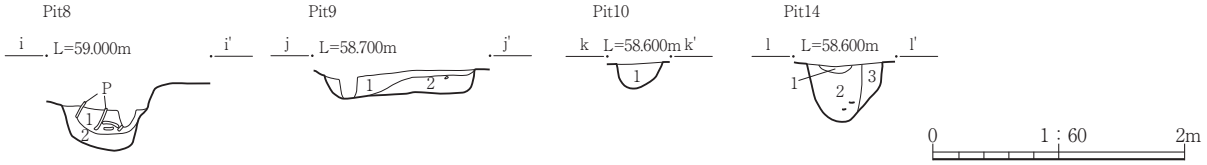
カマド (a-a'･b-b')
1　5YR4/6赤褐色 焼土 煙道天井部の焼成部分
2　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック･焼土ブロック径3～5cm局所的に含む
3　天井部崩落ブロック
4　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック多量に含む
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性やや強 焼土ブロック径5～10mm25%･炭化物ブロック径5mm3% 骨細片多
6　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック30%含む
7　10YR5/2灰黄褐色 灰層 粘性強 しまり弱 焼土･炭化物ブロック少量含む 骨細片多
8　2.5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱
9　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック多量に含む



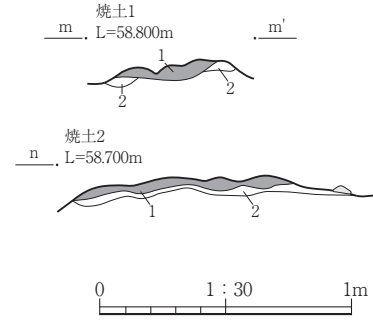
Pit1 (c-c')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5mm1%
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5mm5%
3　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径2～5mm2%
4　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径2～5mm1%
Pit2 (d-d')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
Pit3 (e-e')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5mm5%
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径2～5mm2%



Pit4 (f-f')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5mm1%
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5mm5%
3　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径2～5mm2%
Pit5 (g-g')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
Pit7 (h-h')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中



Pit8 (i-i')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
Pit9 (j-j')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
Pit10 (k-k')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
Pit14 (l-l')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土ブロック径2～5mm2%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック多量に含む



焼土1 (m-m')
1　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
2　5YR2/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中

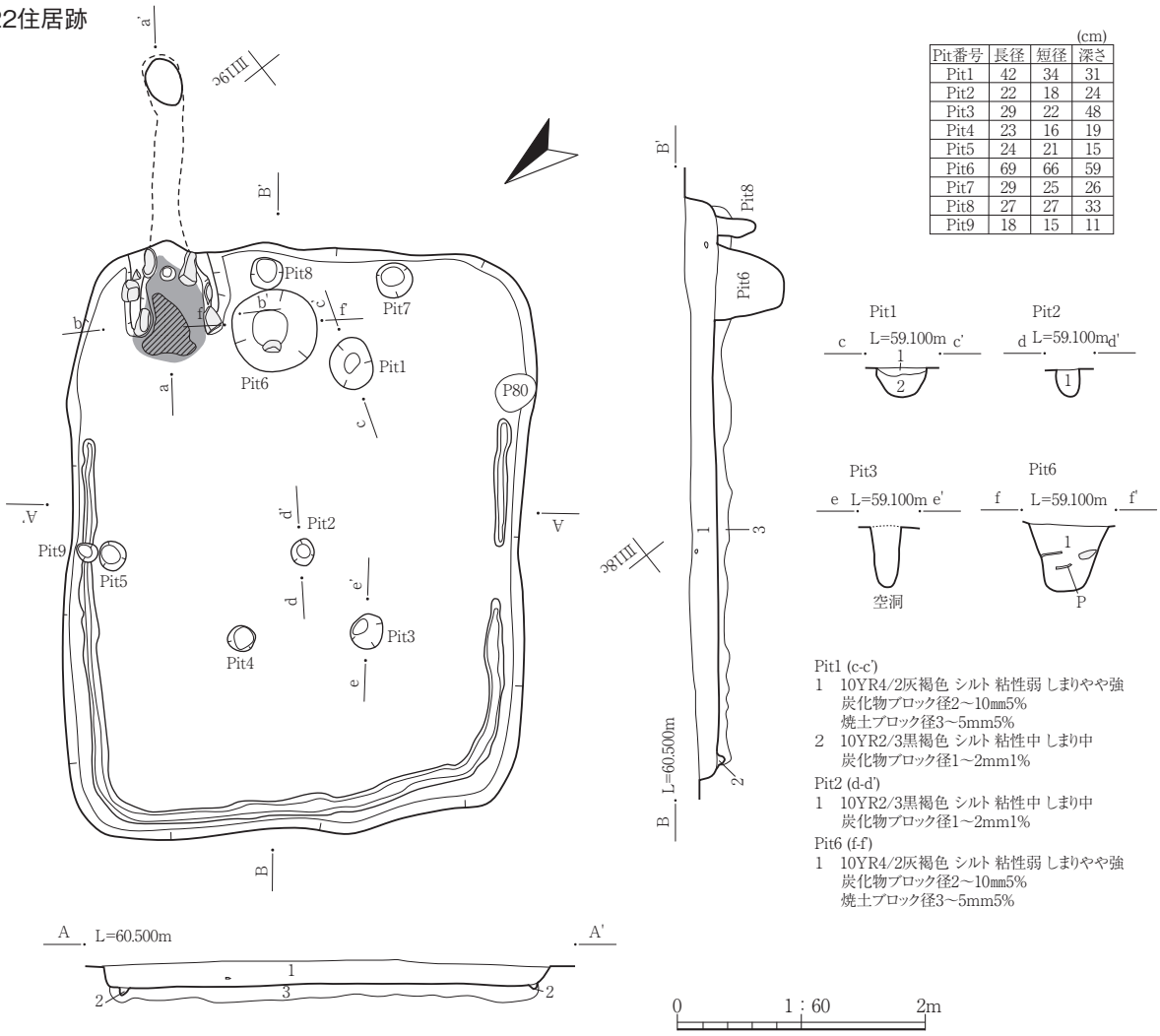
焼土2 (n-n')
1　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
2　5YR2/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中

第 39 図　SI21 住居跡（2）

SI22住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	42	34	31
Pit2	22	18	24
Pit3	29	22	48
Pit4	23	16	19
Pit5	24	21	15
Pit6	69	66	59
Pit7	29	25	26
Pit8	27	27	33
Pit9	18	15	11



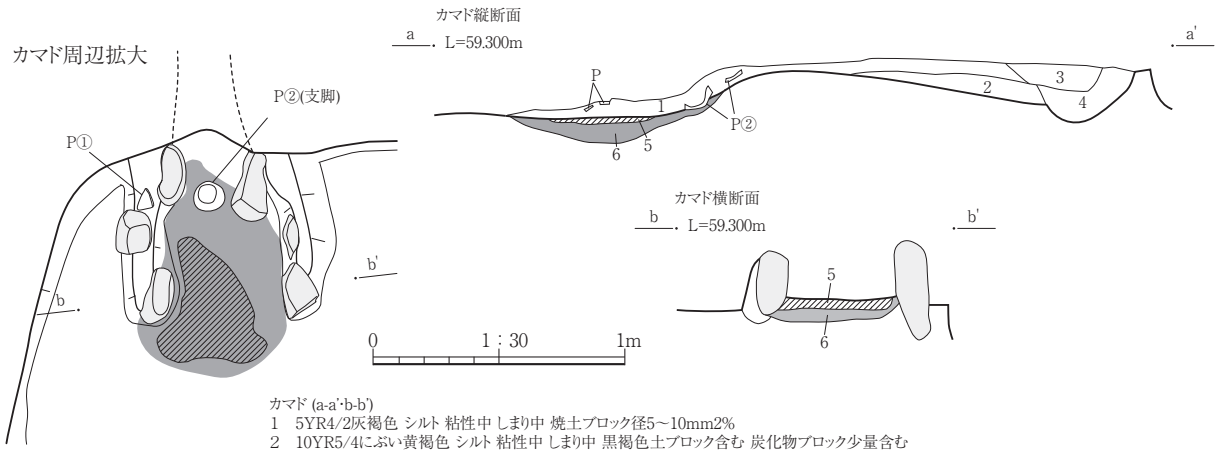
Pit1 (c-c')
1　10YR4/2灰褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　炭化物ブロック径2～10㎜5%
　焼土ブロック径3～5mm5%
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭化物ブロック径1～2mm1%

Pit2 (d-d')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭化物ブロック径1～2mm1%

Pit6 (f-f')
1　10YR4/2灰褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　炭化物ブロック径2～10㎜5%
　焼土ブロック径3～5mm5%

SI22 (A-A'･B-B')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 焼土ブロック径5～6mm 炭径5～10mm各1%含む
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中（周溝）
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 黄褐色土ブロック5% 黒褐色土ブロック10％
　焼土ブロック径1～5mm少量含む（掘り方埋土）

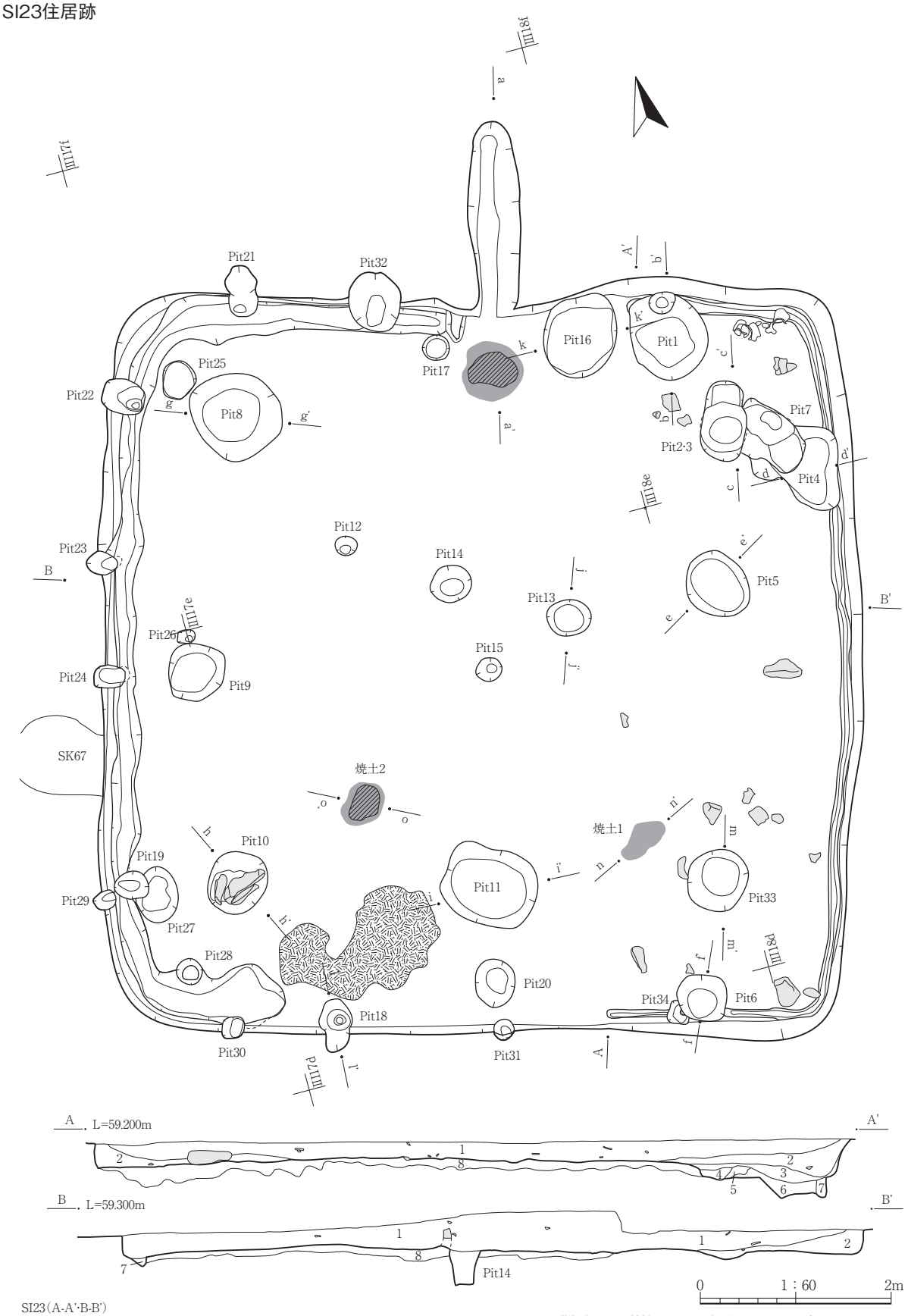
カマド周辺拡大



カマド (a-a'･b-b')
1　5YR4/2灰褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック径5～10mm2%
2　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 黒褐色土ブロック含む 炭化物ブロック少量含む
3　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強（To-a様のテフラ） 灰褐色土ブロック径10～30mm20%含む
4　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 灰褐色土ブロック多量に含む　焼土･炭化物少量含む
5　5YR6/8橙色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR5/6明赤褐色 焼土

第 40 図　SI22 住居跡

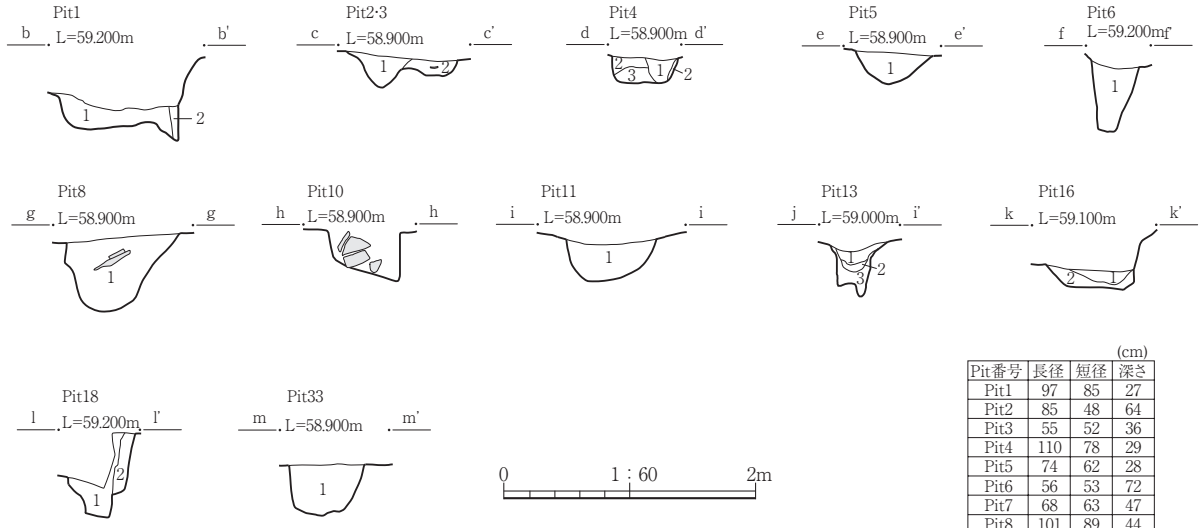
SI23住居跡



SI23(A-A'·B-B')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm2%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm1%
3　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭径30mm·焼土径1～3mm1%
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 径50mm大の焼土10%
5　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭·焼土径5mm1%含む
6　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭·焼土径1～3mm1%
7　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭径30mm1%含む
8　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭1%径1mm·土器片含む

第 41 図　SI23 住居跡（1）

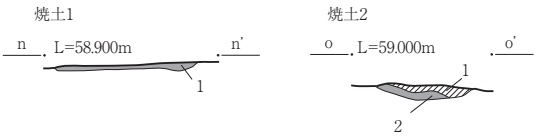
SI23住居跡



(cm)

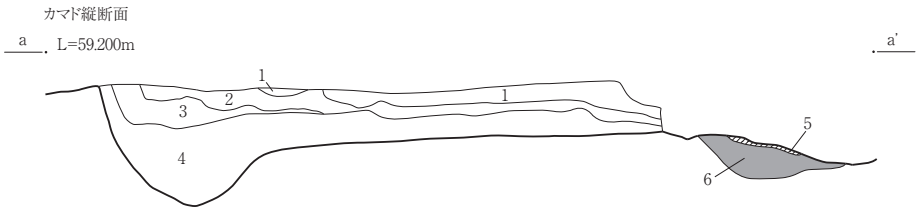
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	97	85	27
Pit2	85	48	64
Pit3	55	52	36
Pit4	110	78	29
Pit5	74	62	28
Pit6	56	53	72
Pit7	68	63	47
Pit8	101	89	44
Pit9	67	56	53
Pit10	70	58	79
Pit11	106	80	53
Pit12	24	20	24
Pit13	46	38	35
Pit14	44	35	40
Pit15	28	24	48
Pit16	95	86	61
Pit17	28	26	12
Pit18	47	27	78
Pit19	37	32	42
Pit20	50	41	31
Pit21	50	32	56
Pit22	44	29	65
Pit23	37	24	74
Pit24	36	25	56
Pit25	40	33	21
Pit26	20	17	18
Pit27	60	44	39
Pit28	29	26	27
Pit29	21	19	55
Pit30	25	21	95
Pit31	18	16	68
Pit32	89	61	54
Pit33	68	60	47
Pit34	28	26	22

Pit1（b-b'）
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック30％
　炭化物·焼土ブロック少量含む
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中（周溝）
Pit2·3（c-c'）
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物少量含む
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 褐色土ブロック含む 炭化物·焼土ブロック少量
Pit4（d-d'）
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック径3～5mm全体に5%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック径10～50mm全体に20%
Pit5（e-e'）
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物少量
Pit6（f-f'）
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭 ブロック·焼土ブロック径5mm5%
Pit8（g-g'）
1　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強 炭化物少量
Pit10（h-h'）
　土層記録なし
Pit11（i-i'）
1　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強 炭化物少量
Pit13（j-j'）
1　10YR4/3にぶい黄褐色粘土 粘性強 しまりやや強
　炭ブロック径5～10mm10%·焼土3%·褐色土ブロック5%
2　10YR2/2黒褐色粘土 粘性強 しまりやや強
Pit16（k-k'）
1　10YR4/3にぶい黄褐色粘土 粘性強 しまり中 炭化物10%含む
2　10YR2/2黒褐色粘土 粘性中 しまり中
Pit18（l-l'）
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 表面に炭微量
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
Pit33（m-m'）
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭化物少量



焼土1（n-n'）
1　5YR5/6明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中

焼土2（o-o'）
1　2.5YR5/8明赤褐色焼土 粘性弱 しまり弱 (硬化還元部分)
2　2.5YR4/6赤褐色焼土 粘性弱 しまり弱

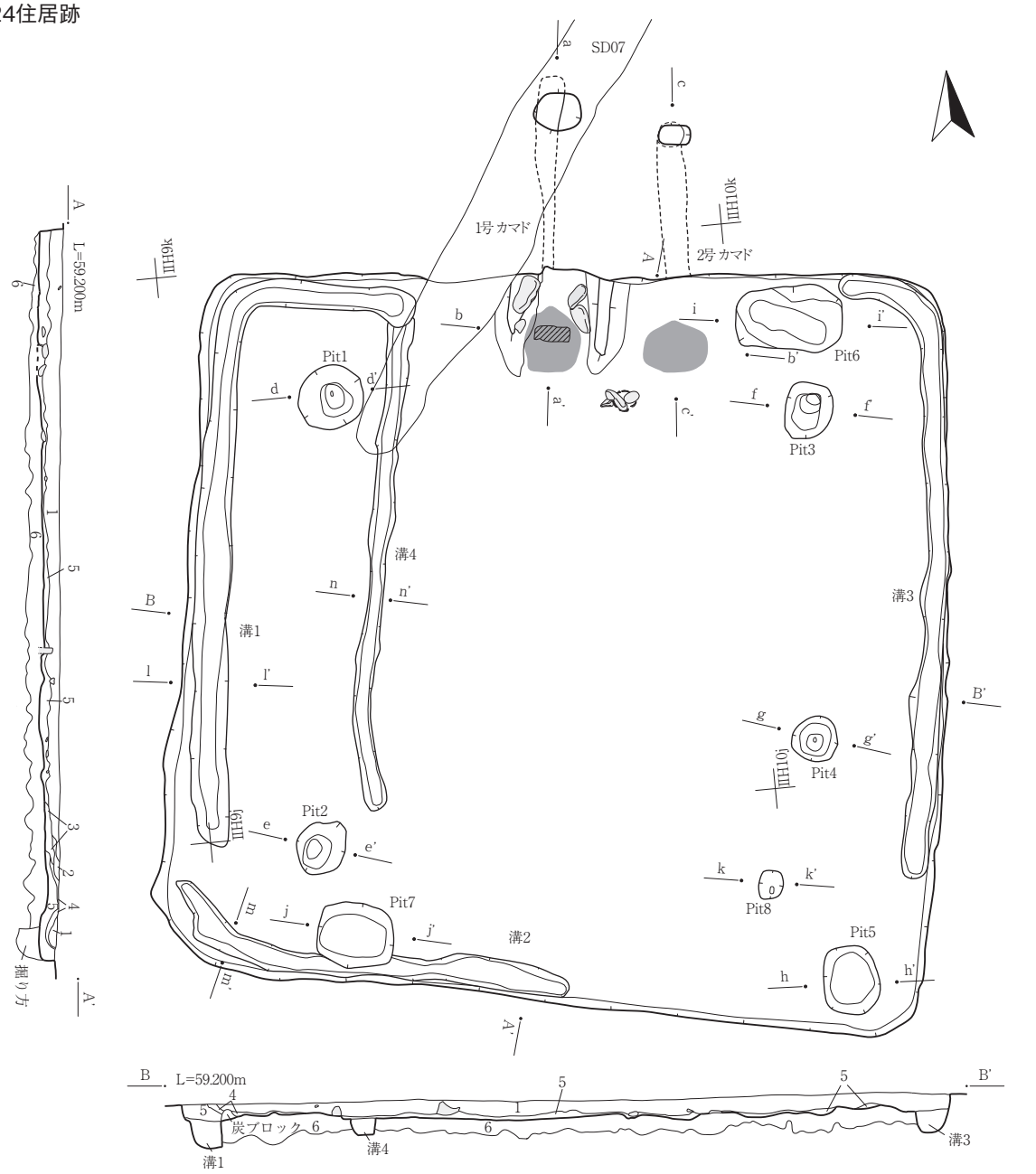


カマド (a-a')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭 ブロック径5～10mm10%·焼土ブロック径5mm5%
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭 ブロック径5mm10%·焼土ブロック径10～20mm5%
3　10YR2/3黒褐色 粘土 粘性強 しまりやや強 炭ブロック径5～10mm30%·焼土ブロック径10～30mm3%
4　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 炭3% 焼土含む
5　2.5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱 (硬化還元部分)
6　5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱

0 1：30 1m

第 42 図　SI23 住居跡（2）

SI24住居跡



SI24 (A-A'･B-B')
1　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 炭化物径1～2mm･焼土粒少量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 炭化物･焼土粒･黄橙色土ブロックを多量に含む
3　7.5YR6/8橙色 焼土 硬化顕著 焼失時に発生した焼土か
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭化物多量に含む
5　7.5YR4/3褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭･焼土径1～2cmブロック多量に含む
6　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック混 掘り方埋土

(cm)

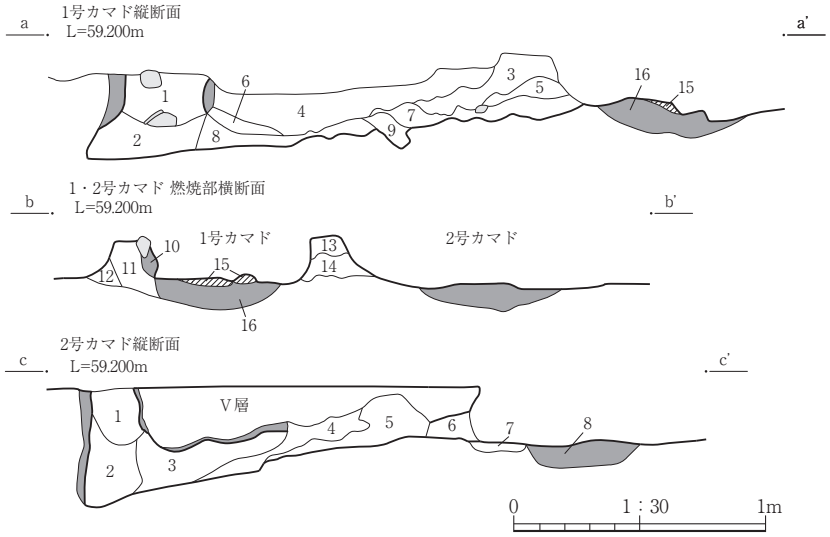
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	61	55	87
Pit2	53	44	72
Pit3	54	43	78
Pit4	42	39	39
Pit5	63	51	15
Pit6	100	56	30
Pit7	77	62	32
Pit8	31	25	69

溝1･2 (l-l'･m-m')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック少量含む

溝4 (n-n')
1　10YR3/4 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中

第 43 図　SI24 住居跡（1）

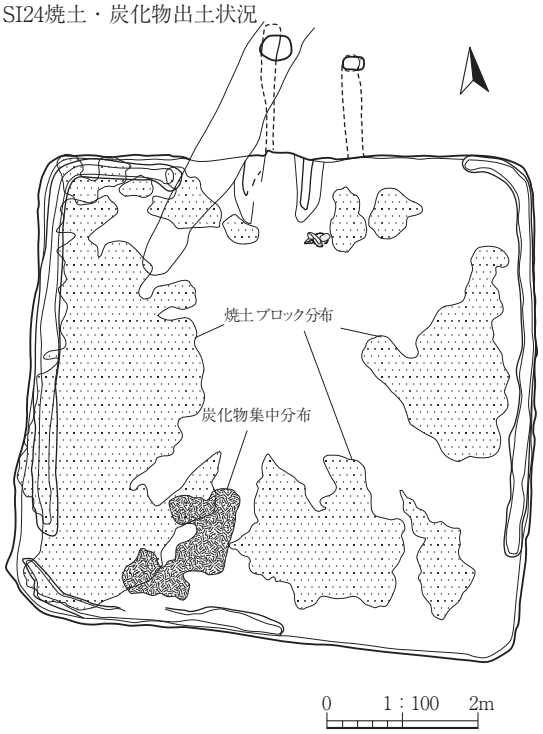
SI24住居跡

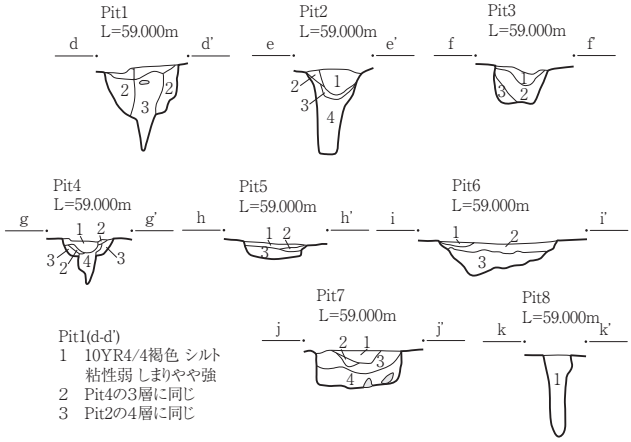


1号カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　焼土径2～5mm少量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
　1層より焼土多く含む
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり強
　焼土･炭微量含む
4　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱
　しまりやや強 焼土ブロック全体に少量含む
5　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性中 しまりやや強
6　7.5YR4/4褐色 粘土 粘性やや強 しまり中
　炭･焼土まばらに含む
7　7.5YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまりやや強 焼土ブロック南側に多量含む
8　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト
　粘性中 しまりやや強 焼土炭多量含む
9　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土ブロック多量混入(煙道天井崩壊土)
10　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強
　カマド袖内側の焼成部分
11　5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
　カマド袖の焼成部分
12　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　(カマド袖構築土)
13　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強
　焼土粒極微量含む
14　10YR4/6褐色 シルトと炭･焼土ブロックの混合土
　粘性弱 しまり強
15　5YR6/8橙色 焼土 燃焼部硬化面
16　5YR4/6赤褐色 焼土 1号カマド燃焼部

2号カマド (c-c')
1　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
2　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性性やや強 しまりやや弱 炭化物微量含む
3　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 焼土粒極微量含む
4　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 3層の焼土より暗めの焼土多量 炭化物少量含む(天井崩落土)
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 上層に焼土ブロック細かく多量･炭少量含む(天井崩落土)
6　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり強(住居埋土)
7　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
8　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 2号カマド燃焼部 1号カマドの燃焼部よりしまり弱い

SI24焼土・炭化物出土状況





Pit1(d-d')
1　10YR4/4褐色 シルト
　粘性弱 しまりやや強
2　Pit4の3層に同じ
3　Pit2の4層に同じ

Pit2(e-e')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱
　しまり強
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中
　しまり強 炭･焼土ブロック多量含む
3　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまりやや強
4　7.5YR4/4褐色 粘土質シルト
　粘性やや強 しまり中

Pit3(f-f')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱
　しまりやや強 焼土ブロック微量混入
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト
　粘性中 しまりやや強
3　10YR4/4褐色 粘土質シルト
　粘性中 しまり中

Pit4(g-g')
1　Pit3の1層に同じ
2　5YR5/6明赤褐色 焼土 粘性弱
　しまり強
3　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまりやや強
4　Pit2の4層に同じ

Pit5(h-h')
1　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト
　粘性やや強 しまり中 焼土･炭微量含む
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱
　しまり中 炭微量含む
3　7.5YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまりやや強 焼土ブロック多量･炭少量含む

Pit6(i-i')
1　10YR3/4暗褐色 シルトと焼土の混合土
　粘性弱 しまり強
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　焼土ブロック 炭少量混入
3　7.5YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまり強 焼土ブロック･炭層多量混入

Pit7(j-j')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱
　しまりやや強 炭 モヤ状に入る
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱
　しまり強 焼土ブロック･炭多量混入
3　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト
　粘性弱 しまり中
　焼土ブロック･炭層全体に混入
4　7.5YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中
　しまり中 焼土ブロック層全体に混入

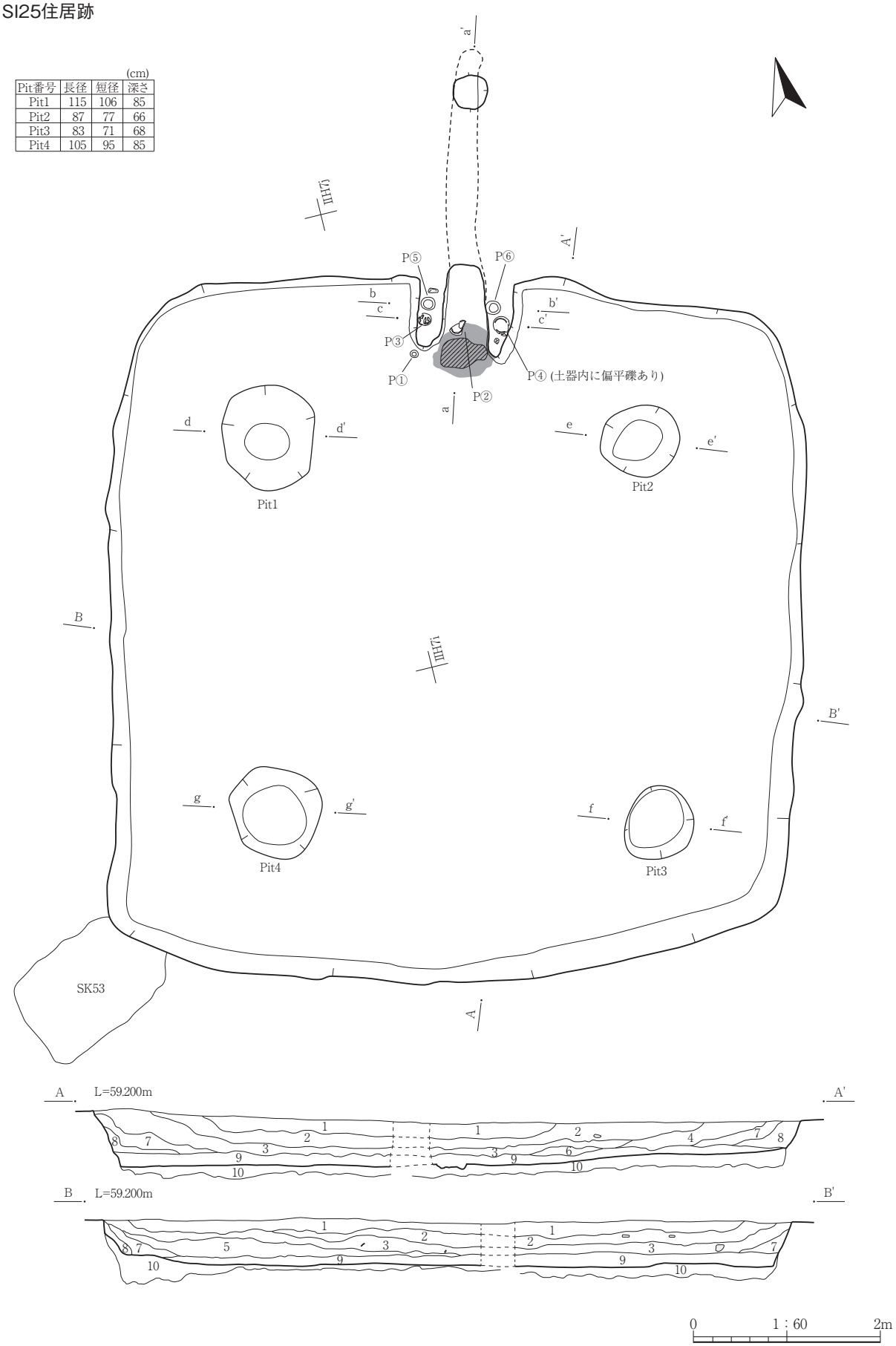
Pit8(k-k')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘弱
　しまり中 焼土ブロック･炭少量混入

第 44 図　SI24 住居跡（2）

SI25住居跡

(cm)

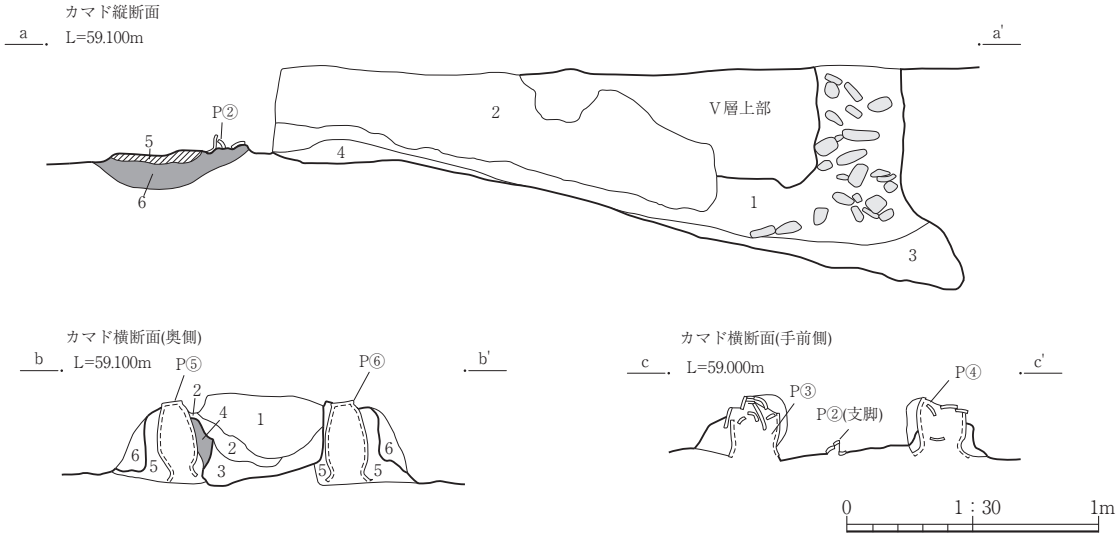
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	115	106	85
Pit2	87	77	66
Pit3	83	71	68
Pit4	105	95	85



第 45 図　SI25 住居跡（1）

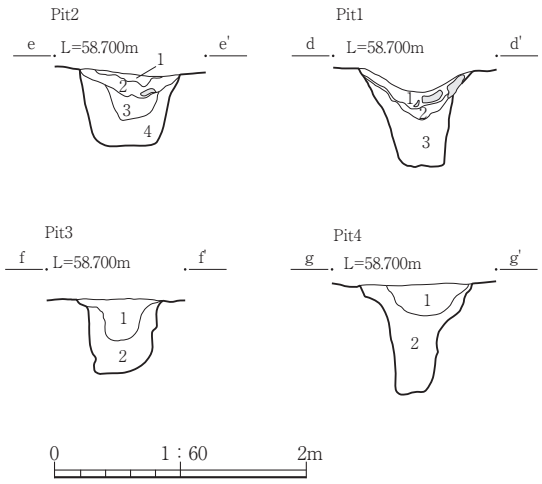
SI25住居跡

SI25 (A-A'･B-B')
1　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒3%･炭化物3%含む 下部に細砂ブロック散見
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 1層よりきめが細かい 下部に褐色 粘土ブロック散在
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘弱 しまり中 焼土粒2～3%含む 均質
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒10%･炭化物5%含む 基本的には3層と同相 カマド周辺で焼土が散在する部分
5　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 グライ化したような灰白色 粘土ブロック散見 南西側にのみ分布
6　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 局所的なブロックか
7　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 壁際の堆積
8　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック10～20%含む 壁際の堆積
9　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中～強 上面にうすく砂ブロックあり 層界と判断
10　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性中 しまりやや強 黒褐色土ブロック極微量含む



カマド縦断面 (a-a')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 亜円礫充填 壁面焼成
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 崩落天井ブロック混在
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物･焼土粒含む
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
5　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

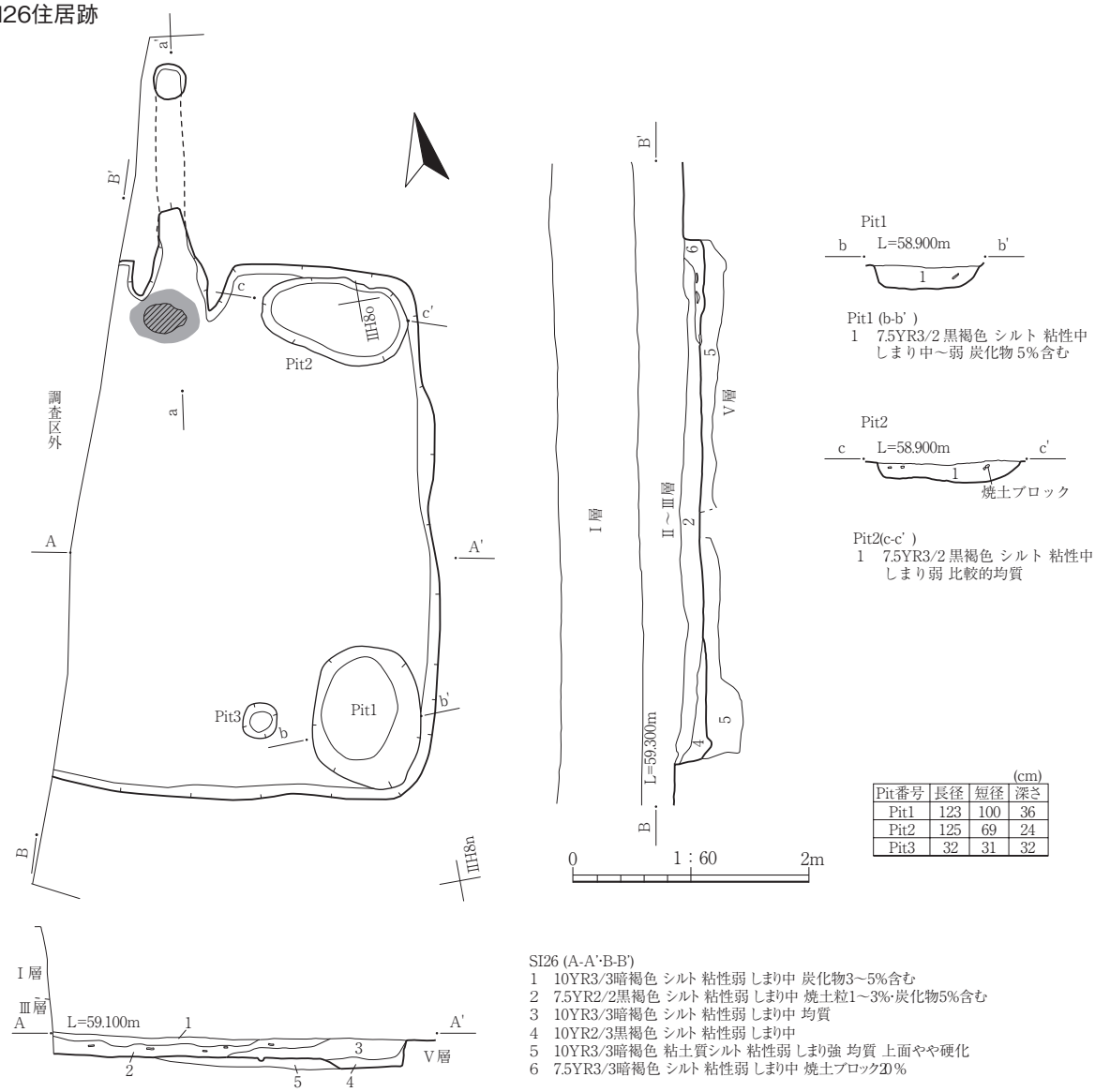
カマド横断面 (b-b')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 焼土粒微量含む
2　7.5YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土少量 炭化物微量含む
3　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土ブロック多量･炭化物少量含む
4　7.5YR4/6褐色 シルト 袖 壁面の焼成部分
5　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中～強(袖構築土)
6　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり弱



Pit1 (d-d')
1　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 炭･焼土粒各5%
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
4　10YR3/4暗褐色 焼土粒シルト 粘性弱 しまり中
Pit2 (e-e')
1　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性強 しまり弱 炭化物多量･焼土粒少量･酸化鉄少量含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性中 しまりやや弱 炭化物少量含む
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
Pit3 (f-f')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
Pit4 (g-g')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック多量に含む
2　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱～中 しまり中

第 46 図　SI25 住居跡（2）

SI26住居跡



Pit1
b　L=58.900m　b'
1

Pit1 (b-b')
1　7.5YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中
しまり中～弱 炭化物 5%含む

Pit2
c　L=58.900m　c'
1
焼土ブロック

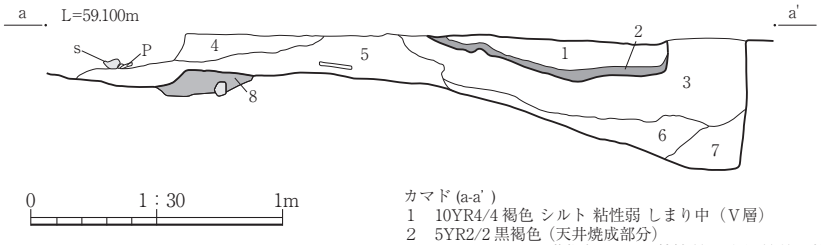
Pit2(c-c')
1　7.5YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中
しまり弱 比較的均質

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	123	100	36
Pit2	125	69	24
Pit3	32	31	32

SI26 (A-A'･B-B')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3～5%含む
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒1～3%･炭化物5%含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
4　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり強 均質 上面やや硬化
6　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック20%

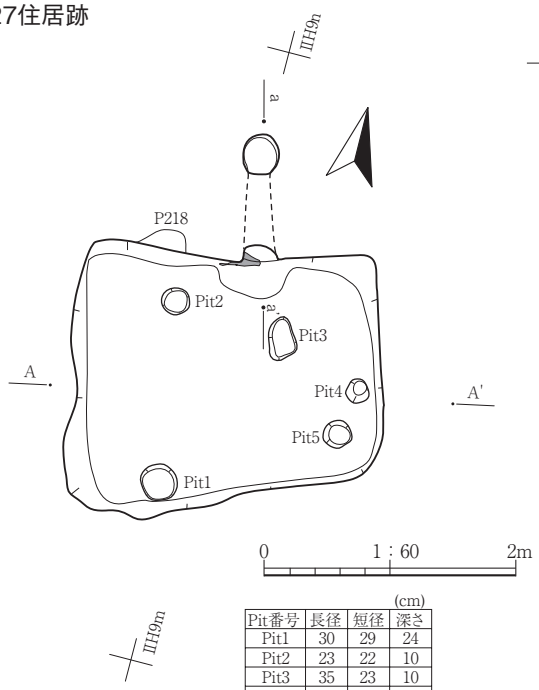
カマド縦断面



カマド (a-a')
1　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中（V層）
2　5YR2/2 黒褐色（天井焼成部分）
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 5%含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 3%含む
5　7.5YR3/3 暗褐色 焼土大ブロックの集中 天井部崩落ブロック含む
6　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 10%含む
7　7.5YR2/1 黒色 焼土大ブロック集中
8　5YR3/6 暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 炭化物 10%
上面に硬化した明黄褐色焼土ブロック含む

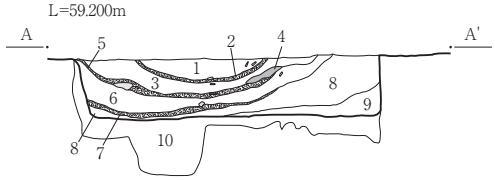
第 47 図　SI26 住居跡

SI27住居跡

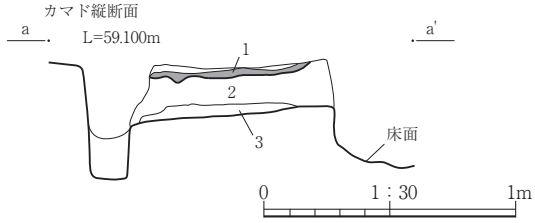


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	30	29	24
Pit2	23	22	10
Pit3	35	23	10
Pit4	20	19	27
Pit5	23	22	13

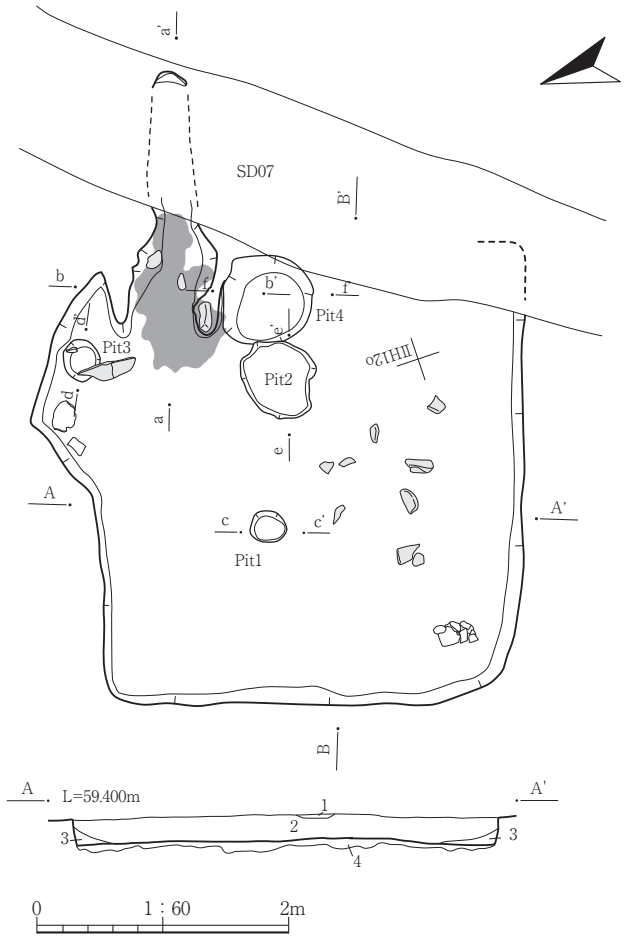


SI27 (A-A')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭各5%
2　1層下面の炭化物集中層 焼土ブロック10%
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭各5%
4　焼土ブロック
5　3層下面の炭化物集中層 焼土ブロック10%
6　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭各5%
7　6層下面の炭化物集中層 焼土ブロック10%
8　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭各3%
9　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭各3%
10　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 掘り方埋土



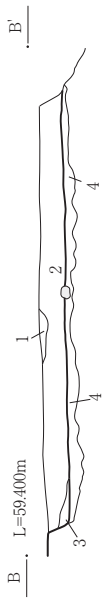
カマド (a-a')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土ブロック70%（天井部の焼成面）
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土ブロック径5～20mm･炭各10%
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱（炭化物集中層）

SI28住居跡

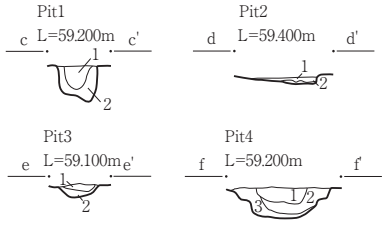


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	29	25	10
Pit2	69	56	6
Pit3	33	30	11
Pit4	38	72	38



SI28 (A-A'･B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
焼土粒極微量含む
4　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
黒褐色シルトブロック5%･炭化物少量含む(掘り方埋土)



Pit1 (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強

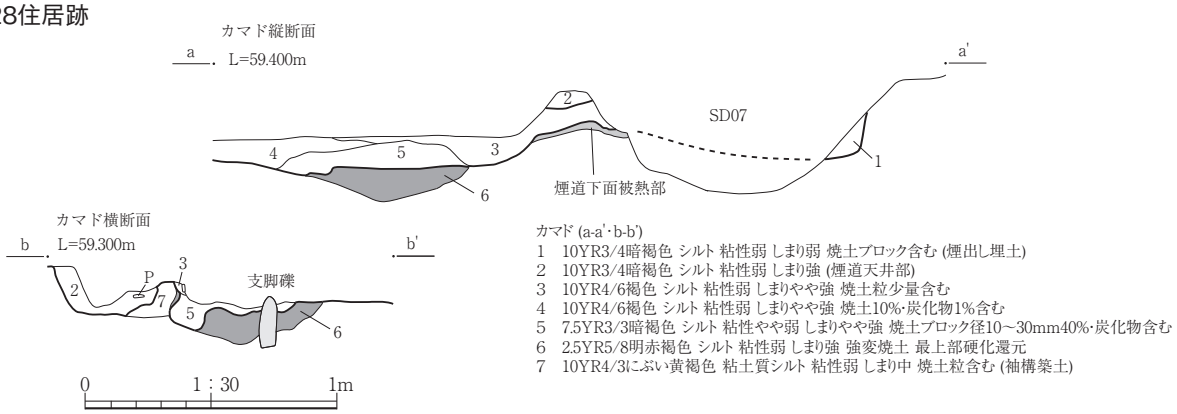
Pit2 (d-d')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり強
焼土30%･炭化物10%
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土1%

Pit3 (e-e')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土集中層
炭化物20%
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱

Pit4 (f-f')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱
炭･焼土 ブロック径5～10mm各1%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭化物ブロック径3～10mm1%
3　10Y3/3暗褐色 シルト 焼土ブロック･炭化物少量含む

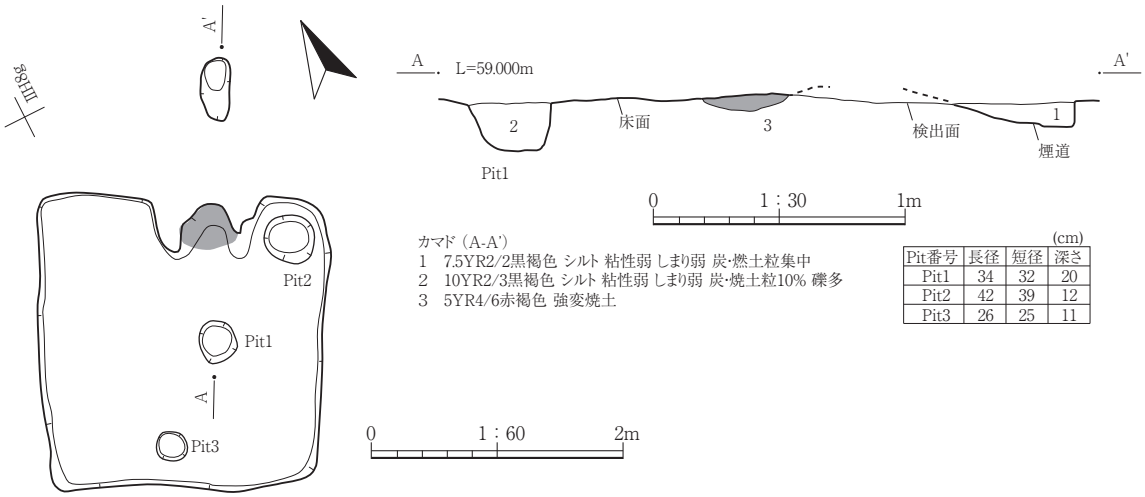
第 48 図　SI27 住居跡・SI28 住居跡（1）

SI28住居跡



カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む (煙出し埋土)
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 (煙道天井部)
3　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒少量含む
4　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土10%･炭化物1%含む
5　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 焼土ブロック径10～30mm40%･炭化物含む
6　2.5YR5/8明赤褐色 シルト 粘性弱 しまり強 強変焼土 最上部硬化還元
7　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む (袖構築土)

SI29住居跡

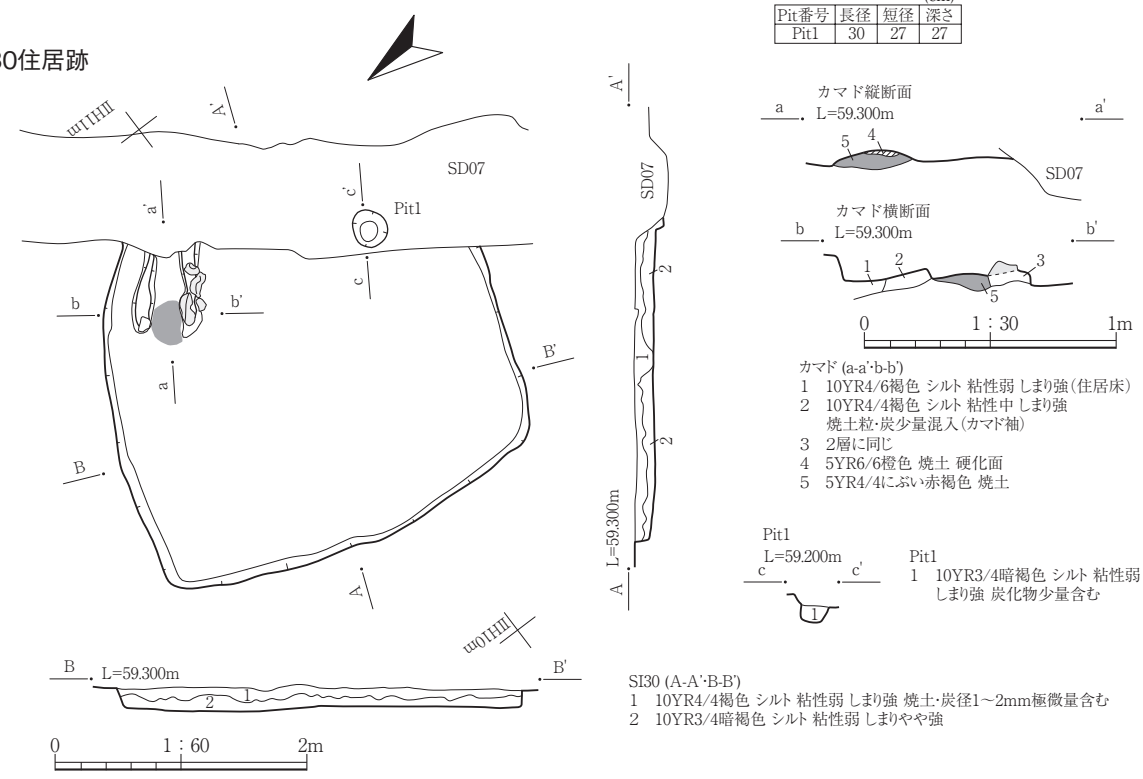


カマド（A-A'）
1　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭･燃土粒集中
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭･焼土粒10% 礫多
3　5YR4/6赤褐色 強変焼土

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	34	32	20
Pit2	42	39	12
Pit3	26	25	11

SI30住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	30	27	27

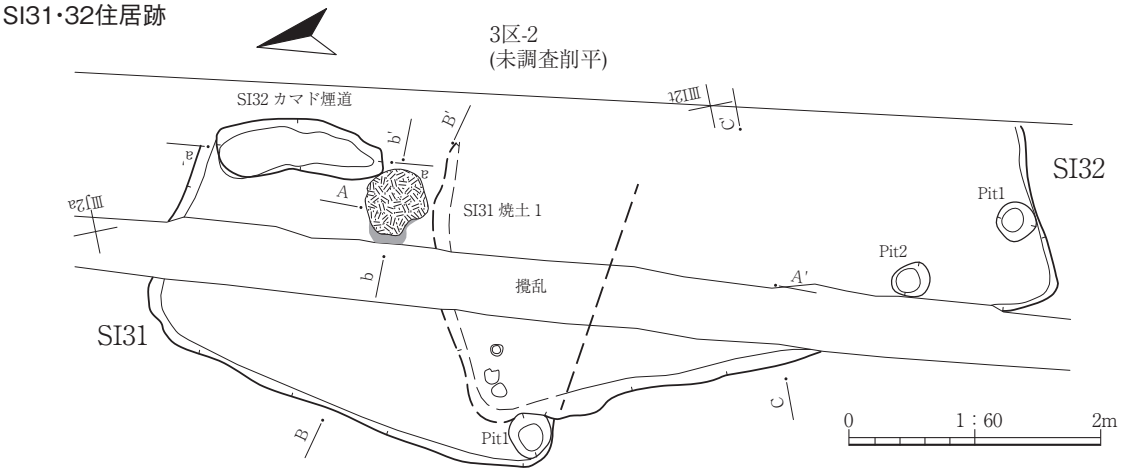
カマド (a-a'･b-b')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり強(住居床)
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり強
　焼土粒･炭少量混入(カマド袖)
3　2層に同じ
4　5YR6/6橙色 焼土 硬化面
5　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

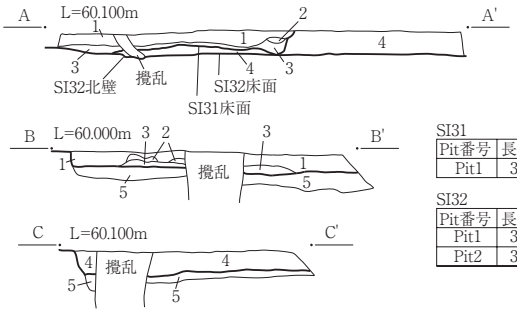
Pit1
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱
　しまり強 炭化物少量含む

SI30 (A-A'･B-B')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土･炭径1～2mm極微量含む
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強

第 49 図　SI28 住居跡（2）・SI29住居跡・SI30 住居跡

SI31・32住居跡



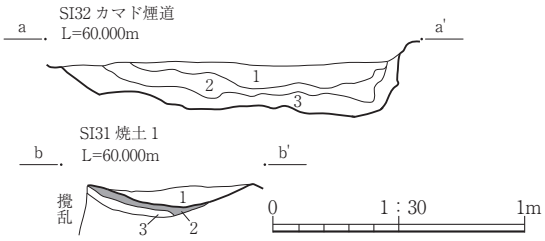


SI31 (cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	37	30	15

SI32 (cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	34	32	22
Pit2	32	26	21

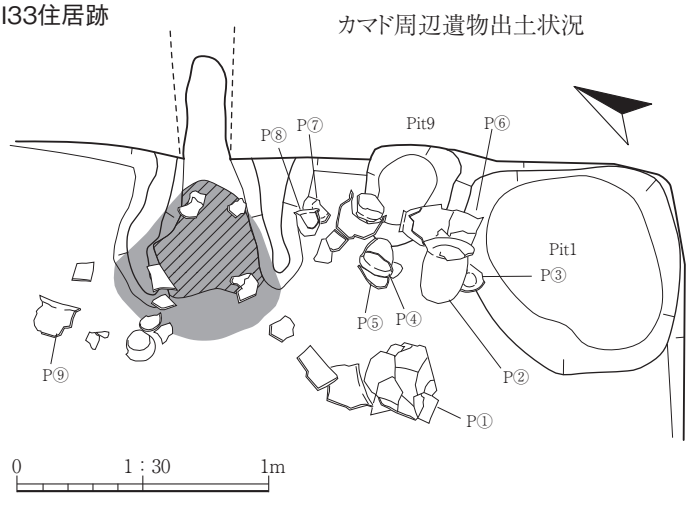


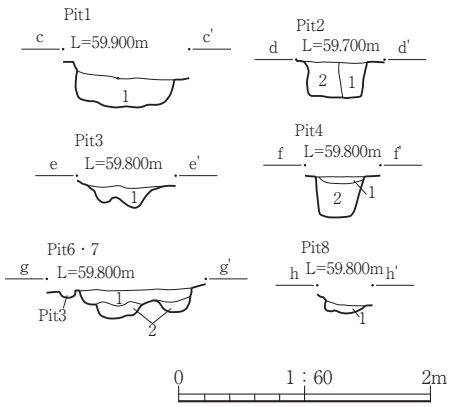
SI31·32 (A-A'·B-B')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色砂ブロック10％·炭化物5%含む
2　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック集中部分 下面に炭化物層
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック·焼土粒含む
5　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中～強 (掘り方埋土)
※　1～3層:SI31埋土　4層:SI32埋土

SI32カマド煙道 (a-a')
1　10YR4/4褐色 細砂 粘性弱 しまり中(SI31の貼床)
2　7.5YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 崩落天井ブロック10％
3　7.5YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 炭化物5%

SI31 焼土 1(b-b')
1　7.5YR2/1 黒色 シルトと炭の混合土 焼土ブロック (径 5mm)3％含む
2　5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土 褐色砂質シルトブロック (径 5cm)30％含む
3　10YR4/6 褐色 砂質シルト 炭化物少量含む

SI33住居跡

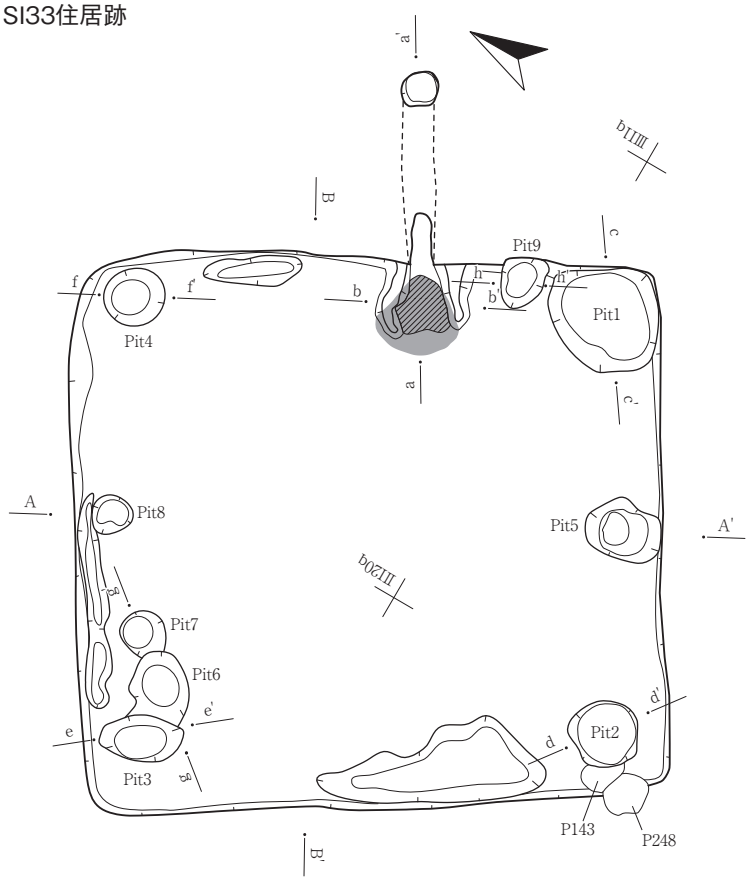




Pit1 (c-c')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック·炭含む
Pit2 (d-d')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物含む
2　1層とV層の混在 粘性弱 しまりやや弱
Pit3 (e-e')
1　Pit4の1層と同じ
Pit4 (f-f')
1　10YR2/2黒褐色 シルトとV層の混在 粘性弱 しまりやや弱
2　10YR3/2黒褐色 砂 粘性弱 しまり弱 黄褐色砂ブロック含む
Pit6・7 (g-g')
1·2　Pit4と同じ
Pit9 (h-h')
1　5YR3/6暗赤褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
暗褐色土ブロック多量に含む 炭化物含む

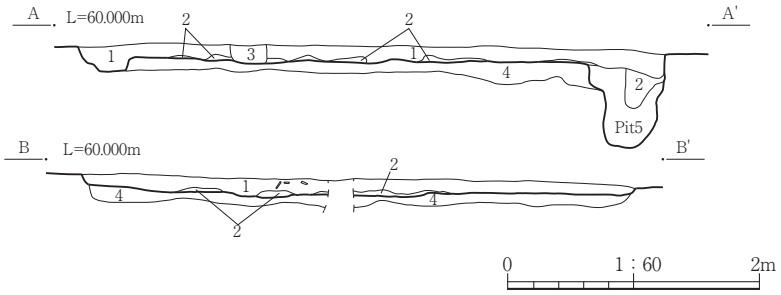
第 50 図　SI31 住居跡・SI32 住居跡・SI33 住居跡（1）

SI33住居跡



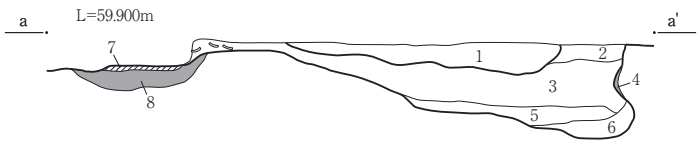
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	101	86	28
Pit2	59	55	29
Pit3	68	38	24
Pit4	49	46	36
Pit5	64	47	63
Pit6	64	55	24
Pit7	40	35	23
Pit8	33	31	20
Pit9	46	37	17

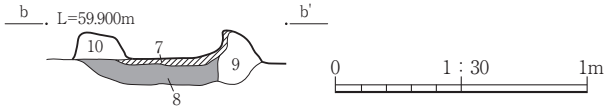


SI33 (A-A'・B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　V層ブロック径10mm5%
2　10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　黒褐色 シルトブロック径10mm5%
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
　V層ブロック径10mm3%
4　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強
　黒色土縞状に含む

カマド縦断面



カマド横断面



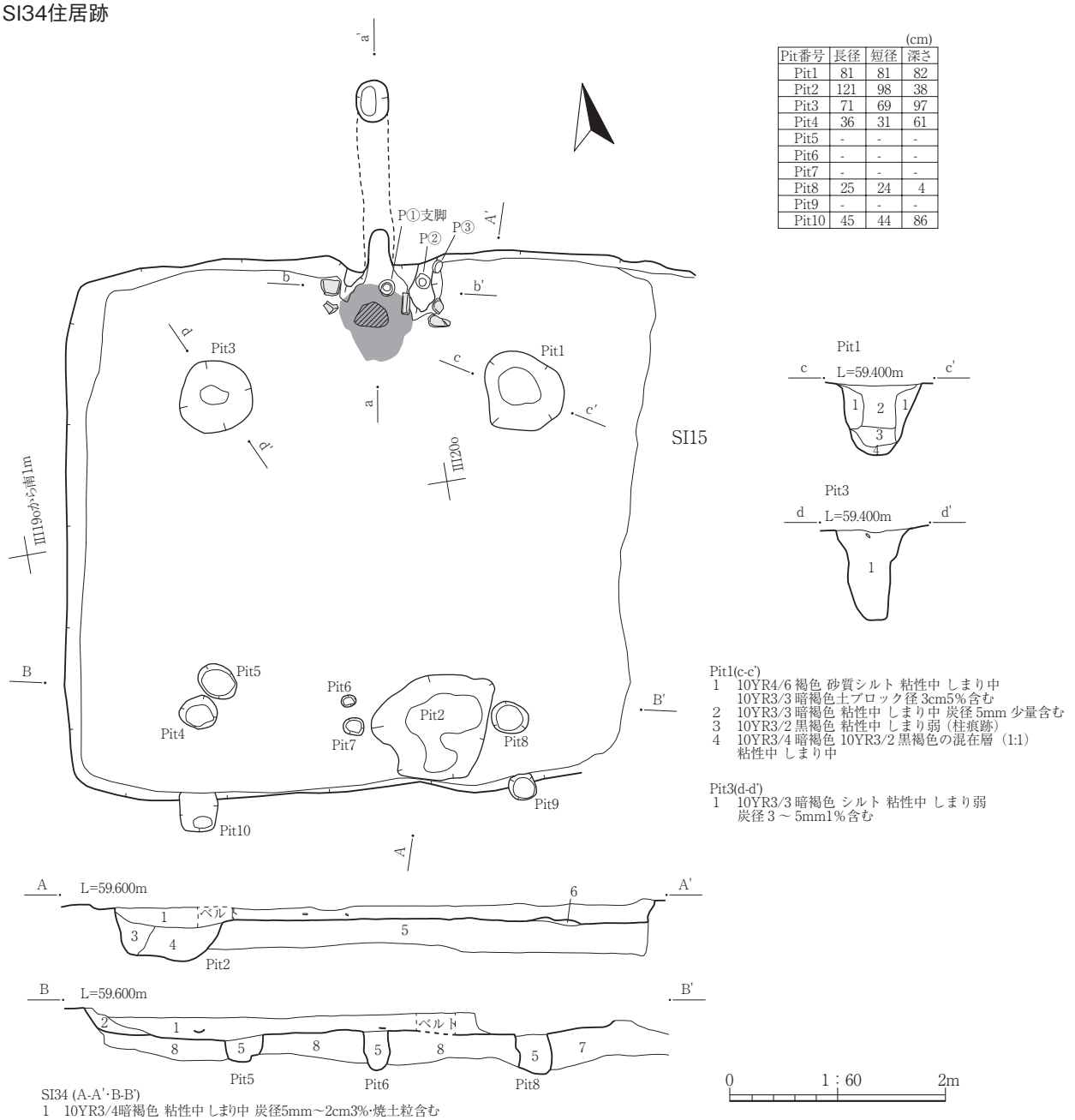
カマド (a-a'・b-b')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　V層ブロック・焼土 ブロック径5～10mm5%
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　V層ブロック・焼土 ブロック径5～10mm10%
4　5YR4/4にぶい赤褐色 煙出し壁面の焼土
5　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 V層ブロック径5～10mm5%
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 V層ブロック径5～10mm10%
7　5YR4/6赤褐色 硬化部分
8　5YR4/4にぶい赤褐色 強変焼土
9　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒5%（袖構築土）
10　7.5YR3/3暗褐色 シルトをベースに焼土 ブロック30％（袖構築土）

第 51 図　SI33 住居跡（2）

SI34住居跡

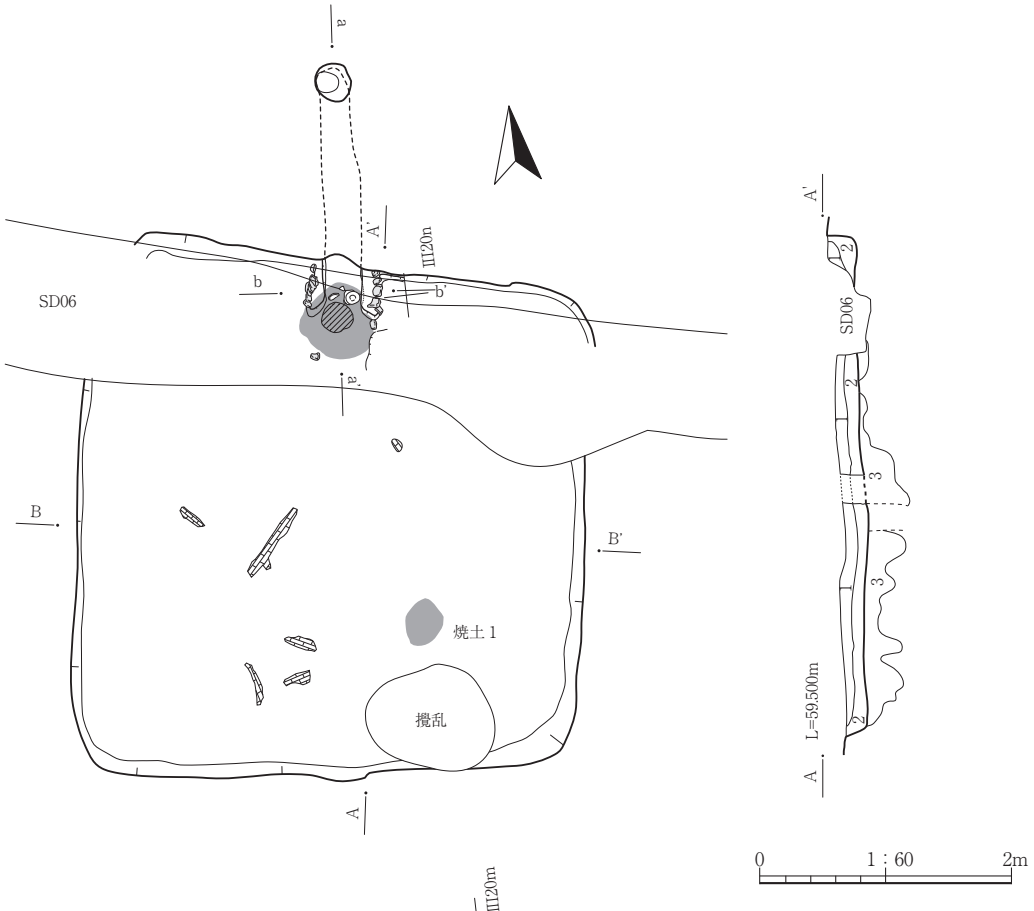
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	81	82
Pit2	121	98	38
Pit3	71	69	97
Pit4	36	31	61
Pit5	-	-	-
Pit6	-	-	-
Pit7	-	-	-
Pit8	25	24	4
Pit9	-	-	-
Pit10	45	44	86



第 52 図　SI34 住居跡

SI35住居跡



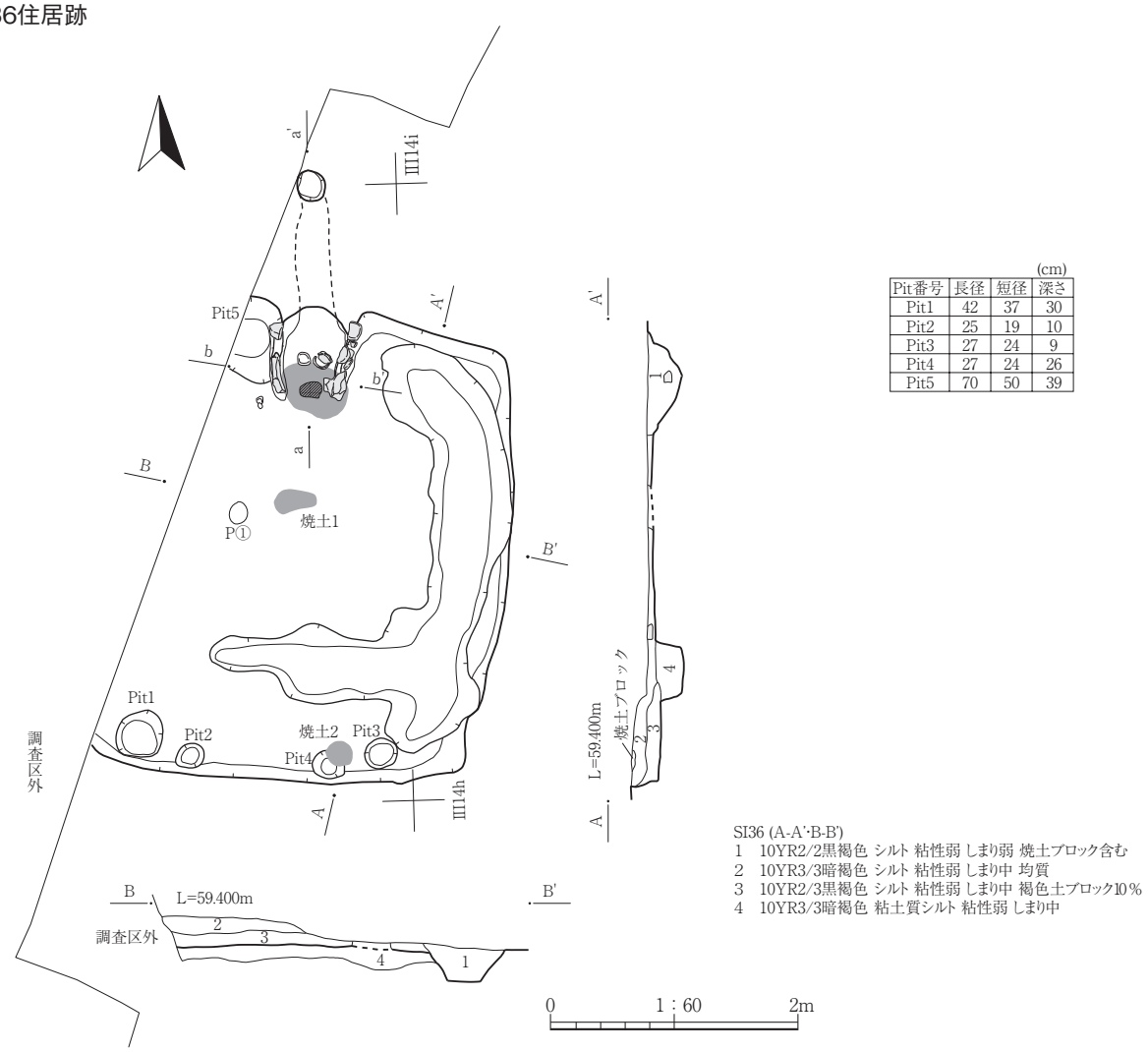
SI35 (A-A'·B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色 砂ブロック3～5%含む
2　10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色 砂ブロック5%·炭化材含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色 砂質シルトを含む

カマド (a-a')
1　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 地 山V層か
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒5%
3　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 天井の崩落焼土ブロック集中
4　5YR4/8赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
5　5YR4/4にぶい赤褐色 (強変焼土)

カマド (b-b')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒10%
2　5YR4/4にぶい赤褐色 (カマド側壁焼成部分)
3　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中(袖構築土)

第 53 図　SI35 住居跡

SI36住居跡

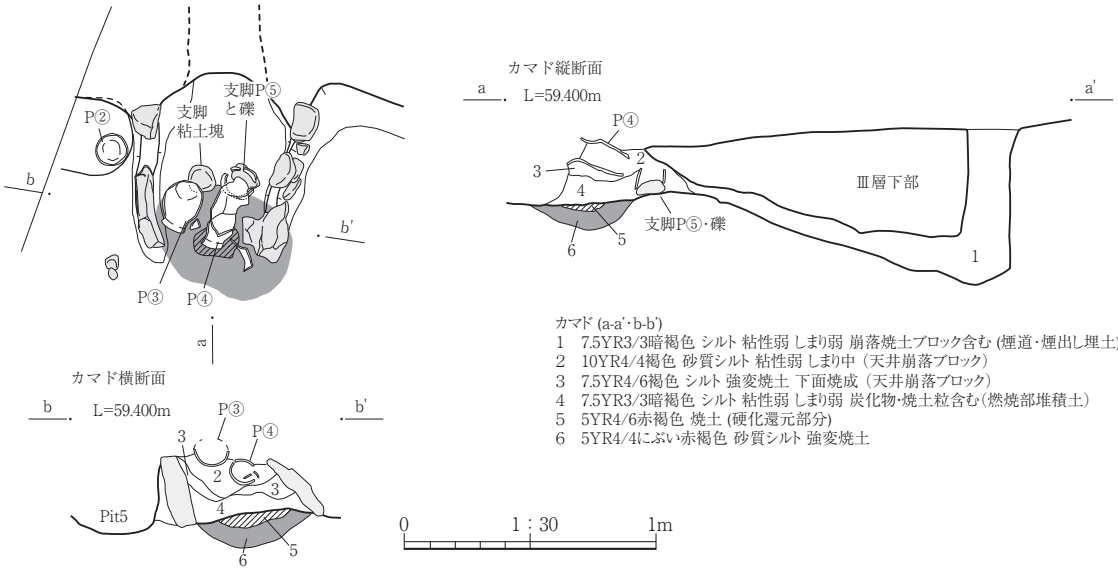


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	42	37	30
Pit2	25	19	10
Pit3	27	24	9
Pit4	27	24	26
Pit5	70	50	39

SI36 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック10％
4　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中

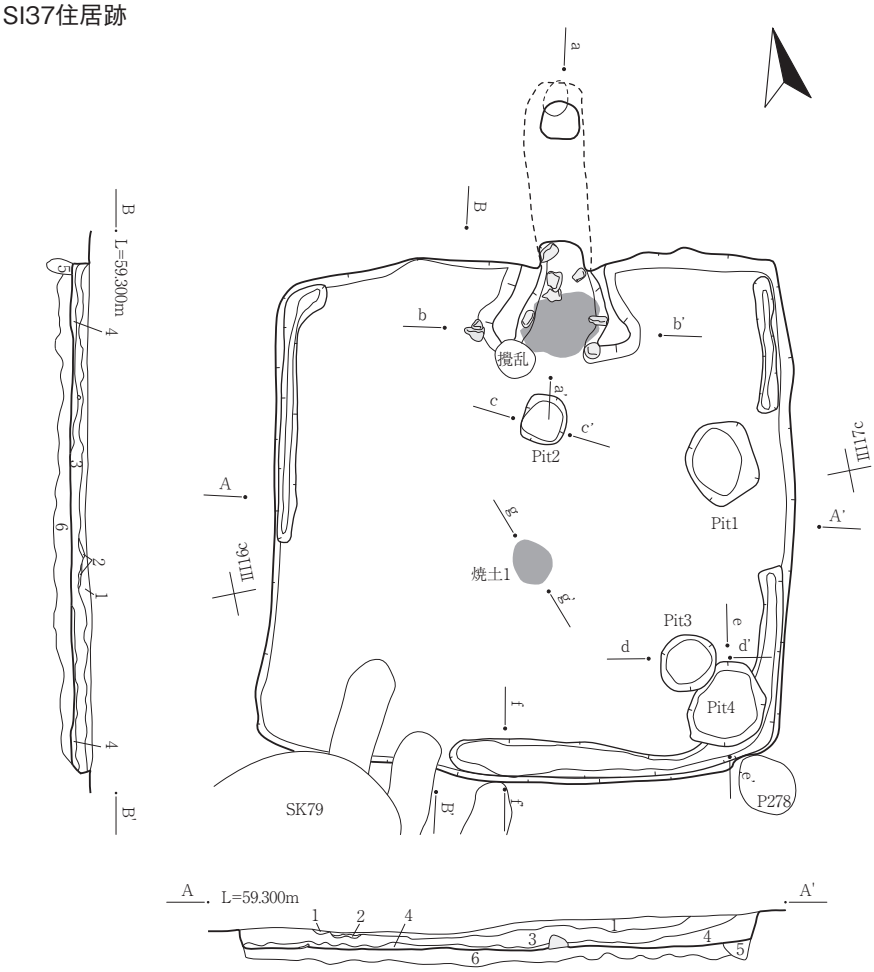
SI36カマド周辺

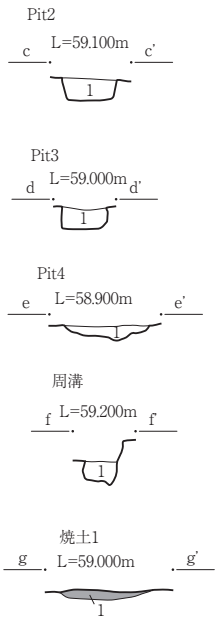


カマド (a-a'･b-b')
1　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 崩落焼土ブロック含む (煙道･煙出し埋土)
2　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 (天井崩落ブロック)
3　7.5YR4/6褐色 シルト 強変焼土 下面焼成 (天井崩落ブロック)
4　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物･焼土粒含む(燃焼部堆積土)
5　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR4/4にぶい赤褐色 砂質シルト 強変焼土

第 54 図　SI36 住居跡

SI37住居跡





Pit2 (c-c')
1　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性やや強
　しまり強 炭化物極微量含む

Pit3 (d-d')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強
　しまりやや強 炭化物微量含む

Pit4 (e-e')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR3/2黒褐色土ブロック径5～8cm10%

周溝 (f-f')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性中
　しまりやや強

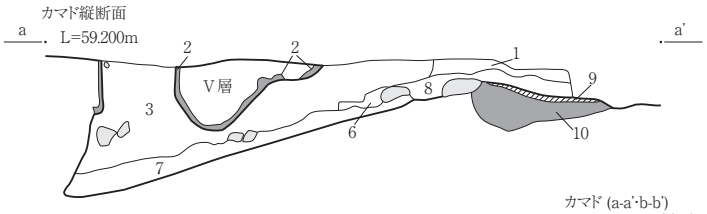
焼土1 (g-g')
1　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

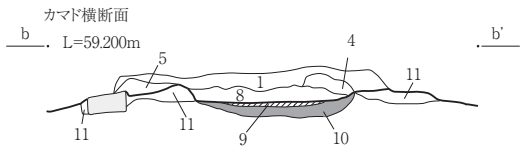
SI37 (A-A'･B-B')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒･炭微量含む
2　炭化物層
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 炭微量全体にまばらに含む グライ化土東側に少量混入
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 焼土ブロック･地山ブロック少量含む
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱（周溝）
6　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルトとV層地山の混在層 粘性弱 しまり中(貼床)

0　1：60　2m

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	67	53	9
Pit2	42	39	19
Pit3	49	44	20
Pit4	73	53	19



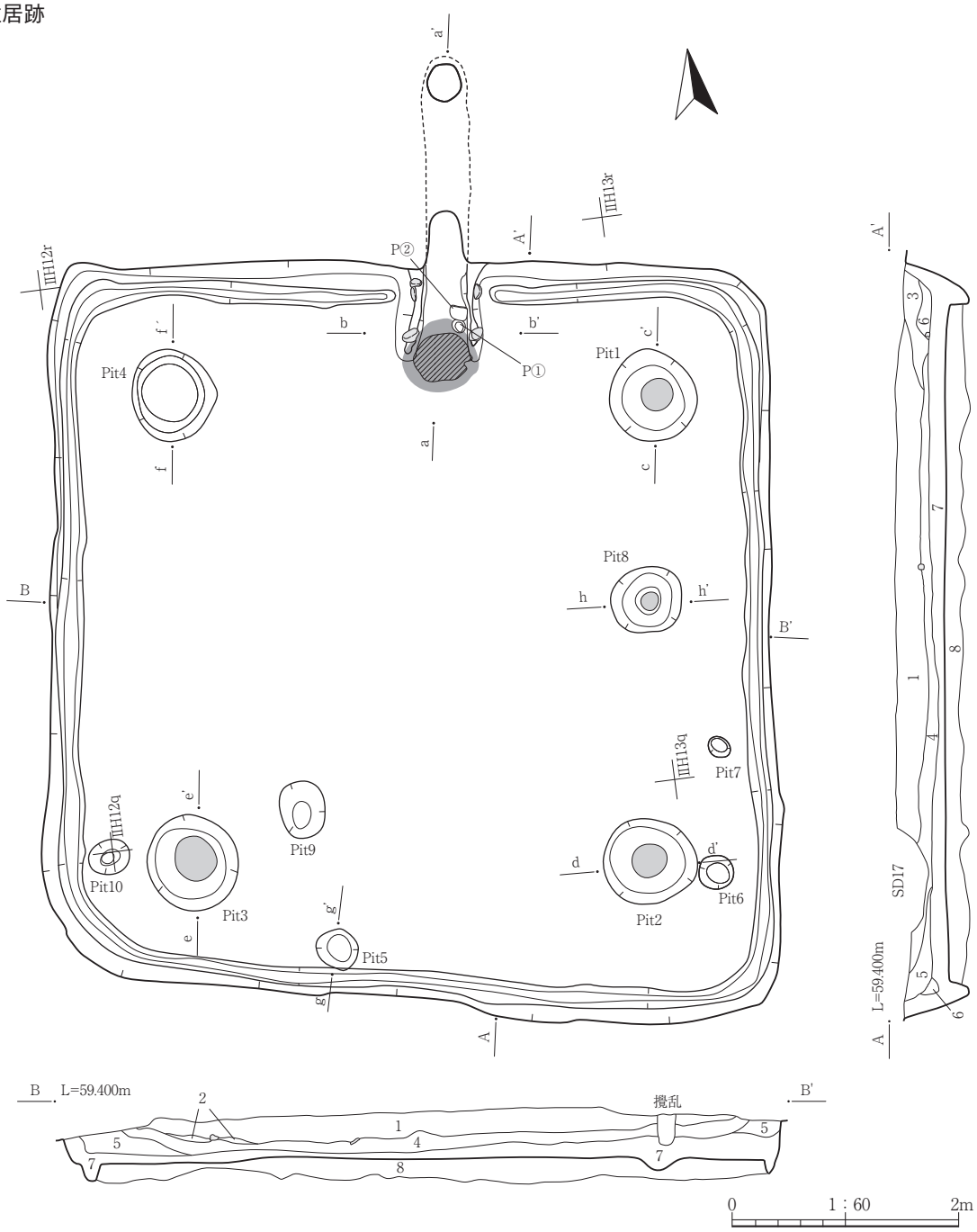


0　1：30　1m

カマド (a-a'･b-b')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強(住居埋土)
2　5YR3/2暗赤褐色 焼土(煙道天井の焼土)
3　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱
　下層に2層の崩落土がブロック状に入る
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱(カマド天井崩落土)
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまりやや強(カマド天井崩落土)
6　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 煙道天井崩落ブロック含む
7　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱
8　5YR5/8明赤褐色 焼土 と10YR4/4褐色 シルトの混在層 粘性やや弱 しまり中
　(カマド天井崩落土)
9　5YR7/8橙色 焼土 粘性弱 しまり強(硬化還元部分)
10　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
11　10YR4/6褐色シルトと10YR6/8明黄褐色シルトの混在層 粘性弱 しまり中 炭化物含む
　(袖構築土)

第 55 図　SI37 住居跡

SI38住居跡



SI38 (A-A'･B-B')
1　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
　10YR8/3浅黄橙色テフラ(To-a)粉状に微量混じる(浅黄橙色テフラ状ブロック混入 あり)
2　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm3%
3　10YR6/4にぶい黄橙色 シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物粒径2mm1%
6　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
7　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック含む
8　10YR5/3～5/4にぶい黄褐色 シルト

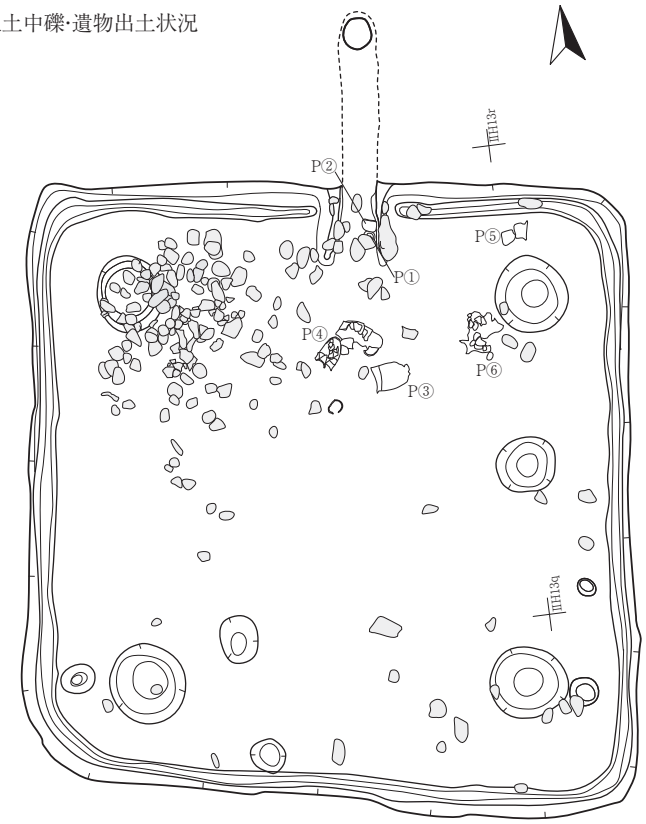
(cm)

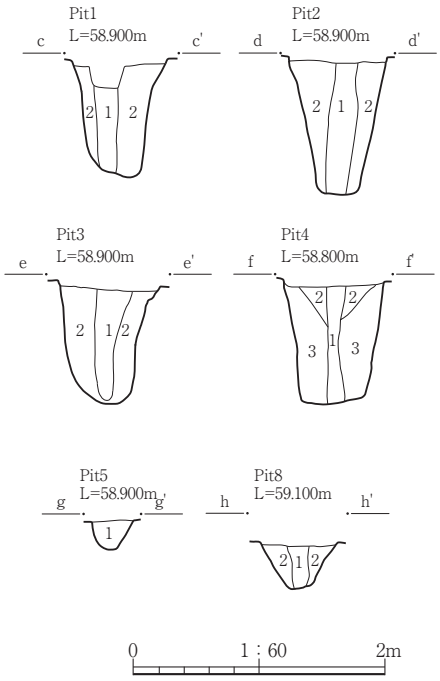
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	76	90
Pit2	83	73	113
Pit3	85	78	98
Pit4	81	73	98
Pit5	38	34	24
Pit6	32	31	13
Pit7	21	18	12
Pit8	51	41	21
Pit9	37	32	28

第 56 図　SI38 住居跡（1）

SI38住居跡

埋土中礫･遺物出土状況





Pit1･2共通（c-c'･d-d'）
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭化物ブロック径5～10mm1%
2　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中

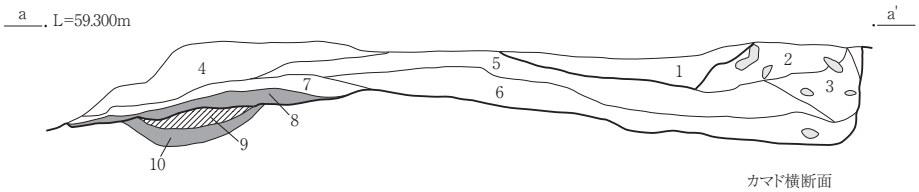
Pit3 (e-e')
1　10YR5/4にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
2　10YR6/4にぶい黄橙色シルトと10YR5/4にぶい黄褐色シルトの
　混合土(5:5) 粘性中 しまり中

Pit4 (f-f')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱(柱痕跡)
2　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

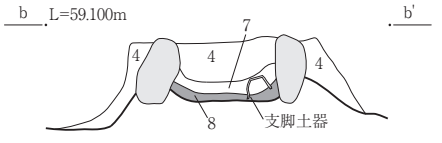
Pit5 (g-g')
1　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR5/3にぶい黄褐色シルトの
　混合土 粘性弱 しまり中 炭化物･焼土ブロック径5～10mm各2%

Pit8 (h-h')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR4/2灰黄褐色シルトと10YR4/3にぶい黄褐色シルトの混合土(5:5)
　粘性弱 しまり中

カマド縦断面



カマド横断面

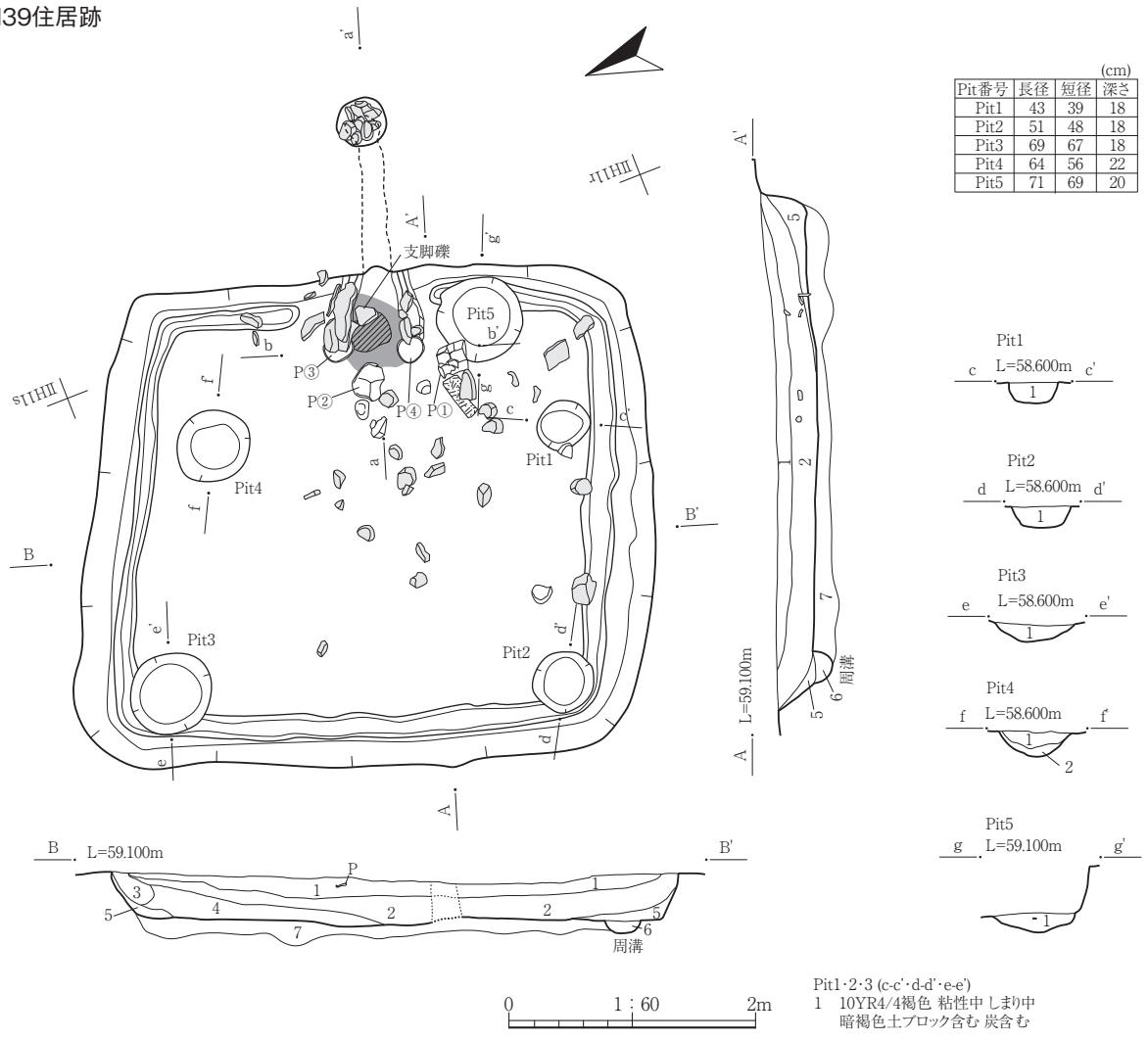


カマド (a-a'･b-b')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロック多量に含む
2　5YR3/3暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 灰黄褐色土ブロック多量に含む
3　5YR3/3暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 灰黄褐色土ブロック含む
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒少量含む
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロック･焼土ブロック多量に含む
6　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロック･焼土ブロック径20～50mm多量に含む
7　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
8　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (天井の焼成部分)
9　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
10　5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

0　1：30　1m

第 57 図　SI38 住居跡（2）

SI39住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	43	39	18
Pit2	51	48	18
Pit3	69	67	18
Pit4	64	56	22
Pit5	71	69	20

SI39 (A-A'･B-B')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 北半では下面に炭化物集中 形成
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物2～3%
3　10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 崩落ブロックか
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 均質 堆積物少 2層よりやや暗色
5　10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中(周溝埋土)
7　10YR4/2灰黄褐色 シルトと10YR4/3にぶい黄褐色 シルトの混在 (掘り方埋土)

Pit1･2･3 (c-c'･d-d'･e-e')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中
　暗褐色土ブロック含む 炭含む

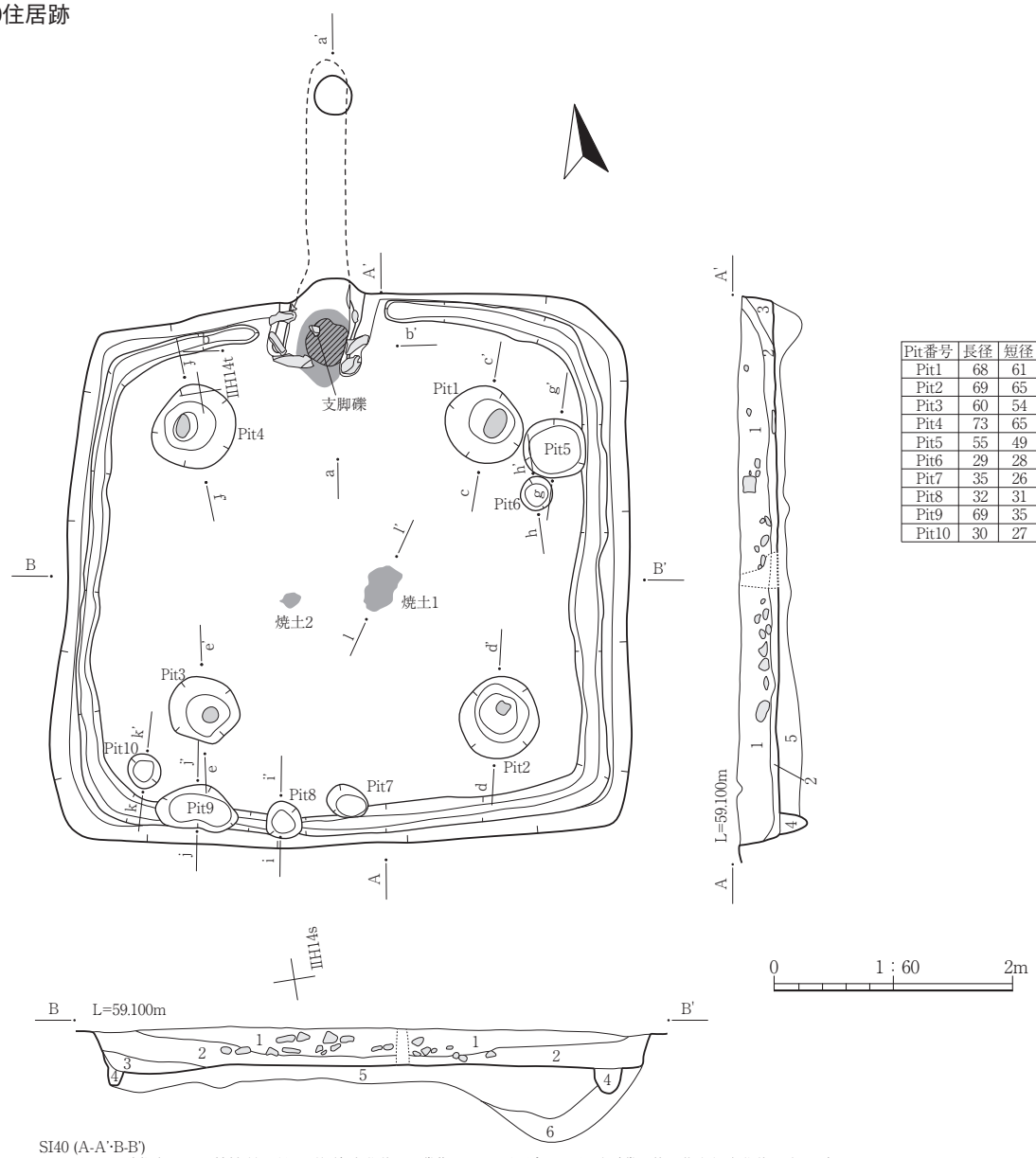
Pit4 (f-f')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中
　暗褐色土ブロック含む 炭化物少量
2　10YR4/6褐色 粘性中 しまり中

Pit5 (g-g')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物･焼土粒少量含む

カマド(a-a'･b-b')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 焼土ブロック径5～10mm3%
3　5YR5/8明赤褐色 焼土と5YR4/4にぶい赤褐色 シルトの混在 粘性弱 しまり中
4　5YR7/6橙色 焼土 粘性弱 しまり極強 硬化面
5　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
6　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土粒径2～3mm1%
7　10YR4/3にぶい黄褐色 シルトと5YR4/4にぶい赤褐色 焼土の混在(5:5) 粘性弱 しまり中

第 58 図　SI39 住居跡

SI40住居跡

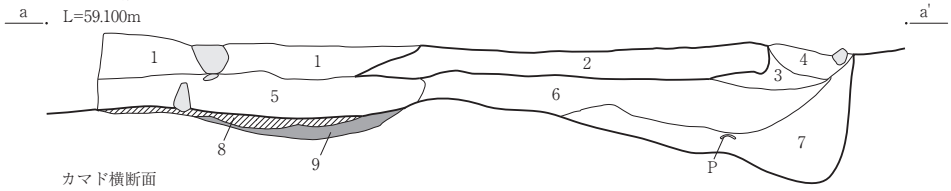


(cm)

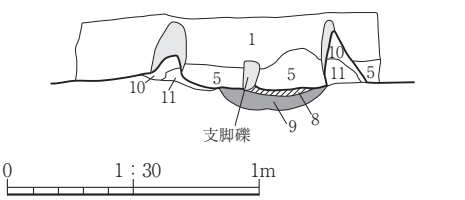
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	68	61	77
Pit2	69	65	80
Pit3	60	54	82
Pit4	73	65	85
Pit5	55	49	14
Pit6	29	28	13
Pit7	35	26	20
Pit8	32	31	14
Pit9	69	35	27
Pit10	30	27	13

SI40 (A-A'･B-B')
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物3% 礫集中 北西区画内は1層下部(礫下位に草本類炭化物が広がる)
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 上部に礫集中
3　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中(周溝埋土)
5　10YR4/2灰黄褐色 シルトと10YR5/6黄褐色 砂の混在 粘性弱 しまり中(掘り方埋土)
6　10YR4/2灰黄褐色 シルトと10YR5/6黄褐色 砂の混在 炭化物径2～3mm2% 粘性弱 しまり中(掘り方内Pit埋土)

カマド縦断面



カマド横断面

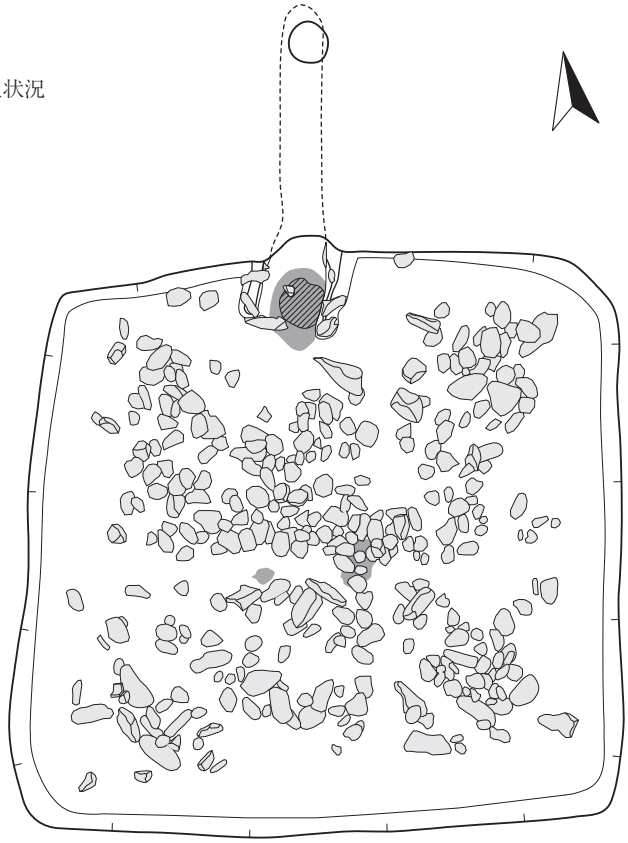


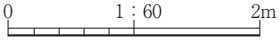
カマド(a-a'･b-b')
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 焼土径3～5mm1%含む
2　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 焼土粒少量含む (煙道天井)
3　10YR4/3にぶい黄褐色 粘性中 しまりやや弱
4　10YR2/3黒褐色 粘性中 しまり中 炭径1～5mm5%含む
5　10YR4/3にぶい黄褐色 焼土径5mm10%･炭5%含む
6　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中
7　5YR2/2黒褐色 粘性弱 しまり弱と10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中の混在 多量の炭を含む
8　5YR7/8橙色 焼土 粘性弱 しまり強(硬化還元部分)
9　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
10　10YR4/2灰黄褐色 シルトと10YR6/6明黄褐色 シルトの混在 粘性弱 しまり中(袖構築土)
11　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径3～5mm2%(袖構築土)

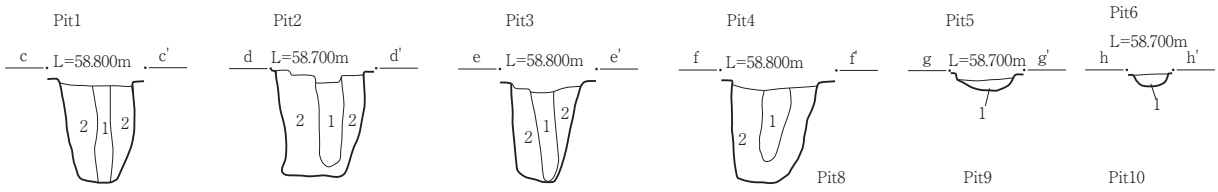
第59図　SI40住居跡（1）

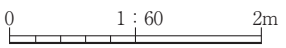
SI40住居跡

埋土中礫出土状況









Pit1 (c-c')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり弱 (柱痕跡)
2　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中 炭径1～3mm1%含む

Pit2 (d-d')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり弱 (柱痕跡)
2　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中 炭径1～3mm1%含む

Pit3 (e-e')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり弱 (柱痕跡)
2　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中 炭径1～3mm1%含む

Pit4 (f-f')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり弱 (柱痕跡)
2　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中 炭径1～3mm1%含む

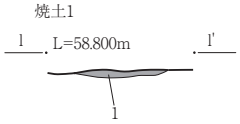
Pit5 (g-g')
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭径5～8mm1%含む

Pit6 (h-h')
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭径1～5mm1%

Pit8 (i-i')
1　10YR4/4褐色 粘性中 しまり中 焼土径5～10mm･炭径2～5mm各1%含む

Pit9 (j-j')
1　10YR3/4暗褐色 と10YR3/3暗褐色の混在(1:1) 粘性中 しまり中 炭径5～10mm5%含む

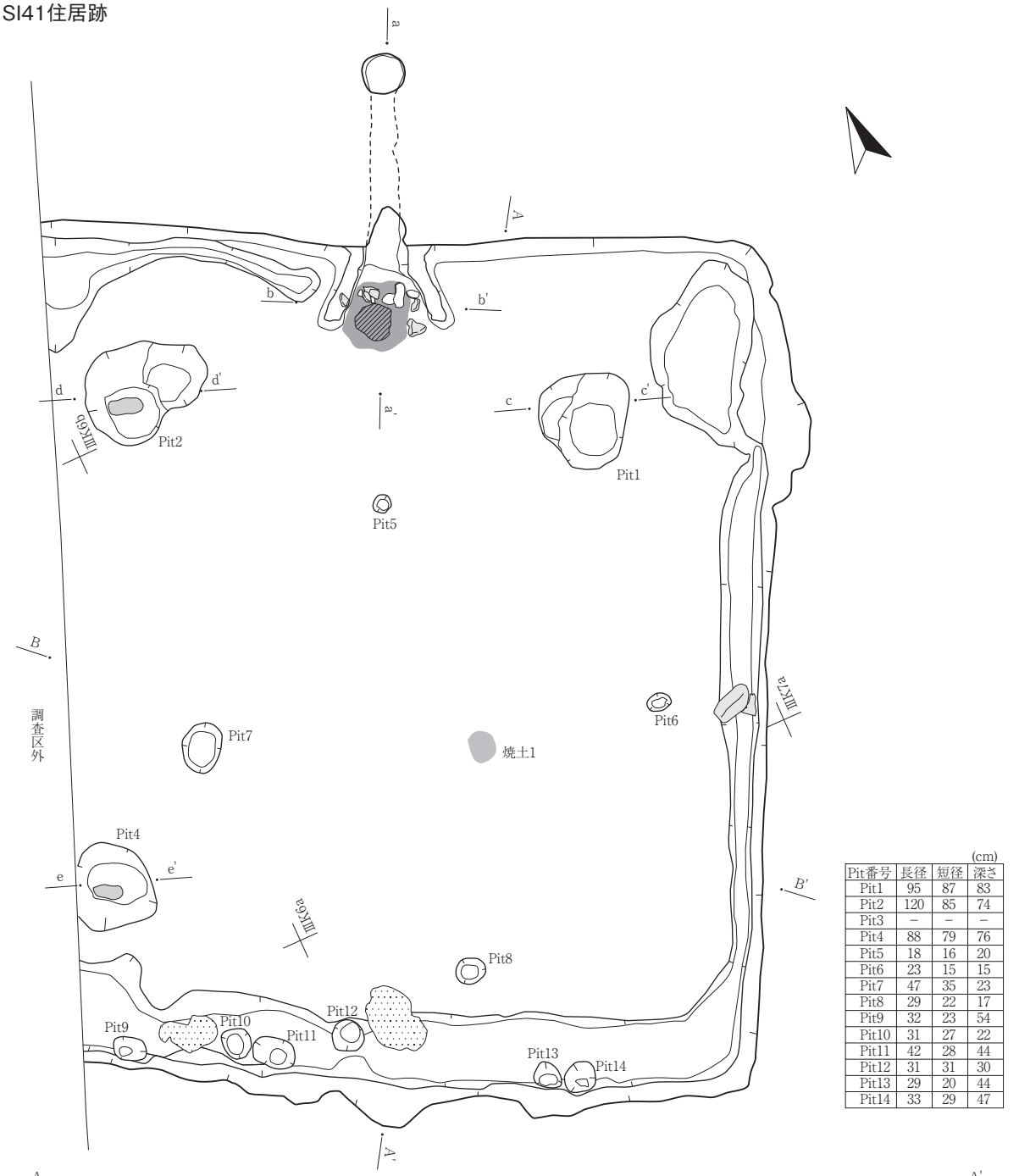
Pit10 (k-k')
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭径1～3mm1%･焼土径2mm1%含む



焼土1 (l-l')
1　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

第 60 図　SI40 住居跡（2）

SI41住居跡



(cm)

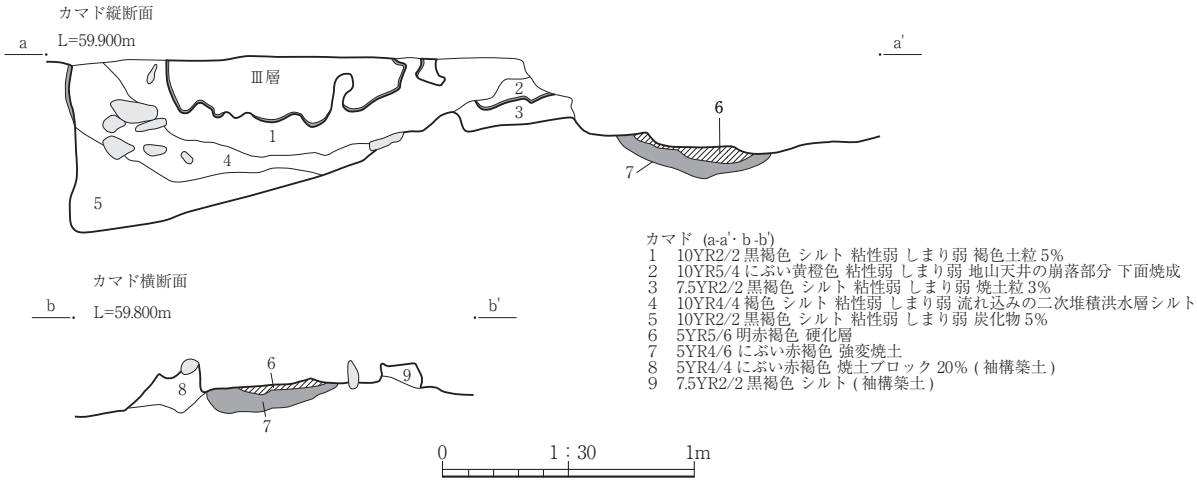
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	95	87	83
Pit2	120	85	74
Pit3	–	–	–
Pit4	88	79	76
Pit5	18	16	20
Pit6	23	15	15
Pit7	47	35	23
Pit8	29	22	17
Pit9	32	23	54
Pit10	31	27	22
Pit11	42	28	44
Pit12	31	31	30
Pit13	29	20	44
Pit14	33	29	47

SI41 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色 砂質シルトブロック3～5%含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物3～5%含む
3　10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 流れ込み崩落ブロック･焼土ブロック含む
4　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 褐色土ブロック3%含む
5　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 4層と同相
6　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 壁際に焼土粒含む
7　10YR4/4褐色 シルト 粘弱 しまり中 (掘り方埋土)

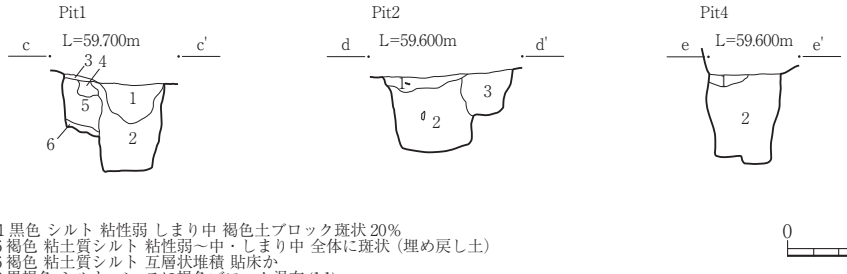
0　1：60　2m

第61図　SI41住居跡（1）

SI41住居跡



カマド (a-a'・b-b')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒 5%
2　10YR5/4 にぶい黄橙色 粘性弱 しまり弱 地山天井の崩落部分 下面焼成
3　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 3%
4　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 流れ込みの二次堆積洪水層シルト
5　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物 5%
6　5YR5/6 明赤褐色 硬化層
7　5YR4/6 にぶい赤褐色 強変焼土
8　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土ブロック 20%（袖構築土）
9　7.5YR2/2 黒褐色 シルト（袖構築土）



Pit1 (c-c')
1　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック斑状 20%
2　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性弱～中・しまり中 全体に斑状（埋め戻し土）
3　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 互層状堆積 貼床か
4　10YR2/2 黒褐色 シルト ベースに褐色ブロック混在 (1:1)
5　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黒褐色土ブロック含む（埋め戻し土）
6　10YR2/2 黒褐色 シルト ベースに褐色ブロック混在 (1:1)

Pit2 (d-d')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色ブロック 10%
2　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 全体に斑状（埋め戻し土）
3　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 斑状 2層との違い少ない 抜き取り痕の可能性あり

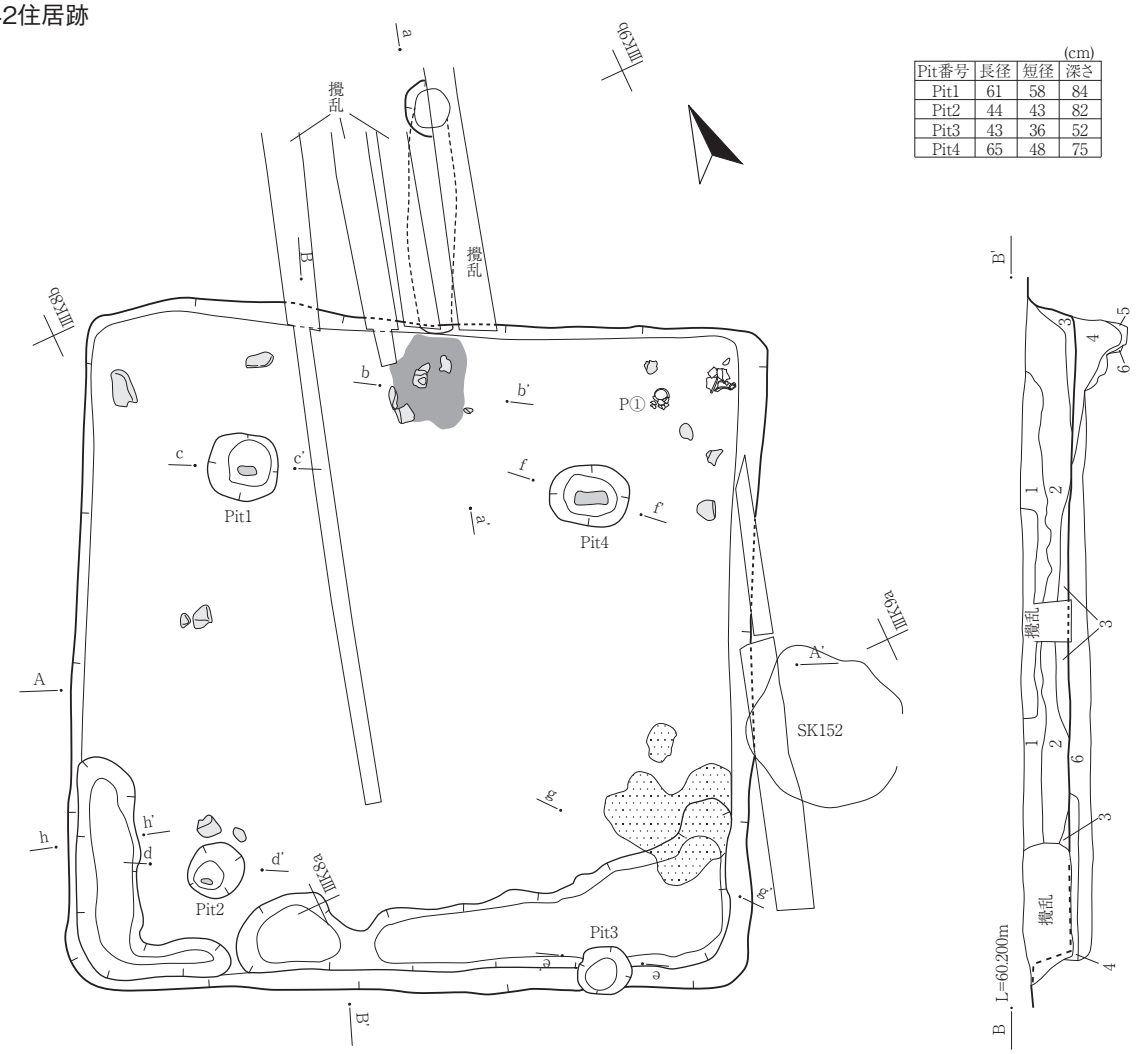
Pit4 (e-e')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR4/4 ～ 4/6 褐色 粘土質シルト 粘性弱～中・しまり中 全体に斑状（埋め戻し土）

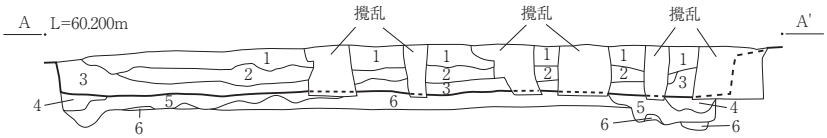
第 62 図　SI41 住居跡（2）

SI42住居跡

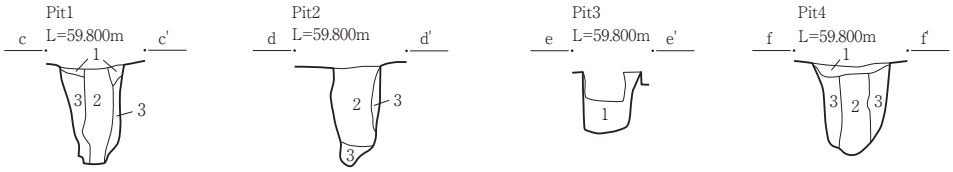
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	61	58	84
Pit2	44	43	82
Pit3	43	36	52
Pit4	65	48	75

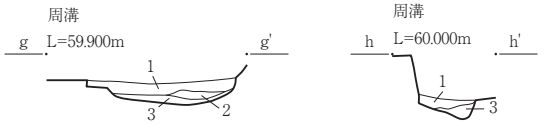




SI42 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒色 シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄褐色土ブロック40％含む
2　10YR2/2黒色 シルト にぶい黄褐色土粒少量含む
3　10YR2/2黒色 シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄褐色土粒少量 焼土･炭化物粒微量含む
4　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 黒褐色土ブロック含む
5　10YR2/3黒褐色 シルト にぶい黄褐色土ブロック少量含む
6　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強



Pit1 (c-c') ･Pit2 (d-d') ･Pit3 (e-e') ･Pit4 (f-f')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/1黒色シルトと10YR4/4褐色シルトの混在 径5～10mmの粒状構造
　非常にもろく部分的に空洞を生じる (腐食した柱痕)
3　10YR4/4褐色 粘性シルト 粘性強 しまり強 水平方向に黒色土を層状に含む

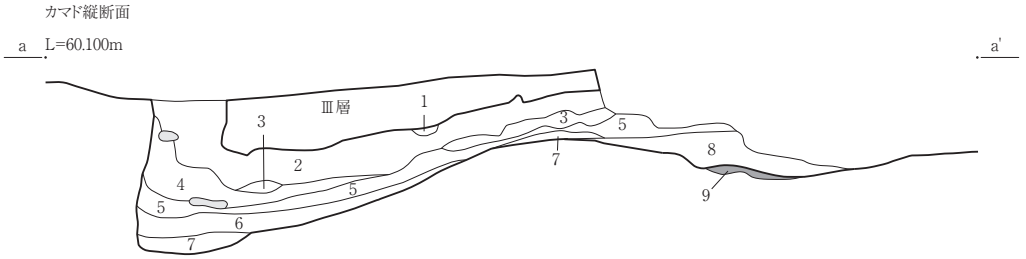


周溝 (g-g'･h-h')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性しまり共強 黒褐色土ブロック含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト にぶい黄褐色土ブロック少量含む
3　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強

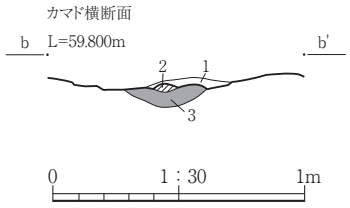
0　1：60　2m

第 63 図　SI42 住居跡（1）

SI42住居跡

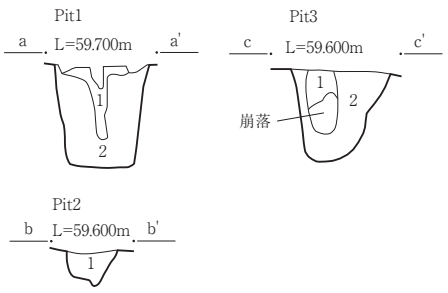


カマド（a-a'）
1　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 煙道上部の崩落層
2　10YR2/2黒褐 シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック少量含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 焼土粒微量含む
4　10YR3/4暗褐色 シルト　粘性中 しまり中 焼土粒微量含む
5　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり中 焼土･炭化物少量含む10%
6　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 地山の崩落層
7　炭化物層 焼土粒少量含む
8　7.5YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり強
9　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱



カマド（b-b'）
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土粒含む
2　7.5YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
3　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱

SI43住居跡



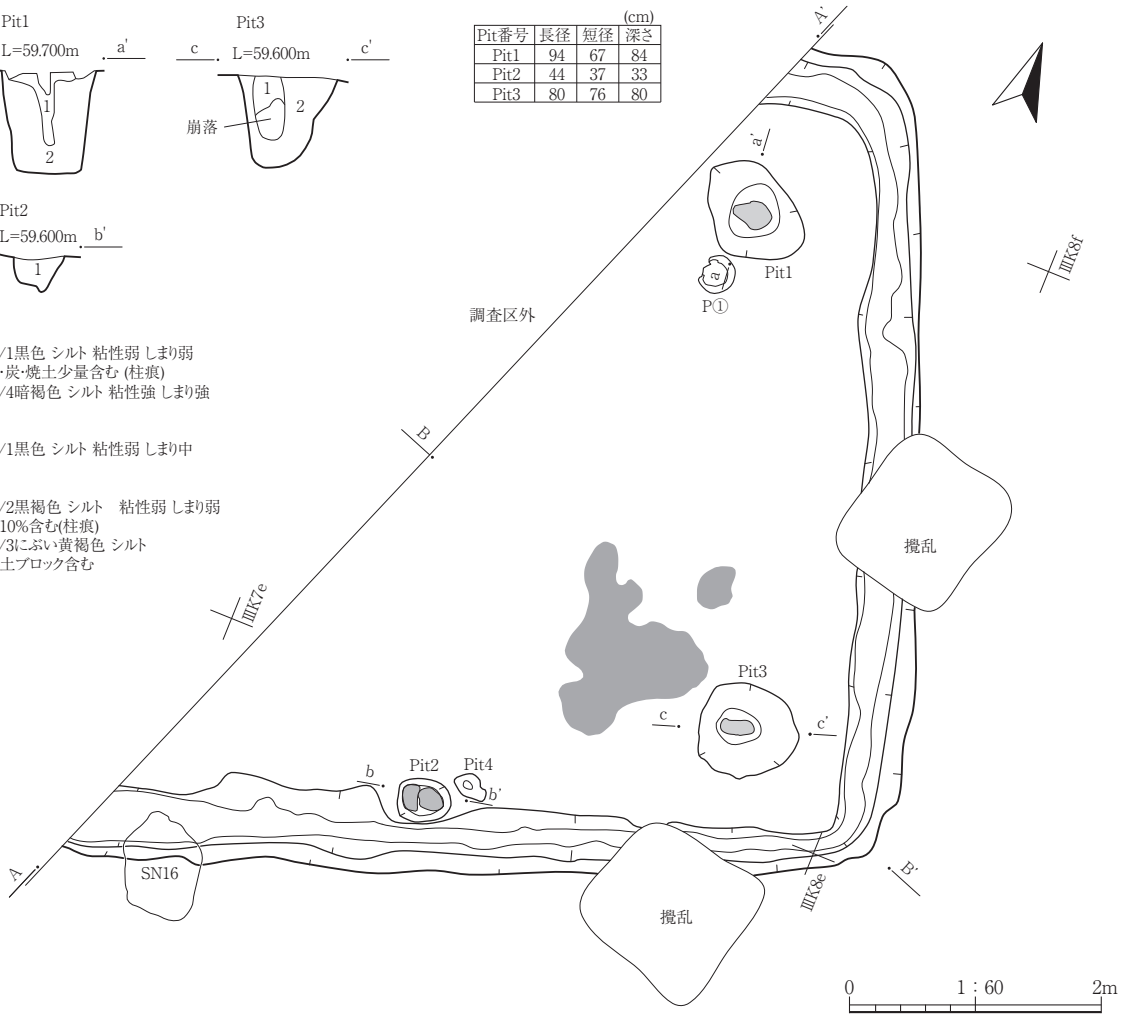
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	94	67	84
Pit2	44	37	33
Pit3	80	76	80

Pit1 (a-a')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
　褐色土･炭･焼土少量含む (柱痕)
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

Pit2 (b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中

Pit3 (c-c')
1　10YR2/2黒褐色 シルト　粘性弱 しまり弱
　炭化物10%含む(柱痕)
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト
　黒褐色土ブロック含む

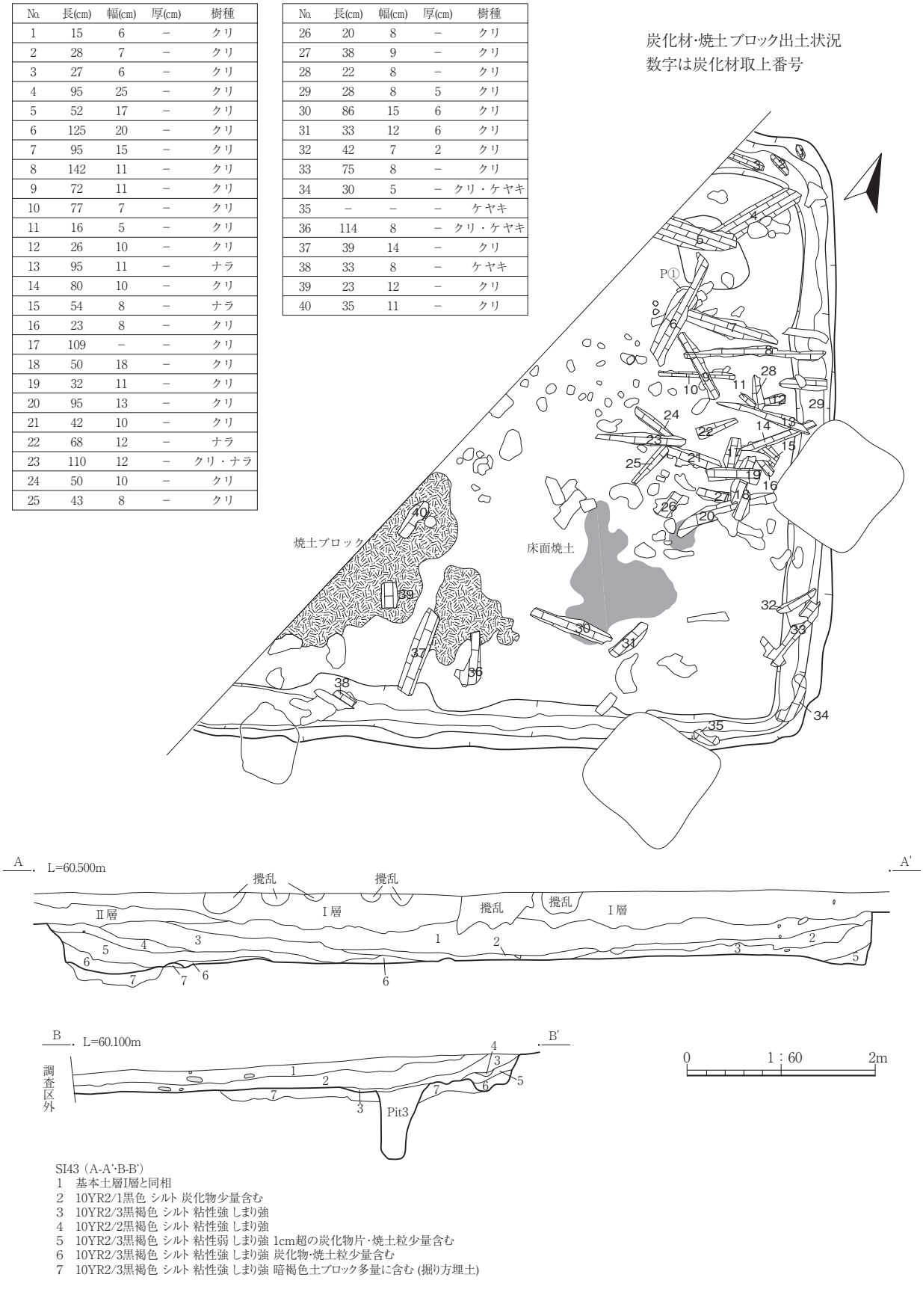


第 64 図　SI42 住居跡（2）・SI43 住居跡（1）

SI43住居跡

No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	樹種
1	15	6	－	クリ
2	28	7	－	クリ
3	27	6	－	クリ
4	95	25	－	クリ
5	52	17	－	クリ
6	125	20	－	クリ
7	95	15	－	クリ
8	142	11	－	クリ
9	72	11	－	クリ
10	77	7	－	クリ
11	16	5	－	クリ
12	26	10	－	クリ
13	95	11	－	ナラ
14	80	10	－	クリ
15	54	8	－	ナラ
16	23	8	－	クリ
17	109	－	－	クリ
18	50	18	－	クリ
19	32	11	－	クリ
20	95	13	－	クリ
21	42	10	－	クリ
22	68	12	－	ナラ
23	110	12	－	クリ・ナラ
24	50	10	－	クリ
25	43	8	－	クリ

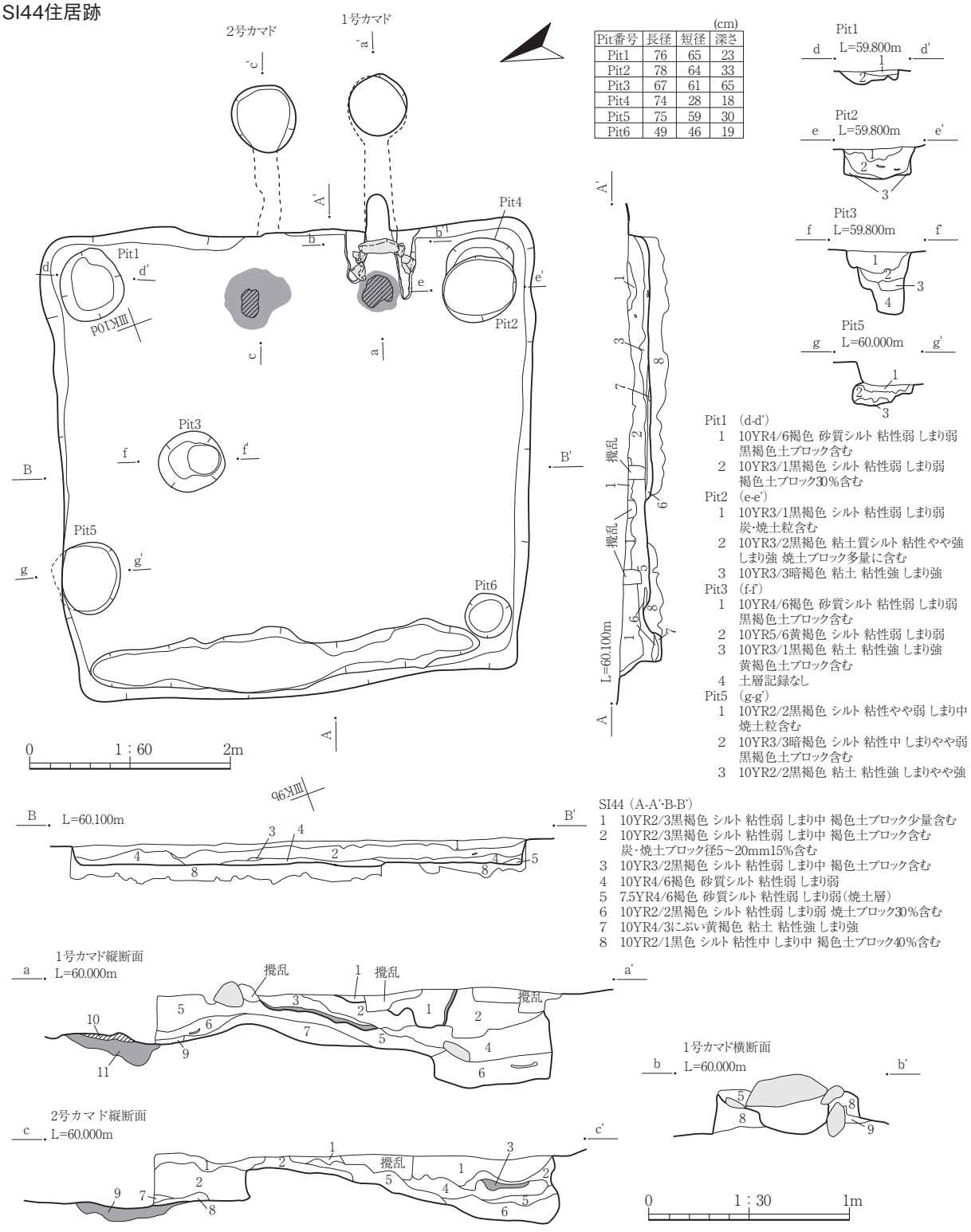
No.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	樹種
26	20	8	－	クリ
27	38	9	－	クリ
28	22	8	－	クリ
29	28	8	5	クリ
30	86	15	6	クリ
31	33	12	6	クリ
32	42	7	2	クリ
33	75	8	－	クリ
34	30	5	－	クリ・ケヤキ
35	－	－	－	ケヤキ
36	114	8	－	クリ・ケヤキ
37	39	14	－	クリ
38	33	8	－	ケヤキ
39	23	12	－	クリ
40	35	11	－	クリ



SI43（A-A'･B-B'）
1　基本土層Ⅰ層と同相
2　10YR2/1黒色 シルト 炭化物少量含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 1cm超の炭化物片･焼土粒少量含む
6　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭化物･焼土粒少量含む
7　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 暗褐色土ブロック多量に含む (掘り方埋土)

第 65 図　SI43 住居跡（2）

SI44住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	76	65	23
Pit2	78	64	33
Pit3	67	61	65
Pit4	74	28	18
Pit5	75	59	30
Pit6	49	46	19

Pit1　L=59.800m
Pit2　L=59.800m
Pit3　L=59.800m
Pit5　L=60.000m

Pit1　(d-d')
1　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 黒褐色土ブロック含む
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック30%含む

Pit2　(e-e')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭・焼土粒含む
2　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり強 焼土ブロック多量に含む
3　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性強 しまり強

Pit3　(f-f')
1　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 黒褐色土ブロック含む
2　10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
3　10YR3/1黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 黄褐色土ブロック含む
4　土層記録なし

Pit5　(g-g')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 焼土粒含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 黒褐色土ブロック含む
3　10YR2/2黒褐色 粘土 粘性強 しまりやや強

SI44　(A-A'・B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック少量含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック含む 炭・焼土ブロック径5～20mm15%含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック含む
4　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
5　7.5YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱(焼土層)
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック30%含む
7　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
8　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック40%含む

1号カマド (a-a'・b-b')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性・しまり共中 (天井部)
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性・しまり共やや強 黄褐色土ブロック20%
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強・しまりやや弱 (崩落天井ブロック 下面焼成)
4　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性・しまり共やや強
5　5YR3/4暗赤褐色 シルト 粘性・しまりやや弱 黄褐色土ブロック・炭化物含む
6　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中
7　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性・しまり共弱
8　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性・しまり共中 (袖構築土)
9　5YR3/6暗赤褐色 シルト 粘性やや強・しまり弱 (燃焼部堆積土)
10　7.5YR5/6明褐色 焼土 (硬化還元部分)
11　2.5YR5/8明赤褐色 焼土

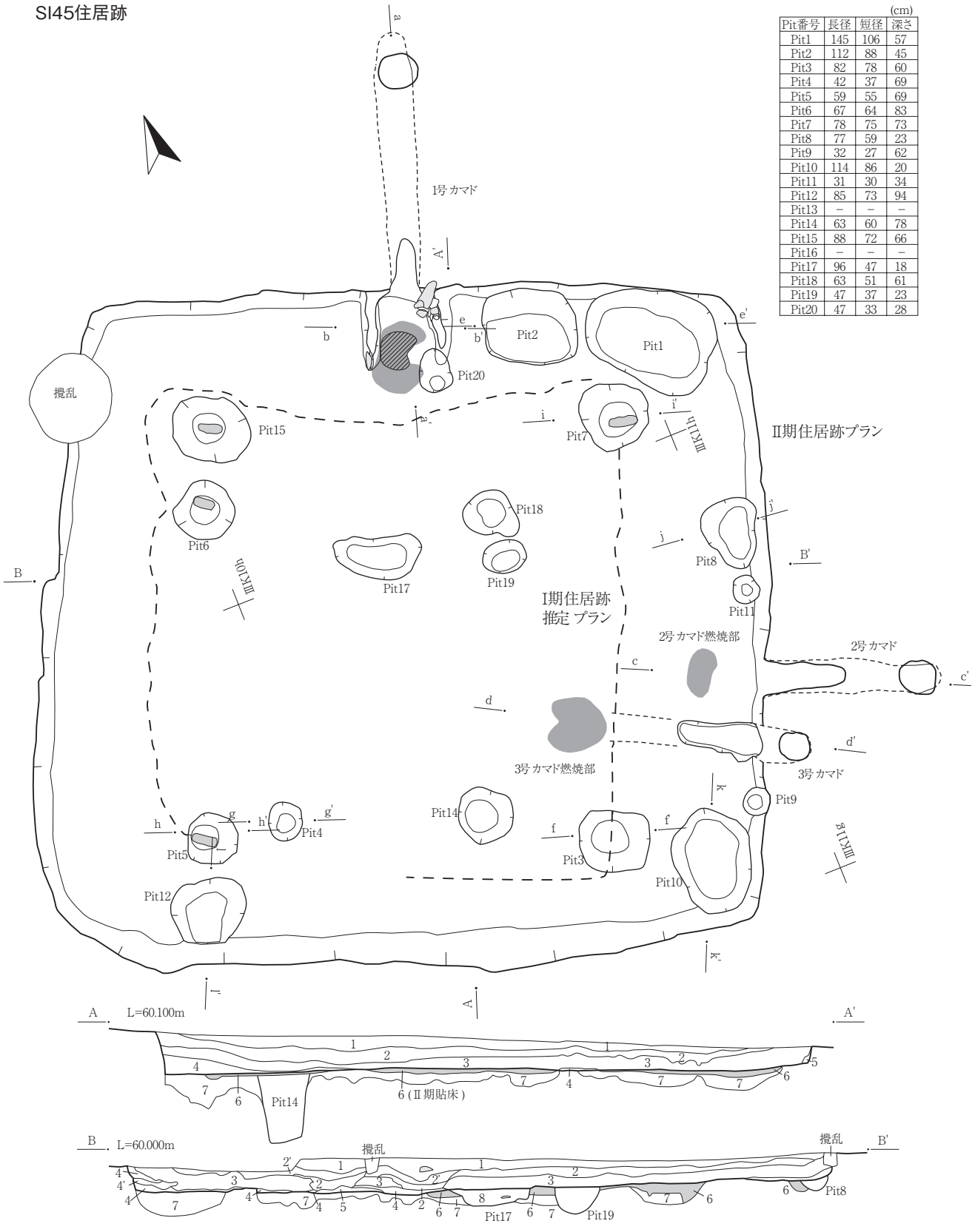
2号カマド (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 暗褐色土ブロック30% 焼土粒・炭少量
2　10YR2/3黒褐色 粘土 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック10%
3　5YR3/3暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
4　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック10%
5　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック・炭各15%
6　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック10%
7　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック30%
8　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック10%
9　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

第 66 図　SI44 住居跡

SI45住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	145	106	57
Pit2	112	88	45
Pit3	82	78	60
Pit4	42	37	69
Pit5	59	55	69
Pit6	67	64	83
Pit7	78	75	73
Pit8	77	59	23
Pit9	32	27	62
Pit10	114	86	20
Pit11	31	30	34
Pit12	85	73	94
Pit13	–	–	–
Pit14	63	60	78
Pit15	88	72	66
Pit16	–	–	–
Pit17	96	47	18
Pit18	63	51	61
Pit19	47	37	23
Pit20	47	33	28



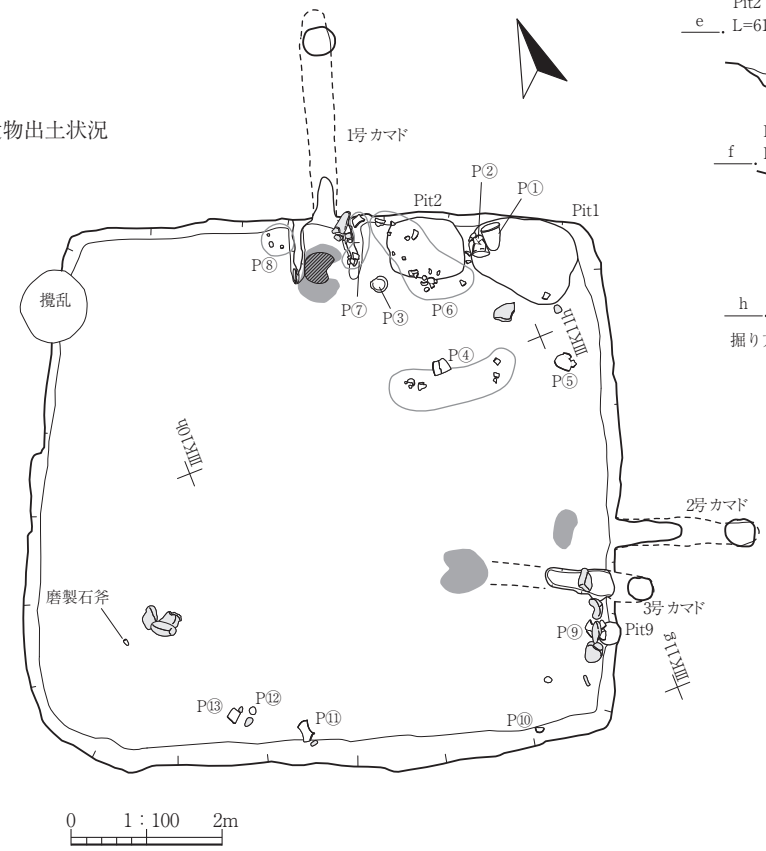
SI45 (A-A'･B-B')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色シルトブロック10%含む
2'　2層のうちの黄褐色シルトブロック集中部分
3　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 細粒洪水堆積層
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
5　10YR4/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中～強
6　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中主体 褐色土大ブロック30～50% (Ⅱ期貼床)
7　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土大ブロック30～50%(掘り方埋土)
8　Pit17埋土 6層に焼土ブロック･焼骨含む

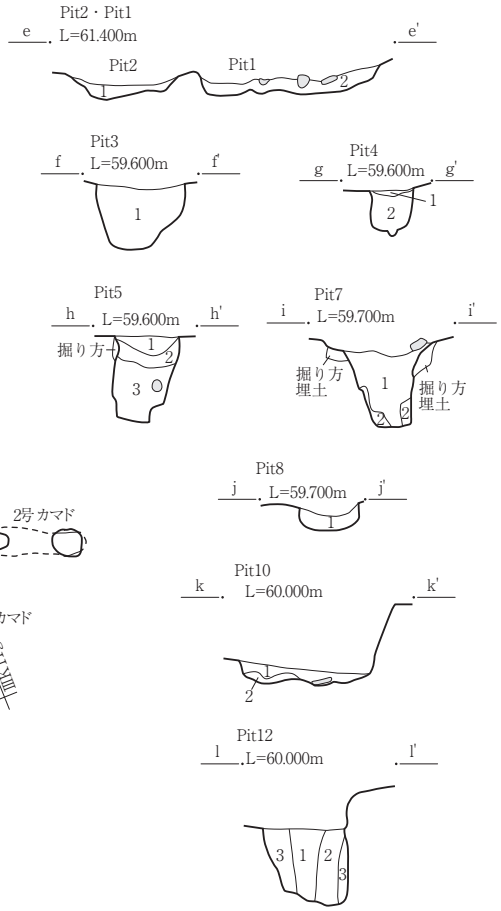
0　1：60　2m

第67図　SI45住居跡（1）

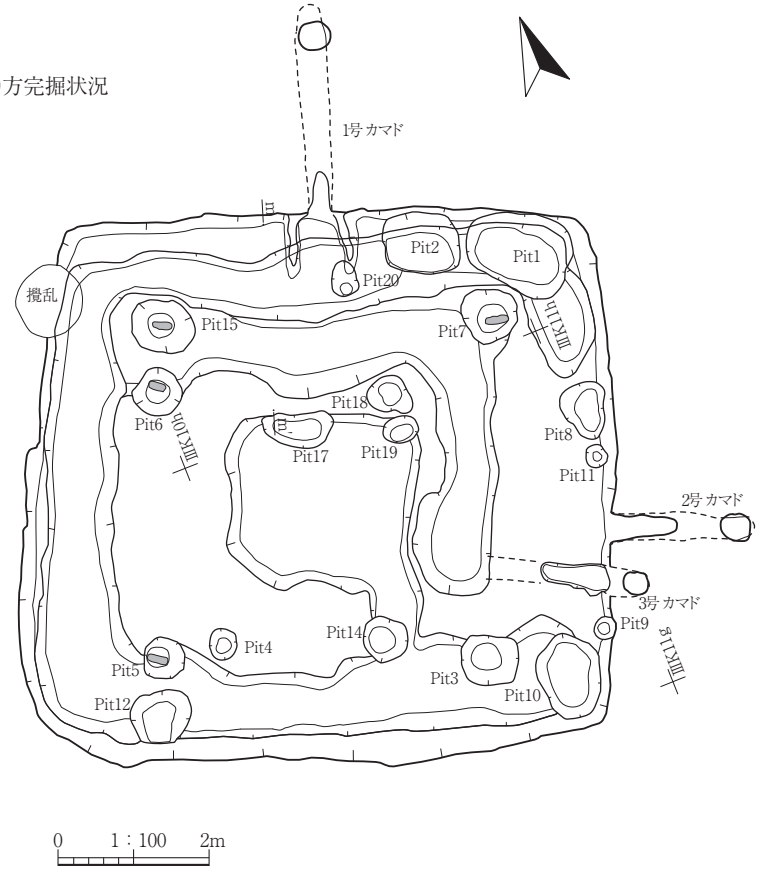
SI45住居跡

遺物出土状況





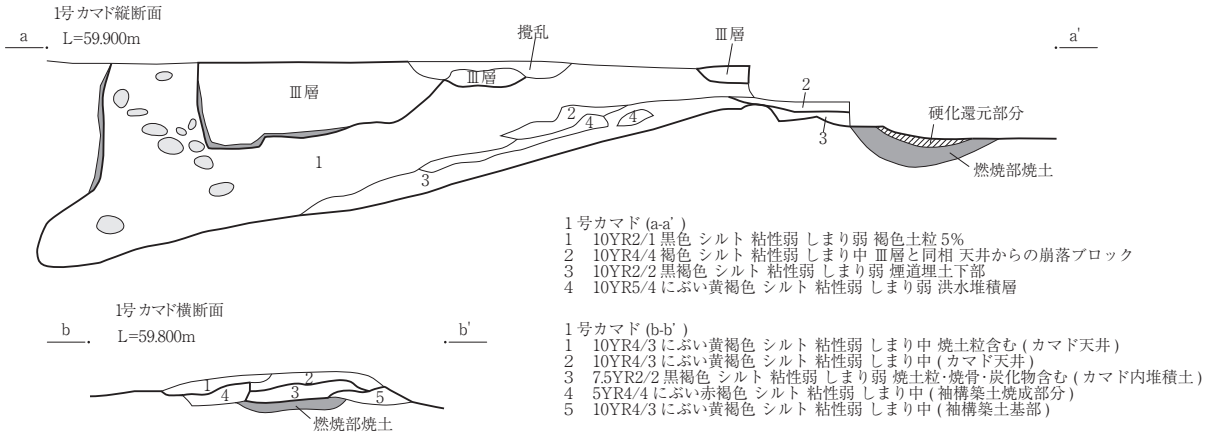
掘り方完掘状況



Pit2・Pit1 (e-e')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
炭化物・黄褐色土ブロック 10%
2　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
褐色土大ブロック 10 ～ 20%
Pit3 (f-f')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土大ブロック 30%
Pit4 (g-g')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
洪水堆積シルト含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土粒 20%
Pit5 (h-h')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
洪水堆積シルト含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土粒 20%
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土粒 10%
Pit7 (i-i')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土ブロック 10%
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中
Pit8 (j-j')
1　7.5YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
焼土ブロック 30% 炭化物含む
Pit10 (k-k')
1　10YR3/1 黒褐色シルトと 10YR5/6 黄褐色
シルトブロックの混在 (1:1) 粘性中 しまり中
焼土ブロック径 30mm2%
2　10YR5/4 にぶい黄褐色シルトと 10YR3/2 黒褐色
シルトの混在 (1:1) 粘性中 しまり中
Pit12 (l-l')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色 シルトブロック径 20 ～ 40mm30%
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色シルトブロック径 20 ～ 80mm30%
3　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色シルトブロック径 10 ～ 30mm50%

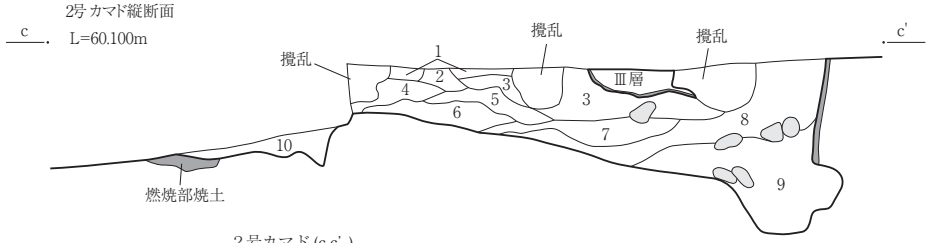
第 68 図　SI45 住居跡（2）

SI45住居跡

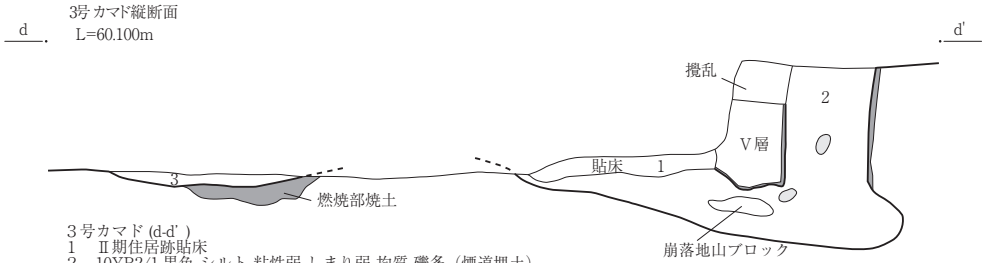


1号カマド (a-a')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒 5%
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 Ⅲ層と同相 天井からの崩落ブロック
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 煙道埋土下部
4　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 洪水堆積層

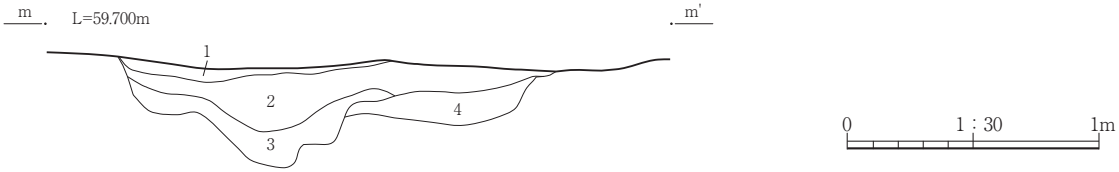
1号カマド (b-b')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む (カマド天井)
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (カマド天井)
3　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒・焼骨・炭化物含む (カマド内堆積土)
4　5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (袖構築土焼成部分)
5　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (袖構築土基部)



2号カマド (c-c')
1　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 洪水堆積層 (煙道埋没中の堆積土)
2　5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 焼土粒の集合
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 焼土粒含む
4　7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
5　5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 焼土ブロック
6　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (煙道天井崩落ブロック)
7　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
8　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
9　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
10 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒含む 焼土粒含む (燃焼部奥の堆積土)



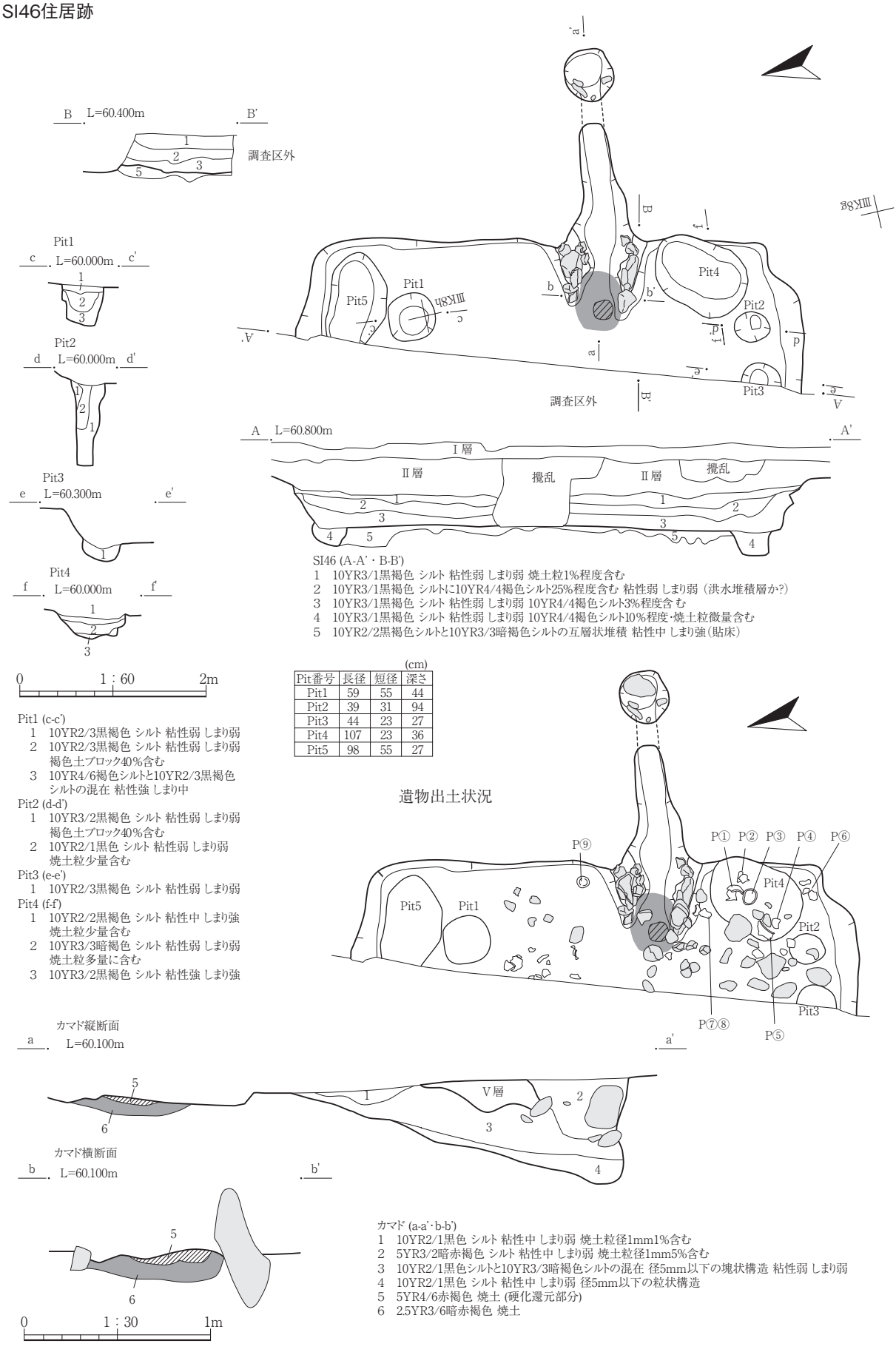
3号カマド (d-d')
1　Ⅱ期住居跡貼床
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 均質 礫多 (煙道埋土)
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む (燃焼部埋土)



掘り方溝 (m-m')
1　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中～強 薄い層状の構造見える (貼床)
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色・暗褐色土大ブロック上半に集中 焼土粒含む
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土小ブロック 30 ～ 40% (掘り方埋土)
4　10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 大ブロックの隙間に黒色土含む (掘り方埋土の下部)

第 69 図　SI45 住居跡 (3)

SI46住居跡



Pit1 (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック40%含む
3　10YR4/6褐色シルトと10YR2/3黒褐色シルトの混在 粘性強 しまり中

Pit2 (d-d')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック40%含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒少量含む

Pit3 (e-e')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱

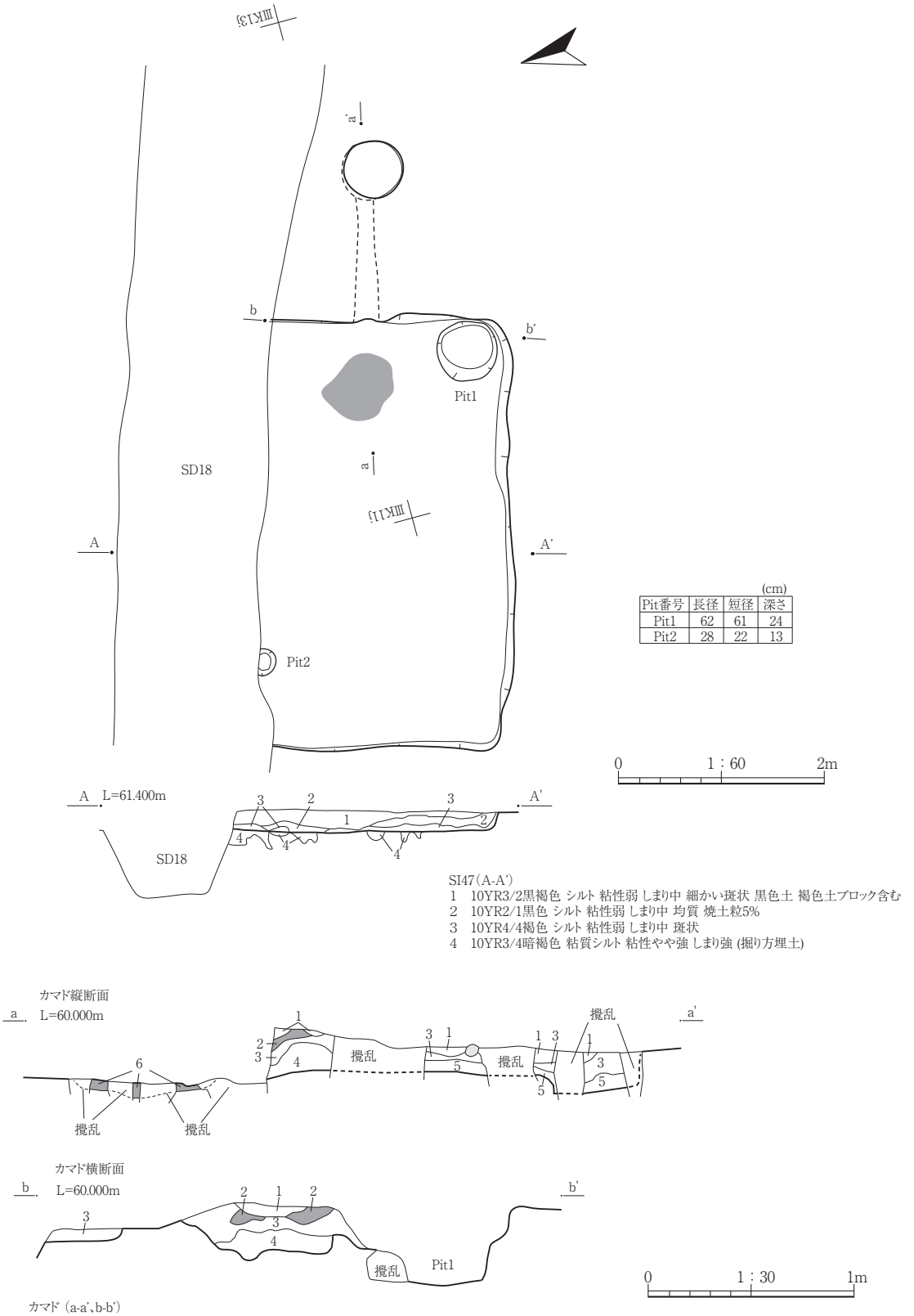
Pit4 (f-f')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 焼土粒少量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒多量に含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強

SI46 (A-A'・B-B')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒1%程度含む
2　10YR3/1黒褐色 シルトに10YR4/4褐色シルト25%程度含む 粘性弱 しまり弱（洪水堆積層か?）
3　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 10YR4/4褐色シルト3%程度含む
4　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 10YR4/4褐色シルト10%程度・焼土粒微量含む
5　10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの互層状堆積 粘性中 しまり強（貼床）

カマド (a-a'・b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱 焼土粒径1mm1%含む
2　5YR3/2暗赤褐色 シルト 粘性中 しまり弱 焼土粒径1mm5%含む
3　10YR2/1黒色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混在 径5mm以下の塊状構造 粘性弱 しまり弱
4　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱 径5mm以下の粒状構造
5　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　2.5YR3/6暗赤褐色 焼土

第 70 図　SI46 住居跡

SI47住居跡



(cm)

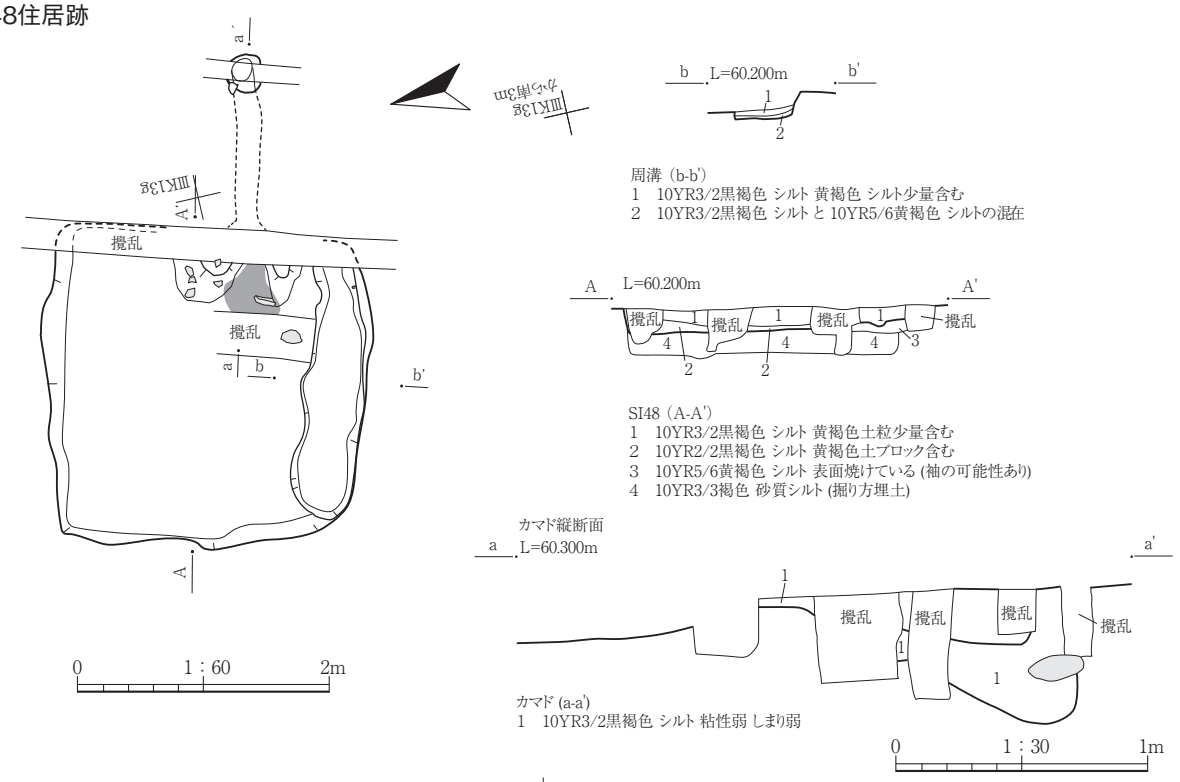
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	62	61	24
Pit2	28	22	13

SI47(A-A')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 細かい斑状 黒色土 褐色土ブロック含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 焼土粒5%
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 斑状
4　10YR3/4暗褐色 粘質シルト 粘性やや強 しまり強 (掘り方埋土)

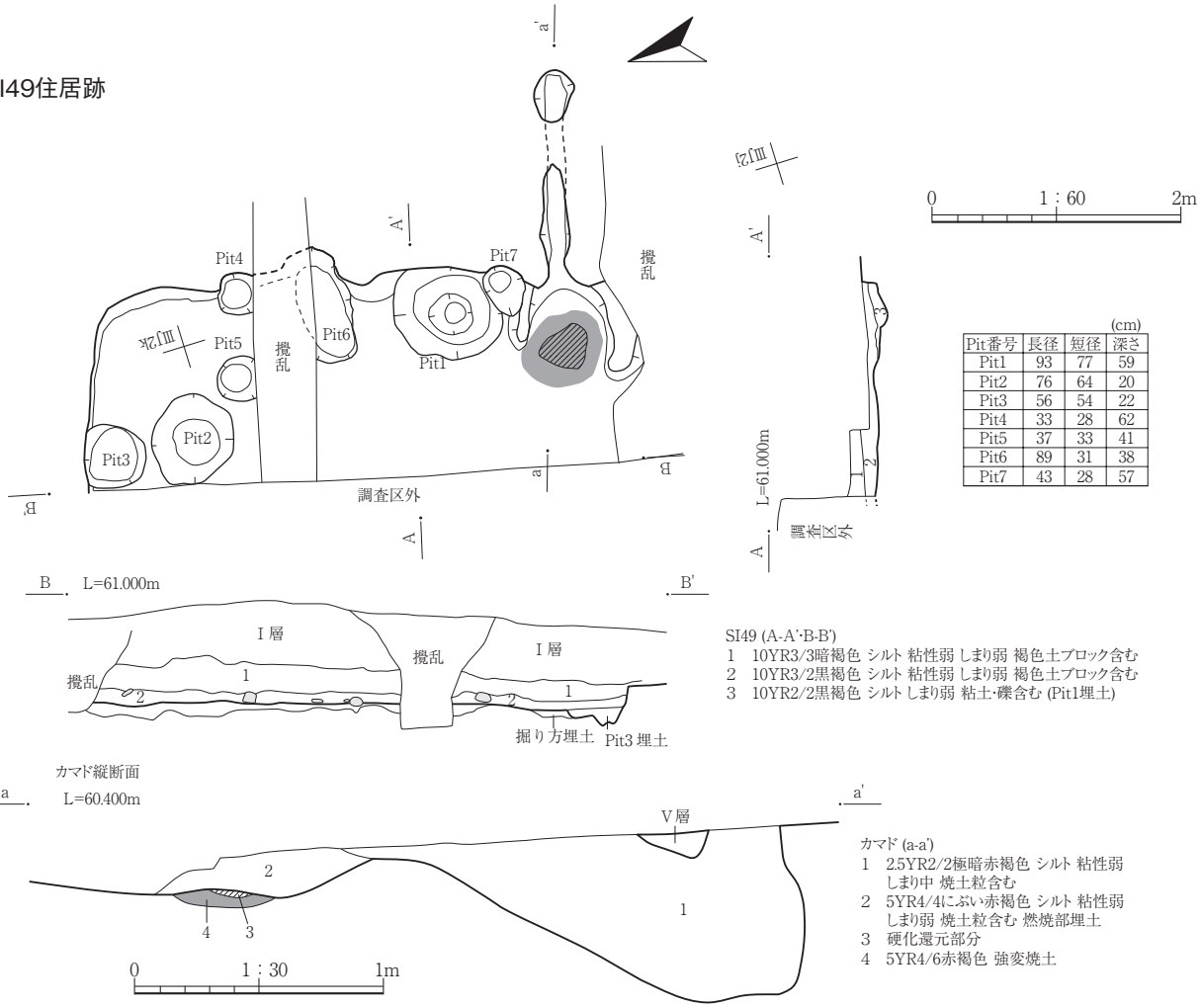
カマド (a-a'、b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒少量含む
2　7.5YR4/6褐色 焼土 粘性弱 しまり弱 焼土大ブロック 天井崩落部か
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや強 焼土粒少量含む
4　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 焼土ブロック含む
5　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 焼土粒少量含む
6　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

第 71 図　SI47 住居跡

SI48住居跡



SI49住居跡

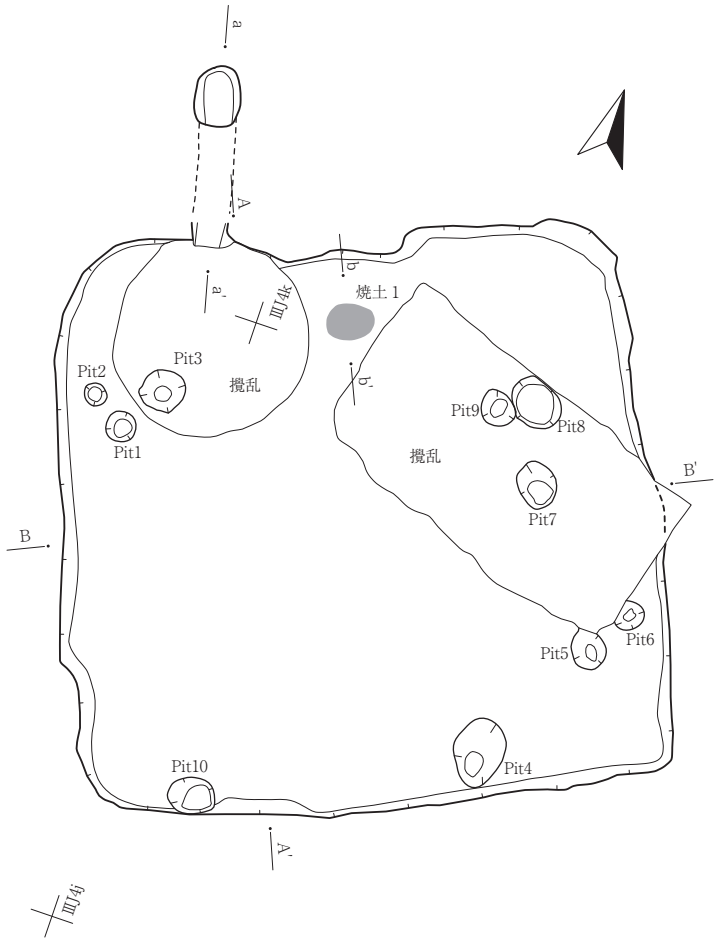


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	93	77	59
Pit2	76	64	20
Pit3	56	54	22
Pit4	33	28	62
Pit5	37	33	41
Pit6	89	31	38
Pit7	43	28	57

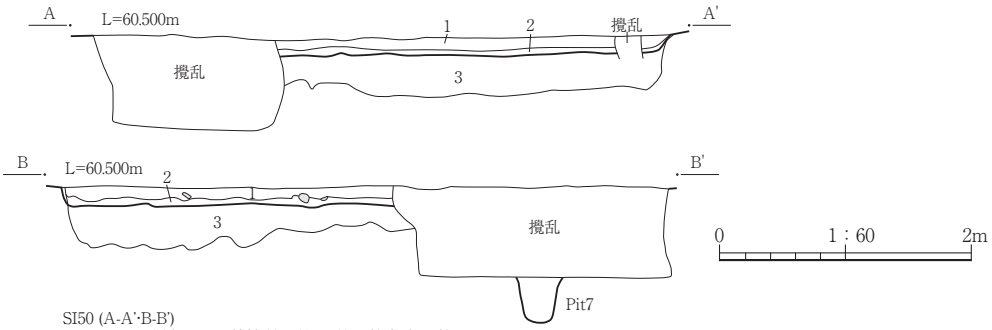
第 72 図　SI48 住居跡・SI49 住居跡

SI50住居跡

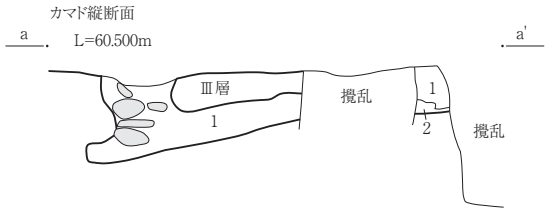


(cm)

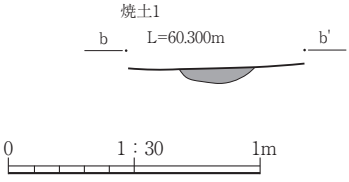
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	25	25	69
Pit2	19	17	16
Pit3	37	33	35
Pit4	56	40	49
Pit5	35	27	55
Pit6	25	21	27
Pit7	38	29	38
Pit8	44	36	13
Pit9	31	25	20
Pit10	38	31	41



SI50 (A-A'･B-B')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･褐色土粒5%
2　1層黒色土ベースに10YR4/4褐色シルト大ブロック20～30% 粘性弱 しまり中 炭化物含む
3　10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱～中 隙間に黒色土挟まる（掘り方埋土）



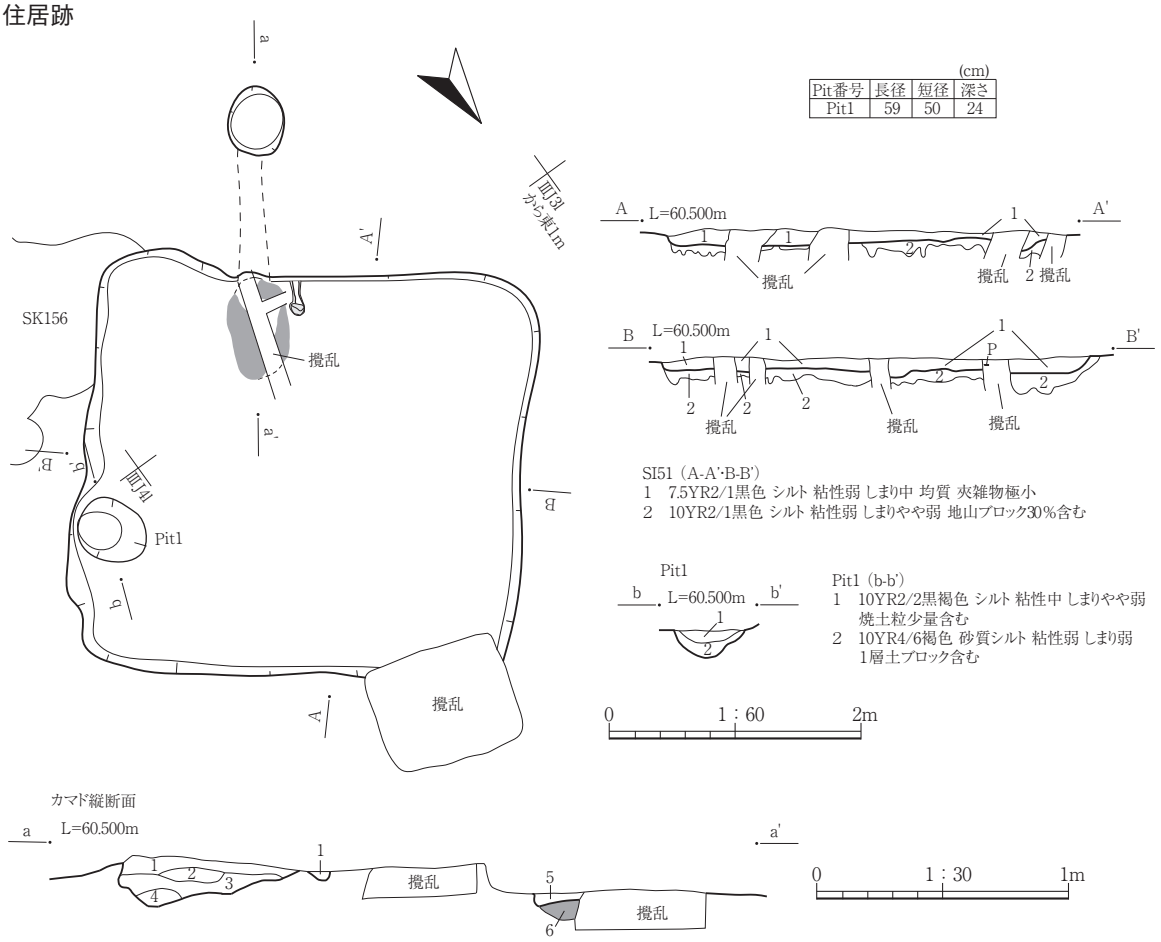
カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 褐色土ブロック含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック含む



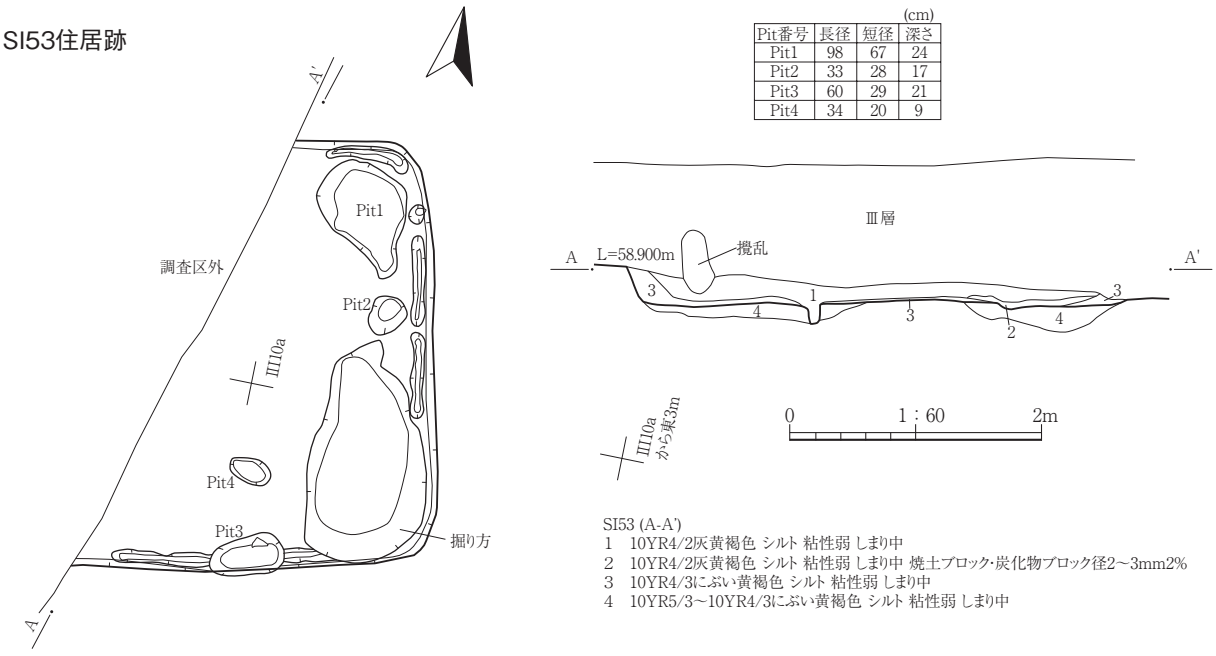
焼土1 (b-b')
1　5YR4/4にぶい赤褐色 弱変 カマド燃焼部かどうか不明

第 73 図　SI50 住居跡

SI51住居跡



SI53住居跡

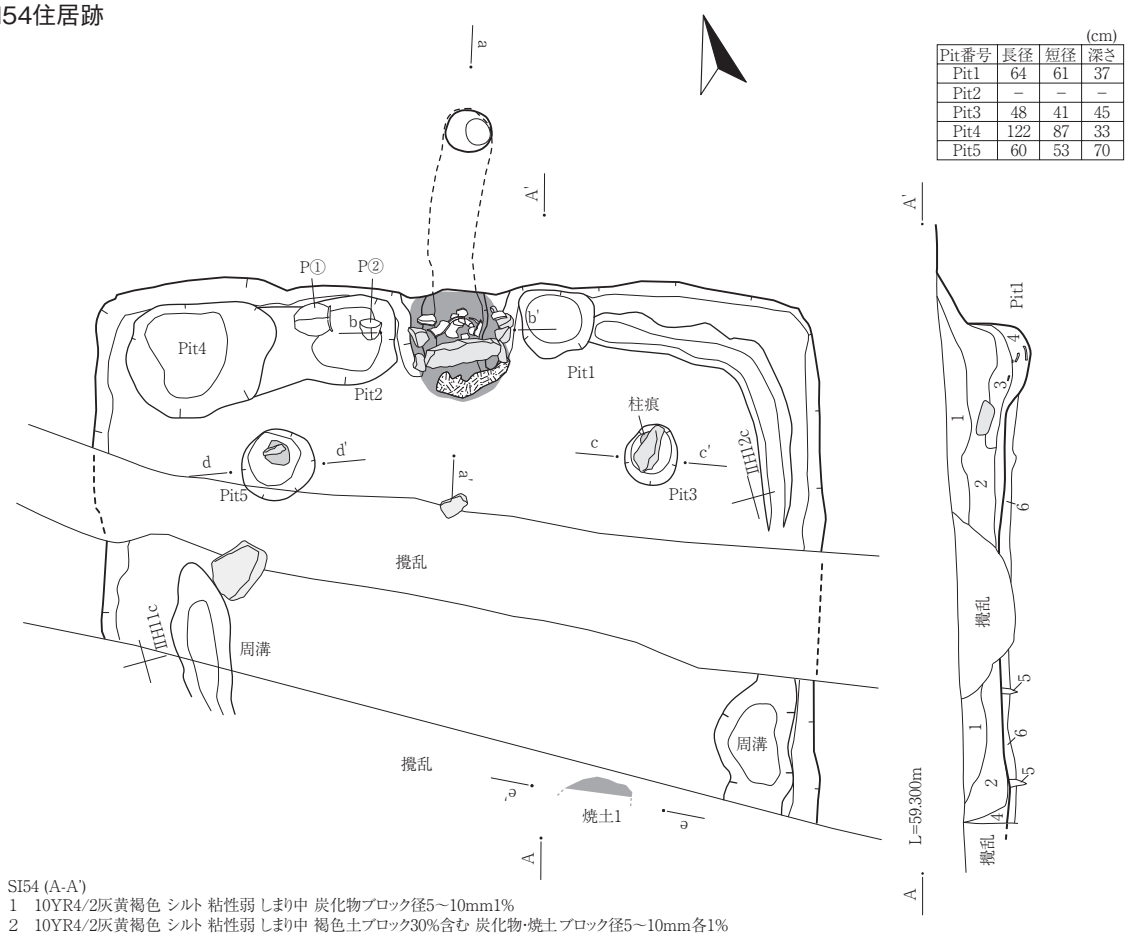


第 74 図　SI51 住居跡・SI53 住居跡

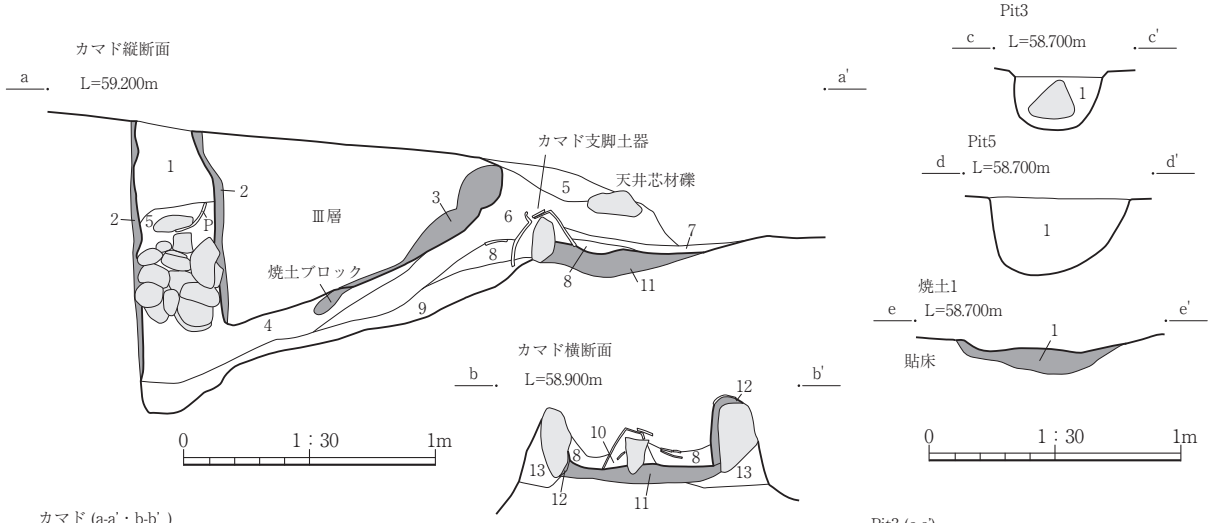
SI54住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	64	61	37
Pit2	–	–	–
Pit3	48	41	45
Pit4	122	87	33
Pit5	60	53	70



SI54 (A-A')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm1%
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック30%含む 炭化物･焼土ブロック径5～10mm各1%
3　10YR4/2灰黄褐色 シルトと炭化物･焼土ブロックの混在 (4:3:3) 粘性中 しまり中
4　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 炭化物粒径2mm1%
5　10YR4/1褐灰色 シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR5/4にぶい黄褐色 シルトと10YR4/1褐灰色 シルトの混在 粘性弱 しまり強（貼床）



カマド (a-a'・b-b')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　7.5YR3/3 暗褐色 煙道壁面焼土 (焦土化)
3　5YR4/4 にぶい赤褐色 煙道天井面焼土 一部崩落
4　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック･土器片･礫含む
5　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
6　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり弱 焼土ブロック含む
7　10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物ブロック･焼土ブロック含む
8　5YR5/8 明赤褐色焼土と 5YR4/1 褐灰色シルトの混在 粘性弱 しまり中（互層状堆積 カマド崩落土）
9　5YR3/4 暗赤褐色 シルト 焼土･炭化物含む 焚口部に焼土集中
10　5YR4/6 赤褐色 シルト 支脚土器内部土壌 焼土化している
11　2.5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
12　2.5YR5/4 にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中（カマド袖構築土）
13　10YR6/4 にぶい黄橙色シルトと 10YR4/2 灰黄褐色シルトの混在 (5:5) 粘性中 しまり中（カマド袖構築土）

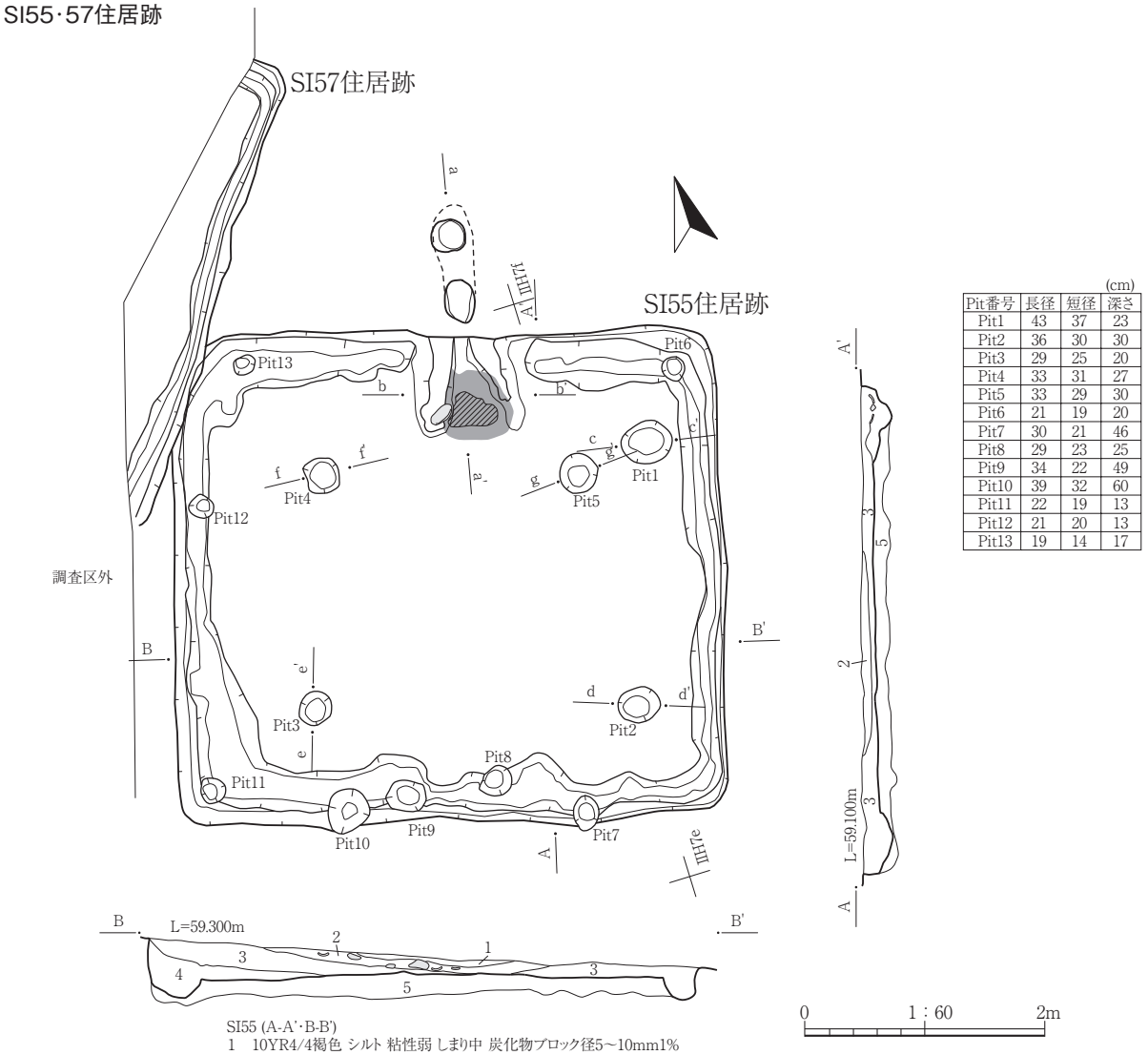
Pit3 (c-c')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱
　しまりやや弱 焼土ブロック径 5 ～ 15mm 1 %含む

Pit5 (d-d')
1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中
　焼土･炭径1～3mm3%含む
　Pit3同様に赤白の礫出土

焼土1 (e-e')
1　2.5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

第 75 図　SI54 住居跡

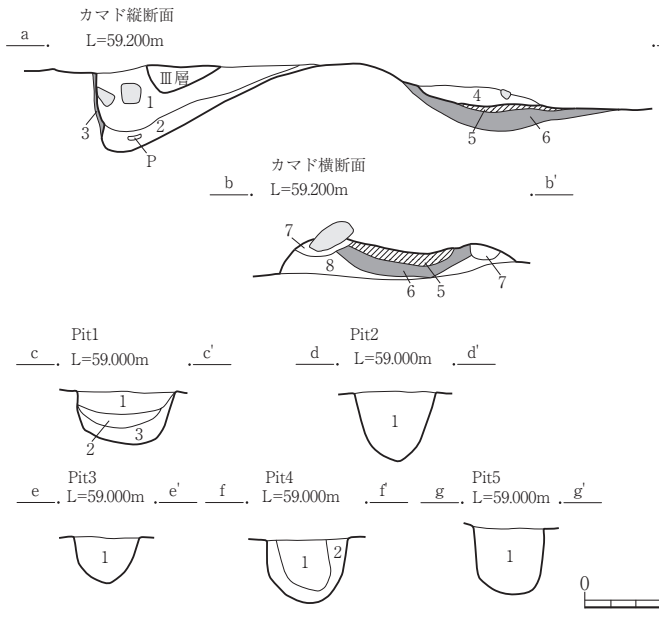
SI55·57住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	43	37	23
Pit2	36	30	30
Pit3	29	25	20
Pit4	33	31	27
Pit5	33	29	30
Pit6	21	19	20
Pit7	30	21	46
Pit8	29	23	25
Pit9	34	22	49
Pit10	39	32	60
Pit11	22	19	13
Pit12	21	20	13
Pit13	19	14	17

SI55 (A-A'·B-B')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm1%
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物·焼土ブロック径5～10mm各3%
3　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 均質
4　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック·炭化物少量含む
5　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 (掘り方埋土)



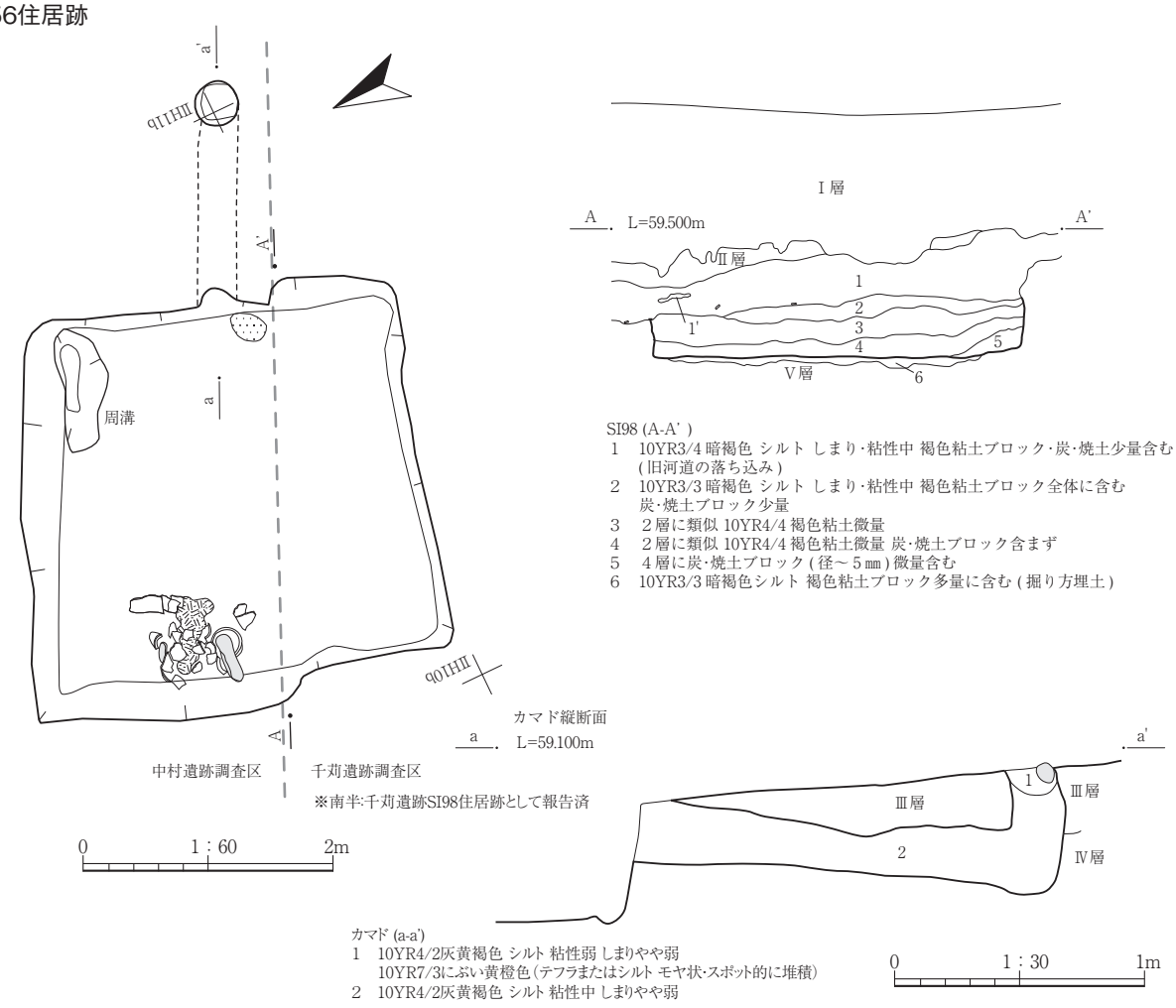
SI55 カマド (a-a'・b-b')
1　10YR3/3暗褐色 粘性中 しまり弱 焼土ブロック径2～5cm1%含む
　(煙道埋土)
2　5YR2/3極暗赤褐色 粘性中 しまり中
3　5YR2/3極暗赤褐色 粘性中 しまり中 煙道壁面焼土
4　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性やや弱 しまり弱
5　7.5YR5/6明褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
6　7.5YR4/6褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強
7　5YR4/4にぶい赤褐色 粘性中 しまり中 焼土ブロック径5～10mm5%含む
8　10YR4/3にぶい黄褐色土と 10YR3/4暗褐色土の混在(5:5)
　粘性中 しまり中

Pit1 (c-c')
　1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭径1～5mm1%
　2　5YR3/3暗赤褐色 焼土 炭化物5%含む
　3　10YR3/3暗褐色 粘性中 しまり中
Pit2 (d-d')
　1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまりやや強 焼土径1～2mm1%
Pit3 (e-e')
　1　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまりやや弱
Pit4 (f-f')
　1　10YR3/2黒褐色 粘性中 しまり弱
　2　10YR3/4暗褐色 粘性中 しまり中 炭径3mm1%
Pit5 (g-g')
　1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　　炭化物ブロック径2mm·焼土粒径1mm各1%

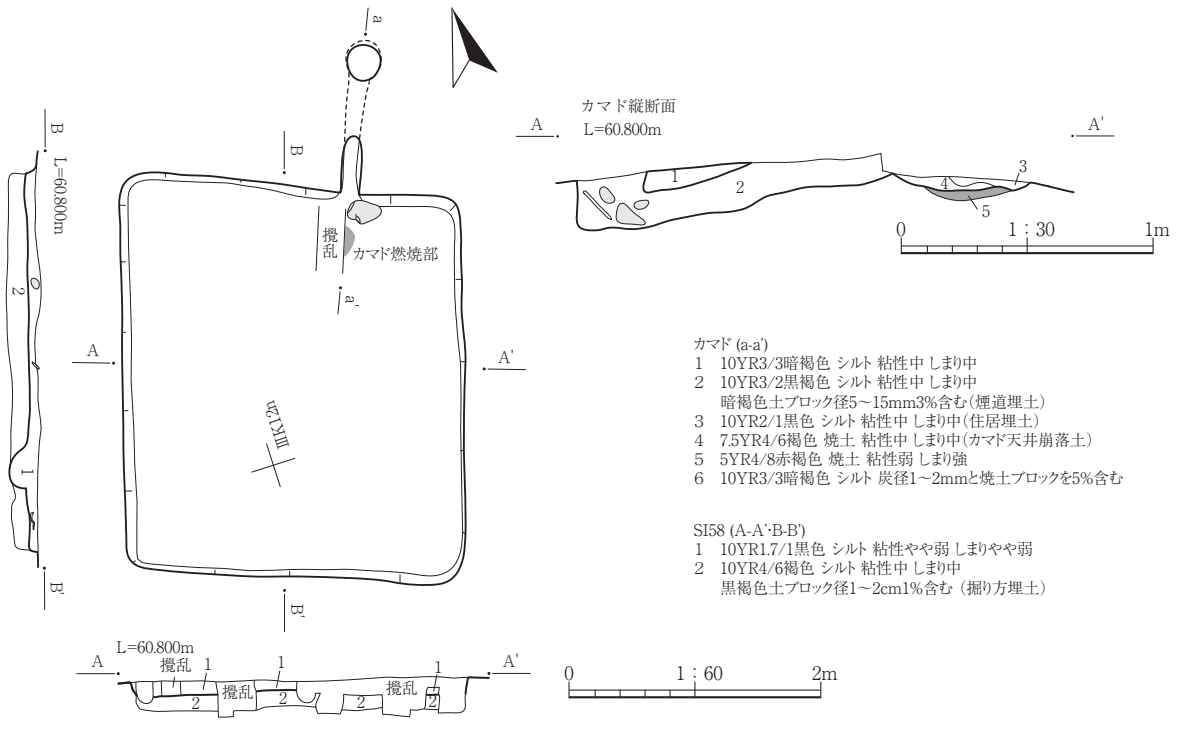
0　1：30　1m

第 76 図　SI55 住居跡・SI57 住居跡

SI56住居跡



SI58 住居跡

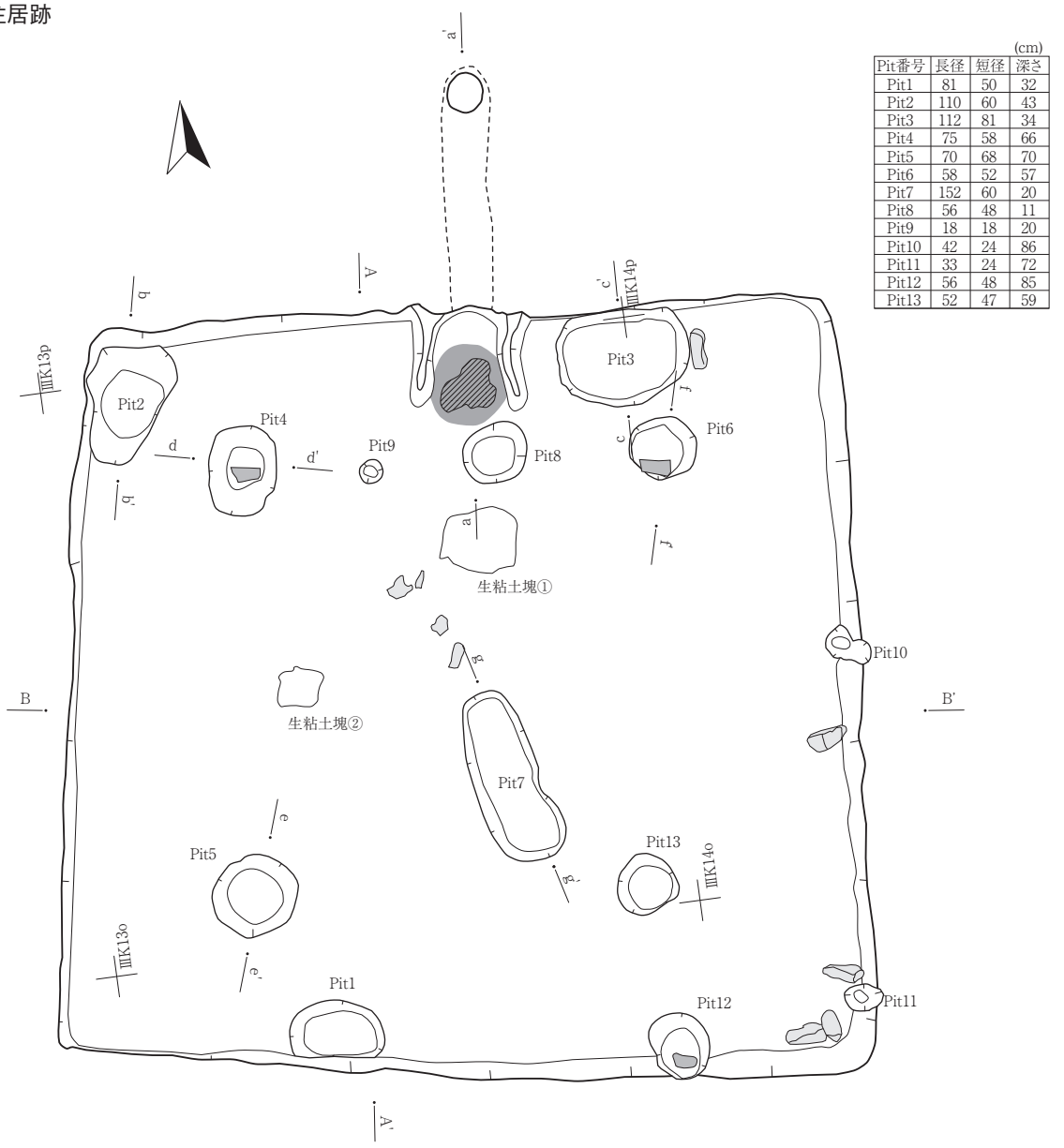


第 77 図　SI56 住居跡・SI58 住居跡

SI59住居跡

(cm)

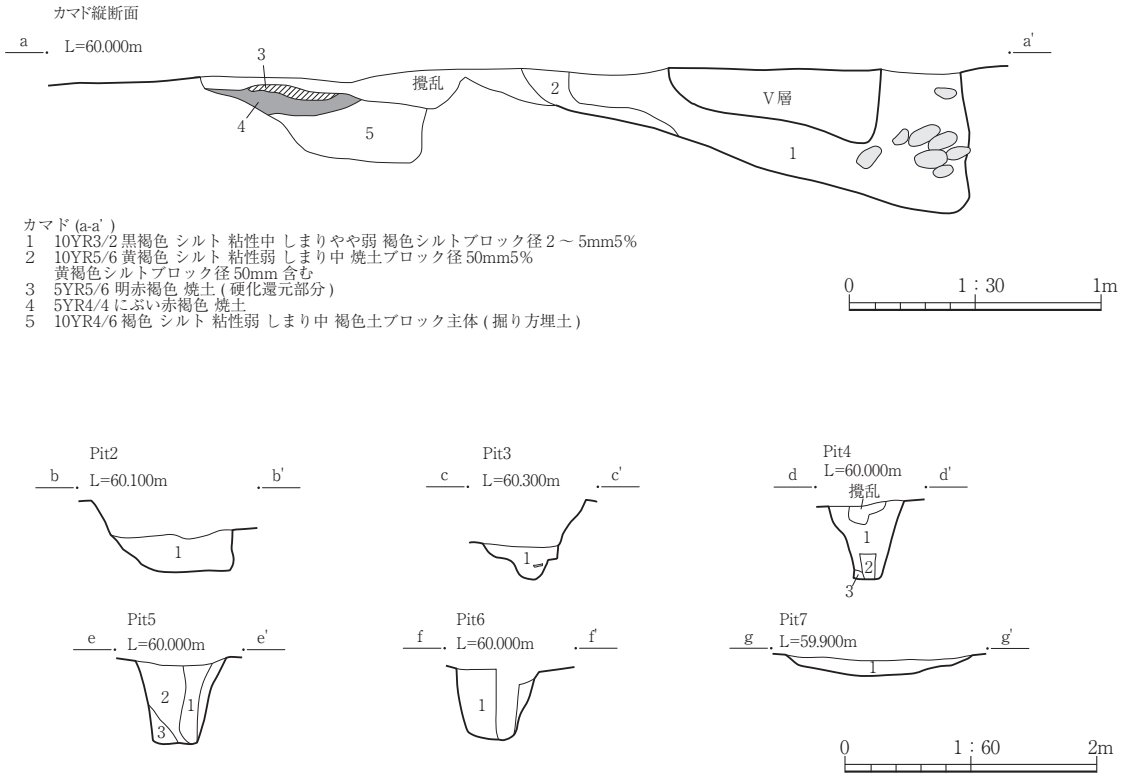
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	50	32
Pit2	110	60	43
Pit3	112	81	34
Pit4	75	58	66
Pit5	70	68	70
Pit6	58	52	57
Pit7	152	60	20
Pit8	56	48	11
Pit9	18	18	20
Pit10	42	24	86
Pit11	33	24	72
Pit12	56	48	85
Pit13	52	47	59



SI59 (A-A'･B-B')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径5～10mm2%
2　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中（SD23の1層と類似）
3　10YR8/2灰白色 粘土 粘性強 しまり強
4　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径10～50mm 焼土粒各3%
5　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径5～10mm焼土粒各2%
6　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径2～3mm1%
7　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径3～5mm2%(周溝埋土)
8　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 黄褐色土ブロック多量に含む(周溝埋土)
9　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色土ブロック多量に含む(掘り方埋土)

第 78 図　SI59 住居跡（1）

SI59住居跡



カマド (a-a')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色シルトブロック径２～ 5mm5%
2　10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径 50mm5%
　黄褐色シルトブロック径 50mm 含む
3　5YR5/6 明赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
4　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土
5　10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック主体 (掘り方埋土)

Pit2 (b-b')
１10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径10～50mm10% 焼土ブロック径10～50mm2%

Pit3 (c-c')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック層状に 20%堆積

Pit4 (d-d')
1　10YR5/6 黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色シルトの混在（7：3）粘性中 しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径２～ 5mm10%(柱痕跡)
3　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中

Pit5 (e-e')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径２～ 5mm10%(柱痕跡)
2　Pit6 の２層と同じ
3　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中

Pit6 (f-f')
1　10YR5/6 黄褐色シルトと 10YR3/1 黒褐色シルトの混在（7：3）粘性中 しまり中

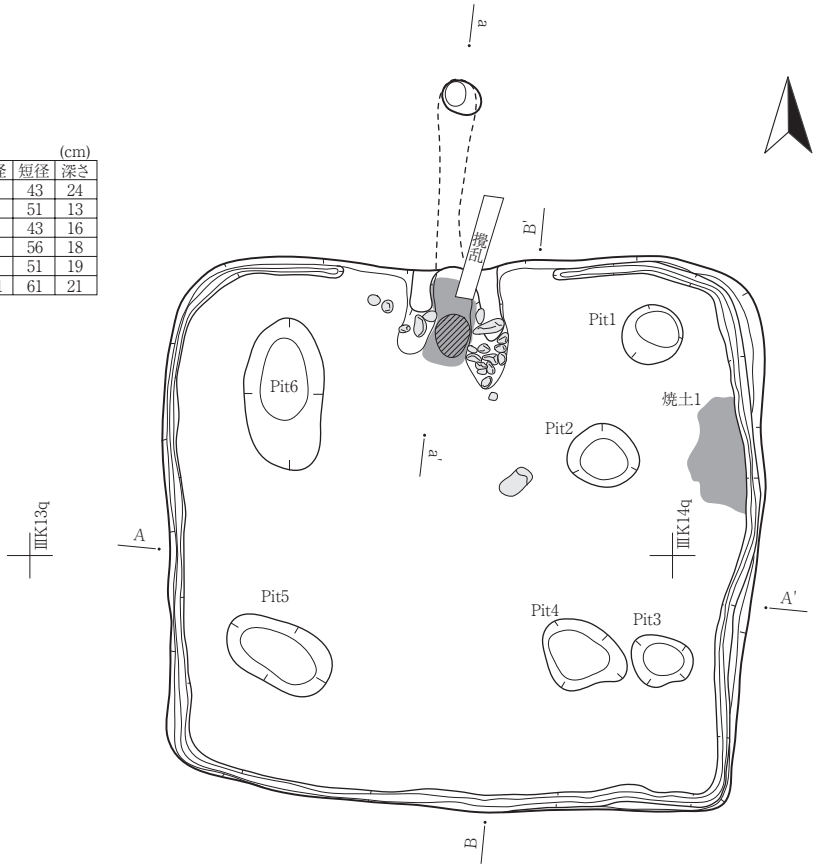
Pit7 (g-g')
1　10YR2/1 黒色シルトと 10YR5/6 黄褐色シルトとの混在（5：5）粘性中 しまり中

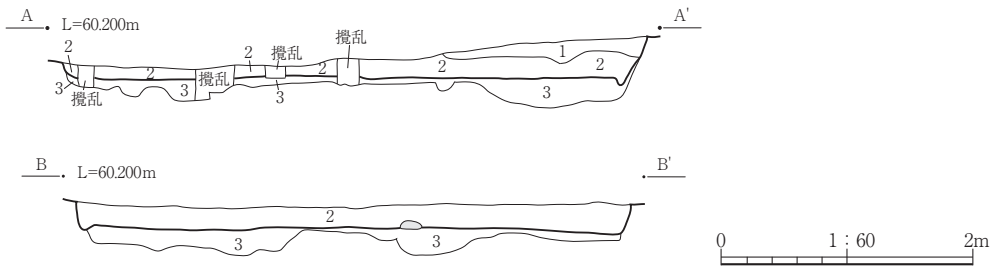
第 79 図　SI59 住居跡（2）

SI60住居跡

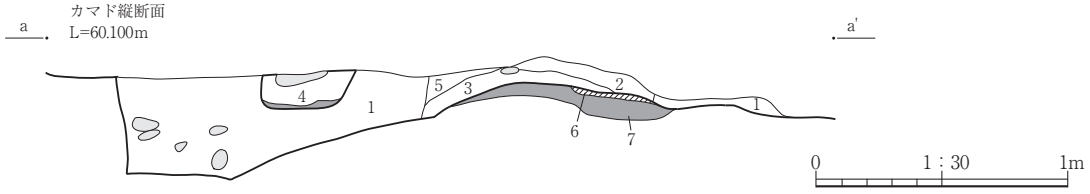
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	49	43	24
Pit2	59	51	13
Pit3	52	43	16
Pit4	74	56	18
Pit5	90	51	19
Pit6	121	61	21





SI60 (A-A'･B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物少量･褐色土ブロック径2～5mm5%含む
3　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土ブロック少量含む



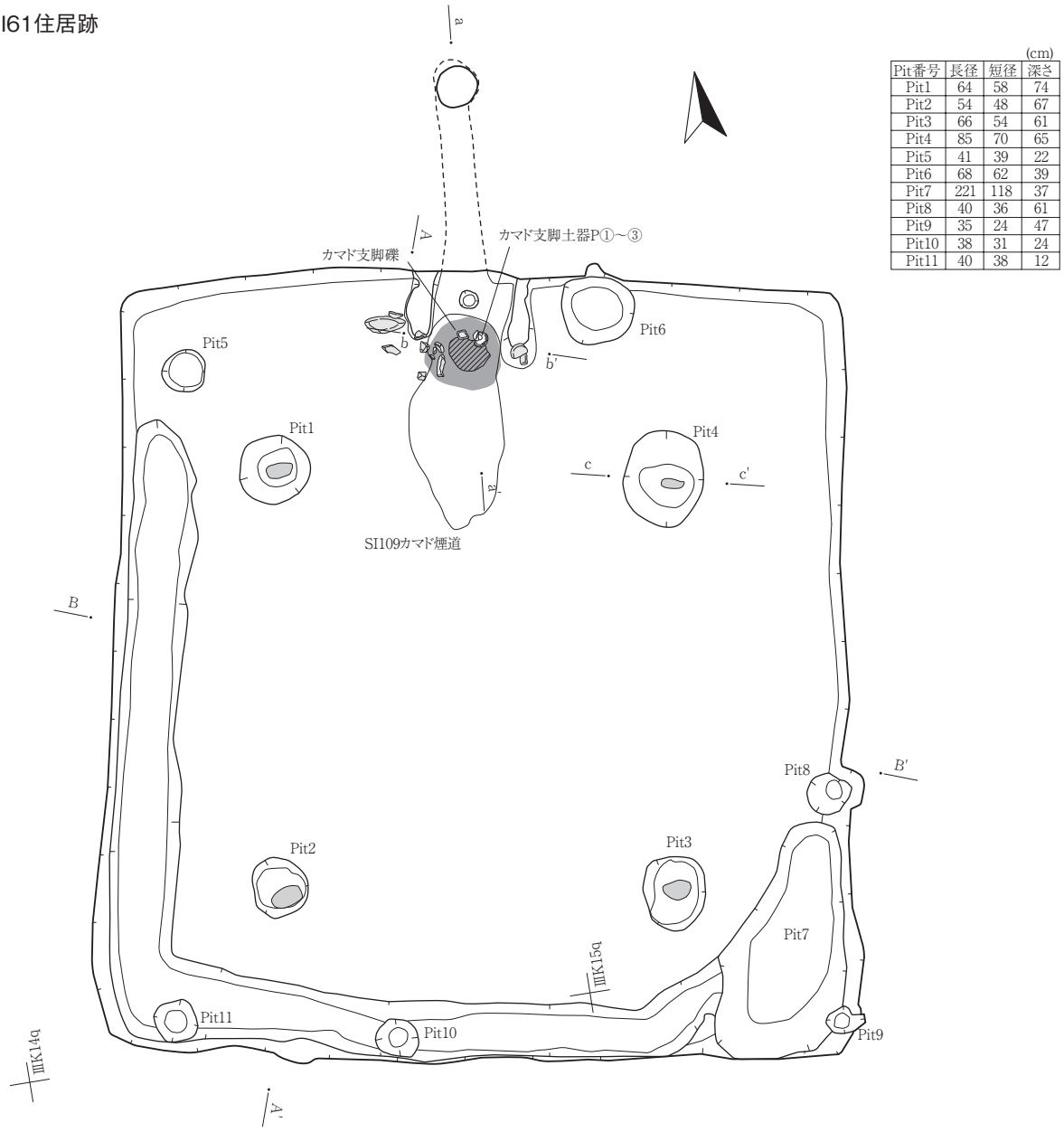
カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 粘性中 しまり中 炭化物少量 褐色土ブロック径2～3mm3%含む
2　5YR4/6赤褐色 粘土 粘性中 しまり中
3　5YR3/3暗赤褐色 焼土 粘性中 しまり中 炭化物5%含む(煙道埋土)
4　10YR4/6褐色 (V層)
5　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック少量含む
6　7.5YR5/8明褐色 焼土 (硬化還元部分)
7　5YR5/8明赤褐色 焼土

第 80 図　SI60 住居跡

SI61住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	64	58	74
Pit2	54	48	67
Pit3	66	54	61
Pit4	85	70	65
Pit5	41	39	22
Pit6	68	62	39
Pit7	221	118	37
Pit8	40	36	61
Pit9	35	24	47
Pit10	38	31	24
Pit11	40	38	12



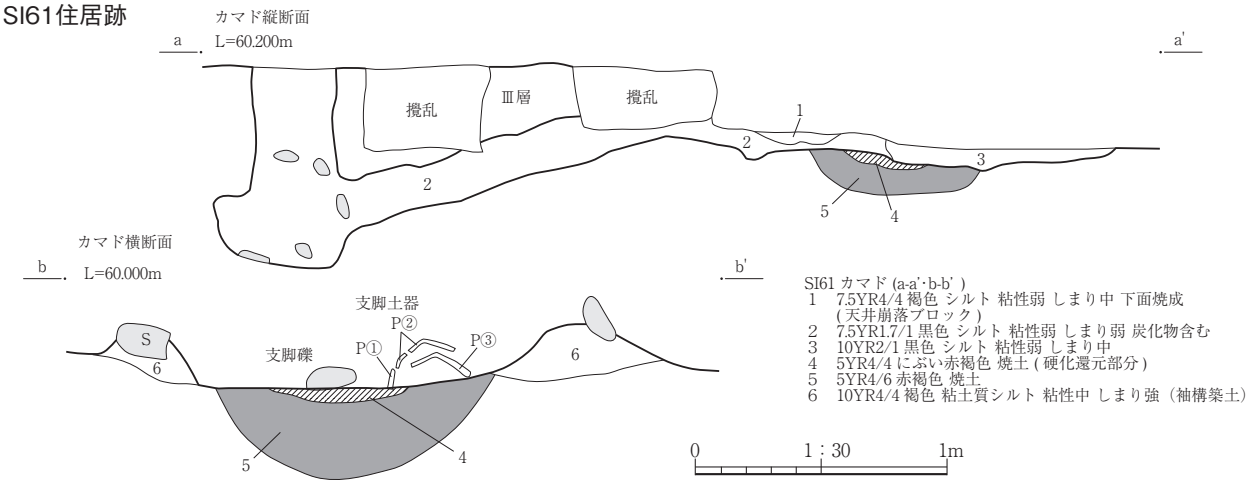
SI61 (A-A' · B-B')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄橙色 シルトブロック 3 ～ 5%
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 部分的にラミナ形成 洪水堆積層 To-a ではないと思われる 斑状となる地点もあり
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 黄橙色土ブロック含む 上部に散見
4　7.5YR1.7/1 黒色 シルト 粘性 j 弱 しまり中 均質
5　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
6　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
7　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強～中・しまり中 黒色土含む (掘り方埋土)

Pit4 (c-c')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 柱痕跡
2　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 (埋め戻し土)
3　10YR4/6 褐色 砂質シルト 下面に黒色土挟む

0　1 : 60　2m

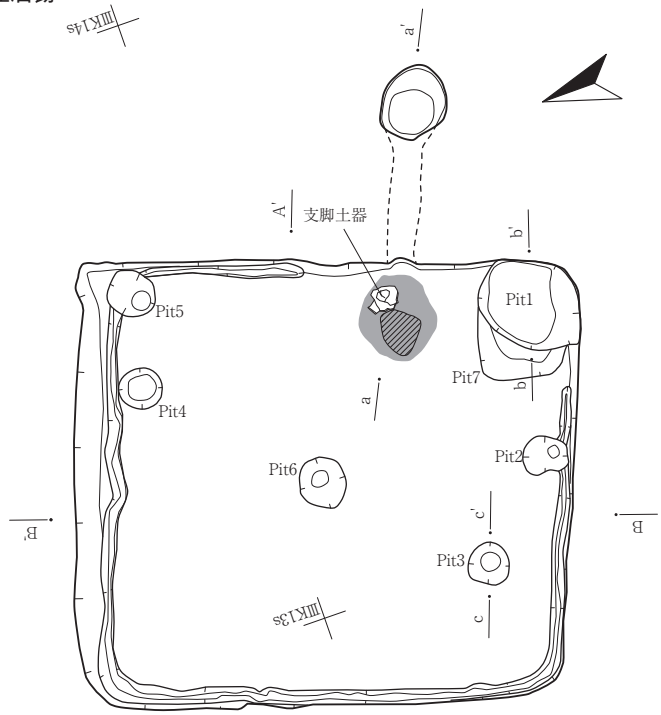
第 81 図　SI61 住居跡 (1)

SI61住居跡



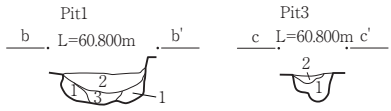
SI61 カマド (a-a'･b-b')
1　7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 下面焼成
　(天井崩落ブロック)
2　7.5YR1.7/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
4　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
5　5YR4/6 赤褐色 焼土
6　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強（袖構築土）

SI62住居跡

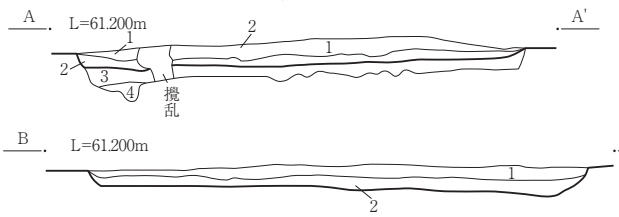


(cm)

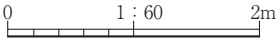
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	92	71	43
Pit2	37	33	21
Pit3	34	30	24
Pit4	35	32	14
Pit5	41	38	13
Pit6	43	39	13
Pit7	98	79	30

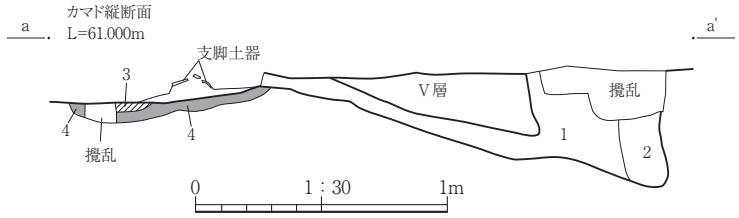


Pit1･3 (b-b'･c-c')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中
　黒褐色土ブロックをモヤ状に含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
　焼土ブロック径5～10mm3%含む
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
　褐色土ブロック径5cm 3%含む



SI62 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒まばらに混入
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック
　焼土粒･炭化物含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土径1～2mm 1%含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　褐色土ブロック径3～4cm10%含む (掘り方埋土)





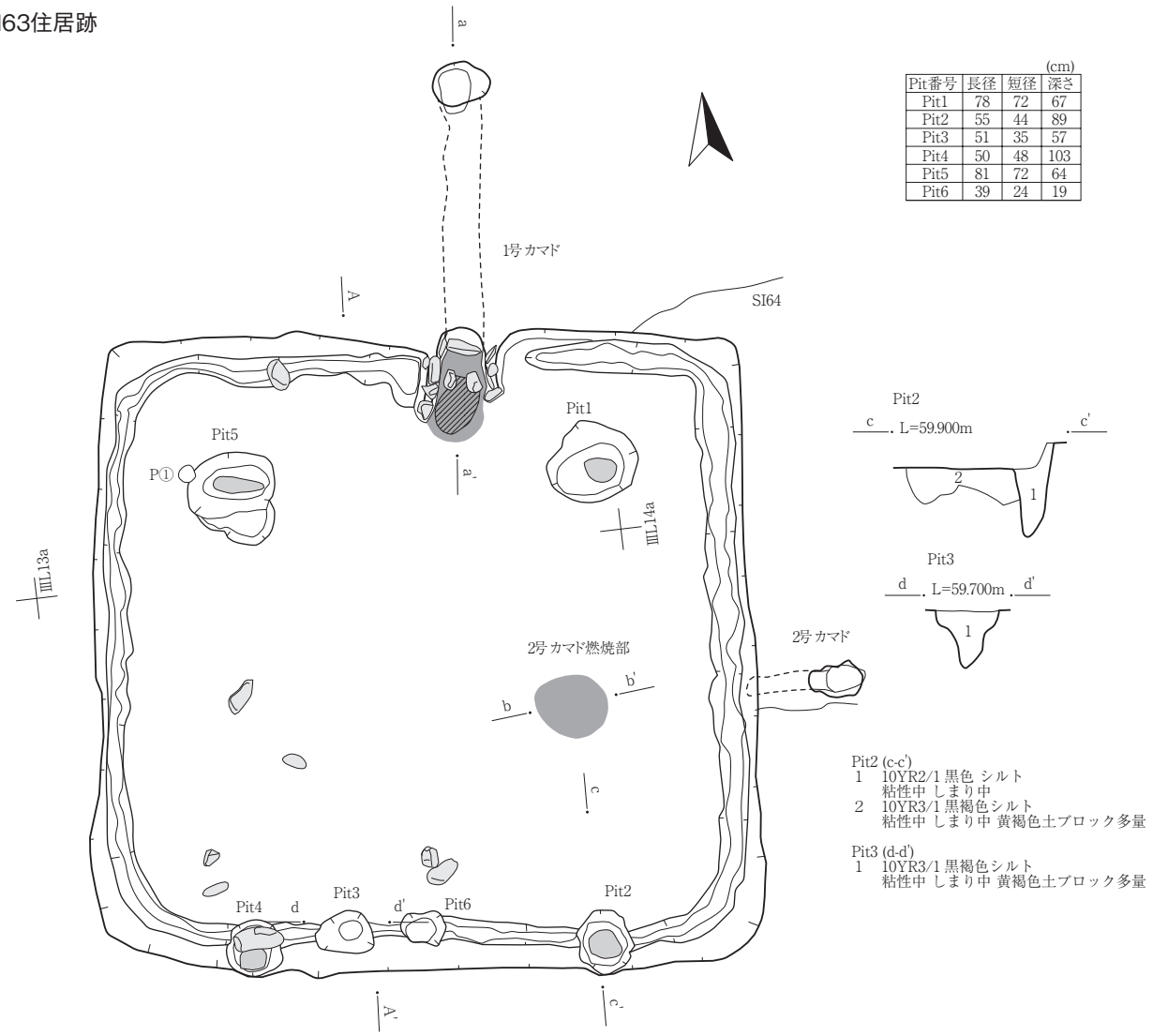
SI62カマド (a-a')
1　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　暗褐色土ブロック径1～3cm 3%含む
2　5YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
3　5YR6/8橙色 焼土 (硬化還元部分)
4　5YR4/6赤褐色 焼土

第 82 図　SI61 住居跡（2）・SI62 住居跡

SI63住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	78	72	67
Pit2	55	44	89
Pit3	51	35	57
Pit4	50	48	103
Pit5	81	72	64
Pit6	39	24	19

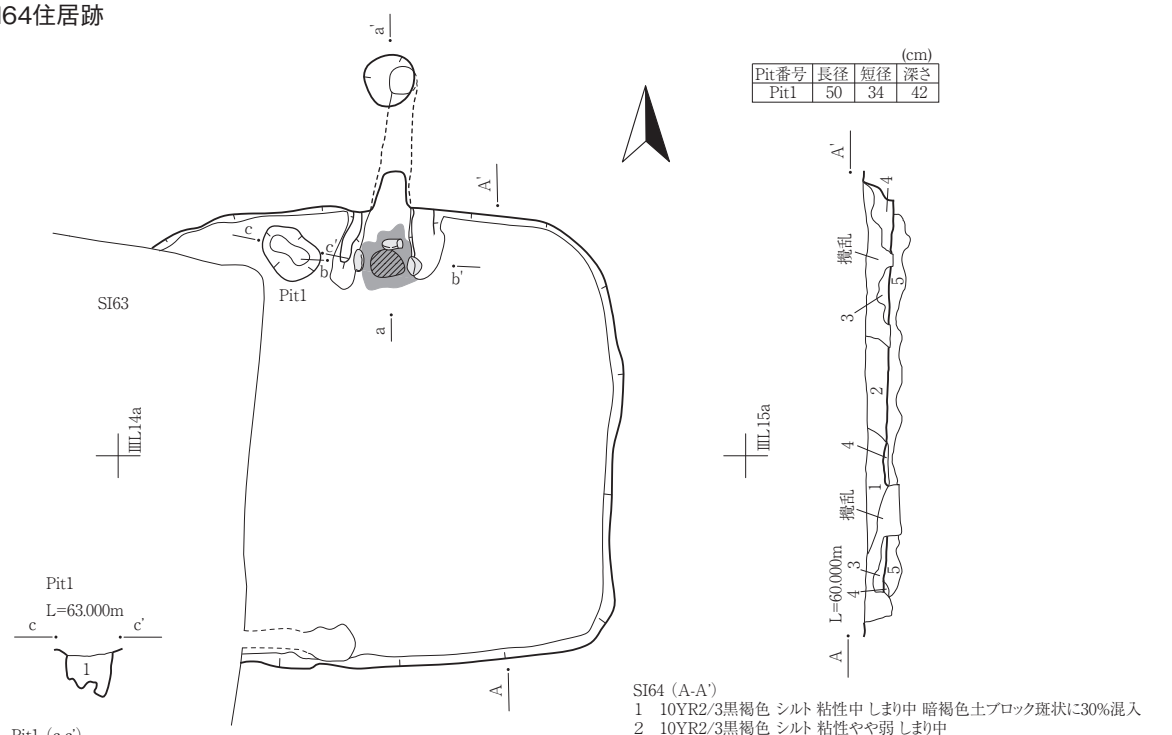


第 83 図　SI63 住居跡

SI64住居跡

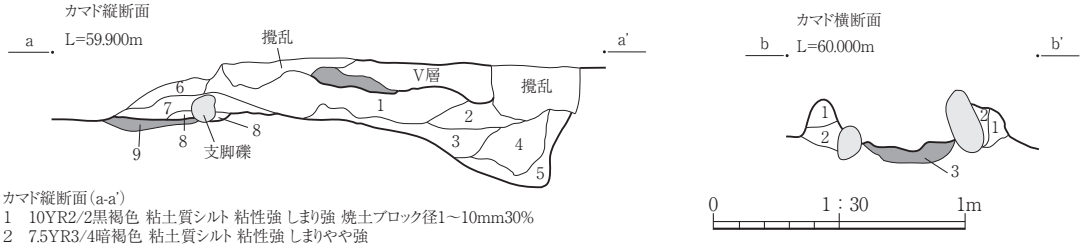
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	50	34	42



Pit1（c-c'）
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　褐色土ブロック5%含む

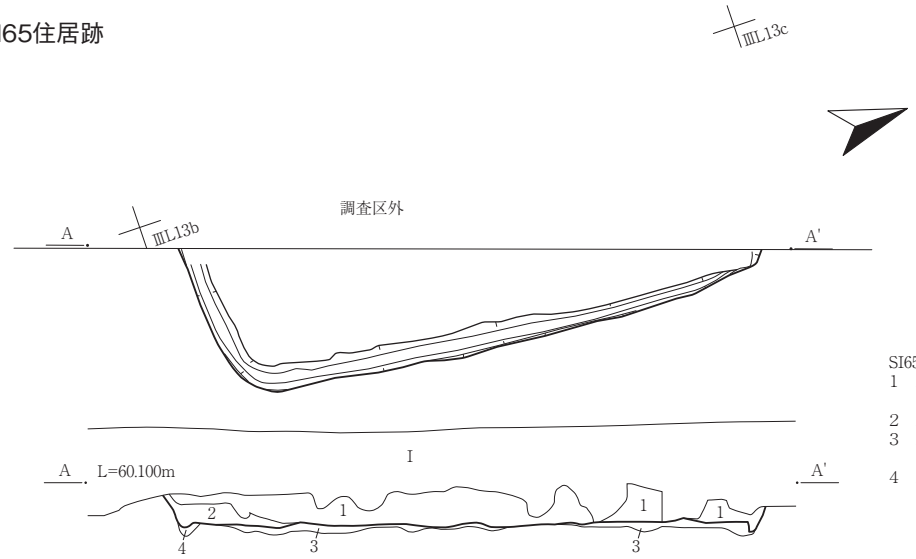
SI64（A-A'）
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土ブロック斑状に30%混入
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
3　10YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
4　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性強 しまり強
5　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中～強 しまり強（掘り方埋土）



カマド縦断面（a-a'）
1　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 焼土ブロック径1～10mm30%
2　7.5YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
3　7.5YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 焼土粒
4　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径5～10mm30%
5　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 上部強く被熱
6　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 (燃焼部天井部崩落ブロック)
7　5YR3/6暗赤褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや弱
8　10YR2/2黒褐色 粘土 粘性弱 しまり強 焼土粒
9　5YR4/6赤褐色 強変焼土 上面硬化

カマド横断面（b-b'）
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中（袖構築土）
2　7.5YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　弱い焼成受ける
3　5YR4/6赤褐色 強変焼土 上面硬化面あり

SI65住居跡



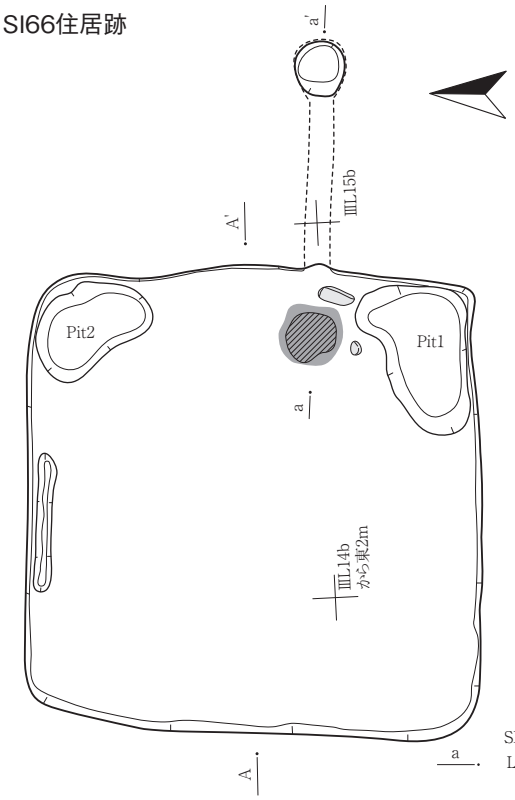
SI65 (A-A')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
　黒色土・暗褐色土細粒1%含む
2　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
　黒色土層状に含む
4　10YR4/6褐色 シルト 粘性強 しまり弱
　黒褐色土ブロック含む

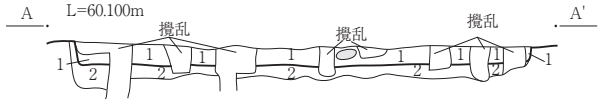
第 84 図　SI64 住居跡・SI65 住居跡

SI66住居跡

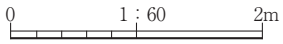
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	132	81	31
Pit2	96	60	30



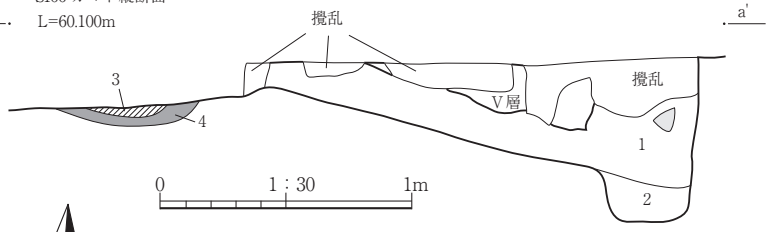


SI66 (A-A')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径2～3mm2%
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 黒褐色土ブロック5% (掘り方埋土)



SI66カマド (a-a')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱 10YR4/3にぶい黄橙色 シルト10％
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱 10YR4/3にぶい黄橙色 シルト5%
3　5YR6/8橙色 焼土 (硬化還元部分)
4　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

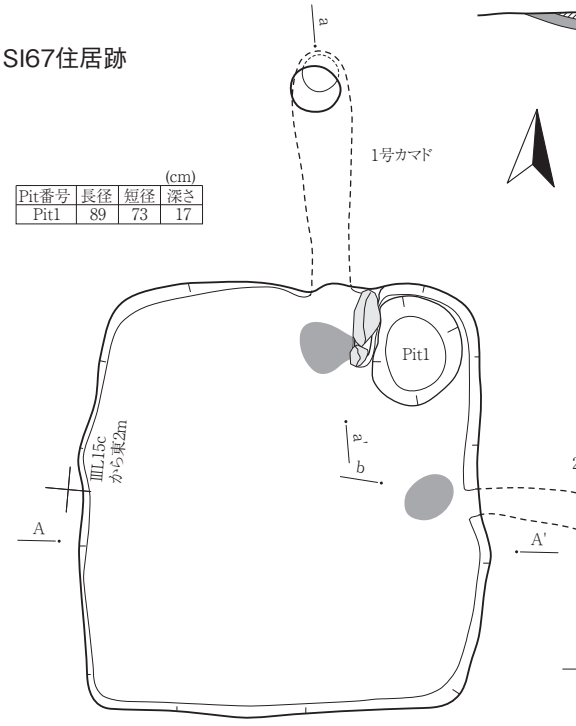
SI66 カマド縦断面
L=60.100m

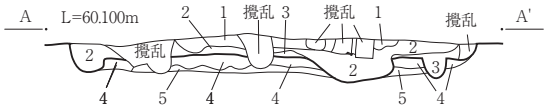


SI67住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	89	73	17

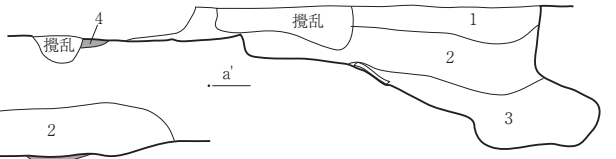




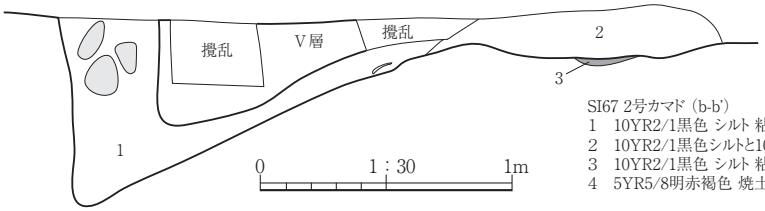
SI67 (A-A')
1　10YR7/6明黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 (水成堆積か)
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック2%
3　10YR4/3にぶい黄橙色 シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
5　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中

SI67 1号カマド (a-a')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 暗褐色土ブロック含む
3　5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強

SI67 2 号カマド縦断面
b　L=60.900m　b'



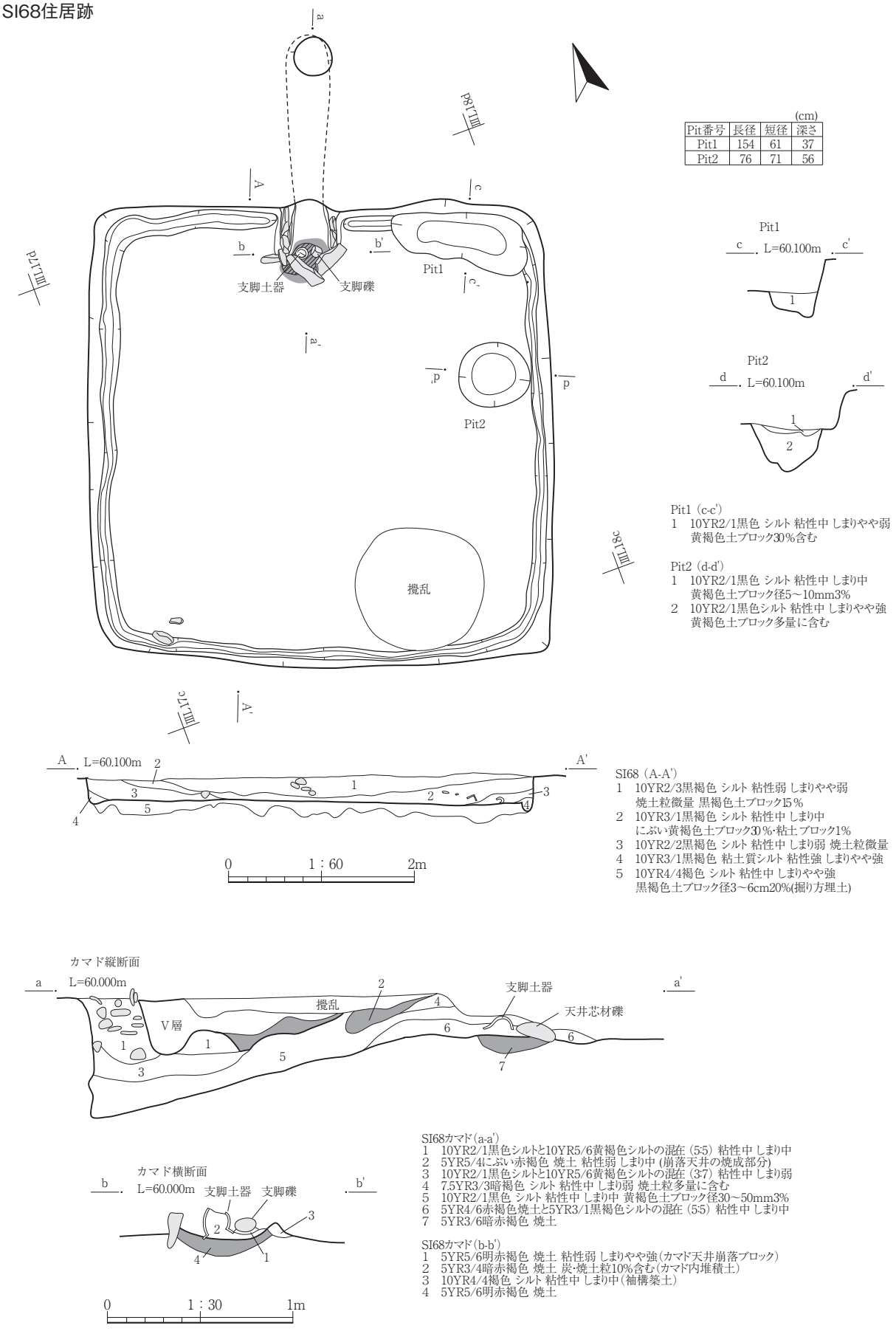
SI67 1 号カマド縦断面
a　L=60.100m



SI67 2号カマド (b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック径10mm2%・焼土粒1%
2　10YR2/1黒色シルトと10YR5/6黄褐色シルトの混在 (5:5) 粘性中 しまりやや弱
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱 にぶい黄橙色土ブロック30％
4　5YR5/8明赤褐色 焼土

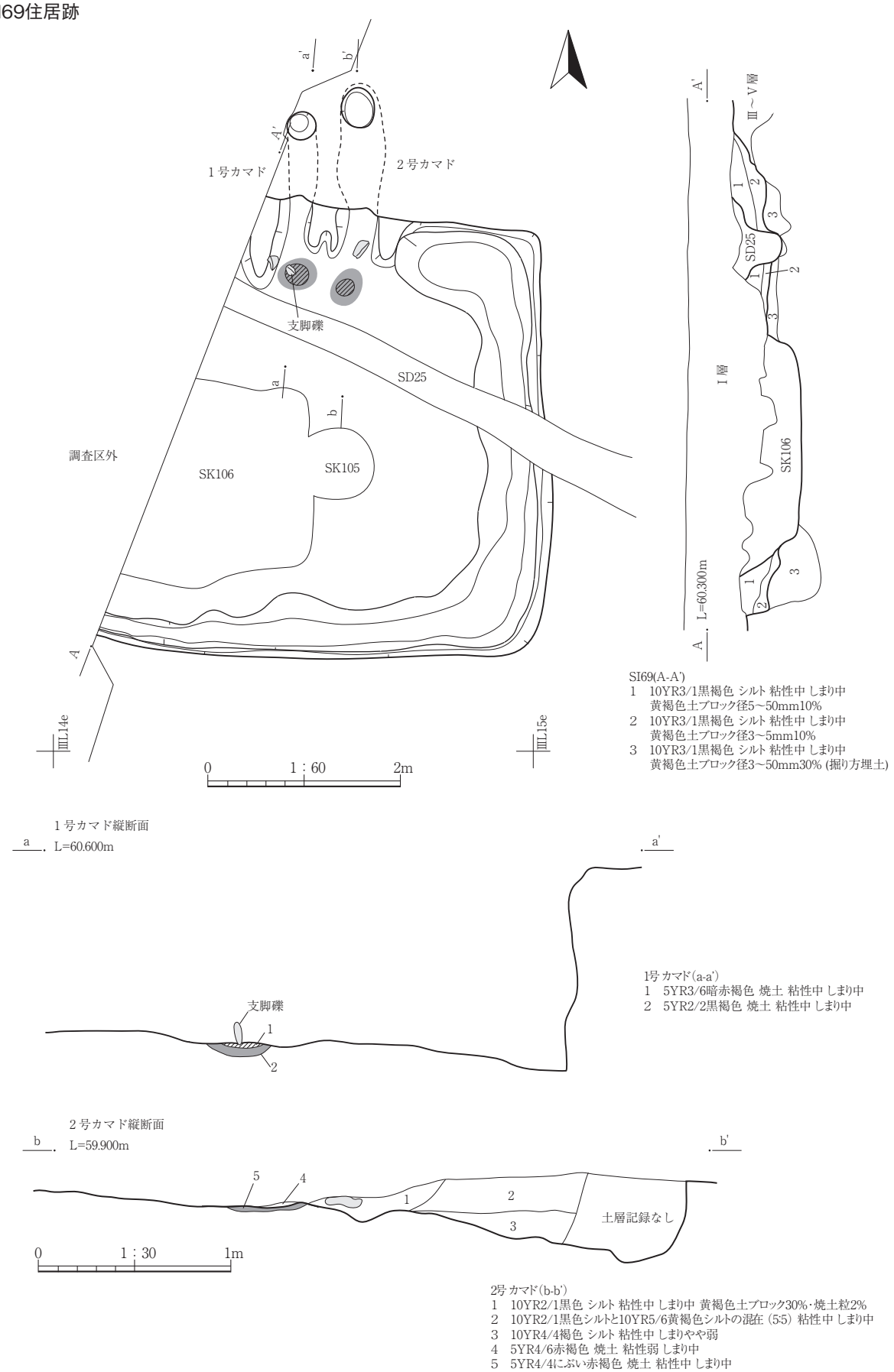
第 85 図　SI66 住居跡・SI67 住居跡

SI68住居跡



第 86 図　SI68 住居跡

SI69住居跡

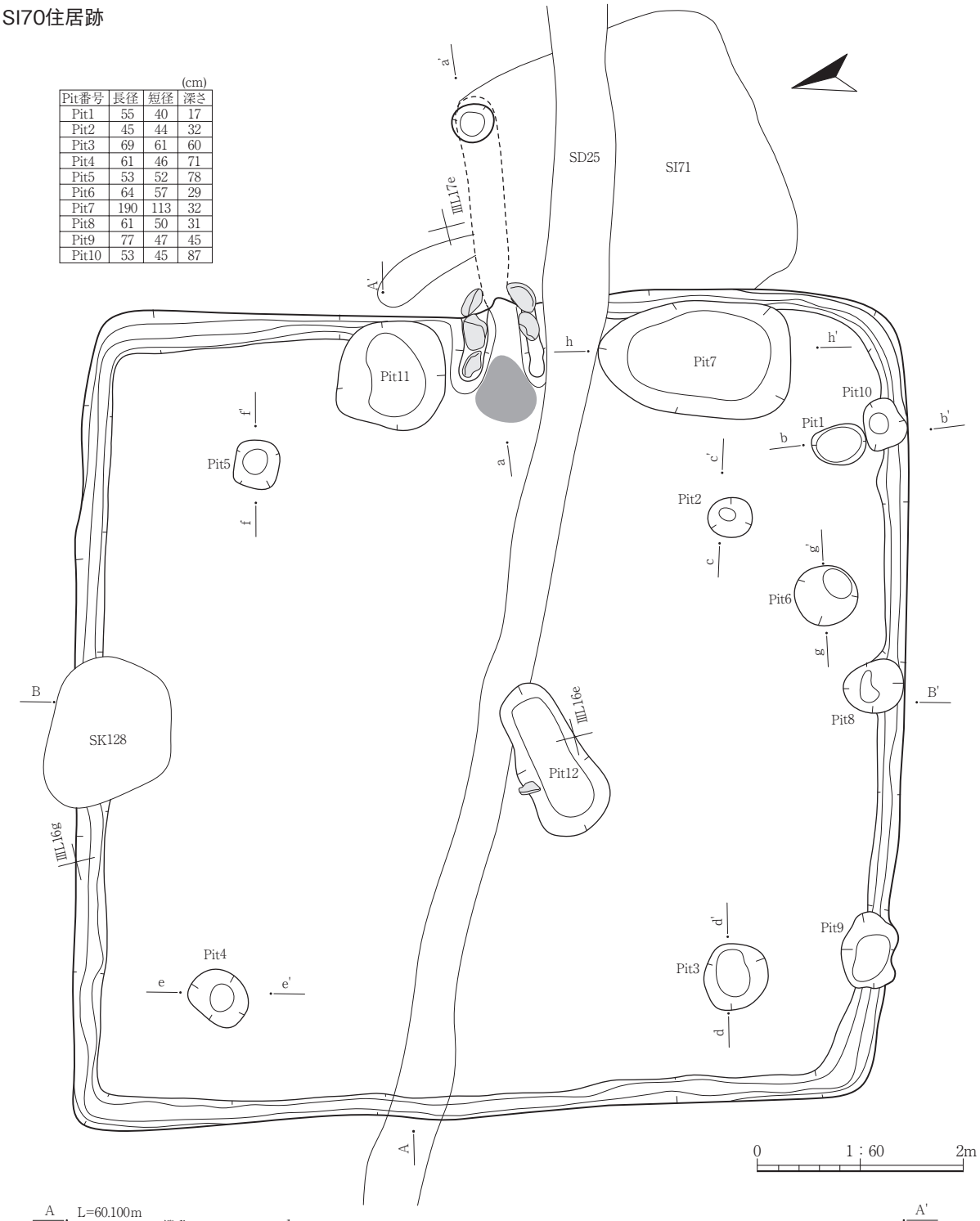


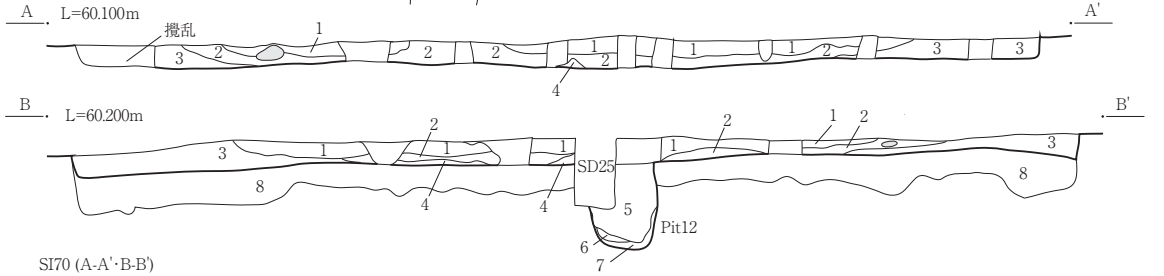
第 87 図　SI69 住居跡

SI70住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	55	40	17
Pit2	45	44	32
Pit3	69	61	60
Pit4	61	46	71
Pit5	53	52	78
Pit6	64	57	29
Pit7	190	113	32
Pit8	61	50	31
Pit9	77	47	45
Pit10	53	45	87

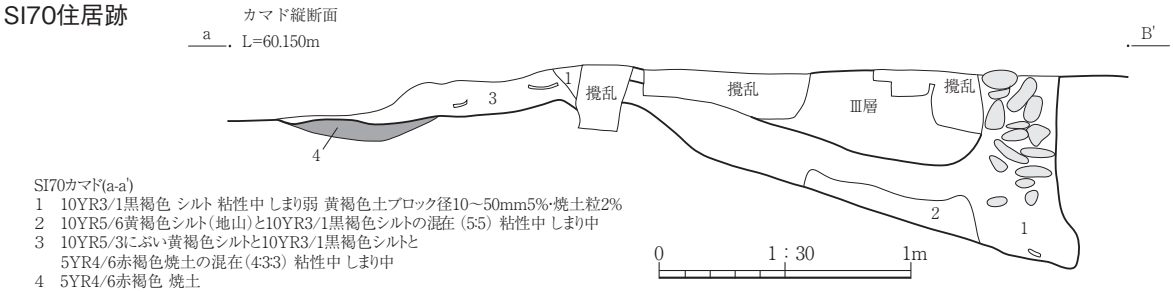




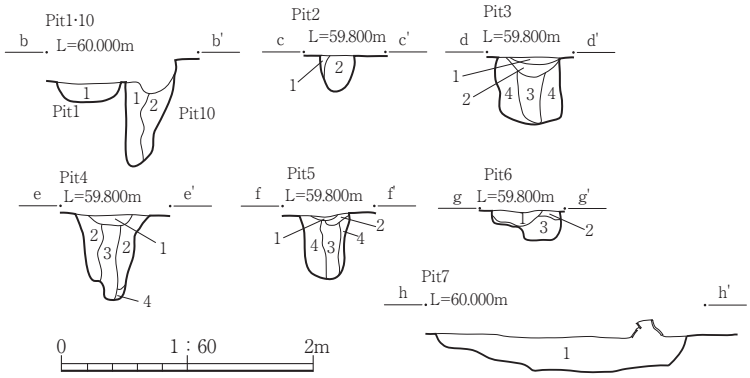
SI70 (A-A'・B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト にぶい黄褐色土ブロック含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 黄褐色土粒含む
3　10YR2/1黒色 シルト 炭化物・焼土粒・粘土 ブロック含む
4　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり中
5　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック・炭化物含む
6　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7　10YR2/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中

第 88 図　SI70 住居跡（1）

SI70住居跡

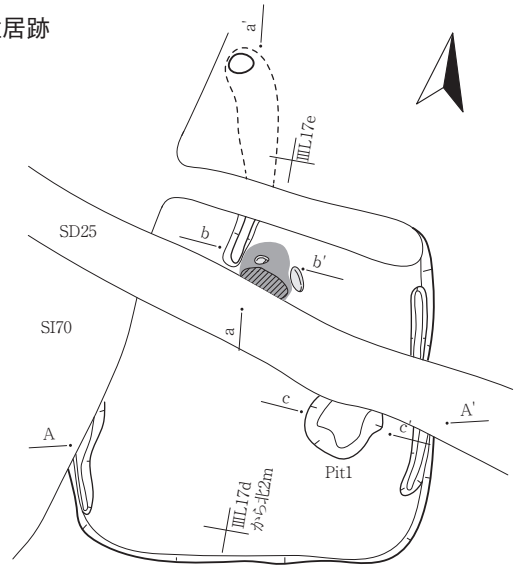


SI70カマド(a-a')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色土ブロック径10～50mm5%･焼土粒2%
2　10YR5/6黄褐色シルト(地山)と10YR3/1黒褐色シルトの混在 (5:5) 粘性中 しまり中
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/1黒褐色シルトと
　5YR4/6赤褐色焼土の混在(4:3:3) 粘性中 しまり中
4　5YR4/6赤褐色 焼土



Pit1(b-b')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 褐色土粒含む
Pit10(b-b')
1　10YR3/1黒褐色 シルトしまり弱
2　10YR3/2黒褐色 シルト 褐色土粒含む
Pit2(c-c')
1　10YR3/2黒褐色 シルト
2　10YR3/4暗褐色 シルト
Pit3(d-d')
1　10YR2/3黒褐色 シルトしまり弱
2　10YR3/3暗褐色 シルトしまり弱 炭化物含む
3　10YR3/4暗褐色 シルト 炭化物少量含む (柱痕跡)
4　10YR3/4暗褐色 シルトしまり強 褐色土小ブロック含む
Pit4 (e-e')
1　10YR2/3黒褐色 シルトしまり弱
2　10YR3/3暗褐色 シルトしまり弱 炭化物含む
3　10YR3/4暗褐色 シルトしまり弱(柱痕跡)
4　10YR3/4暗褐色 砂質シルト
Pit5 (f-f')
1　10YR3/2黒褐色 シルトしまり弱
2　10YR5/4にぶい黄褐色ブロック
3　10YR3/4暗褐色 シルトしまり弱(柱痕跡)
4　10YR3/4暗褐色 シルトしまりやや弱
Pit6 (g-g')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 黄褐色土粒含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト
3　10YR4/4褐色 シルト
Pit7 (h-h')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 黄褐色ブロック含む

SI71住居跡



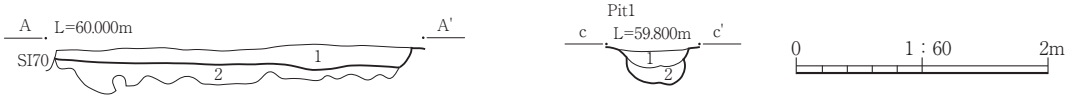
SI71 (A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭径5mm･焼土径1～5mm各1%
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック径3～5cm10%

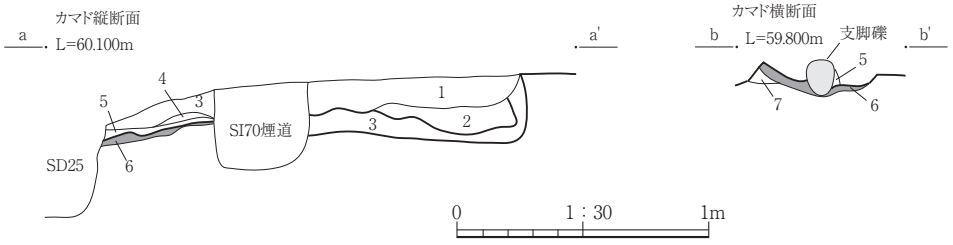
Pit1 (a-a')
1　10YR3/2黒褐色シルトと10YR2/1黒色シルトの混在 粘性中 しまり中
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルトと10YR3/2黒褐色シルトの混在 粘性中 しまり中

カマド (a-a'･b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 (地山陥没後の堆積土)
　焼土径1mm1%含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 (地山Ⅲ～Ⅴ層)
3　7.5YR3/3暗褐色焼土と5YR2/1黒褐色焼土の混在(煙道埋土)
4　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土ブロック径1～4mmと
　5YR3/6焼土の混在 粘性弱 しまり中
5　5YR5/6明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強
6　5YR6/6橙色 焼土 粘性弱 しまり強
7　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 (袖構築土)

(cm)

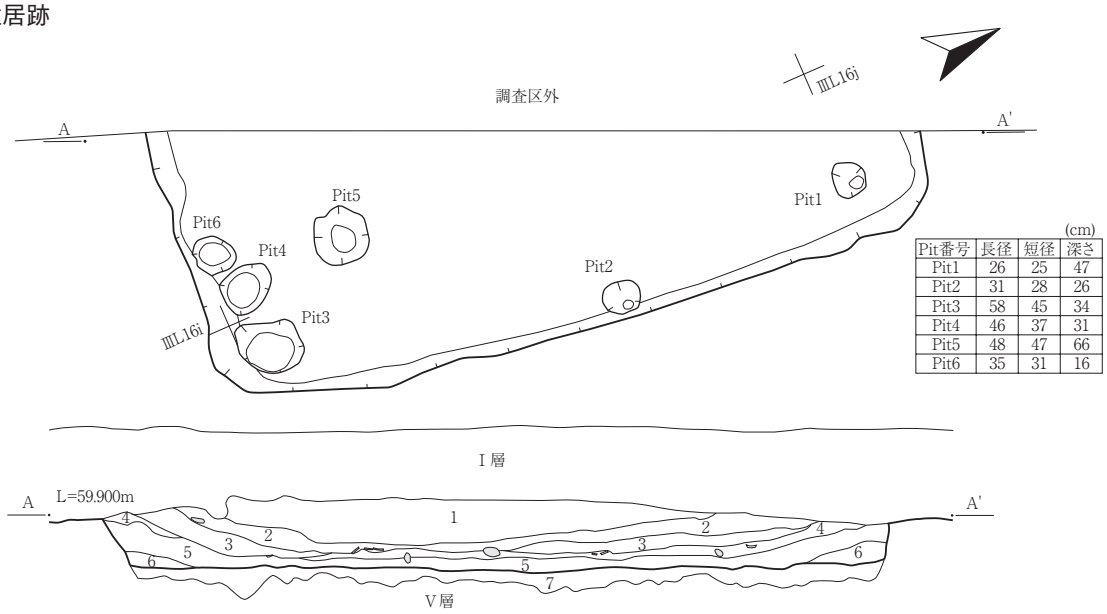
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	61	41	35





第 89 図　SI70 住居跡（2）・SI71 住居跡

SI72住居跡



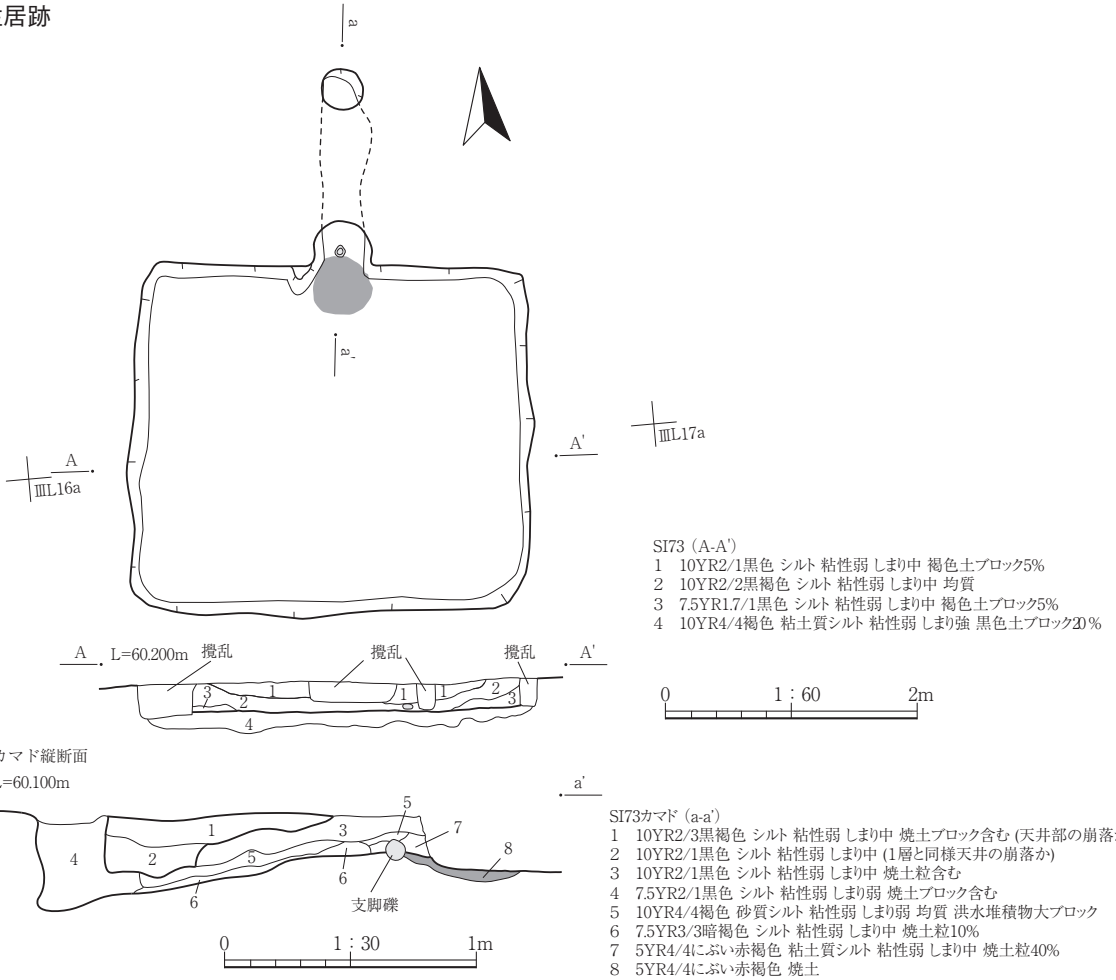
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	26	25	47
Pit2	31	28	26
Pit3	58	45	34
Pit4	46	37	31
Pit5	48	47	66
Pit6	35	31	16

SI72 (A-A')
1　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 夾雑物なし
2　7.5YR1.7/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 にぶい黄褐色土ブロック(洪水堆積物)10%含む
5　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒・炭化物含む
6　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
7　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中～強と黒色土の混在(1:1)(掘り方埋土)

0　1：60　2m

SI73住居跡



SI73 (A-A')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
3　7.5YR1.7/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり強 黒色土ブロック20%

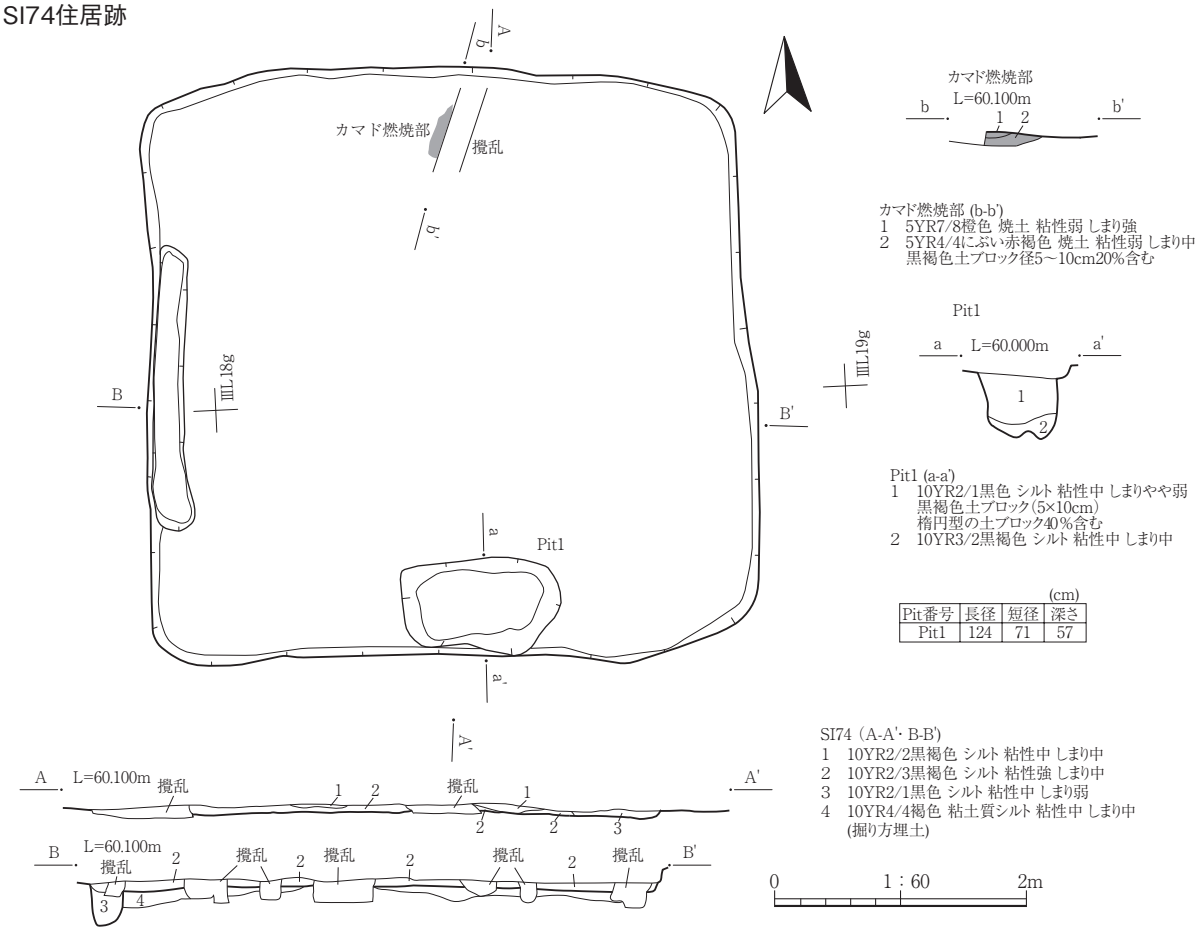
0　1：60　2m

SI73カマド (a-a')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック含む (天井部の崩落か)
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 (1層と同様天井の崩落か)
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
4　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
5　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 均質 洪水堆積物大ブロック
6　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒10%
7　5YR4/4にぶい赤褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒40%
8　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

0　1：30　1m

第 90 図　SI72 住居跡・SI73 住居跡

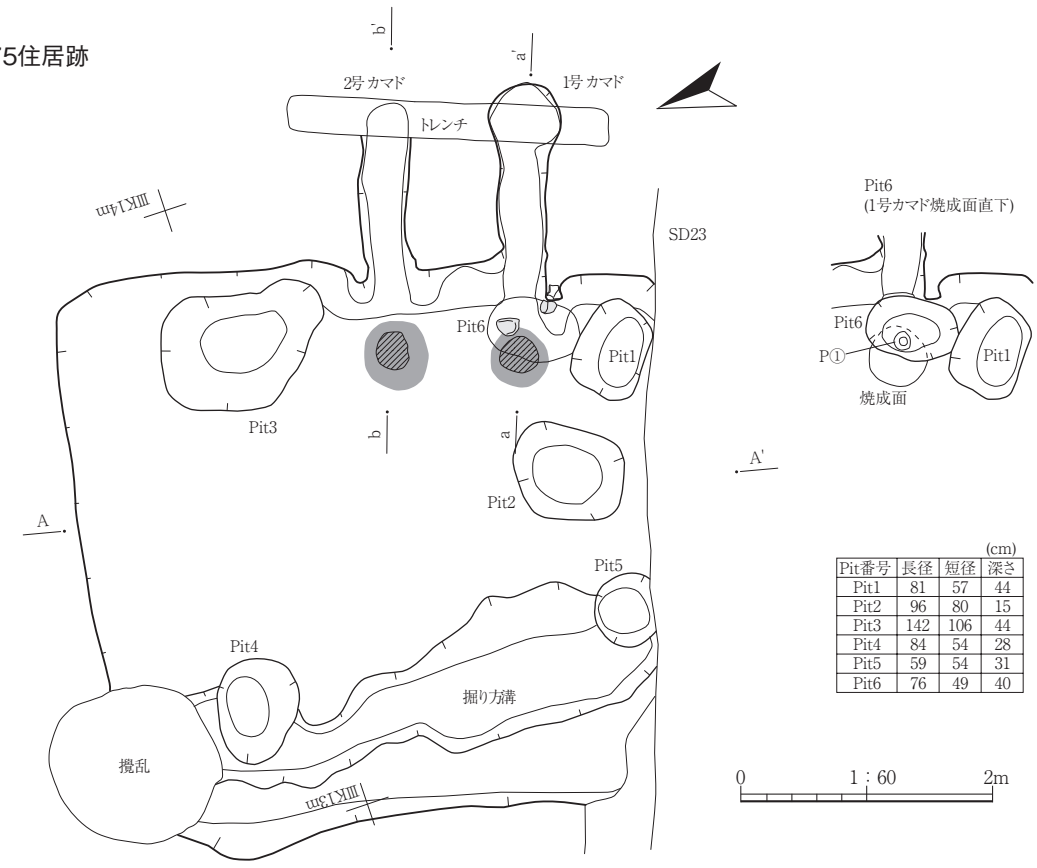
SI74住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	124	71	57

SI75住居跡

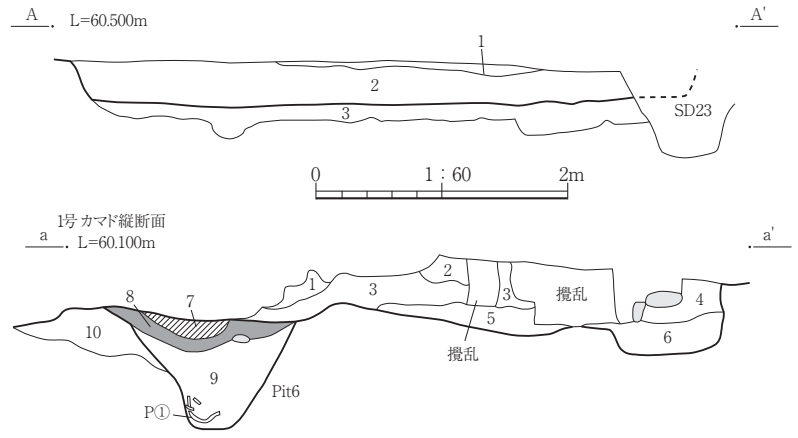


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	57	44
Pit2	96	80	15
Pit3	142	106	44
Pit4	84	54	28
Pit5	59	54	31
Pit6	76	49	40

第 91 図　SI74 住居跡・SI75 住居跡（1）

SI75住居跡

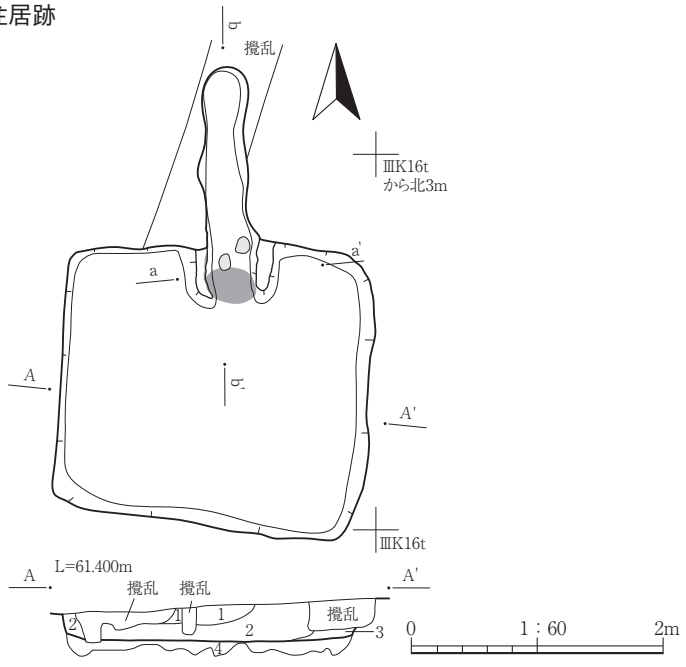


SI75 (A-A')
1　10YR4/4褐色 シルトと10YR2/2黒褐色 シルトの混在
　粘性中 しまり中
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　焼土ブロック径1～3cm1%含む
3　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中
　黒褐色土ブロックを層状に含む(掘り方埋土)

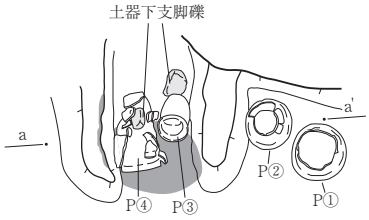
1号カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土粒含む(カマド上部堆積土)
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　(煙道内堆積焼土)
3　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
4　7.5YR4/3褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
5　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
6　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
7　5YR4/6赤褐色 シルト 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
8　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト (強変焼土)
9　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
　褐色土ブロック30% (Pit6埋土)
10　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック10％(掘り方埋土)

2号カマド (b-b')
1　5YR4/6赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土大ブロック
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 均質
　洪水堆積物か
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
　(煙道堆積土)
5　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 強変焼土

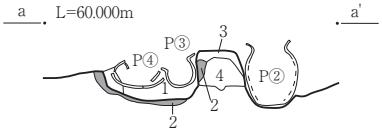
SI76住居跡



カマド周辺 S=1/30

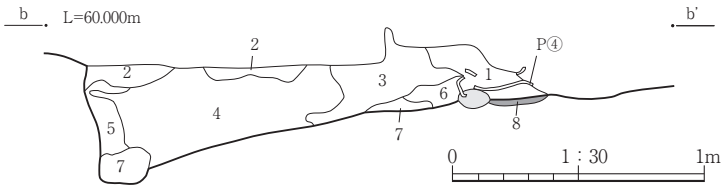


カマド横断面



SI76 (A-A')
1　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 褐色土ブロック10％含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒色土ブロック5%
4　10YR2/3黒褐色 粘土質シルト 粘性弱～中・しまり強 掘り方埋土

カマド縦断面

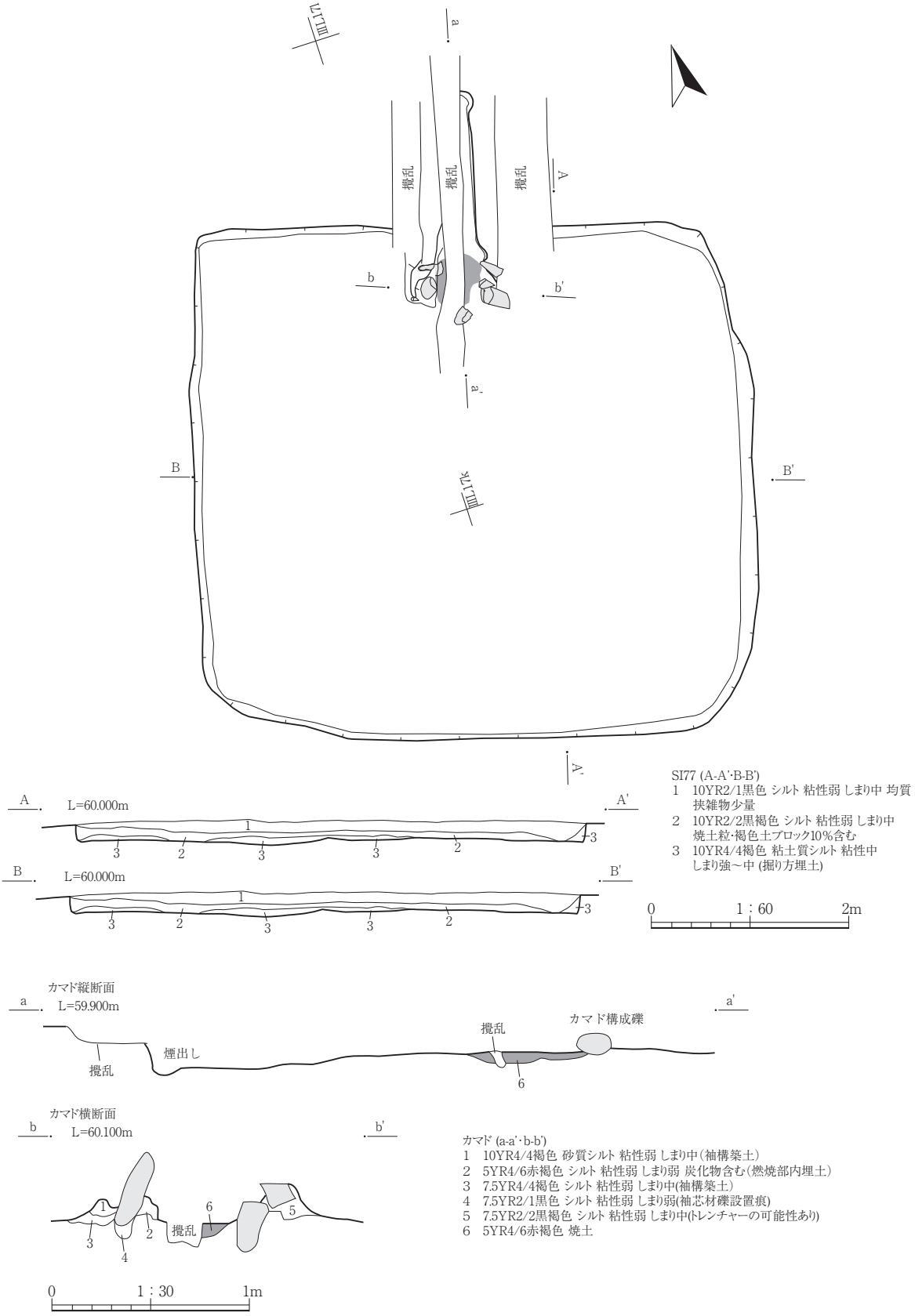


カマド (a-a')
1　5YR4/6赤褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土ブロックの集合 (燃焼部堆積土)
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 強変焼土
3　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中(袖構築土上部)
4　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中(袖構築土下部)

カマド (b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　暗褐色土ブロック含む
3　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
5　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
6　10YR3/4暗褐色 粘土 粘性強 しまり強
　硬化した焼土ブロック径10～20mm40%・炭化物微量
7　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱 しまり中
8　カマド燃焼部焼土

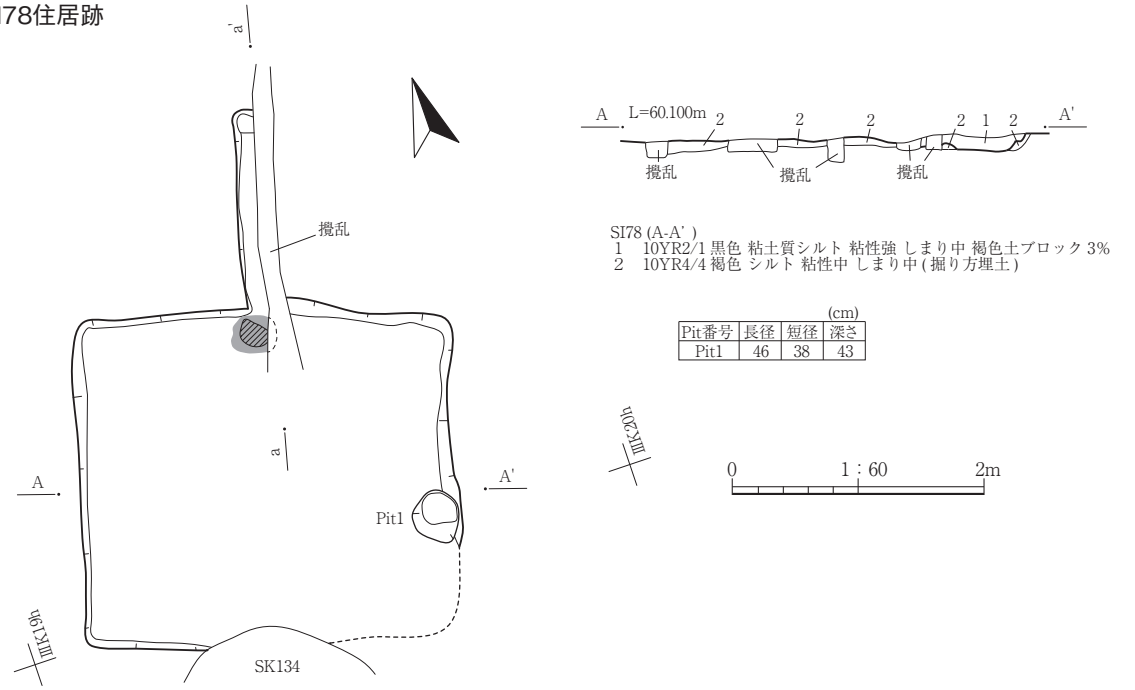
第 92 図　SI75 住居跡（2）・SI76 住居跡

SI77住居跡

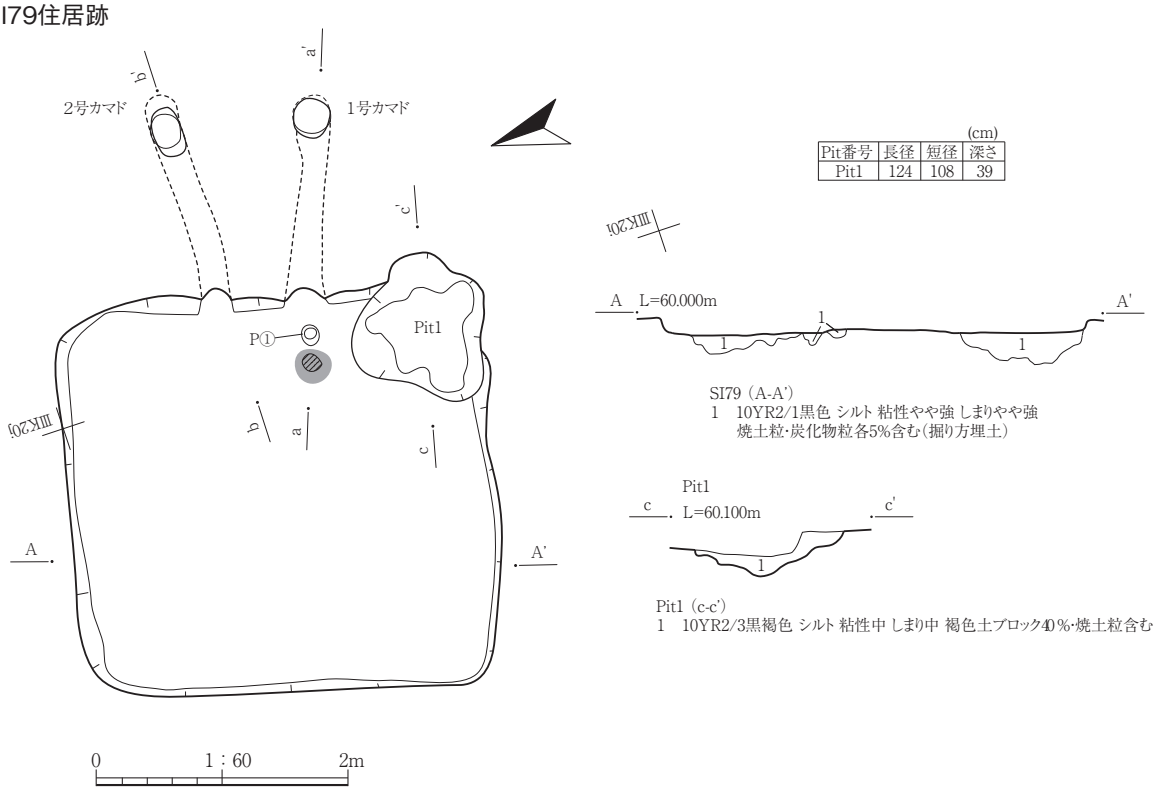


第 93 図　SI77 住居跡

SI78住居跡

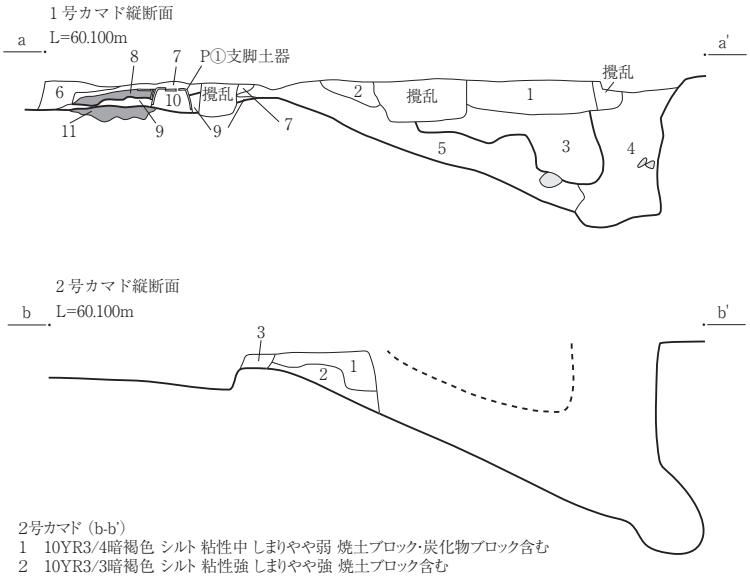


SI79住居跡



第 94 図　SI78 住居跡・SI79 住居跡（1）

SI79住居跡

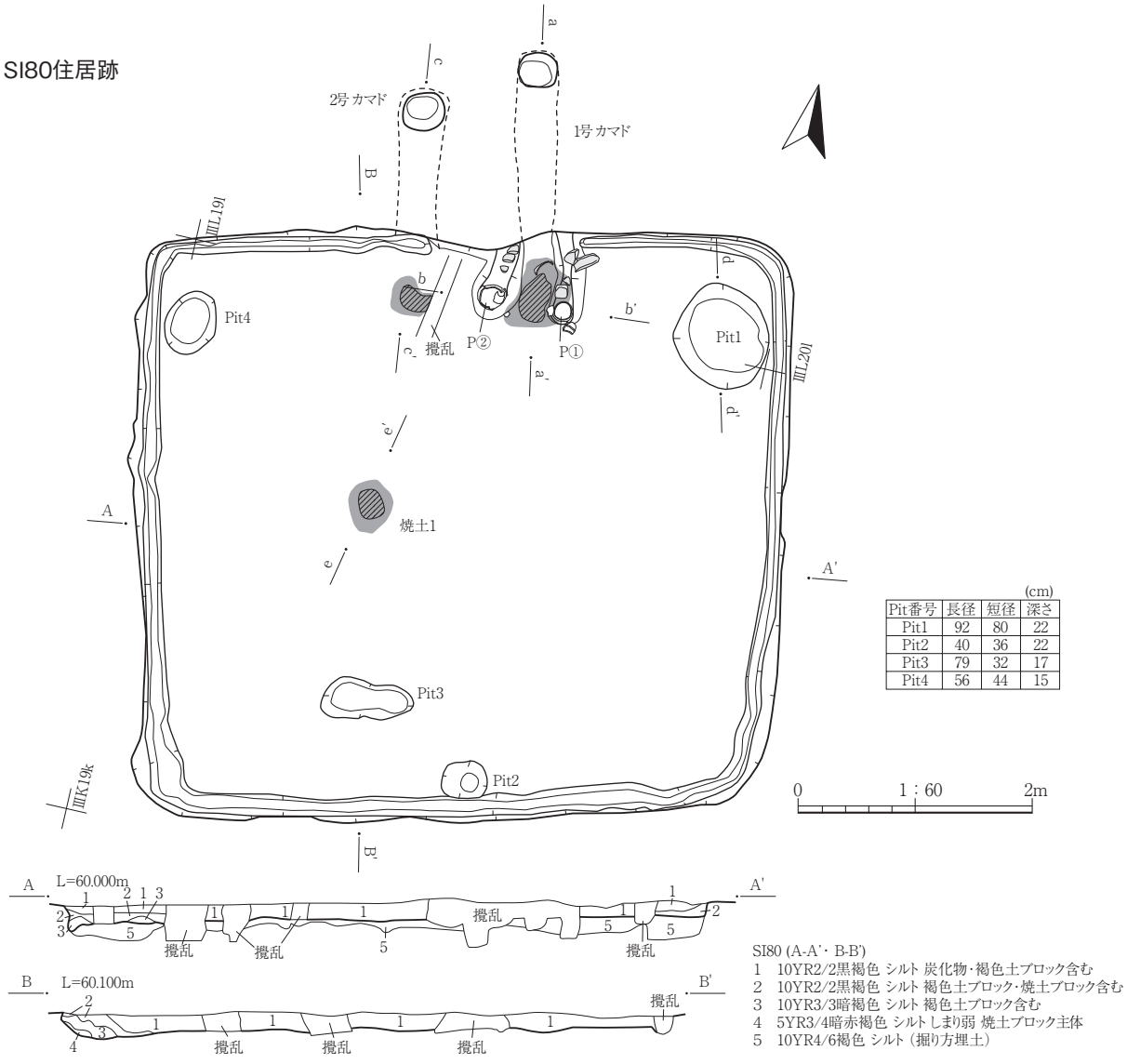


1号カマド（a-a'）
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
（崩落天井陥没部の埋土）
2　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
（煙道埋土上部）
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中（地山V層）
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
（煙出し埋土）
5　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
（煙道埋土）
6　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱（住居埋土）
7　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱（燃焼部天井）
8　5YR4/4にぶい赤褐色 砂質シルト (天井の焼成部分)
9　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物･焼土粒含む
（燃焼部埋土）
10　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
炭化物ブロック･焼土ブロック含む（支脚内埋土）
11　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 上面に強変した硬化面あり

0　1：30　1m

2号カマド（b-b'）
1　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土ブロック･炭化物ブロック含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック含む
3　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 (住居埋土)

SI80住居跡



(cm)

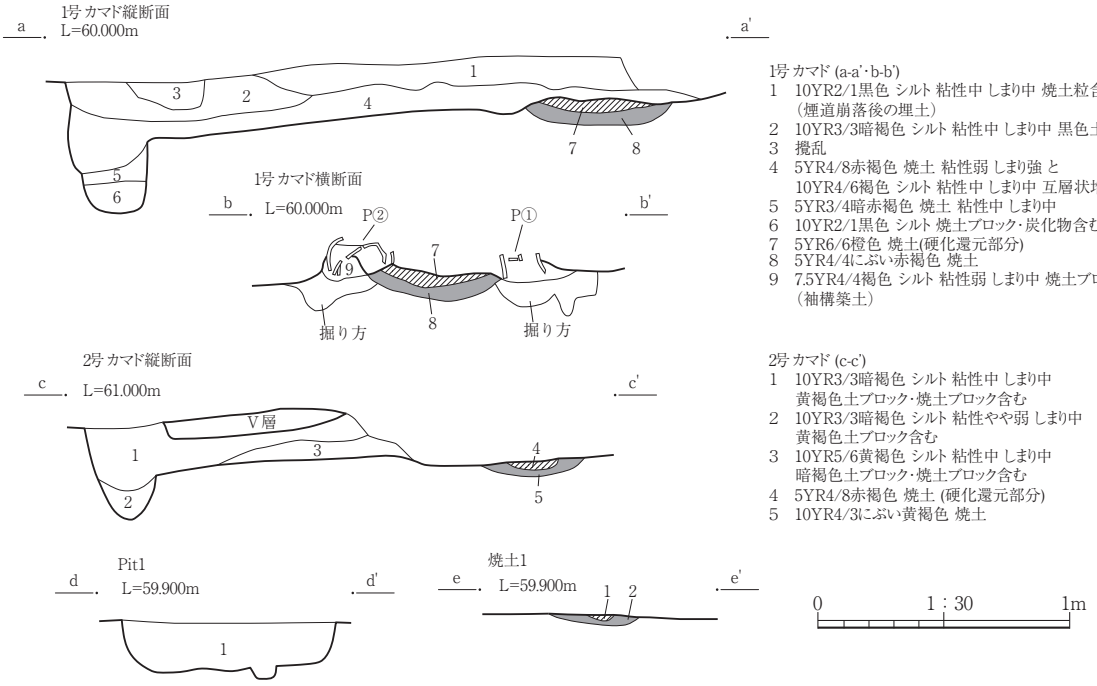
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	92	80	22
Pit2	40	36	22
Pit3	79	32	17
Pit4	56	44	15

0　1：60　2m

SI80 (A-A'・ B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 炭化物･褐色土ブロック含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 褐色土ブロック･焼土ブロック含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 褐色土ブロック含む
4　5YR3/4暗赤褐色 シルト しまり弱 焼土ブロック主体
5　10YR4/6褐色 シルト（掘り方埋土）

第 95 図　SI79 住居跡（2）・SI80 住居跡（1）

SI80住居跡



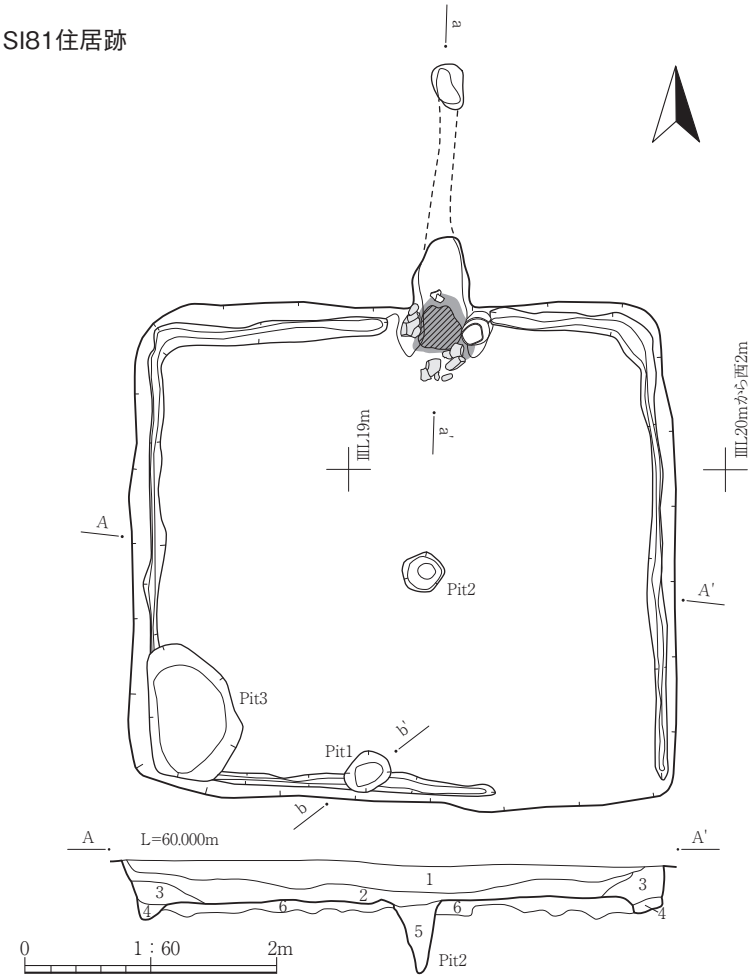
1号カマド (a-a'・b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 焼土粒含む
（煙道崩落後の埋土）
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 黒色土ブロック含む
3　撹乱
4　5YR4/8赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 と
10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 互層状堆積
5　5YR3/4暗赤褐色 焼土 粘性中 しまり中
6　10YR2/1黒色 シルト 焼土ブロック・炭化物含む
7　5YR6/6橙色 焼土(硬化還元部分)
8　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土
9　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック含む
（袖構築土）

2号カマド (c-c')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色土ブロック・焼土ブロック含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
黄褐色土ブロック含む
3　10YR5/6黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
暗褐色土ブロック・焼土ブロック含む
4　5YR4/8赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
5　10YR4/3にぶい黄褐色 焼土

Pit1 (d-d')
1　5YR2/3 極暗赤褐色 焼土主体シルト
粘性中 しまり中 炭化物 10%含む

焼土 1 (e-e')
1　5YR6/6 橙色 焼土 (硬化還元部分)
2　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土

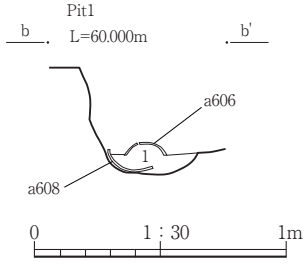
SI81住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	38	32	15
Pit2	34	31	62
Pit3	114	71	61

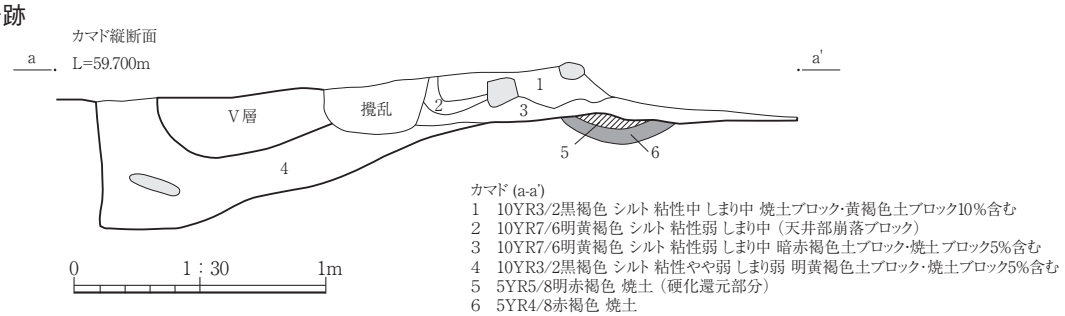
SI81 (A-A')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色ブロック5%含む
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
黄褐色ブロック3%含む
3　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
4　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
黄褐色土ブロック多量に含む（周溝埋土）
5　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
褐灰色土ブロック多量に含む (Pit2埋土)
6　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
褐灰色土ブロック含む（掘り方埋土）



Pit1 (b-b')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
灰黄褐色土ブロック3%含む

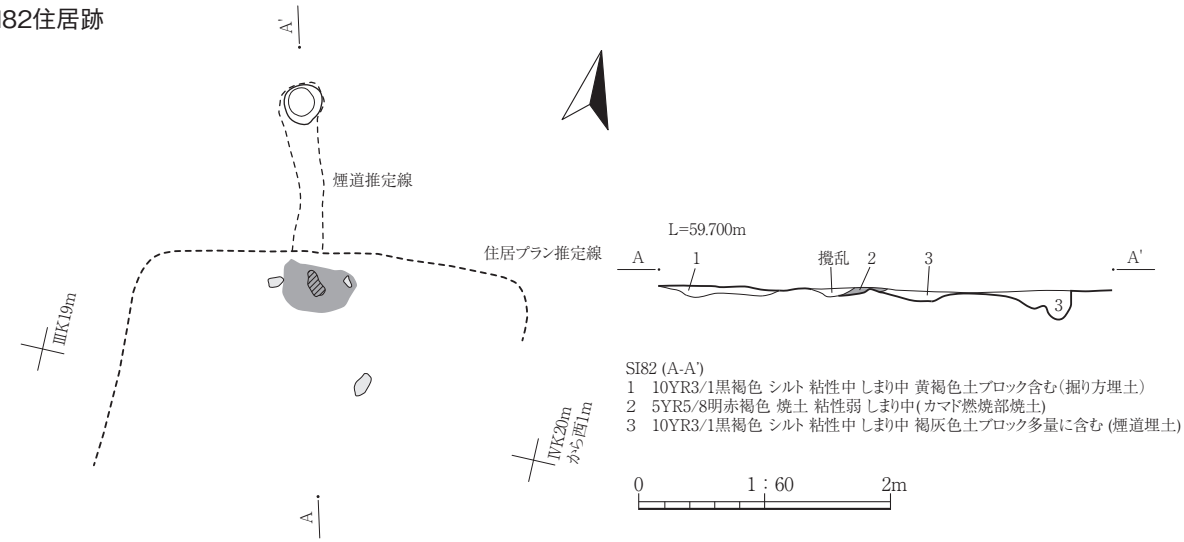
第 96 図　SI80 住居跡（2）・SI81 住居跡（1）

SI81住居跡



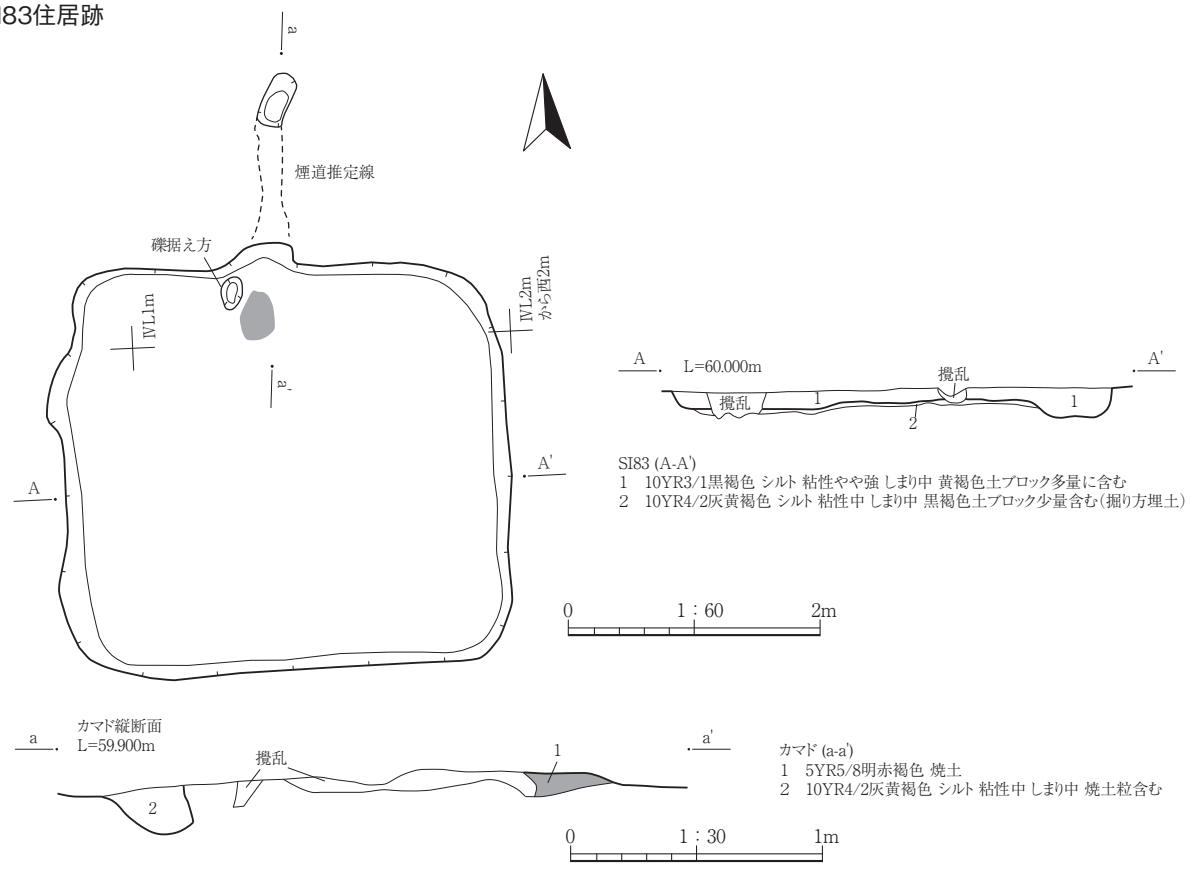
カマド (a-a')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック･黄褐色土ブロック10%含む
2　10YR7/6明黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中（天井部崩落ブロック）
3　10YR7/6明黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 暗赤褐色土ブロック･焼土ブロック5%含む
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 明黄褐色土ブロック･焼土ブロック5%含む
5　5YR5/8明赤褐色 焼土（硬化還元部分）
6　5YR4/8赤褐色 焼土

SI82住居跡



SI82 (A-A')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土ブロック含む(掘り方埋土)
2　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中(カマド燃焼部焼土)
3　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐灰色土ブロック多量に含む (煙道埋土)

SI83住居跡

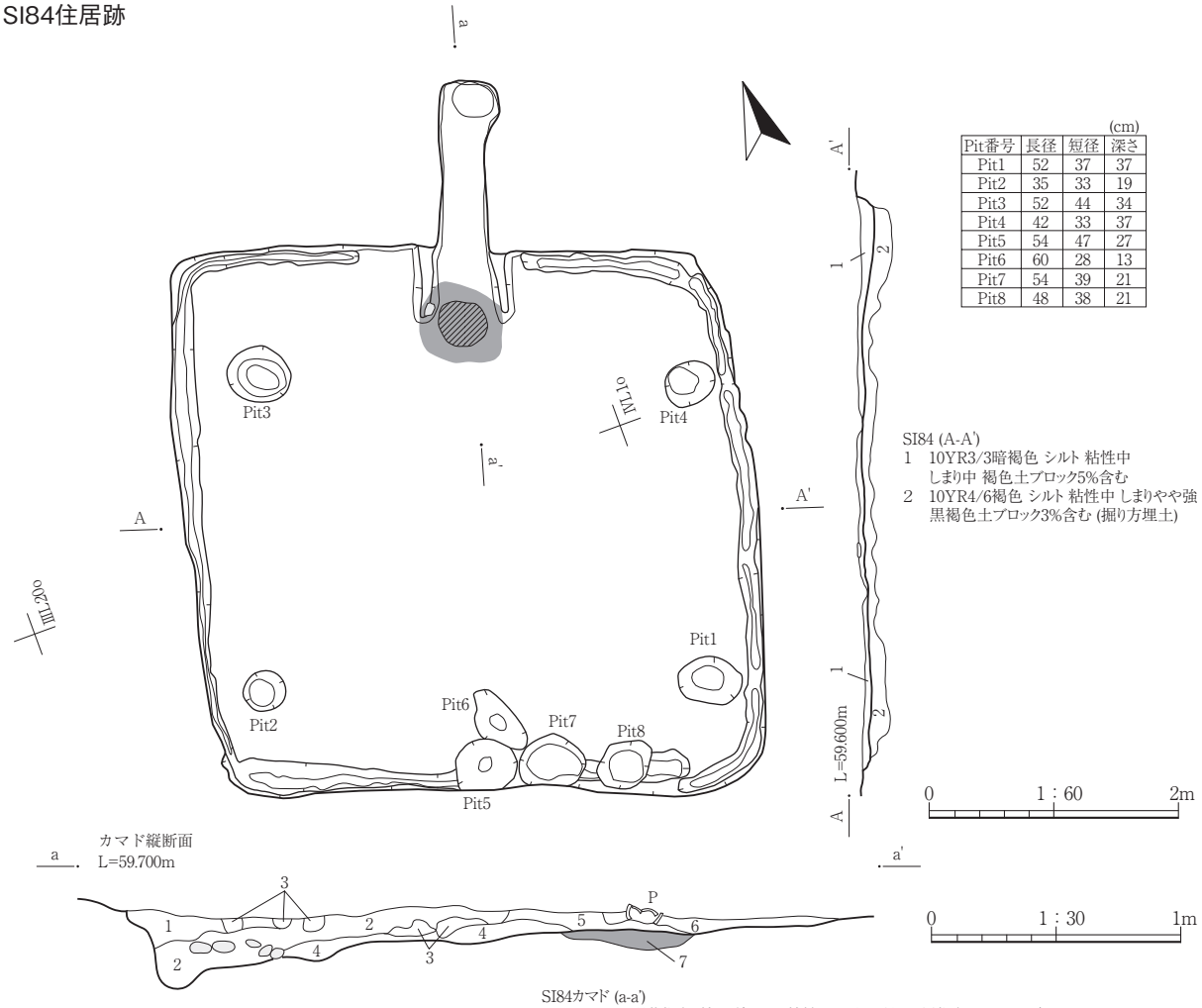


SI83 (A-A')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 黄褐色土ブロック多量に含む
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 黒褐色土ブロック少量含む(掘り方埋土)

カマド (a-a')
1　5YR5/8明赤褐色 焼土
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土粒含む

第 97 図　SI81 住居跡（2）・SI82 住居跡・SI83 住居跡

SI84住居跡



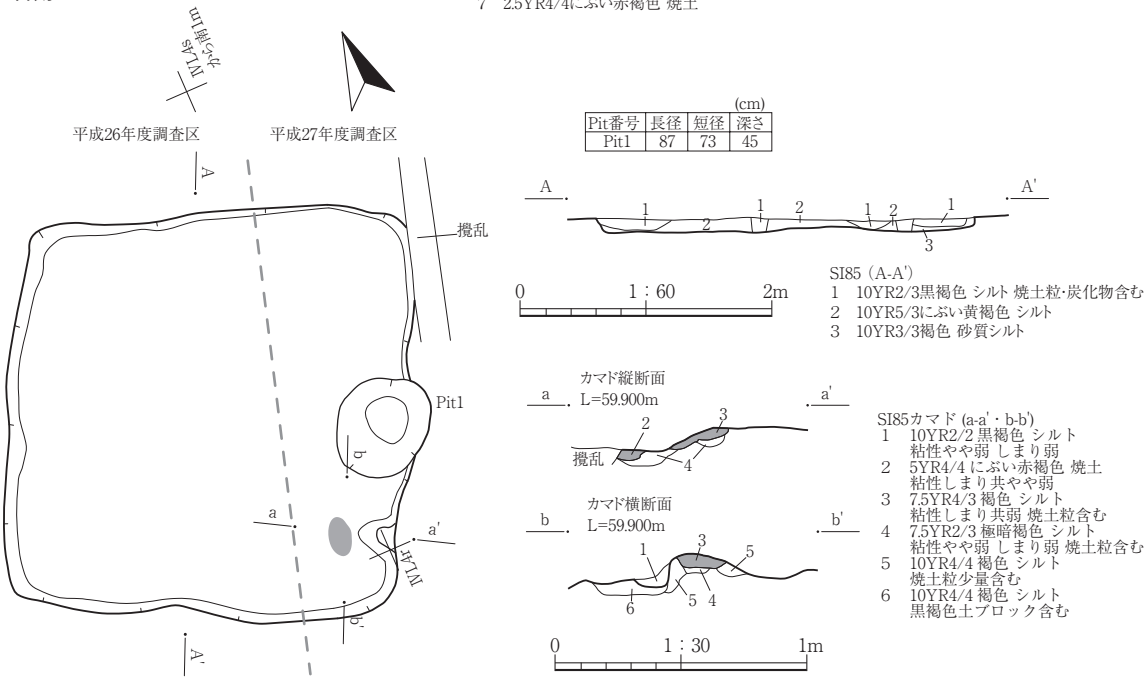
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	52	37	37
Pit2	35	33	19
Pit3	52	44	34
Pit4	42	33	37
Pit5	54	47	27
Pit6	60	28	13
Pit7	54	39	21
Pit8	48	38	21

SI84 (A-A')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック5%含む
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 黒褐色土ブロック3%含む (掘り方埋土)

SI84カマド (a-a')
1　10YR6/6明黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 黒褐色土ブロック含む
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 明黄褐色土ブロック多量に含む
3　10YR6/6明黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 下位面2～3cm程度赤変(煙道部天井崩落層)
4　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 明赤褐色焼土ブロック多量に含む
5　10YR6/6明黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロック含む
6　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

SI85住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	87	73	45

SI85（A-A'）
1　10YR2/3黒褐色 シルト 焼土粒･炭化物含む
2　10YR5/3にぶい黄褐色 シルト
3　10YR3/3褐色 砂質シルト

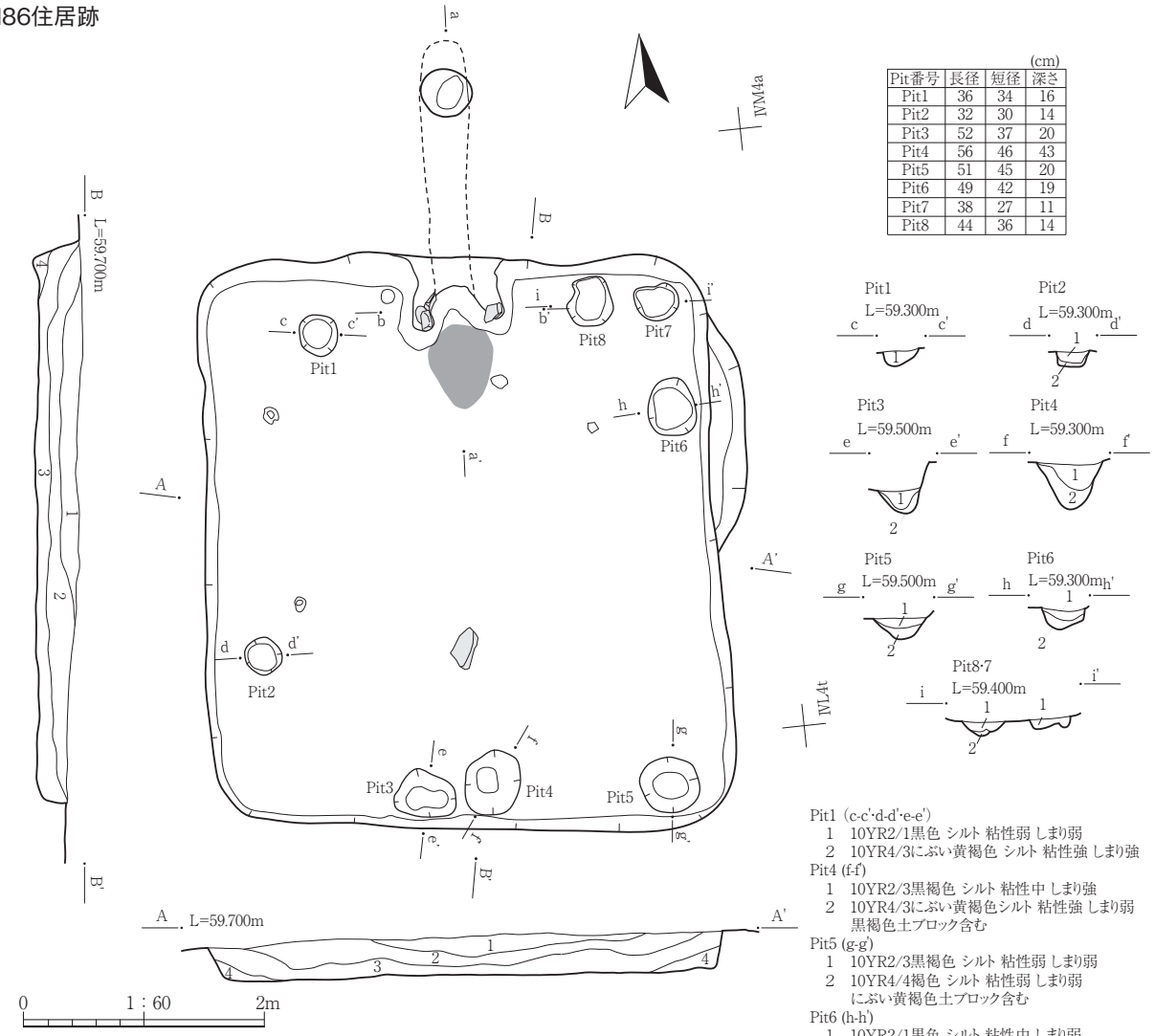
SI85カマド (a-a'・b-b')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
2　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 粘性しまり共やや弱
3　7.5YR4/3 褐色 シルト 粘性しまり共弱 焼土粒含む
4　7.5YR2/3 極暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 焼土粒含む
5　10YR4/4 褐色 シルト 焼土粒少量含む
6　10YR4/4 褐色 シルト 黒褐色土ブロック含む

第 98 図　SI84 住居跡・SI85 住居跡

SI86住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	36	34	16
Pit2	32	30	14
Pit3	52	37	20
Pit4	56	46	43
Pit5	51	45	20
Pit6	49	42	19
Pit7	38	27	11
Pit8	44	36	14



SI86 (A-A'·B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭化物少量含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 にぶい黄褐色土ブロック含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 にぶい黄褐色土ブロック含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強

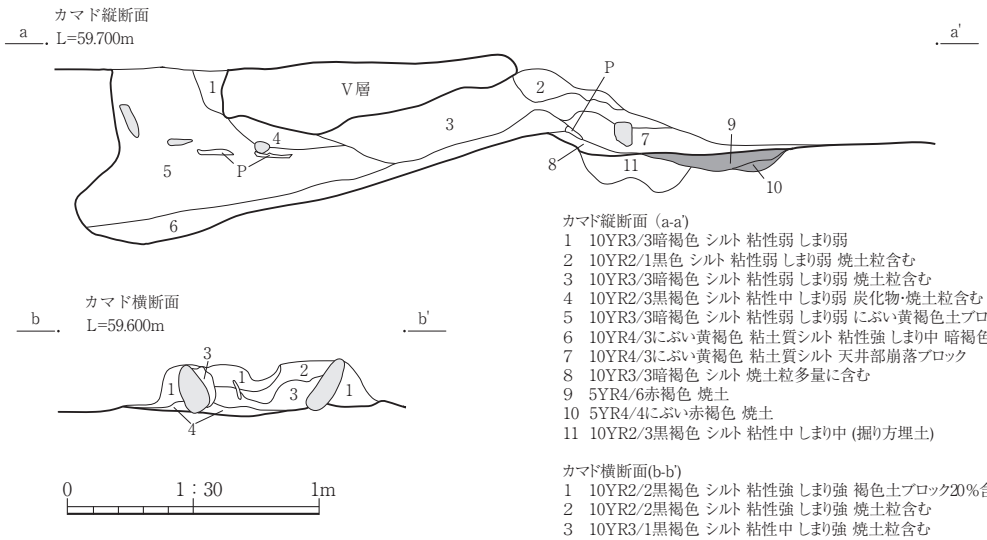
Pit1（c-c'·d-d'·e-e'）
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強

Pit4 (f-f')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
2　10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性強 しまり弱
　黒褐色土ブロック含む

Pit5 (g-g')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　にぶい黄褐色土ブロック含む

Pit6 (h-h')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱

Pit7・8 (i-i')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土粒含む

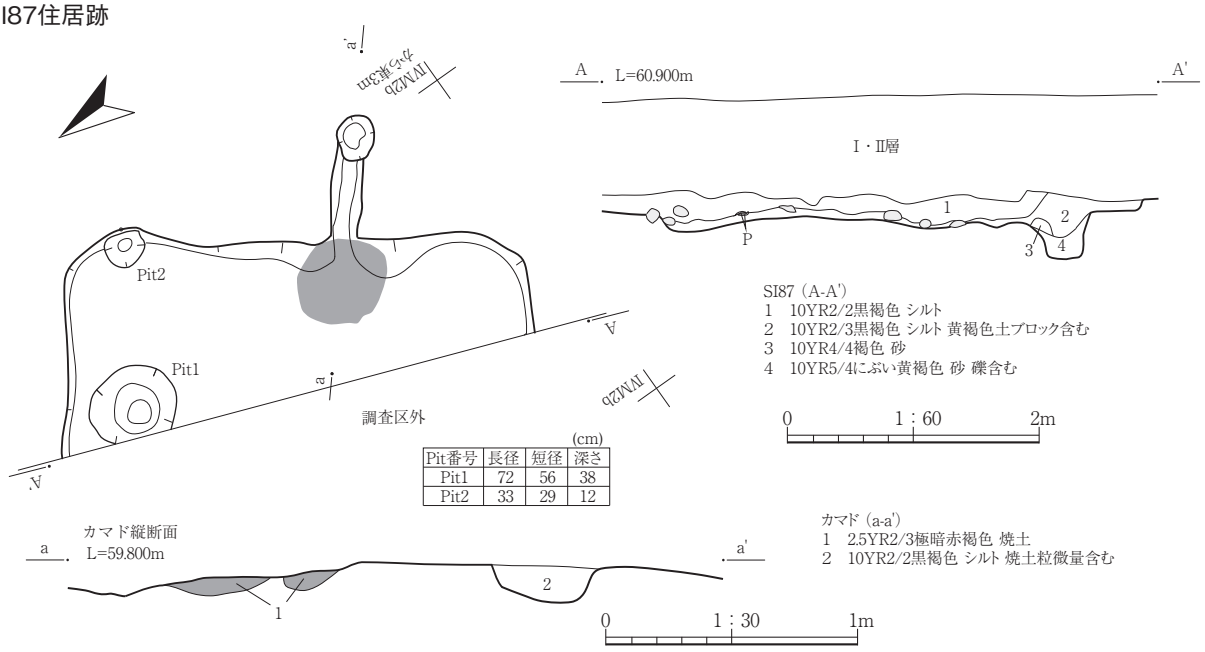


カマド縦断面（a-a'）
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 炭化物·焼土粒含む
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 にぶい黄褐色土ブロック含む
6　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中 暗褐色土ブロック含む
7　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 天井部崩落ブロック
8　10YR3/3暗褐色 シルト 焼土粒多量に含む
9　5YR4/6赤褐色 焼土
10　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土
11　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 (掘り方埋土)

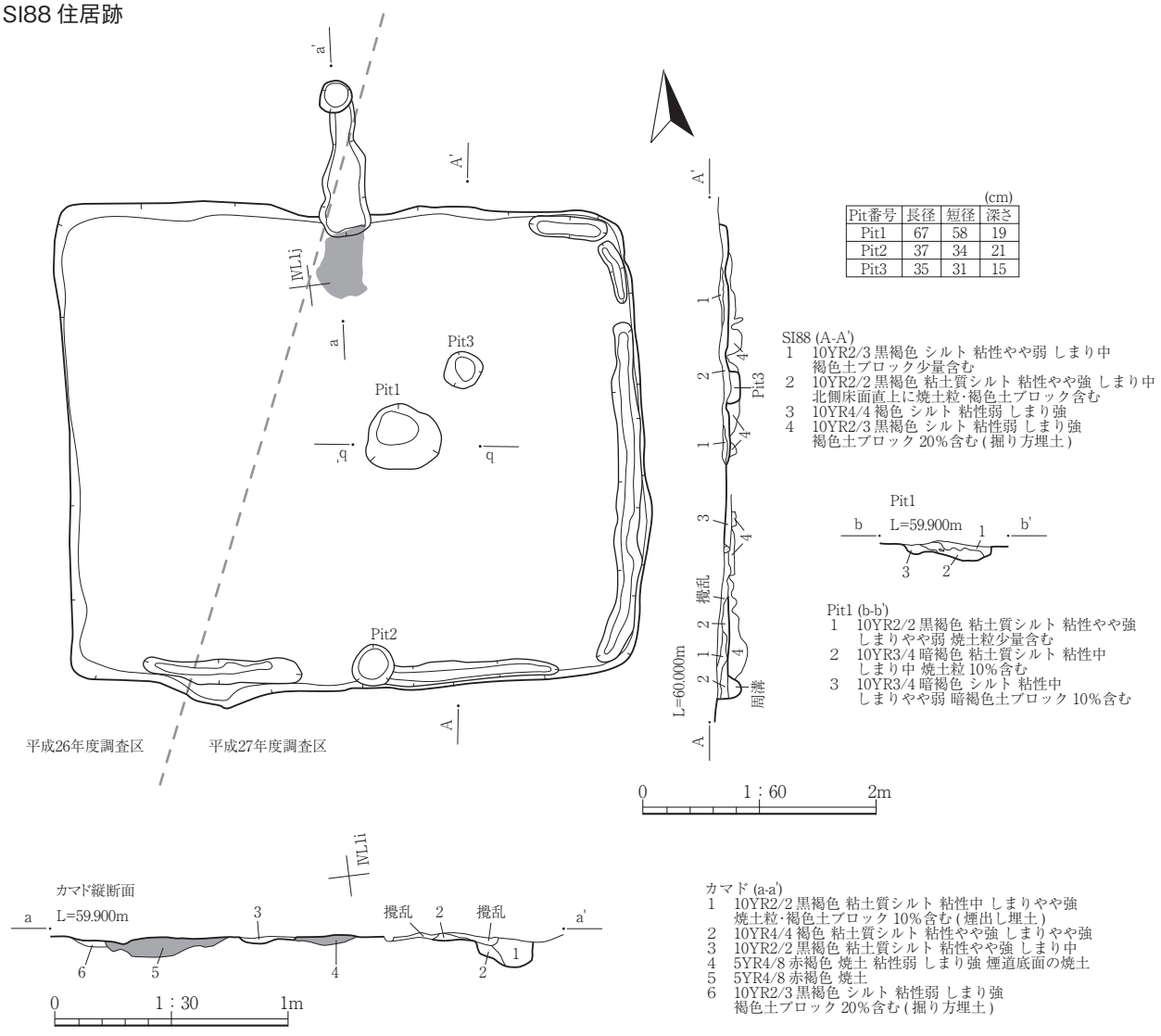
カマド横断面(b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 褐色土ブロック20%含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 焼土粒含む
3　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 焼土粒含む
4　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 焼土粒含む

第 99 図　SI86 住居跡

SI87住居跡



SI88 住居跡

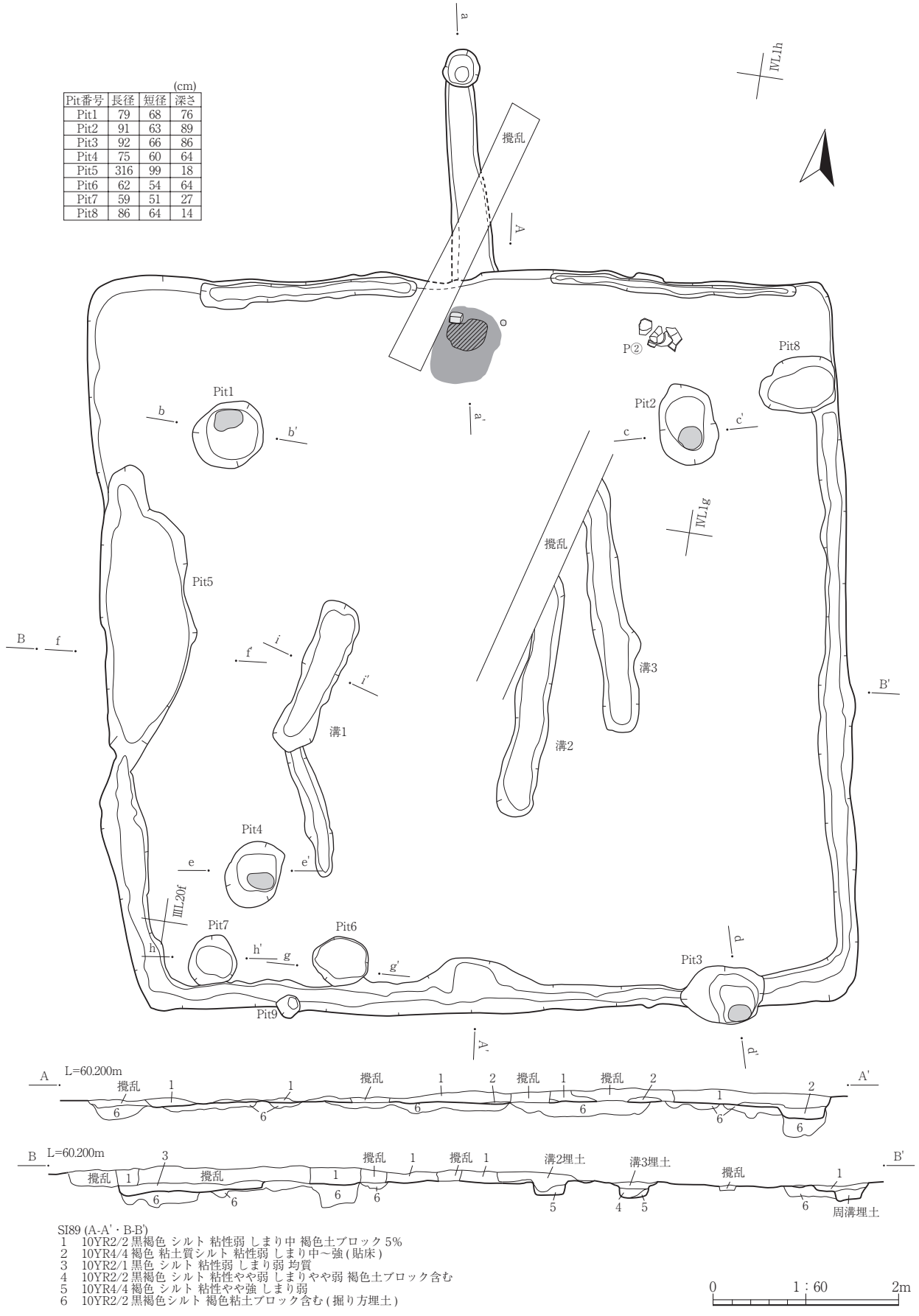


第 100 図　SI87 住居跡・SI88 住居跡

SI89住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	79	68	76
Pit2	91	63	89
Pit3	92	66	86
Pit4	75	60	64
Pit5	316	99	18
Pit6	62	54	64
Pit7	59	51	27
Pit8	86	64	14

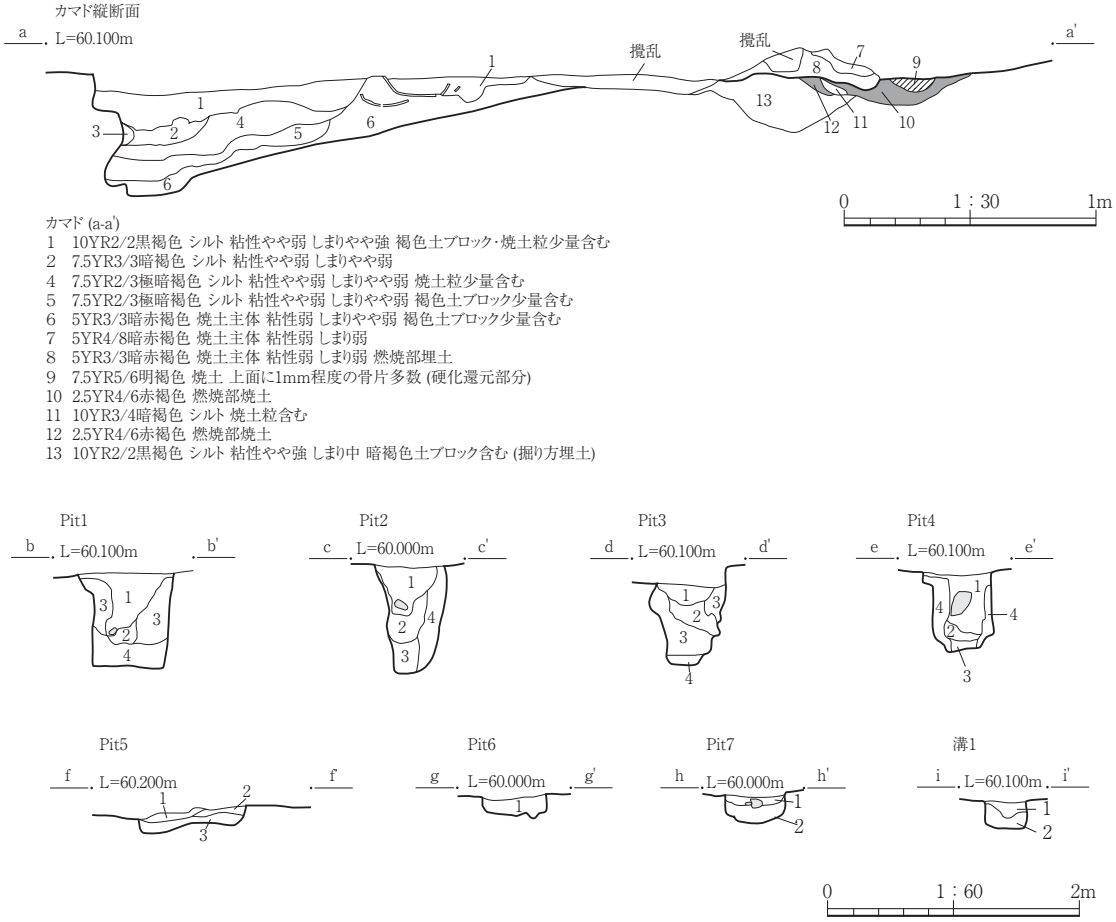


SI89 (A-A'・B-B')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 5%
2　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中～強 (貼床)
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 均質
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色土ブロック含む
5　10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや強 しまり弱
6　10YR2/2 黒褐色シルト 褐色粘土ブロック含む (掘り方埋土)

0　1：60　2m

第 101 図　SI89 住居跡（1）

SI89住居跡



カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色土ブロック･焼土粒少量含む
2　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
4　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 焼土粒少量含む
5　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 褐色土ブロック少量含む
6　5YR3/3暗赤褐色 焼土主体 粘性弱 しまりやや弱 褐色土ブロック少量含む
7　5YR4/8暗赤褐色 焼土主体 粘性弱 しまり弱
8　5YR3/3暗赤褐色 焼土主体 粘性弱 しまり弱 燃焼部埋土
9　7.5YR5/6明褐色 焼土 上面に1mm程度の骨片多数 (硬化還元部分)
10　2.5YR4/6赤褐色 燃焼部焼土
11　10YR3/4暗褐色 シルト 焼土粒含む
12　2.5YR4/6赤褐色 燃焼部焼土
13　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む (掘り方埋土)

Pit1 (b-b')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱 褐色土粒含む
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む
4　10YR4/4褐色 シルト 暗褐色土ブロック少量含む

Pit2 (c-c')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 黒褐色土ブロック少量含む
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 黒褐色土ブロック少量含む
4　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり強

Pit3 (d-d')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱 褐色土粒含む
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む
4　10YR4/4褐色 シルト 暗褐色土ブロック少量含む

Pit4 (e-e')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり弱
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色土ブロック少量含む
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり弱 褐色土ブロック含む

Pit5 (f-f')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色土ブロック含む
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

Pit6 (g-g')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱

Pit7 (h-h')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 褐色土ブロック含む

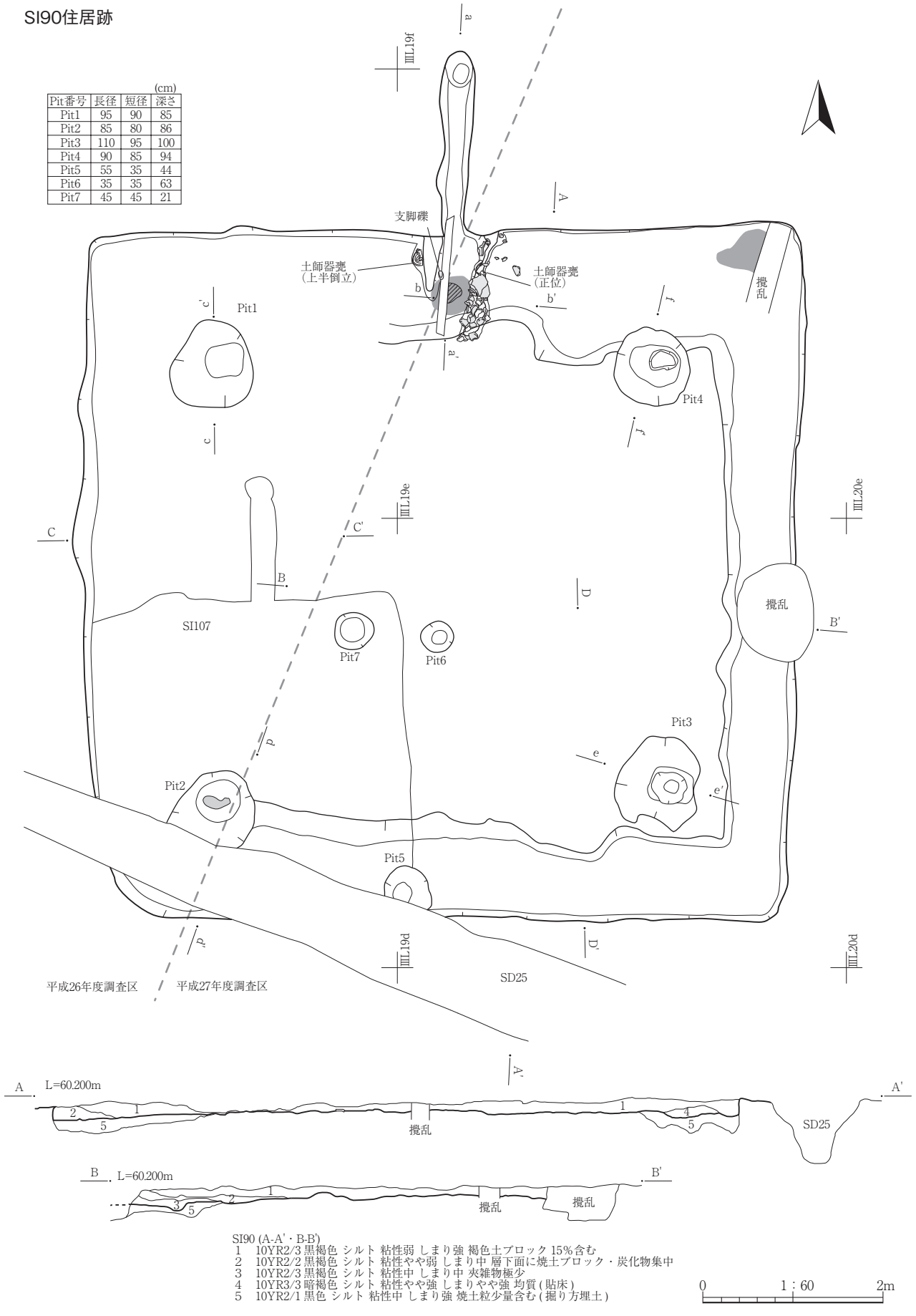
溝1 (i-i')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色土ブロック含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱

第 102 図　SI89 住居跡（2）

SI90住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	95	90	85
Pit2	85	80	86
Pit3	110	95	100
Pit4	90	85	94
Pit5	55	35	44
Pit6	35	35	63
Pit7	45	45	21



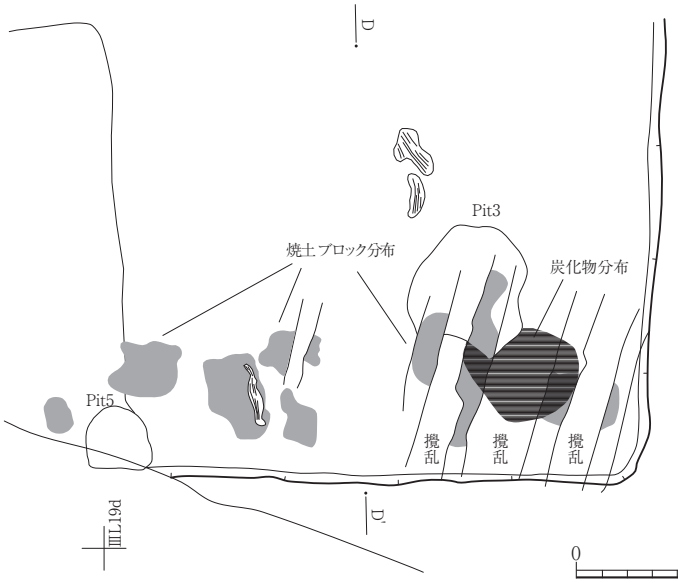
SI90 (A-A'・B-B')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック 15%含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 層下面に焼土ブロック・炭化物集中
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 夾雑物極少
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 均質(貼床)
5　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり強 焼土粒少量含む(掘り方埋土)

0　1：60　2m

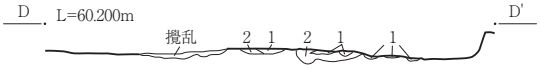
第 103 図　SI90 住居跡（1）

SI90住居跡

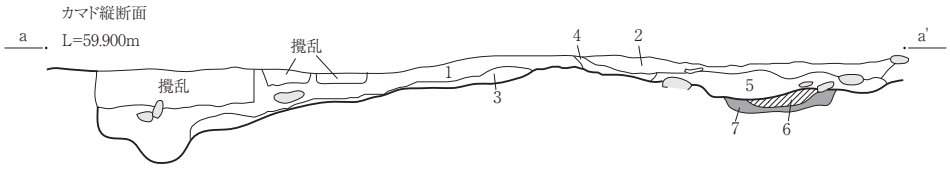
南東部焼土･炭化物出土状況

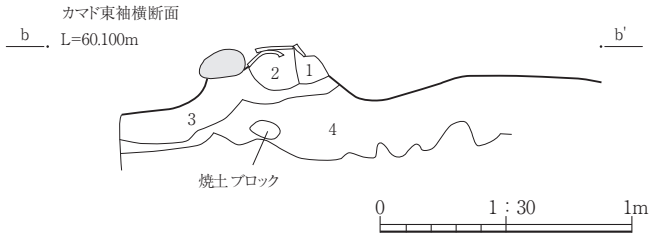


SI90 (C-C')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック5%含む
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土ブロック3%含む



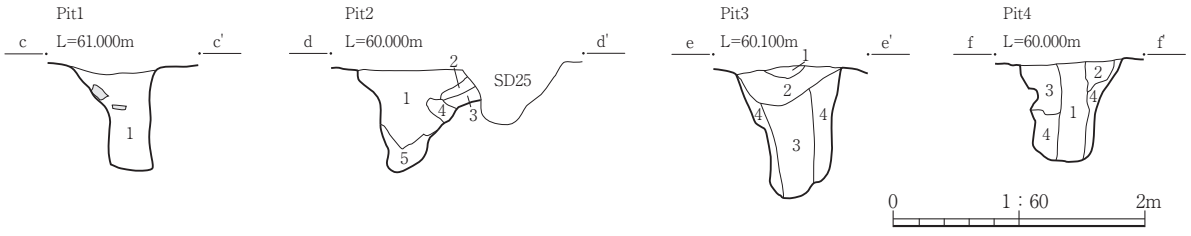
SI90貼床（D-D'）
1　10YR5/6黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強





カマド (a-a')
1　5YR5/6明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中
3　5YR2/2黒褐色 焼土 粘性弱 しまり中
4　5YR2/4極暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中 (燃焼部堆積土)
5　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中 (燃焼部堆積土)
6　5YR4/8赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 (硬化還元部分)
7　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性やや強 しまり中

カマド燃焼部～東袖 (b-b')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒微量含む
2　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや強 しまり中 褐色土ブロック含む
3　5YR4/8赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強 上面硬化還元色
　東側は袖内壁の焼成部分
4　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中(掘り方埋土)



Pit1 (c-c')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック多量に含む

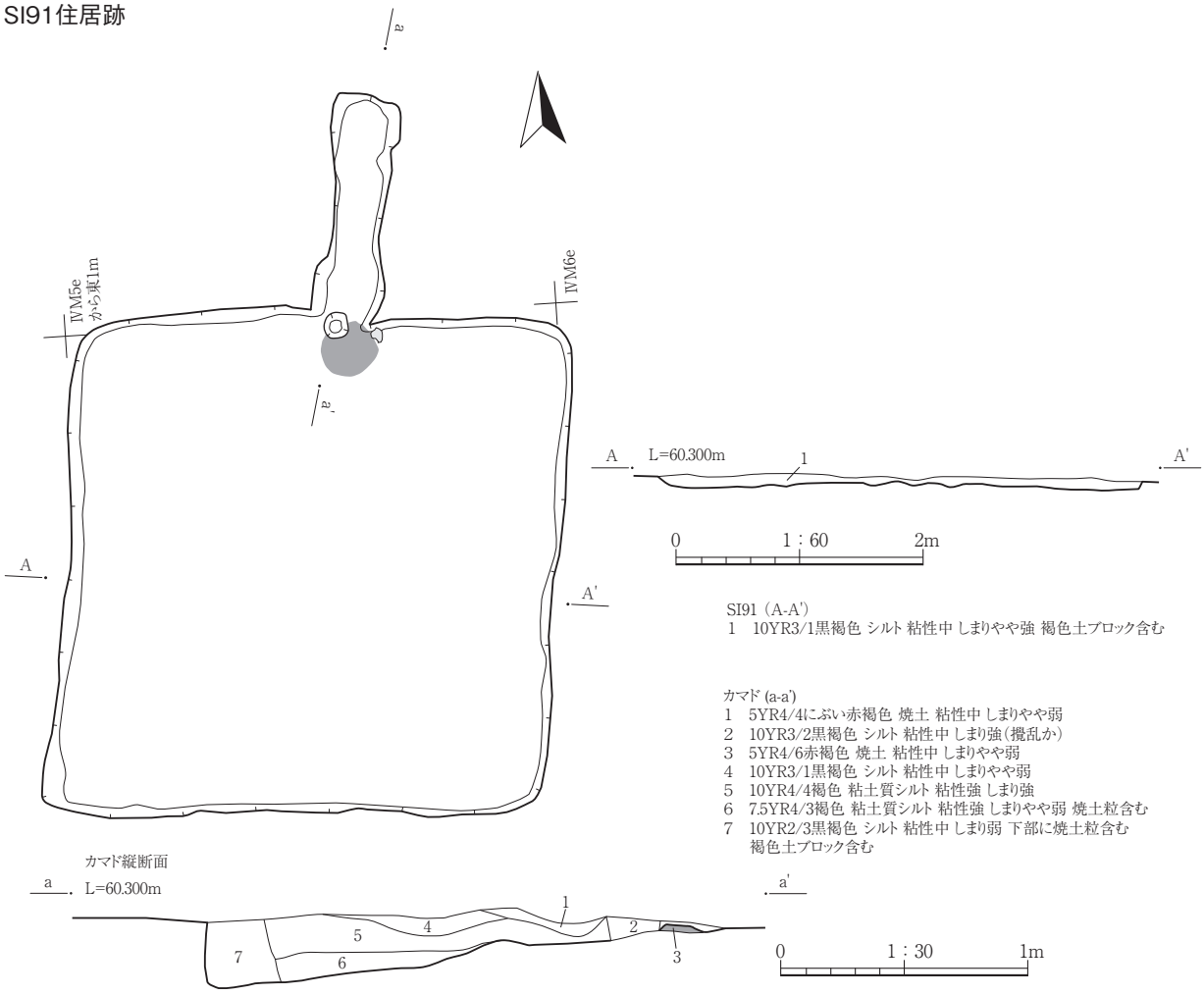
Pit2 (d-d')
1　10YR2/2黒褐色 シルト　粘性弱 しまり強 褐色土ブロック30%含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 炭化物･焼土(南側から流入)
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 上面に焼土粒散在
4　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱
5　10YR4/6褐色 粘土 粘性やや強 しまり中 黒褐色土ブロック10%含む

Pit3 (e-e')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック･焼土粒･炭化物多量に含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱 焼土･炭化物多量に含む
4　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む

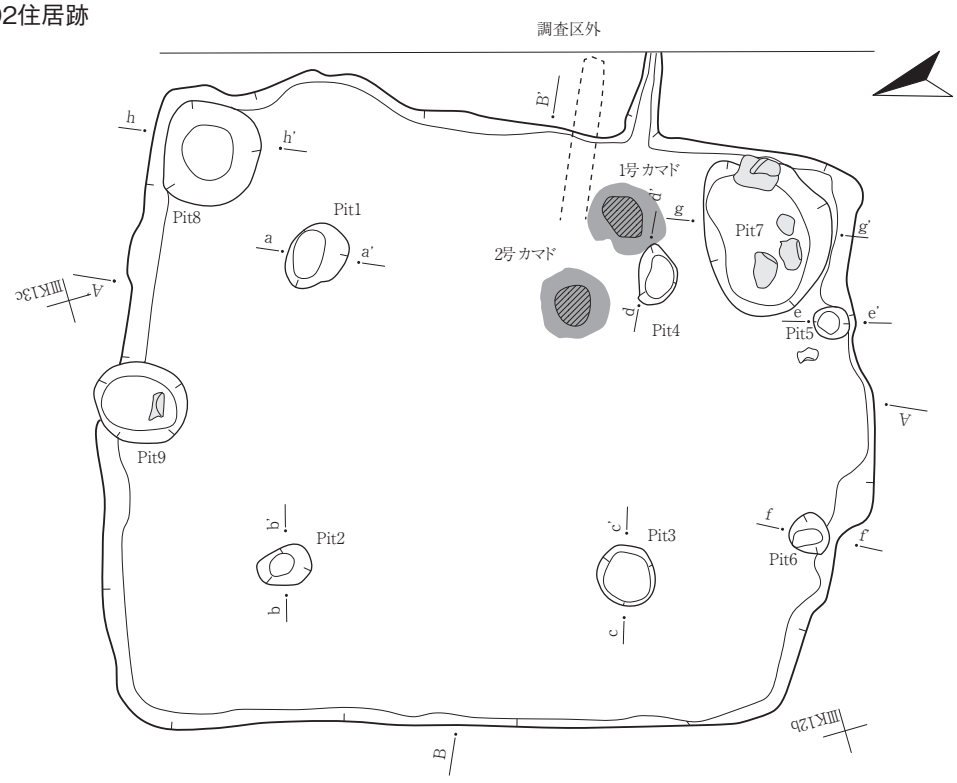
Pit4 (f-f')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり弱 粘土塊径5mm含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック5%
3　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック多量に含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱 褐色土粒10%含む

第 104 図　SI90 住居跡（2）

SI91住居跡



SI92住居跡

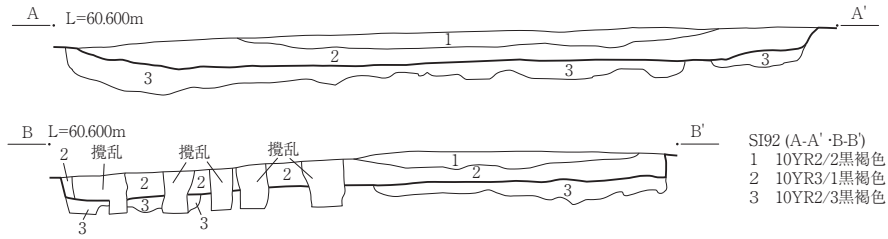


(cm)

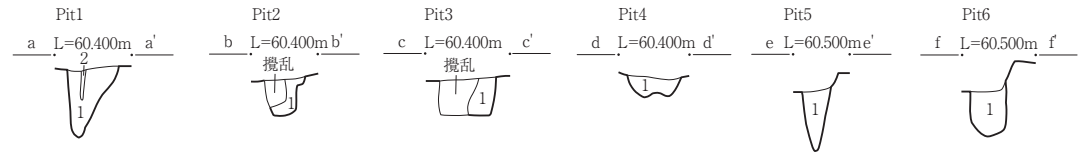
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	57	44	58
Pit2	43	32	61
Pit3	51	45	33
Pit4	49	30	23
Pit5	30	26	54
Pit6	34	31	50
Pit7	131	101	31
Pit8	75	65	27
Pit9	87	82	29

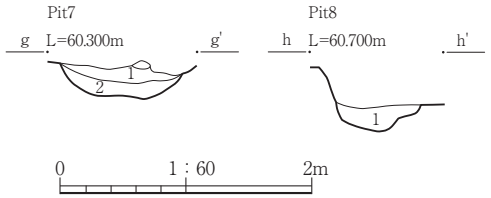
第 105 図　SI91 住居跡・SI92 住居跡（1）

SI92住居跡



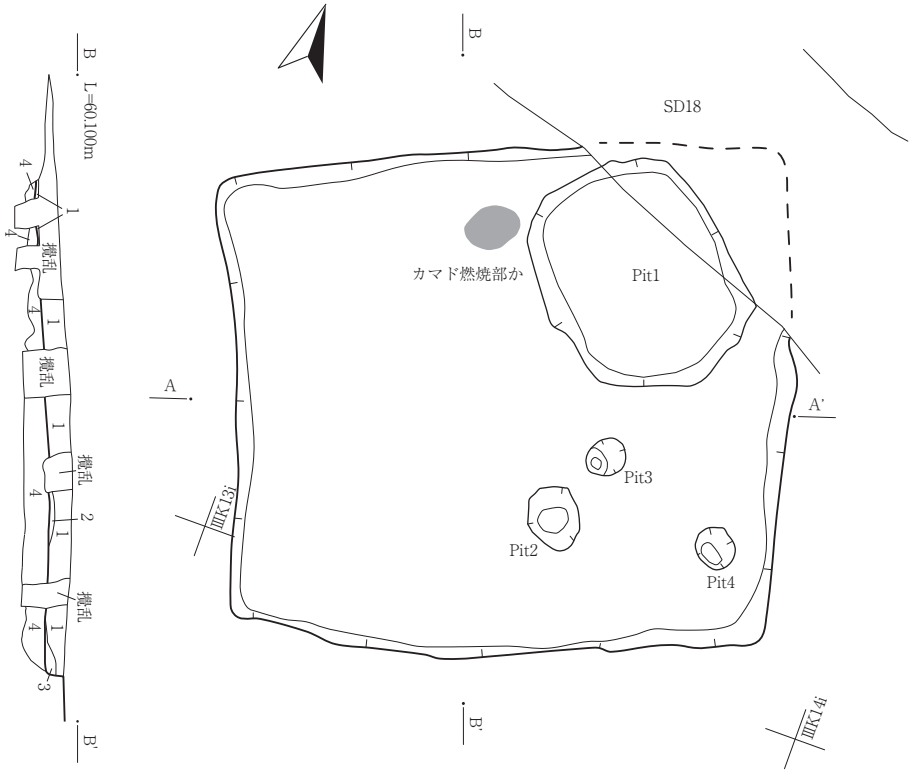
SI92 (A-A'・B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 灰白色土小ブロック・焼土粒含む
2　10YR3/1黒褐色 シルト 炭化物・黄褐色土粒含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 焼土粒・炭化物多量に含む(掘り方埋土)





Pit1 (a-a')・Pit2 (b-b')・Pit3 (c-c')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 黒褐色土ブロック40%含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
Pit4 (d-d')
1　10YR3/3暗褐色 粘性中 しまり弱 褐色土ブロック20%含む
Pit5 (e-e')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
Pit6 (f-f')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまり弱 褐色土ブロック20%含む
Pit7 (g-g')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 焼土ブロック 土器片多量出土
2　10YR2/3黒褐色 シルト 炭化物 土器片少量出土
Pit8 (h-h')
1　10YR2/3黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒少量含む

SI93住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	194	155	39
Pit2	35	31	35
Pit3	54	41	21
Pit4	35	29	28

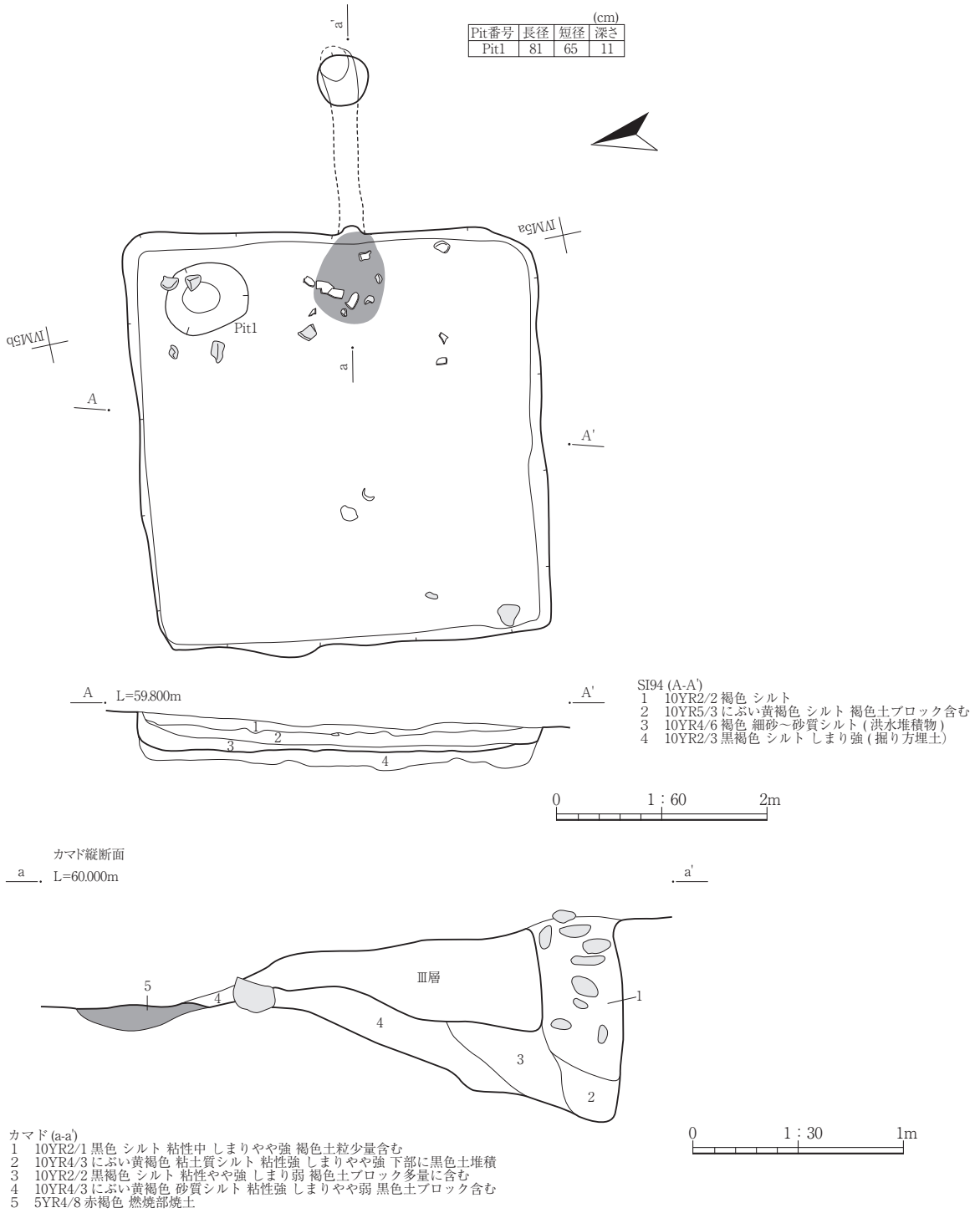
SI93 (A-A'・B-B')
1　10YR3/1黒褐色 シルト しまり弱 褐色土粒含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 炭化物含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト しまり弱 焼土粒含む
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 暗褐色土ブロック含む(掘り方埋土)

第 106 図　SI92 住居跡（2）・SI93 住居跡

SI94住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	65	11

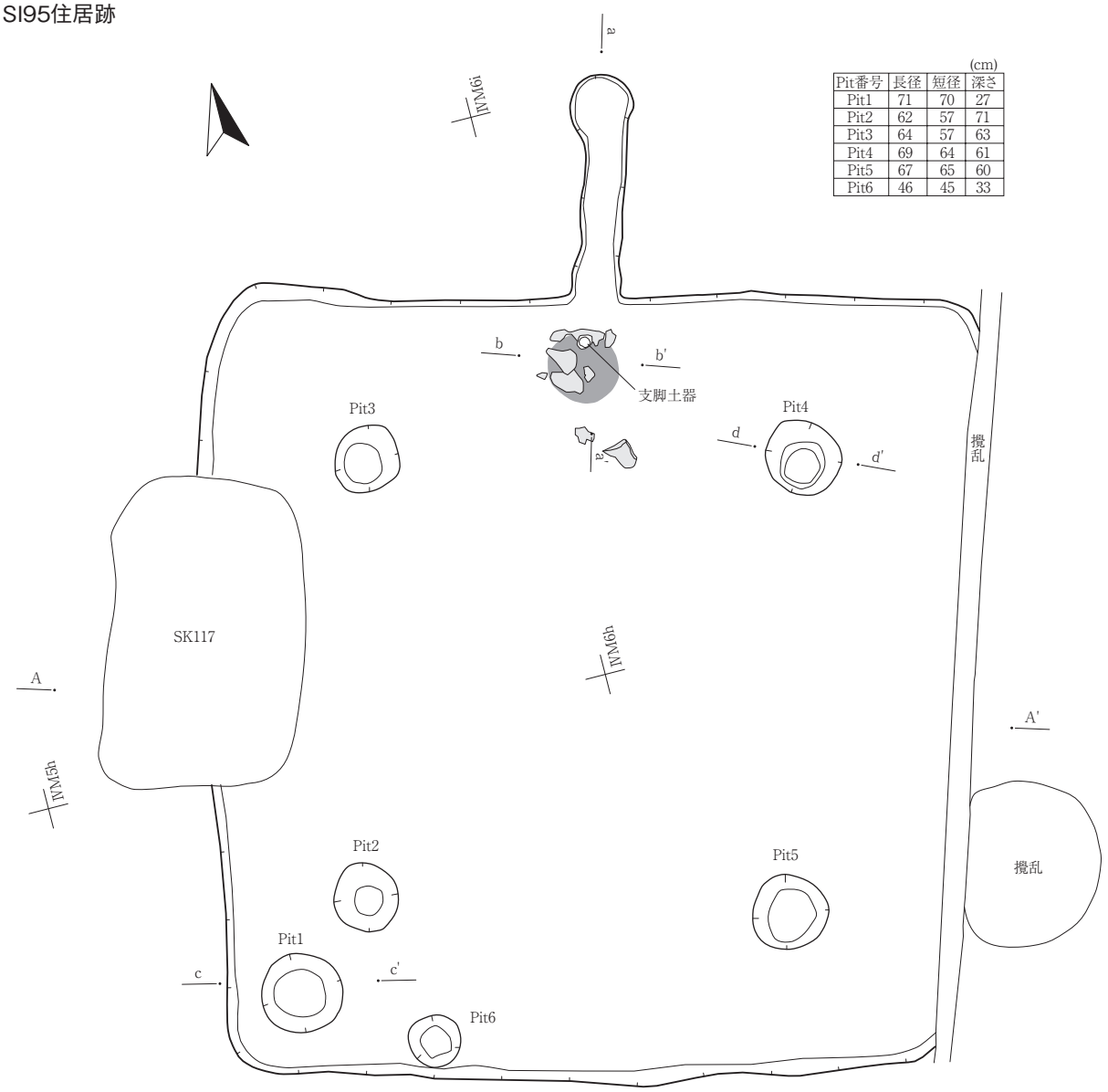


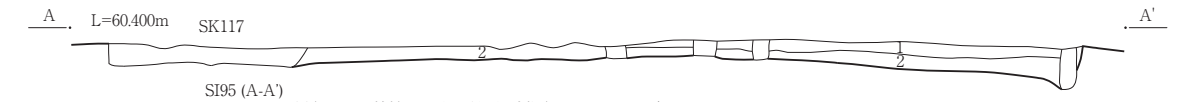
第 107 図　SI94 住居跡

SI95住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	71	70	27
Pit2	62	57	71
Pit3	64	57	63
Pit4	69	64	61
Pit5	67	65	60
Pit6	46	45	33

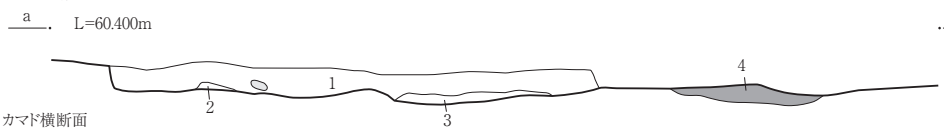




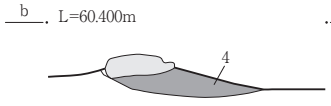
SI95 (A-A')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまり強 暗褐色土ブロック20％含む
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 黒色土10%含む

0　1：60　2m

カマド縦断面

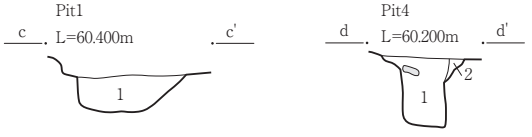


カマド横断面



カマド (a-a'･b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 焼土粒･炭10％含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
4　5YR3/6暗赤褐色 焼土 上面に小骨片散在

0　1：30　1m



Pit1 (c-c')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまり強 炭微量含む

Pit4 (d-d')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性強 しまり強
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

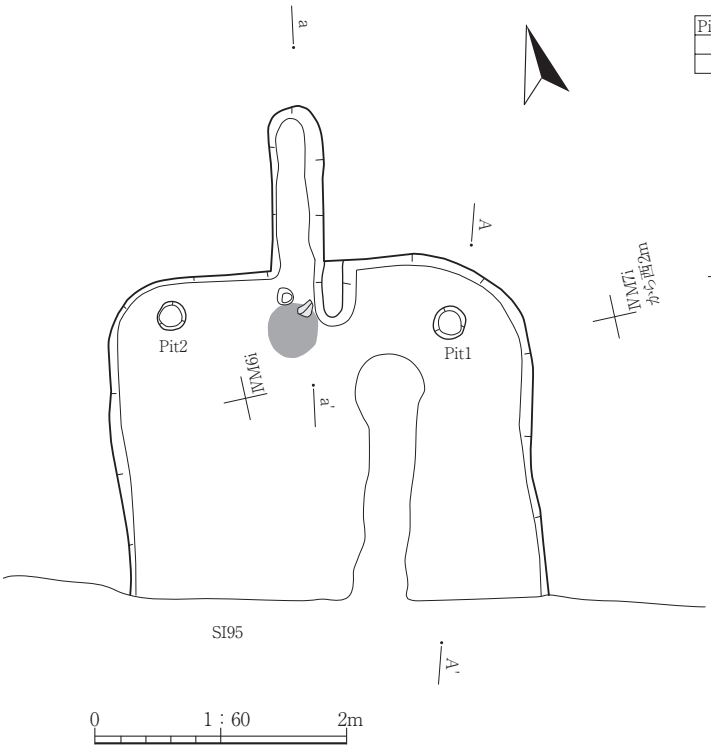
0　1：60　2m

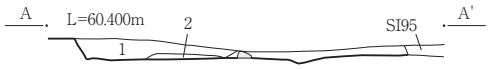
第 108 図　SI95 住居跡

SI96住居跡

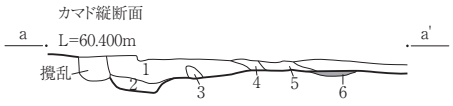
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	23	22	3
Pit2	27	25	5



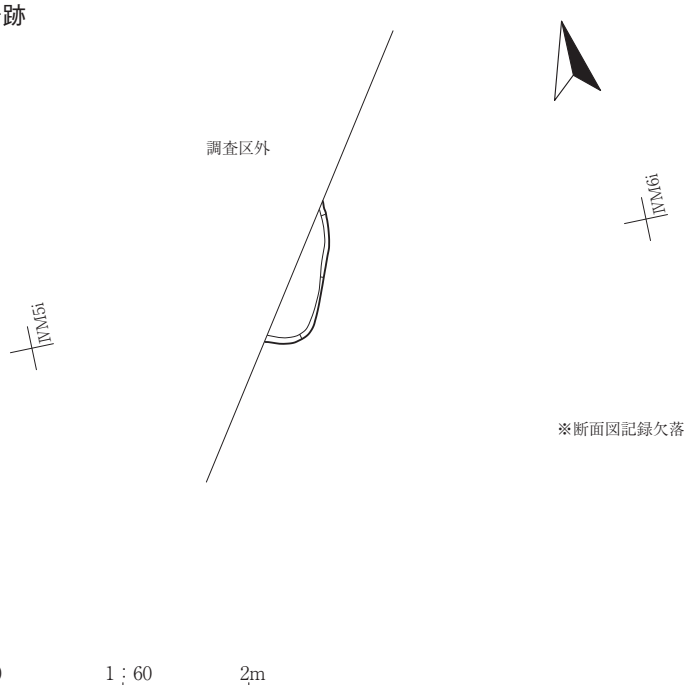


SI96（A-A'）
1　10YR2/2　黒褐色シルト　粘性･しまり共強　暗褐色土10%含む
2　10YR3/2　黒褐色シルト　粘性･しまり共強　暗褐色土5%含む



カマド（a-a'）
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 焼土粒微量含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 褐色土との混合土
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 焼土粒含む
6　7.5YR2/3極暗褐色 焼土 粘性中 しまり中 焼成弱い

SI97住居跡



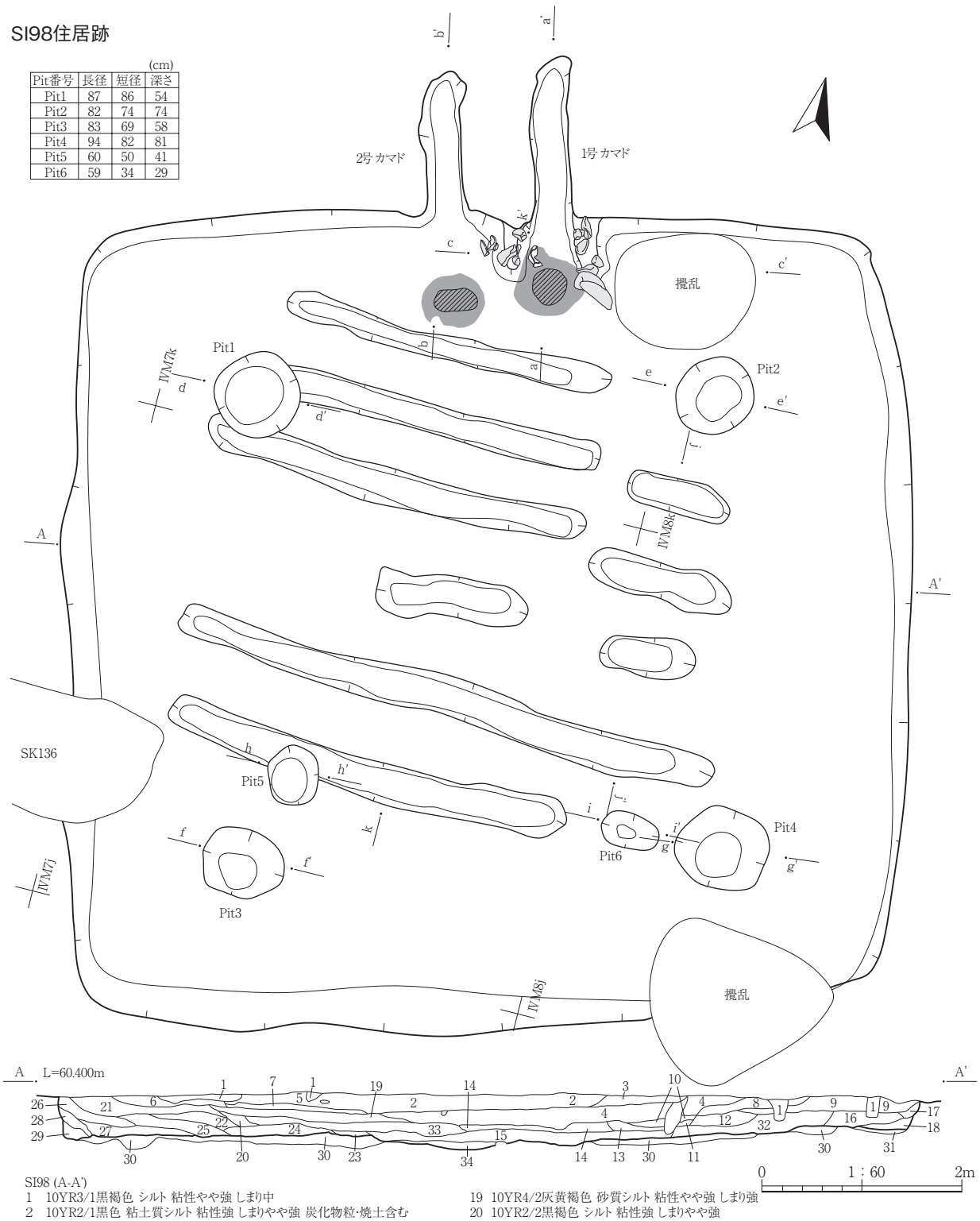
※断面図記録欠落

第 109 図　SI96 住居跡・SI97 住居跡

SI98住居跡

(cm)

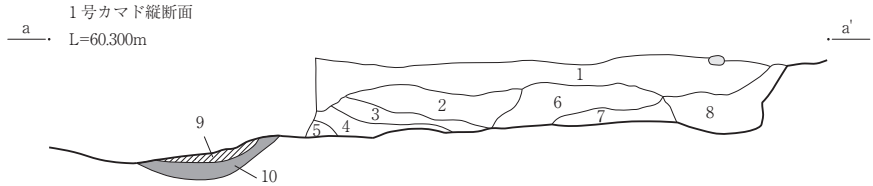
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	87	86	54
Pit2	82	74	74
Pit3	83	69	58
Pit4	94	82	81
Pit5	60	50	41
Pit6	59	34	29



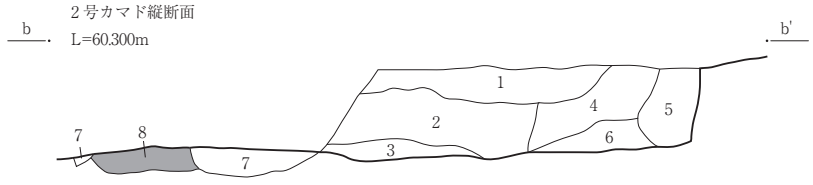
SI98 (A-A')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
2　10YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強 炭化物粒･焼土含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
4　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 褐色土ブロック含む
6　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 褐色土ブロック含む
7　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 焼土･炭化粒微量含む
8　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
9　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
10　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
11　33層と同じ
12　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
13　33層と同じ
14　10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり弱 褐色土ブロック少量含む
15　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 褐色土ブロック含む
16　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
17　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまりやや強（地山崩落土）
18　28層と同じ
19　10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性やや強 しまり強
20　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
21　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 褐色土粒含む
22　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
23　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
24　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
25　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
26　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや強 黒色土･褐色土粒含む
27　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
28　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
29　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 褐色土ブロック含む
30　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや強 しまり強 地山ブロック含む（掘り方埋土）
31　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強 黒色土少量含む（掘り方埋土）
32　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 褐色土ブロック含む
33　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性中 しまり強
34　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性強 しまり強（床面の溝状遺構埋土）
※埋土上層に焼土粒･粘土粒･礫が流入（特に2層）　これらは基本的に14層より上の現象
11･13･14･19･33層は砂質傾向が強い

第 110 図　SI98 住居跡（1）

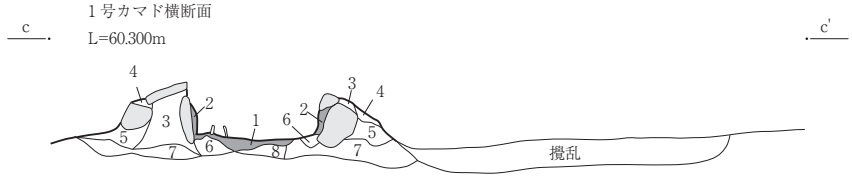
SI98住居跡



1号カマド (a-a')
1　10YR3/1 黒褐色 粘性強 しまり強
　焼土・炭化物少量含む
2　10YR3/1 黒褐色 粘性やや強 しまり強
3　10YR4/4 褐色 粘土か 粘性強 しまり強
　(天井崩落土)
4　5YR4/3 にぶい赤褐色
5　10YR4/3 にぶい黄褐色　3層に類似
6　10YR3/1 黒褐色 粘性強 しまり強
　炭化物少量含む
7　10YR3/2 黒褐色 粘性やや強 しまりやや強
8　10YR2/2 黒褐色 粘性やや強 しまり強
　炭化物少量含む
9　5YR6/4 にぶい橙色 焼土 (硬化還元部分)
10　2.5YR5/8 明赤褐色 焼土

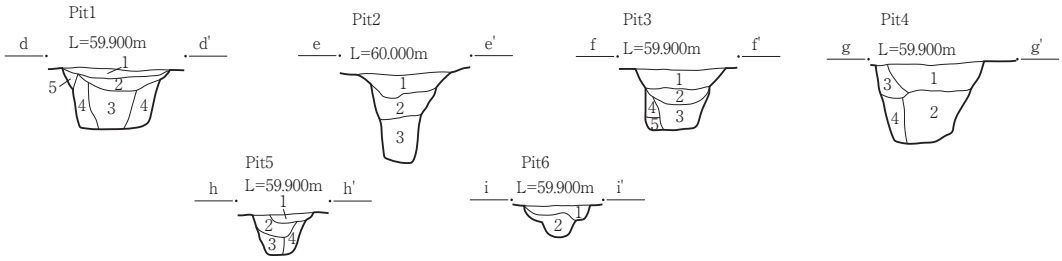


2号カマド (b-b')
1　10YR3/3 暗褐色 粘性強 しまり強
　焼土・炭化物少量含む
2　10YR3/1 黒褐色 粘性やや強 しまり強
3　5YR4/3 にぶい赤褐色 焼土 粘性やや強
　しまりやや強 炭化物少量含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強
5　10YR3/3 暗褐色 粘性やや強 しまりやや強
　炭化物少量含む
6　10YR4/4 褐色 粘性強 しまり強（地山崩落土）
7　貼床 AA' 断面 30 層と対応
8　5YR5/6 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強



1号カマド (c-c')
1　焼土
2　5YR6/3 にぶい橙色 粘性やや強 しまりやや強 袖焼成を受ける
3　10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
4　2.5Y4/1 黄灰色 粘性やや強 しまりやや強 地山ブロックやや多く含む
5　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強 黒色土ブロック少量含む
6　10YR4/4 褐色 粘性強 しまり強
7　10YR3/1 黒褐色 粘性やや強 しまりやや強　6層ブロック少量含む 前段階の貼床か？
8　10YR4/4 褐色 粘性やや強 しまりやや強　6層に類似するがややしまる

0　1：30　1m



Pit1 (d-d')
1　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強
2　10YR4/3 にぶい暗褐色 粘性強 しまり強 礫を多く含む
3　10YR3/1 黒褐色 粘性強 しまり強 礫微量含む
4　Pit5 の 4 層と同じ
5　10YR4/4 褐色 粘性やや強 しまり強（地山崩落土）

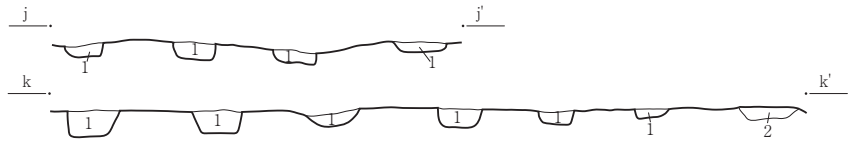
Pit2 (e-e')
1　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強
2　10YR4/3 にぶい暗褐色 粘性強 しまり強 礫を多く含む
3　10YR3/1 黒褐色 粘性弱 しまりやや弱 礫を多く含む

Pit3 (f-f')
1　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強
2　10YR4/3 にぶい暗褐色 粘性強 しまり強 礫を多く含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強 礫を微量含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強
5　10YR3/2 黒褐色 粘性弱 しまりやや強 礫を多く含む

Pit4 (g-g')
1　Pit2 の 1 層と同じ
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強 礫を微量含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強
4　Pit2 の 3 層と同じ

Pit5 (h-h')
1　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強
2　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強 地山ブロックやや多く含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性強 しまり強 礫を微量含む
4　10YR4/4 褐色 粘性中 しまりやや強 砂質味強い

Pit6 (i-i')
1　10YR3/2 黒褐色 粘性強 しまり強
2　10YR4/4 褐色 粘性中 しまりやや強 砂質味強い



SI98 床溝 (j-j')
1　10YR3/1 黒褐色 粘性強 しまり強（床面並列溝状遺構堆積土）

SI98 床溝 (k-k')
1　10YR3/1 黒褐色 粘性強 しまり強（床面並列溝状遺構堆積土）
2　10YR2/1 黒色 粘性やや強 しまり強 地山ブロック微量含む（貼床）

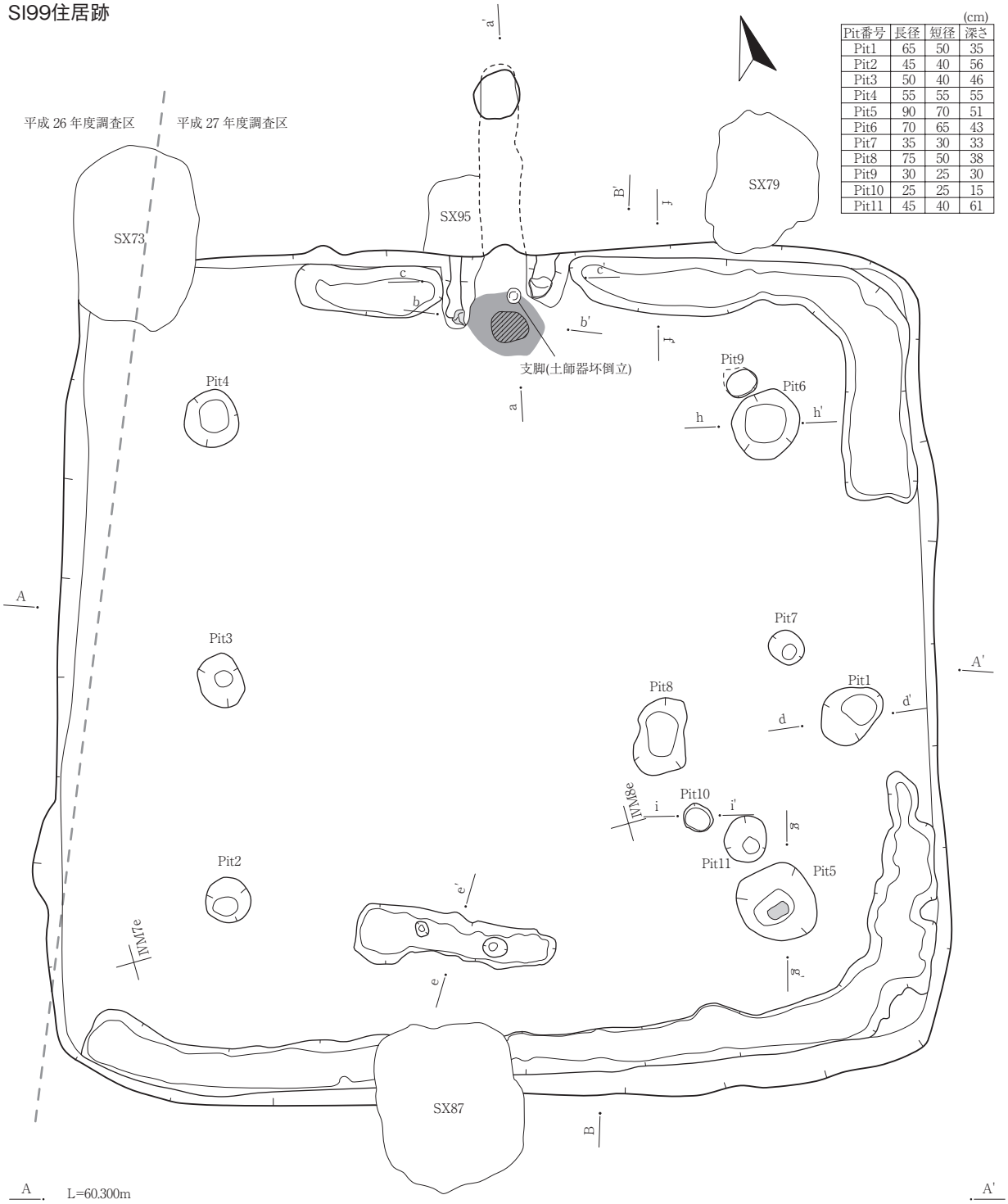
0　1：60　2m

第 111 図　SI98 住居跡（2）

SI99住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	65	50	35
Pit2	45	40	56
Pit3	50	40	46
Pit4	55	55	55
Pit5	90	70	51
Pit6	70	65	43
Pit7	35	30	33
Pit8	75	50	38
Pit9	30	25	30
Pit10	25	25	15
Pit11	45	40	61

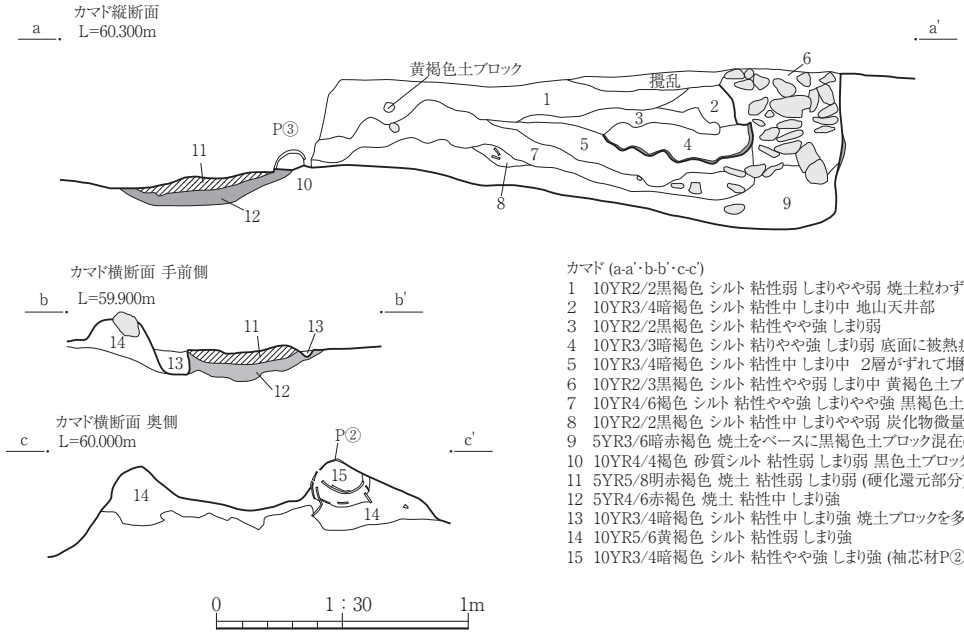


SI99 (A-A'・B-B')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック 20%含む 焼土粒 炭化物少量含む
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 焼土粒微量含む 洪水堆積のシルトと見られる 下面は明瞭な層界 上面は斬変
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 焼土ブロック 10%・炭化物ブロック 10%含む 礫多い
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 礫多い
5　10YR2/1 黒色 シルト 粘性強 しまりやや強 均質 夾雑物極小
6　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 黒褐色土ブロック含む (掘り方埋土)

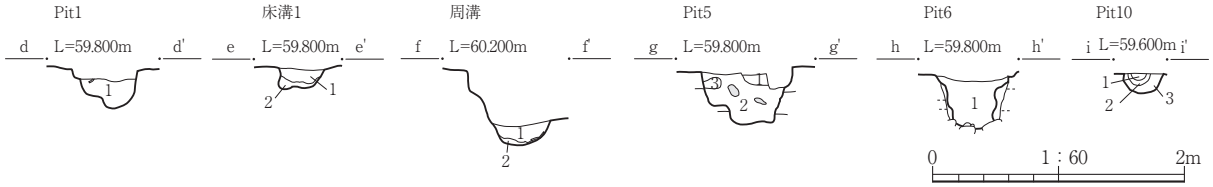
0　1：60　2m

第 112 図　SI99 住居跡（1）

SI99住居跡



カマド (a-a'･b-b'･c-c')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 焼土粒わずかに含む 住居埋土1層目の下部か
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 地山天井部
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり弱
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘りやや強 しまり弱 底面に被熱痕（煙道天井部崩落層）
5　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり中　2層がずれて堆積したものか
6　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 黄褐色土ブロック10%含む(煙出埋土)
7　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 黒褐色土ブロック含む
8　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 炭化物微量含む
9　5YR3/6暗赤褐色 焼土をベースに黒褐色土ブロック混在(6:4) 粘性やや弱 しまり強
10　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 黒色土ブロック5% 焼土粒30%含む
11　5YR5/8明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱 (硬化還元部分)
12　5YR4/6赤褐色 焼土 粘性中 しまり強
13　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性中 しまり強 焼土ブロックを多量に含む
14　10YR5/6黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
15　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 (袖芯材P②内充填土)



Pit1（d-d'）
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱 褐色土ブロック斑状に含む

床溝1 (e-e')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 暗褐色土ブロック含む
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 褐色土ブロック含む

周溝 (f-f')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物･焼土ブロック少量含む
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土ブロック含む

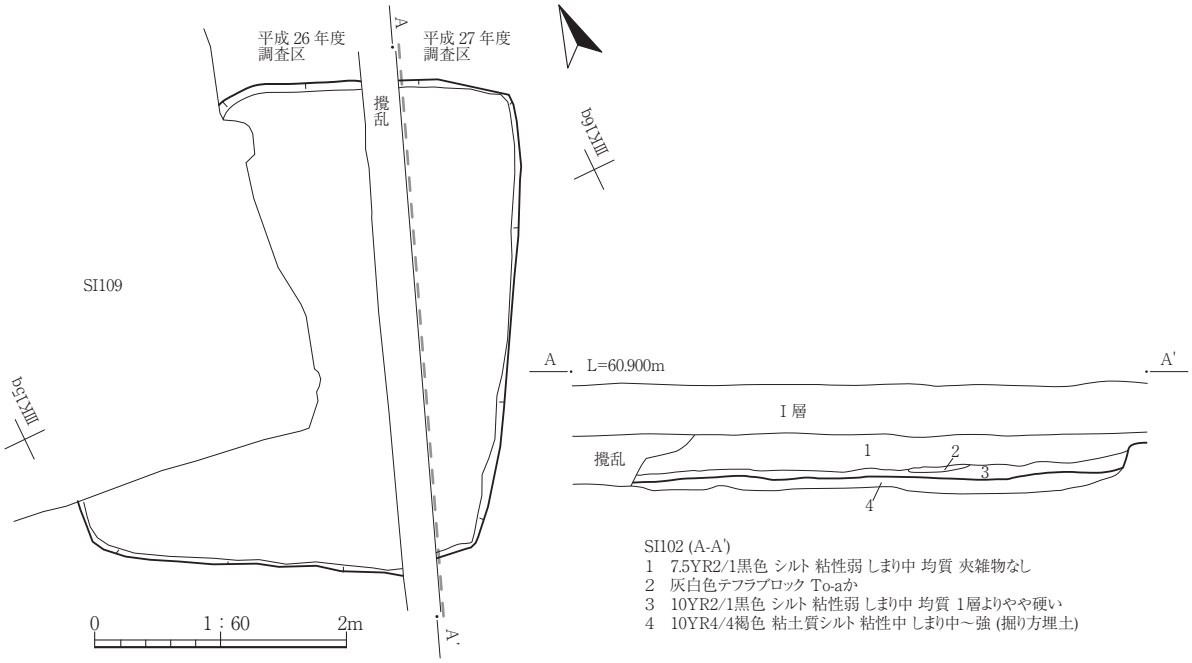
Pit5 (g-g')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 夾雑物極小
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱

Pit6 (h-h')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 暗褐色土ブロック含む 含水量多い

Pit10 (i-i')
1　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 2層との層界がグライ化 酸化鉄多量
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 夾雑物極小
3　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

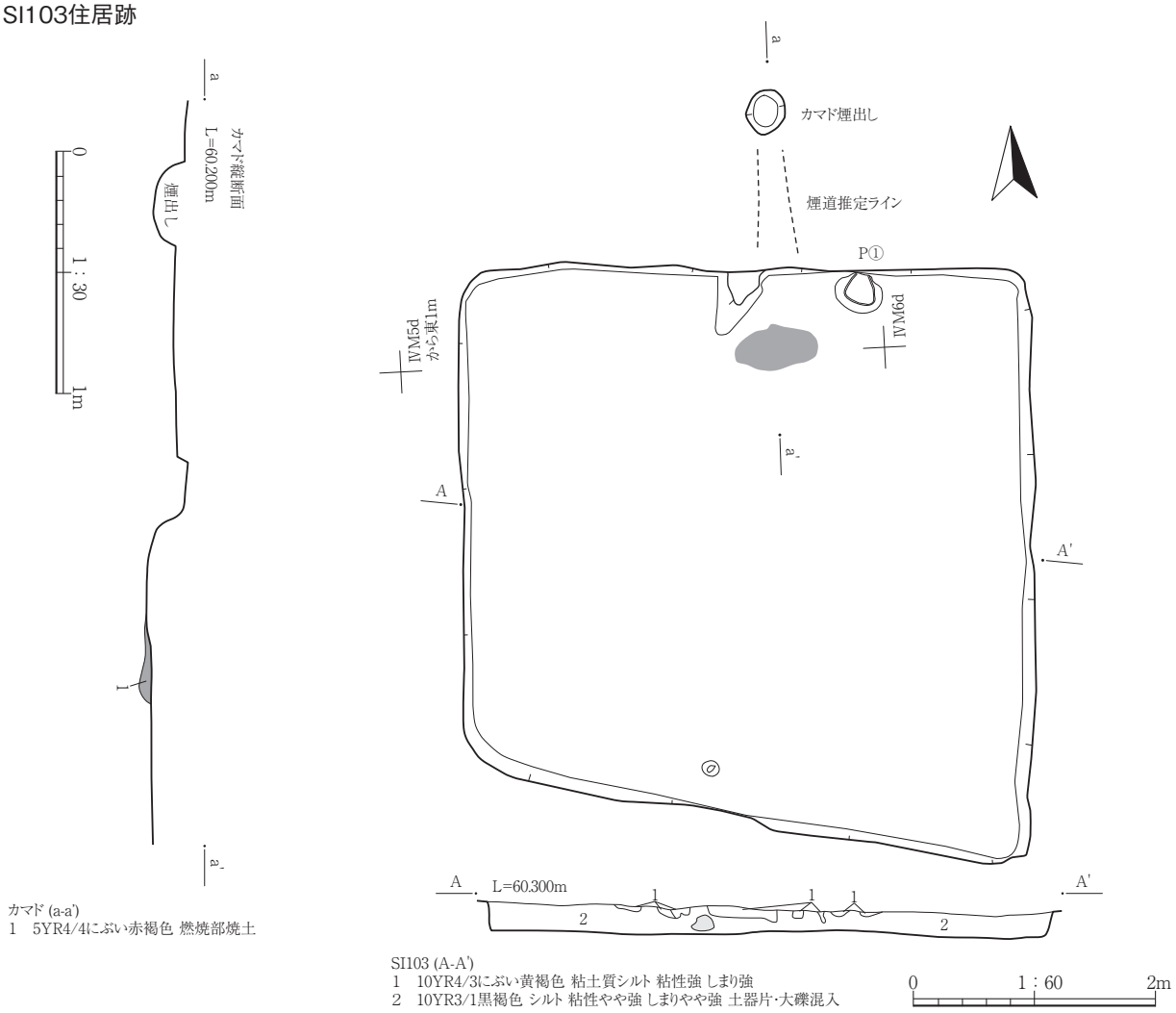
第 113 図　SI99 住居跡（2）

SI102住居跡



SI102 (A-A')
1　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 夾雑物なし
2　灰白色テフラブロック To-aか
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 1層よりやや硬い
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中～強 (掘り方埋土)

SI103住居跡



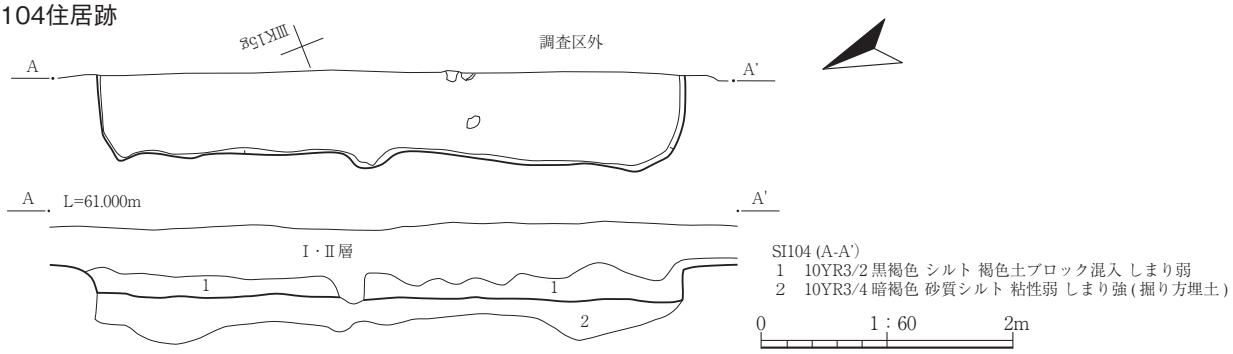
カマド (a-a')
1　5YR4/4にぶい赤褐色 燃焼部焼土

SI103 (A-A')
1　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
2　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 土器片･大礫混入

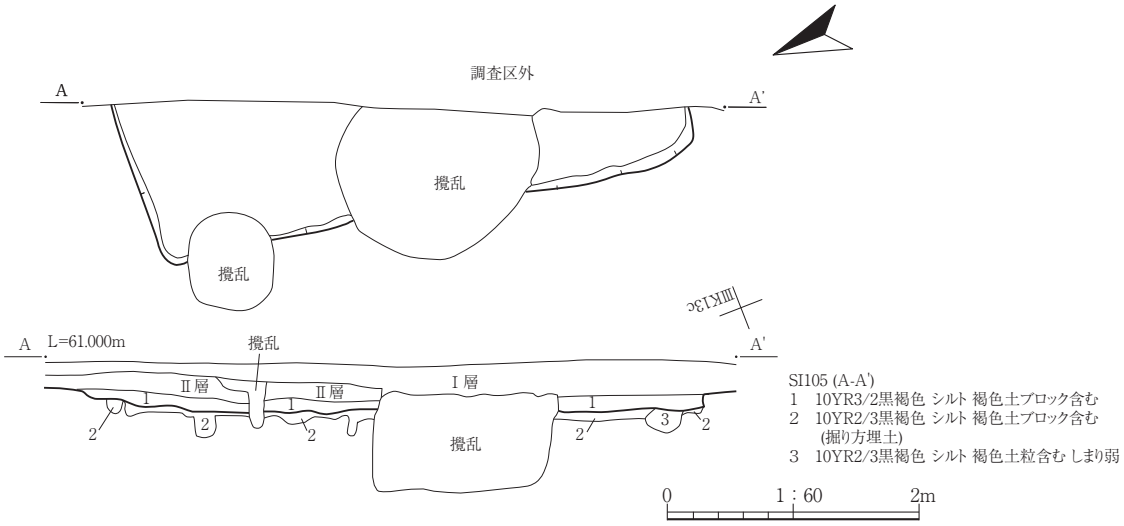
0　1：60　2m

第 114 図　SI102 住居跡・SI103 住居跡

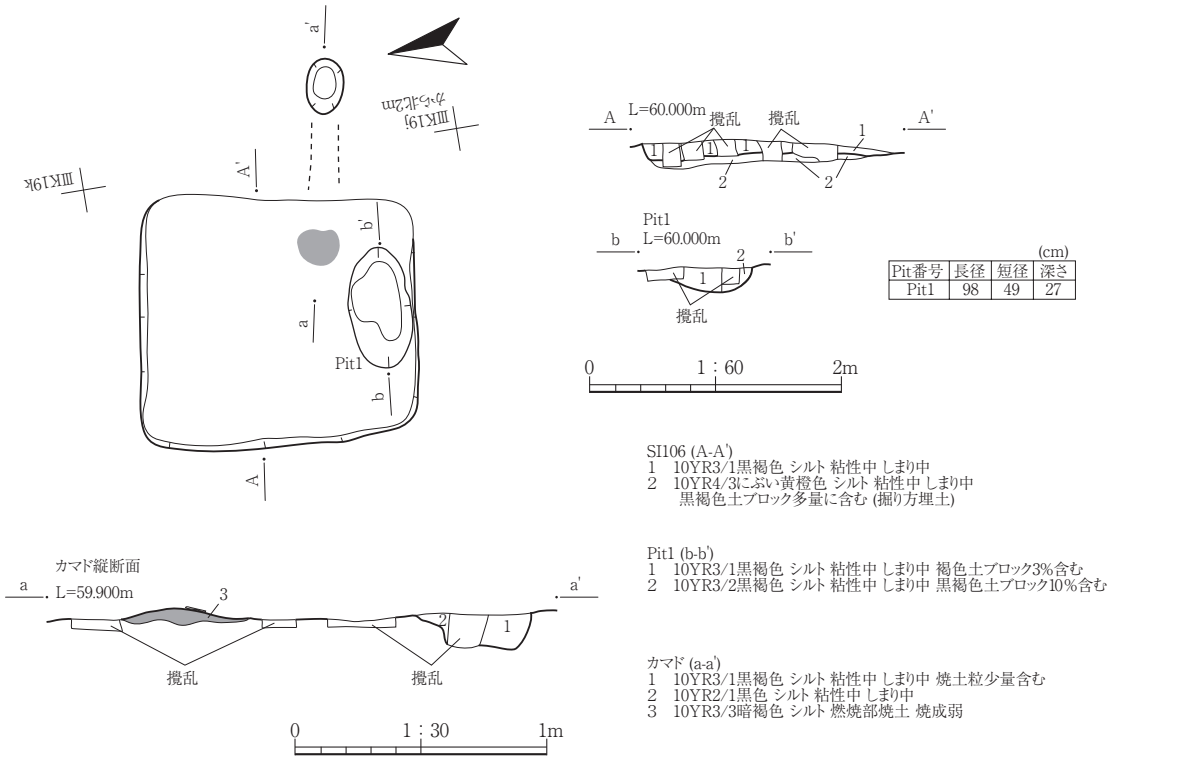
SI104住居跡



SI105住居跡



SI106住居跡

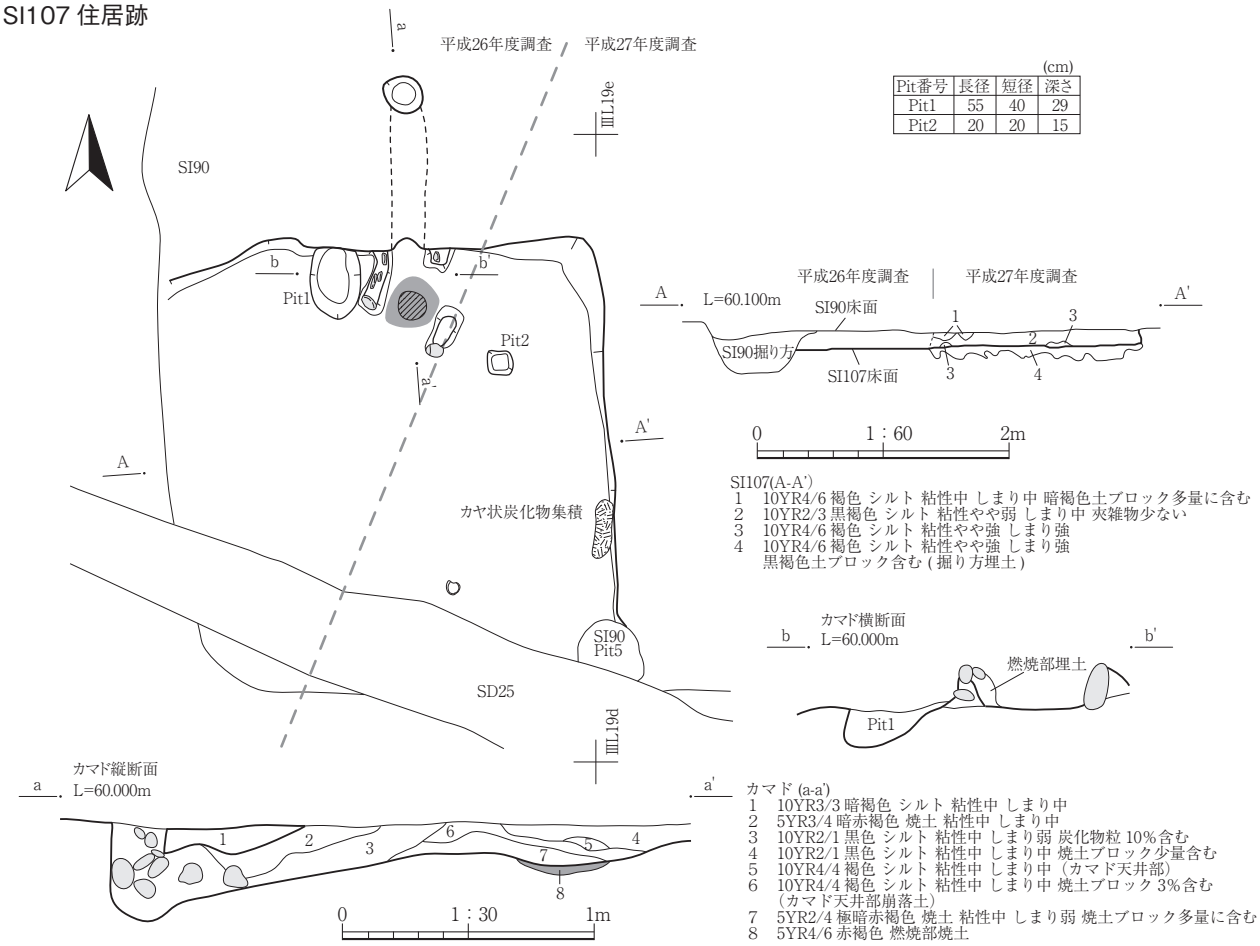


(cm)

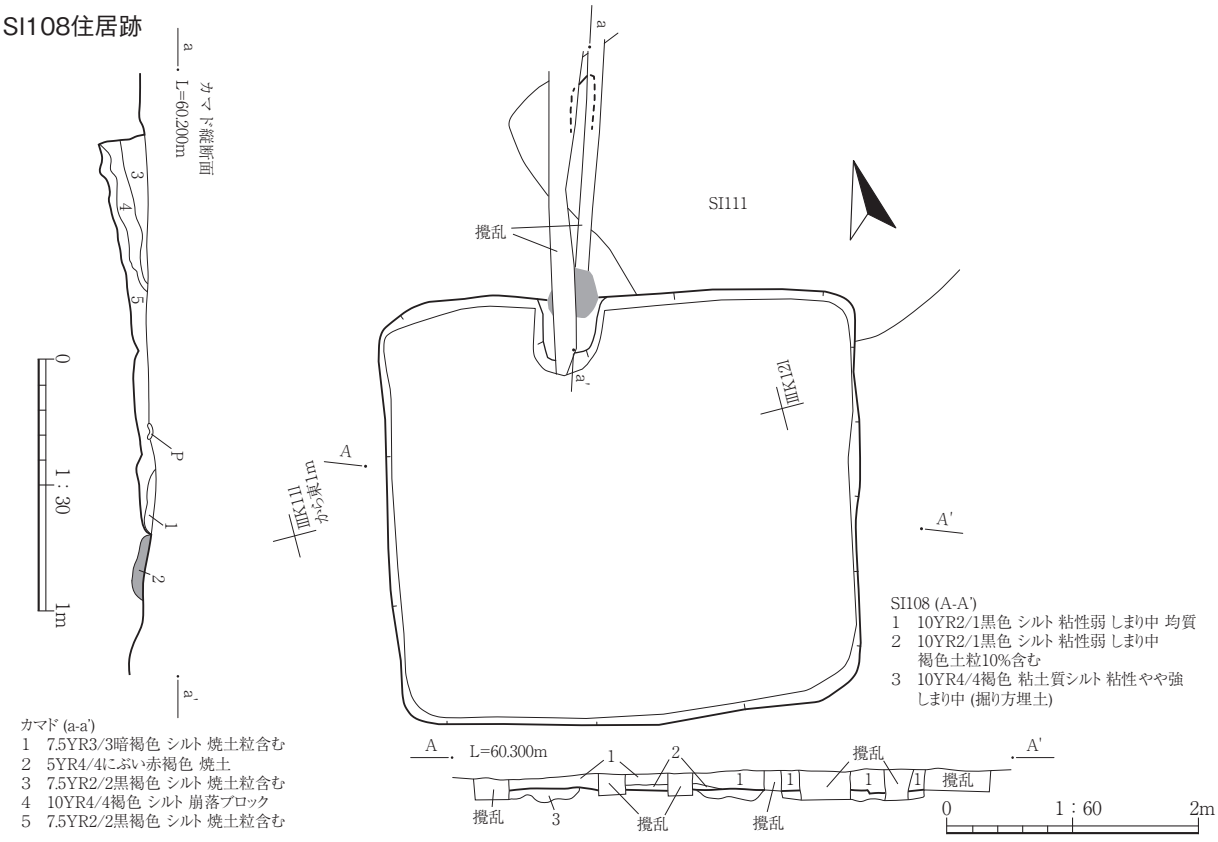
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	98	49	27

第 115 図　SI104 住居跡・SI105 住居跡・SI106 住居跡

SI107 住居跡

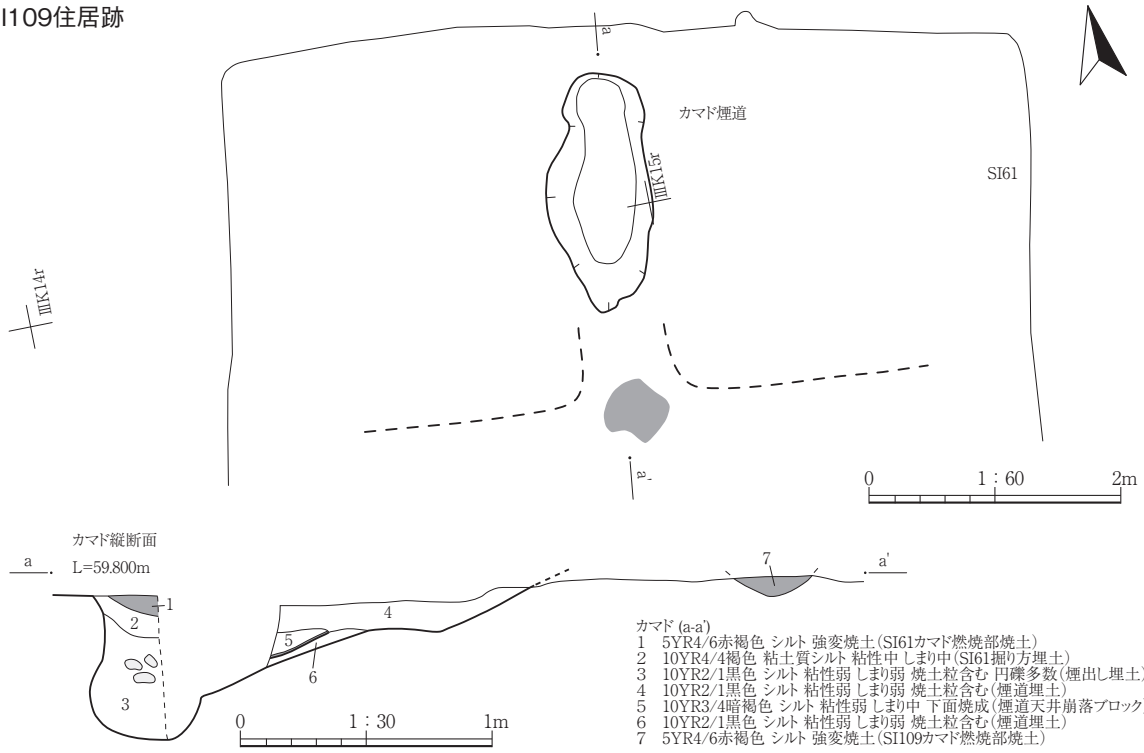


SI108住居跡

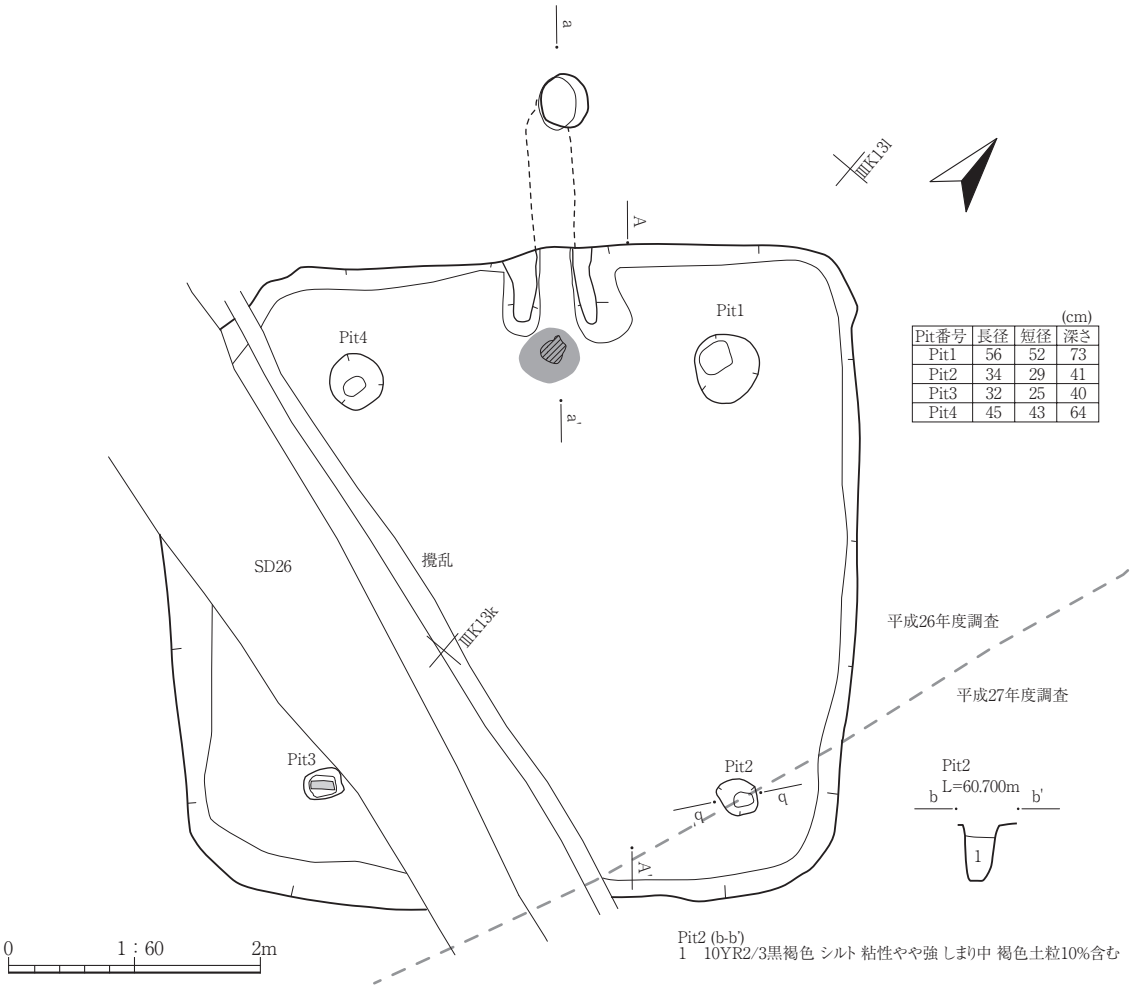


第 116 図　SI107 住居跡・SI108 住居跡

SI109住居跡



SI110住居跡

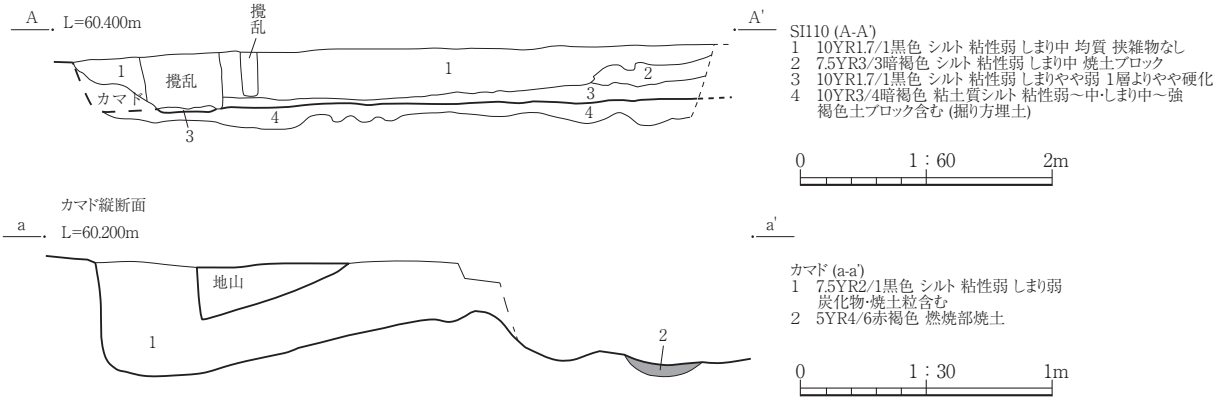


(cm)

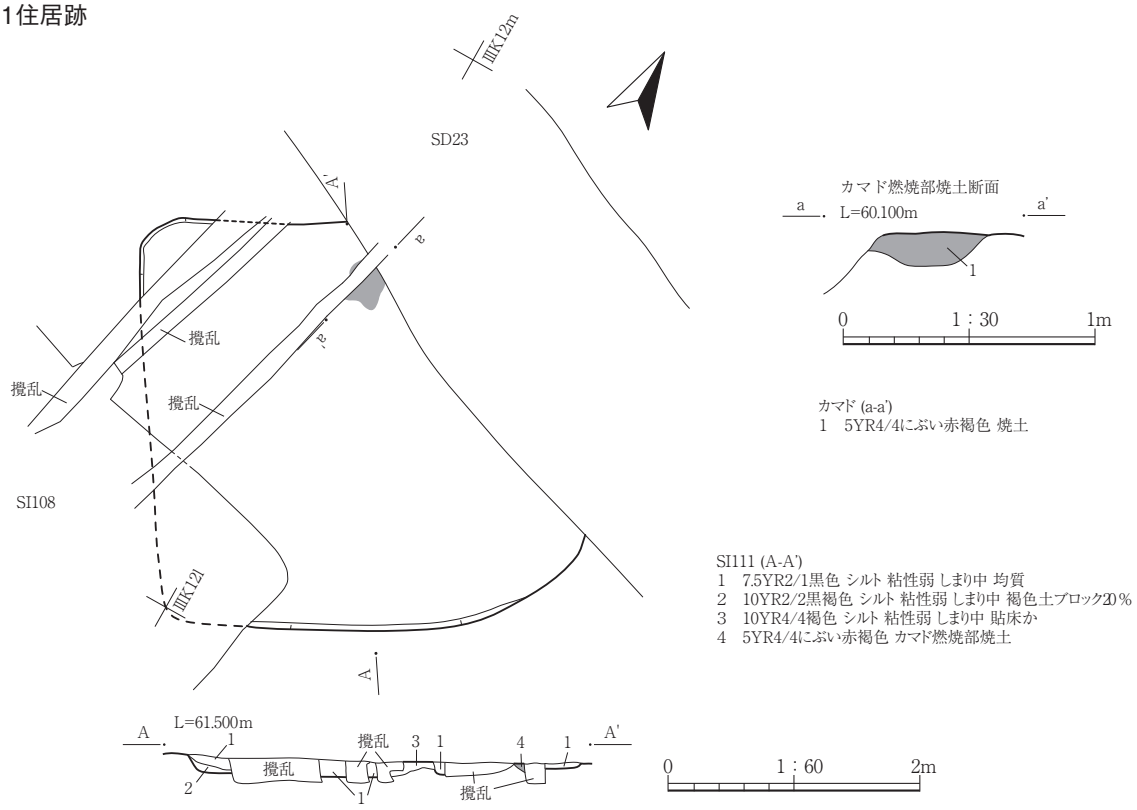
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	56	52	73
Pit2	34	29	41
Pit3	32	25	40
Pit4	45	43	64

第 117 図　SI109 住居跡・SI110 住居跡

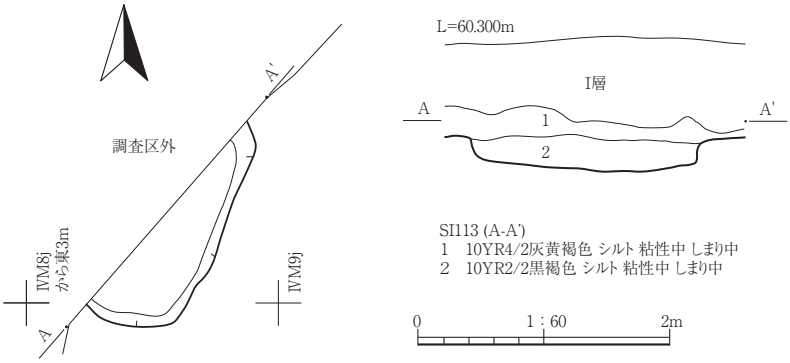
SI110住居跡



SI111住居跡

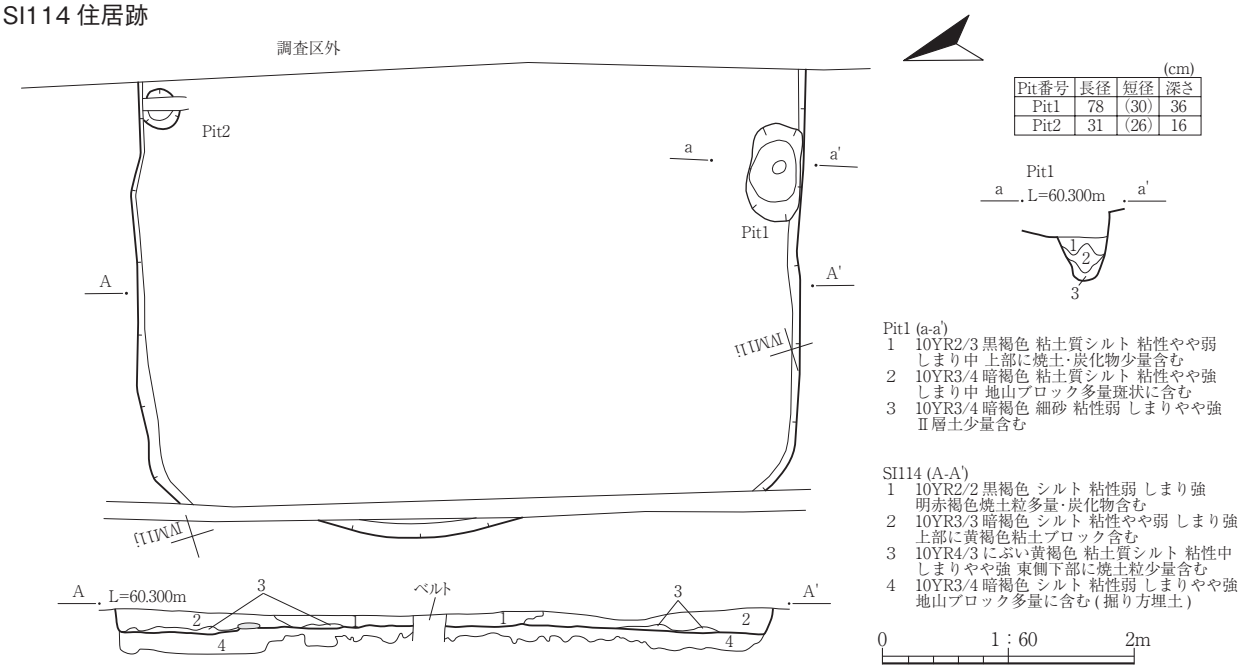


SI113住居跡



第 118 図　SI110 住居跡 (2)・SI111 住居跡・SI113 住居跡

SI114 住居跡



(cm)

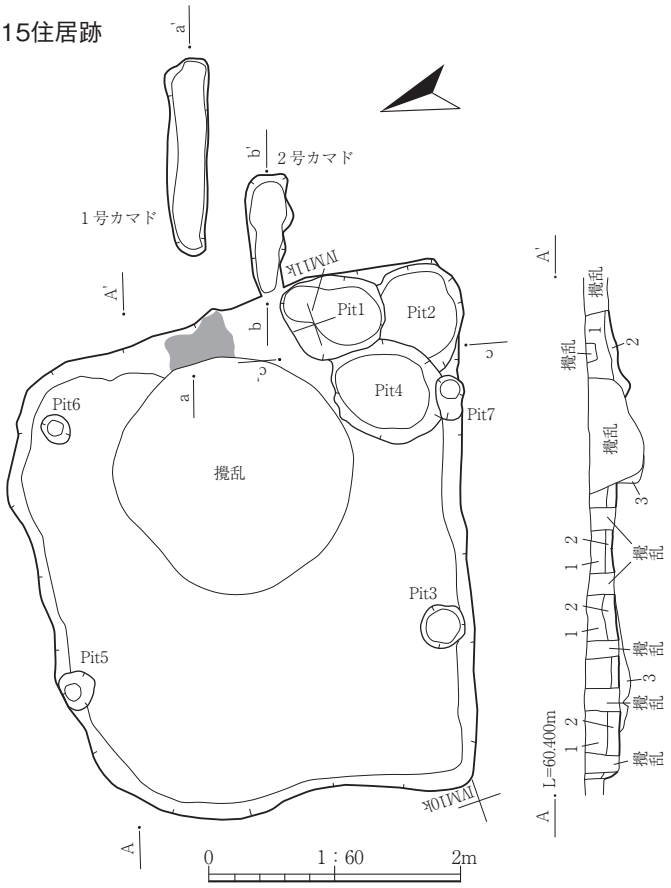
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	78	(30)	36
Pit2	31	(26)	16

Pit1 (a-a')
1　10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 上部に焼土･炭化物少量含む
2　10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 地山ブロック多量斑状に含む
3　10YR3/4 暗褐色 細砂 粘性弱 しまりやや強 Ⅱ層土少量含む

SI114 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 明赤褐色焼土粒多量･炭化物含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 上部に黄褐色粘土ブロック含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 東側下部に焼土粒少量含む
4　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック多量に含む (掘り方埋土)

0　1：60　2m

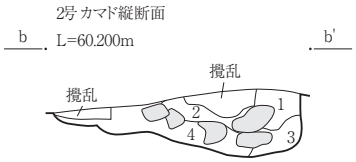
SI115住居跡



(cm)

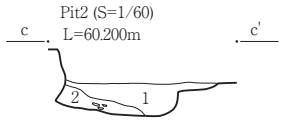
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	85	72	36
Pit2	(89)	(23)	50
Pit3	(38)	(34)	25
Pit4	(102)	(37)	33
Pit5	(28)	(31)	27
Pit6	26	21	18
Pit7	36	23	51

SI115 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 3 ～ 5%含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 5 ～ 7%焼土粒含む
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 褐色土ブロック 3%含む (掘り方埋土)

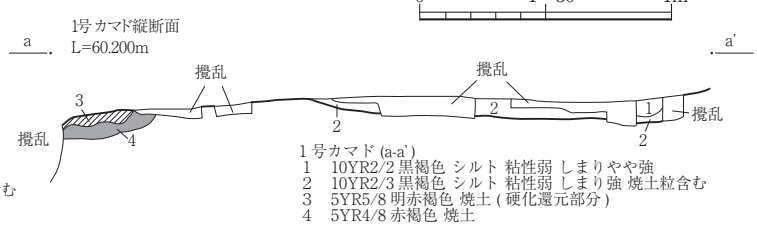


2号 カマド (b-b')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック 5%
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 炭化物含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱
4　10YR2/2 黒褐色 粘土 粘性中 しまり中 焼土粒含む

0　1：30　1m



Pit2 (c-c')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む



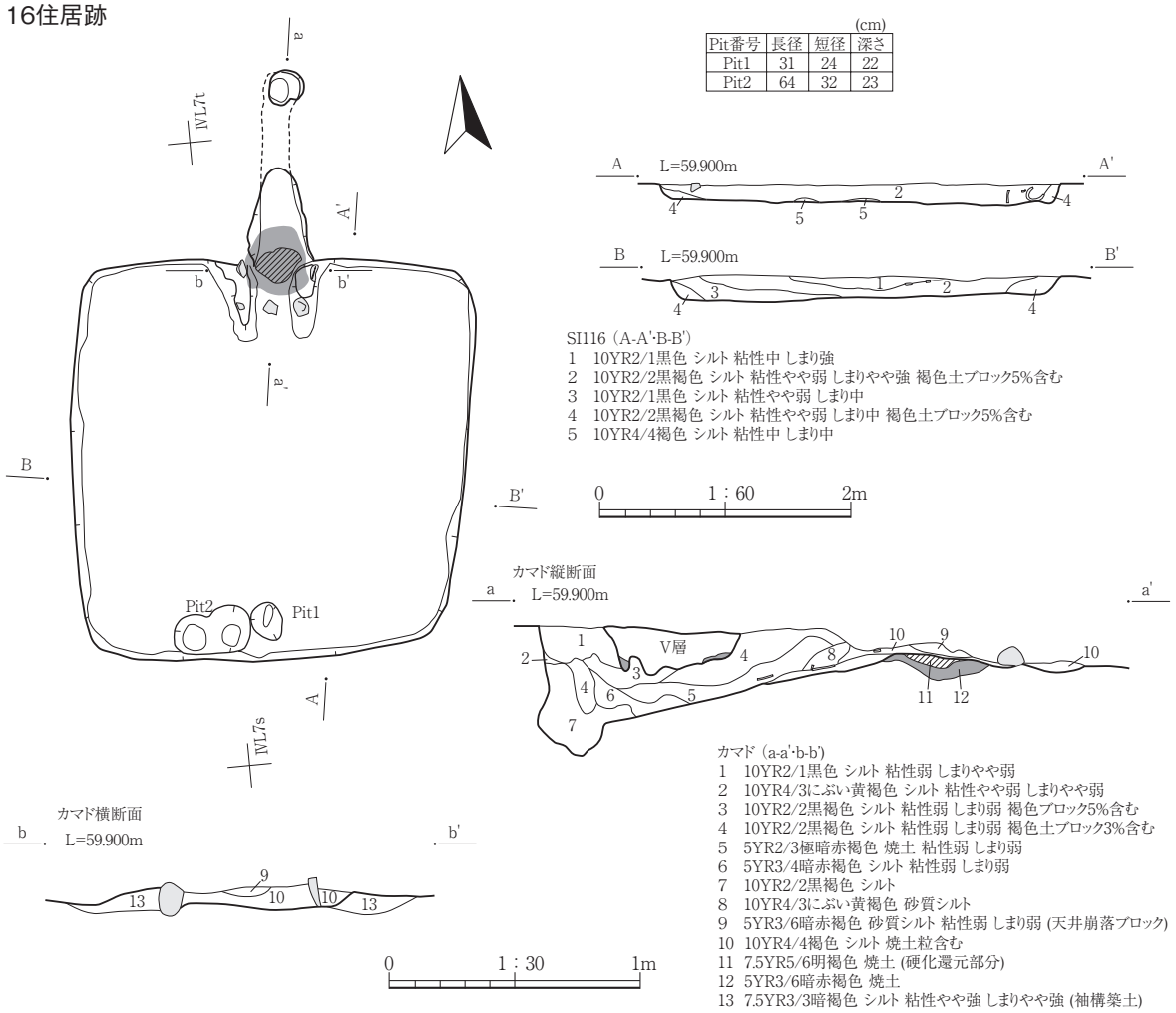
1 号カマド (a-a')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
2　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土粒含む
3　5YR5/8 明赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
4　5YR4/8 赤褐色 焼土

第 119 図　SI114 住居跡・SI115 住居跡

SI116住居跡

(cm)

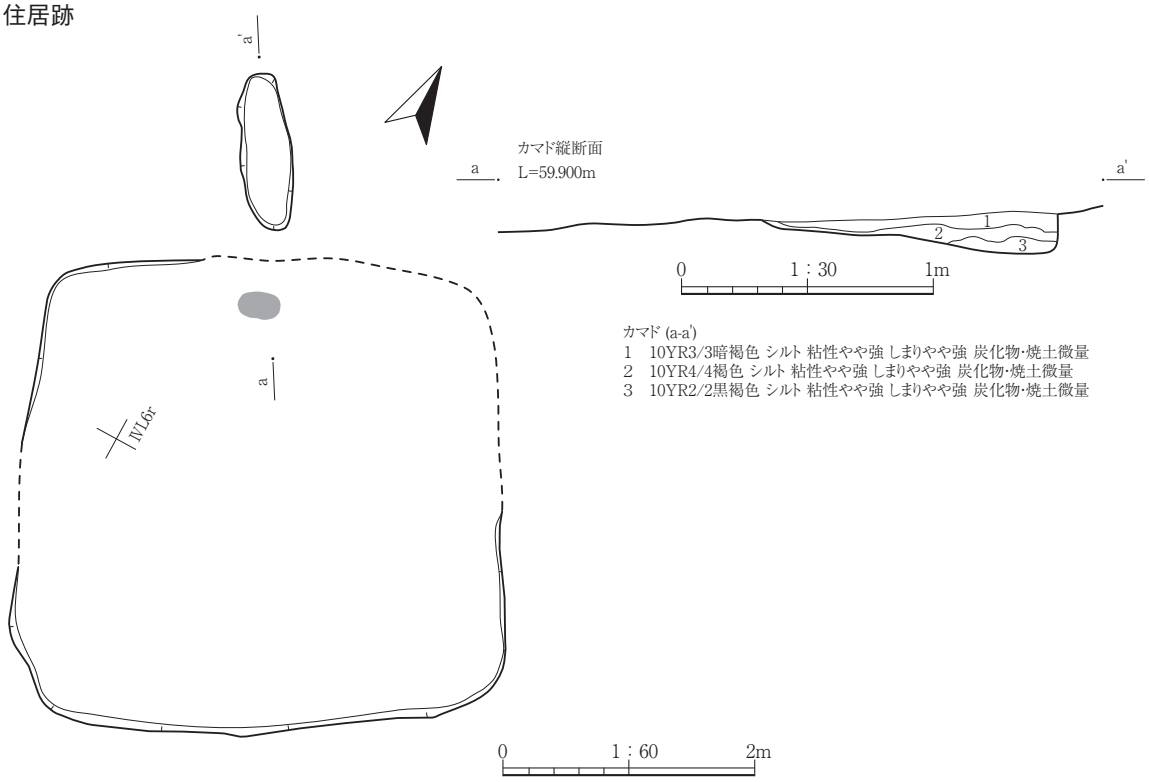
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	31	24	22
Pit2	64	32	23



SI116（A-A'･B-B'）
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり強
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色土ブロック5%含む
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性やや弱 しまり中
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色土ブロック5%含む
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性中 しまり中

カマド（a-a'･b-b'）
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色ブロック5%含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック3%含む
5　5YR2/3極暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり弱
6　5YR3/4暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
7　10YR2/2黒褐色 シルト
8　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト
9　5YR3/6暗赤褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 (天井崩落ブロック)
10　10YR4/4褐色 シルト 焼土粒含む
11　7.5YR5/6明褐色 焼土 (硬化還元部分)
12　5YR3/6暗赤褐色 焼土
13　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 (袖構築土)

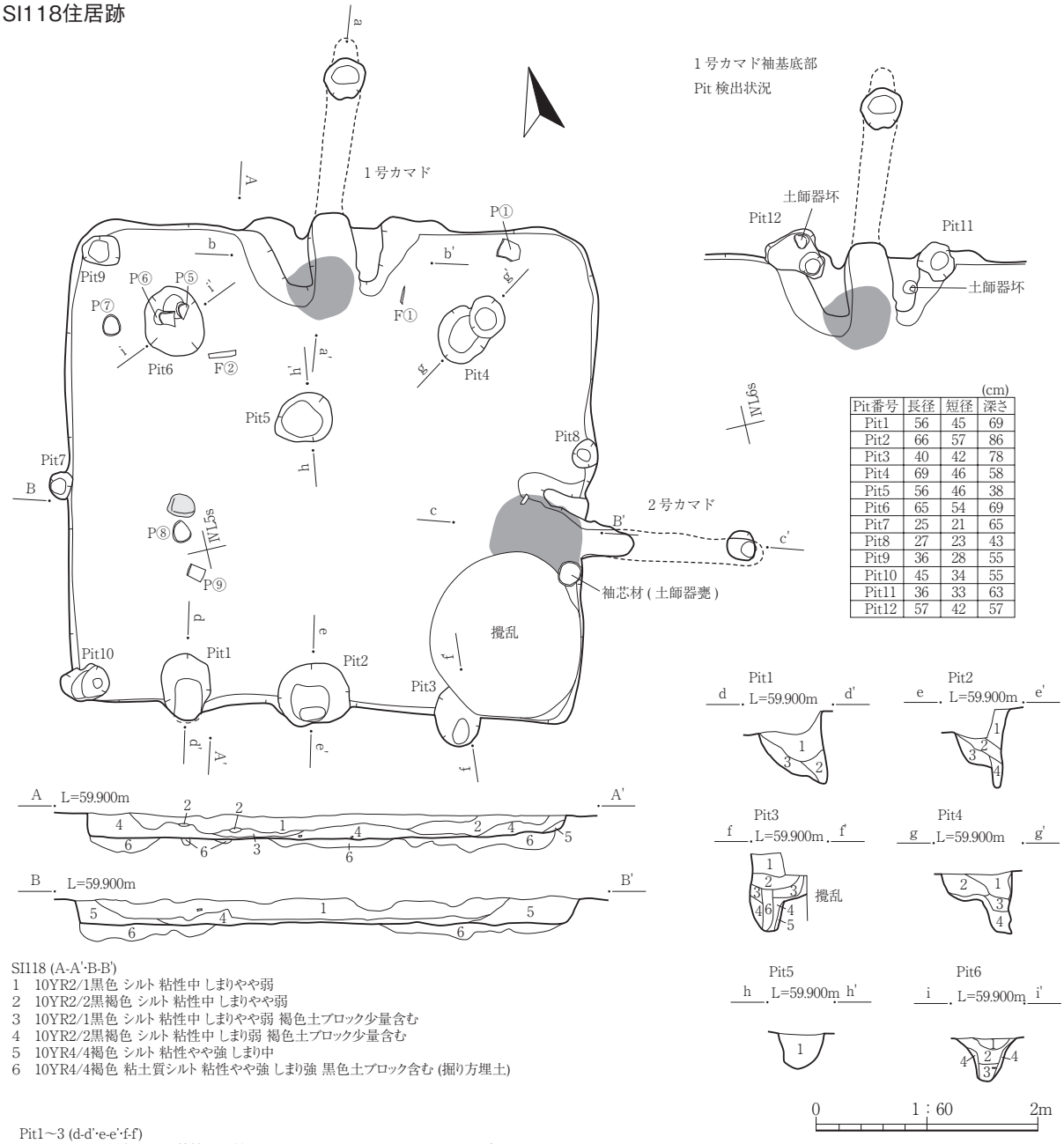
SI117 住居跡



カマド（a-a'）
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 炭化物･焼土微量
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 炭化物･焼土微量
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 炭化物･焼土微量

第 120 図　SI116 住居跡・SI117 住居跡

SI118住居跡



1号カマド袖基底部
Pit 検出状況

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	56	45	69
Pit2	66	57	86
Pit3	40	42	78
Pit4	69	46	58
Pit5	56	46	38
Pit6	65	54	69
Pit7	25	21	65
Pit8	27	23	43
Pit9	36	28	55
Pit10	45	34	55
Pit11	36	33	63
Pit12	57	42	57

SI118 (A-A'･B-B')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
3　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック少量含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 褐色土ブロック少量含む
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
6　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり強 黒色土ブロック含む (掘り方埋土)

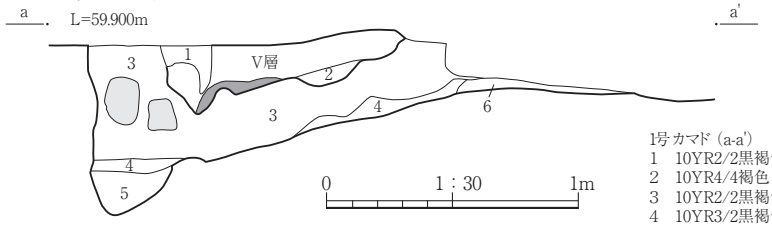
Pit1～3 (d-d'･e-e'･f-f')
1　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 褐色土粒含む
5　10YR4/4褐色 シルト 地山崩落層
6　10YR1.7/1黒色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 (柱痕跡)

Pit4 (g-g')
1　10YR2/1黒色 シルト 褐色土ブロック少量含む 最下部に焼土粒含む

Pit5 (h-h')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック含む

Pit6 (i-i')
1　10YR2/1黒色 シルト 褐色土ブロック少量含む 最下部に焼土粒少量含む

1号カマド縦断面



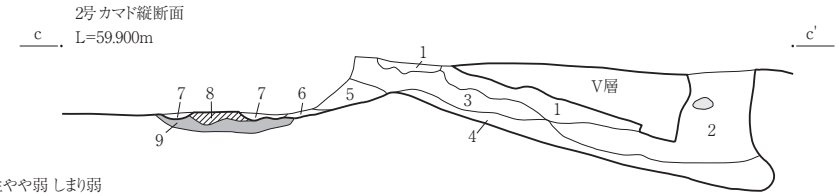
1号カマド横断面

1号カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 褐色土ブロック含む
2　10YR4/4褐色 シルト 地山Ⅲ層の崩落ブロック
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 暗褐色土ブロック少量含む
4　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
5　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 焼土粒少量含む
6　7.5YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 焼土ブロック･炭化物少量含む

1号カマド (b-b')
1　7.5YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 明赤褐色焼土ブロックと炭化物少量含む
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強

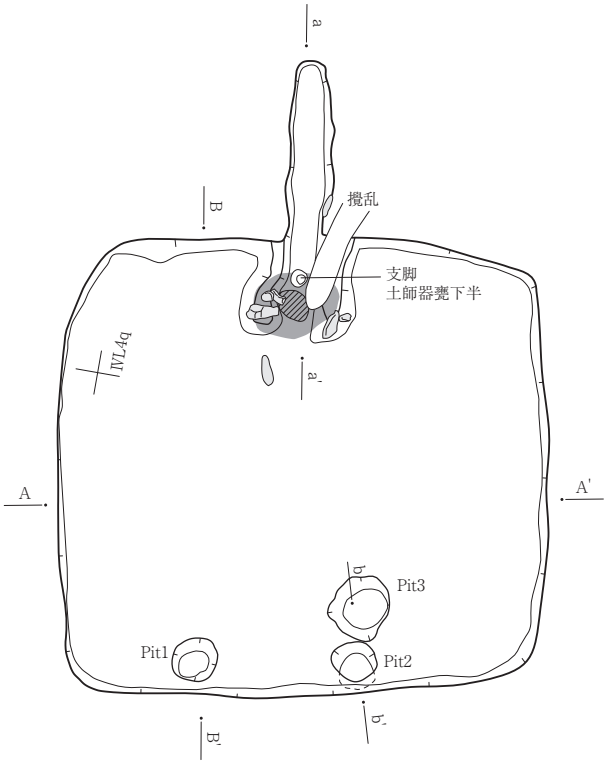
第 121 図　SI118 住居跡 (1)

SI118住居跡



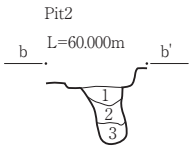
2号 カマド(c-c')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
2　10YR3/2黒褐色 シルト 暗褐色土粒･焼土粒少量含む
3　10YR4/3にぶい黄褐色 粘性弱 しまり弱 シルト 焼土粒少量含む
4　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 褐色土粒･焼土粒少量含む
5　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 焼土粒多量に含む
6　7.5YR3/3暗褐色 シルト 焼土粒多量に含む
7　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 赤褐色焼土ブロック多量に含む
8　2.5YR4/8赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
9　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

SI119住居跡

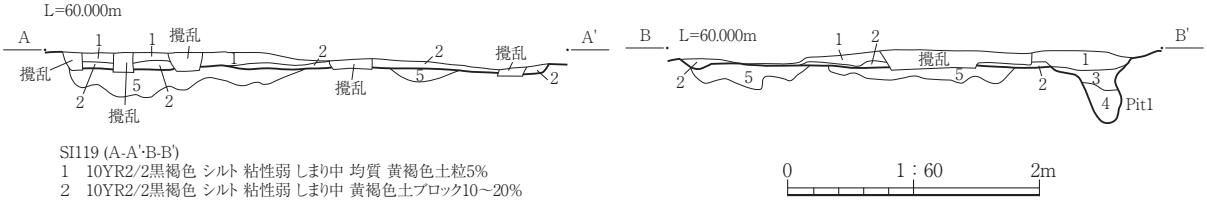


(cm)

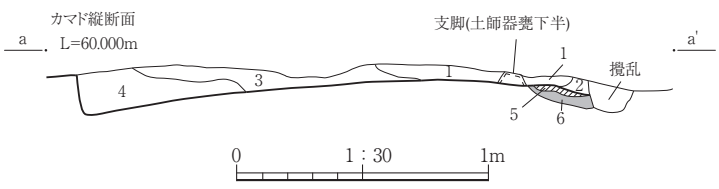
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	38	21	45
Pit2	37	17	45
Pit3	53	46	35



Pit2 (b-b')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック斑状
2　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック10～15%
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック5%



SI119 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 黄褐色土粒5%
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロック10～20%
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒5%
4　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む
5　10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強(掘り方埋土)



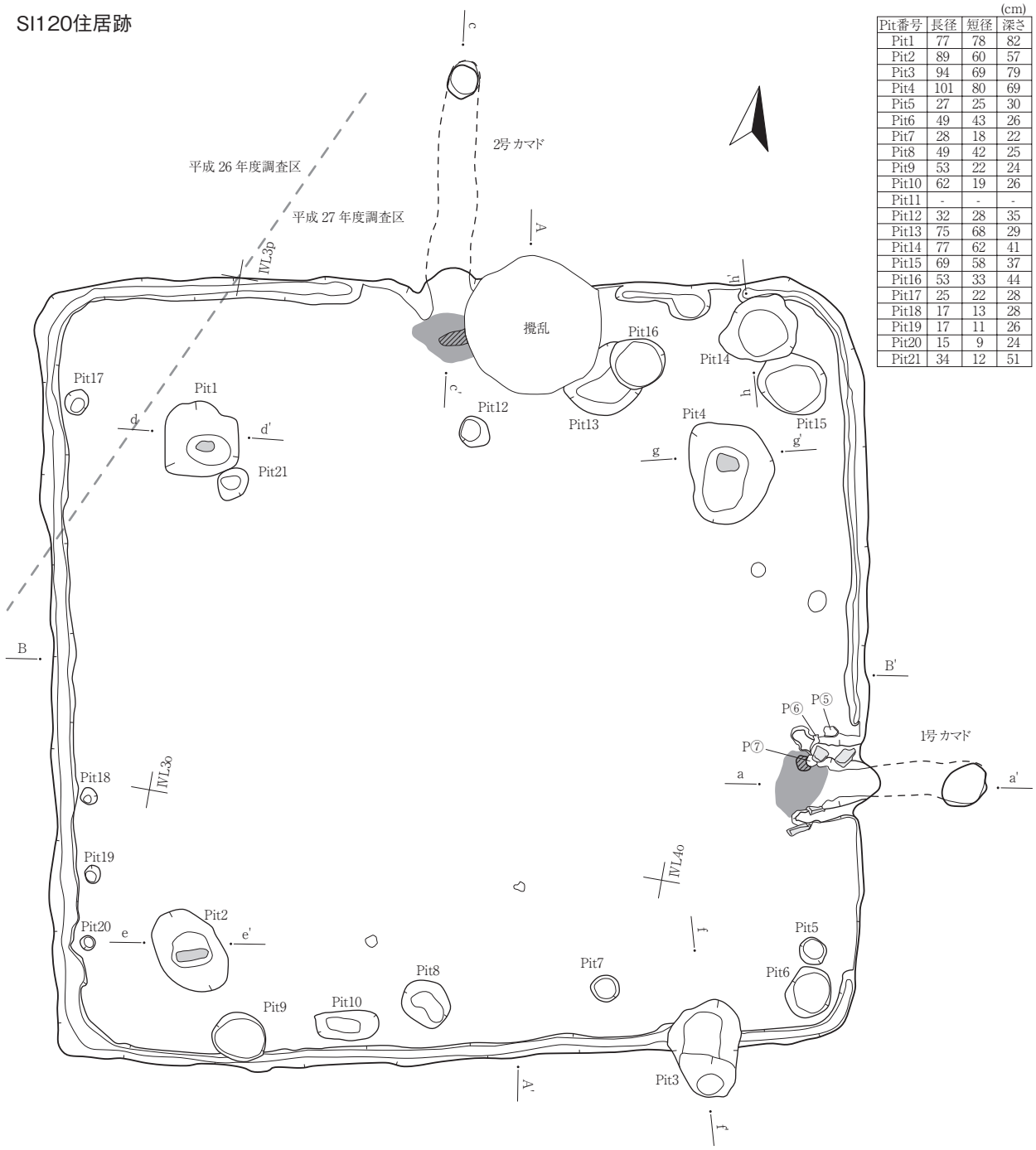
カマド (a-a')
1　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒10～20%
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 焼土ブロック(燃焼面上のブロック)
3　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物5%
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒3～5%
5　5YR5/4にぶい赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR4/6赤褐色 燃焼部焼土

第 122 図　SI118 住居跡（2）・SI119 住居跡

SI120住居跡

(cm)

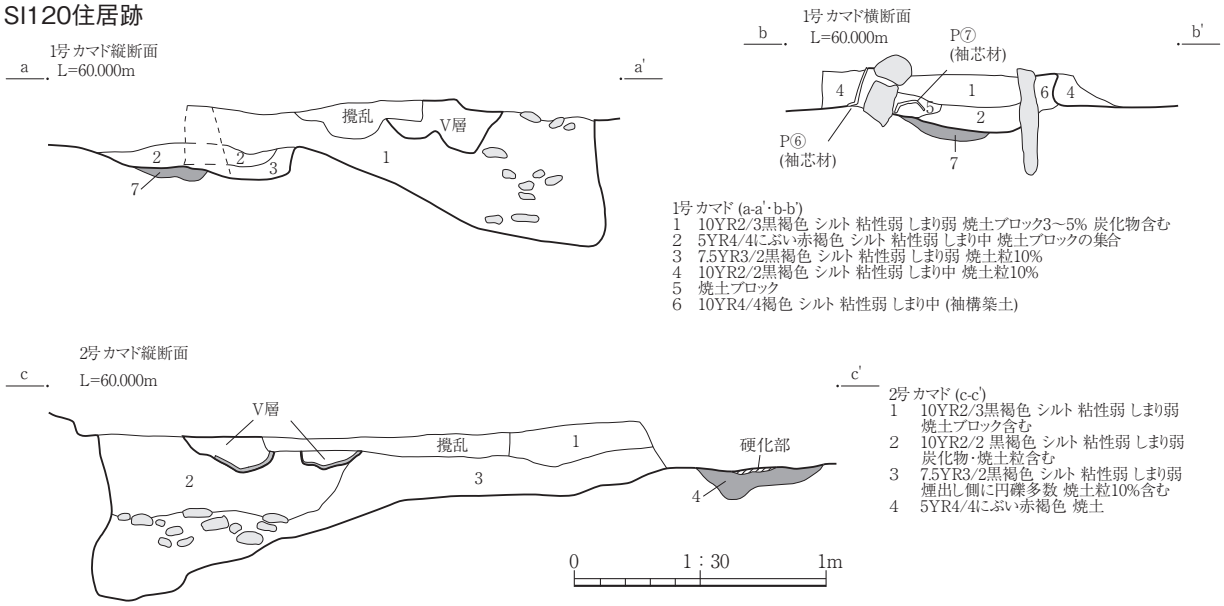
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	77	78	82
Pit2	89	60	57
Pit3	94	69	79
Pit4	101	80	69
Pit5	27	25	30
Pit6	49	43	26
Pit7	28	18	22
Pit8	49	42	25
Pit9	53	22	24
Pit10	62	19	26
Pit11	-	-	-
Pit12	32	28	35
Pit13	75	68	29
Pit14	77	62	41
Pit15	69	58	37
Pit16	53	33	44
Pit17	25	22	28
Pit18	17	13	28
Pit19	17	11	26
Pit20	15	9	24
Pit21	34	12	51



SI120 (A-A'･B-B')
1　10YR5/6黄褐色 細砂 粘性弱 しまり中 ラミナ状の部分あり 洪水堆積層
2　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 10～20%
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物粒1～2% 褐色土ブロック3%
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱～中 しまり中 焼土粒･炭化物含む
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 一次堆積土
6　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック20～30% (掘り方埋土)

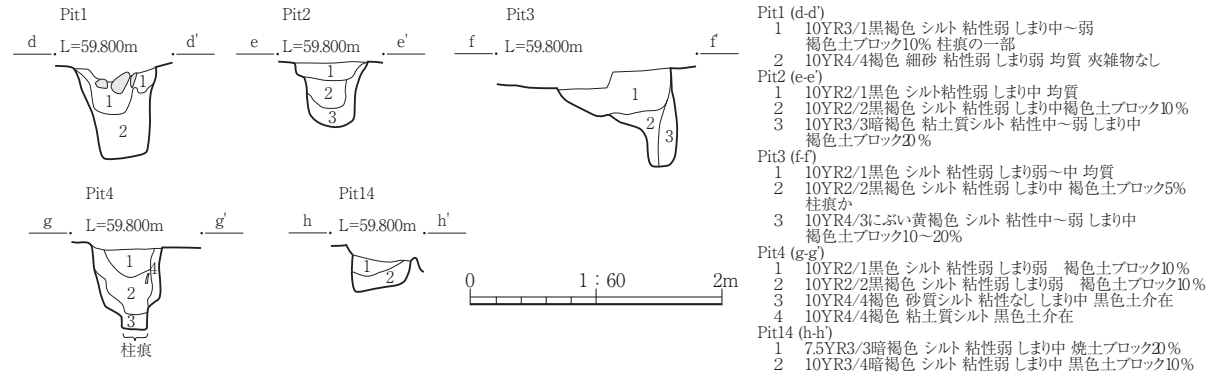
第123図　SI120住居跡（1）

SI120住居跡



1号 カマド (a-a'・b-b')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック3～5% 炭化物含む
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロックの集合
3　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒10%
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒10%
5　焼土ブロック
6　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (袖構築土)

2号 カマド (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物・焼土粒含む
3　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 煙出し側に円礫多数 焼土粒10%含む
4　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土



Pit1 (d-d')
1　10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中～弱
　褐色土ブロック10% 柱痕の一部
2　10YR4/4褐色 細砂 粘性弱 しまり弱 均質 夾雑物なし

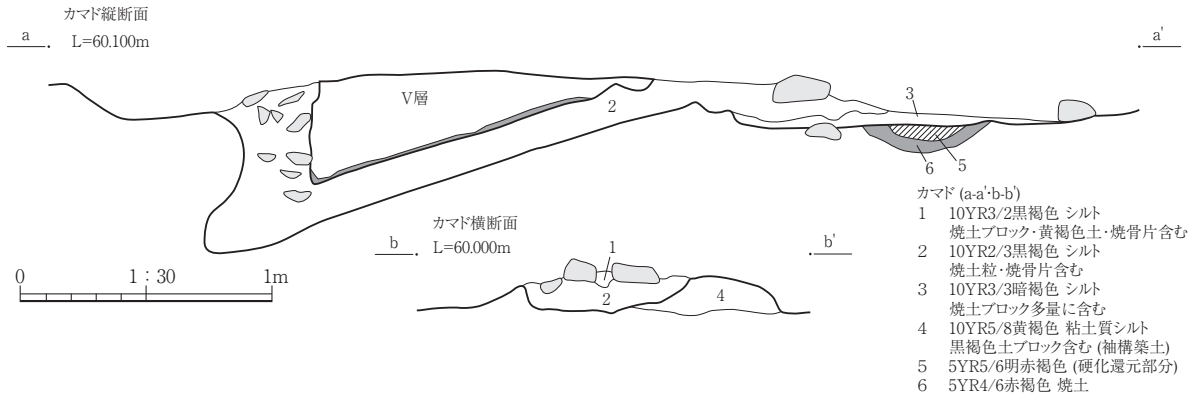
Pit2 (e-e')
1　10YR2/1黒色 シルト粘性弱 しまり中 均質
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中褐色土ブロック10％
3　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中～弱 しまり中
　褐色土ブロック20％

Pit3 (f-f')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱～中 均質
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%
　柱痕か
3　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中～弱 しまり中
　褐色土ブロック10～20%

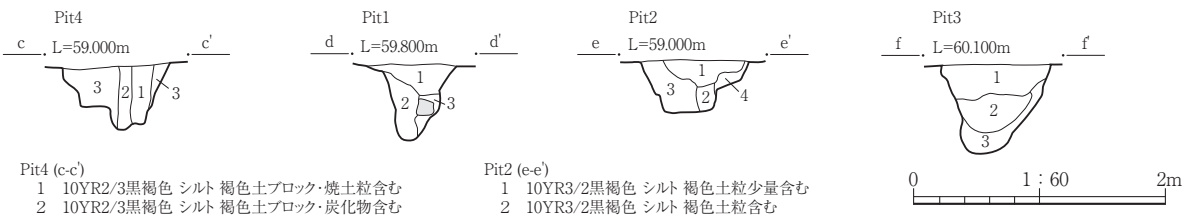
Pit4 (g-g')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱　褐色土ブロック10％
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱　褐色土ブロック10％
3　10YR4/4褐色 砂質シルト 粘性なし しまり中 黒色土介在
4　10YR4/4褐色 粘土質シルト 黒色土介在

Pit14 (h-h')
1　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック20％
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒色土ブロック10％

SI121住居跡



カマド (a-a'・b-b')
1　10YR3/2黒褐色 シルト
　焼土ブロック・黄褐色土・焼骨片含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト
　焼土粒・焼骨片含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト
　焼土ブロック多量に含む
4　10YR5/8黄褐色 粘土質シルト
　黒褐色土ブロック含む (袖構築土)
5　5YR5/6明赤褐色 (硬化還元部分)
6　5YR4/6赤褐色 焼土



Pit4 (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土ブロック・焼土粒含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土ブロック・炭化物含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト

Pit1 (d-d')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土粒遺物含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 褐色土ブロック・炭化物含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 礫含む

Pit2 (e-e')
1　10YR3/2黒褐色 シルト 褐色土粒少量含む
2　10YR3/2黒褐色 シルト 褐色土粒含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土粒・炭化物・焼土粒含む
4　10YR3/4暗褐色 シルト 褐色土粒含む

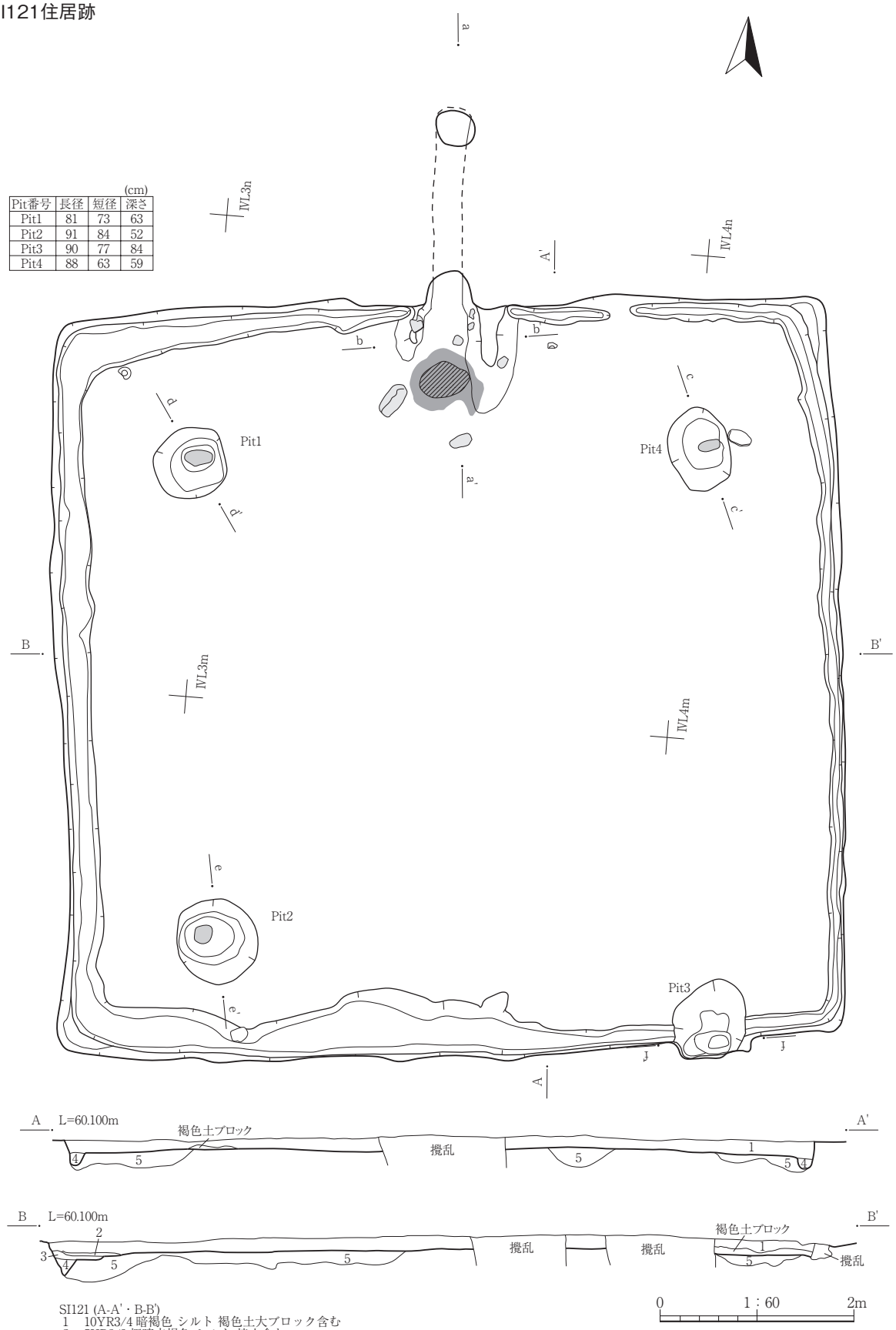
Pit3 (f-f')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土ブロック少量含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 炭化物・焼土含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土ブロック多量に含む

第 124 図　SI120 住居跡 (2)・SI121 住居跡 (1)

SI121住居跡

(cm)

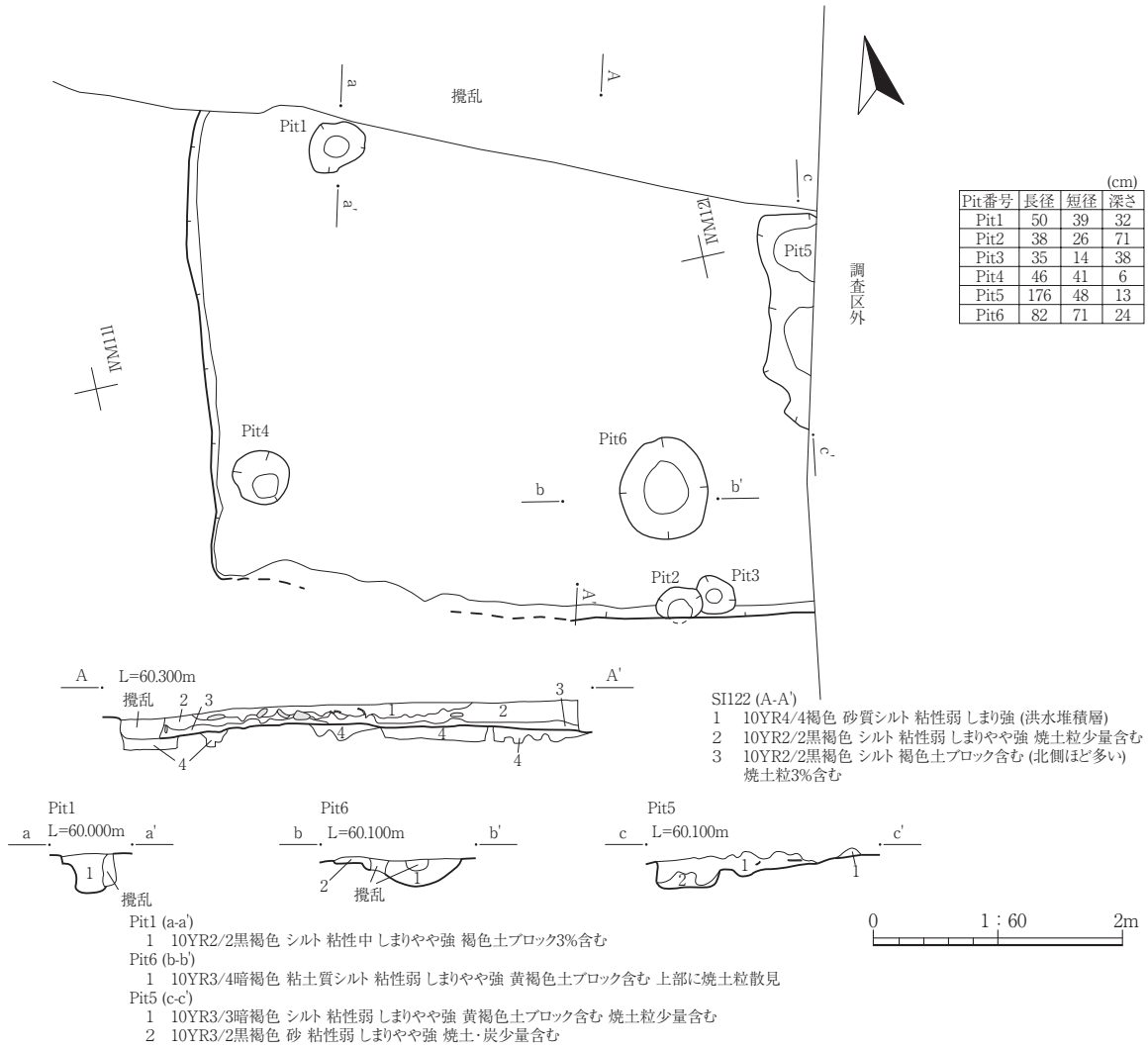
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	81	73	63
Pit2	91	84	52
Pit3	90	77	84
Pit4	88	63	59



SI121 (A-A'・B-B')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 褐色土大ブロック含む
2　5YR2/3 極暗赤褐色 シルト 焼土含む
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 褐色土ブロック含む
4　10YR3/4 暗褐色 シルト 褐色土ブロック含む 粘性弱 しまり弱
5　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック 20 ～ 30% (掘り方埋土)

第 125 図　SI121 住居跡（2）

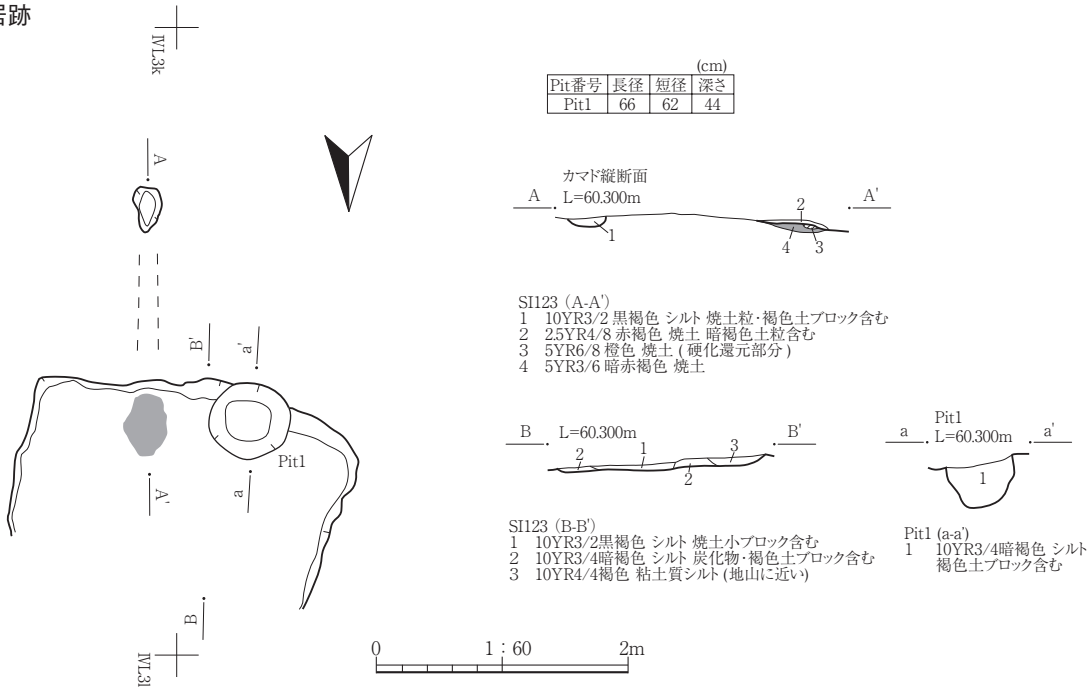
SI122住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	50	39	32
Pit2	38	26	71
Pit3	35	14	38
Pit4	46	41	6
Pit5	176	48	13
Pit6	82	71	24

SI123 住居跡

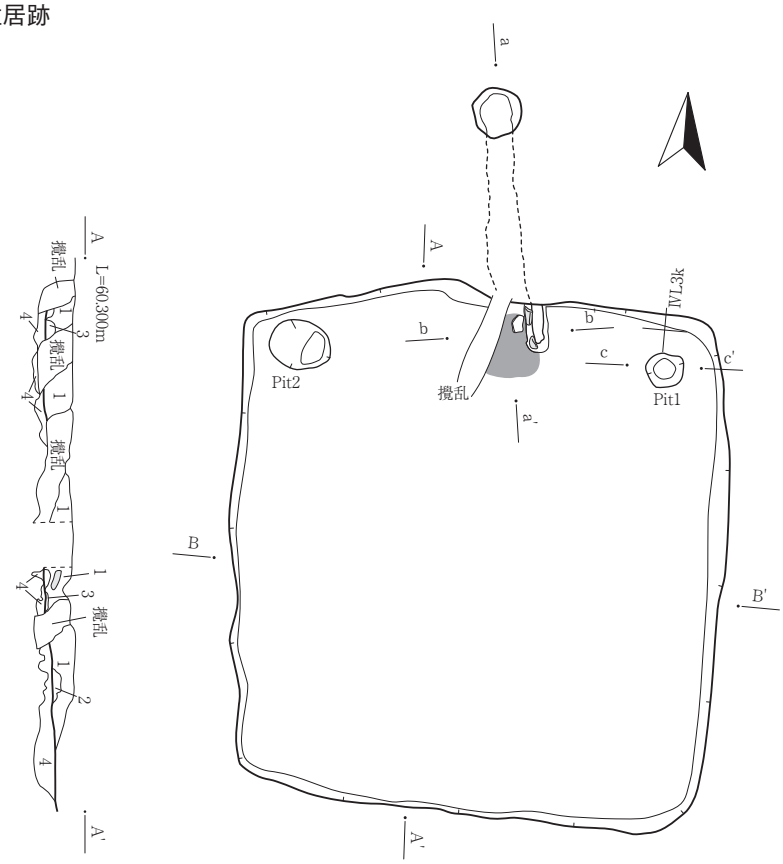


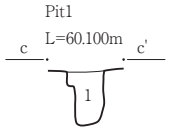
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	66	62	44

第 126 図　SI122 住居跡・SI123 住居跡

SI124住居跡

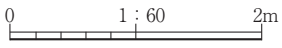




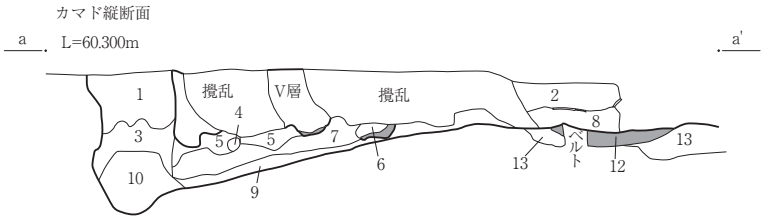
Pit1 (c-c')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック20%含む

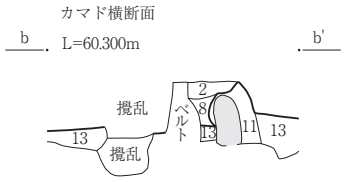
(cm)

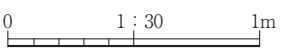
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	31	30	45
Pit2	50	40	16



SI124 (A-A'・B-B')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒色土粒･焼土粒･褐色土ブロック 10% 含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色土ブロック 3%含む
3　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 暗褐色･黒色土ブロック 3%含む
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色土ブロック 20%含む (掘り方埋土)



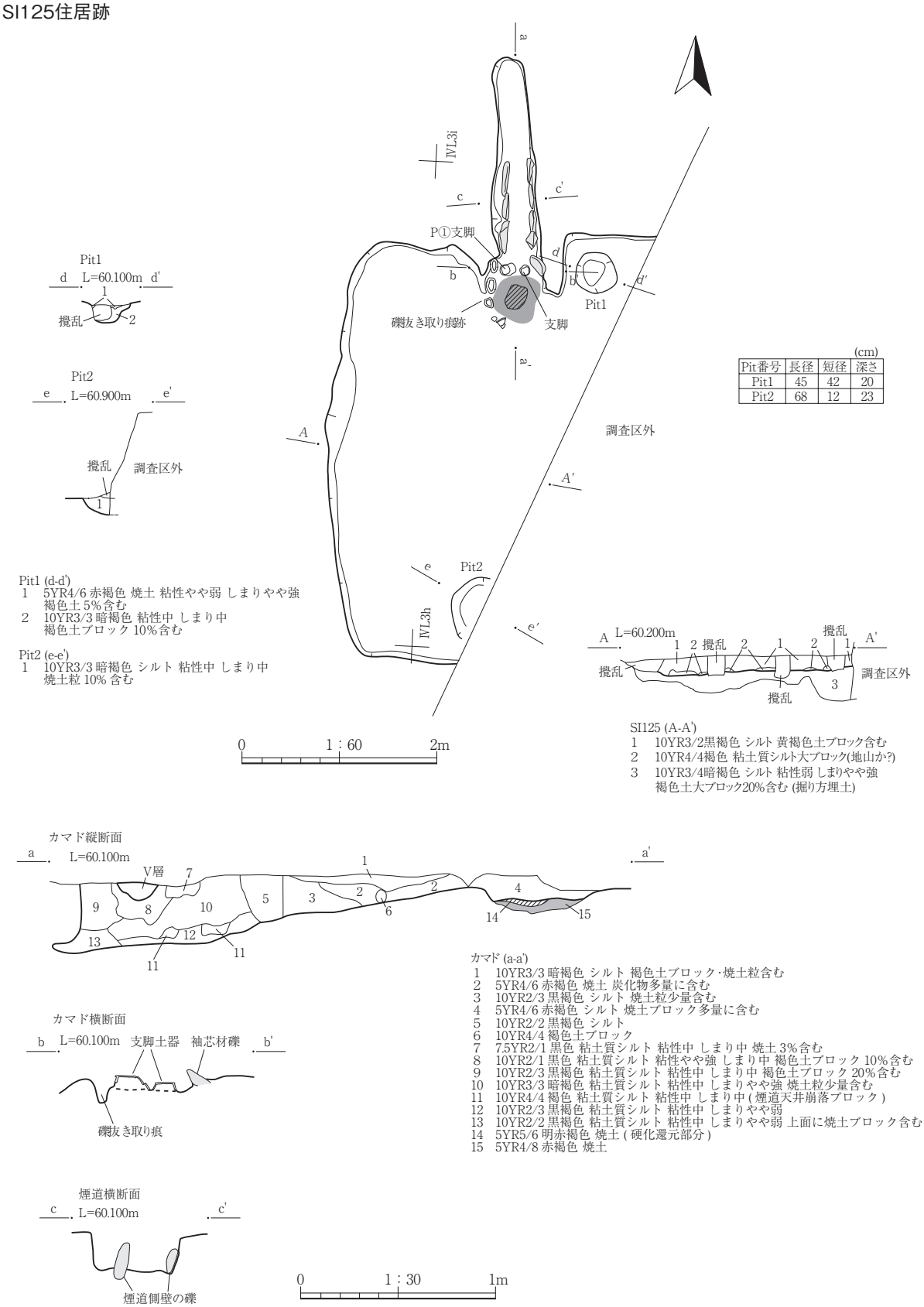




カマド (a-a'･b-b')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒5%含む
3　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック多量に含む
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
5　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック10%含む
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 (煙道天井崩落ブロック)
7　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 黒褐色土混入 焼土粒5%含む
8　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土ブロック多量に含む 焼骨多量に含む
9　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 焼土粒･褐色土ブロック含む
10　10YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり弱
11　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 焼土ブロック含む (袖構築土)
12　5YR5/8明赤褐色 焼土
13　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 (掘り方埋土)

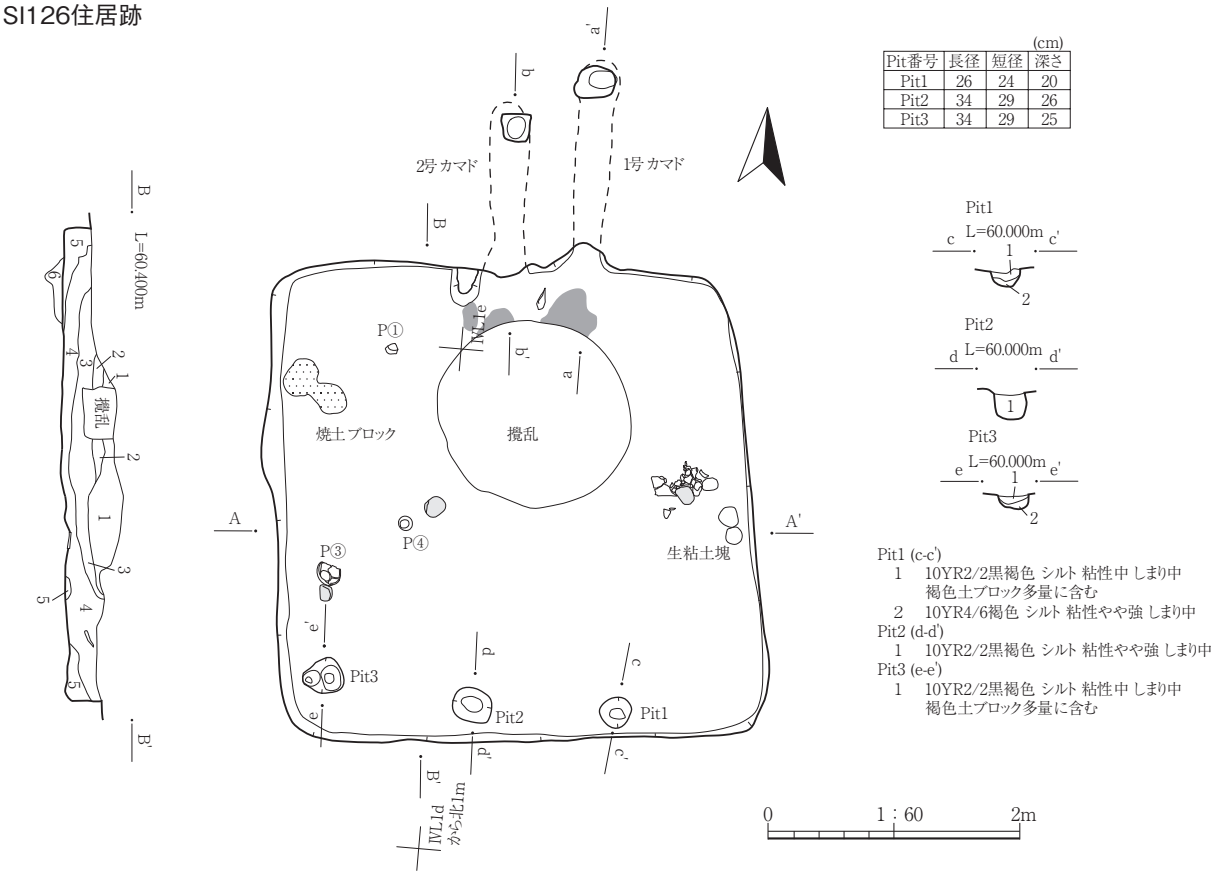
第 127 図　SI124 住居跡

SI125住居跡



第 128 図　SI125 住居跡

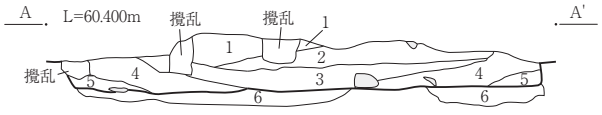
SI126住居跡



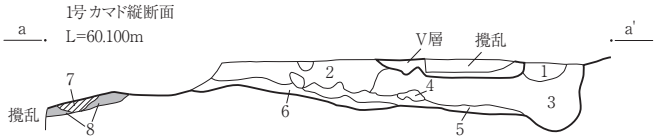
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	26	24	20
Pit2	34	29	26
Pit3	34	29	25

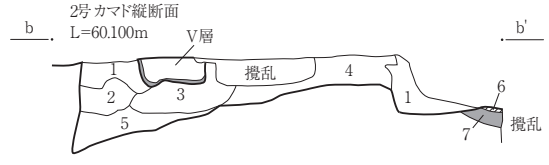
Pit1 (c-c')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　褐色土ブロック多量に含む
2　10YR4/6褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
Pit2 (d-d')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
Pit3 (e-e')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　褐色土ブロック多量に含む



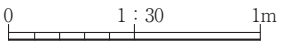
SI126 (A-A'･B-B')
1　10YR3/2黒褐色 シルト
2　10YR3/4暗褐色 シルト 褐色土ブロックを主とする
3　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土小ブロック･炭化物含む
4　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土粒を多く含む
5　10YR2/2黒褐色 シルト 褐色土小ブロックをまばらに含む
6　5YR3/4暗赤褐色 シルト 焼土ブロック含む(掘り方埋土)



1号 カマド (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック10％含む
2　10YR4/4褐色 シルト 黒褐色土ブロック少量含む
3　7.5YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 褐色土ブロック多量に含む
4　10YR4/4褐色 シルト 下面焼成受ける 煙道天井の崩落部分
5　10YR4/4褐色 シルト 焼土粒少量含む
6　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
7　2.5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
8　5YR3/6暗赤褐色 焼土

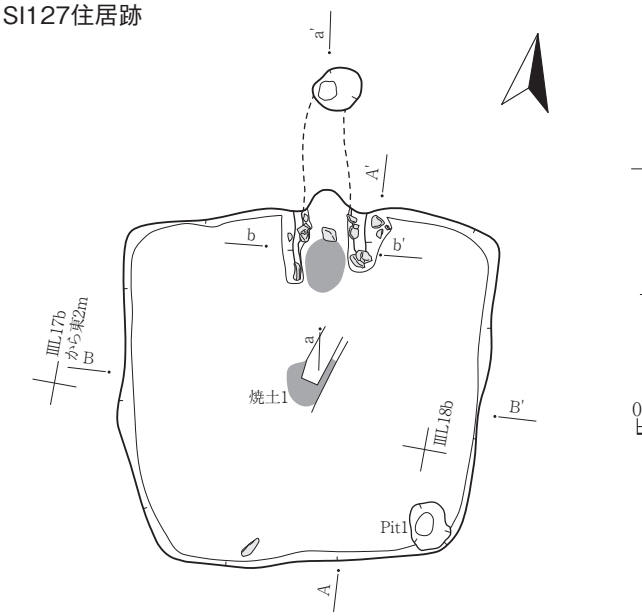


2号 カマド (b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土粒10％含む
2　7.5YR3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 黒褐色土粒少量含む
3　7.5YR3/4暗褐色 シルト 黒褐色土ブロック含む 焼土粒少量含む
4　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱 焼土粒10％含む
5　7.5YR3/1黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱
6　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
7　7.5YR3/3暗褐色 焼土



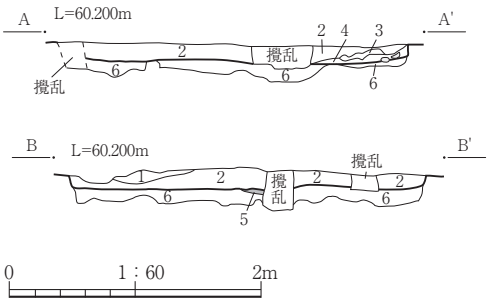
第 129 図　SI126 住居跡

SI127住居跡

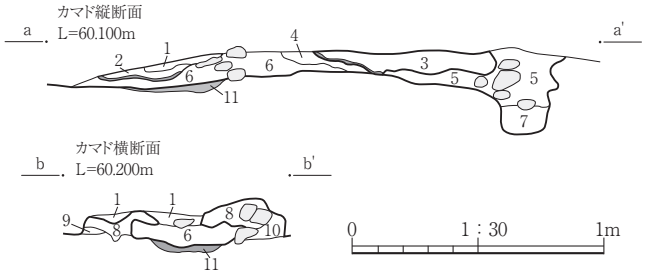


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	40	33	30

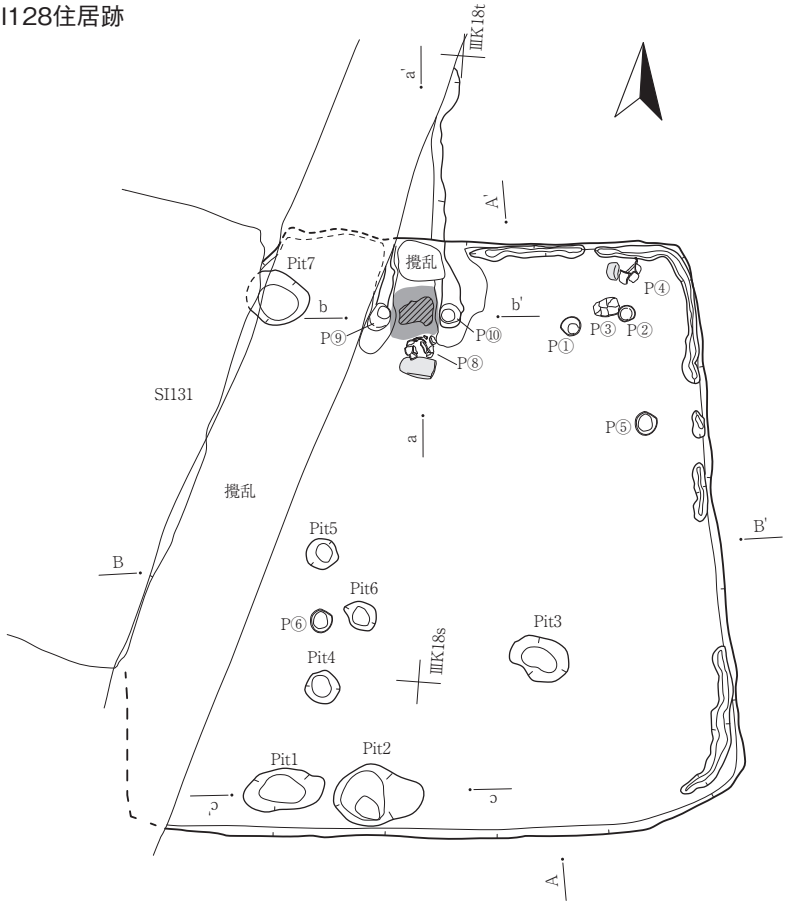


SI127（A-A'･B-B'）
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 洪水堆積細砂ブロックラミナ状に含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 褐色土ブロック5%含む
3　5YR4/6赤褐色 シルト 焼土ブロック（二次堆積）
4　7.5YR4/3褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒20%含む
5　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中（焼土1の弱変焼土）
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中～強 褐色土ブロック20～40%含む



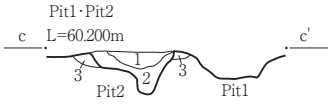
SI127カマド（a-a'･b-b'）
1　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む（燃焼部上堆積土）
2　10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 下部被熱（天井部構成土）
3　7.5YR2/3極暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 下部被熱（天井部V層）
4　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック含む
5　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒含む 円礫含む 4層と同相
6　7.5YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒･焼土ブロック集中20～30%
7　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック10%含む
8　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼成部分混在（カマド袖崩落部分）
9　10YR2/1黒色 シルト（住居埋土の一部）
10　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中（袖構築土）
11　7.5YR4/4褐色 焼土

SI128住居跡

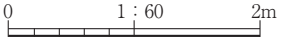


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	66	33	20
Pit2	76	37	49
Pit3	48	35	19
Pit4	28	27	11
Pit5	26	24	13
Pit6	28	22	16
Pit7	51	43	20

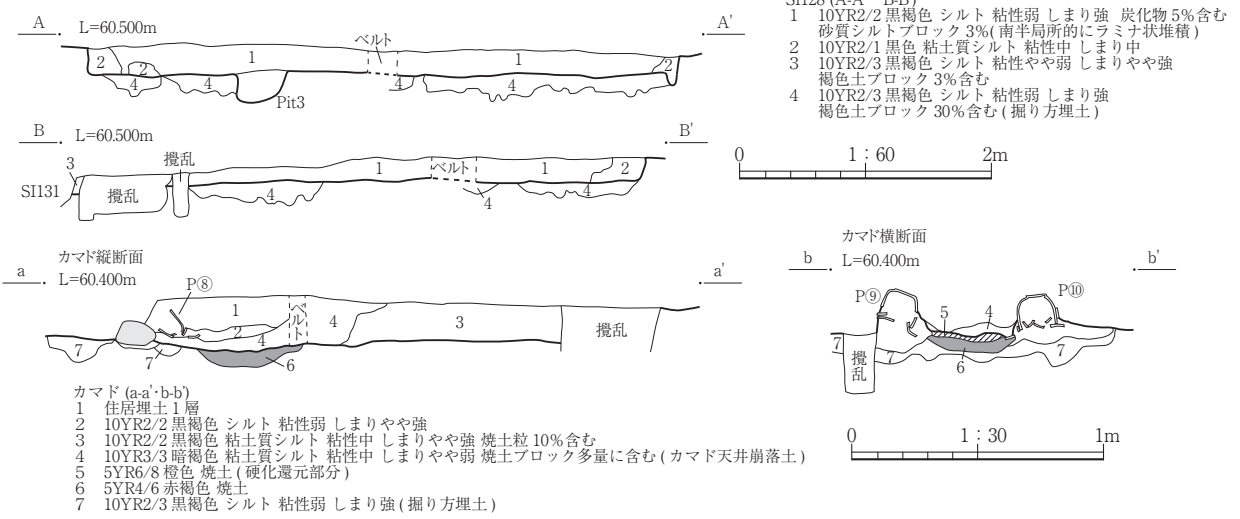


Pit2（c-c'）
1　10YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
2　7.5YR2/1黒色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック10%含む
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強（住居掘り方埋土）



第 130 図　SI127 住居跡・SI128 住居跡（1）

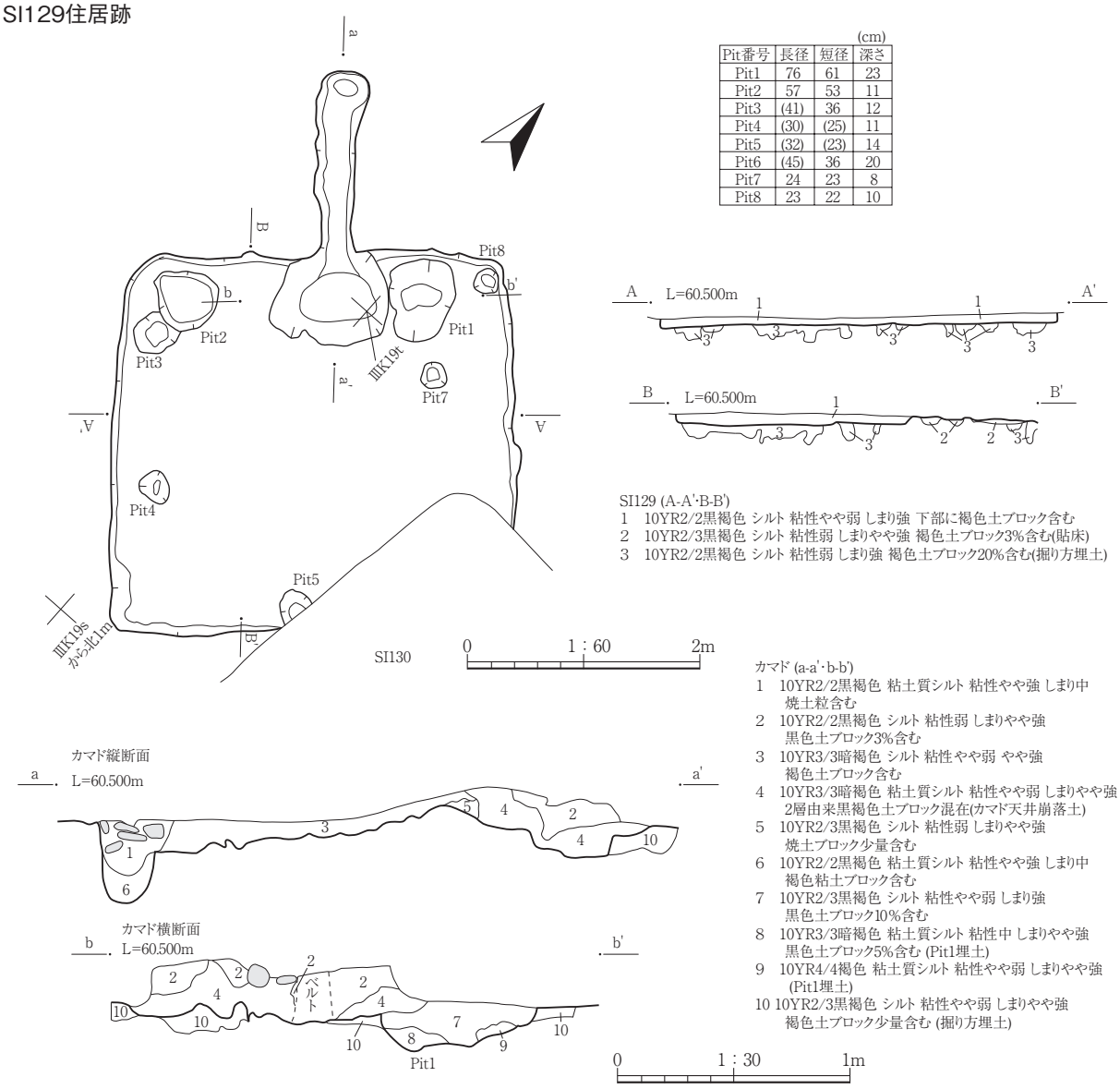
SI128住居跡



SI128 (A-A'・B-B')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 炭化物 5%含む
　砂質シルトブロック 3%(南半局所的にラミナ状堆積)
2　10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
　褐色土ブロック 3%含む
4　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　褐色土ブロック 30%含む (掘り方埋土)

カマド (a-a'・b-b')
1　住居埋土 1 層
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
3　10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 焼土粒 10%含む
4　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土ブロック多量に含む (カマド天井崩落土)
5　5YR6/8 橙色 焼土 (硬化還元部分)
6　5YR4/6 赤褐色 焼土
7　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 (掘り方埋土)

SI129住居跡



(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	76	61	23
Pit2	57	53	11
Pit3	(41)	36	12
Pit4	(30)	(25)	11
Pit5	(32)	(23)	14
Pit6	(45)	36	20
Pit7	24	23	8
Pit8	23	22	10

SI129 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 下部に褐色土ブロック含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 褐色土ブロック3%含む(貼床)
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 褐色土ブロック20%含む(掘り方埋土)

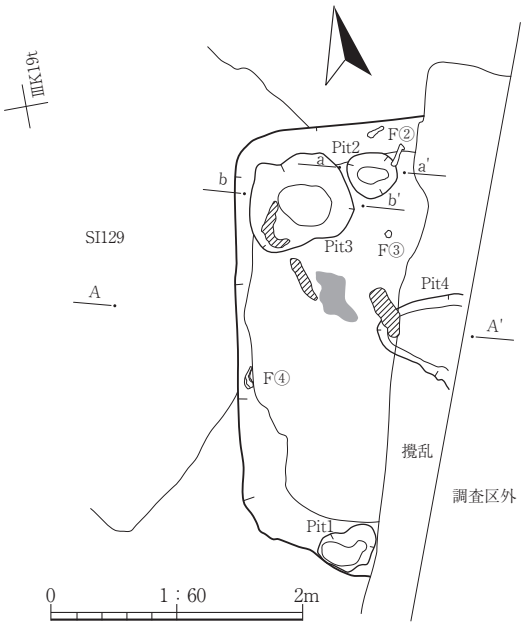
カマド (a-a'･b-b')
1　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
　焼土粒含む
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　黒色土ブロック3%含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 やや強
　褐色土ブロック含む
4　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強
　2層由来黒褐色土ブロック混在(カマド天井崩落土)
5　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　焼土ブロック少量含む
6　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
　褐色粘土ブロック含む
7　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　黒色土ブロック10%含む
8　10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強
　黒色土ブロック5%含む (Pit1埋土)
9　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強
　(Pit1埋土)
10 10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
　褐色土ブロック少量含む (掘り方埋土)

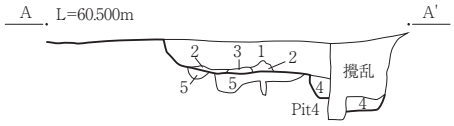
第 131 図　SI128 住居跡（2）・SI129 住居跡

SI130住居跡

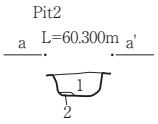
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	48	33	32
Pit2	41	38	24
Pit3	90	86	43
Pit4	78	73	23

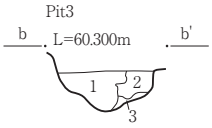




SI130 (A-A')
1　10YR2/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 褐色砂ブロック3%含む
2　10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 黒色 粘土質シルト10%含む
3　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 褐色土ブロック少量含む
4　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土20%含む (Pit4埋土)
5　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 褐色土ブロック少量含む

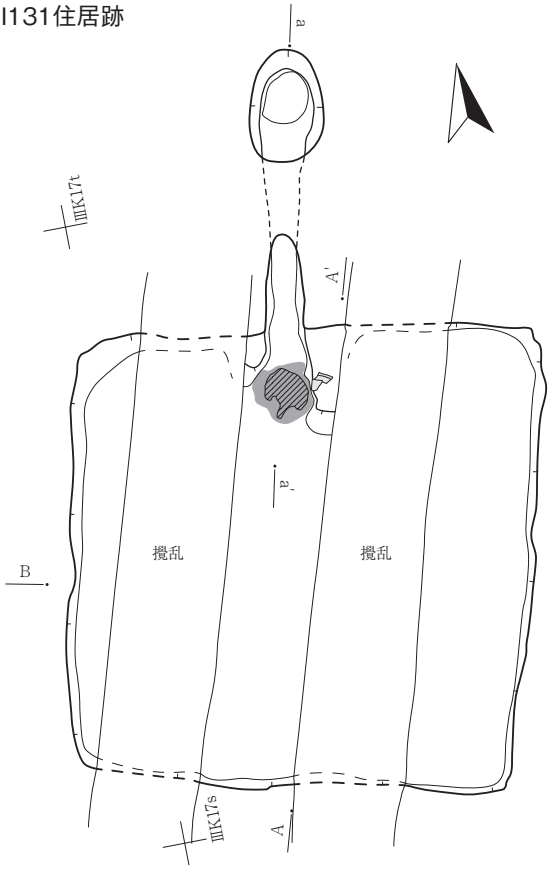


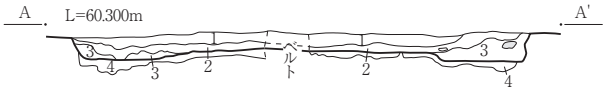
Pit2 (a-a')
1　10YR2/3黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
　褐色土ブロック10%含む
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強

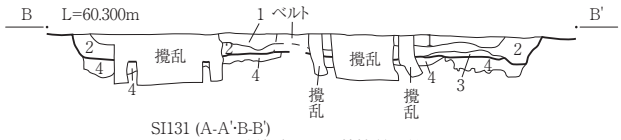


Pit3 (b-b')
1　10YR2/3黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中
　上面に焼土粒含む 褐色土ブロック含む
2　10YR3/4暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
　褐色土大ブロック10%含む
3　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強

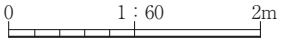
SI131住居跡

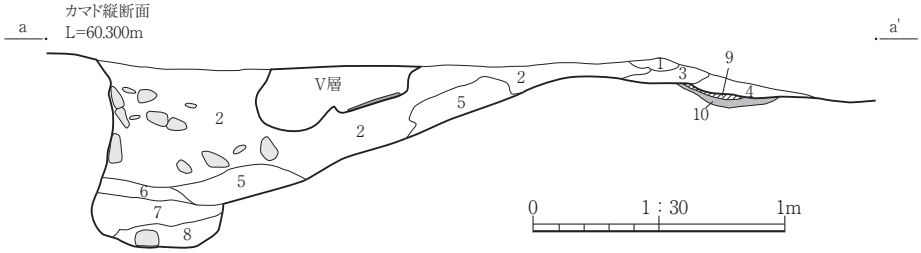






SI131 (A-A'･B-B')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　洪水堆積砂層ブロック状30～40%含む(南～西側に多い)
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック5%
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中 地山土の大ブロック集中
　下面に黒色土挟まる
4　10YR4/6褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり強 (貼床)
　黒褐色土が隙間に挟まる

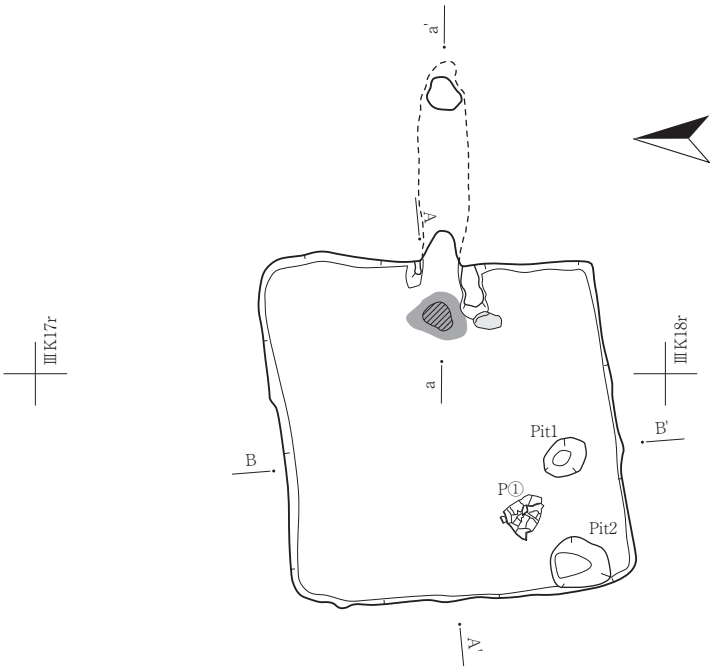




カマド (a-a')
1　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒含む (カマド天井部崩落ブロック)
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土粒5% 焼土粒含む
3　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土ブロック10% (燃焼部堆積土上部)
4　7.5YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土ブロック20% (燃焼部堆積土の下部)
5　10YR4/4褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　(天井部崩落ブロック)
6　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
7　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
8　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
9　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
10　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

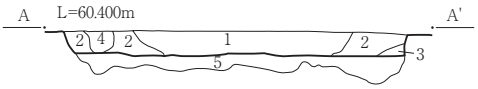
第 132 図　SI130 住居跡・SI131 住居跡

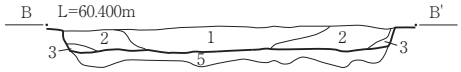
SI132住居跡



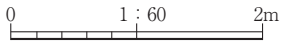
(cm)

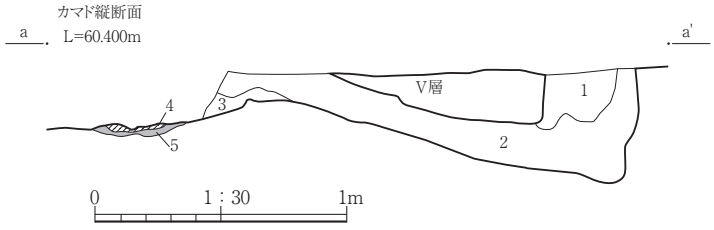
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	38	30	15
Pit2	50	42	20





SI132 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土ブロック多量に含む
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック含む
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 撹乱か
5　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック20～50% (掘り方埋土)

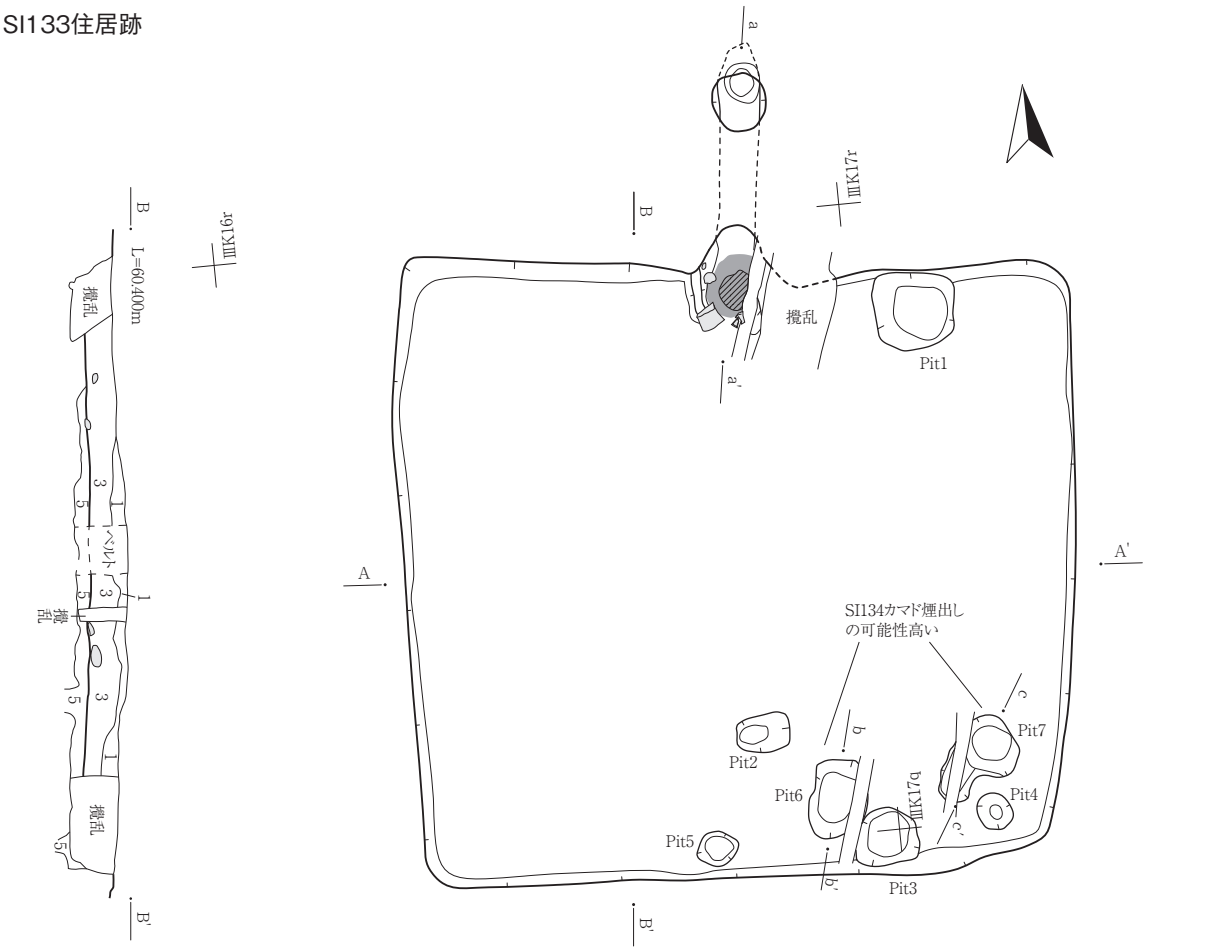




カマド (a-a')
1　10YR4/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
　洪水堆積層の砂質ブロック50%含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒5%含む
3　10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土ブロック20%含む
4　5YR4/6赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
5　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土

第133図　SI132住居跡

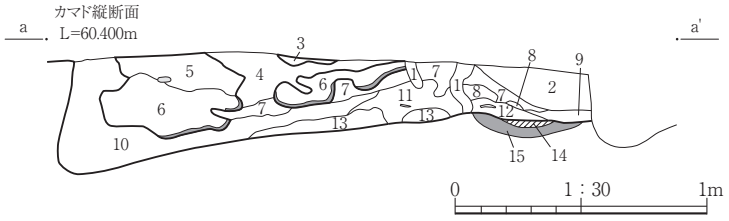
SI133住居跡



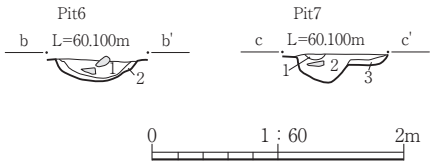
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	77	60	24
Pit2	49	32	20
Pit3	51	43	20
Pit4	31	18	15
Pit5	34	15	16
Pit6	67	30	21
Pit7	75	34	26

SI133 (A-A'・B-B')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 洪水砂ブロック散在
2　5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロックの集中
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 下部に黄褐色土粒 5%
4　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 崩落褐色土ブロック 20%
5　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中～強 褐色土ブロック 20% (掘り方埋土)



SI133 カマド (a-a')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 木根撹乱
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 住居埋土3層と同じ
3　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅲ～Ⅴ層 (斬 移 層
4　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 5% (天井崩落後の埋没土)
5　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅲ～Ⅴ層 3層と同相
6　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅴ層上部 下面被熱赤変 (天井崩落ブロック)
7　7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 5%含む
8　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅴ層に類似 (燃焼部天井の崩落部分か 下面焼成なし)
9　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 5 ～ 10% (燃焼部埋土)
10　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中～弱 焼土粒 3 ～ 5% 褐色土大ブロック 3 ～ 5% (煙道埋土)
11　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 20 ～ 30% (燃焼部奥側埋土 12 層から連続)
12　5YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 30 ～ 50% (燃焼部本体埋土)
13　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (煙道に流入した一次堆積土か)
14　5YR4/6 赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
15　7.5YR3/3 暗褐色 焼土

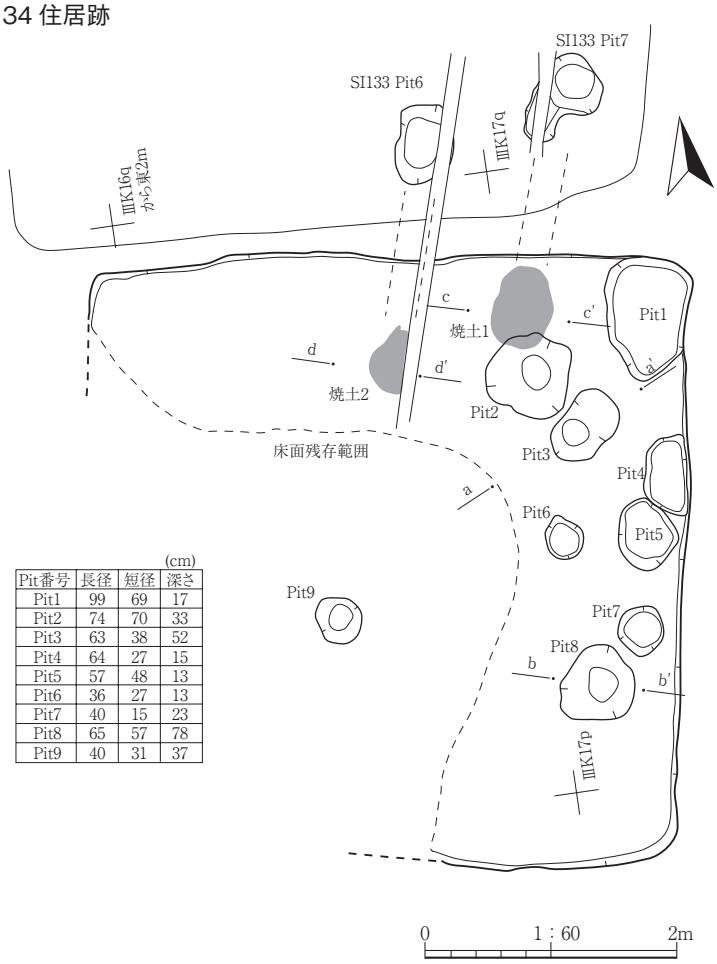


Pit6 (b-b')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 極暗赤褐色土ブロック含む
2　10YR4/4褐色 シルト 黒色土ブロック含む

Pit7 (c-c')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック多量に含む
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 極暗赤褐色土ブロック少量含む
3　10YR4/4 褐色 シルト 黒色土ブロック少量含む

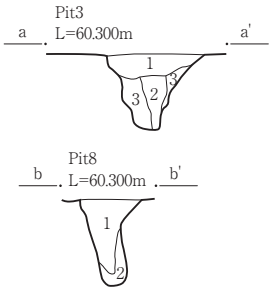
第 134 図　SI133 住居跡

SI134 住居跡



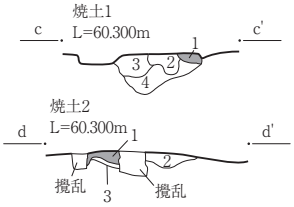
(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	99	69	17
Pit2	74	70	33
Pit3	63	38	52
Pit4	64	27	15
Pit5	57	48	13
Pit6	36	27	13
Pit7	40	15	23
Pit8	65	57	78
Pit9	40	31	37



Pit3 (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック20％
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 (柱痕跡)
3　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック20％

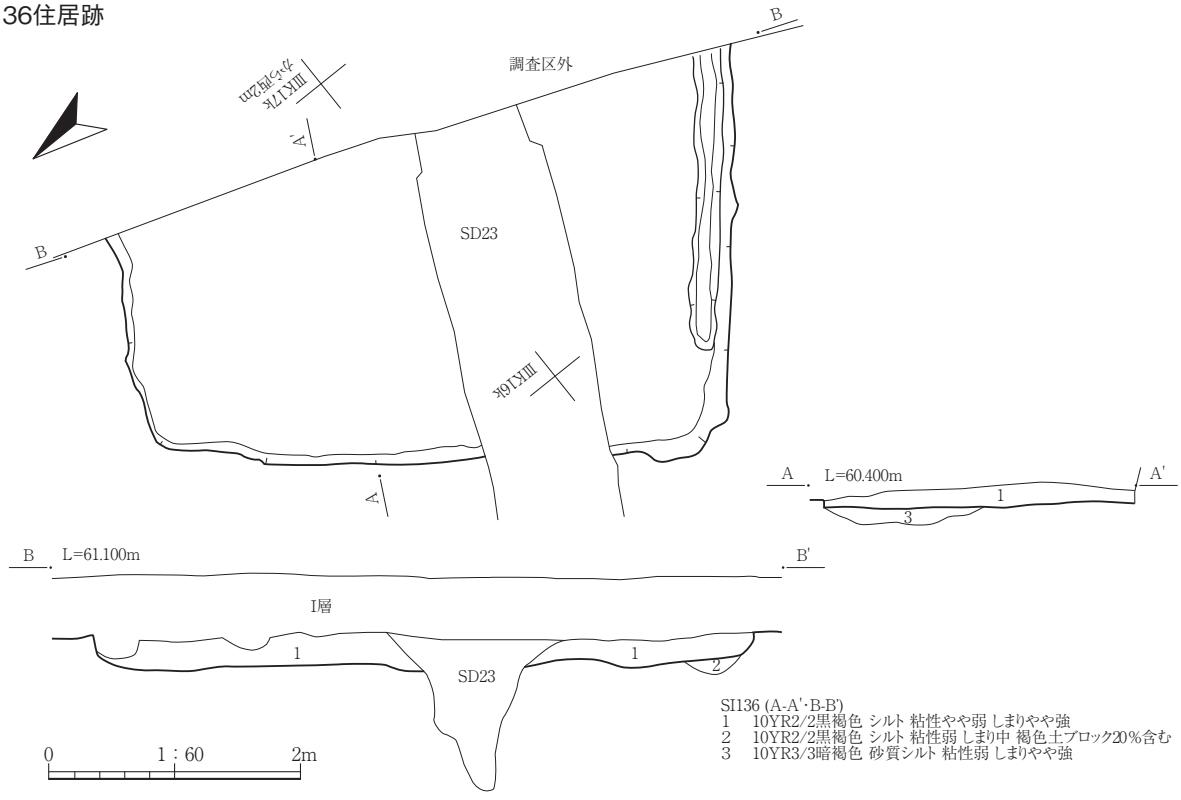
Pit8 (b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック10％
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック5%



焼土1（c-c'）
1　5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 強変焼土
2　焼土ブロックと黒色土の混在層
3　10YR3/3暗褐色 シルト(掘り方か)
4　10YR4/4褐色 シルト(掘り方か)

焼土2 (d-d')
1　5YR4/4　強変焼土
2　焼土ブロックと黒色土の混在層
3　7.5YR3/3暗褐色 焼土下部

SI136住居跡



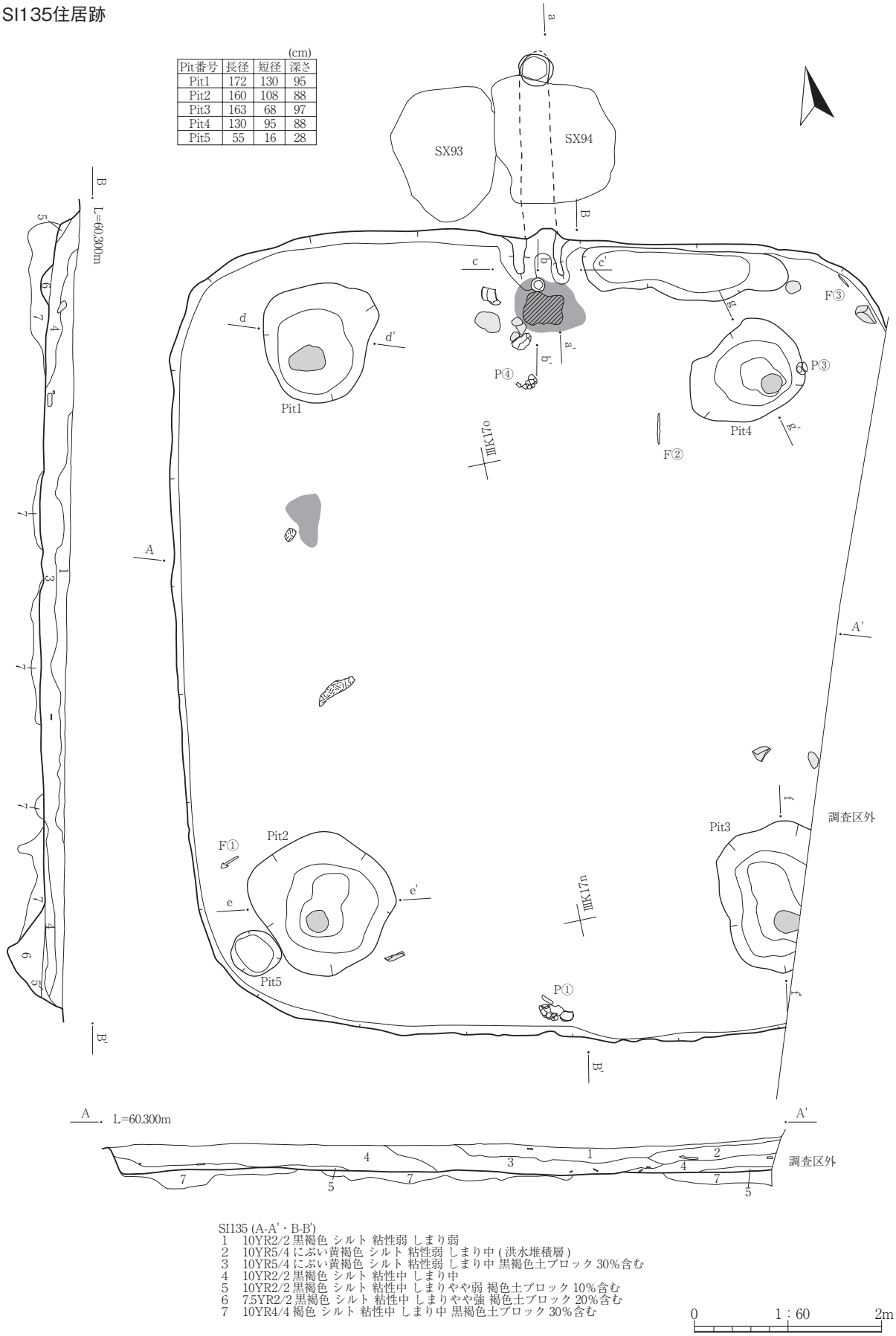
SI136 (A-A'･B-B')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック20％含む
3　10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強

第 135 図　SI134 住居跡・SI136 住居跡

SI135住居跡

(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	172	130	95
Pit2	160	108	88
Pit3	163	68	97
Pit4	130	95	88
Pit5	55	16	28

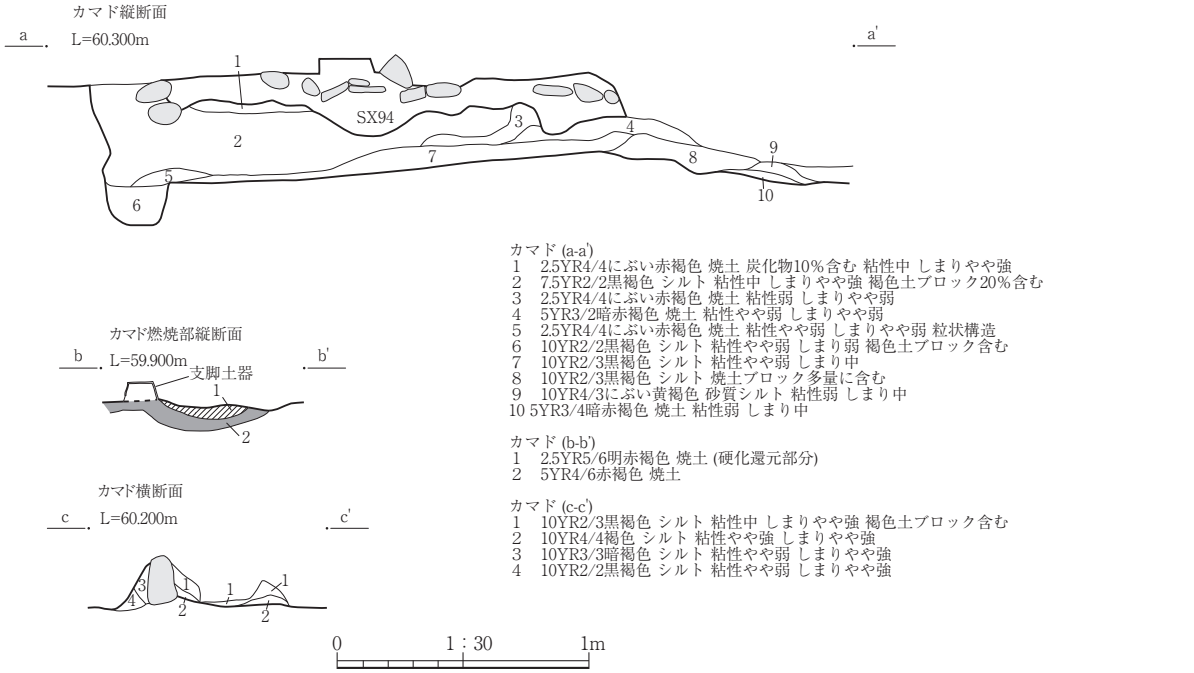


SI135 (A-A'・B-B')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
2　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (洪水堆積層)
3　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロック 30％含む
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
5　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 褐色土ブロック 10％含む
6　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック 20％含む
7　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中 黒褐色土ブロック 30％含む

0　1：60　2m

第 136 図　SI135 住居跡（1）

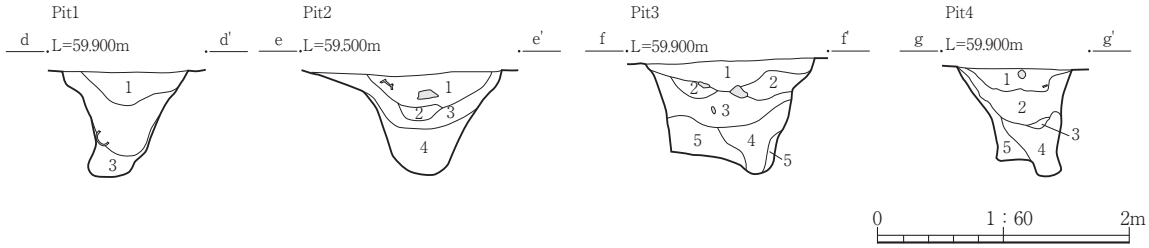
SI135住居跡



カマド (a-a')
1　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 炭化物10%含む 粘性中 しまりやや強
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック20%含む
3　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや弱
4　5YR3/2暗赤褐色 焼土 粘性やや弱 しまりやや弱
5　2.5YR4/4にぶい赤褐色 焼土 粘性やや弱 しまりやや弱 粒状構造
6　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 褐色土ブロック含む
7　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
8　10YR2/3黒褐色 シルト 焼土ブロック多量に含む
9　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
10 5YR3/4暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

カマド (b-b')
1　2.5YR5/6明赤褐色 焼土 (硬化還元部分)
2　5YR4/6赤褐色 焼土

カマド (c-c')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 褐色土ブロック含む
2　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強



Pit1 (d-d')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 褐色 シルト10%含む 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
3　10YR4/4褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

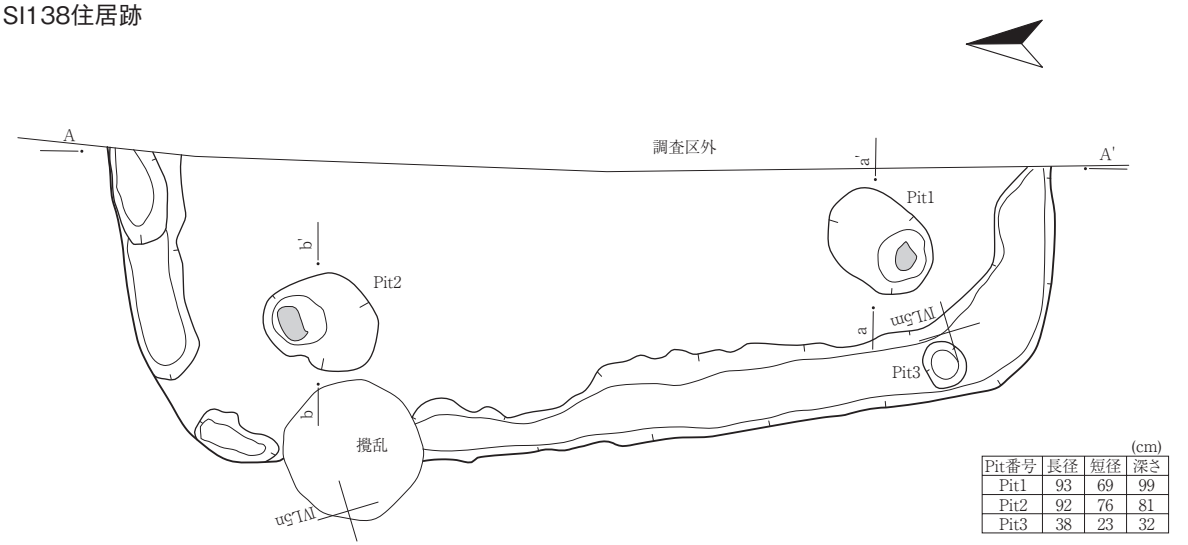
Pit2 (e-e')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 2～5mmの褐色 砂質シルト 10%含む 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 2～5mm褐色 砂質シルト 15%含む
3　10YR2/2黒褐色 シルトと10YR3/3暗褐色 シルトの混在 粘性やや弱 しまり中
4　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト

Pit3 (f-f')
1　10YR2/1黒色 シルト 粘性中 しまりやや強
2　10YR2/1黒色 シルト 褐色土ブロック10%含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 褐色土少量含む
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
5　10YR4/4褐色 シルト 地山Ⅲ層起源ブロックを主体として黒褐色土含む

Pit4 (g-g')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 2～5mmの褐色 砂質シルト 10%含む 粘性中 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 2～5mm褐色 砂質シルト 15%含む
3　10YR2/2黒褐色 シルトと10YR3/3暗褐色 シルトの混在 粘性やや弱 しまり中
4　10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト

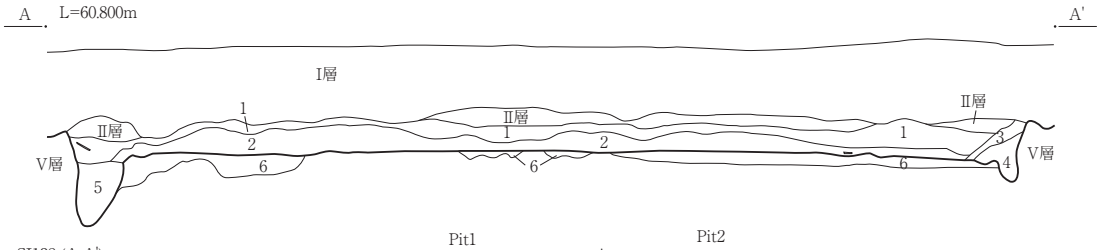
第 137 図　SI135 住居跡（2）

SI138住居跡

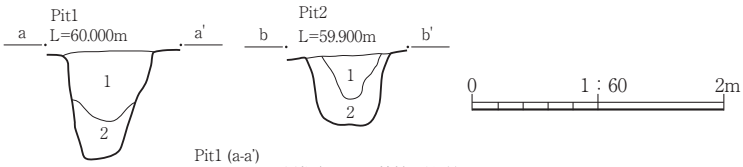


(cm)

Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	93	69	99
Pit2	92	76	81
Pit3	38	23	32



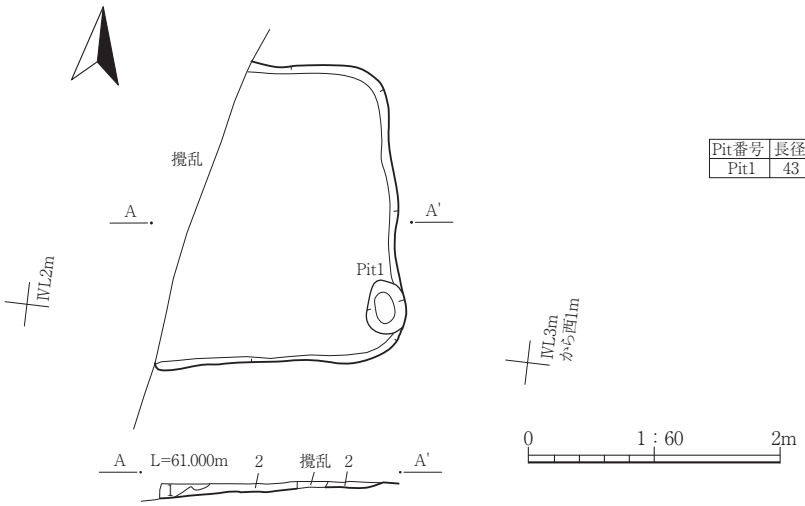
SI138 (A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色粘土ブロック15～20% 下部に炭化物含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化材10%・焼土粒3%含む
3　7.5YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
4　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化材10%含む
5　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土大ブロック斑状に30%含む
6　10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性弱～中 しまり強
　黒褐色土大ブロック斑状に20%含む (掘り方埋土)



Pit1 (a-a')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性しまり弱
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック20%含む

Pit2 (b-b')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック10%含む
2　10YR2/1黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化材3～5%・褐色土ブロック3%含む

SI139 住居跡



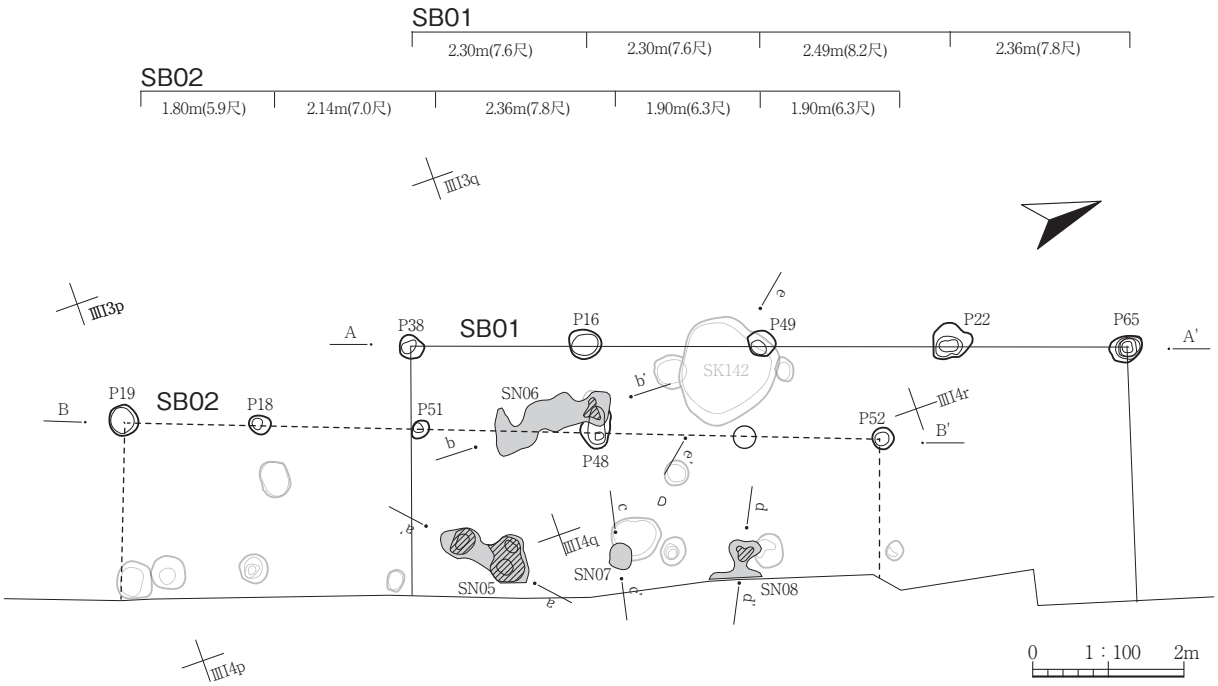
(cm)

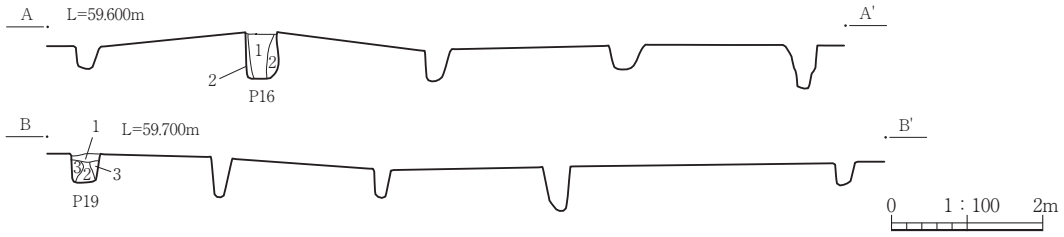
Pit番号	長径	短径	深さ
Pit1	43	32	12

SI139 (A-A')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 褐色土と暗褐色土含む
2　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 東側に焼土粒含む

第 138 図　SI138 住居跡・SI139 住居跡

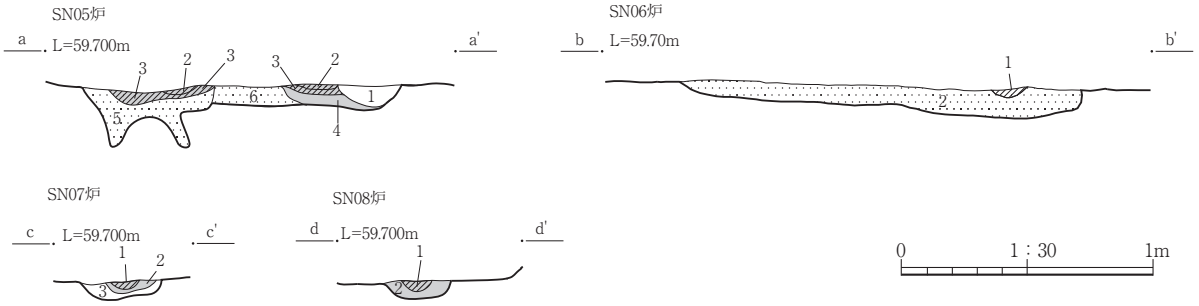
SB01・02掘立柱建物跡（工房）





P16 (A-A')
1　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭化物ブロック径5～10mm30%含む
2　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中

P19 (A-A')
1　10YR4/6褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭粒1%
2　10YR4/1褐灰色 シルトと10YR4/6褐色 シルトの混合土(4:6) 粘性中 しまり中
3　10YR4/1褐灰色 シルト 粘性中 しまり中



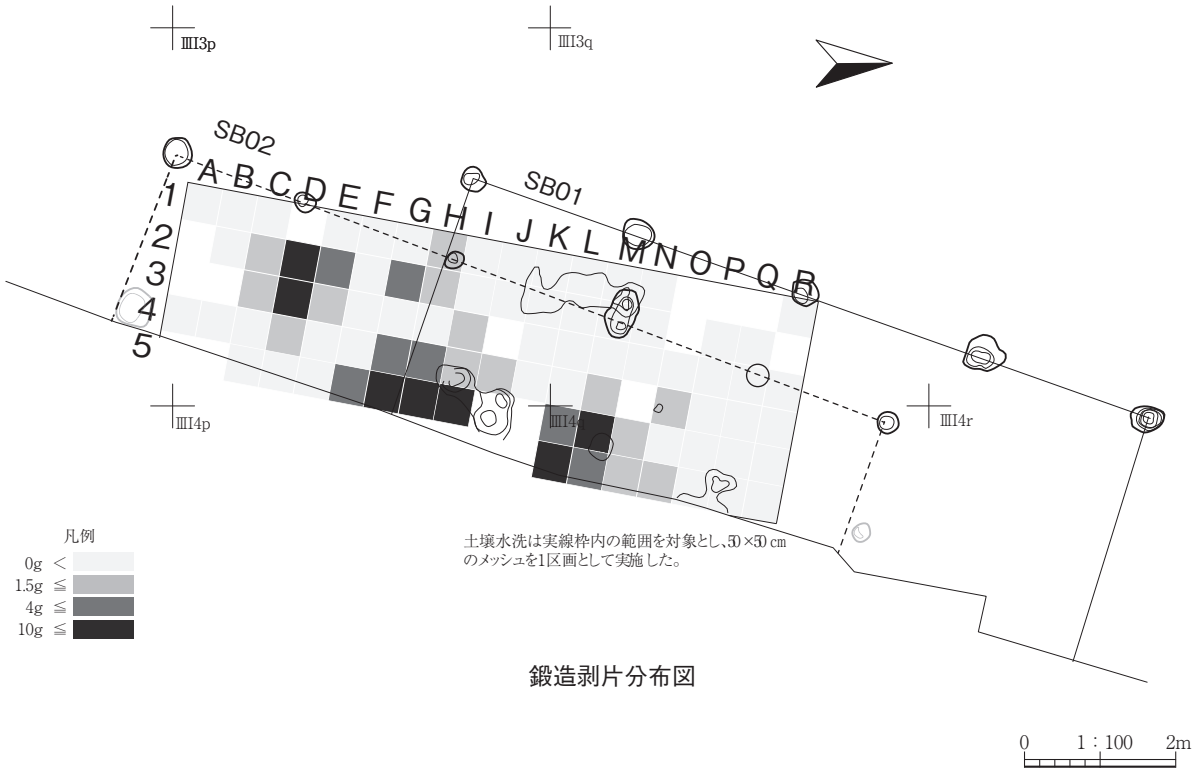
SN05炉(a-a')
1　10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまり中
2　2.5YR7/3淡赤橙色焼土(還元色強) 粘性弱 しまり強
3　7.5YR8/6浅黄橙色シルト(還元色) 粘性弱 しまり極強
4　5YR5/8明赤褐色焼土 粘性中 しまりやや強
5　5YR5/8明赤褐色焼土とⅢ層との混合土
　5YR7/8橙色ブロック径2～3㎜2% 粘性中 しまりやや強
6　10YR3/3暗褐色シルト 粘性中 しまりやや強 焼土ブロック・炭ブロック1%

SN06炉(b-b')
1　5YR5/8明赤褐色焼土(還元色弱) 粘性中 しまりやや強
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強 焼土ブロック・炭ブロック1%

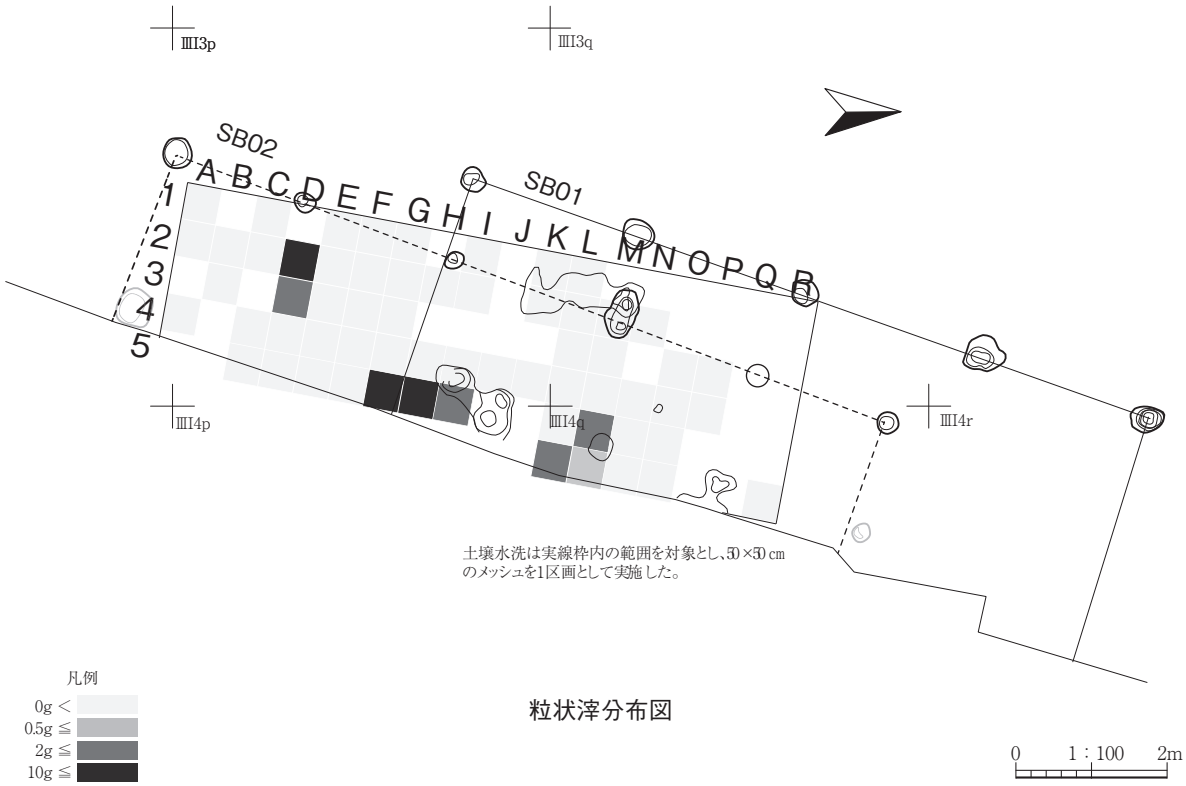
SN07炉(c-c')
1　2.5YR5/2暗灰黄色シルト(還元色)粘性中 しまり強 5YR7/8橙色ブロック径3～5㎜3%
2　5YR5/8明赤褐色焼土 粘性中 しまりやや強
3　10YR4/2灰黄褐色シルト 粘性中 しまり中

SN08炉(d-d')
1　2.5YR5/2暗灰黄色シルト(還元色)粘性中 しまり強 5YR7/8橙色ブロック径3～5㎜3%
2　5YR5/8明赤褐色焼土 粘性中 しまりやや強

第139図　SB01・02掘立柱建物跡（工房）1



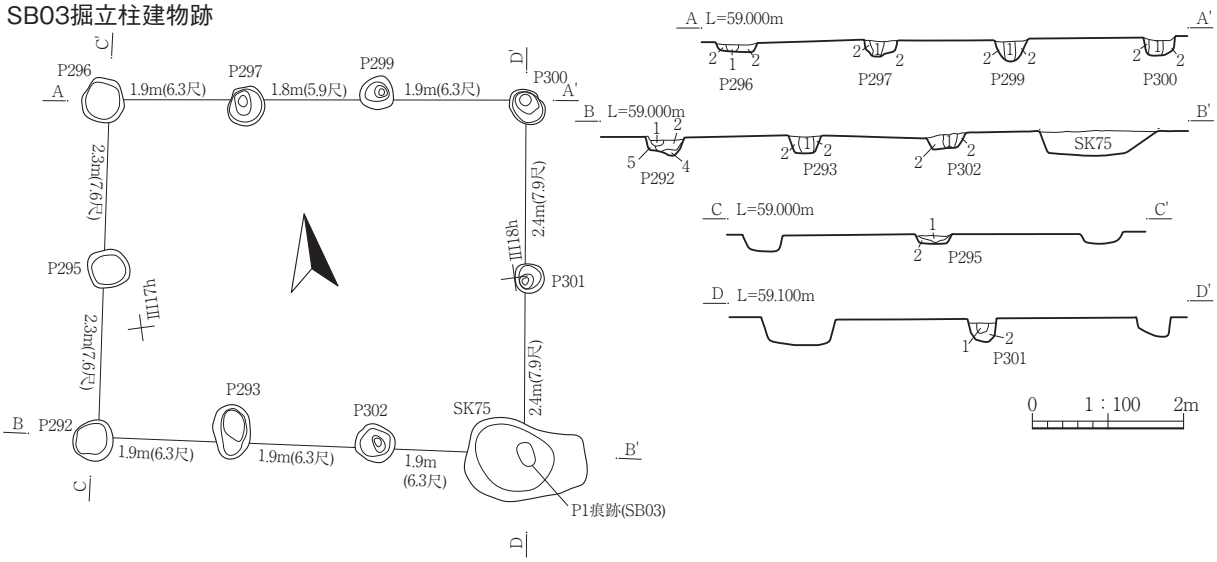
鍛造剥片分布図



粒状滓分布図

第 140 図　SB01・02 掘立柱建物跡（工房）2

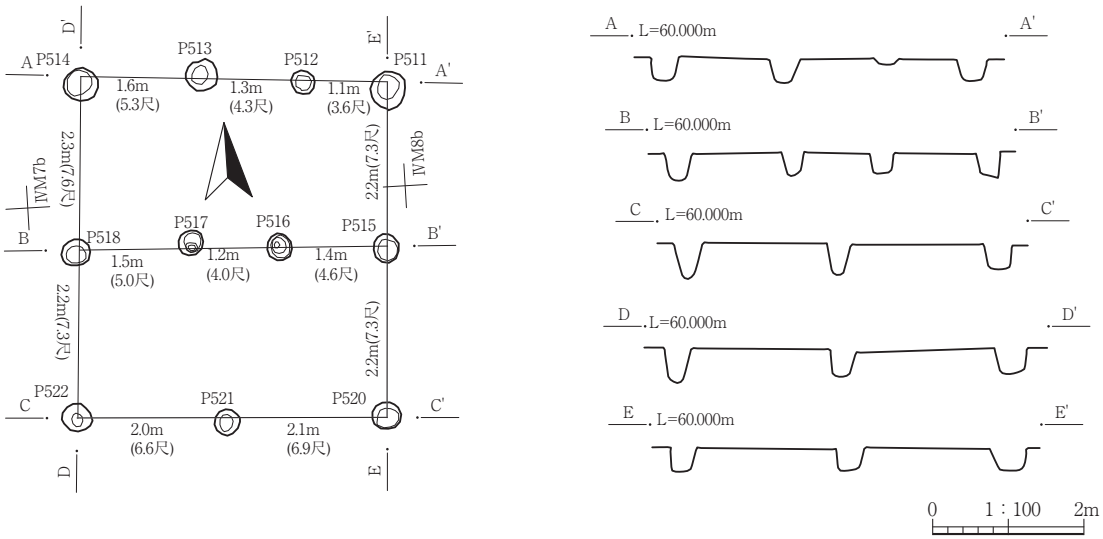
SB03掘立柱建物跡



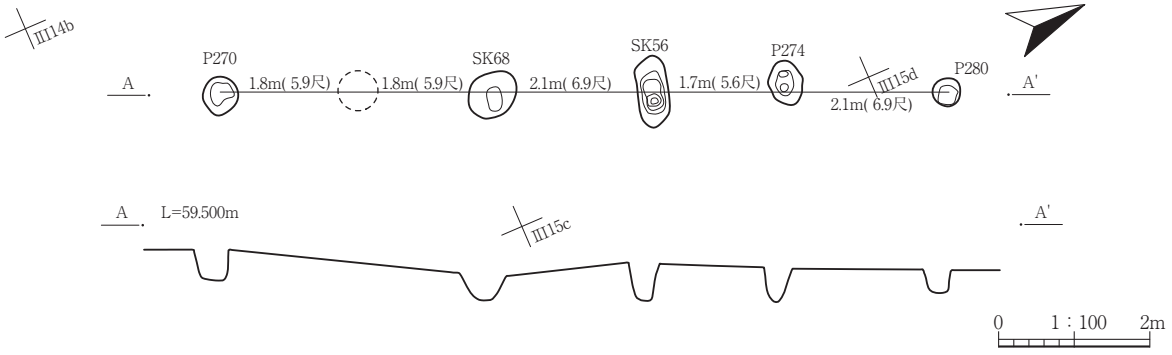
P297　1　10YR3/3　暗褐色　粘性中･しまりやや弱　炭φ5mm3%
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P296　1　10YR3/2　黒褐色　粘性中･しまりやや弱
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P295　1　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性･しまり共中　炭φ3～5mm1%
　　2　10YR4/4　褐色　粘性･しまり共中
P292　1　10YR3/2　黒褐色　粘性･しまり共中　焼土φ5～10mm1%
　　2　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性･しまり共中

P302　1　10YR3/3　暗褐色　粘性中･しまりやや弱
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P301　1　10YR3/3　暗褐色　粘性中･しまり弱
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P300　1　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性中･しまりやや弱
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P299　1　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性中･しまりやや弱
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中
P293　1　10YR4/3　にぶい黄褐色　粘性･しまり共中　焼土φ2～3mm1%
　　土器片を含む
　　2　10YR3/4　暗褐色　粘性･しまり共中　炭φ2～3mm･焼土1%

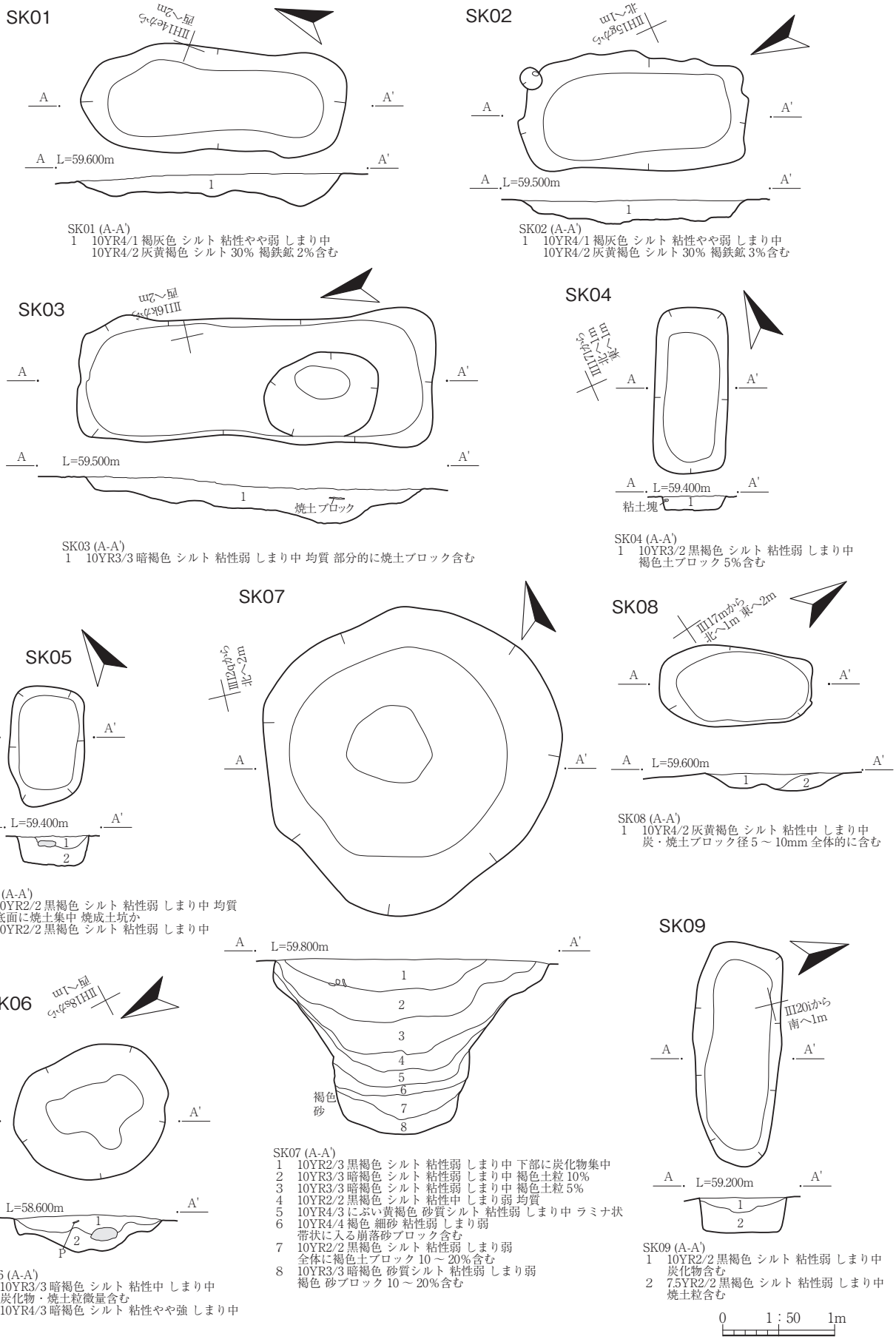
SB04掘立柱建物跡



SA01柱穴列

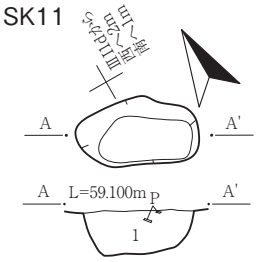


第 141 図　SB03～04 掘立柱建物跡・SA01 柱穴列



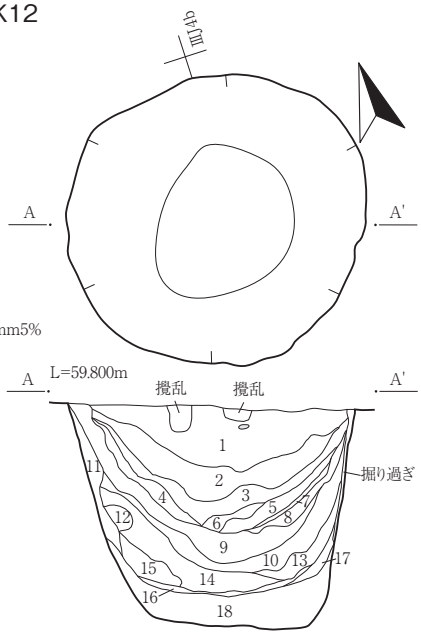
第 142 図　SK01～09 土坑

SK11



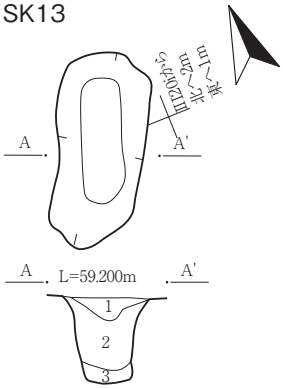
SK11 (A-A')
1　2.5YR5/4 黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
炭化物径 1 ～ 5mm3% 焼土ブロック径 5 ～ 30mm5%
骨片含む

SK12



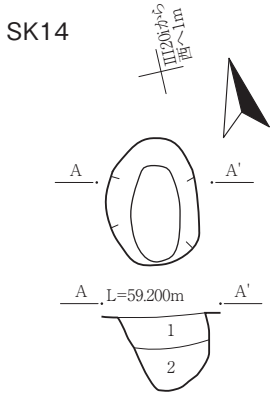
SK12 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 褐色土ブロック大小さまざま全体に多量混じる
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 1 層土が斑状に全体に混じる
3　10YR5/6 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
4　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 黄褐色土ブロックまばらに混入
5　10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強
6　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中黄褐色土ブロック径 2 ～ 5 ㎜少量混じる
7　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
8　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭化物径 1 ～ 3 ㎜少量混じる
9　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 炭化物径 5 ㎝程が層中心に混入
黄褐色土ブロックまばらに混じる
10　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強 西側に 9 層土が層状に入る
11　10YR6/6 明黄褐色 砂 粘性弱 しまりやや強
12　11 層崩落土
13　17 層崩落土
14　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや強 10 層土が全体にまばらに混じる
15　11 層崩落土
16　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまりやや強
17　10YR6/6 明黄褐色 砂 粘性弱 しまりやや強
18　10YR5/8 黄褐色 砂 粘性弱 しまり強

SK13



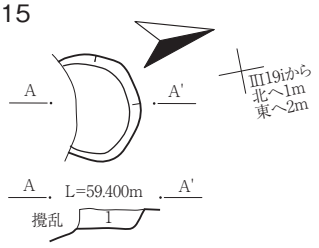
SK13 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
焼土粒含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
均質
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱

SK14



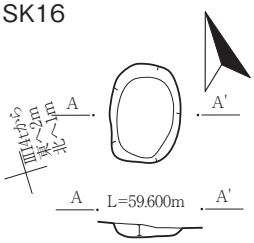
SK14 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土粒含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
炭化物含む

SK15



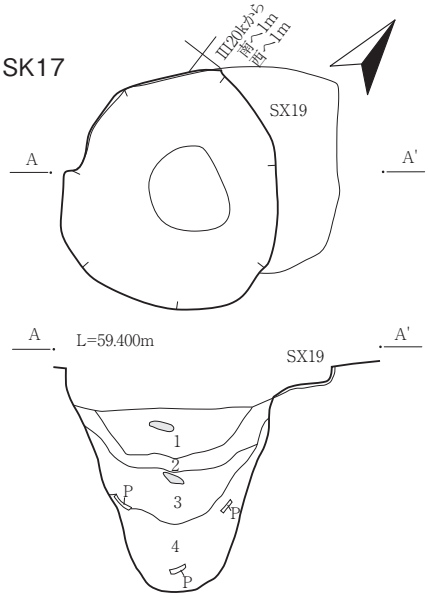
SK15 (A-A')
1　7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
炭化物・焼土粒含む

SK16



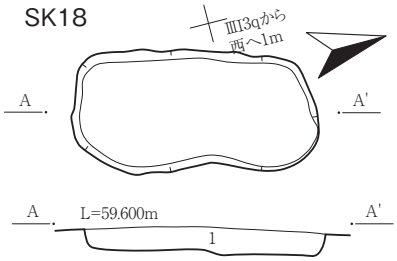
SK16 (A-A')
1　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中

SK17



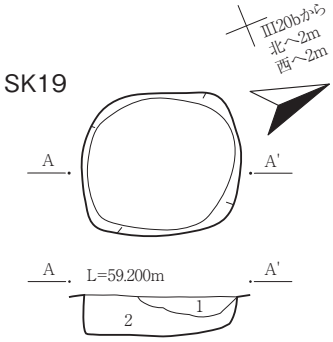
SK17 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中
炭化物含む
2　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
焼土粒含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中
2 層とほぼ同相 複数回の砂層堆積の集合
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 均質

SK18



SK18 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルトと 10YR4/4 褐色 砂質シルト
の混じり 粘性弱 しまり中 焼土粒 1%含む

SK19

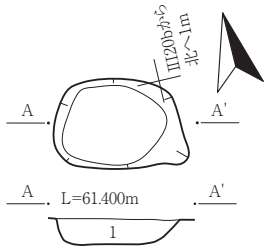


SK19 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
炭径 5 ～ 10mm 5%モヤ状に含む
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土と炭を各径 10 ～ 20mm1%モヤ状に含む

0　1：50　1m

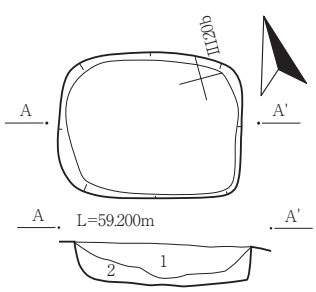
第 143 図　SK11～19 土坑

SK20



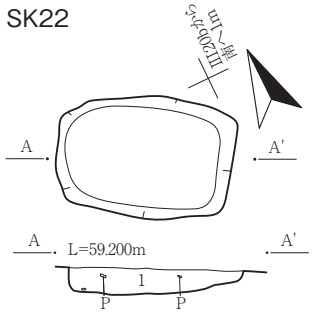
SK20 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　焼土・炭径 5 ～ 10mm 各 1 %含む

SK21



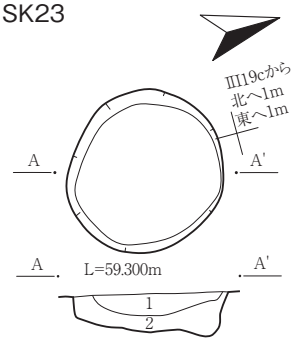
SK21 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 粘性中 しまり中
　焼土片径 30 ～ 50mm・炭径 5 ～ 10mm 各 1%含む
2　10YR2/3 黒褐色 粘性中 しまり中

SK22



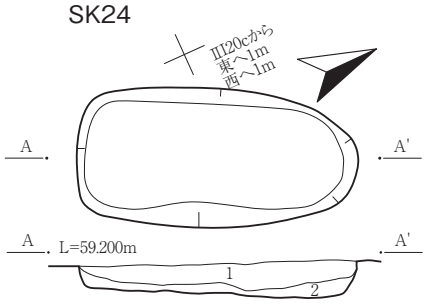
SK22 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 粘性中 しまり中
　炭径 2.5 ～ 5mm 1%含む

SK23



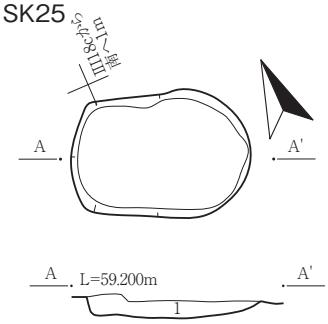
SK23 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルトと 7.5Y3/2 オリーブ黒色
　シルトの混じり 粘性中 しまり中
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり弱
　炭径 10 ～ 20mm 1%含む

SK24



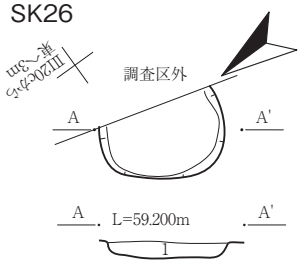
SK24 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルトと 10YR5/4 にぶい黄褐色
　シルトの混じり 粘性中 しまり中
　炭・焼土ブロック径 5mm 各 2%含む
2　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト　粘性・しまり共中
　炭ブロックφ2 ～ 3mm1%

SK25



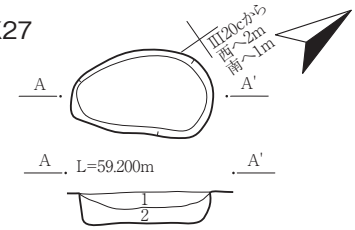
SK25 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　炭化物わずかに含む

SK26



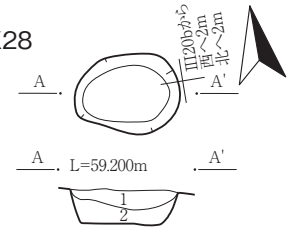
SK26 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物少量含む

SK27



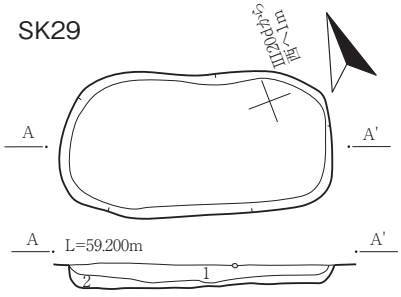
SK27 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　炭化物ブロック径 1 ～ 3mm1%含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強

SK28



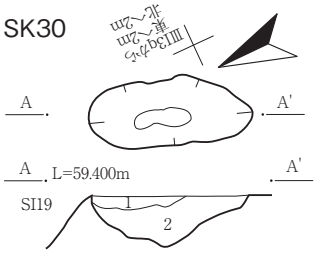
SK28 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　焼土ブロック径 1 ～ 5mm1%・炭化物ブロック
　径 5 ～ 20mm2%含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中

SK29



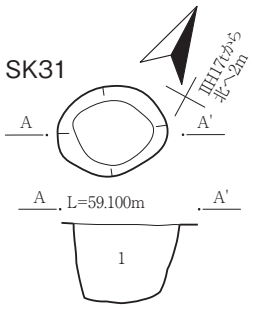
SK29 (A-A')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルトと 10YR5/2 灰黄褐色 シルトの混合土
　（5：5）粘性弱 しまりやや強 炭化物ブロック径 3 ～ 5mm1%
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
　炭化物ブロック径 5mm1%

SK30

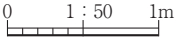


SK30 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
　Ⅳ層ブロック径 2 ～ 5mm 少量まばらに混入
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　地山ブロック 炭径 1 ～ 2mm 極微量混入

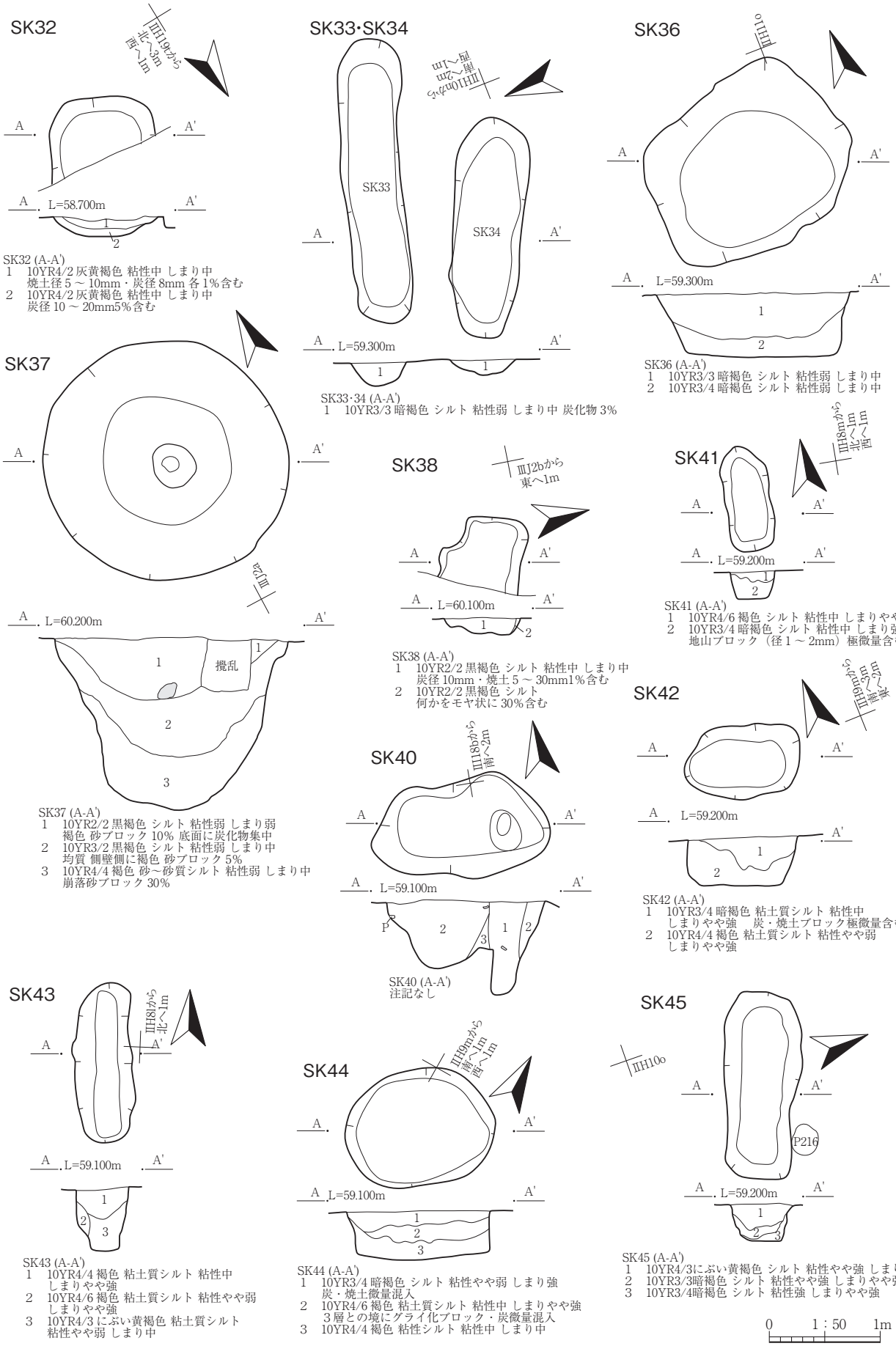
SK31



SK31 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
　焼土径 3mm・炭径 5mm1%含む

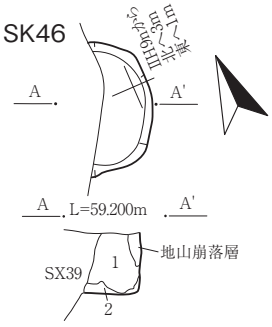


第 144 図　SK20～31 土坑



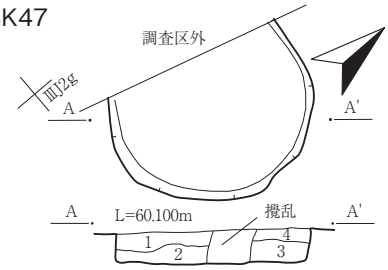
第 145 図　SK32～34・36～38・40～45 土坑

SK46



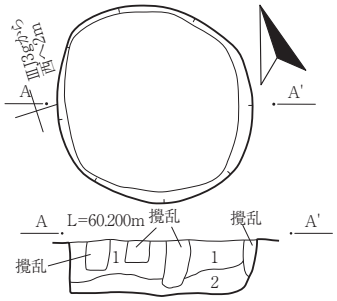
SK46 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱
　しまりやや弱 焼土粒・炭化物極微量含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
　粘性やや強 しまりやや強

SK47



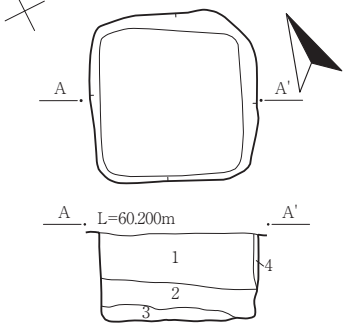
SK47 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/6 がモヤ状に 40%混じる
2　10YR2/2 黒褐色
　10YR4/6 褐色が（1：1）でモヤ状に混じる
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/6 褐色 シルトがモヤ状に 40%混じる
4　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性中 しまり弱
　10YR4/4 褐色ブロック径 1cm 大が 10%含む

SK48



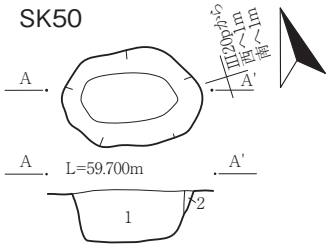
SK48 (A-A')
1　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中
　黒色土ブロック径 10 ～ 30mm40%・
　炭径 20mm1%含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭・10YR 砂質シルトブロック径 30mm5%含む

SK49



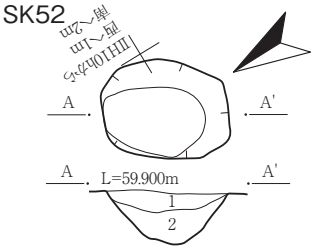
SK49 (A-A')
1　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性中 しまり中
　黒色土をモヤ状に 50%含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭径 3 ～ 5mm1%含む
4　10YR2/2 黒褐色 シルト
　粘性中 しまり中

SK50



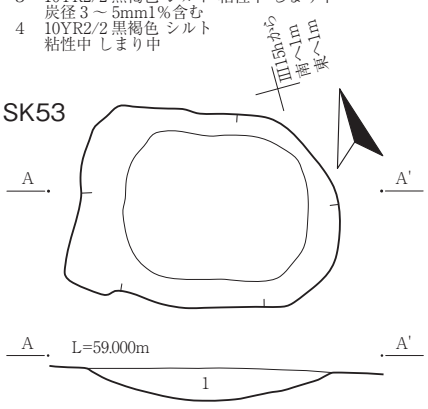
SK50 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　径 5mm の炭微量含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト

SK52



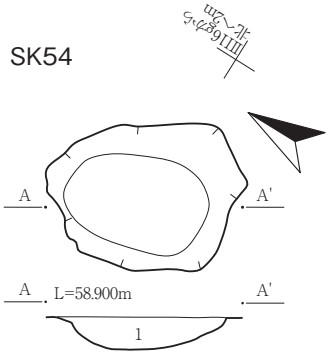
SK52 (A-A')
1　10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　炭化物極微量に含む
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
　酸化鉄 5%含む

SK53



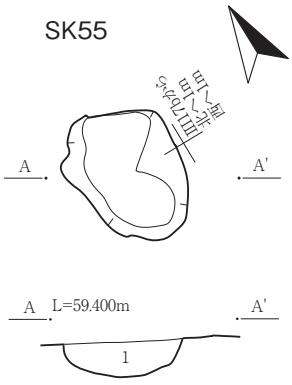
SK53 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強

SK54



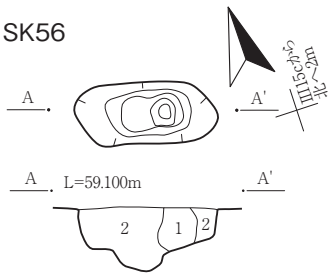
SK54 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強

SK55



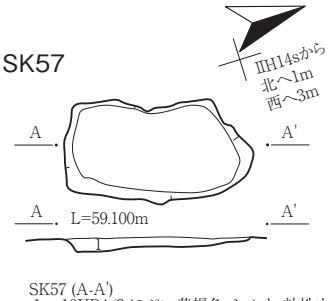
SK55 (A-A')
1　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや強
　下層に炭ブロック・酸化鉄極微量含む

SK56



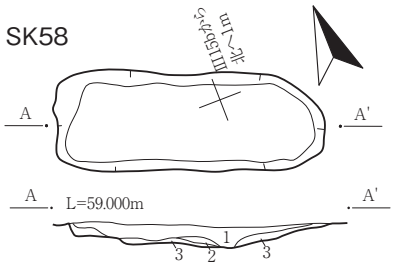
SK56 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
　酸化鉄微量含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強

SK57



SK57 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭径 1 ～ 2mm 含む

SK58

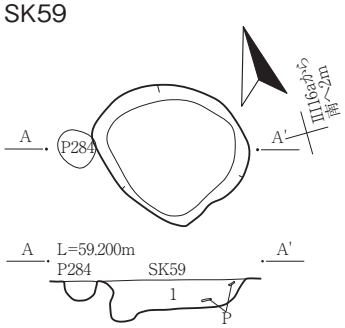


SK58 (A-A')
1　7.5Y4/1 褐灰色 と 10YR3/2 黒褐色の混じり
　粘性中 しまり中
2　10YR3/2 黒褐色 粘性中 しまり中
3　10YR4/4 褐色 粘性中 しまり中

0　1：50　1m

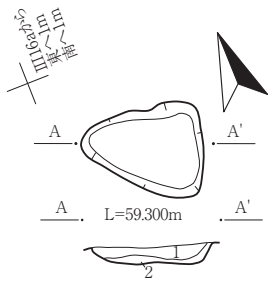
第 146 図　SK46～50・52～58 土坑

SK59



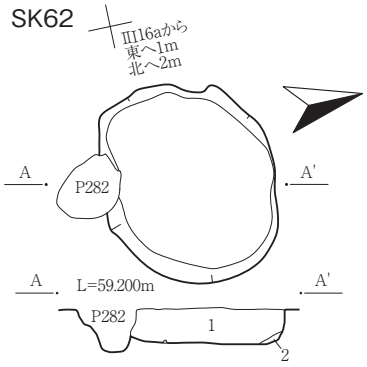
SK59 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色　粘性中 しまり中
　炭径 5mm ～ 10mm2%・焼土径 3 ～ 5mm1%

SK60



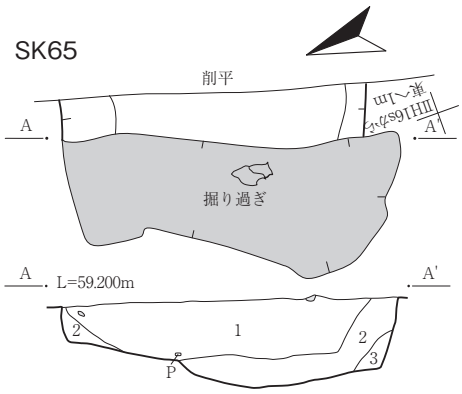
SK60 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 粘性中 しまり中
　炭径 5 ～ 10mm3%・焼土径 1mm ～ 2mm1%含む
2　10YR4/6 褐色 粘性中 しまり中

SK62



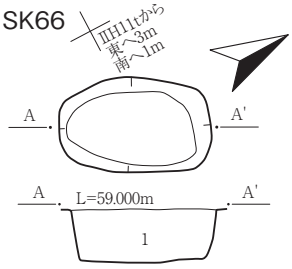
SK62 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト　粘性中 しまり中
　炭径 5 ～ 10mm1%含む
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや強

SK65



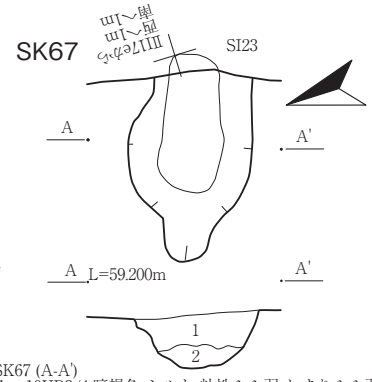
SK65 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭径 3mm ～ 10mm2%
2　10YR4/4 褐色 粘性中 しまり中
3　2.5Y5/2 暗灰黄色 粘性やや強 しまり中と 7.5YR4/6 褐色 シルト
　粘性弱 しまりやや強の混合土（4：1）
　10YR6/3 にぶい黄橙色土ブロック径 1 ～ 3cm 含む

SK66



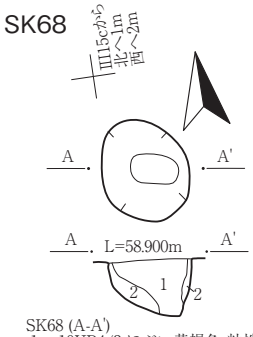
SK66 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまりやや弱

SK67



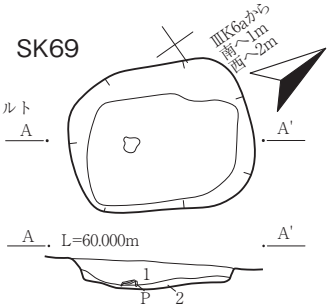
SK67 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
　10YR4/6 褐色ブロック 3%混じる 表面に炭化物粒
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性中 しまり弱
　10YR5/6 黄褐色 シルトブロック 5%

SK68



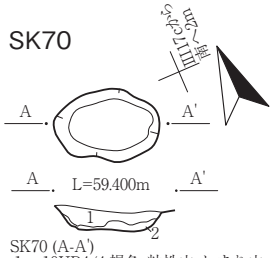
SK68 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中
　炭径 5mm1%・10YR5/1 褐灰色
　粘土ブロック径 8 ～ 15mm30%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中

SK69



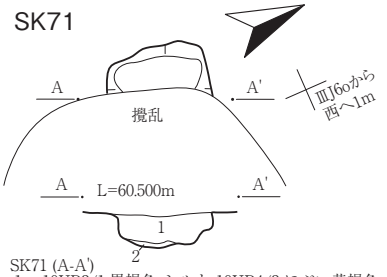
SK69 (A-A')
1　10YR3/1　黒褐色シルト 10YR4/3 にぶい黄褐色
　粘土質シルト粒径 2 ～ 5mm5%程度含む
2　10YR3/1　黒褐色シルト　炭化物・焼土粒微量含む

SK70



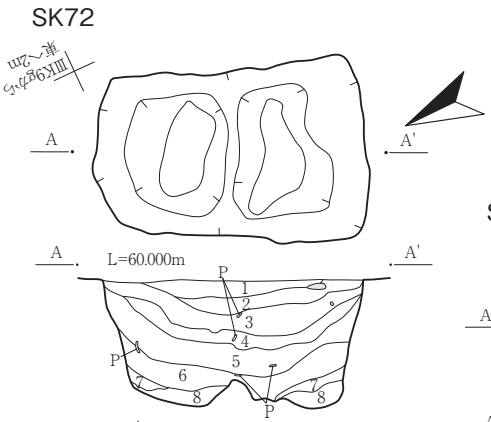
SK70 (A-A')
1　10YR4/4 褐色 粘性中 しまり中
　径 3mm の炭を 1%含む
2　10YR4/4 褐色 粘性中 しまり中

SK71



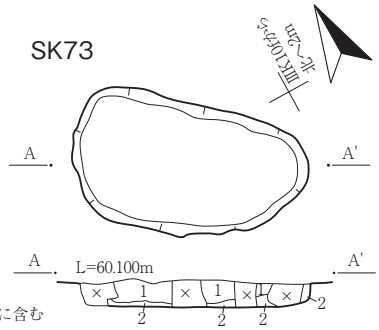
SK71 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 10YR4/3 にぶい黄褐色
　粘土質シルト 5%・焼土粒微量含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト
　と 10YR3/1 黒褐色 シルトの混じり 焼土粒微量含む

SK72



SK72 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　径 1 ～ 2mm の 10YR4/4 褐色 粘土質シルトを粒状に含む
3　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　褐色 粘土質シルト径 5 ～ 10mm2%程度含む
4　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり
　中を多量に含む
5　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/4 褐色 粘土質シルトを 5%程度含む
6　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中に
　10YR4/4 褐色 粘土質シルトをラミナ状に堆積
8　10YR4/4 褐色 粘土質シルトに 10YR3/1 黒褐色
　シルトが微量混じる

SK73



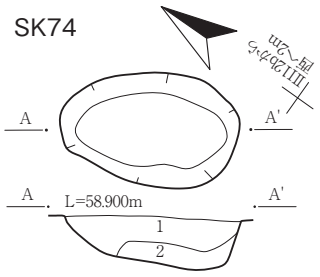
SK73 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト微量含む

×印：撹乱

0　1：50　1m

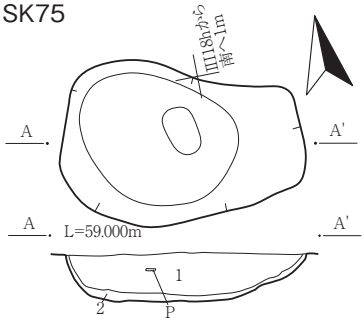
第 147 図　SK59・60・62・65～73 土坑

SK74



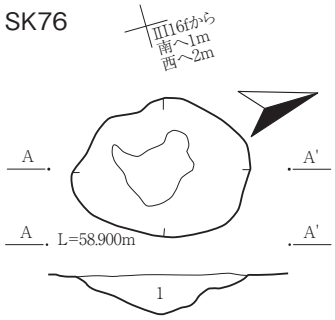
1　10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性中 しまり強
　炭径 1 ～ 3mm
2　10YR3/4 暗褐色 粘性中 しまり中

SK75



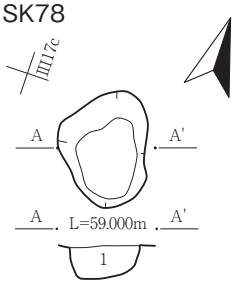
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭径 5 ～ 10mm・焼土径 5mm 各 1%含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり強

SK76



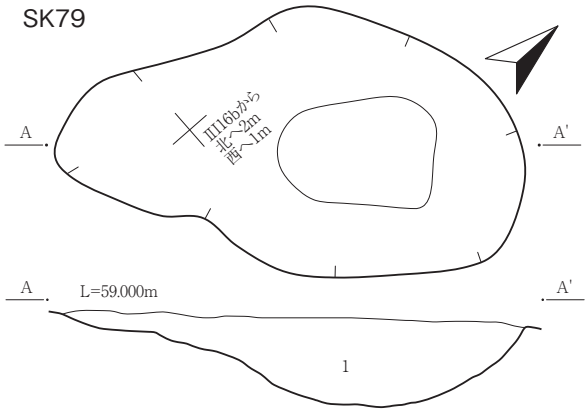
1　10YR3/3 暗褐色 粘性中 しまり中
　焼土径 1 ～ 2mm1%含む

SK78



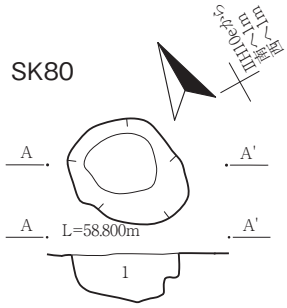
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト
　粘性中 しまり中 炭径 1 ～ 2mm1%

SK79



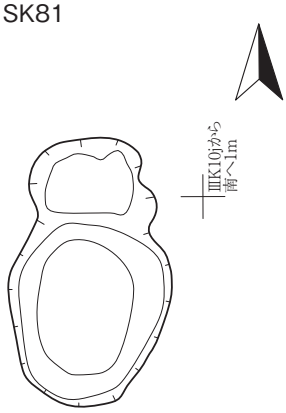
1　10YR2/3 黒褐色 粘性中 しまりやや弱 炭径 2 ～ 5mm1%含む

SK80



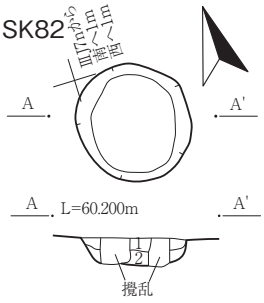
1　10YR4/2灰黄褐色 粘性中 しまり中
　炭径1～5mm1%含む

SK81



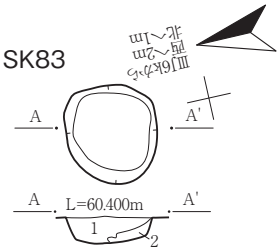
SK81…断面の記録なし

SK82



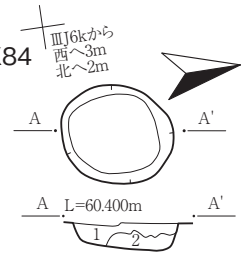
1　10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト
　粘性中 しまりやや強
2　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト
　粘性弱 しまりやや弱 粗粒砂少量混入

SK83



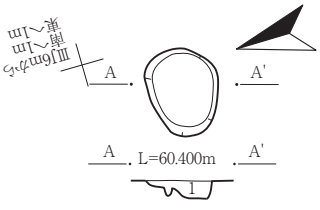
1　10YR3/3 暗褐色 シルト
　粘性やや弱 しまりやや弱
2　10YR4/6 褐色 砂質シルト
　粘性弱 しまりやや弱

SK84



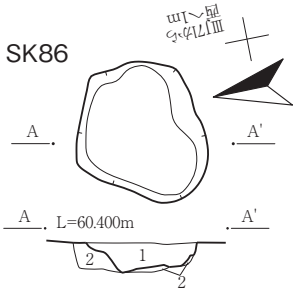
1　10YR3/3 暗褐色 シルト
　粘性やや弱 しまりやや弱 土器片混入
2　10YR4/6 褐色 砂質シルト
　粘性弱 しまりやや弱

SK85



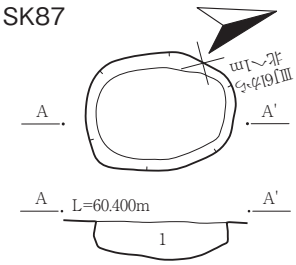
1　10YR2/1　黒色粘質シルト　粘性・しまり共強

SK86

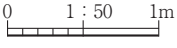


1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　地山ブロック 20% 焼土粒・炭化物ブロック
　径 5 ～ 10mm10%混入
2　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

SK87

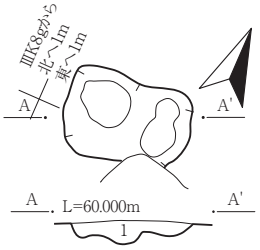


1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
　10YR3/3 暗褐色 シルトブロック 30%混入



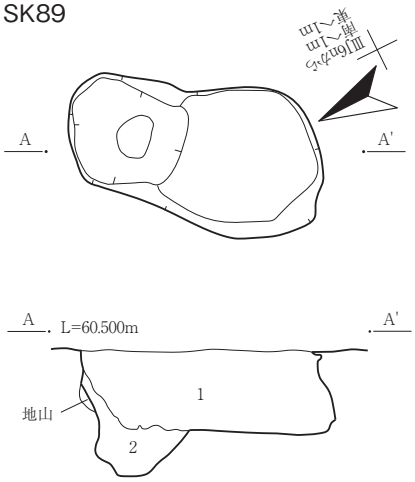
第 148 図　SK74～76・78～87 土坑

SK88



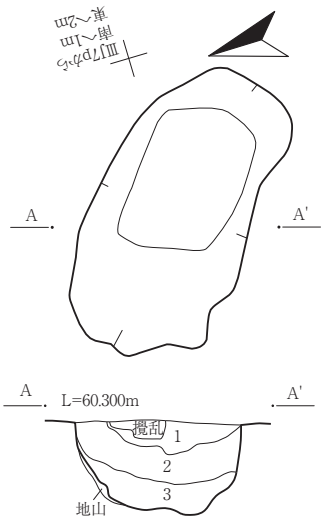
SK88 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性強 しまり弱
　褐色土を 5%含む

SK89



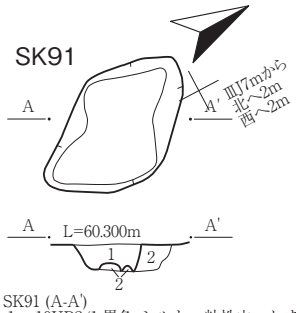
SK89 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 粘土 粘性やや強 しまり強
　炭化物・焼土粒微量
2　10YR2/3 黒褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強
　地山ブロック 5%混入

SK90



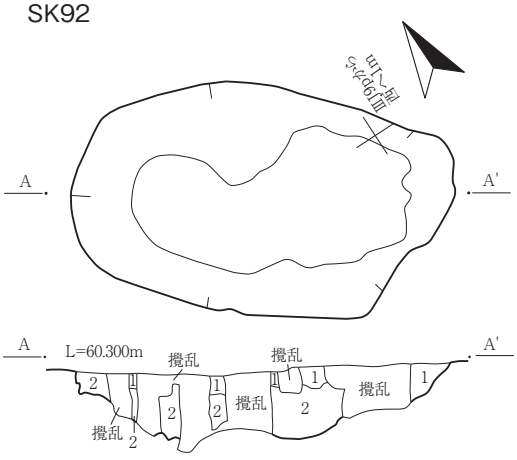
SK90 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 粘土 粘性やや強 しまり強
　炭化物・焼土粒微量
2　10YR2/3 黒褐色 粘土 粘性やや強 しまりやや強
　地山ブロック 5%混入
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土 ブロック縞状に 30%含む 底面に焼土粒集中

SK91



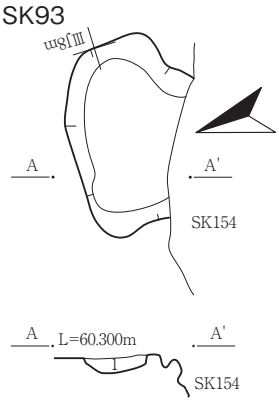
SK91 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト　粘性中　しまりやや弱
　10YR4/4 褐色ブロック 20% 混入
2　10YR4/4 褐色砂質シルト　粘性弱 しまり弱

SK92



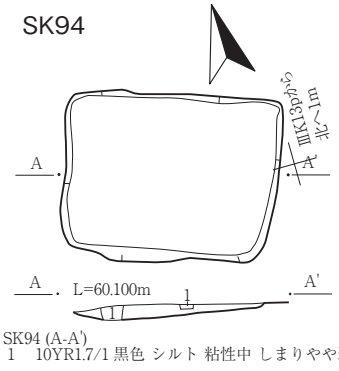
SK92 (A-A')
1　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
　10YR2/2 黒褐色 シルトブロック 粘性中
　しまりやや弱 40%混入
2　10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや強
　10YR4/6 褐色（1層）のブロックが 1%混入

SK93



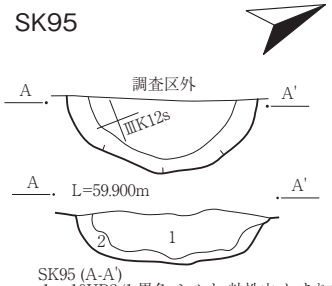
SK93 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中

SK94



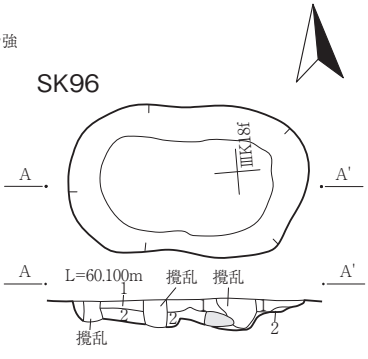
SK94 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱

SK95



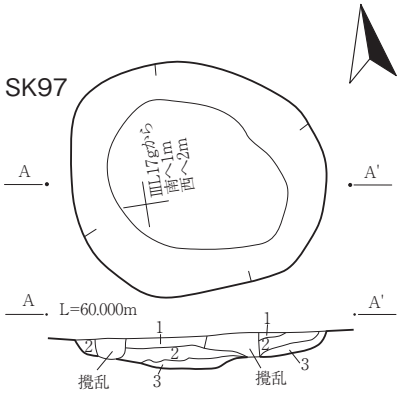
SK95 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中

SK96



SK96 (A-A')
1　10YR2/1 黒色シルト　粘性・しまり共中
2　10YR3/4 暗褐色シルト　粘性中・しまり強

SK97

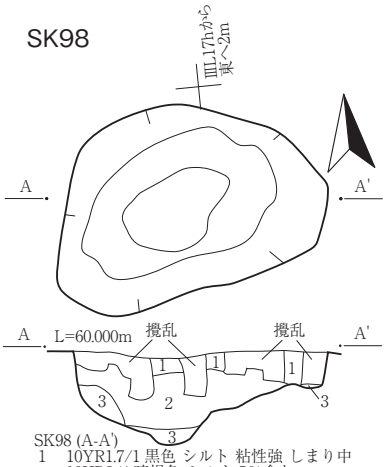


SK97 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性強 しまり強
2　10YR1.7/1 黒色 シルト
　10YR3/4 暗褐色 シルト微量混じる 粘性強 しまり強
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

0　1：50　1m

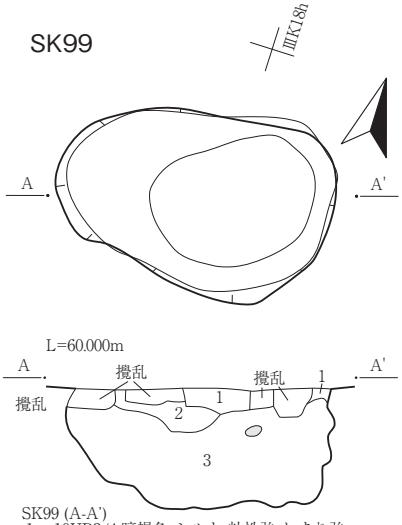
第 149 図　SK88～97 土坑

SK98



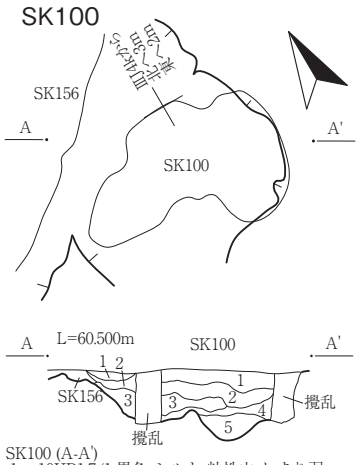
SK98 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性強 しまり中
　10YR3/4 暗褐色 シルト 5%含む
2　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性強 しまり中
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
　10YR1.7/1 黒色 シルト 30%含む

SK99



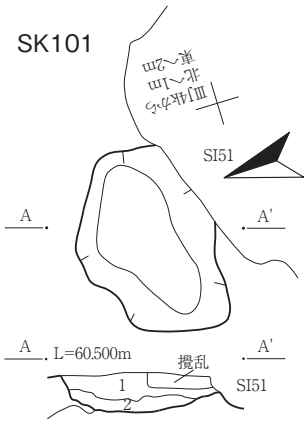
SK99 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
2　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
3　10YR1.7/1 黒色 シルトに 10YR3/4 暗赤褐色
　シルト 5%混じる

SK100



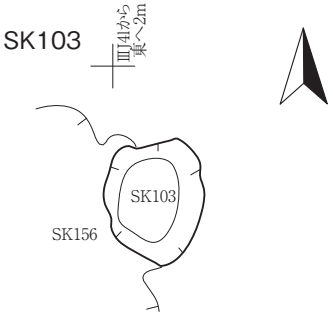
SK100 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまり弱
　焼土粒微量 SX70 側に地山ブロック 10%混入
2　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
　焼土ブロック径 5 ～ 15mm15%・炭化物微量混入
3　10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
　10YR3/3 暗褐色 シルトブロック 粘性やや強
　しまりやや強 が斑状に 40%混入
　焼土ブロック径 10mm5%・炭化物微量混入
4　10YR2/1 黒色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
　焼土微量混入
5　10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強 しまり強

SK101



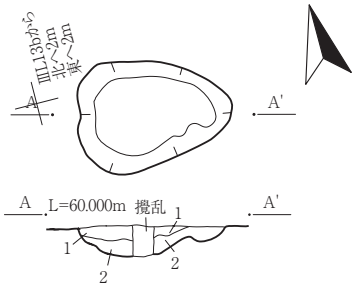
SK101 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中に
　10YR4/6 褐色 シルト（2層）ブロック 10%混入
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強と
　10YR4/6 褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中が均質に

SK103



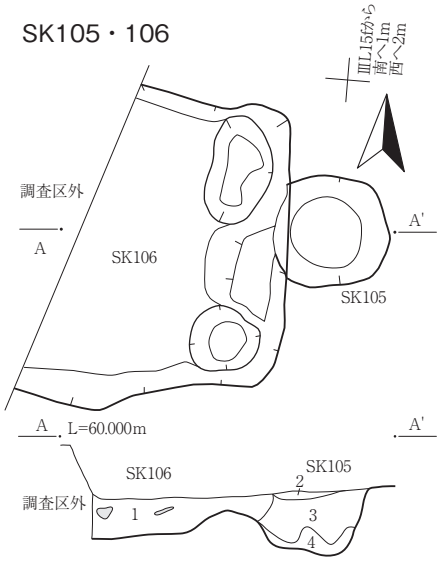
SK103…断面の記録なし

SK104



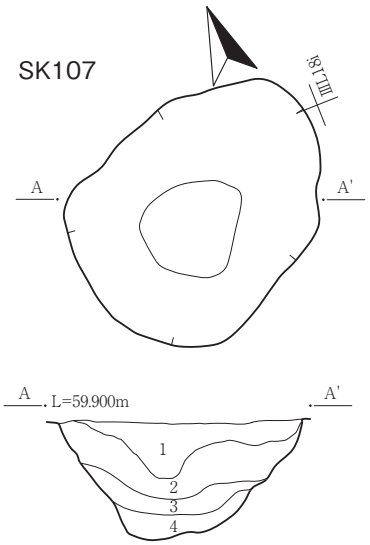
SK104 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまり弱
2　10YR3/4 暗褐色 シルトに 10YR1.7/1 黒色
　シルト 30%含む 粘性中 しまり弱

SK105・106



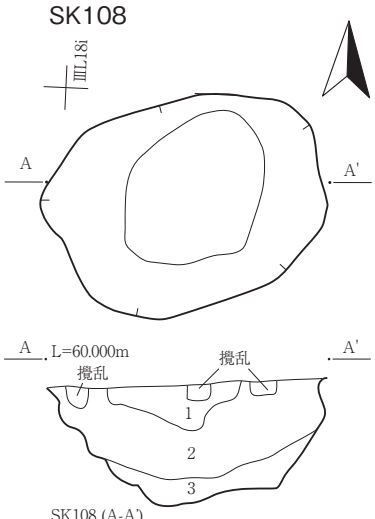
SK105・106 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/6 褐色土ブロック径 1 ～ 3mm 20%含む
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
　焼土ブロック径 1 ～ 3mm1%
　10YR4/6 褐色土ブロック径 1 ～ 3cm1%含む
3　10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中 焼土ブロック
　径 1 ～ 3cm5% 10YR3/1 黒褐色 シルトが 30% 混じる
4　10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中

SK107



SK107 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/6 褐色土ブロック径 1 ～ 4cm20%含む
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR4/6 褐色土ブロック径 1 ～ 2cm5%含む
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
4　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中

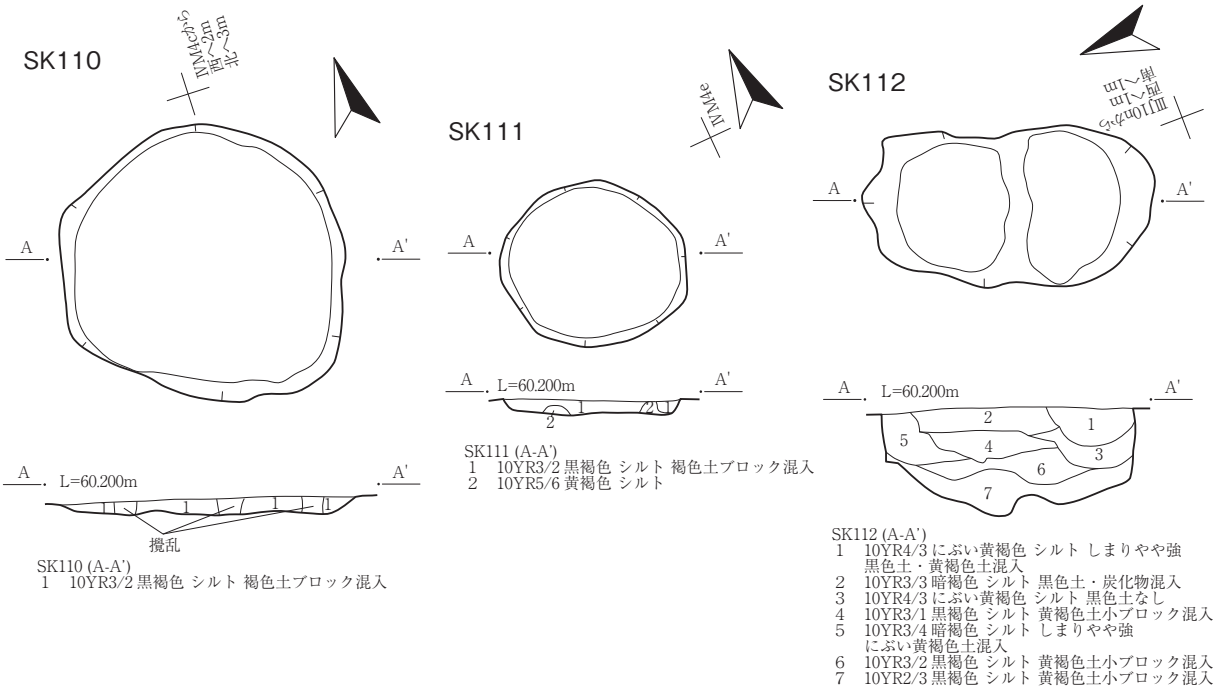
SK108



SK108 (A-A')
1　7.5YR2/1 黒色 粘土質シルト
　粘性弱～中 しまり中
　褐色土ブロック 30%
2　7.5YR2/1 黒色 粘土質シルト
　粘性弱～中 しまり中 焼土粒含む
3　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
　黒色土はさまる

0　1：50　1m

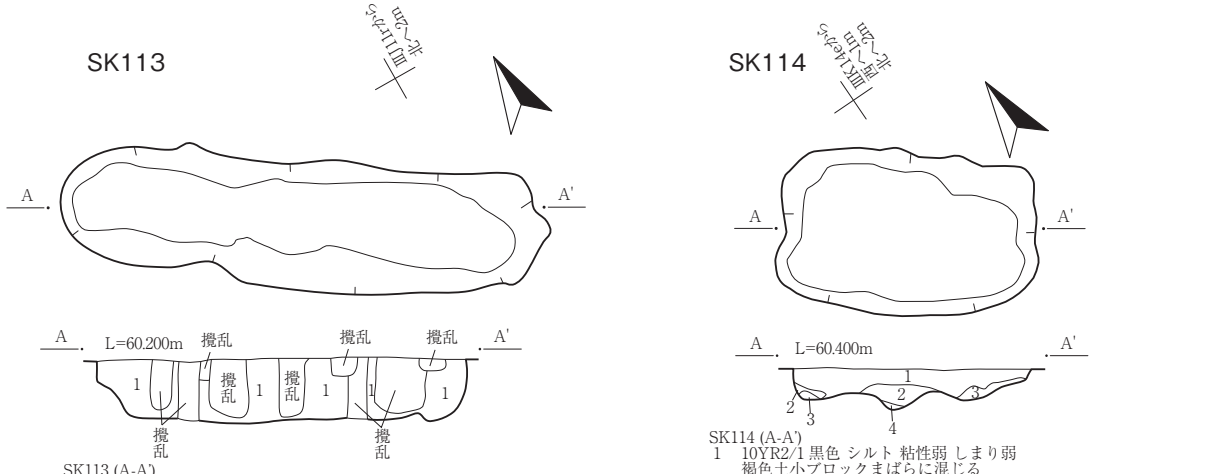
第 150 図　SK98～101・103～108 土坑



SK110 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 褐色土ブロック混入

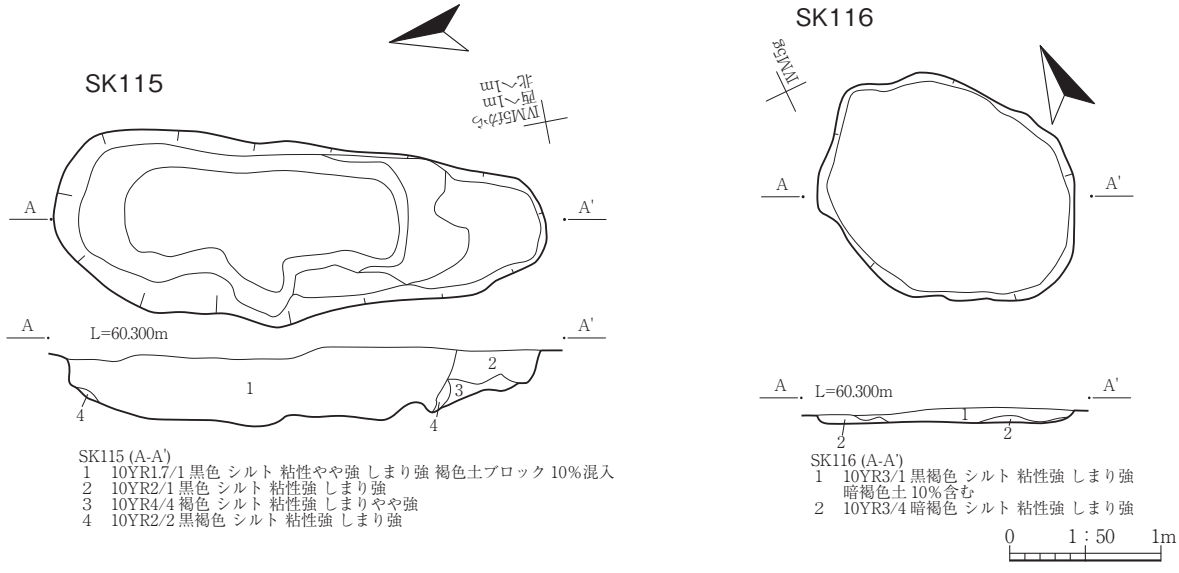
SK111 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 褐色土ブロック混入
2　10YR5/6 黄褐色 シルト

SK112 (A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト しまりやや強
　黒色土・黄褐色土混入
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 黒色土・炭化物混入
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 黒色土なし
4　10YR3/1 黒褐色 シルト 黄褐色土小ブロック混入
5　10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや強
　にぶい黄褐色土混入
6　10YR3/2 黒褐色 シルト 黄褐色土小ブロック混入
7　10YR2/3 黒褐色 シルト 黄褐色土小ブロック混入



SK113 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 地山（黄褐色 砂質土）ブロック混入

SK114 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
　褐色土小ブロックまばらに混じる
2　10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 地山ブロックを主とし黒褐色土混じる
3　10YR3/3 暗褐色 シルト しまり弱 黄褐色土混じる
4　10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト しまり中

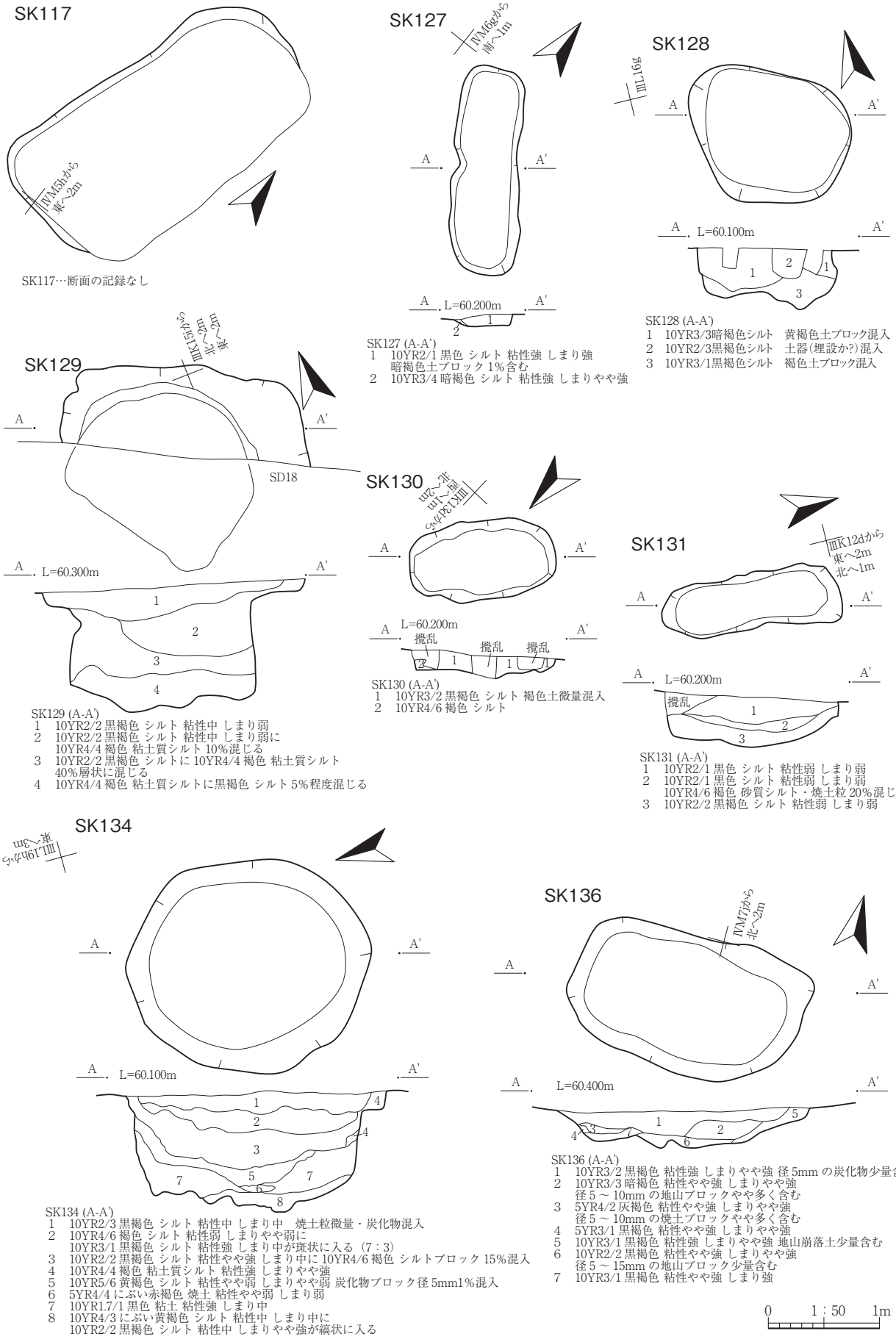


SK115 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性やや強 しまり強 褐色土ブロック 10%混入
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性強 しまり強
3　10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強

SK116 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
　暗褐色土 10%含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

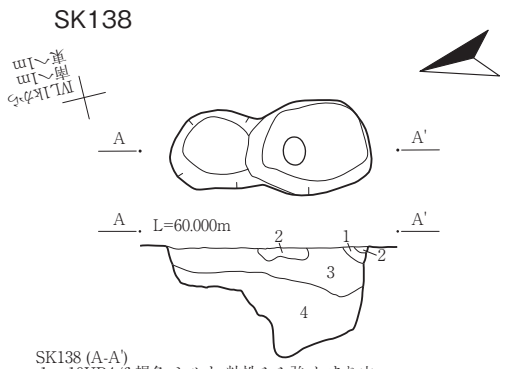
0　1：50　1m

第 151 図　SK110～116 土坑



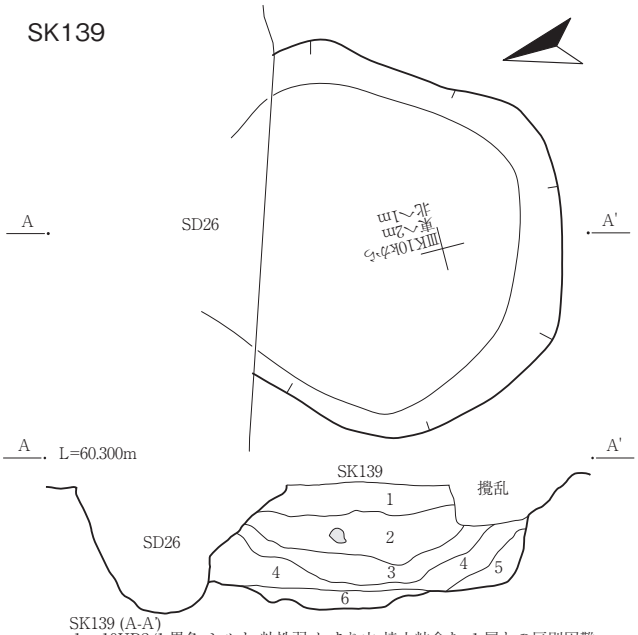
第 152 図　SK117・127～131・134・136 土坑

SK138



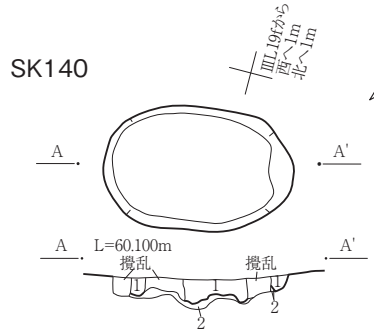
SK138 (A-A')
1　10YR4/6 褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
2　10YR2/2 黒褐色 粘性中 しまり中 10YR4/6 褐色土ブロック 5%混入
3　10YR1.7/1 黒色 粘土質シルト 粘性強 しまりやや弱 焼土粒微量
4　10YR2/1 黒色 シルト 粘性やや強 しまり中

SK139



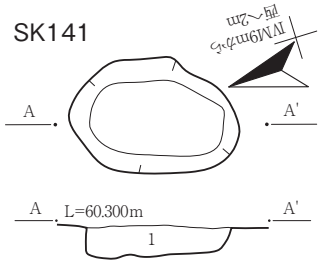
SK139 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む 1層との区別困難
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土粒 10%
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
4　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土粒 5%
5　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 黒色土はさまる
6　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性中 しまり弱 地山との層界にうすく黒色土層はさまる

SK140



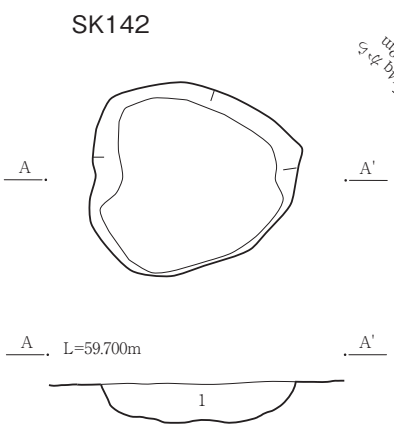
SK140 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　10YR4/6 褐色土ブロック・焼土粒混入
2　10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまりやや強

SK141



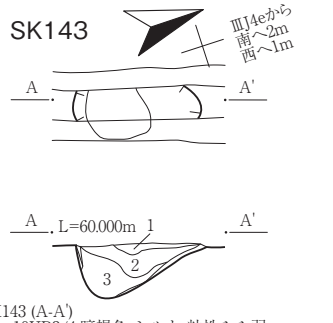
SK141 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　　焼土ブロック径 5 ～ 10mm1%含む

SK142



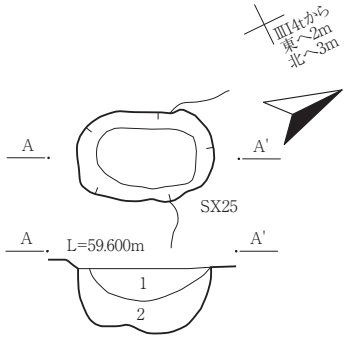
SK142 (A-A')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　炭・焼土ブロック径 5 ～ 10mm 全体的に含む

SK143



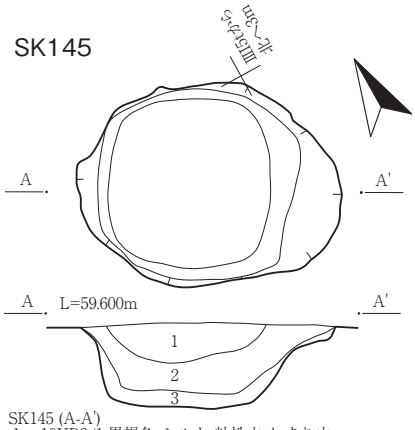
SK143 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱
　　しまりやや強　焼土径 1 ～ 2mm 極少量混入
2　10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中
　　しまりやや強 焼土径 2 ～ 5mm 少量混入
　　黄褐色土ブロック大少量混入
3　10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強
　　しまり中 焼土ブロック径 1cm 少量混入

SK144



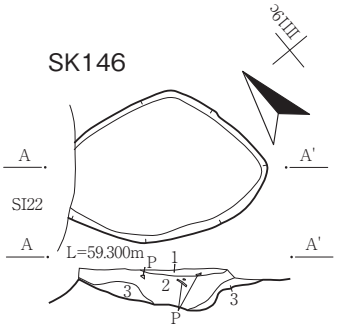
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　　褐色土ブロック 5%・焼土粒 5%含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　　褐色土ブロック 10 ～ 15%

SK145



SK145 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　V層ブロック径 10 ～ 20mm3%・炭ブロック径 5mm2%含む
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　V層ブロック径 10 ～ 50mm40%含む
3　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　V層ブロック径 10 ～ 50mm50%含む

SK146

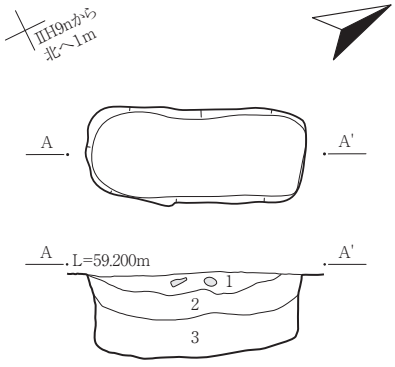


SK146 (A-A')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　　土器片少量 炭化物多量に含む
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　　土器片・炭化物含む 10YR5/1 褐灰色土ブロック
　　少量混じる

0　1：50　1m

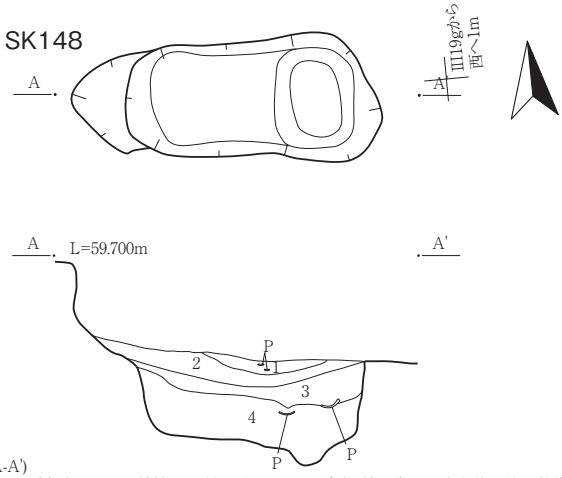
第 153 図　SK138～146 土坑

SK147



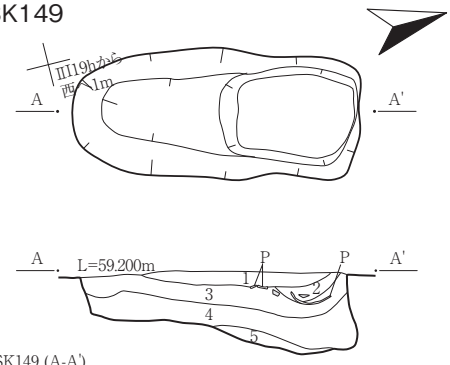
SK147 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　焼土粒集中 10%
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物 3%
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中

SK148



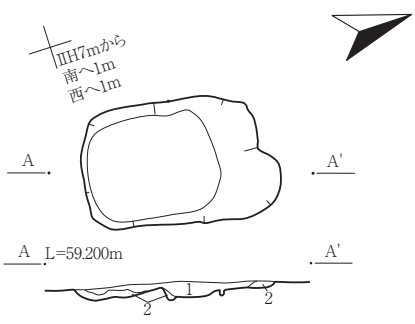
SK148 (A-A')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 白色 粘土微量・炭化物・焼土粒微量含む
2　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 炭化物極微量含む
3　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
4　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 炭化物微量含む

SK149



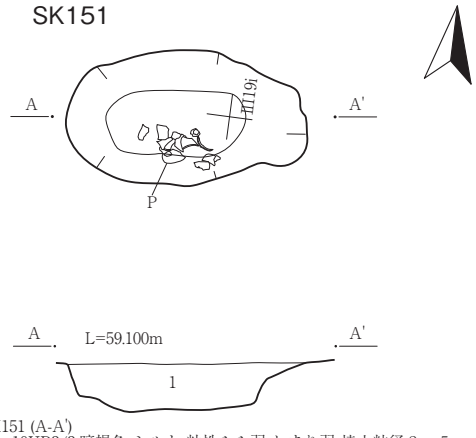
SK149 (A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 炭化物微量含む
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 径 5 ～ 10mm の焼土粒を 40%含む
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 焼土粒微量含む
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 焼土粒 15%程度含む
5　10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強

SK150



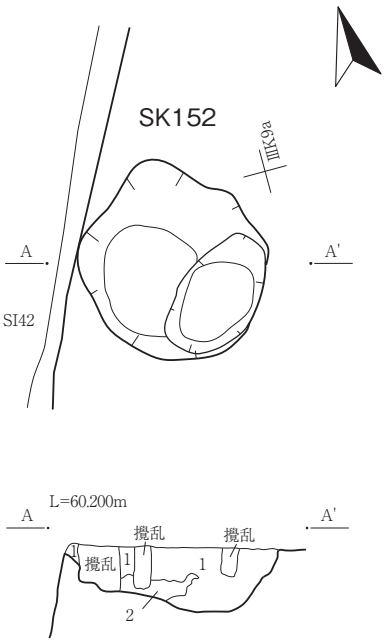
SK150 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 下層に焼土ブロック・炭少量混入
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱

SK151



SK151 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱 焼土粒径 2 ～ 5mm 含む

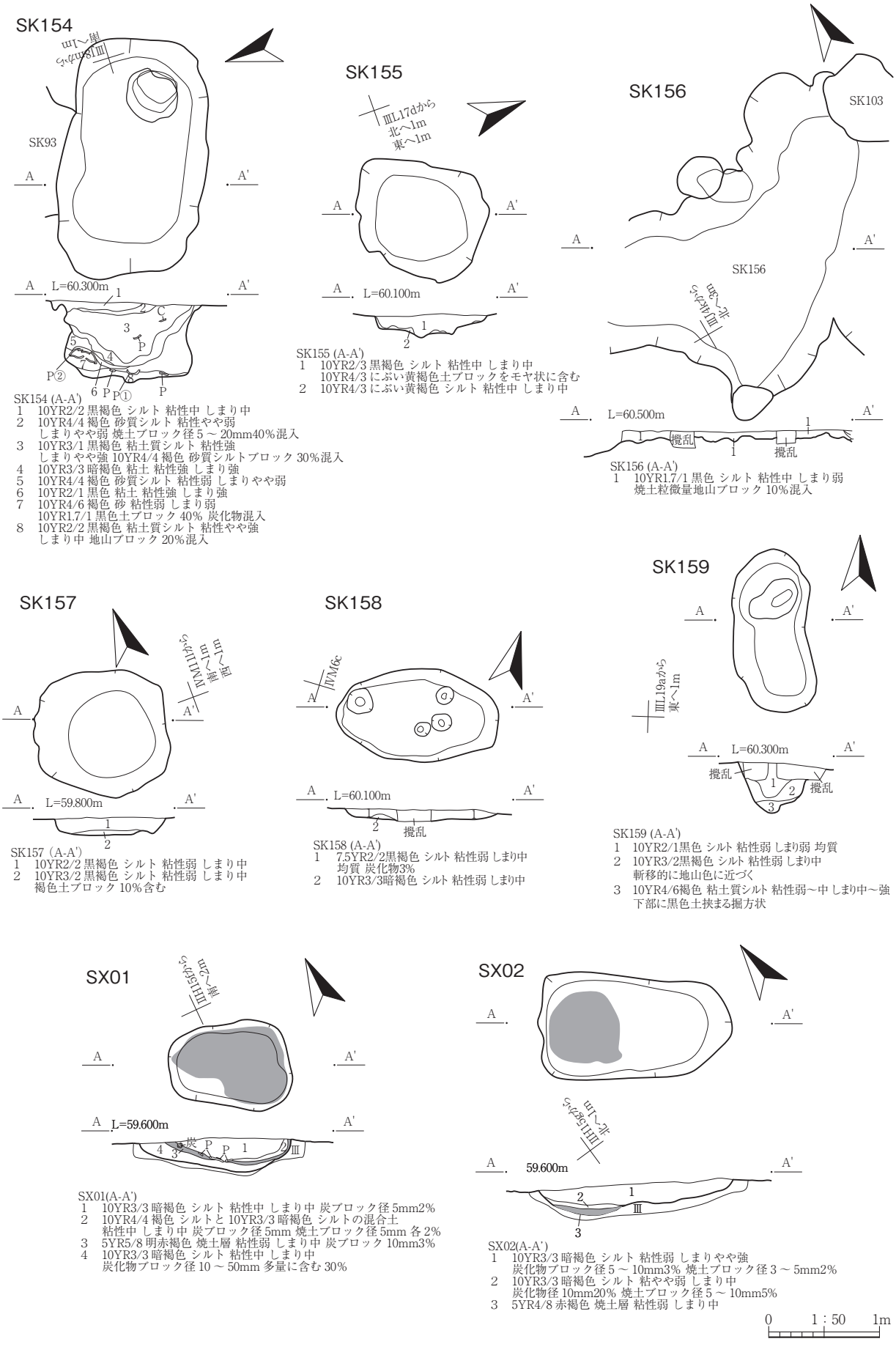
SK152



SK152 (A-A')
1　10YR1.7/1 黒色シルト 粘性中・しまり中 焼土ブロック径 1 ～ 20mm3%・炭化物粒 1%
2　10YR4/6 褐色砂質シルト 粘性弱 しまりやや弱

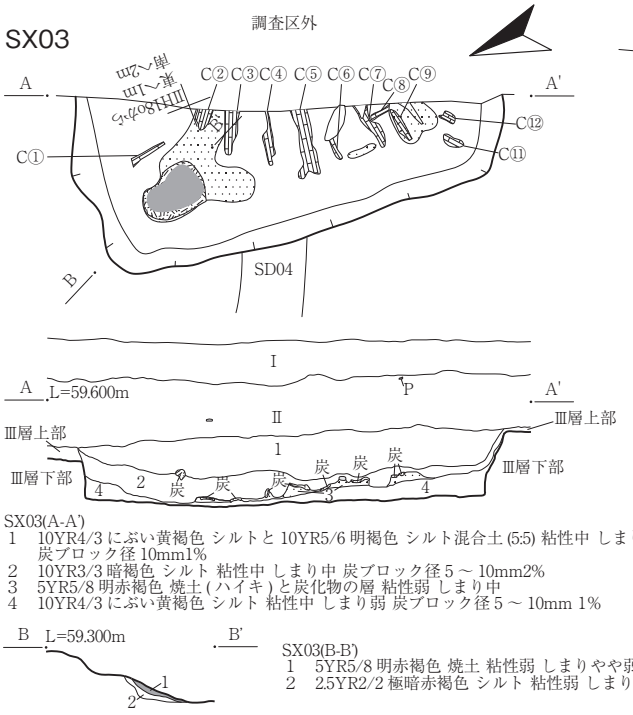
0　1：50　1m

第 154 図　SK147～152 土坑



第 155 図　SK154～159 土坑、SX01・02 焼成遺構

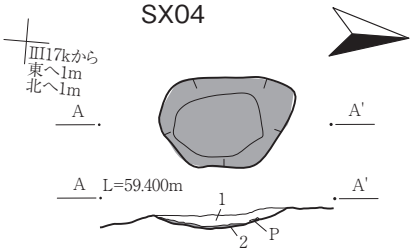
SX03



SX03(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトと 10YR5/6 明褐色 シルト混合土 (5:5) 粘性中 しまり中
　炭ブロック径 10mm1%
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭ブロック径 5 ～ 10mm2%
3　5YR5/8 明赤褐色 焼土 (ハイキ) と炭化物の層 粘性弱 しまり中
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱 炭ブロック径 5 ～ 10mm 1%

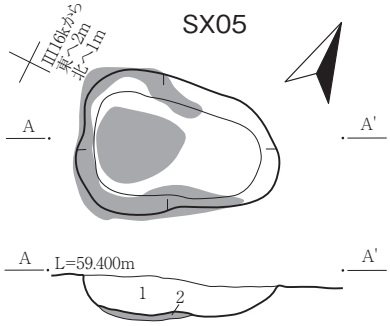
SX03(B-B')
1　5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや弱
2　2.5YR2/2 極暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中

SX04



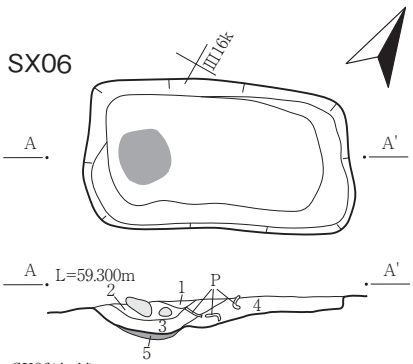
SX04(A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト
　粘性弱 しまり中
2　炭化物集中下面に焼成層
　厚さ1cm以下

SX05



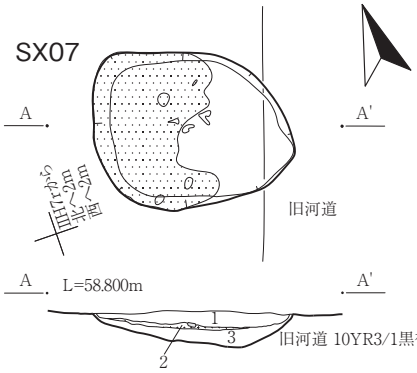
SX05(A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒･炭化物5%含む
2　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 底面焼成層上面に炭化物層

SX06



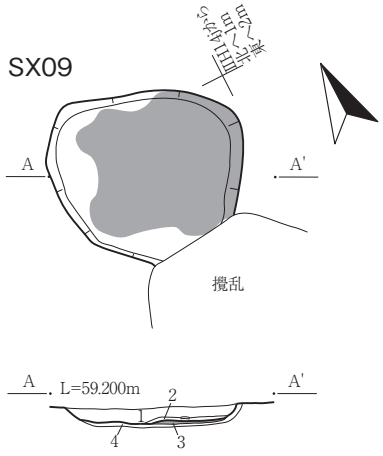
SX06(A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物10～20%含む
3　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック20%
　底面に炭化物層厚さ1cm以下
4　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物10%
5　5YR4/4にぶい赤褐色 強変焼土

SX07



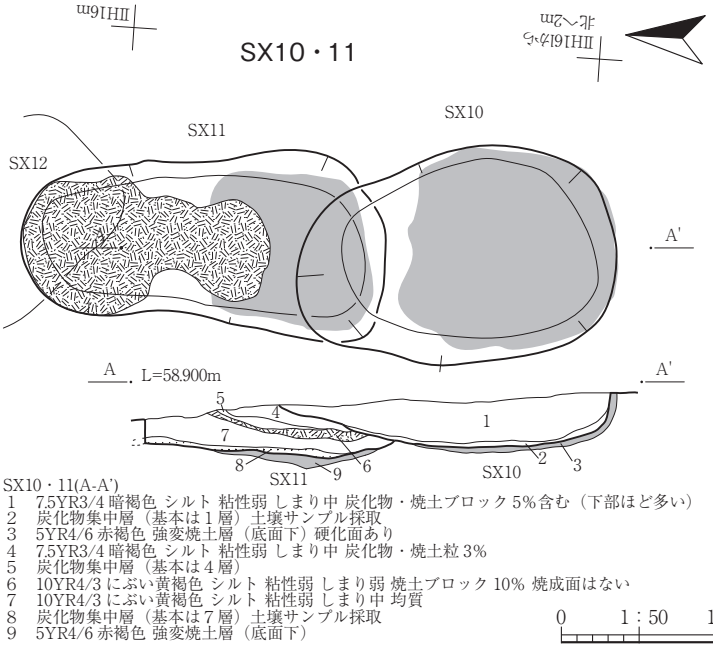
SX07(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強
　炭ブロック径 5mm2% 焼土ブロック径 2 ～ 5mm1%
2　5YR5/8 明赤褐色 焼土と炭化材の層 粘性弱 しまり中
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトと 10YR3/2 黒褐色 シルトの混合土 (5：5)
　粘性中 しまりやや強 炭ブロック径 2 ～ 3mm1%

SX09



SX09(A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物 3%
2　炭化物集中層この下面が土坑底面
3　5YR4/6 赤褐色 強変焼土層
4　7.5YR3/3 暗褐色 弱変焼土層

SX10・11

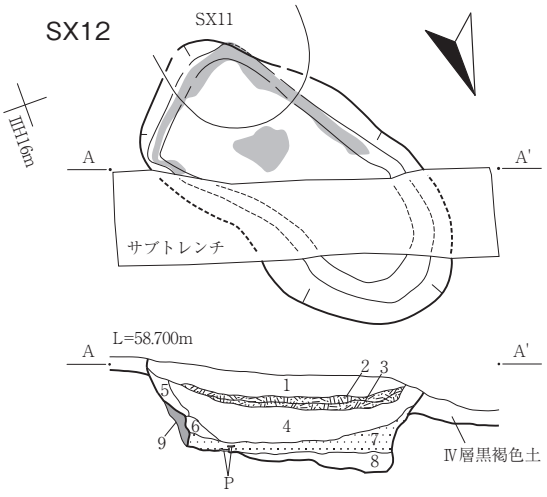


SX10・11(A-A')
1　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物・焼土ブロック 5%含む（下部ほど多い）
2　炭化物集中層（基本は 1 層）土壌サンプル採取
3　5YR4/6 赤褐色 強変焼土層（底面下）硬化面あり
4　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物・焼土粒 3%
5　炭化物集中層（基本は 4 層）
6　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土ブロック 10% 焼成面はない
7　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
8　炭化物集中層（基本は 7 層）土壌サンプル採取
9　5YR4/6 赤褐色 強変焼土層（底面下）

0　1：50　1m

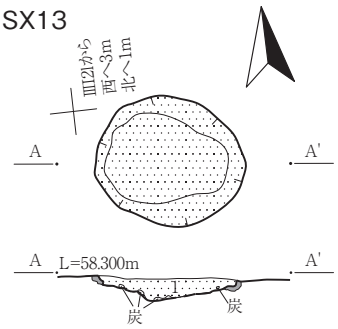
第 156 図　SX03～07・09～11 焼成遺構

SX12



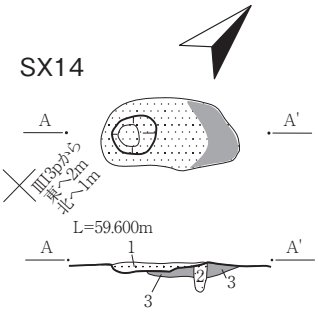
SX12(A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 3%
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 上面に炭化物層厚さ 1cm
3　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
　上層に厚 5mm 炭化物層 SX11 の 8 層に連続
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 3 ～ 5%
5　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
6　5YR3/4 暗赤褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロックの集中
7　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック 10%
8　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 3%
　上面に炭化物層厚さ 0.5 ㎝
9　2.5YR5/8 明赤褐焼土　粘弱・しまり中

SX13



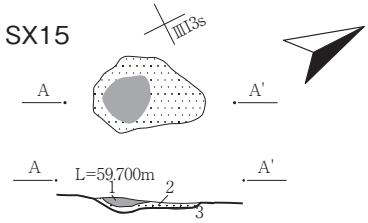
SX13(A-A')
1　10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
　炭化物･焼土粒微量混じる

SX14



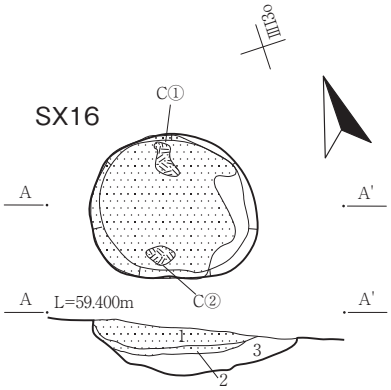
SX14(A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 焼土粒
　炭化物微量混じる
2　2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土に 10YR4/3
　にぶい黄褐色シルト混じる
3　2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土

SX15



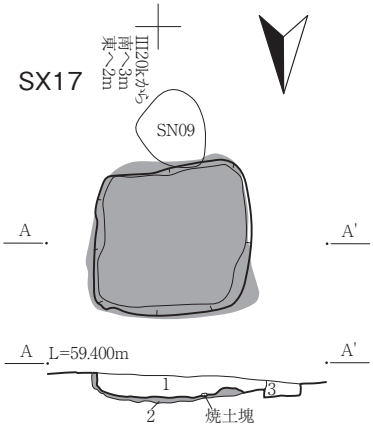
SX15(A-A')
1　2.5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
　炭化物・焼土粒含む

SX16



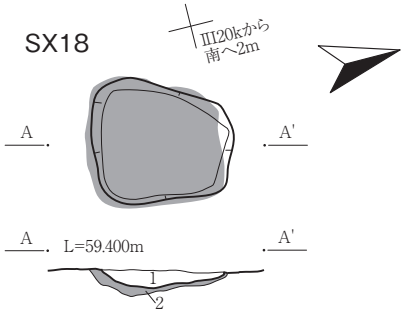
SX16(A-A')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭･焼土粒1%含む
2　5YR2/2黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 焼土と炭の混合土
3　10YR2/2黒褐色 シルト しまり強 焼土粒微量の炭を含む

SX17



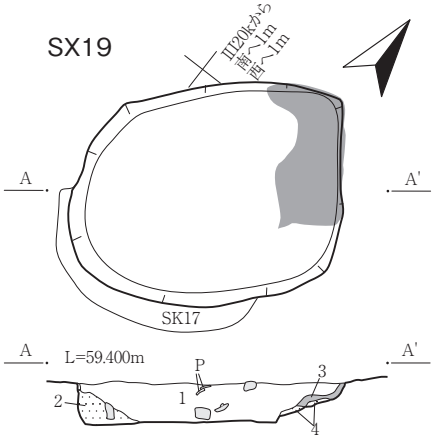
SX17(A-A')
1　7.5YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭を含む
2　5YR3/3暗赤褐色 焼土 全体にしまり強
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性強 しまり強

SX18



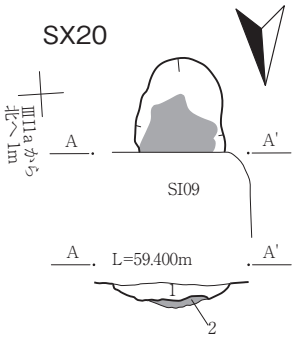
SX18(A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
　焼土粒・炭含む
2　5YR2/3 極暗赤褐色 シルト しまり共強
　焼土粒と炭の混合土 南端側の焼成が著しい

SX19

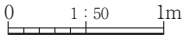


SX19(A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト しまり強 石・土師器含む 径 5mm 大の炭の混入あり
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭と焼土粒が混入する
3　5YR3/4 暗赤褐色 焼土 しまり強
4　5YR3/2 暗赤褐色 シルト しまり強 焼土と炭の混合土

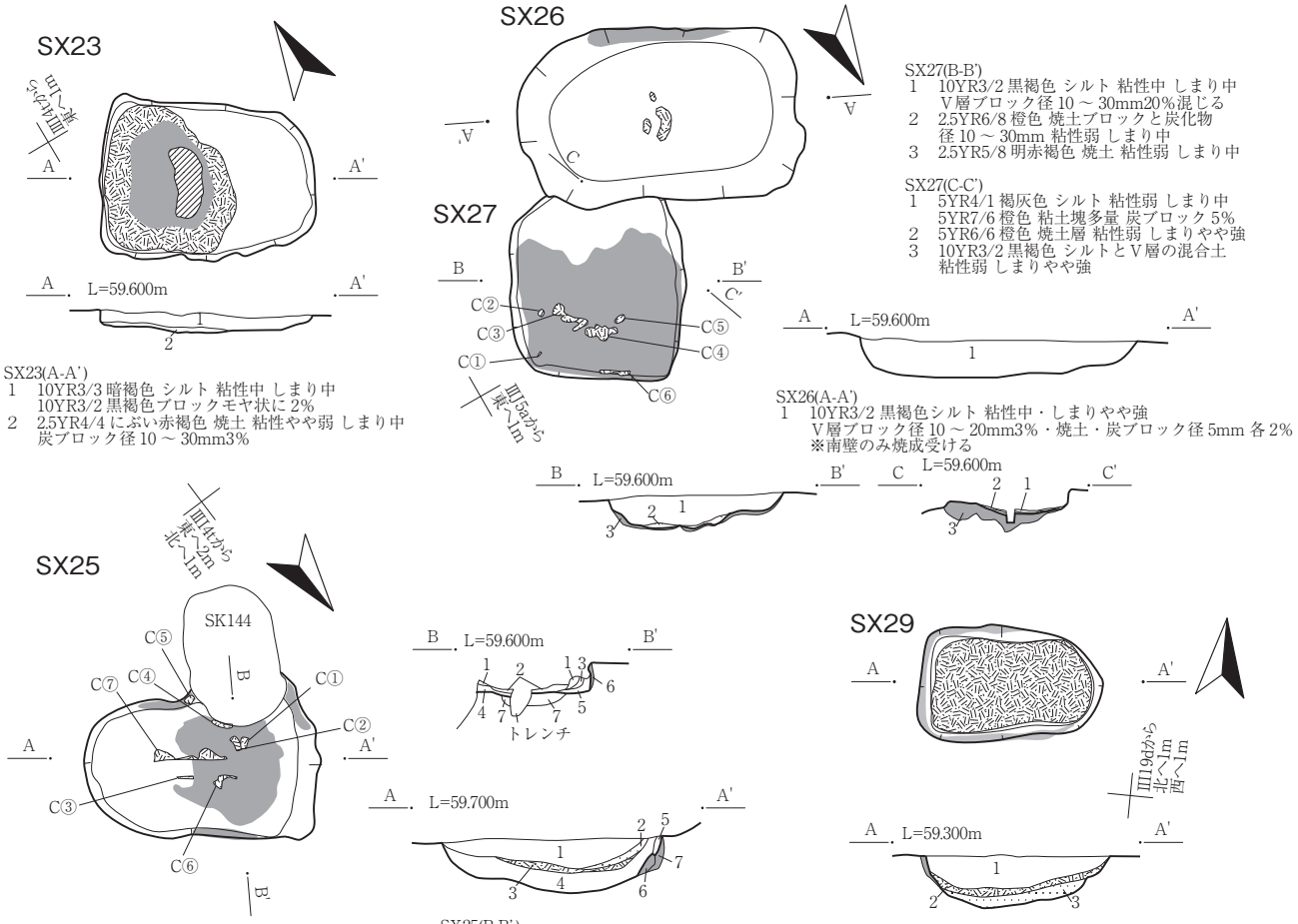
SX20



SX20(A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性強
　炭を多く含む
2　5YR2/4 極暗赤褐色 焼土 しまり強



第 157 図　SX12～20 焼成遺構



SX23(A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　10YR3/2 黒褐色ブロックモヤ状に 2%
2　2.5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 粘性やや弱 しまり中
　炭ブロック径 10 ～ 30mm3%

SX27(B-B')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　V層ブロック径 10 ～ 30mm20%混じる
2　2.5YR6/8 橙色 焼土ブロックと炭化物
　径 10 ～ 30mm 粘性弱 しまり中
3　2.5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

SX27(C-C')
1　5YR4/1 褐灰色 シルト 粘性弱 しまり中
　5YR7/6 橙色 粘土塊多量 炭ブロック 5%
2　5YR6/6 橙色 焼土層 粘性弱 しまりやや強
3　10YR3/2 黒褐色 シルトとV層の混合土
　粘性弱 しまりやや強

SX26(A-A')
1　10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中・しまりやや強
　V層ブロック径 10 ～ 20mm3%・焼土・炭ブロック径 5mm 各 2%
　※南壁のみ焼成受ける

SX25(A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性・しまり共に中
　V層ブロック径 10 ～ 30mm20%混じる
2　5YR6/8 橙色 焼土ブロックの層 粘性弱 しまり中
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭化物ブロック多量 焼土ブロック 10%
4　10YR3/2 黒褐色 シルトとV層ブロック径
　10 ～ 30mm の混合土（5：5）粘性中 しまり中
5　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
　（V層崩落土）
6　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土ブロックと 4 層の混合土
　粘性中 しまりやや弱
7　2.5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中

SX25(B-B')
1　5YR7/8 橙色 焼土 粘性弱 しまり強（2回目焼成面）
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　5YR6/8 橙色 粘土塊径 5mm 多量に混じる
3　5YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
4　10YR1.7/1 黒色 炭化物層 粘性弱 しまりやや弱
　焼土ブロック径 10mm3%含む
5　10YR3/3 暗褐色 シルトと橙色 焼土の混合土 粘性弱 しまり中
6　5YR6/8 橙色 焼土面（強い焼成）粘性弱 しまり強
　（1回目焼成面）
7　7.5YR3/1 黒褐色 シルトとV層地山との混合土（5：5）粘性中
　しまり中

SX29(A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物少量含む
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト
　粘性強 しまりやや弱 7.5YR5/1 褐灰色
　ブロック多く混じる 炭化物多く含む
3　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物少量含む 焼土ブロック混じる

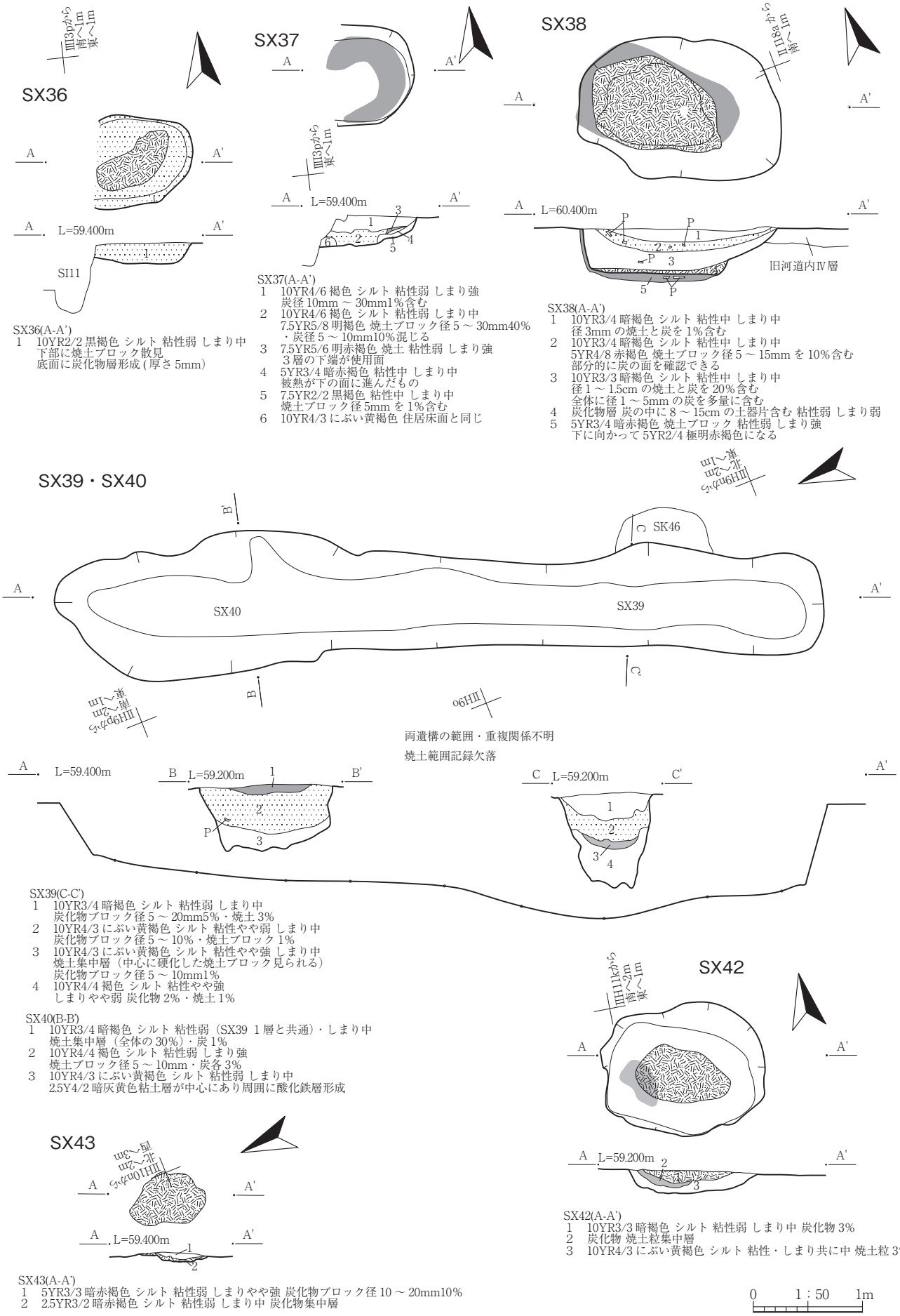
SX30(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
　焼土ブロック径 10 ～ 30mm・炭径 20 ～ 30mm 各 5%
2　7.5YR5/6 明褐色 焼土と 10YR4/3 にぶい黄褐色
　シルトの混合土（5：5）粘性弱 しまり強 炭径 30mm 1%含む
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　7.5YR5/6 明褐色径 10mm の焼土ブロック 10%・炭径 5 ～ 10mm
　1%

SX32…断面記録なし

SX34(A-A')
1　10YR3/2 黒褐色シルトと 10YR5/4 にぶい黄褐色
　シルトの混合土（5：5）
2　10YR5/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭ブロック径 10 ～ 30mm5%・焼土ブロック 10 ～ 30mm3%
3　10YR5/4 にぶい黄褐色シルト粘・しまり共中
　炭化物ブロック 径 2 ～ 3mm

SX33(A-A')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルトと 10YR4/3 にぶい黄褐色
　シルトの混合土 粘性中 しまり中 炭・焼土ブロック 2%
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
　炭ブロック・焼土ブロック径 10mm 程度 10%

第 158 図　SX23・25～27・29・30・32～34 焼成遺構



SX36(A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　下部に焼土ブロック散見
　底面に炭化物層形成 (厚さ 5mm)

SX37(A-A')
1　10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　炭径 10mm ～ 30mm1％含む
2　10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　7.5YR5/8 明褐色 焼土ブロック径 5 ～ 30mm40％
　・炭径 5 ～ 10mm10％混じる
3　7.5YR5/6 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強
　3 層の下端が使用面
4　5YR3/4 暗赤褐色 粘性中 しまり中
　被熱が下の面に進んだもの
5　7.5YR2/2 黒褐色 粘性中 しまり中
　焼土ブロック径 5mm を 1％含む
6　10YR4/3 にぶい黄褐色 住居床面と同じ

SX38(A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　径 3mm の焼土と炭を 1％含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　5YR4/8 赤褐色 焼土ブロック径 5 ～ 15mm を 10％含む
　部分的に炭の面を確認できる
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　径 1 ～ 1.5cm の焼土と炭を 20％含む
　全体に径 1 ～ 5mm の炭を多量に含む
4　炭化物層 炭の中に 8 ～ 15cm の土器片含む 粘性弱 しまり弱
5　5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック 粘性弱 しまり強
　下に向かって 5YR2/4 極明赤褐色になる

両遺構の範囲・重複関係不明
焼土範囲記録欠落

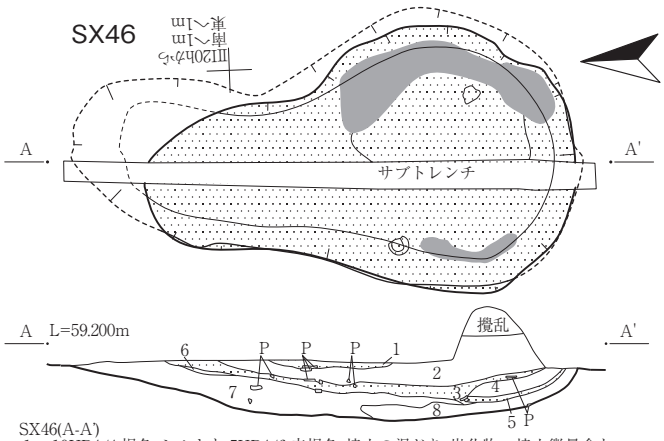
SX39(C-C')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　炭化物ブロック径 5 ～ 20mm5％・焼土 3％
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
　炭化物ブロック径 5 ～ 10％・焼土ブロック 1％
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
　焼土集中層（中心に硬化した焼土ブロック見られる）
　炭化物ブロック径 5 ～ 10mm1％
4　10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや強
　しまりやや弱 炭化物 2％・焼土 1％

SX40(B-B')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱（SX39 1 層と共通）・しまり中
　焼土集中層（全体の 30％）・炭 1％
2　10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり強
　焼土ブロック径 5 ～ 10mm・炭各 3％
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　2.5Y4/2 暗灰黄色粘土層が中心にあり周囲に酸化鉄層形成

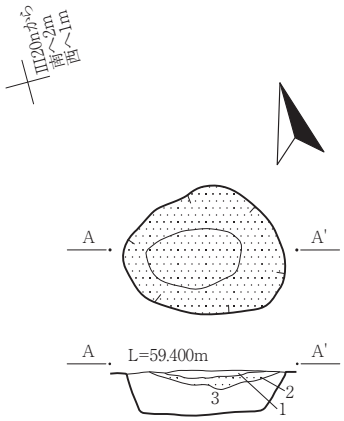
SX42(A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物 3％
2　炭化物 焼土粒集中層
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性・しまり共に中 焼土粒 3％

SX43(A-A')
1　5YR3/3 暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 炭化物ブロック径 10 ～ 20mm10％
2　2.5YR3/2 暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物集中層

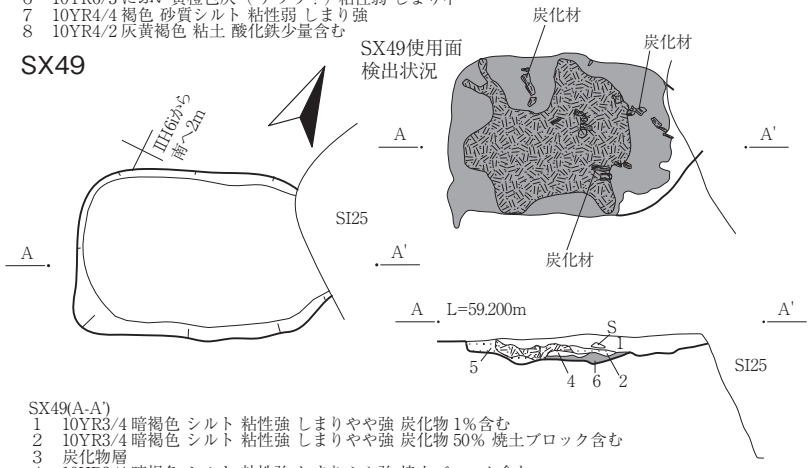
第 159 図　SX36～40・42・43 焼成遺構



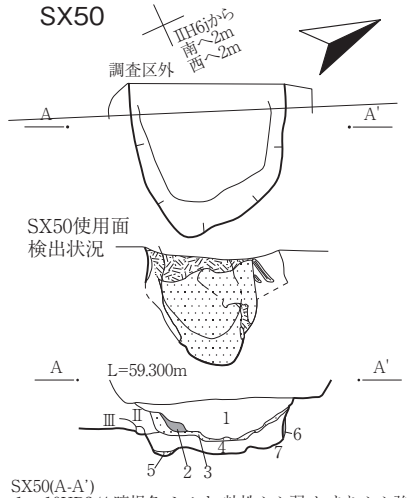
SX46(A-A')
1　10YR4/4 褐色 シルトと 5YR4/6 赤褐色 焼土の混じり 炭化物・焼土微量含む
2　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 炭化物微量含む
3　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強
　炭化物 10%・焼土 5%含む 6 層と同じ黄橙色灰（テフラ？）がモヤ状に少量入る
4　10YR3/4 暗褐色 シルト
5　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強 焼土 3%
6　10YR6/3 にぶい黄橙色灰（テフラ？）粘性弱 しまり中
7　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり強
8　10YR4/2 灰黄褐色 粘土 酸化鉄少量含む



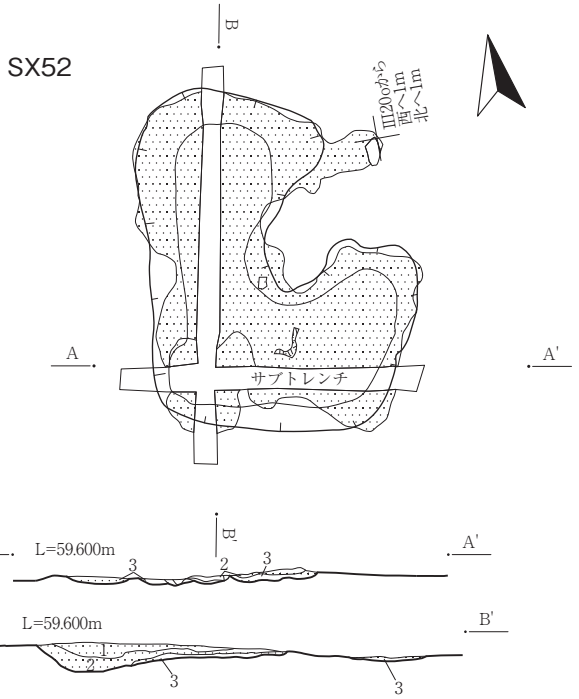
SX48(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭径 5mm・土器片を含む
2　5YR3/4 暗赤褐色 焼土 粘性中 しまりやや弱
　炭径 1 ～ 4cm5%・5YR5/6 明赤褐色 焼土ブロック 1%含む
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 炭径 5mm・焼土径 10mm1%含む



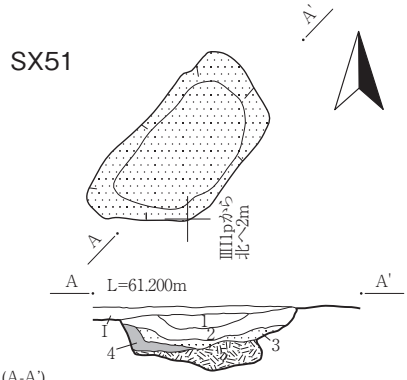
SX49(A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや強 炭化物 1%含む
2　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや強 炭化物 50% 焼土ブロック含む
3　炭化物層
4　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック含む
5　10YR3/4 暗褐色 シルトと明赤褐焼土の混合土 粘性強 しまりやや強
6　2.5YR3/4 極赤褐色焼土 粘性強 しまりやや強



SX50(A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
2　5YR4/6 赤褐色 焼土 (2 回目の焼成面)
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱
　炭化物・焼土 30%混じる 新期面の底面
4　10YR3/4 暗褐色 シルト しまりやや弱 炭化物 焼土 10%
5　炭化物層
6　5YR4/6 赤褐色 焼土（1 回目の焼成面）
7　10YR4/4 褐色 シルト 地山層 粘性強 しまり強



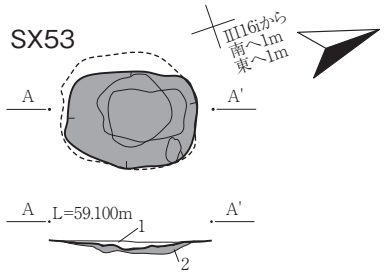
SX52(A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック・焼土ブロック径 2 ～ 3mm 各 1%
2　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック径 3 ～ 10mm30%・炭化物ブロック 1%
3　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物ブロック径 3 ～ 10mm20%・焼土ブロック径 5mm2%



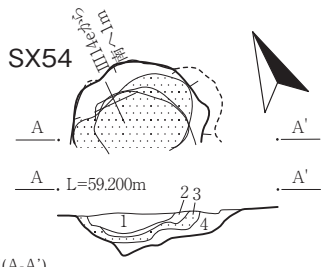
SX51(A-A')
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱 しまり中 下面に炭化物集中
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒 5%・炭化物 10%
4　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 壁面側に焼土大ブロック 10%
5　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物集中 30%

0　1：50　1m

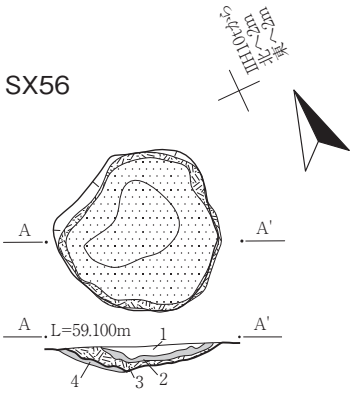
第 160 図　SX46・48～52 焼成遺構



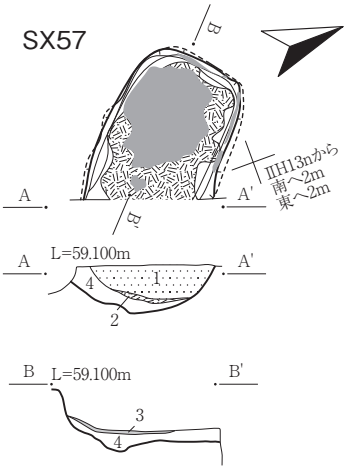
SX53(A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
2　2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土 粘性やや強 しまりやや強



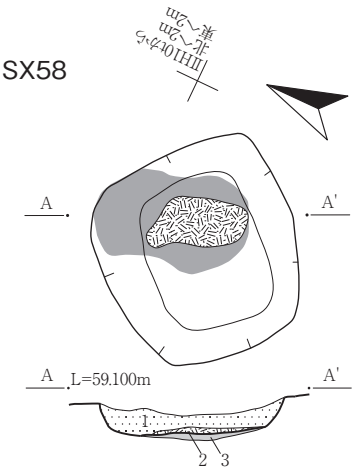
SX54(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭化物・焼土が少量混じる
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強 炭化物・焼土が微量混じる
3　10YR3/3 暗褐色 シルトと 2.5YR4/8 赤褐色 焼土の混じり 粘性強 しまり強
4　10YR3/3 暗褐色 シルトと 2.5YR4/8 赤褐色 焼土が微量混じる 粘性強 しまり強



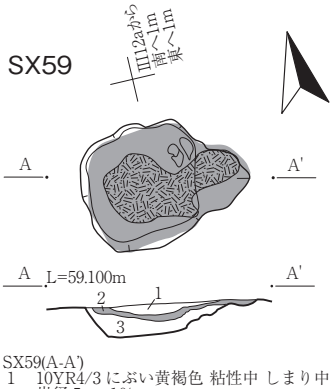
SX56(A-A')
1　10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強（2 次）
3　10YR2/1 黒色 炭化物層 粘性弱 しまりやや弱
4　5YR5/8 明赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや弱（1 次）



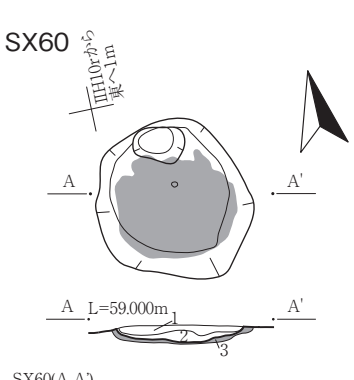
SX57(A-A'B-B')
1　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 焼土粒 3%
2　炭化物集中層
3　5YR3/4 暗赤褐色 粘土質シルト（焼土層）
4　10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 焼土粒・炭化物含む
※ 4 層上面で焼成が行われている



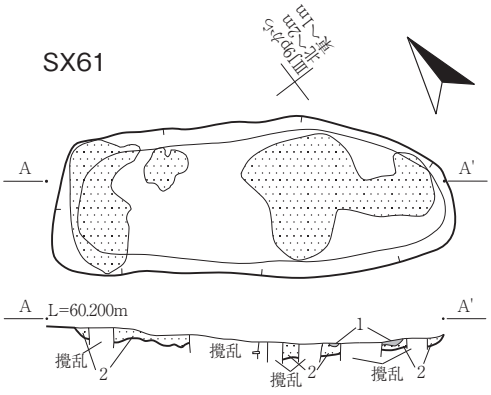
SX58(A-A')
1　10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性強 しまりやや強 焼土ブロック径 5 ～ 10mm1%・炭径 1 ～ 10mm 含む
2　炭化物集中層
3　5YR4/4 にぶい赤褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや弱 焼土粒多量に含む



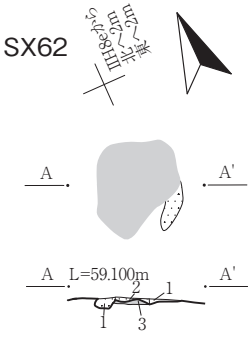
SX59(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中 炭径 5mm1%
2　5YR3/4 暗赤褐色 炭と焼土 粘性中 しまり中（焼成面）
3　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中 炭径 2 ～ 3cm と焼土 2%（掘り方）



SX60(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中 炭径 2 ～ 3cm・焼土径 5mm1%
2　10YR4/1 褐灰色 粘性中 しまり中 焼土径 5 ～ 10mm1%
3　5YR2/3 極暗赤褐色　粘性やや弱 しまり中 炭化物粒含む



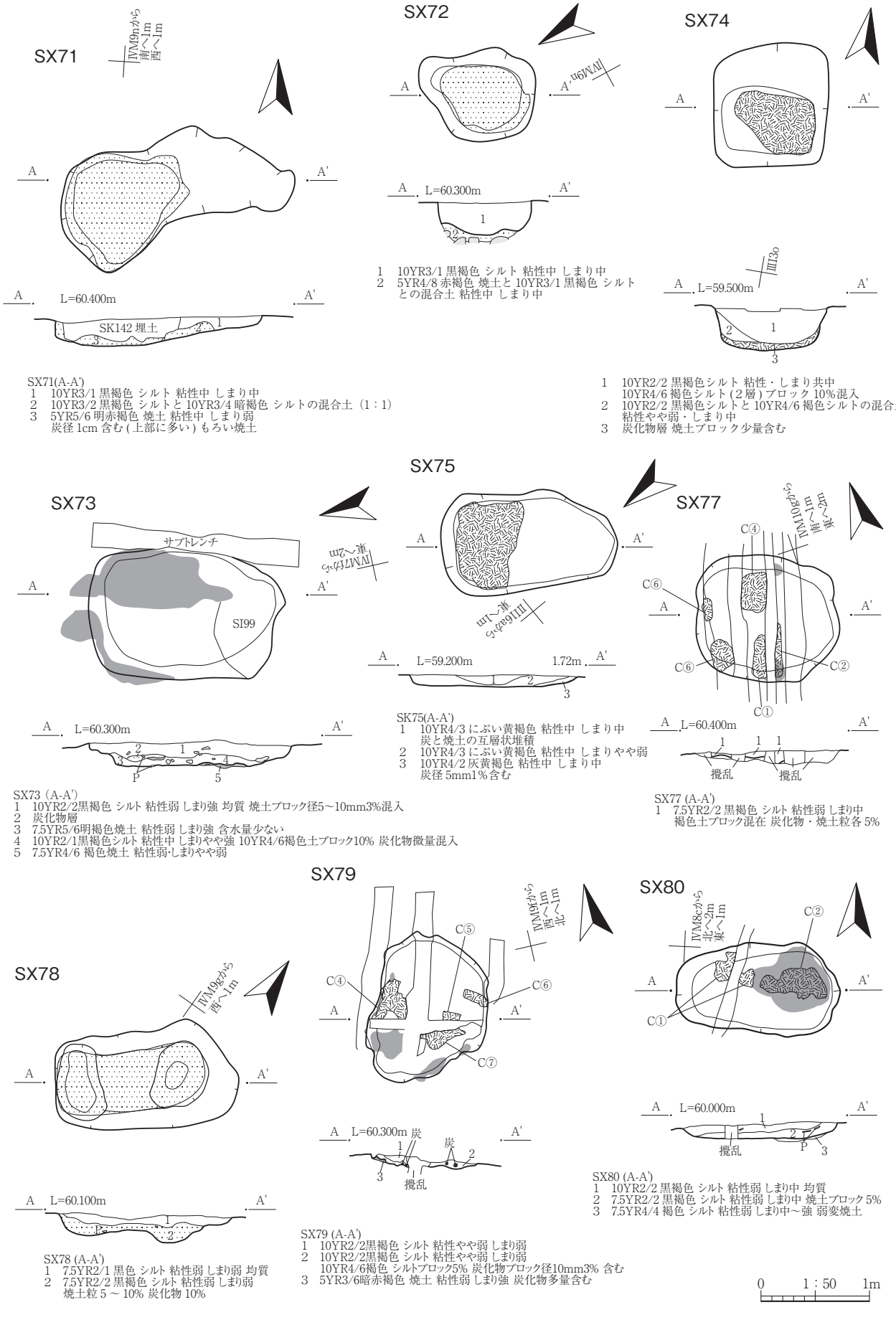
1　5YR5/3 明赤褐色焼土 粘性・しまり共弱 砂質で含水量少ない
2　7.5YR2/3　極暗褐色粘質シルト 粘性やや弱 しまり中 5YR4/3 焼土ブロック 30% 混 地山層との境目に 10YR2/1 黒色粘土質シルト介在



SX62(A-A')
1　炭ブロック径 10 ～ 20mm 焼土ブロック径 5 ～ 10mm3%
2　5YR5/8 明赤褐色 焼土ブロック 径 3 ～ 15mm・炭径 5 ～ 10mm1%含む
3　5YR3/3 暗赤褐色 焼土 粘性中 しまり中

0　1：50　1m

第 161 図　SX53・54・56～62 焼成遺構



SX71(A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　10YR3/2 黒褐色 シルトと 10YR3/4 暗褐色 シルトの混合土（1：1）
3　5YR5/6 明赤褐色 焼土 粘性中 しまり弱
　炭径 1cm 含む (上部に多い) もろい焼土

SX72
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2　5YR4/8 赤褐色 焼土と 10YR3/1 黒褐色 シルト
　との混合土 粘性中 しまり中

SX74
1　10YR2/2 黒褐色シルト 粘性・しまり共中
　10YR4/6 褐色シルト (2層) ブロック 10%混入
2　10YR2/2 黒褐色シルトと 10YR4/6 褐色シルトの混合土
　粘性やや弱・しまり中
3　炭化物層 焼土ブロック少量含む

SX73 (A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強 均質 焼土ブロック径5～10mm3%混入
2　炭化物層
3　7.5YR5/6明褐色焼土 粘性弱 しまり強 含水量少ない
4　10YR2/1黒褐色シルト 粘性中 しまりやや強 10YR4/6褐色土ブロック10% 炭化物微量混入
5　7.5YR4/6 褐色焼土 粘性弱･しまりやや弱

SK75(A-A')
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまり中
　炭と焼土の互層状堆積
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまりやや弱
3　10YR4/2 灰黄褐色 粘性中 しまり中
　炭径 5mm1％含む

SX77 (A-A')
1　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
　褐色土ブロック混在 炭化物・焼土粒各 5%

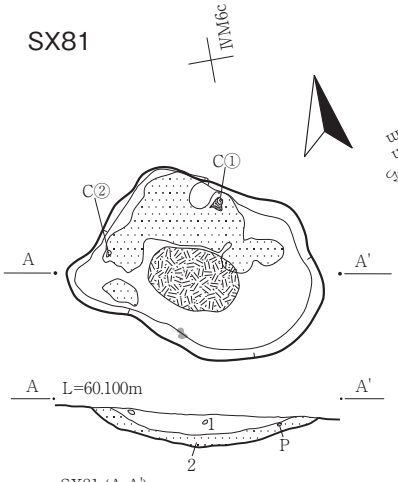
SX78 (A-A')
1　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 均質
2　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
　焼土粒 5 ～ 10% 炭化物 10%

SX79 (A-A')
1　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
　10YR4/6褐色 シルトブロック5% 炭化物ブロック径10mm3% 含む
3　5YR3/6暗赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 炭化物多量含む

SX80 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック 5%
3　7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり中～強 弱変焼土

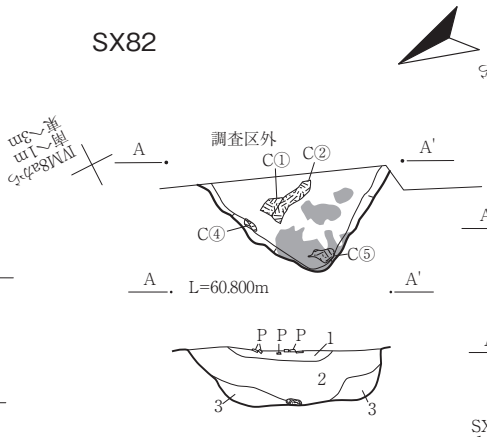
第 162 図　SX71～75・77～80 焼成遺構

SX81



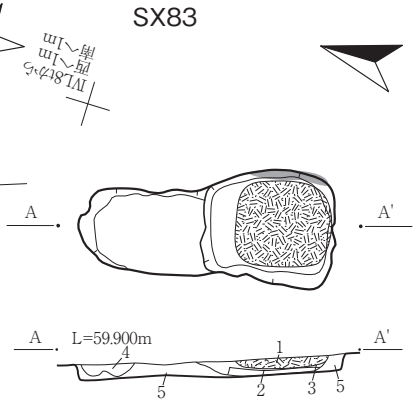
SX81 (A-A')
1　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 均質
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒 5%炭化物 5%

SX82



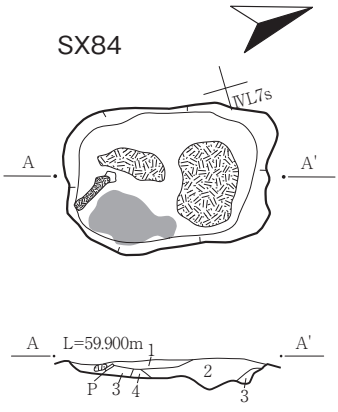
SX82 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルトに 10YR4/4 褐色シルトが層状に堆積 最上部に土器片 粘性中 しまり中
2　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
3　10YR2/3 黒褐色 シルトに 10YR4/4 褐色シルトが 20%混在 粘性やや強 しまり中

SX83



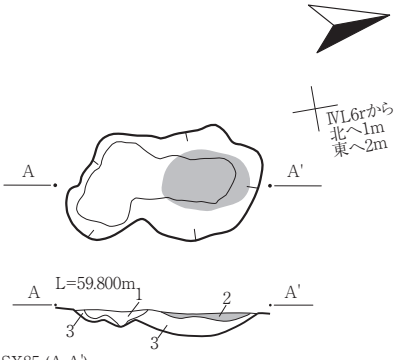
SX83 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 炭径 1 ～ 4mm 含む 粘性中 しまりやや弱
2　7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
4　10YR3/4 暗褐色 シルトと 10YR2/1 黒色 シルトの混じり 粘性中 しまりやや弱
5　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強

SX84



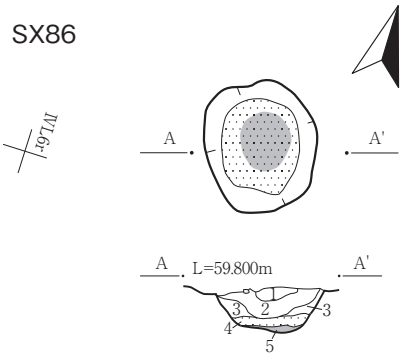
SX84 (A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 焼土粒 5%含む 土器片多数出土
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 10YR4/4 褐色シルトを粒状に 8%含む 粘性やや弱 しまり強
3　10YR4/4 褐色 シルトと 10YR2/2 黒褐色シルトの混じり 粘性やや強 しまり強
4　10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強

SX85



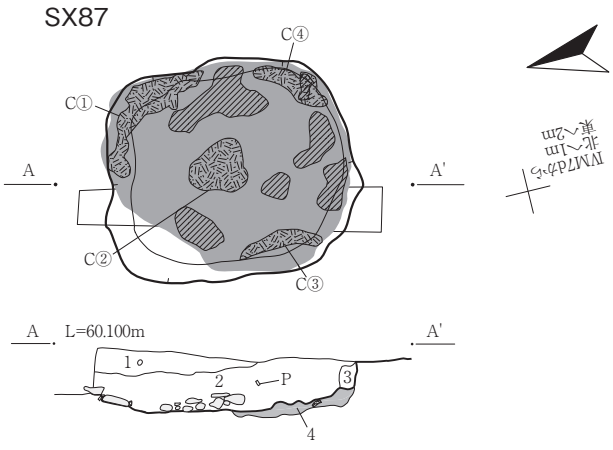
SX85 (A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色土ブロック 5%含む
2　5YR3/4 暗赤褐色 焼土
3　10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱 しまり中 と 10YR4/4 褐色 粘性やや強 しまり強 の混在

SX86



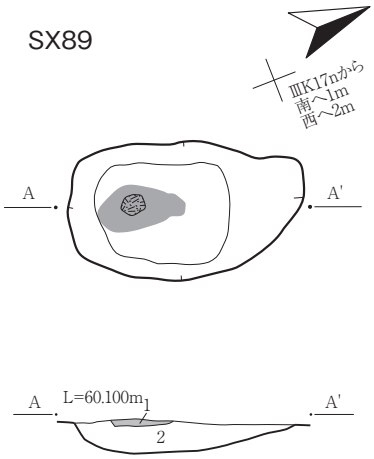
SX86 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 10YR3/4 暗褐色 シルト少量含む
3　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
4　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 焼土粒微量含む
5　5YR3/3 暗赤褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

SX87



SX87 (A-A')
1　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒微量含む
2　10YR3/4暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
3　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱と 5YR4/8赤褐色 焼土 粘性やや強 しまり弱の混在 焼土ブロック径5～10mm3%含む
4　5YR5/8明赤褐色焼土 粘性弱 しまり中

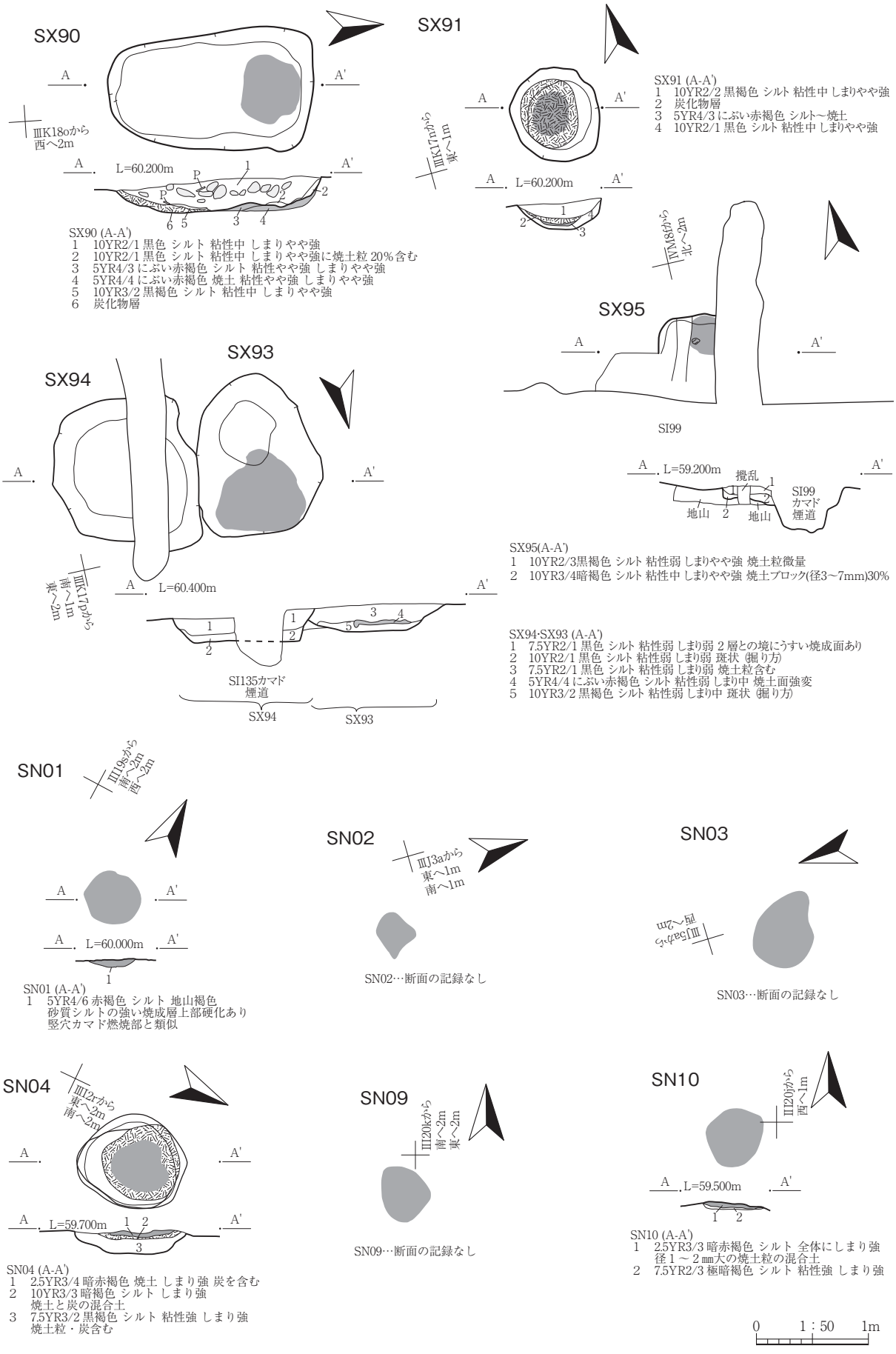
SX89



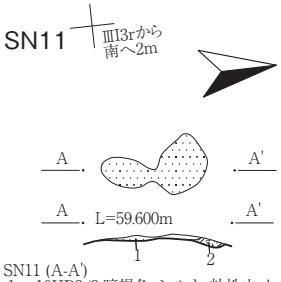
SX89 (A-A')
1　5YR5/6明赤褐色 焼土 粘性やや弱 しまりやや弱
2　10YR2/2黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強

0　1：50　1m

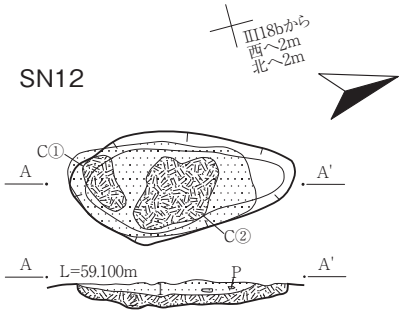
第 163 図　SX81～87・89 焼成遺構



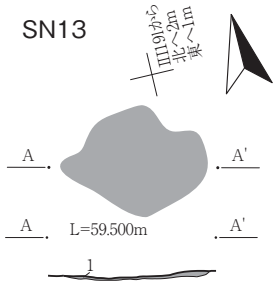
第 164 図　SX90・91・93～95 焼成遺構、SN01～04・09・10 焼土遺構

SN11


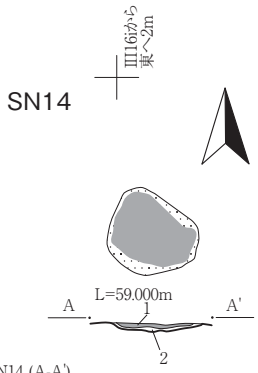
SN11 (A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
5YR5/8 明赤褐色ブロック径 5 ～ 10mm30%
炭ブロック径 3 ～ 5mm2%
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭ブロック径 3 ～ 5mm2%

SN12


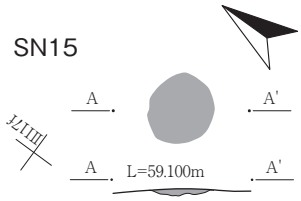
SN12 (A-A')
1　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱
しまり強 焼土ブロック多量に混じる 炭化物多量に含む
2　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
炭化物少量含む

SN13


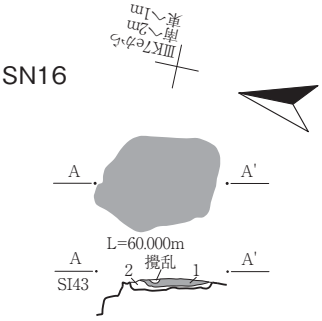
SN13 (A-A')
1　5YR4/6 赤褐色 焼土 現地性強変焼土

SN14


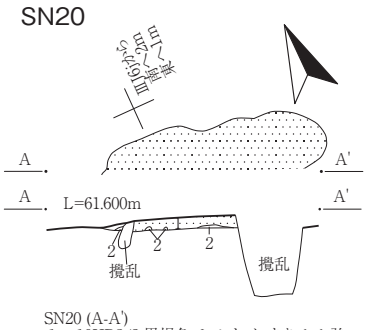
SN14 (A-A')
1　2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土 焼成は不良
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルトに 2.5YR3/6 暗赤褐色
シルト混じる（5：5）

SN15


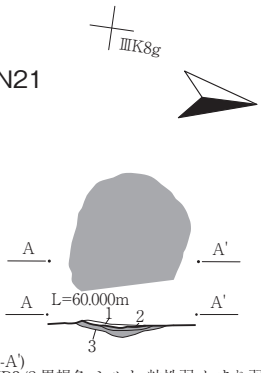
SN15 (A-A')
1　2.5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや弱
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱

SN16


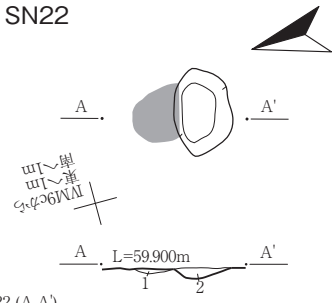
SN16 (A-A')
1　2.5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土 粘性弱 しまり中
径 1 ～ 2mm の粒状構造をなす
7.5YR2/2 黒褐色 シルト微量含む
2　10YR2/3 黒褐色 シルトと 10YR4/4 褐色
シルトが板状に重なる

SN20


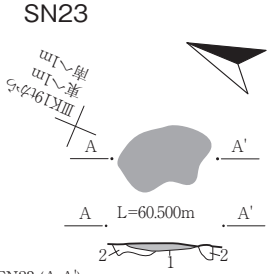
SN20 (A-A')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト しまりやや強
焼土粒混入
2　5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土ブロック

SN21


SN21 (A-A')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
5YR4/6 赤褐色 焼土粒 10%程度含む
2　5YR4/6 赤褐色 焼土 非常によく焼けており硬い
3　5YR2/4 極暗赤褐色 シルト 粘性強 しまり弱
地山層が焼成を受けたもの

SN22


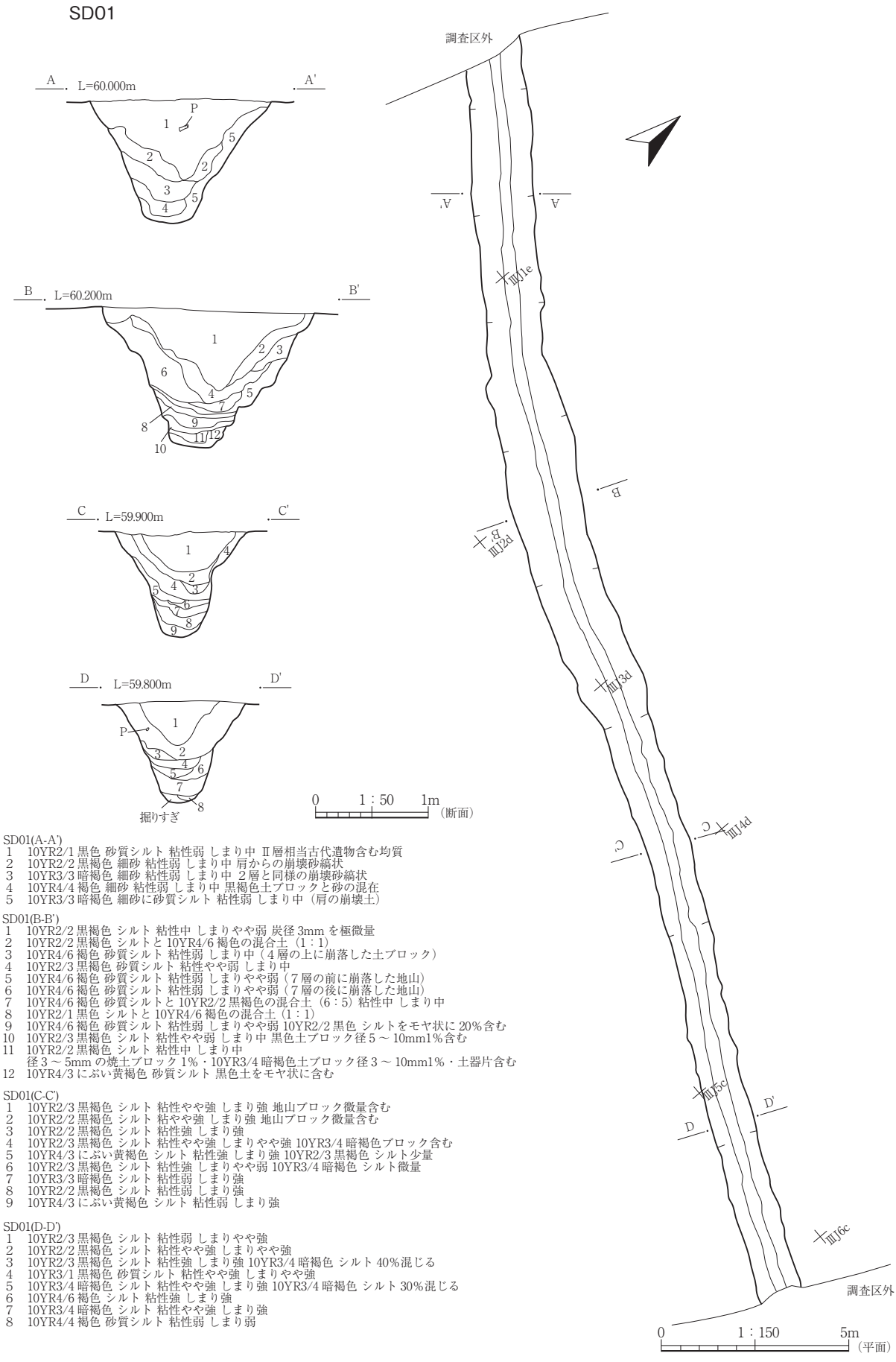
SN22 (A-A')
1　5YR4/4にぶい赤褐色 シルト 現地性焼土 焼成弱い
2　7.5YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土粒5%

SN23


SN23 (A-A')
1　5YR4/8赤褐色 焼土 粘性弱 しまり強 上面硬くしまる
2　10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック径1～2mm3%含む

0　1：50　1m

第 165 図　SN11～16・20～23 焼土遺構



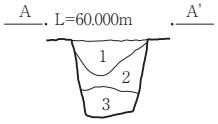
SD01(A-A')
1　10YR2/1 黒色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 Ⅱ層相当古代遺物含む均質
2　10YR2/2 黒褐色 細砂 粘性弱 しまり中 肩からの崩壊砂縞状
3　10YR3/3 暗褐色 細砂 粘性弱 しまり中 2層と同様の崩壊砂縞状
4　10YR4/4 褐色 細砂 粘性弱 しまり中 黒褐色土ブロックと砂の混在
5　10YR3/3 暗褐色 細砂に砂質シルト 粘性弱 しまり中（肩の崩壊土）

SD01(B-B')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 炭径 3mm を極微量
2　10YR2/2 黒褐色 シルトと 10YR4/6 褐色の混合土（1：1）
3　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中（4層の上に崩落した土ブロック）
4　10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中
5　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや弱（7層の前に崩落した地山）
6　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや弱（7層の後に崩落した地山）
7　10YR4/6 褐色 砂質シルトと 10YR2/2 黒褐色の混合土（6：5）粘性中 しまり中
8　10YR2/1 黒色 シルトと 10YR4/6 褐色の混合土（1：1）
9　10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまりやや弱 10YR2/2 黒色 シルトをモヤ状に 20%含む
10　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 黒色土ブロック径 5 ～ 10mm1%含む
11　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　径 3 ～ 5mm の焼土ブロック 1%・10YR3/4 暗褐色土ブロック径 3 ～ 10mm1%・土器片含む
12　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 黒色土をモヤ状に含む

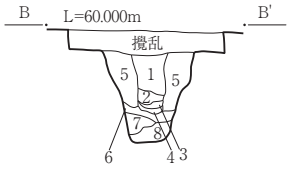
SD01(C-C')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 地山ブロック微量含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘やや強 しまり強 地山ブロック微量含む
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
4　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強 10YR3/4 暗褐色ブロック含む
5　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強 10YR2/3 黒褐色 シルト少量
6　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱 10YR3/4 暗褐色 シルト微量
7　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
8　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
9　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強

SD01(D-D')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強 10YR3/4 暗褐色 シルト 40%混じる
4　10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 粘性やや強 しまりやや強
5　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強 10YR3/4 暗褐色 シルト 30%混じる
6　10YR4/6 褐色 シルト 粘性強 しまり強
7　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり強
8　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱

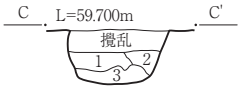
第 166 図　SD01 溝跡



SD02(A-A')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 炭化物含む古代遺物あり
2　10YR4/4 褐色 砂 粘性な・しまり共弱 崩落ブロックか
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色 砂ブロック含む

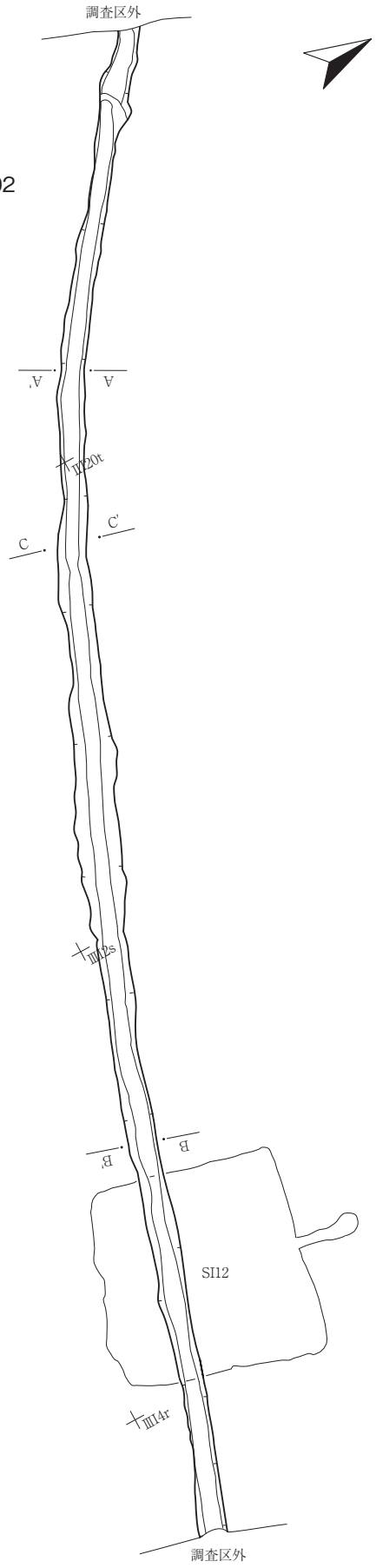


SD02(B-B')
1　10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱 褐色 砂ブロック 10%
2　10YR4/2 灰黄褐色 細砂 粘性なし しまり弱 均質
3　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 均質
4　10YR4/4 褐色 細砂 粒なし しまり弱
5　10YR4/4 褐色 細砂 粘性なし しまり弱 均質 地山 砂層よりやや粗粒
6　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
7　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
8　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 底面にうすく黒褐色 シルト層堆積



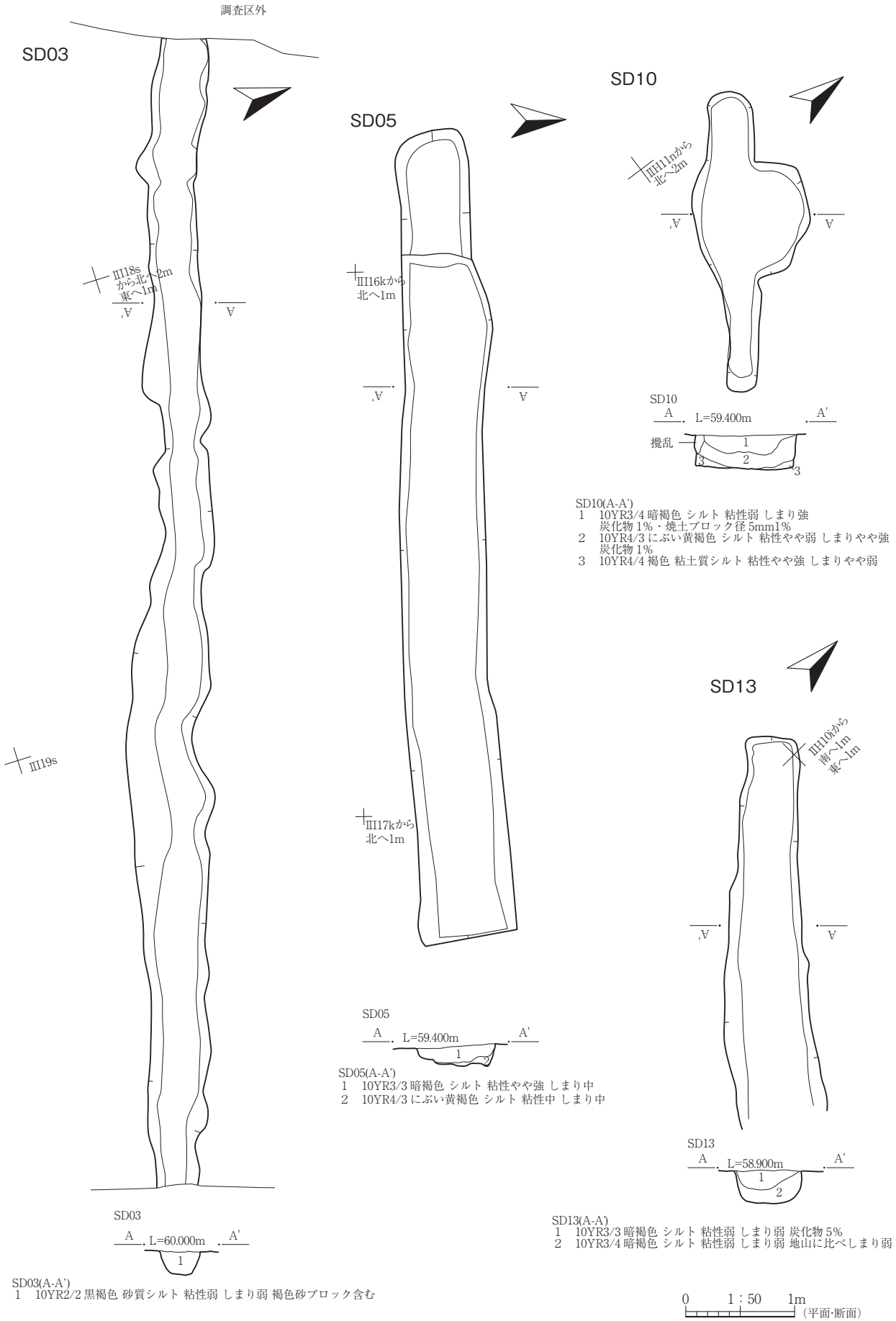
SD02(C-C')
1　10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 10YR5/4 にぶい黄褐色
　シルト多量全体に混入 焼土径 1 ～ 2mm 極少量混入
2　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり強 1 層土少量混入
3　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強 地山ブロック少量混入

0　1：50　1m（断面）

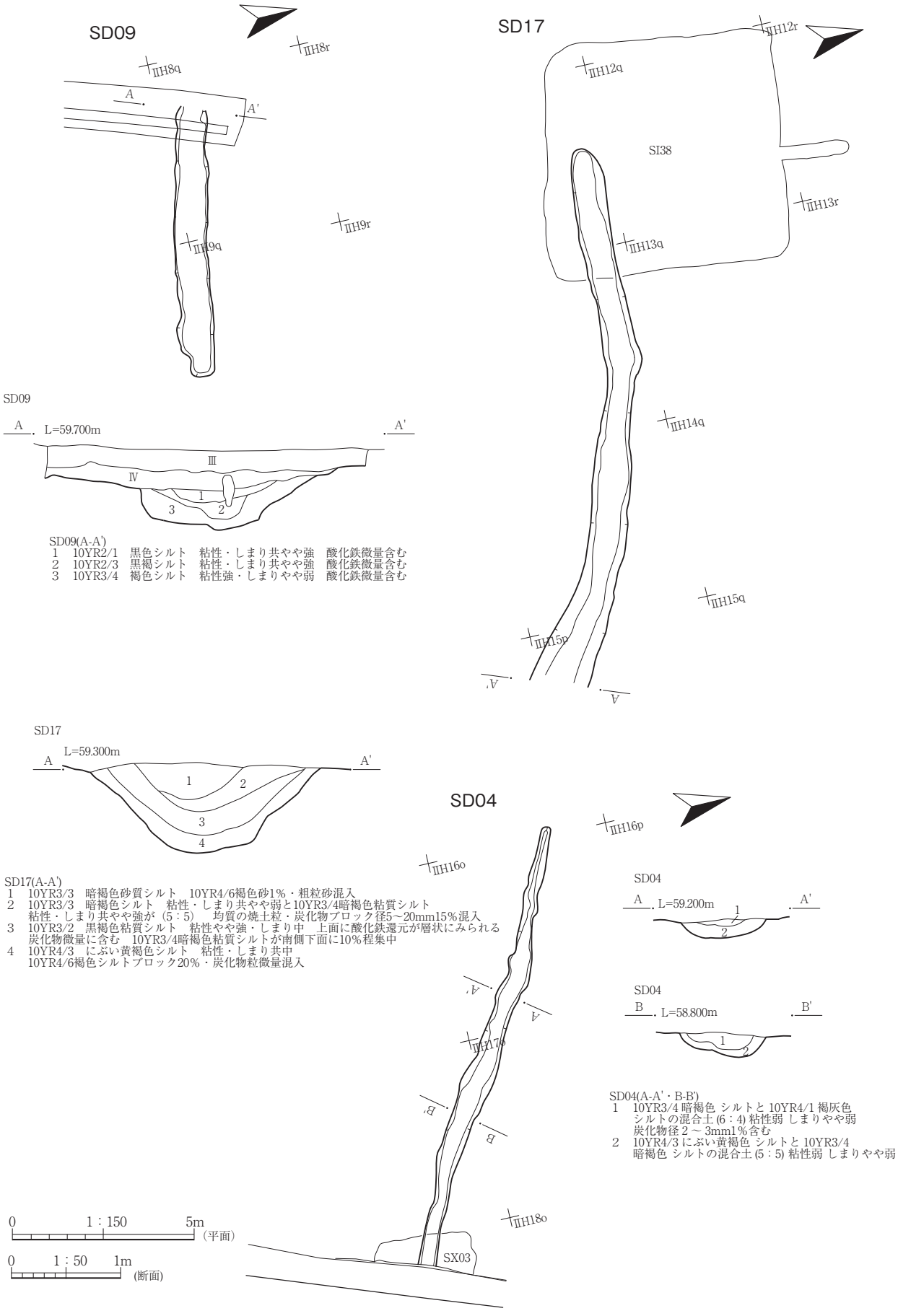


0　1：150　5m（平面）

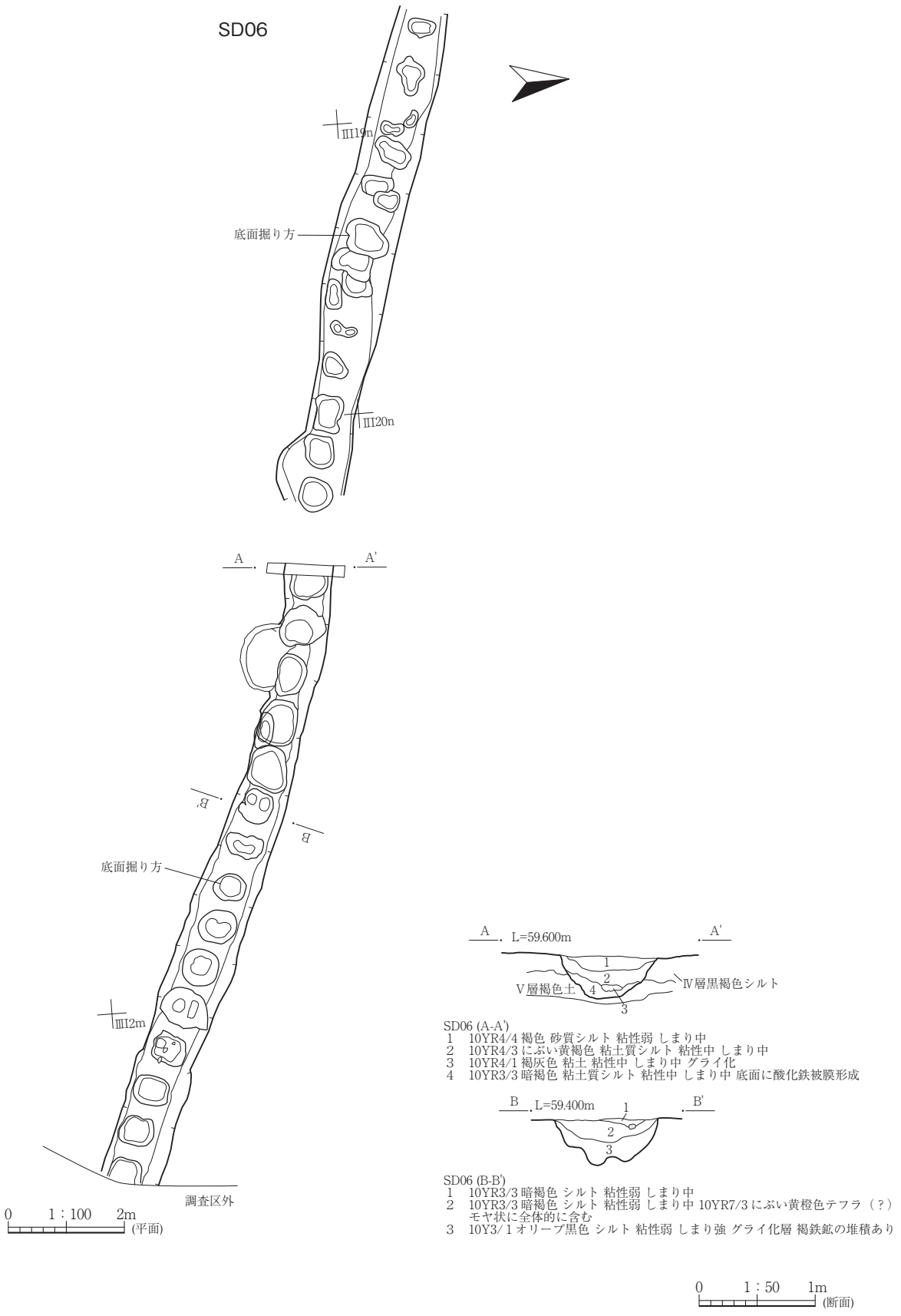
第 167 図　SD02 溝跡



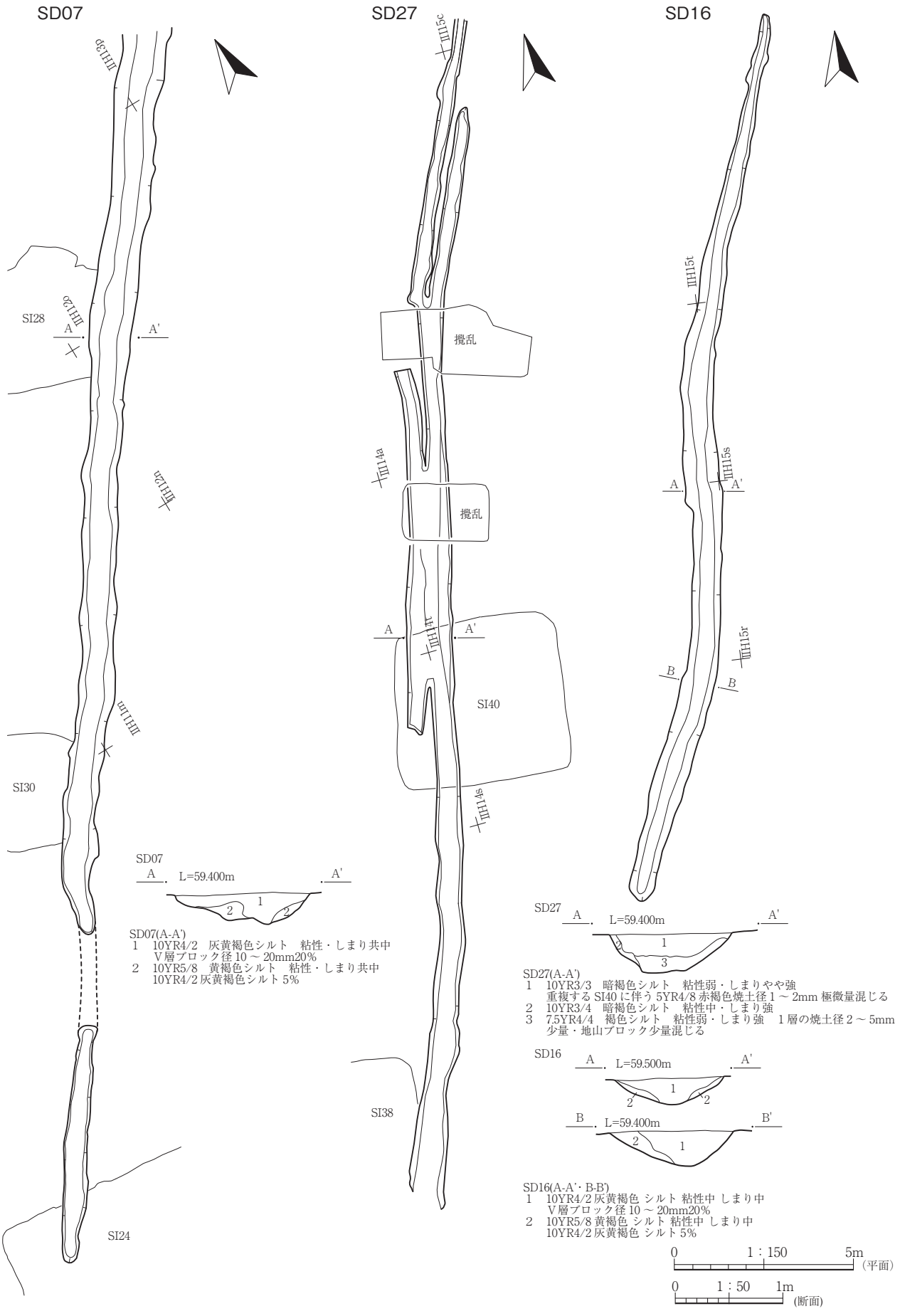
第 168 図　SD03・05・10・13 溝跡



第 169 図　SD04・09・17 溝跡

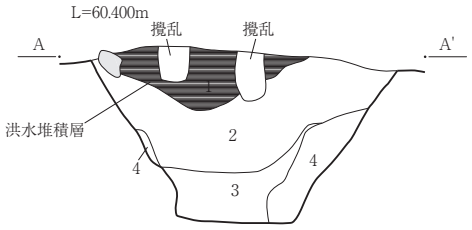


第 170 図　SD06 溝跡

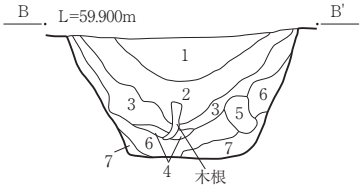


第 171 図　SD07・16・27 溝跡

SD18

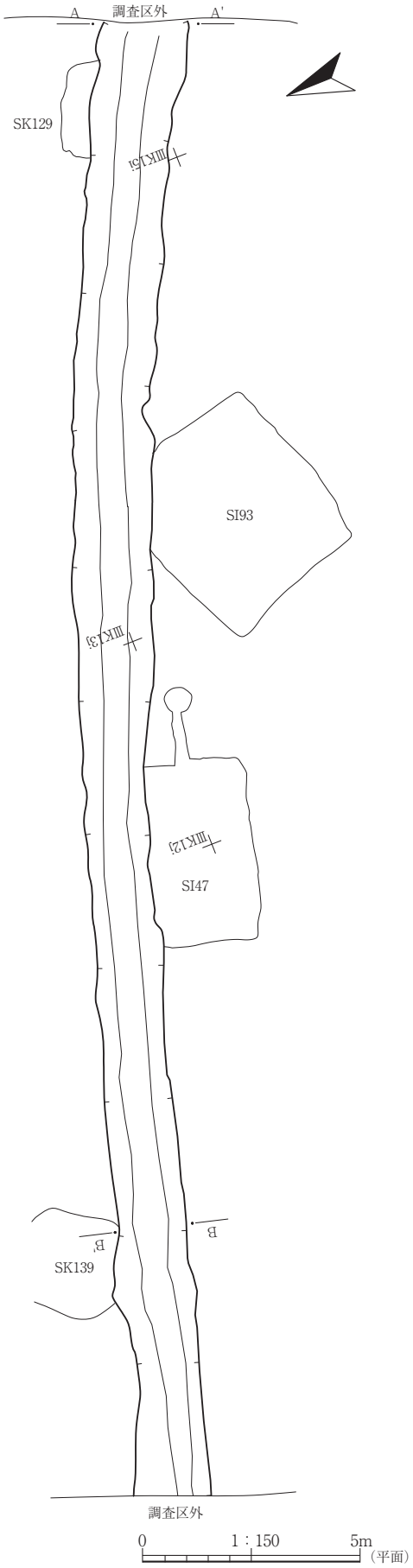


SD18(A-A')
1　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
　　10YR7/4 にぶい黄褐色細砂が全体に混じる（洪水堆積層）
2　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中 にぶい黄褐色 シルト 7%含む
4　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強



SD18(B-B')
1　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 均質 下部に褐色 粘土ブロック散見
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色 粘土ブロック 2～3%
3　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 30%
4　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
5　7.5YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 崩落ブロック
6　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 5～10%（壁際に集中）
7　10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 崩落ブロック主体

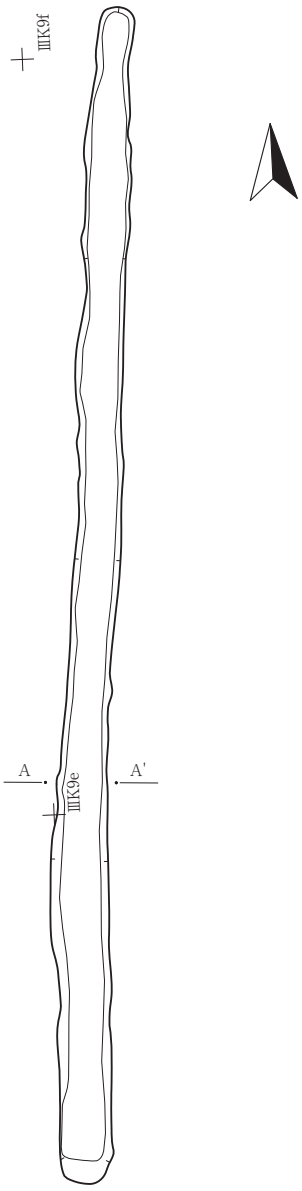
0　1：50　1m
(断面)



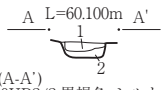
0　1：150　5m
（平面）

第 172 図　SD18 溝跡

SD20

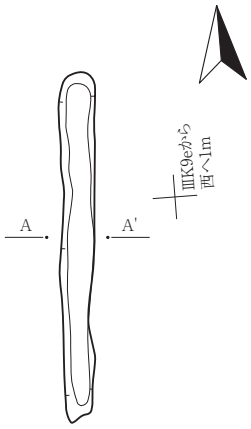


SD20

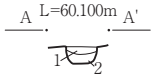


SD20(A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　2層の 10YR3/3 暗褐色 シルト 50%混じる
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

SD21



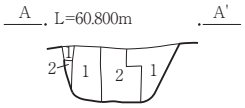
SD21



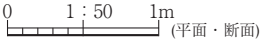
SD21(A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
　2層の 10YR3/3 暗褐色 シルト 50%混じる
2　10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中

SD24

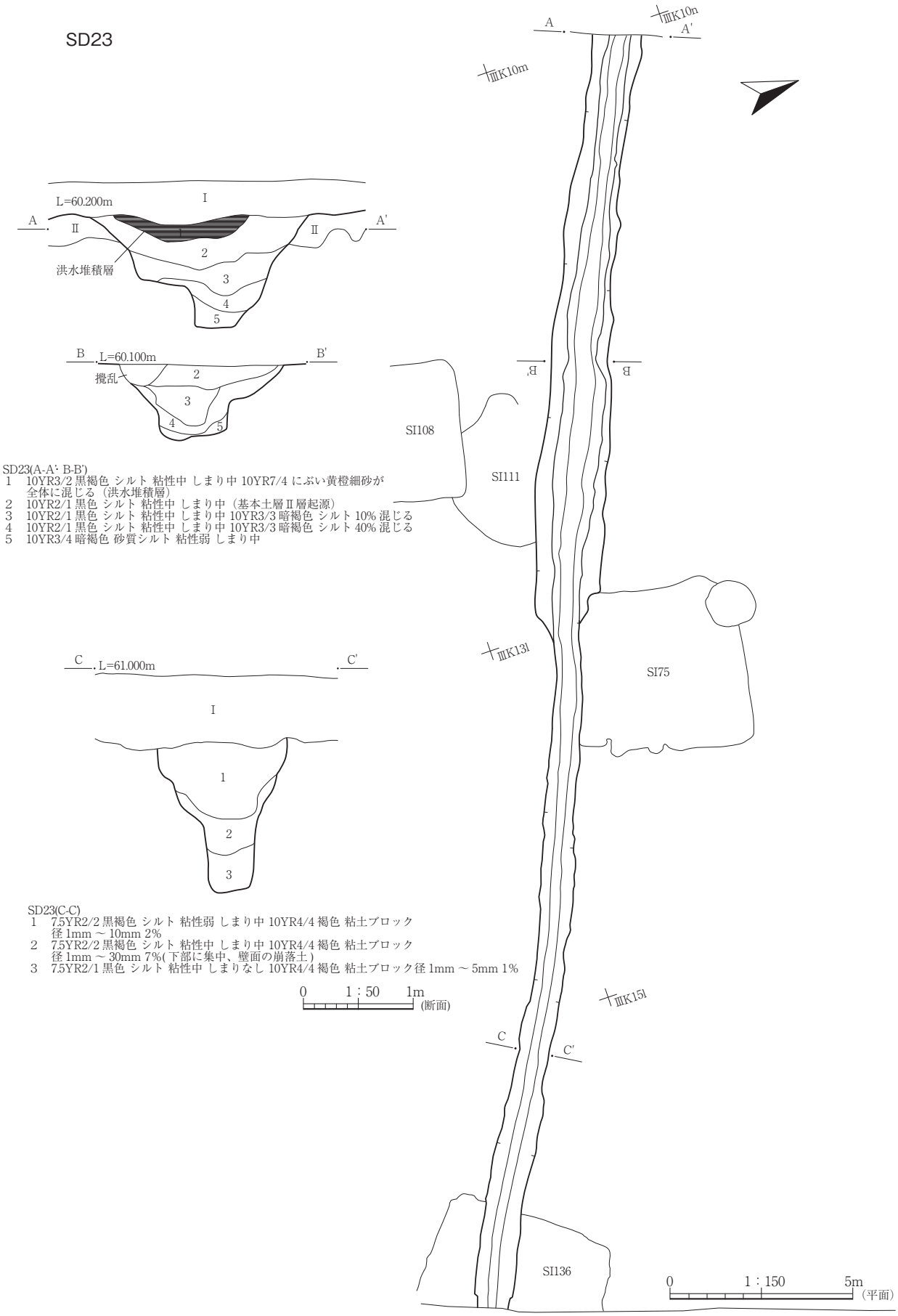
SD24



SD24(A-A')
1　撹乱
2　10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱



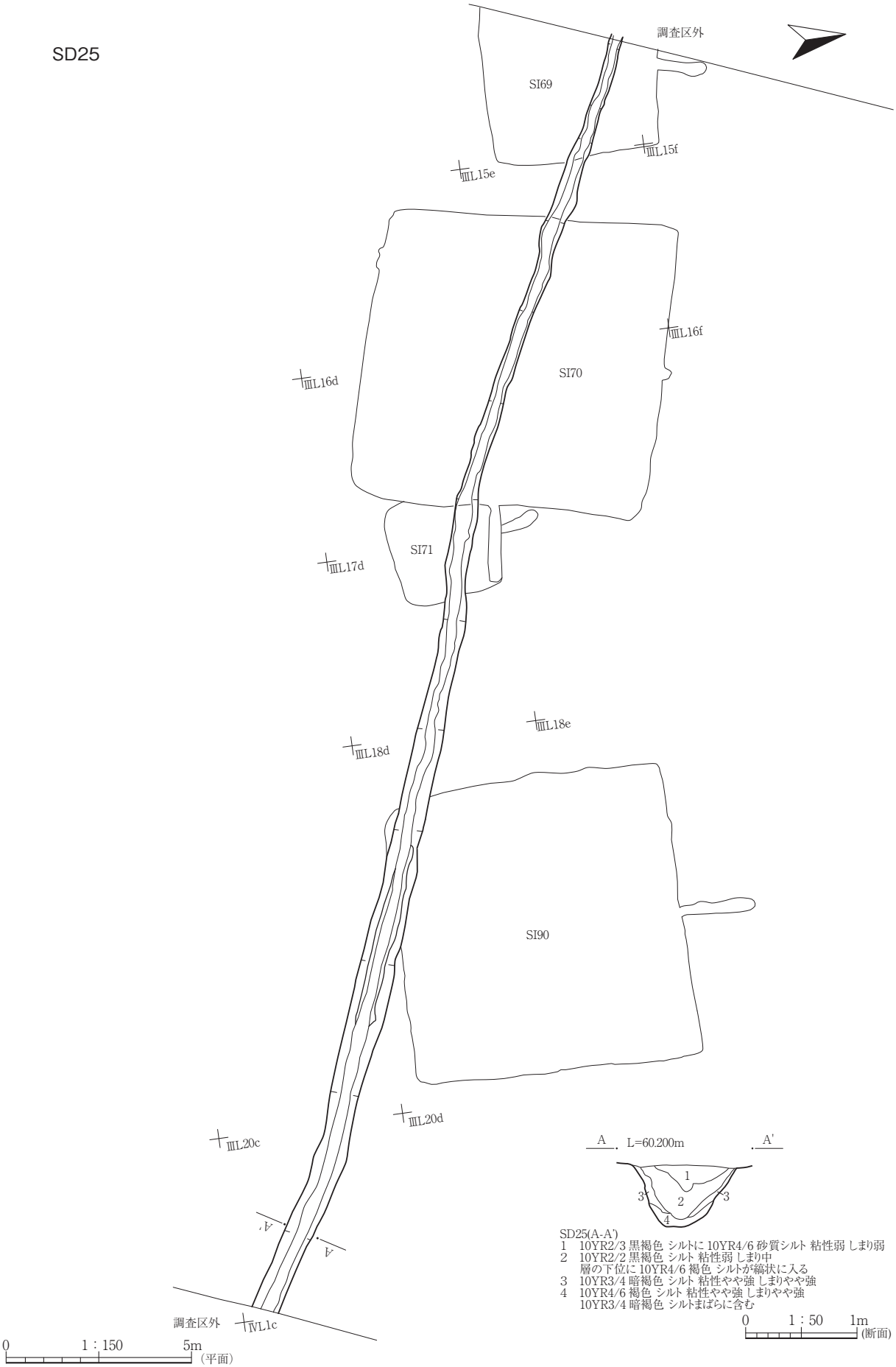
第 173 図　SD20・21・24 溝跡



SD23(A-A': B-B')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 10YR7/4 にぶい黄橙細砂が全体に混じる（洪水堆積層）
2　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中（基本土層Ⅱ層起源）
3　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中 10YR3/3 暗褐色 シルト 10% 混じる
4　10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中 10YR3/3 暗褐色 シルト 40% 混じる
5　10YR3/4 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中

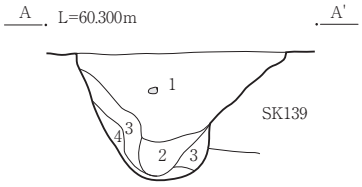
SD23(C-C)
1　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR4/4 褐色 粘土ブロック径 1mm ～ 10mm 2%
2　7.5YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 10YR4/4 褐色 粘土ブロック径 1mm ～ 30mm 7%(下部に集中、壁面の崩落土)
3　7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりなし 10YR4/4 褐色 粘土ブロック径 1mm ～ 5mm 1%

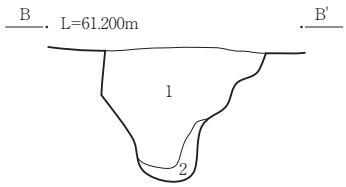
第 174 図　SD23 溝跡



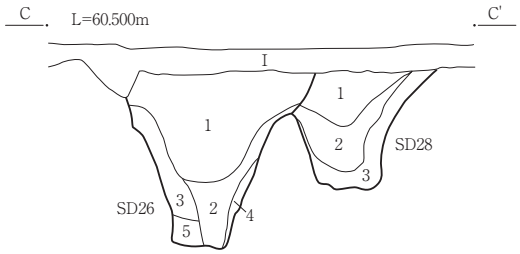
第 175 図　SD25 溝跡

SD26・SD28

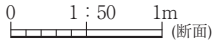


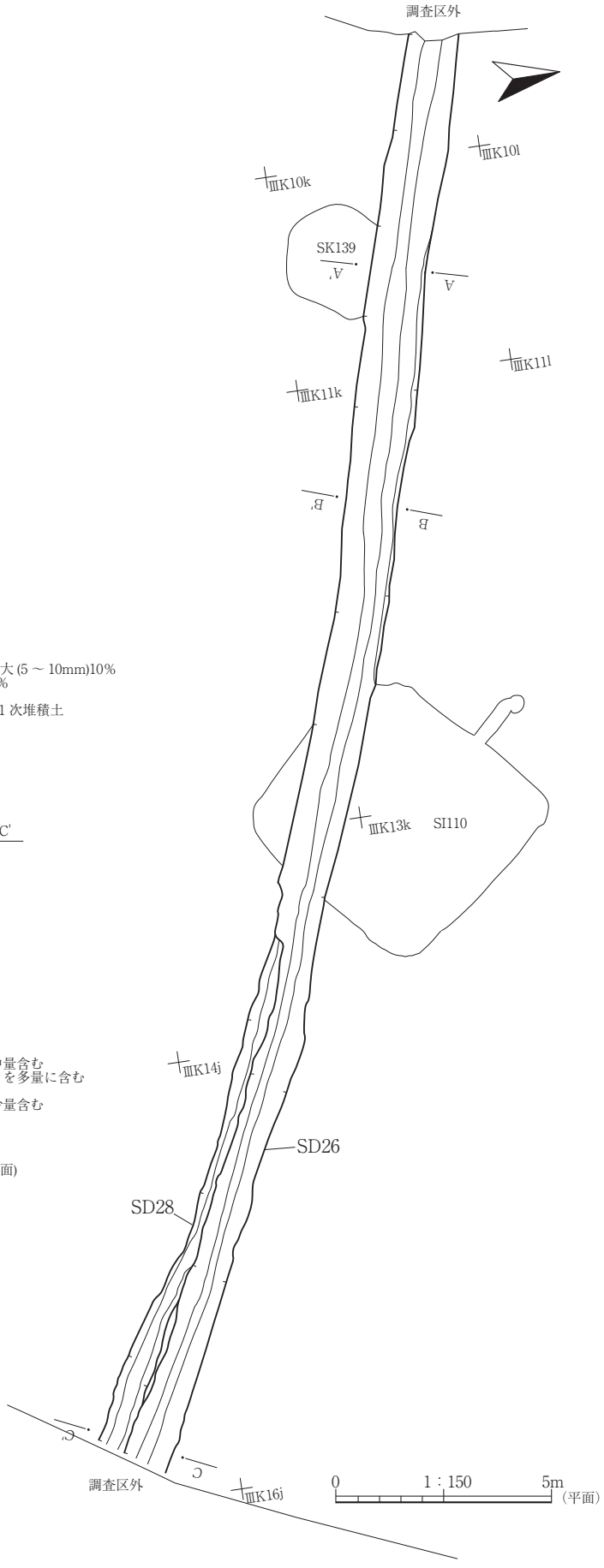


SD26(A-A'・B-B'・C-C')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR4/4 褐色土ブロック
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR4/6 褐色土ブロック大 (5 ～ 10mm)10%
3　10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり中 10YR2/3 黒褐色 シルト 20%
4　10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
5　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック 3 ～ 5% 1 次堆積土



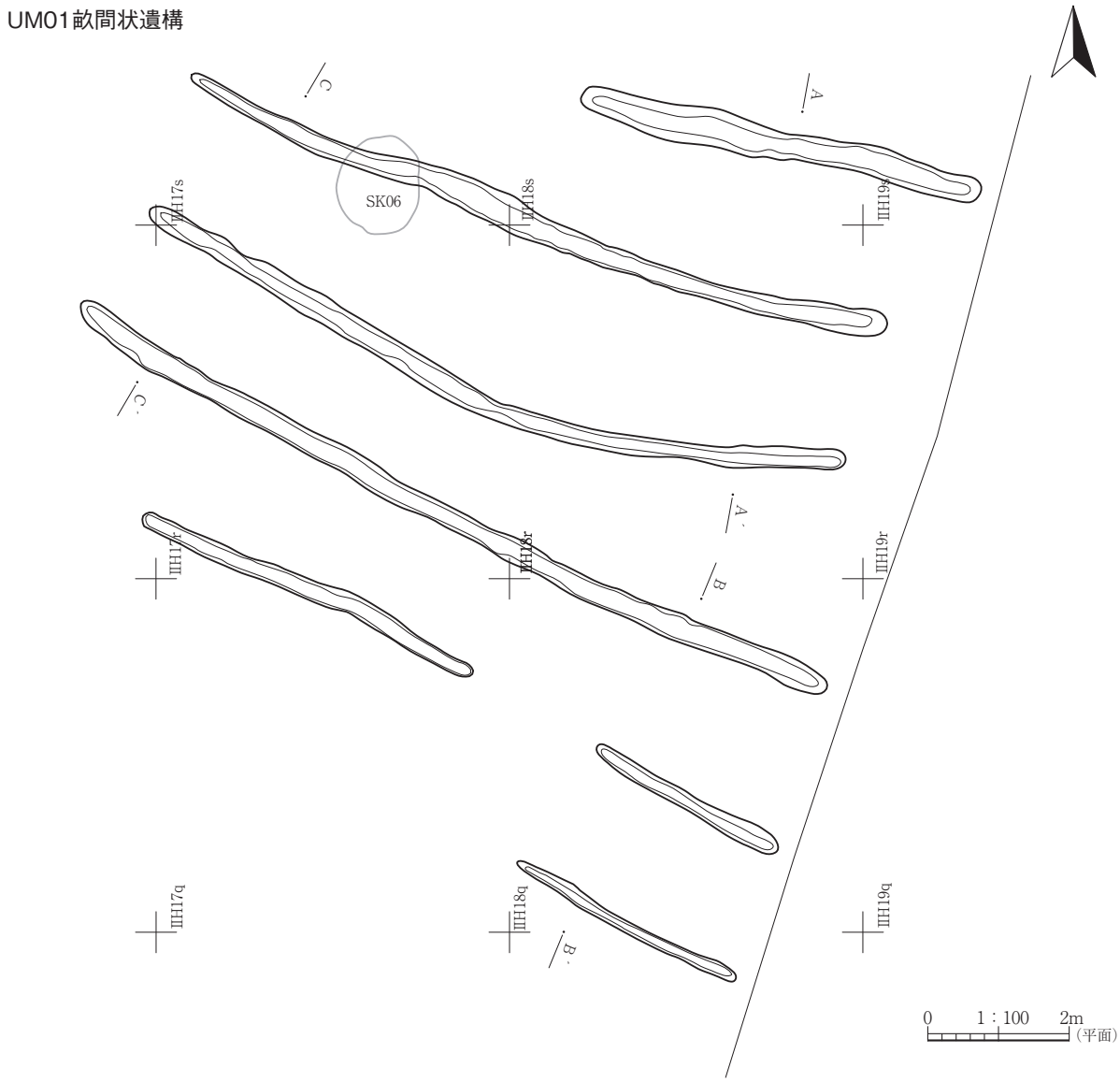
SD28(C-C')
1　10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロックを中量含む
2　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱 地山ブロックを多量に含む
　炭化物粒が少量含む
3　10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱 地山ブロックを少量含む

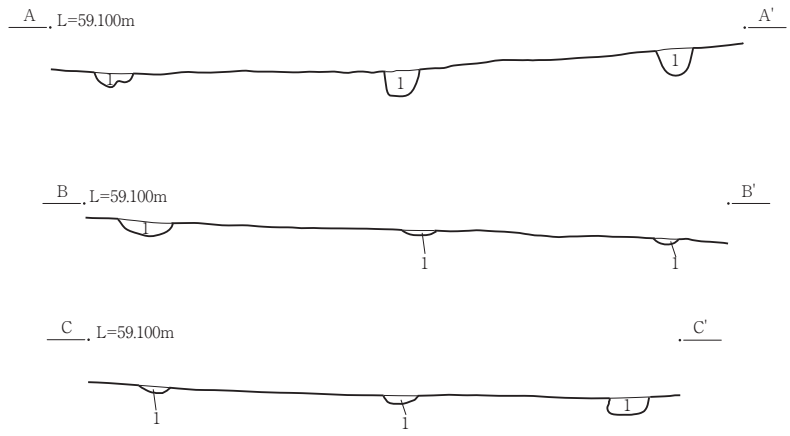




第 176 図　SD26・28 溝跡

UM01畝間状遺構

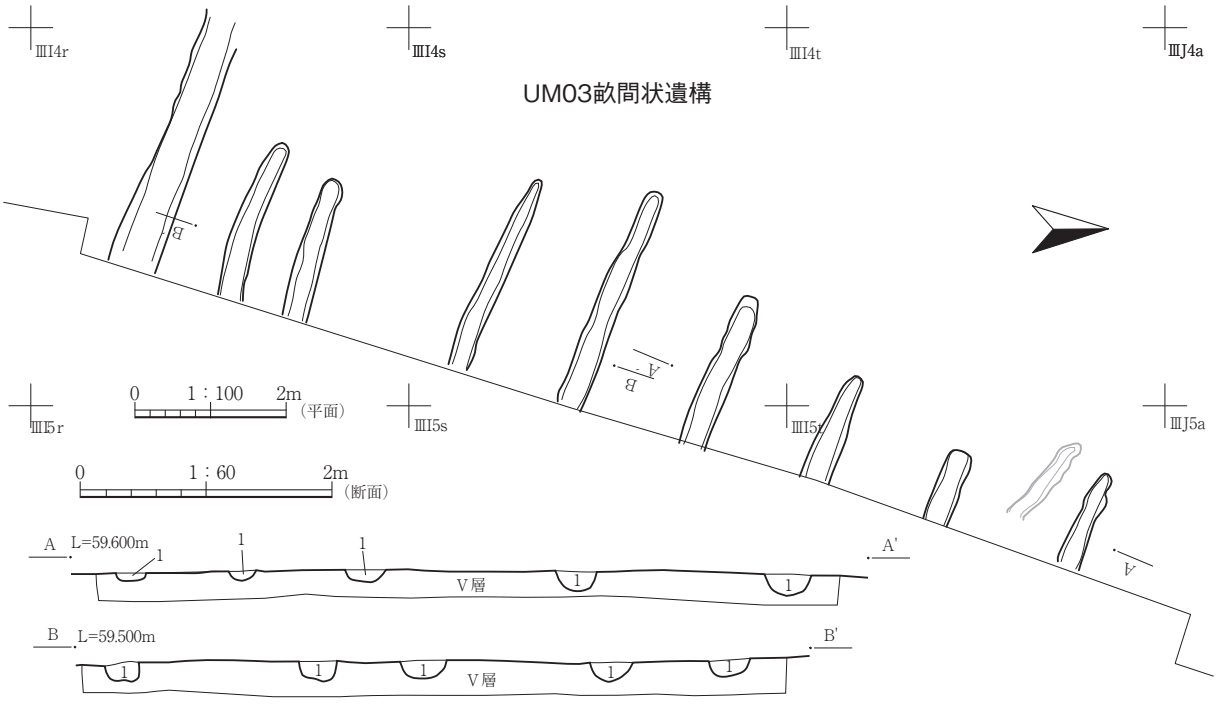




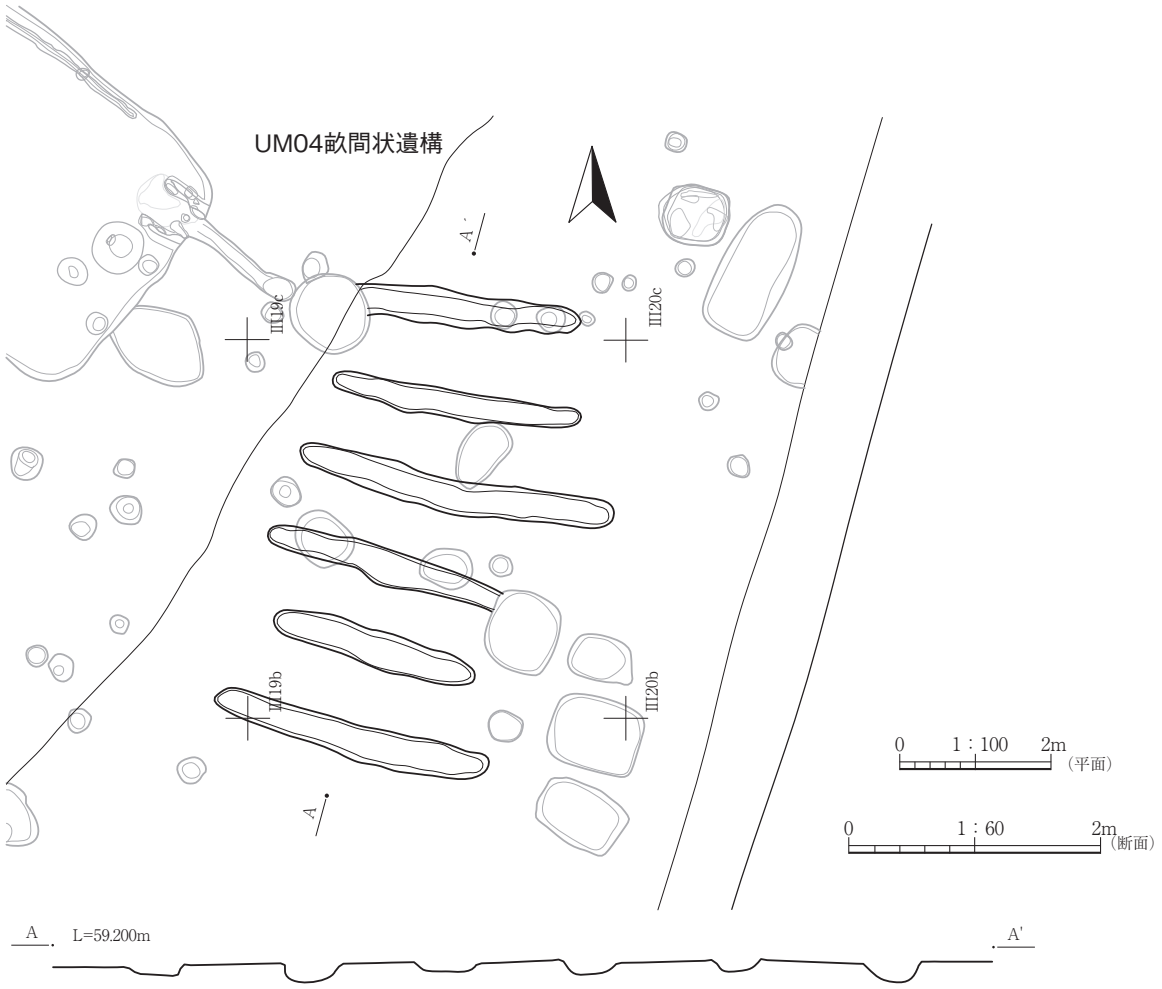
UM01（共通）
1　10YR3/2 黒褐色シルトとV層(10YR5/6黄褐色シルト)の混合土 粘性やや弱･しまり中
　炭化物径5mm程度1%混入　To-a小ブロックに局所的に入る

0　1：60　2m
（断面）

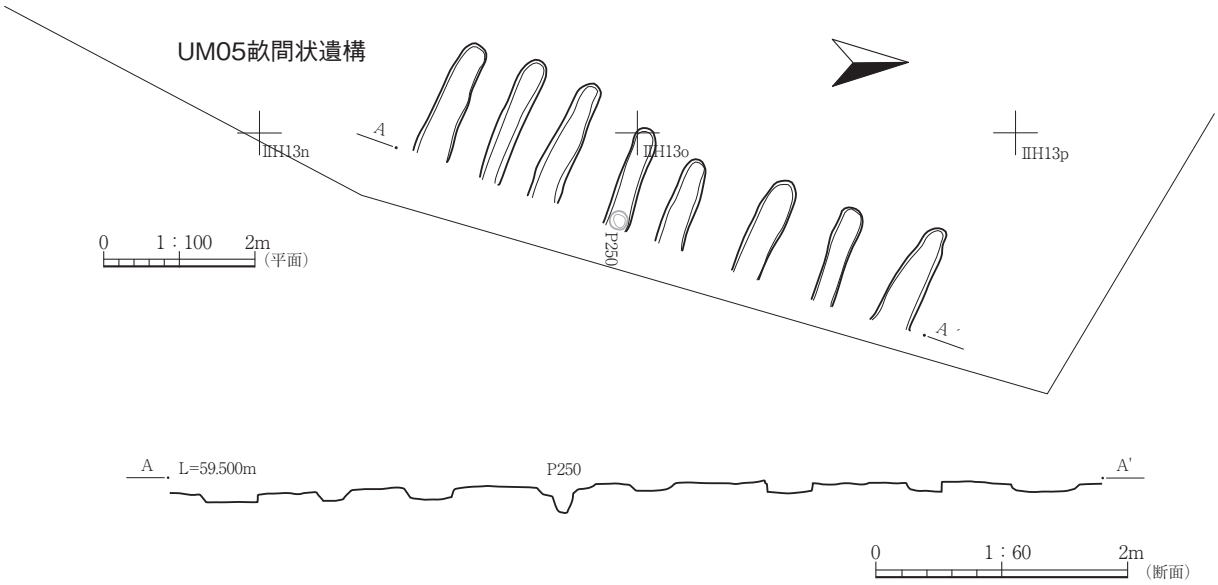
第 177 図　UM01 畝間状遺構

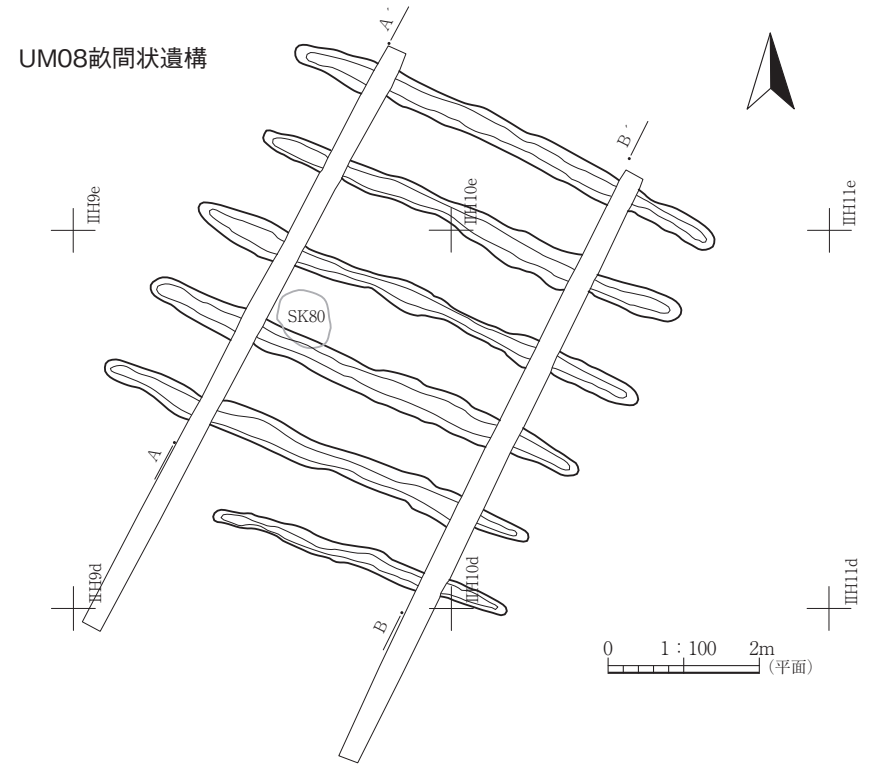


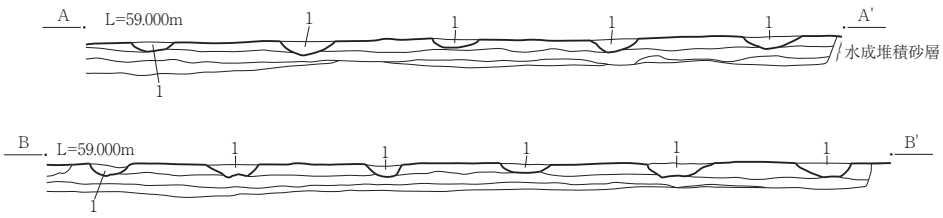
UM03 (A-A'･B-B')
1　10YR3/3 暗褐色シルトと10YR2/2黒褐色シルト(Ⅳ層相当)の混合土 粘性･しまり共中 炭化物ブロック径2～3mm1%含む



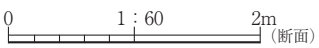
第 178 図　UM03・04 畝間状遺構





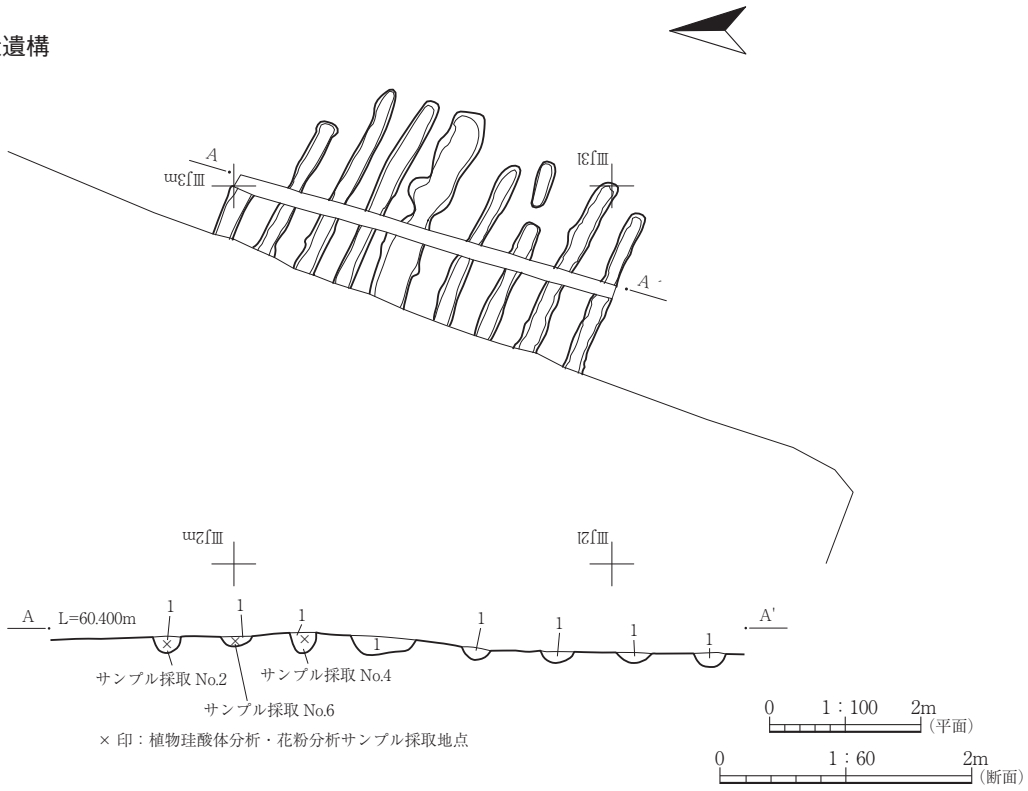


UM08（共通）
1　10YR5/3　にぶい黄褐色シルト（Ⅲ層）と 10YR7/6明黄褐色シルトブロックの水成堆積層 粘性弱・しまり中



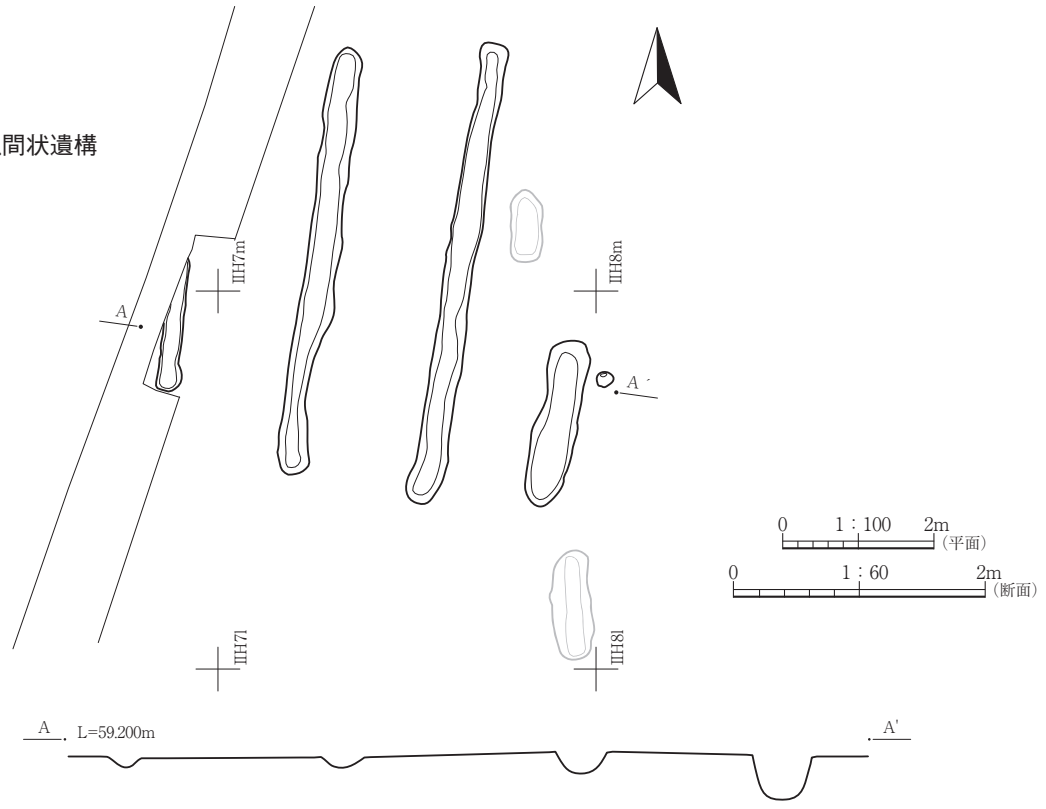
第 179 図　UM05・08 畝間状遺構

UM09畝間状遺構

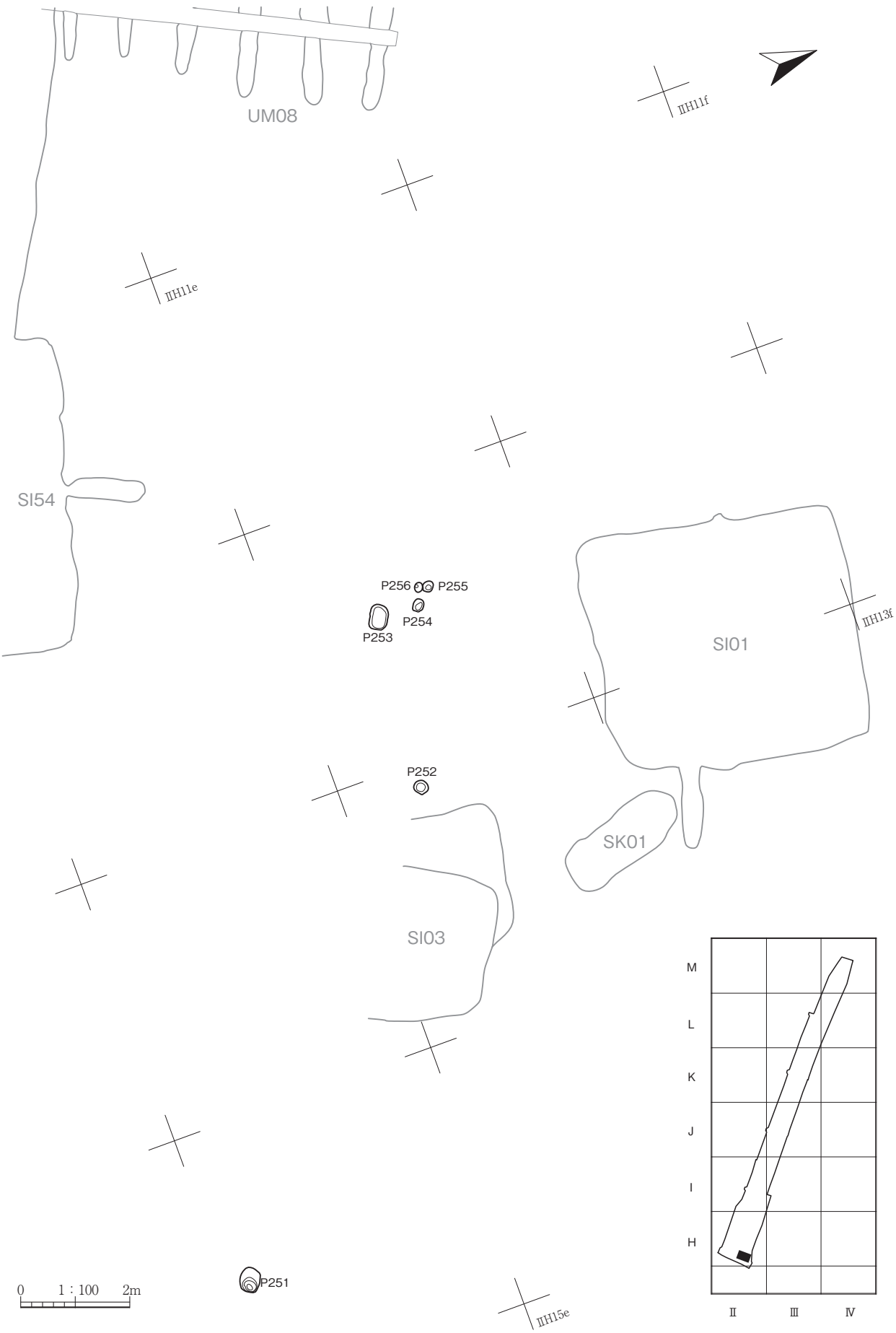


UM09(A-A')
1　10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 褐色土ブロック下部に集中

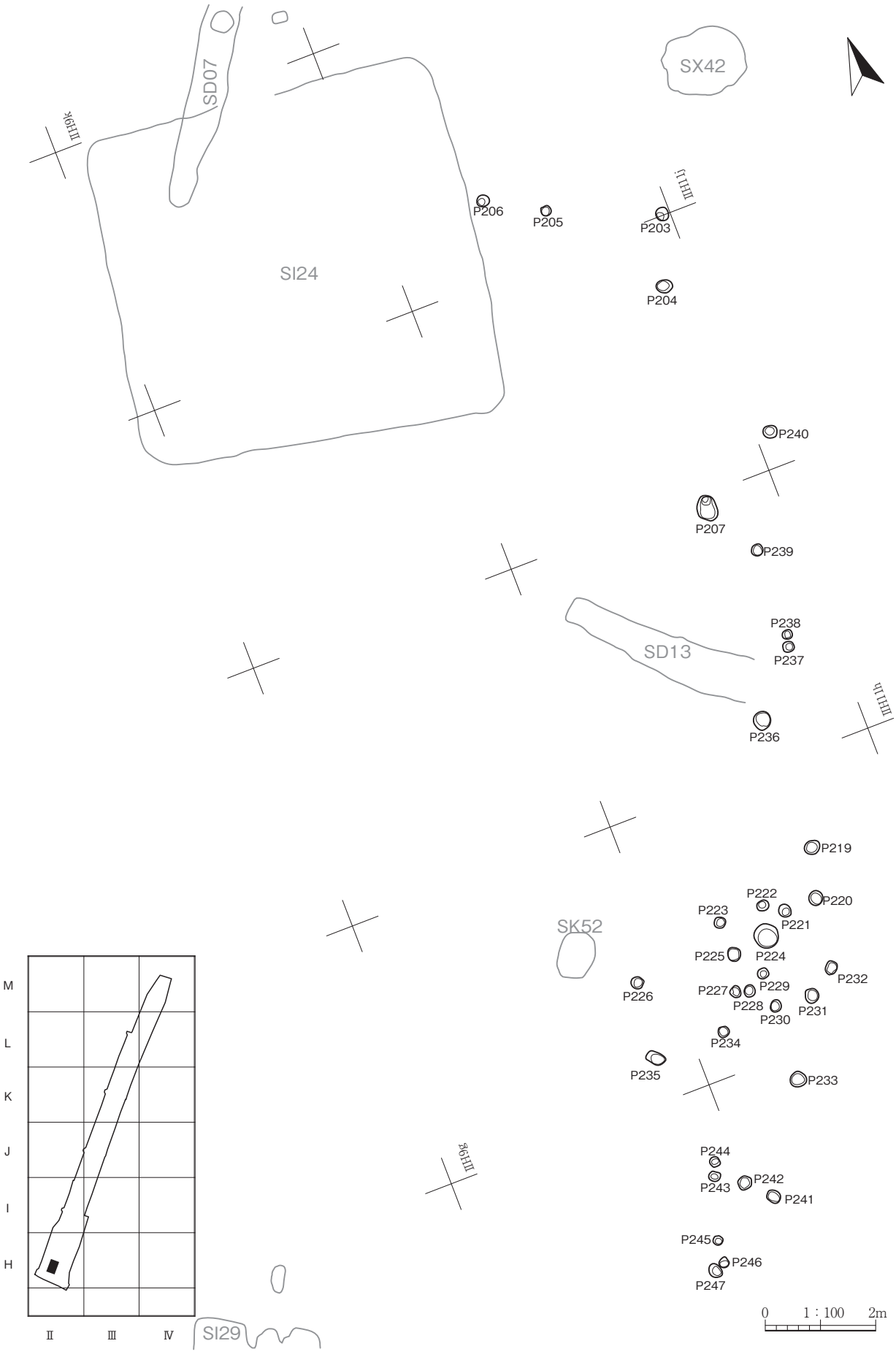
UM10畝間状遺構



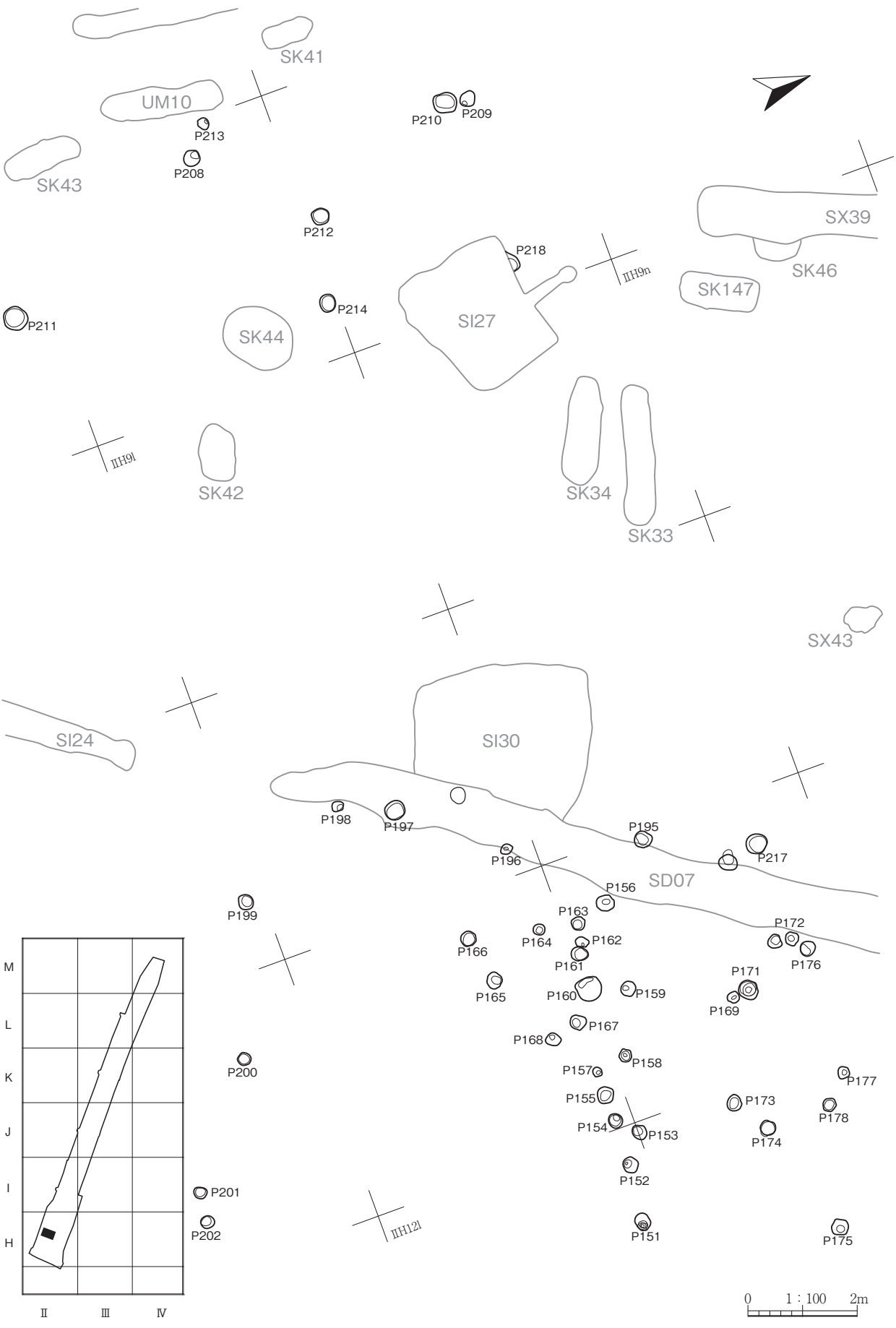
第 180 図　UM09・10 畝間状遺構



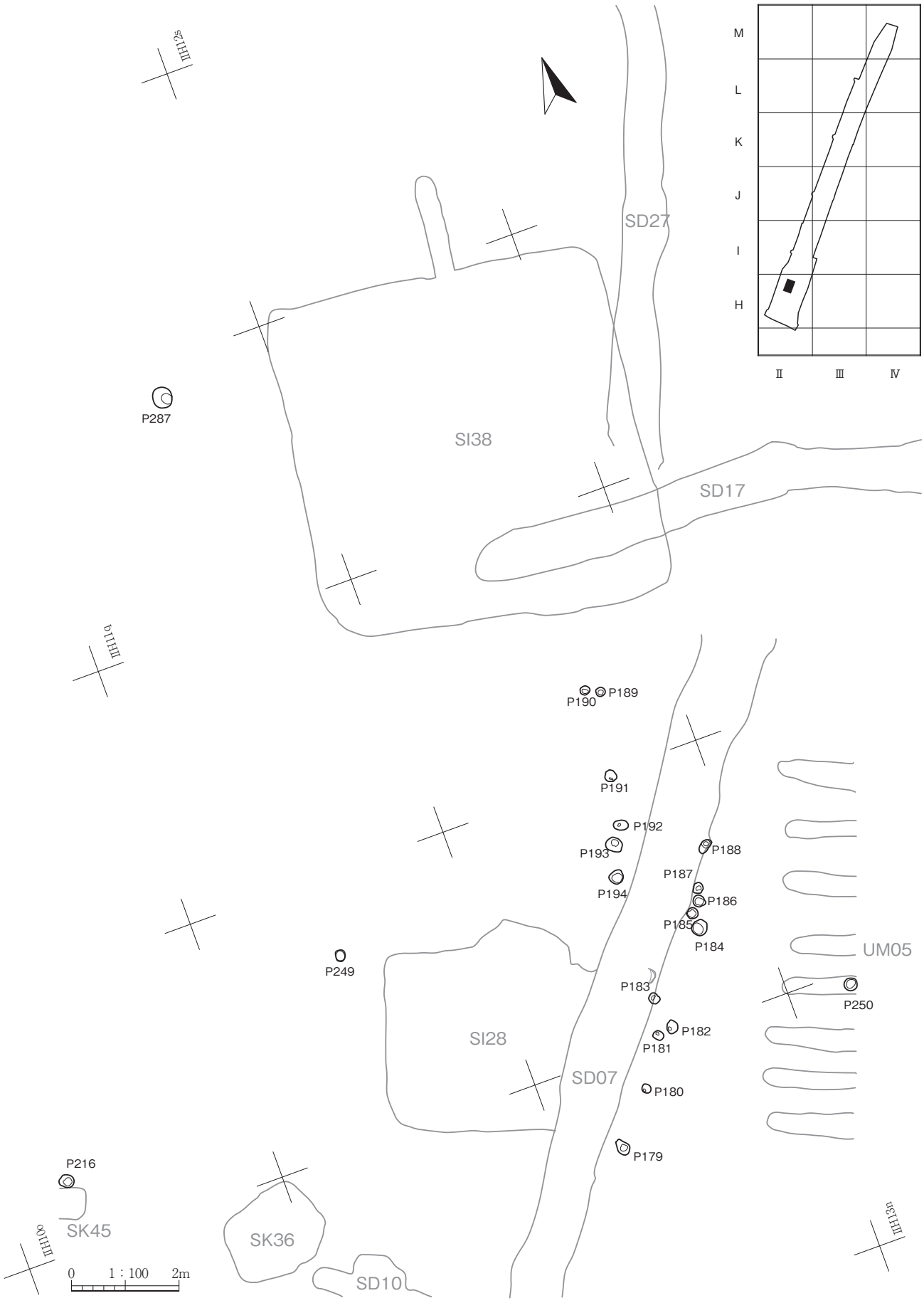
第 181 図　柱穴状土坑分布図（1）



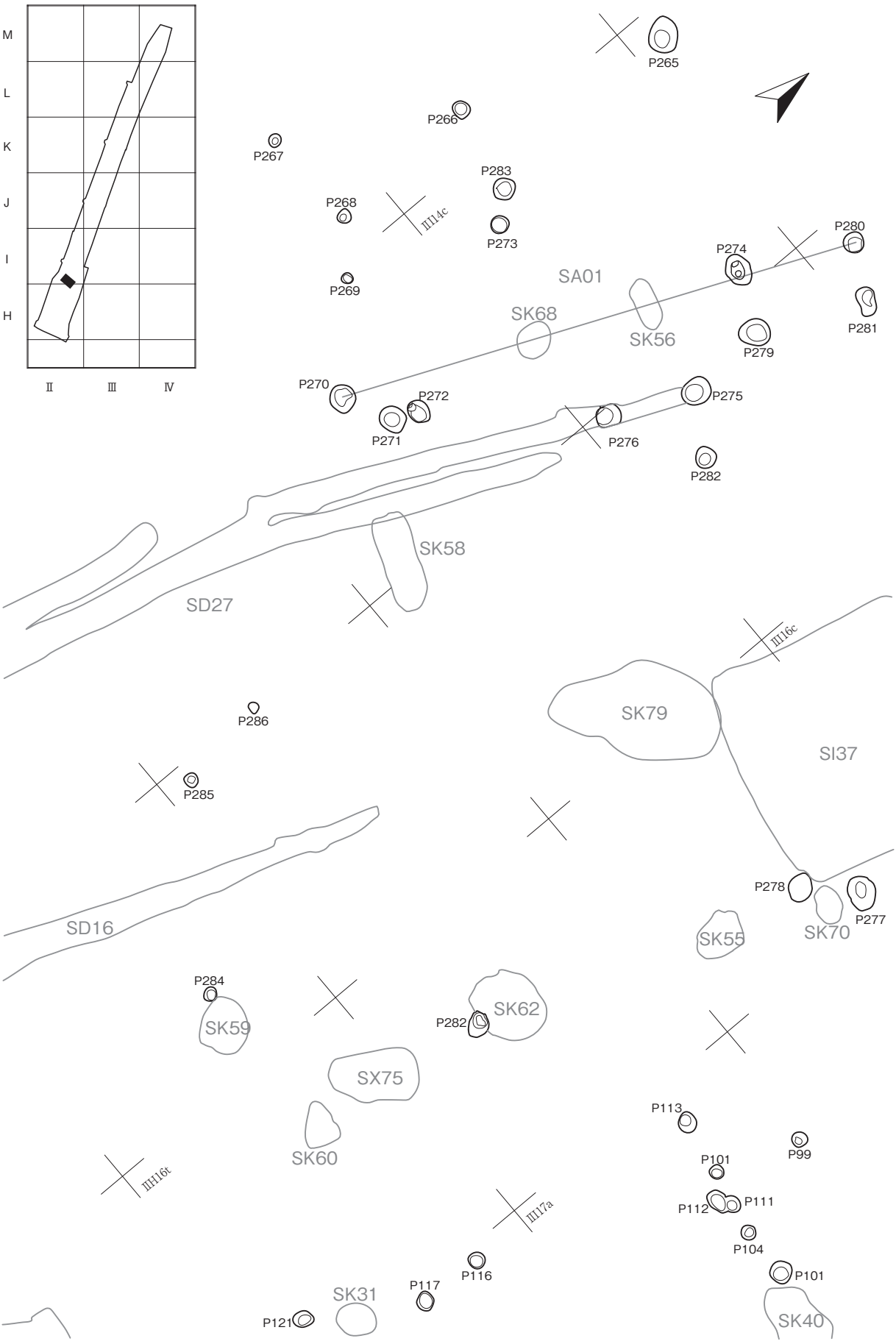
第 182 図　柱穴状土坑分布図（2）



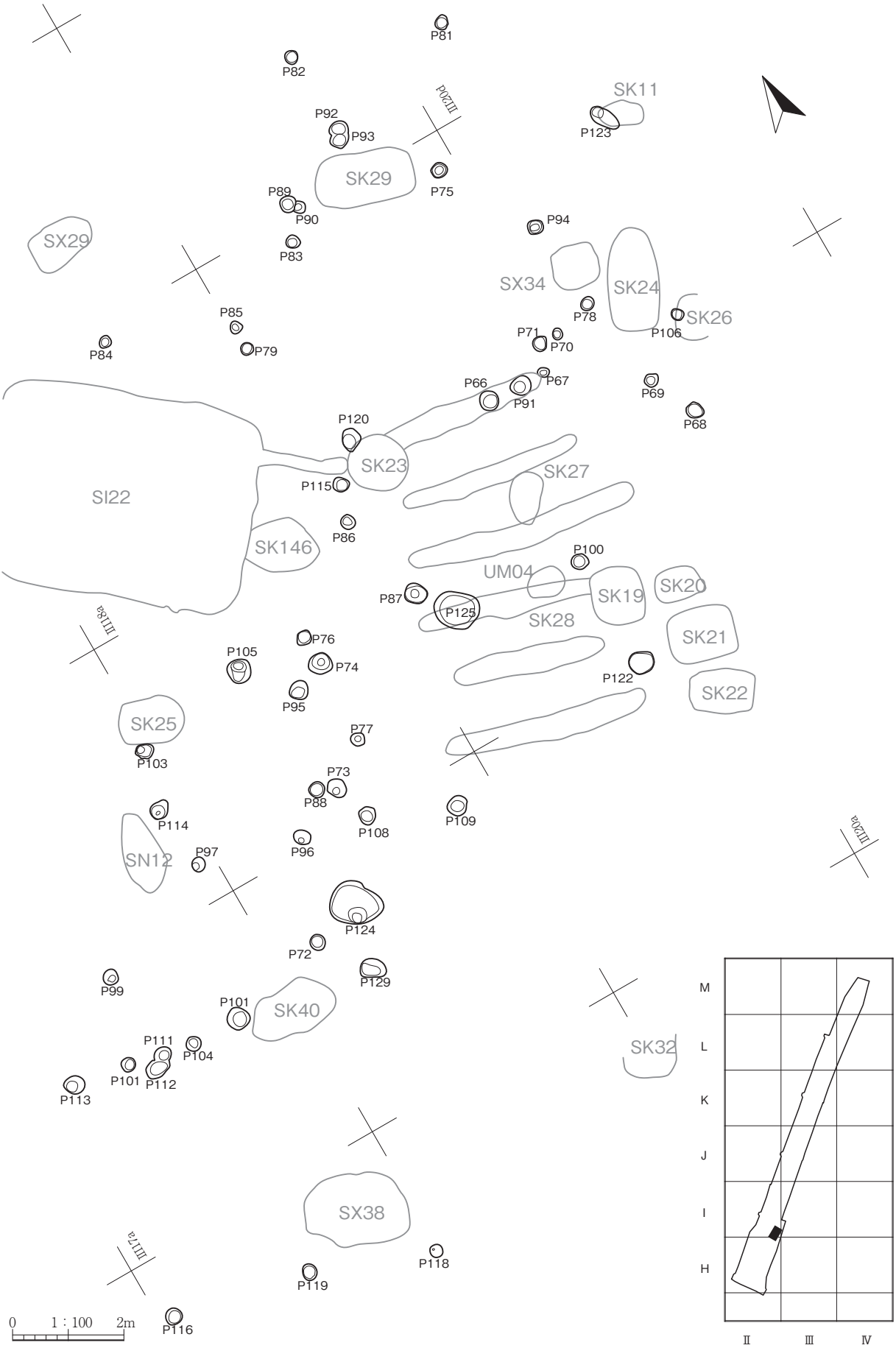
第 183 図　柱穴状土坑分布図（3）



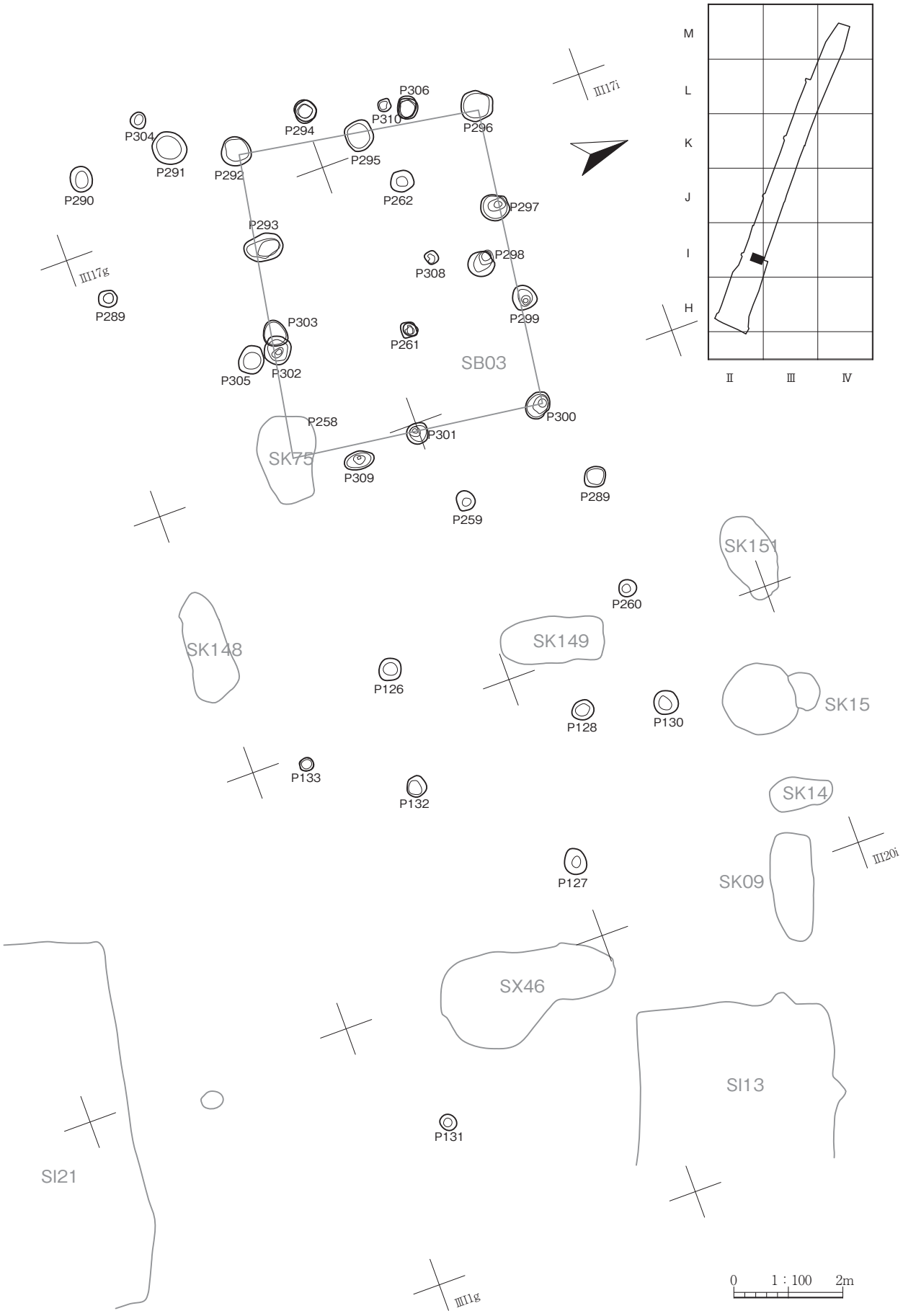
第 184 図　柱穴状土坑分布図（4）



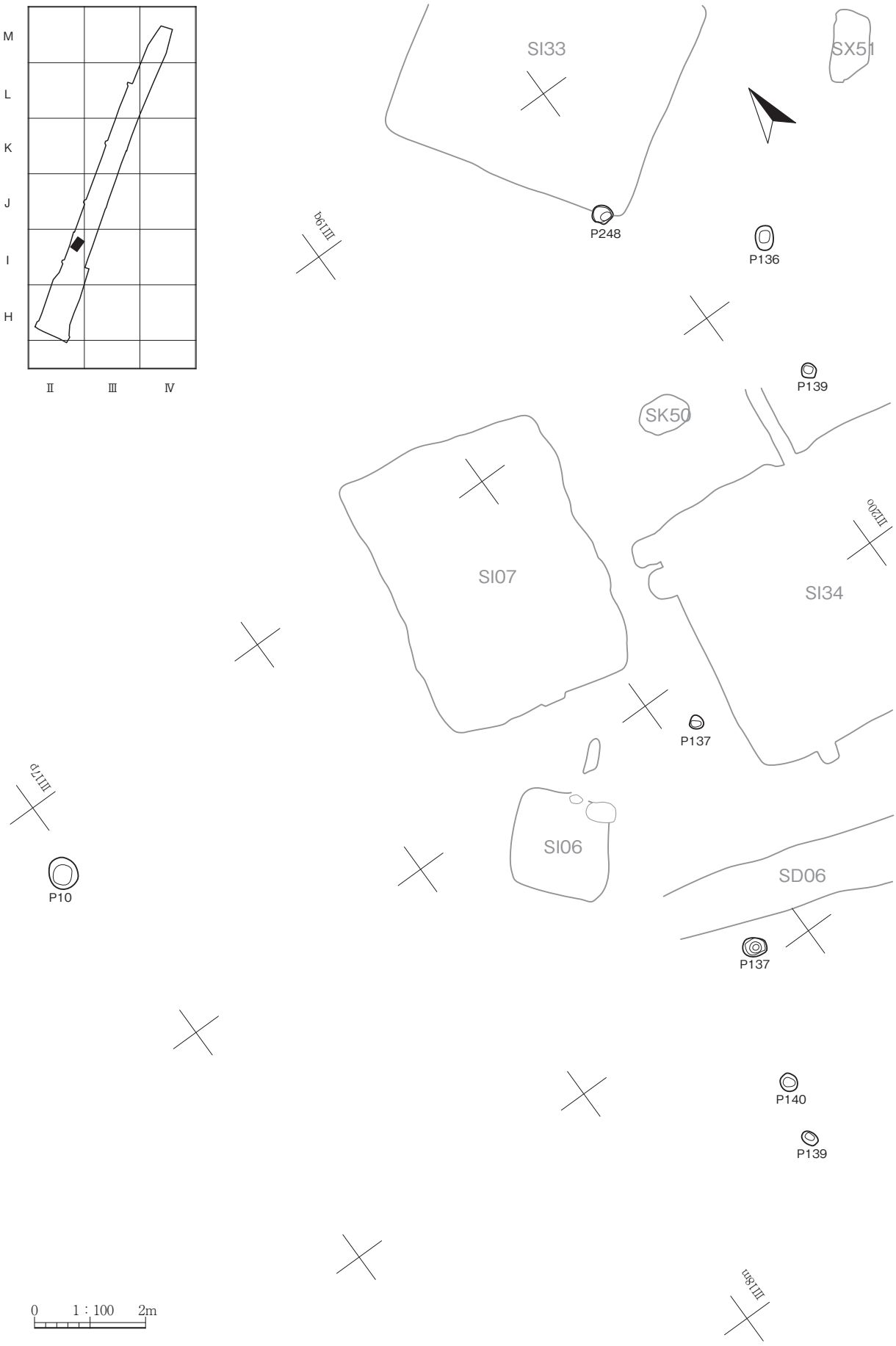
第 185 図　柱穴状土坑分布図（5）



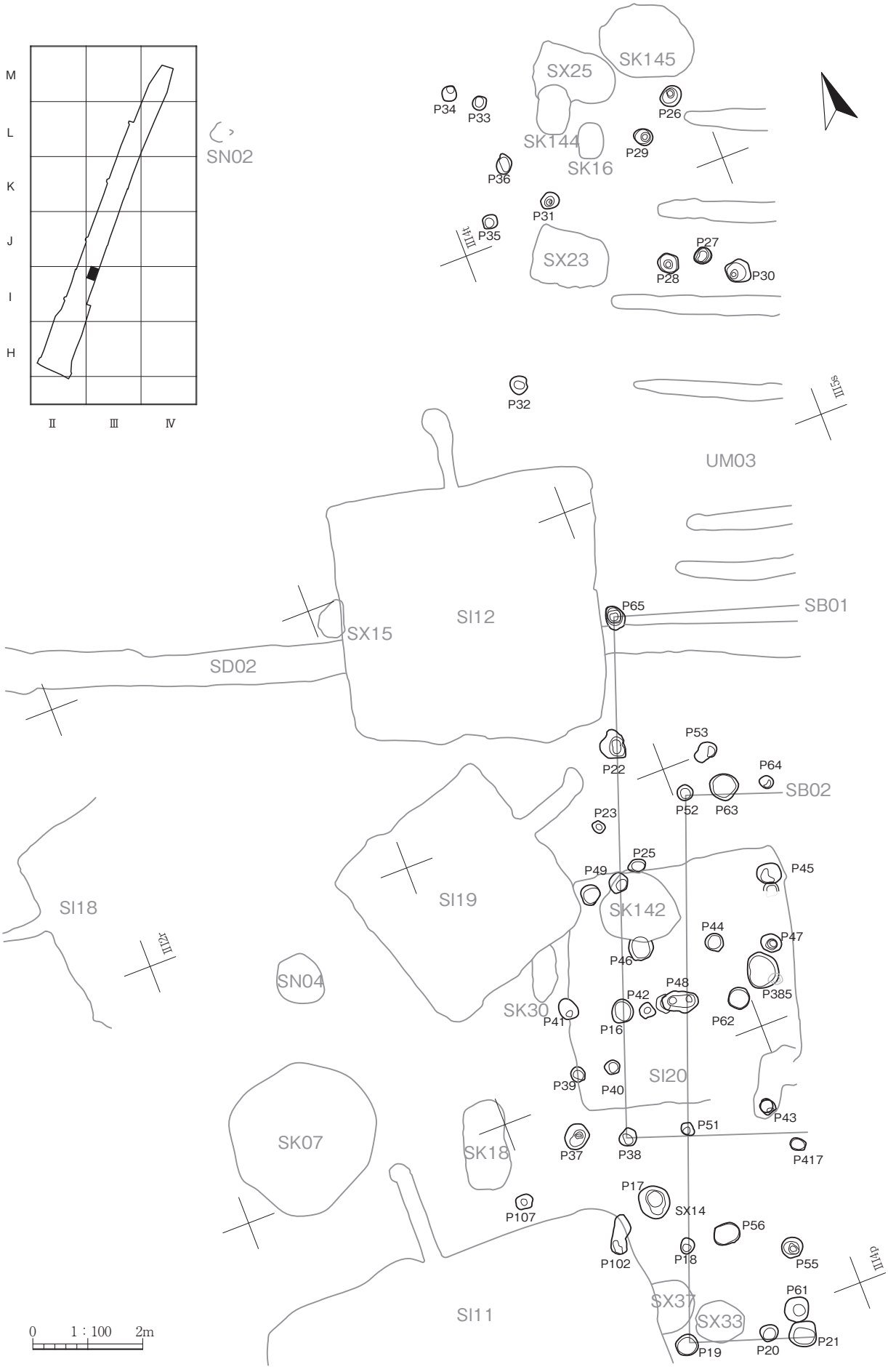
第 186 図　柱穴状土坑分布図（6）



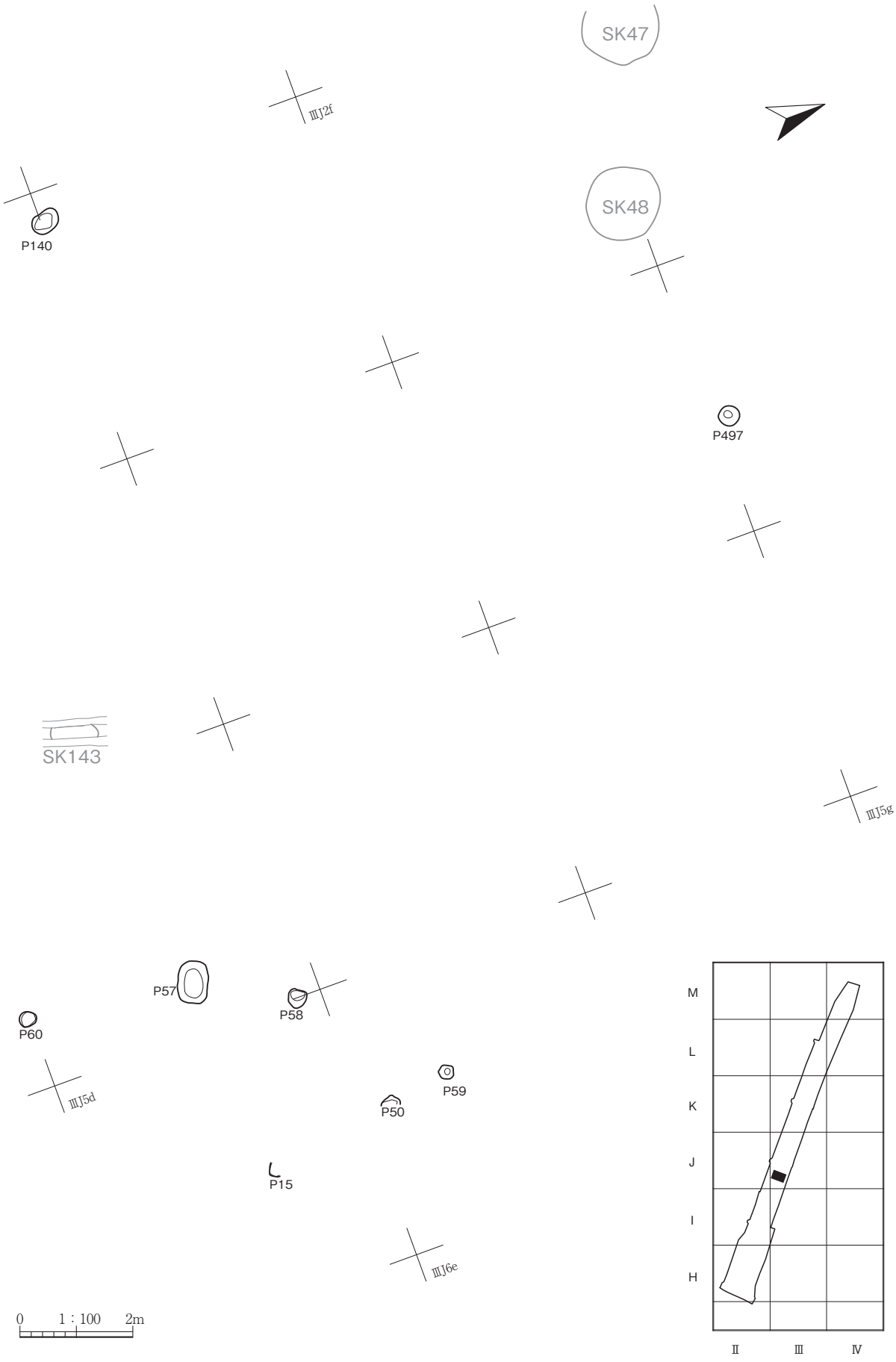
第 187 図　柱穴状土坑分布図（7）



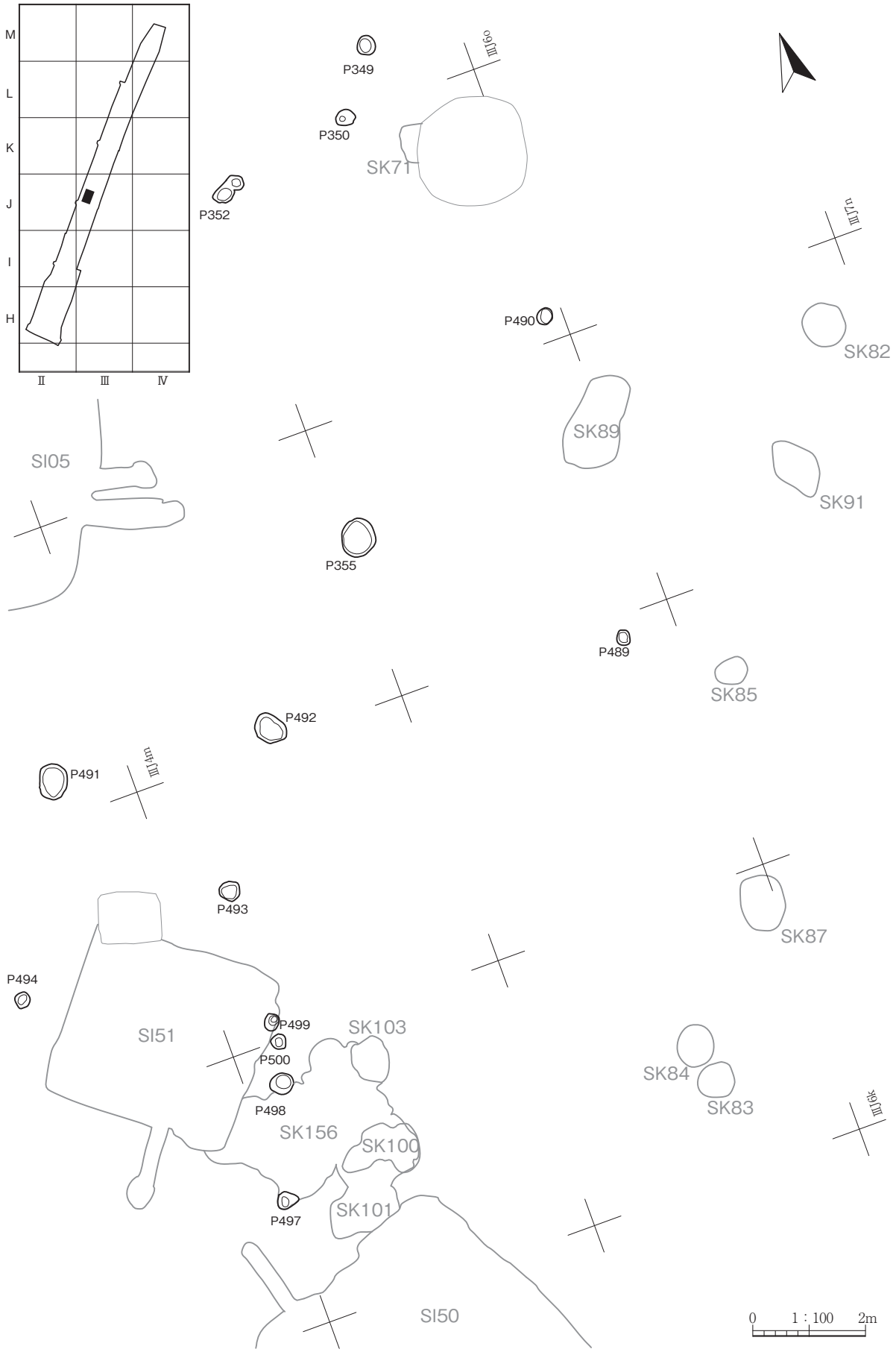
第 188 図　柱穴状土坑分布図（8）



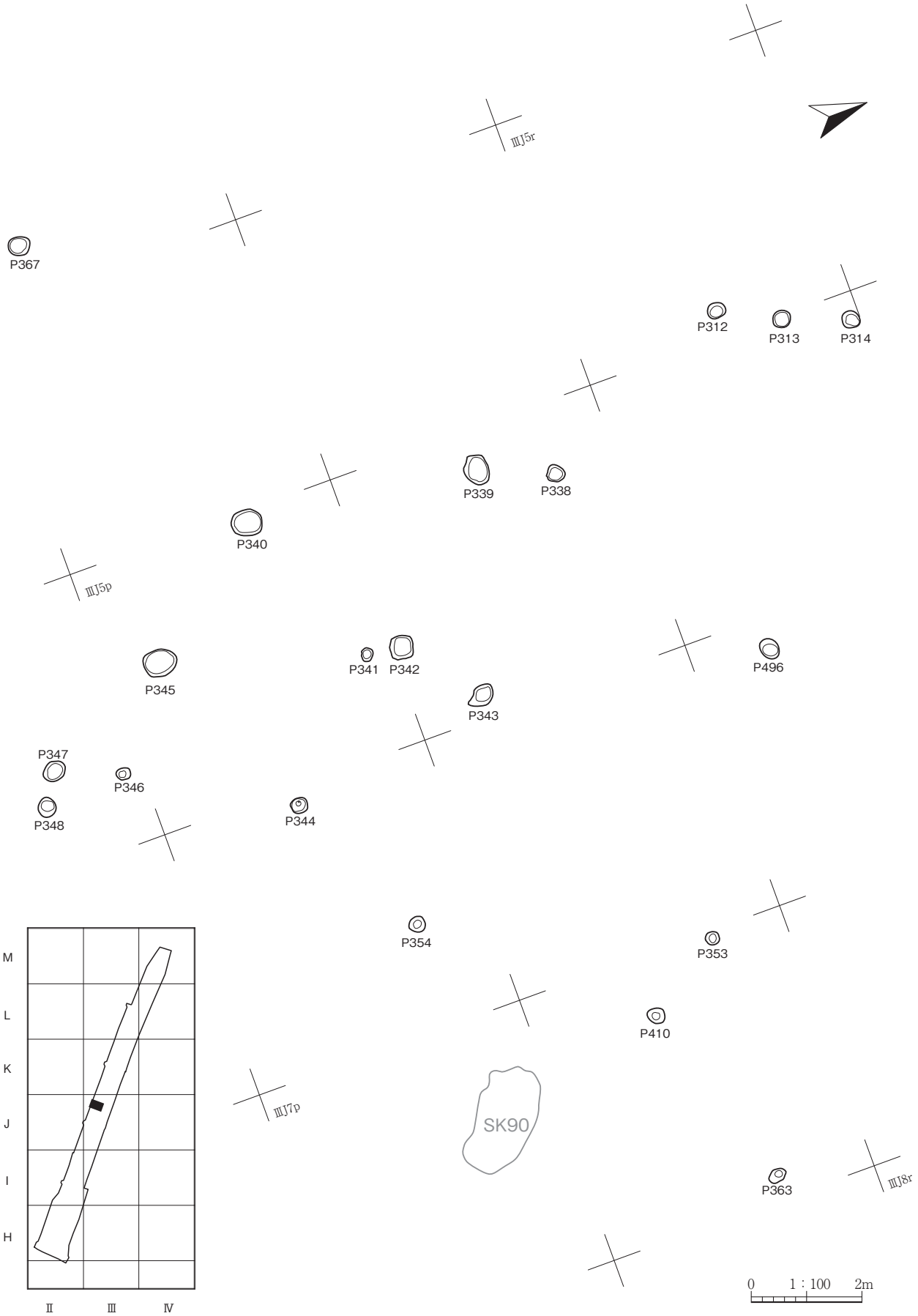
第 189 図　柱穴状土坑分布図（9）



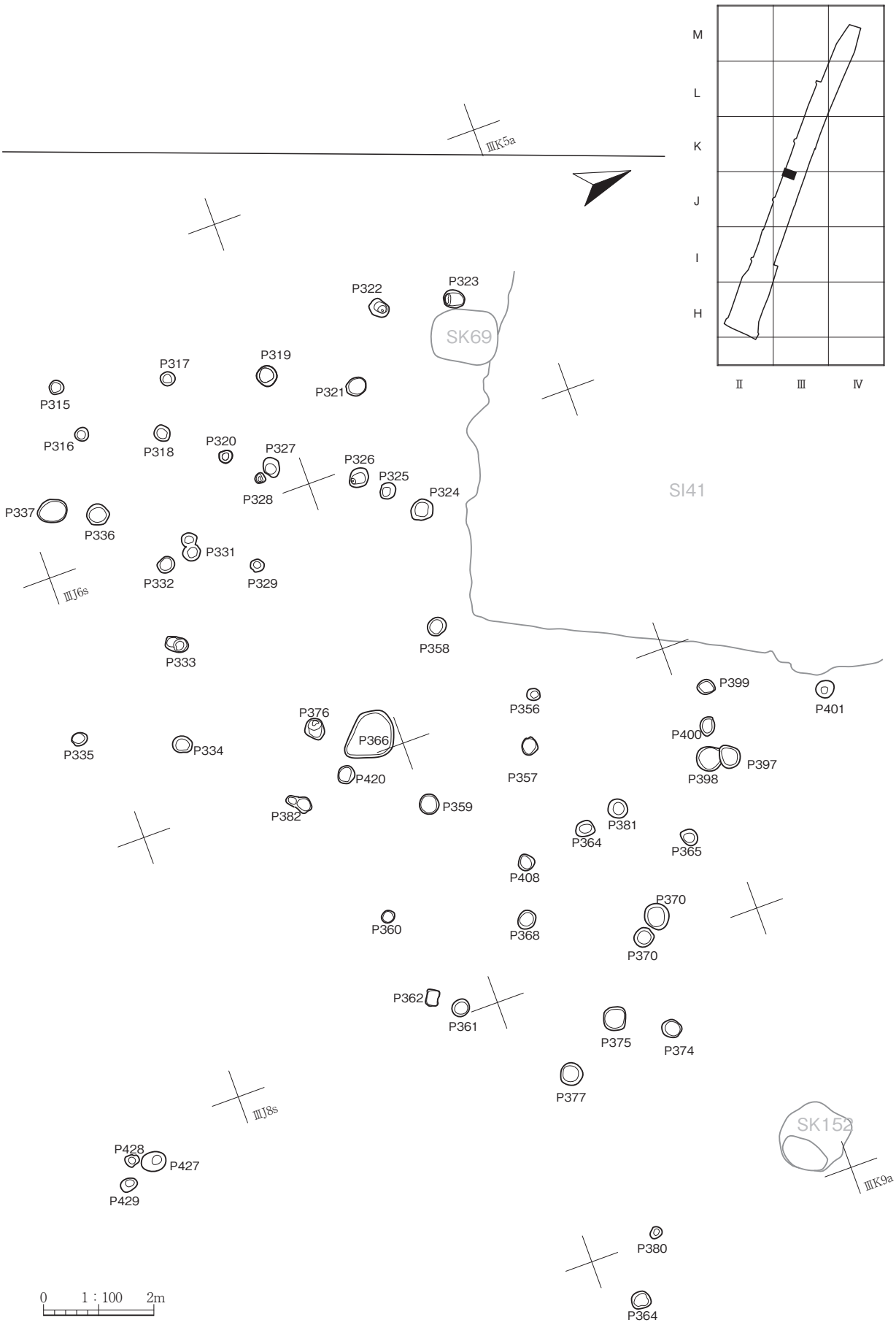
第 190 図　柱穴状土坑分布図（10）



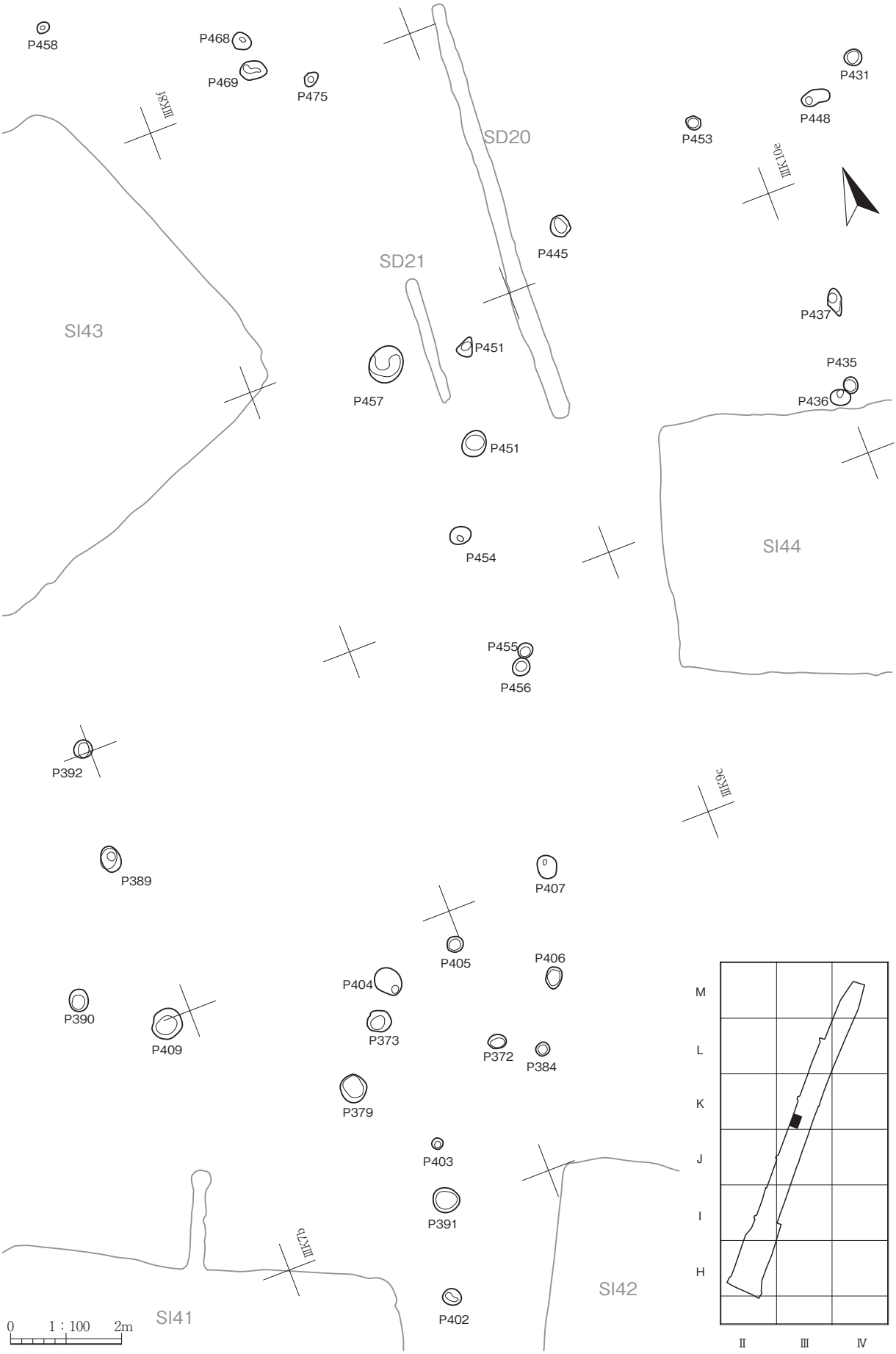
第 191 図　柱穴状土坑分布図（11）



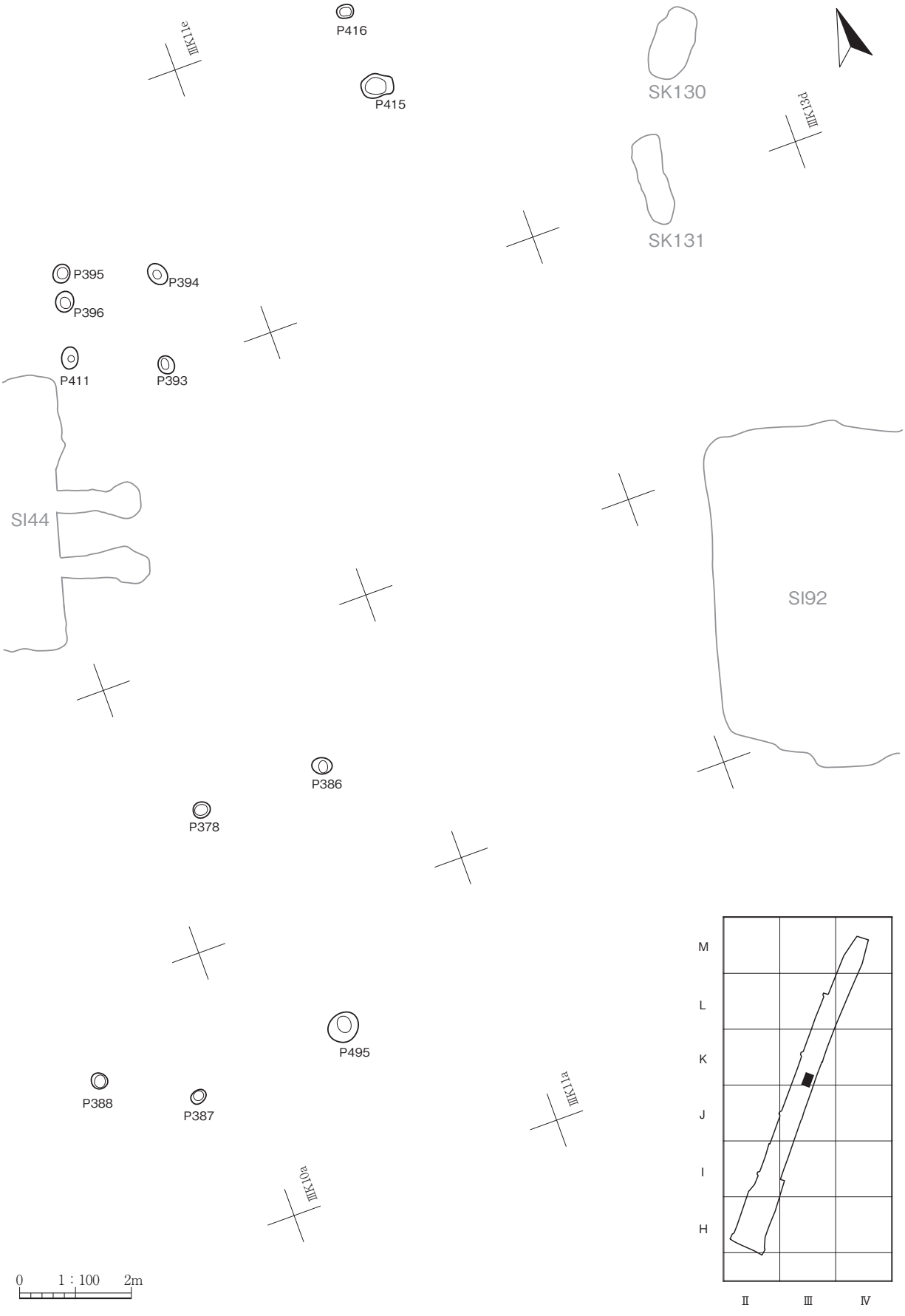
第 192 図　柱穴状土坑分布図（12）



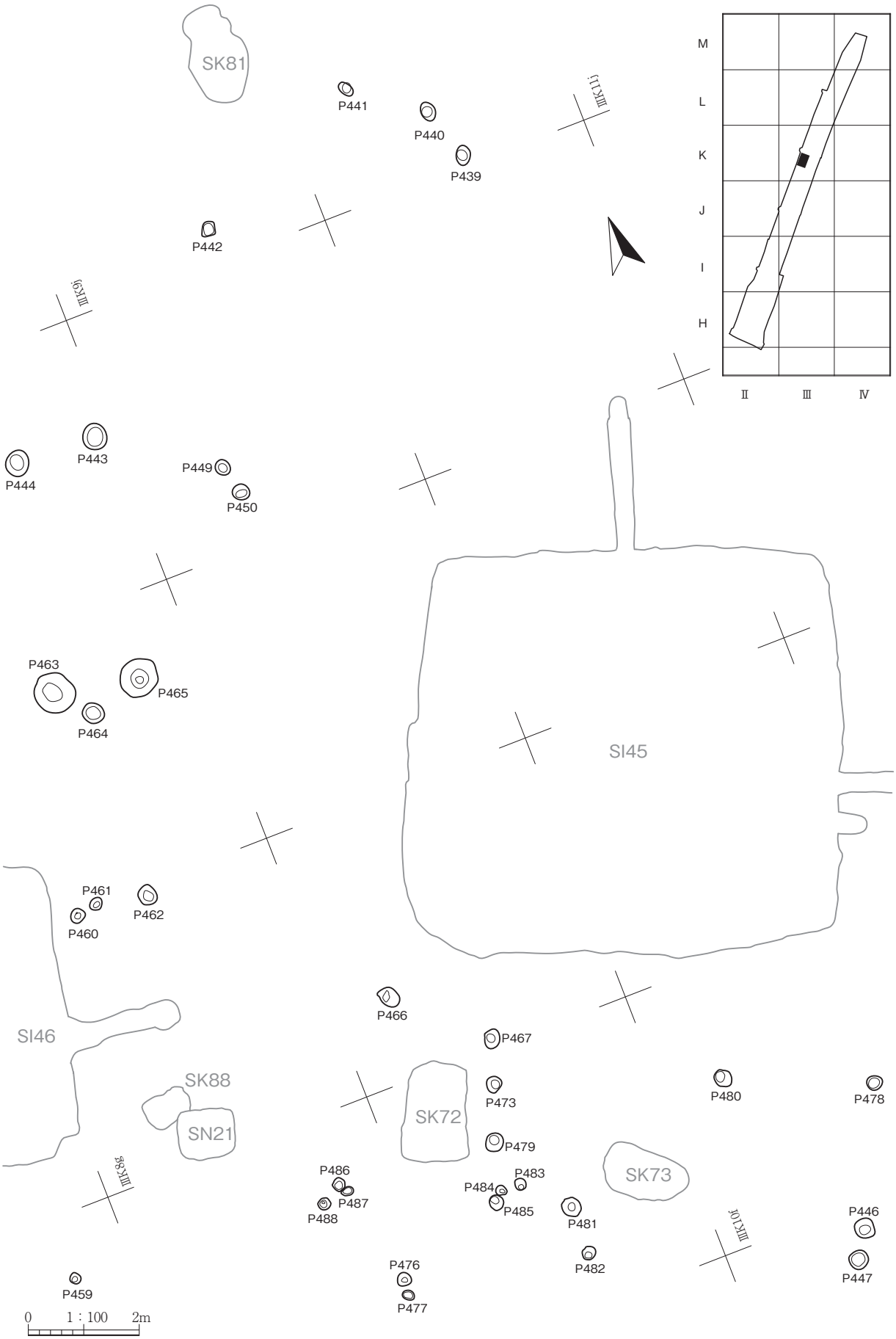
第 193 図　柱穴状土坑分布図（13）



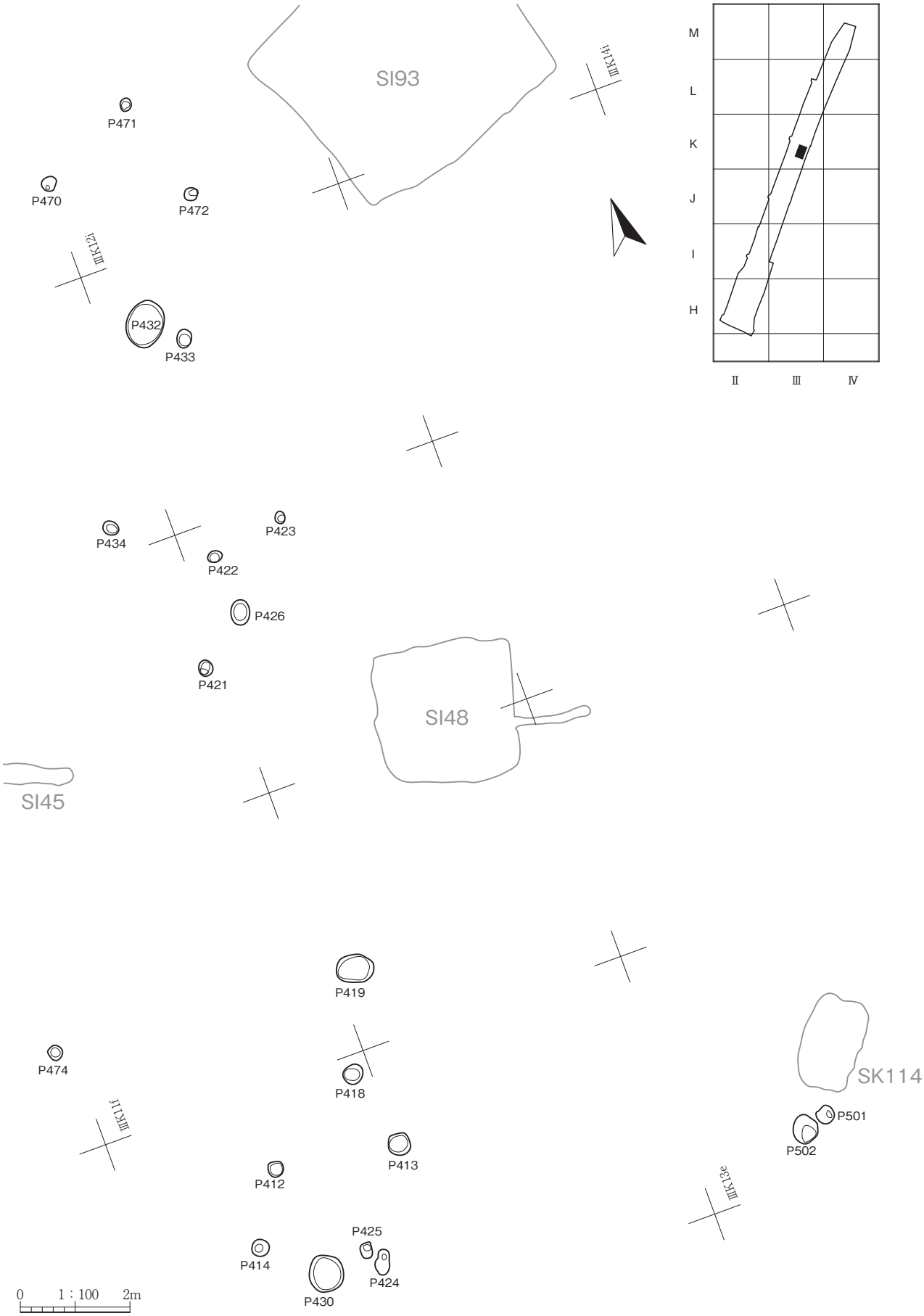
第 194 図　柱穴状土坑分布図（14）



第 195 図　柱穴状土坑分布図（15）

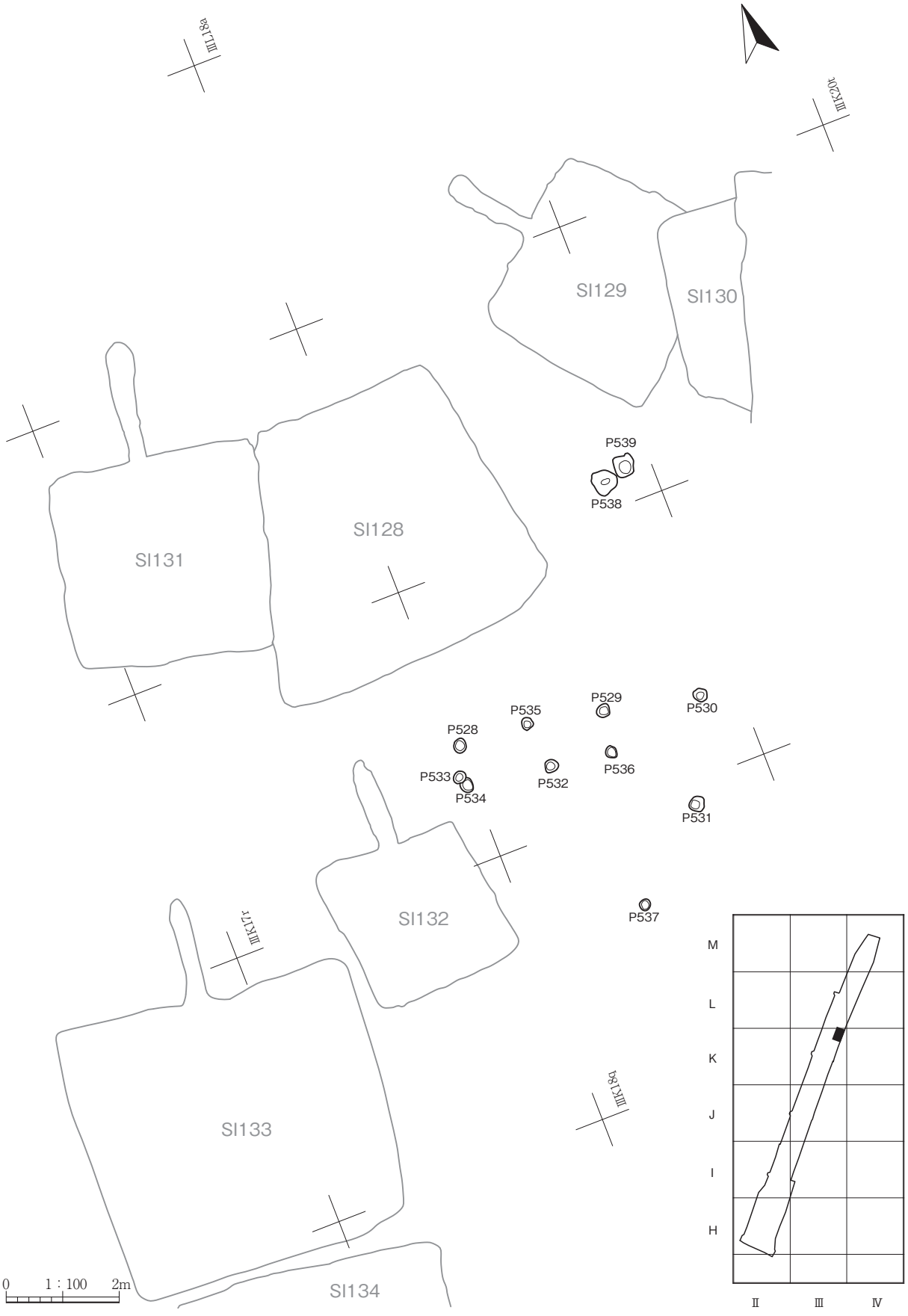


第 196 図　柱穴状土坑分布図（16）

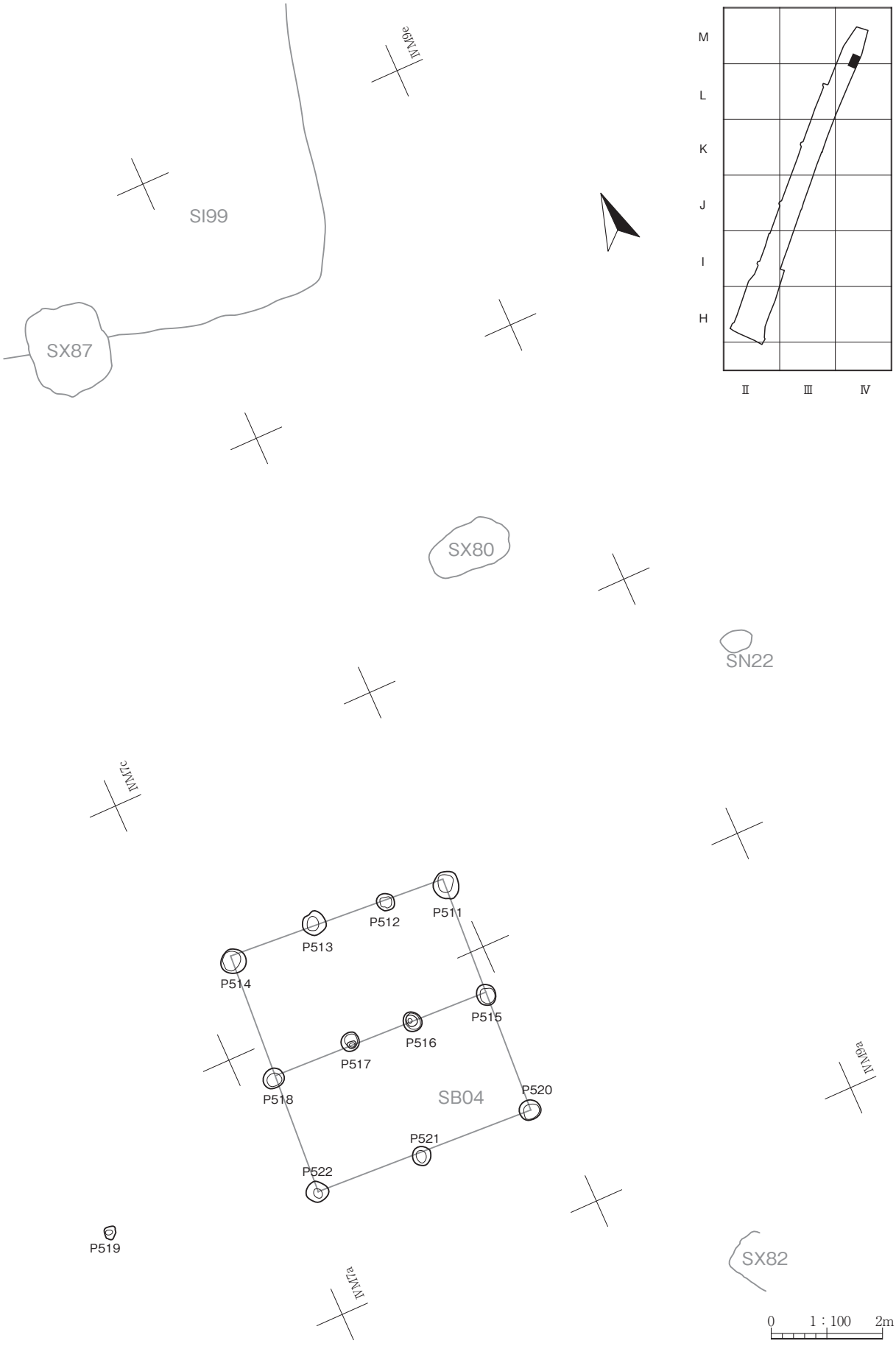


第 197 図　柱穴状土坑分布図（17）

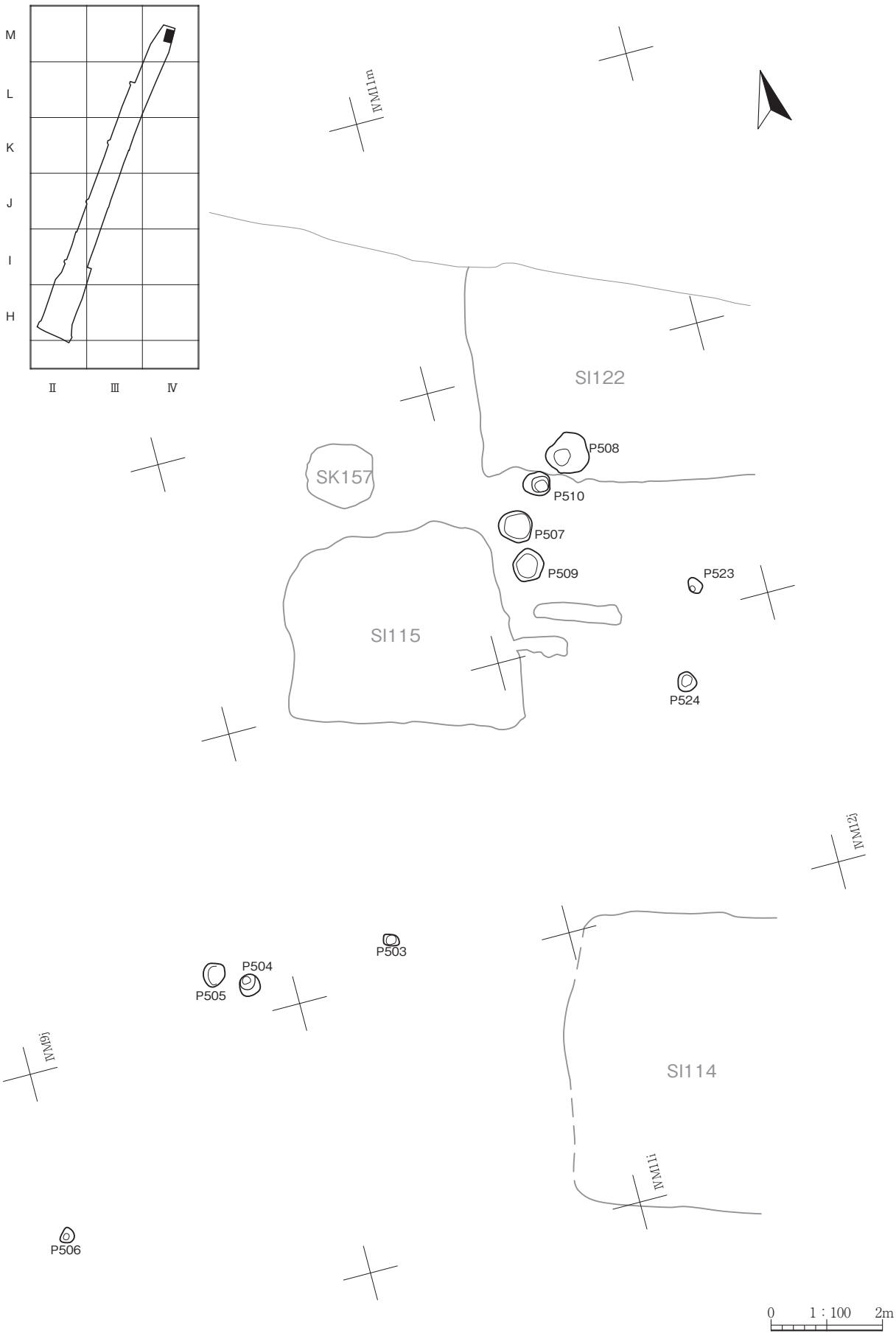
第 198 図　柱穴状土坑分布図（18）



第 199 図　柱穴状土坑分布図（19）



第 200 図　柱穴状土坑分布図（20）



第 201 図　柱穴状土坑分布図（21）

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（1）

SI01	遺構図 18	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.4 東壁 4.7 南壁 4.5 西壁 5.0		出土遺物	遺物重量 古土器 9,403 g、焼成粘土塊 3.5 g、石器・石製品 8,078 g、縄・弥土器 193 g	特徴 床面カマド前焼成面
位置 2 区-1　ⅡH12e	写真図版 8	重複 なし	カマド主軸方位 N-109°-E	床面積(m²) 18.3		掲載 a1～9、d21・37・38・41	
SI02	遺構図 19, 20	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.6 東壁 4.7 南壁 4.5 西壁 4.4		出土遺物	遺物重量 古土器 9,711 g、土製品 123.1 g、焼成粘土塊 15.4 g、石器 5.3 g、金属 8.0 g、鉄滓 1.3 g、縄・弥土器 481 g	特徴
位置 2 区-1　ⅡH13f	写真図版 9	重複 なし	カマド主軸方位 N-106°-E	床面積(m²) 17.9		掲載 a10～18、c4、e1	
SI03-1	遺構図 20	検出面 Ⅲ層下部	平面規模(m) 北壁 2.3		出土遺物	遺物重量 SI03-2 と合計	特徴
位置 2 区-1　ⅡH13d	写真図版 10	重複 SI03-2 より古	カマド主軸方位 —	床面積(m²) 〈2.0〉		掲載なし	
SI03-2	遺構図 20	検出面 Ⅲ層下部	平面規模(m) 北壁 2.5		出土遺物	遺物重量 古土器 1,089 g、焼成粘土塊 7.5 g、石器 42.5 g、縄・弥土器 413 g	特徴
位置 2 区-1　ⅡH13d	写真図版 10	重複 SI03-2 より新	カマド主軸方位 —	床面積(m²) 〈4.5〉		掲載 d40	
SI04	遺構図 21	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 5.4 東壁 5.2 南壁 5.2 西壁 5.1		出土遺物	遺物重量 古土器 16,419 g、土製品 14.2 g、焼成粘土塊 2.4 g、石器 61.3 g、金属 12.8 g、鉄滓 25.2 g、縄・弥土器 898 g	特徴 堆積土上部洪水堆積層 カマド煙道上り勾配 床面に杭穴検出
位置 2 区-1　ⅡH15i	写真図版 11	重複 なし	カマド主軸方位 N-116°-E	床面積(m²) 24.0		掲載 a19～34、c18、e2	
SI05	遺構図 22, 23, 24	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 6.2 東壁 6.8 南壁 6.1 西壁 6.8		出土遺物	遺物重量 古土器 15,847 g、土製品 58.4 g、焼成粘土塊 2.2g、石器 456.5 g、金属 230.2 g、鉄滓 11.2 g、縄・弥土器 47 g	特徴 建て替え 3 時期 カマド 3 基
位置 4 区-1　ⅡJ3n	写真図版 12	重複 なし	カマド主軸方位 N-111°-E	床面積(m²) 37.7		掲載 a35～46、c19～22、e3～5、d42・43・45	
SI06	遺構図 24	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北東壁 1.6 南東壁 1.9 南西壁 1.9 北西壁 1.8		出土遺物	遺物重量 古土器 1,061 g、石器 1,295.7 g	特徴
位置 3 区-1　ⅡI18n	写真図版 13	重複 なし	カマド主軸方位 N-37°-E	床面積(m²) 2.7		掲載 d22・44	
SI07	遺構図 25	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 3.9 東壁 5.1 南壁 3.7 西壁 5.2		出土遺物	遺物重量 古土器 5,508 g、土製品 80.2 g、石器 224.7 g、金属 42.0 g、縄・弥土器 8 g	特徴 堆積土上部洪水堆積層 カマド 2 基
位置 3 区-1　ⅡI18o	写真図版 14	重複 なし	カマド主軸方位 N-113°-E	床面積(m²) 16.5		掲載 a47～55、c23～28、e6～7、d46	
SI08	遺構図 26	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.2 東壁 4.3 南壁 3.7 西壁 4.0		出土遺物	遺物重量 古土器 4,604 g、鉄滓 26.4 g、縄・弥土器 304 g	特徴 炭化材・焼土ブロック多量
位置 3 区-2　ⅡJ5a	写真図版 15	重複 なし	カマド主軸方位 N-119°-E	床面積(m²) 14.1		掲載 a56～57	
SI09	遺構図 27	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.7 東壁 4.3 南壁 4.3 西壁 4.4		出土遺物	遺物重量 古土器 6,773 g、石器 85.8 g、金属 34.5 g、鉄滓 0.6 g、縄・弥土器 176 g	特徴
位置 3 区-2　ⅡI20k	写真図版 16	重複 SX20 より新	カマド主軸方位 N-11°-E	床面積(m²) 17.3		掲載 a58～63、e8	
SI10	遺構図 28	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.7 東壁 4.2 南壁 4.3 西壁 4.2		出土遺物	遺物重量 古土器 23,394 g、石器 4.4 g、縄・弥土器 157 g	特徴 カマド内土器残存
位置 3 区-2　ⅡI1k	写真図版 17	重複 なし	カマド主軸方位 N-24°-W	床面積(m²) 16.0		掲載 a64～85、d1	

第４表　古代竪穴住居跡一覧（2）

SI11	遺構図 29, 30	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 7.2 東壁 6.4 南壁 6.7 西壁 6.3		出土遺物	遺物重量 古土器 16,402 g、焼成粘土塊 18.9 g、石器 635.2 g、金属 8.0 g、鉄滓 705.3 g、縄・弥土器 176 g	特徴
位置 3区-2　ⅡI2p	写真図版 18	重複 SX74 より古 SX36・37 より新	カマド主軸方位 N-1°-W	床面積(m^2) 37.7		掲載 a86～100、d23・67	
SI12	遺構図 30, 31	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.9 東壁 4.9 南壁 4.6 西壁 4.3		出土遺物	遺物重量 古土器 6,932 g、焼成粘土塊 13.3 g、石器 67.8 g、金属 15.2 g、縄・弥土器 132 g	特徴 堆積土中位洪水堆積層
位置 3区-2　ⅡI3r	写真図版 19	重複 SD02 より古 SX15 より新	カマド主軸方位 N-9°-E	床面積(m^2) 18.6		掲載 a101～107、e9	
SI13	遺構図 32	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 西壁 3.6		出土遺物	遺物重量 古土器 3,284 g、土製品 8.9g、石器 2.4 g、縄・弥土器 118 g	特徴
位置 3区-2　ⅡI20h	写真図版 20	重複 なし	カマド主軸方位 N-21°-E	床面積(m^2) 〈9.6〉		掲載 a108～112、c17	
SI14	遺構図 32	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 2.5 東壁 2.7 南壁 2.6 西壁 2.5		出土遺物	遺物重量 古土器 388 g、縄・弥土器 15 g	特徴
位置 3区-2　ⅡI2m	写真図版 21	重複 なし	カマド主軸方位 N-5°-E	床面積(m^2) 5.8		掲載なし	
SI15	遺構図 33, 34	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 7.4 東壁 6.3 南壁 6.9 西壁 6.6		出土遺物	遺物重量 古土器 25,365 g、石器 1,003.9 g、金属 7.1 g、鉄滓 278.9 g、羽口 15.2 g、縄・弥土器 221 g	特徴 堆積土上部灰白色テフラ下部炭化材・焼土ブロック多量 カマド煙道側壁石垣状
位置 3区-2　ⅢI1n	写真図版 22	重複 SI34 より古	カマド主軸方位 N-17°-E	床面積(m^2) 41.2		掲載 a113～131、e10、d39・47	
SI16	遺構図 34, 35	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.4 東壁 4.1 南壁 4.1 西壁 3.9		出土遺物	遺物重量 古土器 14,537 g、土製品 1.5 g、焼成粘土塊 7.3 g、金属 3.3 g、鉄滓 211.5 g、縄・弥土器 129 g	特徴 堆積土中位洪水堆積層 カマド２基
位置 3区-2　ⅡI2l	写真図版 23	重複 SD06 より古	カマド主軸方位 N-17°-E	床面積(m^2) 14.9		掲載 a132～143、c15、e11	
SI17	遺構図 35	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 3.5 東壁 3.2 南壁 3.1 西壁 3.2		出土遺物	遺物重量 古土器 3,813 g、石器 6.4 g、金属 15.4 g、縄・弥土器 68 g	特徴 堆積土中位炭化材集中
位置 3区-2　ⅢI1m	写真図版 24	重複 SD06 より古	カマド主軸方位 N-102°-E	床面積(m^2) 8.9		掲載 a144～152、e12、d70	
SI18	遺構図 36	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 西壁 3.6		出土遺物	遺物重量 古土器 273 g	特徴 西カマド 遺構全体削平
位置 3区-2　ⅢI1r	写真図版 25	重複 なし	カマド主軸方位 N-91°-W	床面積(m^2)		掲載なし	
SI19	遺構図 36	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.5 東壁 3.4 南壁 3.5 西壁 3.5		出土遺物	遺物重量 古土器 10,390 g、縄・弥土器 56 g	特徴 堆積土中位洪水堆積層 カマド脇床面遺物多量
位置 3区-2　ⅢI3q	写真図版 25, 26	重複 SI20・SK30 より新	カマド主軸方位 N-69°-E	床面積(m^2) 10.3		掲載 a153～159	
SI20	遺構図 37	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.1 東壁 4.6 南壁 4.3 西壁 4.2		出土遺物	遺物重量 古土器 6,842 g、石器 1,785 g、金属 125.2 g、鉄滓 935.4 g、羽口 130.7 g、縄・弥土器 92 g	特徴 南カマド 北西部床面炭化物分布
位置 3区-2　ⅢI3q	写真図版 27	重複 SI19・SB01・SK142・SN07 より古	カマド主軸方位 N-168°-W	床面積(m^2) 15.5		掲載 a160～168、e13、l1、d8・24	
SI21	遺構図 38, 39	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 7.1 東壁 7.2 南壁 6.4 西壁 6.8		出土遺物	遺物重量 古土器 25,355 g、焼成粘土塊 4.6 g、石器 20,282.8 g、金属 47.3 g、縄・弥土器 846 g	特徴 堆積土上部テフラブロック 床面直上炭化材・焼土ブロック多量 主柱穴底面扁平礫
位置 2区-3　ⅡI19e	写真図版 28	重複 なし	カマド主軸方位 N-13°-E	床面積(m^2) 41.4		掲載 a169～196、d8・24、e14～15、b1	

第４表　古代竪穴住居跡一覧（3）

SI22	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	40	Ⅲ層上面	北東壁 4.9 南東壁 3.7 南西壁 4.6 北西壁 3.7			古土器 7,109 g、石器 11.1 g、鉄滓 161.8 g、縄・弥土器 382 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a197〜205	
2区-3　ⅡI18c	29	なし	N-126°-E	15.6			
SI23	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	41, 42	Ⅴ層上面	北壁 8.0 東壁 7.9 南壁 7.7 西壁 7.7			古土器 41,576 g、土製品 1.8 g、焼成粘土塊 4.7g、石器 1,221.8 g、金属 106.2 g、鉄滓 4.7 g、羽口 104.7 g、縄・弥土器 898 g	壁面を抉る壁柱穴配列 床面中央焼成面 床面敷物状炭化物分布
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a206〜233、c12、e16〜21、l2、d49	
2区-3　ⅡI17d	30	SK67より新	N-15°-E	57.3			
SI24	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	43, 44	Ⅴ層上面	北壁 6.7 東壁 6.8 南壁 7.0 西壁 6.1			古土器 6,94g8 焼成粘土塊 58.3 g、縄・弥土器 61 g	南・西側拡張 カマド２基 堆積土下部炭化材・焼土ブロック多量
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a234〜238	
2区-2　ⅡH9j	31	SD07より古	N-6°-E	41.5			
SI25	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	45, 46	Ⅴ層上面	北壁 7.4 東壁 7.5 南壁 7.3 西壁 7.6			古土器 21,715 g、石器 438.4 g、金属 0.5 g、縄・弥土器 157 g	カマド袖芯材土器残存状態良好
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a239〜259、e22、d15	
2区-2　ⅡH7i	32	SX49より新	N-17°-E	48.4			
SI26	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	47	Ⅴ層上面	東壁 4.6			古土器 9,818 g、焼成粘土塊 9.6 g、石器 409.8 g、縄・弥土器 79 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a260〜264	
2区-2　ⅡH7n	33	なし	N-9°-E	〈12.3〉			
SI27	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	48	Ⅴ層上面	北壁 2.4 東壁 1.8 南壁 2.6 西壁 2.2			古土器 11,186 g、焼成粘土塊 38.3 g、石器 35.4 g、金属 29.4 g、縄・弥土器 399 g	堆積土中位３面炭化物層 焼成土坑に転用の可能性
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a265〜283、e23〜27	
2区-2　ⅡH9m	34	なし	N-13°-W	4.0			
SI28	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	48, 49	Ⅲ層上面	北壁 3.4 西壁 3.3			古土器 3,990 g、石器 262.3 g、縄・弥土器 205 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a284〜286、b2	
2区-2　ⅡH11o	35	SD07より古	N-110°-E	〈10.9〉			
SI29	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	49	Ⅴ層上面	北壁 2.4 東壁 2.3 南壁 2.1 西壁 2.4			古土器 36 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載なし	
2区-2　ⅡH8f	36	なし	N-29°-E	4.7			
SI30	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	49	Ⅴ層上面	西壁 3.4			古土器 388 g、縄・弥土器 4 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a287	
2区-2　ⅡH10m	36	SD07より古	N-123°-E	〈7.2〉			
SI31	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	50	Ⅴ層上面	北西壁 3.5			古代土器 570 g、石器 41.4 g、縄・弥土器 50 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a288〜289	
3区-3　ⅢI1r	37	SI32より新		〈4.4〉			
SI32	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	50	Ⅴ層上面	西壁 4.7			古土器 366 g、石器 49.9 g、縄・弥土器 104 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a289〜290、d20	
3区-3　ⅢI1r	37	SI31より古	N-13°-E	〈8.1〉			
SI33	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	50, 51	Ⅴ層上面	北東壁 4.7 南東壁 4.2 南西壁 4.7 北西壁 4.5			古土器 12,612 g、縄・弥土器 16 g	カマド脇床面遺物多量
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m^2)		掲載 a291〜305	
3区-3　ⅡI20q	38	P143・248より古	N-60°-E	19.2			

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（4）

SI34	遺構図 52	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 5.6 南壁 5.2 西壁 5.0		出土遺物	遺物重量 古土器 12,309 g、土製品 13.6 g、石器 2,558.6 g、金属 129.9 g、鉄滓 624 g、羽口 113.3 g、縄・弥土器 3 1g	特徴
位置 3 区-3　ⅡI19n	写真図版 39	重複 SI15 より新 SX52 より古	カマド主軸方位 N-8°-E	床面積(m²) 24.1		掲載 a306～317、c13・29、d10・16、e28～30、l13	
SI35	遺構図 53	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.0 東壁 4.0 南壁 4.0 西壁 4.2		出土遺物	遺物重量 古土器 1,251 g、縄・弥土器 5 g	特徴
位置 3 区-3　ⅡI19m	写真図版 40	重複 SD06 より古	カマド主軸方位 N-5°-E	床面積(m²) 14.7		掲載 a318～320	床面中央焼成面
SI36	遺構図 54	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 東壁 3.8		出土遺物	遺物重量 古土器5,284 g、石器1,025.4 g、縄・弥土器 66 g	特徴 カマド内土器残存 床面中央焼成面
位置 2 区-4　ⅡI13h	写真図版 41	重複 なし	カマド主軸方位 N-1°-E	床面積(m²) 〈9.3〉		掲載 a321～329、d25	
SI37	遺構図 55	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.1 東壁 4.4 南壁 4.3 西壁 4.0		出土遺物	遺物重量 古土器 1,076 g、石器 20.5 g、縄・弥土器 272 g	特徴 床面中央焼成面
位置 2 区-4　ⅡI16c	写真図版 42	重複 SK79 より古	カマド主軸方位 N-8°-E	床面積(m²) 15.6		掲載 a330～331	
SI38	遺構図 56, 57	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 6.3 東壁 6.8 南壁 6.5 西壁 6.3		出土遺物	遺物重量 古土器 18,298 g、焼成粘土塊 12.5 g、石器 8,063.8 g、金属 141.2 g、羽口 15.1 g、鉄滓 1,773.8 g、縄・弥土器 232 g	特徴 堆積土上部テフラブロック 床面～埋土中礫多量出土
位置 2 区-4　ⅡH12q	写真図版 43	重複 SD17 より古	カマド主軸方位 N-8°-E	床面積(m²) 39.2		掲載 a332～347、d2・26～28・50、e31～34	
SI39	遺構図 58	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 3.9 東壁 4.4 南壁 4.0 西壁 4.8		出土遺物	遺物重量 古土器 7,999 g、石器 572.8 g、羽口 44.5 g、鉄滓 150.5 g、縄・弥土器 6 2g	特徴
位置 2 区-4　ⅡH10r	写真図版 44	重複 なし	カマド主軸方位 N-110°-E	床面積(m²) 14.6		掲載 a348～356、l4	
SI40	遺構図 59, 60	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.5 東壁 4.7 南壁 4.9 西壁 4.5		出土遺物	遺物重量 古土器 12,624 g、石器 8,358.8 g、鉄滓 119.7 g、縄・弥土器 59 g	特徴 床面中央焼成面 埋土中礫多量出土
位置 2 区-4　ⅡH14s	写真図版 45	重複 なし	カマド主軸方位 N-10°-E	床面積(m²) 18.8		掲載 a357～361、d19・29・30・51・68	
SI41	遺構図 61, 62	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 東壁 8.2		出土遺物	遺物重量 古土器 25,934 g、土製品 12.9 g、焼成粘土塊 3.6 g、石器 3,986.9 g、金属 9.3 g、縄・弥土器 26 g	特徴 南東部主柱穴欠落 床面中央焼成面
位置 4 区-1　ⅢK6a	写真図版 46	重複 なし	カマド主軸方位 N-26°-E	床面積(m²) 〈50.8〉		掲載 a362～380、c30、e35、d31	
SI42	遺構図 63, 64	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 5.4 東壁 5.3 南壁 5.4 西壁 5.5		出土遺物	遺物重量 古土器 13,198 g、金属 19.2 g、鉄滓 6.8 g、縄・弥土器 10 g	特徴 南東部主柱穴壁際
位置 4 区-1　ⅢK8a	写真図版 47	重複 SK152 より古	カマド主軸方位 N-24°-E	床面積(m²) 26.2		掲載 a381～395、e36～37	
SI43	遺構図 64, 65	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 東壁 6.5		出土遺物	遺物重量 古土器 9 , 4 6g 8 焼成粘土塊 34.9 g、金属 56 g、縄・弥土器 236 g	特徴 床面直上炭化材・焼土ブロック多量
位置 4 区-1　ⅢK7e	写真図版 48	重複 SN16 より古	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈23.7〉		掲載 a396～400、e38～41	
SI44	遺構図 66	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.8 東壁 5.0 南壁 4.5 西壁 4.6		出土遺物	遺物重量 古土器 4,616 g、土製品 37.9 g、石器 855.3 g、金属 3.0 g	特徴 カマド 2 基
位置 4 区-1　ⅢK9c	写真図版 49	重複 なし	カマド主軸方位 N-114°-E	床面積(m²) 19.4		掲載 a401～408、c31～33、e42、d33・55	

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（5）

SI45	遺構図 67, 68, 69	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 7.6 東壁 7.5 南壁 8.0 西壁 7.2		出土遺物	遺物重量 古土器 40,845 g、土製品 42.3 g、焼成粘土塊 3.7 g、石器 2,472.3 g、金属 137.3 g	特徴 建て替え 2 時期 堆積土下部洪水堆積層 カマド 3 基
位置 4 区-1　ⅢK10g	写真図版 50	重複 なし	カマド主軸方位 N-20°-E	床面積（m²） 47.1		掲載 a409～435、c34～37、e43～44、d3・56	
SI46	遺構図 70	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 東壁 4.9		出土遺物	遺物重量 古土器 11,476 g、縄・弥土器 35 g	特徴 カマド脇床面貯蔵穴内遺物多量出土
位置 4 区-1　ⅢK7g	写真図版 51	重複 なし	カマド主軸方位 N-99°-E	床面積（m²） 〈6.2〉		掲載 a436～443	
SI47	遺構図 71	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 南壁 4.2		出土遺物	遺物重量 古土器 901 g、土製品 7.7 g	特徴
位置 4 区-1　ⅢK11j	写真図版 52	重複 SD18 より古	カマド主軸方位 N-106°-E	床面積（m²） 〈9.3〉		掲載 c38	
SI48	遺構図 72	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 2.6 東壁 2.6 南壁 2.6 西壁 2.5		出土遺物	遺物重量 古土器 651 g	特徴
位置 4 区-2　ⅢK12g	写真図版 53	重複 なし	カマド主軸方位 N-106°-E	床面積（m²） 5.5		掲載なし	
SI49	遺構図 72	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁〈4.4〉		出土遺物	遺物重量 古土器 13,791 g、石器 5,481.2 g、縄・弥土器 12 g	特徴
位置 4 区-1　ⅢJ1j	写真図版 54	重複 なし	カマド主軸方位 N-106°-E	床面積（m²） 〈6.5〉		掲載 a444～453、d57	
SI50	遺構図 73	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北東壁 4.5 南東壁 4.8 南西壁 4.6 北西壁 4.5		出土遺物	遺物重量 古土器 4,455 g、石器 623.1 g、金属 23.6 g、縄・弥土器 79 g	特徴 北西壁際床面焼成面
位置 4 区-1　ⅢJ4j	写真図版 55	重複 なし	カマド主軸方位 N-17°-W	床面積（m²） 19.3		掲載 a454～456、e45	
SI51	遺構図 74	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北東壁 3.6 南東壁 3.4 南西壁 3.5 北西壁 3.2		出土遺物	遺物重量 古土器 2,246 g、縄・弥土器 40 g	特徴 南西カマド
位置 4 区-1　ⅢJ3l	写真図版 56	重複 SK156 より新	カマド主軸方位 N-145°-W	床面積（m²） 10.3		掲載 a457～460	
SI53	遺構図 74	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁 3.3		出土遺物	遺物重量 古土器 182 g、縄・弥土器 2 g	特徴
位置 2 区-4　ⅢJ10a	写真図版 57	重複 なし	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈6.2〉		掲載なし	
SI54	遺構図 75	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 5.7		出土遺物	遺物重量 古土器 17,216 g、土製品 5.1 g、石器 390.8 g、縄・弥土器 174 g	特徴 カマド天井芯材礫残存 煙出し深さ 1.1 m 床面中央焼成面
位置 1 区　ⅢH11c	写真図版 57, 58	重複 なし	カマド主軸方位 N-17°-E	床面積（m²） 〈18.5〉		掲載 a461～466、c39、d17	
SI55	遺構図 76	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 4.1 東壁 4.2 南壁 4.7 西壁 4.1		出土遺物	遺物重量 古土器 9,995 g、石器 657.3 g、縄・弥土器 351 g	特徴
位置 1 区　ⅢH6e	写真図版 58, 59	重複 SI57（新旧不明）	カマド主軸方位 N-10°-E	床面積（m²） 17.4		掲載 a467～470	
SI56	遺構図 77	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 3.2 東壁 3.1 南壁 3.2 東壁 3.4		出土遺物	遺物重量 古土器 5,270 g、縄・弥土器 7 g	特徴 南半千苅遺跡 SI98
位置 1 区　ⅢH10b	写真図版 59	重複 なし	カマド主軸方位 N-115°-E	床面積（m²） 8.0		掲載 a471	
SI57	遺構図 76	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 南東壁〈4.0〉		出土遺物	遺物重量	特徴 東壁際一部のみ検出
位置 1 区　ⅢH6f	写真図版 60	重複 SI55（新旧不明）	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈1.7〉		なし	
SI58	遺構図 77	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 2.8 東壁 3.0 南壁 2.2 西壁 3.2		出土遺物	遺物重量 古土器 1,018 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢK12n	写真図版 60	重複 なし	カマド主軸方位 N-23°-E	床面積（m²） 7.8		掲載 a472	

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（6）

SI59	遺構図 78, 79	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 6.5 東壁 6.7 南壁 7.0 西壁 6.3		出土遺物	遺物重量 古土器 27,481 g、焼成粘土塊 12.0 g、石器 140.5 g、縄・弥土器 10 g	特徴 床面生粘土塊出土
位置 5 区−1　ⅢK13o	写真図版 61	重複 なし	カマド主軸方位 N−2°−E	床面積（m²） 40.3		掲載 a473～495、d52	
SI60	遺構図 80	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 4.8 東壁 4.5 南壁 4.6 西壁 4.1		出土遺物	遺物重量 古土器 4,535 g、金属 35.0 g	特徴 床面東壁際焼成面
位置 5 区−1　ⅢK13q	写真図版 62	重複 SI61 より新	カマド主軸方位 N−6°−E	床面積（m²） 19.1		掲載 a496～498、e46～48	
SI61	遺構図 81, 82	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 6.3 東壁 7.0 南壁 6.9 西壁 7.0		出土遺物	遺物重量 古土器 13,621 g、石器 2,509.3 g	特徴 堆積土中位洪水堆積層
位置 5 区−1　ⅢK14g	写真図版 63	重複 SI60 より古 SI109 より新	カマド主軸方位 N−8°−E	床面積（m²） 41.9		掲載 a499～510、d58	
SI62	遺構図 82	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 3.6 東壁 4.0 南壁 3.5 西壁 3.9		出土遺物	遺物重量 古土器 5,279 g、土製品 12.9 g、焼成粘土塊 17.3 g、金属 18.2 g、鉄滓 24.8 g	特徴
位置 5 区−1　ⅢK13r	写真図版 64	重複 なし	カマド主軸方位 N−114°−E	床面積（m²） 12.7		掲載 a511～512、c40、e49	
SI63	遺構図 83	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 5.4 東壁 5.5 南壁 5.8 西壁 5.4		出土遺物	遺物重量 古土器 6,855 g、縄・弥土器 4 g	特徴 カマド 2 基
位置 5 区−1　ⅢK13t	写真図版 65	重複 SI64 より新	カマド主軸方位 N−6°−E	床面積（m²） 25.6		掲載 a513～521	
SI64	遺構図 84	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁 3.5		出土遺物	遺物重量 古土器 1,464 g	特徴
位置 5 区−1　ⅢL14a	写真図版 66	重複 SI63 より古	カマド主軸方位 N−6°−E	床面積（m²） 〈11.0〉		掲載 a522～523	
SI65	遺構図 84	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 計測不能		出土遺物	遺物重量 古土器 532 g	特徴 東壁際一部のみ検出
位置 5 区−1　ⅢL13b	写真図版 67	重複 なし	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈1.8〉		掲載なし	
SI66	遺構図 85	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 3.6 東壁 3.6 南壁 3.9 西壁 3.7		出土遺物	遺物重量 古土器 4,217 g、石器 346.4 g	特徴
位置 5 区−1　ⅢL14c	写真図版 67, 68	重複 なし	カマド主軸方位 N−95°−E	床面積（m²） 12.4		掲載 a524～526、d59	
SI67	遺構図 85	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 3.1 東壁 3.4 南壁 3.4 西壁 3.5		出土遺物	遺物重量 古土器 6,334 g	特徴 カマド 2 基
位置 5 区−1　ⅢL15c	写真図版 68, 69	重複 なし	カマド主軸方位 N−92°−E	床面積（m²） 9.5		掲載 a527～531	
SI68	遺構図 86	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 5.0 東壁 5.0 南壁 5.1 西壁 5.0		出土遺物	遺物重量 古土器 11,393 g、石器 8.9 g、金属 77.6 g、縄・弥土器 6 g	特徴 カマド天井芯材礫残存
位置 5 区−1　ⅢL17c	写真図版 69, 70	重複 なし	カマド主軸方位 N−22°−E	床面積（m²） 22.2		掲載 a532～547、e50～52	
SI69	遺構図 87	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁 4.4		出土遺物	遺物重量 古土器 3,149 g	特徴 カマド 2 基
位置 5 区−1　ⅢL14e	写真図版 70, 71	重複 SK106・SD25 より古	カマド主軸方位 N−2°−E	床面積（m²） 〈15.3〉		掲載 a548～551	
SI70	遺構図 88, 89	検出面 Ⅲ層上面	平面規模（m） 北壁 8.0 東壁 8.3 南壁 8.0 西壁 7.9		出土遺物	遺物重量 古土器 10,847 g、石器 1,080.5 g	特徴
位置 5 区−1　ⅢL16d	写真図版 71, 72	重複 SK128・SD25 より古 SI71 より新	カマド主軸方位 N−98°−E	床面積（m²） 61.6		掲載 a552～564、d70	
SI71	遺構図 89	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 南壁 2.9		出土遺物	遺物重量 古土器 2,517 g	特徴
位置 5 区−1　ⅢL16d	写真図版 72, 73	重複 SI70・SD25 より古	カマド主軸方位 N−10°−W	床面積（m²） 〈6.8〉		掲載 a565～568	

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（7）

SI72	遺構図 90	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 東壁 5.9		出土遺物	遺物重量 古土器 6,767 g、金属 77.1 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢL16i	写真図版 73	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈8.2〉		掲載 a569～575、e53～54	
SI73	遺構図 90	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.2 東壁 2.7 南壁 3.2 西壁 2.8		出土遺物	遺物重量 古土器 1,713 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢL16a	写真図版 74	重複 なし	カマド主軸方位 N-7°-E	床面積(m²) 7.6		掲載 a576～578	
SI74	遺構図 91	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.8 東壁 4.7 南壁 4.9 西壁 4.7		出土遺物	遺物重量 古土器 420 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢL18g	写真図版 75	重複 なし	カマド主軸方位 N-1°-W	床面積(m²) 20.6		掲載なし	煙道未検出
SI75	遺構図 91, 92	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 北壁 4.1		出土遺物	遺物重量 古土器 7,101 g、土製品 20.3 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢK13l	写真図版 76	重複 SD23 より古	カマド主軸方位 N-109°-E	床面積(m²) 〈16.9〉		掲載 a579～588、c41	カマド 2 基
SI76	遺構図 92	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 2.5 東壁 2.5 南壁 2.4 西壁 2.1		出土遺物	遺物重量 古土器 4,850 g	特徴 カマド内土器残存 カマド脇床面赤彩土器残置
位置 5 区-1　ⅢK15t	写真図版 77	重複 なし	カマド主軸方位 N-3°-W	床面積(m²) 4.6		掲載 a589～592	
SI77	遺構図 93	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 5.7 東壁 5.3 南壁 5.7 西壁 5.2		出土遺物	遺物重量 古土器 12,534 g、土製品 128.3 g、焼成粘土塊 3.7g、石器 1,400 g、金属 12.4 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL17k	写真図版 78	重複 なし	カマド主軸方位 N-14°-E	床面積(m²) 26.6		掲　載 a593～597、c5・c9～11、e55～56	
SI78	遺構図 94	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.0 東壁 2.6 南壁 3.0 西壁 2.6		出土遺物	遺物重量 古土器 1,082 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL19i	写真図版 79	重複 SK134 より古	カマド主軸方位 N-15°-E	床面積(m²) 7.0		掲載なし	
SI79	遺構図 94, 95	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.2 東壁 3.5 南壁 3.2 西壁 3.5		出土遺物	遺物重量 古土器 1,018 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL19h	写真図版 80	重複 なし	カマド主軸方位 N-108°-E	床面積(m²) 9.5		掲載 a598	カマド 2 基
SI80	遺構図 95, 96	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 5.7 東壁 5.0 南壁 5.5 西壁 5.2		出土遺物	遺物重量 古土器 5,958 g、金属 5.9 g	特徴 カマド 2 基 床面中央焼成面
位置 6 区-1　ⅢL19k	写真図版 81	重複 なし	カマド主軸方位 N-11°-W	床面積(m²) 26.2		掲載 a599～605、e57	
SI81	遺構図 96, 97	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.3 東壁 4.1 南壁 4.4 西壁 3.9		出土遺物	遺物重量 古土器 8,115 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL19l	写真図版 82	重複 なし	カマド主軸方位 N-0°-E	床面積(m²) 15.1		掲載 a606～610	南壁際ピット内土器埋設
SI82	遺構図 97	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁(3.1)		出土遺物	遺物重量	特徴
位置 6 区-1　ⅢL20o	写真図版 83	重複 なし	カマド主軸方位 N-16°-W	床面積(m²) 〈3.6〉		なし	遺構全体削平
SI83	遺構図 97	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.7 東壁 3.1 南壁 3.6 西壁 3.3		出土遺物	遺物重量 古土器 385 g	特徴
位置 6 区-1　ⅣL1l	写真図版 83	重複 なし	カマド主軸方位 N-2°-E	床面積(m²) 9.9		掲載なし	
SI84	遺構図 98	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.9 東壁 4.4 南壁 4.4 西壁 4.5		出土遺物	遺物重量 古土器 2,470 g、焼成粘土塊 28.0 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL19n	写真図版 84	重複 なし	カマド主軸方位 N-16°-E	床面積(m²) 19.1		掲載 a611～615	
SI85	遺構図 98	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.1 西壁 3.1 南壁 3.4 東壁 3.4		出土遺物	遺物重量 古土器 847 g	特徴
位置 6 区-1　ⅣL3r	写真図版 85	重複 なし	カマド主軸方位 計測不能	床面積(m²) 8.8		掲載なし	煙道未検出

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（8）

SI86	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	99	Ⅴ層上面	北壁 4.2 東壁 4.9 南壁 4.4 西壁 4.7			古土器 2,406 g、焼成粘土塊 18.9 g、石器 80.3 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a616～621	
6 区-1　ⅢL3t	85, 86	なし	N-4°-E	18.2			
SI87	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	100	Ⅲ層上面	東壁 3.6			古土器 1,350 g、金属 31.0 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a622～625、e58	
6 区-1　ⅣM2b	86	なし	N-130°-E	〈3.9〉			
SI88	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	100	Ⅴ層上面	北壁 5.2 東壁 4.2 南壁 5.0 西壁 4.2			古土器 1,406 g、焼成粘土塊 4.4 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載なし	
5 区-1　ⅢL20e	87	なし	N-4°-E	19.1			
SI89	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	101, 102	Ⅴ層上面	北壁 8.1 東壁 7.7 南壁 7.9 西壁 8.0			古土器 5,306 g、金属 54.5 g	南東部主柱穴壁際 床面中央並列溝
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a626～631、c59	
5 区-1　ⅢL19h	88	なし	N-4°-W	39.0			
SI90	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	103, 104	Ⅴ層上面	北壁 8.0 東壁 7.9 南壁 7.8 西壁 7.7			古土器 18,300 g、石器 416.3 g、金属 4 9g	南東部床面炭化物焼土ブロック分布 カマド袖角礫多数埋め込み
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a632～661、e90、d34	
5 区-1　ⅢL18e	89	SD25 より古 SI107 より新	N-1°-W	58.0			
SI91	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	105	Ⅴ層上面	北壁 4.0 東壁 4.8 南壁 4.1 西壁 4.0			古土器 896 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載なし	
6 区-1　ⅣM5d	90	なし	N-7°-E	15.0			
SI92	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	105, 106	Ⅲ層上面	北壁 5.2 東壁 5.8 南壁 4.5 西壁 5.6			古土器 7,175 g、縄・弥土器 1 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a662～664	カマド 2 基
4 区-2　ⅢK12b	91	なし	N-115°-E	25.6			
SI93	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	106	Ⅲ層上面	北壁(4.7) 東壁(4.1) 南壁 4.3 西壁 4.0			古土器 2,698 g、鉄滓 284.2 g、羽口 11.3 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a665～667、l5	煙道未検出
4 区-2　ⅢK13i	92	SD18 より古	N-20°-W	〈14.7〉			
SI94	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	107	Ⅲ層上面	北壁 4.0 東壁 3.9 南壁 3.9 西壁 3.8			古土器 4,571 g、焼成粘土塊 33.9 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a668～676	堆積土下部洪水堆積層
6 区-1　ⅣM4a	93	なし	N-98°-E	13.7			
SI95	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	108	Ⅴ層上面	北壁 7.2 東壁 6.9 南壁 6.4 西壁 6.9			古土器 21,496 g、焼成粘土塊 33.9 g、石器 37.6 g、金属 73.3 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a677～693、e61～63	
6 区-1　ⅣM6h	94	SK177 より古 SI96 より新	N-14°-E	42.3			
SI96	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	109	Ⅴ層上面	北壁 3.4			古土器 950 g	
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載なし	
6 区-1　ⅣM6i	95	SI95 より古	N-11°-E	〈8.0〉			
SI97	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	109	Ⅴ層上面	計測不能				
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		なし	東壁際一部のみ検出
6 区-1　ⅣM5i	95	なし					
SI98	遺構図	検出面	平面規模(m)		出土遺物	遺物重量	特徴
	110, 111	Ⅴ層上面	北壁 8.5 東壁 7.9 南壁 8.3 西壁 8.4			古土器 42,633 g、焼成粘土塊 4.5 g、石器 81.7 g、金属 40.4 g	堆積土中位洪水堆積層 カマド 2 基 床面中央並列溝
位置	写真図版	重複	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載 a696～713、e64～67	
6 区-1　ⅣM7j	96	SK136 より古	N-14°-W	59.2			

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（9）

SI99	遺構図 112, 113	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 8.1 東壁 8.3 南壁 9.0 西壁 8.3		出土遺物	遺物重量 古土器 130,016 g、焼成粘土塊 2.5 g、石器 6,514.1 g、金属 115.5 g	特徴 堆積土中位洪水堆積層 堆積土下部遺物多量 焼土ブロック・獣骨・炭化材含む
位置 6 区-1　ⅣM7f	写真図版 97, 98	重複 SX73・79・87 より古 SX95 より新	カマド主軸方位 N-1°-W	床面積(m²) 64.6		掲載 a714～805、d35・36・60～62・64、e68～73	
SI102	遺構図 114	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁(2.4) 東壁 4.5 南壁 3.5 西壁(4.7)		出土遺物	遺物重量 古土器 310 g	特徴 堆積土中位テフラブロック
位置 5 区-1　ⅢK15q	写真図版 なし	重複 SI109 より古	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈8.9〉		掲載なし	
SI103	遺構図 114	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.8 東壁 5.0 南壁 4.8 西壁 4.8		出土遺物	遺物重量 古土器 11,274 g、焼成粘土塊 2.4 g、金属 17.7 g	特徴
位置 6 区-1　ⅣM5c	写真図版 98	重複 なし	カマド主軸方位 N-1°-E	床面積(m²) 20.0		掲載 a806～811、e74	
SI104	遺構図 115	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 西壁 4.6		出土遺物	遺物重量 古土器 206 g	特徴 西壁際一部のみ検出
位置 4 区-2　ⅢK14f	写真図版 99	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈2.9〉		掲載 a812～813	
SI105	遺構図 115	検出面 Ⅲ層上面	平面規模(m) 西壁 4.4		出土遺物	遺物重量 古土器 700g、土製品 22.1 g、金属 4.5 g	特徴 西壁際一部のみ検出
位置 4 区-2　ⅢK13c	写真図版 99	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈3.4〉		掲載 a814、c42、e75	
SI106	遺構図 115	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 2.1 東壁 2.2 南壁 1.9 西壁 2.2		出土遺物	遺物重量 古土器 142 g	特徴
位置 6 区-1　ⅢL18j	写真図版 100	重複 なし	カマド主軸方位 N-100°-E	床面積(m²) 4.0		掲載なし	
SI107	遺構図 116	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.5 東壁(3.7) 南壁(3.6) 西壁(3.6)		出土遺物	遺物重量 古土器 934 g、焼成粘土塊 9.8 g	特徴
位置 5 区-1　ⅢL18d	写真図版 100, 101	重複 SI90・SD25 より古	カマド主軸方位 N-5°-E	床面積(m²) 10.8		掲載 a815～817	
SI108	遺構図 116	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.8 東壁 3.3 南壁 3.6 西壁 3.3		出土遺物	遺物重量 古土器 589 g	特徴
位置 5 区-2　ⅢK11k	写真図版 101, 102	重複 SI111 より新	カマド主軸方位 N-15°-E	床面積(m²) 11.5		掲載 a818	
SI109	遺構図 117	検出面 SI61 床面	平面規模(m) 計測不能		出土遺物	遺物重量 古土器 75 g	特徴 カマド部分のみ検出
位置 5 区-1　ⅢL18d	写真図版 102	重複 SI61 より古	カマド主軸方位	床面積(m²)		掲載なし	
SI110	遺構図 117, 118	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北西壁 5.2 北東壁 5.0 南東壁 5.0 南西壁 4.9		出土遺物	遺物重量 古土器 11,401 g、土製品 35.5 g、石器 18.5 g	特徴
位置 5 区-2　ⅢK13k	写真図版 102・103	重複 SD26 より古	カマド主軸方位 N-41°-W	床面積(m²) 〈22.6〉		掲載 a819～827、c8、d71	
SI111	遺構図 118	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北西壁 3.3		出土遺物	遺物重量 古土器 44 g	特徴
位置 5 区-2　ⅢK12l	写真図版 103	重複 SI108・SD23 より古	カマド主軸方位 N-28°-W	床面積(m²) 〈7.7〉		掲載なし	
SI113	遺構図 118	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 計測不能		出土遺物	遺物重量	特徴
位置 6 区-1　ⅣM8n	写真図版 103	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈0.6〉		掲載なし	

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（10）

SI114	遺構図 119	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁〈3.5〉南壁〈3.7〉西壁 5.2		出土遺物	遺物重量 古土器 5,273 g、石器 1.7 g、金属 76.3 g	特徴
位置 5 区-3　ⅣM11i	写真図版 103	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈18.2〉		掲載 a828～838、e76	
SI115	遺構図 119	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.8 東壁 4.1 南壁 4.5 西壁 3.1		出土遺物	遺物重量 古土器 9,091 g、焼成粘土塊 52.1 g、縄・弥生器 5 g	特徴 平面形台形 カマド 2 基
位置 5 区-3　ⅣM10k	写真図版 104	重複 なし	カマド主軸方位 N-109°-E	床面積(m²) 9.9		掲載 a839～842	
SI116	遺構図 120	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.1 東壁 3.0 南壁 2.9 西壁 3.3		出土遺物	遺物重量 古土器 8,999 g	特徴
位置 6 区-2　ⅣL7s	写真図版 104, 105	重複 なし	カマド主軸方位 N-6°-E	床面積(m²) 8.9		掲載 a843～851	
SI117	遺構図 120	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.4 東壁 3.4 南壁 3.8 西壁 3.7		出土遺物	遺物重量 古土器 74 g	特徴
位置 6 区-2　ⅣL6r	写真図版 105	重複 SX85・86 より古	カマド主軸方位 N-31°-W	床面積(m²) 13.2		掲載なし	
SI118	遺構図 121, 122	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.7 東壁 4.4 南壁 4.5 西壁 4.4		出土遺物	遺物重量 古土器 8,253 g、土製品 2.4g、金属 264.55 g	特徴 カマド 2 基
位置 6 区-2　ⅣL5s	写真図版 106	重複 なし	カマド主軸方位 N-6°-E	床面積(m²) 19.5		掲載 a852～865、c14、e77～84	
SI119	遺構図 122	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.9 東壁 3.7 南壁 3.8 西壁 3.5		出土遺物	遺物重量 古土器 1,505 g、土製品 80.6 g	特徴
位置 6 区-2　ⅣL4p	写真図版 107	重複 なし	カマド主軸方位 N-9°-W	床面積(m²) 12.6		掲載 a866～868、c6	
SI120	遺構図 123, 124	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 7.9 東壁 7.4 南壁 7.8 西壁 7.5		出土遺物	遺物重量 古土器 17,984 g	特徴 堆積土上部洪水堆積層 カマド 2 基 南東部主柱穴壁際
位置 6 区-2　ⅣL3n	写真図版 108	重複 なし	カマド主軸方位 N-112°-E	床面積(m²) 53.4		掲載 a869～886	
SI121	遺構図 124, 125	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 8.0 東壁 7.7 南壁 8.2 西壁 7.7		出土遺物	遺物重量 古土器 19,076 g、焼成粘土塊 7.5 g、金属 196.6 g	特徴 南東部主柱穴壁際
位置 6 区-2　ⅣL3l	写真図版 109	重複 なし	カマド主軸方位 N-4°-W	床面積(m²) 60.7		掲載 a887～909、e85	
SI122	遺構図 126	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 南壁〈4.5〉西壁〈4.2〉		出土遺物	遺物重量 古土器 5,576 g	特徴 堆積土上部洪水堆積層
位置 6 区-2　ⅣM11l	写真図版 110	重複 なし	カマド主軸方位	床面積(m²) 〈17.1〉		掲載 a910～917	
SI123	遺構図 126	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 南壁 2.8		出土遺物	遺物重量 古土器 292 g	特徴 遺構全体削平 南カマド
位置 6 区-2　ⅣL2k	写真図版 110	重複 なし	カマド主軸方位 N-5°-E	床面積(m²) 〈3.3〉		掲載なし	
SI124	遺構図 127	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 4.0 東壁 4.5 南壁 3.9 西壁 4.0		出土遺物	遺物重量 古土器 3,944 g	特徴
位置 5 区-3　ⅣL2j	写真図版 111	重複 なし	カマド主軸方位 N-10°-W	床面積(m²) 14.4		掲載 a918～921	
SI125	遺構図 128	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 南壁 1.4 西壁 4.2		出土遺物	遺物重量 古土器 1,971 g	特徴 煙道側壁石組
位置 5 区-3　ⅣL3h	写真図版 112	重複 なし	カマド主軸方位 N-6°-W	床面積(m²) 〈8.5〉		掲載 a922～923	
SI126	遺構図 129	検出面 Ⅴ層上面	平面規模(m) 北壁 3.8 東壁 3.6 南壁 3.9 西壁 3.8		出土遺物	遺物重量 古土器 4,976 g、土製品 4.8 g	特徴 カマド 2 基
位置 5 区-3　ⅣL1d	写真図版 113	重複 なし	カマド主軸方位 N-1°-W	床面積(m²) 13.3		掲載 a924～928、c16	

第 4 表　古代竪穴住居跡一覧（11）

SI127	遺構図 130	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 3.0 東壁 2.7 南壁 2.4 西壁 2.8		出土遺物	遺物重量 古土器 692 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢL17b	写真図版 114	重複 なし	カマド主軸方位 N-31°-W	床面積（m²） 6.9		掲載 a929～934	床面中央焼成面
SI128	遺構図 130, 131	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁 4.8 南壁 5.5		出土遺物	遺物重量 古土器 6,313 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK18s	写真図版 115	重複 SI131 より古	カマド主軸方位 N-2°-W	床面積（m²） 〈20.0〉		掲載 a935～936	カマド脇床面遺物多量
SI129	遺構図 131	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 南西壁 3.3 北西壁 3.4		出土遺物	遺物重量 古土器 935 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK19s	写真図版 116	重複 SI130 より古	カマド主軸方位 N-40°-W	床面積（m²） 〈9.0〉		掲載 a937～938	
SI130	遺構図 132	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 西壁 3.1		出土遺物	遺物重量 古土器 694 g、金属 695.49 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK19s	写真図版 117	重複 SI129 より新	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈3.1〉		掲載 a939～942、e86～89	西壁際一部のみ検出
SI131	遺構図 132	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 3.9 東壁 3.9 南壁 3.5 西壁 3.4		出土遺物	遺物重量 古土器 814 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK17s	写真図版 118	重複 なし	カマド主軸方位 N-11°-E	床面積（m²） 12.1		掲載 a943～944	堆積土上部洪水堆積層
SI132	遺構図 133	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 2.8 東壁 2.6 南壁 2.7 西壁 2.8		出土遺物	遺物重量 古土器 1,853 g、土製品 53.1 g、焼成粘土塊 8.5 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK17q	写真図版 119	重複 なし	カマド主軸方位 N-1°-E	床面積（m²） 6.6		掲載 a945～946、c7	
SI133	遺構図 134	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 5.4 東壁 4.9 南壁 5.1 西壁 5.0		出土遺物	遺物重量 古土器 1,985 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK16q	写真図版 120	重複 SI134 より古	カマド主軸方位 N-9°-E	床面積（m²） 24.0		掲載 a133	堆積土上部洪水堆積層
SI134	遺構図 135	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 4.8 東壁 4.9		出土遺物	遺物重量 古土器 1,224 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK16p	写真図版 121	重複 SI133 より新	カマド主軸方位 N-20°-E	床面積（m²） 〈11.5〉		掲載 a948～950	遺構全体削平 カマド 2 基
SI135	遺構図 136, 137	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 北壁 7.8 西壁 8.5		出土遺物	遺物重量 古土器 21,185 g、焼成粘土塊 3.8 g、石器 2,035.8 g、金属 207.03 g、縄・弥土器 15 g	特徴 堆積土上部洪水堆積層 床面遺物多量
位置 5 区-3　ⅢK16n	写真図版 121, 122	重複 SX90・91・94 より古	カマド主軸方位 N-10°-E	床面積（m²） 〈56.9〉		掲載 a951～973、e90～92、d63・65・66	
SI136	遺構図 135	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 西壁 4.6		出土遺物	遺物重量 古土器 4,663 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK16k	写真図版 122	重複 SD23 より古	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈11.4〉		掲載 a974～979	
SI137	遺構図 —	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 計測不能		出土遺物	遺物重量 古土器 263 g	特徴
位置 5 区-3　ⅢK15o	写真図版 —	重複 なし	カマド主軸方位	床面積（m²）		掲載 a980	
SI138	遺構図 138	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 西壁 7.0		出土遺物	遺物重量 古土器 328 g	特徴
位置 6 区-2　ⅣL5m	写真図版 123	重複 なし	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈15.4〉		掲載なし	
SI139	遺構図 138	検出面 Ⅴ層上面	平面規模（m） 東壁 2.3		出土遺物	遺物重量 古土器 5 g	特徴
位置 6 区-2　ⅣL2m	写真図版 123	重複 なし	カマド主軸方位	床面積（m²） 〈3.2〉		掲載なし	

第 5 表　掘立柱建物跡・柱穴列一覧

SB01	遺構図 139・140	検出面 Ⅲ～Ⅳ層	規模 桁行 9.45 m(31.2 尺)	出土遺物	遺物重量： 古土器 57 g、 石・石製品 1000 g、 金属製品 102.8 g、 古銭 2.0 g、鉄滓 307 g、 羽口 281 g、坩堝 51.1 g 他	時期 12c 末～中世？
位置 3 区-2　ⅢI3p 他	写真図版 124・125	形式 桁行 4 間と推定	特徴 柱穴 5 個　柱間 2.3～2.49 m			備考・重複 鍛冶炉を伴う
SB02	遺構図 139・140	検出面 Ⅲ～Ⅳ層	規模 桁行 10.10 m(33.3 尺)	出土遺物		時期 12c 末～中世？
位置 3 区-2　ⅢI3p 他	写真図版 124・125	形式 桁行 5 間と推定	特徴 柱穴 5 個　柱間 1.8～2.36 m		掲載 e93～97、 g1、l6・7	備考・重複 鍛冶炉を伴う
SB03	遺構図 141	検出面 Ⅲ層	規模 4.6×5.7 m	出土遺物		時期 平安
位置 2 区-4　ⅡI17h 他	写真図版 126	形式 2×3 間	特徴 柱穴 10 個　柱間 1.8～2.4 m		なし	備考・重複 P1 が SK75 に切られる
SB04	遺構図 141	検出面 Ⅲ層	規模 4.4×4.0 m	出土遺物		時期 平安
位置 6 区-2　ⅣM7a 他	写真図版 126	形式 2×3 間	特徴 柱穴 11 個　柱間 1.1～2.3 m		なし	備考・重複 柱間が各列で異なる
SA01	遺構図 141	検出面 Ⅲ層	規模 –	出土遺物		時期
位置 2 区-4　ⅡI14b 他	写真図版 なし	形式 —	特徴 柱穴 5 個　柱間 1.7～2.1 m		なし	備考・重複

第 6 表　土坑一覧（1）

SK01	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴 南側の底面掘り込み深い。	平面規模(m) 2.36×0.86	出土遺物	遺物重量 古土器 12 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 古代以降
位置 2 区-1　ⅡH13d	写真図版 127	形状 楕円形		深さ(m) 0.28		掲載なし	重複
SK02	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.00×1.02	出土遺物	遺物重量 古土器 36 g、縄・弥土器 13 g	時期 古代以降
位置 2 区-1　ⅡH14g	写真図版 127	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.20		掲載なし	重複
SK03	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴 南側の底面局所的にやや深く掘りこまれる。	平面規模(m) 3.16×1.04	出土遺物	遺物重量 古土器 58 g	時期 古代以降
位置 3 区-1　ⅡI15j	写真図版 127	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.42		掲載なし	重複
SK04	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴 底面平坦。	平面規模(m) 1.47×0.60	出土遺物	遺物重量 古土器 33 g	時期 古代以降
位置 3 区-1　ⅡI17l	写真図版 127	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.15		掲載なし	重複
SK05	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴 底面ほぼ平坦。	平面規模(m) 0.98×0.78	出土遺物	遺物重量 古土器476 g、縄・弥土器9 g、土製品9.2 g	時期 古代以降
位置 3 区-1　ⅡI16k	写真図版 128	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.28		掲載 a981、c3	重複
SK06	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.35×1.16	出土遺物	遺物重量 古土器 135 g、石・石製品 4.3 g	時期 古代以降
位置 2 区-1　ⅡH7s	写真図版 128	形状 円形		深さ(m) 0.35		掲載なし	重複
SK07	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴 規模大きく、掘り込み深い。	平面規模(m) 2.57×2.54	出土遺物	遺物重量 古土器 928 g、縄・弥土器 183 g、石・石製品 8.7 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI2q	写真図版 128	形状 円形		深さ(m) 1.75		掲載なし	重複
SK08	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.46×1.23	出土遺物	遺物重量 古土器 174 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢI13q	写真図版 128	形状 楕円形		深さ(m) 0.26		掲載なし	重複

第 6 表　土坑一覧（2）

SK09	遺構図 142	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.92×0.78	出土遺物	遺物重量 古土器 1,217 g、縄・弥土器 28 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI20h	写真図版 129	形状 楕円形	底面平坦。	深さ（m） 0.44		掲載 a982～984	重複
SK11	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 長軸 0.70 m	出土遺物	遺物重量 古土器 107 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI20c	写真図版 129	形状 楕円形		深さ（m） 0.30		掲載なし	重複
SK12	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 2.04×1.93	出土遺物	遺物重量 古土器 127 g、縄・弥土器 12 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢJ3a	写真図版 129	形状 円形	規模大きく、掘り込み深い。	深さ（m） 1.52		掲載なし	重複
SK13	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.27×0.54	出土遺物	遺物重量 古土器 278 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI20i	写真図版 129	形状 楕円形		深さ（m） 0.57		掲載　a985	重複
SK14	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.11×0.61	出土遺物	遺物重量 古土器 267 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI19h	写真図版 130	形状 楕円形		深さ（m） 0.52		掲載なし	重複
SK15	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.18×1.26	出土遺物	遺物重量 古土器 395 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI19h	写真図版 130	形状 円形		深さ（m） 0.06		掲載なし	重複 南側を攪乱に切られる。
SK16	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.65×0.48	出土遺物	遺物重量 古土器 4 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢI4t	写真図版 130	形状 楕円形	底面平坦。	深さ（m） 0.10		掲載なし	重複
SK17	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.57×1.31	出土遺物	遺物重量 古土器 2,455 g、縄・弥土器 8 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅡI19j	写真図版 130	形状 円形	規模やや大きく、掘り込み深い。	深さ（m） 1.47		掲載　a986～987	重複 北東側で SX19 と重複、これより新。
SK18	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.67×0.79	出土遺物	遺物重量 古土器 12 g、縄・弥土器 4 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅢI20j	写真図版 131	形状 隅丸長方形		深さ（m） 0.12		掲載なし	重複
SK19	遺構図 143	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.07×0.90	出土遺物	遺物重量 古土器 311 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI19b	写真図版 131	形状 円形	底面平坦。	深さ（m） 0.32		掲載なし	重複
SK20	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.89×0.56	出土遺物	遺物重量 古土器 36 g、金属製品 30.3 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI19a	写真図版 131	形状 楕円形		深さ（m） 0.19		掲載　e98	重複
SK21	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.31×0.94	出土遺物	遺物重量 古土器 358 g、縄・弥土器 6 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI19a	写真図版 131	形状 隅丸長方形		深さ（m） 0.26		掲載なし	重複
SK22	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.18×0.83	出土遺物	遺物重量 古土器 461 g、縄・弥土器 59 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI19a	写真図版 132	形状 隅丸長方形		深さ（m） 0.30		掲載　a988	重複

第6表　土坑一覧（3）

SK23	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.04×0.97	出土遺物	遺物重量 古土器 79 g、縄・弥土器 41 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI19c	写真図版 132	形状 円形		深さ（m） 0.23		掲載なし	重複
SK24	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.84×0.88	出土遺物	遺物重量 古土器 430 g、縄・弥土器 3 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI20c	写真図版 132	形状 楕円形		深さ（m） 0.22		掲載なし	重複
SK25	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.18×0.78	出土遺物	遺物重量 古土器 61 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI18b	写真図版 132	形状 楕円形		深さ（m） 0.12		掲載なし	重複
SK26	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.78×0.44	出土遺物	遺物重量 古土器 57 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI20b	写真図版 133	形状 円形		深さ（m） 0.14		掲載なし	重複 東半調査区域外。
SK27	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.90×0.56	出土遺物	遺物重量 古土器 70 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI19b	写真図版 133	形状 楕円形		深さ（m） 0.24		掲載なし	重複
SK28	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.67×0.50	出土遺物	遺物重量 古土器 59 g、縄・弥土器 18 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI19b	写真図版 133	形状 楕円形		深さ（m） 0.25		掲載なし	重複
SK29	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.77×0.89	出土遺物	遺物重量 古土器 85 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡI19c	写真図版 133	形状 楕円形		深さ（m） 0.18		掲載　a989	重複
SK30	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.03×0.39	出土遺物	遺物重量 古土器 38 g	時期 古代以降
位置 3区-2　ⅢI13q	写真図版 134	形状 楕円形		深さ（m） 0.35		掲載なし	重複 北側でSI19と重複、これより新しい。
SK31	遺構図 144	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.69×0.57	出土遺物	遺物重量 古土器 217 g、縄・弥土器 24 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡH16s	写真図版 134	形状 円形		深さ（m） 0.54		掲載なし	重複
SK32	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.97×0.56	出土遺物	遺物重量 古土器 241 g、縄・弥土器 29 g	時期 古代以降
位置 2区-3　ⅡH18t	写真図版 134	形状 隅丸方形？		深さ（m） 0.07		掲載なし	重複 北側をトレンチに切られる。
SK33	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 2.55×0.52	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2区-2　ⅡH9m	写真図版 134	形状 長楕円形		深さ（m） 0.30		なし	重複
SK34	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.93×0.60	出土遺物	遺物重量 古土器 73 g	時期 古代以降
位置 2区-2　ⅡH9m	写真図版 134	形状 長楕円形		深さ（m） 0.27		掲載なし	重複
SK36	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.97×1.81	出土遺物	遺物重量 古土器 263 g、縄・弥土器 4 g	時期 古代以降
位置 2区-2　ⅡH10n	写真図版 135	形状 不整形		深さ（m） 0.67		掲載なし	重複

第 6 表　土坑一覧（4）

SK37	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴 規模大きく、掘り込み深い。	平面規模(m) 2.20×2.09	出土遺物	遺物重量 古土器 230 g、縄・弥土器 15 g	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅢJ1a	写真図版 135	形状 円形		深さ(m) 1.63		掲載なし	重複
SK38	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.72×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 62 g	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅢJ2a	写真図版 135	形状 不整形		深さ(m) 0.15		掲載なし	重複 東半部削平
SK40	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴 柱穴状小土坑か？底面凹凸顕著。	平面規模(m) 1.57×0.92	出土遺物	遺物重量 古土器 754 g、縄・弥土器 4 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI17a	写真図版 135	形状 不整形		深さ(m) 0.46		掲載　a990	重複
SK41	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.94×0.39	出土遺物	遺物重量 古土器 18 g、縄・弥土器 10 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH7m	写真図版 136	形状 楕円形		深さ(m) 0.24		掲載なし	重複
SK42	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.01×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 10 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH9l	写真図版 136	形状 楕円形		深さ(m) 0.41		掲載なし	重複
SK43	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.44×0.51	出土遺物	遺物重量 古土器 15 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH7l	写真図版 136	形状 長楕円形		深さ(m) 0.61		掲載なし	重複
SK44	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.30×1.02	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH8l	写真図版 136	形状 円形		深さ(m) 0.43		なし	重複
SK45	遺構図 145	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.68×0.63	出土遺物	遺物重量 縄・弥土器 64 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH10o	写真図版 137	形状 長楕円形		深さ(m) 0.33		掲載なし	重複
SK46	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.87×0.42	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 2 区-2　ⅡH9n	写真図版 137	形状 円形		深さ(m) 0.45		なし	重複 西側で SX39 と重複、これより古。
SK47	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.32×0.97	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅢJ2g	写真図版 137	形状 円形		深さ(m) 0.25		なし	重複 西側調査区域外。
SK48	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.33×1.24	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅢJ2f	写真図版 137	形状 円形		深さ(m) 0.36		なし	重複
SK49	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.09×1.09	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅢJ3g	写真図版 138	形状 隅丸方形		深さ(m) 0.65		なし	重複
SK50	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.90×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 50 g、石・石製品 7.4 g、鉄滓 2.3 g	時期 古代以降
位置 3 区-3　ⅡI19o	写真図版 138	形状 楕円形		深さ(m) 0.36		掲載なし	重複

第6表　土坑一覧（5）

SK52	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.85×0.67	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2区-2　ⅡH9g	写真図版 138	形状 楕円形		深さ(m) 0.39		なし	重複
SK53	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.81×1.29	出土遺物	遺物重量 古土器 83 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI15g	写真図版 138	形状 楕円形		深さ(m) 0.23		掲載なし	重複
SK54	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.21×1.00	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI15g	写真図版 139	形状 楕円形		深さ(m) 0.32		なし	重複
SK55	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.88×0.69	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI16a	写真図版 139	形状 楕円形		深さ(m) 0.38		なし	重複
SK56	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.93×0.41	出土遺物	遺物重量 古土器 48 g、縄・弥土器 8 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI14c	写真図版 139	形状 楕円形	柱穴状小土坑か？	深さ(m) 0.53		掲載なし	重複
SK57	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.25×0.65	出土遺物	遺物重量 古土器 9 g、縄・弥土器 2 g、鉄滓 2.8 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡH13s	写真図版 140	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.08		掲載なし	重複
SK58	遺構図 146	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.81×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 2 g、縄・弥土器 17 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI14b	写真図版 140	形状 長楕円形		深さ(m) 0.13		掲載なし	重複
SK59	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.04×0.83	出土遺物	遺物重量 古土器 322 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡH15t	写真図版 140	形状 円形		深さ(m) 0.28		掲載なし	重複
SK60	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.79×0.53	出土遺物	遺物重量 古土器 55 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡH16t	写真図版 140	形状 隅丸三角形		深さ(m) 0.11		掲載なし	重複
SK62	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.39×1.15	出土遺物	遺物重量 古土器 179 g、縄・弥土器 40 g、石・石製品 3.9 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI16a	写真図版 141	形状 円形		深さ(m) 0.23		掲載　d4	重複
SK65	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2	出土遺物	遺物重量 古土器 1,697 g、縄・弥土器 131 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡH16s	写真図版 141	形状 不明		深さ(m) 0.35		掲載　a991、b5	重複 西側掘り過ぎ、東側削平。
SK66	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.01×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 7 g、鉄滓 19.1 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡH16t	写真図版 141	形状 楕円形		深さ(m) 0.35		掲載なし	重複
SK67	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.37×0.78	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI16c	写真図版 141	形状 楕円形		深さ(m) 0.41		なし	重複 SI23
SK68	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.67×0.57	出土遺物	遺物重量 古土器 174 g	時期 古代以降
位置 2区-4　ⅡI14b	写真図版 142	形状 円形		深さ(m) 0.34		掲載なし	重複

第 6 表　土坑一覧（6）

SK69	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.19×0.95	出土遺物	遺物重量 古土器 157 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢJ5t	写真図版 142	形状 隅丸方形		深さ（m） 0.23		掲載なし	重複
SK70	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.70×0.44	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI16b	写真図版 142	形状 楕円形		深さ（m） 0.23		なし	重複
SK71	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.66×0.32	出土遺物	遺物重量 古土器 32 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢJ5n	写真図版 142	形状 不明		深さ（m） 0.28		掲載なし	重複 東側攪乱に切られる。
SK72	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴 底面凹凸。	平面規模（m） 1.78×1.06	出土遺物	遺物重量 古土器 1,924 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢI9f	写真図版 143	形状 隅丸長方形		深さ（m） 0.93		掲載なし	重複
SK73	遺構図 147	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.57×0.89	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢI9f	写真図版 143	形状 楕円形		深さ（m） 0.17		なし	重複
SK74	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.85×1.11	出土遺物	遺物重量 古土器 36 g、縄・弥土器 42 g	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI11b	写真図版 143	形状 楕円形		深さ（m） 0.93		掲載　b4	重複
SK75	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.58×0.99	出土遺物	遺物重量 古土器 161 g、縄・弥土器 45 g、金属製品 2.4 g	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI17g	写真図版 143	形状 楕円形		深さ（m） 0.35		掲載　e99	重複
SK76	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.18×0.92	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI15e	写真図版 144	形状 楕円形		深さ（m） 0.29		なし	重複
SK78	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.74×0.55	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI17b	写真図版 144	形状 楕円形		深さ（m） 0.20		なし	重複
SK79	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 3.05×1.71	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 2 区-4　ⅡI15b	写真図版 144	形状 楕円形		深さ（m） 0.63		なし	重複
SK80	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.79×0.67	出土遺物	遺物重量 古土器 8 g	時期 古代以降
位置 1 区　ⅡH9e	写真図版 144	形状 円形		深さ（m） 0.32		掲載なし	重複
SK81	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.74×0.67	出土遺物	遺物重量 古土器 320 g、焼成粘土塊 25.4 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢI9j	写真図版 145	形状 楕円形		深さ（m） 0.59		掲載なし	重複
SK82	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.80×0.69	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢJ7l	写真図版 145	形状 円形		深さ（m） 0.21		なし	重複
SK83	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.64×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 152 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢJ5k	写真図版 145	形状 円形		深さ（m） 0.18		掲載　a992	重複

第6表　土坑一覧（7）

SK84	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.70×0.63	出土遺物	遺物重量 古土器 16 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ5k	写真図版 145	形状 円形		深さ(m) 0.20		掲載なし	重複
SK85	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.58×0.42	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ6l	写真図版 146	形状 円形		深さ(m) 0.20		なし	重複
SK86	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.96×0.90	出土遺物	遺物重量 古土器 850 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ6l	写真図版 146	形状 不整形		深さ(m) 0.22		掲載　a993～996	重複
SK87	遺構図 148	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.04×0.77	出土遺物	遺物重量 古土器 67 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ5k	写真図版 146	形状 楕円形		深さ(m) 0.25		掲載なし	重複
SK88	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.84×0.53	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 4区-1　ⅢI8g	写真図版 146	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.09		なし	重複 SN21と重複、これより古。
SK89	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴 北東側底面の掘り込み深い。	平面規模(m) 1.74×0.85	出土遺物	遺物重量 古土器 405 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ5m	写真図版 146	形状 楕円形		深さ(m) 0.65		掲載なし	重複
SK90	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.00×1.03	出土遺物	遺物重量 古土器 154 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ7p	写真図版 147	形状 楕円形		深さ(m) 0.67		掲載なし	重複
SK91	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.17×0.72	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ6m	写真図版 147	形状 不整形		深さ(m) 0.27		なし	重複
SK92	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.55×1.51	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ8p	写真図版 147	形状 楕円形	底面凹凸。	深さ(m) 0.47		なし	重複
SK93	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.34×0.74	出土遺物	遺物重量 古土器 218 g	時期 古代
位置 4区-1　ⅢJ6l	写真図版 147	形状 不整形		深さ(m) 0.30		掲載なし	重複 南側でSK154と重複、これより古。
SK94	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.44×1.06	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢK12p	写真図版 148	形状 隅丸長方形	底面平坦。	深さ(m) 0.10		なし	重複
SK95	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.24×0.44	出土遺物	遺物重量 古土器 142 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢK12s	写真図版 148	形状 円形		深さ(m) 0.30		掲載なし	重複 西半調査区域外。
SK96	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.56×0.93	出土遺物	遺物重量 古土器 23 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL17e	写真図版 148	形状 楕円形	底面凹凸。	深さ(m) 0.15		掲載なし	重複

第6表　土坑一覧（8）

SK97	遺構図 149	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.73×1.54	出土遺物	遺物重量 古土器 48 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL16f	写真図版 148	形状 円形		深さ(m) 0.26		掲載なし	重複
SK98	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.80×1.22	出土遺物	遺物重量 古土器 24 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL17g	写真図版 149	形状 楕円形		深さ(m) 0.65		掲載なし	重複
SK99	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.83×1.17	出土遺物	遺物重量 古土器 53 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL17g	写真図版 149	形状 楕円形		深さ(m) 0.83		掲載なし	重複
SK100	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.52×1.09	出土遺物	遺物重量 古土器 2,001 g、縄・弥土器 39 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ4k	写真図版 149	形状 不整形		深さ(m) 0.31		掲載なし	重複 北西側で SK156 と重複、これより新。
SK101	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.35×0.84	出土遺物	遺物重量 古土器 132 g	時期 古代
位置 4区-1　ⅢJ4k	写真図版 149	形状 楕円形		深さ(m) 0.25		掲載なし	重複 南東側で SI51 と重複、これより古。
SK103	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.79×0.65	出土遺物	遺物重量 古土器 90 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ4k	写真図版 150	形状 楕円形		深さ(m) 0.25		掲載なし	重複 西側で SK156 と重複、これより新。
SK104	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.74×1.01	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL13b	写真図版 150	形状 楕円形	底面凹凸。	深さ(m) 0.21		なし	重複
SK105	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 0.78×0.69	出土遺物	遺物重量 古土器 894 g	時期 古代
位置 5区-1　ⅢL14e	写真図版 150	形状 円形	SK106 と一連のものか？	深さ(m) 0.44		掲載なし	重複 西側で SK106 と重複、これより古。
SK106	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴 東壁中央部にステップ状の張り出し。張り出しの両側にピット状の掘り込みを持つ。底面ほぼ平坦。	平面規模(m) 2.12×1.38	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL14e	写真図版 150	形状 隅丸方形		深さ(m) 0.48		なし	重複 東側で SK105 と重複、これより新。西側調査区域外。
SK107	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.84×1.41	出土遺物	遺物重量 古土器 85 g、縄・弥土器 11 g	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅢK17g	写真図版 150	形状 楕円形		深さ(m) 0.78		掲載なし	重複
SK108	遺構図 150	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.85×1.40	出土遺物	遺物重量 古土器 155 g	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅢL18g	写真図版 151	形状 楕円形		深さ(m) 0.96		掲載なし	重複
SK110	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.96×1.76	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM3d	写真図版 151	形状 円形	底面平坦。	深さ(m) 0.15		なし	重複
SK111	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.26×1.08	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM3d	写真図版 151	形状 円形		深さ(m) 0.11		なし	重複

第6表　土坑一覧（9）

SK112	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.93×0.96	出土遺物	遺物重量 古土器 974 g	時期 古代以降
位置 4区-2　ⅢJ9n	写真図版 151	形状 楕円形	底面凹凸。	深さ(m) 0.56		掲載なし	重複
SK113	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 3.23×0.83	出土遺物	遺物重量 古土器 189 g	時期 古代以降
位置 4区-2　ⅢJ10r	写真図版 152	形状 長楕円形	底面平坦。	深さ(m) 0.44		掲載なし	重複
SK114	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.76×1.10	出土遺物	遺物重量 古土器 1,061 g	時期 古代以降
位置 4区-2　ⅢK13e	写真図版 152	形状 隅丸長方形	底面凹凸あり。	深さ(m) 0.36		掲載なし	重複
SK115	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 3.24×1.21	出土遺物	遺物重量 古土器 16 g	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM4f	写真図版 152	形状 長楕円形		深さ(m) 0.53		掲載なし	重複
SK116	遺構図 151	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.85×1.41	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM5f	写真図版 152	形状 楕円形		深さ(m) 0.04		なし	重複
SK117	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.69×1.33	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM6h	写真図版 なし	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.19		なし	重複
SK127	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.82×0.62	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣM6f	写真図版 153	形状 長楕円形		深さ(m) 0.14		なし	重複
SK128	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.49×1.22	出土遺物	遺物重量 古土器 410 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL16e	写真図版 153	形状 楕円形		深さ(m) 0.62		掲載　a997～998	重複
SK129	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.25×1.64	出土遺物	遺物重量 古土器 107 g	時期 古代
位置 4区-2　ⅢK15i	写真図版 153	形状 不整形		深さ(m) 1.26		掲載なし	重複 南側でSD18と重複、これより古。
SK130	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.31×0.73	出土遺物	遺物重量 古土器 719 g	時期 古代以降
位置 4区-2　ⅢK12d	写真図版 153	形状 楕円形		深さ(m) 0.20		掲載なし	重複
SK131	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.62×0.49	出土遺物	遺物重量 古土器 1,834 g	時期 古代以降
位置 4区-2　ⅢK12d	写真図版 154	形状 長楕円形		深さ(m) 0.55		掲載　a999	重複
SK134	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.14×1.92	出土遺物	遺物重量 古土器 1,829 g、金属製品 143.3 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL19g	写真図版 154	形状 円形		深さ(m) 1.08		掲載　a1000～1001、e100～101	重複
SK136	遺構図 152	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.15×1.24	出土遺物	遺物重量 古土器 574 g	時期 古代以降
位置 6区-1　ⅣL5j	写真図版 154	形状 隅丸長方形		深さ(m) 0.33		掲載なし	重複

第 6 表　土坑一覧（10）

SK138	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴 南側底面の掘り込み深い。	平面規模（m） 1.29×0.52	出土遺物	遺物重量 古土器 293 g、焼成粘土塊 2.9 g	時期 古代以降
位置 6 区-1　ⅣL1p	写真図版 154	形状 不整形		深さ（m） 0.73		掲載なし	重複
SK139	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 2.67×2.49	出土遺物	遺物重量 古土器 152 g	時期 古代
位置 5 区-2　ⅢK10k	写真図版 155	形状 円形		深さ（m） 0.80		掲載なし	重複 北側で SD26、南側で SD18 と重複。SD26 より古、SD18 より新。
SK140	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴 底面凹凸。	平面規模（m） 1.22×0.80	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 5 区-1　ⅢL18f	写真図版 155	形状 楕円形		深さ（m） 0.19		なし	重複
SK141	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.13×0.76	出土遺物	遺物重量 古土器 45 g	時期 古代以降
位置 6 区-1　ⅣM7l	写真図版 155	形状 楕円形		深さ（m） 0.22		掲載なし	重複
SK142	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.37×0.66	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 6 区-1　ⅣM7l	写真図版 155	形状 楕円形		深さ（m） 0.18		なし	重複 SX71 と重複、これより新。
SK143	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 長軸 0.80	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢJ3d	写真図版 156	形状 楕円形		深さ（m） 0.31		なし	重複 西側と東側を撹乱に切られる。
SK144	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 0.91×0.59	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢI4t	写真図版 156	形状 楕円形		深さ（m） 0.53		なし	重複 SX25 と重複、これより新。
SK145	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.77×1.36	出土遺物	遺物重量 縄・弥土器 15 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢI4t	写真図版 156	形状 楕円形		深さ（m） 0.55		掲載なし	重複
SK146	遺構図 153	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.25×0.97	出土遺物	遺物重量 古土器 782 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI18b	写真図版 156	形状 不整形		深さ（m） 0.17		掲載　a1002～1003	重複 SI22 と重複、これより古。
SK147	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模（m） 1.44×0.60	出土遺物	遺物重量 古土器 351 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH9n	写真図版 157	形状 長楕円形		深さ（m） 0.54		掲載　a1004	重複
SK148	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴 東側底面の掘り込み深い。	平面規模（m） 2.04×0.75	出土遺物	遺物重量 古土器 1,442 g、焼成粘土塊 57.8 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI18f	写真図版 157	形状 長楕円形		深さ（m） 0.72		掲載なし	重複
SK149	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴 北側底面の掘り込み深い。	平面規模（m） 1.90×0.81	出土遺物	遺物重量 古代土器 1,207 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI18f	写真図版 157	形状 長楕円形		深さ（m） 0.54		掲載　a1005	重複
SK150	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴 底面凹凸。	平面規模（m） 1.31×0.81	出土遺物	遺物重量 古土器 204 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH7l	写真図版 157	形状 隅丸方形		深さ（m） 0.11		掲載なし	重複

第6表　土坑一覧（11）

SK151	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.59×0.89	出土遺物	遺物重量 古土器少量	時期 古代以降
位置 2区-2　ⅡH7l	写真図版 158	形状 楕円形		深さ(m) 0.34		掲載なし	重複
SK152	遺構図 154	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.29×1.14	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ8t	写真図版 158	形状 円形	底面凹凸。	深さ(m) 0.21		なし	重複
SK154	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.23×1.27	出土遺物	遺物重量 古土器 6,747 g	時期 古代以降
位置 4区-1　ⅢJ6l	写真図版 158	形状 隅丸長方形	東側底面に副穴状の掘り込み。	深さ(m) 1.15		掲載なし	重複 北側でSK93と重複、これより新。
SK155	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.28×1.10	出土遺物	遺物重量 古土器 110 g	時期 古代以降
位置 5区-1　ⅢL17d	写真図版 158	形状 不整形	底面凹凸。	深さ(m) 0.22		掲載なし	重複
SK156	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 2.79×1.78	出土遺物	遺物重量 古土器 218 g	時期 古代
位置 4区-1　ⅢJ4k	写真図版 159	形状 不整形	底面凹凸。	深さ(m) 0.11		掲載なし	重複 南東側でSK100、東側でSK103と重複、これらより古。
SK157	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.30×1.17	出土遺物	遺物重量 古土器 42 g、石・石製品 39.5 g	時期 古代以降
位置 6区-2　ⅣM10k	写真図版 159	形状 円形		深さ(m) 0.17		掲載　a1010	重複
SK158	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.47×0.84	出土遺物	遺物重量 古土器 103 g	時期 古代以降
位置 6区-2　ⅣM6c	写真図版 159	形状 楕円形	底面に小さな凹凸。	深さ(m) 0.16		掲載なし	重複
SK159	遺構図 155	検出面 Ⅲ層	特徴	平面規模(m) 1.48×0.71	出土遺物	遺物重量 古土器 107 g	時期 古代以降
位置 5区-3　ⅢL17a	写真図版 159	形状 楕円形	北側底面に副穴状の掘り込み。	深さ(m) 0.68		掲載なし	重複

第7表　焼成遺構一覧（1）

SX01	遺構図 155	形状	焼成面	平面規模(m) 1.14×0.73	出土遺物	遺物重量 古土器 391g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安
位置 2区-1　ⅡH14e	写真図版 160	楕円形	奥壁・側壁・床 (前壁西側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.23			重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	
SX02	遺構図 155	形状	焼成面	平面規模(m) 1.73×0.94	出土遺物	遺物重量 古土器259 g、縄・弥土器1 g、石・石製品 0.3 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安
位置 2区-1　ⅡH15g	写真図版 160	西側隅丸方形、東側楕円形	床 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.26			重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱb					掲載なし	
SX03	遺構図 156	形状	焼成面	平面規模(m) 2.77×0.92	出土遺物	遺物重量 古土器 101 g、縄・弥土器 11 g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照)	時期 平安
位置 2区-1　ⅡH18n	写真図版 160	隅丸方形基調 (東半部調査区外)	床 (焼失住居の可能性も)	深さ(m) 0.33			重複・備考 炭化物 AMS 測定 (試料 No.6)
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰb					掲載なし	

第７表　焼成遺構一覧（2）

SX04	遺構図 156	形状 楕円形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 0.88×0.57 深さ(m) 0.08	出土遺物	遺物重量 古土器 85 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-1　Ⅱ I17l	写真図版 160						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲc					掲載なし	
SX05	遺構図 156	形状 西側隅丸方形、東側楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.28×0.80 深さ(m) 0.30	出土遺物	遺物重量 古土器 339g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-1　Ⅱ I16k	写真図版 161						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX06	遺構図 156	形状 隅丸方形	焼成面 床 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.67×0.96 深さ(m) 0.20	出土遺物	遺物重量 古土器 1,632 g	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-1　Ⅱ I16j	写真図版 161						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰb					掲載　a1011	
SX07	遺構図 156	形状 楕円形	焼成面 明確な焼成面なし。焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積	平面規模(m) 1.37×0.99 深さ(m) 0.10	出土遺物	遺物重量 古土器 548 g	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 2 区-1　Ⅱ H16r	写真図版 161						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd					掲載なし	
SX09	遺構図 156	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁西側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.27×1.03 深さ(m) 0.14	出土遺物	遺物重量 古土器 243 g、縄・弥土器 25 g	時期 平安 重複・備考 南側を撹乱に切られる
位置 2 区-1　Ⅱ H14j	写真図版 161						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載　a1012	
SX10	遺構図 156	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁北側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.48×1.35 深さ(m) 0.35	出土遺物	遺物重量 古土器 233g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考 北側で SX11 と重複、これより新。
位置 2 区-1　Ⅱ H15l	写真図版 162						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	
SX11	遺構図 156	形状 南側隅丸方形、北側楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁北側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.89×1.14 深さ(m) 0.29	出土遺物	遺物重量 古土器 385 g、縄・弥土器 23 g、炭化種実多量、骨類微量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考 南側で SX10 と重複、これより古。北側で SX12 と重複、これより新。
位置 2 区-1　Ⅱ H15l	写真図版 162						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX12	遺構図 157	形状 南側隅丸方形、北側楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁北西側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 2.23×1.14 深さ(m) 0.58	出土遺物	遺物重量 古土器 285g、炭化種実多量、骨類微量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考 南側で SX11 と重複、これより古。掘り方を持つ。
位置 2 区-1　Ⅱ H15m	写真図版 162						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	
SX13	遺構図 157	形状 円形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 0.93×0.78 深さ(m) 0.14	出土遺物	遺物重量 古土器 368 g	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-2　Ⅲ I1l	写真図版 162						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳc					掲載なし	
SX14	遺構図 157	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁南西側？) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 0.90×0.40 深さ(m) 0.08	出土遺物	遺物重量 古土器 39g、鉄滓 5.6g、炭化種実少量、骨類微量、粒状滓少量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-2　Ⅲ I3p	写真図版 163						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	
SX15	遺構図 157	形状 楕円形(残存状態不良)	焼成面 上部を削平された状態で、床の焼成面のみ確認 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 0.70×0.50 深さ(m) 0.10	出土遺物	遺物重量 古土器 145g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考 上部削平を受ける
位置 3 区-2　Ⅲ I3r	写真図版 163						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb					掲載なし	

第７表　焼成遺構一覧（3）

SX16	遺構図 157	形状	焼成面	平面規模(m) 1.09×0.91	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅢI12n	写真図版 163	円形	奥壁・側壁・床 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.20		古土器 41 g	重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳa					掲載なし	
SX17	遺構図 157	形状	焼成面	平面規模(m) 1.20×0.92	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅡI20j	写真図版 163	隅丸方形	被熱状態均一	深さ(m) 0.16		古土器 87 g	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰc					掲載なし	
SX18	遺構図 157	形状	焼成面	平面規模(m) 1.02×0.72	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅡI20j	写真図版 163	隅丸方形	奥壁・側壁・床 (前壁北側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.11		古土器 104 g、縄・弥土器 40 g	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa					掲載なし	
SX19	遺構図 157	形状	焼成面	平面規模(m) 1.67×1.36	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅡI19j	写真図版 163	隅丸方形	奥壁・側壁・床の各一部分 (残存状況悪く、詳細不明)	深さ(m) 0.29		古土器 438 g、縄・弥土器 61 g	重複・備考 南側でSK17と重複、これより古
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa					掲載なし	
SX20	遺構図 157	形状	焼成面	平面規模(m) 0.58×0.57	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅡI20k	写真図版 164	楕円形	床 (残存状態悪く、詳細不明)	深さ(m) 0.06		古土器 98 g、縄・弥土器 131 g	重複・備考 北側でSI09と重複、新旧不明
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb					掲載なし	
SX23	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.47×1.00	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅢI4s	写真図版 164	西側隅丸方形、東側楕円形	床 (前壁南東側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.10		古土器 65 g、縄・弥土器 49 g	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱb					掲載なし	
SX25	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.50×0.87	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅢI4t	写真図版 164	西側隅丸方形、東側楕円形	奥壁・側壁・床 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.32		古土器 217 g、縄・弥土器 51 g	重複・備考 2枚の焼成面を持つ。南側で小Pitと重複、これより古。掘り方を持つ。
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX26	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.83×1.08	出土遺物	遺物重量 古土器 181 g、縄・弥土器 12 g、炭化種実中量、粒状滓少量(分析鑑定の項参照)	時期 平安
位置 3区-2　ⅢI4t	写真図版 164	西側隅丸方形、東側楕円形	奥壁・側壁 (前壁東側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.29			重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX27	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.41×1.07	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-2　ⅢI4t	写真図版 164・165	隅丸方形	奥壁・側壁・床 (前壁南側) 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.22		古土器 147 g	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa					掲載なし	
SX29	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.18×0.75	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-3　ⅡI18d	写真図版 165	西側隅丸方形、東側楕円形	奥壁・側壁 (前壁西側) コの字状に被熱	深さ(m) 0.26		古土器 25g、縄・弥土器 25g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX30	遺構図 158	形状	焼成面	平面規模(m) 1.04×0.86	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-3　ⅢI1f	写真図版 165	円形	床 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.09			重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳb					なし	

第７表　焼成遺構一覧（4）

SX32	遺構図 158	形状 隅丸方形	焼成面 側壁・床 （前壁南側） 被熱状態に偏りあり 奥壁残存せず	平面規模（m） 1.03×0.72 深さ（m） 0.14	出土遺物	遺物重量 なし	時期 平安 重複・備考 東側攪乱を受ける
位置 3区-2　ⅡI19j	写真図版 165						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa						
SX33	遺構図 158	形状 楕円形	焼成面 床 （残存状態悪く、詳細不明）	平面規模（m） 0.89×0.74 深さ（m） 0.07	出土遺物	遺物重量 縄・弥土器 6 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 3区-2　ⅢI3p	写真図版 165						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb						
SX34	遺構図 158	形状 楕円形	焼成面 層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックがレンズ状に入る	平面規模（m） 0.94×0.79 深さ（m） 0.05	出土遺物	遺物重量 古土器 49 g、焼成粘土 44.8 g、石・石製品 0.8 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 2区-3　ⅡI20c	写真図版 166						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd						
SX36	遺構図 159	形状 楕円形	焼成面 層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックがレンズ状に入る	平面規模（m） 1.24×0.83 深さ（m） 0.23	出土遺物	遺物重量 古土器 624 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考 SI11 より古
位置 3区-2　ⅢI3o	写真図版 166						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd						
SX37	遺構図 159	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁 （前壁西側？）	平面規模（m） 0.92×0.66 深さ（m） 0.03	出土遺物	遺物重量 古土器 69 g、縄・弥土器 1 g、鉄滓 6.7 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考 SI11 より古
位置 3区-2　ⅢI3p	写真図版 166						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa						
SX38	遺構図 159	形状 楕円形	焼成面 奥壁・床 （前壁南東側） 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 1.91×1.27 深さ（m） 0.37	出土遺物	遺物重量 古土器 2,054 g、縄・弥土器 48 g、焼成粘土 5.8g、炭化種実中量（分析鑑定の項参照） 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 2区-3　ⅡH17t	写真図版 166						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa						
SX39	遺構図 159	形状 溝形もしくは長楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 （前壁不明） 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 最大 7.0×0.9 深さ（m） 0.54	出土遺物	遺物重量 古土器 410 g、縄・弥土器 65 g、金属製品 50 g 掲載　a1013・1014、e102～104	時期 平安 重複・備考 SX40 と重複。両者の範囲、新旧は不明。掘り方を持つ。
位置 2区-2　ⅡH9n	写真図版 166・167						
検出面　Ⅲ層	分類　Va						
SX40	遺構図 159	形状 溝形もしくは長楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 （前壁不明） 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 最大 7.0×1.2 深さ（m） 0.54	出土遺物	遺物重量 古土器 509 g 掲載　a1015～1016	時期 平安 重複・備考 SX39 と重複。両者の範囲、新旧は不明。掘り方を持つ。
位置 2区-2　ⅡH9o	写真図版 167						
検出面　Ⅲ層	分類　Va						
SX42	遺構図 159	形状 西側隅丸方形、東側楕円形	焼成面 床の一部 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 1.56×1.25 深さ（m） 0.42	出土遺物	遺物重量 古土器 1,162 g、石・石製品 37.1 g 掲載　a1017～1018	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 2区-2　ⅡH11j	写真図版 167						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱb						
SX43	遺構図 159	形状 炭化物ブロックの不整な広がり	焼成面 焼成面は未確認。炭化物が層状に堆積。	平面規模（m） 0.70×0.47 深さ（m） 0.04	出土遺物	遺物重量 なし	時期 平安 重複・備考 上部削平を受ける
位置 2区-2　ⅡH10n	写真図版 167						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅵd						
SX46	遺構図 160	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床 （前壁北側） 主にブロック状の焼土。 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 2.76×0.52 深さ（m） 0.38	出土遺物	遺物重量 古土器 3,543 g、縄・弥土器 109 g、炭化種実多量（分析鑑定の項参照） 掲載　a1019～1024	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 2区-3　ⅡI20g	写真図版 167						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa						

第７表　焼成遺構一覧（5）

SX48	遺構図 160	形状	焼成面	平面規模(m) 1.04×0.80	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-3　ⅡI19m	写真図版 168	楕円形	層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積	深さ(m) 0.29		古土器 80 g、土製品 12.4 g	重複・備考 上部削平を受ける。掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd					掲載　c43	
SX49	遺構図 160	形状	焼成面	平面規模(m) 1.64×1.63	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-2　ⅡH6h	写真図版 168	西側隅丸方形、東側楕円形	奥壁・側壁・床（前壁西側）被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.19		古土器 157g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照)	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX50	遺構図 160	形状	焼成面	平面規模(m) 0.95×0.92	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-2　ⅡH5i	写真図版 168	楕円形	側壁・床 被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.23		古土器 230 g、縄・弥土器 10 g、焼成粘土 40.7 g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照)	重複・備考 2枚の焼成面あり。掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	
SX51	遺構図 160	形状	焼成面	平面規模(m) 1.26×0.64	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-3　ⅡI20p	写真図版 168	隅丸方形	明確な焼成面はなし。焼土・炭化物ブロックが層状に堆積。	深さ(m) 0.44		巻貝類２個体(分析鑑定の項参照)	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰd					掲載なし	
SX52	遺構図 160	形状	焼成面	平面規模(m) 2.41×1.68	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 3区-3　ⅡI19n	写真図版 169	隅丸方形	床（残存状態悪く、詳細不明）	深さ(m) 0.11		古土器 635 g、鉄滓 1.5 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	重複・備考 SI34 と重複、これより新
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰb					掲載なし	
SX53	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 0.86×0.75	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-4　ⅡI16n	写真図版 169	楕円形	被熱状態均一？	深さ(m) 0.11		古土器 136 g	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲc					掲載　a1025～1026	
SX54	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 1.01×0.53	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-4　ⅡI14d	写真図版 169	楕円形	層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積	深さ(m) 0.13			重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd					なし	
SX56	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 1.06×1.01	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-4　ⅡH9t	写真図版 169	円形	被熱状態均一	深さ(m) 0.09			重複・備考 2枚の焼成面あり。
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳc					なし	
SX57	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 1.17×0.78	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-5　ⅡH13m	写真図版 170	西側隅丸方形、東側楕円形	奥壁・側壁・床の一部被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.23		古土器 186g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa					掲載なし	
SX58	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 1.34×1.25	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-4　ⅡH10t	写真図版 170	隅丸方形	奥壁・側壁・床（前壁南西側？）被熱状態に偏りあり	深さ(m) 0.24		古土器 36 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	重複・備考
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa					掲載　a1027	
SX59	遺構図 161	形状	焼成面	平面規模(m) 1.10×0.81	出土遺物	遺物重量	時期 平安
位置 2区-4　ⅡH12t	写真図版 170	楕円形	被熱状態均一	深さ(m) 0.19		古土器 161g、炭化種実微量(分析鑑定の項参照)	重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲc					掲載なし	

第７表　焼成遺構一覧（6）

SX60	遺構図 161	形状 円形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 1.08×0.99 深さ(m) 0.24	出土遺物	遺物重量 古土器 95 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 2 区-4　Ⅱ H10q	写真図版 170						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳc					掲載なし	
SX61	遺構図 161	形状 楕円形	焼成面 床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 2.56×1.00 深さ(m) 0.26	出土遺物	遺物重量 古土器 21 g、縄・弥土器 2 g、土製品 621.3 g	時期 平安 重複・備考 南北方向に多数の攪乱。土錘多数出土。
位置 4 区-1　Ⅲ J8p	写真図版 171						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb					掲載　c48～69	
SX62	遺構図 161	形状 不整形 焼土ブロック・炭粒の不整な広がり	焼成面 床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 0.70×0.60 深さ(m) 0.02	出土遺物	遺物重量 古土器 3 g、縄・弥土器 5 g	時期 平安 重複・備考 上部削平を受ける
位置 1 区　Ⅱ H8e	写真図版 171						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅵb					掲載なし	
SX71	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 1.07×1.04 深さ(m) 0.26	出土遺物	遺物重量	時期 平安 重複・備考 SK142 と重複、これより古
位置 6 区-1　Ⅳ M7l	写真図版 171						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲc					なし	
SX72	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックが下位に堆積	平面規模(m) 1.10×0.91 深さ(m) 0.36	出土遺物	遺物重量	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-1　Ⅳ M8l	写真図版 171						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd					なし	
SX73	遺構図 162	形状 隅丸方形	焼成面 奥壁・側壁・床 (前壁南側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.73×1.20 深さ(m) 0.31	出土遺物	遺物重量 古土器 754g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考 SI99 と重複、これより新
位置 6 区-1　Ⅳ M7f	写真図版 171・172						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa					掲載　a1028	
SX74	遺構図 162	形状 隅丸方形	焼成面 明確な焼成面なし。炭化物と焼土ブロックが壁～床面に沿って堆積	平面規模(m) 1.13×1.05 深さ(m) 0.38	出土遺物	遺物重量	時期 平安 重複・備考
位置 3 区-2　Ⅲ I2o	写真図版 172						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰd					なし	
SX75	遺構図 162	形状 北東側隅丸方形、南西側楕円形	焼成面 明確な焼成面なし。炭化物と焼土ブロックが北側壁～床面にかけて堆積	平面規模(m) 1.61×0.91 深さ(m) 0.30	出土遺物	遺物重量 縄・弥土器 16 g	時期 平安 重複・備考
位置 2 区-4　Ⅱ H16t	写真図版 172						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱd					掲載なし	
SX77	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 1.39×1.19 深さ(m) 0.15	出土遺物	遺物重量 古土器 96 g	時期 平安 重複・備考 南北方向に多数の攪乱。
位置 6 区-2　Ⅳ M10f	写真図版 172						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb					掲載なし	
SX78	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 明確な焼成面なし。焼土・炭化物ブロックが下位に堆積	平面規模(m) 1.69×0.87 深さ(m) 0.33	出土遺物	遺物重量 古土器 471 g、炭化種実中量、骨類微量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ M8f	写真図版 173						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲd					掲載　a1029	
SX79	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 奥壁・側壁・床の一部 (前壁北側？) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.41×1.06 深さ(m) 0.12	出土遺物	遺物重量 古土器 286g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照)	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ M8f	写真図版 173						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa					掲載なし	

第７表　焼成遺構一覧（7）

SX80	遺構図 162	形状 楕円形	焼成面 側壁・床の一部 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.52×0.85 深さ(m) 0.2	出土遺物	遺物重量 古土器 1,265 g、炭化種実微量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ M8c	写真図版 173						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲa						
SX81	遺構図 163	形状 西側隅丸方形、東側楕円形	焼成面 層状の焼成面を成さない焼土・炭化物ブロックが下位に堆積	平面規模(m) 1.66×1.13 深さ(m) 0.28	出土遺物	遺物重量 古土器 233.9 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ M5b	写真図版 173						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱd						
SX82	遺構図 163	形状 隅丸方形	焼成面 床 (焼失住居の可能性も)	平面規模(m) 0.74×0.79 深さ(m) 0.18	出土遺物	遺物重量 炭化種実中量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ L8t	写真図版 174						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰb						
SX83	遺構図 163	形状 南側隅丸方形、北側楕円形	焼成面 検出時、奥壁・側壁に沿って環状の焼土ブロックを確認	平面規模(m) 1.66×0.74 深さ(m) 0.1	出土遺物	遺物重量 古土器 168 g、焼成粘土 5.4 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考 上部削平を受ける
位置 6 区-2　Ⅳ L7s	写真図版 174						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa						
SX84	遺構図 163	形状 隅丸方形	焼成面 側壁・床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 1.30×0.90 深さ(m) 0.15	出土遺物	遺物重量 古土器 2,975 g、炭化種実少量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ L7r	写真図版 174						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰa						
SX85	遺構図 163	形状 楕円形	焼成面 床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 1.14×0.64 深さ(m) 0.09	出土遺物	遺物重量 古土器 10 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 6 区-2　Ⅳ L6r	写真図版 174						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb						
SX86	遺構図 163	形状 楕円形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 0.79×0.70 深さ(m) 0.30	出土遺物	遺物重量 なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ L6r	写真図版 175						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲc						
SX87	遺構図 163	形状 隅丸方形	焼成面 被熱状態均一	平面規模(m) 1.64×1.42 深さ(m) 0.45	出土遺物	遺物重量 古土器 621g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 6 区-2　Ⅳ M7b	写真図版 175						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰc						
SX89	遺構図 163	形状 楕円形	焼成面 床 (残存状態悪く、詳細不明)	平面規模(m) 1.48×0.88 深さ(m) 0.22	出土遺物	遺物重量 古土器 25 g、炭化種実中量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考 掘り方を持つ
位置 5 区-3　Ⅲ K16m	写真図版 175						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb						
SX90	遺構図 164	形状 北側隅丸方形、南側楕円形	焼成面 奥壁・床の一部 (前壁南側) 被熱状態に偏りあり	平面規模(m) 1.82×0.99 深さ(m) 0.29	出土遺物	遺物重量 古土器 564 g 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 5 区-3　Ⅲ K17o	写真図版 175						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅱa						
SX91	遺構図 164	形状 円形	焼成面 明確な焼成面なし。焼土・炭化物ブロックが下位に堆積	平面規模(m) 0.88×0.79 深さ(m) 0.28	出土遺物	遺物重量 古土器 12 g、炭化種実多量(分析鑑定の項参照) 掲載なし	時期 平安 重複・備考
位置 5 区-3　Ⅲ K17m	写真図版 176						
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅳd						

第7表　焼成遺構一覧（8）

SX92	遺構図 なし	形状 不整形 焼土ブロック・炭粒の不整な広がり	焼成面 床 （残存状態悪く、詳細不明）	平面規模（m） 0.89×0.78	出土遺物	遺物重量 古土器 364 g	時期 平安
位置 5区-3　ⅢK16o	写真図版 176			深さ（m） —			重複・備考 上部削平を受ける
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅵb					掲載なし	
SX93	遺構図 164	形状 隅丸方形	焼成面 床 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 1.41×1.13	出土遺物	遺物重量 古土器 34 g	時期 平安
位置 5区-3　ⅢK17o	写真図版 176			深さ（m） 0.33			重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰb					掲載なし	
SX94	遺構図 164	形状 楕円形	焼成面 床に薄い焼成面 被熱状態に偏りあり	平面規模（m） 1.40×1.29	出土遺物	遺物重量 古土器 11 g	時期 平安
位置 5区-3　ⅢK17o	写真図版 176			深さ（m） 0.30			重複・備考 掘り方を持つ
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅲb					掲載なし	
SX95	遺構図 164	形状 隅丸方形	焼成面 明確な焼成面なし。焼土・炭化物ブロックが下位に堆積	平面規模（m） 0.51×0.40	出土遺物	遺物重量 古土器 78 g	時期 平安
位置 6区-2　ⅣM7f	写真図版 177			深さ（m） 0.19			重複・備考 SI99と重複、これに南・東側を切られる
検出面　Ⅲ層	分類　Ⅰd					掲載なし	

第8表　焼土遺構一覧（1）

SN01	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 円形	焼成面規模（m） 0.50×0.45	出土遺物	遺物重量 古土器 16 g	時期 古代
位置 3区-1　ⅡI18r	写真図版 177			焼土厚（cm） 7			備考
						掲載なし	被熱強い　焼成層上部が硬化
SN02	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 不整形	焼成面規模（m） 0.38×0.34	出土遺物	遺物重量 古土器 10 g	時期 古代
位置 3区-2　ⅢI3t	写真図版 177			焼土厚（cm） 2			備考
						掲載なし	淡い焼土
SN03	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 楕円形	焼成面規模（m） 0.52×0.37	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3区-2　ⅢI4t	写真図版 177			焼土厚（cm） 2			備考
						なし	炭化物混じり　上部を削平されたSXか
SN04	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 円形	焼成面規模（m） 0.52×0.44	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3区-2　ⅢI2q	写真図版 178			焼土厚（cm） 6			備考
						なし	掘り方を持つ　上部を削平されたSXか
SN09	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 円形	焼成面規模（m） 0.48×0.43	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3区-2　ⅡI20j	写真図版 178			焼土厚（cm） 3			備考
						なし	焼土ブロック　上部を削平されたSXか
SN10	遺構図 164	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 円形	焼成面規模（m） 0.52×0.50	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3区-2　ⅡI19i	写真図版 178			焼土厚（cm） 6			備考
						なし	焼土ブロック　上部を削平されたSXか
SN11	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 不整形	焼成面規模（m） 0.70×0.33	出土遺物	遺物重量 古土器 313g、炭化種実中量（分析鑑定の項参照）	時期 古代
位置 3区-2　ⅢI3q	写真図版 178			焼土厚（cm） 3			備考
						掲載　a1030	焼土ブロック　上部を削平されたSXか
SN12	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴 楕円形	焼成面規模（m） 1.23×0.60	出土遺物	遺物重量 古土器 479 g、縄・弥土器 48 g	時期 古代
位置 2区-3　ⅡI17b	写真図版 179			焼土厚（cm） 10			備考
						掲載　a1031	掘り方を持つ　上部を削平されたSXか

第 8 表　焼土遺構一覧（2）

SN13	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.95×0.71	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3 区-3　Ⅱ I19l	写真図版 179		不整形	焼土厚(cm) 4		なし	備考 被熱強い
SN14	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.56×0.42	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 2 区-4　Ⅱ I16h	写真図版 なし		円形	焼土厚(cm) 4		なし	備考 掘り方を持つ　上部を削平された SX か
SN15	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.48×0.41	出土遺物	遺物重量 古土器 13 g	時期 古代
位置 2 区-4　Ⅱ I17e	写真図版 179		円形	焼土厚(cm) 5		掲載なし	備考 被熱強い
SN16	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.88×0.62	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 4 区-1　Ⅲ K7d	写真図版 179		楕円形	焼土厚(cm) 7		なし	備考　SI42 より新 掘り方を持つ　上部を削平された SX か
SN20	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 1.47×0.26	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 4 区-2　Ⅲ J6i	写真図版 180		楕円形	焼土厚(cm) 8		なし	備考 焼土ブロック　上部を削平された SX か
SN21	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.86×0.73	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 3 区-3　Ⅱ I8g	写真図版 180		楕円形	焼土厚(cm) 8		なし	備考 被熱強い
SN22	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.37×0.27	出土遺物	遺物重量	時期 古代
位置 6 区-2　Ⅳ M9b	写真図版 180		円形	焼土厚(cm) 7		なし	備考 南側に掘り方　上部を削平された SX か
SN23	遺構図 165	検出面 Ⅲ層	形状・特徴	焼成面規模(m) 0.65×0.38	出土遺物	遺物重量 古土器 23 g	時期 古代
位置 5 区-3　Ⅲ K19s	写真図版 180		不整形	焼土厚(cm) 7		掲載なし	備考 被熱強い

第 9 表　溝跡一覧（1）

SD01	遺構図 166	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.9	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 1,537 g、縄・弥土器 57 g、石・石製品 22.1 g	時期 古代以降 or 平安
位置 3 区-1　Ⅱ J20e 他	写真図版 181	全長(m) 34.1	深さ(m) 1.3	東西方向　直線状		掲載　a1032～1034	備考・重複
SD02	遺構図 167	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.7	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 1,628 g	時期 古代以降 or 平安
位置 3 区-1　Ⅱ J18a 他	写真図版 181	全長(m) 35.0	深さ(m) 0.8	東西方向　直線状		掲載　a1035～1037	備考・重複 SI12 と重複、これより新
SD03	遺構図 168	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.7	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 4 g、縄・弥土器 8 g	時期 古代以降(近世？)
位置 3 区-1　Ⅱ I17s 他	写真図版 182	全長(m) 10.6	深さ(m) 0.4	東西方向　直線状		掲載なし	備考・重複
SD04	遺構図 169	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.9	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 413 g、縄・弥土器 26 g、石・石製品 58.9 g、金属製品 6.6 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2 区-1　Ⅱ H17n 他	写真図版 182	全長(m) 11.7	深さ(m) 0.2	東西方向　直線状		掲載　b3、e105	備考・重複
SD05	遺構図 168	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.9	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 182 g、縄・弥土器 11 g	時期 古代以降 or 平安
位置 3 区-1　Ⅱ I15k 他	写真図版 182	全長(m) 7.4	深さ(m) 0.2	東西方向　直線状		掲載なし	備考・重複

第9表　溝跡一覧（2）

SD06	遺構図 170	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.1	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器2,066 g、縄・弥土器6 g、石・石製品180.5 g	時期 古代以降 or 平安
位置 3区-2　ⅡI18n 他	写真図版 183	全長(m) 20.8	深さ(m) 0.3			掲載　d53	備考・重複　SI17より新 底面に連続する掘り方痕を持つ
SD07	遺構図 171	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.2	形状・特徴 北東-南西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器2,359 g、縄・弥土器32g、石・石製品540.4 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-2　ⅡH9j 他	写真図版 183・184	全長(m) 34.0	深さ(m) 0.5			掲載　a1038	備考・重複 SI24・28・30と重複、これらより新
SD09	遺構図 169	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.9	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器44 g、縄・弥土器11 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-2　ⅡH8q 他	写真図版 なし	全長(m) 7.4	深さ(m) 0.1			掲載なし	備考・重複
SD10	遺構図 168	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.1	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器720 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-2　ⅡH11n 他	写真図版 184	全長(m) 2.7	深さ(m) 0.4			掲載なし	備考・重複
SD13	遺構図 168	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.8	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器77 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-2　ⅡH10h 他	写真図版 184	全長(m) 4.0	深さ(m) 0.3			掲載　a1039	備考・重複
SD16	遺構図 171	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.0	形状・特徴 南北方向　緩いS字	出土遺物	遺物重量 古土器122 g、縄・弥土器11 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-4　ⅡH14p 他	写真図版 184	全長(m) 25.2	深さ(m) 0.3			掲載なし	備考・重複
SD17	遺構図 169	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.7	形状・特徴 東西方向　緩いS字	出土遺物	遺物重量 古土器51 g、縄・弥土器2 g	時期 古代以降 or 平安
位置 2区-4　ⅡH12p 他	写真図版 なし	全長(m) 14.9	深さ(m) 0.2			掲載なし	備考・重複 SI38と重複、これより新
SD18	遺構図 172	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 2.0	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器5,559 g、金属製品38.8 g	時期 古代以降 or 平安
位置 4区-1　ⅢK9k 他	写真図版 185	全長(m) 34.0	深さ(m) 1.0			掲載　a1040～1041、e106	備考・重複 SI93・47、SK129・139と重複、これより新　埋土上位に洪水堆積層あり
SD20	遺構図 173	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.3	形状・特徴 南北方向　直線状	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降 or 平安
位置 4区-1　ⅢK9d 他	写真図版 なし	全長(m) 7.8	深さ(m) 0.2			なし	備考・重複
SD21	遺構図 173	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.2	形状・特徴 南北方向　直線状	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降 or 平安
位置 4区-1　ⅢK8d 他	写真図版 なし	全長(m) 2.3	深さ(m) 0.1			なし	備考・重複
SD23	遺構図 174	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 2.0	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器2,125 g	時期 古代以降 or 平安
位置 5区-1　ⅢK9m 他	写真図版 185	全長(m) 20.1	深さ(m) 1.0			掲載　a1042～1044	備考・重複 SI75・111・136と重複、これより新 埋土上位に洪水堆積層あり
SD24	遺構図 173	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.1	形状・特徴 南北方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器26 g	時期 古代以降 or 平安
位置 5区-1　ⅢK11o 他	写真図版 186	全長(m) 6.8	深さ(m) 0.7			掲載なし	備考・重複
SD25	遺構図 175	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.7	形状・特徴 東西方向　直線状	出土遺物	遺物重量 古土器727 g	時期 古代以降 or 平安
位置 5区-1　ⅢL14e 他	写真図版 186	全長(m) 21.8	深さ(m) 0.6			掲載　a1045	備考・重複 SI69～71・90と重複、これらより新

第 9 表　溝跡一覧（3）

SD26	遺構図 176	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.0	形状・特徴	出土遺物	遺物重量 古土器 1,397 g、 石・石製品 203.7 g、鉄滓 51.7 g	時期 古代以降 or 平安
位置 5 区-2　ⅢK19k 他	写真図版 186	全長(m) 13.3	深さ(m) 1.0	東西方向　直線状		掲載　a1046～1048	備考・重複 SI110、SK139 と重複、これらより新
SD27	遺構図 171	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 1.1	形状・特徴	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降 or 平安
位置 2 区-4　ⅡH13q 他	写真図版 なし	全長(m) 33.1	深さ(m) 0.6	南北方向　直線状		なし	備考・重複 SI38・40 と重複、これらより新
SD28	遺構図 176	検出面 Ⅲ層	上幅(m) 0.7	形状・特徴	出土遺物	遺物重量	時期 古代以降 or 平安
位置 2 区-4　ⅢK13j 他	写真図版 186	全長(m) 12.4	深さ(m) 0.6	東西方向　直線状		なし	備考・重複 SD26 と重複、これより古

第 10 表　畝間状遺構一覧

UM01	遺構図 177	状態 東西 7 条	畝間溝	方位 W-22°-N	全長(m) 2.9～11.9	出土遺物	遺物重量： 古土器 105 g、縄・弥土器 267 g	時期 古代以降
位置 2 区-1　ⅡH17r 他	写真図版 187	最小耕地面積 106 m²		深さ(cm) 5～20	上幅(cm) 20～40		掲載　b6	備考 畝間芯々距離約 2.2 m
UM03	遺構図 178	状態 東西 9 条	畝間溝	方位 W-22°-N	全長(m) (1.0)～(3.5)	出土遺物	遺物重量： 古土器 332 g、縄・弥土器 53 g	時期 古代以降
位置 3 区-2　ⅢI4r 他	写真 187	最小耕地面積 28 m²		深さ(cm) 5～15	上幅(cm) 20～35		掲載なし	備考 畝間芯々距離約 1.7 m
UM04	遺構図 178	状態 東西 6 条	畝間溝	方位 W-12°-N	全長(m) 2.8～4.2	出土遺物	遺物重量： 古土器 2,137 g、縄・弥土器 72 g、石・石製品 87.6 g、鉄滓 3.6 g	時期 古代以降
位置 2 区-3　ⅡI19b 他	写真 187	最小耕地面積 24 m²		深さ(cm) 5～15	上幅(cm) 35～40		掲載　d5・11	備考 畝間芯々距離約 1.2 m
UM05	遺構図 179	状態 東西 8 条	畝間溝	方位 W-23°-N	全長(m) (1.2)～(1.7)	出土遺物	遺物重量： 古土器 34 g、縄・弥土器 37 g	時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH12n 他	写真 なし	最小耕地面積 12 m²		深さ(cm) 5～10	上幅(cm) 25～50		掲載なし	備考 畝間芯々距離約 0.9 m
UM08	遺構図 179	状態 東西 6 条	畝間溝	方位 W-24°-N	全長(m) 4.1～6.1	出土遺物	遺物重量： 古土器 87 g	時期 古代以降
位置 1 区　ⅡH9d 他	写真 187	最小耕地面積 39 m²		深さ(cm) 7～10	上幅(cm) 25～50		掲載なし	備考 畝間芯々距離約 1.2 m
UM09	遺構図 180	状態 東西 9 条	畝間溝	方位 W-26°-N	全長(m) (1.9)～(2.8)	出土遺物	遺物重量： 古土器 38 g	時期 古代以降
位置 4 区-1　ⅢJ2l 他	写真 187	最小耕地面積 13 m²		深さ(cm) 7～14	上幅(cm) 25～48		掲載なし	備考 畝間芯々距離約 0.6 m
UM10	遺構図 180	状態 南北 4 条	畝間溝	方位 N-9°-E	全長(m) (1.8)～6.2	出土遺物		時期 古代以降
位置 2 区-2　ⅡH7l 他	写真 なし	最小耕地面積 28 m²		深さ(cm) 5～34	上幅(cm) 20～45		なし	備考 畝間芯々距離約 1.7 m

第 11 表　柱穴状小土坑一覧表（1）

No.	位置	規模(cm)			底面標高(m)	主体土		
		長径	短径	深さ		色調	しまり	粘性
10	ⅡH15g	20	18	41	59.556	褐色	弱	なし
15	ⅢJ5d	29	12	5	59.790	鈍黄褐色	やや弱	弱
16	ⅢI3q	44	39	62	58.912	灰黄褐色	中	中
17	ⅢI3p	61	53	65	58.928	灰黄褐色	中	中
18	ⅢI3p	29	24	54	58.901	灰黄褐色	中	中
19	ⅢI3p	41	36	22	59.092	灰黄褐色	中	中
20	ⅢI3o	67	62	40	59.052	灰黄褐色	中	中
21	ⅢI3o	49	44	60	59.010	灰黄褐色	中	中
22	ⅢI3r	57	47	38	58.988	灰黄褐色	中	中
23	ⅢI3q	24	20	8	59.300	黒褐色	中	中
24	ⅢI3q	37	33	63	58.868	黒褐色	中	中
25	ⅢI3q	32	21	33	59.156	灰黄褐色	やや強	中
26	ⅢI4t	41	31	54	58.952	黒褐色	弱	中
27	ⅢI4s	33	26	38	59.052	黒褐色	弱	中
28	ⅢI4s	40	24	24	59.200	黒褐色	弱	中
29	ⅢI4t	35	28	38	59.080	黒褐色	弱	中
30	ⅢI4s	48	40	48	58.928	黒色	中	弱
31	ⅢI4t	34	26	57	58.940	黒色	中	弱
32	ⅢI3r	34	32	48	59.006	黒褐色	中	弱
33	ⅢI4t	23	20	20	59.416	黒褐色	中	弱
34	ⅢI4t	30	21	47	59.184	黒褐色	中	弱
35	ⅢI4t	30	21	24	59.320	黒褐色	中	弱
36	ⅢI4t	37	25	15	59.432	黒褐色	中	弱
37	ⅢI3p	49	36	48	58.948	黒褐色	中	弱
38	ⅢI3p	34	25	32	59.036	黒褐色	中	弱
39	ⅢI3q	29	26	24	59.144	黒褐色	中	弱
40	ⅢI3q	28	23	30	59.052	黒褐色	中	弱
41	ⅢI3q	41	31	46	58.952	黒褐色	中	弱
42	ⅢI3q	30	30	33	59.028	黒褐色	中	弱
43	ⅢI3p	31	23	38	58.943	黒褐色	中	弱
44	ⅢI3q	35	30	38	58.964	黒褐色	中	弱
45	ⅢI4q	46	39	58	58.752	黒褐色	中	弱
46	ⅢI3q	47	44	33	59.028	黒褐色	中	弱
47	ⅢI4q	39	32	46	58.860	黒褐色	中	弱
48	ⅢI3q	66	39	62	58.716	黒褐色	中	弱
49	ⅢI3q	38	31	45	58.868	黒褐色	中	弱
50	ⅢJ5e	29	16	23	59.692	暗褐色	やや強	弱
51	ⅢI3p	27	19	39	58.888	黒褐色	中	弱
52	ⅢI4q	29	25	31	59.070	黒褐色	中	弱
53	ⅢI4r	43	29	41	58.980	黒褐色	中	弱
55	ⅢI3p	39	37	36	58.956	黒褐色	中	弱
56	ⅢI3p	49	40	42	59.137	黒褐色	中	弱
57	ⅢJ4d	73	51	8	59.668	黒褐色	弱	やや弱
58	ⅢJ4d	35	33	38	59.400	黒褐色	弱	やや弱
59	ⅢJ5e	28	24	30	59.428	黒褐色	弱	やや弱
60	ⅢJ4c	31	25	22	59.464	鈍黄橙色	中	中
61	ⅢI3o	48	43	43	58.912	黒褐色	中	中
62	ⅢI3q	41	40	49	58.836	黒褐色	中	中
63	ⅢI4q	53	43	28	59.100	黒褐色	中	中
64	ⅢI4q	26	20	39	58.976	暗褐色	中	中
65	ⅢI4r	45	35	62	58.752	暗褐色	中	中
66	ⅡI19c	37	34	30	58.764	灰黄褐色	中	弱
67	ⅡI19c	21	9	16	58.908	鈍黄褐色	強	弱
68	ⅡI20b	32	28	12	58.868	灰黄褐色	中	弱
69	ⅡI20b	26	21	9	58.904	鈍黄褐色	中	弱
70	ⅡI20c	21	16	23	58.852	灰黄褐色	中	弱
71	ⅡI19c	28	25	14	58.960	鈍黄褐色	中	弱
72	ⅡI18a	29	26	25	58.820	黒褐色	中	弱
73	ⅡI18b	37	27	48	58.604	黒褐色	強	弱
74	ⅡI18b	43	39	48	58.636	黒褐色	中	中
75	ⅡI19c	30	27	22	58.892	—	—	—
76	ⅡI18b	29	27	16	58.968	暗褐色	中	弱
77	ⅡI18b	26	18	29	58.812	灰黄褐色	中	弱
78	ⅡI20c	26	22	36	58.704	灰黄褐色	中	中
79	ⅡI19c	23	23	12	59.016	褐色	強	弱
80	ⅡI18b	34	26	40	58.740	灰黄褐色	強	弱
81	ⅡI20d	27	23	16	58.920	暗褐色	中	弱
82	ⅡI19d	25	20	18	58.908	黒褐色	中	弱
83	ⅡI19c	26	21	17	58.972	暗褐色	中	弱
84	ⅡI18c	24	17	22	58.928	暗褐色	中	弱
85	ⅡI19c	23	17	23	58.920	暗褐色	強	弱
86	ⅡI19b	27	24	20	58.924	鈍黄褐色	強	弱
87	ⅡI19b	41	30	23	58.864	灰黄褐色	中	弱
88	ⅡI18b	29	27	19	58.884	鈍黄褐色	中	弱
89	ⅡI19d	30	15	10	59.024	褐色	強	弱
90	ⅡI19d	24	23	11	59.008	褐色	強	弱
91	ⅡI19c	38	34	40	58.648	灰黄褐色	中	やや弱
92	ⅡI19d	31	18	22	58.868	灰黄褐色	中	弱
93	ⅡI19d	27	23	23	58.856	灰黄褐色	中	弱
94	ⅡI20c	29	24	32	58.748	褐色	やや弱	やや弱
95	ⅡI18b	36	26	38	58.732	灰黄褐色	中	弱
96	ⅡI18b	31	22	39	58.700	灰黄褐色	強	弱
97	ⅡI17b	27	24	25	58.848	鈍黄褐色	強	弱
98	ⅡI17b	31	27	30	58.784	—	—	—
99	ⅡI17a	28	24	36	58.728	灰黄褐色	中	弱
100	ⅡI19b	32	26	29	58.732	鈍黄褐色	中	弱
101	ⅡI17a	41	41	52	58.516	暗褐色	中	やや弱
102	ⅢI3p	73	31	110	58.228	黒褐色	中	中
103	ⅡI17b	34	24	18	58.904	暗褐色	中	やや弱
104	ⅡI17a	28	24	31	58.736	鈍黄褐色	中	中
105	ⅡI18b	45	40	38	58.728	灰黄褐色	やや強	弱
106	ⅡI20c	23	19	33	58.672	暗褐色	やや強	やや弱
107	ⅢI2p	33	25	44	58.912	暗褐色	やや強	やや弱
108	ⅡI18a	32	27	35	58.728	暗褐色	中	弱
109	ⅡI18a	38	33	37	58.672	褐色	やや強	弱
110	ⅡI17a	26	23	18	58.852	暗褐色	やや弱	弱
111	ⅡI17a	26	26	35	58.692	褐色	やや弱	やや強
112	ⅡI17a	38	29	35	58.684	鈍黄褐色	やや弱	やや強
113	ⅡI17a	39	29	43	58.592	鈍黄褐色	中	中
114	ⅡI17b	38	27	45	58.636	灰黄褐色	やや強	弱
115	ⅡI19c	30	24	31	58.880	灰黄褐色	強	弱
116	ⅡH17t	31	30	15	58.868	褐色	やや弱	やや強
117	ⅡH17t	35	26	27	58.756	鈍黄褐色	強	やや強
118	ⅡH18t	24	22	45	58.452	灰黄褐色	やや強	弱
119	ⅡH17t	30	23	28	58.680	褐色	中	弱
120	ⅡI19c	42	33	27	58.932	褐色	強	やや弱
121	ⅡH16t	38	28	42	58.572	褐色	中	やや強
122	ⅡI19b	46	40	38	58.284	鈍黄褐色	中	中
123	ⅡI20c	58	23	29	58.416	鈍黄褐色	中	中
124	ⅡI18a	97	74	50	58.552	褐灰色	中	中
125	ⅡI19b	82	65	41	58.532	黒褐色	中	中
126	ⅡI18g	45	42	24	58.820	暗褐色	中	中
127	ⅡI19g	49	36	23	58.888	暗褐色	中	中
128	ⅡI19h	41	32	16	58.996	黒褐色	中	中
129	ⅡI18a	47	32	55	58.356	黒褐色	中	中
130	ⅡI19h	46	42	25	58.892	鈍黄褐色	中	中
131	ⅡI20g	32	28	15	58.840	鈍黄褐色	中	中
132	ⅡI19g	39	36	19	58.840	鈍黄褐色	中	中
133	ⅡI19g	27	23	12	58.868	鈍黄褐色	中	中
134	ⅡI19p	37	27	19	59.528	暗褐色	中	中
135	ⅡI19n	25	28	30	59.220	暗褐色	中	中
136	ⅡI20p	44	33	32	59.328	暗褐色	中	中
137	ⅡI18n	33	28	23	59.160	暗褐色	中	中
138	ⅢJ3g	37	35	45	59.712	暗褐色	中	中
139	ⅡI18m	31	20	27	59.060	暗褐色	中	中
140	ⅢJ2e	52	33	22	59.936	暗褐色	中	中
141	ⅡI18m	33	30	23	59.162	暗褐色	弱	弱
142	ⅡI20p	26	19	18	59.372	黒褐色	中	弱
143	ⅡI19p	36	25	28	59.408	黒褐色	中	弱
151	ⅡH12l	33	25	46	58.924	暗褐色	やや強	やや弱

第 11 表　柱穴状小土坑一覧表（2）

No.	位置	規模（cm）			底面標高（m）	主体土		
		長径	短径	深さ		色調	しまり	粘性
152	ⅡH12l	29	20	55	58.812	暗褐色	やや強	やや弱
153	ⅡH12m	29	25	27	59.092	鈍黄褐色	やや強	やや強
154	ⅡH11l	28	24	53	58.840	暗褐色	やや弱	やや強
155	ⅡH11l	33	31	20	59.168	鈍黄褐色	やや強	やや強
156	ⅡH11m	34	30	27	59.088	暗褐色	やや強	やや強
157	ⅡH11l	18	12	6	59.316	暗褐色	やや強	やや強
158	ⅡH11m	25	23	45	58.928	暗褐色	弱	やや弱
159	ⅡH11m	28	26	66	58.740	鈍黄褐色	やや強	やや弱
160	ⅡH11m	49	46	38	59.012	鈍黄褐色	やや強	やや弱
161	ⅡH11l	32	21	40	58.984	暗褐色	やや弱	やや強
162	ⅡH11m	25	16	38	59.000	暗褐色	やや弱	やや強
163	ⅡH11m	25	22	36	59.000	暗褐色	やや弱	やや強
164	ⅡH11l	22	18	16	59.180	暗褐色	やや弱	やや強
165	ⅡH11l	31	27	42	58.932	鈍黄褐色	やや弱	やや強
166	ⅡH11l	29	28	42	58.928	褐色	強	なし
167	ⅡH11l	30	24	47	58.936	鈍黄褐色	やや強	やや強
168	ⅡH11l	29	20	51	58.872	鈍黄褐色	やや強	やや強
169	ⅡH11m	22	16	14	59.248	鈍黄褐色	やや強	やや強
170	ⅡH11m	38	33	79	58.608	鈍黄褐色	やや強	やや強
171	ⅡH11m	26	19	17	59.244	暗褐色	強	やや強
172	ⅡH11m	26	24	25	59.168	暗褐色	強	やや強
173	ⅡH12m	30	22	14	59.220	鈍黄褐色	やや強	やや強
174	ⅡH12m	28	27	40	58.952	鈍黄褐色	強	やや強
175	ⅡH12m	32	31	27	59.048	黒色	やや弱	やや強
176	ⅡH11m	29	26	22	59.188	暗褐色	やや弱	やや強
177	ⅡH12m	23	21	13	59.248	褐色	やや弱	やや強
178	ⅡH12m	26	23	16	59.216	褐色	やや弱	やや強
179	ⅡH12n	32	15	22	59.084	暗褐色	やや弱	やや強
180	ⅡH12n	19	16	32	59.028	暗褐色	やや弱	やや強
181	ⅡH12o	21	14	28	59.064	暗褐色	やや強	やや強
182	ⅡH12o	25	20	36	58.980	暗褐色	やや強	やや強
183	ⅡH12o	21	20	44	58.896	暗褐色	やや強	やや強
184	ⅡH12o	31	28	39	58.992	暗褐色	強	やや強
185	ⅡH12o	24	21	9	59.288	暗褐色	強	やや強
186	ⅡH12o	22	19	14	59.232	暗褐色	強	強
187	ⅡH12o	22	17	15	59.228	暗褐色	強	強
188	ⅡH12o	30	11	27	59.100	暗褐色	強	強
189	ⅡH12p	18	17	16	59.188	暗褐色	強	やや強
190	ⅡH12p	18	14	16	59.184	暗褐色	強	やや強
191	ⅡH12o	23	18	49	58.860	暗褐色	強	やや強
192	ⅡH12o	28	18	57	58.772	暗褐色	強	やや強
193	ⅡH12o	32	26	47	58.856	暗褐色	強	やや強
194	ⅡH12o	28	25	48	58.860	暗褐色	強	やや強
195	ⅡH11m	33	29	27	58.992	鈍黄褐色	強	弱
196	ⅡH10l	23	17	18	58.960	黒褐色	やや強	弱
197	ⅡH10l	37	30	27	58.860	灰黄褐色	強	弱
198	ⅡH10l	23	18	51	58.708	灰黄褐色	強	弱
199	ⅡH10k	30	27	46	58.752	灰黄褐色	強	弱
200	ⅡH11k	24	23	19	59.072	暗褐色	強	やや弱
201	ⅡH11k	24	20	38	58.832	暗褐色	強	やや弱
202	ⅡH11k	25	19	49	58.708	暗褐色	強	やや弱
203	ⅡH10j	24	23	41	58.736	暗褐色	強	弱
204	ⅡH10i	30	20	44	58.652	鈍黄褐色	強	弱
205	ⅡH10j	20	17	21	58.936	暗褐色	強	弱
206	ⅡH10j	23	11	40	58.740	褐色	強	弱
207	ⅡH10h	48	26	48	58.404	灰黄褐色	やや強	やや強
208	ⅡH8l	31	29	45	58.588	暗褐色	中	弱
209	ⅡH8m	31	23	40	58.740	暗褐色	中	弱
210	ⅡH8m	44	40	17	58.968	暗褐色	中	弱
211	ⅡH8k	45	43	27	58.688	暗褐色	中	弱
212	ⅡH8m	33	32	42	58.680	暗褐色	中	弱
213	ⅡH8l	22	17	40	58.668	暗褐色	中	弱
214	ⅡH8l	33	29	23	58.808	暗褐色	中	やや弱
215	ⅡH11m	35	25	51	58.856	暗褐色	やや強	弱
216	ⅡH10o	28	22	20	58.928	褐色	やや強	やや弱
217	ⅡH11m	40	37	44	58.932	暗褐色	やや強	中
218	ⅡH8m	40	22	37	58.656	暗褐色	弱	弱
219	ⅡH10g	29	20	28	58.628	黒褐色	弱	弱
220	ⅡH10g	27	23	23	58.708	黒褐色	やや強	やや弱
221	ⅡH10g	25	15	33	58.600	黒褐色	やや強	やや弱
222	ⅡH10g	22	20	30	58.596	黒褐色	やや強	やや弱
223	ⅡH10g	21	21	10	58.784	暗褐色	中	やや弱
224	ⅡH10g	45	34	44	58.452	黒褐色	やや強	やや弱
225	ⅡH10g	26	23	20	58.668	黒褐色	やや強	やや弱
226	ⅡH9g	23	18	7	58.780	暗褐色	中	やや弱
227	ⅡH10g	21	18	12	58.744	黒褐色	中	やや弱
228	ⅡH10g	23	18	42	58.440	黒褐色	中	やや弱
229	ⅡH10g	20	13	12	58.736	暗褐色	やや強	中
230	ⅡH10g	23	19	18	58.680	暗褐色	やや強	中
231	ⅡH10g	27	24	19	58.736	黒褐色	やや強	やや強
232	ⅡH10g	26	20	21	58.736	黒褐色	中	中
233	ⅡH10f	30	24	16	58.760	暗褐色	やや強	やや強
234	ⅡH10g	21	13	15	58.700	暗褐色	中	中
235	ⅡH9g	37	18	26	58.580	黒褐色	中	中
236	ⅡH10h	34	30	27	58.592	暗褐色	やや強	やや強
237	ⅡH10h	21	15	35	58.496	暗褐色	やや強	やや強
238	ⅡH10h	19	12	28	58.572	暗褐色	やや強	やや強
239	ⅡH10h	22	19	28	58.604	暗褐色	やや強	やや強
240	ⅡH11i	26	20	28	58.508	暗褐色	やや強	やや強
241	ⅡH10f	27	21	38	58.512	暗褐色	やや強	やや弱
242	ⅡH9f	27	24	15	58.724	暗褐色	やや強	やや弱
243	ⅡH9f	22	15	17	58.688	暗褐色	やや強	やや弱
244	ⅡH9f	19	17	18	58.684	暗褐色	やや強	やや弱
245	ⅡH9f	18	14	23	58.656	暗褐色	やや強	やや弱
246	ⅡH9f	20	15	21	58.676	暗褐色	やや強	やや弱
247	ⅡH9f	27	20	40	58.496	暗褐色	やや強	やや弱
248	ⅡI19p	37	30	24	59.504	暗褐色	やや強	やや弱
249	ⅡH11o	21	19	17	59.024	鈍黄褐色	やや強	やや弱
250	ⅡH13n	25	24	16	59.184	暗褐色	中	弱
251	ⅡH14c	47	33	67	58.768	暗褐色	やや弱	やや強
252	ⅡH13d	27	21	20	59.112	黒褐色	中	やや強
253	ⅡH12d	48	33	20	59.116	黒褐色	中	やや強
254	ⅡH12d	24	19	22	59.132	黒褐色	中	やや強
255	ⅡH12d	22	16	29	58.976	黒褐色	中	やや強
256	ⅡH12d	18	11	21	59.056	黒褐色	中	やや強
257	ⅡI17e	61	54	39	58.680	褐色	中	中
258	ⅡI18h	43	35	10	58.872	暗褐色	やや弱	中
259	ⅡI18h	37	35	32	58.644	暗褐色	弱	やや弱
260	ⅡI18h	33	29	31	58.664	暗褐色	弱	やや弱
261	ⅡI17h	33	31	30	58.724	暗褐色	やや弱	やや強
262	ⅡI17h	44	38	31	58.672	暗褐色	やや弱	やや強
263	ⅡI16h	39	39	10	58.708	暗褐色	やや弱	やや強
264	ⅡI16h	42	33	18	58.600	暗褐色	やや弱	やや強
265	ⅡI14d	66	50	29	58.604	暗褐色	やや弱	やや強
266	ⅡI13c	33	27	35	58.696	褐色	中	中
267	ⅡI13b	24	20	30	58.808	暗褐色	やや強	やや弱
268	ⅡI13b	26	25	34	58.800	暗褐色	やや強	やや弱
269	ⅡI14b	21	14	24	58.920	暗褐色	やや強	やや弱
270	ⅡI14b	50	41	45	58.720	褐色	やや強	やや強
271	ⅡI14b	51	41	24	58.912	褐色	やや強	やや強
272	ⅡI14b	45	32	26	58.892	褐色	やや強	やや強
273	ⅡI14c	34	30	12	58.980	暗褐色	中	中
274	ⅡI14c	60	33	48	58.468	暗褐色	中	中
275	ⅡI15c	54	42	30	58.660	暗褐色	中	中
276	ⅡI15c	47	45	38	58.672	暗褐色	中	中
277	ⅡI16b	62	46	42	58.848	暗褐色	やや強	中
278	ⅡI16b	53	41	34	58.888	暗褐色	やや強	やや弱
279	ⅡI15c	57	41	22	58.724	暗褐色	やや強	中
280	ⅡI15d	38	34	34	58.568	暗褐色	やや強	中
281	ⅡI15d	53	29	32	58.620	暗褐色	やや強	やや弱

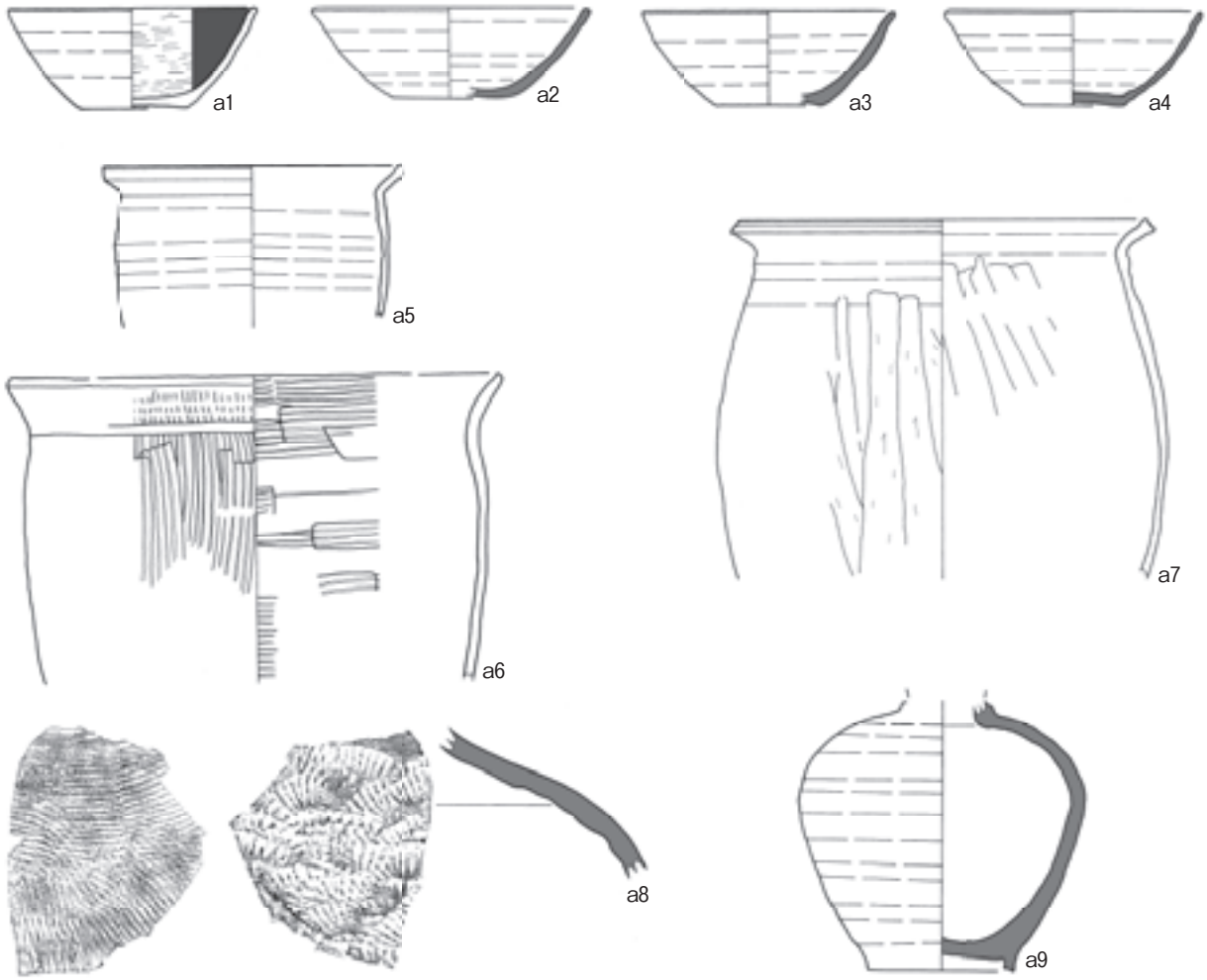
第 11 表　柱穴状小土坑一覧表（3）

No.	位置	規模（cm）			底面標高（m）	主体土		
		長径	短径	深さ		色調	しまり	粘性
282	ⅡI15c	40	34	22	58.788	黒褐色	中	中
283	ⅡI16a	43	33	30	58.788	暗褐色	中	中
284	ⅡI14c	43	35	37	58.468	鈍黄褐色	中	中
285	ⅡH15t	27	19	13	58.936	黒褐色	中	中
286	ⅡI15a	26	16	2	58.272	黒褐色	中	中
287	ⅡI15a	20	13	34	58.696	黒褐色	やや弱	中
288	ⅡH11q	39	35	40	58.596	黒色	強	強
289	ⅡI17g	35	27	18	58.644	—	—	—
290	ⅡI16g	46	38	15	58.616	—	—	—
291	ⅡI16g	64	58	14	58.640	—	—	—
292	ⅡI16g	56	48	22	58.576	—	—	—
293	ⅡI17g	72	47	34	58.476	—	—	—
294	ⅡI16h	42	33	18	58.600	—	—	—
295	ⅡI16h	59	47	17	58.656	—	—	—
296	ⅡI16h	61	55	16	58.684	—	—	—
297	ⅡI17h	54	46	24	58.608	—	—	—
298	ⅡI17h	50	45	30	58.552	—	—	—
299	ⅡI17h	46	44	31	58.560	—	—	—
300	ⅡI18h	53	42	28	58.636	—	—	—
301	ⅡI18g	41	35	32	58.568	—	—	—
302	ⅡI17g	53	53	27	58.592	—	—	—
303	ⅡI17g	50	42	10	58.748	—	—	—
304	ⅡI16g	31	28	12	58.608	—	—	—
305	ⅡI17g	54	44	22	58.652	—	—	—
306	ⅡI16h	39	39	10	58.708	—	—	—
307	ⅡI17h	33	31	30	58.724	—	—	—
308	ⅡI17h	25	20	20	58.552	—	—	—
309	ⅡI18g	56	31	20	58.672	—	—	—
310	ⅡI16h	26	22	28	58.520	—	—	—
311	ⅡH7d	83	62	25	58.744	鈍黄褐色	中	中
312	ⅢJ4r	33	28	16	59.784	黒褐色	やや弱	中
313	ⅢJ5r	35	32	6	59.888	黒褐色	やや弱	中
314	ⅢJ5r	35	32	14	59.808	黒褐色	やや弱	中
315	ⅢJ5s	26	26	10	59.820	黒褐色	やや弱	中
316	ⅢJ5s	25	24	11	59.840	黒褐色	やや弱	中
317	ⅢJ5s	27	25	14	59.784	黒褐色	やや弱	中
318	ⅢJ5s	32	26	10	59.852	黒褐色	やや弱	中
319	ⅢJ5s	38	37	22	59.732	黒褐色	やや弱	中
320	ⅢJ5s	25	23	10	59.828	黒褐色	やや弱	中
321	ⅢJ5t	39	32	14	59.788	黒褐色	やや弱	中
322	ⅢJ5t	38	31	41	59.520	黒褐色	やや弱	中
323	ⅢJ5t	39	30	19	59.736	黒褐色	やや弱	中
324	ⅢJ6t	43	38	14	59.808	黒褐色	やや弱	中
325	ⅢJ6t	32	27	41	59.540	黒褐色	やや弱	中
326	ⅢJ6t	40	34	24	59.684	黒褐色	やや弱	中
327	ⅢJ5s	38	29	31	59.632	黒褐色	やや弱	中
328	ⅢJ5s	20	19	17	59.764	黒褐色	やや弱	中
329	ⅢJ6s	26	22	10	59.836	黒褐色	やや弱	中
330	ⅢJ6s	29	24	12	59.808	黒褐色	やや弱	中
331	ⅢJ6s	33	25	13	59.788	黒褐色	やや弱	中
332	ⅢJ6s	32	27	14	59.784	黒褐色	やや弱	中
333	ⅢJ6s	42	22	17	59.772	黒褐色	やや弱	中
334	ⅢJ6s	36	30	13	59.856	黒褐色	やや弱	中
335	ⅢJ6r	29	24	22	59.756	黒褐色	やや弱	中
336	ⅢJ5s	41	39	16	59.772	暗褐色	弱	弱
337	ⅢJ5s	55	44	27	59.648	暗褐色	弱	弱
338	ⅢJ5q	35	31	14	59.924	黒褐色	やや弱	中
339	ⅢJ5q	57	45	22	59.868	黒褐色	やや弱	中
340	ⅢJ5p	56	49	20	59.984	暗褐色	弱	弱
341	ⅢJ5p	25	20	14	60.048	黒褐色	やや弱	中
342	ⅢJ5q	39	37	20	59.988	黒褐色	やや弱	中
343	ⅢJ5q	53	35	13	60.060	黒褐色	やや弱	中
344	ⅢJ6p	32	29	26	60.004	黒褐色	やや弱	中
345	ⅢJ5p	61	49	12	60.116	黒褐色	やや弱	中
346	ⅢJ5o	26	22	18	60.080	黒褐色	やや弱	中
347	ⅢJ5o	44	35	13	60.124	黒褐色	やや弱	中
348	ⅢJ5o	37	36	24	60.016	黒褐色	やや弱	中
349	ⅢJ5o	36	33	13	60.220	黒褐色	やや弱	中
350	ⅢJ5n	36	26	36	60.016	黒褐色	やや弱	中
351	ⅢJ5n	32	26	11	60.260	黒褐色	やや弱	中
352	ⅢJ5n	42	32	13	60.224	黒褐色	やや弱	中
353	ⅢJ7q	26	24	11	60.104	黒褐色	やや弱	中
354	ⅢJ6p	30	29	26	60.048	黒褐色	やや弱	中
355	ⅢJ5m	69	61	24	60.164	黒褐色	やや弱	中
356	ⅢJ7t	25	22	16	59.852	黒褐色	やや弱	中
357	ⅢJ7t	33	29	25	59.776	暗褐色	弱	弱
358	ⅢJ6t	36	31	11	59.840	黒褐色	やや弱	中
359	ⅢJ7t	38	32	13	59.924	暗褐色	弱	弱
360	ⅢJ7s	25	22	8	60.056	黒褐色	やや弱	中
361	ⅢJ7s	34	31	15	59.992	黒褐色	やや弱	中
362	ⅢJ7s	28	19	10	60.048	黒褐色	やや弱	中
363	ⅢJ7q	35	23	24	60.012	—	—	—
364	ⅢJ7t	35	29	25	59.788	黒褐色	やや弱	中
365	ⅢJ7t	34	28	18	59.856	黒褐色	やや弱	中
365	ⅢJ9t	36	33	10	60.016	黒褐色	やや弱	中
367	ⅢJ3p	41	34	19	59.900	—	—	—
368	ⅢJ6s	104	83	18	59.844	黒褐色	やや弱	中
368	ⅢJ7t	36	33	12	59.984	暗褐色	弱	弱
370	ⅢJ7t	49	43	20	59.904	黒褐色	やや弱	中
371	ⅢJ7t	37	34	20	59.900	黒褐色	やや弱	中
372	ⅢK7b	34	23	14	59.860	暗褐色	弱	弱
373	ⅢK7b	44	36	25	59.700	黒褐色	やや弱	中
374	ⅢJ8t	32	37	30	59.816	黒褐色	やや弱	中
375	ⅢJ8t	47	46	15	59.980	黒褐色	やや弱	中
376	ⅢJ6s	41	32	38	59.628	黒褐色	やや弱	中
377	ⅢJ8t	40	41	12	60.008	黒褐色	やや弱	中
378	ⅢK10b	31	27	15	59.932	黒褐色	やや弱	中
379	ⅢK7b	52	48	46	59.476	黒褐色	やや弱	中
380	ⅢJ8t	23	20	15	59.940	黒褐色	やや弱	中
381	ⅢJ7t	36	34	15	59.856	暗褐色	弱	弱
382	ⅢJ7s	31	27	9	59.952	黒褐色	やや弱	中
383	ⅢJ7s	24	20	5	59.984	黒褐色	やや弱	中
384	ⅢK8b	26	25	8	59.916	暗褐色	弱	弱
385	ⅢI4q	66	56	20	59.346	—	—	—
386	ⅢK10b	37	29	28	59.852	黒褐色	やや弱	中
387	ⅢK9a	30	22	14	60.040	黒褐色	やや弱	中
388	ⅢK9a	31	29	14	59.980	黒褐色	やや弱	中
389	ⅢK6c	47	35	22	59.660	暗褐色	弱	弱
390	ⅢK6c	41	34	33	59.556	黒褐色	やや弱	中
391	ⅢK7b	49	45	16	59.788	黒褐色	やや弱	中
392	ⅢK6d	34	33	17	59.656	暗褐色	弱	弱
393	ⅢK10d	34	29	19	59.796	黒褐色	やや弱	中
394	ⅢK10d	41	32	28	59.692	黒褐色	やや弱	中
395	ⅢK10d	35	31	26	59.676	暗褐色	弱	弱
396	ⅢK10d	38	32	22	59.716	暗褐色	弱	弱
397	ⅢK7a	45	39	10	59.860	黒褐色	やや弱	中
398	ⅢK7a	49	47	10	59.856	黒褐色	やや弱	中
399	ⅢK7a	33	25	12	59.792	暗褐色	弱	弱
400	ⅢK7a	36	26	9	59.836	黒褐色	やや弱	中
401	ⅢK7a	34	32	33	59.588	黒褐色	やや弱	中
402	ⅢK7a	35	30	26	59.668	暗褐色	弱	弱
403	ⅢK7b	21	18	11	59.760	暗褐色	弱	弱
404	ⅢK7b	54	32	32	59.636	黒褐色	やや弱	中
405	ⅢK7b	31	24	9	59.844	暗褐色	弱	弱
406	ⅢK8b	40	30	12	59.920	黒褐色	やや弱	中
407	ⅢK8b	43	36	16	59.904	黒褐色	やや弱	中
408	ⅢJ7t	31	29	14	59.924	黒褐色	やや弱	中
409	ⅢK6b	57	53	23	59.684	黒褐色	やや弱	中
410	ⅢJ7q	33	22	18	60.012	黒褐色	やや弱	中
411	ⅢK10d	39	32	50	59.412	黒褐色	やや弱	中

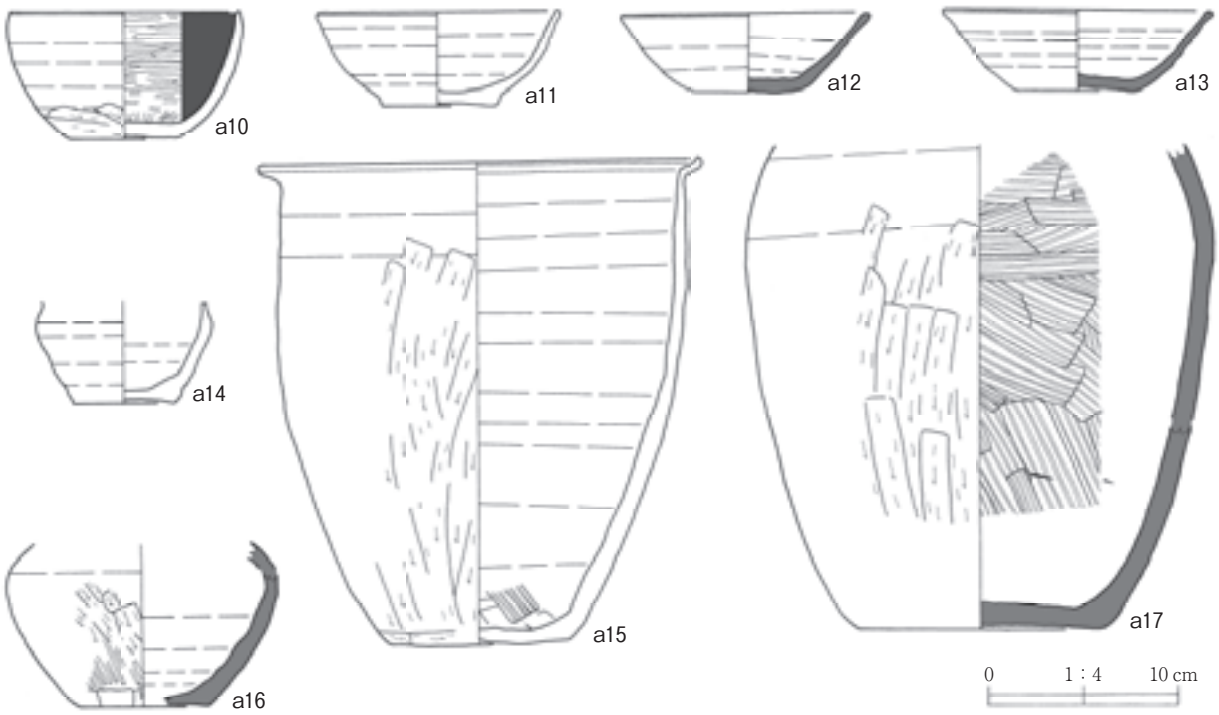
第 11 表　柱穴状小土坑一覧表（4）

No.	位置	規模(cm)			底面標高(m)	主体土		
		長径	短径	深さ		色調	しまり	粘性
412	ⅢK11e	30	30	13	59.948	黒褐色	やや弱	中
413	ⅢK11e	44	38	14	59.976	黒褐色	やや弱	中
414	ⅢK11e	33	29	27	59.772	黒褐色	やや弱	中
415	ⅢK11d	59	45	23	59.796	暗褐色	弱	弱
416	ⅢK11d	29	24	18	59.852	黒褐色	やや弱	中
417	ⅢI3p	29	22	49	59.074	—	—	—
418	ⅢK11e	38	35	30	59.824	黒褐色	やや弱	中
419	ⅢK12f	69	51	19	59.952	暗褐色	弱	弱
420	ⅢJ7s	34	25	12	59.908	黒褐色	やや弱	中
421	ⅢK11g	30	26	16	59.916	黒褐色	やや弱	中
422	ⅢK12g	27	21	13	59.904	暗褐色	弱	弱
423	ⅢK12g	23	18	16	59.840	黒褐色	やや弱	中
424	ⅢK11e	47	25	22	59.896	黒褐色	やや弱	中
425	ⅢK11e	31	23	23	59.876	黒褐色	やや弱	中
426	ⅢK12g	46	34	12	59.968	暗褐色	弱	弱
427	ⅢJ8r	45	36	51	59.628	黒褐色	やや弱	中
428	ⅢJ8r	26	21	15	59.980	暗褐色	弱	弱
429	ⅢJ8r	31	23	45	59.700	黒褐色	やや弱	中
430	ⅢK11e	68	67	24	59.872	暗褐色	弱	弱
431	ⅢK10e	32	27	12	59.876	暗褐色	弱	弱
432	ⅢK12h	86	68	16	59.840	黒褐色	やや弱	中
433	ⅢK12h	33	25	21	59.784	黒褐色	やや弱	中
434	ⅢK11h	29	24	14	59.832	暗褐色	弱	弱
435	ⅢK10d	30	25	13	59.776	暗褐色	弱	弱
436	ⅢK9d	36	25	32	59.588	黒褐色	やや弱	中
437	ⅢK10d	23	23	34	59.612	黒褐色	やや弱	中
438	ⅢK10d	29	23	19	59.764	暗褐色	弱	弱
439	ⅢK10j	37	26	24	59.716	黒褐色	やや弱	中
440	ⅢK10j	36	26	23	59.804	暗褐色	弱	弱
441	ⅢK10j	30	17	18	59.868	暗褐色	弱	弱
442	ⅢK9j	32	28	20	59.908	黒褐色	やや弱	中
443	ⅢK8i	48	43	10	60.056	黒褐色	やや弱	中
444	ⅢK8i	48	41	23	60.008	暗褐色	弱	弱
445	ⅢK9e	39	35	25	59.764	暗褐色	弱	弱
446	ⅢK10e	40	36	18	59.828	黒褐色	やや弱	中
447	ⅢK10e	36	35	18	59.824	暗褐色	弱	弱
448	ⅢK10e	52	23	35	59.628	黒褐色	やや弱	中
449	ⅢK9i	29	26	18	59.836	暗褐色	弱	弱
450	ⅢK9i	31	29	19	59.792	暗褐色	弱	弱
451	ⅢK8d	36	29	28	59.740	暗褐色	弱	弱
452	ⅢK8d	39	32	52	59.584	黒褐色	やや弱	中
453	ⅢK9e	29	23	24	59.764	暗褐色	弱	弱
454	ⅢK8d	67	42	14	59.944	黒褐色	やや弱	中
455	ⅢK8c	29	24	32	59.748	暗褐色	弱	弱
456	ⅢK8c	34	30	25	59.800	暗褐色	弱	弱
457	ⅢK8d	68	59	35	59.620	暗褐色	弱	弱
458	ⅢK7f	24	20	14	59.716	暗褐色	弱	弱
459	ⅢK7f	22	20	14	59.700	黒褐色	やや弱	中
460	ⅢK8g	28	24	24	59.652	黒褐色	やや弱	中
461	ⅢK8g	25	16	23	59.664	黒褐色	やや弱	中
462	ⅢK8g	36	31	12	59.784	黒褐色	やや弱	中
463	ⅢK8h	75	68	27	59.788	暗褐色	弱	弱
464	ⅢK8h	40	37	11	59.992	黒褐色	やや弱	中
465	ⅢK8h	76	68	24	59.848	黒褐色	やや弱	中
466	ⅢK9g	43	32	12	59.720	黒褐色	やや弱	中
467	ⅢK9g	36	27	28	59.668	黒褐色	やや弱	中
468	ⅢK8f	34	31	15	59.780	黒褐色	やや弱	中
469	ⅢK8f	49	32	18	59.756	暗褐色	弱	弱
470	ⅢK11i	29	24	35	59.608	黒褐色	やや弱	中
471	ⅢK12i	25	19	17	59.800	暗褐色	弱	弱
472	ⅢK12i	26	23	26	59.728	暗褐色	弱	弱
473	ⅢK9f	30	28	28	59.656	黒褐色	やや弱	中
474	ⅢK10f	28	28	14	59.988	黒褐色	やや弱	中
475	ⅢK8e	30	21	31	59.616	黒褐色	やや弱	中
476	ⅢK8f	26	26	21	59.724	暗褐色	弱	弱
477	ⅢK8f	23	17	10	59.844	暗褐色	弱	弱
478	ⅢK10f	29	26	13	59.964	黒褐色	やや弱	中
479	ⅢK9f	36	31	39	59.548	黒褐色	やや弱	中
480	ⅢK10f	35	30	31	59.712	黒褐色	やや弱	中
481	ⅢK9f	37	34	24	59.772	暗褐色	弱	弱
482	ⅢK9f	26	22	23	59.780	黒褐色	やや弱	中
483	ⅢK9f	22	21	16	59.812	黒褐色	やや弱	中
484	ⅢK9f	20	17	7	59.860	黒褐色	やや弱	中
485	ⅢK9f	28	24	25	59.684	暗褐色	弱	弱
486	ⅢK8f	25	23	17	59.716	暗褐色	弱	弱
487	ⅢK8f	23	11	11	59.776	黒褐色	やや弱	中
488	ⅢK8f	23	17	18	59.728	暗褐色	弱	弱
489	ⅢJ5l	29	26	8	60.304	黒褐色	やや弱	中
490	ⅢJ5n	31	27	26	60.236	暗褐色	弱	弱
491	ⅢJ3m	64	49	36	60.052	黒褐色	やや弱	中
492	ⅢJ4m	62	47	12	60.272	黒褐色	やや弱	中
493	ⅢJ4l	38	30	18	60.228	黒褐色	やや弱	中
494	ⅢJ3l	30	26	25	60.152	暗褐色	弱	弱
495	ⅢK10a	57	49	31	59.960	—	—	—
496	ⅢJ6r	40	32	38	59.668	—	—	—
497	ⅢJ3k	39	26	38	60.012	—	—	—
498	ⅢJ4k	44	37	41	59.988	—	—	—
499	ⅢJ4l	28	24	43	59.936	暗褐色	弱	弱
500	ⅢJ4l	29	24	27	60.148	黒褐色	やや弱	中
501	ⅢK13e	34	34	26	60.040	黒色	弱	弱
502	ⅢK13e	54	45	55	59.780	黒色	弱	弱
503	ⅣM10j	31	20	17	59.943	—	—	—
504	ⅣM9j	40	38	28	59.832	—	—	—
505	ⅣM9j	44	38	14	59.979	—	—	—
506	ⅣM8i	28	22	29	59.838	—	—	—
507	ⅣM11k	63	55	34	59.613	—	—	—
508	ⅣM11k	78	73	21	59.751	—	—	—
509	ⅣM11k	59	54	27	59.850	—	—	—
510	ⅣM11k	50	37	42	59.535	—	—	—
511	ⅣM7b	51	42	37	59.328	—	—	—
512	ⅣM7b	34	29	10	59.607	—	—	—
513	ⅣM7b	44	32	29	59.415	—	—	—
514	ⅣM7b	47	40	44	59.295	—	—	—
515	ⅣM7a	39	34	41	59.319	—	—	—
516	ⅣM7a	36	33	44	59.274	—	—	—
517	ⅣM7a	35	31	45	59.265	—	—	—
518	ⅣM7a	39	35	41	59.301	—	—	—
519	ⅣM6a	25	21	39	59.409	—	—	—
520	ⅣM7a	39	37	42	59.298	—	—	—
521	ⅣM7a	35	34	44	59.274	—	—	—
522	ⅣM7a	41	36	50	59.232	—	—	—
523	ⅣM11k	31	23	13	60.081	—	—	—
524	ⅣM11j	36	34	26	59.970	—	—	—
525	ⅢK14n	31	24	30	59.769	—	—	—
526	ⅢK15m	36	29	20	59.835	—	—	—
527	ⅢK14l	46	46	13	59.820	—	—	—
528	ⅢK17r	27	20	17	60.261	—	—	—
529	ⅢK17r	25	23	16	60.276	—	—	—
530	ⅢK17r	26	22	25	60.156	—	—	—
531	ⅢK18q	30	26	41	59.991	—	—	—
532	ⅢK18r	25	21	18	60.249	—	—	—
533	ⅢK17r	24	19	15	60.270	—	—	—
534	ⅢK17r	27	19	9	60.327	—	—	—
535	ⅢK18r	23	20	10	60.351	—	—	—
536	ⅢK18r	24	20	13	60.309	—	—	—
537	ⅢK18q	21	18	7	60.291	—	—	—
538	ⅢK18s	47	44	14	60.201	—	—	—
539	ⅢK18s	45	38	9	60.261	—	—	—

SI01

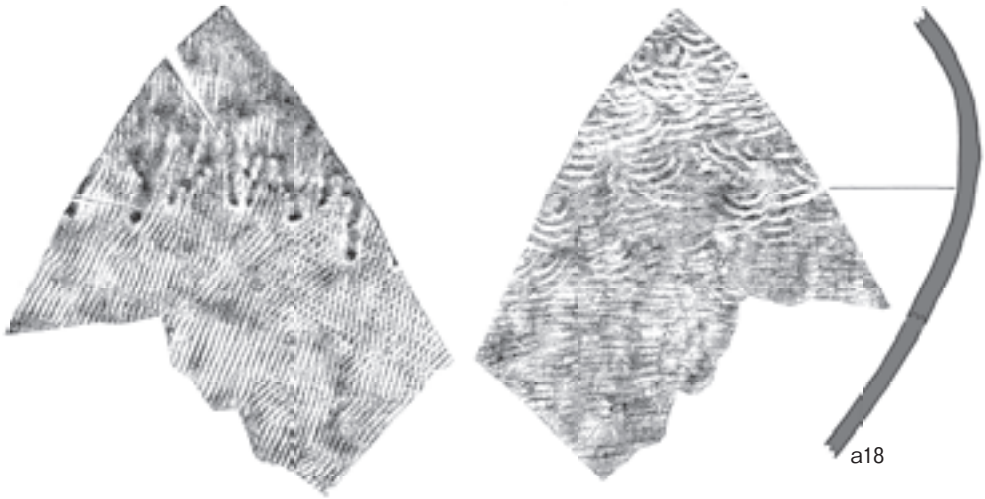


SI02

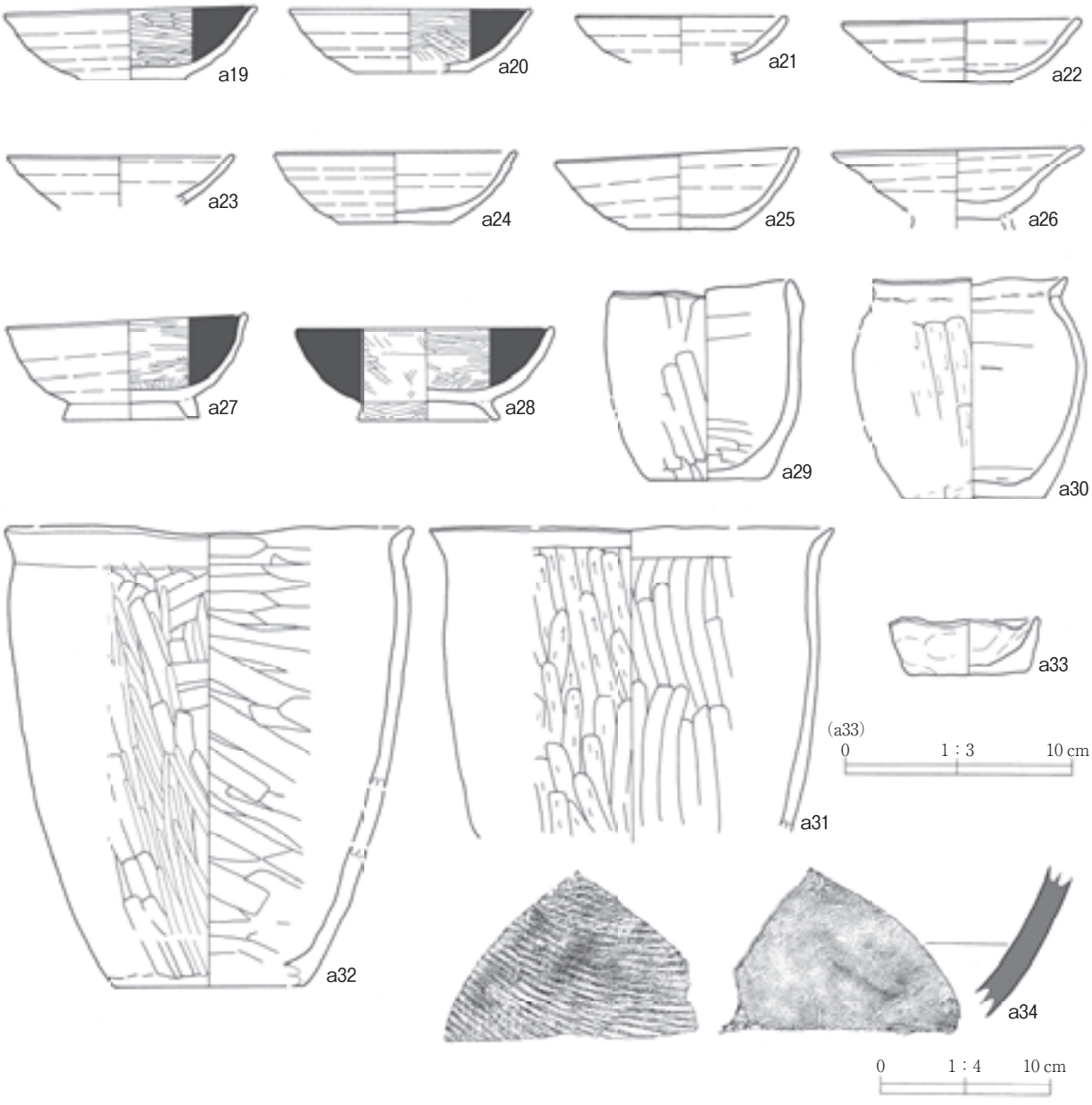


第 202 図　古代土器（1）

SI02

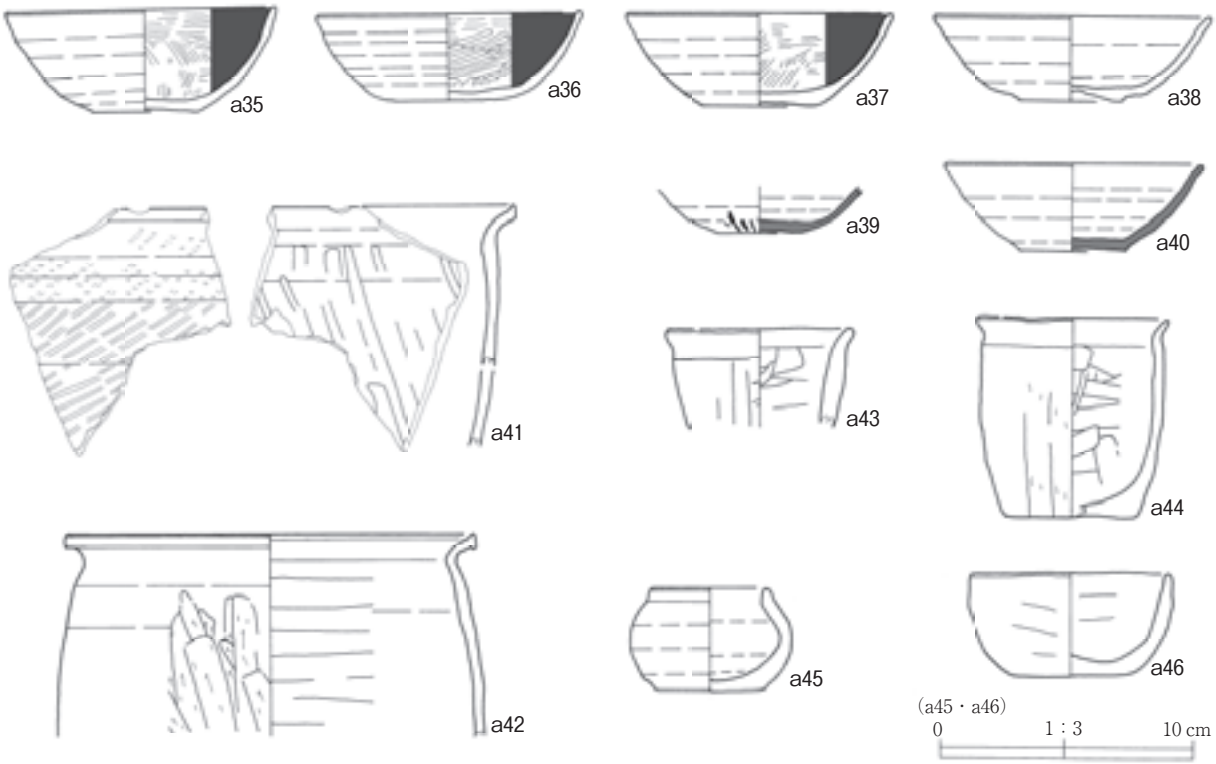


SI04

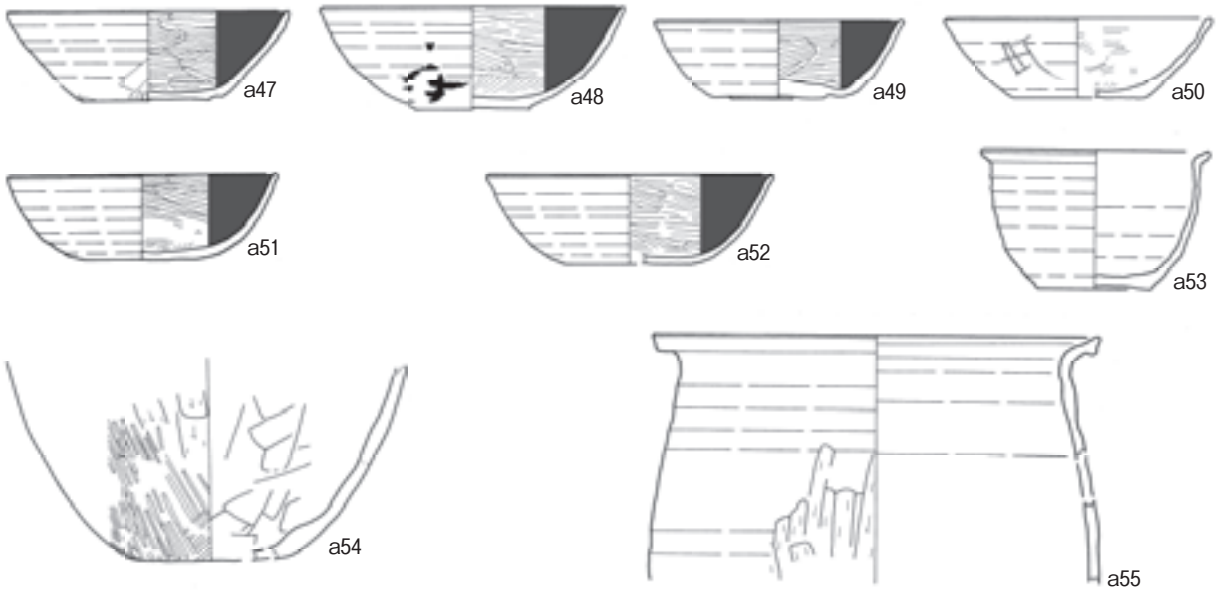


第 203 図　古代土器（2）

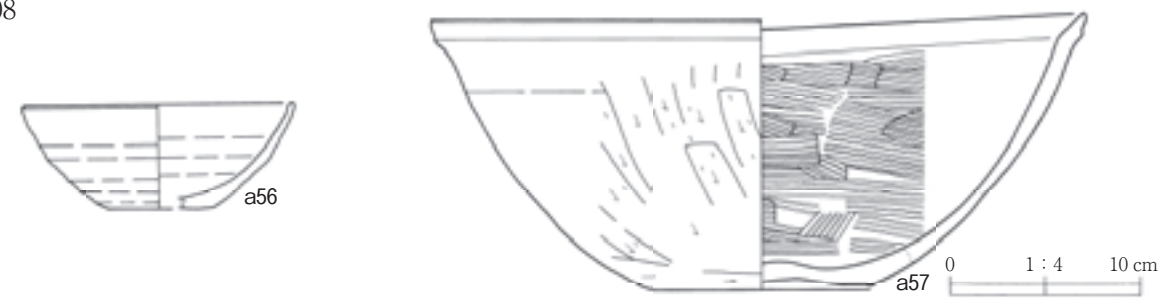
SI05



SI07

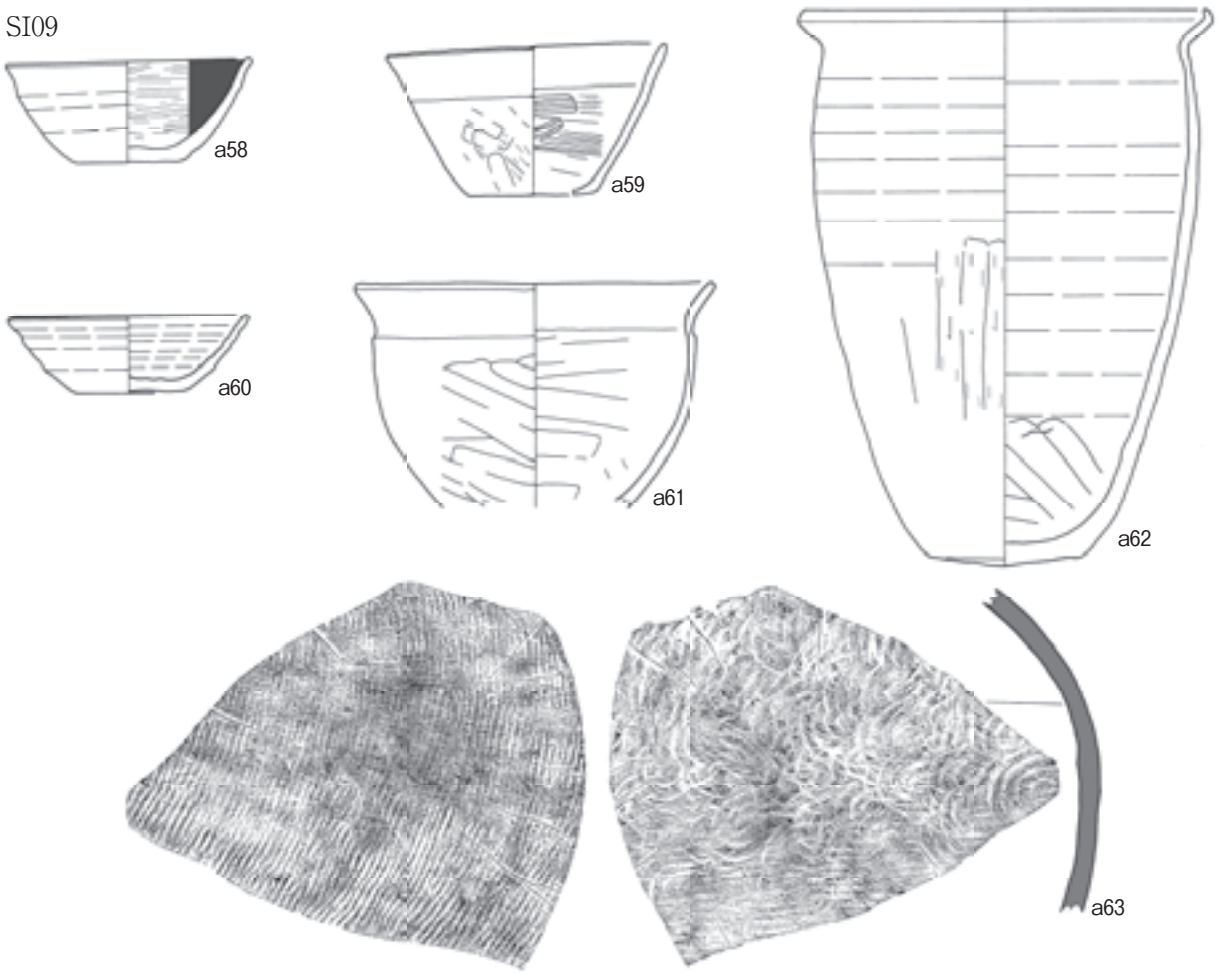


SI08

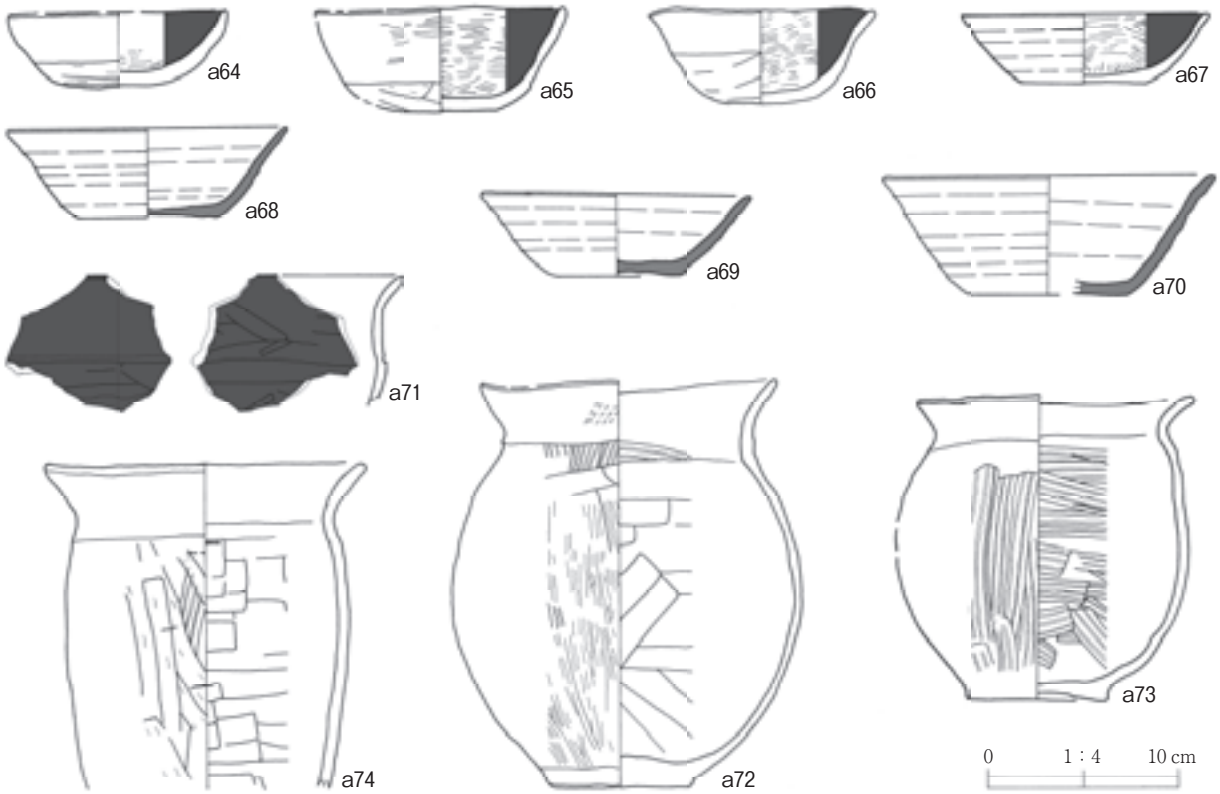


第 204 図　古代土器（3）

SI09



SI10

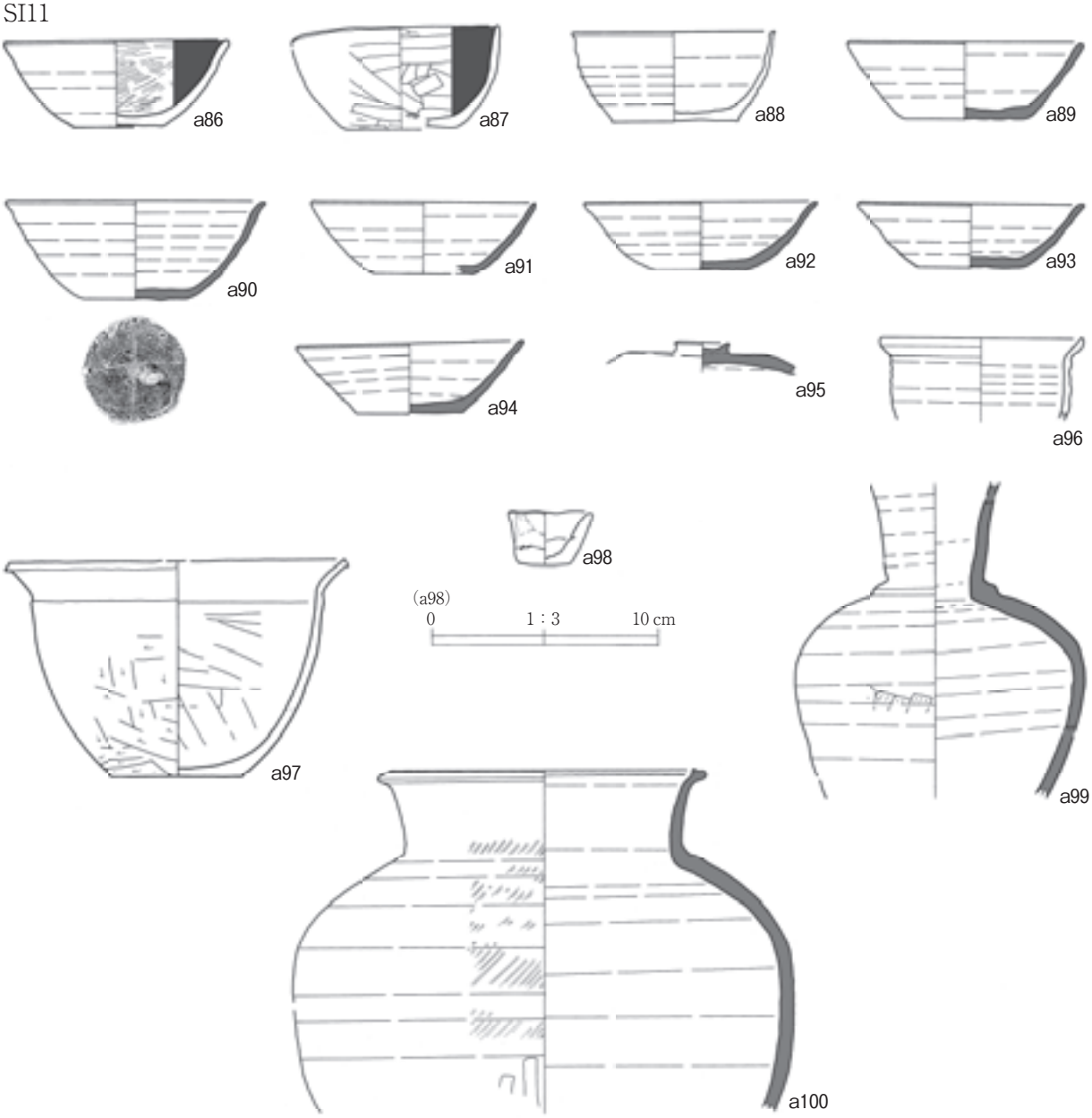


第 205 図　古代土器（4）

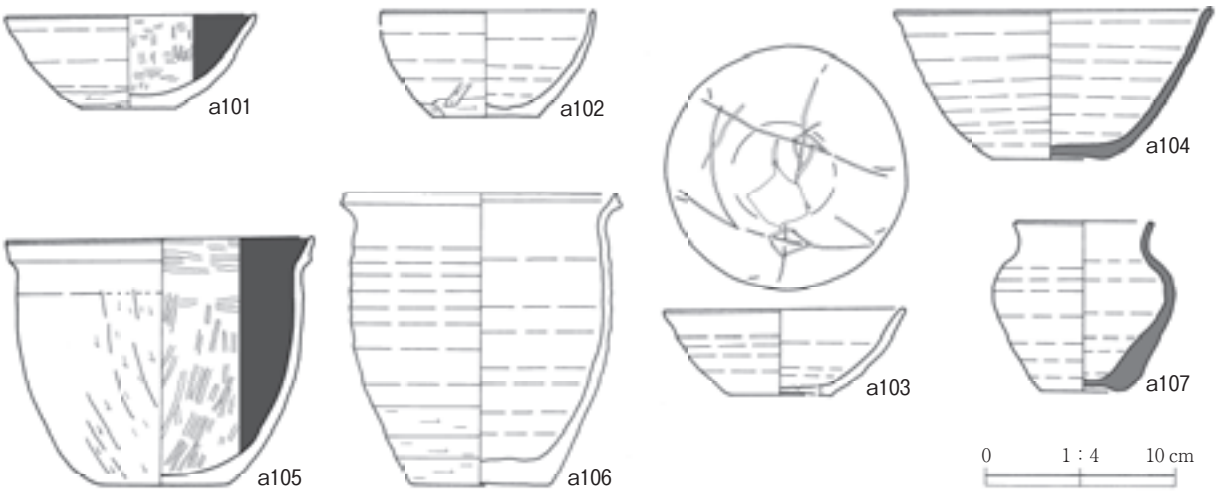
SI10

第 206 図　古代土器（5）

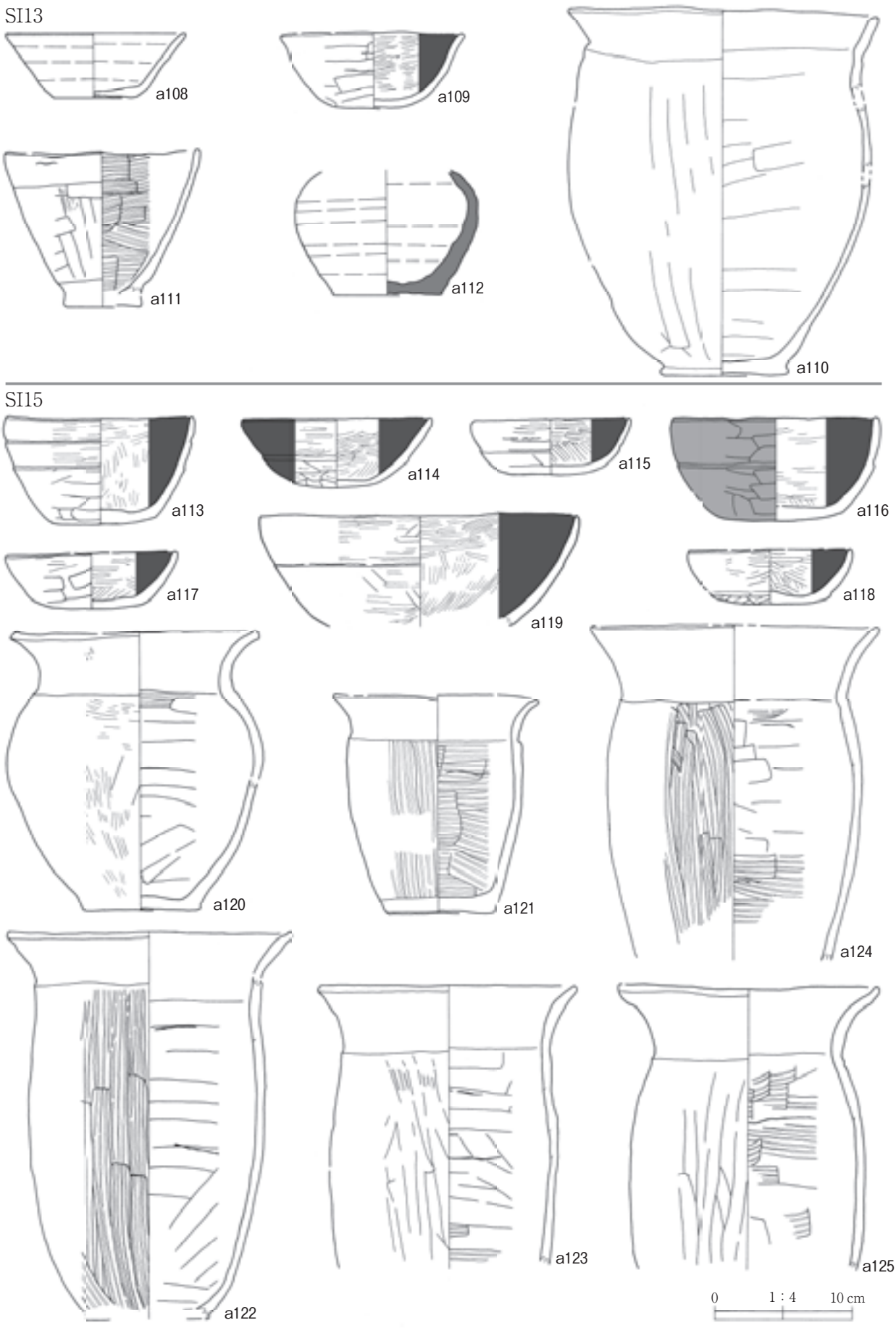
SI11



SI12

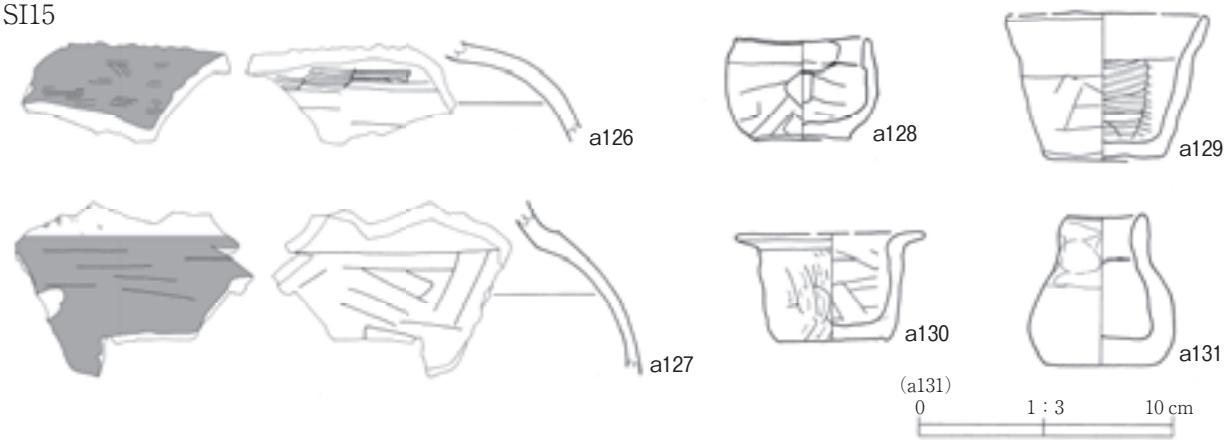


第 207 図　古代土器（6）

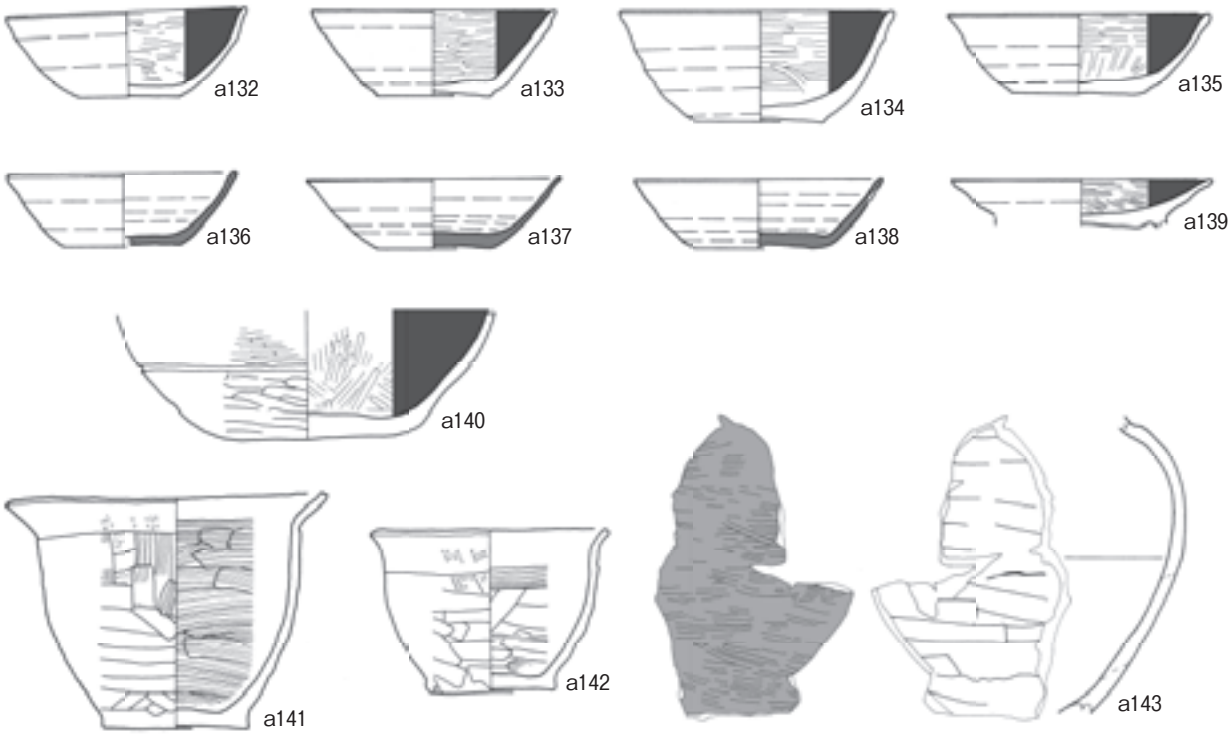

SI13
a108
a109
a110
a111
a112
SI15
a113
a114
a115
a116
a117
a118
a119
a120
a121
a122
a123
a124
a125
0
1：4
10 cm

第 208 図　古代土器（7）

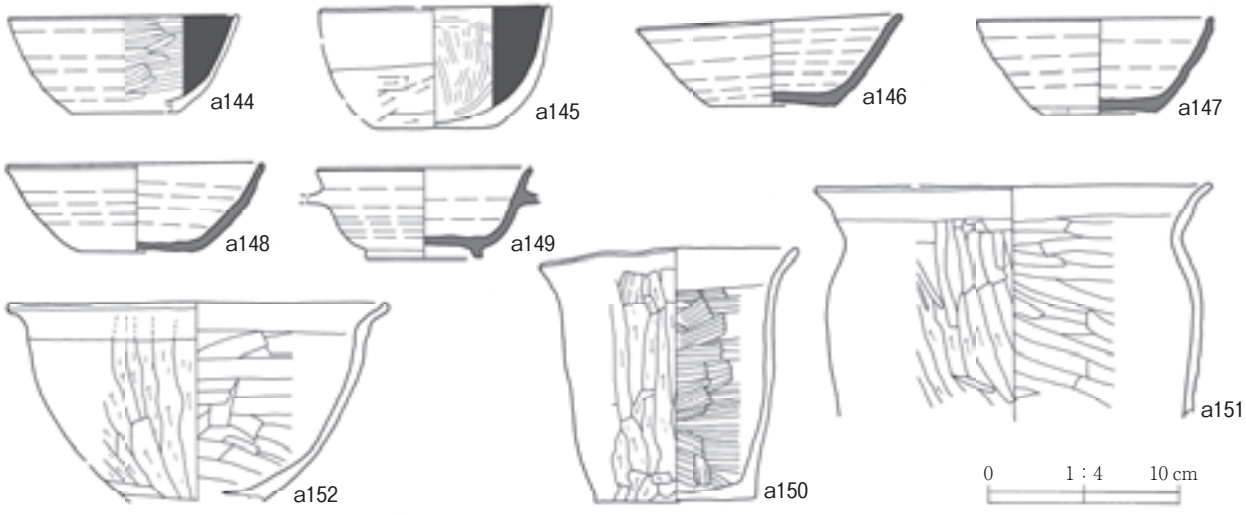
SI15



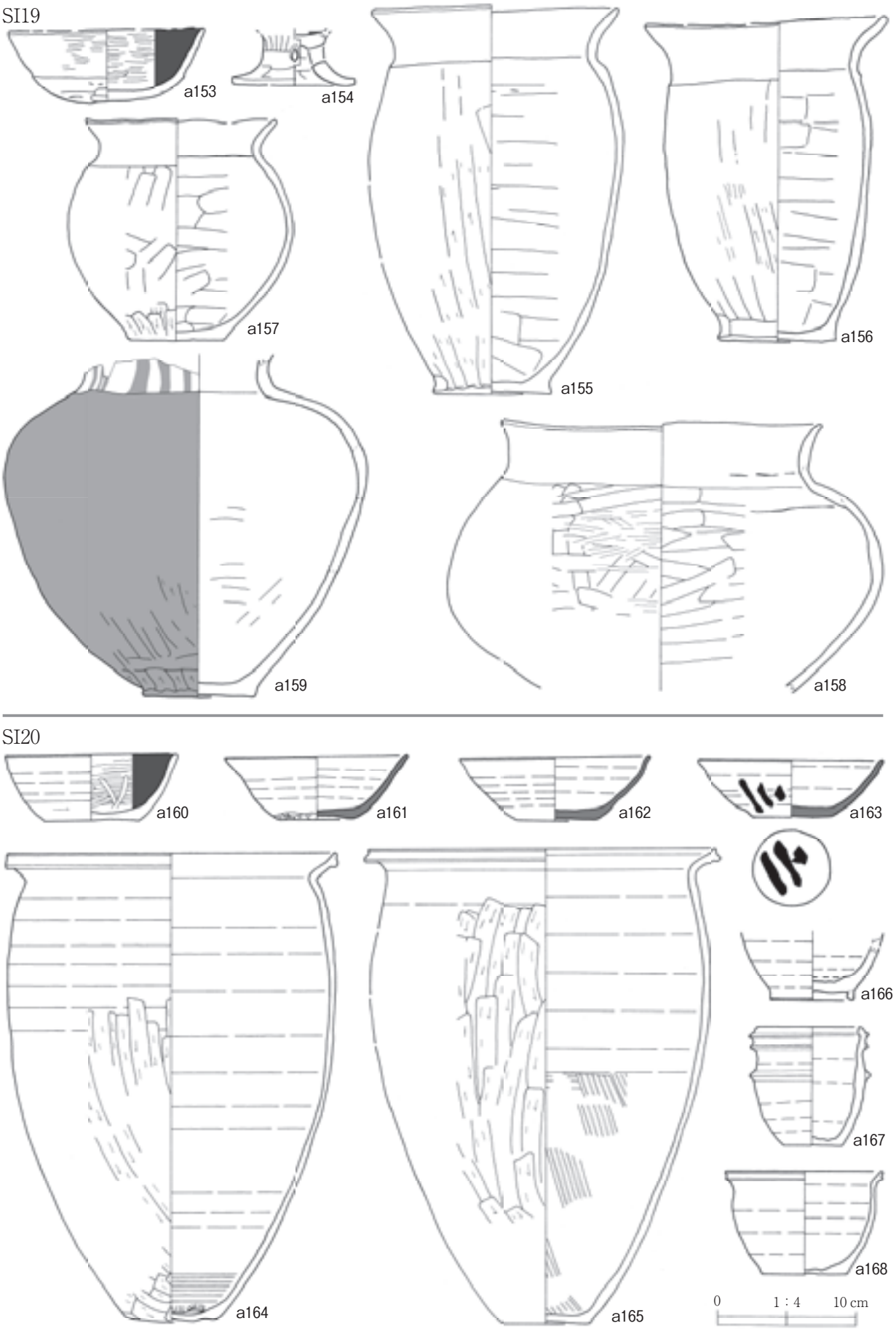
SI16



SI17

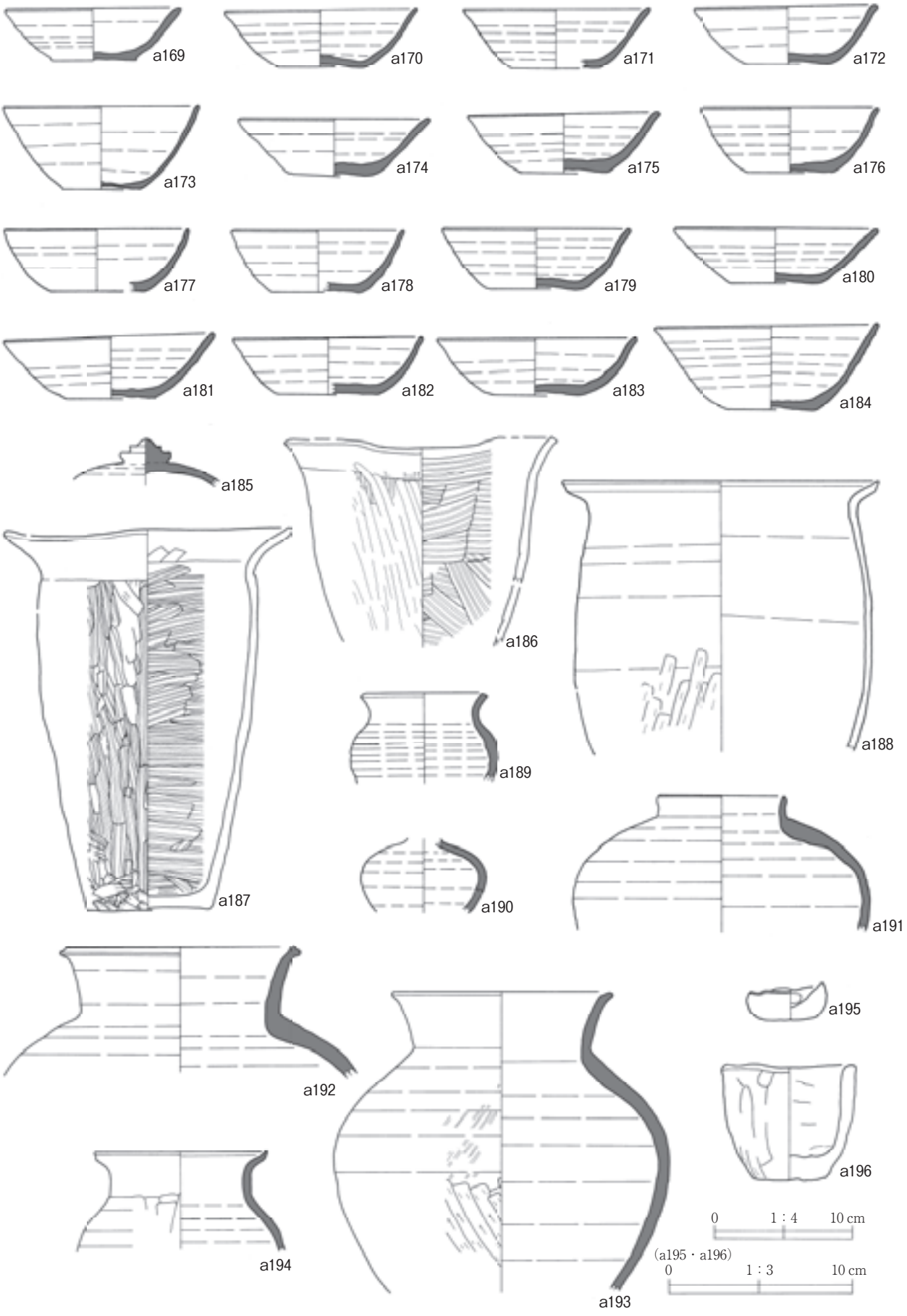


第 209 図　古代土器（8）


SI19
a153
a154
a155
a156
a157
a158
a159
SI20
a160
a161
a162
a163
a164
a165
a166
a167
a168
0
1：4
10 cm

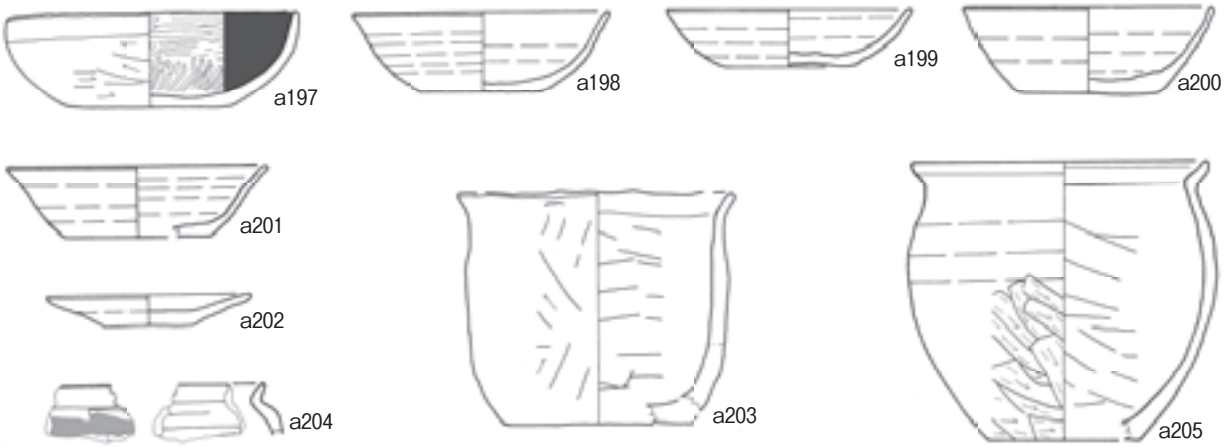
第 210 図　古代土器（9）

SI21

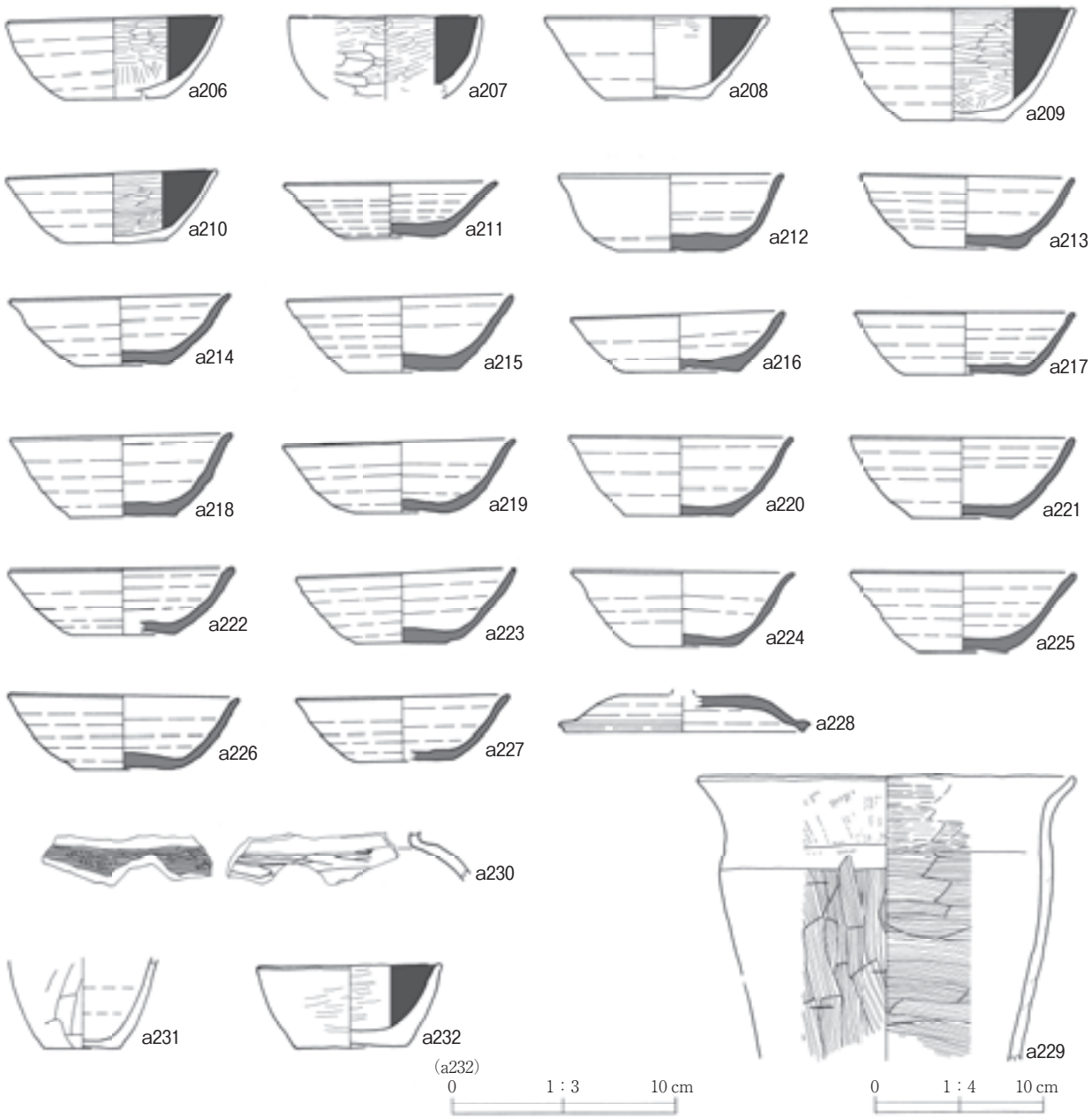


第 211 図　古代土器（10）

SI22

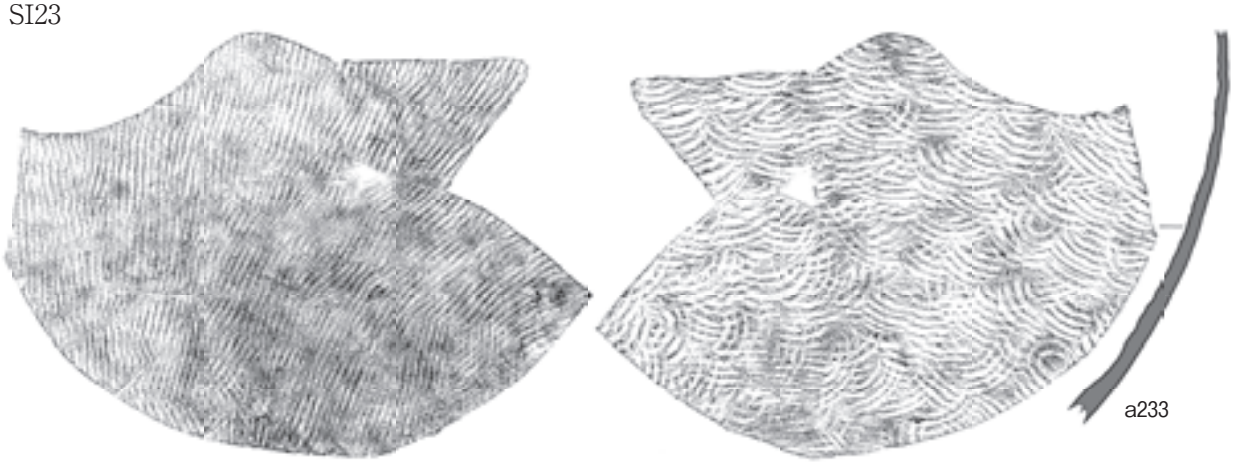


SI23

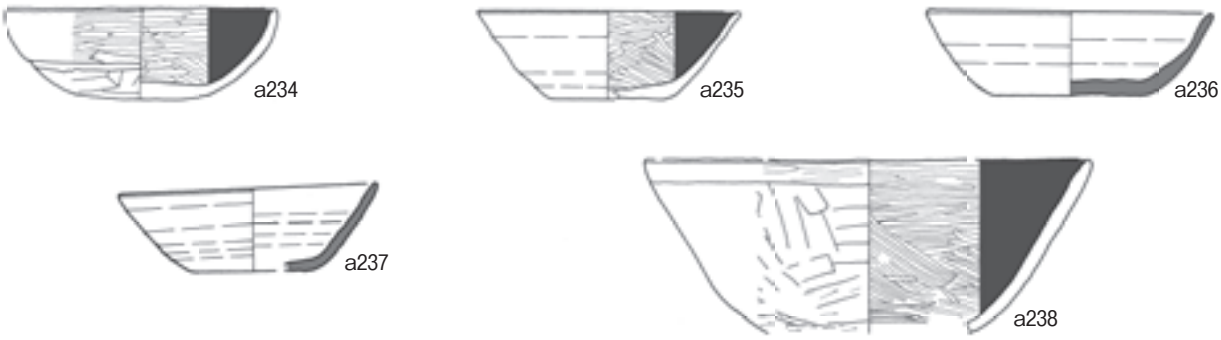


第 212 図　古代土器（11）

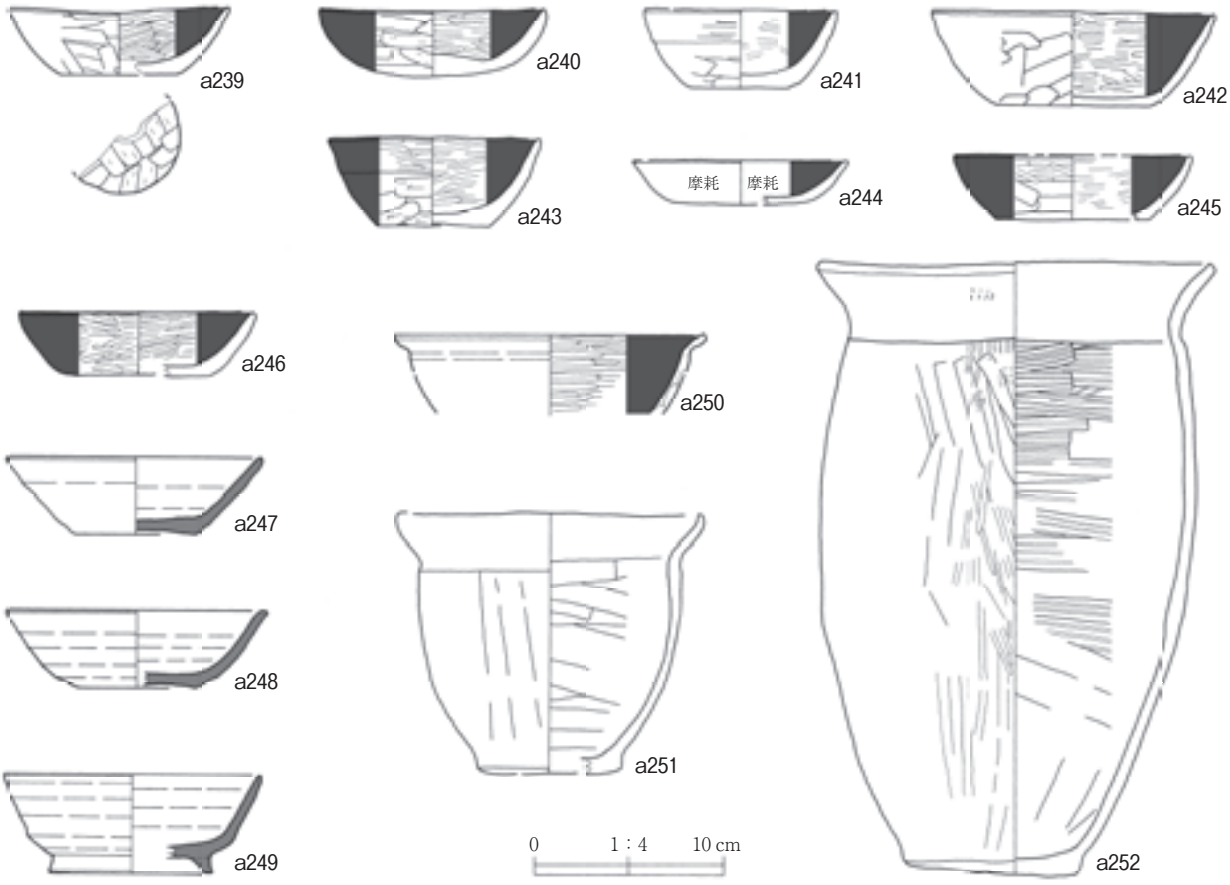
SI23



SI24

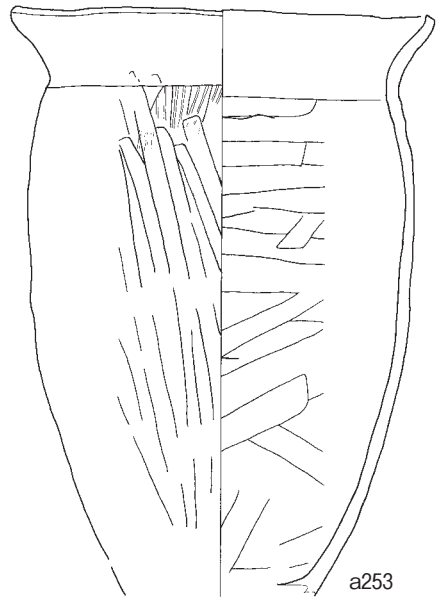


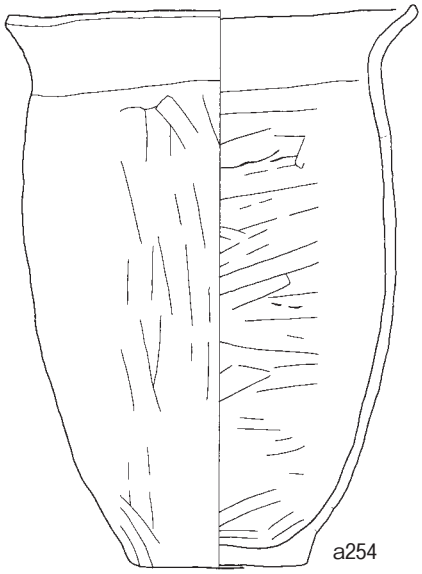
SI25

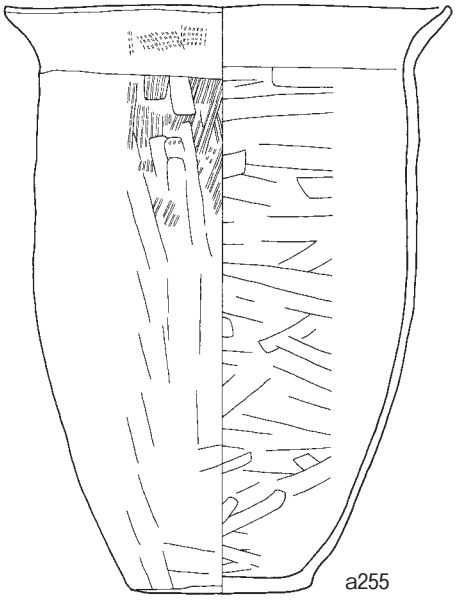


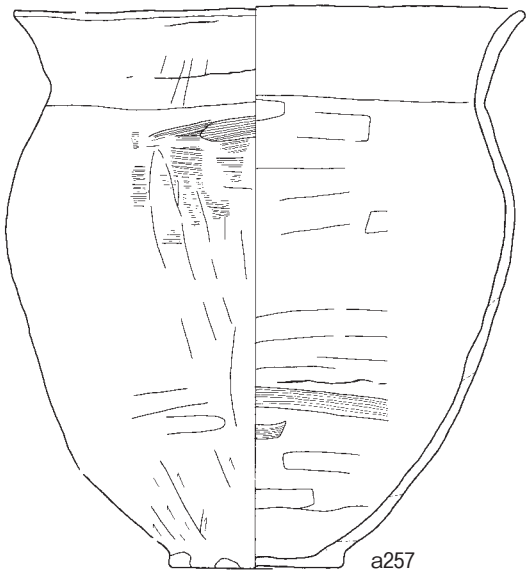
第 213 図　古代土器（12）

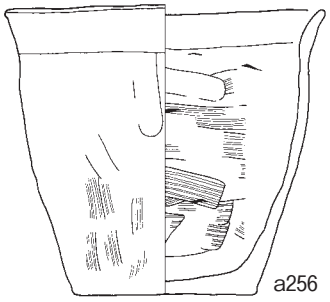
SI25

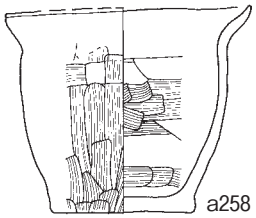

a253

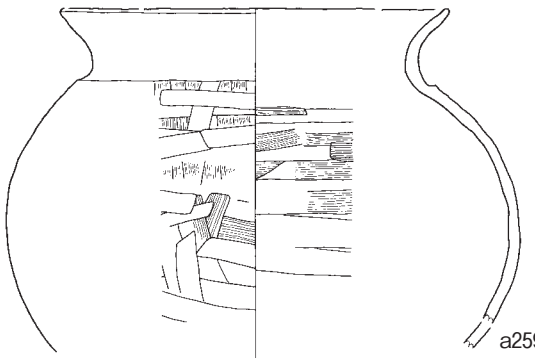

a254


a255


a257

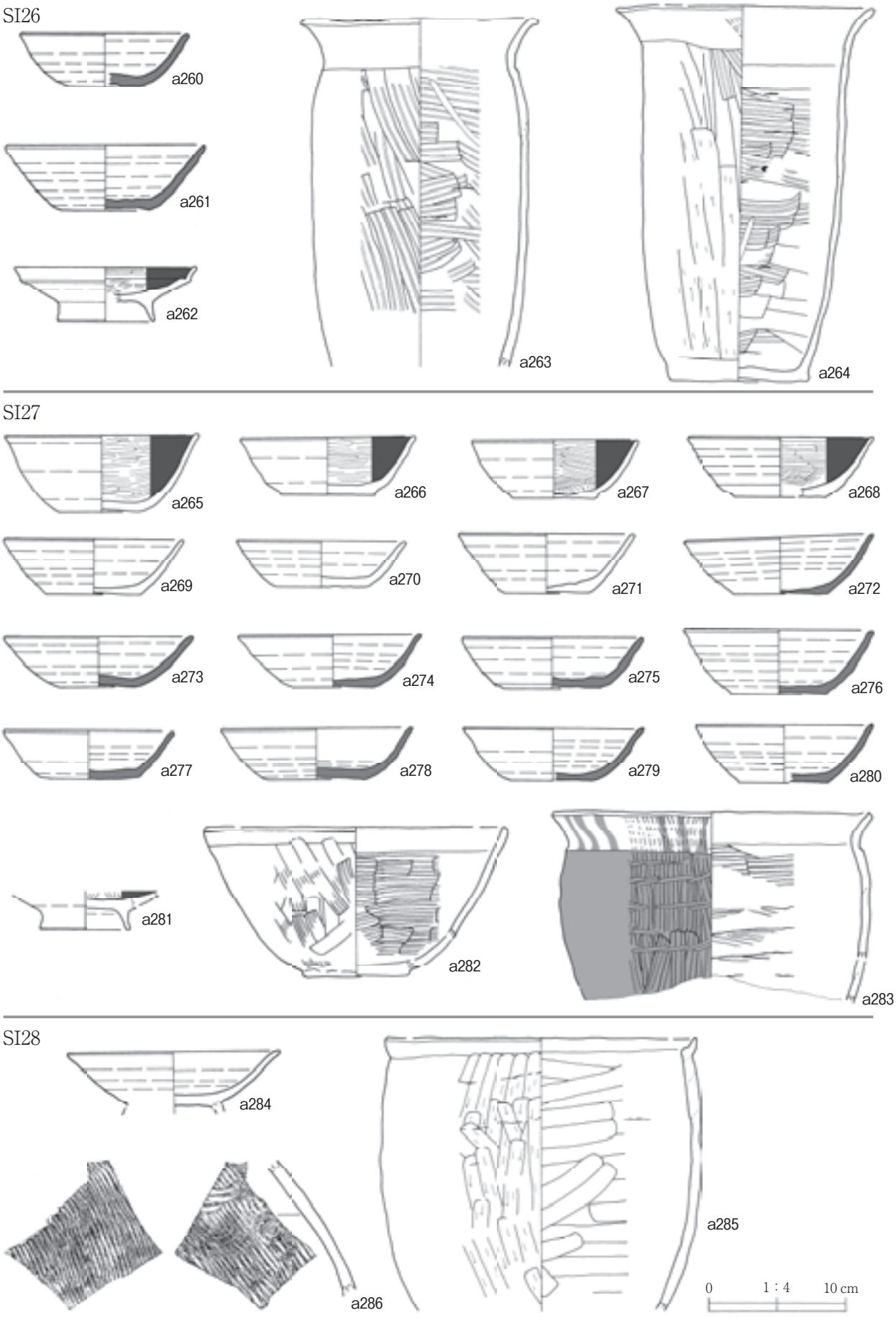

a256


a258

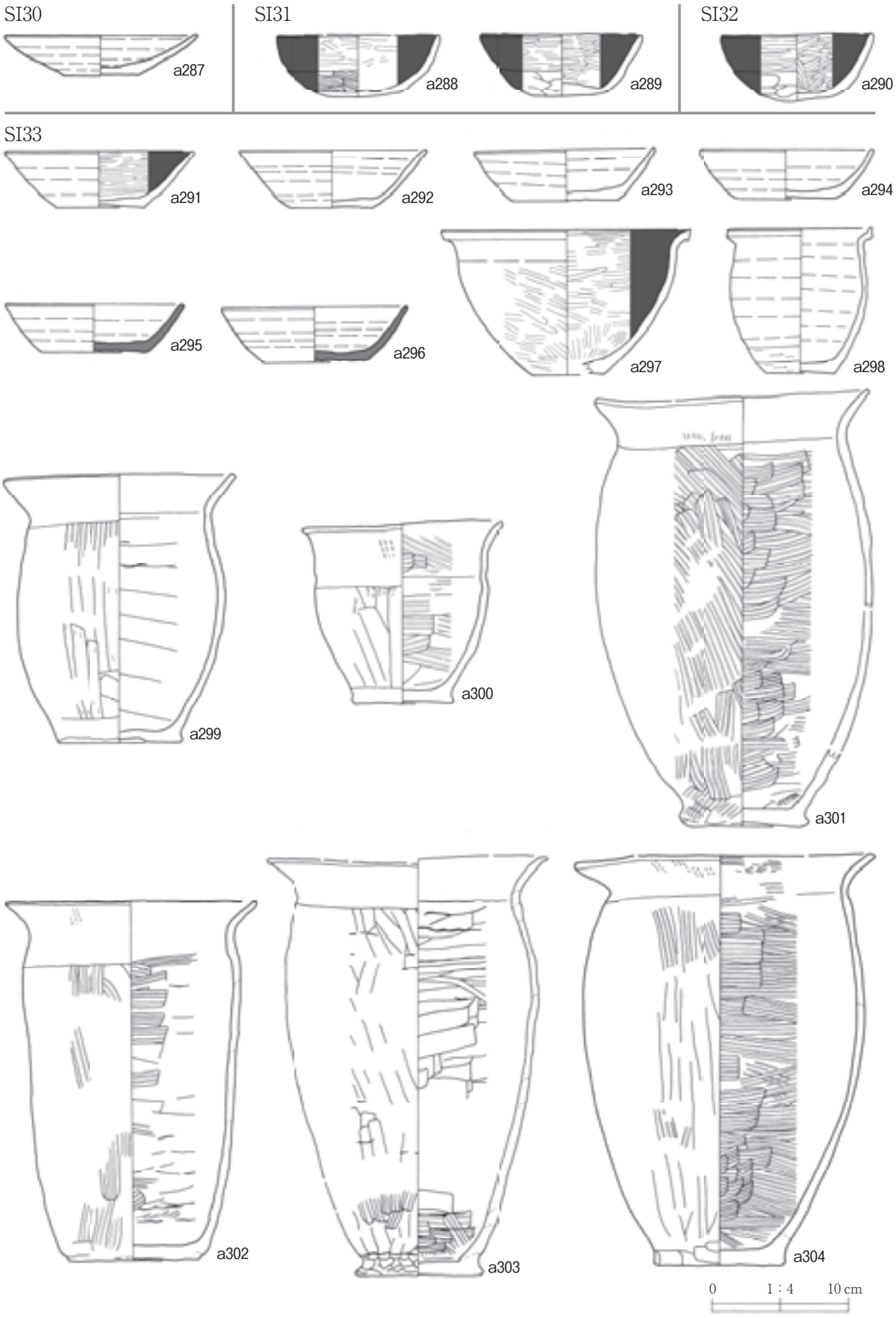

a259

0　1：4　10 cm

第 214 図　古代土器（13）



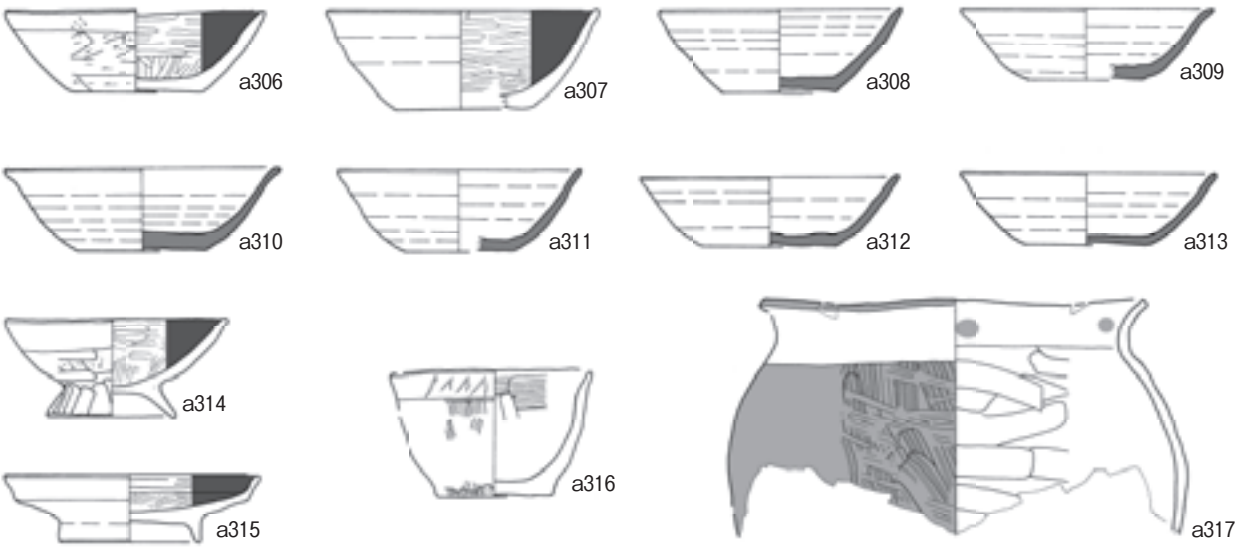
第 215 図　古代土器（14）



第 216 図　古代土器（15）

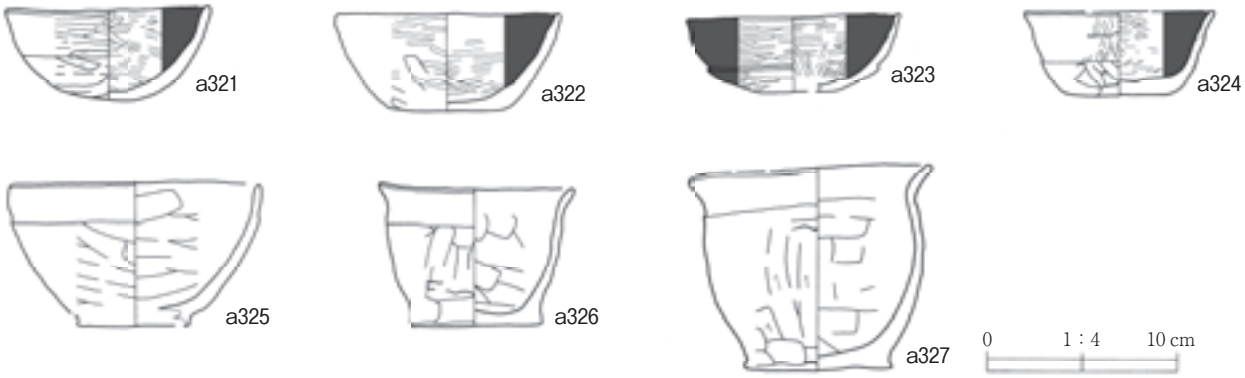
SI33

SI34

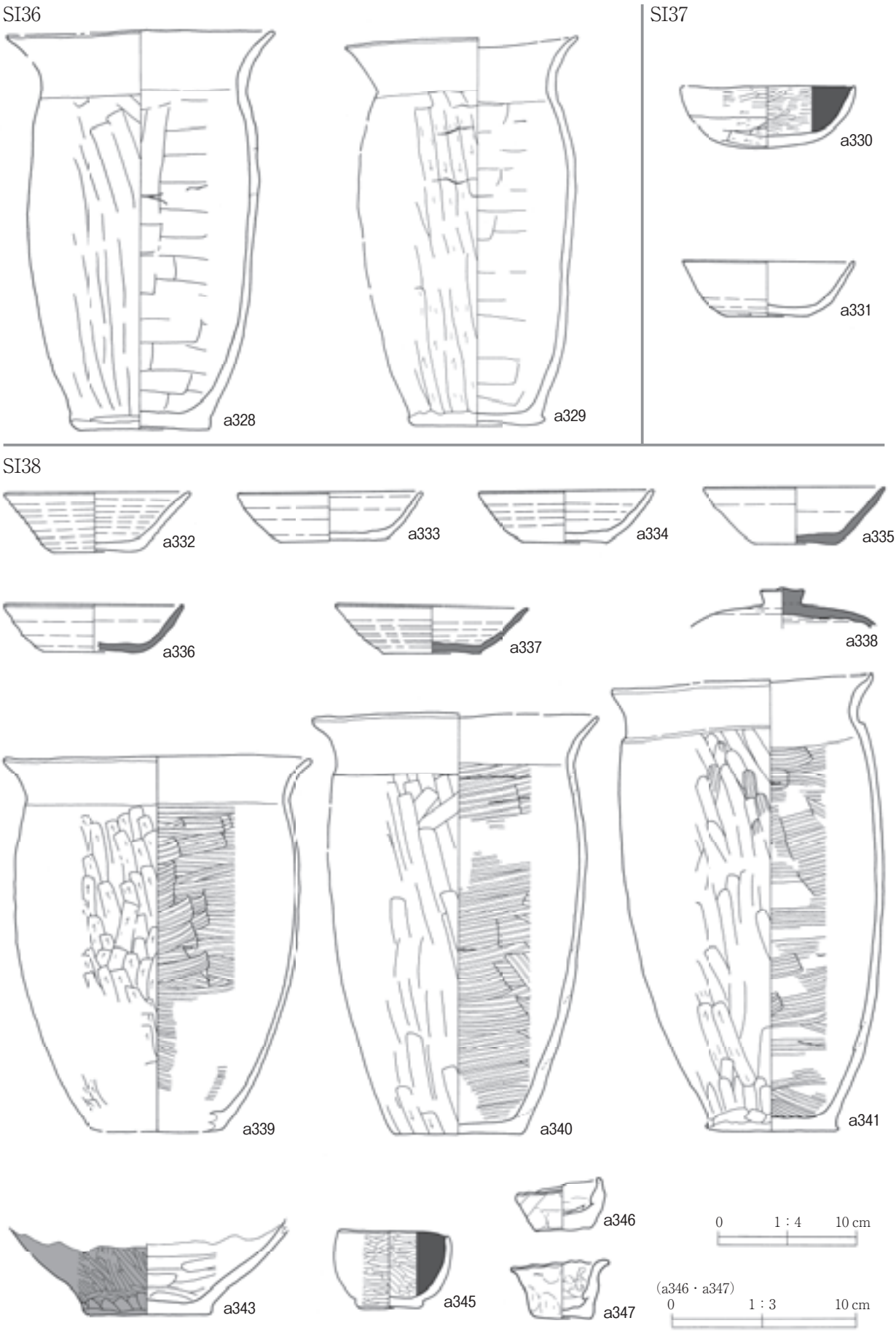


SI35

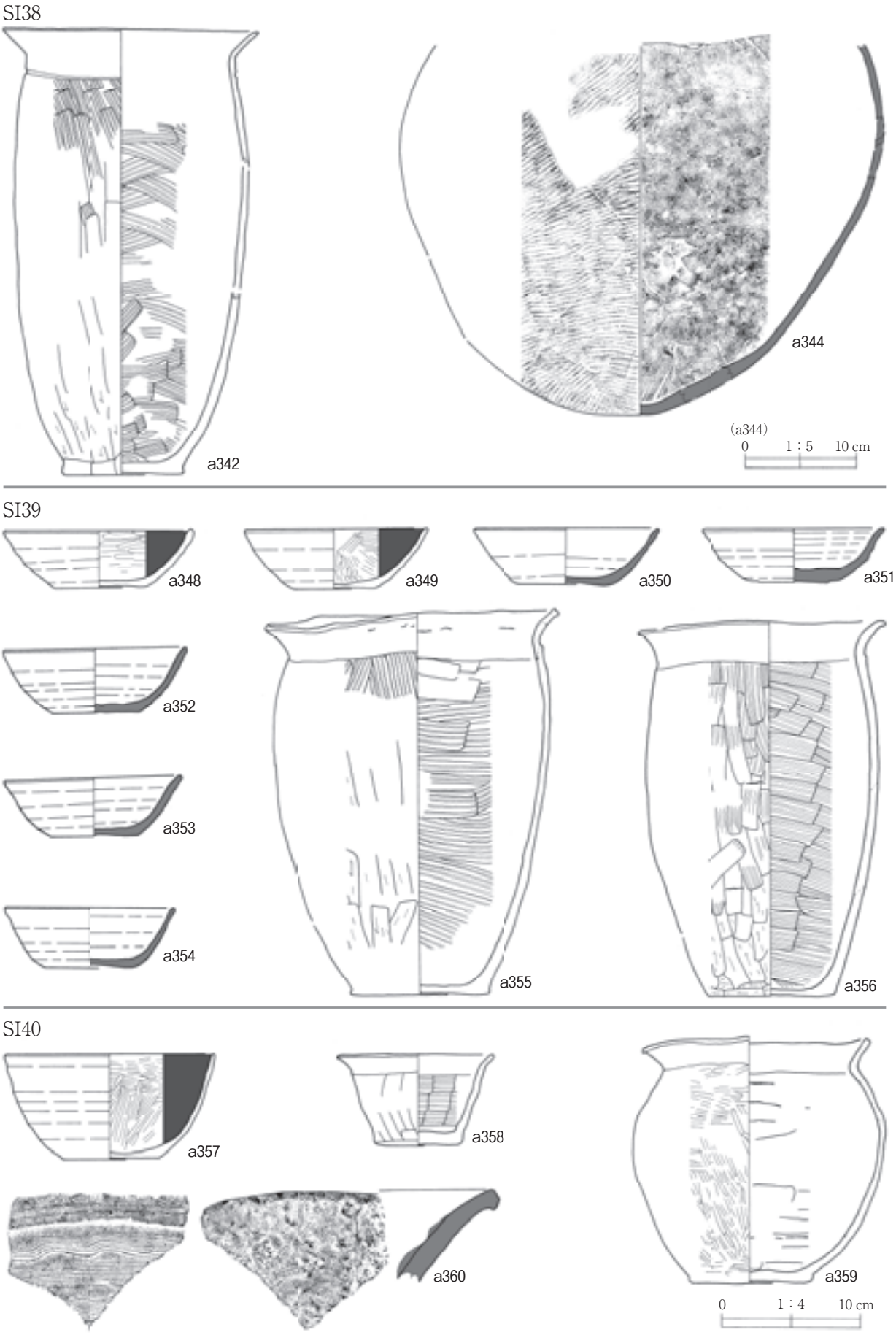
SI36



第 217 図　古代土器（16）



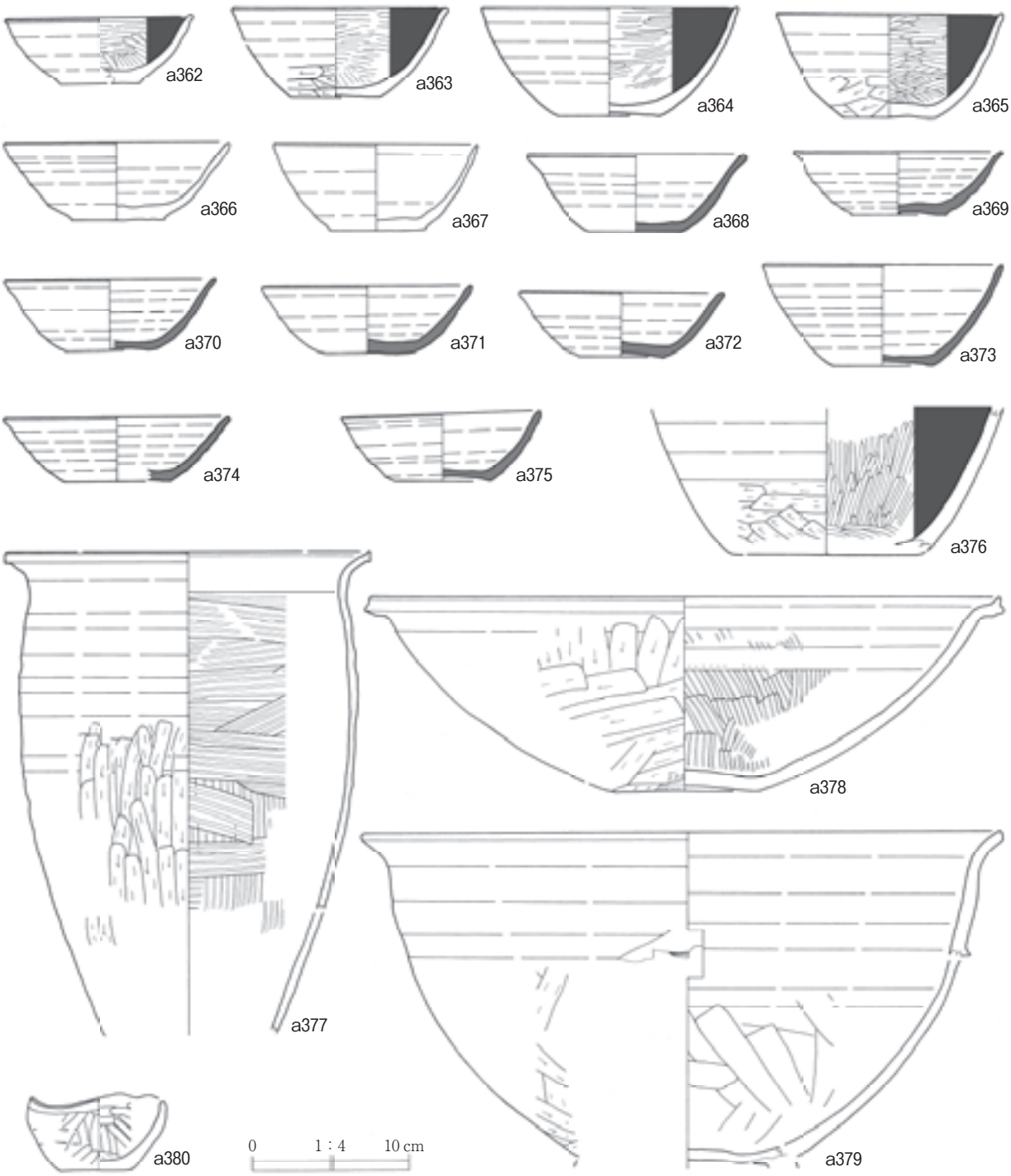
第 218 図　古代土器（17）



第 219 図　古代土器（18）

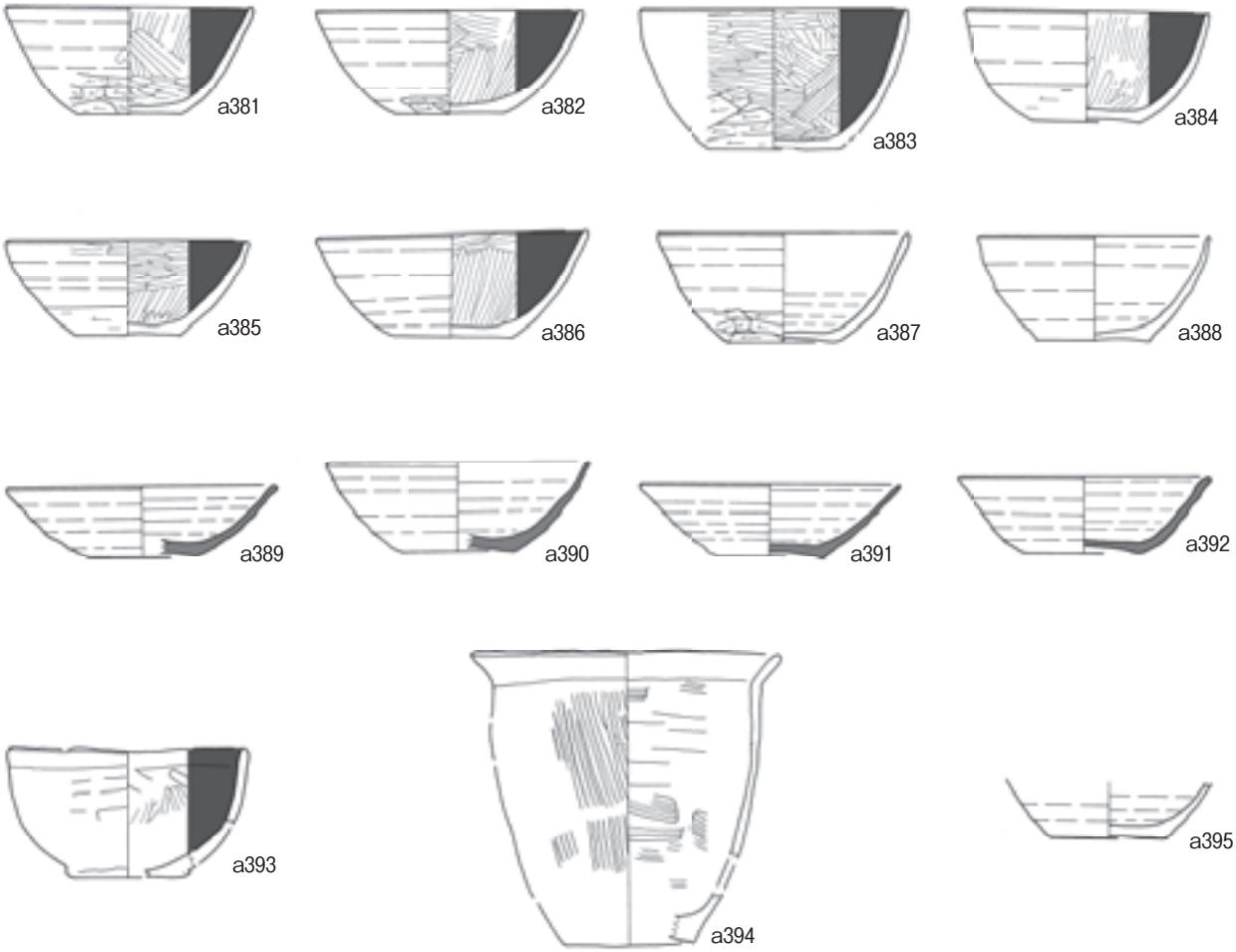
SI40

SI41

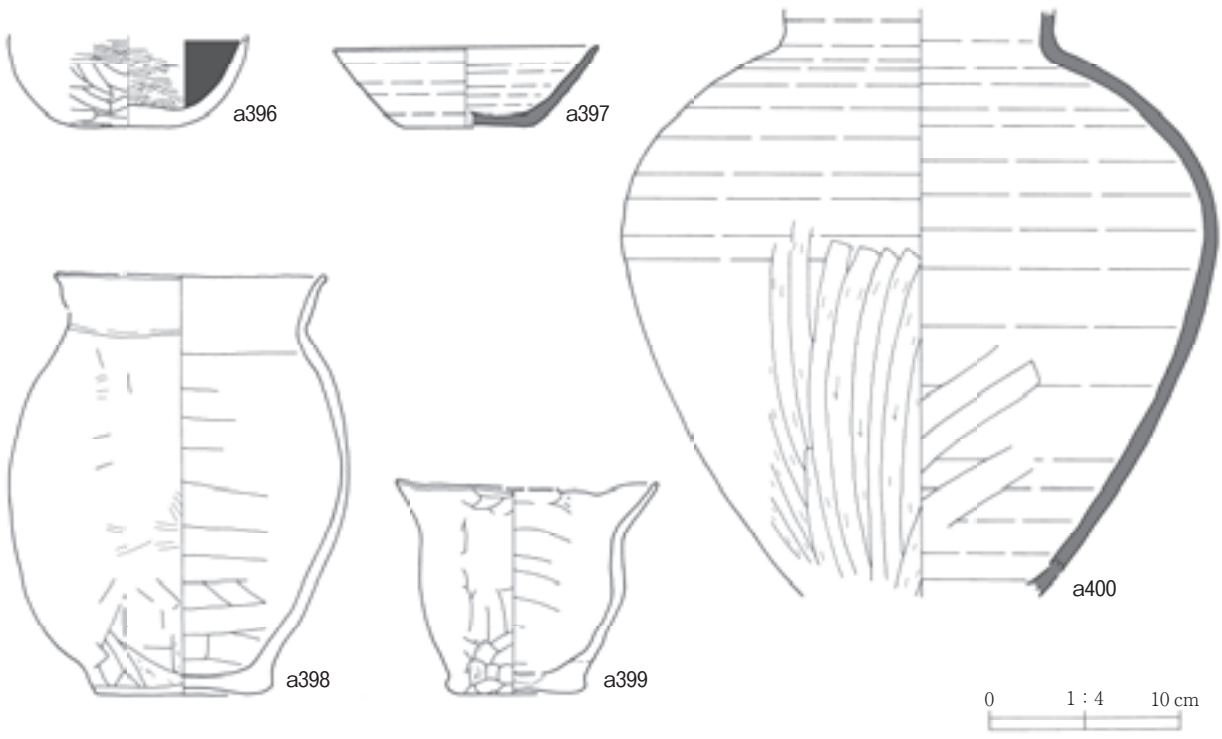


第 220 図　古代土器（19）

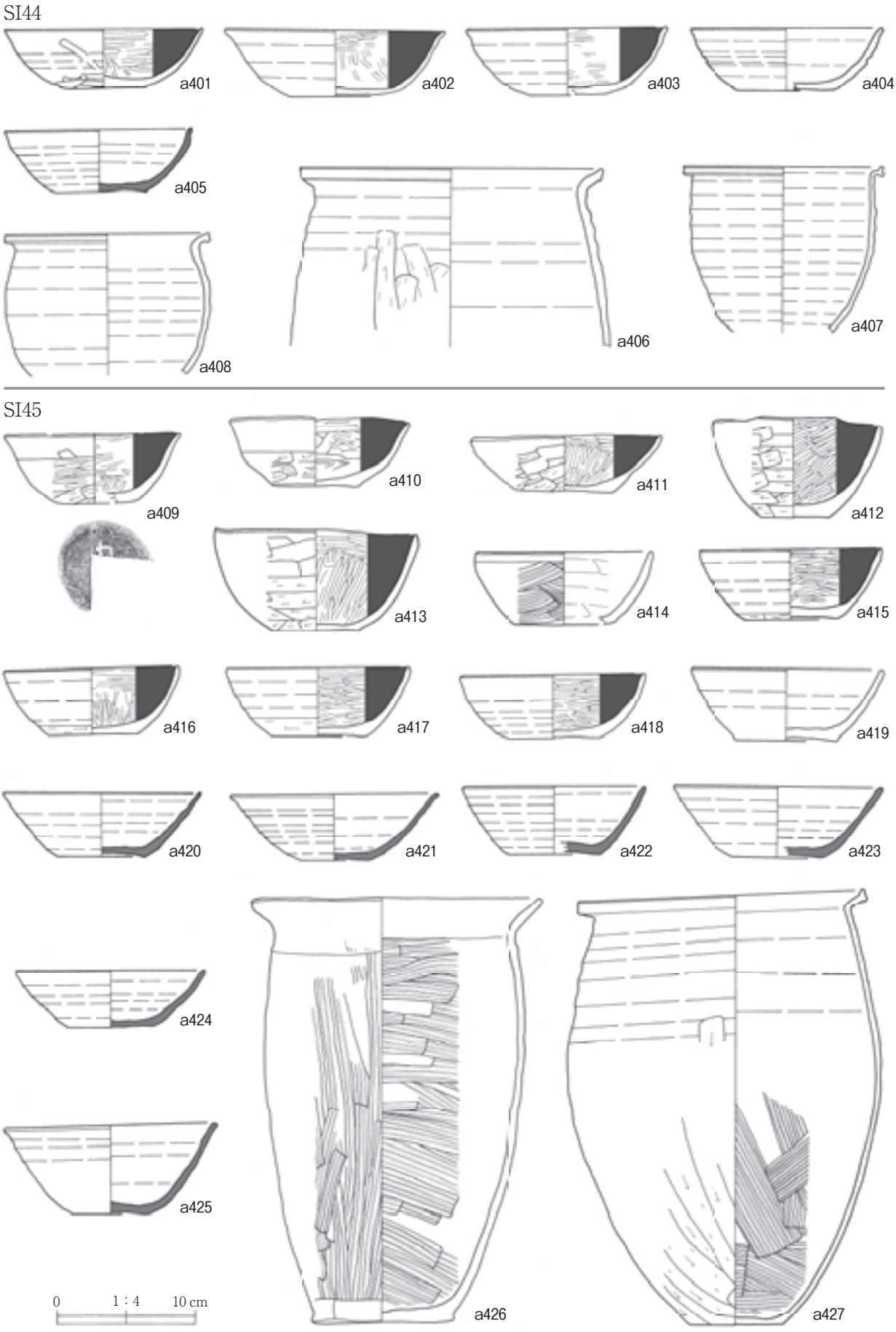
SI42



SI43

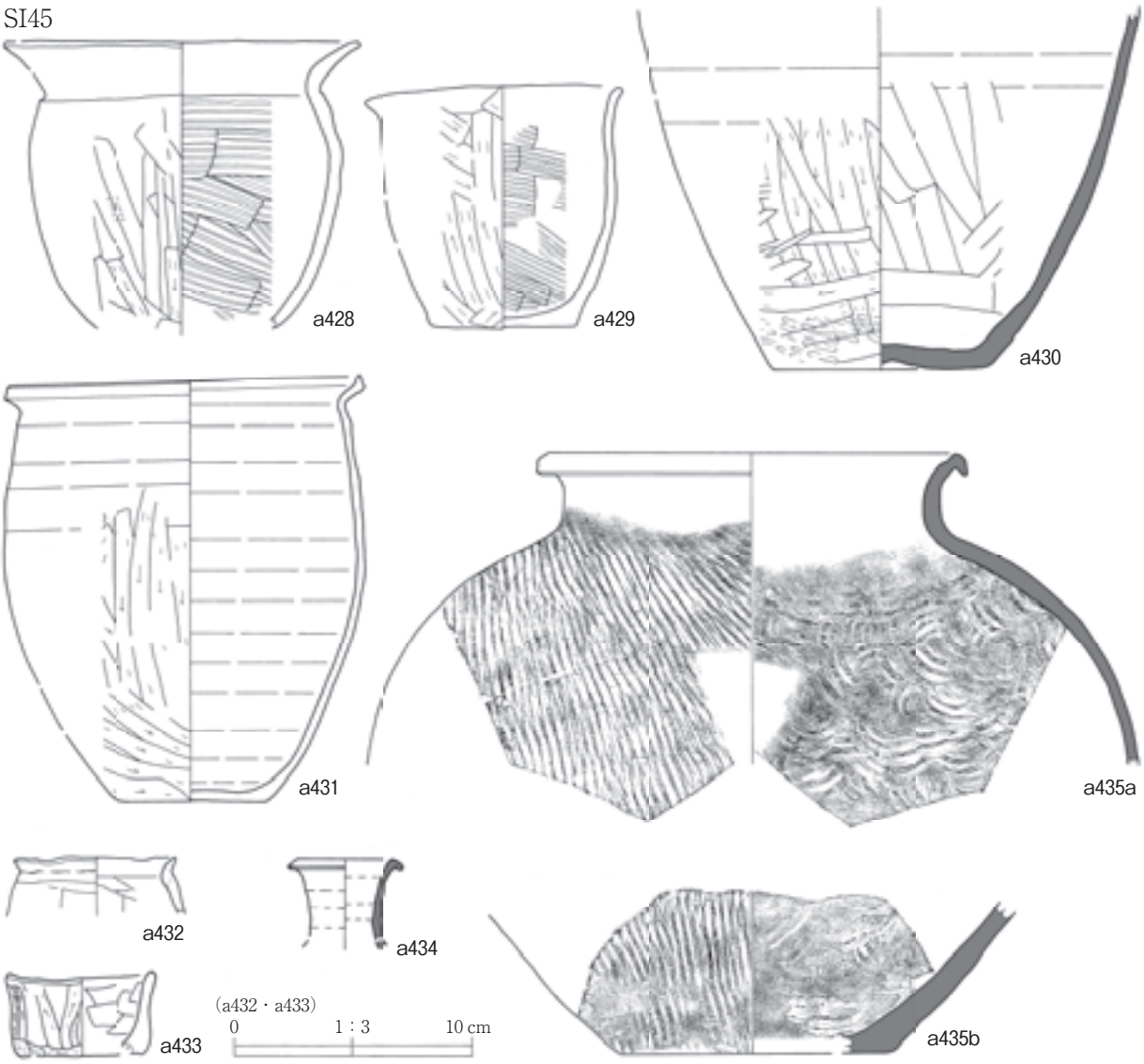


第 221 図　古代土器（20）

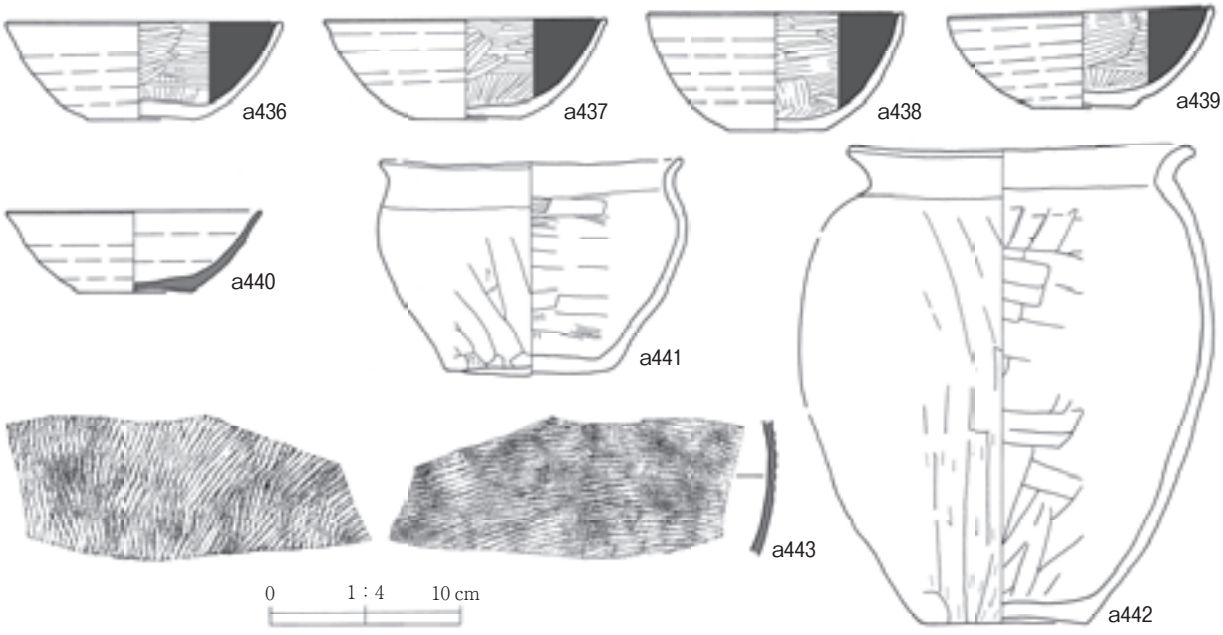


第 222 図　古代土器（21）

SI45

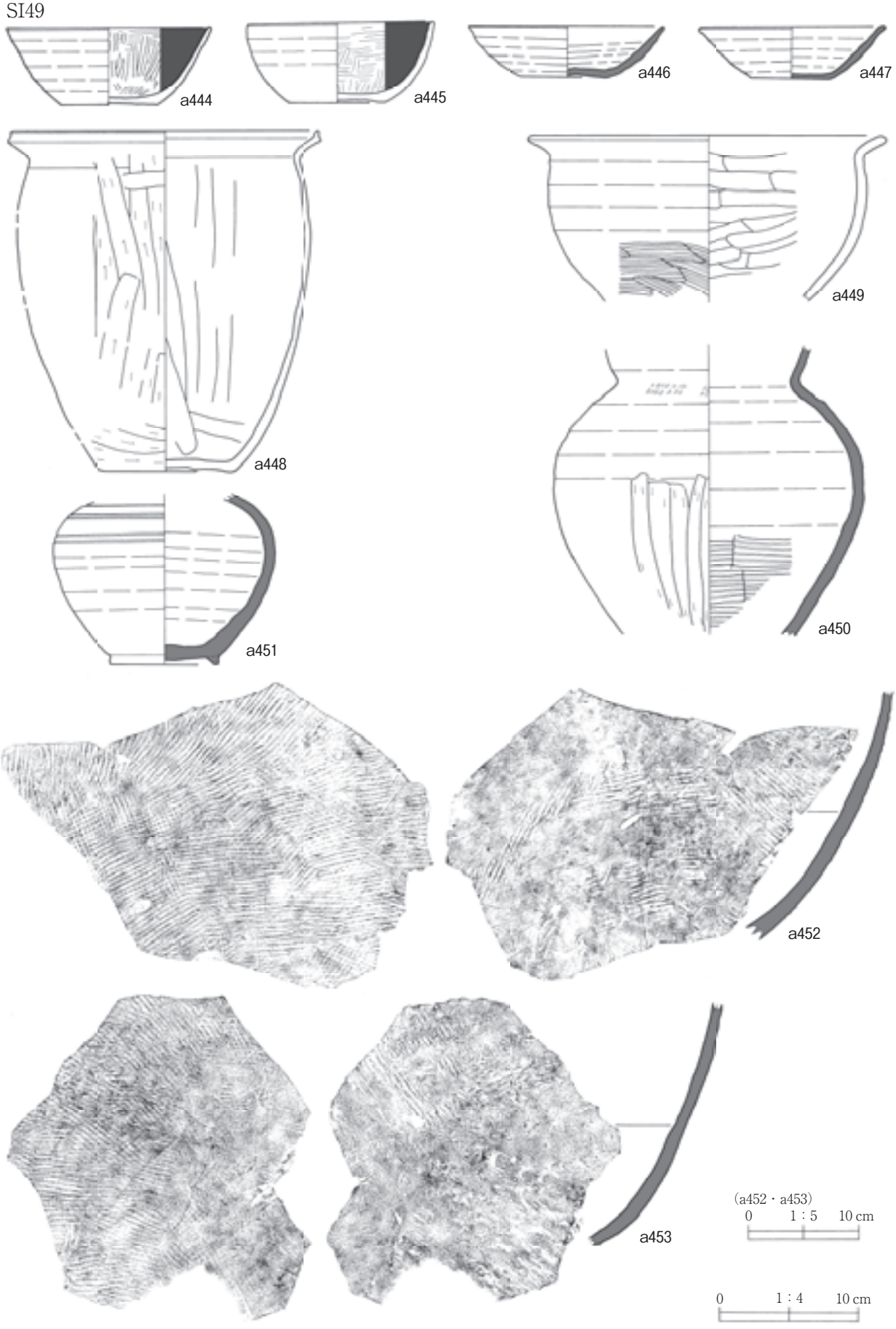


SI46



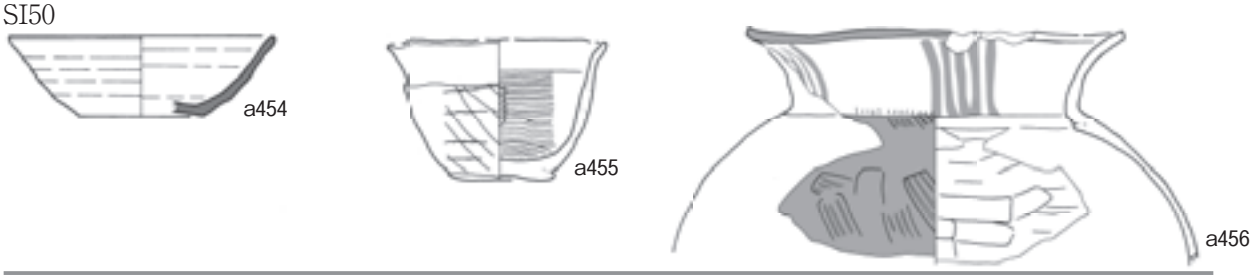
第 223 図　古代土器（22）

SI49



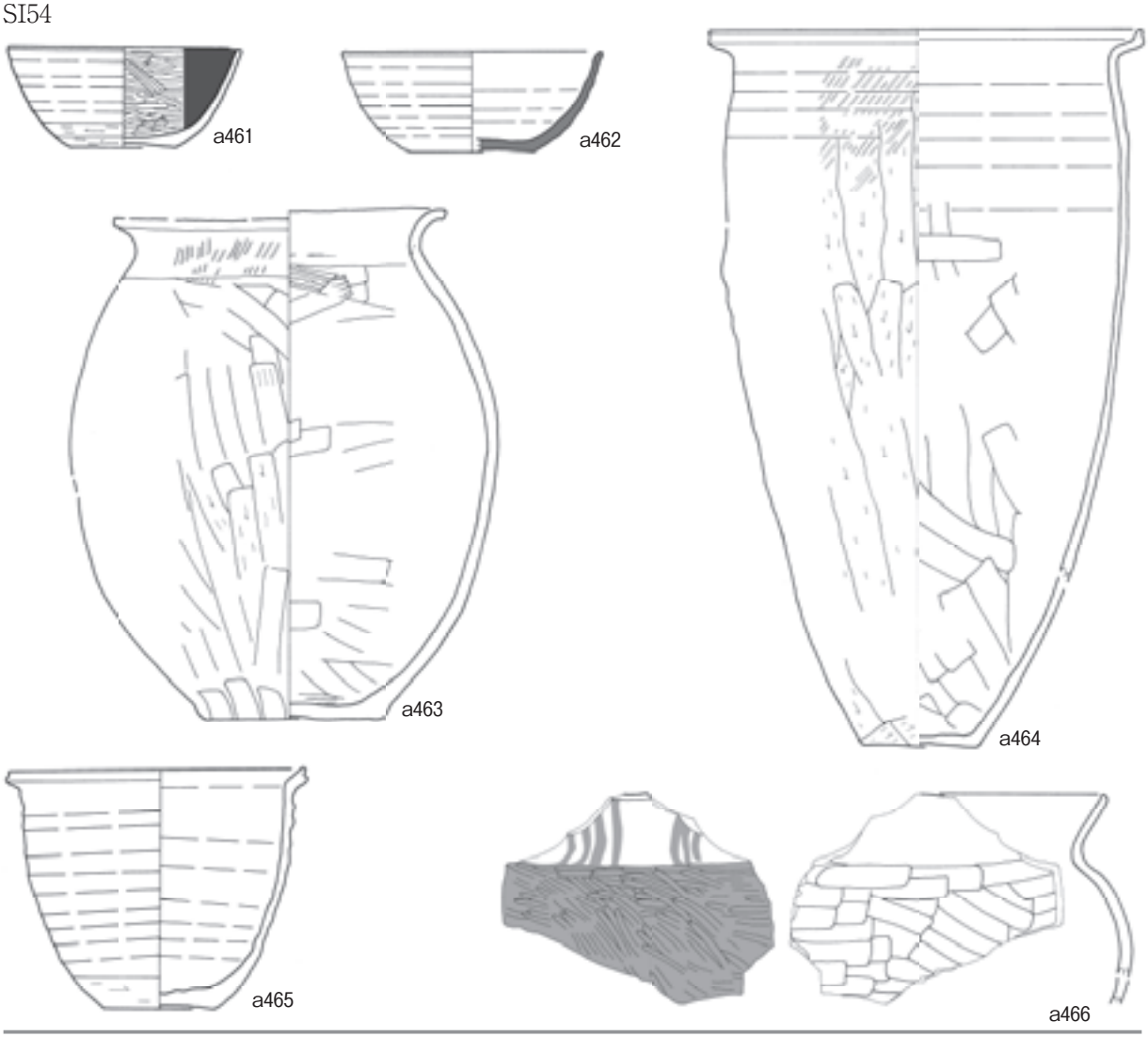
第 224 図　古代土器（23）

SI50



SI51

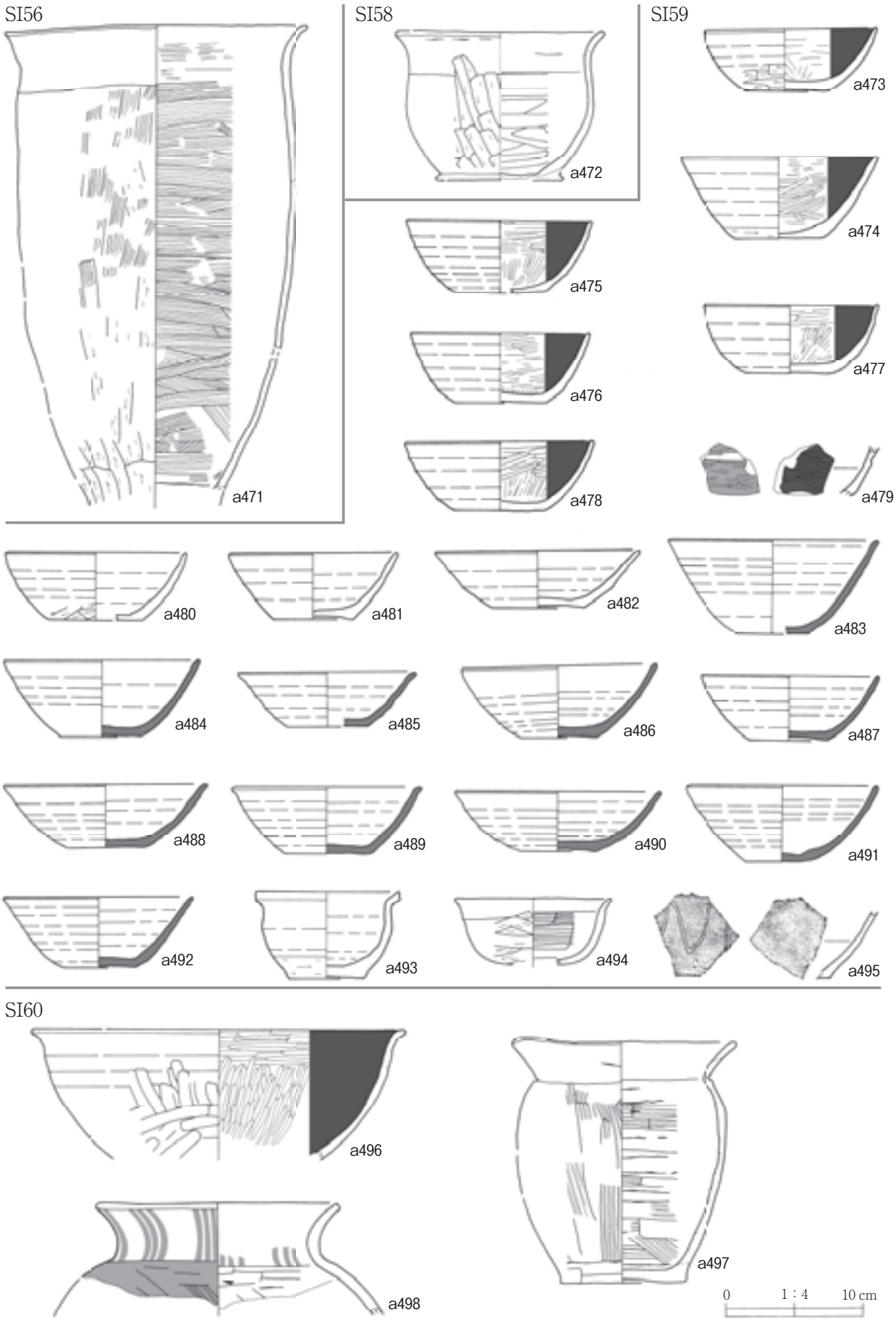
SI54



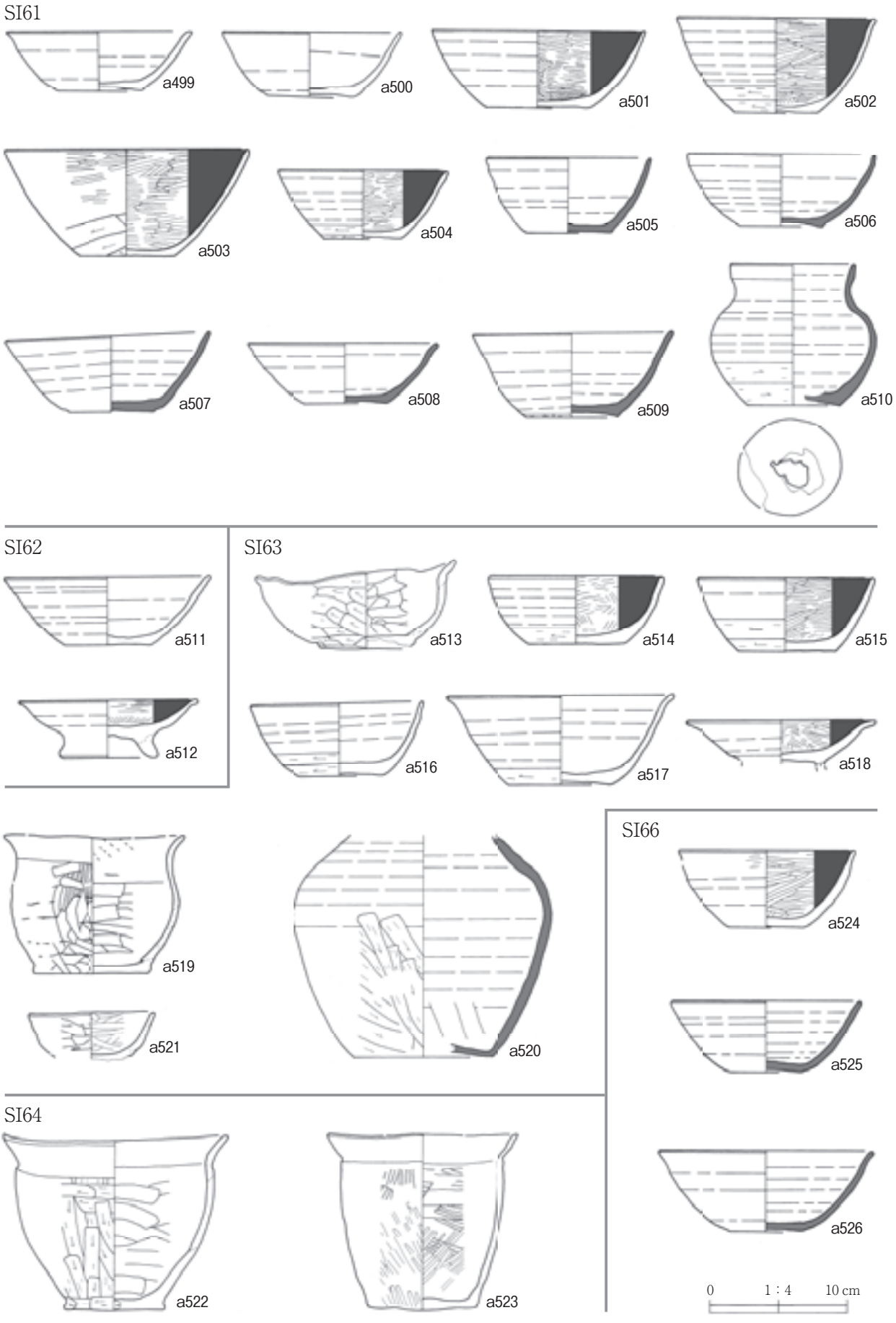
SI55

0　1：4　10 cm

第 225 図　古代土器（24）



第 226 図　古代土器（25）



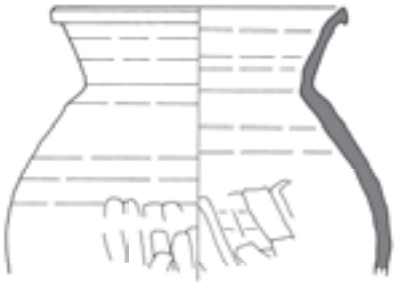
第 227 図　古代土器（26）

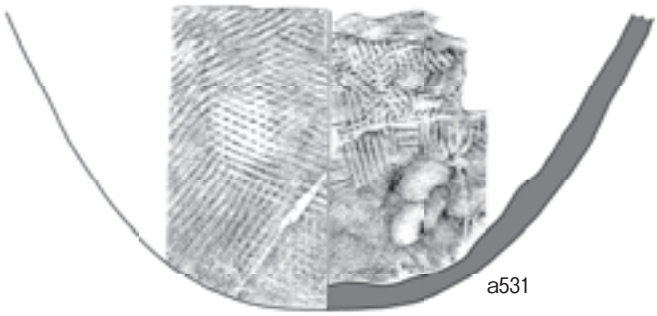
SI67

a527

a528

a529


a530


a531

SI68

a532

a533

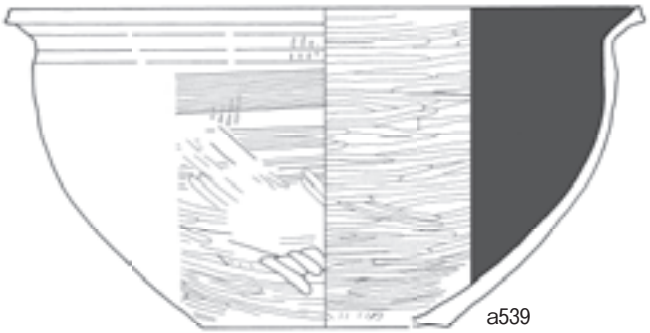
a534

a535

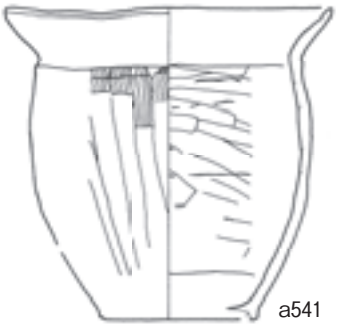
a536

a537

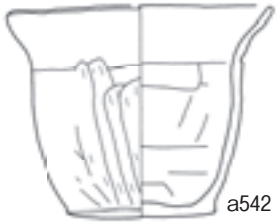
a538


a539

a540


a541

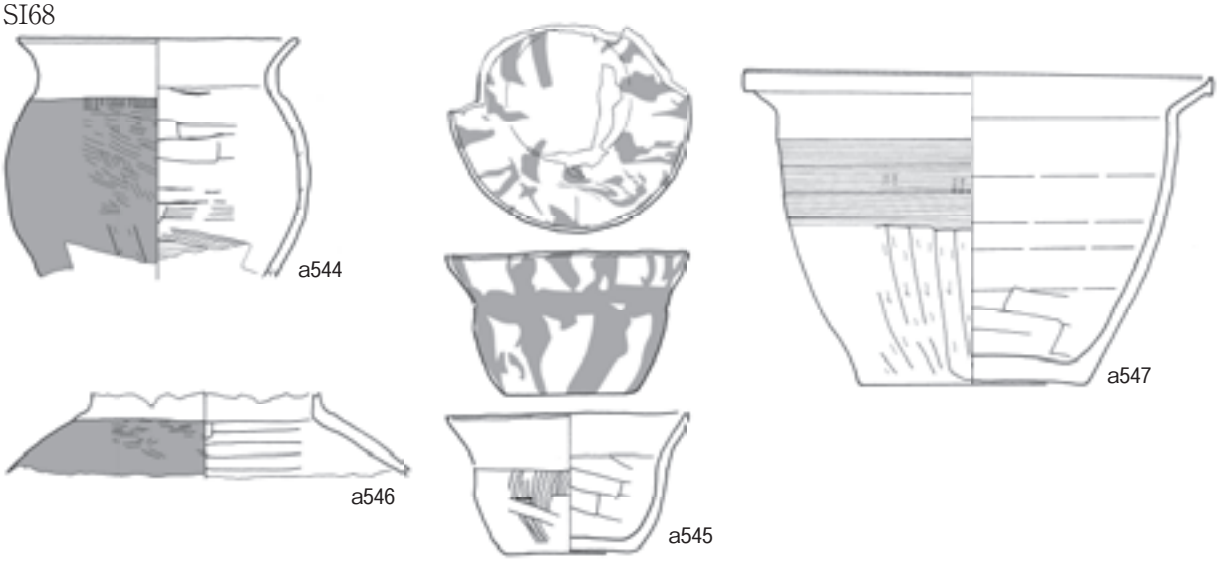
a543


a542

0 1：4 10 cm

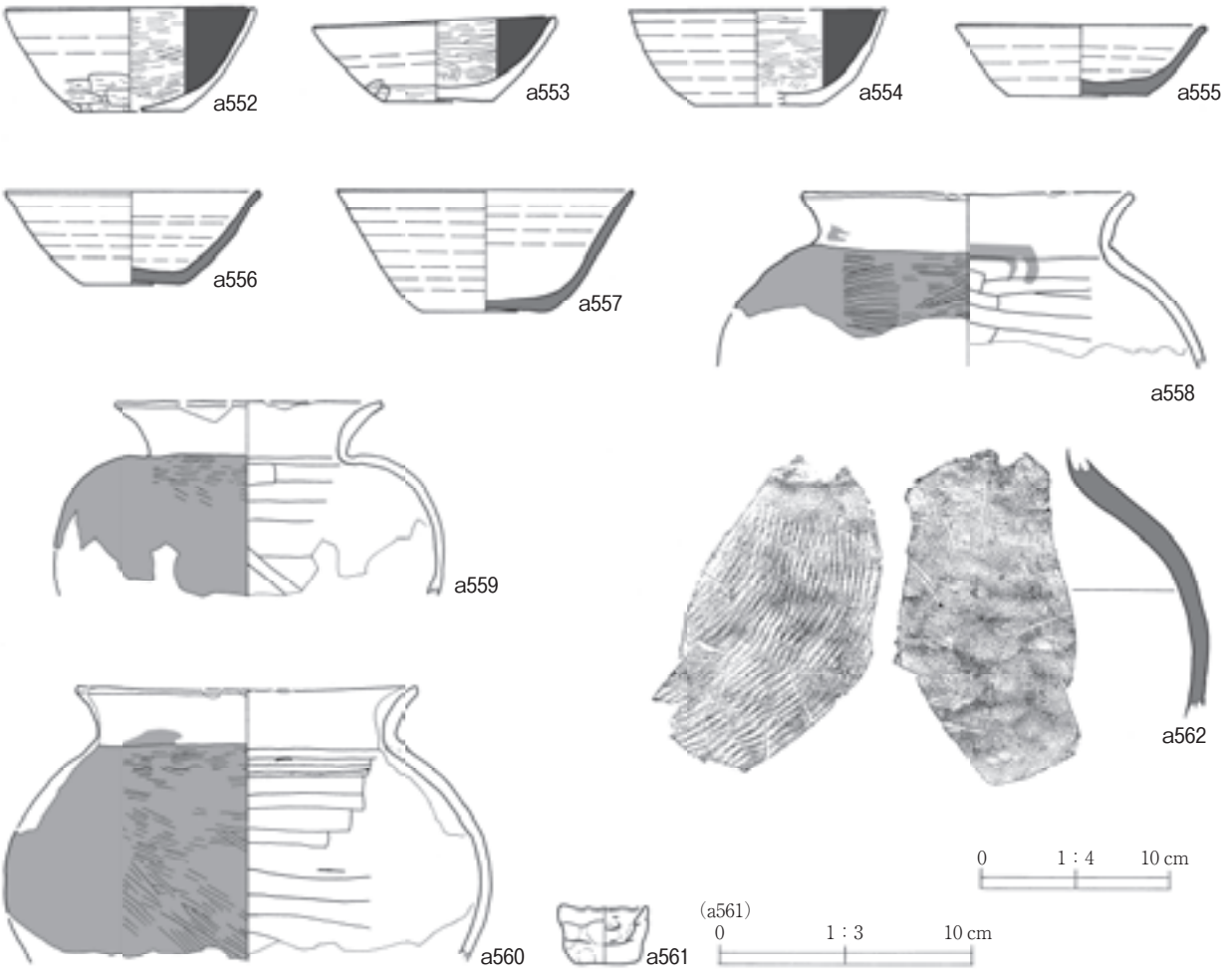
第 228 図　古代土器（27）

SI68



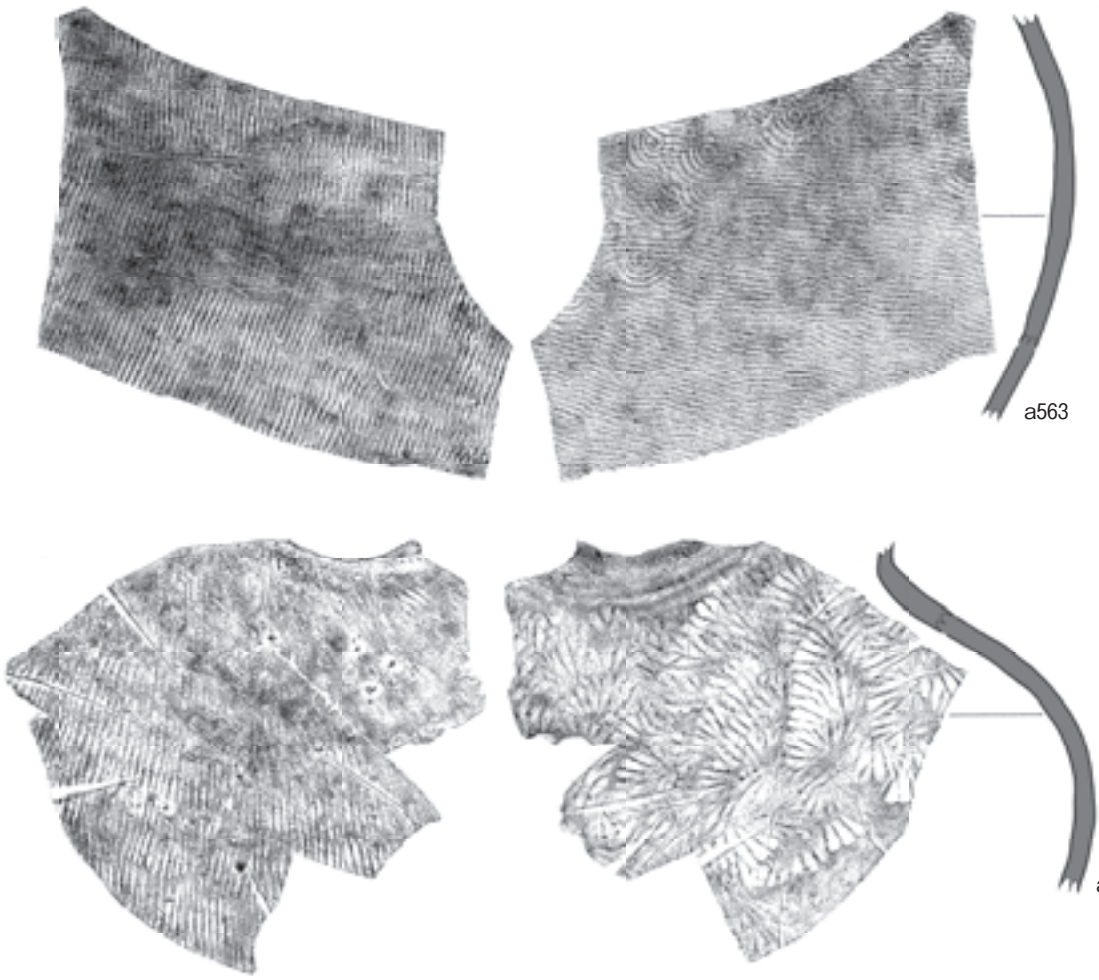
SI69

SI70

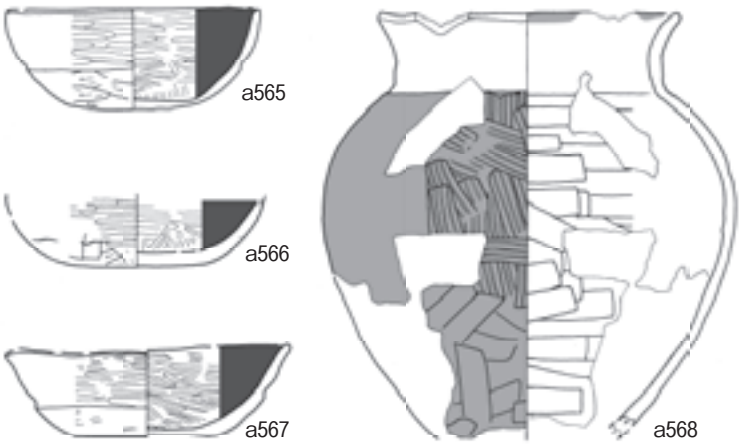


第 229 図　古代土器（28）

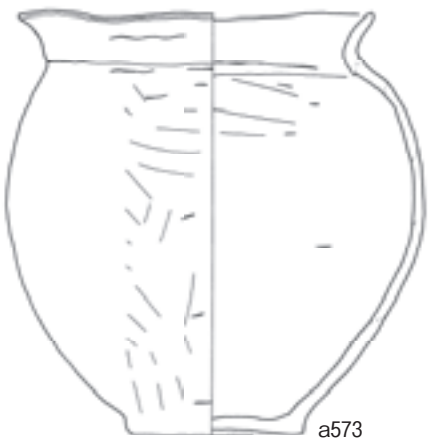
SI70

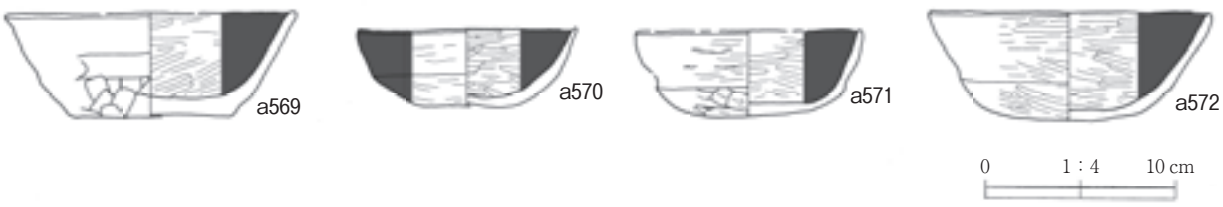


SI71



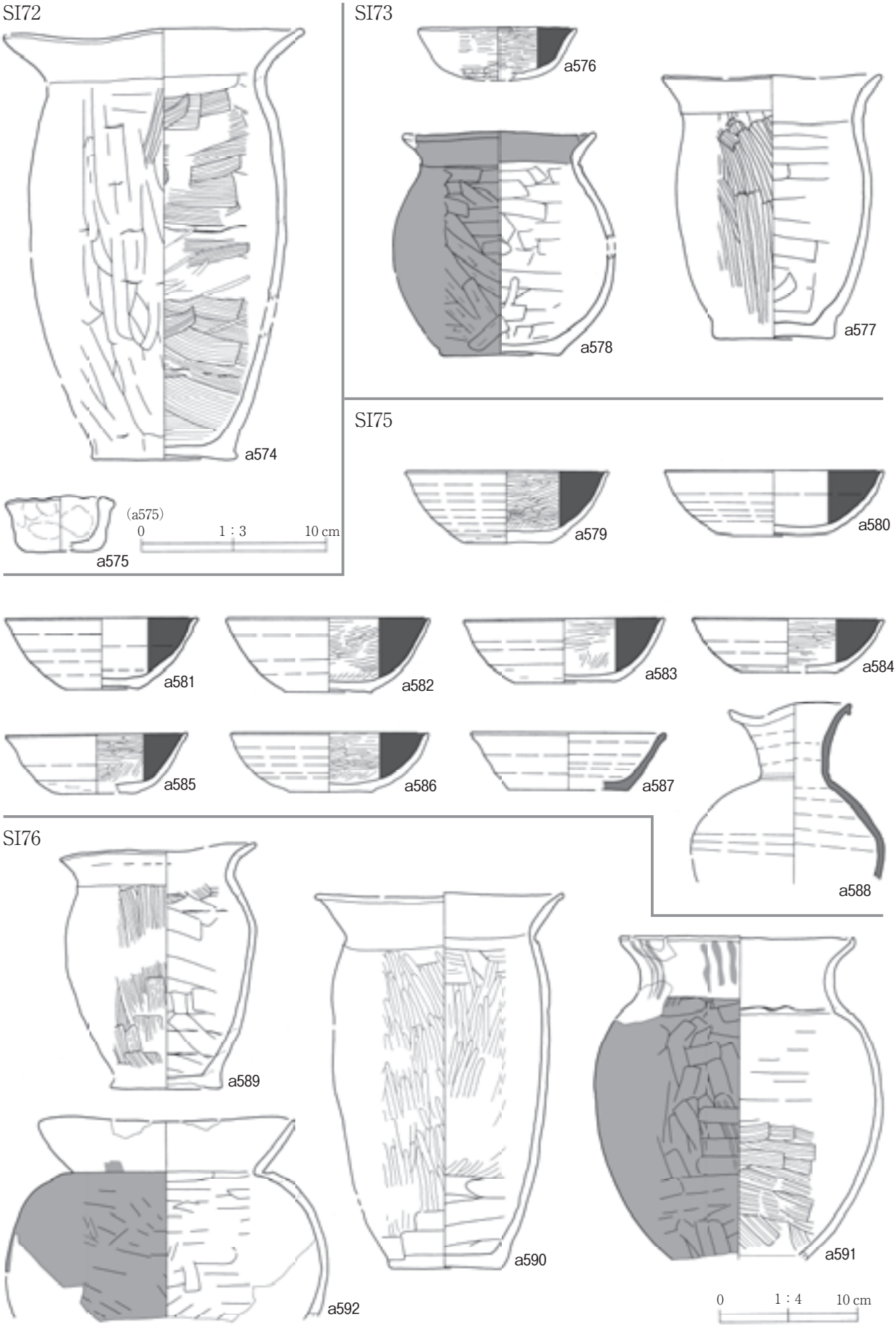
SI72



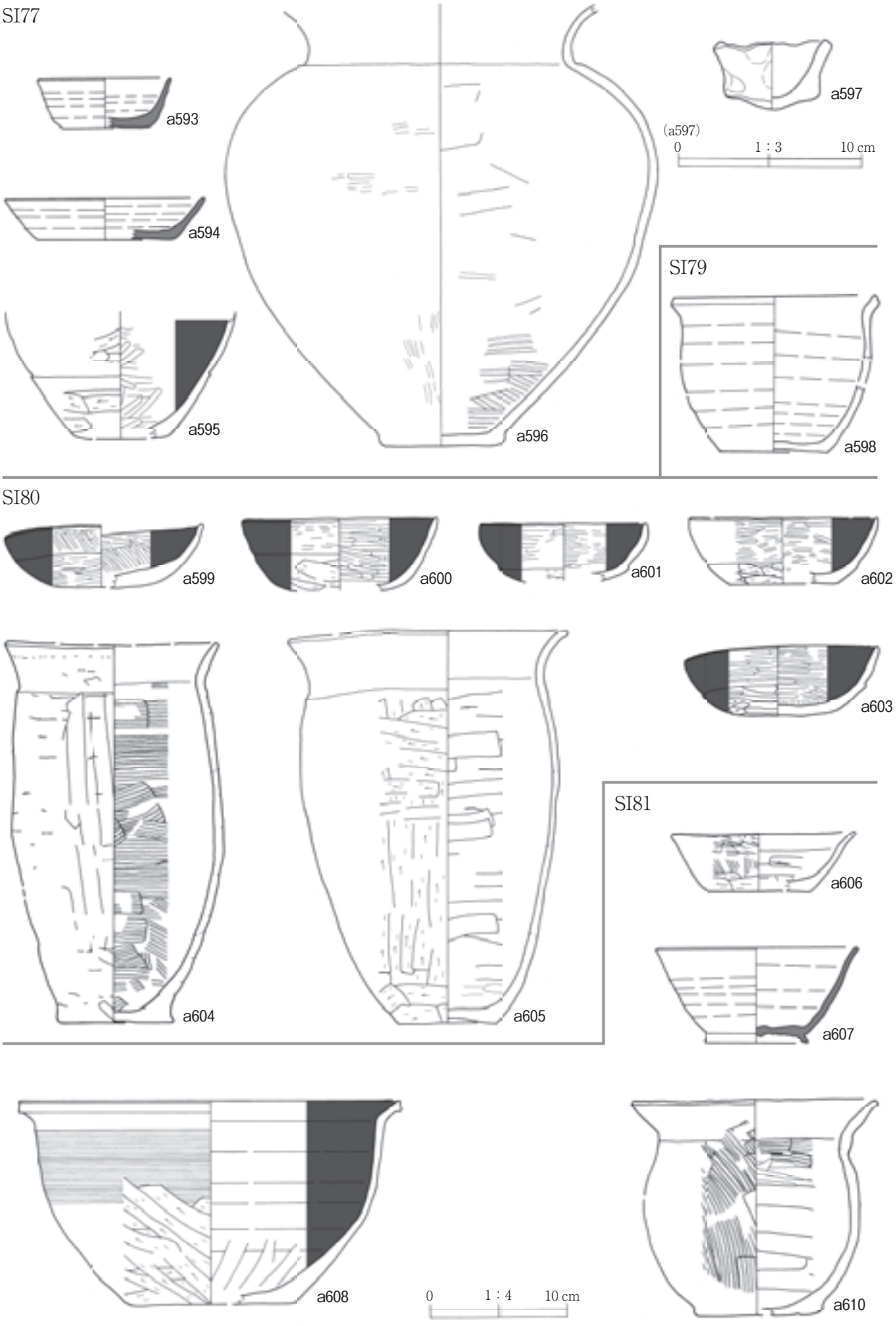


0　1：4　10 cm

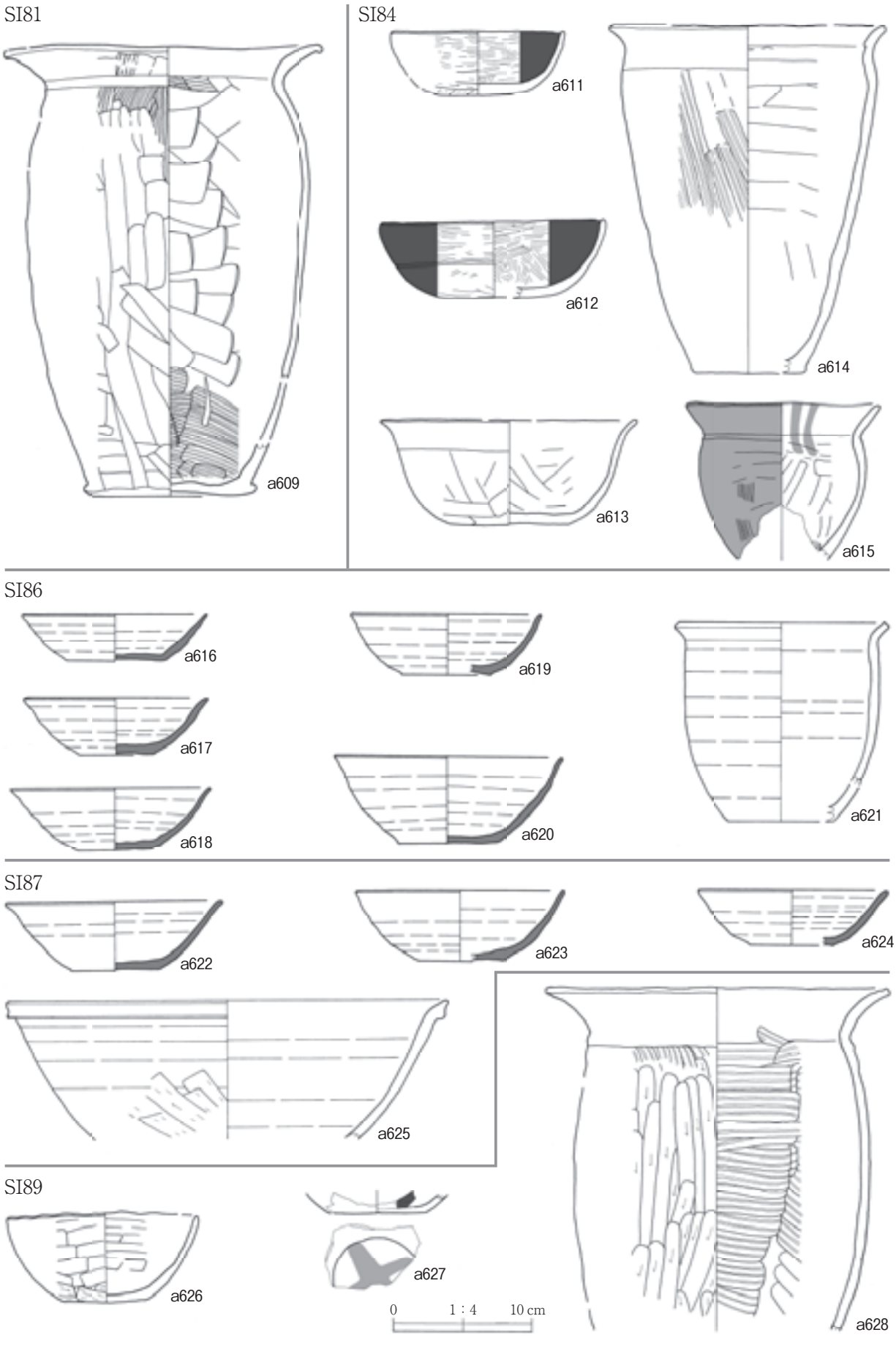
第 230 図　古代土器（29）



第 231 図　古代土器（30）



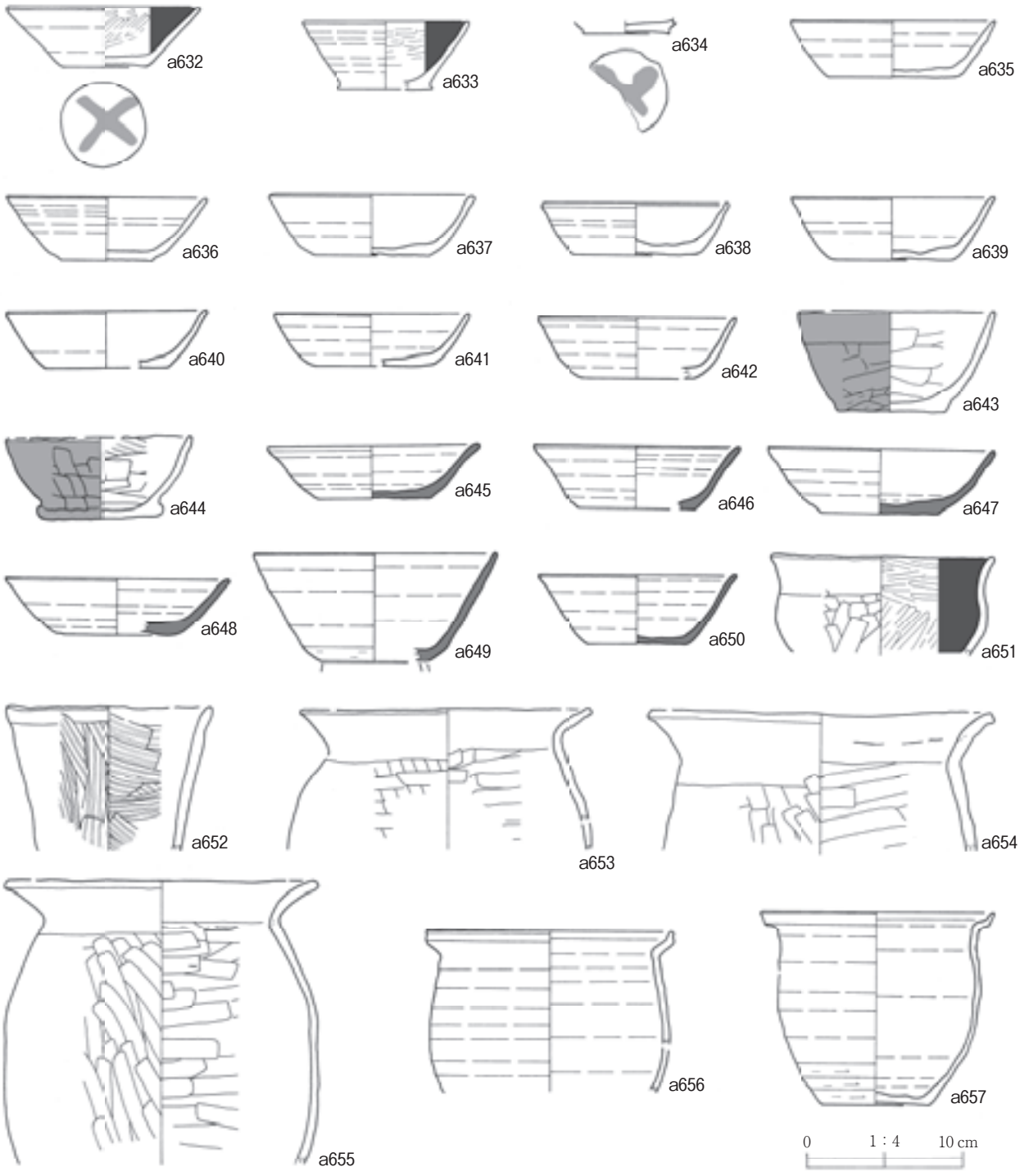
第 232 図　古代土器（31）



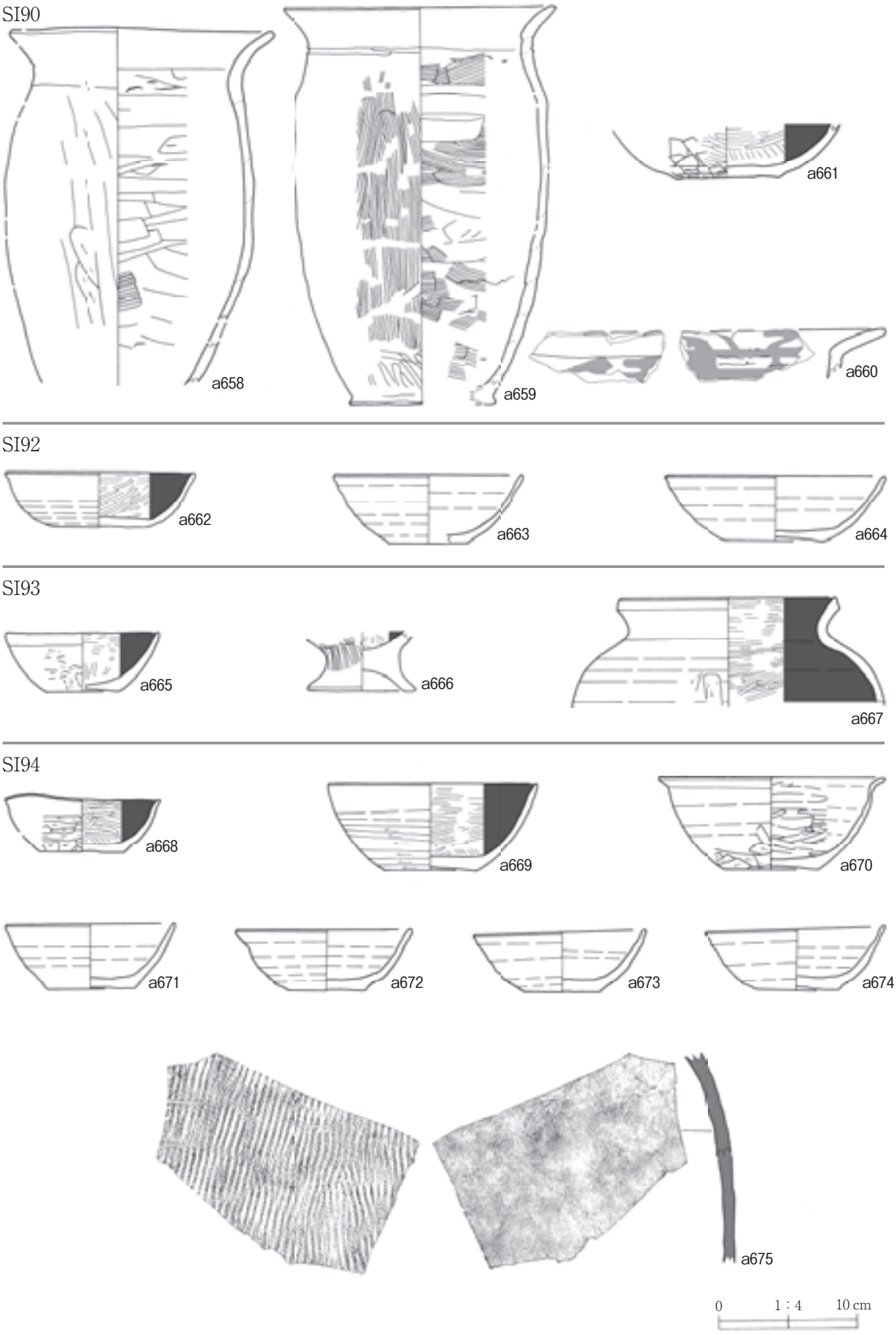
第 233 図　古代土器（32）

SI89

SI90

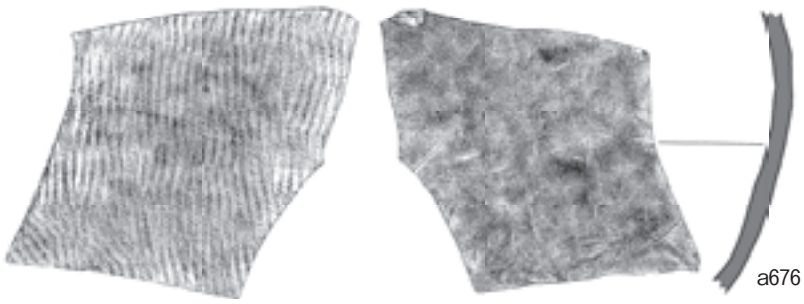


第 234 図　古代土器（33）

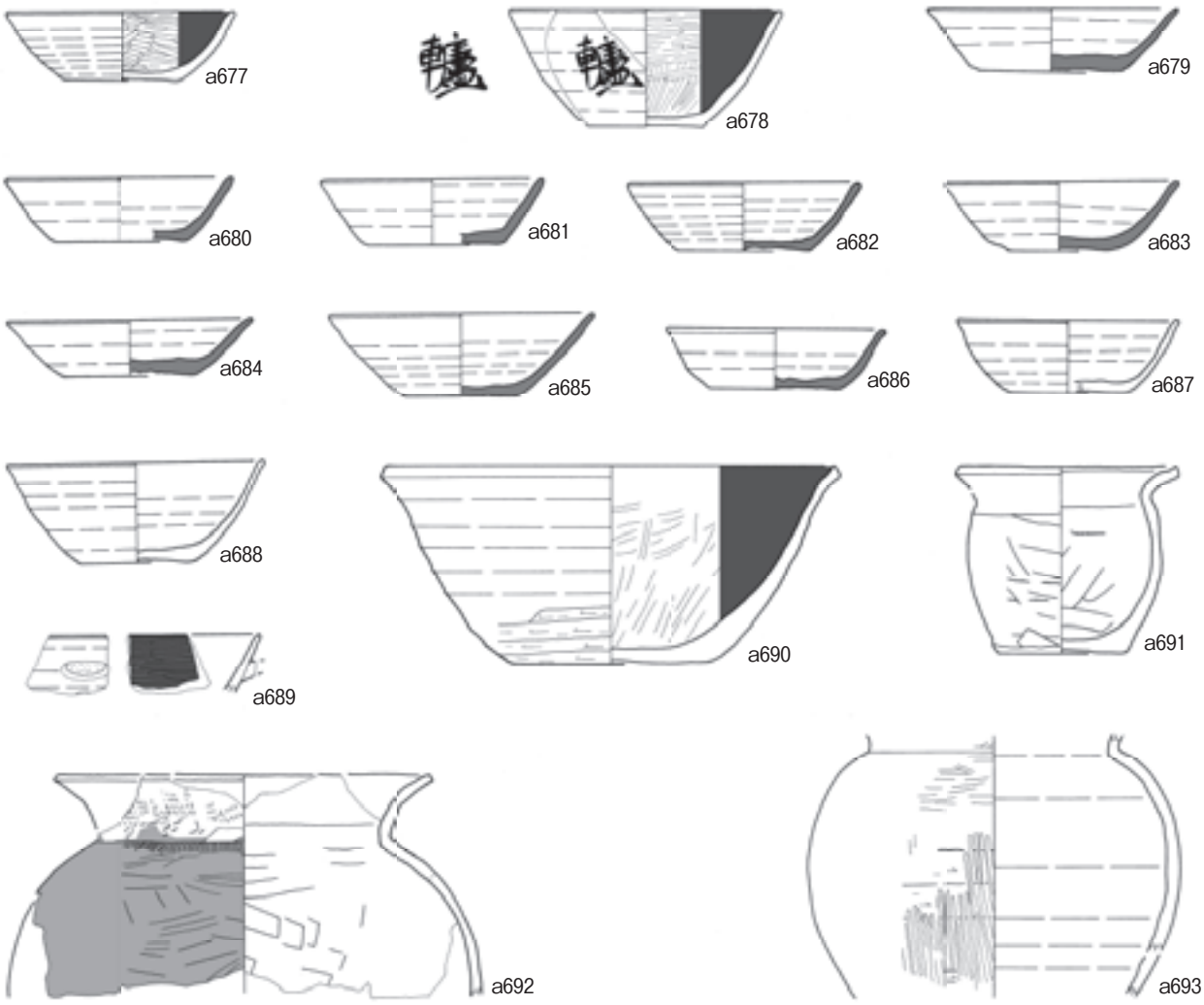


第 235 図　古代土器（34）

SI94



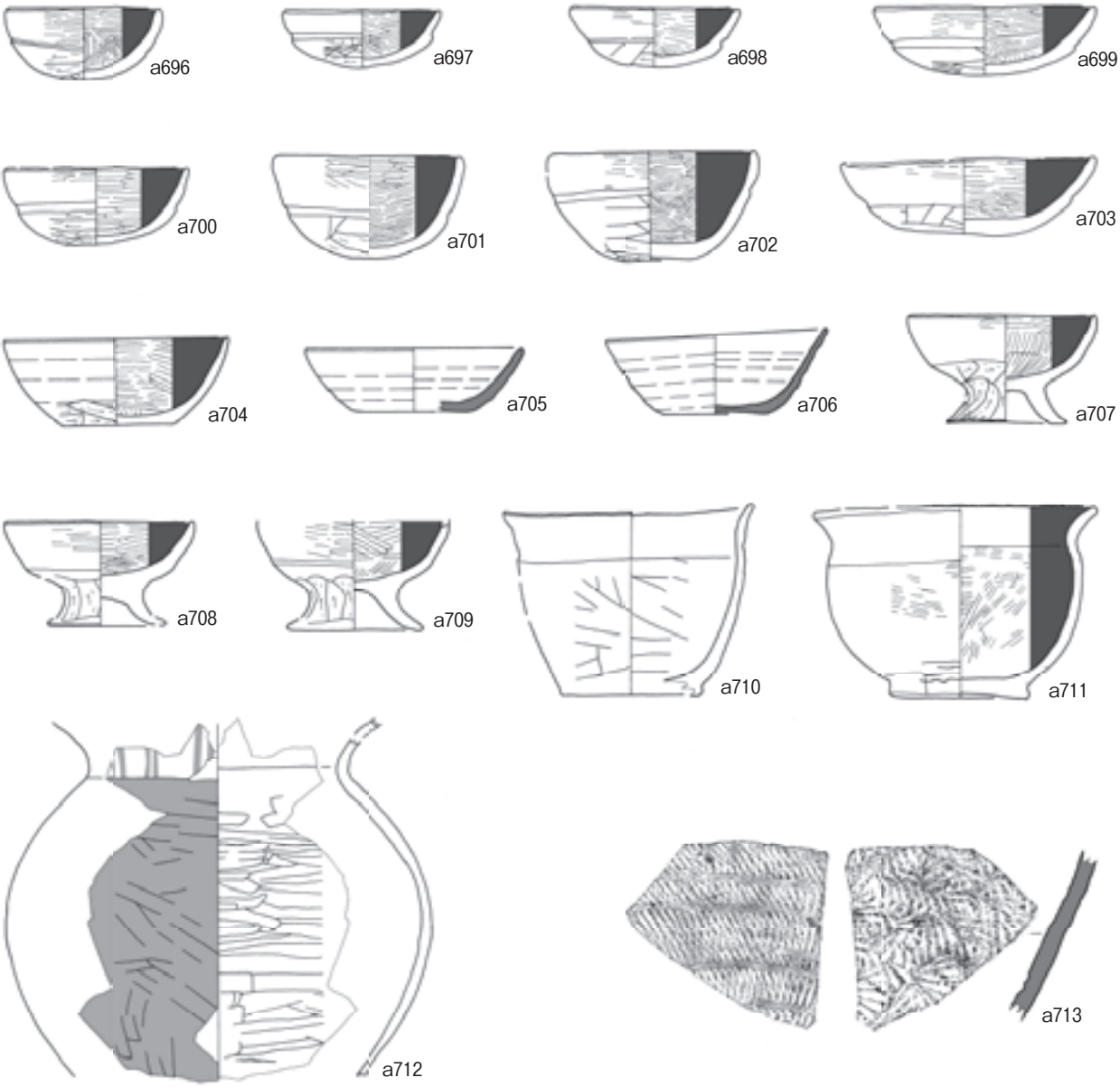
SI95



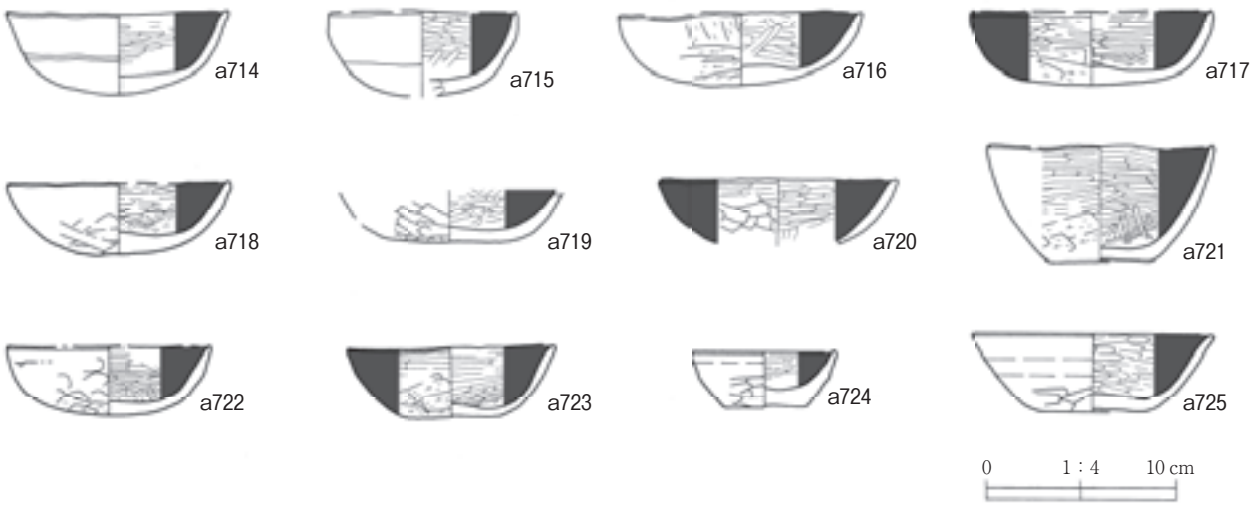
SI96

第 236 図　古代土器（35）

SI98

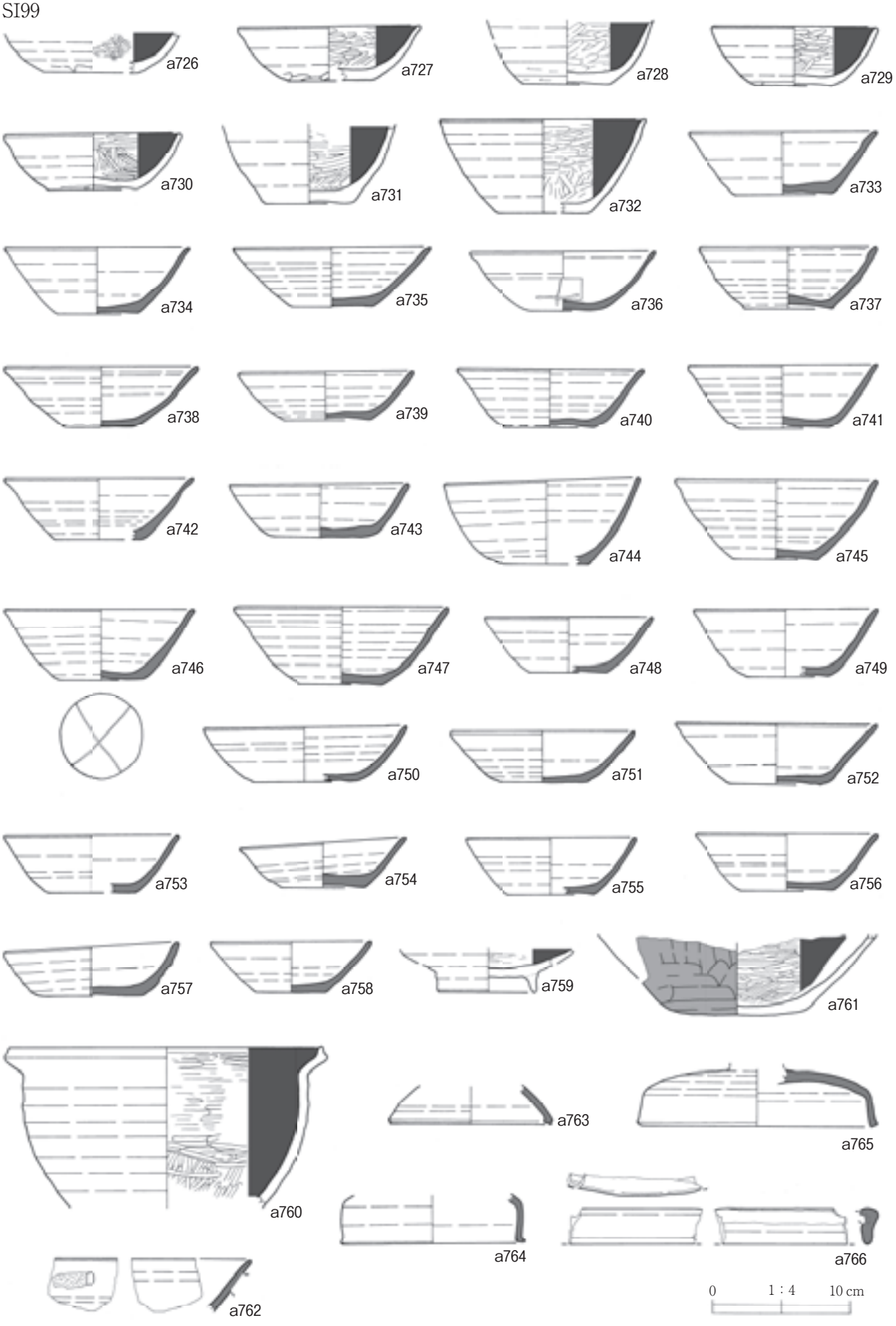


SI99



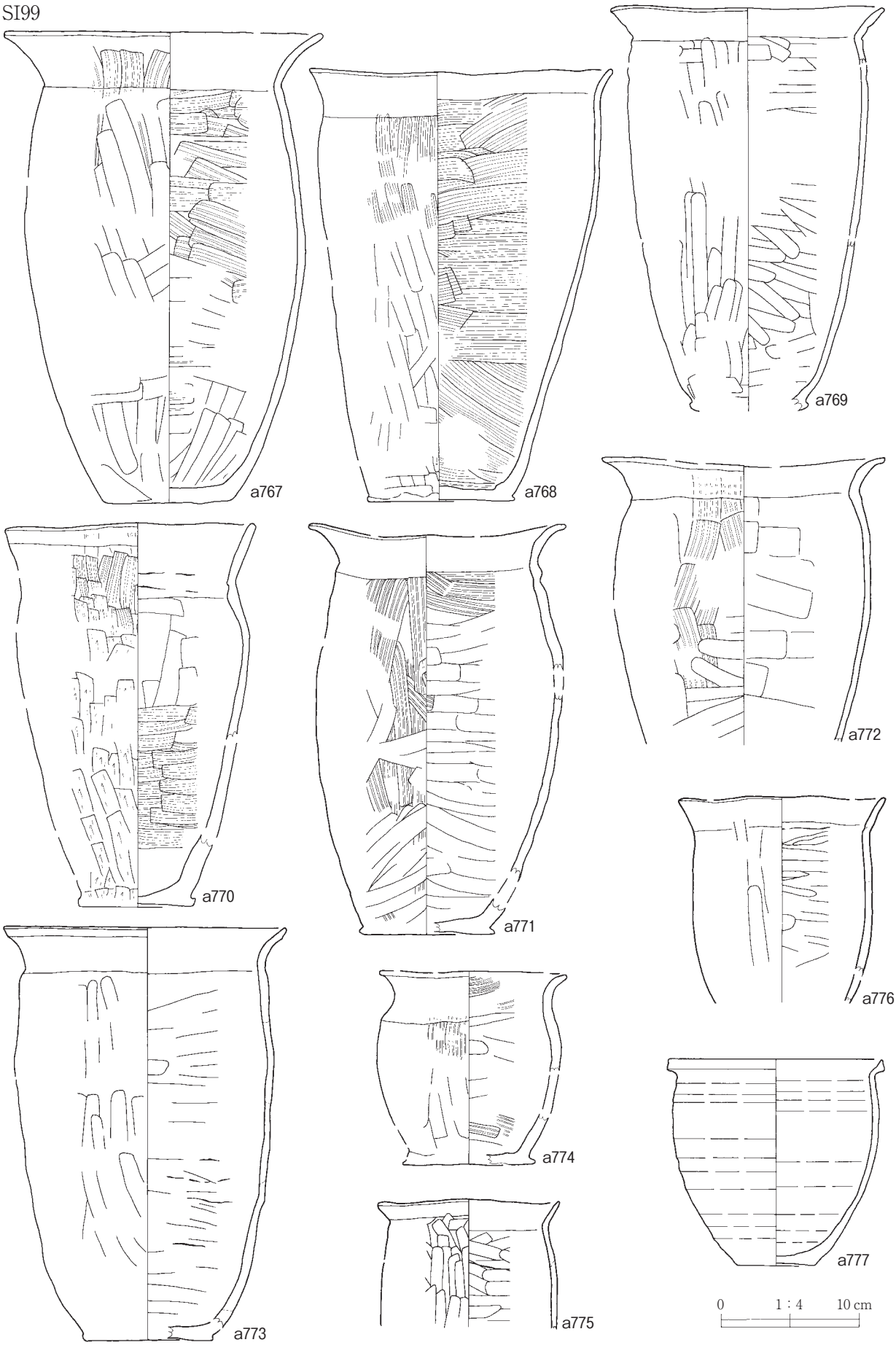
第 237 図　古代土器（36）

SI99



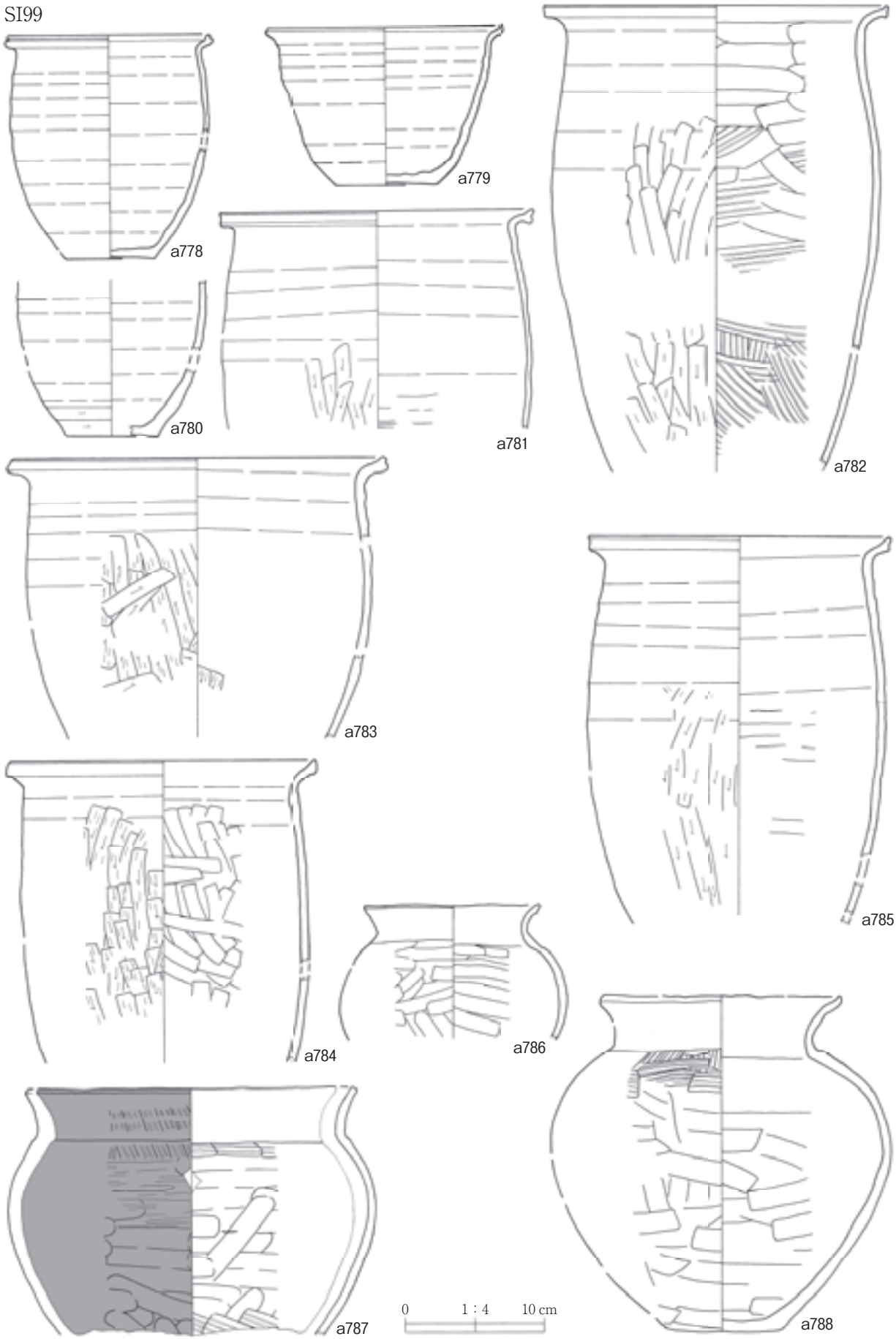
第 238 図　古代土器（37）

SI99



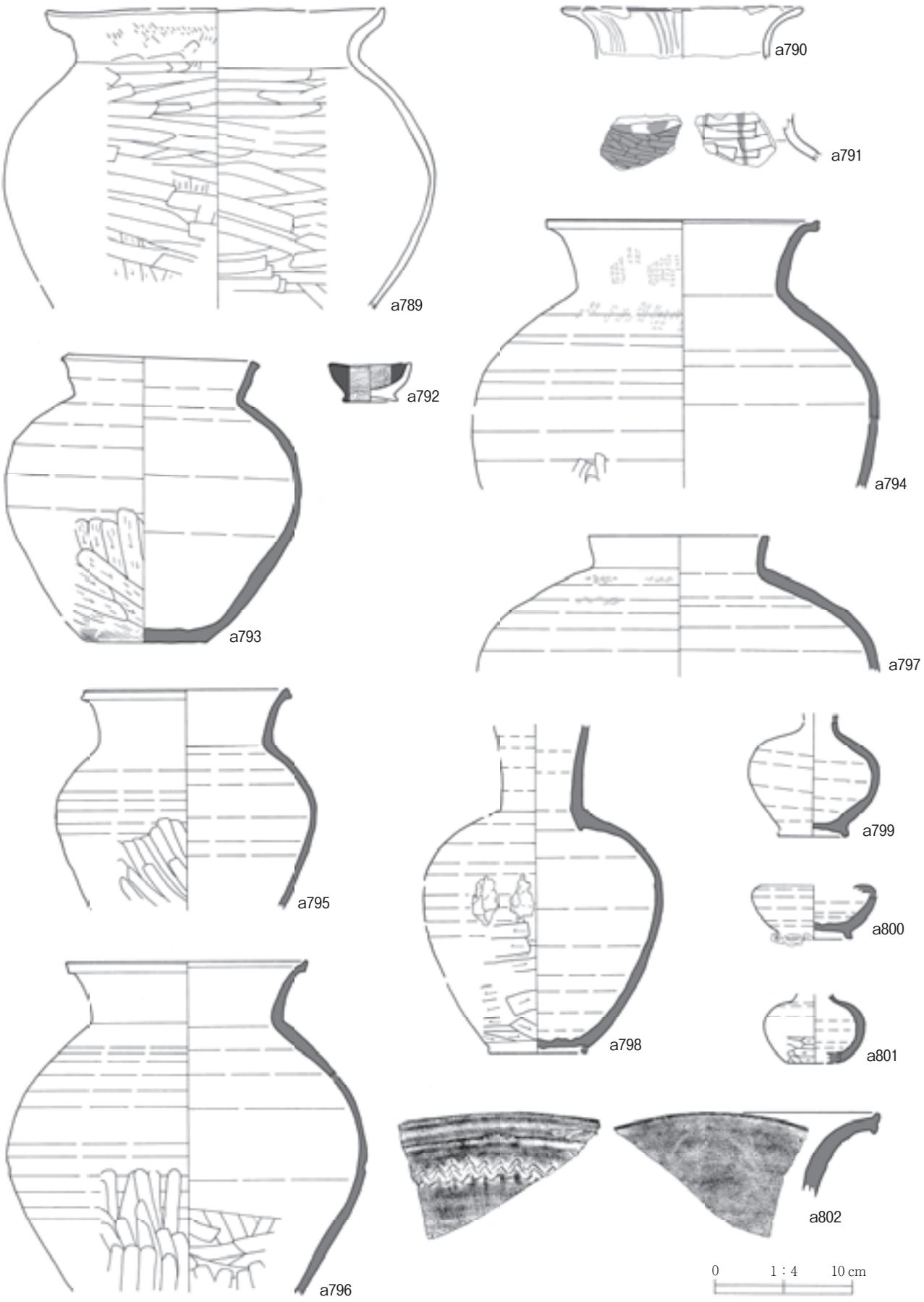
第 239 図　古代土器（38）

SI99

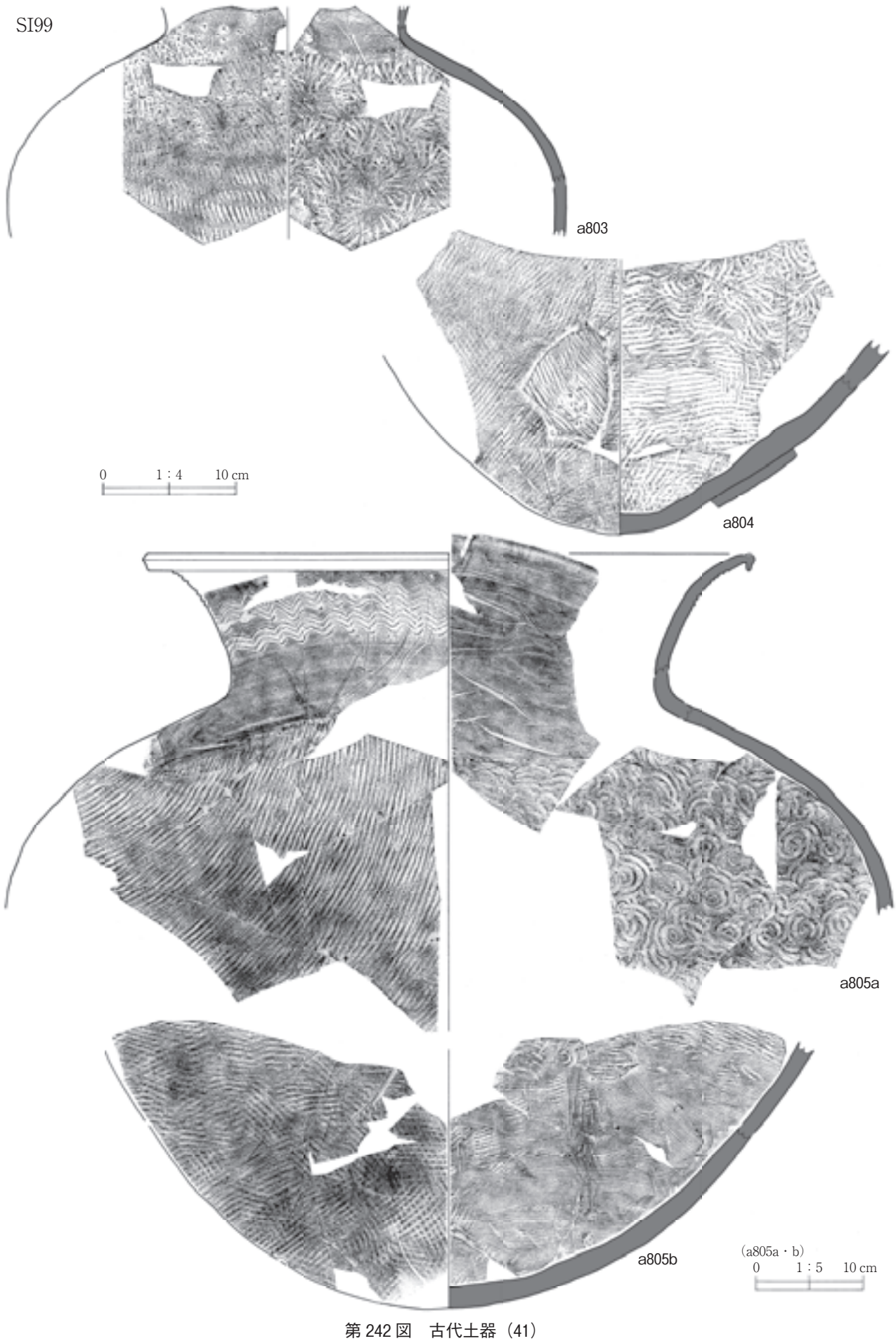


第 240 図　古代土器（39）

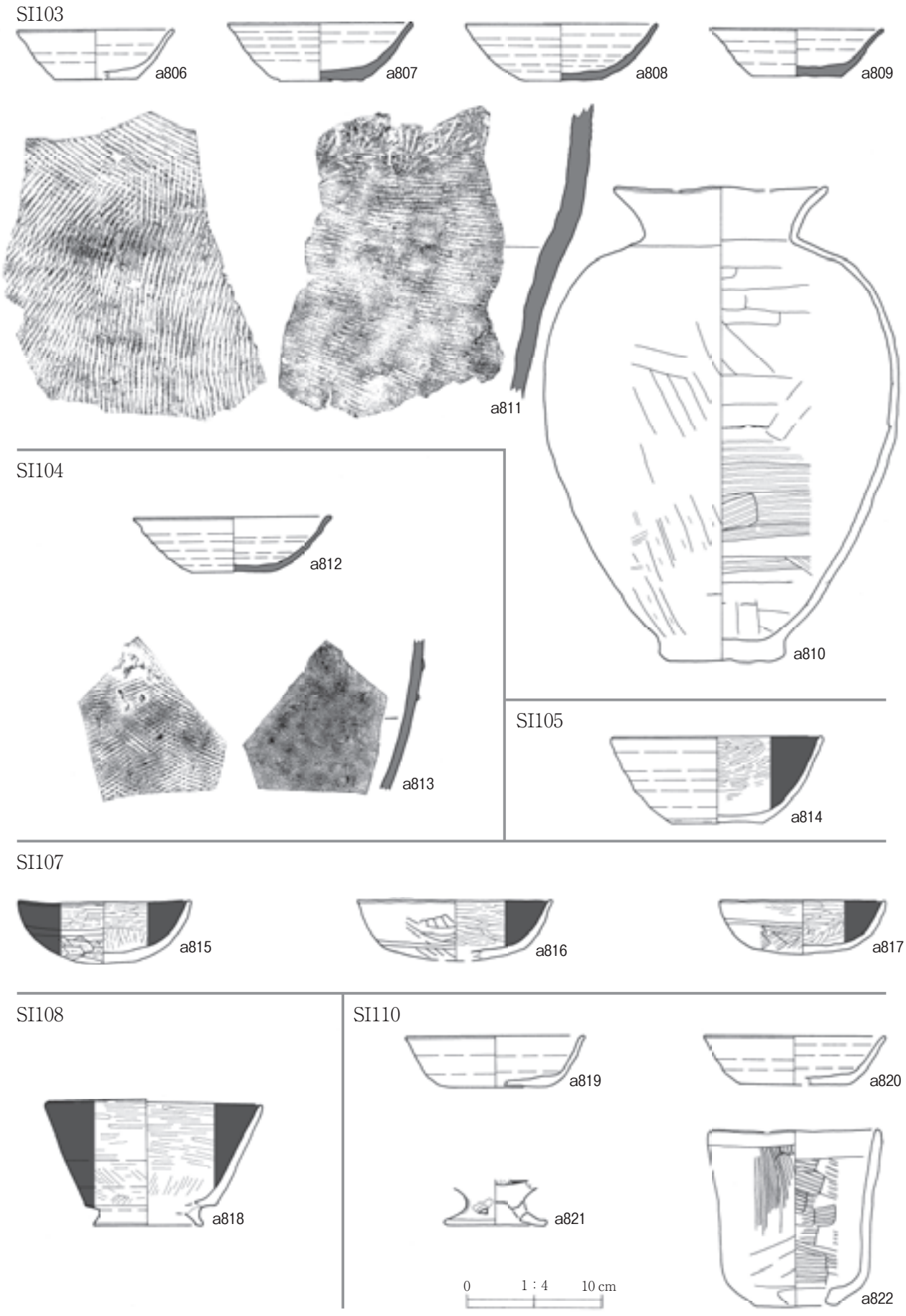
SI99



第 241 図　古代土器（40）



第 242 図　古代土器（41）

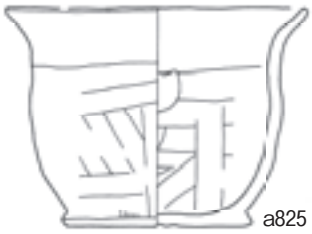


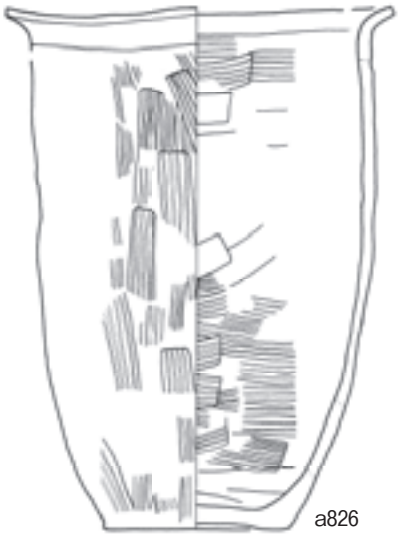
第 243 図　古代土器（42）

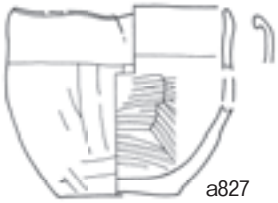
SI110

a823

a824


a825


a826


a827

SI114

a828

a829

a830

a831

a832

a833

a834

a835

a836

a837

a838

SI115

a839

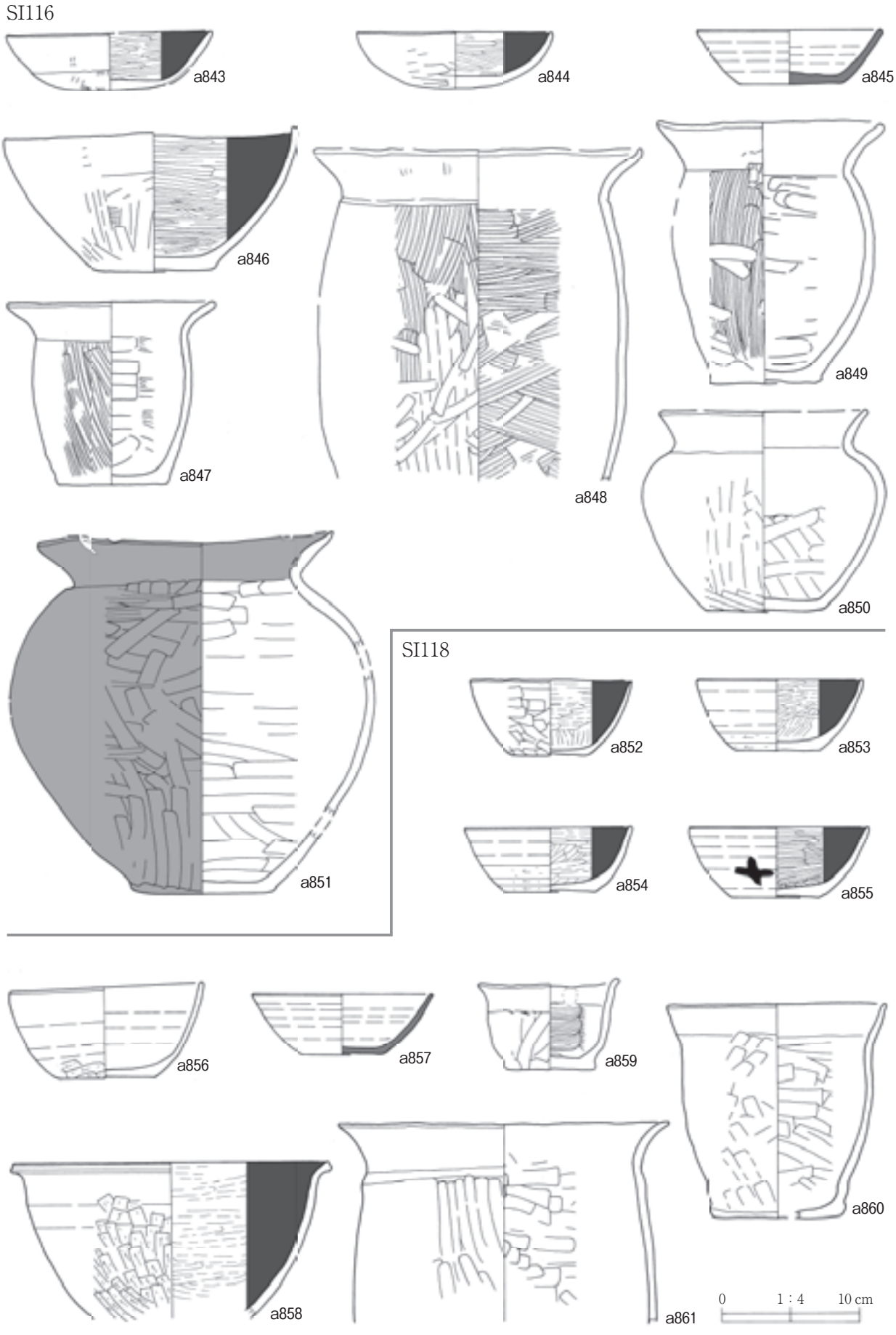
a840

a841

a842

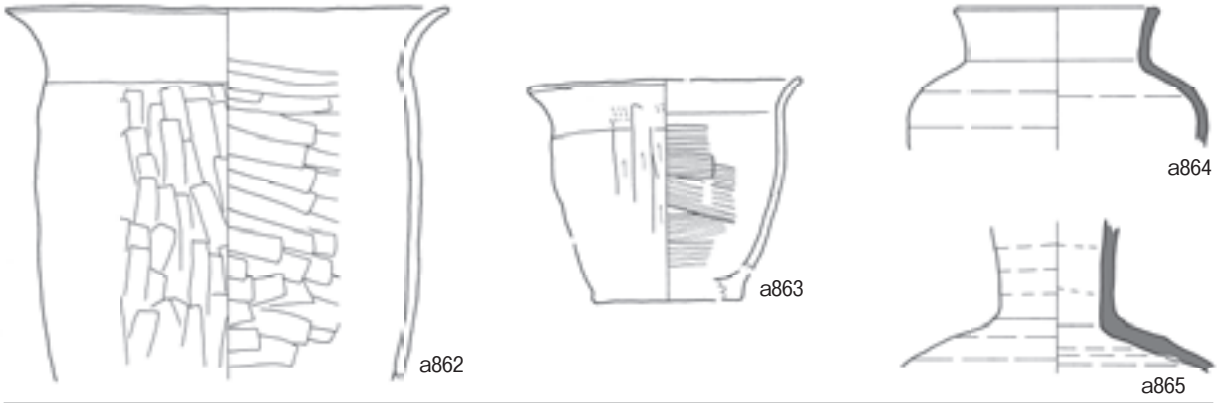
0 1：4 10 cm

第 244 図　古代土器（43）

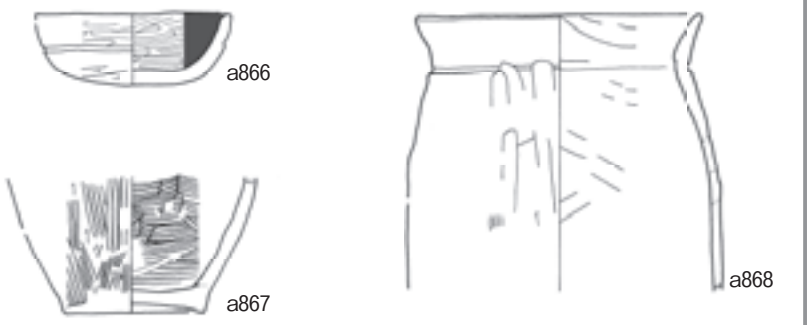


第 245 図　古代土器（44）

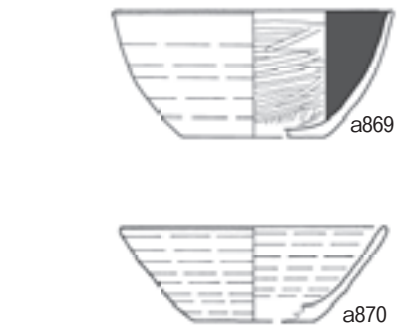
SI118

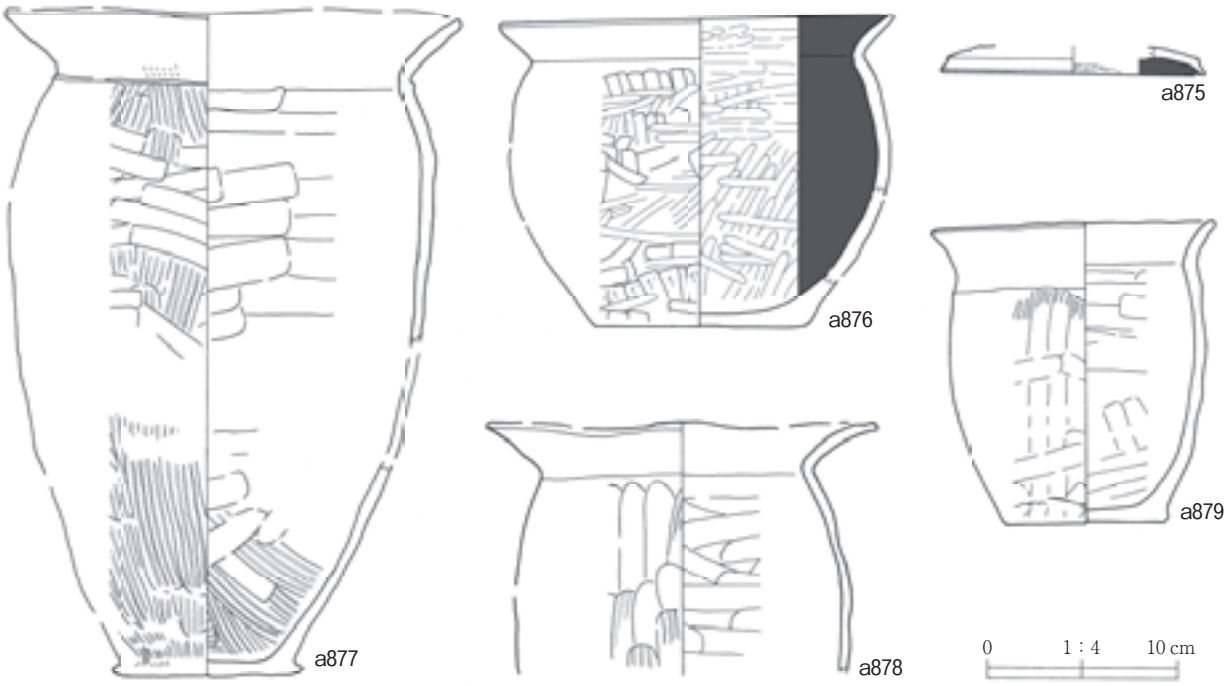


SI119



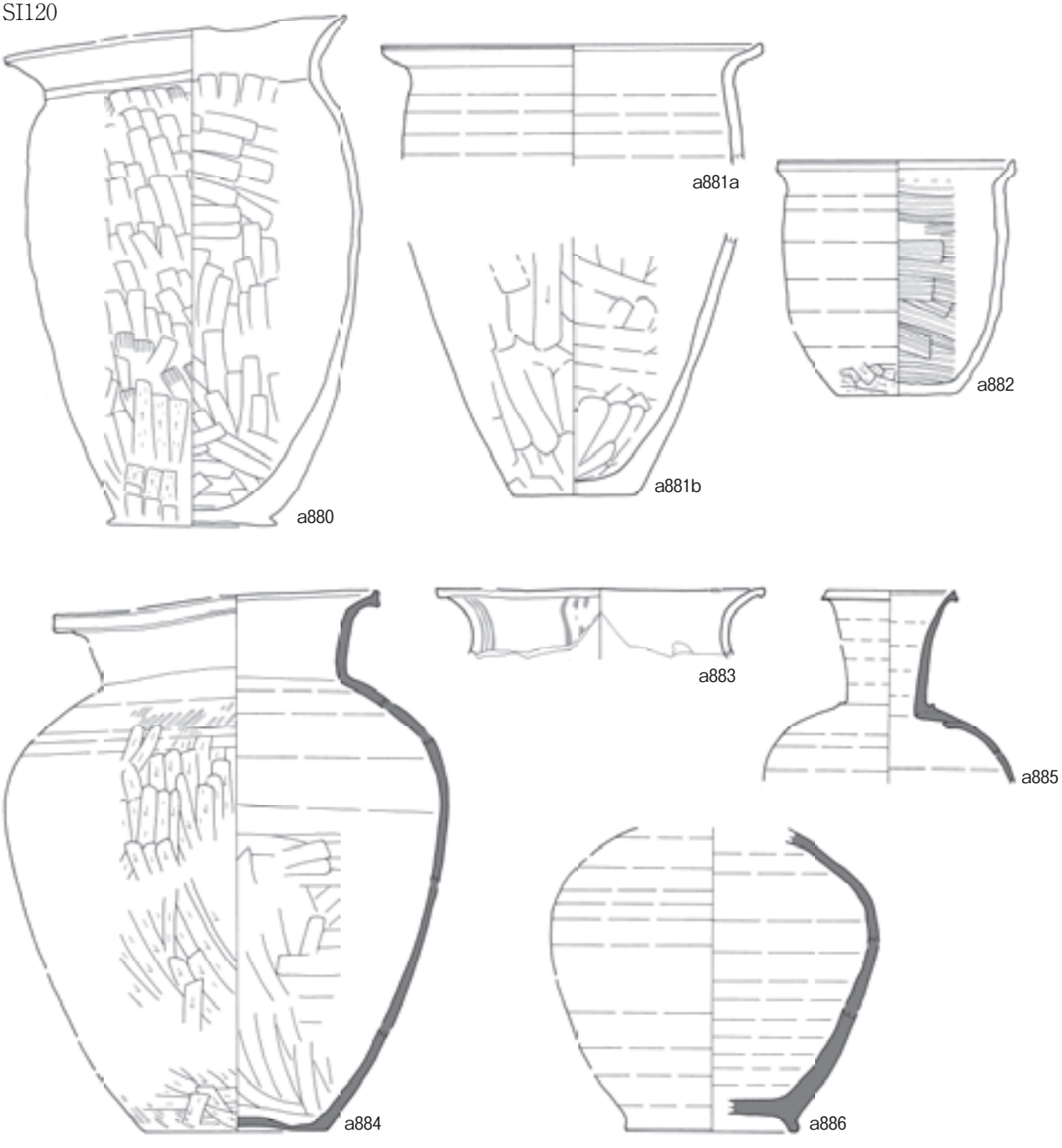
SI120



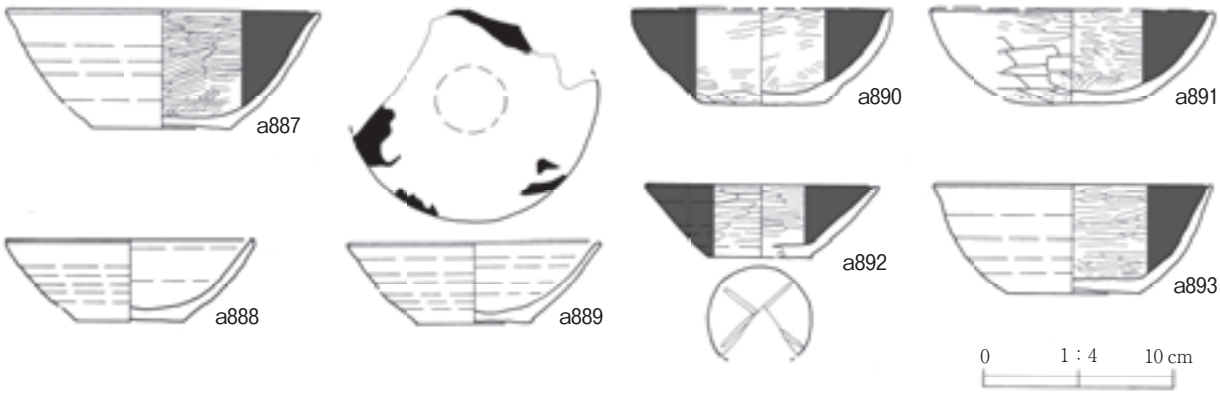


第 246 図　古代土器（45）

SI120

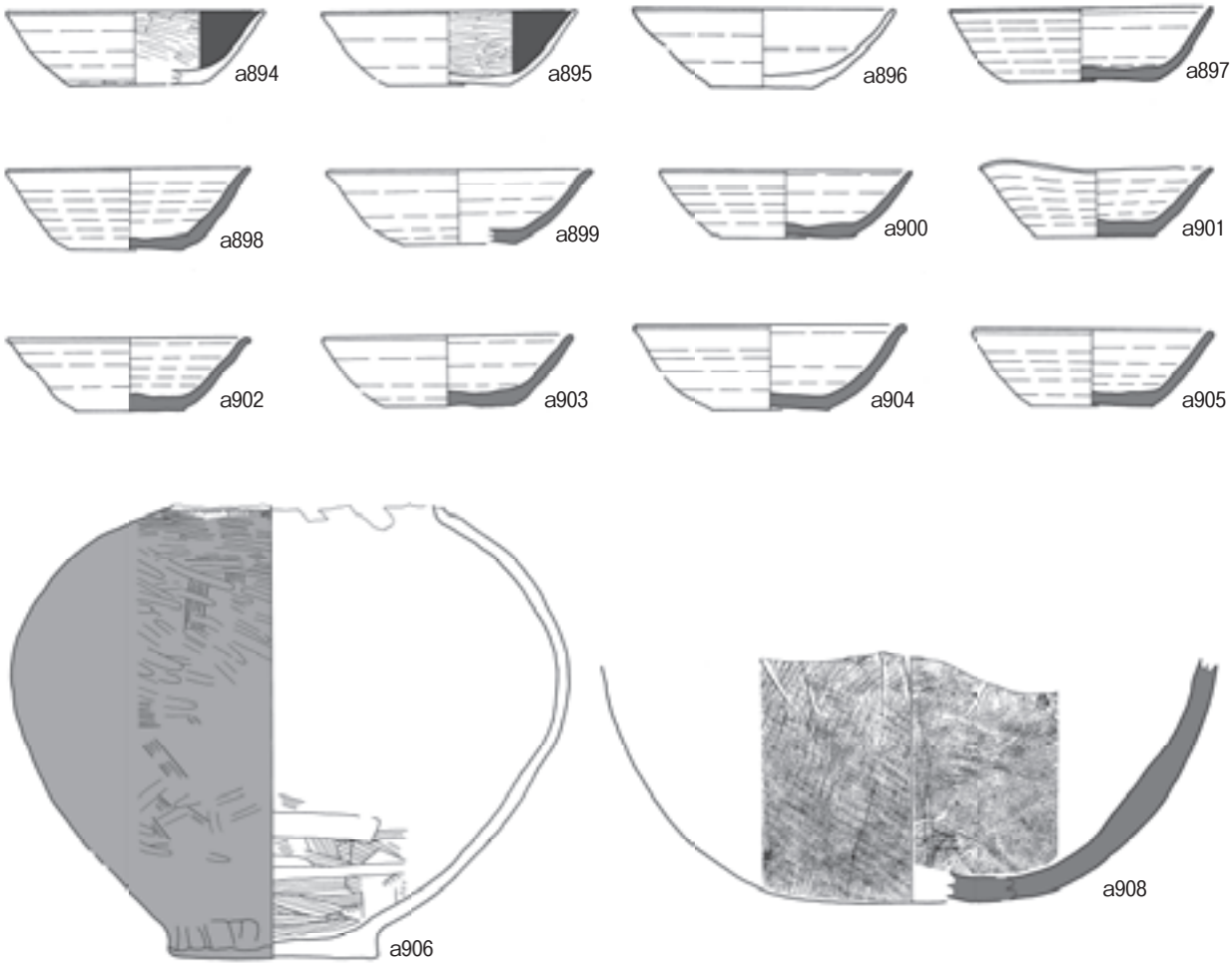


SI121

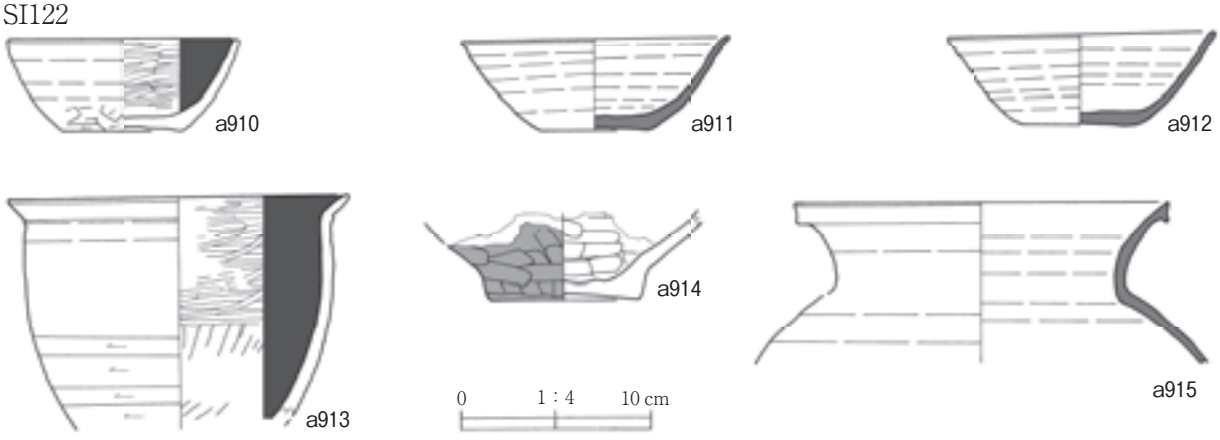


第 247 図　古代土器（46）

SI121

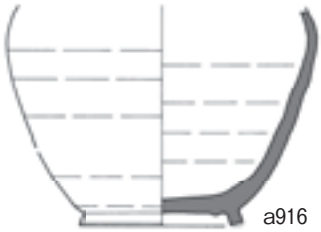


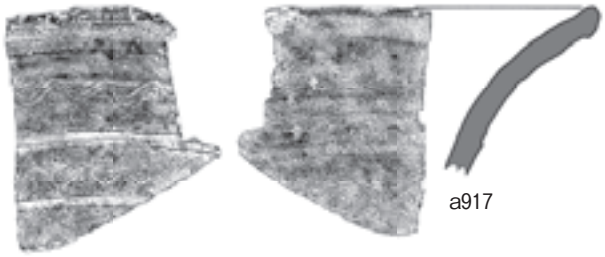
SI122



第 248 図　古代土器（47）

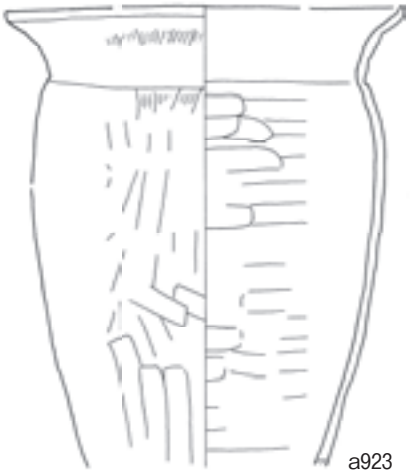
SI122



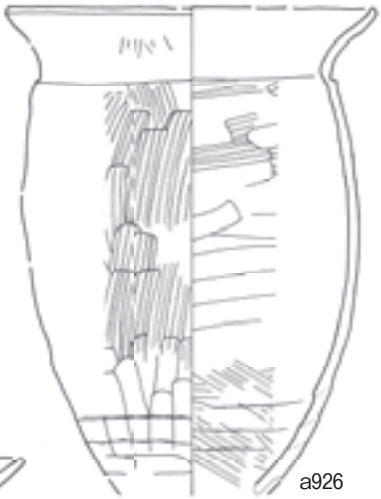


SI124

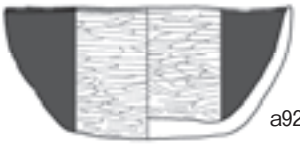
SI125

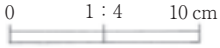


SI126

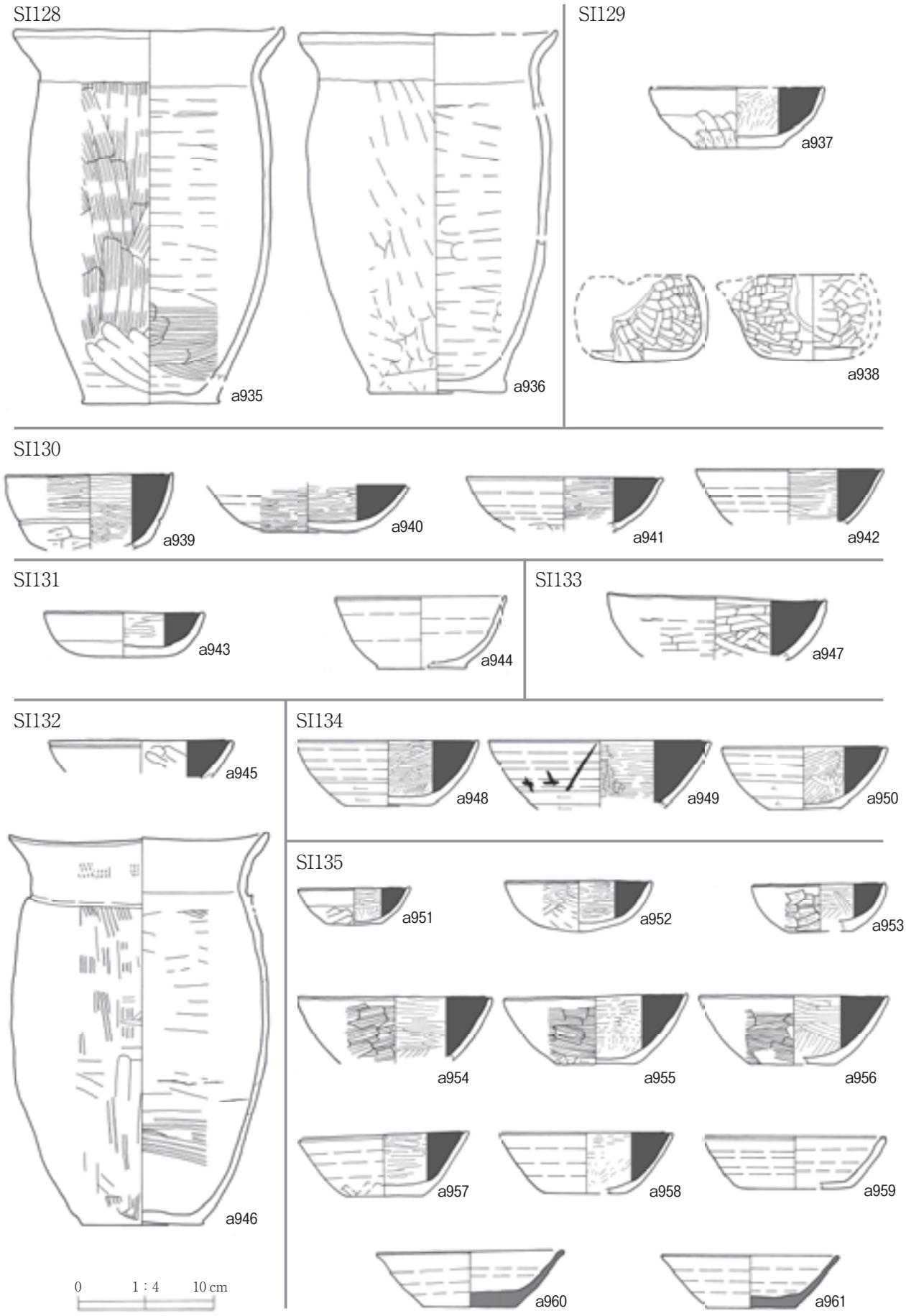


SI128

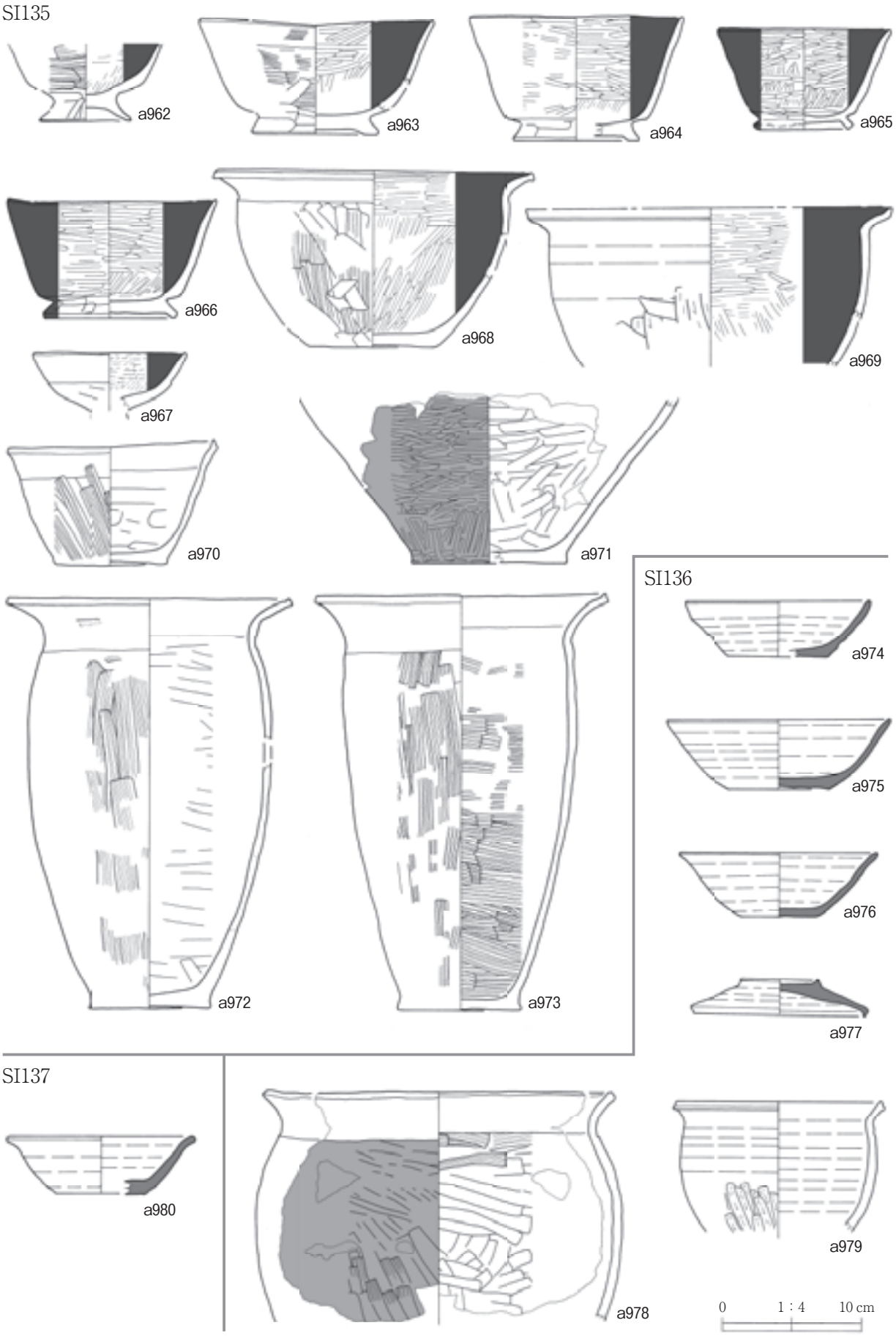




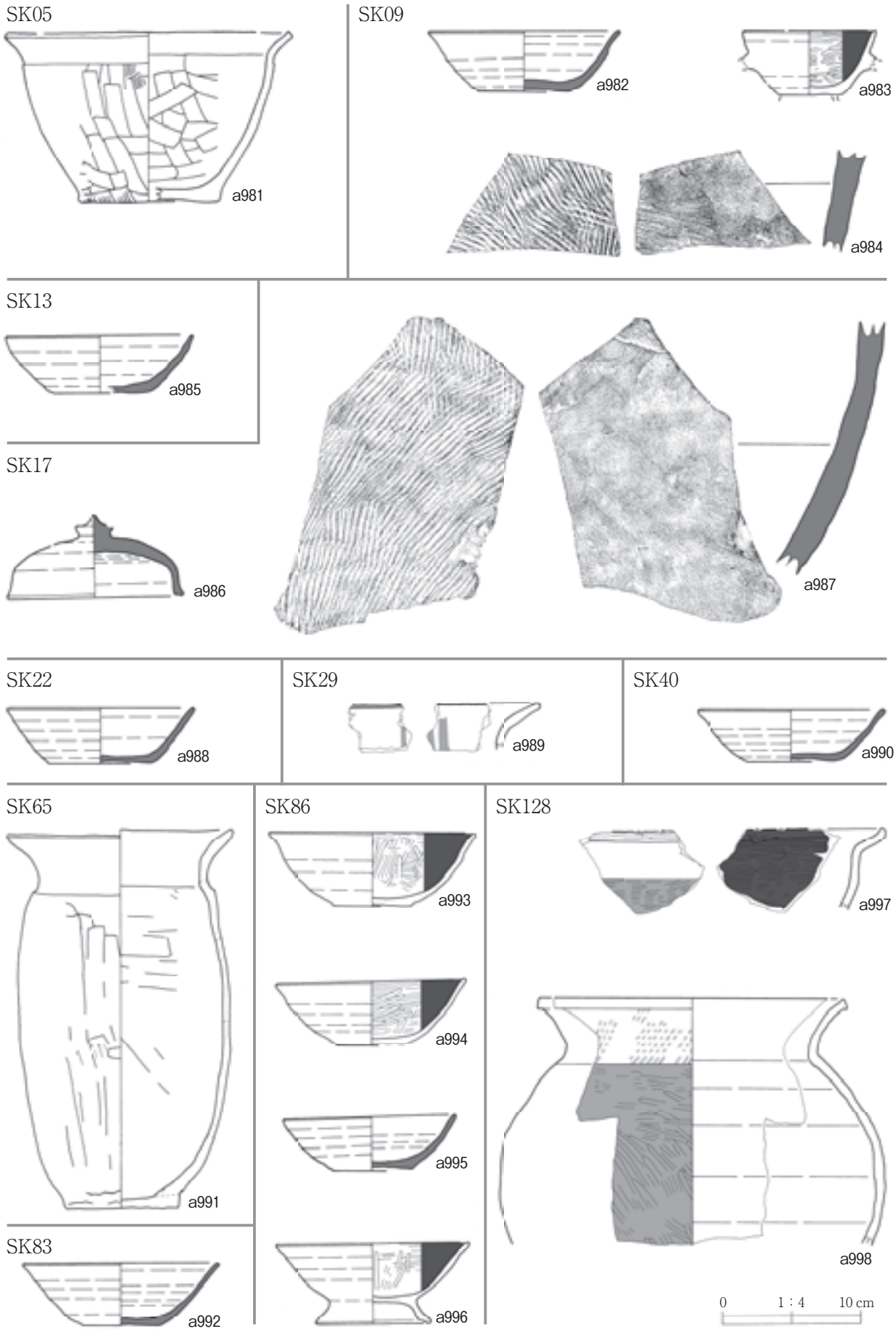
第 249 図　古代土器（48）



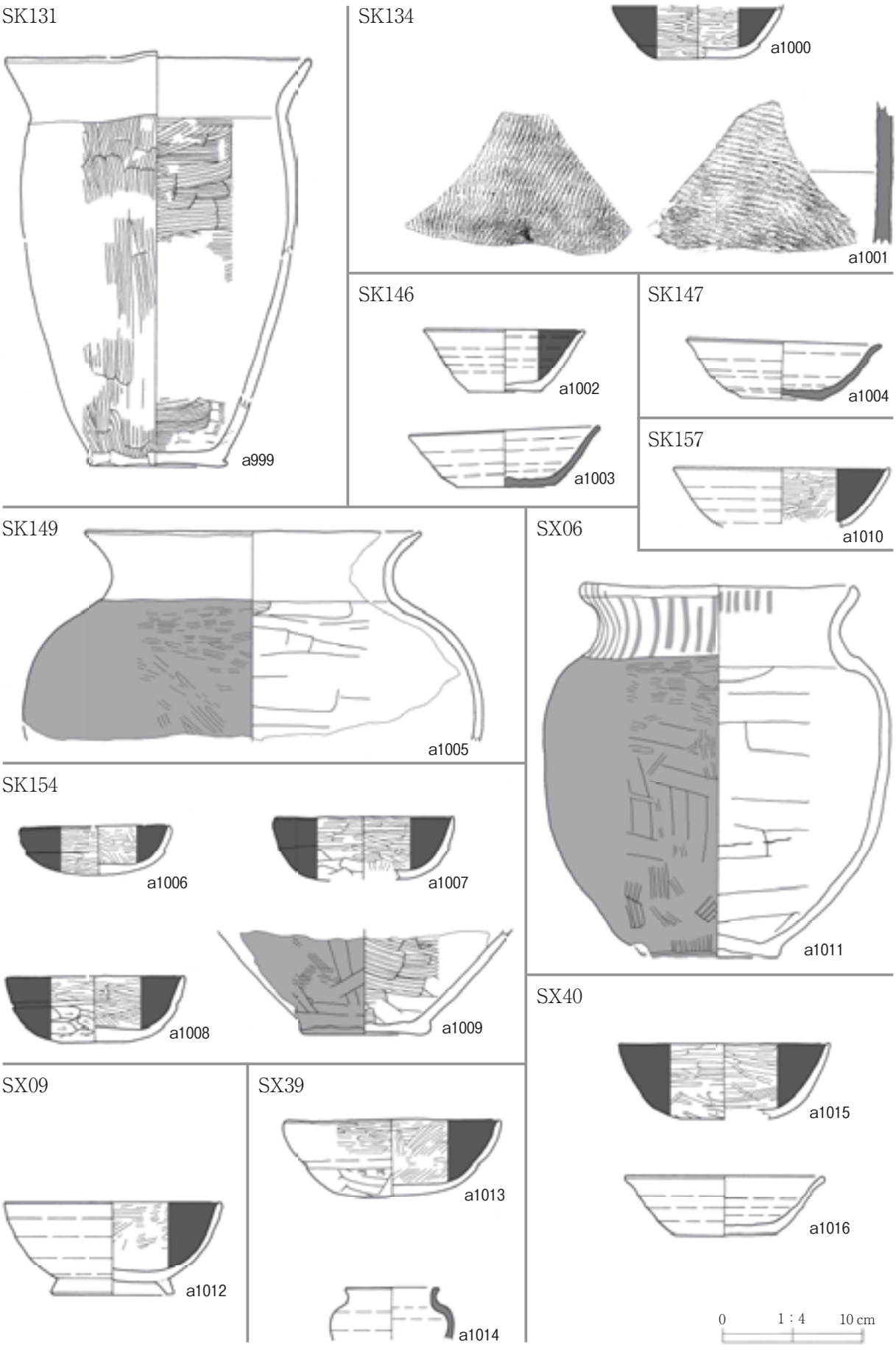
第 250 図　古代土器（49）



第 251 図　古代土器（50）

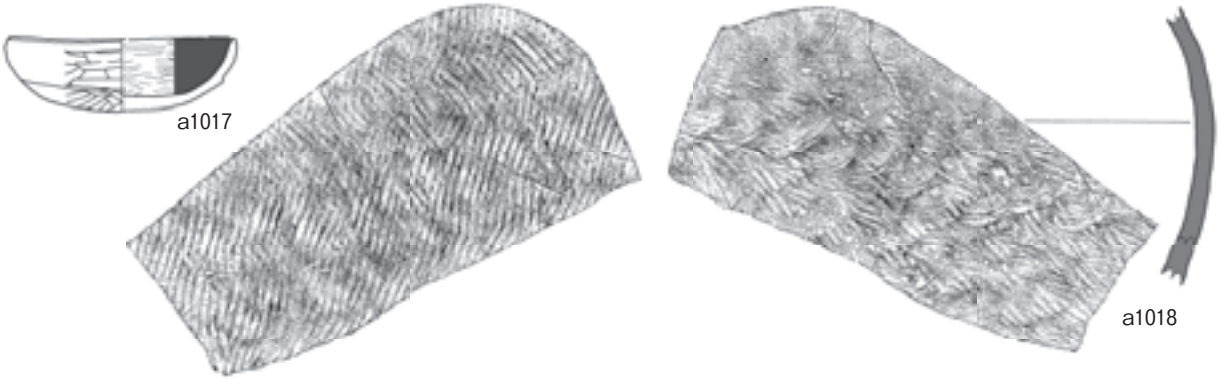


第 252 図　古代土器（51）

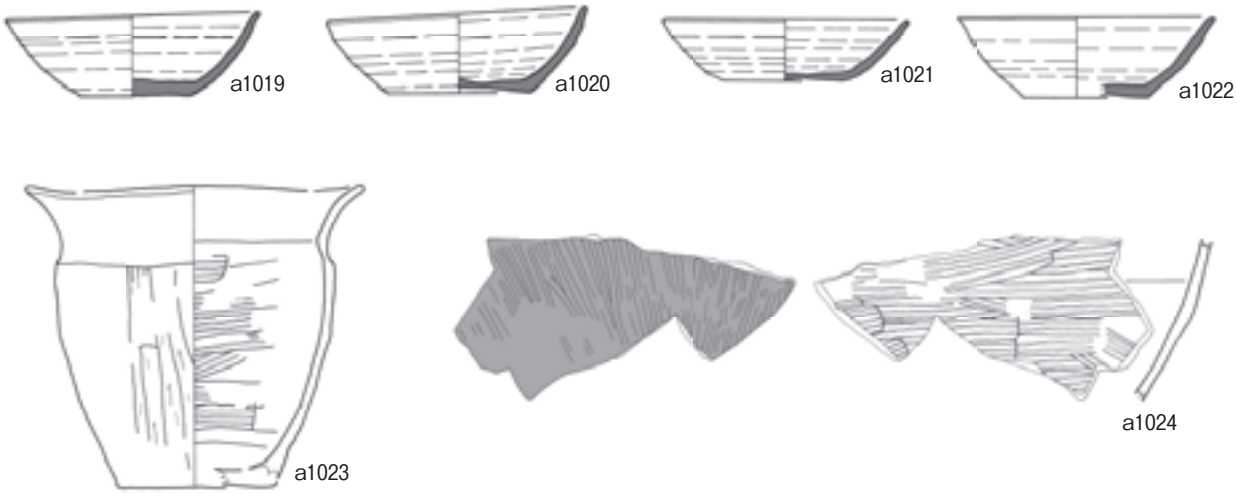


第 253 図　古代土器（52）

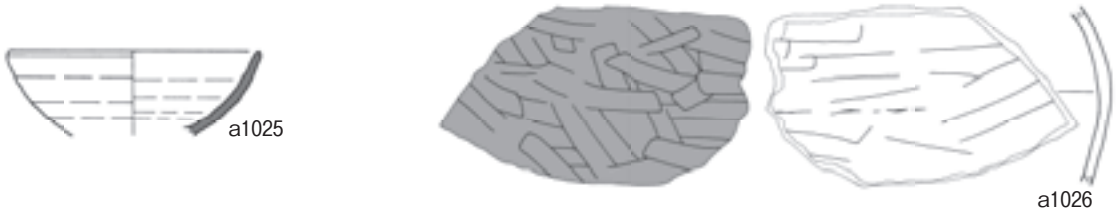
SX42



SX46



SX53



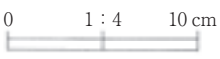
SX58

SX73

SN12

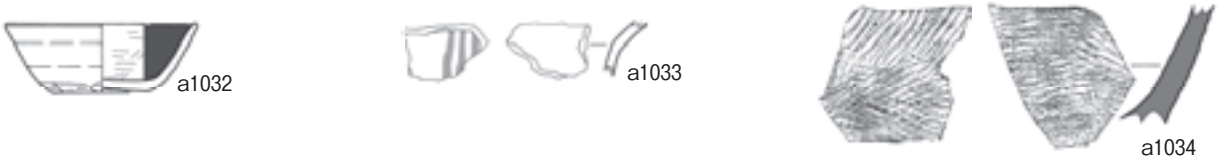
SX78

SN11



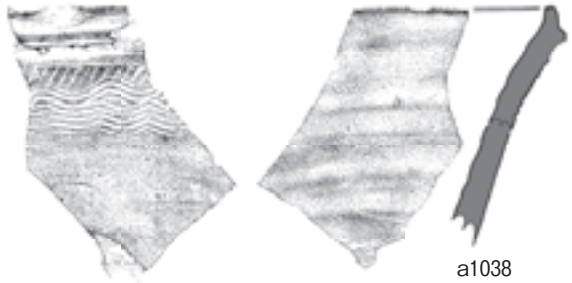
第 254 図　古代土器（53）

SD01



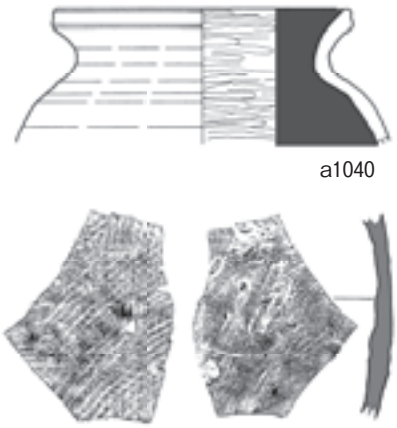
SD02

SD07

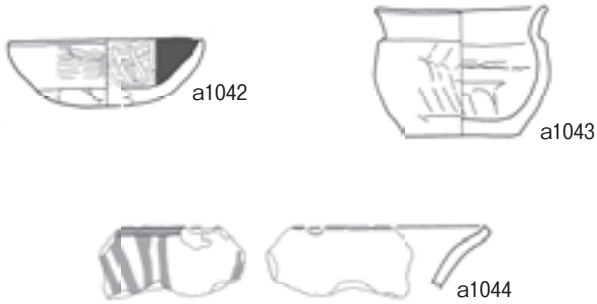


SD13

SD18



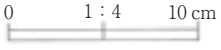
SD23



SD25

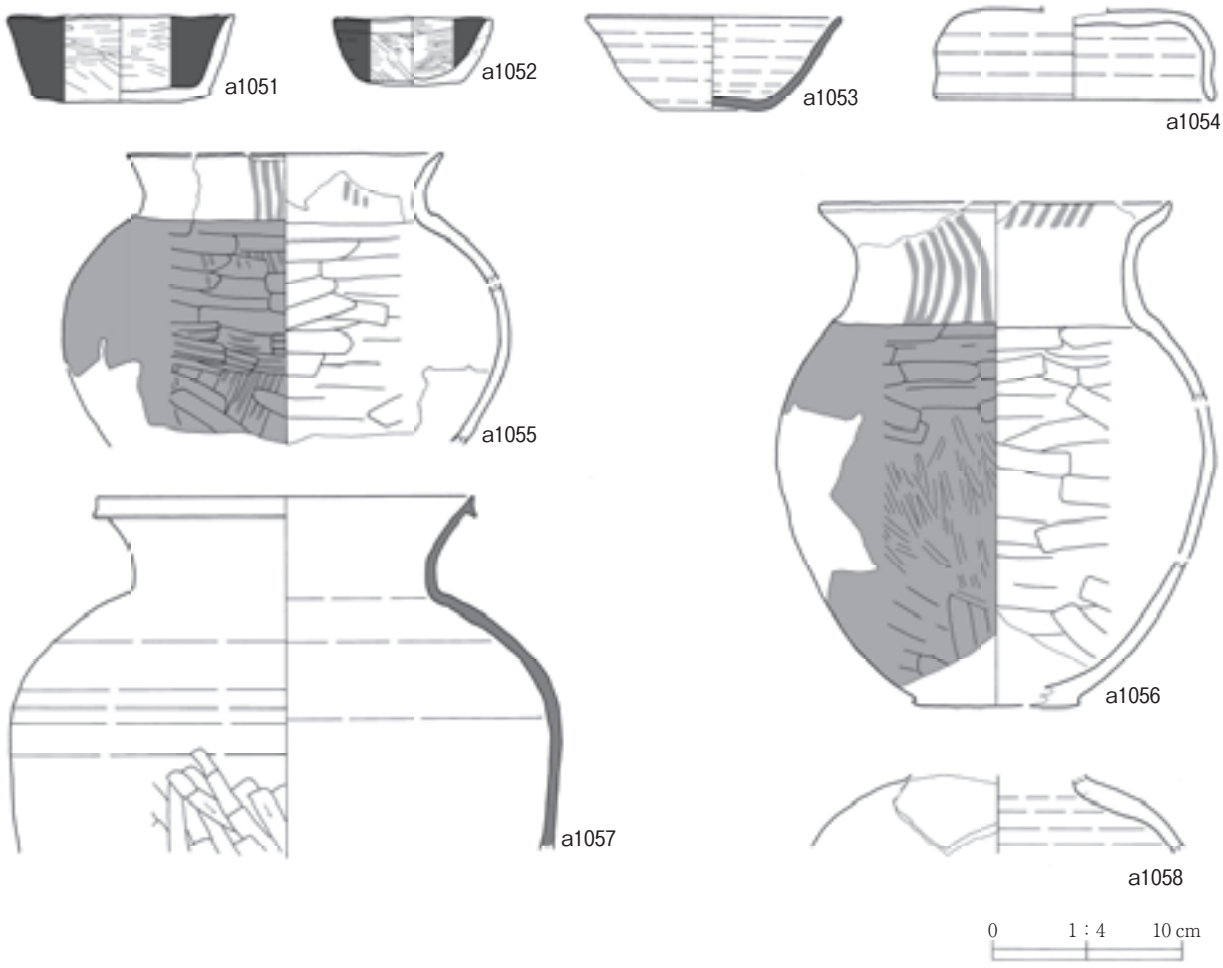
SD26

P509

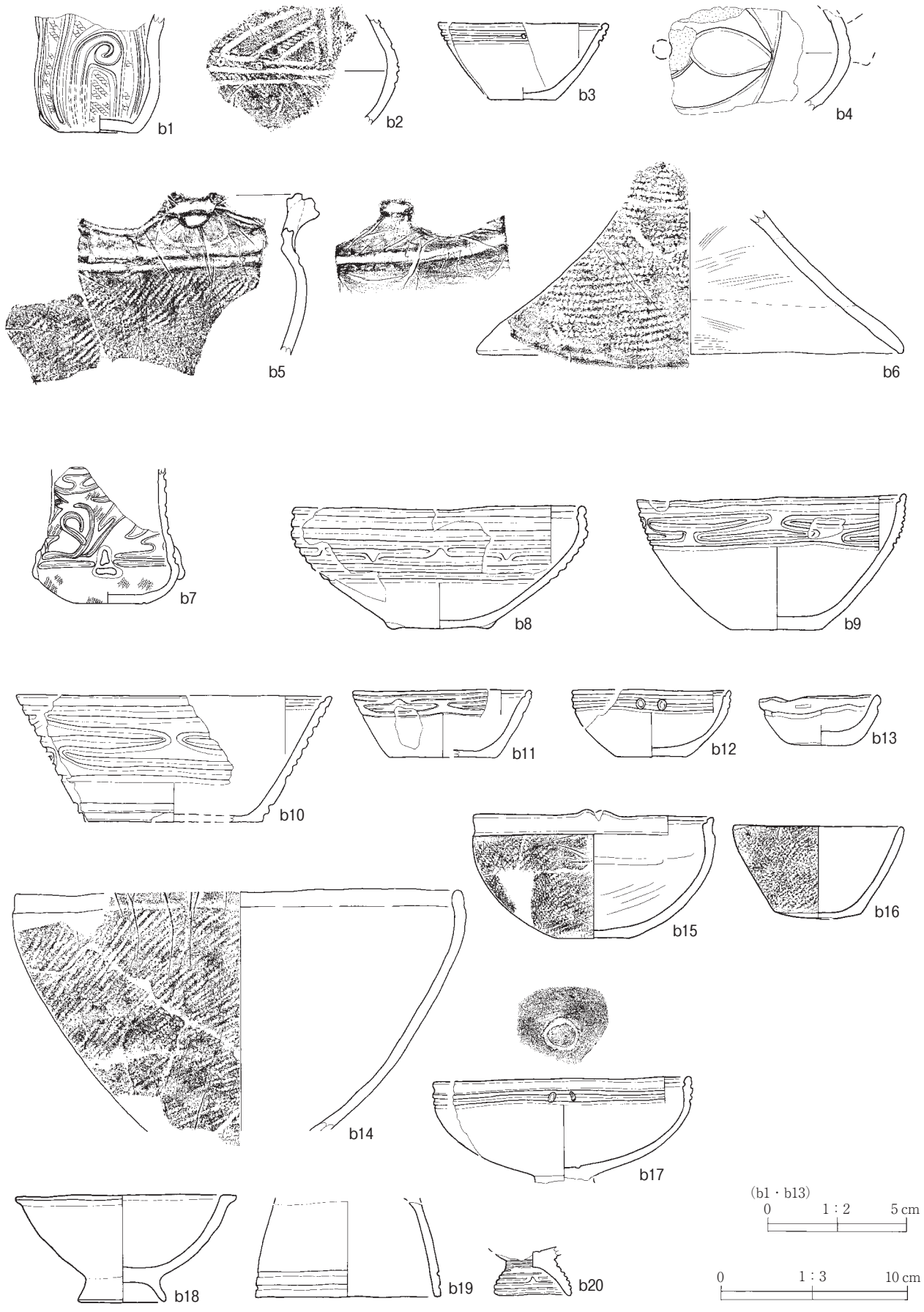


第 255 図　古代土器（54）

遺構外

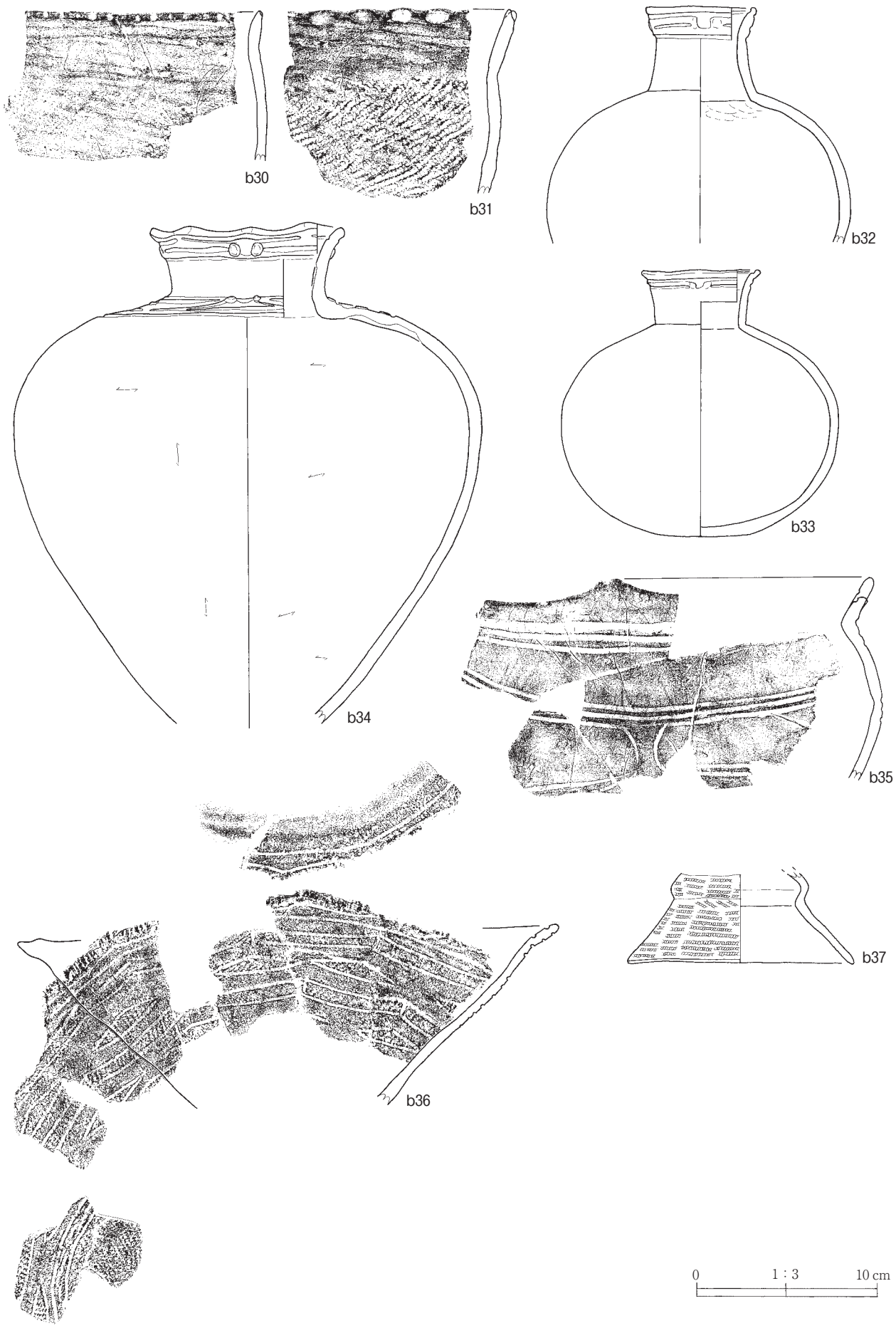


第 256 図　古代土器（55）

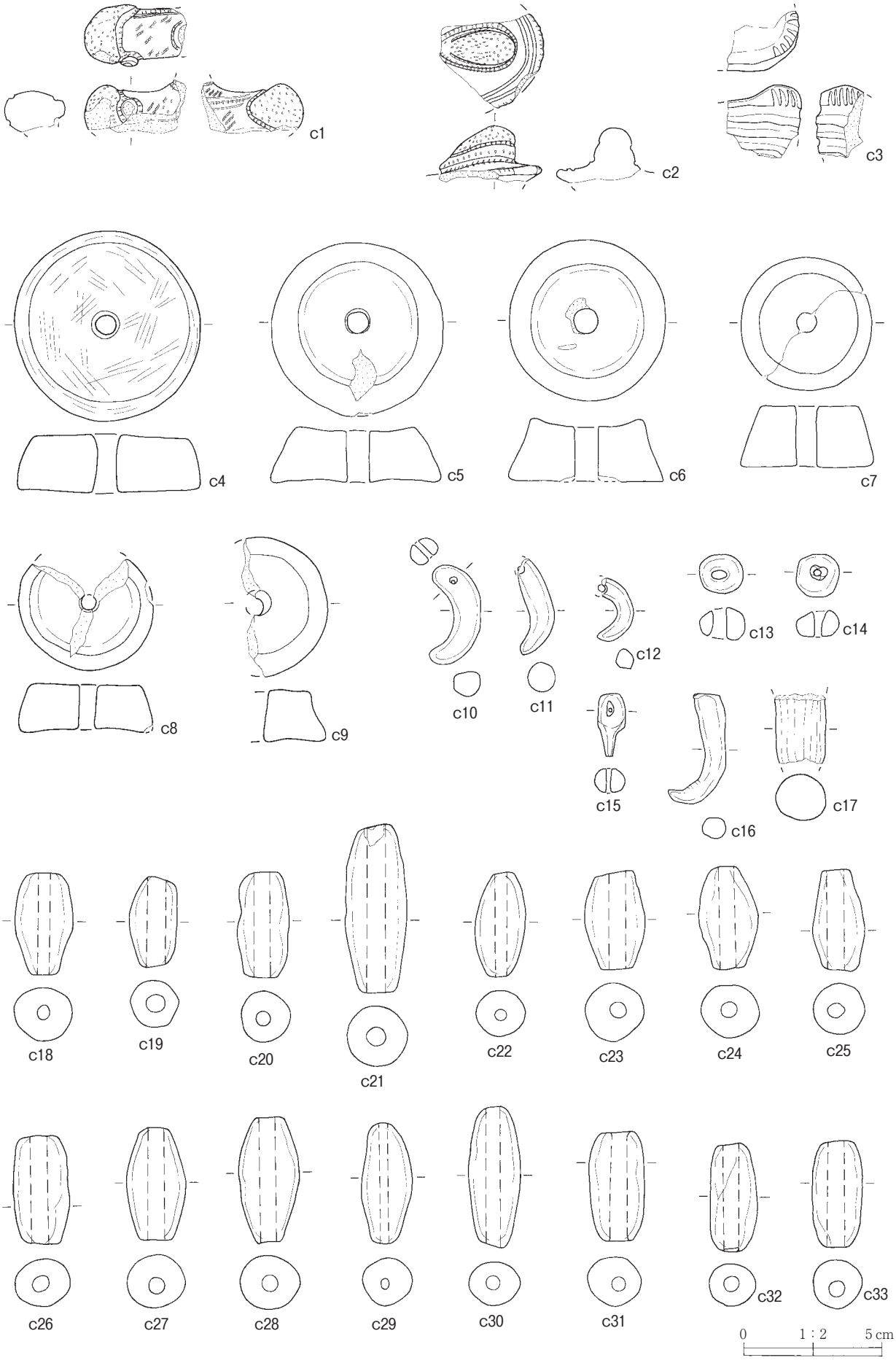


第 257 図　縄文・弥生土器（1）

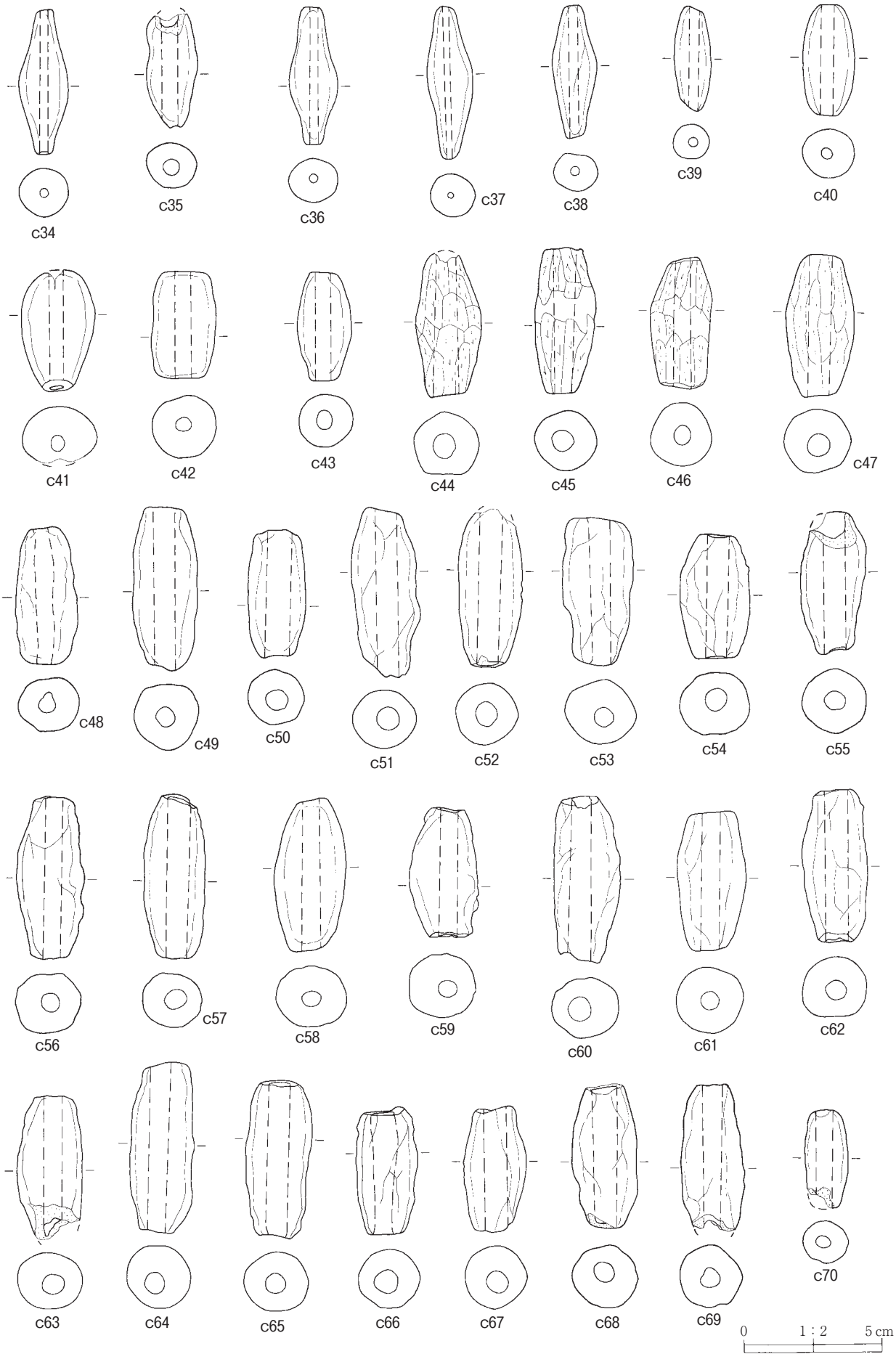
第 258 図　縄文・弥生土器（2）



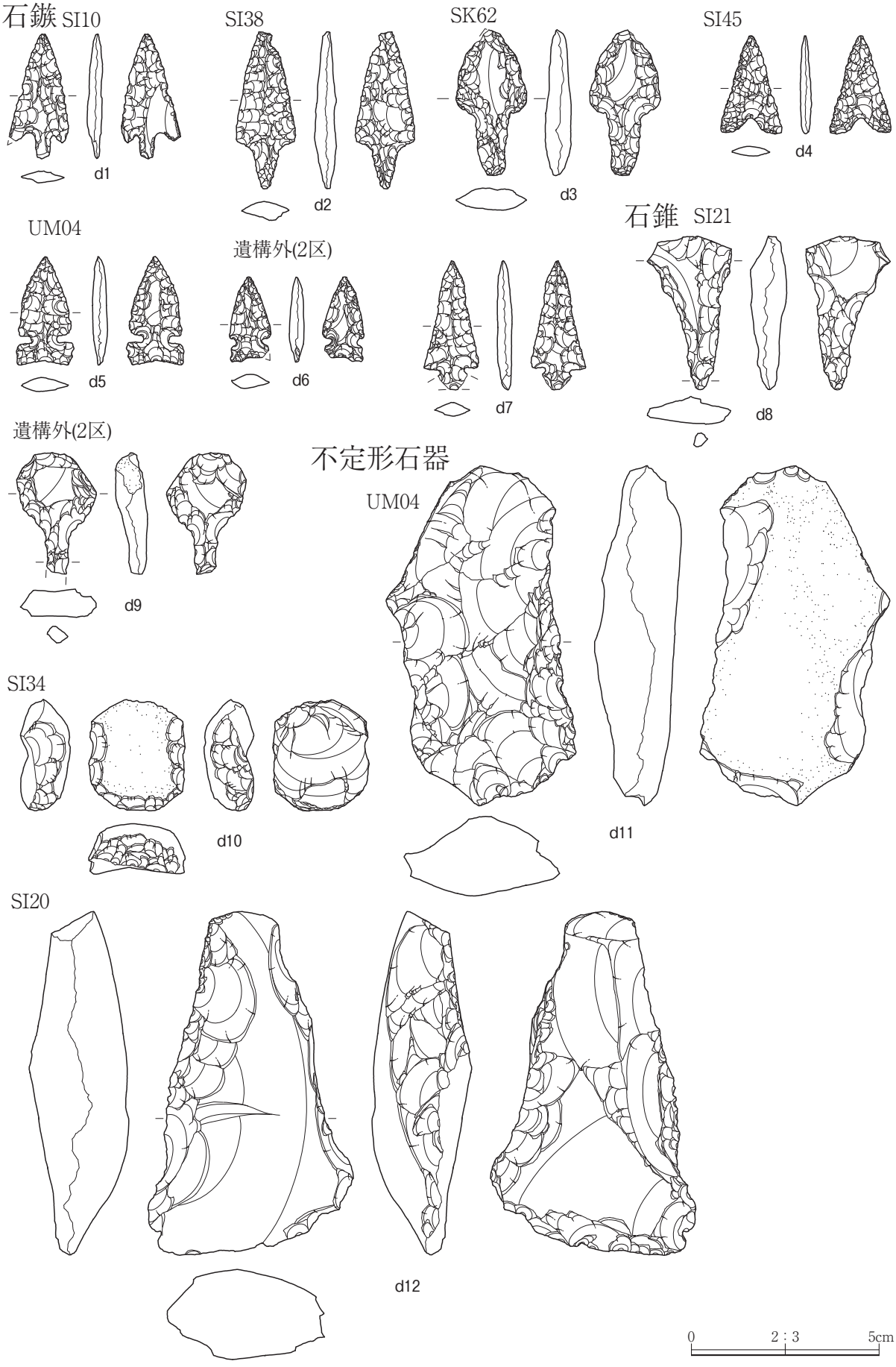
第 259 図　縄文・弥生土器（3）


c1
c2
c3
c4
c5
c6
c7
c8
c9
c10
c11
c12
c13
c14
c15
c16
c17
c18
c19
c20
c21
c22
c23
c24
c25
c26
c27
c28
c29
c30
c31
c32
c33
0
1：2
5 cm

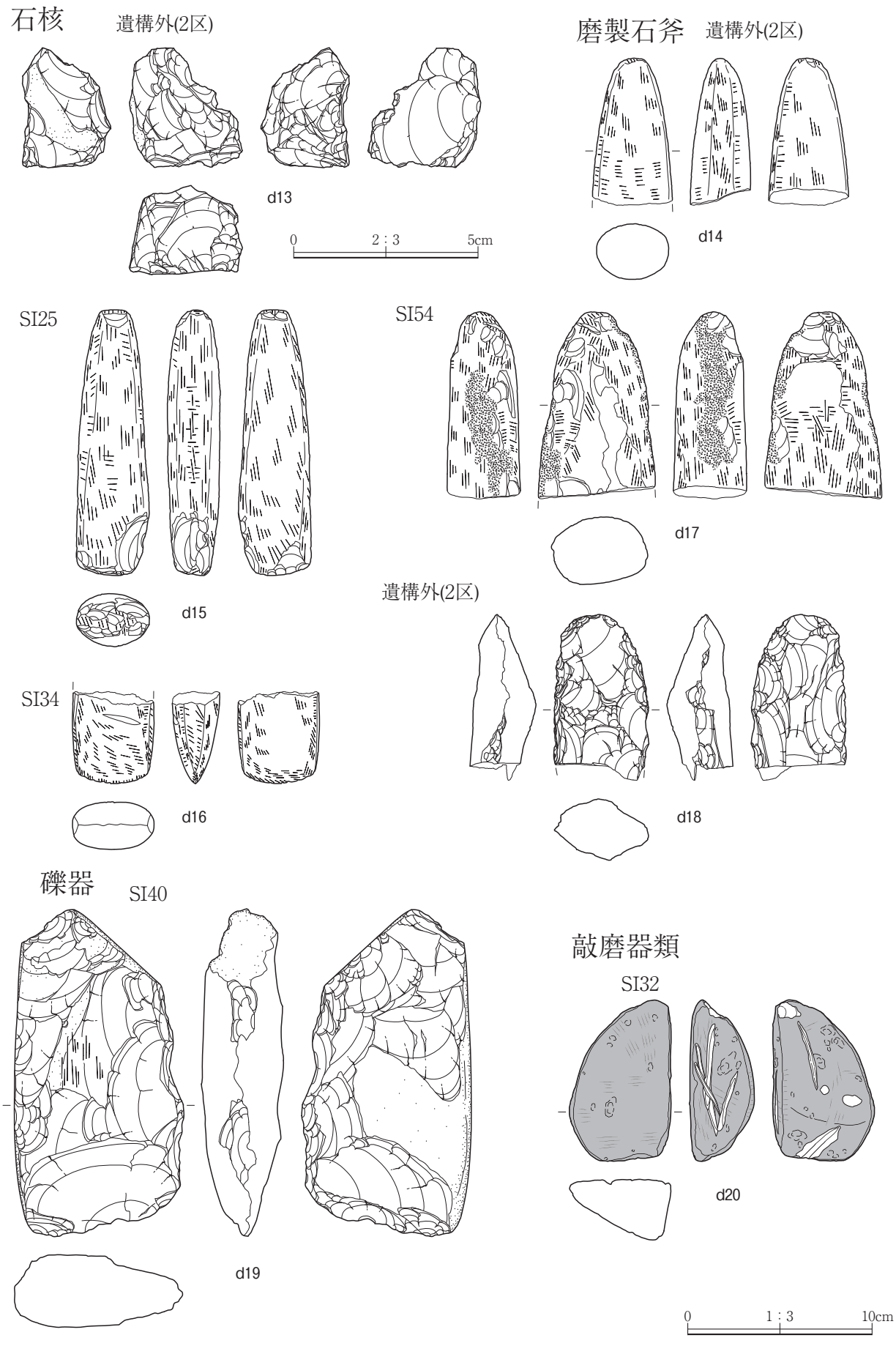
第 260 図　土製品（1）


c34
c35
c36
c37
c38
c39
c40
c41
c42
c43
c44
c45
c46
c47
c48
c49
c50
c51
c52
c53
c54
c55
c56
c57
c58
c59
c60
c61
c62
c63
c64
c65
c66
c67
c68
c69
c70
0
1：2
5cm

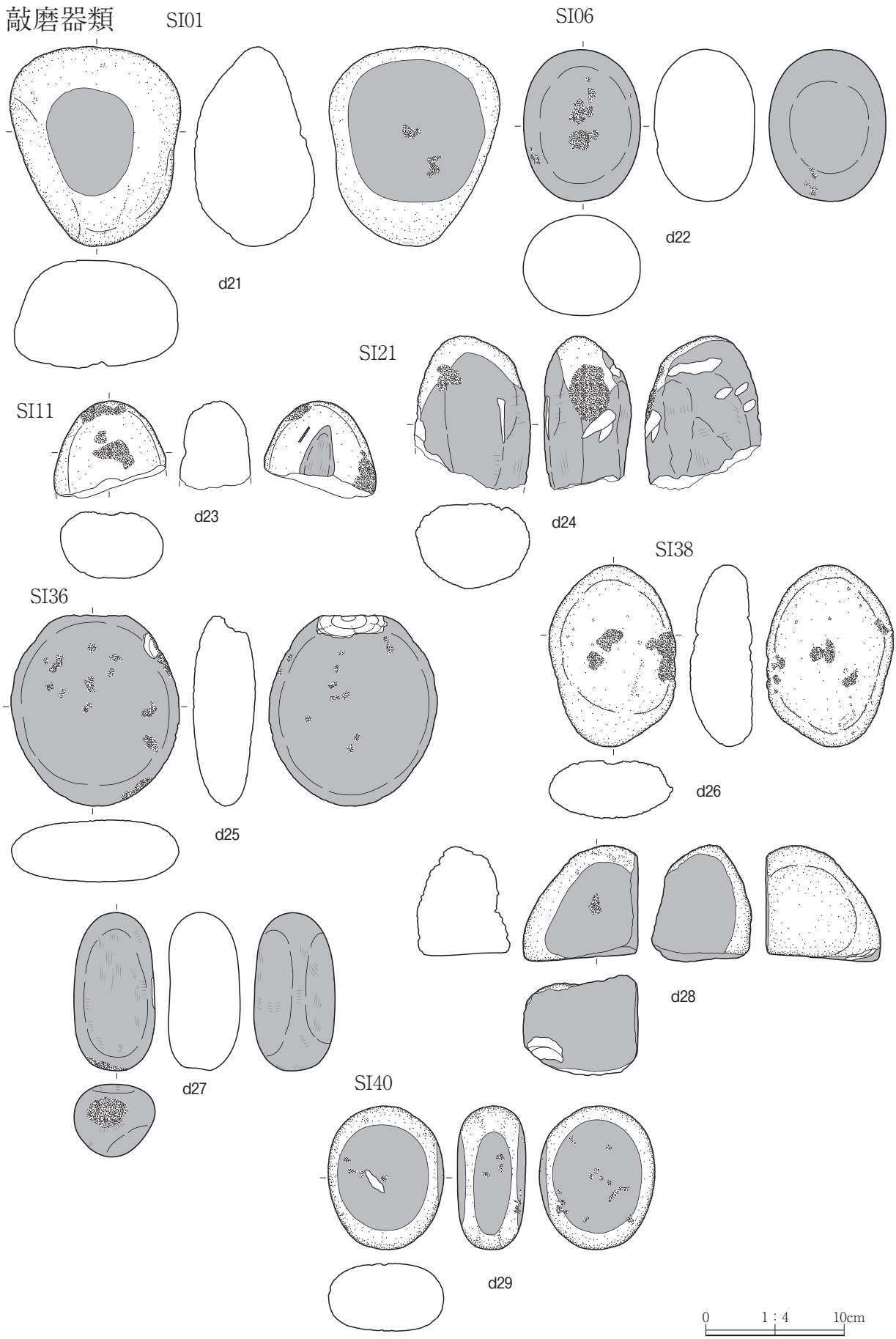
第 261 図　土製品（2）



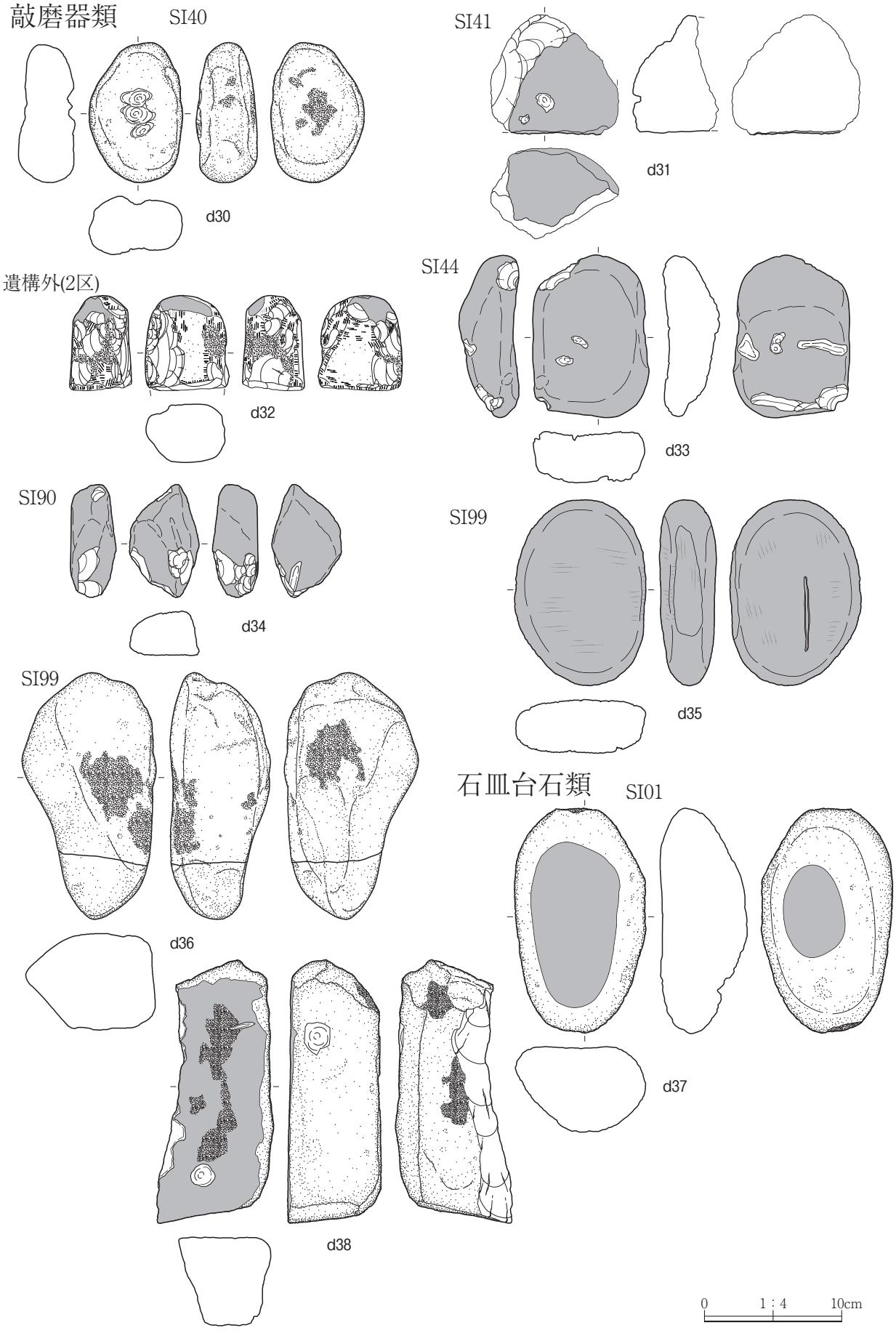
第 262 図　石器・石製品（1）



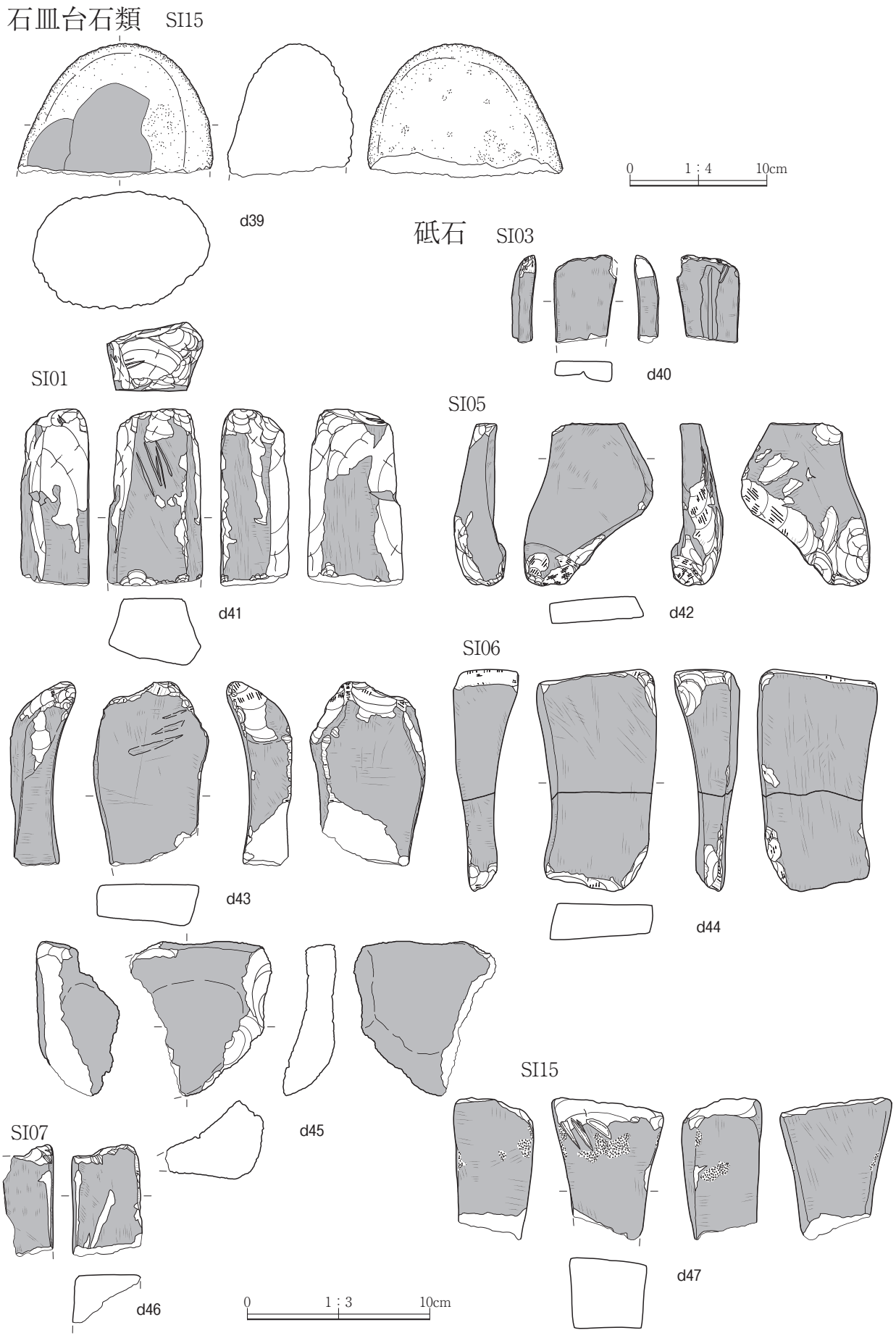
第 263 図　石器・石製品（2）



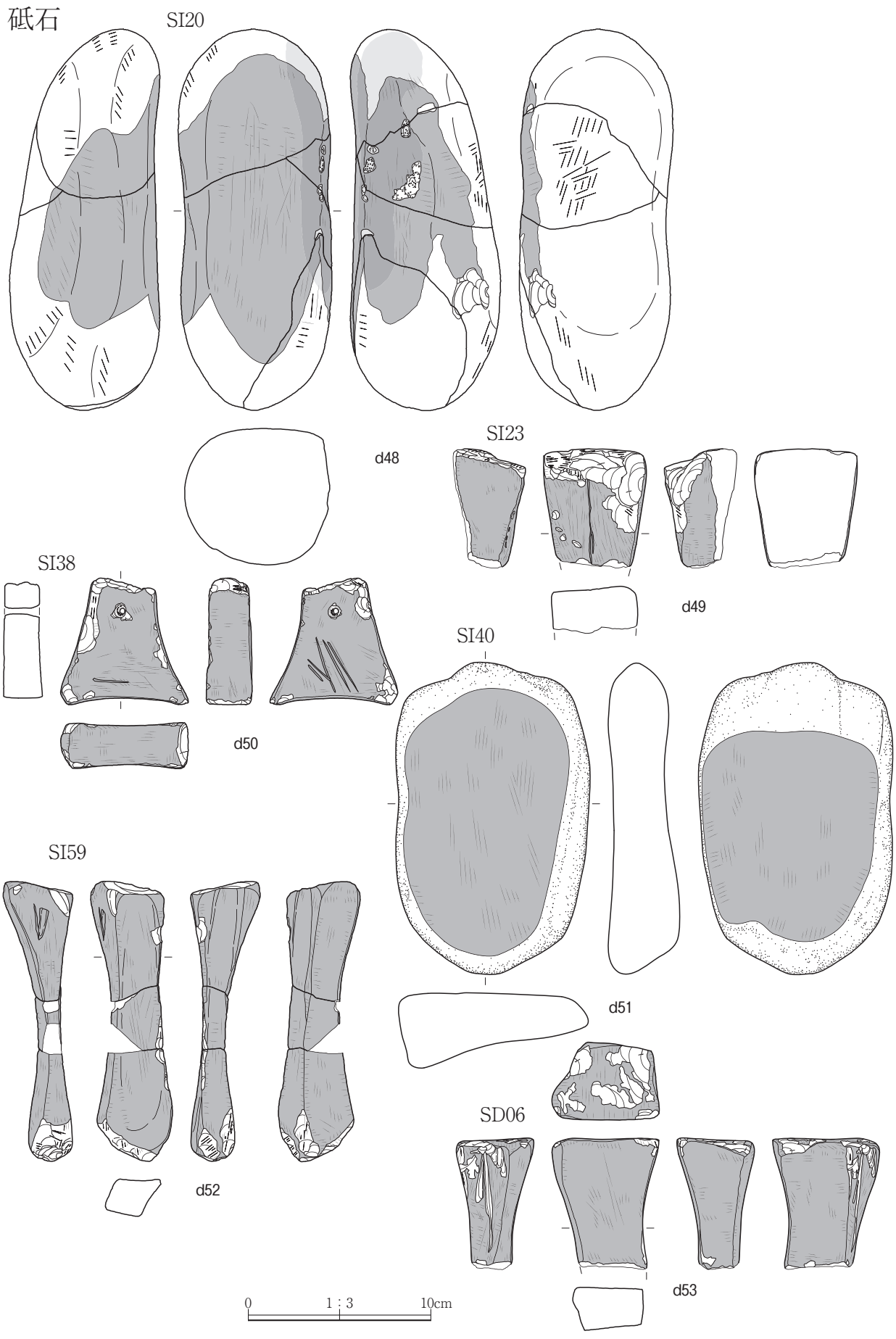
第 264 図　石器・石製品（3）



第 265 図　石器・石製品（4）

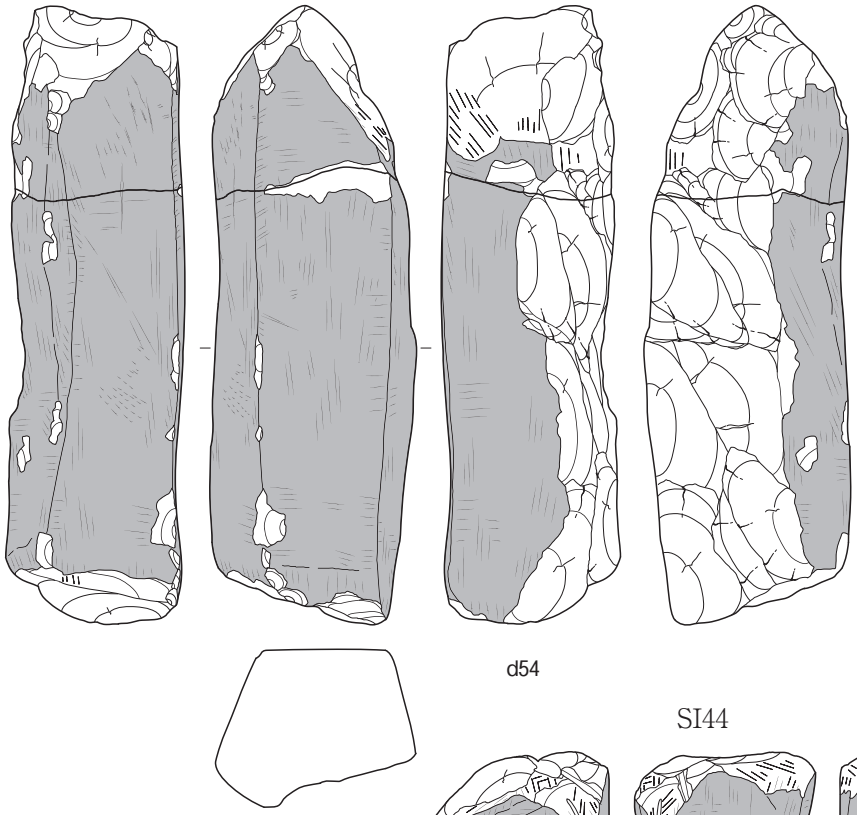


第 266 図　石器・石製品（5）

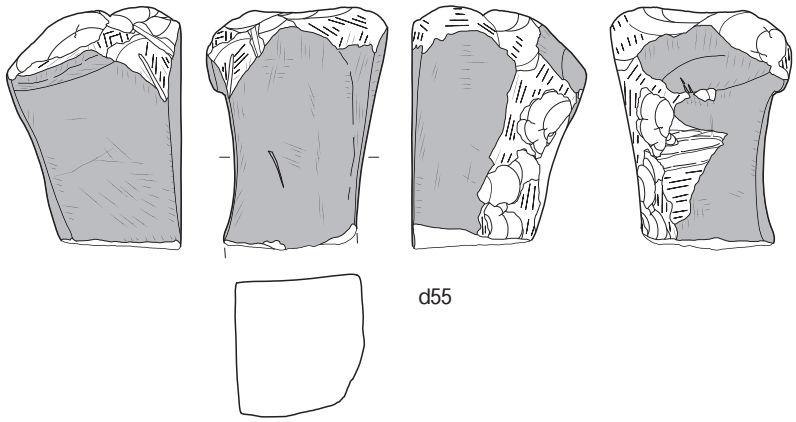


第 267 図　石器・石製品（6）

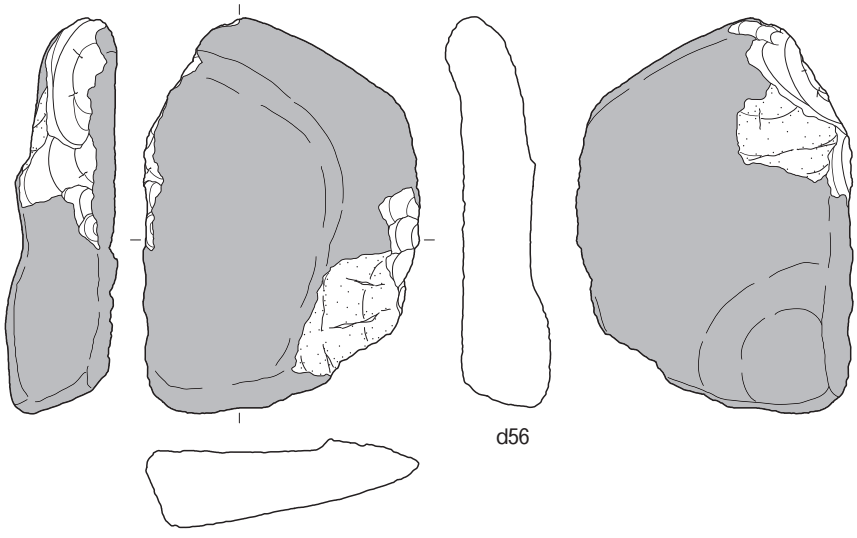
砥石　　遺構外(4区)



SI44



SI45

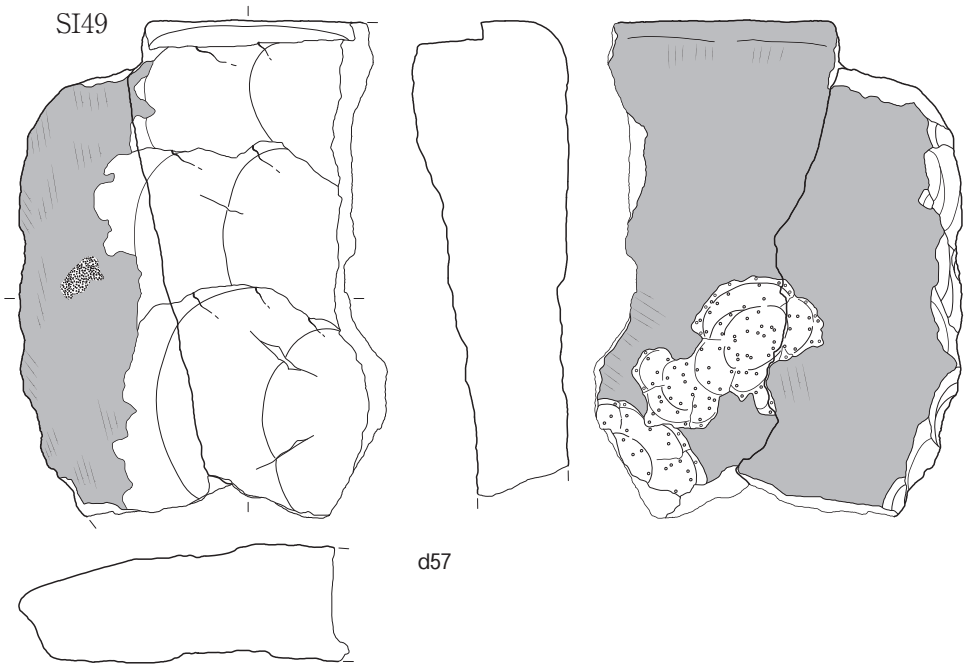


0　1：3　10cm

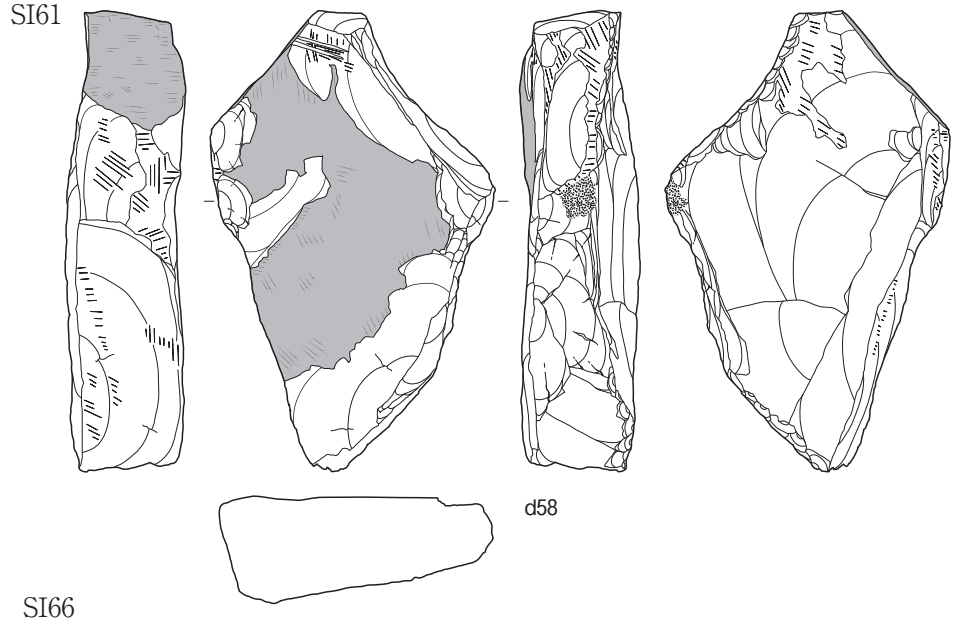
第 268 図　石器・石製品（7）

砥石

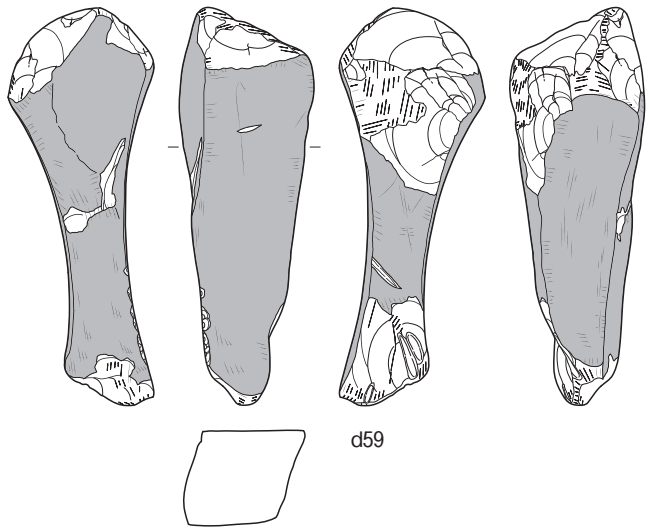
SI49



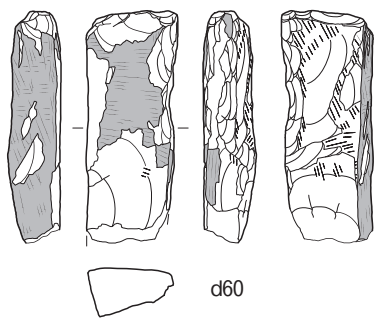
SI61

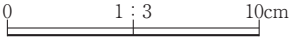


SI66

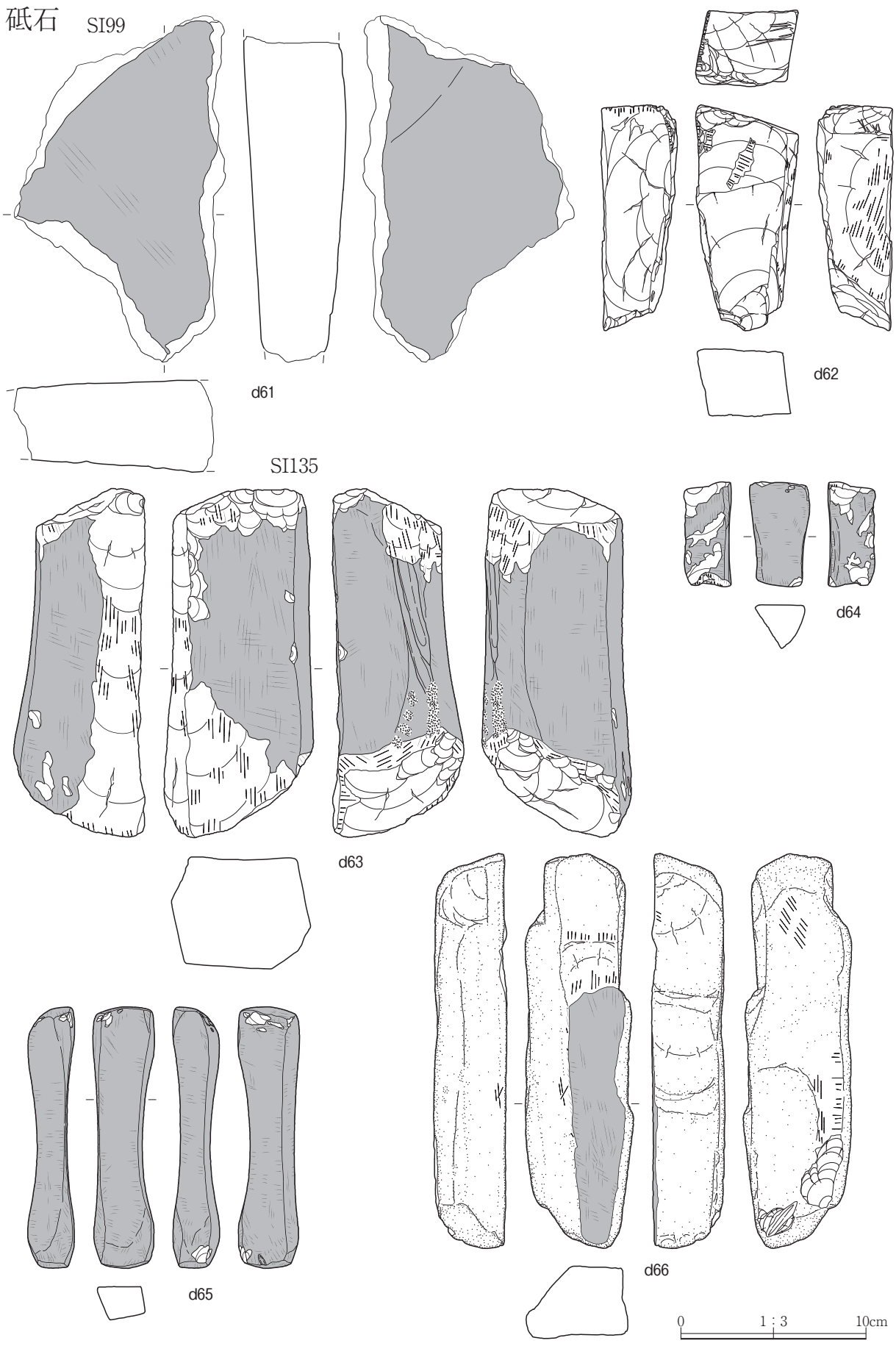


SI99



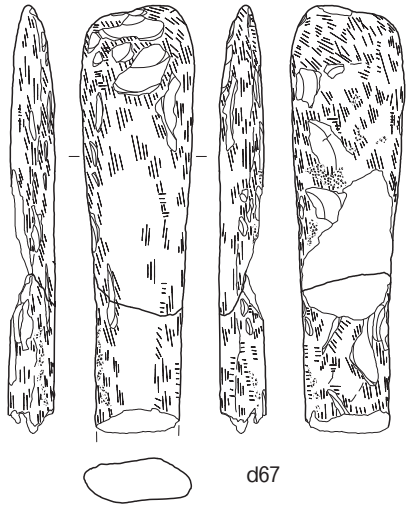


第 269 図　石器・石製品（8）

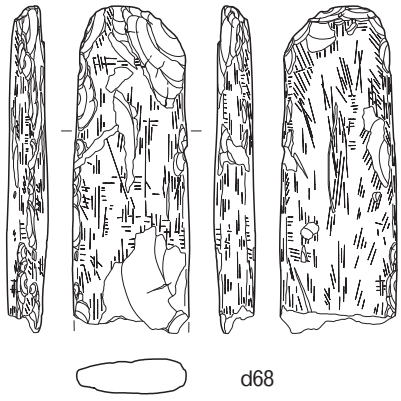


第 270 図　石器・石製品（9）

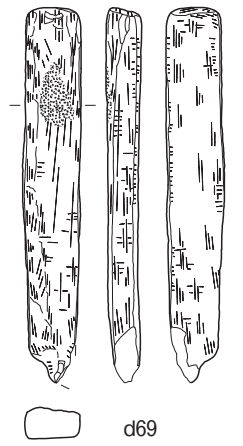
石棒類　SI11



SI40

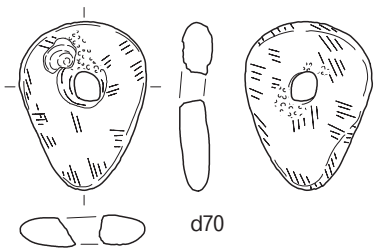


SI70

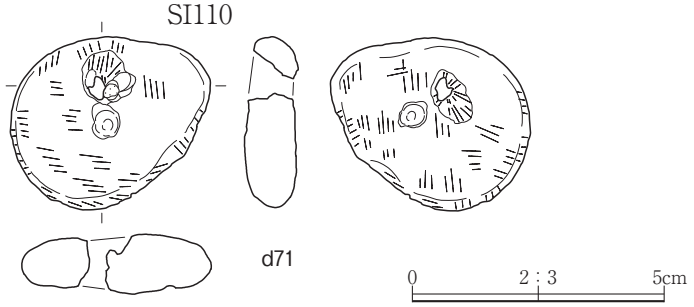


石製品類

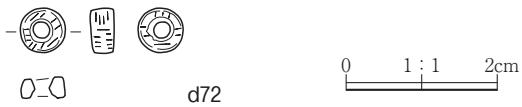
SI17



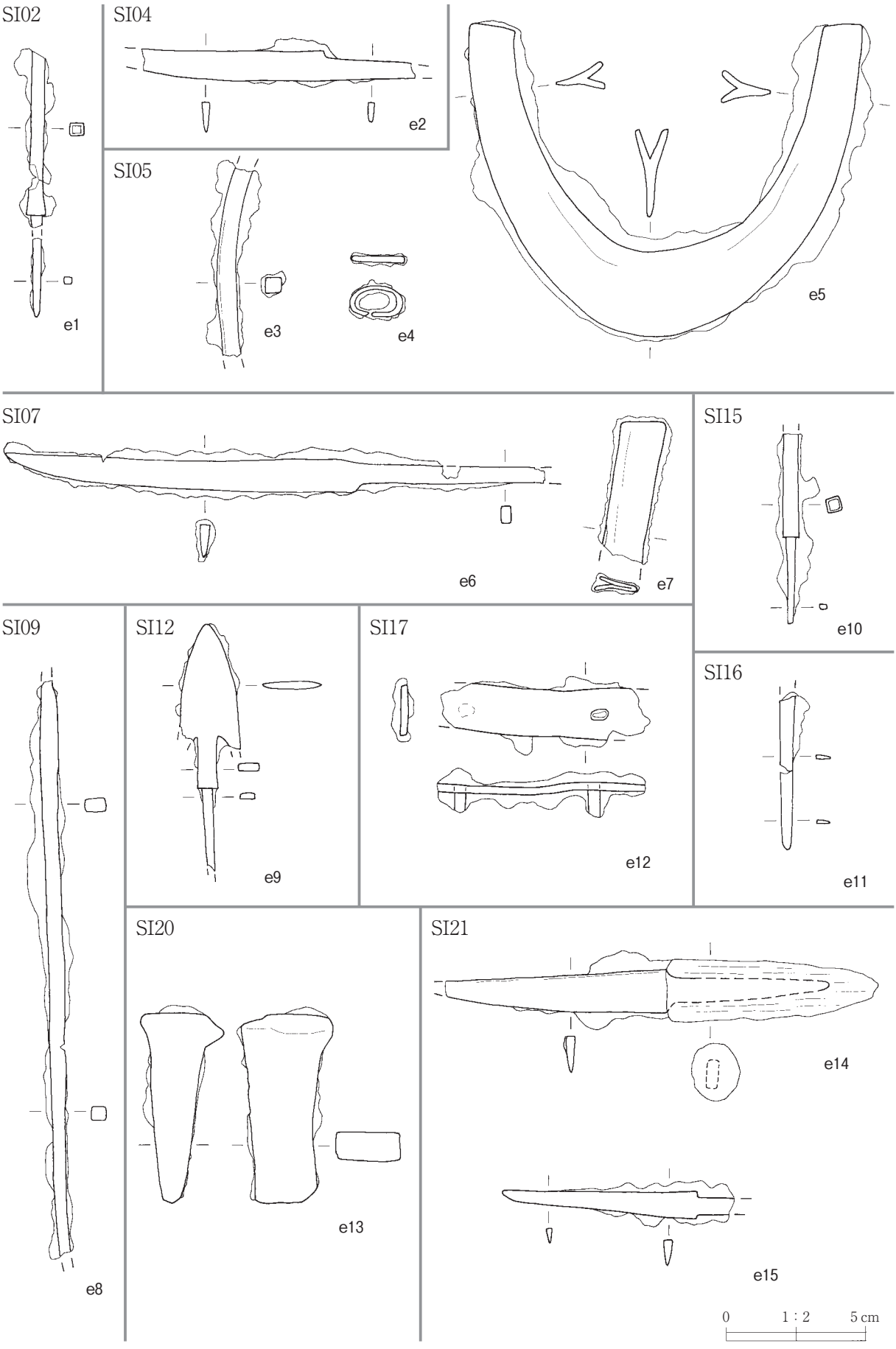
SI110



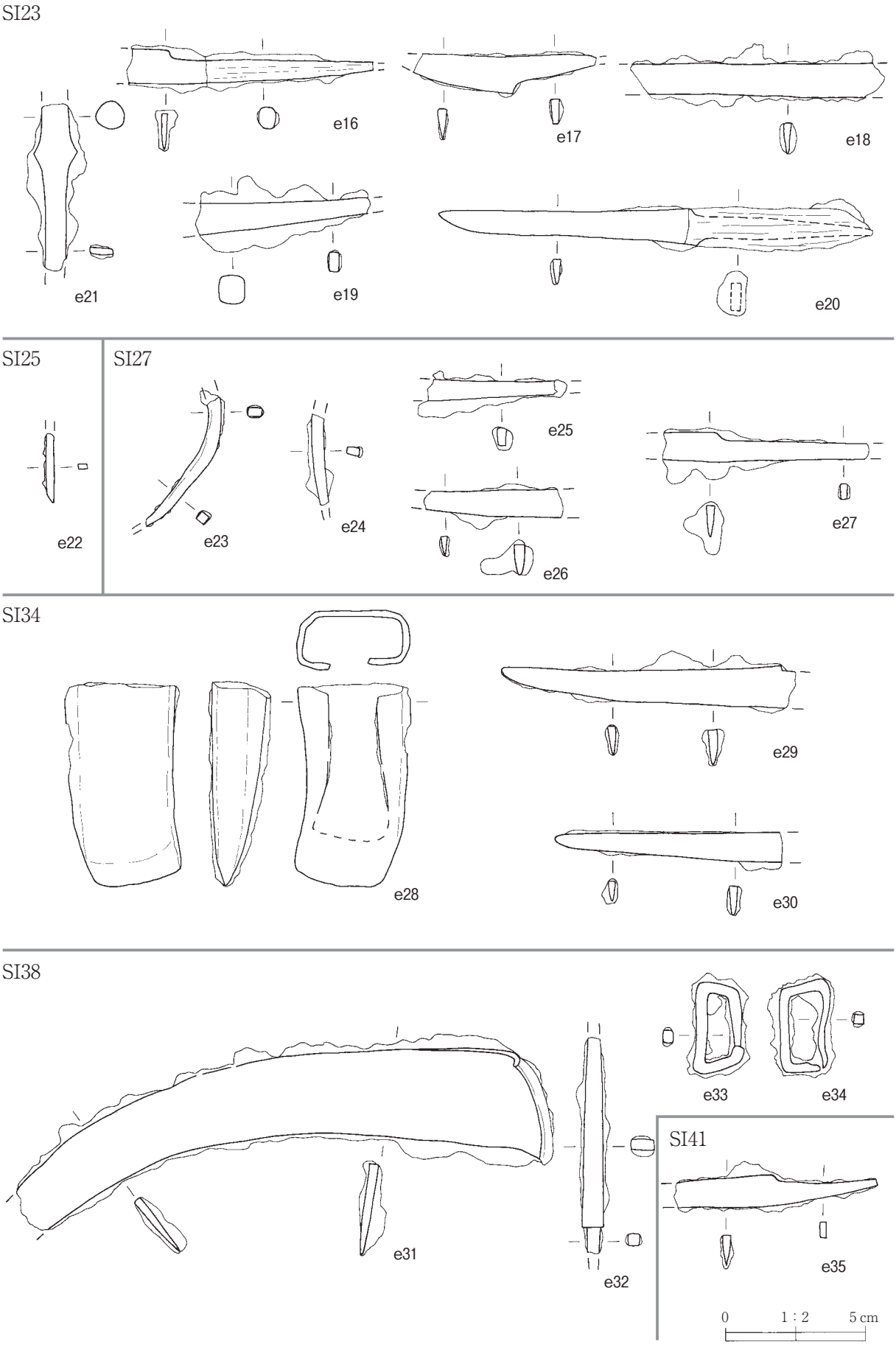
玉類　遺構外(2区)



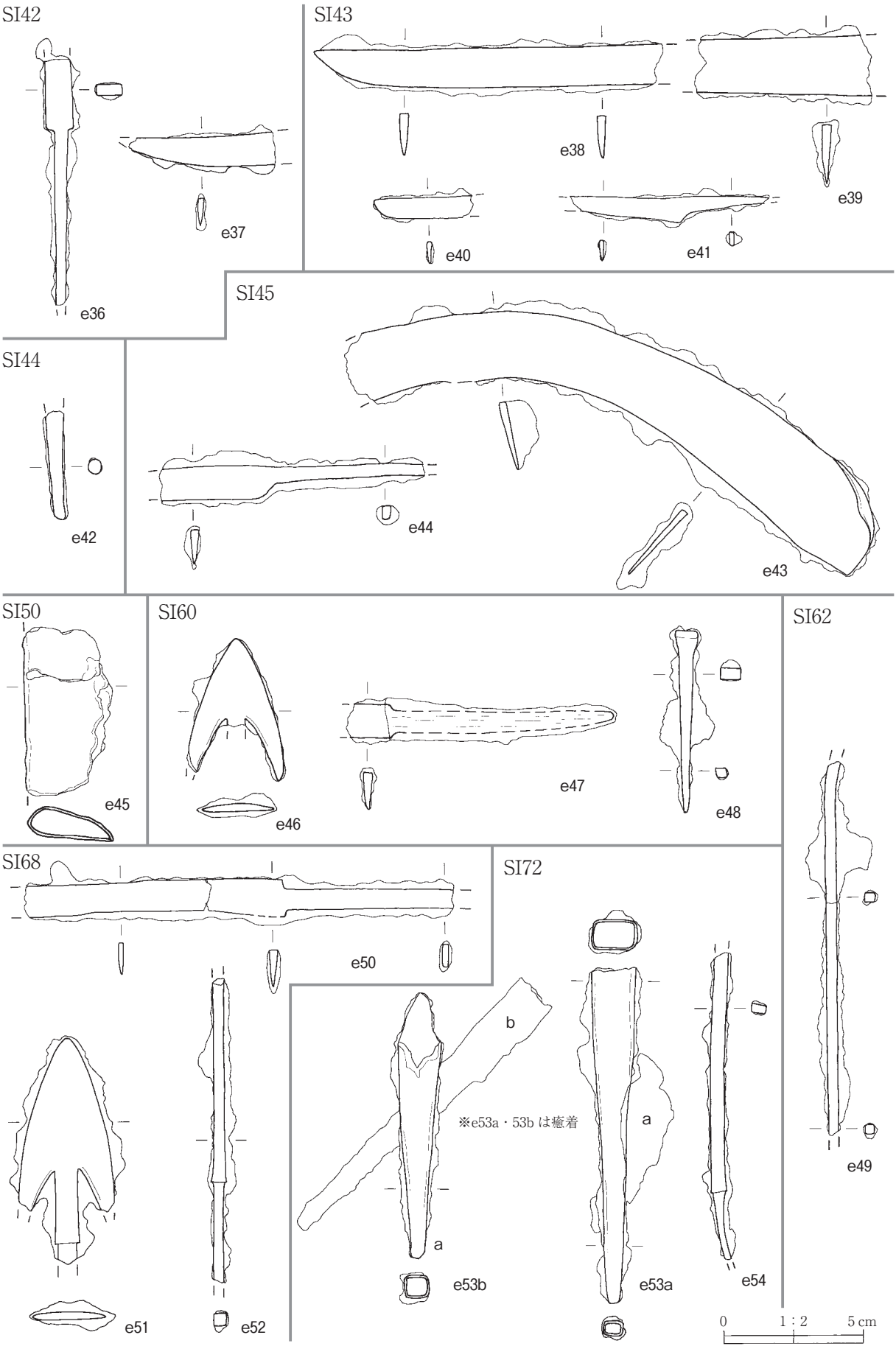
第 271 図　石器・石製品（10）


SI02
e1
SI04
e2
SI05
e3
e4
e5
SI07
e6
e7
SI15
e10
SI09
e8
SI12
e9
SI17
e12
SI16
e11
SI20
e13
SI21
e14
e15
0 1：2 5cm

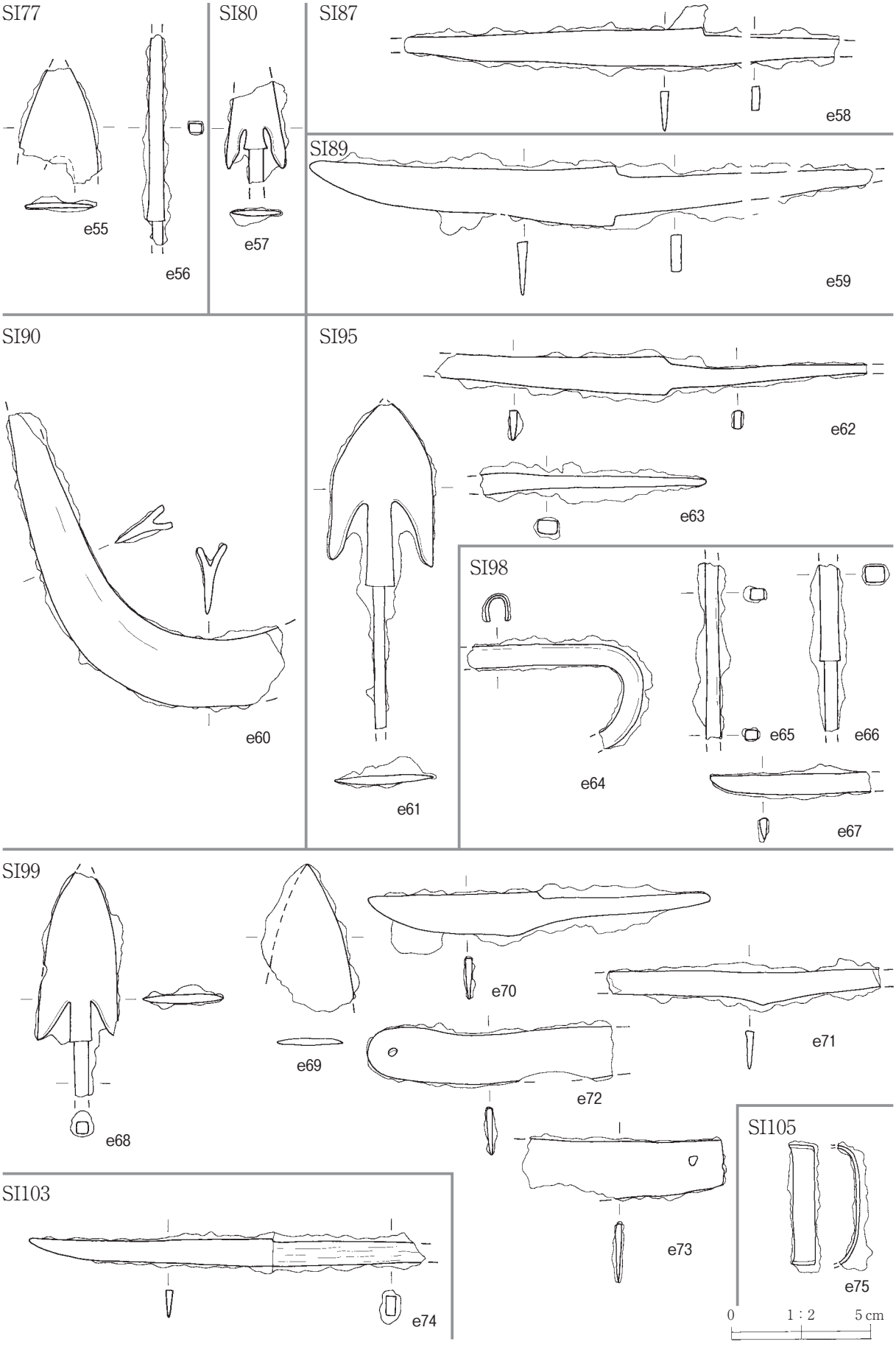
第 272 図　金属製品（1）


SI23
e16
e17
e18
e21
e19
e20
SI25
SI27
e22
e23
e24
e25
e26
e27
SI34
e28
e29
e30
SI38
e31
e32
e33
e34
SI41
e35
0
1：2
5cm

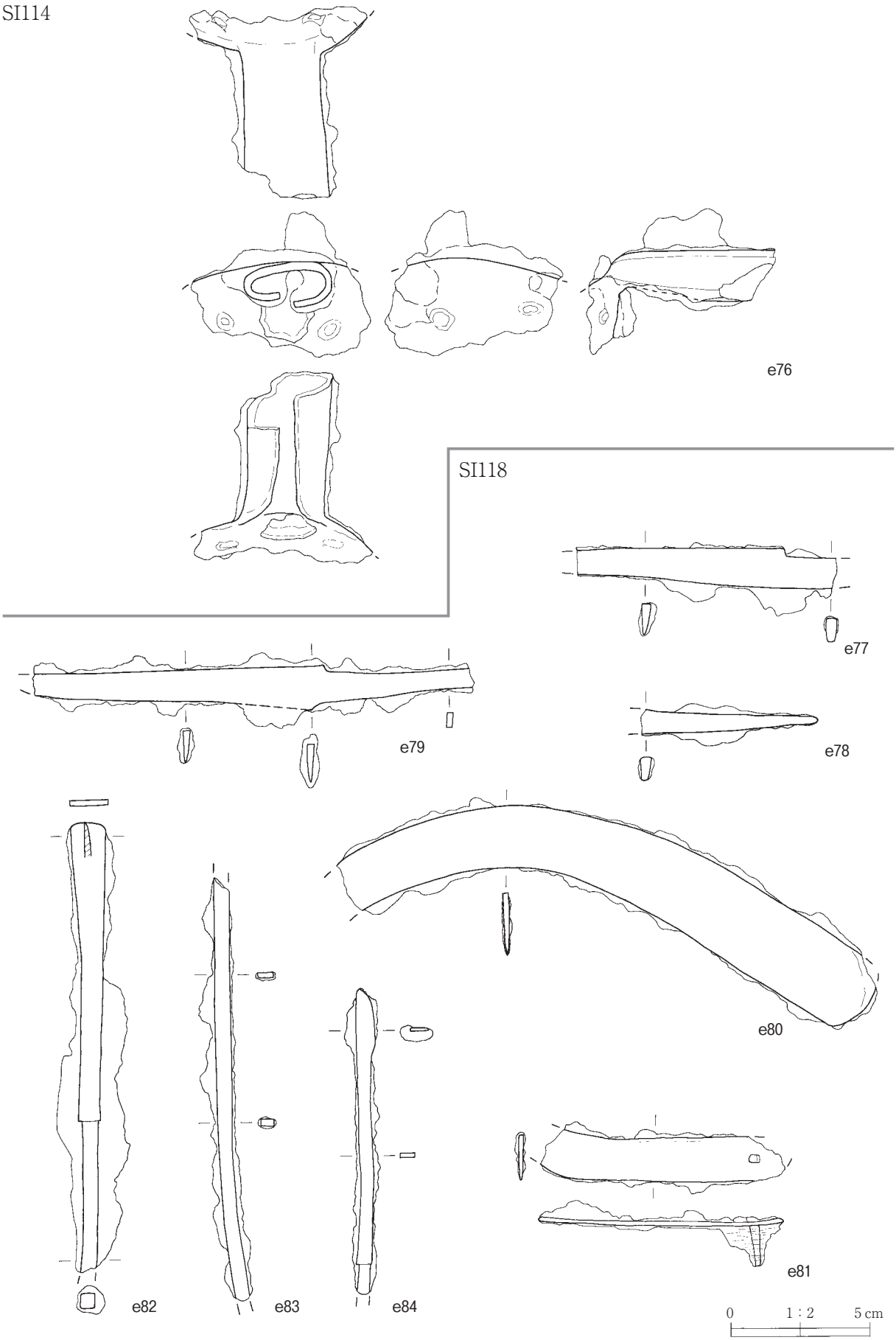
第 273 図　金属製品（2）


SI42
e36
e37
SI43
e38
e39
e40
e41
SI45
e43
e44
SI44
e42
SI50
e45
SI60
e46
e47
e48
SI62
e49
SI68
e50
e51
e52
SI72
※e53a・53b は癒着
a
b
e53b
e53a
e54
0 1:2 5cm

第 274 図　金属製品（3）

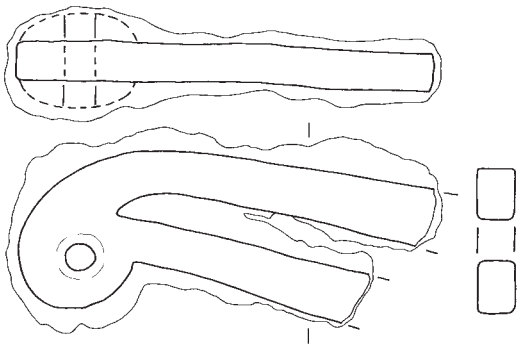

SI77
e55
e56
SI80
e57
SI87
e58
SI89
e59
SI90
e60
SI95
e61
e62
e63
SI98
e64
e65
e66
e67
SI99
e68
e69
e70
e71
e72
e73
SI103
e74
SI105
e75
0
1：2
5 cm

第 275 図　金属製品（4）



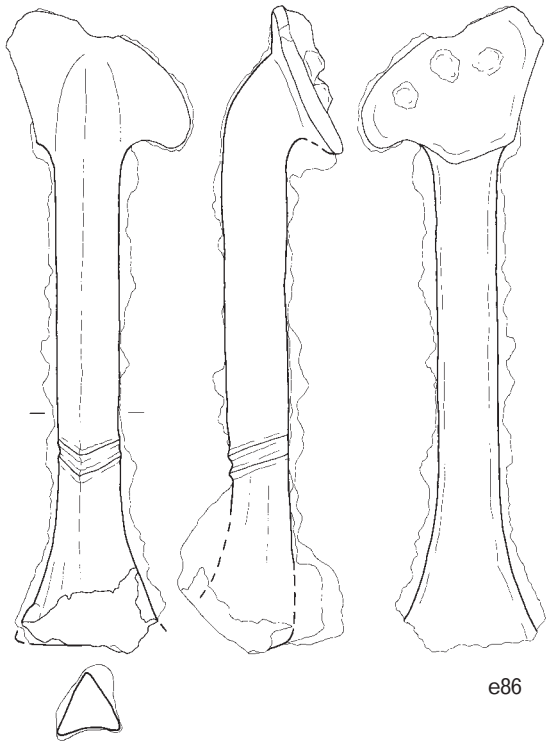
第 276 図　金属製品（5）

SI121

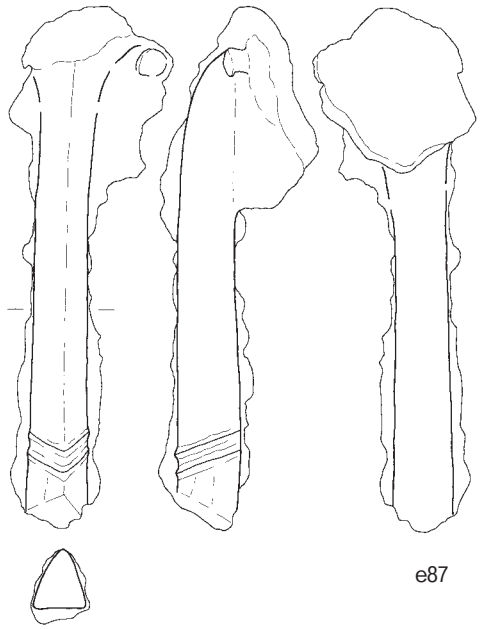


e85

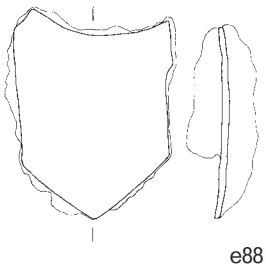
SI130



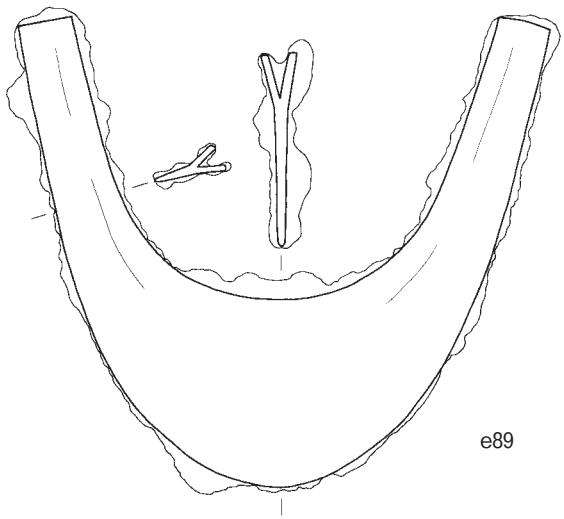
e86



e87



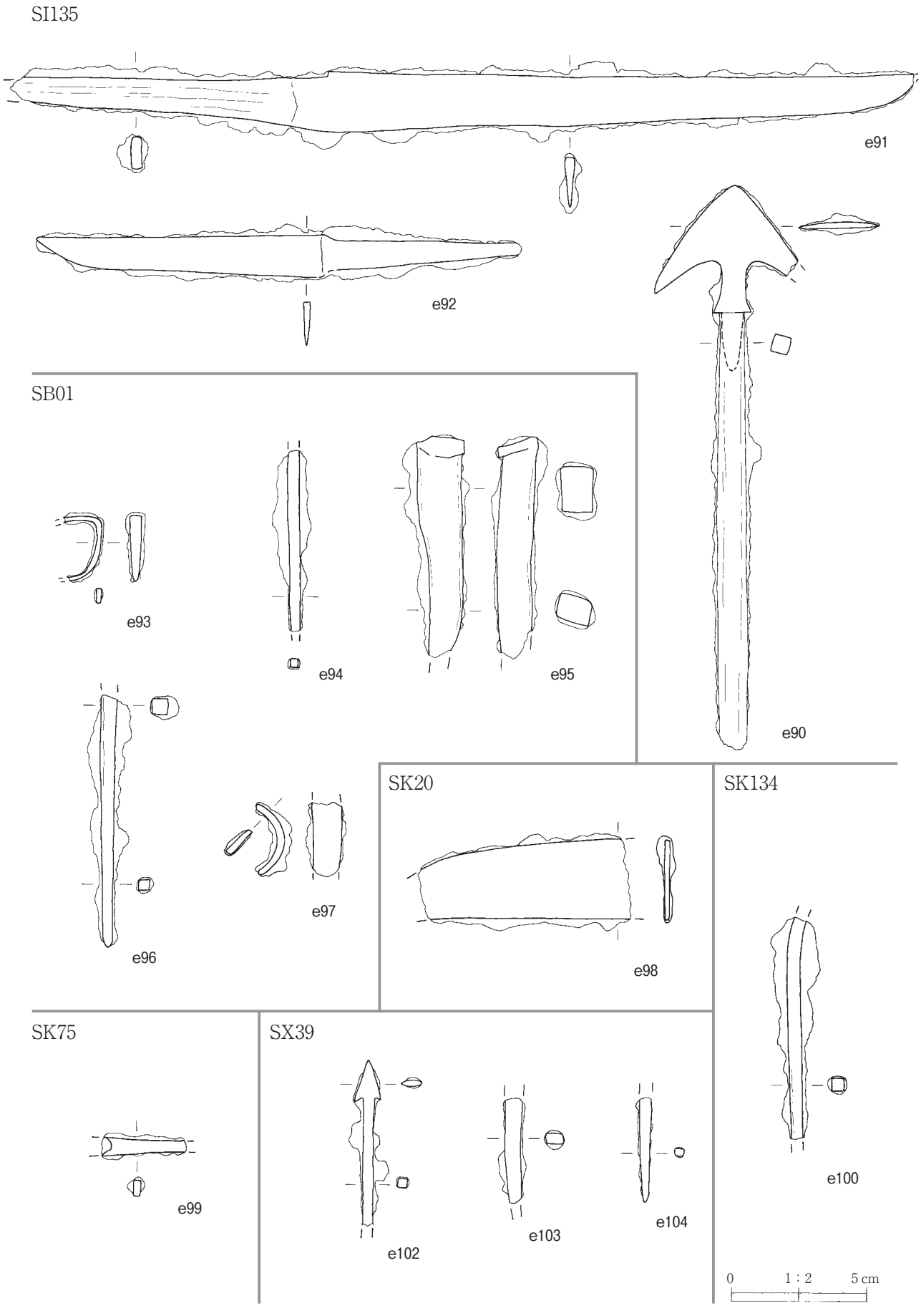
e88



e89

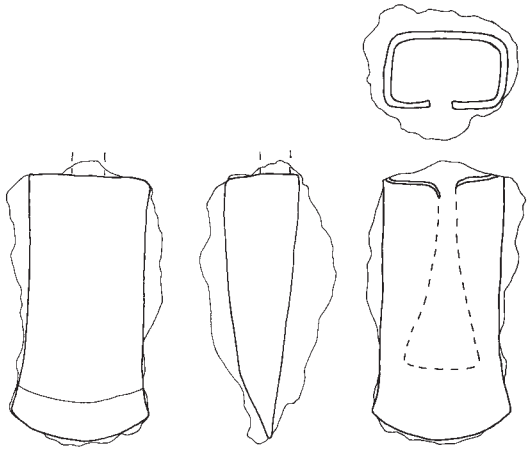
0　1：2　5cm

第 277 図　金属製品（6）


SI135
e91
e92
SB01
e90
e93
e94
e95
e96
e97
SK20
e98
SK134
e100
SK75
e99
SX39
e102
e103
e104
0
1：2
5 cm

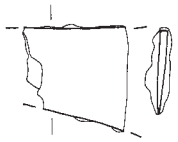
第 278 図　金属製品（7）

SK134



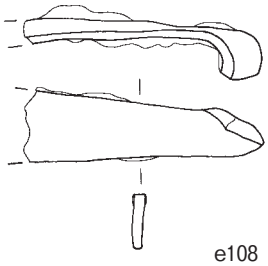
e101

SD04



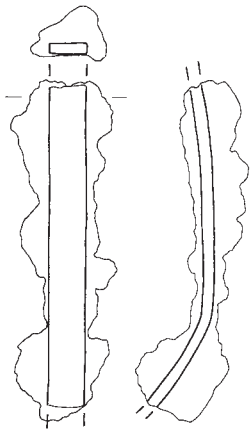
e105

P30



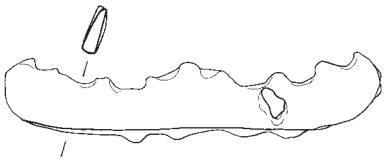
e108

SD18



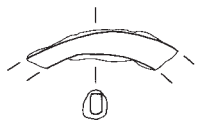
e106

P17



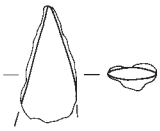
e107

P51



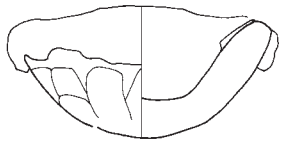
e109

P292



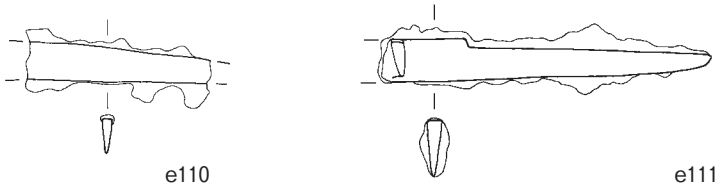
e112

SB01



I9

P129



e110

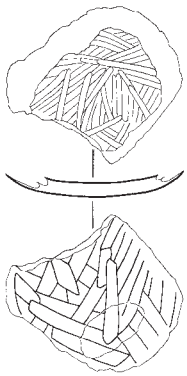
e111

分析 1

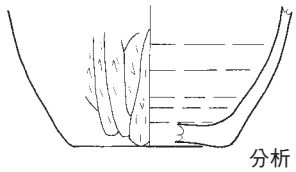
分析 2

分析 3

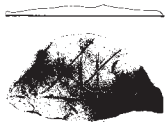
分析 6



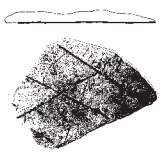
分析 4



分析 8



分析 5



分析 7

0　1：2　5 cm

※分析試料は S=1/4

第 279 図　金属製品（8）・その他・土器胎土分析試料

第 12 表　土師器・須恵器観察表（1）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a1	202	188	SI01	南西側掘り方埋土	土師器	—	坏	ＢⅠd1	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.0)	5.4	5.3	内黒
a2	202	188	SI01	南側周溝埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.8)	(6.2)	4.8	
a3	202	188	SI01	南西側埋土下位、南側周溝埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.5)	(5.4)	4.9	
a4	202	188	SI01	北西側埋土下位、北東側掘り方埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	5.4	5.0	
a5	202	188	SI01	Pit4 埋土、南側周溝埋土	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	16.0	—	—	
a6	202	188	SI01	Pit2 埋土、カマド内	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ	—	(26.0)	—	—	
a7	202	188	SI01	南側周溝埋土	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	—	(22.5)	—	—	
a8	202	188	SI01	南東側埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a9	202	188	SI01	Pit3 内Ｐ①	須恵器	—	壺	Ⅰ	体～底	ロクロ	ロクロ	ナデ→台	—	7.8	—	
a10	202	188	SI02	Pit5 埋土上位	土師器	—	坏	ＢⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(12.0)	5.8	6.7	内黒
a11	202	188	SI02	南東側埋土中位	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.8)	6.0	5.0	
a12	202	188	SI02	南西側埋土上位、南東側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.0	5.6	4.3	
a13	202	188	SI02	南西側壁面、南東・南西埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.2)	6.2	4.3	
a14	202	188	SI02	Pit5 埋土上位	土師器	—	甕	ＢⅢ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	—	5.5	—	
a15	202	188	SI02	カマド燃焼部・袖部、煙出し埋土中位	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	ナデ	23.0	9.3	25.5	
a16	202	188	SI02	南東側埋土上位	須恵器	—	壺	Ⅲ	体～底	叩き→ケズリ	ナデ	ナデ	—	6.8	—	
a17	202	188	SI02	3 層、Pit5 埋土、南西側埋土下位～床面	須恵器	—	甕	Ⅰ	a 体 b 体～底	叩き→ロクロ→ケズリ	ハケメ	ナデ	—	(12.8)	—	
a18	203	188	SI02	煙出し埋土中～下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a19	203	189	SI04	Pit4 内Ｐ②	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.6	6.2	4.3	内黒
a20	203	189	SI04	カマド崩落土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.2)	(6.7)	3.7	内黒
a21	203	189	SI04	Pit1 内Ｐ①	土師器	—	坏	ＢⅡd	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(12.6)	—	—	
a22	203	189	SI04	煙道埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.1	5.2	3.8	
a23	203	189	SI04	Pit5 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡd	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(13.2)	—	—	
a24	203	189	SI04	北側 4 層	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.2)	6.3	4.2	
a25	203	189	SI04	北西側埋土中位	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.5	6.2	4.8	
a26	203	189	SI04	南東側埋土中位、西側 2～3 層	土師器	—	高台坏	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	(14.5)	—	—	
a27	203	189	SI04	Pit1 内Ｐ③	土師器	—	高台坏	ＢⅡ	口～脚	ロクロ	ミガキ	回転糸切→台	13.8	7.9	6.1	内黒
a28	203	189	SI04	Pit1 内Ｐ④	土師器	—	高台坏	ＢⅡ	口～脚	ミガキ	ミガキ	回転糸切→台	14.9	8.1	5.4	両黒
a29	203	189	SI04	南東側埋土下位～床面、Pit25 埋土	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	10.5	7.0	11.7	
a30	203	189	SI04	北西側埋土中位	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	11.4	8.2	13.0	
a31	203	189	SI04	煙出し埋土、煙道埋土	土師器	—	甕	ＡⅠb	口～体	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ→ナデ	—	(23.3)	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（2）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a32	203	189	SI04	煙道埋土、カマド崩落土	土師器	—	甕	ＡＩｂ	口～体	ヨコナデ→ナデ→ミガキ	ヨコナデ→ナデ	—	(23.6)	(11.2)	27.2	
a33	203	189	SI04	南東側床面	土師器	—	小形土器	A	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	6.7	5.2	2.6	
a34	203	189	SI04	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a35	204	189	SI05	1 号カマド脇床面、Pit8 埋土	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.3	5.6	5.4	内黒
a36	204	189	SI05	1 号カマド燃焼部、2 号カマド煙出し	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.0)	5.8	4.6	内黒
a37	204	189	SI05	南東側埋土下位～床面	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切→縁辺手持ちヘラナデ再調整	(13.8)	6.0	4.8	内黒
a38	204	189	SI05	北東側 1 層	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.8	5.2	4.4	
a39	204	189	SI05	Pit15 埋土	須恵器	—	坏	c3	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	—	4.4	—	墨書あり「三」
a40	204	189	SI05	南西側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	5.6	4.6	
a41	204	189	SI05	2 号煙出し～煙道埋土	土師器	—	甕	ＢＩ	口～体	叩き→ロクロ	ロクロ→ナデ	—	—	—	—	
a42	204	189	SI05	2 号煙出し～煙道埋土	土師器	—	甕	ＢＩ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(21.6)	—	—	
a43	204	189	SI05	南東側　埋土下位～床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(10.0)	—	—	
a44	204	189	SI05	南西側埋土下位～床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(10.0)	(7.0)	10.5	
a45	204	189	SI05	Pit21 埋土上位	土師器	—	小形土器	B	体～底	ロクロ？	ロクロ？	回転糸切？	(4.6)	(4.4)	4.0	
a46	204	189	SI05	南西側埋土下位	土師器	—	小形土器	A	口～底	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	(8.0)	5.0	4.1	
a47	204	189	SI07	2 号カマド前床面、埋土下位	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(14.8)	7.2	4.7	内黒
a48	204	189	SI07	2 号カマド前床面	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(16.0)	6.0	5.4	内黒・墨書あり
a49	204	189	SI07	2 号カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.0)	5.0	4.1	内黒
a50	204	189	SI07	Pit4 埋土	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.0)	(7.0)	4.2	線刻「田」か「由」・内黒？
a51	204	189	SI07	北東側床面	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（摩耗）	(14.0)	6.0	4.4	内黒
a52	204	189	SI07	床面～掘り方埋土	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(15.0)	(6.0)	4.7	内黒
a53	204	189	SI07	Pit4 埋土	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	静止糸切	(12.2)	6.0	7.3	
a54	204	189	SI07	南東側カマド前床面、埋土下位	土師器	—	甕	ＡＩ	体～底	叩き→ケズリ	ナデ	砂付着	—	(8.0)	—	
a55	204	189	SI07	Pit4 埋土	土師器	—	甕	ＢＩ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	—	(23.6)	—	—	
a56	204	190	SI08	南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.4)	(5.6)	5.5	
a57	204	190	SI08	カマド内、埋土上位	土師器	—	塝	B	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ハケメ	ナデ	34.7	11.5	14.6	
a58	205	190	SI09	北東側埋土	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.1	5.7	5.4	内黒
a59	205	190	SI09	床面Ｐ⑧	土師器	—	坏	ＡⅡｂ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ	14.7	6.6	7.9	
a60	205	190	SI09	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.7)	5.4	4.0	
a61	205	190	SI09	煙出し埋土、床面Ｐ①	土師器	—	鉢	ＡＩｂ	口～体	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ→ナデ	—	(19.0)	—	—	
a62	205	190	SI09	南東隅床面Ｐ②～⑦	土師器	—	甕	ＢＩ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	ナデ	(21.0)	(8.0)	29.2	
a63	205	190	SI09	南西側埋土上位、南西側埋土下位、北西側床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a64	205	190	SI10	床面Ｐ④	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ヨコナデ・ケズリ（一部ミガキ）	ミガキ	ケズリ	11.5	—	3.9	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（3）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a65	205	190	SI10	南西側床面、南西側埋土上位	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ヨコナデ→ナデ→ミガキ	ミガキ	ナデ・ミガキ	(13.2)	—	5.4	内黒
a66	205	190	SI10	南西側埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡａ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ミガキ	ナデ	12.0	—	5.1	内黒
a67	205	190	SI10	北西側埋土上位	土師器	—	坏	ＢＩｃ3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.1	6.4	3.7	内黒
a68	205	190	SI10	北西側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.8)	7.2	4.7	
a69	205	190	SI10	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.3	6.6	4.5	
a70	205	190	SI10	北東・北西側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	17.5	8.2	6.5	
a71	205	190	SI10	埋土一括	土師器	—	鉢	A	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	両黒
a72	205	190	SI10	カマド内Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅢａ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ミガキ	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	木葉痕	15.7	7.6	21.6	
a73	205	190	SI10	カマド内Ｐ②	土師器	—	甕	ＡⅢａ	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ	14.7	7.5	16.1	
a74	205	190	SI10	カマド右袖Ｐ③	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～体	ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	—	17.0	—	—	
a75	206	190	SI10	床面Ｐ⑧	土師器	—	甕	ＡⅢａ	口～底	ヨコナデ・ケズリ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	14.1	8.4	19.6	
a76	206	191	SI10	床面Ｐ⑧	土師器	—	甕	ＡⅢａ	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	13.9	8.2	13.9	
a77	206	191	SI10	床面Ｐ⑦、北東側床面	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～体	ヨコナデ・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	17.3	—	—	
a78	206	191	SI10	煙出し埋土	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～体	ヨコナデ・ナデ（一部幅狭い）	ヨコナデ・ナデ	—	(18.8)	—	—	
a79	206	191	SI10	床面Ｐ⑥、Ｐ②	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～体	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	19.8	—	—	
a80	206	191	SI10	北西側埋土中位～下位、カマド内、カマド周辺	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ケズリ	19.7	10.0	30.7	
a81	206	191	SI10	北東側埋土上位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口～体	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	
a82	206	191	SI10	床面Ｐ⑤	土師器	—	甕	ＡⅢｂ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ（一部幅狭い）	ナデ	(19.4)	9.4	25.2	
a83	206	191	SI10	埋土上位	土師器	—	小形土器	A	口～底	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	(5.8)	—	4.1	
a84	206	191	SI10	北西側埋土上位	須恵器	—	壺	Ⅰ	体～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	ナデ→台	—	9.2	—	
a85	206	191	SI10	南西側埋土	須恵器	—	壺	Ⅲ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	—	(5.0)	—	
a86	207	191	SI11	Pit10 埋土	土師器	—	坏	ＢＩｃ3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.4)	(5.2)	5.0	内黒
a87	207	191	SI11	Pit1 埋土、北東側床面	土師器	—	坏	ＡⅡｂ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ハケメ・ナデ・ミガキ	ナデ・ケズリ	12.3	6.8	6.0	内黒
a88	207	191	SI11	2 層、南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅡｃ3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.0)	(7.4)	5.2	
a89	207	191	SI11	Pit10・Pit1 埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(14.0)	7.0	4.5	
a90	207	191	SI11	南東側埋土下半、南東側埋土上半	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(15.4)	6.0	5.3	ヘラ書き「十」
a91	207	191	SI11	Pit10 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	(5.8)	4.2	
a92	207	191	SI11	Pit10 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	5.2	4.0	
a93	207	191	SI11	Pit10 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.4)	6.0	3.7	
a94	207	191	SI11	南東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.4	6.2	4.2	
a95	207	191	SI11	南東側埋土上半	須恵器	—	蓋	b	つまみ～体	ロクロ	ロクロ	—	3.0	—	—	坏蓋
a96	207	191	SI11	Pit10 埋土	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(12.0)	—	—	
a97	207	192	SI11	Pit3 脇床面	土師器	—	鉢	ＡＩｂ	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	(19.8)	7.6	12.7	
a98	207	192	SI11	Pit1 埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	指おさえ	指おさえ	ユビナデ	3.7	2.3	2.5	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（4）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a99	207	192	SI11	南東側埋土下半	須恵器	—	壺	Ⅰ	頸～体	ロクロ→ケズリ→ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
a100	207	192	SI11	Pit1 埋土上位	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	叩き→ロクロ→ナデ	ロクロ	—	18.1	—	—	
a101	207	192	SI12	カマド内	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.3	5.0	4.9	内黒
a102	207	192	SI12	北東側埋土下位～床面	土師器	—	坏	BⅡd1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	（11.3）	5.6	5.5	
a103	207	192	SI12	埋土上位	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.8	5.4	4.6	内面線刻あり
a104	207	192	SI12	Pit1 埋土、カマド内	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	16.8	6.0	7.8	
a105	207	192	SI12	北東側埋土下位～床面	土師器	—	鉢	B	口～底	ロクロ→ケズリ	ミガキ	摩耗不明	16.3	7.2	13.2	内黒
a106	207	192	SI12	カマド燃焼部、北東側埋土下半	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.4）	7.4	15.4	
a107	207	192	SI12	西側埋土上位	須恵器	—	壺	Ⅲ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（7.4）	（4.6）	8.9	
a108	208	192	SI13	床面 P ②、南西側埋土下位	土師器	—	坏	BⅡd1	口～底	ロクロ	ロクロ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	13.2	6.2	4.7	
a109	208	192	SI13	東壁際床面	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ	13.4	—	5.5	内黒
a110	208	192	SI13	東壁際床面	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ケズリ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	ナデ	22.7	（9.4）	26.7	
a111	208	192	SI13	床面 P ③、南西側埋土下位	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ→ナデ	ハケメ	ナデ	（14.0）	（5.8）	11.3	
a112	208	192	SI13	3 層	須恵器	—	壺	Ⅲ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	—	8.0	—	
a113	208	192	SI15	床面 P ②	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ	13.6	7.7	7.8	内黒
a114	208	192	SI15	床面 P ⑤	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	—	—	5.0	両黒
a115	208	192	SI15	床面 P ⑧	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	11.4	—	4.0	内黒
a116	208	192	SI15	南西隅床面、Pit3 埋土	土師器	赤彩	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・一部ミガキ？（摩耗）	ミガキ	ナデ	（14.8）	—	7.6	内黒
a117	208	192	SI15	北東部床面	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	12.4	—	4.1	内黒
a118	208	192	SI15	北東側 1～2 層	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	（11.8）	—	4.0	内黒
a119	208	192	SI15	床面 P ②	土師器	—	鉢	AⅠa	口～体	ミガキ・ナデ	ミガキ	—	（23.4）	—	—	内黒
a120	208	192	SI15	床面 P ①、P ⑩	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	（16.6）	8.5	20.4	
a121	208	193	SI15	床面 P ③、P ⑦	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ（摩耗）	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	14.9	7.8	16.2	
a122	208	193	SI15	床面 P ④、P ⑥	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	20.6	—	—	
a123	208	193	SI15	床面 P ⑥、P ⑦	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	18.7	—	—	
a124	208	193	SI15	床面 P ⑨、P ④	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	（21.0）	—	—	
a125	208	193	SI15	床面 P ⑨	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	（18.8）	—	—	
a126	209	193	SI15	南東側埋土上半	土師器	赤彩	甕	AⅢb	体	ナデ・ミガキ	ハケメ	—	—	—	—	
a127	209	193	SI15	Pit8 埋土、南西側埋土下位	土師器	赤彩	甕	AⅢb	頸～体	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	口縁部に数本 1 組の装飾
a128	209	193	SI15	床面 P ④	土師器	—	小形土器	A	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	7.0	5.1	5.3	
a129	209	193	SI15	床面 P ④	土師器	—	小形土器	A	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ（摩耗）	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	10.3	6.4	7.7	
a130	209	193	SI15	北西側 1～3 層	土師器	—	小形土器	A	口～体	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	（9.8）	（6.0）	5.6	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（5）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a131	209	193	SI15	北東側床面上 5cm	土師器	—	小形土器	A	口～体	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	3.1	4.3	5.9	
a132	209	193	SI16	2 号カマド煙道、北東側埋土下位	土師器	—	坏	BIc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.8	5.2	4.6	内黒
a133	209	193	SI16	掘り方、東側 2 層	土師器	—	坏	BId3	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(12.9)	5.8	4.5	内黒
a134	209	193	SI16	東側 1 層	土師器	—	坏	BIc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.5	6.6	5.8	内黒
a135	209	193	SI16	東半埋土	土師器	—	坏	BIc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.0	7.0	4.3	内黒
a136	209	193	SI16	2 号カマド煙道、北東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.2)	(6.2)	3.8	
a137	209	193	SI16	南東側埋土下位、2 号カマド煙道埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.3	6.0	3.7	
a138	209	193	SI16	南東側埋土上位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.2)	7.0	3.5	
a139	209	193	SI16	南東側埋土下半	土師器	—	高台皿	BI	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）→台	13.8	—	—	内黒
a140	209	193	SI16	北西側埋土下半	土師器	—	鉢	AIa	体～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ	—	9.0	—	内黒
a141	209	193	SI16	北東側埋土下位、1 号カマド煙道埋土、2 号カマド周辺床面	土師器	—	甕	AII	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	16.4	7.7	12.5	
a142	209	193	SI16	北西側埋土下位	土師器	—	甕	AII	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(12.2)	6.7	9.6	
a143	209	193	SI16	西半埋土一括	土師器	赤彩	甕	AIIIb	体	ミガキ	ナデ	—	—	—	—	口縁部に数本 1 組の装飾
a144	209	193	SI17	カマド燃焼部	土師器	—	坏	BIc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(12.2)	(5.6)	5.1	内黒
a145	209	193	SI17	カマド右袖脇床面	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ・ケズリ（摩耗）	ミガキ（摩耗）	ケズリ（摩耗）	(12.2)	6.4	6.4	内黒
a146	209	193	SI17	北東側埋土下半	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.0	6.4	4.8	
a147	209	193	SI17	カマド右袖脇床面	須恵器	—	坏	c2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.5	5.8	5.3	
a148	209	193	SI17	北東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.7	6.0	4.6	
a149	209	193	SI17	北西側埋土上位	須恵器	—	双耳坏	b	口～脚	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	(11.4)	6.2	4.8	
a150	209	194	SI17	カマド左袖脇床面	土師器	—	甕	AII	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	13.7	8.4	13.4	
a151	209	194	SI17	南東側埋土上半	土師器	—	甕	AIa	口～体	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	(21.0)	—	—	
a152	209	194	SI17	南東側埋土上半	土師器	—	塝	B	口～体	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	20.0	—	—	
a153	210	194	SI19	南東側床面 P⑦	土師器	—	坏	AIa	口～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ	14.2	—	5.3	内黒
a154	210	194	SI19	南西側埋土上位	土師器	—	高坏	A	底～脚	—	ミガキ	ナデ	—	(9.0)	—	内黒
a155	210	194	SI19	床面 P①・P②	土師器	—	甕	AIa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ケズリ	17.8	8.4	28.3	
a156	210	194	SI19	南東側床面 P⑧・P⑯	土師器	—	甕	AIa	口～底	ヨコナデ・ケズリ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ケズリ	17.7	8.6	23.6	
a157	210	194	SI19	南東側床面 P⑨	土師器	—	甕	AIIIa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	13.8	6.7	16.0	
a158	210	194	SI19	南東側床面 P④	土師器	—	甕	AIIIb	口～体	ヨコナデ・ミガキ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	22.9	—	—	
a159	210	194	SI19	南東側床面 P⑤	土師器	赤彩	甕	AIIIb	頸～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	—	8.2	—	口縁部に数本 1 組の装飾巡る
a160	210	194	SI20	煙道埋土	土師器	—	坏	BId2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整の為切り離し技法不明	(12.4)	6.8	4.7	内黒
a161	210	195	SI20	カマド内	須恵器	—	坏	c1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.3	5.6	4.5	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（6）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a162	210	194	SI20	煙出し底面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.8	5.8	4.6	
a163	210	194	SI20	カマド左袖脇床面、Pit7 内 P③	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.6	5.4	4.1	体部・底部墨書あり「三」
a164	210	195	SI20	Pit7 内 P①	土師器	—	甕	BⅠ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ・ハケメ	ナデ	(23.8)	6.2	34.0	
a165	210	195	SI20	カマド内	土師器	—	甕	BⅠ	口～底	ロクロ（カキメ様）→ケズリ	ロクロ（カキメ様）・ハケメ	ナデ	(24.9)	(6.2)	34.6	
a166	210	195	SI20	北東側埋土上位	須恵器	—	壺	Ⅲ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	—	6.0	—	
a167	210	195	SI20	Pit7 内 P②	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	7.6	4.3	8.7	口唇～体部に 3 本の突帯巡る
a168	210	195	SI20	床面、Pit7 埋土	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(11.4)	6.0	7.5	
a169	211	195	SI21	南東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.8)	6.0	3.8	
a170	211	195	SI21	南東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	14.0	6.0	4.3	
a171	211	195	SI21	北西側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	(6.2)	4.2	
a172	211	195	SI21	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.3	5.7	4.2	
a173	211	195	SI21	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.3	5.7	6.0	
a174	211	195	SI21	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	c1	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切→縁辺手持ちヘラナデ再調整	(13.8)	6.4	4.1	
a175	211	195	SI21	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.0	6.2	4.4	
a176	211	195	SI21	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.0)	(6.0)	4.7	
a177	211	195	SI21	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.6)	(6.6)	4.6	
a178	211	195	SI21	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.6)	(6.4)	4.6	
a179	211	195	SI21	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	6.4	4.4	
a180	211	195	SI21	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.8)	6.4	4.0	
a181	211	195	SI21	南西側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	15.4	6.4	4.7	
a182	211	195	SI21	南東側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.9	7.3	4.1	
a183	211	195	SI21	北東側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.6	6.4	4.2	
a184	211	195	SI21	北西側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	16.4	6.4	6.3	
a185	211	195	SI21	南東側埋土上位	須恵器	—	蓋	b	つまみ～体	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
a186	211	195	SI21	カマド内、床面、掘り方下	土師器	—	甕	AⅡ	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ→ハケメ	—	(20.0)	—	—	
a187	211	195	SI21	Pit8 埋土	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	21.0	9.0	28.0	
a188	211	195	SI21	Pit8 埋土	土師器	—	甕	BⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	23.1	—	—	
a189	211	195	SI21	Pit8 埋土	須恵器	—	壺	Ⅲ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(8.6)	—	—	外面焼け弾けあり
a190	211	195	SI21	Pit4 埋土、北西側床面	須恵器	—	壺	Ⅲ	体	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
a191	211	195	SI21	煙出し埋土下部	須恵器	—	壺	Ⅱ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(9.2)	—	—	
a192	211	196	SI21	煙出し埋土下部	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(11.6)	—	—	
a193	211	196	SI21	Pit8 埋土、床面	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(16.0)	—	—	
a194	211	196	SI21	南東側埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅱ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(12.4)	—	—	
a195	211	196	SI21	北西側床面	土師器	—	小形土器	A	口～底	ユビナデ	ユビナデ	ユビナデ	4.1	3.0	2.0	
a196	211	196	SI21	床面	土師器	—	小形土器	A	口～底	ユビナデ	ハケメ	ナデ	(7.4)	4.0	6.3	
a197	212	196	SI22	Pit6 埋土	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	摩耗不明	15.4	8.4	5.0	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（7）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a198	212	196	SI22	カマド支脚	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.6	6.4	4.2	
a199	212	196	SI22	カマド内、カマド周辺、埋土下位	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.0)	5.6	2.9	内黒？
a200	212	196	SI22	南東側床面、南東側埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.2)	7.8	4.5	
a201	212	196	SI22	南東側埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.8)	(7.6)	3.8	
a202	212	196	SI22	南東・北側床面	土師器	—	Ⅲ	B	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	10.8	4.7	1.6	
a203	212	196	SI22	カマド内、Pit6、埋土下位	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	(14.6)	(9.8)	12.3	
a204	212	196	SI22	煙道埋土	土師器	赤彩	壺	A	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	
a205	212	196	SI22	カマド内、埋土下位	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	15.7	7.8	14.6	
a206	212	196	SI23	Pit11 埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.8	6.0	4.9	内黒
a207	212	196	SI23	南西側床面	土師器	—	坏	AⅡ	口～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	—	(11.4)	—	—	内黒
a208	212	196	SI23	南西側埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.4	6.4	5.0	内黒
a209	212	196	SI23	南西側埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切→ミガキ	(14.5)	(6.0)	6.8	内黒
a210	212	196	SI23	南西側埋土	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.6	6.0	4.2	内黒
a211	212	196	SI23	カマド周辺床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.7)	6.5	3.3	
a212	212	196	SI23	Pit20 埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.6)	6.0	3.6	
a213	212	196	SI23	Pit20 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.0)	6.2	4.3	
a214	212	196	SI23	北東側床面、Pit2 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	5.8	4.1	
a215	212	196	SI23	南東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	6.5	4.4	
a216	212	196	SI23	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	12.8	7.2	3.5	
a217	212	196	SI23	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.2)	(7.6)	3.7	
a218	212	196	SI23	南西側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.3)	6.2	4.8	
a219	212	196	SI23	南東側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.9	5.7	4.3	
a220	212	196	SI23	北西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.4)	(6.1)	4.7	
a221	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.4)	(5.9)	4.8	
a222	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	15.5	(6.2)	3.9	
a223	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.2	5.4	4.4	
a224	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.4	5.8	4.6	
a225	212	196	SI23	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.5)	5.2	4.8	
a226	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.9	5.9	4.6	
a227	212	196	SI23	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.8)	(5.8)	4.9	
a228	212	196	SI23	北西側埋土埋土	須恵器	—	蓋	b	体	ロクロ	ロクロ	—	(15.0)	(7.0)	2.2	
a229	212	196	SI23	北東側埋土下位、床面	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ	—	22.2	—	—	
a230	212	197	SI23	Pit1 埋土、北東側床面	土師器	赤彩	甕	AⅢb	体	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ハケメ・ナデ	—	—	—	—	
a231	212	197	SI23	南西側埋土	土師器	—	小形土器	B	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	—	4.6	—	
a232	212	197	SI23	埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	ナデ？	ミガキ	摩耗	(8.2)	(5.0)	3.7	内黒・器面摩耗
a233	213	197	SI23	カマド周辺床面、Pit1 埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（8）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a234	213	197	SI24	南西側埋土中位	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ・ケズリ	14.2	—	4.9	内黒
a235	213	197	SI24	Pit7 埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.8)	(6.0)	4.6	内黒
a236	213	197	SI24	北東側床面	須恵器	—	坏	b1	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切→縁辺手持ちヘラケズリ再調整	(15.2)	7.8	4.4	内外火襷痕、底部篦書「十」
a237	213	197	SI24	南西側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.7	5.6	4.6	
a238	213	197	SI24	Pit7 埋土下位	土師器	—	鉢	ＡⅠa	口～体	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	—	(23.6)	—	—	内黒
a239	213	197	SI25	カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ（摩耗）	ミガキ	ナデ・ケズリ	(11.5)	(6.2)	3.6	内黒
a240	213	197	SI25	カマド前Ｐ①	土師器	—	坏	ＡⅡa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	11.9	—	3.5	両黒
a241	213	197	SI25	Pit3 埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・・ケズリ・一部ミガキ（摩耗）	ミガキ	ナデ・ケズリ	(10.0)	5.2	4.1	内黒
a242	213	197	SI25	Pit3 埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ（摩耗）	ミガキ	ナデ・ケズリ	(14.8)	(7.8)	4.9	内黒
a243	213	197	SI25	Pit3 埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	11.2	5.8	4.7	両黒
a244	213	197	SI25	南西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～体	ミガキ？（摩耗）	ミガキ	摩耗	(11.4)	—	2.3	内黒
a245	213	197	SI25	北東側埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	(12.4)	(8.0)	3.4	両黒
a246	213	197	SI25	南西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ミガキ	ミガキ	ナデ・ケズリ	(12.4)	—	3.3	両黒
a247	213	197	SI25	北東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	6.3	4.1	
a248	213	197	SI25	北東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	6.0	4.2	
a249	213	197	SI25	Pit3 埋土上位	須恵器	—	高台坏	b	口～脚	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	(13.5)	(8.6)	5.2	
a250	213	197	SI25	Pit3 埋土上位、北西側埋土	土師器	—	鉢	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	(16.4)	—	—	内黒
a251	213	197	SI25	カマド支脚Ｐ②	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(16.0)	(7.6)	(13.8)	
a252	213	197	SI25	カマド左袖芯材（手前）Ｐ③、北東側床面	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	20.6	9.1	32.5	
a253	214	197	SI25	カマド右袖芯材（手前）Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	21.8	—	—	
a254	214	197	SI25	カマド左袖芯材（奥）Ｐ⑤	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	21.3	9.3	29.7	
a255	214	198	SI25	カマド右袖芯材（奥）Ｐ⑥	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	23.6	9.5	31.0	
a256	214	198	SI25	Pit2・Pit3 埋土上位	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	(17.0)	9.7	15.3	
a257	214	198	SI25	Pit2・Pit3 埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ	26.9	9.3	29.7	
a258	214	198	SI25	Pit3 埋土	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	12.8	7.2	10.9	
a259	214	198	SI25	南壁際床面、カマド両袖部	土師器	—	甕	AⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	20.2	—	—	
a260	215	198	SI26	南半埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.4)	(5.2)	3.8	
a261	215	198	SI26	Pit2 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.7)	6.2	4.8	
a262	215	198	SI26	南半床面	土師器	—	高台皿	BⅡ	口～脚	ロクロ	ミガキ	摩耗不明→台	(13.2)	(7.2)	4.0	内黒
a263	215	198	SI26	6 層、カマド燃焼部	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	—	(17.4)	—	—	
a264	215	198	SI26	煙道埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ	ハケメ→ヨコナデ	木葉痕	19.0	10.0	27.5	
a265	215	198	SI27	北西側埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(14.2)	6.0	5.6	内黒
a266	215	198	SI27	1～5 層	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.8	7.1	4.3	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（9）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a267	215	198	SI27	南半埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（12.2）	（6.2）	4.2	内黒
a268	215	198	SI27	南半埋土上層	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（13.6）	（6.6）	4.4	内黒
a269	215	198	SI27	北半埋土	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.2）	（6.8）	4.2	
a270	215	198	SI27	南半埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（12.4）	（6.6）	3.5	
a271	215	198	SI27	1～5 層	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.0）	6.0	4.5	
a272	215	198	SI27	埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	15.7	6.8	4.5	
a273	215	198	SI27	南半埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（14.0）	（5.8）	3.6	
a274	215	198	SI27	北半埋土上半	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.5	6.0	3.8	
a275	215	198	SI27	南半埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.4）	7.0	3.7	
a276	215	199	SI27	南半埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.0）	6.8	4.7	
a277	215	199	SI27	南半埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（12.6）	7.0	3.6	
a278	215	199	SI27	南半埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.1	7.1	3.9	
a279	215	199	SI27	北半埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.4）	（6.0）	3.9	
a280	215	199	SI27	1～5 層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.0）	（6.4）	（4.3）	
a281	215	199	SI27	北西側埋土上位	土師器	—	高台坏	B	体～脚	ロクロ	ミガキ	摩耗不明→台	—	（6.6）	—	内黒　高台Ⅲの可能性もある
a282	215	199	SI27	南半上層	土師器	—	鉢	AⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	木葉痕	（24.0）	7.6	11.0	
a283	215	199	SI27	1～5 層	土師器	赤彩	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	23.0	—	—	口縁部に３本１組の装飾巡る
a284	215	199	SI28	カマドＰ③・Ｐ④	土師器	—	高台坏	BⅢ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切→台	（15.6）	—	—	
a285	215	199	SI28	床面Ｐ②、南西側掘り方埋土	土師器	—	甕	AⅠb	口～体	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	（22.6）	—	—	
a286	215	199	SI28	南西側掘り方埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a287	216	199	SI30	カマド袖部	土師器	—	Ⅲ	B	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り？）	（14.2）	（5.6）	2.9	
a288	216	199	SI31	掘り方埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ハケメ	ミガキ	ケズリ	（11.8）	—	4.5	両黒
a289	216	199	SI31 南半・SI32 北半	埋土（撹乱含む）	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ	（11.8）	—	4.5	両黒
a290	216	199	SI32	床面Ｐ①	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ	10.9	—	4.9	両黒
a291	216	199	SI33	Pit1 埋土、煙出し埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（14.0）	6.5	4.1	内黒
a292	216	199	SI33	床面Ｐ⑦	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.8	5.9	4.3	
a293	216	199	SI33	東側埋土～床面、掘り方埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.3	7.6	4.8	
a294	216	199	SI33	床面Ｐ③	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（12.8）	7.2	3.6	
a295	216	199	SI33	北東側床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.2）	（7.6）	3.5	
a296	216	199	SI33	北東側床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.8）	7.6	4.0	
a297	216	199	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ⑤	土師器	—	鉢	B	口～底	ロクロ→ミガキ	ミガキ	ナデ	（18.4）	（5.0）	10.6	内黒
a298	216	199	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ⑧	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り？）	10.6	5.0	10.7	
a299	216	199	SI33	カマド左袖脇床面Ｐ⑨、カマド内	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ケズリ	17.1	9.2	19.7	
a300	216	199	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ④	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	14.6	7.4	13.3	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（10）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a301	216	199	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ⑥	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ	ナデ	20.0	9.5	32.0	
a302	216	200	SI33	北東側床面	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	(18.4)	(9.6)	26.5	
a303	216	200	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ②	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	20.5	9.4	30.8	
a304	216	200	SI33	カマド右袖脇床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ハケメ・ケズリ・幅狭いナデ・ヨコナデ	ハケメ→ヨコナデ	ナデ・ケズリ	22.1	9.6	30.3	
a305	217	200	SI33	Pit1 埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き・ハケメ	当て具	—	—	—	—	
a306	217	200	SI34	カマド支脚Ｐ①	土師器	—	坏	ＡⅡｂ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	13.8	7.0	4.4	内黒
a307	217	200	SI34	北西側埋土上半	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	14.4	7.0	5.3	内黒
a308	217	200	SI34	埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（左回り？）	(12.8)	6.0	4.4	
a309	217	200	SI34	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.5)	(6.0)	3.8	
a310	217	200	SI34	南北側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.8)	6.8	4.3	
a311	217	200	SI34	北東側埋土上半	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.0)	(5.8)	4.3	
a312	217	200	SI34	埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切（方向不明）	13.6	7.0	4.6	
a313	217	200	SI34	南西側埋土上半	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.6)	6.4	3.8	
a314	217	200	SI34	カマド左袖Ｐ③	土師器	—	高台坏	Ａ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	11.7	6.8	5.2	内黒
a315	217	200	SI34	カマド右袖Ｐ②	土師器	—	高台皿	ＢⅡ	口～脚	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）→台	13.5	7.5	3.6	内黒
a316	217	200	SI34	カマド支脚Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ→線刻	ヨコナデ→ハケメ・ナデ	ナデ	(10.6)	6.0	6.6	口縁部鋸歯状の文様
a317	217	200	SI34	北東側埋土下位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢａ	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	(20.0)	—	—	口縁内面に指頭による列点装飾。口唇部にも赤彩。
a318	217	200	SI35	カマド内Ｐ①	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ナデ	11.0	—	4.0	両黒
a319	217	200	SI35	カマド内Ｐ③、掘り方埋土	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ケズリ・ナデ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	11.3	—	4.0	内黒
a320	217	200	SI35	2 層～床面、カマド内Ｐ③	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ケズリ・ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ・ケズリ	9.6	—	3.7	両黒
a321	217	200	SI36	Pit4 埋土、カマドＰ④、南西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ナデ・ケズリ	11.0	—	5.0	内黒
a322	217	200	SI36	南東側埋土	土師器	—	坏	ＡⅡｂ	口～底	ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ	(12.0)	(6.4)	5.1	内黒
a323	217	200	SI36	南西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ミガキ	ミガキ	ミガキ	(11.2)	—	3.9	両黒
a324	217	200	SI36	掘り方埋土	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ	(10.0)	—	4.4	内黒
a325	217	200	SI36	カマド脇床面Ｐ②、カマド内、煙道埋土	土師器	—	鉢	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	13.2	(6.0)	7.5	
a326	217	200	SI36	カマド脇床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(10.4)	7.0	7.5	
a327	217	200	SI36	中央床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	12.9	7.7	10.9	
a328	218	201	SI36	カマド内Ｐ③	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(19.4)	10.2	28.8	
a329	218	201	SI36	カマド内Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	16.8	10.0	28.3	内黒
a330	218	201	SI37	カマド内	土師器	—	坏	ＡⅠａ	口～底	ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	(12.8)	—	4.4	内黒
a331	218	201	SI37	南東側埋土上位	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.5	5.9	4.0	
a332	218	201	SI38	南東側床面Ｐ⑧	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.4	6.0	4.3	
a333	218	201	SI38	Pit1 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切（方向不明）	13.5	7.6	3.5	
a334	218	201	SI38	Pit1 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.7	6.1	3.8	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（11）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a335	218	201	SI38	南東側床面Ｐ⑨、南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	13.3	5.8	4.2	
a336	218	201	SI38	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切？	(13.1)	(7.2)	3.4	
a337	218	201	SI38	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切（方向不明）	14.0	7.0	3.6	
a338	218	201	SI38	検出時	須恵器	—	蓋	b	つまみ～体	ロクロ・回転ケズリ	ロクロ	—	—	—	—	
a339	218	201	SI38	北東側床面Ｐ①・Ｐ⑦	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ハケメ・ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	—	(22.4)	(9.6)	27.2	
a340	218	201	SI38	北東側床面Ｐ②	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	20.7	9.0	30.6	
a341	218	201	SI38	北東側床面Ｐ③・Ｐ②	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ハケメ・ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	19.0	9.5	33.2	
a342	219	201	SI38	北東側床面Ｐ④・Ｐ⑤	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ハケメ・ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	(18.4)	8.7	31.8	
a343	218	201	SI38	南東側埋土下位～床面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	体～底	ナデ・ミガキ	ナデ	ナデ	—	8.6	7.0	
a344	219	202	SI38	北西側埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a345	218	201	SI38	南東側床面Ｐ⑩	土師器	—	小形土器	Ａ	口～底	ナデ→ミガキ	ミガキ	ナデ→ミガキ	7.8	4.2	5.8	内黒
a346	218	201	SI38	北東側床面Ｐ⑪	土師器	—	小形土器	Ａ	口～底	指おさえ	指おさえ	ユビナデ	4.7	3.0	2.9	
a347	218	201	SI38	北東側カマド脇床面	土師器	—	小形土器	Ａ	口～底	ナデ	ナデ	ナデ	5.3	3.1	3.2	
a348	219	202	SI39	カマド前床面Ｐ③・Ｐ②	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.5	6.4	4.2	内黒
a349	219	202	SI39	南東側床面Ｐ④	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(13.0)	4.4	5.7	内黒
a350	219	202	SI39	南東側床面Ｐ③	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切（方向不明）	13.5	5.8	4.1	
a351	219	202	SI39	南東側Ｐ②	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.2)	5.0	3.9	
a352	219	202	SI39	カマド左袖芯材、床面Ｐ③、Pit5 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.4	6.3	4.7	
a353	219	202	SI39	南西側床面Ｐ⑤	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.9	6.4	4.4	
a354	219	202	SI39	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.4)	6.2	4.3	
a355	219	202	SI39	カマド右袖芯材、カマド内	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ハケメ・ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	20.8	(10.0)	27.8	
a356	219	202	SI39	南東側埋土	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～底	ハケメ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	(17.6)	9.0	27.2	
a357	219	202	SI40	北東側埋土中位～下位	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り？）	(15.2)	7.0	7.5	内黒
a358	219	202	SI40	北西側床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	11.3	6.4	6.5	
a359	219	202	SI40	南東側埋土上位	土師器	—	甕	ＡⅢａ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ミガキ	16.6	9.0	17.9	
a360	219	202	SI40	カマド周辺	須恵器	—	甕	Ⅲ	口～頸	ロクロ→篦描波状文	ロクロ	—	—	—	—	
a361	220	202	SI40	カマド周辺、北東側埋土中位～下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具		—	—	—	
a362	220	202	SI41	南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(12.0)	(5.4)	4.2	内黒
a363	220	202	SI41	南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(14.0)	5.4	5.7	内黒
a364	220	202	SI41	北東側床面、南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(16.4)	6.5	7.0	内黒
a365	220	202	SI41	南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.5)	6.0	6.6	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（12）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a366	220	202	SI41	北東側床面	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.4）	6.0	5.0	
a367	220	202	SI41	北東側１層	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.0	6.0	5.7	
a368	220	202	SI41	カマド燃焼部	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.1）	6.0	5.0	
a369	220	202	SI41	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.4）	6.0	4.0	
a370	220	202	SI41	カマド燃焼部、Pit4 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.5）	（5.6）	4.6	
a371	220	202	SI41	カマド燃焼部	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.4）	5.2	4.3	
a372	220	203	SI41	カマド上埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.2）	5.4	4.1	
a373	220	203	SI41	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（15.3）	6.2	6.4	
a374	220	203	SI41	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（14.6）	（6.8）	4.1	
a375	220	203	SI41	南東側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.3	6.0	4.5	
a376	220	203	SI41	南東側１層	土師器	—	鉢	B	体～底	ロクロ→ケズリ	ミガキ	—	—	（12.0）	—	内黒
a377	220	203	SI41	南東側埋土下位	土師器	—	甕	BⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ハケメ	—	（23.2）	—	—	
a378	220	203	SI41	北東側周溝・床面	土師器	—	塝	B	口～底	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ→ハケメ	ナデ	（40.1）	9.0	12.4	
a379	220	203	SI41	南東側１層	土師器	—	塝	B	口～底	ロクロ→ナデ・ケズリ	ロクロ・ナデ	ナデ	（41.0）	—	—	
a380	220	203	SI41	北西側埋土、南壁焼土下、床面	土師器	—	小形土器	A	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	8.7	4.4	4.9	
a381	221	203	SI42	北西側埋土	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（13.0）	5.6	5.7	内黒
a382	221	203	SI42	北東側床面Ｐ①、埋土下位	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（14.2）	5.8	5.5	内黒
a383	221	203	SI42	南東側隅床面	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	剥落	（14.2）	7.0	7.3	内黒
a384	221	203	SI42	北東側掘り方	土師器	—	坏	BⅠa2	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ミガキ	静止糸切	（13.0）	（5.6）	5.8	内黒
a385	221	203	SI42	北西側埋土	土師器	—	坏	BⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）→縁辺回転ケズリ	（13.0）	（5.5）	5.0	内黒
a386	221	203	SI42	カマド燃焼部、掘り方埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.4	6.2	5.7	内黒
a387	221	203	SI42	北西側埋土	土師器	—	坏	BⅡc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.4）	5.9	5.7	
a388	221	203	SI42	北西側埋土	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（12.2）	6.0	5.5	
a389	221	203	SI42	南西側掘り方埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（14.4）	（5.4）	3.7	
a390	221	203	SI42	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	a3	口～底	ロクロ	ロクロ	静止糸切	（14.0）	（6.2）	4.7	
a391	221	203	SI42	北東側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.8）	5.8	4.3	
a392	221	203	SI42	南東側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.5）	（6.2）	4.0	
a393	221	203	SI42	周溝埋土	土師器	—	鉢	AⅡ	口～底	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ→ナデ・ミガキ	ケズリ	（12.8）	（6.6）	6.8	内黒
a394	221	203	SI42	北東側埋土下位	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ナデ	16.4	（7.0）	15.5	
a395	221	203	SI42	南西側埋土	土師器		甕	BⅢ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	—	6.2	—	
a396	221	203	SI43	南側周溝埋土	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ	—	—	—	内黒
a397	221	203	SI43	北半１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（14.0）	（6.8）	4.2	
a398	221	203	SI43	床面Ｐ①	土師器	—	甕	AⅢa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ケズリ	（14.3）	9.4	22.2	
a399	221	203	SI43	北半１層	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ→ハケメ・ナデ	ヨコナデ→ハケメ・ナデ	ナデ	13.8	6.2	11.2	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（13）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a400	221	204	SI43	1 層	須恵器	—	甕	Ⅰ	頸～体	ロクロ→ナデ・ケズリ	ロクロ	—	—	—	—	
a401	222	204	SI44	Pit2 埋土	土師器	—	坏	BⅠd1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラナデ	ミガキ	手持ちヘラナデ再調整により切り離し技法不明	(14.4)	5.6	4.2	内黒
a402	222	204	SI44	南東側 1 層、1 号カマド周辺	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	15.9	6.3	5.0	内黒
a403	222	204	SI44	北東側 1 層	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.6)	(5.4)	4.7	内黒
a404	222	204	SI44	南東側掘り方埋土	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	(7.0)	4.4	
a405	222	204	SI44	Pit2 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.6	6.5	4.6	
a406	222	204	SI44	2 号煙出し埋土	土師器	—	甕	BⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(11.0)	—	—	
a407	222	204	SI44	Pit2 埋土	土師器	—	甕	BⅢ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(14.6)	—	—	
a408	222	204	SI44	2 号煙出し～煙道埋土	土師器	—	甕	BⅢ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	14.8	—	—	
a409	222	204	SI45	床面 P⑩・P⑦	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	(12.6)	(5.0)	5.0	内黒、底部線刻
a410	222	204	SI45	南東側 2 層目下部	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ケズリ	13.0	6.5	5.1	内黒
a411	222	204	SI45	南東側床面	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	13.8	6.9	4.2	内黒
a412	222	204	SI45	床面 P⑫、北西側 2 層	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ケズリ・ナデ	ミガキ	ケズリ	(12.3)	4.8	7.3	内黒
a413	222	204	SI45	北西側 2 層	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ	14.6	6.1	7.5	内黒
a414	222	204	SI45	南東側 2 層	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(12.6)	(7.2)	5.2	
a415	222	204	SI45	Pit2 埋土	土師器	—	坏	BⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.2)	6.5	5.1	内黒
a416	222	204	SI45	床面 P②	土師器	—	坏	BⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切→縁辺回転ケズリ	12.5	6.4	4.9	内黒
a417	222	204	SI45	床面 P⑦	土師器	—	坏	BⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.2)	6.4	—	内黒
a418	222	204	SI45	南東側 2 層	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.4)	(7.6)	4.7	内黒
a419	222	204	SI45	床面 P⑥	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.9)	7.4	5.2	
a420	222	204	SI45	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.3)	6.3	4.6	
a421	222	204	SI45	Pit2 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(15.2)	4.9	4.8	
a422	222	204	SI45	Pit12 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	(6.7)	4.9	
a423	222	204	SI45	Pit19 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(15.2)	(6.2)	5.2	
a424	222	204	SI45	南東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	(6.4)	4.1	
a425	222	204	SI45	北西側埋土 1 層、Pit1 埋土、床面 P①・P②	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	15.5	5.5	6.6	
a426	222	204	SI45	床面 P①	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	21.1	10.3	31.0	
a427	222	204	SI45	Pit2 埋土、床面 P②、P⑥	土師器	—	甕	BⅠ	口～底	ロクロ→ナデ・ケズリ	ロクロ→ハケメ	ナデ	20.6	6.8	31.7	
a428	223	205	SI45	床面 P③	土師器	—	甕	AⅡ	口～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	—	(20.0)	—	—	
a429	223	205	SI45	床面 P⑥・P⑦	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	14.4	8.1	13.8	
a430	223	205	SI45	床面 P⑤・P④・P⑦	須恵器	—	甕	Ⅰ	体～底	叩き→ケズリ	ナデ	叩き→ナデ	—	12.0	—	
a431	223	205	SI45	床面 P②	土師器	—	甕	BⅠ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	ナデ	19.8	8.6	23.9	
a432	223	205	SI45	南西側床面	土師器	—	小形土器	A	口～体	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(9.2)	—	—	
a433	223	205	SI45	1 号煙道埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	ケズリ	ナデ	ケズリ	(6.4)	(5.0)	3.5	
a434	223	205	SI45	南側周溝埋土	須恵器	—	壺	Ⅰ	口～頸	ロクロ	ロクロ	—	6.4	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（14）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a435	223	205	SI45	床面Ｐ⑪、北東側２層	須恵器	—	甕	Ⅲ	a 口～体 b 体～底	ヨコナデ・タタキ	ヨコナデ・当て具	ナデ	(23.0) —	— (15.0)	— —	
a436	223	205	SI46	床面Ｐ③	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.6	5.7	5.2	内黒
a437	223	205	SI46	Pit4 埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc1	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）→縁辺手持ちヘラケズリ再調整	14.8	5.4	5.3	内黒
a438	223	205	SI46	床面Ｐ④	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.6)	(5.0)	6.2	内黒
a439	223	205	SI46	床面Ｐ⑨	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（摩耗）	14.0	5.2	5.3	内黒
a440	223	205	SI46	南半埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.6)	6.0	4.3	
a441	223	205	SI46	カマド燃焼部上、南半埋土下位	土師器	—	鉢	ＡⅠb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ・ケズリ	(16.0)	8.9	11.4	
a442	223	205	SI46	床面Ｐ①②④⑥⑦⑧カマド周辺、Pit4 埋土	土師器	—	甕	ＡⅢa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ナデ	18.5	9.0	25.3	
a443	223	205	SI46	床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a444	224	205	SI49	Pit7 埋土、カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＢⅠc1	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切→手持ちヘラケズリ再調整	(14.9)	(7.0)	5.6	内黒
a445	224	205	SI49	Pit1 埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.6	6.8	5.9	内黒
a446	224	205	SI49	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.2	6.4	3.7	
a447	224	205	SI49	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.7	5.8	3.8	
a448	224	205	SI49	床面Ｐ⑧・Ｐ⑩、カマド燃焼部	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	ナデ	22.4	10.0	24.7	
a449	224	205	SI49	床面Ｐ④	土師器	—	塝	B	口～体	ロクロ（カキメ様）→ハケメ	ロクロ→ナデ	—	(26.0)	—	—	
a450	224	206	SI49	Ｐ⑥・Ｐ⑪	須恵器	—	甕	Ⅰ	頸～体	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ（カキメ様）→ハケメ	—	—	—	—	
a451	224	206	SI49	床面Ｐ⑤、Pit1 埋土、煙道埋土	須恵器	—	壺	Ⅰ	体～底	ロクロ	ロクロ	ナデ→台	—	7.8	—	
a452	224	206	SI49	煙出し埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a453	224	206	SI49	床面Ｐ②	須恵器	—	甕	Ⅲ	体～底	叩き	当て具	ケズリ	—	—	—	
a454	225	206	SI50	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.2)	(6.4)	4.2	
a455	225	206	SI50	床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	(11.3)	5.0	7.5	
a456	225	206	SI50	煙道埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(19.6)	—	—	口縁部 4～5 本 1 組の装飾巡る
a457	225	206	SI51	南壁際床面	土師器	—	坏	ＢⅠd1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	13.7	5.4	4.8	内黒
a458	225	206	SI51	南壁際床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.2)	(6.2)	4.3	
a459	225	206	SI51	南壁際床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.3	5.3	4.4	
a460	225	206	SI51	南東側掘り方埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.7)	5.0	5.3	
a461	225	206	SI54	北西側埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.0)	6.0	5.5	内黒
a462	225	206	SI54	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.6)	(6.8)	5.6	
a463	225	206	SI54	床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅢa	口～底	ハケメ・ナデ・ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ	18.6	10.1	28.7	
a464	225	207	SI54	カマド燃焼部、支脚	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～底	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	ナデ	(24.0)	(6.4)	40.3	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（15）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a465	225	207	SI54	床面Ｐ②	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	静止糸切	16.7	6.4	13.6	
a466	225	207	SI54	Pit1 埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢｂ	口～体	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	口縁部３～４本１組の装飾巡る
a467	225	207	SI55	南西側埋土上位	土師器	—	坏	ＢＩｄ	口～底	ロクロ	ミガキ	摩耗	(14.0)	(6.8)	4.9	内黒
a468	225	207	SI55	南西側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.8)	7.2	5.1	
a469	225	207	SI55	北西側埋土中位～下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	6.0	4.5	
a470	225	207	SI55	南西側埋土中位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.8)	(6.4)	4.7	
a471	226	207	SI56	西壁際床面土器集中	土師器	—	甕	ＡＩａ	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	—	22.1	—	—	
a472	226	207	SI58	埋土下位～床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ヨコナデ・ナデ	剥落	(15.0)	—	—	
a473	226	207	SI59	Pit2 埋土	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.6	5.8	4.7	内黒
a474	226	207	SI59	南東側埋土下位～床面	土師器	—	坏	ＢＩc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切→縁辺手持ちヘラケズリ再調整	(14.4)	(6.4)	6.0	内黒
a475	226	207	SI59	Pit6 埋土	土師器	—	坏	ＢＩｄ	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.3)	(6.6)	5.3	内黒
a476	226	207	SI59	北西側埋土下位～床面	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(13.0)	(6.6)	5.1	内黒
a477	226	207	SI59	北西側埋土下位～床面	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ（摩耗）	ミガキ	回転糸切（摩耗）	(12.6)	(6.0)	5.0	内黒
a478	226	207	SI59	Pit3 埋土	土師器	—	坏	ＢＩd1	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.6)	6.5	5.0	内黒
a479	226	207	SI59	南東側埋土下位	土師器	赤彩	坏	ＡＩ	体～底	ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	内黒
a480	226	207	SI59	北東側埋土下位	土師器		坏	ＢⅡc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	(6.8)	4.9	
a481	226	207	SI59	南東側埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.4)	(5.8)	4.8	
a482	226	207	SI59	北東側埋土下位、床面	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.9)	6.7	4.1	
a483	226	207	SI59	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(15.4)	(5.2)	6.9	
a484	226	207	SI59	Pit3 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.3)	(5.9)	5.6	
a485	226	207	SI59	Pit3 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	(6.0)	4.0	
a486	226	207	SI59	北西側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.3	5.5	5.4	
a487	226	207	SI59	粘土①の下、埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.0)	(5.6)	4.7	
a488	226	207	SI59	北東側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.8)	5.7	4.6	
a489	226	207	SI59	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	6.4	5.0	
a490	226	207	SI59	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(15.0)	5.5	4.4	
a491	226	207	SI59	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	(5.4)	5.6	
a492	226	207	SI59	北東側埋土下位、粘土①の下、床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(7.0)	5.2	5.1	
a493	226	207	SI59	北東側埋土下位	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(10.6)	5.5	6.3	
a494	226	207	SI59	北東側埋土下位	土師器	—	坏	ＡⅡａ	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	(11.4)	—	—	
a495	226	207	SI59	北東側埋土下位	土師器	—	甕	ＢⅢ	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	—	—	—	体部鋸歯状の文様
a496	226	208	SI60	検出面	土師器	—	鉢	Ｂ	口～体	ロクロ→ケズリ	ミガキ	—	(27.0)	—	—	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（16）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a497	226	208	SI60	北西側埋土下位～床面、カマド周辺床面、カマド内	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	16.5	8.1	17.9	
a498	226	208	SI60	北東側床面 P①	土師器	赤彩	甕	AⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	—	17.4	—	—	口縁部 3 本 1 組の装飾が 10 単位巡る
a499	227	208	SI61	カマド支脚 P②	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.6)	6.2	4.3	
a500	227	208	SI61	カマド支脚 P③	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.1	6.4	4.8	
a501	227	208	SI61	北東隅床面	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(15.7)	7.8	5.6	内黒
a502	227	208	SI61	北西側埋土下位	土師器	—	坏	BⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整のため底部切り離し技法不明	14.6	5.9	6.9	内黒
a503	227	208	SI61	北西側埋土下位	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	(18.0)	7.0	7.8	内黒
a504	227	208	SI61	北西側埋土	土師器	—	坏	BⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整のため底部切り離し技法不明	(12.4)	5.4	5.0	内黒
a505	227	208	SI61	南西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.0)	6.0	5.5	
a506	227	208	SI61	カマド燃焼部、支脚 P①	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	6.0	5.8	
a507	227	208	SI61	北東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	15.2	6.2	5.9	
a508	227	208	SI61	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.8	5.9	4.5	
a509	227	208	SI61	北西側埋土	須恵器	—	坏	c1	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）→縁辺狭い幅で手持ちヘラケズリ	14.7	6.7	6.2	
a510	227	208	SI61	北西側埋土	須恵器	—	壺	Ⅲ	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(9.0)	7.0	10.3	底部穿孔あり
a511	227	208	SI62	埋土一括	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（左回り）	(15.2)	6.4	5.0	
a512	227	208	SI62	埋土一括	土師器	—	高台皿	BⅠ	口～脚	ロクロ	ミガキ	切り離し不明→台	(13.2)	(7.0)	4.2	内黒
a513	227	208	SI63	カマド内	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	剥落	(14.8)	6.8	6.5	
a514	227	208	SI63	北西側埋土上位	土師器	—	坏	BⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.0)	7.0	5.0	内黒
a515	227	208	SI63	Pit4 埋土	土師器	—	坏	BⅠd2	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.0)	7.0	5.4	内黒
a516	227	208	SI63	北西側埋土上位	土師器	—	坏	BⅡc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切→回転ケズリ再調整	12.7	6.0	5.4	
a517	227	208	SI63	南東側埋土上位	土師器	—	坏	BⅡc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切→回転ケズリ再調整	16.7	7.4	6.6	
a518	227	208	SI63	床面 P①	土師器	—	高台皿	BⅠ	口～脚	ロクロ	ミガキ	回転糸切→台	14.0	—	—	内黒
a519	227	208	SI63	周溝埋土、南東側埋土上位	土師器	—	甕	AⅡ	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(13.4)	8.4	10.1	
a520	227	208	SI63	南東側埋土上位	須恵器	—	甕	Ⅰ	体～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ・ナデ	ナデ	—	10.0	—	
a521	227	208	SI63	Pit4 埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ→ナデ	—	(9.4)	—	—	
a522	227	208	SI64	北東側床面	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(16.4)	(7.0)	12.9	
a523	227	208	SI64	北東側床面	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ→ミガキ	ヨコナデ・ハケメ→ミガキ	ナデ・ミガキ	(14.0)	(8.0)	13.0	
a524	227	208	SI66	周溝埋土	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ→一部ミガキ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.7)	5.4	5.6	内黒
a525	227	208	SI66	南東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	5.0	5.2	
a526	227	208	SI66	南東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(15.8)	5.2	5.9	
a527	228	208	SI67	埋土下位～床面	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.4	6.0	5.0	
a528	228	208	SI67	1 号カマド内	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.4)	5.0	4.0	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（17）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a529	228	208	SI67	東側埋土下位～床面、煙道埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.2）	5.9	4.0	
a530	228	208	SI67	北東側埋土	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ→ナデ	ロクロ→ナデ	—	（15.2）	—	—	
a531	228	209	SI67	Pit1 埋土、掘り方埋土、床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体～底	叩き	当て具・ナデ	叩き	—	—	—	
a532	228	209	SI68	北西側埋土	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	10.1	5.1	3.7	内黒
a533	228	209	SI68	北西側埋土	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	11.7	5.0	4.2	内黒
a534	228	209	SI68	南西側埋土	土師器	—	坏	AⅠb	体～底	ナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ミガキ	—	5.3	—	両黒
a535	228	209	SI68	南東側埋土	土師器	赤彩	坏	BⅡc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	回転糸切	15.8	5.4	4.4	底面朱書「十」
a536	228	209	SI68	南半埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.8	7.0	3.8	
a537	228	209	SI68	南西側埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.1	7.6	3.7	
a538	228	209	SI68	南半埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（14.0）	7.4	4.3	
a539	228	209	SI68	北西側埋土、煙道埋土	土師器	—	鉢	B	口～底	叩き→ロクロ（カキメ様）→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ	（33.2）	12.8	16.9	内黒
a540	228	209	SI68	南東側埋土	土師器	赤彩	鉢	AⅠb	口～底	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	ナデ・ケズリ	25.3	（12.6）	15.4	
a541	228	209	SI68	カマド支脚	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	17.3	（8.4）	16.4	
a542	228	209	SI68	南半埋土	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	14.1	7.8	11.0	
a543	228	209	SI68	南半埋土	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ナデ	（15.0）	9.0	21.8	
a544	229	209	SI68	床面Ｐ①、カマド内	土師器	赤彩	甕	AⅢa	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	—	14.6	—	—	
a545	229	209	SI68	南半埋土	土師器	赤彩	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	（12.8）	6.8	6.4	器面内外、全体的に装飾文様が描かれる。外面にイネ圧痕。
a546	229	209	SI68	北東側埋土	土師器	赤彩	甕	AⅢ	頸～体	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	
a547	229	209	SI68	北東側埋土、煙道埋土	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	叩き→ロクロ（カキメ様）→ケズリ	ロクロ→ナデ	ケズリ	24.7	12.0	16.5	
a548	229	209	SI69	床面Ｐ①	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ケズリ→ミガキ（摩耗）	ミガキ	ケズリ→ミガキ	（13.2）	—	4.6	内黒
a549	229	209	SI69	南西側埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	ミガキ	（11.4）	—	—	内黒
a550	229	209	SI69	南西側埋土	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ナデ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	（10.9）	—	4.2	内黒
a551	229	209	SI69	北東側埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ	ミガキ	ミガキ	（8.6）	—	3.2	両黒
a552	229	210	SI70	北東側埋土下位～床面	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	（13.2）	（5.6）	5.4	内黒
a553	229	210	SI70	床面Ｐ④、北東側埋土下位～床面	土師器	—	坏	BⅠd1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	不明（摩耗）	12.9	5.8	4.4	内黒
a554	229	210	SI70	南西側埋土下位～床面	土師器	—	坏	BⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	（13.6）	（6.6）	5.0	内黒
a555	229	210	SI70	カマド内	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.3	7.2	3.7	
a556	229	210	SI70	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.6）	（5.4）	4.9	
a557	229	210	SI70	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（15.5）	（6.6）	6.5	
a558	229	210	SI70	床面Ｐ①、南東側埋土下位～床面	土師器	赤彩	甕	AⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	17.2	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（18）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a559	229	210	SI70	床面Ｐ③、北西側埋土下位～床面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	14.2	—	—	
a560	229	210	SI70	床面Ｐ②、カマド周辺埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	—	(18.0)	—	—	
a561	229	210	SI70	Pit8 埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	指おさえ	指おさえ	ユビナデ	3.1	2.5	2.3	
a562	229	210	SI70	南西側埋土下位～床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	ヨコナデ・叩き	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	
a563	230	210	SI70	北東側埋土下位～床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a564	230	210	SI70	南東側埋土下位～床面	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ヨコナデ・当て具	—	—	—	—	
a565	230	210	SI71	北半埋土上位～下位	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	(13.4)	—	5.3	内黒
a566	230	210	SI71	南半埋土上位～下位	土師器	—	坏	A	口～底	ヨコナデ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	—	—	—	内黒
a567	230	210	SI71	南半埋土上位～下位	土師器	—	坏	ＡⅠb	口～底	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	ミガキ	15.1	—	4.8	内黒
a568	230	210	SI71	南半埋土上位～下位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ハケメ→ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(15.6)	—	—	
a569	230	210	SI72	Pit3 埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ナデ	ミガキ	木葉痕	(15.1)	8.6	5.4	内黒
a570	230	210	SI72	床面中央部	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ→ミガキ（摩耗）	ミガキ	ナデ→ミガキ	11.4	—	4.0	両黒
a571	230	210	SI72	北東隅床面上５cm	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	(11.8)	—	4.6	内黒
a572	230	210	SI72	北壁際埋土～床面上５cm	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	ミガキ	(14.9)	—	5.7	内黒
a573	230	210	SI72	北東隅床面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢa	口～底	ヨコナデ・ナデ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ（摩耗）	ナデ	18.7	9.4	22.4	
a574	231	210	SI72	埋土上半	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	(22.0)	10.6	31.2	
a575	231	210	SI72	南半埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	ナデ	ナデ	ケズリ	(5.9)	(4.4)	2.9	
a576	231	211	SI73	カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＡⅡa	口～底	ヨコナデ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ	(11.6)	—	—	内黒
a577	231	211	SI73	北西側埋土下位～床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(16.0)	8.9	20.0	
a578	231	211	SI73	カマド前床面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(13.6)	16.1	8.8	
a579	231	211	SI75	２号カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＢⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(14.8)	6.4	5.2	内黒
a580	231	211	SI75	東側埋土カマド周辺	土師器	—	坏	ＢⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ（摩耗）	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(16.0)	(8.6)	4.7	内黒
a581	231	211	SI75	Pit1 埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ（摩耗）	回転糸切（右回り）	(14.0)	5.1	5.2	内黒
a582	231	211	SI75	Pit6 内Ｐ①	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	14.9	6.4	5.5	内黒
a583	231	211	SI75	Pit6 埋土、１号カマド燃焼部	土師器	—	坏	ＢⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(14.6)	7.4	4.6	内黒
a584	231	211	SI75	南西側埋土	土師器	—	坏	ＢⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(14.0)	(6.5)	3.9	内黒
a585	231	211	SI75	北西側埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(13.2)	(5.6)	4.3	内黒
a586	231	211	SI75	南西側埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(14.4)	(6.0)	4.3	内黒
a587	231	211	SI75	検出面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(14.2)	(8.6)	4.1	
a588	231	211	SI75	床面	須恵器	—	壺	Ⅰ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(8.9)	—	—	
a589	231	211	SI76	床面Ｐ③	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ナデ（剥落）	14.0	(8.0)	17.7	
a590	231	211	SI76	床面Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	木葉痕	(17.6)	8.0	27.3	
a591	231	211	SI76	カマド脇床面Ｐ②	土師器	赤彩	甕	ＡⅢa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	—	16.8	—	—	口縁部に３本１組の装飾が７単位巡る

第 12 表　土師器・須恵器観察表（19）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a592	231	211	SI76	床面Ｐ①	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	18.6	—	—	
a593	232	211	SI77	南側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(9.8)	(6.6)	3.6	
a594	232	211	SI77	南東側埋土	須恵器	—	坏	d	口～底	ロクロ	ロクロ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(14.6)	(10.0)	3.1	
a595	232	211	SI77	北東側埋土	土師器	—	鉢	ＡⅠa	体～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・一部ミガキ	ミガキ	ケズリ	—	(7.0)	—	内黒
a596	232	212	SI77	南西側埋土	土師器	—	甕	ＡⅢb	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・一部ミガキ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ケズリ	—	9.0	—	
a597	232	211	SI77	北西側埋土	土師器	—	小形土器	A	口～底	ナデ	ナデ	ナデ	6.5	5.1	3.8	
a598	232	212	SI79	1号カマド支脚Ｐ①	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.9	8.0	11.7	
a599	232	212	SI80	2号カマド煙道埋土	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	14.5	—	4.5	両黒
a600	232	212	SI80	北東側検出面	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	(14.4)	—	—	両黒
a601	232	212	SI80	南東側検出面	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	—	(12.0)	—	—	両黒
a602	232	212	SI80	南東側検出面	土師器	—	坏	ＡⅠb	口～底	ヨコナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ	(13.6)	(7.8)	4.8	内黒
a603	232	212	SI80	北東側床面	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ→ミガキ	14.3	—	5.1	両黒
a604	232	212	SI80	1号カマドＰ①、右袖芯材、カマド内	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ケズリ	15.6	8.6	27.7	
a605	232	212	SI80	1号カマドＰ②、左袖芯材、カマド内	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	20.4	7.0	28.7	
a606	232	212	SI81	Pit1 埋土、床面	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	13.5	7.5	4.3	
a607	232	212	SI81	埋土（撹乱含む）	須恵器	—	高台坏	b	口～脚	ロクロ	ロクロ	回転篦切→台	14.8	7.6	7.1	
a608	232	212	SI81	Pit1 埋土	土師器	—	塝	B	口～底	ロクロ（カキメ様）→ケズリ	ロクロ・ナデ	ケズリ	(28.0)	12.4	14.8	内黒
a609	233	212	SI81	カマド右袖芯材、カマド内	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	23.0	12.4	32.5	
a610	232	212	SI81	埋土（撹乱含む）	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ケズリ	18.0	(9.4)	10.8	
a611	233	212	SI84	カマド内、北東側床面	土師器	—	坏	ＡⅡa	口～底	ヨコナデ・ハケメ→ミガキ	ミガキ	ハケメ	12.4	—	4.6	内黒
a612	233	212	SI84	床面Ｐ①	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ	(16.0)	—	—	両黒
a613	233	212	SI84	カマド内	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ケズリ（摩耗）	ヨコナデ（摩耗）	木葉痕	(18.4)	8.4	7.5	
a614	233	212	SI84	カマド内	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(20.0)	(8.4)	25.1	
a615	233	212	SI84	北東側床面	土師器	赤彩	甕	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	(14.0)	—	—	
a616	233	212	SI86	Pit8 埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.4)	(6.6)	3.4	
a617	233	212	SI86	床面Ｐ④	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.3)	5.4	4.1	
a618	233	212	SI86	床面Ｐ③	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.5	5.4	4.5	
a619	233	212	SI86	南西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.8)	(6.6)	(4.5)	
a620	233	212	SI86	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	16.1	7.1	6.5	
a621	233	212	SI86	北東側埋土下位	土師器	—	甕	BⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	摩耗不明	(14.8)	(7.6)	(14.3)	
a622	233	213	SI87	埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(15.6)	(6.4)	4.8	
a623	233	213	SI87	埋土下位～床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(15.2)	(6.0)	5.1	
a624	233	213	SI87	埋土下位～床面	須恵器	—	坏	d	口～底	ロクロ	ロクロ	—	7.0	3.0	4.0	
a625	233	213	SI87	埋土下位～床面	土師器	—	塝	B	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(32.0)	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（20）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a626	233	213	SI89	床面Ｐ②	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ナデ	ケズリ	13.8	6.3	6.5	
a627	233	213	SI89	掘り方埋土	土師器	赤彩	坏	ＢⅠd1	体～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	—	7.0	—	内黒　底面朱書「十」
a628	233	213	SI89	煙道内Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	—	(24.8)	—	—	
a629	234	213	SI89	検出面	土師器	赤彩	甕	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(10.4)	—	—	体部外面赤彩
a630	234	213	SI89	検出面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	頸～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	口縁部に５本？１単位の装飾文　体部外面赤彩
a631	234	213	SI89	床面Ｐ②	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	(21.6)	—	—	体部外面と口縁部内面赤彩
a632	234	213	SI90	南東側検出面	土師器	赤彩	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(12.4)	5.5	3.8	底部朱書「十」・内黒
a633	234	213	SI90	Pit5 埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～体	ロクロ	ミガキ？	回転糸切（方向不明）	(10.8)	(6.0)	4.4	内黒
a634	234	213	SI90	南西側埋土	土師器	赤彩	坏	ＢⅡc3	体～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(6.5)	(5.5)	(0.7)	底部朱書「十」
a635	234	213	SI90	Pit3 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.3	8.0	3.6	
a636	234	213	SI90	北壁際落ち込み	土師器	—	坏	ＢⅡd	口～底	ロクロ	ロクロ	摩耗	12.8	6.0	4.1	
a637	234	213	SI90	Pit5 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.2	7.4	3.9	
a638	234	213	SI90	北東側埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	12.0	7.9	3.3	
a639	234	213	SI90	Pit3 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.2	7.5	4.0	
a640	234	213	SI90	Pit3 埋土、南東側埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.0)	(7.9)	3.6	
a641	234	213	SI90	Pit3 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.6)	(7.0)	3.3	
a642	234	213	SI90	南東側埋土	土師器	—	坏	ＢⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.8)	7.2	3.9	
a643	234	213	SI90	Pit5 埋土	土師器	赤彩	坏	ＡⅢ	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	12.7	7.0	6.5	
a644	234	213	SI90	Pit5 埋土	土師器	赤彩	坏	ＡⅢ	口～底	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ→ナデ	ナデ	(12.0)	7.9	5.3	
a645	234	213	SI90	北東側検出面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.6)	(7.5)	3.5	
a646	234	213	SI90	北東側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.3)	(7.6)	4.1	
a647	234	213	SI90	北東側検出面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(14.7)	(7.7)	4.2	
a648	234	213	SI90	南西側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.0)	(6.0)	3.8	
a649	234	213	SI90	南西側埋土	須恵器	—	高台坏	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(15.8)	(7.0)	7.0	
a650	234	213	SI90	南側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.8)	6.2	4.5	
a651	234	213	SI90	Pit6 埋土	土師器	—	鉢	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ→ナデ・一部ミガキ	ミガキ	—	(14.4)	—	—	内黒
a652	234	213	SI90	カマド内	土師器	—	甑	A	口～体	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ハケメ	—	(13.2)	—	—	
a653	234	213	SI90	カマド内、左袖内	土師器	—	甕	ＡⅠ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(18.5)	—	—	
a654	234	213	SI90	カマド内、左袖内	土師器	—	甕	ＡⅠ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(22.0)	—	—	
a655	234	213	SI90	煙出し～煙道埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(19.6)	—	—	
a656	234	213	SI90	南西側埋土	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(15.8)	—	—	
a657	234	213	SI90	南西・北東側床面、カマド内、カマド周辺	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	15.0	12.5	6.8	
a658	235	214	SI90	カマド右袖芯材	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	—	19.1	—	—	
a659	235	214	SI90	西側埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	(19.8)	(10.6)	28.8	
a660	235	214	SI90	北西側３層	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	体部外面と口縁部内面赤彩

第 12 表　土師器・須恵器観察表（21）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a661	235	214	SI90	北東側埋土	土師器	—	鉢	ＡＩａ	体～底	ナデ・ケズリ・一部ミガキ	ミガキ	木葉痕	—	7.6	—	内黒
a662	235	214	SI92	北東側埋土上位	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切→縁辺ミガキ再調整	(13.8)	6.4	4.0	内黒
a663	235	214	SI92	Pit7 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.8)	(5.8)	5.0	
a664	235	214	SI92	Pit7 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(16.0)	7.0	4.7	
a665	235	214	SI93	南側埋土上位	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ケズリ（摩耗）	ミガキ	ケズリ	(11.2)	(5.2)	4.2	内黒
a666	235	214	SI93	南側埋土上位	土師器	—	高坏	A	体～脚	ハケメ	ミガキ	ナデ	—	7.8	—	内黒
a667	235	214	SI93	埋土下位～床面	土師器	—	壺	B	口～体	ロクロ→ナデ・ケズリ	ミガキ	—	(15.6)	—	—	内黒
a668	235	214	SI94	Pit1 埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	11.3	6.2	4.1	内黒
a669	235	214	SI94	東壁際床面Ｐ⑦、カマド周辺	土師器	—	坏	ＢＩc2	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ミガキ	回転糸切→縁辺回転ケズリ再調整	15.2	6.6	6.3	内黒
a670	235	214	SI94	床面Ｐ①・Ｐ②	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下半手持ちヘラケズリ	ロクロ→ナデ（幅細い）	回転糸切（右回り）	16.5	6.7	6.7	
a671	235	214	SI94	床面Ｐ①～④	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.4)	6.4	4.7	
a672	235	214	SI94	床面Ｐ②	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.8	5.8	4.5	
a673	235	214	SI94	床面Ｐ①	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.6	5.4	4.5	
a674	235	214	SI94	床面Ｐ②・Ｐ①	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.1	5.8	4.8	
a675	235	214	SI94	煙道～煙出し底部	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a676	236	214	SI94	煙出埋土下部	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a677	236	214	SI95	北東隅付近床面	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	12.4	6.0	3.8	内黒
a678	236	214	SI95	北西側床面	土師器	—	坏	ＢＩa3	口～底	ロクロ	ミガキ	静止糸切	(14.8)	6.2	6.4	内黒・体部墨書あり「轟」
a679	236	214	SI95	Pit3 埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.7	7.8	3.6	
a680	236	214	SI95	南東側床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.5)	(7.2)	3.6	
a681	236	214	SI95	南東側床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.2)	(7.1)	3.7	
a682	236	214	SI95	北東側床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.8)	7.0	3.8	
a683	236	214	SI95	北東側床面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.8	5.4	3.8	
a684	236	214	SI95	南東隅床面	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.4)	6.8	3.0	
a685	236	214	SI95	ベルト埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.4)	6.0	4.5	
a686	236	214	SI95	北西側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.0)	(7.1)	3.3	
a687	236	214	SI95	南西側	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.0)	(6.2)	4.0	
a688	236	214	SI95	南西側	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.0)	6.0	5.4	
a689	236	215	SI95	南西側埋土	土師器	—	双耳坏	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	(12.0)	—	—	内黒
a690	236	214	SI95	北西側床面	土師器	—	鉢	B	口～底	ロクロ（一部ナデ）→下半回転ケズリ	ミガキ	ナデ→縁辺回転ケズリ？	(24.3)	10.6	10.7	内黒
a691	236	214	SI95	北西・南東側床面	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(11.5)	7.0	10.1	
a692	236	214	SI95	北東側埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	(20.6)	—	—	
a693	236	215	SI95	北西側埋土	土師器	—	甕	ＢⅡ	体	叩き→（ロクロ）→ケズリ→ミガキ	ロクロ	—	—	—	—	
a694	236	215	SI96	カマド支脚	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	14.5	4.5	10.2	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（22）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a695	236	215	SI96	カマド左袖内	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	15.0	8.0	13.2	
a696	237	215	SI98	1 号カマド左袖脇床面	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	8.8	—	4.2	内黒
a697	237	215	SI98	北東側埋土下位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	9.0	—	3.3	内黒
a698	237	215	SI98	南西側埋土上位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ（一部ミガキ）→ケズリ	ミガキ	ケズリ	9.6	—	3.4	内黒
a699	237	215	SI98	北西側埋土下位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・一部ミガキ	ミガキ	ケズリ	(13.0)	—	4.0	内黒
a700	237	215	SI98	南西側埋土下位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ（一部ミガキ）→ケズリ	ミガキ	ケズリ	10.6	—	4.4	内黒
a701	237	215	SI98	カマド一括、北側埋土上位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	10.8	—	6.0	内黒
a702	237	215	SI98	北東側埋土下位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ（一部ミガキ）→ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	10.8	4.0	6.3	内黒
a703	237	215	SI98	北東隅床面、北西側埋土下位	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・一部ミガキ	ミガキ	ケズリ	14.8	—	4.5	内黒
a704	237	215	SI98	南西側埋土上位	土師器	—	坏	BⅠd1	口～底	ロクロ→下半部手持ちヘラケズリ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(13.0)	6.5	5.0	内黒
a705	237	215	SI98	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.8)	(3.5)	3.7	
a706	237	215	SI98	南西側埋土上位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.9	5.8	5.0	
a707	237	215	SI98	北東隅床面、床溝一括	土師器	—	高坏	A	口～脚	ヨコナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ	11.0	7.0	6.3	内黒
a708	237	215	SI98	北東隅床面	土師器	—	高坏	A	口～脚	ミガキ・ケズリ（摩耗）	ミガキ	ナデ	11.0	(7.0)	6.1	内黒
a709	237	215	SI98	南西側埋土下位	土師器	—	高坏	A	口～脚	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ	—	—	—	内黒
a710	237	215	SI98	Pit1 埋土、北東側埋土下位	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	14.6	(8.0)	11.2	
a711	237	215	SI98	南西側埋土上位	土師器	—	鉢	AⅠb	口～底	ハケメ→ヨコナデ→ミガキ	ミガキ	ナデ	(16.6)	8.0	11.2	内黒
a712	237	215	SI98	南東側埋土下位	土師器	赤彩	甕	AⅢb	頸～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	口縁部 2 本 1 組の装飾
a713	237	215	SI98	南東側埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き→ナデ	当て具	—	—	—	—	
a714	237	215	SI99	北東隅埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ（摩耗）	ミガキ	摩耗	11.8	—	4.3	内黒
a715	237	215	SI99	検出面	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ（摩耗）	ミガキ	摩耗	(10.0)	—	—	内黒
a716	237	215	SI99	カマド燃焼部上位 P ③	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ケズリ（摩耗）	ミガキ	ケズリ	12.8	—	3.8	内黒
a717	237	215	SI99	北西側 3 層	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	13.0	—	3.9	両黒
a718	237	215	SI99	北西側 3 層	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ナデ（摩耗）	ミガキ	ナデ（摩耗）	11.8	—	3.9	内黒
a719	237	215	SI99	北東側 3 層	土師器	—	坏	A	体～底	ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ・ケズリ	—	(7.0)	—	内黒
a720	237	215	SI99	北東側 3 層	土師器	—	坏	AⅡ	口～体	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ミガキ	—	(12.6)	—	—	両黒
a721	237	215	SI99	北西側 3 層	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ミガキ	ミガキ	ナデ	(6.0)	5.4	6.1	内黒
a722	237	215	SI99	北側 3 層	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	10.8	—	4.7	内黒
a723	237	215	SI99	南東側 3 層	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ミガキ	ミガキ	ナデ	11.1	5.2	3.7	両黒
a724	237	215	SI99	南東側 3 層	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下半部手持ちヘラナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(7.6)	4.4	2.9	内黒
a725	237	215	SI99	南東側 2 層	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ち篦ナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(12.8)	(5.8)	4.1	内黒
a726	238	215	SI99	北西側 3 層	土師器	—	坏	BⅠc1	体～底	ロクロ→下半部手持ちヘラナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	—	6.8	—	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（23）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a727	238	215	SI99	東側３層	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ち篦ナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.4)	(7.0)	3.9	内黒
a728	238	215	SI99	南東側２層	土師器	—	坏	ＢＩb2	体～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転篦切	—	6.4	—	内黒
a729	238	215	SI99	北東側埋土	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下端手持ち篦ナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(12.2)	(5.4)	4.2	内黒
a730	238	215	SI99	南東側３層	土師器	—	坏	ＢＩc1	口～底	ロクロ→下半部手持ちヘラナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(13.0)	(6.5)	4.1	内黒
a731	238	215	SI99	南西側２層	土師器	—	坏	ＢＩc3	体～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	—	6.8	—	内黒
a732	238	215	SI99	北東側２層	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	(15.0)	(6.8)	6.8	内黒
a733	238	215	SI99	北東側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	7.0	4.6	
a734	238	215	SI99	南東側２層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.9	5.9	4.6	
a735	238	215	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.5)	(5.8)	4.3	
a736	238	215	SI99	南西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.6	4.4	4.3	体部ヘラ書き「十」
a737	238	215	SI99	北東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	6.4	4.5	
a738	238	215	SI99	北東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.2)	5.0	4.3	
a739	238	215	SI99	北東側２層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.9)	6.0	3.5	
a740	238	215	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	(6.6)	4.2	
a741	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.9)	(6.4)	4.6	
a742	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.9)	(6.4)	4.4	
a743	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.2	7.0	3.8	
a744	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	14.4	(6.2)	6.1	
a745	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.8)	6.0	5.8	
a746	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.1	6.0	5.2	底部にヘラ書き「×」
a747	238	216	SI99	北西側３層、北東側２層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（左回り）	15.8	6.0	5.7	
a748	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.2)	(5.5)	4.1	
a749	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.6)	(6.0)	4.9	
a750	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.8)	(7.6)	3.9	
a751	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.4)	(3.3)	3.7	
a752	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.8	6.5	4.4	
a753	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(12.8)	(6.4)	4.1	
a754	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	12.3	6.0	3.6	
a755	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(12.4)	(6.2)	4.1	
a756	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.4)	6.6	4.1	
a757	238	216	SI99	北西側３層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	12.8	7.5	4.0	
a758	238	216	SI99	西側３層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(11.8)	(5.2)	3.8	
a759	238	216	SI99	北東側３層	土師器	—	高台坏	B	体～脚	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）→台	—	(7.0)	—	内黒
a760	238	216	SI99	南東側３層	土師器	—	鉢	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	(23.6)	—	—	内黒
a761	238	216	SI99	北西側３層	土師器	赤彩	鉢	A	体～底	ナデ	ミガキ	ケズリ	—	(10.2)	—	内黒　体部外面赤彩
a762	238	216	SI99	南西側３層	須恵器	—	双耳坏	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	耳部欠損
a763	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	蓋	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(10.9)	—	(2.9)	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（24）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a764	238	216	SI99	南東側３層	須恵器	—	蓋	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	（13.5）	—	（3.5）	
a765	238	216	SI99	北東側３層	須恵器	—	蓋	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	（17.6）	—	—	
a766	238	216	SI99	南西側３層	須恵器	—	蓋	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
a767	239	216	SI99	カマド右袖内Ｐ②	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	（23.2）	9.0	34.1	
a768	239	216	SI99	北東側３層	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ→ハケメ	木葉痕	21.9	10.7	31.3	
a769	239	216	SI99	北東側３層	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	（19.6）	—	—	
a770	239	216	SI99	北西側３層	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	18.1	8.4	27.7	
a771	239	217	SI99	３層	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ・ナデナデ	ナデ	—	9.8	29.7	
a772	239	217	SI99	北東側床面	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	20.5	（9.6）	—	
a773	239	217	SI99	北西側２層	土師器	—	甕	ＡⅠａ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	（20.5）	（9.4）	30.0	
a774	239	217	SI99	北西側３層	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ→ハケメ・ナデ	剥落	13.5	（9.6）	14.1	
a775	239	217	SI99	北東側２～３層	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	（13.0）	—	—	
a776	239	217	SI99	東側３層	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	15.0	—	—	
a777	239	217	SI99	北東側３層	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（15.8）	5.9	15.0	
a778	240	217	SI99	南西側１層	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.4	6.4	16.1	
a779	240	217	SI99	北東側３層	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（16.8）	7.2	11.5	
a780	240	217	SI99	北東側３層	土師器	—	甕	ＢⅢ	体～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	—	6.8	—	
a781	240	217	SI99	2～3層	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	—	22.6	—	—	
a782	240	217	SI99	北東側３層、煙道埋土	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ・ハケメ	—	（24.8）	—	—	
a783	240	218	SI99	北東側２～３層	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ナデ・ケズリ	ロクロ→ナデ	—	27.2	—	—	
a784	240	218	SI99	2～3層	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	—	22.1	—	—	
a785	240	218	SI99	2～3層	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ→ナデ	—	21.8	—	—	
a786	240	218	SI99	北東側２～３層	土師器	—	甕	ＡⅢｂ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	12.6	—	—	
a787	240	218	SI99	北東側２層、掘り方埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢａ	口～体	ハケメ・ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ミガキ	—	（24.0）	—	—	体部外面赤彩
a788	240	218	SI99	カマド内、３層、床面	土師器	—	甕	ＡⅢｂ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	17.1	8.4	24.2	
a789	241	218	SI99	北東隅床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅢｂ	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	24.4	—	—	
a790	241	218	SI99	南西側２層	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口	ヨコナデ	ヨコナデ	—	（17.6）	—	—	口縁部に４本１単位の装飾文
a791	241	218	SI99	北西側３層	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口～体	ヨコナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	口縁部内外に装飾文　体部外面赤彩
a792	241	218	SI99	東壁際３層	土師器	—	小形土器	Ａ	口～底	ミガキ	ミガキ	ミガキ	6.0	3.9	2.8	両黒
a793	241	218	SI99	1～3層	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～底	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ	ナデ	（14.5）	9.0	（21.1）	
a794	241	219	SI99	北東側２～３層	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	叩き→ロクロ→ナデ	ロクロ	—	19.9	—	19.7	
a795	241	219	SI99	３層	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ		14.6	—	—	外面自然釉
a796	241	229	SI99	東側２層	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ→ナデ	ロクロ→ナデ	—	（17.6）	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（25）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a797	241	219	SI99	南東側３層	須恵器	—	壺	Ⅱ	口～体	叩き→ロクロ	ロクロ	—	(13.2)	—	—	
a798	241	219	SI99	北東側３層	須恵器	—	壺	Ⅰ	頸～底	ロクロ→ナデ・ケズリ	ロクロ	菊花状→台	—	7.2	—	
a799	241	219	SI99	2～3 層	須恵器	—	壺	Ⅲ	頸～底	ロクロ	ロクロ	台	—	5.1	—	
a800	241	219	SI99	3 層	須恵器	—	壺	Ⅲ	体～底	ロクロ	ロクロ	台	—	5.4	—	
a801	241	219	SI99	北西側３層	須恵器	—	壺	Ⅲ	頸～底	ロクロ→下半手持ちヘラケズリ	ロクロ	ケズリ	—	(4.2)	—	
a802	241	219	SI99	南西側２層	須恵器	—	甕	Ⅲ	口	叩き→ロクロ	ロクロ		—	—	—	口縁部波状文
a803	242	219	SI99	北西側３層、掘り方埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	頸～体	叩き	当て具	—	—	—	—	外面自然釉
a804	242	219	SI99	3 層、掘り方埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体～底	叩き	当て具		—	—	—	別個体須恵器片付着
a805	242	220	SI99	3 層	須恵器	—	甕	Ⅲ	口～底	叩き	当て具	叩き	(57.6)	—	—	口縁部波状文
a806	243	220	SI103	北西側埋土下位	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(11.6)	(6.0)	3.6	
a807	243	220	SI103	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	6.0	4.2	
a808	243	220	SI103	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.2)	6.0	4.1	
a809	243	220	SI103	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.8)	6.6	3.4	
a810	243	220	SI103	カマド内Ｐ①	土師器	—	甕	AⅢb	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ・一部ミガキ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	木葉痕	(15.6)	9.2	34.9	
a811	243	220	SI103	南西側埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a812	243	220	SI104	床面Ｐ①	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.6)	5.8	4.0	
a813	243	220	SI104	床面Ｐ②	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具・ナデ	—	—	—	—	
a814	243	221	SI105	埋土一括	土師器	—	坏	BⅠd2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転ケズリ再調整により切り離し技法不明	(15.4)	6.6	6.3	内黒
a815	243	221	SI107	カマド内	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ミガキ	ミガキ	ミガキ	12.8	—	4.7	両黒
a816	243	221	SI107	南東側埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ・幅の狭いナデ	ミガキ	ナデ	14.4	—	—	内黒
a817	243	221	SI107	床面Ｐ②	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	ハケメ	12.2	—	4.0	内黒
a818	243	221	SI108	南東側埋土	土師器	—	高台坏	BⅠ	口～脚	ミガキ	ミガキ	—	(15.8)	(7.8)	—	両黒
a819	243	221	SI110	西側埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.2)	(8.0)	3.7	
a820	243	221	SI110	西側埋土	土師器	—	坏	BⅡb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.4)	(8.0)	3.5	
a821	243	221	SI110	南側埋土	土師器	—	高坏	A	底～脚	ナデ	ミガキ	ナデ	—	7.6	—	内黒
a822	243	221	SI110	カマド燃焼部、カマド脇床面	土師器	—	甑	A	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	—	(12.4)	6.0	12.9	単孔式
a823	244	221	SI110	カマド南側床面	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ケズリ	16.5	9.5	27.3	
a824	244	221	SI110	北西壁際床面	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	15.3	8.1	15.5	
a825	244	221	SI110	西側埋土	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	(16.0)	10.0	11.5	
a826	244	221	SI110	埋土一括	土師器	—	甕	AⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	(20.3)	9.8	27.4	
a827	244	221	SI110	カマド燃焼部、カマド脇床面	土師器	—	片口	A	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	11.2	6.4	9.9	
a828	244	221	SI114	南東側埋土下位	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ミガキ（剥落）	ミガキ	ナデ	(9.6)	(4.4)	2.9	両黒
a829	244	221	SI114	北西側埋土下位	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（左回り）	13.5	6.2	4.2	
a830	244	221	SI114	南東側床面、埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.1)	(6.6)	4.5	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（26）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a831	244	221	SI114	北東側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.6）	（7.6）	3.8	
a832	244	221	SI114	南東側埋土	須恵器	—	坏	d	口～底	ロクロ	ロクロ	—	（13.0）	（5.8）	4.4	
a833	244	221	SI114	南東側埋土下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（13.4）	（6.0）	4.2	
a834	244	221	SI114	南東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.6）	（6.0）	3.4	
a835	244	221	SI114	北東側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（12.4）	（6.0）	3.4	
a836	244	221	SI114	南東側床面、埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（16.3）	（8.0）	6.6	
a837	244	221	SI114	南東側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（15.2）	（6.8）	7.2	
a838	244	221	SI114	南東側埋土	須恵器	—	双耳坏	b	口～体・耳	ロクロ	ロクロ	—	（11.0）	—	—	
a839	244	221	SI115	北西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅠa	体～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	—	—	—	内黒
a840	244	221	SI115	南壁際 Pit1・Pit2 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.9	5.0	4.9	
a841	244	221	SI115	南壁際埋土中位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（15.1）	6.0	5.0	口縁部タール状付着物
a842	244	222	SI115	南東側トレンチ	須恵器	—	甕	Ⅰ	体～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ・ナデ	ナデ	—	11.6	—	
a843	245	222	SI116	南西側埋土	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	ハケメ	（15.0）	—	4.2	内黒
a844	245	222	SI116	床面Ｐ③、北西側埋土下部	土師器	—	坏	ＡⅡa	口～底	ヨコナデ→ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	（14.2）	—	4.1	内黒
a845	245	222	SI116	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.6）	（7.0）	3.9	
a846	245	222	SI116	床面Ｐ③	土師器	—	鉢	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・一部ミガキ	ミガキ	ナデ	21.3	8.8	10.4	内黒
a847	245	222	SI116	床面Ｐ②	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	（15.3）	8.0	13.3	
a848	245	222	SI116	北西側埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	—	24.0	—	—	
a849	245	222	SI116	床面Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	15.6	8.2	14.1	
a850	245	222	SI116	床面Ｐ③	土師器	—	甕	ＡⅢb	口～底	ヨコナデ・ナデ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	ナデ	（13.2）	8.4	14.7	
a851	245	222	SI116	床面Ｐ③、北西側埋土下位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	21.3	10.0	26.3	口縁部内外と体部外面赤彩
a852	245	222	SI118	北西側掘り方埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ナデ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	（11.8）	（5.6）	5.4	内黒
a853	245	222	SI118	床面Ｐ⑧	土師器	—	坏	ＢⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（12.0）	6.2	5.2	内黒
a854	245	222	SI118	1 号カマド右袖内	土師器	—	坏	ＢⅠb2	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ミガキ	回転篦切	12.2	6.5	4.8	内黒
a855	245	222	SI118	床面Ｐ⑦	土師器	—	坏	ＢⅠd1	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	13.0	6.4	5.1	内黒　　墨書「十」
a856	245	222	SI118	Pit12 埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.2	（7.2）	6.9	内黒？
a857	245	222	SI118	北西側埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.2）	5.4	4.4	
a858	245	222	SI118	南西側埋土	土師器	—	鉢	B	口～体	ロクロ→ケズリ	ミガキ	—	（23.0）	—	—	内黒
a859	245	222	SI118	Pit6 埋土Ｐ⑤	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	10.3	6.5	6.8	
a860	245	222	SI118	床面Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	（16.0）	（9.4）	15.5	
a861	245	223	SI118	2 号カマド燃焼部	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	（24.0）	—	—	
a862	246	223	SI118	2 号カマド燃焼部	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	（23.4）	—	—	
a863	246	223	SI118	北西側掘り方埋土	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ケズリ→ヨコナデ	ヨコナデ→ハケメ	—	14.4	（8.0）	11.7	
a864	246	223	SI118	Pit6 埋土Ｐ⑥	須恵器	—	壺	Ⅱ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	（10.8）	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（27）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a865	246	223	SI118	床面Ｐ⑨	須恵器	—	壺	Ⅰ	頸～体	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	
a866	246	223	SI119	北西隅床面	土師器	—	坏	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ケズリ・ミガキ	ミガキ	摩耗	（10.4）	—	3.8	内黒
a867	246	223	SI119	カマド支脚	土師器	—	甕	ＡⅠ	体～底	ハケメ	ハケメ	ハケメ	—	7.5	—	
a868	246	223	SI119	北西側埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ（摩耗）	ヨコナデ・ナデ	—	15.2	—	—	
a869	246	223	SI120	南東側埋土	土師器	—	坏	ＢⅠd3	口～底	ロクロ	ミガキ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	（14.8）	（7.4）	6.6	内黒
a870	246	223	SI120	1 号カマド左袖脇床面	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.2）	（6.4）	5.0	
a871	246	223	SI120	北東側埋土	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.6	6.2	5.3	
a872	246	223	SI120	床面Ｐ①	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.4	6.0	4.5	
a873	246	223	SI120	北西側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	12.9	7.0	4.4	
a874	246	223	SI120	北西側埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.2	7.0	4.2	
a875	246	223	SI120	北東側埋土	土師器	—	蓋	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	（14.0）	—	1.4	内黒
a876	246	223	SI120	1 号カマド前床面	土師器	—	鉢	B	口～底	ロクロ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ケズリ・ナデ	20.6	11.2	16.6	内黒
a877	246	223	SI120	1 号カマド左袖芯材、燃焼部～煙道埋土、Pit4 埋土	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	ナデ	24.2	10.1	35.3	
a878	246	223	SI120	床面Ｐ②	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～体	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ナデ	—	20.3	—	—	
a879	246	224	SI120	Pit16 埋土	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	15.0	8.4	16.1	
a880	247	224	SI120	Pit2 埋土、南西側床面Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ナデ	21.8	10.6	32.2	
a881	247	224	SI120	南東側埋土	土師器	—	甕	ＢⅠ	口～体 体～底	ロクロ→ケズリ	ロクロ・ナデ	ナデ	（24.0） —	— 7.8	— —	
a882	247	224	SI120	北西側 1 層	土師器	—	甕	ＢⅢ	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ロクロ	手持ちヘラナデ再調整により切り離し技法不明	（15.0）	7.6	14.8	
a883	247	224	SI120	2 号カマド煙道埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口	ヨコナデ	ヨコナデ	—	（20.6）	—	—	口唇部赤彩　口縁部に 3 本 1 単位の装飾文
a884	247	224	SI120	2 号カマド右袖内、北西側埋土	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～底	叩き→ロクロ→ケズリ	ロクロ・ナデ	ナデ	20.5	11.8	34.1	
a885	247	224	SI120	床面Ｐ③、埋土	須恵器	—	壺	Ⅰ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	（8.0）	—	—	外面自然釉
a886	247	224	SI120	1 層、南壁際周溝埋土	須恵器	—	壺	Ⅰ	体～底	ロクロ	ロクロ	台	—	10.8	—	
a887	247	224	SI121	カマド焚口手前	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（16.5）	（7.0）	（6.2）	内黒
a888	247	224	SI121	カマド焚口手前	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.1）	5.8	4.3	
a889	247	224	SI121	カマド焚口手前	土師器	—	坏	ＢⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.3）	（6.0）	4.3	内面タール状付着物
a890	247	224	SI121	カマド周辺埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	13.7	6.5	4.9	両黒
a891	247	224	SI121	南壁際埋土	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ・一部ミガキ	ミガキ	ケズリ	（15.0）	—	5.0	内黒
a892	247	224	SI121	北西側埋土	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ→ミガキ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（12.2）	（5.4）	3.8	両黒、底部ヘラ書き「×」
a893	247	224	SI121	北東側 1 層	土師器	—	坏	ＢⅠd	口～底	ロクロ	ミガキ	摩耗	（14.8）	（6.9）	5.7	内黒
a894	248	224	SI121	北西側 1 層	土師器	—	坏	ＢⅠc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切後、縁辺部手持ちヘラケズリ	（13.6）	（6.9）	3.8	内黒
a895	248	224	SI121	北東側 1 層	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（13.4）	（6.4）	3.9	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（28）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a896	248	224	SI121	南東側埋土上位	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（13.8）	5.6	4.1	
a897	248	224	SI121	カマド焚口手前	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（14.0）	（7.6）	3.0	
a898	248	224	SI121	カマド右袖内Ｐ③、南西周溝埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.9	6.0	4.4	
a899	248	224	SI121	北西側１層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切？	13.9	（6.0）	4.9	
a900	248	224	SI121	北西側１層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.3）	7.3	3.6	
a901	248	225	SI121	北西側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.1	6.2	4.1	
a902	248	225	SI121	北西隅Ｐ②	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（12.7）	（5.7）	3.9	
a903	248	225	SI121	北西側１層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.2）	6.8	3.8	
a904	248	225	SI121	南西側１層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（14.2）	6.0	4.5	
a905	248	225	SI121	南西側周溝埋土、掘り方埋土	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	（12.4）	（6.4）	4.1	
a906	248	225	SI121	Pit1 埋土	土師器	赤彩	甕	AⅢb	体～底	ハケメ→ミガキ	ナデ・ハケメ	ナデ	—	11.0	24.0	体部外面赤彩
a907	欠番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
a908	248	225	SI121	北東側床面Ｐ④	須恵器	—	甕	Ⅲ	体～底	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a909	248	225	SI121	南壁際床面Ｐ①	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a910	248	225	SI122	埋土一括	土師器	—	坏	BⅠc1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラナデ	ミガキ	回転糸切（右回り）	（12.2）	6.4	4.9	内黒、底部ヘラ書き「×」?
a911	248	225	SI122	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.1	5.6	4.9	
a912	248	225	SI122	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.2	6.0	5.0	
a913	248	225	SI122	東側埋土	土師器	—	鉢	B	口～体	ロクロ→回転ケズリ	ミガキ	—	（18.0）	—	—	内黒
a914	248	225	SI122	床面	土師器	赤彩	甕	AⅢb	体～底	ナデ	ナデ・ハケメ	ナデ	—	7.8	—	体部外面赤彩
a915	248	225	SI122	埋土一括	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	19.8	—	—	
a916	249	225	SI122	2 層	須恵器	—	壺	Ⅰ	体～底	ロクロ	ロクロ	台	—	8.6	—	
a917	249	225	SI122	東側埋土	須恵器	—	甕	Ⅲ	口～頸	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—	内外に重層する櫛書波状文
a918	249	225	SI124	南西側埋土	土師器	—	坏	BⅡc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（13.0）	（5.8）	4.8	
a919	249	225	SI124	北東側埋土	土師器	—	鉢	AⅠa	口～体	ヨコナデ・ミガキ	ミガキ	—	（14.4）	—	—	内黒
a920	249	225	SI124	床面Ｐ①	土師器	—	甕	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	12.3	—	9.3	
a921	249	225	SI124	北東側埋土	土師器	赤彩	甕	AⅢb	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	—	—	—	体部外面赤彩
a922	249	225	SI125	北側埋土	土師器	赤彩	坏	AⅡ	口～体	ミガキ	ミガキ	—	（12.6）	—	—	内黒　体部外面赤彩
a923	249	225	SI125	カマド支脚Ｐ①	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	21.0	—	24.3	
a924	249	226	SI126	床面Ｐ④	土師器	—	坏	AⅡb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	12.0	—	4.9	内黒
a925	249	226	SI126	東側埋土中～下位	土師器	—	鉢	AⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	剥落	（12.8）	7.4	7.4	
a926	249	226	SI126	床面Ｐ②	土師器	—	甕	AⅠa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ・ハケメ	—	19.2	—	25.8	
a927	249	226	SI126	南東側埋土中～下位	土師器	赤彩	甕	AⅠ	口～体	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ハケメ	—	（22.0）	—	—	口縁～体部外面赤彩
a928	249	226	SI126	床面Ｐ⑤、南東側埋土中～下位	土師器	赤彩	甕	AⅢb	体～底	ハケメ・ナデ	ナデ	木葉痕	—	9.2	—	体～底部外面赤彩
a929	249	226	SI128	床面Ｐ①	土師器	—	坏	AⅡa	口～底	ミガキ	ミガキ	ナデ	（15.0）	—	6.9	両黒
a930	249	226	SI128	北西側埋土	土師器	—	坏	AⅠa	口～底	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ナデ	（15.3）	—	5.8	両黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（29）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a931	249	226	SI128	床面 P⑤	土師器	—	坏	AIa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	15.3	—	5.6	内黒
a932	249	226	SI128	埋土下位 P⑥	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ・ナデ（摩耗）	ミガキ	摩耗	15.8	—	5.3	内黒
a933	249	226	SI128	床面 P②	土師器	—	坏	AIa	口～底	ミガキ・ナデ	ミガキ	ケズリ	12.2	—	4.3	両黒
a934	249	226	SI128	北東側床面	土師器	—	坏	AIa	口～底	ヨコナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	13.2	—	3.9	内黒
a935	250	226	SI128	カマド左袖芯材 P⑨	土師器	—	甕	AIa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	20.0	10.3	27.6	
a936	250	226	SI128	カマド右袖芯材 P⑩	土師器	—	甕	AIa	口～底	ヨコナデ→ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	18.9	10.1	26.8	
a937	250	226	SI129	カマド袖内	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	ケズリ	（12.8）	6.4	4.5	内黒
a938	250	226	SI129	カマド天井崩落土	土師器	—	片口	A	口～底	ヨコナデ→ナデ・一部ミガキ	ヨコナデ→ナデ・一部ミガキ	ナデ・ミガキ	—	（8.0）	6.3	
a939	250	226	SI130	Pit3 埋土	土師器	—	坏	AIa	口～体	ミガキ・ケズリ	ミガキ	—	（12.4）	—	—	内黒
a940	250	226	SI130	床面、Pit3 埋土	土師器	—	坏	BIc1	体～底	ミガキ	ミガキ	回転糸切→縁辺部手持ちヘラケズリ再調整	—	6.0	—	両黒
a941	250	226	SI130	床面	土師器	—	坏	BId1	口～体	ロクロ→下端手持ちヘラケズリ	ミガキ	—	（14.4）	—	—	内黒
a942	250	226	SI130	北半埋土	土師器	—	坏	BId	口～体	ロクロ	ミガキ	—	（13.8）	—	4.1	内黒
a943	250	226	SI131	埋土一括	土師器	—	坏	AIa	口～底	ヨコナデ（摩耗）	ミガキ（焼け弾け）	摩耗	（11.8）	—	3.3	内黒
a944	250	226	SI131	南西側埋土	土師器	—	坏	BIIc3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	（12.6）	（6.6）	5.2	
a945	250	226	SI132	北西側埋土	土師器	—	坏	A	口～体	ヨコナデ	ミガキ	—	（13.6）	—	—	内黒
a946	250	226	SI132	埋土上位	土師器	—	甕	AIa	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ケズリ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	19.2	9.0	28.8	
a947	250	227	SI133	北東側埋土	土師器	—	坏	AII	口～体	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ミガキ	—	（16.2）	—	—	内黒
a948	250	227	SI134	検出面	土師器	—	坏	BIc2	口～底	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	回転糸切→縁辺手持ちヘラケズリ再調整	（13.4）	6.1	4.8	内黒
a949	250	227	SI134	Pit1 埋土、北壁際床面	土師器	—	坏	BId2	口～体	ロクロ→下端回転ケズリ	ミガキ	—	（16.4）	—	—	内黒　体部墨書あり
a950	250	227	SI134	Pit2 埋土	土師器	—	坏	BIc2	口～底	ロクロ→下半回転ケズリ	ミガキ	回転糸切→縁辺手持ちヘラケズリ再調整	12.2	5.2	4.6	内黒
a951	250	227	SI135	北西側埋土下位	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ・ナデ	ミガキ	ナデ	（8.3）	（4.0）	2.2	内黒
a952	250	227	SI135	南西側掘り方埋土	土師器	—	坏	AIIa	口～底	ヨコナデ→ミガキ・ナデ	ミガキ	ナデ	（10.8）	—	3.7	内黒
a953	250	227	SI135	南西側埋土中位	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ→ケズリ	ミガキ	ケズリ	（9.8）	（5.0）	3.5	内黒
a954	250	227	SI135	北西側埋土下位	土師器	—	坏	AII	口～体	ヨコナデ→ハケメ	ミガキ	—	（14.4）	—	—	内黒
a955	250	227	SI135	北東側埋土下位	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ→ハケメ	ミガキ	ハケメ	13.5	5.8	5.2	内黒
a956	250	227	SI135	北西側埋土下位	土師器	—	坏	AIIb	口～底	ヨコナデ→ハケメ	ミガキ	ナデ	（14.0）	（6.0）	5.1	内黒
a957	250	227	SI135	Pit4 埋土上位 P③	土師器	—	坏	BId1	口～底	ロクロ→下端手持ちヘラナデ？（摩耗）	ミガキ	再調整（摩耗）により底部切り離し技法不明	12.3	（5.6）	4.7	内黒
a958	250	227	SI135	北東側埋土下位	土師器	—	坏	BId	口～底	ロクロ	ミガキ	摩耗	（12.8）	（6.0）	4.4	内黒
a959	250	227	SI135	北東側埋土中位	土師器	—	坏	BIIb3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.4）	（8.2）	3.8	
a960	250	227	SI135	Pit1 埋土	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.7	7.0	4.1	内外火襷痕
a961	250	227	SI135	北西側埋土下位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	（13.1）	6.4	3.9	
a962	251	227	SI135	南西・北東側埋土下位	土師器	—	高台坏	A	体～脚	ハケメ	ミガキ	ナデ→台	—	6.7	5.5	内黒
a963	251	227	SI135	Pit3 埋土、西ベルト埋土下位	土師器	—	高台坏	BI	口～脚	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ミガキ	ナデ→台	（16.8）	8.9	8.2	内黒

第 12 表　土師器・須恵器観察表（30）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a964	251	227	SI135	北東側埋土下位～床面	土師器	—	高台坏	ＢⅠ	口～脚	ミガキ	ミガキ	ナデ→台	(15.2)	9.0	8.9	内黒
a965	251	227	SI135	Pit3 埋土	土師器	—	高台坏	ＢⅠ	口～脚	ミガキ	ミガキ	ナデ→台	(12.3)	7.0	7.2	両黒
a966	251	227	SI135	北西側埋土下位、北東側埋土上位	土師器	—	高台坏	ＢⅠ	口～脚	ミガキ	ミガキ	ナデ→台	14.9	9.2	8.7	両黒
a967	251	227	SI135	北東側埋土中位	土師器	—	高坏	A	口～体	ヨコナデ（摩耗）	ミガキ	—	(11.0)	—	—	内黒
a968	251	227	SI135	北東・南東側埋土下位	土師器	—	鉢	ＡⅠb	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	ナデ・ミガキ	(22.8)	9.0	12.6	内黒
a969	251	227	SI135	北西側埋土下位	土師器	—	鉢	B	口～体	ロクロ→ナデ・ケズリ	ミガキ	—	(26.2)	—	—	内黒
a970	251	227	SI135	南西側床面Ｐ①	土師器	—	鉢	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	14.9	8.1	8.9	
a971	248	227	SI135	南西側Ｐ①	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	体～底	ミガキ	ナデ・ミガキ	木葉痕	—	(11.0)	—	体部外面赤彩
a972	251	227	SI135	北東側埋土下位	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(20.6)	8.8	29.5	
a973	251	227	SI135	北西側床面Ｐ④	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	木葉痕	20.9	8.9	30.1	
a974	251	227	SI136	南西側埋土中位	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	13.4	7.2	4.2	
a975	251	227	SI136	検出面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(16.2)	(7.4)	5.0	
a976	251	227	SI136	検出面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	14.5	5.4	4.6	
a977	251	227	SI136	1層	須恵器	—	蓋	b	口～体	ロクロ	ロクロ	—	5.6	12.4	2.6	外面自然釉
a978	251	228	SI136	北東側床面Ｐ③	土師器	赤彩	甕	ＡⅢa	口～体	ハケメ→ヨコナデ・ミガキ	ハケメ・ナデ	—	(25.0)	—	—	体部外面赤彩
a979	251	228	SI136	北半埋土	須恵器	—	甕	Ⅱ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(15.4)	—	—	
a980	251	228	SI137	埋土一括	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.6)	(6.6)	4.6	
a981	252	228	SK05	埋土一括	土師器	—	鉢	ＡⅠb	口～底	ハケメ→ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(20.4)	(10.2)	12.2	
a982	252	228	SK09	底面	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.8	6.6	4.4	
a983	252	228	SK09	埋土一括	土師器	—	双耳坏	B	口～底	ロクロ	ミガキ	静止糸切？→台	(9.6)	4.4	4.6	内黒
a984	252	228	SK09	埋土一括	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a985	252	228	SK13	埋土一括	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(13.5)	(7.4)	4.2	
a986	252	228	SK17	1～3層、埋土下位	須恵器	—	蓋	b	つまみ～体	ロクロ	ロクロ	—	—	(12.6)	5.9	
a987	252	228	SK17	埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	ナデ	—	—	—	—	
a988	252	228	SK22	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.6)	(7.4)	4.0	
a989	252	228	SK29	埋土一括	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	口縁部内外面に数本１組の装飾
a990	252	228	SK40	Ⅲ～Ⅳ層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.6)	6.4	3.7	
a991	252	228	SK65	埋土Ｐ①	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ナデ	ケズリ	16.4	8.4	27.5	
a992	252	228	SK83	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(14.4)	5.4	4.5	
a993	252	228	SK86	埋土一括	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(15.0)	5.7	5.4	内黒
a994	252	228	SK86	埋土一括	土師器	—	坏	ＢⅠc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	13.8	5.2	4.8	内黒
a995	252	228	SK86	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	12.6	5.8	4.0	
a996	252	228	SK86	埋土一括	土師器	—	高台坏	ＢⅢ	口～脚	ロクロ	ミガキ	静止糸切？→台	(14.1)	8.4	5.9	内黒
a997	252	228	SK128	埋土一括	土師器	赤彩	鉢	ＡⅠb	口～体	ヨコナデ・ミガキ	ハケメ・ミガキ		—	—	—	内黒
a998	252	228	SK128	埋土一括	土師器	赤彩	甕	ＢⅡ	口～体	タタキ→ロクロ→ミガキ	ロクロ	—	(22.0)	—	—	
a999	253	228	SK131	埋土一括	土師器	—	甕	ＡⅠa	口～底	ハケメ→ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ	木葉痕	(21.8)	10.0	29.8	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（31）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a1000	253	229	SK134	埋土一括	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ミガキ	ミガキ	ミガキ	—	—	—	両黒
a1001	253	229	SK134	埋土上位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a1002	253	229	SK146	埋土一括	土師器	—	坏	ＢⅡｄ	口～底	ロクロ	ロクロ	手持ちヘラケズリ再調整により切り離し技法不明	(11.6)	(5.3)	4.5	内黒
a1003	253	229	SK146	埋土上位～下位	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.7	7.0	4.3	
a1004	253	229	SK147	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.8)	(5.6)	4.2	
a1005	253	229	SK149	3層	土師器	赤彩	甕	ＡⅢｂ	口～体	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	—	(24.0)	—	—	
a1006	253	229	SK154	底面Ｐ①	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	(10.8)	—	3.5	両黒
a1007	253	229	SK154	埋土下位	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～体	ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	(13.0)	—	—	両黒
a1008	253	229	SK154	埋土下位	土師器	—	坏	ＡＩａ	体～底	ケズリ・ミガキ	ミガキ	ケズリ	(12.8)	—	4.7	両黒
a1009	253	229	SK154	埋土下位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢｂ	体～底	ハケメ・ナデ・ミガキ	ハケメ	ナデ	—	8.6	—	
a1010	253	229	SK157	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩｄ	口～体	ロクロ	ミガキ	—	(15.4)	—	4.2	内黒
a1011	253	229	SX06	埋土Ｐ①	土師器	赤彩	甕	ＡⅢａ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	19.6	(9.8)	26.7	口縁部５～６本１組の装飾。内面にもあり。
a1012	253	229	SX09	底面	土師器	—	高台坏	ＢⅡ	口～脚	ロクロ	ミガキ	回転糸切→台	(15.6)	8.6	6.6	内黒
a1013	253	229	SX39	埋土下位	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ミガキ・ハケメ・ナデ	ミガキ	ナデ	15.6	—	5.5	内黒
a1014	253	229	SX39	埋土下位	須恵器	—	壺	Ⅲ	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(6.8)	—	—	
a1015	253	229	SX40	埋土下位	土師器	—	坏	ＡⅡａ	口～底	ハケメ・ミガキ	ミガキ	ハケメ・ミガキ	(15.2)	—	5.4	
a1016	253	229	SX40	埋土下位	土師器	—	坏	ＢⅡｂ3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(14.0)	7.6	4.3	
a1017	254	229	SX42	埋土中位	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ナデ・ミガキ	ミガキ	ナデ	11.8	—	3.8	内黒
a1018	254	229	SX42	埋土下位	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	
a1019	254	229	SX46	1～3層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.3	5.8	4.4	
a1020	254	229	SX46	埋土Ｐ①（2回目に伴う）	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	13.5	7.5	4.4	
a1021	254	229	SX46	2層	須恵器	—	坏	b3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転篦切	(12.9)	(6.5)	3.3	
a1022	254	229	SX46	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（方向不明）	(13.4)	(6.4)	4.2	
a1023	254	229	SX46	3層	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	ヨコナデ・ハケメ	ナデ	(17.8)	(8.4)	15.9	
a1024	254	229	SX46	埋土中位	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	体	ミガキ	ハケメ		—	—	—	
a1025	254	229	SX53	掘り方底面	須恵器	—	坏	d	口～体	ロクロ	ロクロ	—	13.5	—	—	
a1026	254	229	SX53	掘り方底面	土師器	赤彩	甕	ＡⅢｂ	体	ハケメ・ナデ	ナデ		—	—	—	
a1027	254	229	SX58	埋土一括	土師器	赤彩	坏	A	口～体	ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	内外赤彩
a1028	254	229	SX73	埋土一括	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	□	ヨコナデ	ヨコナデ	—	(23.6)	—	—	口唇部赤彩　口縁部内外に４本１単位の装飾文
a1029	254	229	SX78	埋土一括	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ヨコナデ→ケズリ・ミガキ	ミガキ	ナデ	(13.6)	(6.2)	4.9	両黒
a1030	254	229	SN11	埋土一括	土師器	—	坏	ＡＩａ	口～底	ミガキ・ハケメ	ミガキ	ハケメ	—	—	—	内黒
a1031	254	229	SN12	埋土一括	土師器	—	Ⅲ	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	(12.6)	—	—	
a1032	255	230	SD01	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩｃ1	口～底	ロクロ→下端ヘラケズリ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(10.1)	5.0	3.6	内黒
a1033	255	230	SD01	埋土一括	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	頸	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	口縁部に数本１組の装飾
a1034	255	230	SD01	埋土一括	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	

第 12 表　土師器・須恵器観察表（32）

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	赤彩	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	備考
a1035	255	230	SD02	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩc3	体～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	—	6.7	—	内黒
a1036	255	230	SD02	埋土一括	須恵器	—	坏	d	口～体	ロクロ	ロクロ	—	(16.0)	—	—	
a1037	255	230	SD02	埋土一括	土師器	—	鉢	A	口～体	ミガキ	ミガキ	—	—	—	—	
a1038	255	230	SD07	埋土下位～底面	須恵器	—	甕	Ⅲ	口	叩き→ロクロ→櫛描波状文	ロクロ	—	—	—	—	
a1039	255	230	SD13	埋土一括	土師器	—	坏	ＡＩa	口～体	ヨコナデ（摩耗）	ミガキ	—	(13.4)	—	3.9	内黒
a1040	255	230	SD18	埋土一括	土師器	—	壺	B	口～体	ロクロ	ミガキ	—	15.8	—	—	内黒
a1041	255	230	SD18	埋土一括	須恵器	—	甕	Ⅲ	体	叩き	当て具	—	—	—	—	内黒
a1042	255	230	SD23	埋土一括	土師器	—	坏	ＡＩa	口～底	ヨコナデ→ミガキ・ナデ	ミガキ	ケズリ	(10.4)	—	3.5	内黒
a1043	255	230	SD23	埋土一括	土師器	—	甕	ＡⅡ	口～底	ヨコナデ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	9.0	6.2	6.9	
a1044	255	230	SD23	中央ベルト埋土	土師器	赤彩	甕	ＡⅢ	口	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	—	—	口唇部赤彩　口縁部に４？本１単位の装飾文
a1045	255	230	SD25	埋土一括	須恵器	—	坏	d	口～体	ロクロ	ロクロ	—	14.4	—	3.1	
a1046	255	230	SD26	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩd	体	ロクロ	ミガキ	—	—	—	—	内黒　体部墨書あり
a1047	255	230	SD26	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩc3	体～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（方向不明）	—	(6.8)	—	内黒
a1048	255	230	SD26	埋土一括	須恵器	—	壺	Ⅰ	口～頸	ロクロ	ロクロ		11.0	—	—	
a1049	255	230	P509	埋土一括	土師器	—	坏	ＢＩc3	口～底	ロクロ	ミガキ	回転糸切（右回り）	(14.2)	(6.0)	5.1	内黒
a1050	255	230	P509	埋土一括	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(14.9)	7.5	5.0	
a1051	256	230	２区	北東側境界付近Ⅲ層	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ミガキ	ミガキ	ケズリ	(12.0)	9.4	4.7	両黒
a1052	256	230	３区	古代検出面	土師器	—	坏	ＡⅡb	口～底	ミガキ	ミガキ	ミガキ	(8.4)	5.4	3.5	両黒
a1053	256	230	６区北端	Ⅱ層	須恵器	—	坏	c3	口～底	ロクロ	ロクロ	回転糸切（右回り）	(13.5)	5.5	4.9	外面火襷痕
a1054	256	230	—	古代面一括	土師器	—	蓋	B	体	ロクロ	ロクロ	—	(14.6)	—	4.7	
a1055	256	230	２区	旧河道検出時	土師器	赤彩	甕	ＡⅢb	頸～体	ヨコナデ・ハケメ・ナデ	ヨコナデ・ナデ	—	(16.6)	—	—	口縁部に３本１組の装飾
a1056	256	230	３区	ⅢI3p　Ⅲ層	土師器	赤彩	甕	ＡⅢa	口～底	ヨコナデ・ナデ・ミガキ	ヨコナデ・ナデ	木葉痕	(18.2)	—	26.5	口縁部に６本１組の装飾が５単位？巡る
a1057	256	230	６区北端	Ⅱ層	須恵器	—	甕	Ⅰ	口～体	ロクロ→ケズリ	ロクロ	—	(20.0)	—	(18.8)	

第 13 表　灰釉陶器観察表

No.	図版	写真	遺構名・グリッド	地点・層位	種別	器種	分類	部位	主な外面調整（旧→新）	主な内面調整（旧→新）	底部調整	備考
a1058	256	230	ⅢI05s～t	Ⅲ層	灰釉陶器	甕	c	肩～体	ロクロ	ロクロ	—	

第 14 表　縄文・弥生土器観察表（1）

No.	出土地点	器種	部位	時期(型式)	特徴	外面色調	計測値(cm)	備考
b1	SI21 南西側埋土下位	鉢	体～底	大木 8b	隆沈線文様　RL 縄文　ミニチュア土器	にぶい黄橙色	底径 2.9	
b2	SI28 埋土	壺	体	縄文後期前葉	沈線による帯縄文　円形刺突　RL 充填　内面ナデ	にぶい黄橙色		
b3	SD04 埋土	鉢	口～底	大洞 A'	口縁部平行沈線　粘土瘤　内面沈線　器面ミガキ	にぶい橙色	口径 9.2　底径 3.5　器高 4.1	
b4	SK74 埋土	注口	体	縄文後期中葉	浮彫状沈線　注口部剥落	黄橙色		
b5	SK65 埋土	鉢	口～体	弥生前期	波状口縁　突起頂部立体的　LR 縄文　体部外面炭化物付着　口縁内面沈線	明黄褐色		
b6	UM01 埋土 ·3 区北東部旧河道Ⅲ～Ⅳ層	蓋	口～体	弥生前期	外面 LR　内面下部炭化物付着	にぶい黄橙色	口径 23	
b7	ⅡH14f グリッド風倒木痕	鉢	体～底	大洞 BC	筒型　体部磨消縄文 LR 充填　体部下半突起 4 単位　内面粗いナデ	黒褐色	底径 3.2	
b8	ⅡH09dⅡ～Ⅳ層	浅鉢	口～底	弥生前期	四脚付　体部上半匹字文	にぶい黄橙色	口径 15.8　底径 5.2　器高 6.6	
b9	ⅡH14k～m 旧河道Ⅳ層・ⅡH17tⅢ層	浅鉢	口～底	弥生前期	細い沈線による変形工字文　内外面丁寧なミガキ	橙色	口径 14.5　底径 5.0　器高 7.3	
b10	ⅡI18aⅢ～Ⅳ層	鉢	口～底	弥生前期	体部変形工字文推定 6 単位　口縁内面沈線 2 条　内外面丁寧なミガキ	にぶい黄橙色	口径 17.0　底径 9.6　器高 6.8	
b11	2 区-1　旧河道Ⅳ層(SK06 付近)	浅鉢	口～底	弥生前期	口縁部変形工字文推定 4 単位　器面摩滅　小型品	にぶい黄橙色	口径 9.6　底径 5.8　器高 3.6	
b12	ⅡH11bⅢ～Ⅳ層	鉢	口～底	弥生前期	粘土瘤文様推定 4 単位　口縁内面沈線　小型品	にぶい黄橙色	口径 4.6　底径 3.8　器高 3.6	
b13	ⅡH15n 旧河道Ⅳ層	浅鉢	口～底	弥生前期	頸部沈線　ミニチュア土器	橙色	口径 4.4　底径 2.3　器高 1.8	
b14	ⅡH14k～m 旧河道Ⅳ層	鉢	口～体	弥生前期	口縁部無文　頸部段差下体部 LR 縄文　内面粗いミガキ	橙色	口径 24.0	
b15	ⅡH14k 旧河道Ⅳ層	浅鉢	口～底	弥生前期	二山小突起　外面 LR 縄文　内面ミガキ	黒褐色	口径 13　底径 4.0　器高 6.9	内黒
b16	ⅡH14k·l 旧河道Ⅳ層	鉢	口～底	弥生前期	外面 LR　底面やや湾曲　内面丁寧なミガキ	明黄褐色	口径 9.2　底径 4.7　器高 5.0	
b17	ⅡH14j·l 旧河道Ⅳ層	高坏	口～体	大洞 A	口縁部文様推定 5 単位　底部内面円文　内外面丁寧なミガキ　台部剥落	橙色	口径 13.9　底径 3.2	
b18	ⅡH14k 旧河道Ⅳ層	台付鉢	口～脚	弥生前期	全面無文　口唇平坦　内面丁寧なミガキ	橙色	口径 11.8　台部径 4.7　器高 5.9	
b19	ⅡH10dⅢ～Ⅳ層	高坏	脚	弥生前期	沈線 2 条　内面丁寧なナデ	明黄褐色	脚部径 10.0	
b20	2 区旧河道Ⅲ～Ⅳ層	高坏	脚部	大洞 A'	匹字文 3 単位　上半沈線螺旋状　底部内面円文	橙色	脚部径 4.0	
b21	ⅡH14k 旧河道Ⅳ層	鉢	口～体	弥生前期	口縁部突起下粘土瘤文様 2 段　口唇・内面沈線　体部 LR 内面やや粗いミガキ	にぶい黄橙色		
b22	ⅡH14j·k 旧河道Ⅳ層	鉢	口	大洞 A'	口縁突起立体装飾　口唇部・口縁内面沈線　外面変形工字文 ·RL	にぶい橙色		

第 14 表　縄文・弥生土器観察表（2）

No.	出土地点	器種	部位	時期（型式）	特徴	外面色調	計測値（cm）	備考
b23	ⅡH14l 旧河道Ⅳ層	鉢	口～体	大洞 A'	口縁部突起 4 単位　突起頂部立体装飾　体部上半変形工字文　下半 LR 縄文　器面摩滅	灰白色	口径 13.4	
b24	ⅡH14k～m 旧河道Ⅳ層	深鉢	口～体	大洞 A'	口唇部刻み　体部上半変形工字文　下半 LR　内面粗いミガキ	にぶい黄褐色		
b25	2 区旧河道Ⅳ層	鉢	口～底	弥生前期	口縁部突起推定 4 単位　突起頂部刻み　頸部段差下体部 LR 縄文　口縁部内面沈線　内面丁寧なミガキ	暗灰黄色	口径 8.2　底径 3.2　器高 7.5	
b26	ⅡH17qⅣ層・2 区東側中央部Ⅲ層・ⅡH14lⅣ層・ⅡH16o･pⅣ層	甕	口～底	弥生前期	頸部沈線　体部 RL 縄文条横走　内面粗いナデ	にぶい黄橙色	口径 29.5	
b27	ⅡH14･15m 旧河道Ⅳ層・2 区旧河道Ⅳ層・ⅡH14kⅣ層	深鉢	口～体	弥生前期	口唇部不規則な押圧小波状　体部 LR　内面粗いナデ	にぶい褐色	口径 14.5	
b28	ⅡH14･15m 旧河道Ⅳ層	深鉢	体～底	弥生前期	体部 LR　内面・底面粗いナデ	にぶい褐色	底径 9.0	
b29	2 区Ⅳ層	甕	口～底	弥生前期	口縁短い立ち上がり　平縁　体部 LR 縄文上半条横走　頸部内面屈曲　内面粗いナデ　外面炭化物付着	にぶい黄橙色	口径 18.6　底径 8.0　器高 34.2	
b30	ⅡH14k～m 旧河道	深鉢	口～体	弥生前期	口唇部刻み　外面全面横位ナデ調整　LR 縄文施文痕跡あり　内面粗いナデ　内外面炭化物付着	にぶい黄橙色		
b31	ⅡH14k～m 旧河道	深鉢	口～体	弥生前期	口唇部押圧小波状　体部 LR 縄文　内面粗いナデ	橙色		
b32	ⅡH14k･旧河道Ⅳ層	壺	口～体	弥生前期	口縁部文様 3 単位　頸部～体部外面丁寧なミガキ　黒斑あり	にぶい黄橙色	口径 6.0　体部最大径 16.8	
b33	ⅡH9e･p 古代検出面	壺	口～底	弥生前期	口縁部文様推定 4 単位　頸部～体部外面丁寧なミガキ　器面摩滅	にぶい橙色	口径 6.2　体部最大径 15.3　底径 5.0	
b34	2 区旧河道Ⅳ層	壺	口～体	弥生前期	口縁部・頸部下文様 4 単位　口縁突起 8 単位　外面丁寧なミガキ　内面横位ナデ	にぶい黄橙色	口径 10.8　体部最大径 26.0	
b35	ⅡI20dⅢ層・ⅡI19eⅣ層・ⅡI20eⅣ層	甕	口～体	弥生中期	口縁部突起頂部刻み　体部上半変形工字文　内面粗い横位ミガキ　外面炭化物付着	黒褐色		
b36	ⅡH16o･p 旧河道Ⅳ層	高坏か	口～体	弥生中期枡形式	口縁部突起数不明　内面沈線文　外面上半磨消縄文　沈線区画内 LR 縄文充填　体部下半 LR　外面赤彩	にぶい黄橙色	口径 30	
b37	2 区旧河道Ⅳ層	蓋	口～体	弥生前期	外面 LR 縄文条横走　内面くびれ部屈曲　外面口縁炭化物付着	暗褐色	口径 12.5	

第 15 表　土製品観察表（1）

No.	種類	出土地点	特徴	計測値(cm)	重(g)	備考
c1	土偶	2 区-1　Ⅰ層	結髪型土偶肩部(右腕)　褐色	幅(3.7)	(13.1)	c2 と同一個体か
c2	土偶	2 区-1　ⅡH15n　Ⅳ層旧河道	頭頂部結髪装飾の一部か　褐色	幅(3.7)	(10.5)	
c3	土偶	SK05	結髪部破片	幅(2.7)	9.2	弥生土偶結髪部
c4	土製紡錘車	SI02　3 層	上面・側面ケズリ痕顕著　褐色	径 6.9 厚 2.2 孔径 0.7	123.1	
c5	土製紡錘車	SI77　北東コーナー床面	表面ミガキ調整　上下面やや凹む　黒色	径 6.3 厚 2.0 孔径 0.8	87.4	
c6	土製紡錘車	SI119　南東側埋土	上面やや凹む　表面ミガキ調整	径 5.6 厚 2.3 孔径 0.8	80.6	
c7	土製紡錘車	SI132　床面	上下面平坦　表面ミガキ調整	径 4.8 厚 2.2 孔径 0.7	53.1	
c8	土製紡錘車	SI110　QN 埋土	表面ミガキ調整　褐色　破損品	径 4.9 厚 1.8 孔径 0.6	(35.5)	
c9	土製紡錘車	SI77　南西側埋土	表面ミガキ調整　側面やや外反　黒色　破損品	径 5.1 厚 2.0 孔径 0.9	(31.8)	
c10	土製勾玉	SI77　南西側埋土	完形品　表面摩滅　にぶい黄橙色	長 3.6 径 0.9 孔径 0.2	4.9	
c11	土製勾玉	SI77　北東側埋土	頭部欠損　褐色	長 3.5 径 1.0 孔径 0.2	(4.2)	
c12	土製勾玉	SI23　Pit9 埋土	頭部欠損　黒色	長(2.8)径 0.8 孔径 0.2	(1.8)	
c13	土玉	SI34　北東側埋土上位	やや偏平楕円形　貫通孔断面楕円形　灰褐色	径 1.7 厚 0.7 径 0.5	2.7	
c14	土玉	SI118　北東側埋土	偏平　片面穿孔複数回の痕跡　褐色	径 1.6 厚 0.8 孔径 0.3	2.4	
c15	土製勾玉	SI16　西半埋土	変形勾玉状　表面粗雑な調整　褐色	長 2.4 径 1.2 孔径 0.2	1.5	
c16	棒状土製品	SI126　南東側埋土中～下位	湾曲する棒状	長 4.0 径 0.8	4.8	
c17	棒状土製品	SI13　南東側埋土下位	中実棒状　1 端収束　両端欠損　表面ミガキ調整　灰褐色	長(2.5)径 1.9	(8.9)	土師器把手部か
c18	土錘	SI04　北西側埋土中位	両端平坦面　にぶい黄橙色	長 3.8 径 2.1 孔径 0.4	14.2	
c19	土錘	SI05　南東側埋土下位	表面摩滅　にぶい黄橙色	長 3.3 径 1.8 孔径 0.6	7.2	
c20	土錘	SI05　3 号カマド前床面	両端平坦面　暗褐色	長 3.8 径 1.9 孔径 0.6	12.8	
c21	土錘	SI05　東西ベルト西半 1 層	一部欠損　にぶい黄橙色	長 6.2 径 2.3 孔径 0.7	(25.5)	
c22	土錘	SI05　Ⅰ・Ⅱ期掘り方埋土	表面摩滅　にぶい黄橙色	長 3.8 径 1.8 孔径 0.4	11.0	
c23	土錘	SI07　床面	両端平坦面　にぶい黄橙色	長 3.6 径 2.2 孔径 0.6	13.9	
c24	土錘	SI07　床面	両端平坦面　にぶい黄橙色	長 3.7 径 2.1 孔径 0.6	12.8	
c25	土錘	SI07　床面	両端平坦面　褐色	長 3.8 径 1.9 孔径 0.6	9.7	
c26	土錘	SI07　床面	両端平坦面　褐色	長 3.9 径 2.0 孔径 0.6	14.0	
c27	土錘	SI07　床面	両端平坦面　灰黄褐色	長 4.1 径 2.2 孔径 0.6	14.1	
c28	土錘	SI07　床面	灰黄褐色	長 4.6 径 2.2 孔径 0.6	15.7	
c29	土錘	SI34　北西側埋土下位	穿孔やや楕円形　褐色	長 4.4 径 1.8 孔径 0.4	10.9	
c30	土錘	SI41　北東側床面	表面摩滅　褐色	長 5.1 径 1.9 孔径 0.5	12.9	
c31	土錘	SI44　北西側埋土	両端平坦面　褐色	長 4.0 径 2.5 孔径 0.6	14.3	
c32	土錘	SI44　北西側埋土下位	暗褐色	長 3.9 径 1.7 孔径 0.5	10.9	
c33	土錘	SI44　南西側埋土	褐色	長 3.8 径 1.8 孔径 0.6	12.7	
c34	土錘	SI45　中央南Ⅰ期床面	両端やや尖る　褐色	長 5.2 径 1.8 孔径 0.4	11.8	
c35	土錘	SI45　南西側 2 層	両端一部欠損　灰黄褐色	長 4.1 径 1.8 孔径 0.6	(9.8)	
c36	土錘	SI45　1 層	両端やや尖る　暗褐色	長 5.0 径 1.8 孔径 0.3	10.7	
c37	土錘	SI45　西壁際周溝	両端やや尖る　褐色	長 5.6 径 1.7 孔径 0.2	10.0	
c38	土錘	SI47　東半床面	両端やや尖る　にぶい黄橙色	長 4.8 径 1.6 孔径 0.3	7.7	
c39	土錘	SI54　南東側床面	小形　褐色	長 3.8 径 1.4 孔径 0.4	5.1	
c40	土錘	SI62　埋土下位	褐色	長 4.0 径 1.9 孔径 0.5	12.9	
c41	土錘	SI75　床面	一部欠損　褐色	長 4.4 径 2.7 孔径 0.5	(20.3)	
c42	土錘	SI105　埋土	両端平坦面　灰黄褐色	長 3.9 径 2.3 孔径 0.6	22.1	
c43	土錘	SX48　P①焼成面	両端平坦面　褐色	長 4.0 径 2.0 孔径 0.6	12.4	
c44	土錘	SX61　埋土	表面全面ケズリ痕　暗褐色	長 5.2 径 2.4 孔径 0.9	20.6	
c45	土錘	SX61　底面	一部欠損　表面ケズリ痕　にぶい黄橙色	長 5.3 径 2.2 孔径 0.8	(19.2)	
c46	土錘	SX61　底面	表面ケズリ痕　両端平坦面切り落とし状態　暗褐色	長 4.8 径 2.3 孔径 0.6	20.6	
c47	土錘	SX61　埋土	表面ケズリ痕　黒褐色	長 5.2 径 2.5 孔径 0.8	25.9	
c48	土錘	SX61　上部	表面粗く凹凸　両端平坦面　穿孔内部で曲がる　暗褐色	長 5.0 径 2.2 孔径 0.6	21.2	
c49	土錘	SX61　埋土	表面粗い　両端平坦面　暗褐色	長 6.0 径 2.4 孔径 0.6	28.5	
c50	土錘	SX61　埋土	暗褐色	長 4.7 径 2.1 孔径 0.8	16.7	
c51	土錘	SX61　埋土	一部欠損　暗褐色	長 6.2 径 2.5 孔径 0.8	(25.8)	
c52	土錘	SX61　埋土	一部欠損　にぶい黄橙色	長 5.8 径 2.4 孔径 0.8	(22.0)	

第 15 表　土製品観察表（2）

No.	種類	出土地点	特徴	計測値(cm)	重(g)	備考
c53	土錘	SX61　埋土	表面粗い　両端平坦面　一部欠損　暗褐色	長 5.4 径 2.6 孔径 0.6	(27.3)	
c54	土錘	SX61　埋土	表面粗い　両端平坦面切り落とし状態　暗褐色	長 4.5 径 2.5 孔径 0.8	24.9	
c55	土錘	SX61　底面	一部欠損　表面粗い　暗褐色	長 5.2 径 2.3 孔径 0.8	(23.2)	
c56	土錘	SX61　底面	表面粗い　褐色	長 5.9 径 2.5 孔径 0.6	29.4	
c57	土錘	SX61　底面	表面粗い　暗褐色	長 6.0 径 2.2 孔径 0.8	23.5	
c58	土錘	SX61　底面	断面形やや偏平　にぶい黄橙色	長 5.6 径 2.1 孔径 0.6	27.0	
c59	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面切り落とし状態　にぶい黄橙色	長 4.7 径 2.1 孔径 0.6	24.5	
c60	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面切り落とし状態　灰黄褐色	長 6.0 径 2.4 孔径 0.8	29.0	
c61	土錘	SX61　底面	両端平坦面　暗褐色	長 5.1 径 2.5 孔径 0.6	27.2	
c62	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面　暗褐色	長 5.6 径 2.4 孔径 0.8	25.8	
c63	土錘	SX61　底面	一部欠損　表面粗い　暗褐色	長 5.2 径 2.4 孔径 0.8	(21.1)	胎土分析試料 No.10
c64	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面　にぶい黄橙色	長 6.2 径 2.4 孔径 0.6	29.8	
c65	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面　黒褐色	長 5.8 径 2.4 孔径 0.8	26.6	
c66	土錘	SX61　底面	表面粗い　両端平坦面　黒褐色	長 4.7 径 2.3 孔径 0.8	18.4	
c67	土錘	SX61　底面	表面ケズリ痕　黒褐色	長 4.6 径 2.3 孔径 0.8	16.8	
c68	土錘	SX61　底面	表面粗い　暗褐色	長 5.3 径 2.4 孔径 0.8	23.6	
c69	土錘	SX61　底面	表面粗い　黒褐色	長 5.4 径 2.3 孔径 0.8	22.7	
c70	土錘	P10　埋土	一部欠損　表面摩滅　にぶい黄橙色	長 3.6 径 1.6 孔径 0.6	(7.5)	
	土錘	SI05　2 号カマド燃焼部上部	破損品　黒褐色	孔径 0.5	(1.9)	

第 16 表　焼成粘土塊一覧

No.	出土地点	層位	破片数	重量(g)
1	SI01	QNW 床面	1	3.45
2	SI02	QSE 埋土下位	1	15.36
3	SI03	QNW 埋土	1	7.5
4	SI04	カマド前炭化物範囲	1	2.43
5	SI04	QNE 埋中	2	15.58
6	SI05	QSE 床面	1	2.21
7	SI05	QSW Ⅰ期埋土	1	14.68
8	SI05	検出面	1	13.2
9	SI11	QNE 上半	1	18.9
10	SI12	QNW 埋土下半	1	13.33
11	SI16	QSE 上半	1	7.25
12	SI16	QNE 埋土上層	1	3.44
13	SI21	QSE 床面	1	4.56
14	SI23	QSE 東壁	1	4.69
15	SI24	カマド床面	8	58.25
16	SI24	検出面	1	4.77
17	SI26	南半床面	1	9.56
18	SI26	南半	1	7.41
19	SI27	南半上層	1	38.29
20	SI27	北半上層	2	32.12
21	SI38	カマド内	1	12.47
22	SI41	QSE 埋土	1	3.57
23	SI43		1	34.9
24	SI45	QSE 埋土 2 層	1	3.69
25	SI59	QNE 埋土下位	1	11.98
26	SI59	東ベルト埋土上位	1	17.44
27	SI62	埋土	2	17.27
28	SI77	QSW 埋土	1	3.72
29	SI84	カマド	6	27.95

No.	出土地点	層位	破片数	重量(g)
30	SI86	QSW 埋土下層	1	18.9
31	SI88	QNE	1	4.4
32	SI94	Pit1(北)	1	33.92
33	SI95	QNW 埋土	2	33.92
34	SI95	QSW 埋土	3	69.29
35	SI98	QNW 埋土下層	1	4.47
36	SI99	QSE 3 層目	1	2.5
37	SI103	QNW 埋土上位	1	2.35
38	SI107	QNE	1	9.8
39	SI115	検出面	2	52.1
40	SI121	QNW 埋土上位	1	7.5
41	SI121	QNW 1 層目	2	21.2
42	SI121	QNE ベルト	3	12.9
43	SI121	QNE ベルト	3	396.3
44	SI132	QNW 埋土下位	1	8.5
45	SI135	QNW 埋土	1	3.8
46	SK81	埋土	1	25.44
47	SK138	埋土	1	2.88
48	SK148	埋土	1	57.08
49	SX34		7	44.78
50	SX38	埋土	1	5.83
51	SX50	古期面	4	40.67
52	SX83	埋土	1	5.4
53	SD08	埋土	1	6.72
54	2 区-2	Ⅲ層検出時	2	9.61
55	2 区-1	Ⅲ層	1	5.71
56	3 区-1	表土一括	2	17.24
57	2 区-4	旧河道西トレンチ埋土	1	3.39
58	不明		1	2.3

第 17 表　石器・石製品観察表（1）

No.	出土地点	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	特徴	石質
d1	SI10　中央埋土上位	石鏃	3.3	1.5	0.4	1.4	凹基有茎	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d2	SI38　北東側埋土～床面	石鏃	4.2	1.6	0.6	2.6	平基有茎、先端欠損	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d3	SI45　南西側床面	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.8	凹基無茎	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d4	SK62　埋土	石鏃	3.9	1.9	0.7	3.9	平基有茎、全体に分厚い未成品か	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d5	UM04　埋土	石鏃	2.8	1.5	0.4	1.3	アメリカ式石鏃	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d6	2 区-2　ⅡI19a　Ⅲ～Ⅳ層	石鏃	2.1	1.1	0.4	0.8	アメリカ式石鏃	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d7	2 区-2　古代面	石鏃	3.4	1.4	0.4	1.4	アメリカ式石鏃、基部欠損	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d8	SI21　南東側埋土上位	石錐	4.1	2.2	0.9	5.4	剥片一端両面加工錐部作出	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d9	2 区-1　旧河道　ⅡH14j～kⅣ層	石錐	3.2	2.0	0.8	4.6	摘み部作出、錐部先端欠損	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d10	SI34　東西ベルト掘り方	不定形石器	2.9	2.5	1.3	10.3	ラウンドスクレイパー、背面礫面残存	黒曜石　産地不明
d11	UM04　埋土	不定形石器	9.0	4.4	2.1	86.3	片面礫面残存、篦状整形	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d12	SI20　南東側埋土上位	不定形石器	9.0	5.2	2.6	102.6	横長剥片使用撥型整形、側縁両面二次加工	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d13	2 区-2　東旧河道　Ⅲ～Ⅳ層	石核	3.2	2.8	2.3	22.0	打面 3、作業面 5	頁岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d14	2 区-2　旧河道(SK06 付近)　Ⅳ層	磨製石斧	7.9	4.3	3.2	142.1	刃部欠損	ホルンフェルス　北上山地・奥羽山脈基盤　古生代の頁岩が中生代白亜紀に変成
d15	SI25　南東側埋土	磨製石斧	14.4	3.9	2.8	267.6	乳棒形、刃部欠損部敲打痕、転用敲石	ホルンフェルス　北上山地・奥羽山脈基盤　古生代の頁岩が中生代白亜紀に変成
d16	SI34　カマド前床面	磨製石斧	4.9	4.4	2.5	76.3	基部欠損	安山岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d17	SI54　南西側埋土上位	磨製石斧	9.9	6.3	3.9	384.4	側縁敲打整形段階未成品、刃部側欠損破損品	砂岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d18	2 区-1　ⅡH12d　Ⅲ～Ⅳ層	磨製石斧	8.2	5.1	3.3	167.1	側縁敲打剥離整形、石斧未成品か、破損品	ホルンフェルス　北上山地・奥羽山脈基盤　古生代の頁岩が中生代白亜紀に変成
d19	SI40　埋土中位～下位	礫器	17.5	9.2	4.4	948.0	偏平礫両面側縁敲打剥離整形、石斧未成品か	玢岩(岩脈)　奥羽山脈　新生代新第三紀
d20	SI32　カマド煙道埋土	敲磨器類	8.5	5.5	3.5	49.9	石冠状整形、主要砥面 1 面、底面溝状整形痕	軽石　産地不明　新生代第四紀
d21	SI01　Pit3	敲磨器類	14.4	12.3	8.7	1740.4	亜角礫 2 面研磨面	安山岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d22	SI06　南半埋土	敲磨器類	11.0	8.4	7.2	1011.6	円礫全面研磨面、一部敲打痕集中凹部初期段階	安山岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d23	SI11　カマド前床面	敲磨器類	6.5	7.9	5.2	80.7	偏平礫平坦面研磨面、側縁敲打痕、中央に浅い凹部	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d24	SI21　南西側床面	敲磨器類	10.4	8.3	6.3	355.8	亜円礫研磨面多数、多面体的、破損品	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d25	SI36　床面	敲磨器類	13.7	12.1	4.5	1019.3	偏平円礫両面弱い研磨痕、敲打痕散在	砂岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d26	SI38　埋土中位～下位	敲磨器類	13.1	9.1	4.8	464.9	偏平礫両面研磨面、平坦面側縁敲打痕散在、凹部初期	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d27	SI38　埋土中位～下位	敲磨器類	11.4	5.8	5.2	493.1	棒状礫平坦面研磨面、擦痕、1 頂端敲打痕	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d28	SI38　カマド東袖脇床面	敲磨器類	8.0	8.2	7.0	305.5	偏平円礫破断面・側縁研磨面、	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d29	SI40　埋土中位～下位	敲磨器類	10.3	8.3	4.9	673.4	偏平円礫平坦面顕著な研磨面、側縁敲打痕散在	安山岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d30	SI40　埋土中位～下位	敲磨器類	10.1	6.8	4.4	395.0	亜円礫 1 面深い凹部、反対面浅い凹部	デイサイト　奥羽山脈　新生代新第三紀
d31	SI41　北東隅床面	敲磨器類	8.6	9.2	6.5	241.6	球状礫破断面 1 面研磨面、破損品	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d32	2 区-1　旧河道　ⅡH14kⅣ層	敲磨器類	6.9	6.1	4.5	333.8	棒状亜角礫素材、側縁敲打剥離、頂端顕著な敲打面形成、石斧未成品敲打整形段階の破損品転用敲石か	玢岩　北上山地　中生代白亜紀
d33	SI44　1 号カマド煙出し	敲磨器類	11.7	8.4	4.0	268.5	偏平礫両面側面研磨面	安山岩　奥羽山脈　新生代第四紀
d34	SI90　カマド袖内	敲磨器類	8.2	5.0	3.3	71.9	破損偏平礫平坦面・破断面に研磨面形成	安山岩　奥羽山脈　新生代第四紀
d35	SI99　北東側 3 層目	敲磨器類	13.4	9.5	4.1	369.3	偏平円礫平坦面・側面に研磨面形成	安山岩　奥羽山脈　新生代第四紀
d36	SI99　北西側 2 層目	敲磨器類	18.0	9.7	7.2	1713.5	亜円礫平坦面複数に敲打痕集中	ヒン岩　北上山地　中生代白亜紀
d37	SI01　Pit3	石皿台石類	21.8	12.7	8.4	1357.7	偏平楕円形礫片面に顕著な研磨面、両端敲打痕	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d38	SI01　北東側床面	石皿台石類	24.3	10.5	9.1	3576.9	角柱状礫 1 面に研磨面、円形凹部散在	安山岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d39	SI15　南壁際床面	石皿台石類	9.7	14.1	9.1	789.5	偏平礫片面研磨面、破損品	安山岩　岩手山　新生代第四紀

第 17 表　石器・石製品観察表（2）

No.	出土地点	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	特徴	石質
d40	SI03　北東側埋土	砥石	4.5	3.4	1.1	23.0	小型砥石、砥面 4 面、片面砥溝、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d41	SI01　南東側　掘り方	砥石	9.5	5.2	3.7	274.6	角柱状礫砥面 4 面、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d42	SI05　南西側埋土下位	砥石	7.9	6.5	2.7	130.5	砥面 4 面、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d43	SI05　Pit10	砥石	9.6	6.1	2.8	208.1	砥面 4 面、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d44	SI06　南半埋土	砥石	12.0	6.5	3.5	284.1	砥面 4 面	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d45	SI05　Pit19	砥石	8.3	7.7	4.5	117.9	砥面 2 面、仕上げ砥石か、破損品	安山岩　岩手山　新生代第四紀
d46	SI07　埋土下位～床面	砥石	5.8	3.8	2.7	61.5	砥面 2 面以上、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d47	SI15　西壁際埋土上位	砥石	7.3	6.0	4.3	214.4	砥面 4 面、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d48	SI20　北西側床面	砥石	20.9	8.3	8.1	1681.2	棒状礫砥面 3 面、擦痕多数、一部被熱痕跡	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d49	SI23　南東側床面	砥石	6.4	5.6	3.9	165.8	砥面 3 面以上、擦痕多数、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d50	SI38　南東側床面	砥石	6.6	6.8	2.5	137.7	砥面 5 面、破損品再整形で貫通孔あり	流紋岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d51	SI40　埋土中位～下位	砥石	17.1	10.6	4.4	1220.7	偏平礫平坦面研磨面、弱い擦痕	頁岩　北上山地　古生代
d52	SI59　南東側埋土下位～床面	砥石	14.9	4.1	3.8	140.5	小型砥石砥面 4 面、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d53	SD06　埋土	砥石	7.1	5.8	4.2	180.5	砥面 5 面、1 面に砥溝、破損品	凝灰岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d54	4 区-1　古代面	砥石	23.7	8.0	6.9	1805.6	大型角柱礫素材置き砥石、砥面 4 面	流紋岩　奥羽山脈　新生代新第三紀
d55	SI44　2 号カマド北側床面	砥石	9.4	7.0	6.8	586.8	砥面 4 面、一部被熱痕、破損品	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d56	SI45　Pit10 埋土	砥石	15.4	10.9	4.2	854.1	有縁石皿破損品転用砥石、裏面・破断面砥面 2 面	デイサイト　奥羽山脈　新生代第三紀
d57	SI49　カマド上部	砥石	26.3	19.4	8.3	5481.2	大型偏平礫素材 1 面砥面置き砥石、平坦面敲打痕集中、縄文時代の台石類転用か	安山岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d58	SI61　北東コーナー床面	砥石	24.2	14.7	6.0	2366.7	大型偏平礫素材置き砥石、主要砥面 2 面、他面一部砥面形成	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d59	SI66　周溝埋土	砥石	15.2	5.3	5.5	346.4	砥面 4 面	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d60	SI99　北東側 3 層目	砥石	9.1	3.6	2.0	104.2	砥面 4 面、破損品か	頁岩　北上山地　古生代
d61	SI99　北東側 3 層目	砥石	17.6	10.7	5.7	1522.5	大型偏平礫素材置き砥石、砥面 2 面、破損品	安山岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d62	SI99　北東側 3 層目	砥石	15.4	7.2	5.4	918.6	砥面 2 面、d60 と同一母岩の可能性あり	頁岩　北上山地　古生代
d63	SI135　南西側赤彩土器脇	砥石	18.3	7.9	6.8	1331.7	六角柱状礫素材置き砥石砥面 5 面	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d64	SI99　カマド西袖側床面	砥石	5.6	3.2	2.5	50.0	三角柱状礫砥面 3 面	凝灰岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d65	SI135　Pit3	砥石	14.1	3.3	2.5	127.4	砥面 4 面	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d66	SI135　南西側床面 S①	砥石	21.1	5.8	3.9	576.7	角柱状礫素材主要砥面 1 面	流紋岩　奥羽山脈　新生代第三紀
d67	SI11　南東側埋土	石棒類	16.9	4.5	1.8	182.5	横断面楕円形、側縁敲打痕未成品か、破損品	頁岩　北上山地　古生代
d68	SI40　埋土中位～下位	石棒類	12.5	4.6	1.6	140.7	全面研磨調整、両端欠損、断面形石刀状	頁岩　北上山地　古生代
d69	SI70　北東側埋土下位～床面	石棒類	14.8	2.2	1.4	80.5	断面長方形棒状礫素材、平坦面研磨、一部敲打痕集中、砥石的、破損品	頁岩　北上山地　古生代
d70	SI17　北東側埋土上位	垂飾品	3.3	2.5	0.7	6.4	偏平礫中央に自然貫通孔、周囲に黒色付着物	デイサイト　奥羽山脈　新生代新第三紀
d71	SI110　北西壁際床面	有孔石製品	3.4	3.8	1.2	18.5	偏平礫に偏って自然貫通孔	デイサイト　奥羽山脈　新生代第三紀
d72	2 区-1　ⅡH14k　Ⅳ層	臼玉	0.6	0.6	0.3	0.1	両面穿孔	滑石　北上山地　早池峰山・宮守周辺

第 18 表　金属製品観察表（1）

※〈 〉内は残存値

No.	遺構名	地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
e1	SI02	埋土中位	鉄鏃	〈9.5〉	0.6	0.5	8.0
e2	SI04	Pit1	刀子	〈9.8〉	1.3	0.3	12.8
e3	SI05	北西側掘り方埋土	棒状	〈6.8〉	0.7	0.6	18.3
e4	SI05	2.3 号カマド間埋土下位	環状	1.9	1.1	0.2	1.2
e5	SI05	F ①	鋤先	11.1	13.8	1.4	210.7
e6	SI07	南西側床面	刀子	〈19.5〉	1.1	0.4	28.5
e7	SI07	2 号カマド煙道埋土	鋤先	〈5.1〉	1.6	0.5	13.5
e8	SI09	F ①	棒状	〈20.7〉	0.8	0.5	34.5
e9	SI12	埋土中位	鉄鏃	〈8.9〉	〈2.2〉	0.3	15.2
e10	SI15	南壁際上位	鉄鏃	〈6.8〉	〈0.6〉	0.5	7.1
e11	SI16	北西側埋土下位	刀子	〈5.5〉	〈0.6〉	0.2	3.3
e12	SI17	北東側埋土下位	手鎌	〈7.5〉	〈1.9〉	〈1.2〉	15.4
e13	SI20	検出面	楔	6.8	3.3	3.0	125.2
e14	SI21	東ベルト 3 層	刀子	〈15.5〉	1.5	0.3	37.9
e15	SI21	南東側壁溝埋土	刀子	〈8.3〉	〈1.0〉	0.3	9.4
e16	SI23	北西側埋土	刀子	〈8.9〉	〈1.3〉	0.3	13.2
e17	SI23	南西側埋土	刀子	〈6.6〉	1.4	0.3	8.6
e18	SI23	南西側埋土	刀子	〈9.1〉	1.2	0.3	17.1
e19	SI23	Pit1 埋土	棒状	〈6.5〉	〈2.0〉	1.1	26.4
e20	SI23	北西側埋土	刀子	15.6	1.2	0.3	25.8
e21	SI23	Pit1 埋土	棒状	〈6.0〉	1.0	1.0	15.1
e22	SI25	北西側埋土上位	棒状	〈2.5〉	0.3	0.2	0.5
e23	SI27	ベルト 8 層埋土	棒状	〈5.3〉	0.5	0.4	4.6
e24	SI27	ベルト 8 層埋土	棒状	〈3.3〉	0.5	0.3	1.6
e25	SI27	北半埋土中位	棒状	〈5.0〉	〈0.8〉	0.3	5.9
e26	SI27	北半埋土中位	刀子	〈5.0〉	1.0	0.4	7.6
e27	SI27	北半埋土中位	刀子	〈7.4〉	1.1	0.3	9.7
e28	SI34	南東側埋土下位	手斧	7.3	4.0	2.1	96.3
e29	SI34	Pit2 埋土	刀子	〈10.6〉	1.5	0.3	20.6
e30	SI34	Pit2 埋土	刀子	〈8.1〉	1.1	0.3	13.0
e31	SI38	北西側床面	鎌	〈19.2〉	4.6	0.4	114.9
e32	SI38	北東側カマド脇床面	鉄鏃	〈7.7〉	0.8	0.4	12.2
e33	SI38	埋土下位	環状	3.3	1.8	0.4	7.3
e34	SI38	埋土下位	環状	3.4	1.8	0.4	6.8
e35	SI41	カマド燃焼部	刀子	〈7.3〉	1.1	0.3	9.3
e36	SI42	南西側埋土 2 層	鉄鏃	〈8.8〉	1.0	0.4	13.3
e37	SI42	南東側埋土 2 層	刀子	〈5.2〉	1.2	0.2	5.9
e38	SI43	北半部床面	刀子	〈12.5〉	1.5	0.4	24.8
e39	SI43	南北ベルト床面	鎌？	〈6.4〉	〈2.2〉	0.3	22.8
e40	SI43	北半埋土 1 層	刀子	〈3.5〉	0.8	0.2	3.1
e41	SI43	南半埋土 1 層	刀子	〈7.2〉	0.9	0.2	5.3
e42	SI44	南西側床面	棒状	〈3.9〉	0.6	0.6	3.0
e43	SI45	南西側埋土 3 層	鎌	〈20.0〉	3.6	0.4	118.3
e44	SI45	南西側床面	刀子	〈9.5〉	1.3	0.3	19.4
e45	SI50	検出面	ソケット状	〈6.0〉	〈3.2〉	〈1.1〉	23.6
e46	SI60	南西側床面(撹乱)	鉄鏃	5.1	3.5	0.3	10.0
e47	SI60	埋土	刀子	〈9.6〉	1.2	0.3	15.5
e48	SI60	F ①	釘	6.5	0.9	0.4	9.5
e49	SI62	埋土	棒状	〈13.4〉	0.4	0.4	18.2

第 18 表　金属製品観察表（2）

No.	遺構名	地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
e50	SI68	壁溝埋土	刀子	〈15.4〉	1.6	0.3	30.5
e51	SI68	埋土	鉄鏃	〈8.0〉	〈3.5〉	0.6	36.5
e52	SI68	埋土	鉄鏃	〈10.9〉	0.4	0.4	10.6
e53a	SI72	東壁際床面	ソケット状	〈12.0〉	〈1.6〉	〈1.4〉	67.1 ※癒着
e53b	SI72	東壁際床面	ソケット状	〈9.5〉	〈1.6〉	〈1.3〉	
e54	SI72	北側中央床面	鉄鏃	〈11.0〉	0.5	0.4	10.0
e55	SI77	東西ベルト埋土	鉄鏃	〈4.1〉	〈2.8〉	0.2	5.0
e56	SI77	南西側埋土	鉄鏃	〈7.5〉	0.7	0.4	7.4
e57	SI80	南西側埋土	鉄鏃	〈3.6〉	2.2	0.2	5.9
e58	SI87	南東側壁際	刀子	〈15.6〉	1.3	0.3	31.0
e59	SI89	埋土上位	刀子	20.1	2.2	0.4	54.5
e60	SI90	撹乱内	鋤先	〈13.4〉	〈6.5〉	1.0	49.0
e61	SI95	埋土下位	鉄鏃	〈11.6〉	3.7	0.8	30.3
e62	SI95	埋土下位	刀子	〈15.4〉	1.1	0.3	29.9
e63	SI95	埋土下位	棒状	8.1	0.9	0.5	13.1
e64	SI98	南西側埋土下位	鞘尻金具	〈6.3〉	〈3.8〉	0.8	13.6
e65	SI98	埋土下位	棒状	〈6.4〉	0.5	0.4	9.1
e66	SI98	埋土下位	鉄鏃	〈6.1〉	1.1	0.6	10.7
e67	SI98	埋土上位	刀子	〈5.8〉	0.7	0.2	7.0
e68	SI99	北東側 3 層目	鉄鏃	〈8.0〉	2.8	0.5	22.2
e69	SI99	南西側 2 層目	鉄鏃	〈5.2〉	3.4	0.2	19.1
e70	SI99	北西側 3 層目	刀子	12.3	1.4	0.3	26.5
e71	SI99	南東側 3 層目	刀子	〈9.8〉	1.9	0.7	19.0
e72	SI99	Pit7 埋土	手鎌	〈8.8〉	2.1	0.2	17.8
e73	SI99	北西側 3 層目	手鎌	〈6.2〉	2.1	0.2	10.9
e74	SI103	北東側埋土カマド周辺	刀子	〈14.2〉	1.0	0.4	17.7
e75	SI105	埋土	環状	〈4.3〉	0.8	0.1	4.5
e76	SI114	北東側埋土中位	把手付鉄鍋	〈6.8〉	6.4	0.2	76.3
e77	SI118	北側ベルト埋土	刀子	〈9.3〉	1.3	0.5	24.7
e78	SI118	北側ベルト埋土	刀子	〈7.4〉	0.9	0.4	8.2
e79	SI118	南西側埋土	刀子	〈15.8〉	2.7	0.7	37.3
e80	SI118	北西側埋土	鎌	〈19.8〉	2.8	0.2	77.7
e81	SI118	掘り方埋土	手鎌	〈8.8〉	〈1.6〉	〈1.6〉	10.9
e82	SI118	床面 f①	鉄鏃	〈15.1〉	1.4	0.8	78.5
e83	SI118	床面 f②	棒状	〈15.2〉	0.8	0.2	16.9
e84	SI118	掘り方埋土	鉄鏃	〈11.0〉	0.8	0.2	10.4
e85	SI121	北西側柱穴埋土	蕨手刀(柄)	11.0	3.5	1.0	196.6
e86	SI130	床面 F ②	鉄製獣脚	〈17.0〉	〈4.9〉	〈3.0〉	275.2
e87	SI130	床面 F ②	鉄製獣脚	〈13.6〉	4.3	1.7	194.5
e88	SI130	床直 F ③	容器片	5.5	4.2	0.2	49.8
e89	SI130	埋上 F ④	鋤先	12.4	14.0	1.0	176.0
e90	SI135	床面 F ①	鉄鏃	〈20.8〉	〈5.3〉	1.3	45.0
e91	SI135	床面 F ②	小刀	〈33.3〉	2.2	0.3	121.1
e92	SI135	床面 F ③	刀子	18.0	2.2	1.5	41.0
e93	SB01	SN05 炉	環状	〈2.4〉	0.5	0.2	2.1
e94	SB01	3J 区	棒状	〈6.7〉	0.4	0.3	12.9
e95	SB01	6 L 区	釘	〈8.1〉	1.8	1.5	66.6
e96	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	棒状	〈9.3〉	0.6	0.6	16.1
e97	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	環状	〈2.8〉	1.0	0.3	5.1

第 18 表　金属製品観察表（3）

No.	遺構名	地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
e98	SK20	埋土	鎌	〈7.9〉	〈2.9〉	0.2	30.3
e99	SK75	埋土	棒状	〈3.2〉	0.7	0.3	2.4
e100	SK134	上位	棒状	〈8.2〉	0.5	0.5	16.2
e101	SK134	埋土	手斧	〈7.3〉	3.6	2.0	127.1
e102	SX39	埋土	鉄鏃	〈6.1〉	1.0	0.4	4.6
e103	SX39	埋土	棒状	〈3.9〉	〈0.6〉	0.4	4.8
e104	SX39	埋土	棒状	〈3.9〉	0.5	0.3	1.8
e105	SD04	埋土	鎌	〈2.8〉	〈2.7〉	0.2	6.6
e106	SD18	埋土	板状	〈8.5〉	〈1.0〉	0.3	38.8
e107	P17	埋土	火打金	10.0	1.7	0.4	25.0
e108	P30	埋土	鎌？	〈6.4〉	〈1.9〉	0.3	14.5
e109	P51	埋土	棒状	〈4.0〉	〈0.8〉	0.3	3.3
e110	P129	埋土	刀子	〈5.0〉	1.0	0.3	6.0
e111	P129	埋土	刀子	〈8.7〉	1.2	0.4	18.8
e112	P292	埋土	鉄鏃	〈3.1〉	〈1.4〉	0.3	3.2

第 19 表　古銭観察表

No.	遺構名	地点・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備　　考
g1	SB01	5N 区床面	熙寧元寶	2.4	2.3	1.5	2.0	北宋　初鋳 1068 年

第 20 表　鉄滓観察表（1）

No.	遺構名	地点・層位	種類	重量(g)	備　　考
1	SI02	南東側床面	溶着滓	1.30	
2	SI04	北東側埋土中位	小片	20.30	
3	SI04	北東側埋土中位	小片	4.90	
4	SI05	カマド上位	溶着滓	11.20	
5	SI08	北西側埋土上位	溶着滓	26.40	
6	SI09	南西側埋土上層	溶着滓	0.60	
7	SI11	南東側埋土上半	炉内滓	80.10	
8	SI11	南西側埋土	椀形滓	430.10	
9	SI11	南東側埋土	溶着滓	69.40	
10	SI11	南東側埋土	鉄分の少ない鉄滓	125.40	
11	SI15	検出面	溶着滓	11.80	
12	SI15	南西側埋土上半テフラ上	溶着滓	8.60	
13	SI15	埋土下位	小片	26.30	
14	SI15	南西側埋土下半	炉内滓	218.40	
15	SI15	西壁埋土上部	溶着滓	13.60	
16	SI15	東西ベルト西半部Ⅰ～Ⅲ層	小片	0.20	
17	SI16	2 号カマド上位	炉内滓	204.20	
18	SI16	南西側埋土下位	溶着滓	6.00	
19	SI16	東半部埋土	溶着滓	1.30	
20	SI20	埋土下位	小片	9.70	
21	SI20	検出面	炉内滓、半成品、溶着滓	925.70	
22	SI22	北西側埋土～下位	溶着滓	161.80	
23	SI23	北東側埋土上位	溶着滓	1.50	
24	SI34	Pit1 埋土	小片	4.40	

第 20 表　鉄滓観察表（2）

No.	遺構名	地点・層位	種類	重量(g)	備　　考
25	SI34	Pit3 埋土	小片	2.80	
26	SI34	Pit8 埋土	溶着滓	0.70	
27	SI34	北東側埋土下位	溶着滓	42.10	
28	SI34	南東側貼床埋土下位	鉄分の少ない鉄滓	55.30	
29	SI34	南東側貼床埋土	炉壁片？	1.90	
30	SI34	南西側埋土上位	小片	4.30	
31	SI34	南東側埋土上半	炉内滓	269.80	
32	SI34	南西側埋土上半	小片	3.30	
33	SI34	埋土上位	小片	0.90	
34	SI34	北東側埋土下位	小片	19.70	
35	SI34	埋土下位	小片	16.30	
36	SI34	Pit1 埋土	小片	12.60	
37	SI34	埋土下位	小片	2.60	
38	SI34	北西側埋土下位	鉄分の少ない鉄滓	21.80	
39	SI34	西側ベルト埋土	溶着滓	20.60	
40	SI34	埋土下位	小片	9.30	
41	SI34	床面	小片	7.50	
42	SI34	貼床	小片	5.30	
43	SI34	南東側貼床埋土	小片	1.80	
44	SI34	貼床埋土	小片	101.90	
45	SI38	北東側埋土上位	溶着滓	1.10	
46	SI38	南西側床面	炉内滓、溶着滓	167.60	
47	SI38	北西側床面	椀形滓、炉内滓、溶着滓	416.40	
48	SI38	北西側埋土中位～下位	椀形滓 2、炉内滓、溶着滓	469.10	
49	SI38	北西～南西側埋土下位	椀形滓 3、炉内滓	699.70	
50	SI38	南西側埋土下位～床面	小片	3.50	
51	SI38	南西側埋土下位～床面	溶着滓	4.10	
52	SI38	北東側埋土上位	溶着滓	12.30	
53	SI39	北東側埋土下位～床面	炉内滓	47.00	
54	SI39	北東側埋土下位	炉内滓ほか	84.40	
55	SI39	北西側埋土下位	溶着滓	3.70	
56	SI39	北西側埋土下位	鉄分の少ない鉄滓	15.40	
57	SI40	南西側埋土上位	小片	1.70	
58	SI40	北西側床面	小片	3.50	
59	SI40	南西側埋土中位	炉内滓	114.50	
60	SI42	南東側埋土Ⅰ層	小片	6.80	
61	SI62	埋土	含鉄鉄滓	10.80	
62	SI93	北東側貼床埋土・Pit7 埋土	溶着滓？	10.60	
63	SI93	北東側貼床埋土・Pit7 埋土	椀形滓、炉内滓、溶着滓	273.60	
64	SB01	SN05 炉	小片	19.00	
65	SB01	SN05 炉	小片	15.60	
66	P385	埋土	溶着滓	3.50	
67	P417	埋土	小片	30.90	
68	SB01	工房内 5M 区床面	炉内滓	195.20	
69	SB01	Ⅲ～Ⅳ層（検出時）	炉内滓	108.30	
70	SB01	Ⅲ～Ⅳ層（検出時）	炉内滓	47.20	

第 20 表　鉄滓観察表（3）

No.	遺構名	地点・層位	種類	重量(g)	備　考
71	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	鉄塊系遺物	49.70	
72	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	含鉄鉄滓	46.30	
73	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	鉄分の少ない鉄滓	15.50	
74	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	溶着滓	10.10	
75	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	鉄分の少ない鉄滓	29.10	
76	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	溶着滓	4.40	
77	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	炉内滓	113.90	
78	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	鉄分の少ない鉄滓	16.70	
79	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	小片	4.90	
80	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	炉内滓	26.90	
81	SB01	Ⅲ層(検出時)	椀形滓、半製品	357.14	F①
82	SK50	埋土	小片	2.30	
83	SK57	埋土	小片	2.80	
84	SK66	埋土	小片	19.10	
85	SX14	埋土	溶着滓	5.60	
86	SX37	埋土	溶着滓	6.70	
87	SX52	焼土面	小片	1.50	
88	SD01	埋土上位	椀形滓	193.90	
89	SD26	埋土中位	鉄塊系遺物	51.70	
90	P21	埋土	小片	2.70	
91	P51	埋土	溶着滓	9.10	
92	ⅡH18S	Ⅲ層	小片	9.70	
93	2区-4	南端Ⅲ層	炉内滓ほか	30.60	
94	2区-4	Ⅲ層	炉内滓	131.50	
95	2区北東側	Ⅲ層	炉壁片？	25.70	
96	ⅢⅠ2o	Ⅲ層	炉内滓	124.30	
97	ⅢⅠ2q	Ⅲ層	炉内滓	60.10	
98	ⅢⅠ3q	Ⅲ層	半成品ほか	483.90	
99	3区	Ⅲ層	小片	64.80	
100	3区	Ⅲ層	溶着滓	10.00	

第 21 表　羽口・坩堝観察表

No.	遺構名	地点・層位	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	気道内径	備　考
l1	SI20	検出面	羽口	〈8.4〉	〈5.7〉	3.0	130.7	不明	先端部溶融、器面に棒状工具の痕跡。胎土に稲籾混入。
l2	SI23	南西側埋土	羽口	〈7.3〉	〈5.5〉	1.8	95.9	不明	胎土に砂粒混入。
l3	SI34	北西側埋土下位	羽口	〈5.5〉	〈3.4〉	2.0	35.9	不明	小片
l4	SI39	北東側埋土下位	羽口	〈6.4〉	〈3.2〉	1.7	37.3	不明	小片
l5	SI93	北東側掘り方埋土	羽口	〈2.5〉	〈3.9〉	1.5	11.3	不明	小片
l6	P20	埋土	羽口	〈4.8〉	〈6.9〉	2.9	92.8	不明	外面溶融。
l7	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	羽口	〈10.0〉	〈6.0〉	2.3	122.0	不明	胎土に稲籾混入。
l8	SB01	Ⅲ～Ⅳ層(検出時)	羽口	〈6.2〉	〈5.7〉	3.0	66.1	不明	先端部溶融、胎土に稲籾混入。
l9	SB01	Ⅲ層(検出時)	坩堝	〈6.3〉	〈5.2〉	1.1	51.1	—	内面溶融、胎土に稲籾混入。

4　遺　　物

(1)　土師器・須恵器（第 202～256 図・写真図版 188～230）

①　概要

今回の調査で最も量的に多いのが土師器・須恵器である。重量では合計 1,354 kg が出土した。年代は概ね 8～10 世紀代を中心とした製品群と捉えられ、ロクロ使用の有無で大きく 2 分される。図示したものを対象に次のように分類する。

②　分類

a　土師器

【坏】

A：非ロクロ成形の坏。器形の特徴から細分する。

Ⅰ：外面体部中位～下半に段、もしくは沈線が巡る。口縁部が内湾するもの主体。外面上半ミガキ・ナデ、下半ケズリ・ハケメ・ナデ・ミガキ調整が施される。内面ミガキ、黒色処理される。

底部の形状によって以下に細分される。

a　底部丸底ないし平底風[註1)]

b　底部平底

Ⅱ：外面体部中位に段や沈線を持たないもの。口縁部は内湾するもの、外傾するもの、外反するものがあり、器形も浅く扁平な半球状、深い半球状、平底から丸みを帯びて立ち上がるものなどバリエーションがある。外面上半ミガキ・ナデ・または全面ミガキ、下半ナデ・ケズリ・ハケメ調整される。内面はミガキ、黒色処理またはナデ・ハケメ調整など。

底部の形状によって以下に細分される。

a　底部丸底ないし平底風

b　底部平底

Ⅲ：広い底面から単純に開く器形で、内外面の器面調整にナデ、ハケメを使用するもの。底部が外側に張り出す。甕下半の製作途中で上部の積み上げを中止し、坏に変更した可能性があるもの。

B：ロクロ成形の坏。内面仕上げの状態、底部切り離し手法、再調整の有無で細分する。

(器面仕上げの状態)

Ⅰ：内面ミガキ、黒色処理を施す（一部に外面ミガキのものを含む）。

Ⅱ：内外面ともロクロ調整のみで黒色処理がなされないもの。

(底部切り離し手法)

a　静止糸切り

b　回転篦切り

c　回転糸切り

d　再調整・欠損により切り離し手法不明。

(再調整の有無)

1　外面体部下端、底面に手持ちヘラナデ・ヘラケズリ等の再調整を加える。

2　外面体部下端、底面に回転ケズリ再調整を加える。

3　再調整を加えない。

【高台坏】

A：非ロクロ成形でハの字形に開く付け高台を持つ。2点の確認。

B：ロクロ成形で、短く開く付け高台とハの字形に開く付け高台の2種がある。以下に細分する。

Ⅰ：底部から直線的に外傾して立ち上がる器形。内外面に丁寧なミガキ調整、黒色処理を施す。

Ⅱ：底部から丸みを持って立ち上がる器形。内面ミガキ・黒色処理される。

Ⅲ：底部から外傾して立ち上がり口縁部が外反する器形。内面ミガキ・黒色処理されるものと、ロクロ調整のみのものがある。

【高坏】

非ロクロ成形のA類。半球形の体部、短く開く脚部で体部外面に段を持つものと、無段のものがある。

【双耳坏】

土師質の双耳坏。ロクロ成形のB類である。2点確認している。須恵器双耳坏と同形である。

【皿】

ロクロ成形のB類である。扁平な広い底部から短く立ち上がる体部を持つ。3点確認している。

【高台皿】

全てロクロ成形のB類である。器形の特徴から細分する。

Ⅰ：直線的に開く、もしくはやや外反して口縁部に至るもの。

Ⅱ：体部中位で屈曲し口縁部が上方に立ち上がるもの。

【蓋】

ロクロ成形のB類である。2点のみ出土している。

【鉢】

A：非ロクロ成形の鉢。サイズ、器形で細分する。

Ⅰ：口径15 cm以上の中形鉢。

a　坏形

b　甕形[註2)]

Ⅱ：口径15 cm未満の小形鉢。

B：ロクロ成形の鉢。口径16.3～33.2 cm、器高10.6～16.9 cmの間に収まる。内面ミガキ・黒色処理される。

【堝】

ロクロ成形のB類である。7点出土している。口径20.0～41.0 cm、器高12.4～14.8 cmの間に収まる。内面ナデ、ハケメ調整されるものが多い。この他、把手付きの土師器堝が1点出土している。

【壺】

ロクロ成形のB類である。2点確認している。肩部に最大径を持ち、頸部が括れる器形となる。外面ロクロ、内面ミガキ、黒色処理される。

【甕】

A：非ロクロ成形の甕。器形、サイズで細分する。

Ⅰ：器高20 cmを超す大型の長胴甕。口縁部形状で細分する。

a：口縁部が長く外反、もしくは外傾して開くもの。頸部に段、または沈線区画を持つものが多い。胴部外面は縦位ハケメ・ケズリ・ナデ調整される。

b：口縁部が短く屈曲して開き頸部のくびれが弱いもの。胴部外面は縦位ケズリ・ナデ調整を主とする。

Ⅱ：器高・口径ともに 20 cm 未満の小型品。口径/器高の数値が概ね 1 以上となり短胴形となる。口縁部が長く外反して開くもの、短く屈曲して開くもの、口縁部が直立気味となるものといった種類が認められるが、個体差が大きくここでは細分せず一括する。外面は縦位ハケメ、ナデ、ケズリ、内面は横位ハケメ、またはナデ調整のものが主体である。

Ⅲ：非ロクロ成形の球胴甕。赤彩土器はこの器種に多くみられる。頸部のくびれ度で細分する。

a：くびれが弱めで、球形ないし紡錘形の胴部となるもの。

b：肩が張り頸部が強くくびれるもので、全体形状は壺と表現できるもの。

B：ロクロ成形の甕。器形・サイズで細分する。

Ⅰ：器高 20 cm を超す大型品。外面中位～下部に縦方向のケズリを施すものが大半である。内面はナデ、ハケメ調整される。

Ⅱ：体部が球形ないし、やや肩が張り括れる器形。AⅢ類に類似する。外面ミガキや赤彩が施される。

Ⅲ：器高・口径とも 20 cm 未満の小形品。大部分がロクロ調整のみであるが、外面下部～中位に手持ちヘラケズリ、回転ケズリを施すもの、内面にハケメ調整を施すものが含まれる。

【甑】

非ロクロ成形の A 類である。2 点確認している。内外面ともハケメ調整される。

【片口】

非ロクロ成形の A 類である。2 点確認している。

【小型土器】

口径・器高のいずれかが概ね 5 cm 未満の小型土器。手づくね手法による成形とロクロ成形がある。坏または鉢状を呈するもの、壺または甕形を呈するものがある。

b　須恵器

器種では坏・高台坏・双耳坏・蓋・長頸瓶・短頸壺・甕・小形土器がある。

【坏】底部切り離し技法と再調整の有無で細分する。なお、器形のバリエーションは多様で、口径と底径の比率、口径と器高の比率、底部から口縁に至る器形（直線的に外傾、下部内湾、上部外反）等の要素により複数に細分可能な余地を残すが、ここでは分析不徹底につき分類の観点には加えない。

（底部切り離し手法）

a　静止糸切り

b　回転篦切り

c　回転糸切り

d　再調整・欠損により切り離し不明。

（再調整の有無）

1　外面体部下端、底面に手持ちヘラナデ・ヘラケズリ再調整を加える。

2　外面体部下端、底面に回転ケズリ再調整を加える。

3　再調整を加えない。

【高台坏】

短く開く付け高台を持つ。3 点が出土している。

【高台皿】

浅く開く器形の高台を持つ皿。1 点確認している。

【双耳坏】

突起部分から体部にかけての破片が合計 3 点出土している。

【蓋】

宝珠形つまみを持つ坏蓋と短頸壺蓋計9点を確認している。

【壺】

Ⅰ：倒卵形の体部に細い頸部を持つ長頸瓶。高台を持つ底部破片を本類に含めた。口唇部は上方に引き出されるもの、下方に折り返すものがある。頸部下端に補強帯を持つものが含まれる。

Ⅱ：口縁部が短く直立する短頸壺。3点が出土している

Ⅲ：壺Ⅰ・Ⅱ類、甕Ⅰ類の小形版で、口径・器高が概ね5cm未満のもの。

【甕】

Ⅰ：ロクロ成形で倒卵形の胴部、平底となるもの。器高20cmを超す大型品。胴部外面下半はヘラケズリ調整されるものが多い。口唇端部は外傾して角張るもの、上方につまみ出されるもの、下方に折り返すものがある。

Ⅱ：器高20cm以下の小形甕。2点確認している。

Ⅲ：タタキ仕上げの大甕。球形の胴部で丸底気味である。内面当て具痕は同心円、放射状、平行線の各種が見られる。

③　赤彩土器

今回の調査で出土した赤彩のある土師器は破片重量合計で54,908gに達する（第22表）。個体数は掲載資料に限定した場合で67点が該当する。出土地点別では古代土器総重量のうち赤彩土器片の占める割合が25％以上を占める遺構は次の通りである。SI19（26％）、SI68（25％）、SI71（32％）、SI73（33％）、SI76（53％）、SD04（37％）、SD05（28％）、SX06（95％）、SX20（113％）、SX45（50％）、SX53（99％）、SK25（30％）、SK107（25％）、SK128（91％）。

器種は非ロクロ成形の坏・鉢・甕、ロクロ成形の坏・甕がある。赤彩の部位は口唇部、頸部内外面、体部内外面、底部内外面とバリエーションがある。口縁部～頸部の（内）外面に3～6本1組の装飾文様が5～10単位描かれるものが多い。a317は口縁内面に指頭による列点装飾が巡り、口唇部にも赤彩される。a545は器面の内外、全体的に装飾文様が描かれる。外面に稲籾圧痕を持つ。a998はロクロ成形の甕で、器面にタタキの痕跡を残す。

④　穿孔土器

出土した須恵器のうち1点に、焼成後の意図的な破損行為が行われたと考えられる痕跡が観察される。調査取り上げ段階以降についた傷とは破断面の摩耗や色調によって区別した。a510は底面に内から外に向けての穿孔を持つ壺形の小形土器である。

⑤　墨書・朱書・線刻土器

墨書土器7点、朱書土器4点、線刻土器8点がある。ここで線刻土器としたものは、すべて焼成前に細い篦状工具を用いて篦書きを加えた土器であり、完成品に刀子等で線刻を加えた土器は出土していない。

墨書形状は「轤」「十」「三」等に近い形の文字と見られ、土師器坏はすべて体部に施されている。須恵器坏では体部に施されるもの1点、体部と底部に施されるもの1点がある。

朱書土器は4点あり、すべて「十」という文字が土師器坏底部に施されている。

刻書土器は「十」もしくは「×」に近い形の篦記号が土師器・須恵器坏底面に施されるものが多い。また、坏体部に「田」もしくは「由」に近い文字が施されるもの1点（a50）、モチーフは不明であるが、坏内面全体に線刻が施されるもの1点（a103）である。このほか、鋸歯状の文様を線刻した小形甕1点（a495）が出土している。

註

1）底部平底風とは「底部は平底であるが、体部への立ち上がりで明瞭な角を成さず、丸みを持って立ち上がるもの」を指す。
2）鉢ＡⅠｂと甕ＡⅡは器形が似ているが、底部からの立ち上がりの斜度で区別している。傾斜がより斜度をもって立ち上がるものを甕、開くものを鉢とした。

(2)　灰　釉　陶　器（第 256 図・写真図版 230）

陶磁器では灰釉陶器が 1 点出土している。a1058 は猿投産壺類肩部の小片である。産地編年黒笹 90 号窯型式と考えられる。

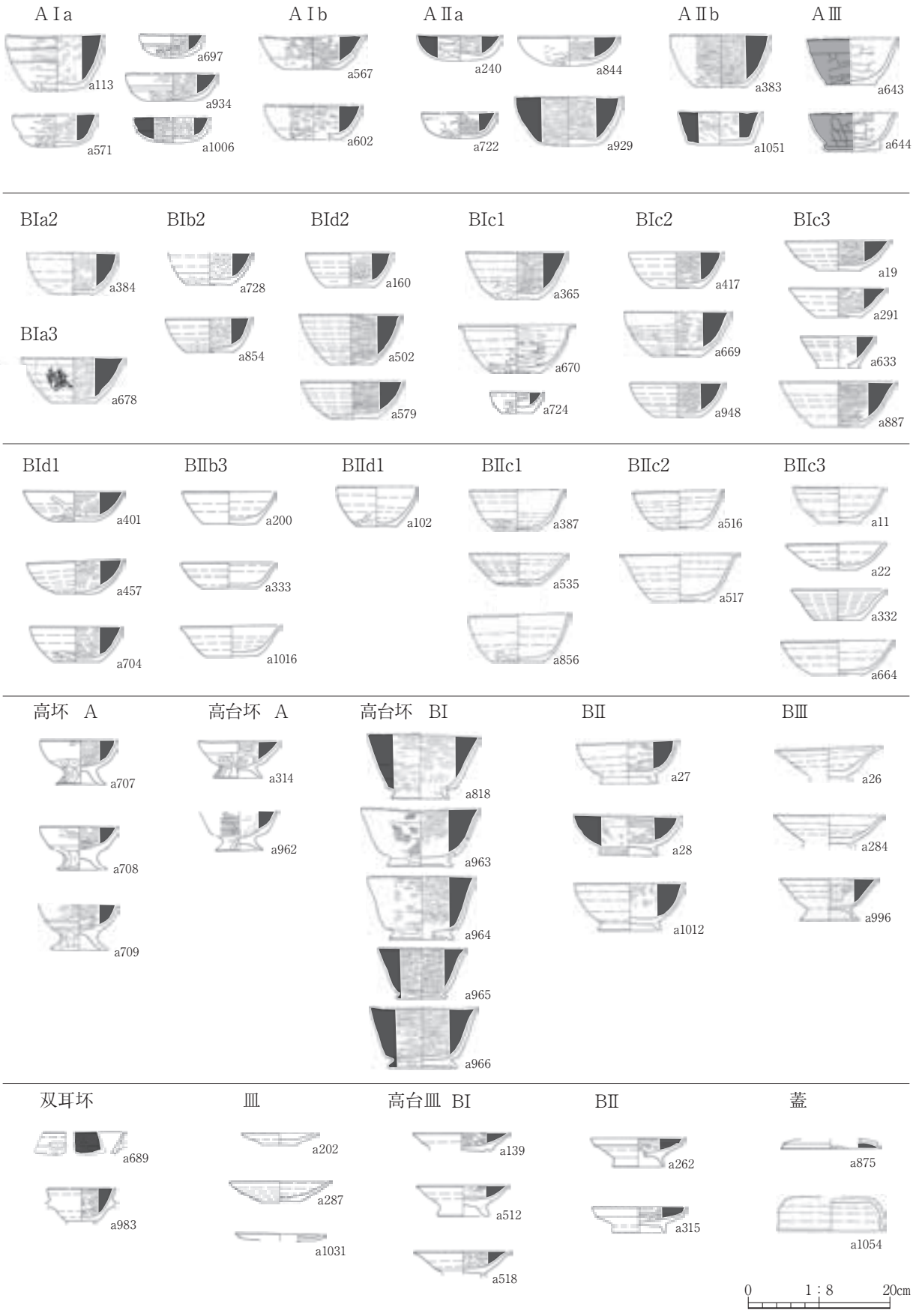
第 22 表　赤彩土器遺構別重量集計

遺構名	重量(g)	器種	遺構名	重量(g)	器種	遺構名	重量(g)	器種
SI01	27.1		SI78・79	28.3		SK107	21.5	
SI03	10.7		SI80	46.5		SK112	106.0	
SI04	42.8		SI81	93.4		SK113	1.8	
SI07	117.6		SI83	7.6		SK128	374.1	
SI08	11.1		SI84	127.6	甕	SK134	29.4	
SI09	228.3		SI88	114.5		SK149	605.6	甕
SI10	430.0	甕	SI89	816.4	坏、甕	SK154	375.9	甕
SI11	533.6		SI90	827.2	坏、甕	SK157	4.4	
SI12	4.8		SI92	36.1		SX02	13.2	
SI13	244.3		SI93	56.1		SX06	1548.2	甕
SI15	892.3	甕	SI94	35.0		SX19	11.0	
SI16	1242.9	甕	SI95	808.3	甕	SX20	90.0	
SI17	73.0		SI98	1474.3	甕	SX25	7.9	
SI19	2654.5	甕	SI99	2794.5	鉢、甕	SX35	9.4	
SI20	197.7		SI103	20.2		SX38	95.7	
SI21	220.7		SI105	158.2		SX42	1.8	
SI22	1432.2	壺	SI107	21.2		SX45	605.6	
SI23	1136.2	甕	SI108	30.4		SX46	171.5	甕
SI25	303.1		SI110	60.1		SX53	134.6	甕
SI26	586.7		SI114	195.8		SX58	35.8	坏
SI27	700.6	甕	SI115	74.4		SX67	375.9	
SI31	20.4		SI116	2342.7	甕	SX73	191.0	甕
SI33	238.9		SI118	143.0		SX76	3.8	
SI34	588.4	甕	SI120	129.4	甕	SX78	7.3	
SI35	85.0		SI121	540.0	甕	SX81	13.4	
SI36	153.3		SI122	102.9	甕	SX87	40.5	
SI37	25.0		SI124	197.5		SX90	31.3	
SI38	604.6	甕	SI125	103.1	坏	SX92	3.7	
SI39	52.0		SI126	632.1	甕	SX95	9.3	
SI40	17.2		SI127	48.1		SD01	24.7	甕
SI41	87.3		SI128	11.5	鉢、甕	SD02	63.5	
SI42	149.4		SI129	65.8		SD04	151.6	
SI43	259.4		SI130	79.6		SD05	51.5	
SI44	117.9		SI131	75.7		SD06	12.7	
SI45	549.1		SI133	3.0		SD07	67.1	
SI46	60.9		SI135	1498.4	甕	SD08	23.1	
SI47	7.3		SI136	495.8	甕	SD17	12.1	
SI49	65.4		SK01	9.6		SD18	82.3	
SI50	309.7	甕	SK03	9.1		SD23	33.7	甕
SI54	378.0	甕	SK07	35.7		SD25	13.8	
SI55	89.3		SK09	96.2		SD26	2.3	
SI59	72.8	坏	SK10	12.7		SN11	8.7	
SI60	515.6	甕	SK13	2.2		UM	311.2	
SI61	9.4		SK19	5.8		P122	79.2	
SI63	13.0		SK20	0.9		P339	50.7	
SI66	98.7		SK25	18.7		ⅡH クリッド	555.5	
SI67	46.6		SK29	85.4	甕	ⅡI グリッド	1421.1	
SI68	2821.2	坏、鉢、甕	SK37	41.8		ⅢI グリッド	587.8	
SI70	1982.7	甕	SK38	3.2		ⅢJ グリッド	11.0	
SI71	815.3	甕	SK42	10.3		2 区	3206.0	甕
SI72	321.5		SK56	9.0		3 区	2747.0	甕
SI73	565.7	甕	SK59	37.7		4 区	558.8	
SI74	11.4		SK75	2.6		5 区	43.1	
SI75	60.7		SK90	11.2		地点不明	40.7	
SI76	2584.6	甕	SK97	1.9		54908.5		
SI77	247.1		SK105	26.0				

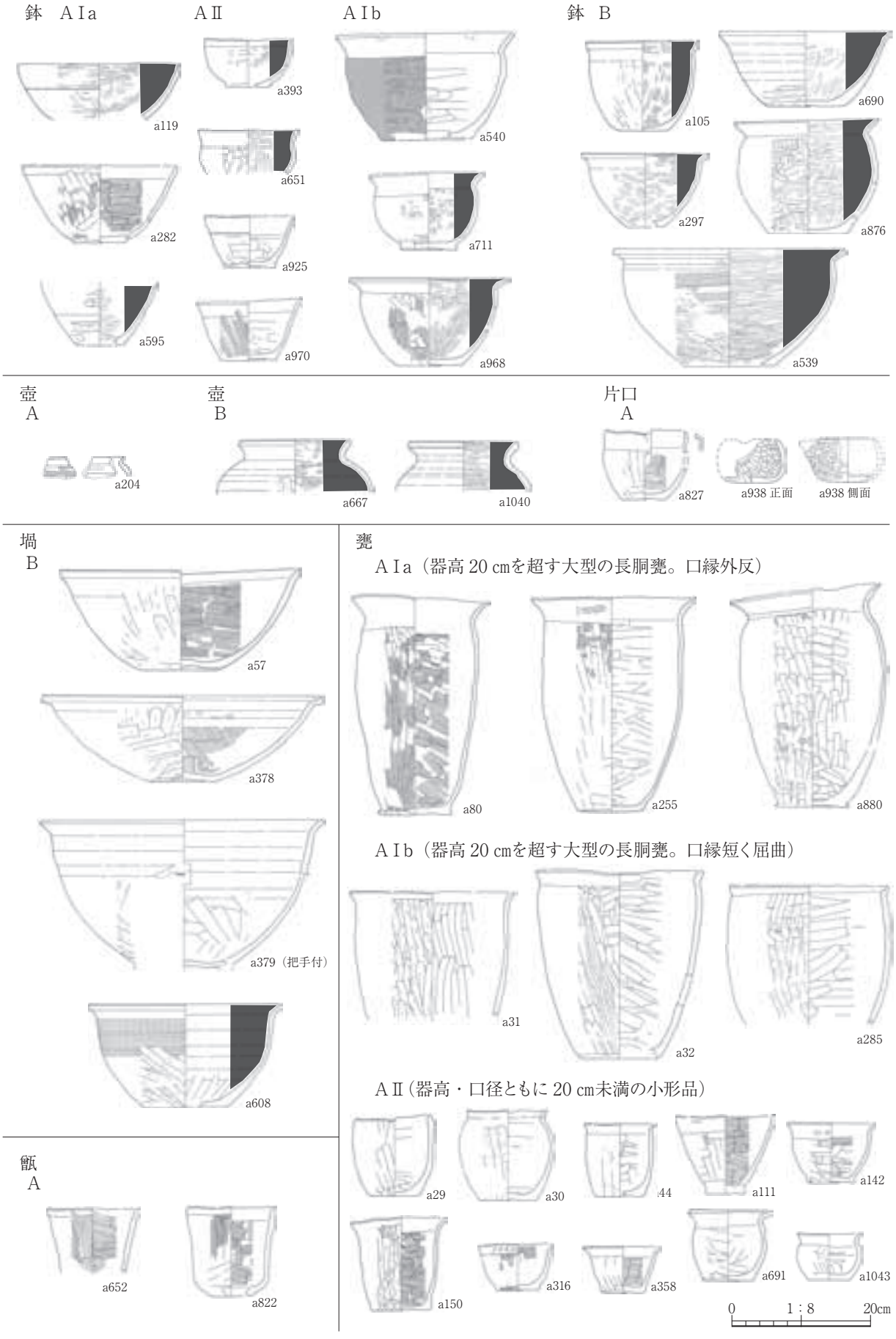
※　表中に赤彩土器の焼け弾け破片は含まない

土師器

坏

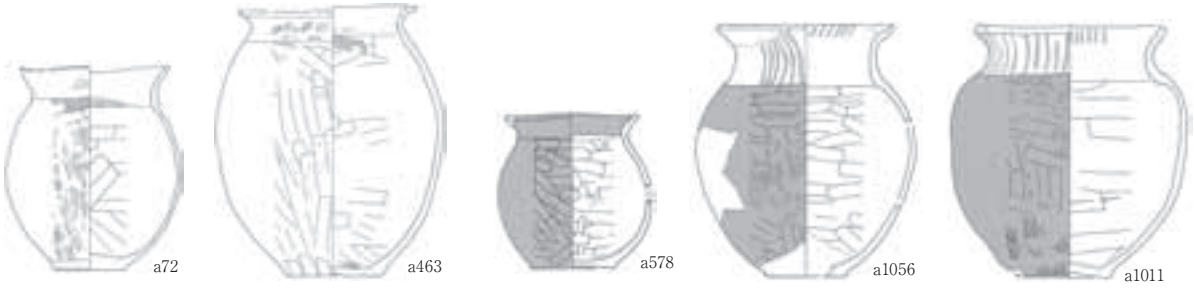


第 280 図　土師器・須恵器分類（1）

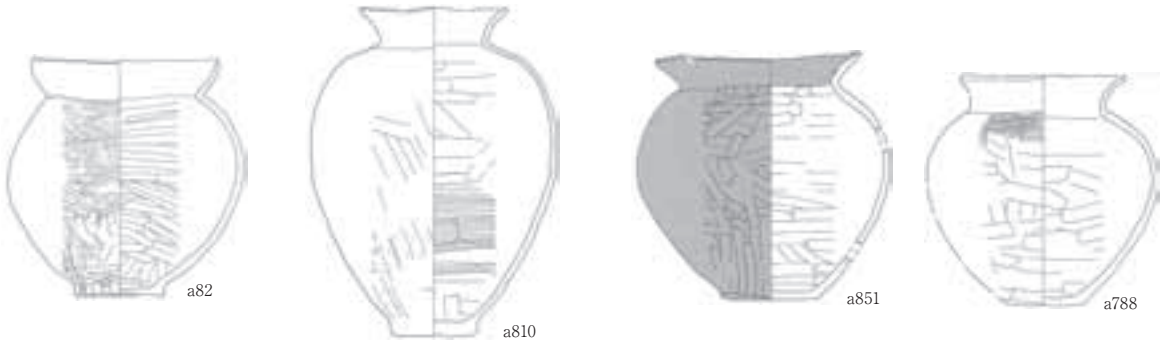


第 281 図　土師器・須恵器分類（2）

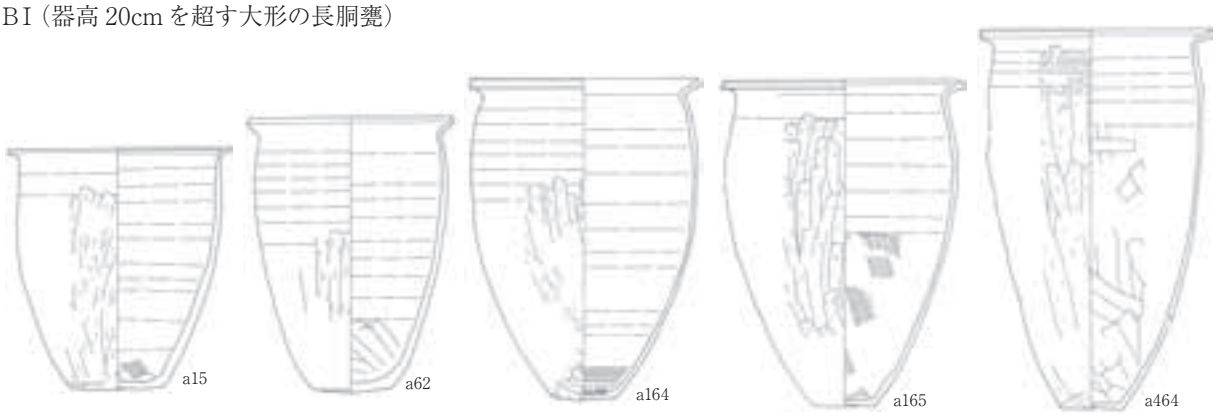
甕　AⅢa（括れが弱めで体部球形～紡錘形を呈する）



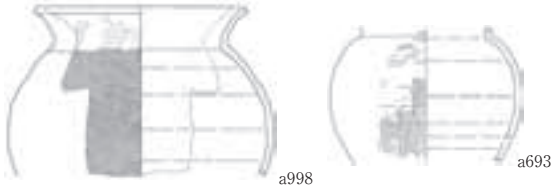
AⅢb（肩が張り頸部が強く括れる器形）



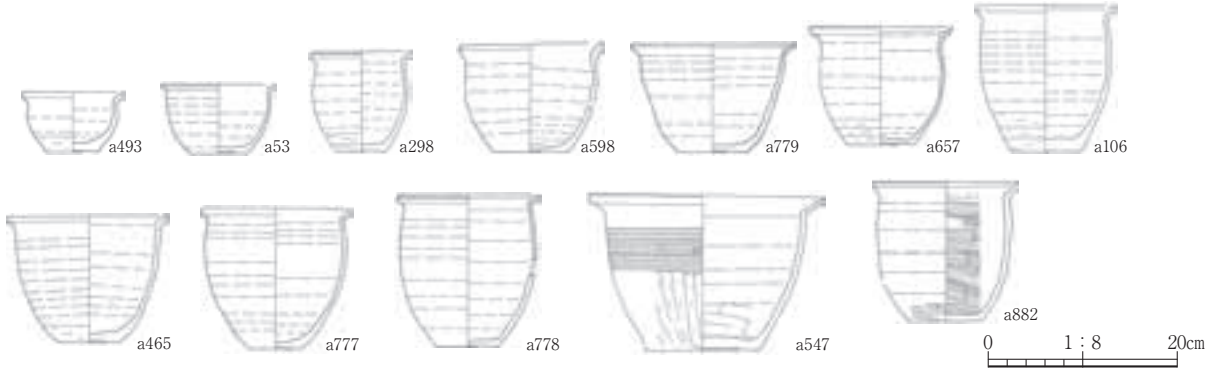
BⅠ（器高 20cm を超す大形の長胴甕）



BⅡ（体部球形ないし、やや肩が張り頸部が括れる器形）



BⅢ（器高・口径共に 20cm 未満の小形品）



第 282 図　土師器・須恵器分類（3）

須恵器

坏

a3

a390

b3

a212　a593　a645　a684　a874

c1

a161　a509

c2

a147

c3

a104　a469　a735　a990

高台坏

a249　a607

双耳坏

a149　a838

蓋

a338　a185　a986　a766　a977

甕Ⅰ

a193　a884　a1057　a793

甕Ⅱ

a194　a979

甕Ⅲ

a805a　a805b　a435a　a435b

壺Ⅰ

a99　a588　a798

壺Ⅱ

a191　a797

壺Ⅲ

a510　a107　a799　a800　a801

0　1：8　20cm

第 283 図　土師器・須恵器分類（4）

坏

ＡＩａ類

a116

ＡＩ類

a479

ＡⅡ類

a922

Ａ類

a1027

ＡⅢ類

a643

a644

坏

ＢＩd1 類　ＢＩc3 類

a627

a632

ＢⅡc1 類

a480

a535

ＢⅡc3 類

a634

鉢

ＡＩａ類

a761

ＡＩｂ類

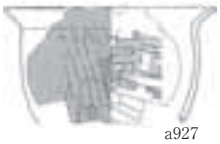
a540

a997

甕

ＡＩａ類（非ロクロ成形で器高 20 ㎝以上、口縁部外反）

a283


a927

ＡⅡ類（器高・口径ともに 20 ㎝未満の小形品）

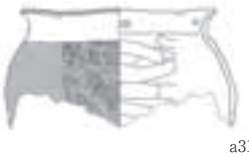
a615

a629

a204

a545

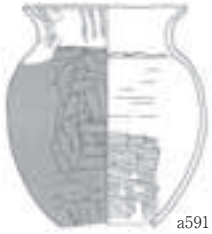
ＡⅢａ類（球胴甕で体部球形ないし紡錘形）


a317

a544

a578

a573


a591

a787

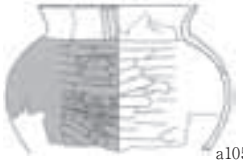
a978

a1011

a1056

ＡⅢｂ類（球胴甕で肩が張り、頸部が強く括れるもの）

a456


a1055

a498

a466

a712

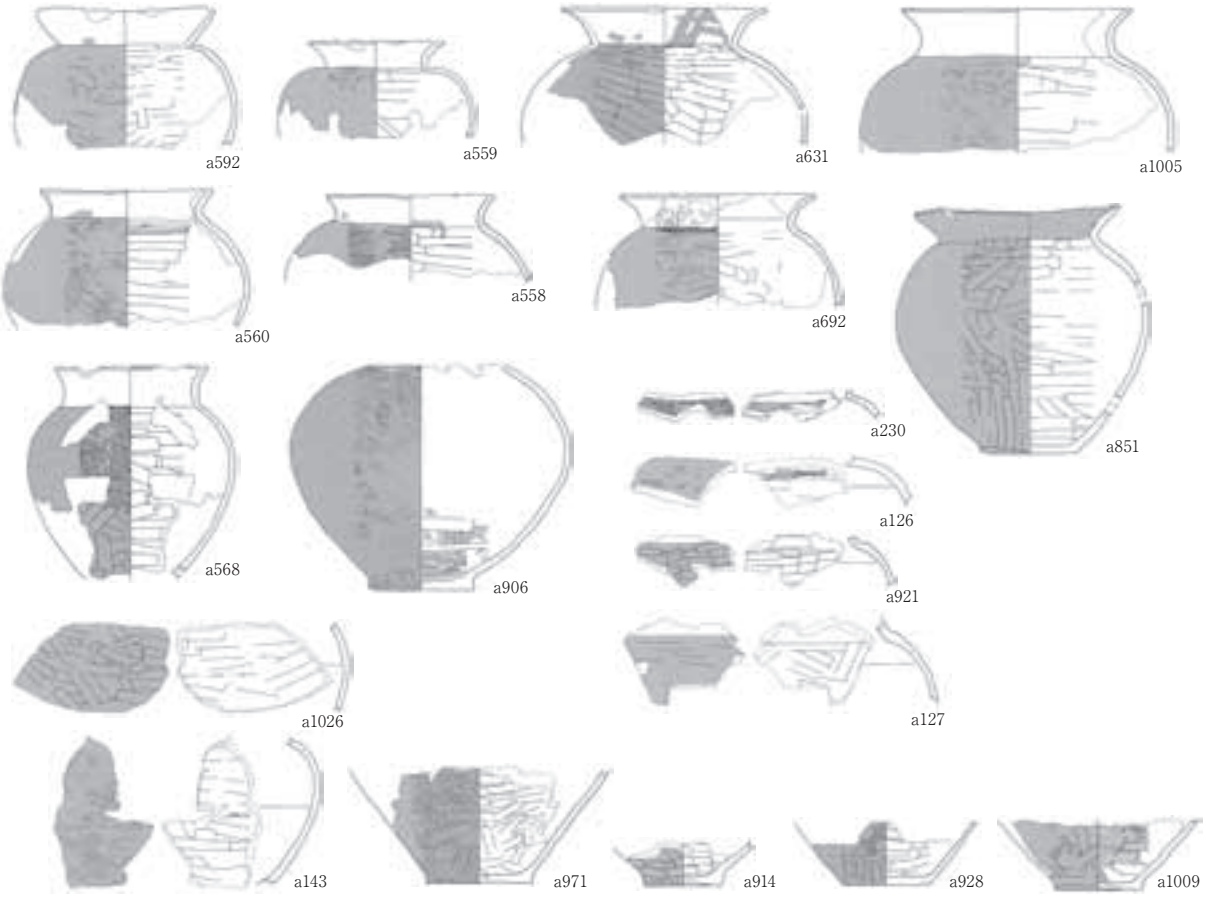
a159

0　1：8　20cm

第 284 図　赤彩土器集成（1）

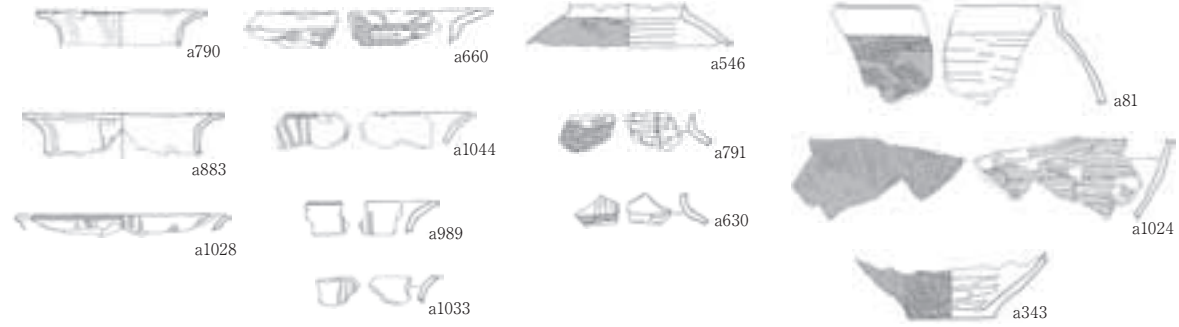
甕

AⅢb類（球胴甕で肩が張り、頸部が強く括れるもの）



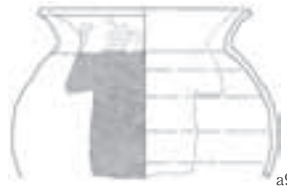
甕

AⅢ類

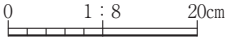


甕

BⅡ類（体部球形）



BⅢ類（器高・口径共に 20cm 未満の小形品）



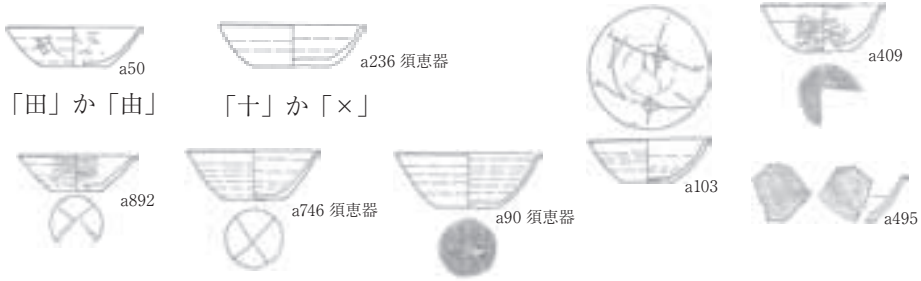
第 285 図　赤彩土器集成（2）

【墨書土器】

「轤」　「十」　「三」　「三」　判読不能　判読不能　判読不能

【朱書土器　底面に十字】

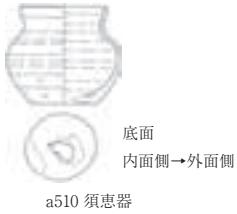
【線刻土器】

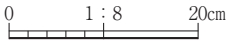


「田」か「由」　「十」か「×」

「十」か「×」　「十」か「×」　「十」か「×」

【穿孔土器】





第 286 図　墨書・朱書・線刻・穿孔土器集成

(3)　縄文・弥生土器（第 257〜259 図・写真図版 231・232）

①　概要

中村遺跡調査で出土した縄文・弥生土器は、南の千苅遺跡に接する 1 区・2 区からの出土が多く、その中でも 2 区東側を南北に走る旧河道内に形成された、遺物包含層出土の土器が主体となっている。またこれらの区域に分布する古代遺構からの出土も一定量認められる。掲載土器の分布状況を第 287 図に示したが、これを見ても分布状況の偏在が明確である。全体では重量約 60 kg で、千苅遺跡で出土した約 1,700 kg に比較すると 1/30 の量である。時代は縄文時代中期から弥生時代中期にわたり、中でも弥生時代前期を中心とした時期の資料が多い。

掲載資料の選択にあたっては、全体像を知り得るもの、型式学的な特徴を捉え得るものを中心とした。図化掲載した資料は合計 37 点である。図版は最初に遺構出土土器 6 点（b1〜6）、次いで遺構外出土土器 31 点（b7〜37）を掲載した。遺構外出土土器では概ね年代・分類に従った掲載順としている。ただし遺構出土土器の全ては、古代（奈良〜平安時代）に帰属する遺構からのものであり、縄文〜弥生時代に比定される遺構は今回の調査では存在しない。

②　遺構内出土土器

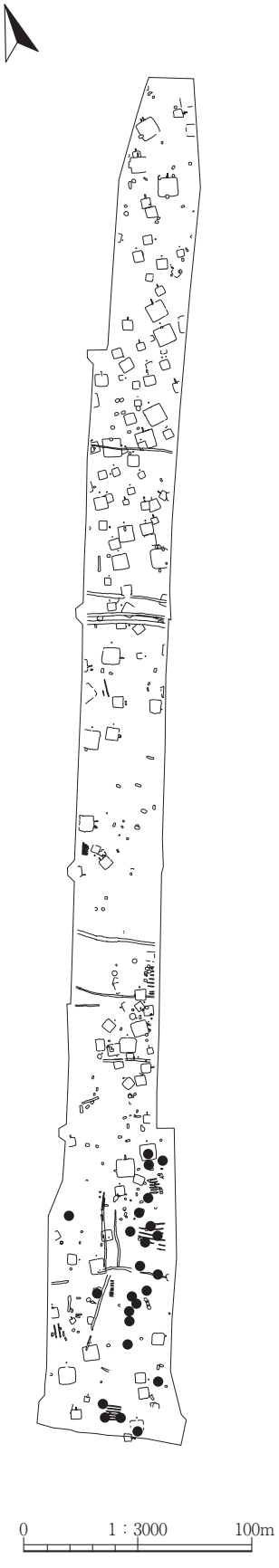
b1 は大木 8b 式小型鉢の下半。隆沈線による渦巻文と縦線文様が展開する。b2 は縄文後期前葉の壺形土器体部破片。平行沈線間縄文充填の帯縄文により幾何学文様を施す。帯縄文の接点には円形刺突文が施文される。b3 は大洞 A' 式の小型鉢である。器面は丁寧に磨かれ、口縁部に粘土瘤を伴う 3 条の沈線が巡る。口縁部内面にも沈線が施文される。b4 は縄文後期中葉の注口土器体部破片である。注口部を中心とした浮き彫り状の文様が施される。外面は全体にミガキ調整がなされる。b5 は弥生時代前期の鉢形土器である。立体的な突起の頂部が窪み、口唇端部上面には沈線が加えられる。外面の炭化物付着が著しい。b6 は弥生前期の蓋形土器。外面は LR 縄文が施され、沈線文等は見られない。内面の下半、口縁部側には炭化物が皮膜状に付着する。

③　遺構外出土土器

縄文時代晩期中葉以前の土器は少数である。b7 は大洞 BC 式の底部付近が膨らむ鉢形土器下半。円筒形の体部に曲線的で不規則な文様が展開する。底部に円形沈線が施文される。

b8〜34 は弥生時代初頭〜前期の土器。今回の出土資料の主体である。大洞 A' 式〜青木畑式に該当すると考えられる（金子 2004）。

b8 は 4 単位の匹字文を施す浅鉢で、底部に低い四脚を持つ。b9 はやや深さのある浅鉢形土器。変形工字文を描く沈線は細く鋭いも



第 287 図　縄文・弥生土器分布状況

のとなっている。b10 は広い底面から直線的に立ち上がる鉢。体部下部まで及ぶ幅広の文様帯に 3 単位の変形工字文が展開する。b11 の小型浅鉢は途切れがちの細い沈線による施文。b12 も同サイズの小型浅鉢で、平行沈線 3 条に粘土瘤を付加する。b13 はミニチュア土器。頸部に 1 条の沈線が巡る。b14 は頸部の段差より下位前面に LR 縄文施文の大型鉢形土器。b15 は丸い体部外面にやはり LR 縄文のみを施文し、頸部段差より上位の口縁部は無文となっている。二山の小突起を持つ。b16 はやや丸く安定性の悪い底部から直線的に開く器形。外面全面に LR 縄文が施される。

b17～18 は高坏。b17 は丸みを帯びる体部に小径の脚部がつく。内面底部に円形の沈線文が描かれる。b18 は無文の高坏で、器面の調整はやや粗い。b19 の高い脚部は下端に 2 条の沈線を持つ。b20 の小型脚部には匹字文が展開する。

b21～25 は鉢形土器である。b21 は口縁部に 5 条の平行沈線が巡り、突起直下に 2 段の粘土瘤が付く。口唇端部と内面にも沈線が加えられる。b22 は立体的な突起を持つ口縁部片。突起頂部には渦巻き状に沈線が加えられる。b23 の突起も立体的で、内側に貫通孔が開き橋状となっている。突起、口縁部の変形工字文ともに 4 単位で展開する。b24 はくの字状に内面側に屈曲し、口唇端部には連続する刻目が加えられる。b25 は小型で胴部地文のみの鉢形土器。

b26～31 は深鉢・甕形土器である。頸部が窄まり口径が胴部最大径より小さい b26・29 は甕形土器とするのが妥当であろう。胴部地文は単節 LR 縄文を使用するものが多いが、b26 は RL 縄文の原体。条が横走する斜位回転手法が特徴的である。b27 の口唇端部は不規則な押圧により小波状を呈する。b29 は b26 同様に条横走の縄文施文である。外面には炭化物の付着が著しい。b30・31 は頸部がごく弱く屈曲する口縁部破片。口縁部への刻目、押圧が加えられる。b30 の外面はナデ調整で無文となっているが、LR 縄文の痕跡が観察される。縄文回転施文後にこれを消去するように調整を施した手順がうかがえる。

b32～33 は精製の壺形土器である。いずれも外面は非常に丁寧なミガキにより平滑に整えられ、直立する頸部と体部は明瞭な屈曲により画される。b32 は頸部上端で外反し、肥厚する口縁部に匹字文が施文される。b33 は球胴形の体部。底部は小径だが安定する。b34 はやや大型の壺で、倒卵形の体部肩の張り出しが顕著である。頸部下には変形工字文が 4 単位で展開し、口縁部文様と対応する。

b35・36 は弥生中期の土器。b35 は山王Ⅲ層式（須藤 1980）、谷起島式（石川 2007）に比定される甕形土器上半で、黒褐色の色調を呈し、ごく細い沈線により変形工字文を描く。頸部の屈曲が明瞭である。b36 は枡形式に比定される文様を持ち、大きく開く器形からおそらく高坏の上半であると考えられる。口縁部がわずかに外反し、口縁突起部分がより外に開く形状である。口縁部の突起単位数、体部文様単位数とも推測が難しい。全体の文様構成は、下向きの弧状縄文帯が 3 条、これに挟まれた三角形の区画文が 2 段に展開する。いずれも、沈線区画内の縄文充填手法が採られている。下半は LR 縄文の横位回転施文である。また、外面の区画文内に赤彩の痕跡が残る。

b37 は弥生前期の蓋形土器と推定される。上部が強く屈曲する器形で、外面全面に条が横走する LR 縄文が施文される。外面口縁部下端には炭化物の付着が観察される。同じく外面に縄文が施される b6 の蓋形土器と比較し小型である。

（4）　土　製　品（第 260・261 図・写真図版 233・234）

①　弥生時代の土偶

今回の中村遺跡調査では 3 点の土偶が出土している（c1～3）。全て図化掲載した。出土は調査区南端に位置する 2 区南東部、弥生前期土器を多く出土した南北に走る旧河道内の遺物包含層、及びその周辺である。二子築堤関連発掘調査で出土した縄文時代晩期末～弥生時代前期にかけての土偶数は、千苅遺跡の 36 点と合計して 39 点となる。なお、土偶以外には該期の土製品は特定されない。

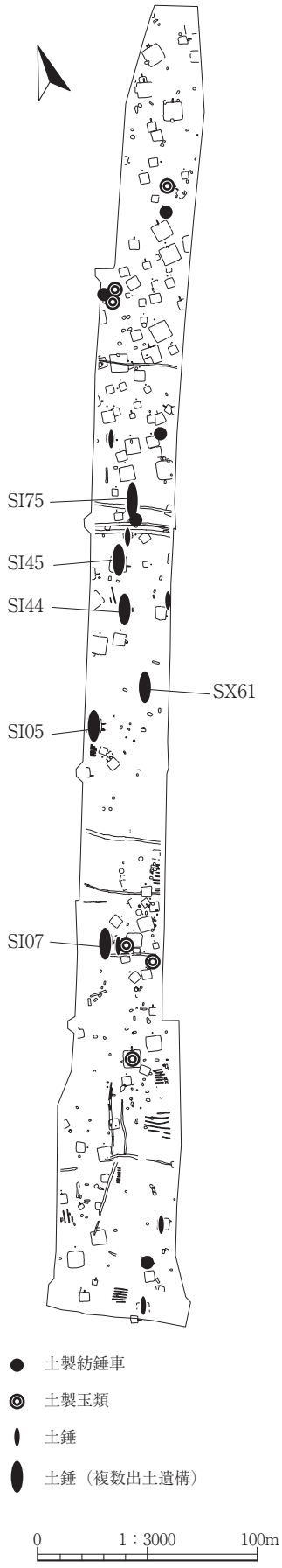
c1 は肩パットを持つ小型中実の結髪型土偶である。片面に小ぶりな胸表現の突起を持つことから、右肩部分と判断される。下面の胴部との境、首下部分との境は剥落面となっており、元は図示した状態の粘土塊に分割されていたようである。肩パット部には非常に細かく深い刺突が施される。首から胸にかけては節の小さい LR 縄文と、刺突列点を伴う沈線が加えられる。c2 は薄い円盤形の片面に滴形の突起が乗る形態の破片で、確実ではないが土偶頭部の一部と推測している。突起反対面は剥落面となっており、一回り小型となる円筒形の上に接着された状態と見られる。突起部は細かい刺突文と、沈線、刺突列で装飾され、円盤の縁も同様に沈線と刺突列が加えられている。この文様装飾技法と、刺突の大きさ、沈線幅は c1 とほぼ同一であり、胎土、色調も共通することから、c1・c2 は同一個体である可能性が高いと考えられる。c3 は結髪型土偶の頭頂部に付けられた結髪部分破片と推測される。片面は剥落しており、残存する湾曲する表面に 4 条の平行沈線、それに直交する短沈線が刻目状に付加される。

②　古代の土製品

種類は土製紡錘車、玉類、棒状土製品、管状土錘がある。出土地点は調査区北部から南部にかけて満遍なく広がり、竪穴住居跡をはじめとする遺構出土が大部分である（第 288 図）。これらのうち、土錘は後述するように特定の遺構から集中して出土する状況が認められる。

a　土製紡錘車（c4～9）

合計 6 点の出土で、全点図化掲載した。断面形台形で表面は無文、中央の孔径は 6～9 mm に収まり、概ね共通した特徴を持つが、子細に見ると差異を指摘することができる。c4 は直径、重量とも最大の数値となるが、厚さは他の製品と同等である。側面の傾斜がきつく断面では長方形に近い形状となっている。また表面には最終仕上げ段階のケズリ痕跡が顕著に観察される。他の 5 点が仕上げにミガキ調整を加えている点と異なる。c5・6 は側面の角度が寝ていて、両平坦面がやや抉れた状態に整形される。破損品の c8・9 も同類と



第 288 図　古代土製品分布状況

捉えられる。c7 は直径に比較し厚さがあり、側面、両平坦面ともに直線的な断面形状となっている。

形状、仕上げの調整技法から上記の 3 分類が可能であるが、この違いが時期差等を反映しているかどうかについては、例数が少ないこともあり判断し難い。

b　土製玉類（c10～15）

土製勾玉は 3 点がある（c10～12）。いずれも無文で、表面の調整はやや粗く、また摩滅が進んでいる。形状では緩く C 字状を描く c10、やや直線的な c11、強く湾曲する c12 といった差異がある。土玉は 2 点の出土（c13・14）。扁平気味の丸玉である。c14 は図示した面から穿孔を何度か行った痕跡が観察される。これらの他に、c15 は貫通孔の開く頭部に棒状の突起を持つ製品で、土製垂飾品の一種と考えられる。

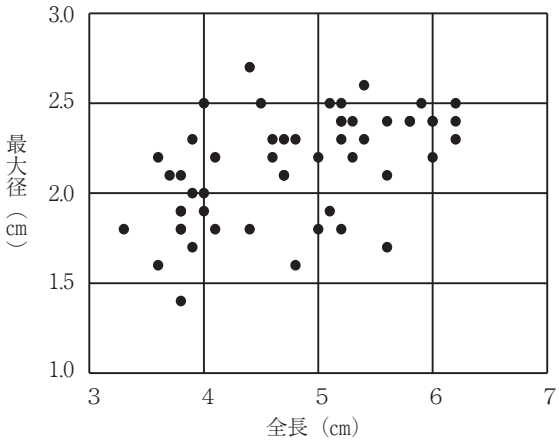
c　その他の土製品（c16・17）

c16 は一端が湾曲して尖る棒状土製品で、完存とみられる。湾曲部分の内側に整形痕かもしくは使用痕の可能性もある擦痕が観察される。c17 は断面形がやや扁平な棒状土製品の破片である。表面は長軸方向に細い単位のミガキ調整が加えられる。把手付き土器の把手部破片かもしれないが確証を得ない。

d　土錘（c18～70）

土錘は合計 61 点が出土した。このうち、破損品で全体のサイズが判明しないものを除き、合計 54 点を図化掲載している。土錘では特定の遺構で複数の出土が記録された場所がある。多い順に、SX61（26 点）、SI07（6 点）、SI05（5 点）、SI45（4 点）、SI44（3 点）となっている。特に SX61 では、底面付近に連なるような出土状態であった。本来、土錘は複数のまとまりで使用される網漁の錘であることを踏まえれば、他にも複数個が一括保管されていた場所も存在した可能性が高い。

今回出土した土錘は全て細型の管状土錘であるが、形状、サイズには一定程度の変異が認められる（第 289 図）。この点については遺構別にある程度のまとまりが看取される。SX61 出土（c44～69）は両端まで径がある程度太い寸胴形を呈し、孔径は 6～8 mm の範囲に集中する。表面の状態は整形段階で生じたと考えられる凹凸がそのまま残るものが多く、ある程度仕上げ調整がなされていても平滑とはならない製品が大部分である。また最終段階の仕上げにケズリ調整を採用するもの（c44～47）が含まれる。他遺構出土製品の大半が平滑な表面の状態に仕上げられているのとは対照的である。SI05 出土（c19～22）は c21 を除き全長 4 cm に満たない小型品で、表面の摩滅が進んでいる。SI07 出土（c23～28）は最大径が 2 cm を超えるやや胴張りで寸詰まりの形状となっており、孔径は約 6 mm で共通する。SI44 出土（c31～33）は両端に平坦面があり胴部の膨らみは目立たない。一方、SI45 出土（c34～37）、また SI47 出土 c38 を含めた 5 点は両端の窄まりが顕著で、胴部中央が張り出し平面形状としては菱形に近い。c35 を除き、孔径が 2～4 mm と非常に細い点においても他と区別される。



第 289 図　土錘サイズ分布

ここに挙げた遺構別の特徴については土製紡錘車と同様に、時期差によって生じたものなのか、あるいは同時代であっても複数の製作技法が存在したのか、即断は難しい。中村遺跡から北西約 1.5 km の距離にある西川目遺跡の調査では、9 世

紀後半代の住居跡から223点の管状土錘が集中して出土した(岩文振2005)。西川目遺跡出土品は形状、サイズにややばらつきが見られるが、表面の状態はSX61に近い印象がある。このように地域全体を対象とした分析が今後求められる。

e　焼成粘土塊

意図的な形状とは考えにくいものを一括している。図示、写真掲載は行っていない。破砕等により複数に分割されたものが一定量含まれ、かつこれらが同一個体かどうか確定できないことから件数による登録としている。登録件数は58件、破片数では93点、重量の総計は1,318ｇである。大多数が竪穴住居跡からの出土であること(1,087ｇ)、またこれに次いで焼成遺構からの出土が多いこと(153ｇ)から、概ね古代の所産であると考えられる。

土器類、土製品類の素材として持ち込まれた粘土が偶然焼成を受けたもの、土器類、土製品類の製作に関わる焼成テストピースの可能性があるもの、施設構築材の一部が焼成を受けたもの等、由来には多様性が考えられるが、個々の観察が不十分であるためこれ以上は言及し難い。

(5)　石器・石製品（第262～271図・写真図版235～239）

①　概要

今回の調査で出土した石器・石製品の総数は、剥片を含む合計点数362点、重量の総計は99,255ｇである。剥片を除き、二次加工や使用痕を持つ石器、及び石核に限定すると172点、96,324ｇである。整理にあたってはまず器種分類を行い、明らかに古代の所産と判断される砥石以外は縄文・弥生時代に属するものとして取り扱っている。ただし石器の出土地点を見ると、一定量が古代の遺構内から出土する敲磨器類、石皿・台石類は砥石とほぼ同様の分布状況と捉えられることから（第290図)、これらの中には古代の石器が含まれている可能性が高い。個別には判断し難いため古代における敲磨器類の使用状況については今後の課題である。

②　縄文・弥生時代の石器

a　石鏃（d1～7）

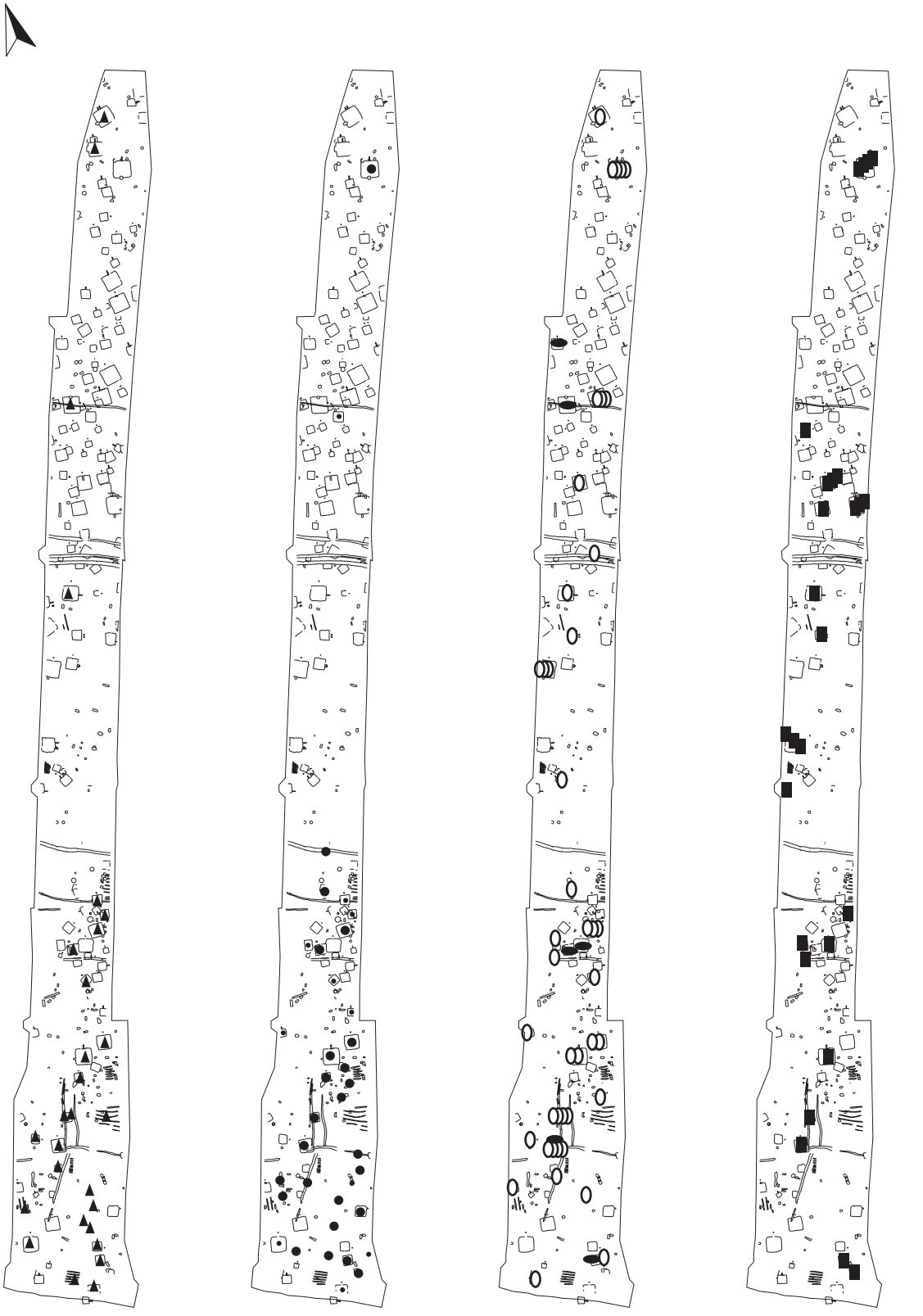
合計点数は13点。うち7点を図化掲載した。縄文晩期～弥生前期の製品が主体であると考えられる。有茎鏃が多いが、d4は基部中央に抉りを持つ凹基無茎タイプである。d3は全周に二次加工が加えられているが、全体に分厚く素材剥片の剥離面を両面に残す点から見て、未製品の可能性が高いと考えられる。今回の調査では、基部に両側縁から鋭い抉りを入れる所謂「アメリカ式石鏃」が3点出土している（d5～7)。このうちd5・6は側縁がやや内湾するカーブを描き先端が窄まる形状であるのに対し、d7は側縁が外反するという違いがある。使用石材は頁岩が大多数で、赤色頁岩1点、黒曜石1点が含まれる。

b　石錐（d8・9）

図示した2点の出土である。d8は剥片の一端に錐部を作出したもの。d9は円形の摘み部に棒状の錐部を持つ。両者とも頁岩を使用している。

c　不定形石器（d10～12）

二次加工が施された剥片石器を一括した。合計16点の出土で、うち3点を図化掲載した。破損品が多数であり、全体の形状が判明する個体は図示したものにほぼ限られる。d10は黒曜石製の小型ラウンドスクレイパーである。原石の表皮を残す剥片を利用し、打面以外の側縁に急角度のスクレイパーエッジを巡らせ、全体形状は拇指状を呈する。d11は頁岩の表皮を残す長楕円形を素材として、主に腹面側を長い剥離で覆う篦状の形状となっている。長辺側両側縁には小さい剥離面が連続し刃部を形



第 290 図　石器類分布状況

成する。d12 は頁岩製横長剥片を利用した撥形の製品で、側縁に両面二次加工を施す。末端側は片面に小剥離面が連続する。不定形石器の石材は黒曜石 2 点以外は頁岩が使用される。

d　石核（d13）

合計 3 点の出土。1 点を図示掲載した。d13 は一部に素材礫面を残す立方体の残核で、打面 3 面、作業面は 5 面と認識できる。不掲載の石核も含めて頁岩製である。

e　磨製石斧（d14～18）

未製品を含めて 7 点の出土、うち 5 点を図示掲載した。d14 は中央から折損した基部側の残存で、断面形は乳棒状。d15 は刃部の破損部が敲打面として利用されており、敲石への転用品と考えられる。d16 は刃部のみの残存で、側縁の稜線が明瞭であり定角式と判断される。d17 は側縁に敲打整形面を残す未製品である。基部先端も整形は完了していない状態で、中央からの折損により破棄されたものと考えられる。d18 は全面剥離整形段階にあり、形状、サイズ、石材から見て磨製石斧未製品の可能性が高い。千苅遺跡では石斧未製品が 166 点を数え、磨製石斧完成品の数倍に達する状態である。中村遺跡調査区においてもこの傾向の一端がうかがえる。

f　礫器（d19）

礫器は大形の剥片や自然礫を素材として、側縁に二次加工の剥離を施している石器を一括した。合計 10 点を数え、このうち 1 点を図示掲載した。サイズは全長 10 cm 超、重量 500 g を超すものが多く、不定形石器との区別は比較的明瞭だが、破損品の場合には打製石斧、剥離整形段階の磨製石斧未成品、石核との区別に曖昧な点を残す。d19 は扁平な礫を利用し両面加工により短冊形に仕上げられているもので、側縁には部分的に小剥離が連続し、刃部を形成している。不掲載資料も概ね d19 と類似したものが多い。石材の種類は比較的多く、ホルンフェルス、閃緑岩、礫岩、玢岩、頁岩等がある。

g　敲磨器類（d20～36）

素材礫の形状を留め、通常は凹石、磨石、敲石等の使用痕によって認定される礫石器を敲磨器類とした。合計点数は 60 点。うち 17 点を図化掲載した。敲打面、敲打痕の集中（凹部）、摩滅痕（スリ面）といった複数の使用痕が複合して観察されるものが多い。また、前述したように縄文～弥生時代の所産と覚しき石器と、古代に使用された可能性がある石器の区別がつかないことから、ここでは一括している。

以下、個別に特徴的な製品について記載する。d20 は三角柱状、ないし石冠状に整形された軽石素材で、図の左面が平坦なスリ面となる砥石的な製品である。図の中央面、右面には顕著な砥溝が複数残る。d21・22・25・26・29・36 は扁平な円礫の平坦面にスリ面があり、ごく浅い敲打痕が散在する。凹石の初期段階と捉え得る資料である。d24 は稜線によって区切られる複数の平坦面にスリ面が見られる状態で、所謂多面体敲石に近い状態となっている。d28 は扁平な円礫の破損品を素材としているが、意図的な破損かどうかは不明である。平坦な礫面の他に破断面にも広くスリ面が観察される。d31 も同様に円礫の破断面にスリ面が広がる。d30 は片面中央に 3 箇所の深い凹部が隣接する一方、反対面は浅い敲打痕が集中する状態である。d32 は側縁に敲打剥離面が形成され、頂端には顕著な敲打面を持つ。形状から見て、磨製石斧未成品敲打整形段階の破損品を敲石に転用したものと考えられる。d35 は側縁に顕著なスリ面があり、平坦面には擦痕が観察される。

敲磨器類の石材は、奥羽山脈起源の安山岩質溶岩を用いるものが 38 点（63％）と最も多く、次いでデイサイト 7 点（12％）、砂岩 4 点、凝灰岩・ヒン岩 3 点、閃緑岩・流紋岩 2 点等となっている。

h　石皿・台石類（d37～39）

合計点数は 7 点。うち 3 点を図化掲載した。大型の扁平礫を素材として平坦面に広いスリ面が観察

されるものを敲磨器類と区分して抽出した。今回の中村遺跡調査では規格的に縁を整形した石皿は出土していない。全てが古代竪穴住居跡からの出土であり、実際に古代集落内で使用されたものが含まれる可能性が高い。d37 は断面三角形に近い亜円礫の平坦面が広く摩滅する。d38 は板状礫が破損して角柱状となったものを利用し、片面に顕著なスリ面が広がる。d39 は大型扁平礫の片面が使用されたものの破損品である。石材は安山岩が 5 点、他砂岩とデイサイトが 1 点づつ含まれる。

ｉ　**剥片**

剥片石器素材剥片、石器製作工程で生じる調整剥片類を一括して出土地点別に登録し、点数と重量を集計した。合計点数は 190 点、重量合計は 2,930 g である。調査区内での分布状況を見ると、剥片石器と同様に南側の 1～3 区に偏在する（第 290 図）。剥片の使用石材は大部分が頁岩で、赤色頁岩、チャートが少量含まれる。

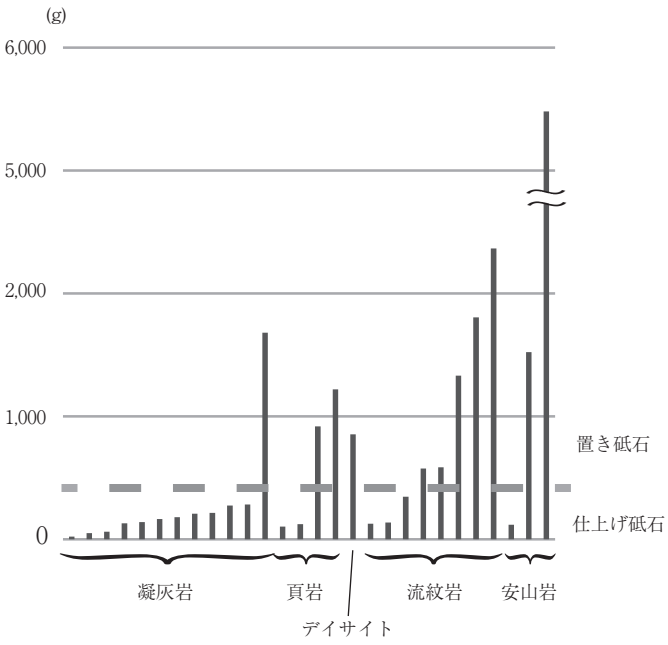
③　**古代の石器**

a　**砥石**（d40～66）

ここで砥石に登録した石器は、概ね直方体の広い砥面を持つもので、鉄器の研磨作業に用いられたものと考えられる。縄文～弥生時代に帰属するものは含まれていないと判断している。合計数は 30 点を登録、うち 27 点を図化掲載した。石器では敲磨器に次いで多い。出土地点は 27 点が竪穴住居跡内、1 点が溝埋土からの出土となっており、分布状況は調査区南端から北端まで広がる（第 290 図）。

砥石の重量分布を見ると概ね 500 g 未満の小型品とこれ以上の大型品があり、前者は仕上げ砥石、後者は置き砥石と判断される。使用された石材には凝灰岩、頁岩、デイサイト、流紋岩、安山岩があり、それぞれに小型品と大型品が含まれる（第 291 図）。このうち凝灰岩製は d48 を除き、ほぼ仕上げ砥石の小型品に限定される一方、流紋岩製、安山岩製では大型の置き砥石が多数となる。石材による粒度の違いを利用した状況である。形状では、小型品は中央が窄まる細長い直方体を呈するものが主体で、中央から破損したものも比較的多数出土している。d44・52・59・65 等が典型的な例である。大型品では角柱状の d54・63 等の他に、扁平板状の d51・57・58・61 等、細長い亜円礫の一部に砥面が形成される d48 等の変異がある。

d50 は一端に紐通しの穿孔がなされ、破損品を再利用した提げ砥石である。d56 は縄文～弥生時代の有縁石皿破損品を転用した砥石である。破断面に顕著な砥面が形成されていることが根拠となる。d57 も平坦面に敲打痕が観察され、縄文～弥生時代に使用された台石を転用した可能性が高い。d60・62 は石材の外観特徴が同一で、同一母岩の頁岩を利用したと考えられる。



第 291 図　砥石石材別重量分布

④　**石製品**

a　**石棒類**（d67～69）

石棒、石刀、石剣を一括する。剥離、敲打調整によって棒状に整形され最終的に研磨調整が加えられる。合計 7 点の出土。うち 3 点を図化掲載した。出土は全

て古代竪穴住居跡からのもので、うち５点は調査区南側２・３区となっているが、２点は北側の５・６区から出土している。ただし、製品そのものは弥生時代前期前後の所産と捉えている。d67 は断面不均整な楕円形で、側縁に敲打痕が観察されることから、未製品の可能性が高い。d68 は片方が鋭い横断面形を呈する石刀状に整形されている。d69 は細長い断面長方形の棒状礫で、平坦面に研磨痕が集中する。石棒類に利用される石材は全てが頁岩であり、劈開の発達により素材棒状礫の採取が容易なことがその理由であると考えられる。

b　石製品類（d70・71）

利器とは考えにくい様々な資料を一括する。合計８点を登録しており、うち２点を図化掲載した。小型扁平礫に自然貫通孔の開いたものがこのうち５点を数える。出土は全て古代遺構内であり、時期特定は難しい。d70 は貫通孔の周囲に黒色付着物が観察される。d71 は偏った位置に貫通孔が開くが、礫の中央両面から穿孔を試みた痕跡がある。天然の穴開き石を何らかの意図の元に利用した状況がうかがえる。この他、碁石の可能性がある扁平な小円礫が２点、古代竪穴住居跡内から出土している。

c　玉類（d72）

図示した１点の出土。２区南東部の包含層Ⅳ層出土で、弥生時代の所産と考えられる。小径扁平な滑石製の平玉であり、平坦面、側面ともに丁寧に研磨調整される。穿孔は両面からなされている。千苅遺跡調査では弥生時代前期の勾玉、管玉、平玉が 10 点出土している。このうち滑石製の平玉５点と d72 の特徴はほぼ共通する。

第 23 表　剥片集計

番号	遺構名	地点・層位	点数	重量(g)
D2001	SI01	QSE 埋土	1	6.1
D2002	SI01	WE ベルト２層	1	12.0
D2003	SI03	NS ベルト埋土下位	1	6.1
D2004	SI03	QNW 埋土下位	2	13.5
D2005	SI04	QSW1 層目	1	13.1
D2006	SI04	QSE1 層目	1	6.0
D2007	SI04	カマド煙出し孔	1	42.3
D2008	SI07	QSE カマド前床面	1	0.4
D2009	SI10	QNE 埋土	1	3.0
D2010	SI11	QNE 埋土	7	47.6
D2011	SI11	QNE 埋土上位	1	7.9
D2012	SI11	QSE 埋土	1	10.4
D2013	SI11	QSE 埋土上位	2	3.3
D2014	SI11	QNW 埋土下位	4	27.5
D2015	SI11	EW ベルト内床面	1	8.3
D2016	SI11	南壁際周溝	1	3.2
D2017	SI11	カマド燃焼部上部	1	0.5
D2018	SI12	QNE 埋土下位～床面	1	3.7
D2019	SI13	QNW 埋土	1	2.4
D2020	SI20	検出面	1	1.2
D2021	SI21	QSW 埋土下位	1	21.0
D2022	SI21	QNE 床面	1	11.2
D2023	SI21	QSE 埋土上位	1	10.6
D2024	SI21	QSE 埋土下位	1	20.4
D2025	SI22	QSE 埋土上位～下位	2	4.3
D2026	SI22	QNW 埋土上位～下位	1	6.8
D2027	SI23	QSE 埋土	1	3.3
D2028	SI23	QSW 埋土	3	26.5
D2029	SI25	QSW 埋土	1	6.8
D2030	SI27	北半埋土上位	2	35.4
D2031	SI31	南半埋土下位～床面	1	41.4
D2032	SI34	QNE 埋土上位	2	5.9
D2033	SI34	QNW 埋土下位	1	1.7
D2034	SI34	QSE 埋土上位	1	63.9
D2035	SI36	QSW 埋土	1	6.1
D2036	SI37	QNE 埋土中位	2	15.1
D2037	SI37	QNW 埋土上位	1	4.2
D2038	SI38	南ベルト埋土	1	26.3
D2039	SI38	西ベルト埋土	1	1.0
D2040	SI38	QSE 埋土下位	1	1.4
D2041	SI40	QSW 埋土上位	1	44.4
D2042	SI54	QNE 埋土上位	1	0.4
D2043	SI54	QNE 床面	1	6.0
D2044	SI68	埋土	1	8.9
D2045	SK06	埋土	1	4.3
D2046	SK07	埋土	1	8.7
D2047	SK50	埋土	1	7.4
D2048	SK105･106	埋土	1	2.6
D2049	SX02	埋土上位	1	0.3
D2050	SX28	埋土	1	15.6
D2051	SX31	埋土	1	0.6
D2052	SX34	埋土	1	0.8
D2053	SX42	埋土中位	1	25.2
D2054	SD01	埋土	1	22.1
D2055	SD04	埋土	2	58.9
D2056	SD07	埋土	2	27.7
D2057	SD08	埋土	2	81.3
D2058	SN05	埋土	1	7.4
D2059	UM06	埋土	2	4.7
D2060	P017	埋土	4	7.0
D2061	P103	埋土	1	6.0
D2062	P228	埋土	1	3.5
D2063	1 区	ⅡH10cⅢ～Ⅳ層	1	13.2
D2064	1 区	ⅡH11bⅢ～Ⅳ層	4	67.6
D2065	1 区	ⅡH12dⅢ～Ⅳ層	1	4.1
D2066	2 区-1	Ⅰ層	6	315.1
D2067	2 区-1	中央東側Ⅰ層	4	51.4
D2068	2 区-1	南東隅Ⅲ層	2	42.0
D2069	2 区-1	旧河道検出面	3	40.9
D2070	2 区-1	旧河道ⅡH13hⅣ層	2	27.0
D2071	2 区-1	旧河道Ⅳ層(SK06 付近)	1	2.3
D2072	2 区-1	旧河道ⅡH14kⅣ層	10	87.3
D2073	2 区-1	旧河道ⅡH14jkⅣ層	5	21.5
D2074	2 区-1	旧河道ⅡH14 kmⅣ層	4	132.6
D2075	2 区-1	旧河道ⅡH14jⅣ層	4	6.5
D2076	2 区-2	南東部旧河道Ⅲ～Ⅳ層	3	57.0
D2077	2 区-2	ⅡH9q 古代面	1	4.7
D2078	2 区-3	ⅡH17tⅢ層	1	5.3
D2079	2 区-3	ⅡH18tⅢ層	2	9.3
D2080	2 区-3	ⅡI18bⅢ～Ⅳ層	1	4.7
D2081	2 区-3	ⅡI19aⅢ層	1	24.5
D2082	2 区-3	ⅡI19cⅢ～Ⅳ層	1	9.3
D2083	2 区-3	ⅡI19cⅢ層	1	10.4
D2084	2 区-3	ⅡI20cⅢ～Ⅳ層	2	23.7
D2085	2 区-3	ⅡI20dⅢ層	3	21.4
D2086	2 区-3	ⅡI20bⅢ層	1	144.3
D2087	2 区-4	Ⅰ～Ⅱ層	1	30.7
D2088	2 区-4	古代面	1	186.9
D2089	2 区-4	旧河道Ⅲ層	1	7.8
D2090	3 区-2	古代面	11	185.5
D2091	3 区-2	検出面	8	248.7
D2092	3 区-2	旧河道Ⅲ～Ⅳ層	1	2.8
D2093	3 区-2	ⅢI5stⅢ層	3	15.9
D2094	3 区-2	ⅢI5tⅣ層	3	9.1
D2095	3 区-2	ⅢI5tⅤ層	1	3.1
D2096	3 区-2	ⅢI3nqⅢ～Ⅳ層	5	201.3
D2097	4 区-1	北西部撹乱	1	4.9
D2098	4 区-1	南側古代面	1	20.6
D2099	4 区-1	Ⅰ層	1	2.8
D2100	SI99	QNW3 層目	1	4.6
D2101	SI99	Pit8	1	5.7
合計			190	2,931.0

(6) 金　属　製　品（第 272～278 図・写真図版 240～244）

本遺跡から出土した金属製品には鉄鏃、刀類、刀装具、工具類、農具類、刀子、鉄製煮炊具、鉄製獣脚、火打金などがある。また欠損などのため、用途・形状が不明確なものは不明製品として一括し、形状（ソケット状・棒状等）のみを記載している。掲載点数は鉄鏃 20 点（内、茎部のみ 7 点）、蕨手刀 1 点、小刀 1 点、鞘尻金具 1 点、手斧 2 点、楔 1 点、釘 2 点、鋤先 4 点、手鎌 4 点、鎌 7 点、刀子 33 点、把手付鉄鍋 1 点、鉄製獣脚 2 点、容器片 1 点、火打金 1 点、不明製品（ソケット状 3・棒状 22・板状 1・環状 6）点の計 112 点である。

①　鉄鏃

鉄鏃と判断できるものは 21 点出土している。このほか長頸鏃の頸部破片は不明製品（棒状）に含まれている可能性があり、数自体は若干増加するかもしれない。出土した鉄鏃は無頸、短頸、長頸鏃に大別でき、その形態から 7 形式分類が可能である。なお名称については杉山 1988、津野 2001 を参考にした。

a　無頸鏃

【無頸長三角形式】

1 点の出土（e55）。平面形は長三角形を呈するもので頸部がないものである。刃部は両側縁に付き、底辺部は深く基部に入り込む腸抉が形成される。

b　短頸鏃

【三角形式】

1 点の出土（e90）。鏃身が三角形を呈する短頸鏃で、刃部が両側縁に形成されている。底辺部は大きく基部に入り込む腸抉が形成される。頸部関は台形関で、茎部断面は方形である。

【長三角形式】

6 点の出土（e9・e46・e51・e57・e68）。e9 は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部は欠損のため定かではないが、やや深い腸抉を持つとみられる。頸部関は角関で断面は平形である。e46 は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部には深く基部に入り込む腸抉が形成される。e51 は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部には深い腸抉を持つ。頸部関は角関、茎部断面は方形である。e57 は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部には深い腸抉を持つ。頸部は途中で欠損しており関は不明であるが、断面は方形である。e68 は鏃身が長三角形を呈する短頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部にはやや深い腸抉を持つ。頸部は錆で判然としないが、角関と思われる。茎部断面は方形である。

【柳葉式】

1 点の出土（e61）。先端が尖り長三角形を呈するが側縁が途中で内側に窪み、再度広がりながら基部へと移行する形態を呈する。刃部は両側縁に付き、底辺部は深く基部に入り込む腸抉が形成される。頸部関は角関で、茎部断面は方形である。

c　長頸鏃

【片刃箭式】

1 点の出土（e84）。古墳時代から続く形式の鏃で、鏃身部は片側の側縁のみに刃部を有する。頸部関は錆で判然としないが角関とみられる。茎部は欠損している。

【方頭（斧箭式）】

1点の出土（e82）。鏃身関部からやや開きながら直線的にのびる側縁を持ち、羽子板状の平面形を呈する。鏃身部は約17cm、刃部幅は約1.5 cmを測る。鏃身関部は錆で判然としないが、角関と思われる。

【長三角形式】

1点の出土（e101）。鏃身が長三角形を呈する長頸鏃で、両側縁に刃部が形成されている。底辺部に浅い腸抉を持つとみられる。頸部は途中で欠損しているため、全容は不明である。断面は方形である。

d　その他

残存不良などで形態が判別できないものを一括した（e10・e69・e110・e1・e32・e36・e52・e54・e56・e66）。e69・e110は鏃身下半が欠損しているため形態の詳細は不明である。e1・e10・e32・e36・e52・e54・e56・e66はいずれも鏃身部を欠損しており全容は不明であるが、長い頸部を有することから長頸鏃とみられる。

②　刀類・刀装具

刀類とそれらに装着される刀装具を一括した。

a　蕨手刀

e85は竪穴住居の柱穴埋土から出土した蕨手刀の柄で、柄長11.0 cm（現存長）、柄幅3.5 cmを測る。屈曲する柄頭には懸緒通孔が穿たれ、柄の中央に毛抜形透を持つ。この型式の蕨手刀は毛抜形透蕨手刀とも呼ばれ、蕨手刀の最終形態の型式と考えられることが多い（西澤2014）。類例は、北海道網走市モヨロ貝塚、宮城県多賀城市多賀城遺跡、岩手県陸前高田市小友町岩井沢遺跡出土のものがあり、このほか発掘調査によるものではないが、同県平泉町内より1点（大長寿院所蔵）、岩手県内より1点、福島県吉岡村内より同型の蕨手刀が出土している（八木・藤村2003）。これまで見つかっている同型の蕨手刀は未だ上記6例を数えるに過ぎず、希少な資料を追加することとなった。

b　小刀

竪穴住居の床面から1点出土している（e91）。全長33.3 cm（現存長）、刃長21.5 cmを測るもので、鋒先はフクラ鋒を呈する。鋒先近くの刀身には弱い反りがみられる。茎は下辺が上向きになり、刀身関は背側に角関を持つものである。

c　鞘尻金具

竪穴住居埋土下位から1点出土している（e64）。幅の狭い鉄の板をU字型に曲げた作りである。完全形ではないため全容は不明であるが、蕨手刀などの鞘尻金具に類似する。

③　工具類

手斧・楔・釘などの工具を一括した。

a　手斧

2点出土している（e28・e101）。いずれも袋状の受け部を持つもので、刃部が撥形に開く。刃部は袋状であるが、受け部は折り曲げて製作される。この折り曲げはやや短く、断面で見るとC字状を呈する。e28は全長7.3 cm、幅4.0 cmを測る。e101は全長7.3 cm、幅3.6 cmを測る。刃部は錆のため不明瞭であるが、いずれも片刃と見られる。

b　楔

1点出土している（e13）。長さ6.8 cm、幅3.3 cm、厚さ3.0 cmを測る。先端部を欠くが、平面は短冊形に近い。下方に向かいやや幅が狭く、薄くなっている。

c　釘

2点出土している（e48・e95）。e48は長さ6.5 cm、幅0.9 cm、厚さ0.4 cmを測るもので、断面は頭部側が長方形、身は方形を呈する。e95は長さ8.1 cm、幅1.8 cm、厚さ1.5 cmを測るもので、断面は頭部・身とも長方形である。いずれも頭部が折り曲げられている。

④　農具類

鋤先・手鎌・鎌などの農具を一括した。

a　鋤先

4点出土している（e5・e7・e60・e89）。いわゆるU字形鋤先で、いずれも耳部が外側に開くものである。本遺跡出土の鋤先については平面形態から、刃部の縦幅が比較的広いもの（e89）と、刃部の縦幅が比較的狭いもの（e5・e60）とに大別できる。但し刃部の横幅がほぼ同じであることから研ぎ減りの可能性もある。

b　手鎌

穂摘具、穂切具、苧引金等と呼称されるものである（e12・e72・e73・e81）。横に長く薄い鉄板を基調とし、長辺側の一端に刃部を有する。木質部が残存するもの（e81）、目釘が残存するもの（e12・e81）、釘穴が認められるもの（e72・e73）がある。

c　鎌

3点出土している（e31・e43・e80）。そのほか鎌と推定される4破片がある（e39・e98・e105・e108）。e31・e43・e80はいずれも刃部が湾曲する曲刃鎌である。e31は基部を全面折り曲げて木柄との着柄箇所としている。e43・e80は基部を一部折り曲げて木柄との着柄箇所としている。これらは基部付近の幅が厚く、先端に行くにしたがってやや細くなるもので、基部の折り返し部分から着柄角度を推定すると鈍角となる。一般的に直角鎌を根刈り用、鈍角鎌を（草）払鎌と考えることが多いとされることから（西澤2002）、本例の場合は（草）払用などの用途が推定される。

⑤　刀子

刀子は33点出土しており、今回出土の鉄器のなかでは最も数が多い。完形で残るものは殆どなく、ある程度形が判明するものを含めて以下に特徴を列記する。

e2・e16・e27・e29・e35・e58・e77・e99・e111は刀身が細身を呈し、背側に関を持つものである。完存例がなく全長等は不明であるが、刃部元幅は1.0から1.4 cmの間の範囲に収まる。e2・e29は刀身背側に弱い反りが見られる。e14・e15・e20・e47・e50・e59・e62・e79・e92は刀身の両側に関を持つものである。関部は角関もしくは撫関となる。茎部は茎尻に向けて細く狭まるもの（e14・e20・e59・e62・e79・e92）と、直線的に延びるもの（e47・e50）が見られる。ほぼ完存している例はe20・e59・e92で、全長15〜20 cm、刀身部の長さは9〜11 cm、刃部元幅は1.3〜2.2 cmの範囲に収まる。このうちe14・e20・e47は木質が良好に残存する。e15・e59・e62は刀身の背側が峰にむかい外反するものである。e6・e44は刀身が細身で刃側に撫関を持つものである。e17・e41は刀身が長三角形状を呈するもので、刃部が関部より直線的に幅を減少させながら峰へと延びるものである。いずれも刃側に撫関を持ち、茎部は茎尻に向けて細く狭まっている。e70は全長12.3 cm、刀身部6.0 cm、刃部元幅は1.6 cmを測る。峰はフクラ峰を呈する。背側と刃部側に角度の異なる撫関を持つ。

⑥　鉄製煮炊具・鉄製獣脚

把手付鉄鍋と、鍋・羽釜・火舎など鉄製の容器に付属する鉄製獣脚を一括した。

a　把手付鉄鍋

SI114竪穴住居から1点出土している。e76は把手付鉄鍋の把手〜体部にかけての破片である。把

手部は厚さ 2 mm の鉄の板を C 形に折り曲げて成形されている。鍋の体部と把手は別づくりと考えられ、体部片の下端には把手を取り付けたと見られる目跡が 2 か所認められる。把手とその周辺部しか残っていないため、片口の有無や体部の形状は不明である。

b　鉄製獣脚・容器片

鉄鍋、あるいは羽釜、火舎などの鉄製容器に付属していたと考えられる鉄製獣脚が 2 点、獣脚が付いていた可能性のある容器片が 1 点、いずれも SI130 竪穴住居の床面から出土している。e86 は全長 17.0 cm（現存長）、脚幅 1.7 cm、重量 275.2 g である。上部は無文で、関節部に 2 本の細い隆帯を持つ。下部には縦方向の筋が数条微かに確認できる。脚先は指の痕跡が微かに認められるが、錆による膨れのため本数は不明である。e87 は全長 13.6 cm（現存長）、脚幅 1.7 cm、重量 194.5 g である。上部は無文で、関節部に 2 本の隆帯を持つ。下部には縦方向の筋が数条微かに確認できるが、途中で欠損しており詳細は不明である。これらは同一個体と考えられ、どちらも脚部断面が三角形を呈する。

⑦　その他不明製品

その他の鉄製品として、火打金やソケット状、棒状、板状、環状、その他の鉄製品がある。これらの多くは欠損品であり、何らかの製品の一部である可能性もあるが、ここでは用途・形状が明確でないものを不明鉄製品として一括した。e107 は柱穴状小土坑 P17 埋土から出土した火打金である。広島県草戸千軒町遺跡出土資料と類似する。一部欠損しているが、紐掛部に透かしが入るタイプと見られる。

⑧　古銭

遺構内から合計 1 点出土している（写真図版 244）。g1 は熙寧元寶（北宋・初鋳 1068 年）で、SB01 の床面相当レベルから出土している。

(7)　そ　の　他

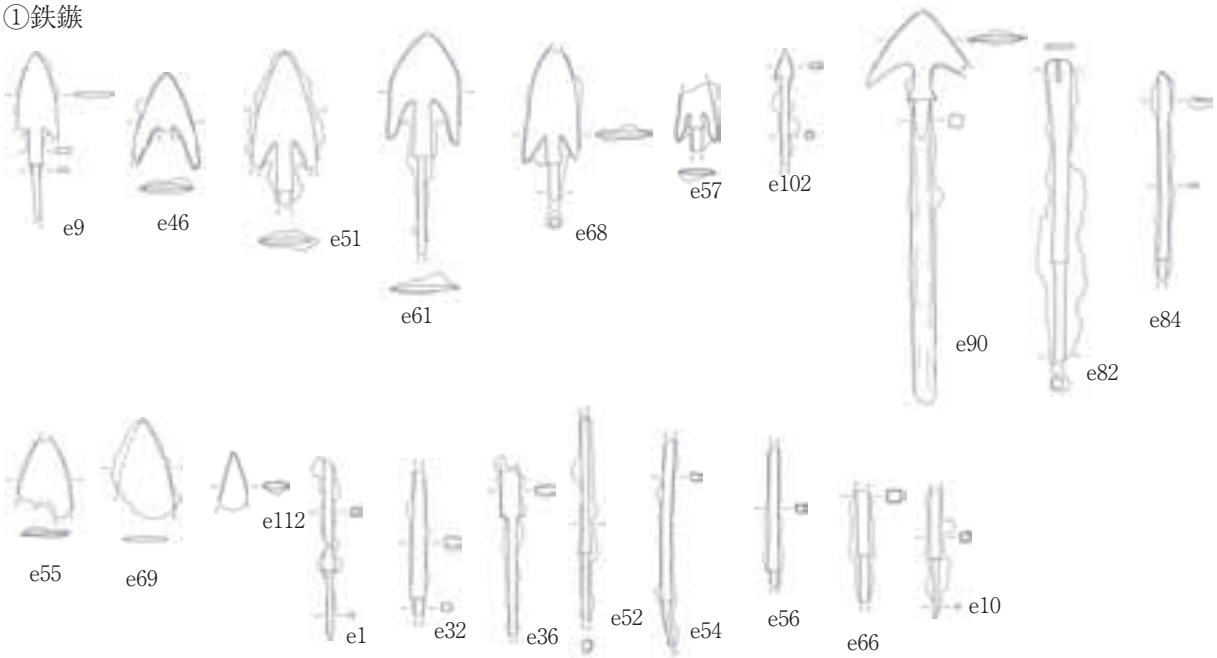
①　鉄滓（第 20 表）

遺構内・外から 7639.7 g が出土している。出土地点は竪穴住居跡内 5309.5 g・63 点、SB01 工房跡 1059.9 g・16 点、土坑 24.2 g・3 点、焼成遺構内 13.8 g・3 点、溝跡内 245.6 g・2 点、柱穴状小土坑内 46.2 g・4 点、遺構外 940.6 g・9 点である。SB01 工房跡以外の遺構内出土の鉄滓については、鉄生産に関わるような施設が未検出で、鉄滓が直接遺構に関わるような出土状況を示さないことから、他所からの移動によって混入したと考えられる。SB01 工房跡出土の鉄滓については小形の炉内滓、溶着滓小片が多く、工房内で行われた鍛錬鍛冶工程に伴う鉄滓であると考えられる。このほか工房床面の鍛冶炉周辺から、微細な鍛造剥片が 2141.9 g、粒状滓が 70.55 g 出土している。

②　羽口・坩堝（写真図版 244）

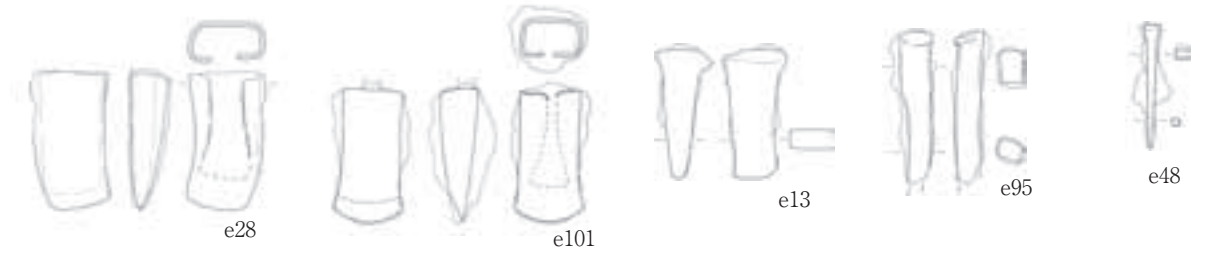
羽口は遺構内・外から 592 g が出土している。遺構内からは竪穴住居跡内 311.1 g・5 点、SB01 工房跡内 188.1 g・2 点、柱穴状小土坑内 92.8 g・1 点である。住居内出土の羽口については、鉄生産に関わるような施設が未検出で、直接遺構に関わるような出土状況を示さないことから他所からの移動によって混入したものと考えられる。SB01 工房跡の床面レベルからは羽口のほか、坩堝が 1 点・51.1 g 出土している。工房内から羽口・坩堝が出土したことについては、明確に遺構内施設に伴うような出土状況を示さなかったことから正確には不明であるが、例えば鋳造などの鍛錬鍛冶以外の別の工程が、工房内で行われていた可能性も示唆するものと考えられる。

①鉄鏃

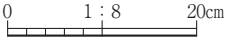


②刀類・刀装具

③斧・楔・釘



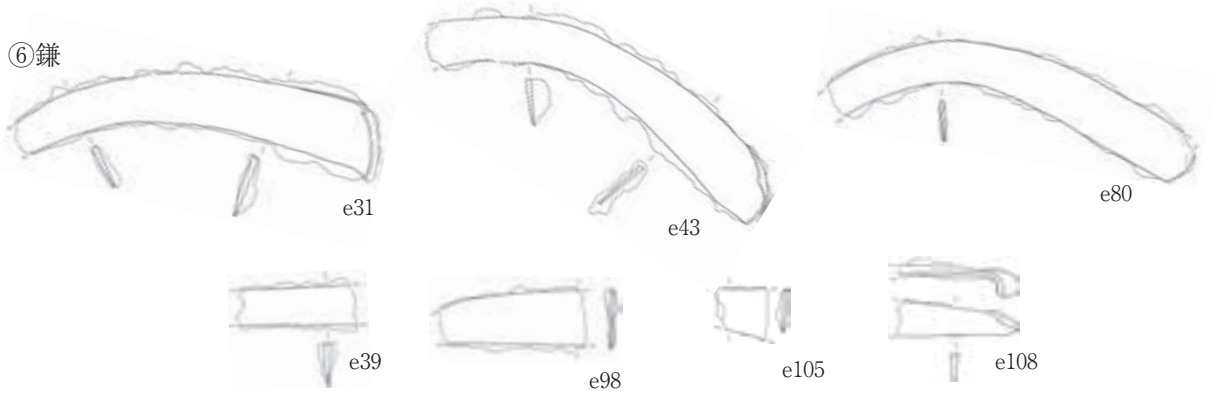
④鋤先



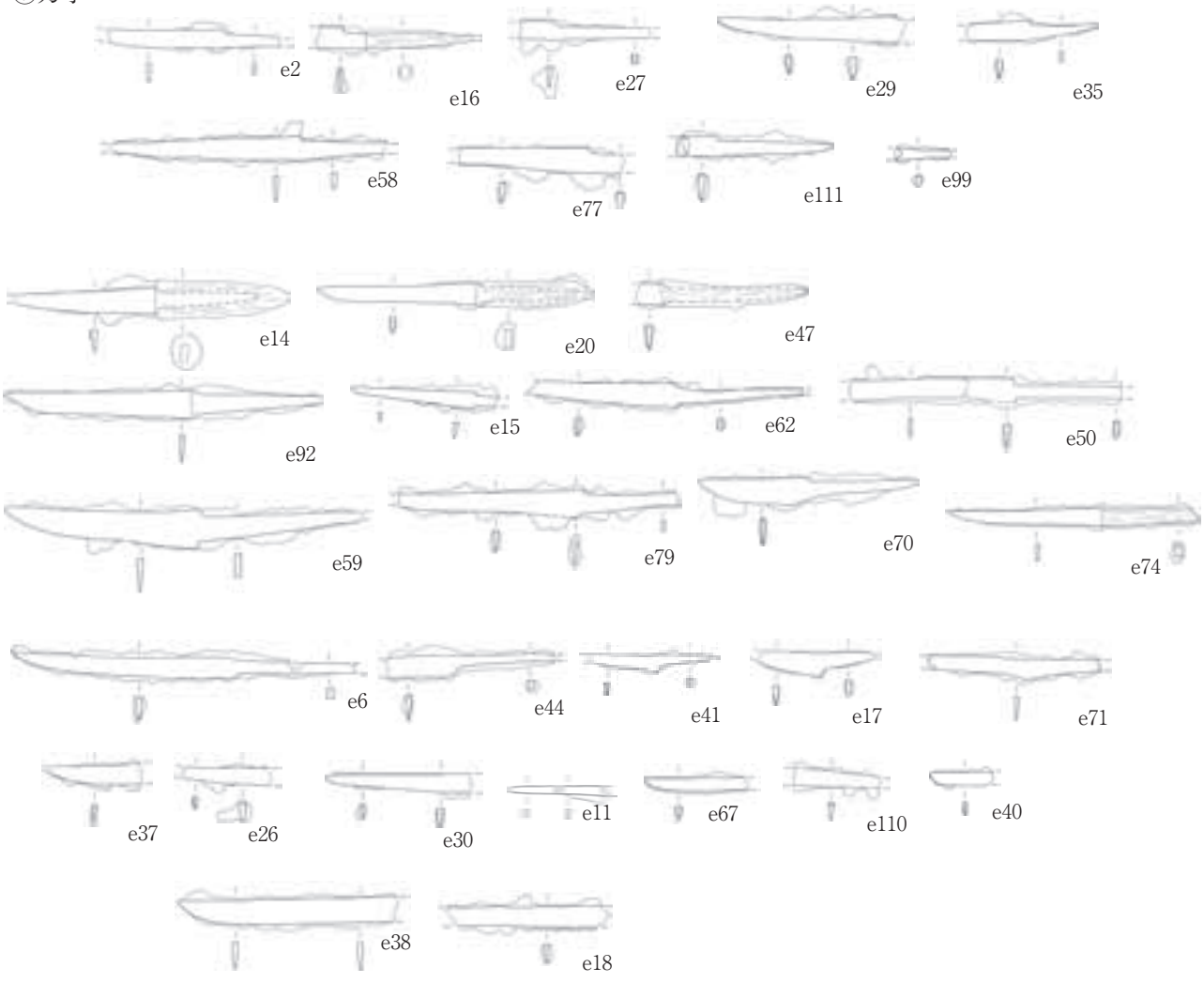
第 292 図　金属製品集成（1）

⑤手鎌

⑥鎌



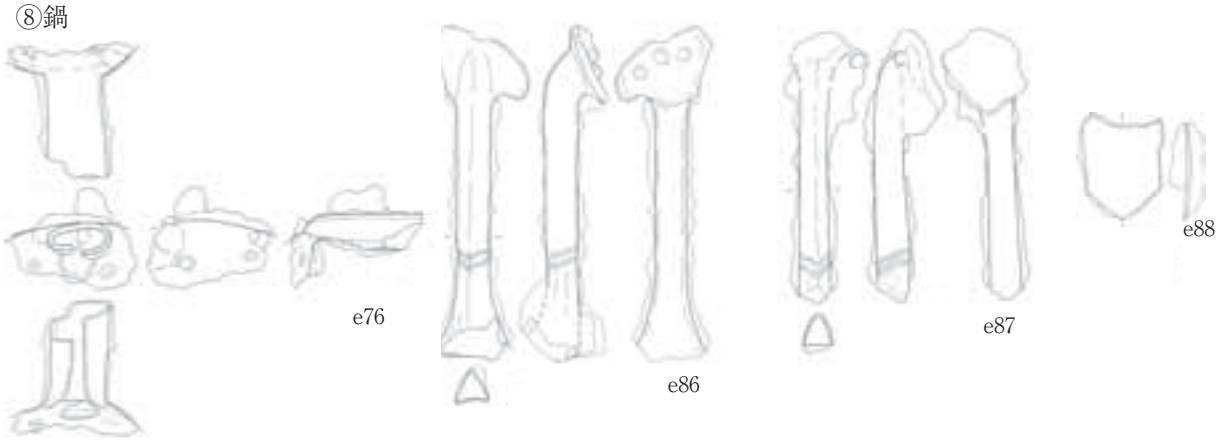
⑦刀子



0　1：8　20cm

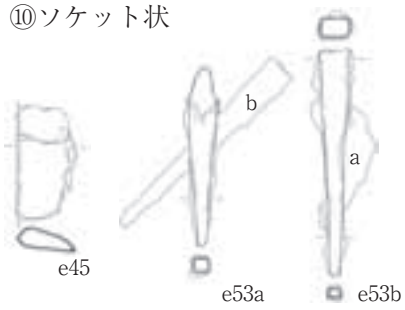
第 293 図　金属製品集成（2）

⑧鍋

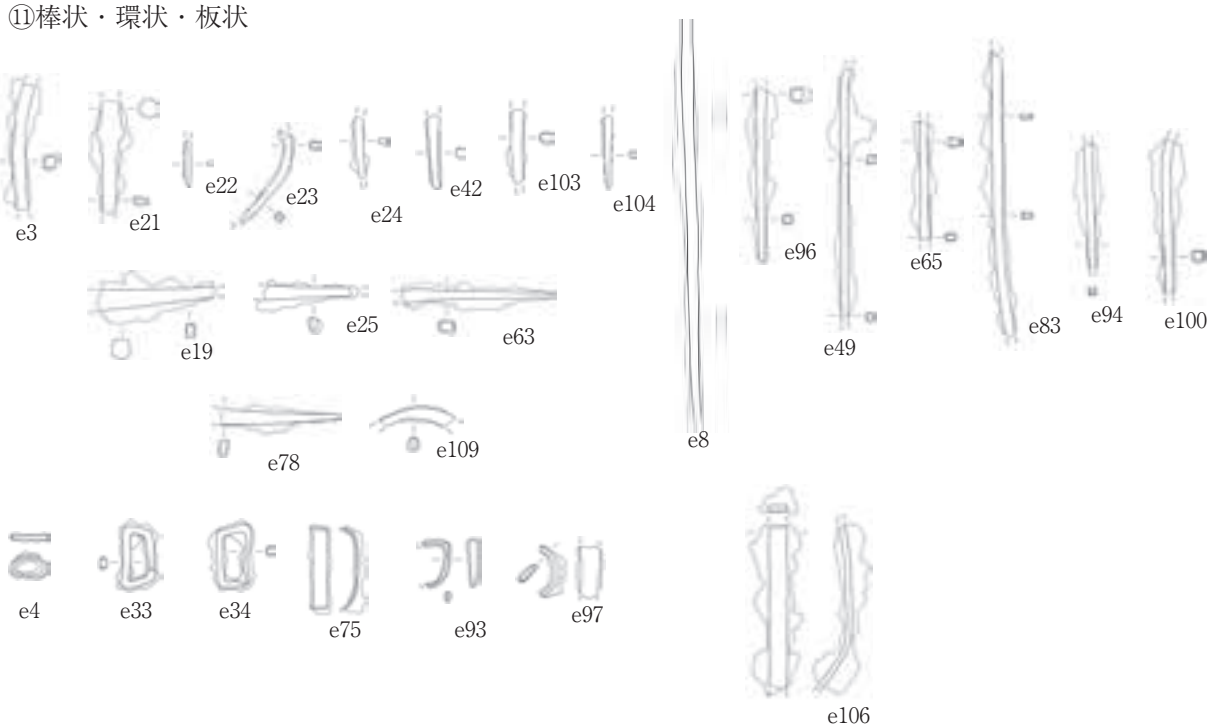


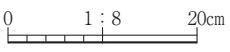
⑨火打金

⑩ソケット状



⑪棒状・環状・板状

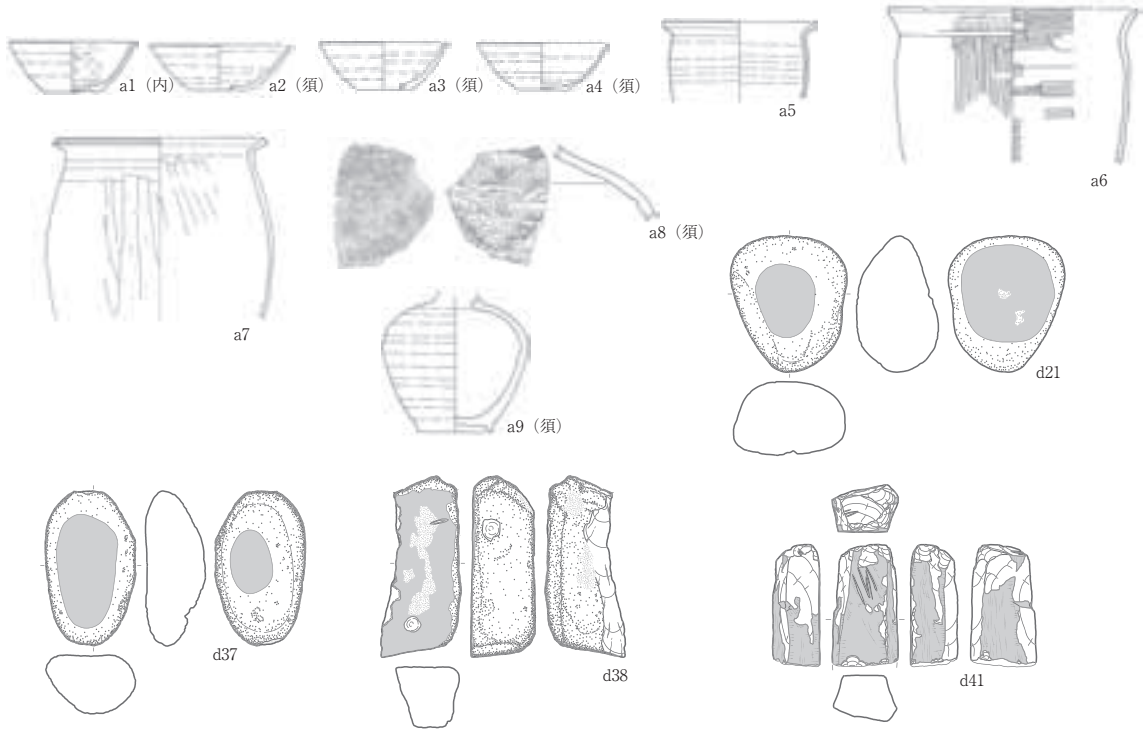




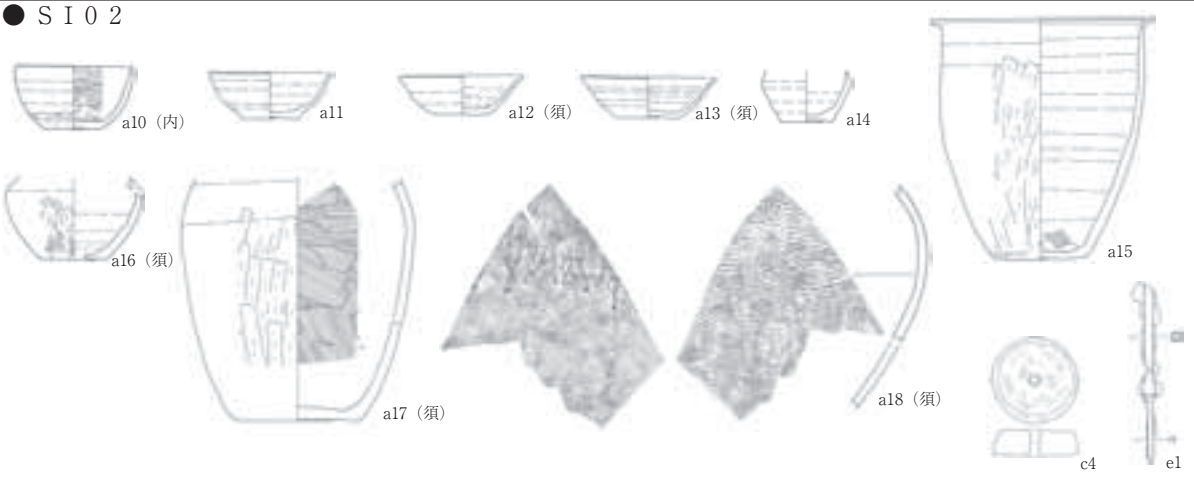
第 294 図　金属製品集成（3）

● ＳＩ０１

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

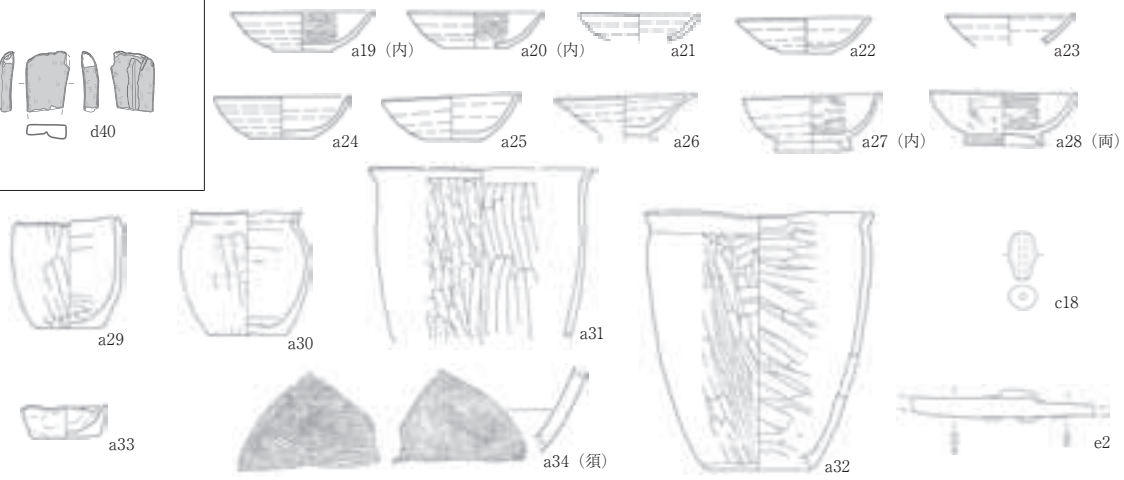


● ＳＩ０２



● ＳＩ０３

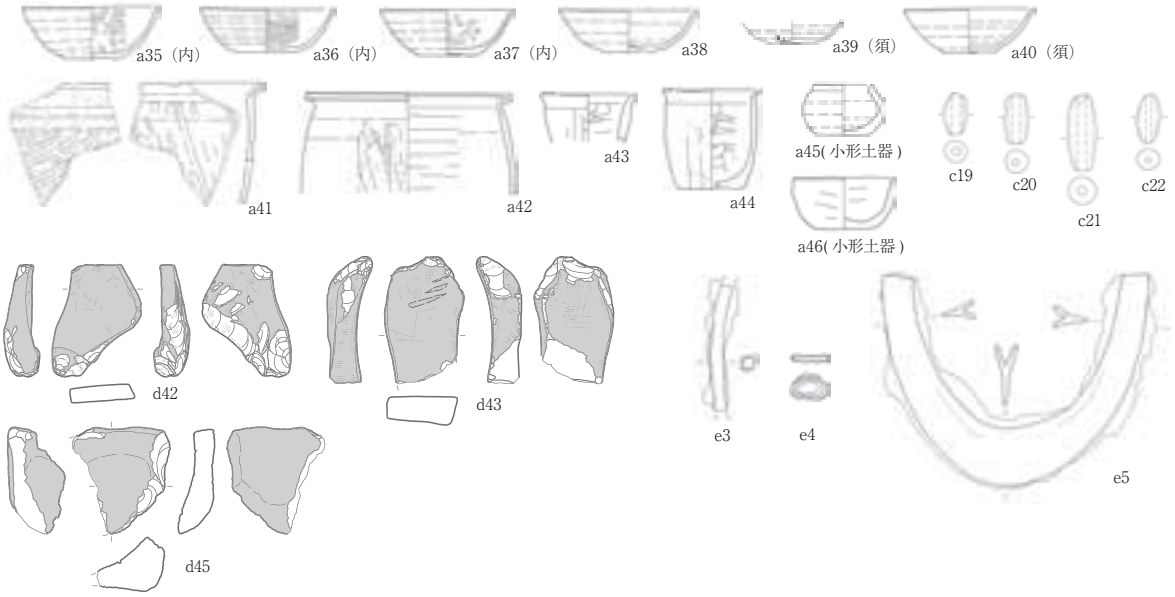
● ＳＩ０４



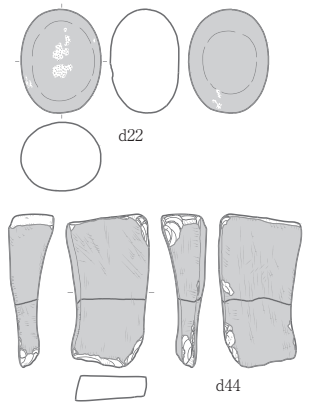
第 295 図　古代遺物集成（1）

● ＳＩ０５

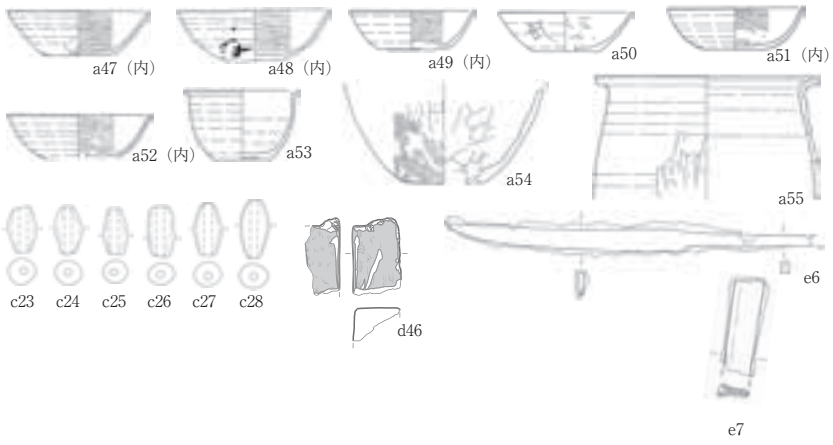
※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



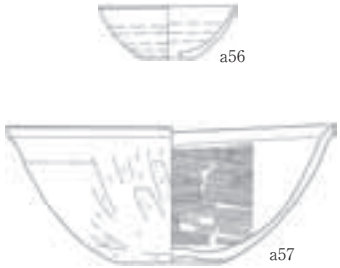
● ＳＩ０６



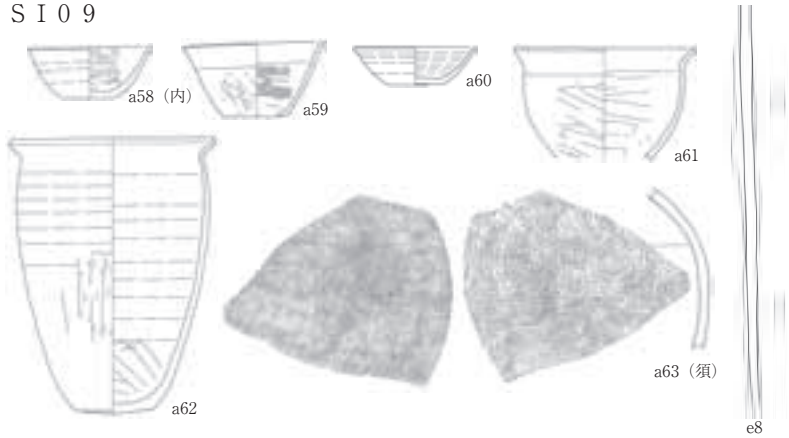
● ＳＩ０７



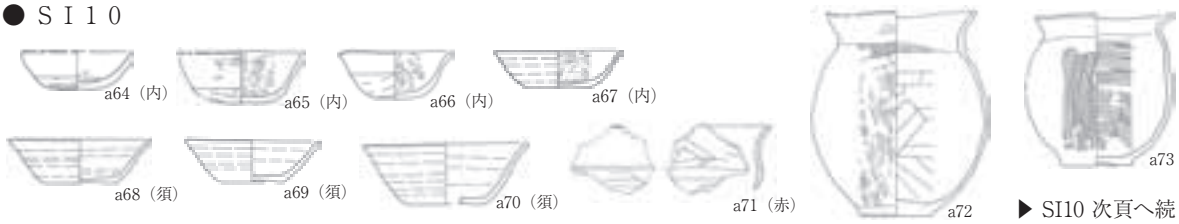
● ＳＩ０８



● ＳＩ０９



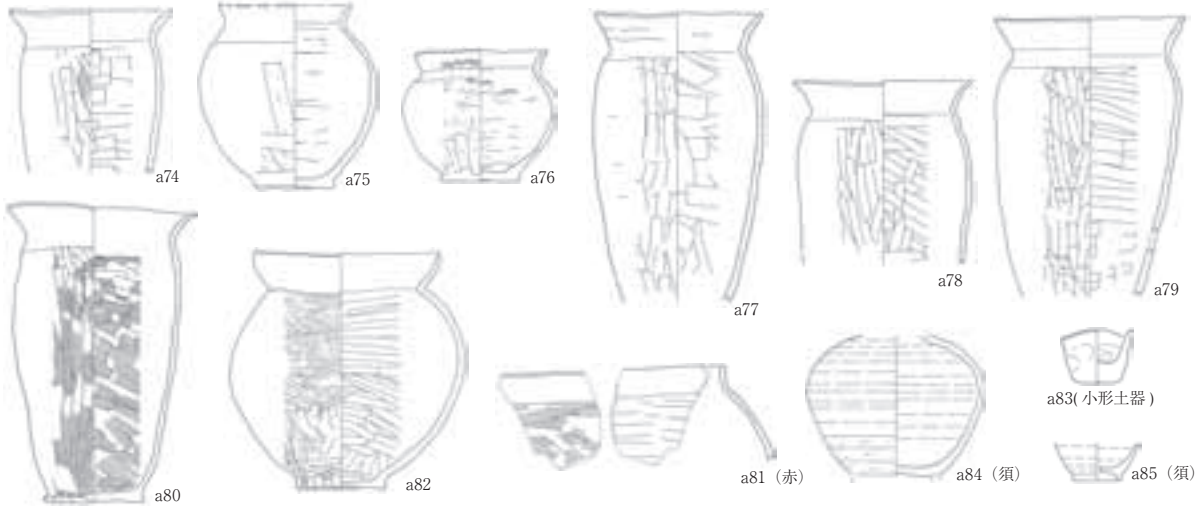
● ＳＩ１０



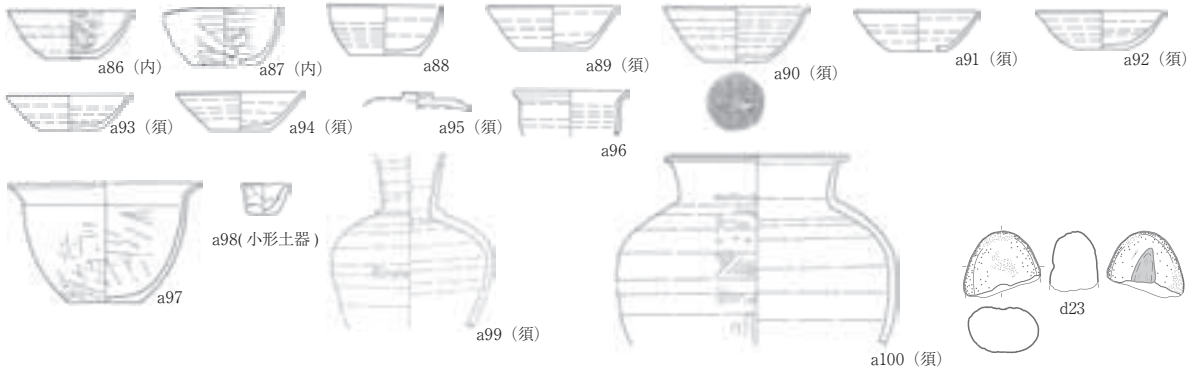
▶ SI10 次頁へ続く

第 296 図　古代遺物集成（2）

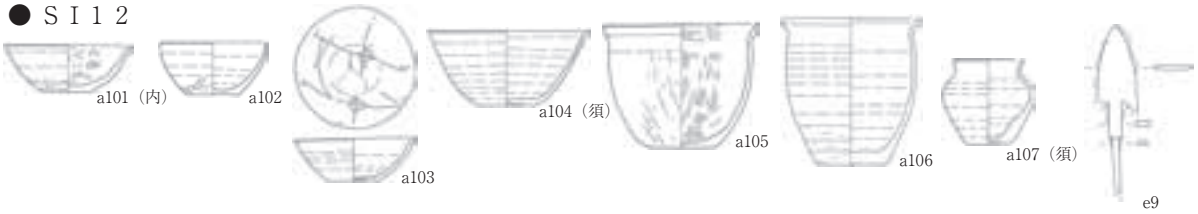
● ＳＩ１０　▶ 前頁の続き　　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



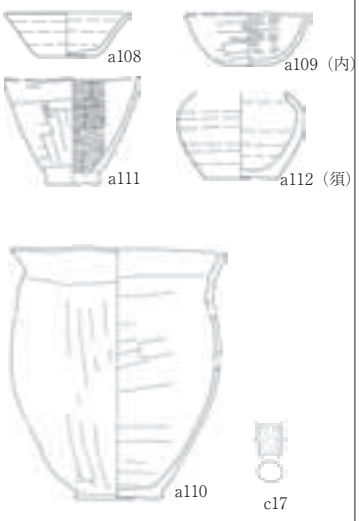
● ＳＩ１１



● ＳＩ１２



● ＳＩ１３

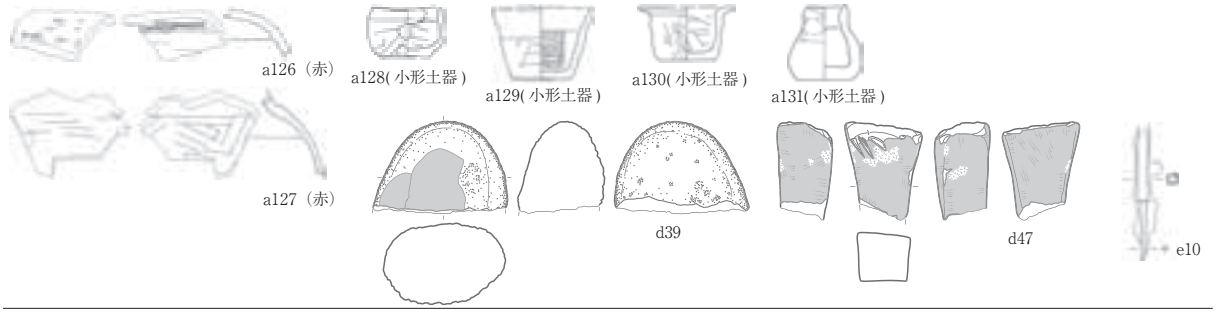


● ＳＩ１５

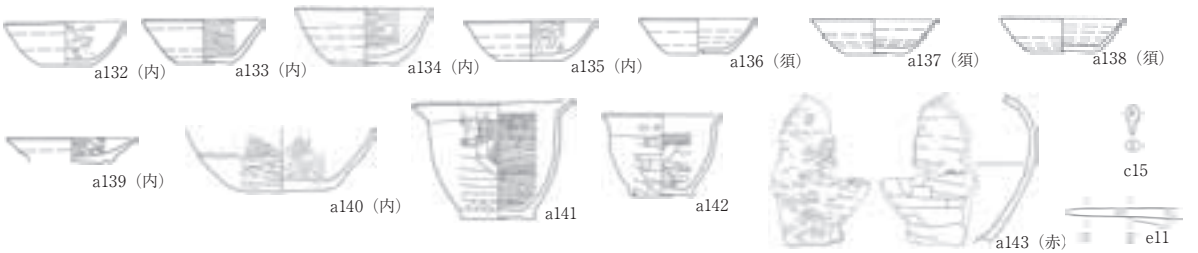
▶ SI15 次頁へ続く

第 297 図　古代遺物集成（3）

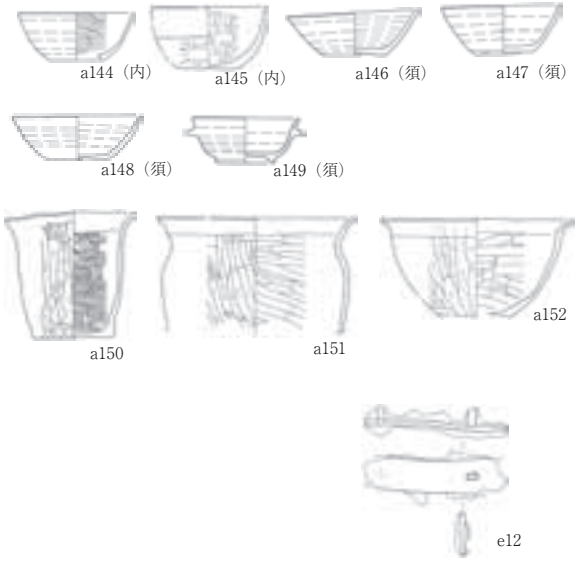
● ＳＩ１５　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



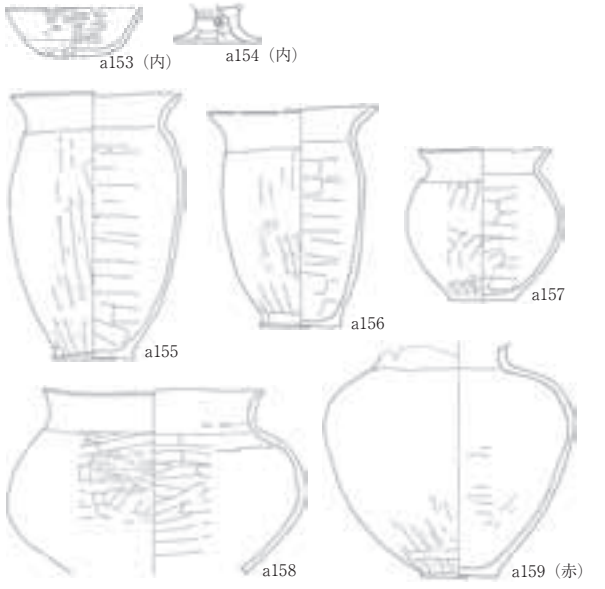
● ＳＩ１６



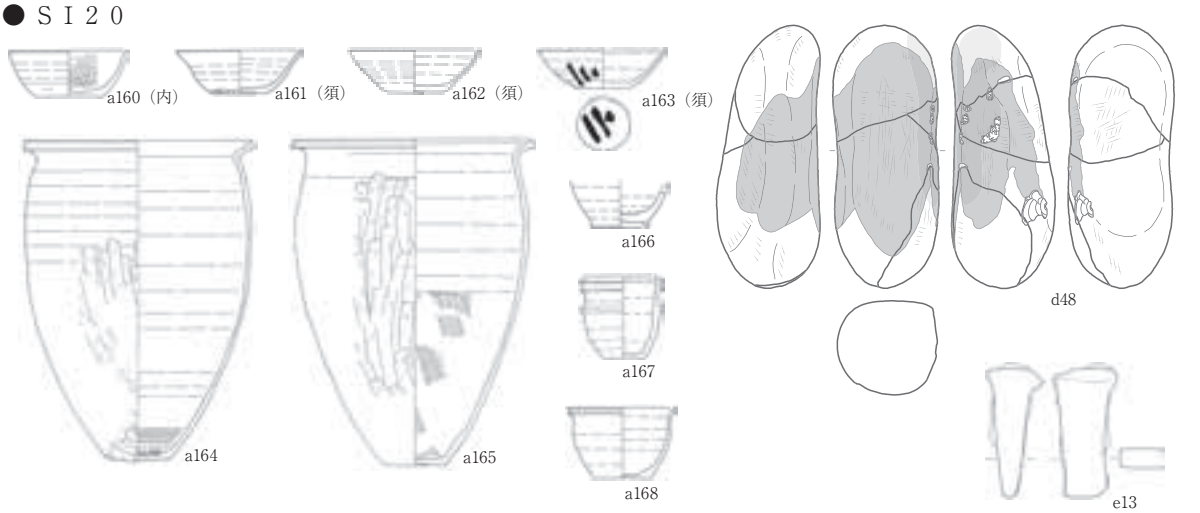
● ＳＩ１７



● ＳＩ１９



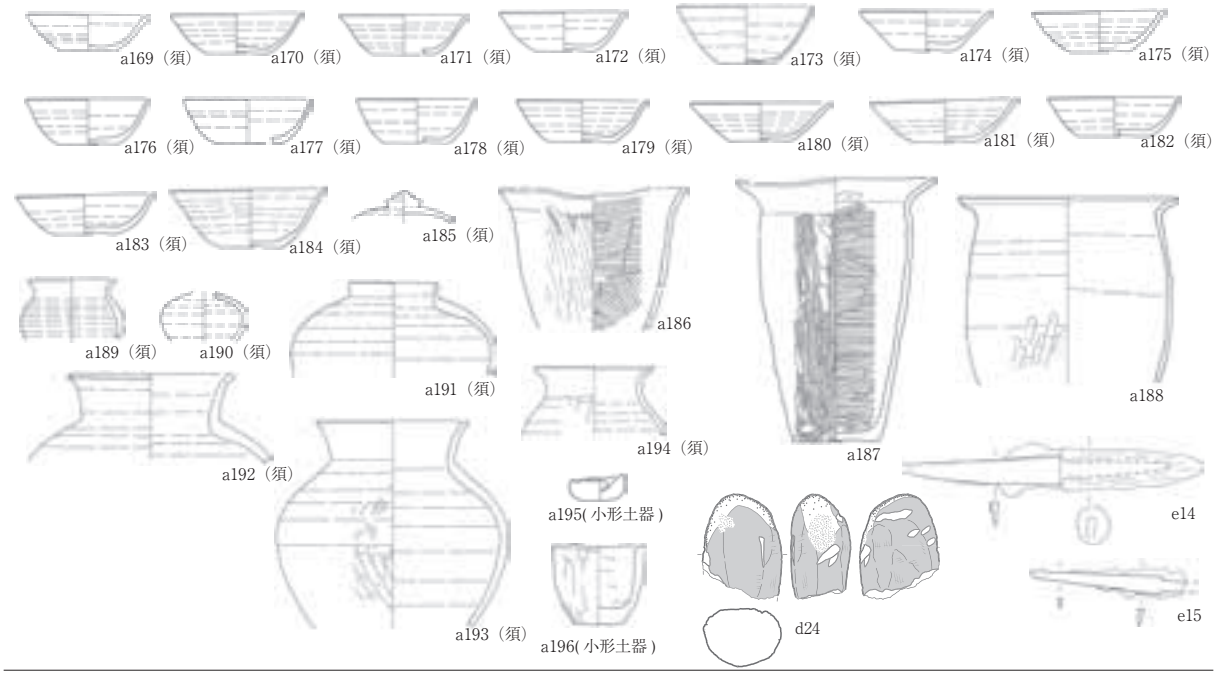
● ＳＩ２０



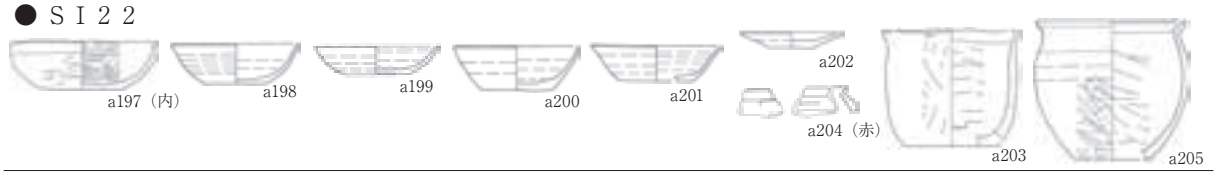
第 298 図　古代遺物集成（4）

● ＳＩ２１

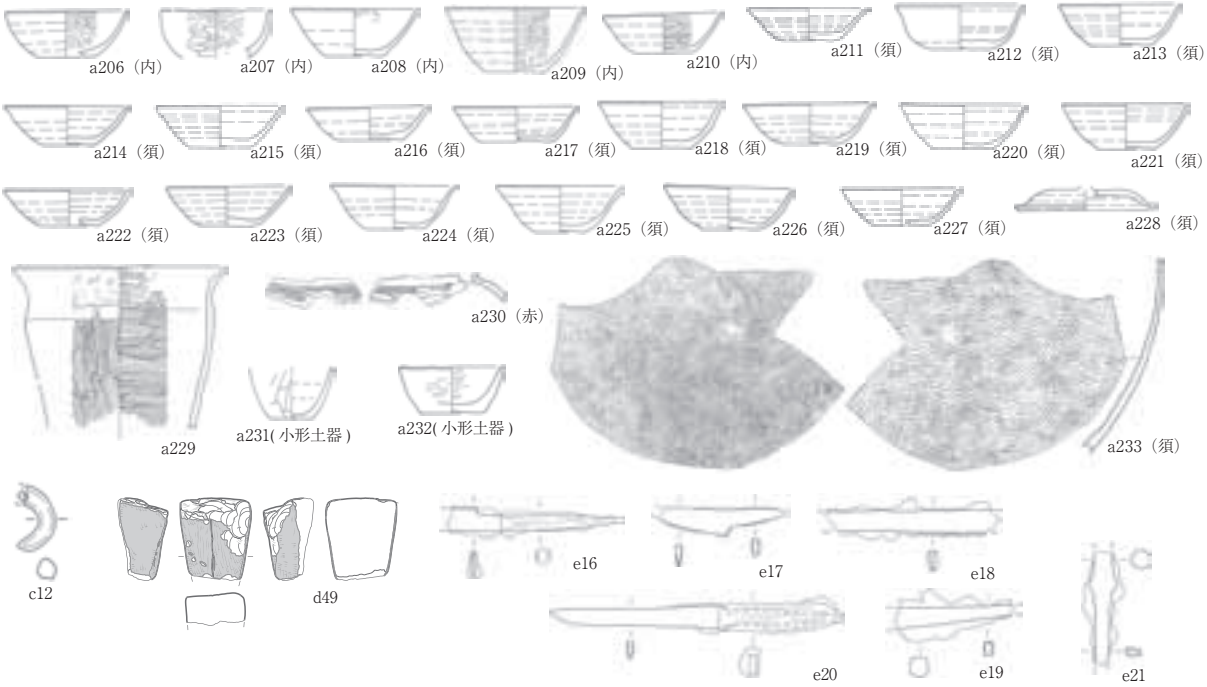
※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



● ＳＩ２２



● ＳＩ２３

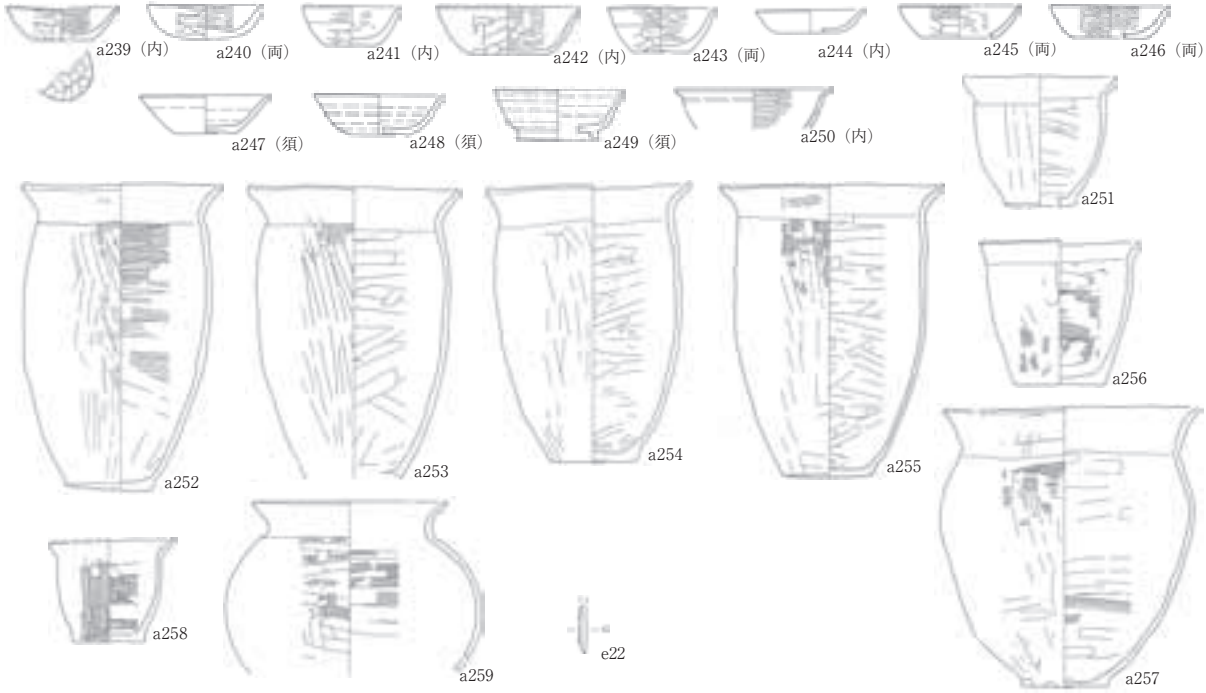


● ＳＩ２４

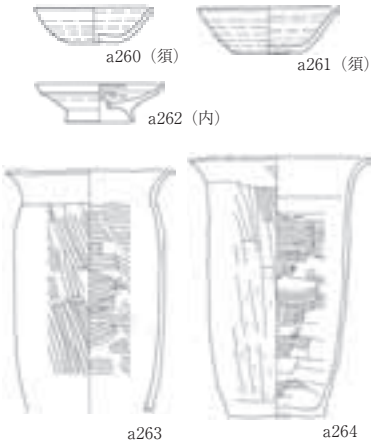
第 299 図　古代遺物集成（5）

● ＳＩ２５

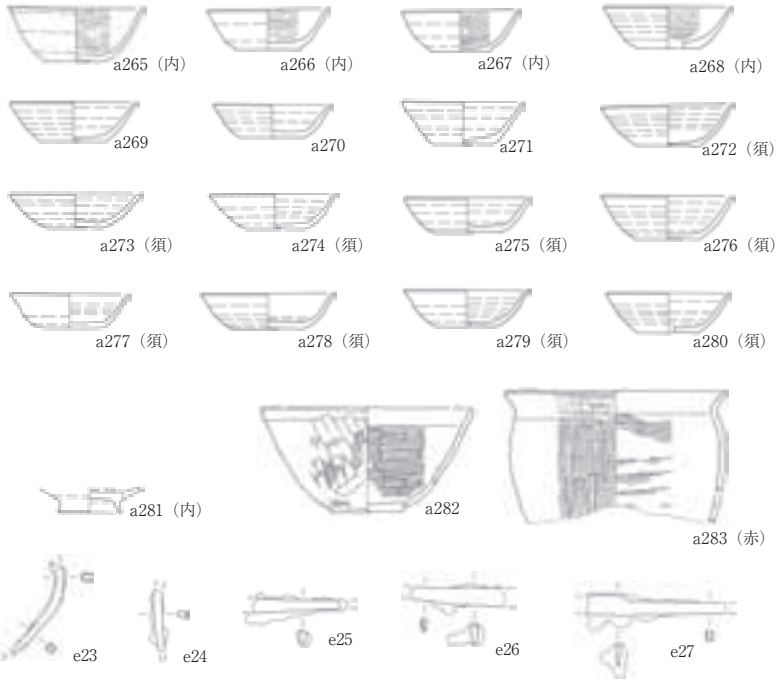
※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



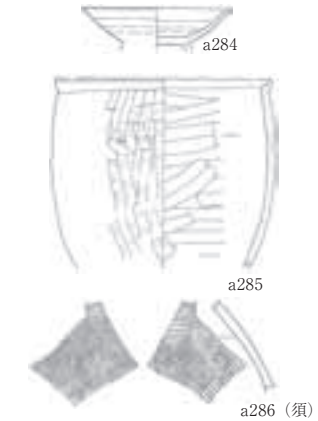
● ＳＩ２６



● ＳＩ２７



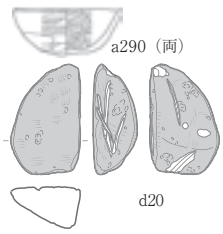
● ＳＩ２８



● ＳＩ３０

● ＳＩ３１

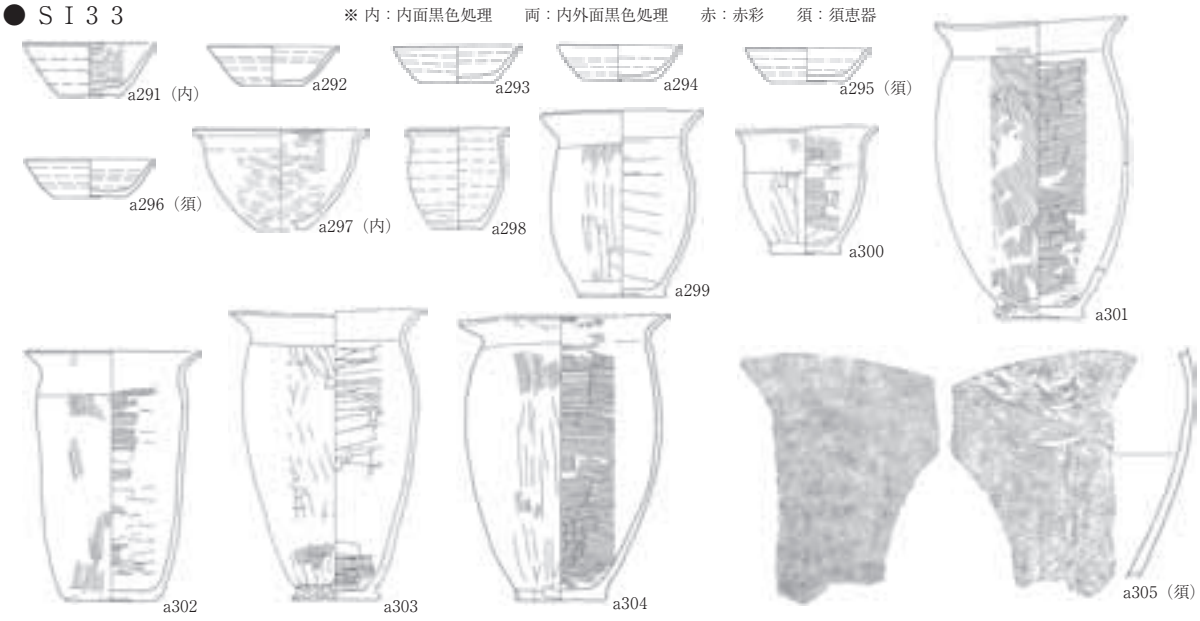
● ＳＩ３２



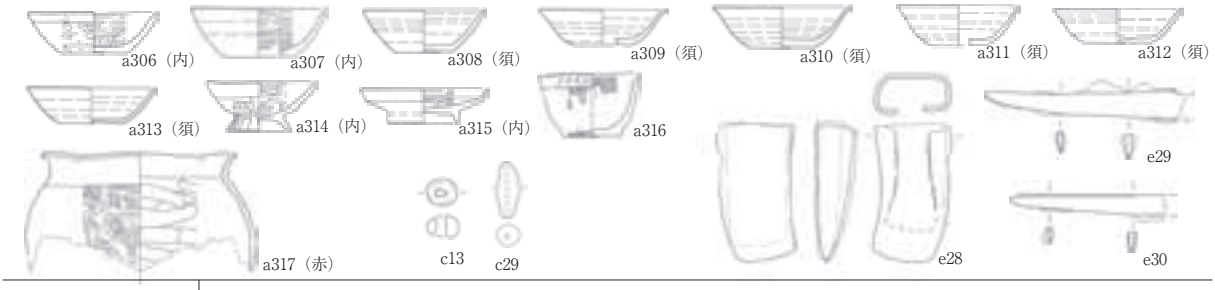
第 300 図　古代遺物集成（6）

● ＳＩ３３

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

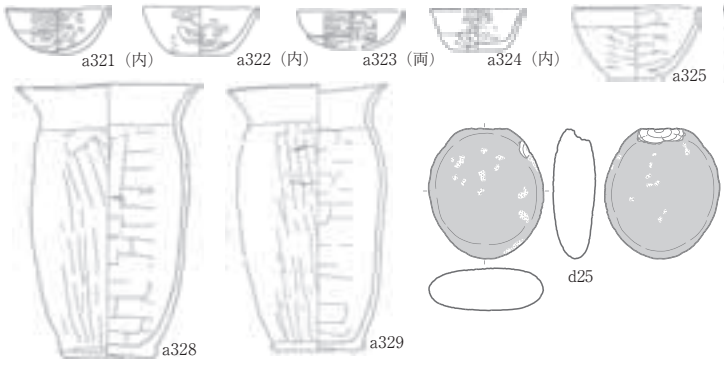


● ＳＩ３４

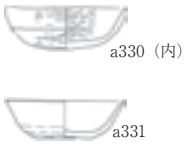


● ＳＩ３５

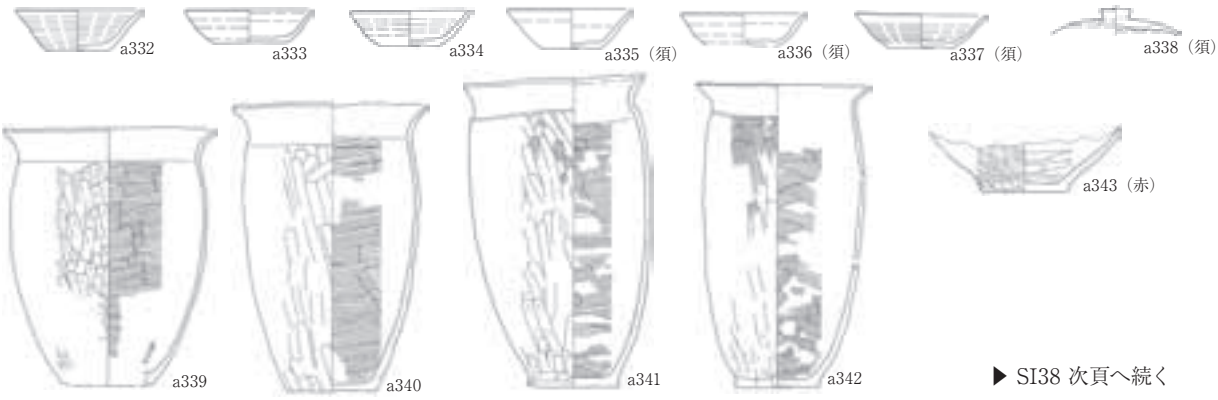
● ＳＩ３６



● ＳＩ３７



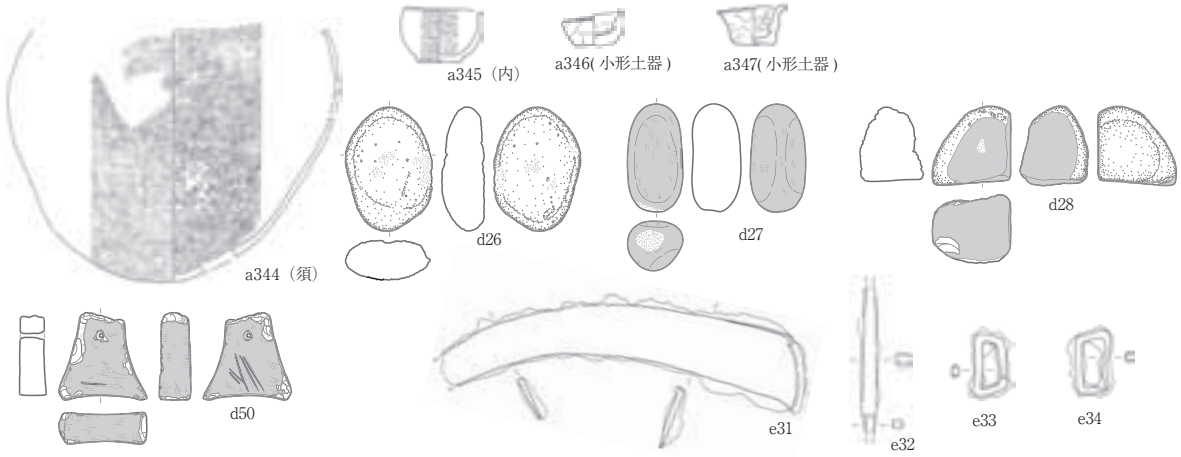
● ＳＩ３８



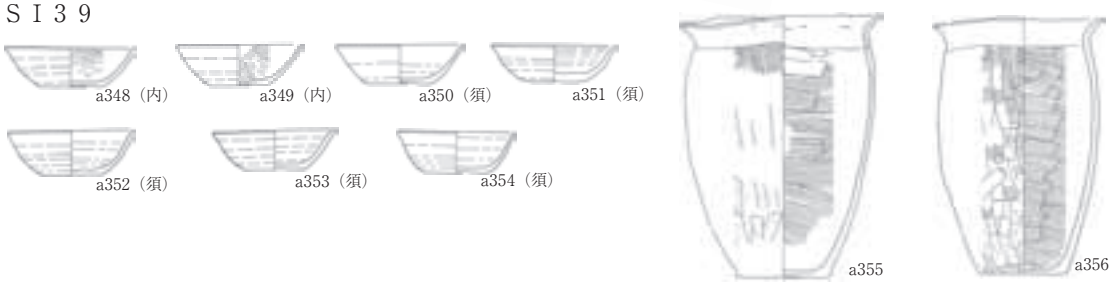
▶ SI38 次頁へ続く

第 301 図　古代遺物集成（7）

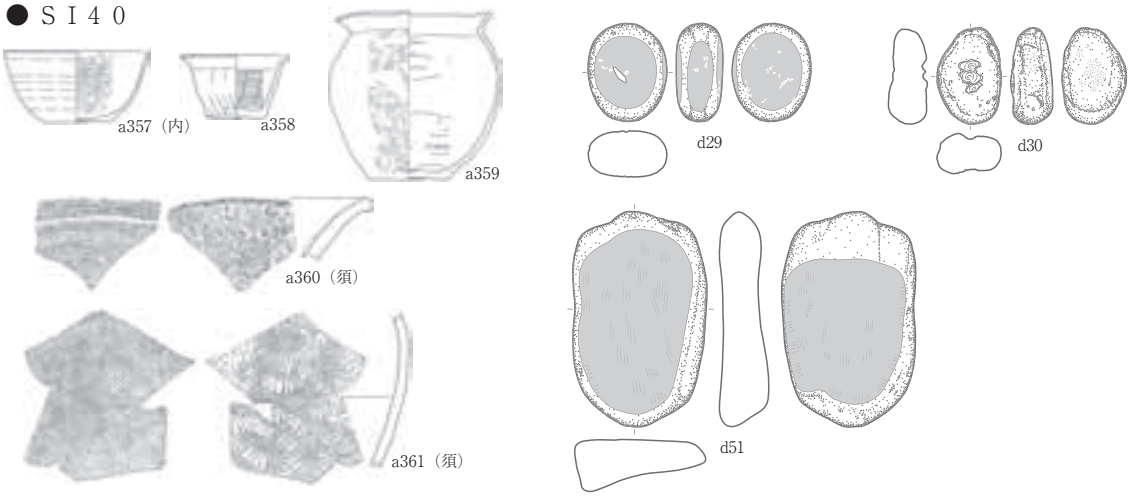
● ＳＩ３８　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



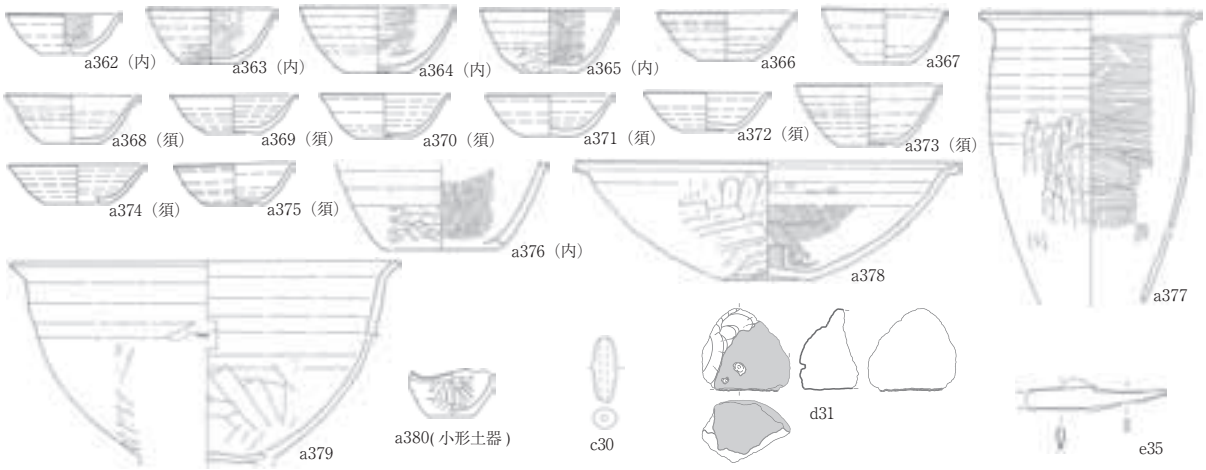
● ＳＩ３９



● ＳＩ４０



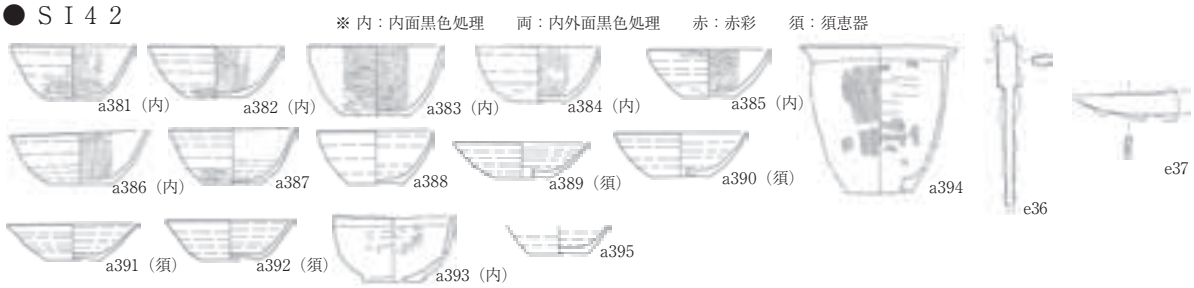
● ＳＩ４１



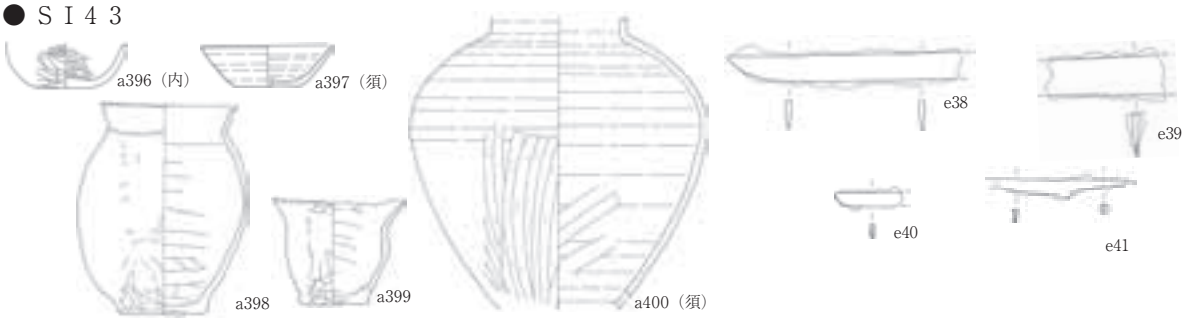
第 302 図　古代遺物集成（8）

● ＳＩ４２

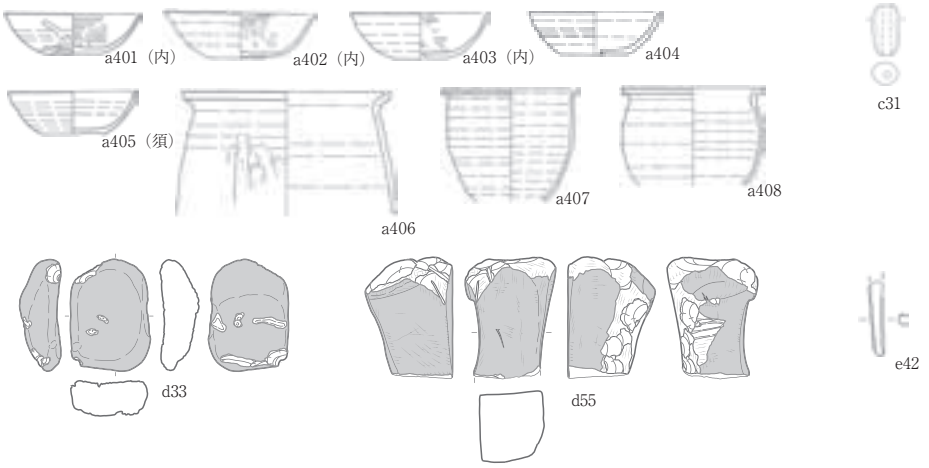
※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



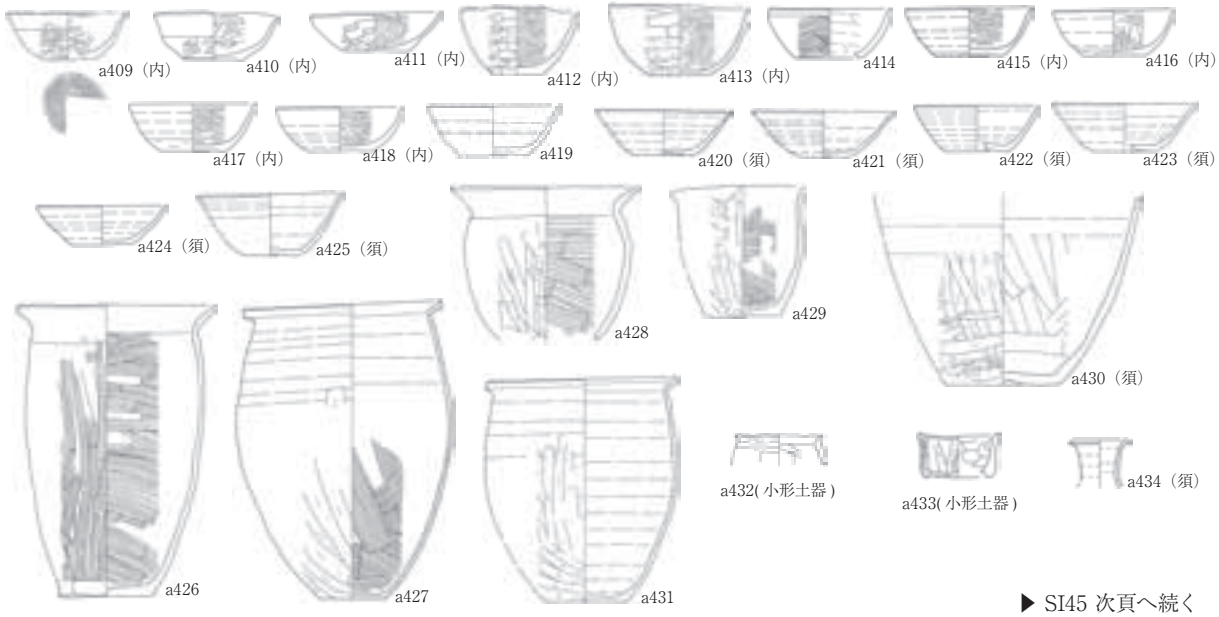
● ＳＩ４３



● ＳＩ４４



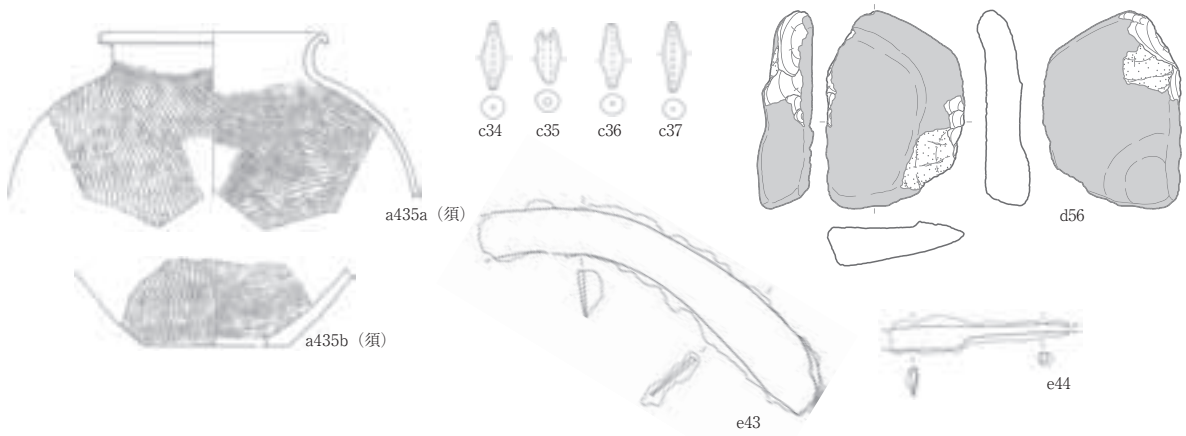
● ＳＩ４５



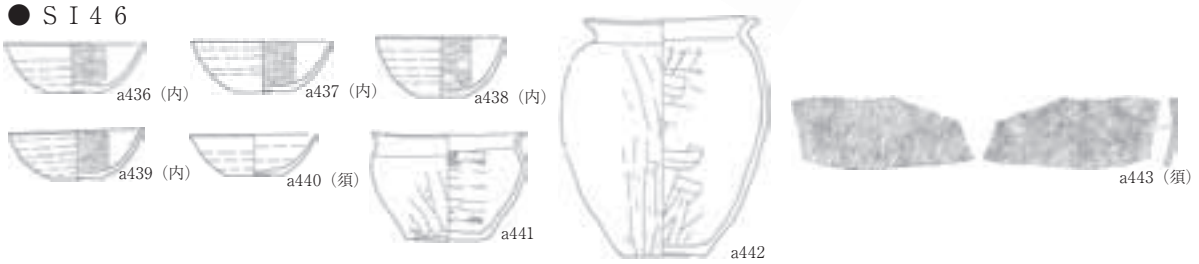
▶ SI45 次頁へ続く

第 303 図　古代遺物集成（9）

● ＳＩ４５　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

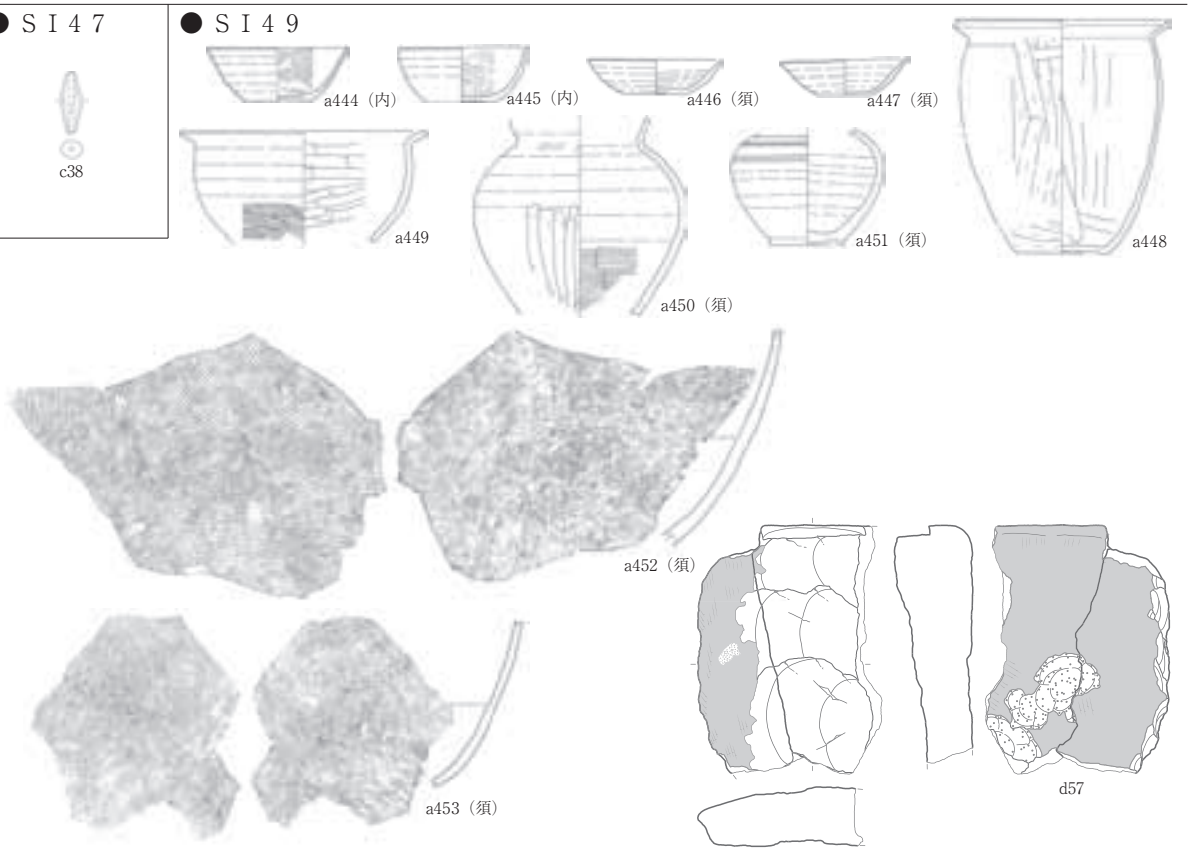


● ＳＩ４６



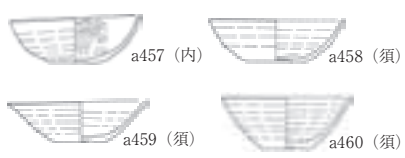
● ＳＩ４７

● ＳＩ４９



● ＳＩ５０

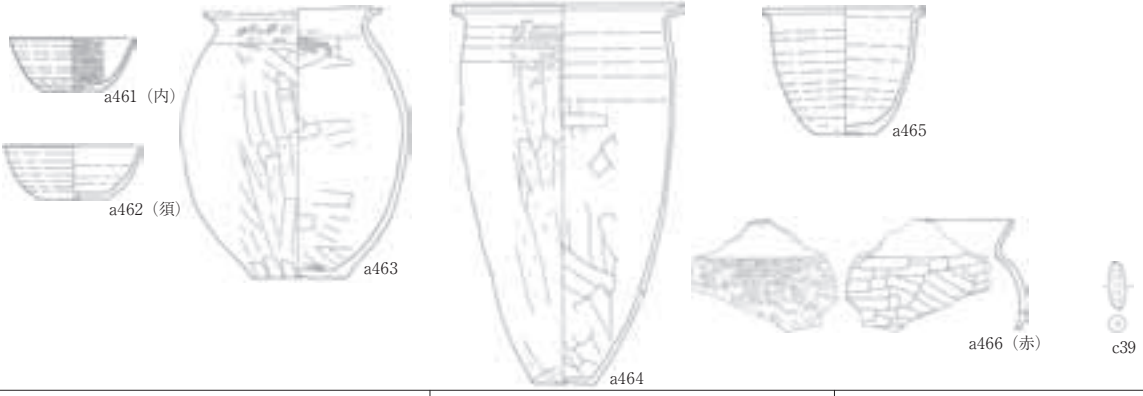
● ＳＩ５１



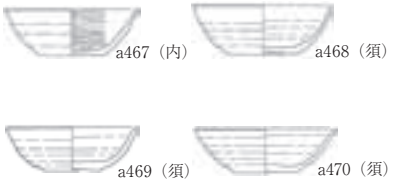
第 304 図　古代遺物集成（10）

● ＳＩ５４

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



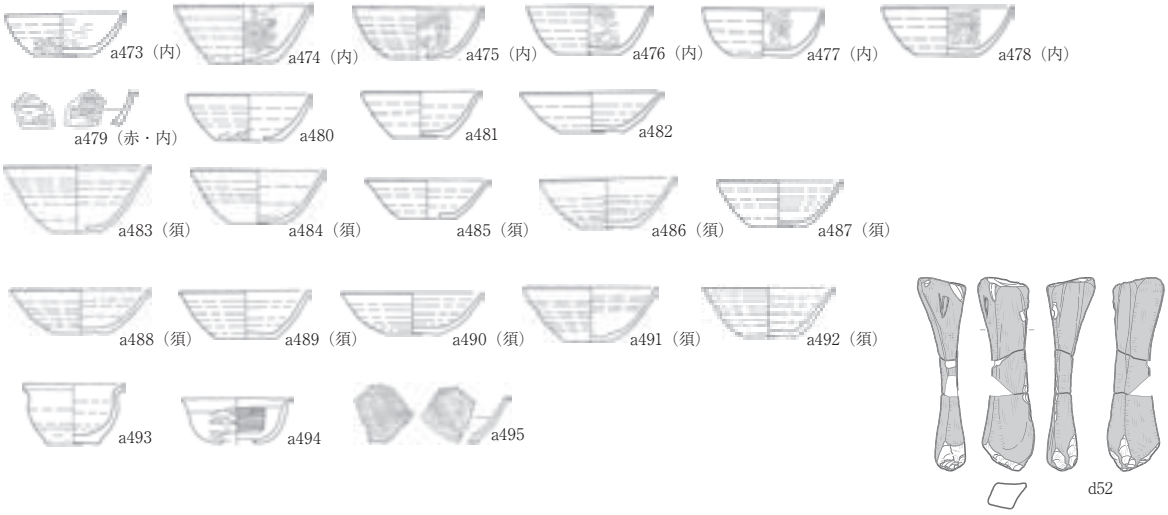
● ＳＩ５５



● ＳＩ５６

● ＳＩ５８

● ＳＩ５９



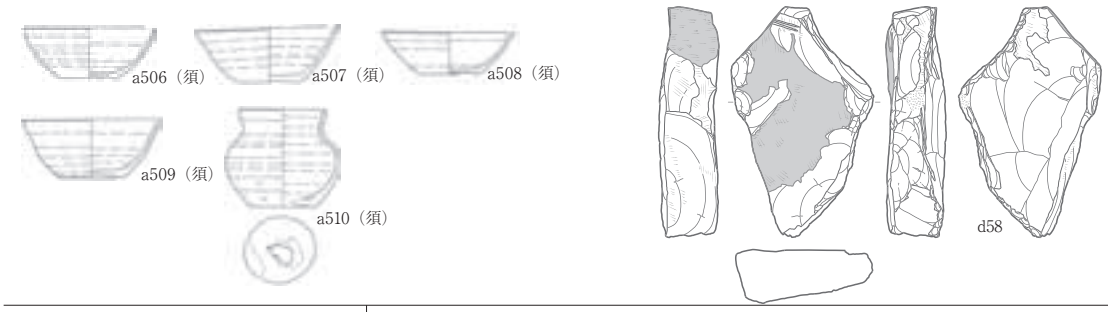
● ＳＩ６０

● ＳＩ６１

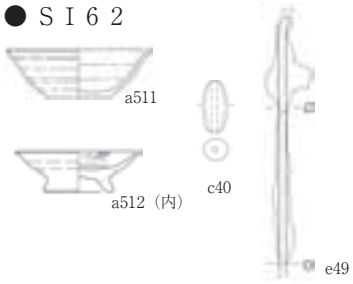
▶ SI61 次頁へ続く

第 305 図　古代遺物集成（11）

● ＳＩ６１　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



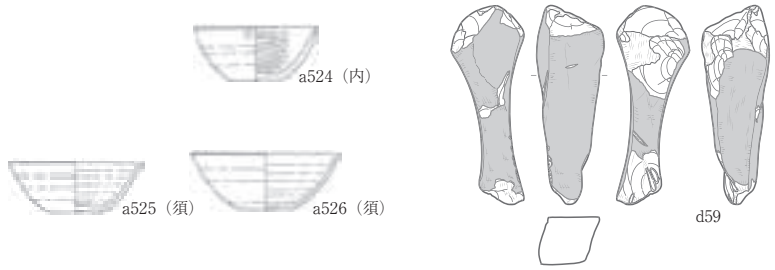
● ＳＩ６２



● ＳＩ６３

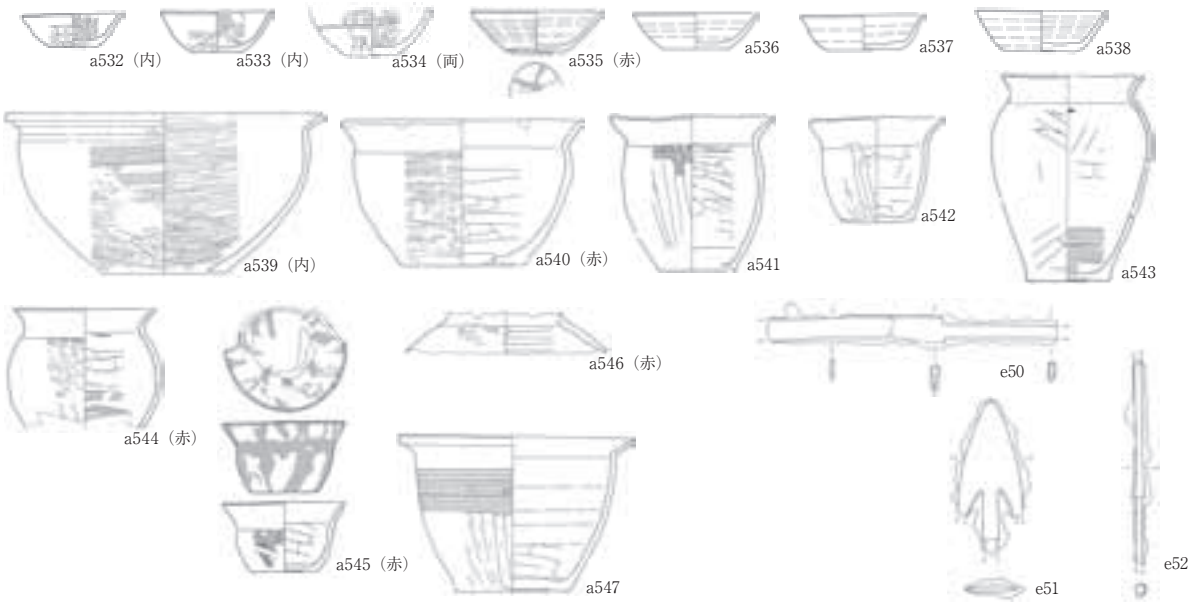
● ＳＩ６４

● ＳＩ６６



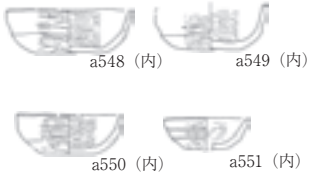
● ＳＩ６７

● ＳＩ６８

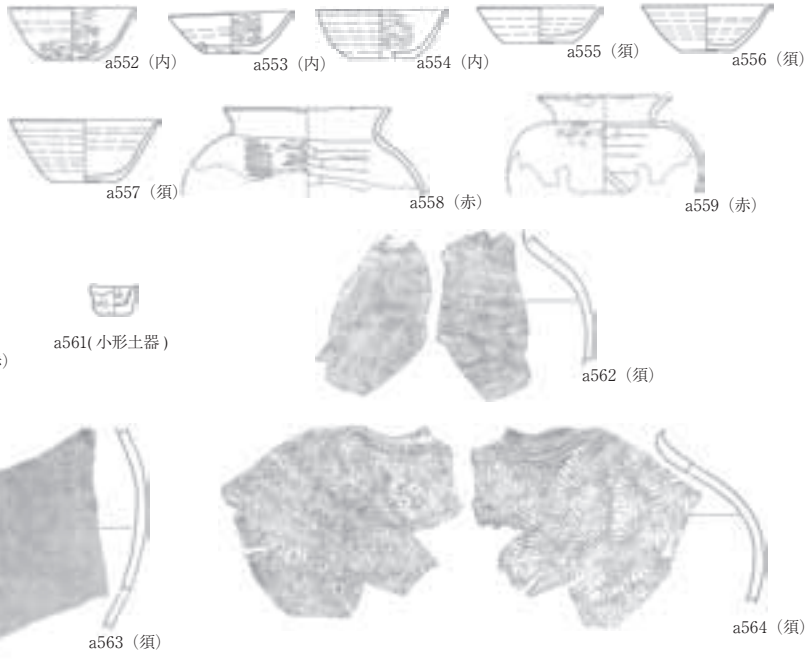


第 306 図　古代遺物集成（12）

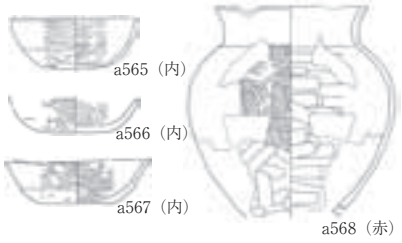
● ＳＩ６９



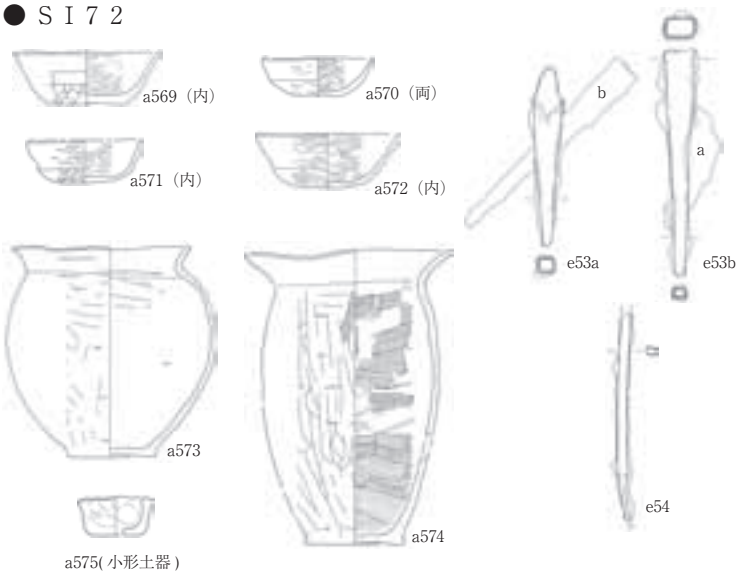
● ＳＩ７０　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



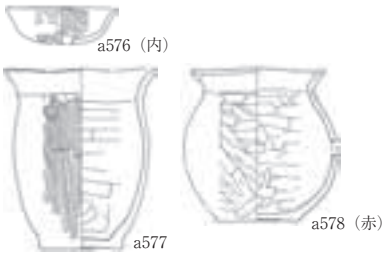
● ＳＩ７１



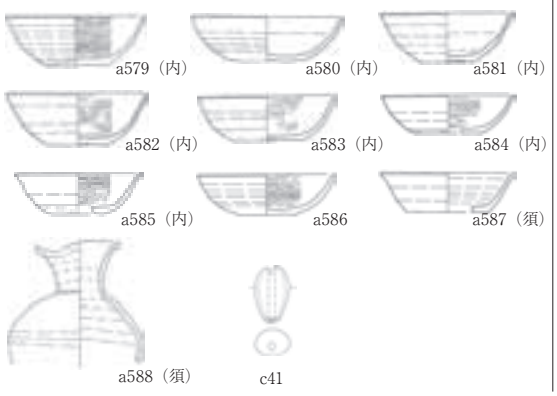
● ＳＩ７２



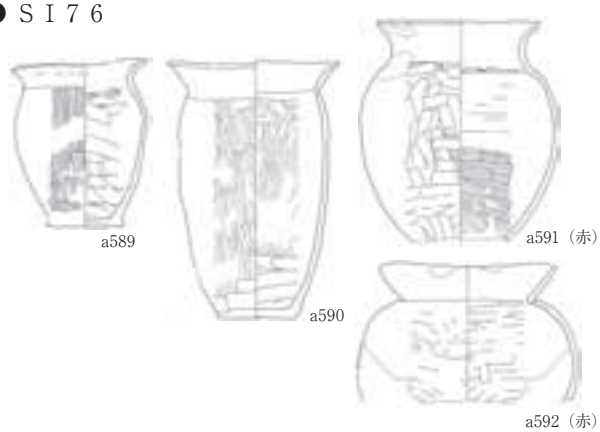
● ＳＩ７３



● ＳＩ７５



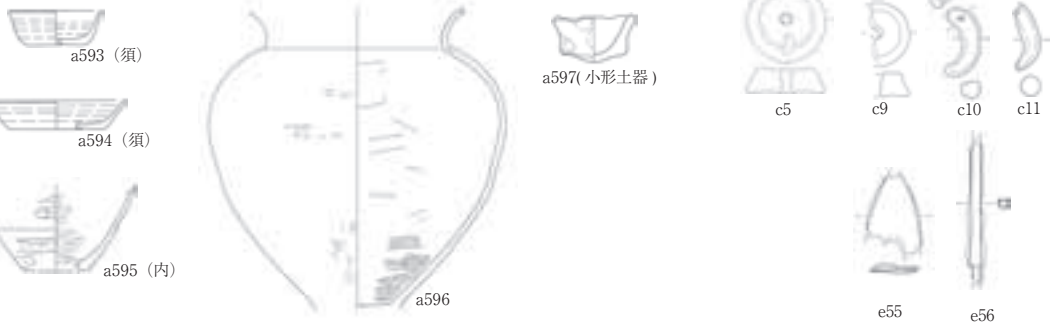
● ＳＩ７６



第 307 図　古代遺物集成（13）

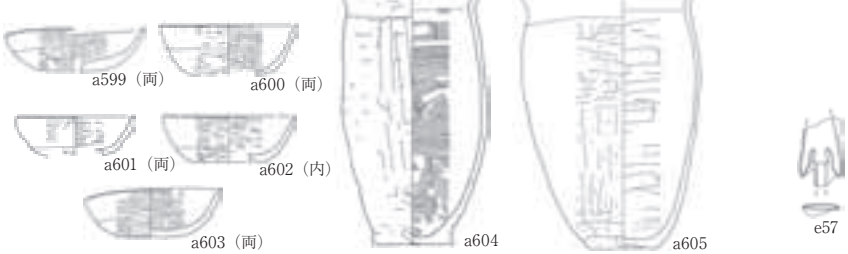
● ＳＩ７７

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

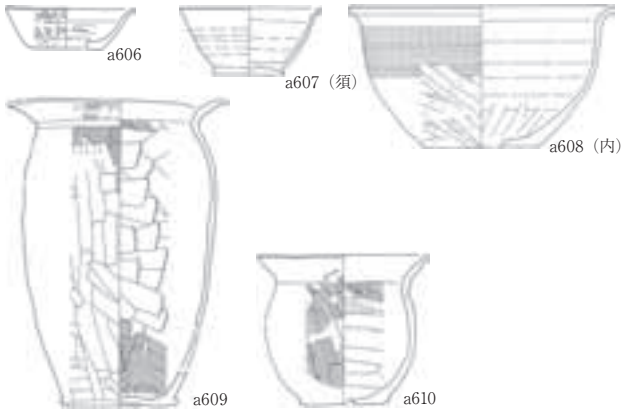


● ＳＩ７９

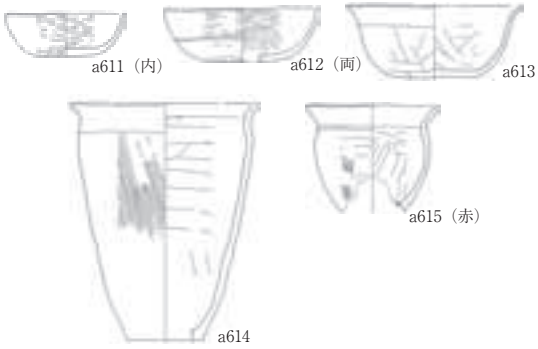
● ＳＩ８０



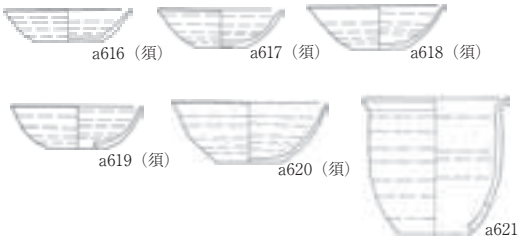
● ＳＩ８１



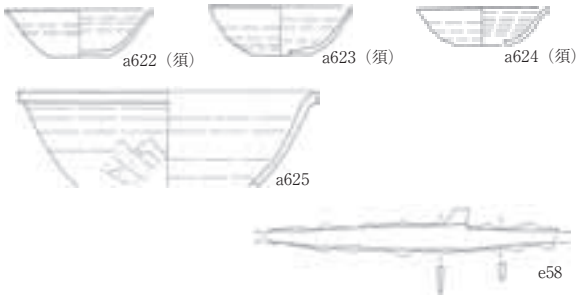
● ＳＩ８４



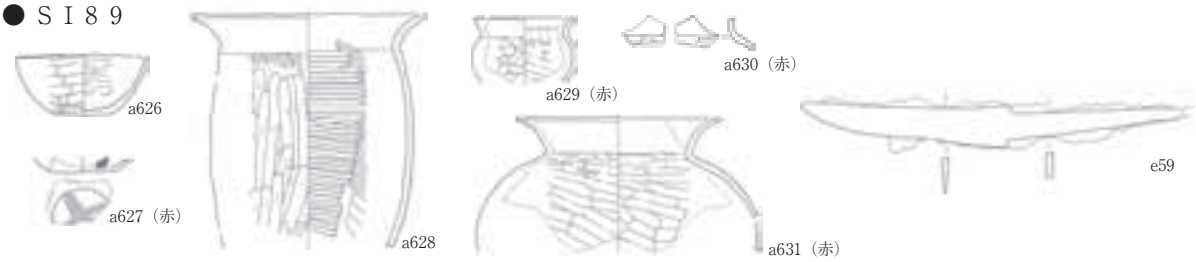
● ＳＩ８６



● ＳＩ８７



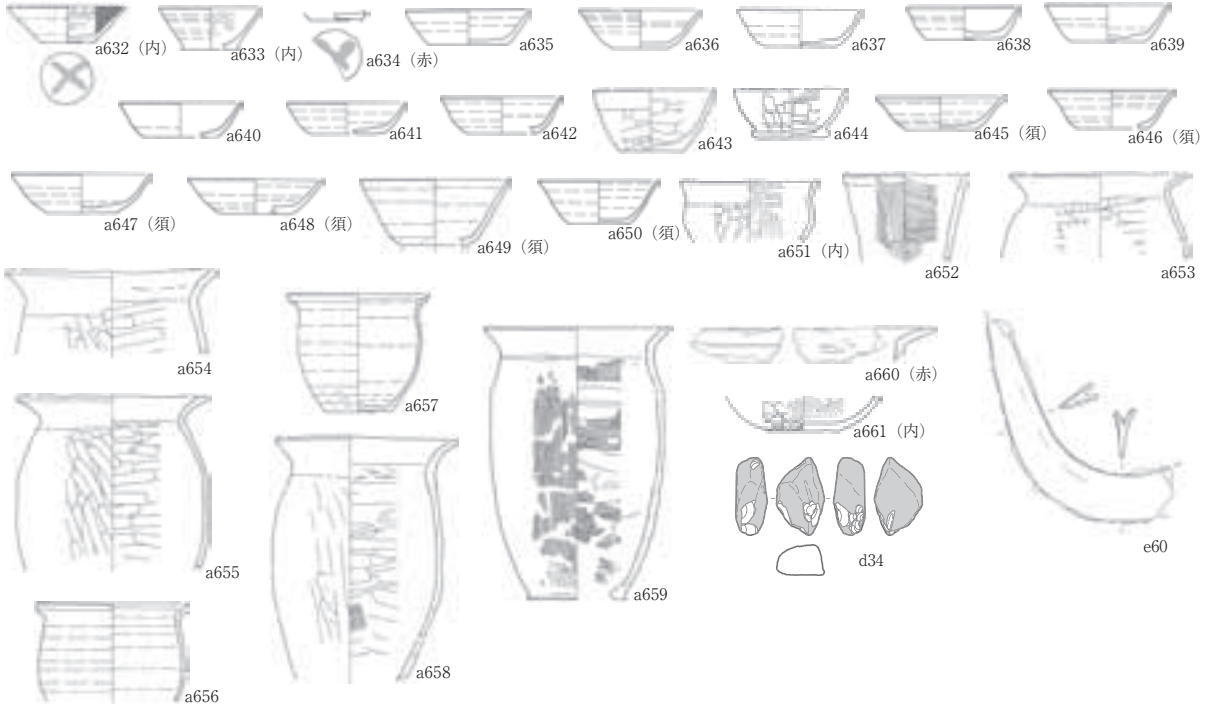
● ＳＩ８９



第 308 図　古代遺物集成（14）

● ＳＩ９０

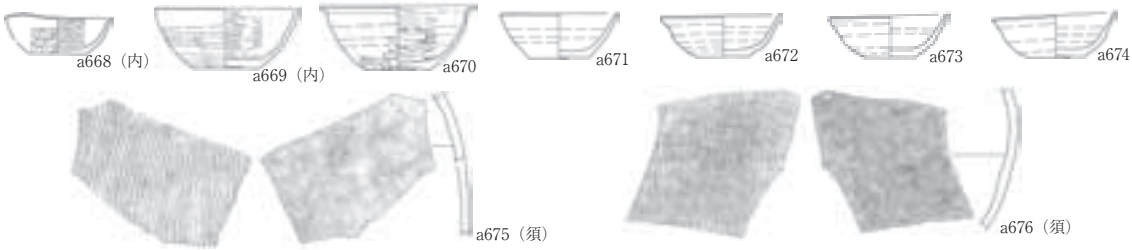
※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



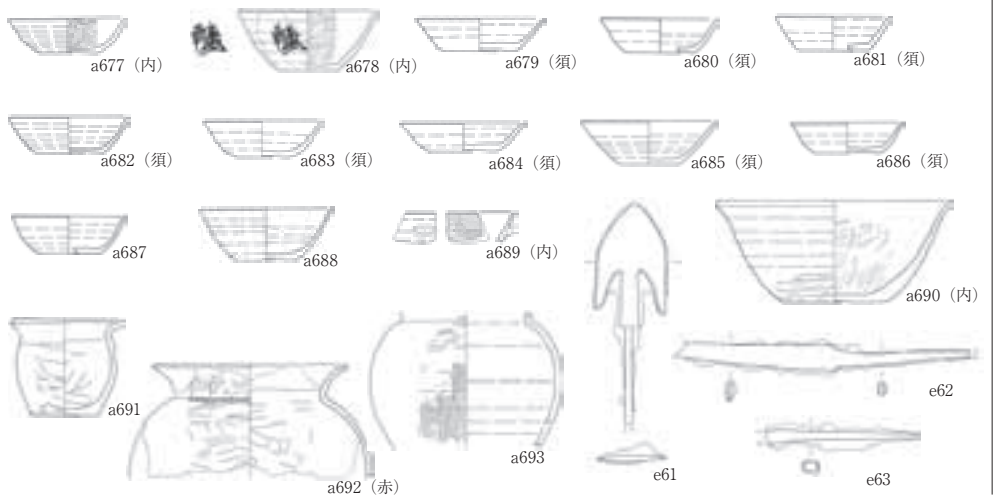
● ＳＩ９２

● ＳＩ９３

● ＳＩ９４



● ＳＩ９５

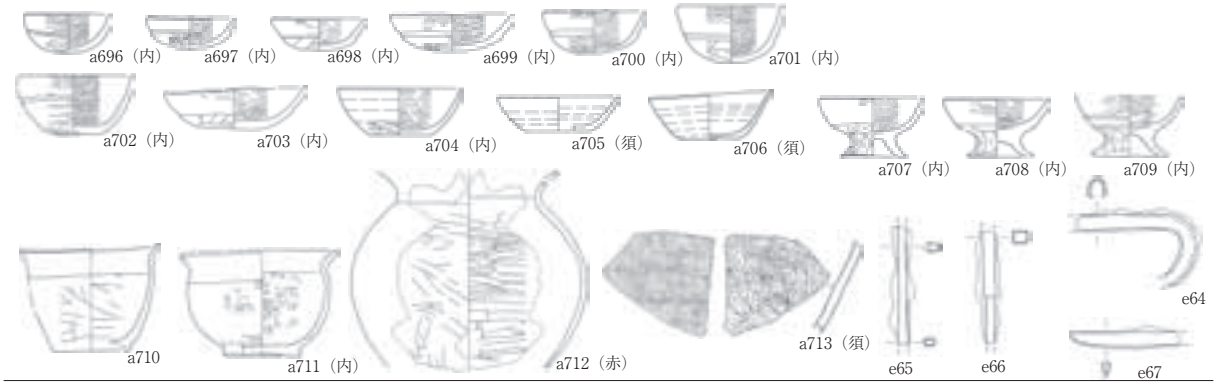


● ＳＩ９６

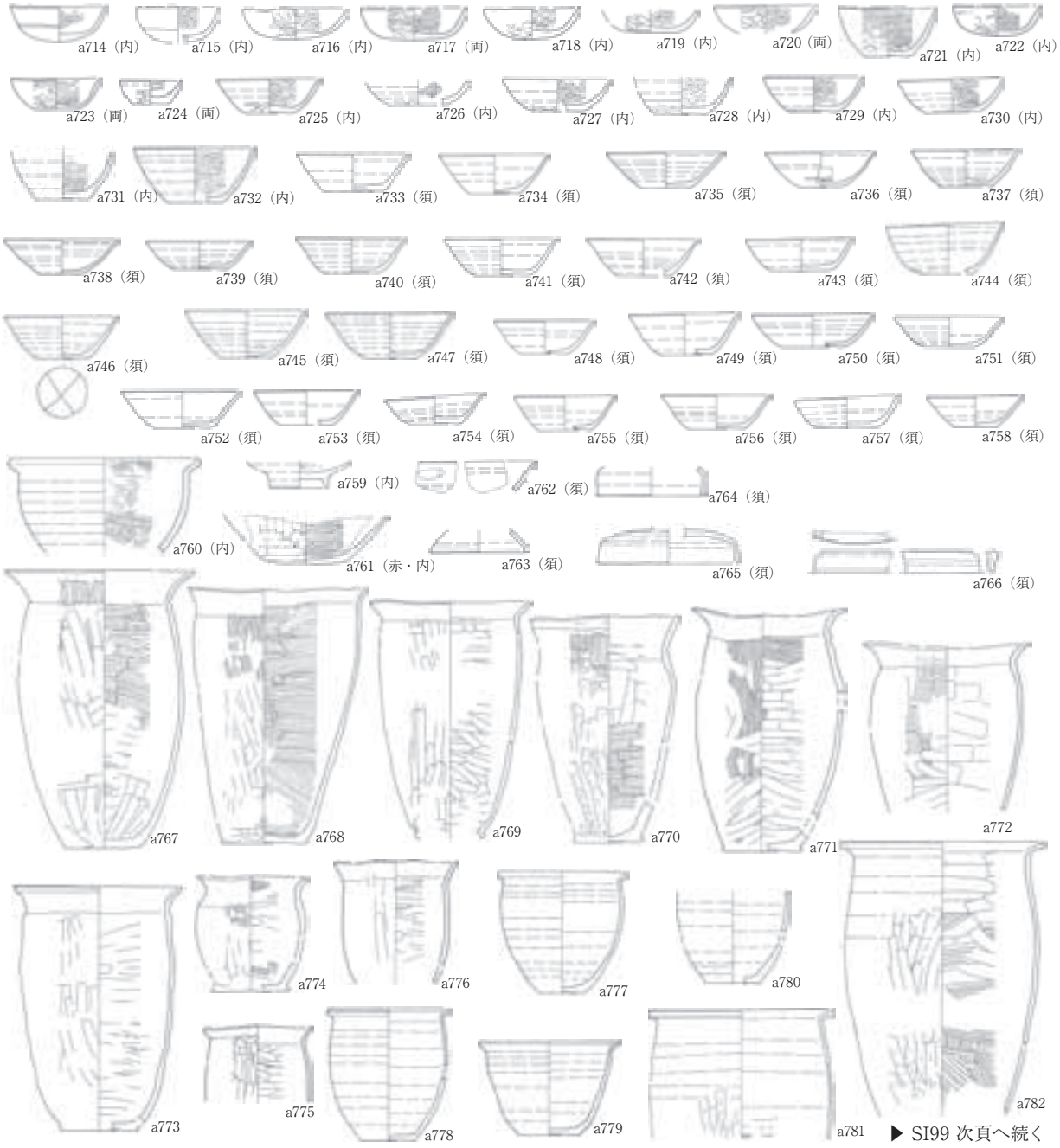
第 309 図　古代遺物集成（15）

● ＳＩ９８

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



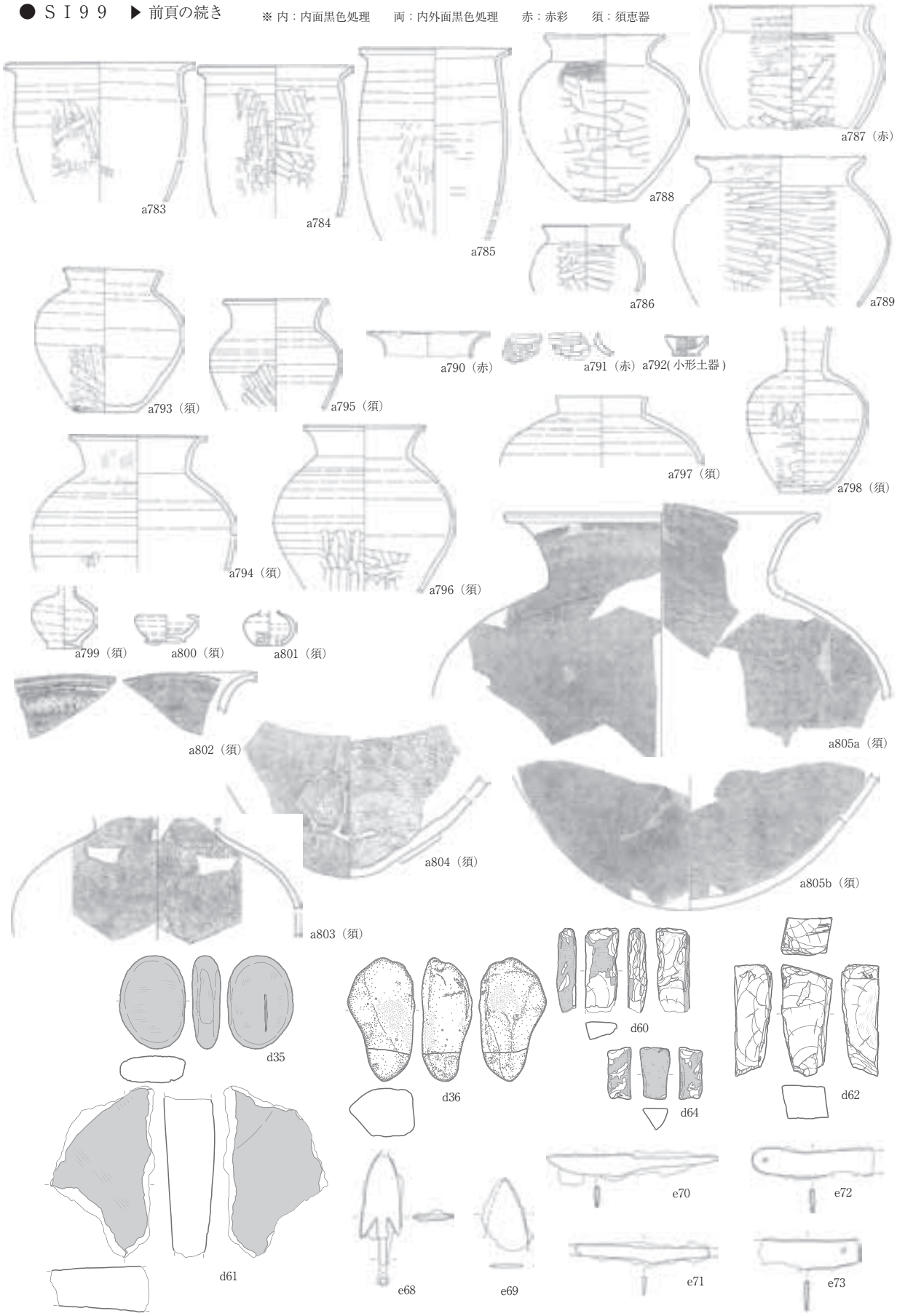
● ＳＩ９９



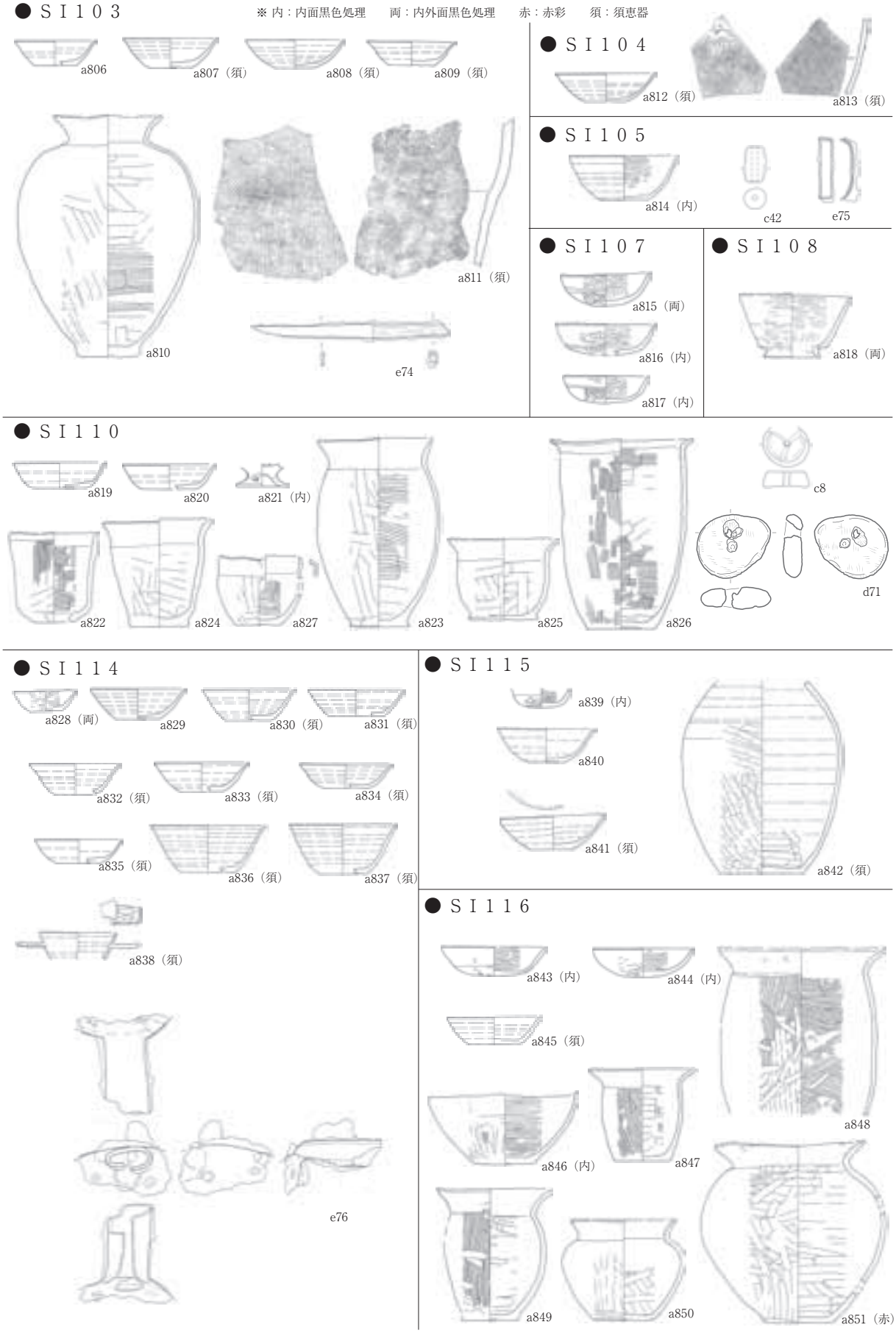
▶ SI99 次頁へ続く

第 310 図　古代遺物集成（16）

● ＳＩ９９　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器



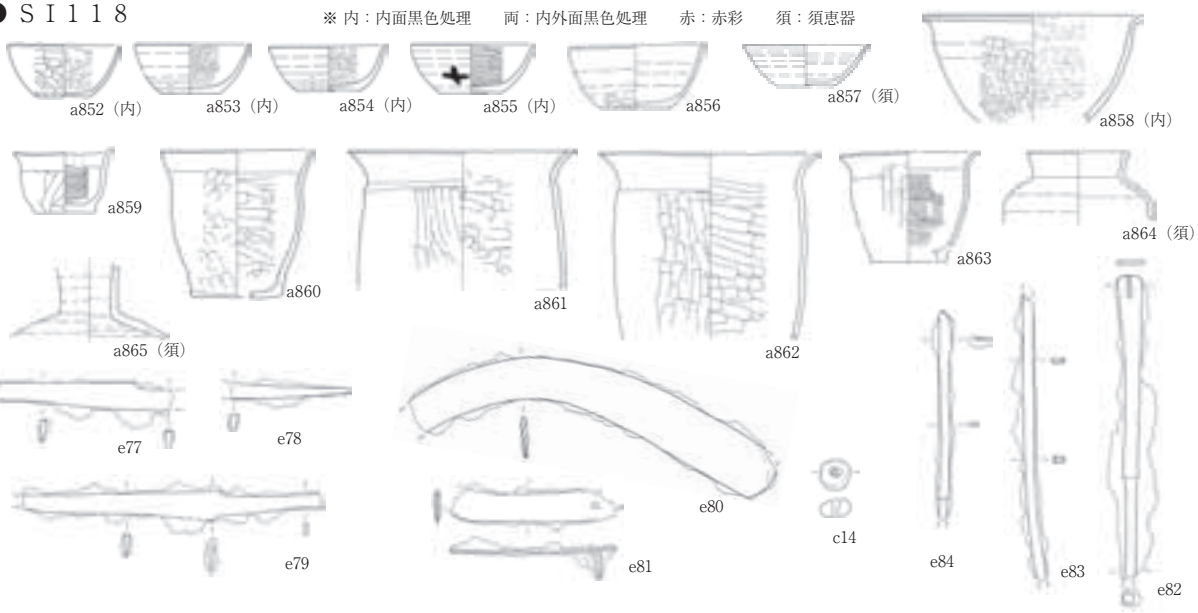
第 311 図　古代遺物集成（17）



第 312 図　古代遺物集成（18）

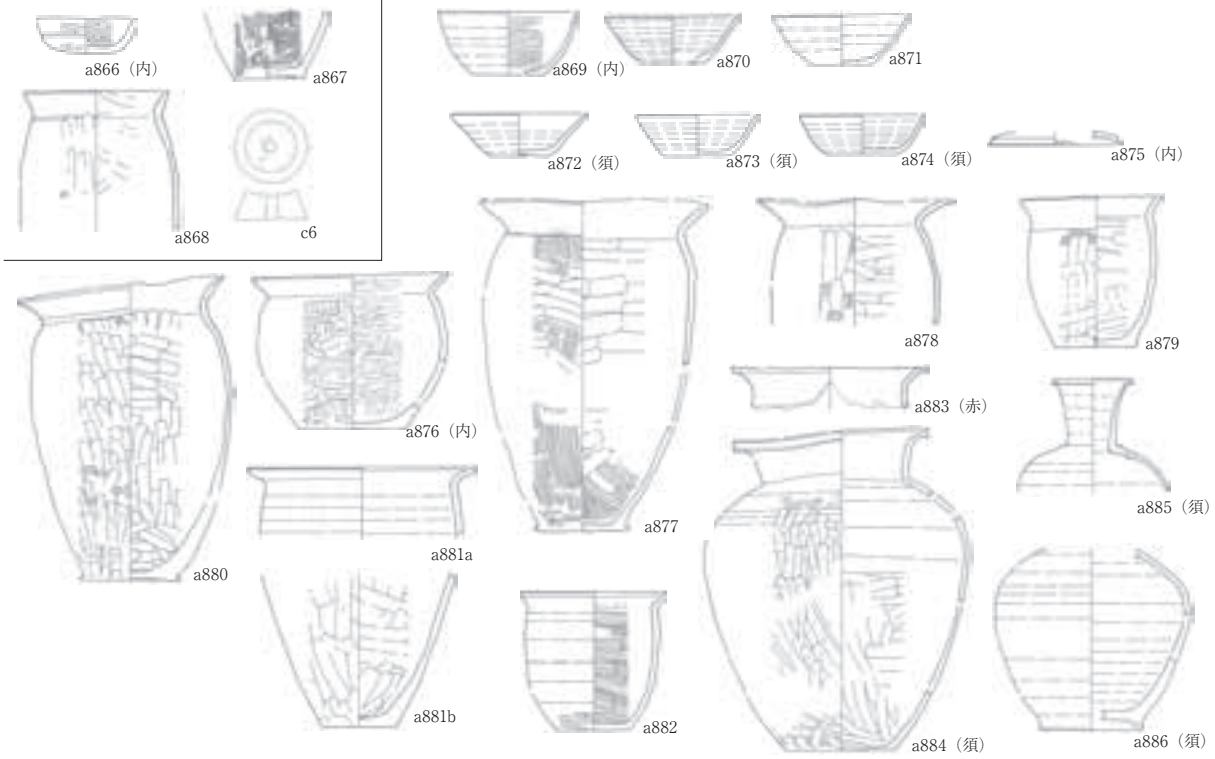
● ＳＩ１１８

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

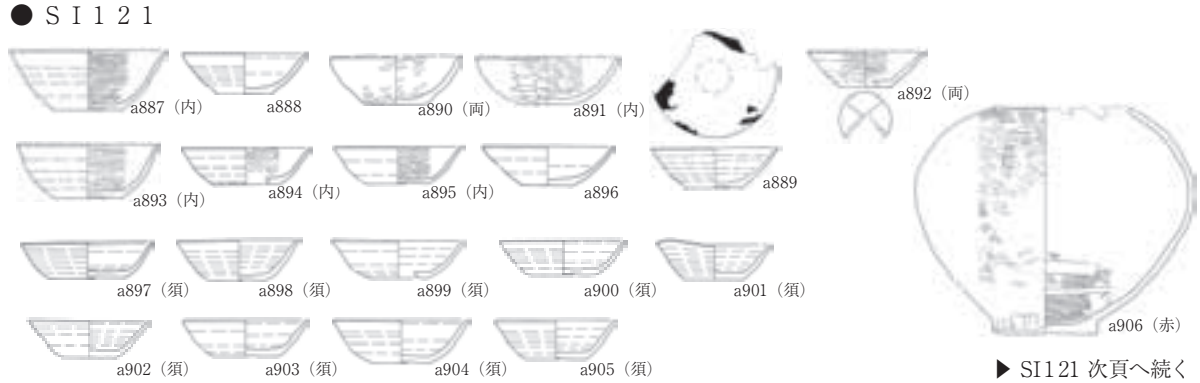


● ＳＩ１１９

● ＳＩ１２０



● ＳＩ１２１



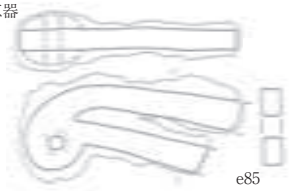
▶ SI121 次頁へ続く

第 313 図　古代遺物集成（19）

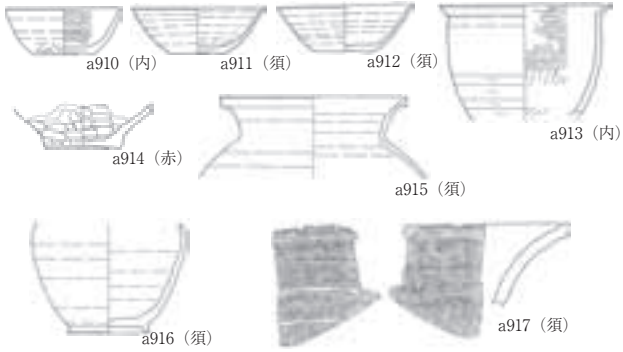
● ＳＩ１２１　▶ 前頁の続き　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

a908（須）

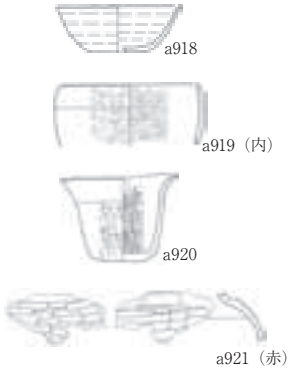
a909（須）


e85

● ＳＩ１２２


a910（内）　a911（須）　a912（須）　a913（内）　a914（赤）　a915（須）　a916（須）　a917（須）

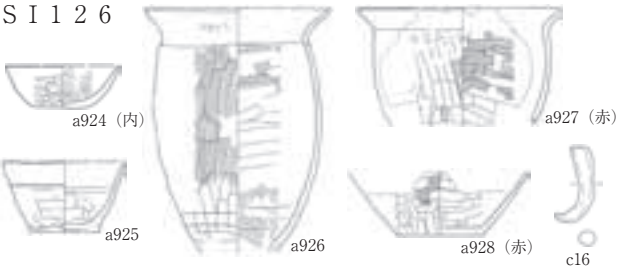
● ＳＩ１２４


a918　a919（内）　a920　a921（赤）

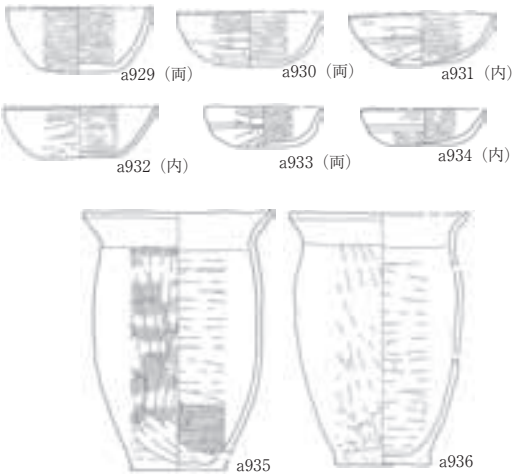
● ＳＩ１２５

a922（赤・内）　a923

● ＳＩ１２６


a924（内）　a925　a926　a927（赤）　a928（赤）　c16

● ＳＩ１２８


a929（両）　a930（両）　a931（内）　a932（内）　a933（両）　a934（内）　a935　a936

● ＳＩ１２９

a937（内）　a938（正面）　a938（側面）

● ＳＩ１３０

a939（内）　a940（内）　a941（内）　a942（内）

e86

e87

e88

e89

● ＳＩ１３１

a943（内）　a944

第 314 図　古代遺物集成（20）

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

● ＳＩ１３２

a945（内）

c7

a946

● ＳＩ１３３

a947（内）

● ＳＩ１３４

a948（内）

a949（内）

a950（内）

● ＳＩ１３５

a951（内）

a952（内）

a953（内）

a954（内）

a955（内）

a956（内）

a957（内）

a958（内）

a959

a960（須）

a961（須）

a962（内）

a967（内）

a970

a963（内）

a964（内）

a965（両）

a966（両）

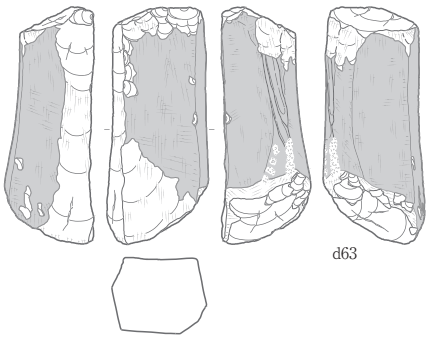
a972

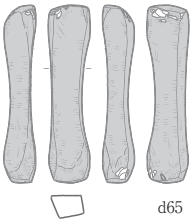
a973

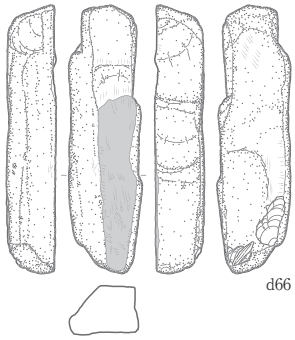
a968（内）

a969（内）

a971（赤）


d63


d65


d66

e90

e91

e92

● ＳＩ１３６

a974（須）

a975（須）

a976（須）

a977（須）

a979

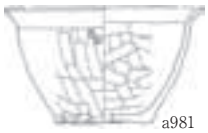
a978（赤）

第 315 図　古代遺物集成（21）

● ＳＩ１３７

a980（須）

● ＳＫ０５



a981

● ＳＫ０９　※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

a982（須）　a983（内）

a984（須）

● ＳＫ１３

a985（須）

● ＳＫ１７

a987（須）

a986（須）

● ＳＫ２０

e98

● ＳＫ２２

a988（須）

● ＳＫ２９

a989（赤）

● ＳＫ４０

a990（須）

● ＳＫ６５

a991

● ＳＫ７５

e99

● ＳＫ８３

a992（須）

● ＳＫ８６

a993（内）

a994（内）

a995（須）

a996（内）

● ＳＫ１２８

a997（赤・内）

a998（赤）

● ＳＫ１３１

a999

● ＳＫ１３４

a1000（両）

a1001（須）

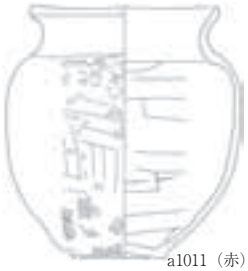
e100

e101

● ＳＫ１５７

a1010（内）

● ＳＸ０６



a1011（赤）

● ＳＸ０９

a1012（内）

● ＳＫ１４６

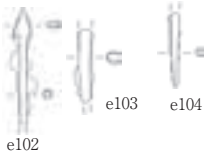
a1002（内）

a1003（須）

● ＳＸ３９

a1013（内）

a1014（須）



e102　e103　e104

● ＳＸ４０

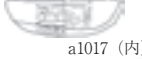
a1015（両）

a1016

● ＳＫ１４７

a1004（須）

● ＳＸ４２



a1017（内）

a1018（須）

第 316 図　古代遺物集成（22）

● ＳＫ１４９

a1005（赤）

● ＳＸ４６

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

a1019（須）　a1020（須）　a1021（須）　a1022（須）　a1024（赤）　a1023

● ＳＸ４８

c43

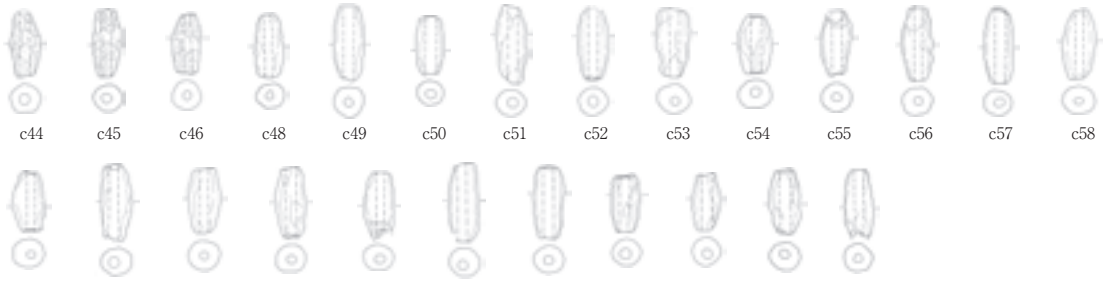
● ＳＸ５３

a1025（須）　a1026（赤）

● ＳＸ５８

a1027（赤）

● ＳＸ６１



c44　c45　c46　c48　c49　c50　c51　c52　c53　c54　c55　c56　c57　c58

c59　c60　c61　c62　c63　c64　c65　c66　c67　c68　c69

● ＳＫ１５４

a1006（両）　a1007（両）　a1008（両）　a1009（赤）

● ＳＸ７３

a1028（赤）

● ＳＸ７８

a1029（両）

● ＳＮ１１

a1030（内）

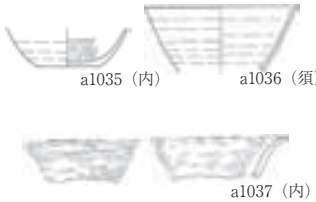
● ＳＮ１２

a1031

● ＳＤ０１

a1032（内）　a1033（赤）　a1034（須）

● ＳＤ０２

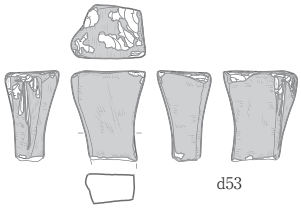


a1035（内）　a1036（須）　a1037（内）

● ＳＤ０４

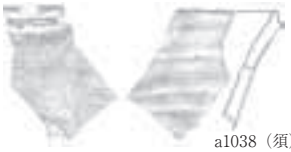
e105

● ＳＤ０６



d53

● ＳＤ０７

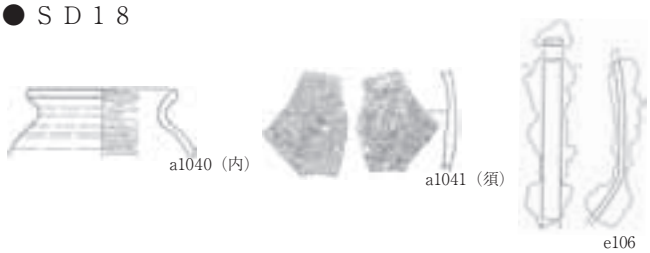


a1038（須）

● ＳＤ１３

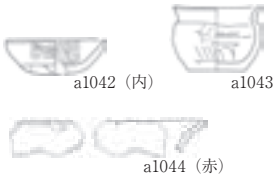
a1039（内）

● ＳＤ１８



a1040（内）　a1041（須）　e106

● ＳＤ２３

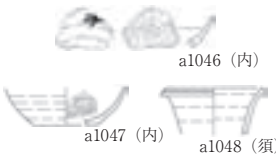


a1042（内）　a1043　a1044（赤）

● ＳＤ２５

a1045（須）

● ＳＤ２６



a1046（内）　a1047（内）　a1048（須）

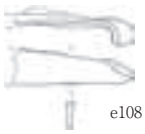
● Ｐ１０

c70

● Ｐ１７

e107

● Ｐ３０



e108

● Ｐ５１

e109

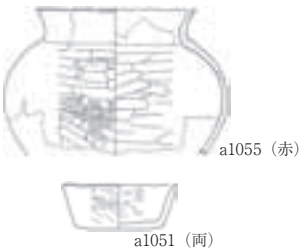
第 317 図　古代遺物集成（23）

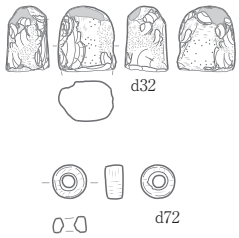
● Ｐ１２９

● Ｐ２９２

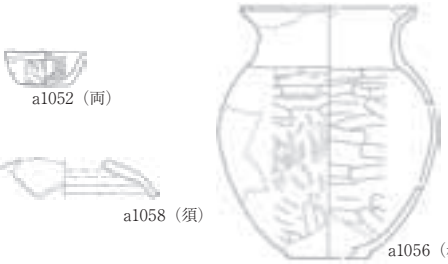
● Ｐ５０９

● 遺構外（２区）

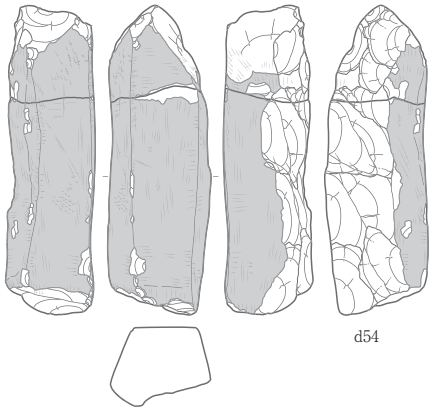




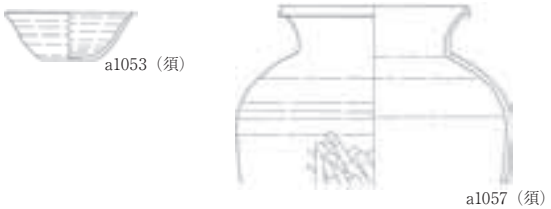
● 遺構外（３区）



● 遺構外（４区）



● 遺構外（６区）



● 遺構外

※ 内：内面黒色処理　両：内外面黒色処理　赤：赤彩　須：須恵器

第 318 図　古代遺物集成（24）

Ⅴ　遺構・遺物の検討

1　古代の遺構と遺物

(1)　古 代 の 土 器

今回の調査で出土した奈良・平安時代の土師器・須恵器は、概ね 8～10 世紀代に位置づけられる。氏家（1957・1967）の設定による国分寺下層式～表杉の入式に該当し、特にロクロ導入期前後の様相を示す好資料と捉えられる。

仙台平野から北上川流域を対象とした該期の土器編年研究（白鳥 1980、相原 1981、加藤 1989、伊藤 1990、吾妻 2004、高橋（千）2007、村田 2014 等）を参照すると、地域差や官衙、集落遺跡の違いはあるものの、大掴みで捉えれば 8 世紀後半に非ロクロ土師器坏における外面の段、沈線の消失、8 世紀末から 9 世紀初頭にかけてロクロ土師器坏及び須恵器坏の急速な普及、9 世紀前葉における土師器甕のロクロ使用率の増加、9 世紀以降の須恵器坏から赤焼土器坏への交替が把握されている。上記編年研究においては、個別器種の変化傾向をトレースすると同時に、土器群総体としての細別器種のまとまりを「段階」「様式」と捉え、細別器種の消長によって編年を組み立てる方法が採られている。中村遺跡資料の検討においても基本的にはセット関係が把握できる資料群の比較によって段階設定を行う。

【土器組成の検討】

組成 1　非ロクロ土師器坏ＡＩａ類（内黒有段丸底）、ＡⅡａ類（内黒無段丸底）、ＡⅡｂ類（内黒無段平底）、高坏、非ロクロ土師器甕ＡＩａ類（長胴口縁外反）、ＡⅡ類（小型）、ＡⅢ類（赤彩球胴）で構成される。土師器の製作技法はすべて非ロクロによる。坏は体部に段を持ち、底部丸底を呈するものが多い。基本的に須恵器を伴わない。

組成 2　土師器坏ＡＩｂ類（内黒有段平底）、ＡⅡａ類（内黒無段丸底）、ＡⅡｂ類（内黒無段平底）、ＢＩa2 類（内黒ロクロ静糸再）、ＢＩb2 類（内黒ロクロ篦切）、ＢＩd1 類・ＢＩd2 類（内黒ロクロ再により切り離し不明）、ＢＩc1 類・ＢＩc2 類（内黒ロクロ糸再）、ＢＩc3 類（内黒ロクロ糸切）、ＢⅡb3 類（ロクロ篦切）、ＢⅡc1 類（ロクロ糸切再）、ＢⅡc3 類（ロクロ糸切）、高台坏Ａ・ＢⅠ・ＢⅡ類、高坏、土師器甕ＡＩａ類（長胴口縁外反）、ＡⅡ類（小型）、ＡⅢ類（赤彩球胴）、ＢⅠ類（ロクロ長胴）、ＢⅢ類（ロクロ小型）、須恵器坏 a3 類（静止糸）、b3 類（篦切）、c1 類（糸切再）、c3 類（糸切）、壺Ⅰ類、甕Ⅰ・Ⅲ類で構成される。土師器坏は底部切り離し後の再調整が行われるものが多い。

組成 3　土師器坏ＡⅠ・ＡⅡ類を伴わない。土師器坏ＡⅢ類（甕に似た作りの赤彩坏）が見られる。ＢⅠc3 類（内黒ロクロ糸切：底部朱書含）、ＢⅡb3 類（ロクロ篦切）、ＢⅡc3 類（ロクロ糸切：底部朱書）、土師器甕ＡＩａ類（長胴口縁外反）、ＡⅡ類（小型）、ＢⅠ類（ロクロ長胴）、ＢⅢ類（ロクロ小型）、須恵器坏 b3 類（篦切）、c3 類（糸切）、高台坏、壺Ⅰ類、甕Ⅰ・Ⅲ類で構成される。土師器坏ＢⅡb3 類（ロクロ篦切）、須恵器坏 b3 類（篦切）が主体をなし、いずれも全く再調整が見られないのが特徴的な一群である。また、組成 1 に一定数認められる土師器甕ＡⅢ類（赤彩球胴）を殆ど伴わない。

組成 4　ＢＩa3 類（内黒ロクロ静糸）、Ｉc1 類（内黒ロクロ糸再）、ＢＩc3 類（内黒ロクロ糸切）、ＢＩd1 類（内黒ロクロ再により切り離し不明）、高台皿ＢＩ類（ロクロ外傾）、土師器甕ＡＩａ類（長胴口縁外反）、ＡⅡ類（小型）、ＡⅢ類（赤彩球胴）、ＢⅡ類（ロクロ球胴）、須恵器坏 b3 類（篦切）、c3 類（糸切）、甕Ⅲ類で構成される。土師器坏では非ロクロのＡⅠ類、ＡⅡ類を伴わない。ロクロ坏

は底部切り離し後の再調整が引き続き行われる。赤彩球胴甕ＡⅢｂ類を所有し、ロクロ長胴甕(ＢⅠ類)を欠く一群である。

組成５　土師器坏ＢⅠb2類（内黒ロクロ篦切)、ＢⅠc1類（内黒ロクロ糸再)、ＢⅠc2類（内黒ロクロ糸再)、ＢⅠd2類（内黒ロクロ再により切り離し不明)、ＢⅡc3類（ロクロ糸切)、土師器甕ＡⅠａ類（長胴口縁外反)、ＡⅡ類（小型)、ＢⅠ類（ロクロ長胴)、ＢⅢ類（ロクロ小型)、須恵器坏b3類（篦切)、c1類（糸切再)、c3類（糸切)、壺Ⅰ類、甕Ⅰ～Ⅲ類で構成される。ロクロ長胴甕ＢⅠ類を所有し、赤彩球胴甕ＡⅢ類を欠く一群である。

組成６　土師器坏ＢⅠc3類（内黒ロクロ糸切)、ＢⅡc3類（ロクロ糸切)、高台坏ＢⅡ類（ロクロ・丸みを持つ)・ＢⅢ類（ロクロ・外反)、土師器甕ＡⅠｂ類（口縁短)、ＡⅡ類（小型)、須恵器甕Ⅲ類で構成される一群である。

【変遷過程】

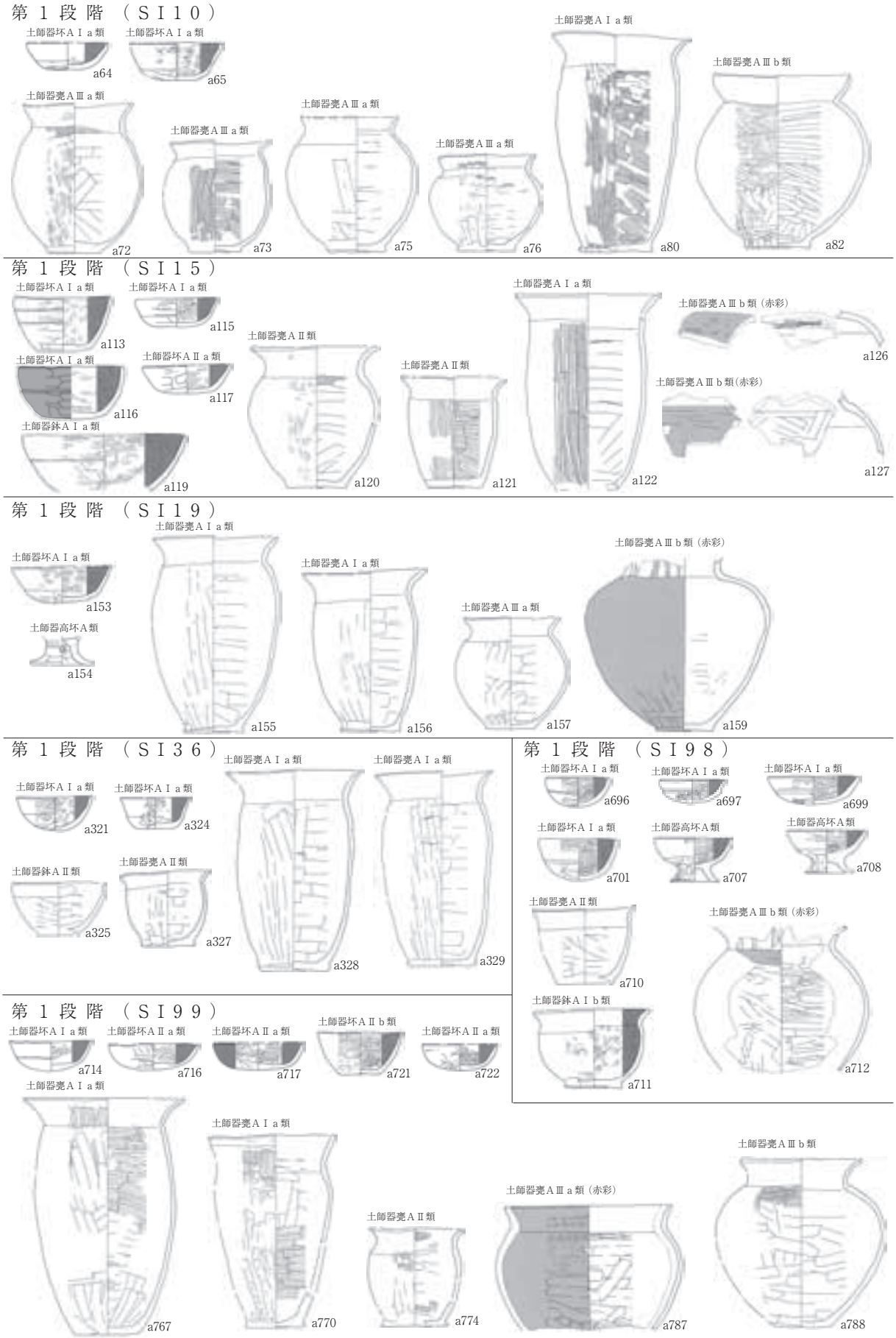
ここで、再度組成1～5について捉えなおす。年代観は上述した既往の編年研究を参照した。

第１段階（組成１)　土器の製作に際してはすべて非ロクロである。体部外面有段・無段の丸底土師器坏、無段の平底土師器坏、高坏、口縁部外反の長胴甕、小型甕、赤彩球胴甕で構成される。年代は国分寺下層式（氏家1967）相当の８世紀中葉から後葉頃と判断する。

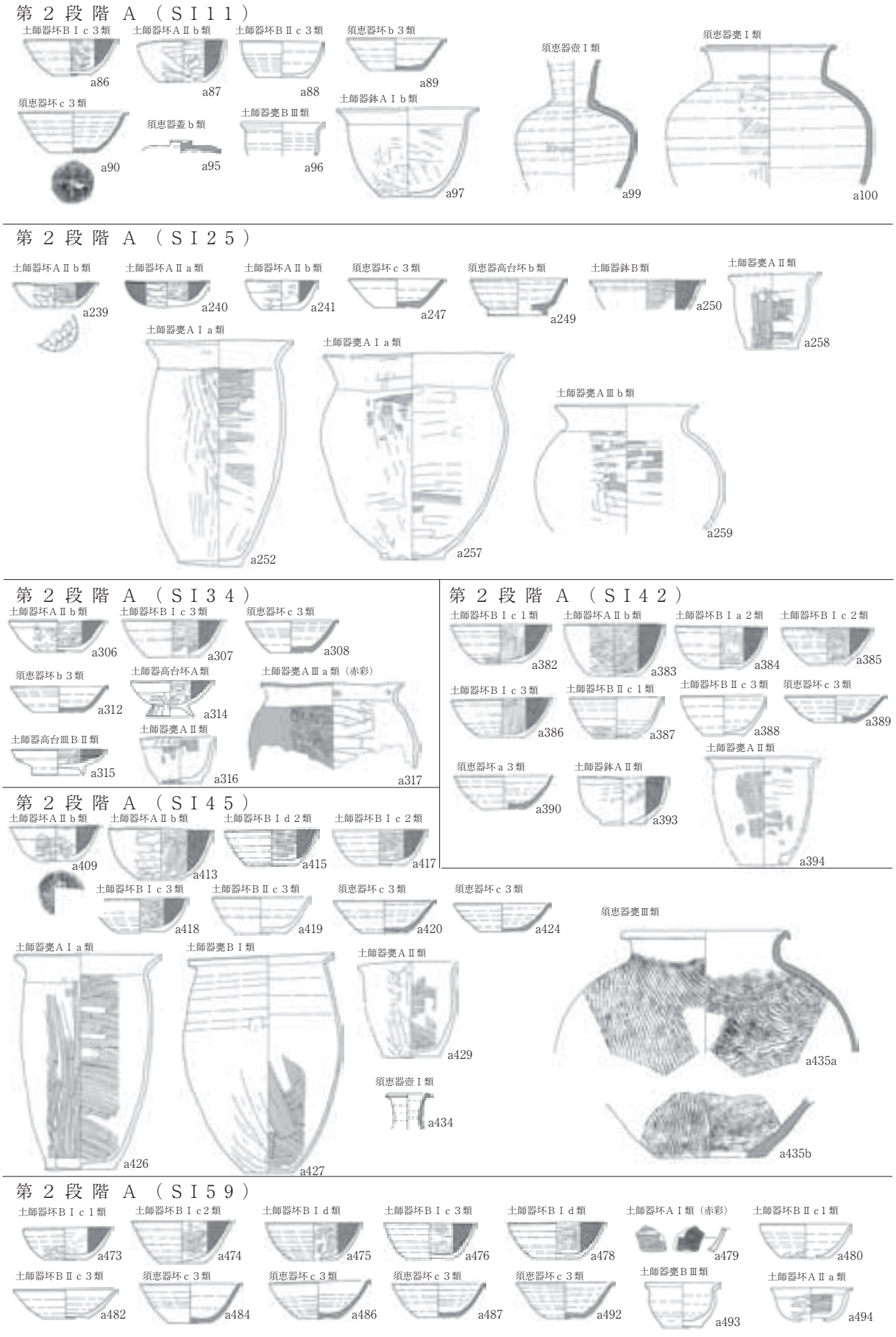
第２段階Ａ（組成２)　非ロクロ土師器坏と、ロクロ土師器坏が共伴する段階である。非ロクロ土師器は内黒有段丸底のタイプが消失し、有段平底・無段丸底・無段平底が残る。ロクロ坏は内面黒色処理のもの、内外ロクロ調整のみのものが見られる。底部の切り離し手法は静止糸切り・篦切・糸切りの３種が見られ、体部下端に回転ケズリ若しくは手持ちヘラケズリ再調整されるものと、再調整を持たないものが混在する。土師器甕は非ロクロの長胴甕、赤彩球胴甕が主体的であるなか、ロクロ長胴甕ＢⅠ類が少量ながら見られる。また、本段階においてはロクロ高台坏ＢⅠ類の存在が特徴的である。このことについては項を設けて後述する。須恵器は組成３と同様、底部篦切坏や糸切坏の他、長頸瓶、長胴甕、大甕で構成される。本段階の年代は、非ロクロ土師器坏とロクロ土師器坏の共伴という観点から、従来の伊治城型組成・多賀城跡Ｂ群土器に比定されるものと考えられる(吾妻2004)。8世紀末～9世紀初頭頃と位置付けたい。

第２段階Ｂ（組成３)　非ロクロ土師器坏を全く持たず、篦切の土師器坏と須恵器坏を主体として、それに糸切の土師器坏（所謂赤焼土器）と須恵器坏が伴う。体部下端～底部縁辺の再調整が全く見られないのが特徴的である。赤彩球胴甕を殆ど持たず（小破片２点のみ)、赤彩が体部に施されたＡⅢ類坏、底部に「+」と朱書きされたＢⅠc3類・ＢⅡc3類坏を伴う。須恵器は他に長頸瓶、長胴甕、大甕を組成に加える。本段階は、土師器・須恵器いずれについても篦切り坏を主体とする点、非ロクロ土師器坏を持たない点で第１段階とは大きく異なり、連続性を欠く一群といえる。一方、第２段階Ａとは非ロクロ土師器坏の有無、土師器および須恵器坏の再調整の有無という点では違いがあるものの、共通性を見出すことも可能である。その他の器種構成からはほぼこれと併行期か、もしくは須恵器坏の切り離し手法において篦切りが卓越する点では若干先行するものと考えられる。従来の本県域の年代観に照らせば、胆沢城設置期すなわち９世紀初頭の帰属とみなすことができよう。しかしながら第２段階Ａとの関係性から、ここでは８世紀末もしくは９世紀初頭の所産と位置付けたい。

第３段階Ａ（組成４)　非ロクロ土師器坏が消失し、ロクロ土師器坏に限定される段階である。内黒土師器坏のみで構成され、体部下端～底部縁辺の再調整は少量ながら残る。内外ロクロ調整のみの篦切・糸切坏（所謂赤焼坏）は伴わない。体部が外傾して立ち上がるロクロ高台皿が１点認められる。また、非ロクロ土師器長胴甕と、小型甕、赤彩の球胴甕が伴う。ロクロ成形の長胴甕ＢⅠ類が見られ

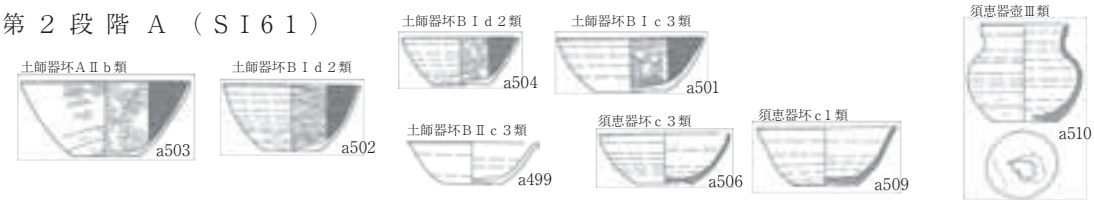


第 319 図　古代土器の各段階資料（1）

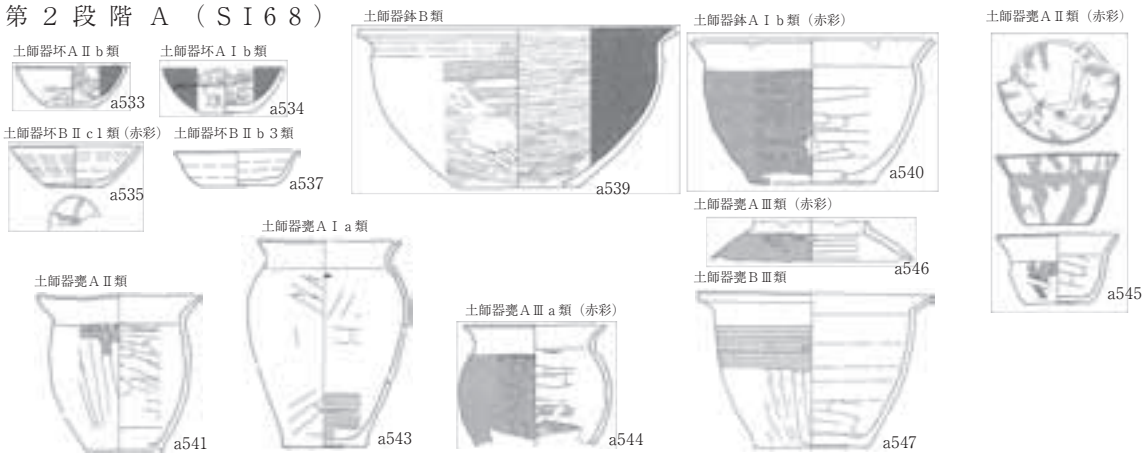


第 320 図　古代土器の各段階資料（2）

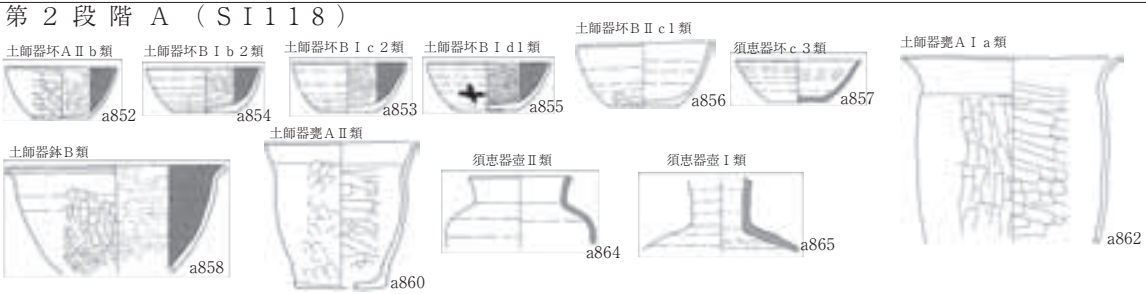
第２段階Ａ（ＳＩ６１）



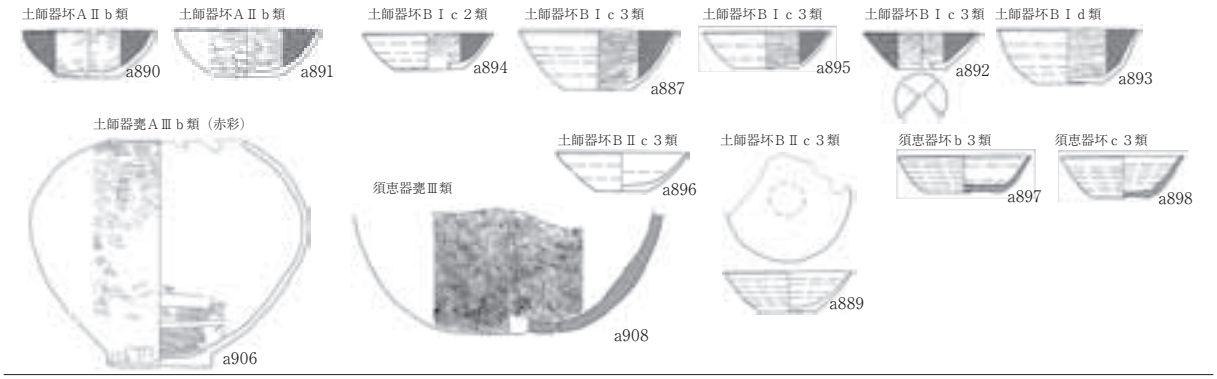
第２段階Ａ（ＳＩ６８）



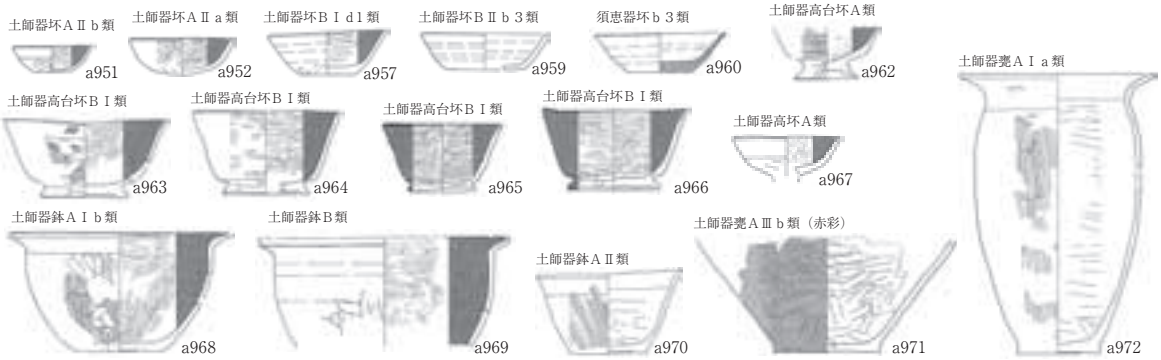
第２段階Ａ（ＳＩ１１８）



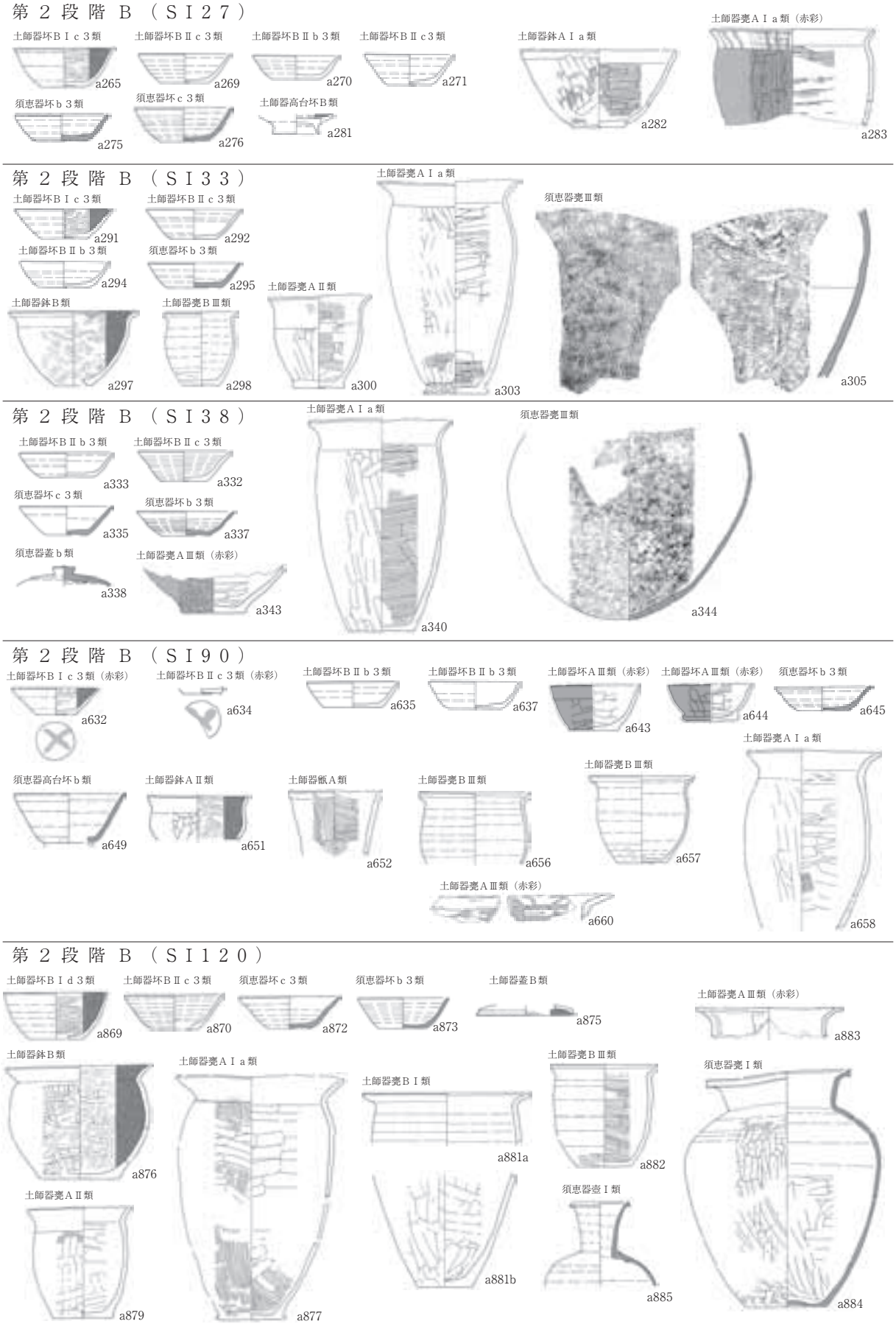
第２段階Ａ（ＳＩ１２１）



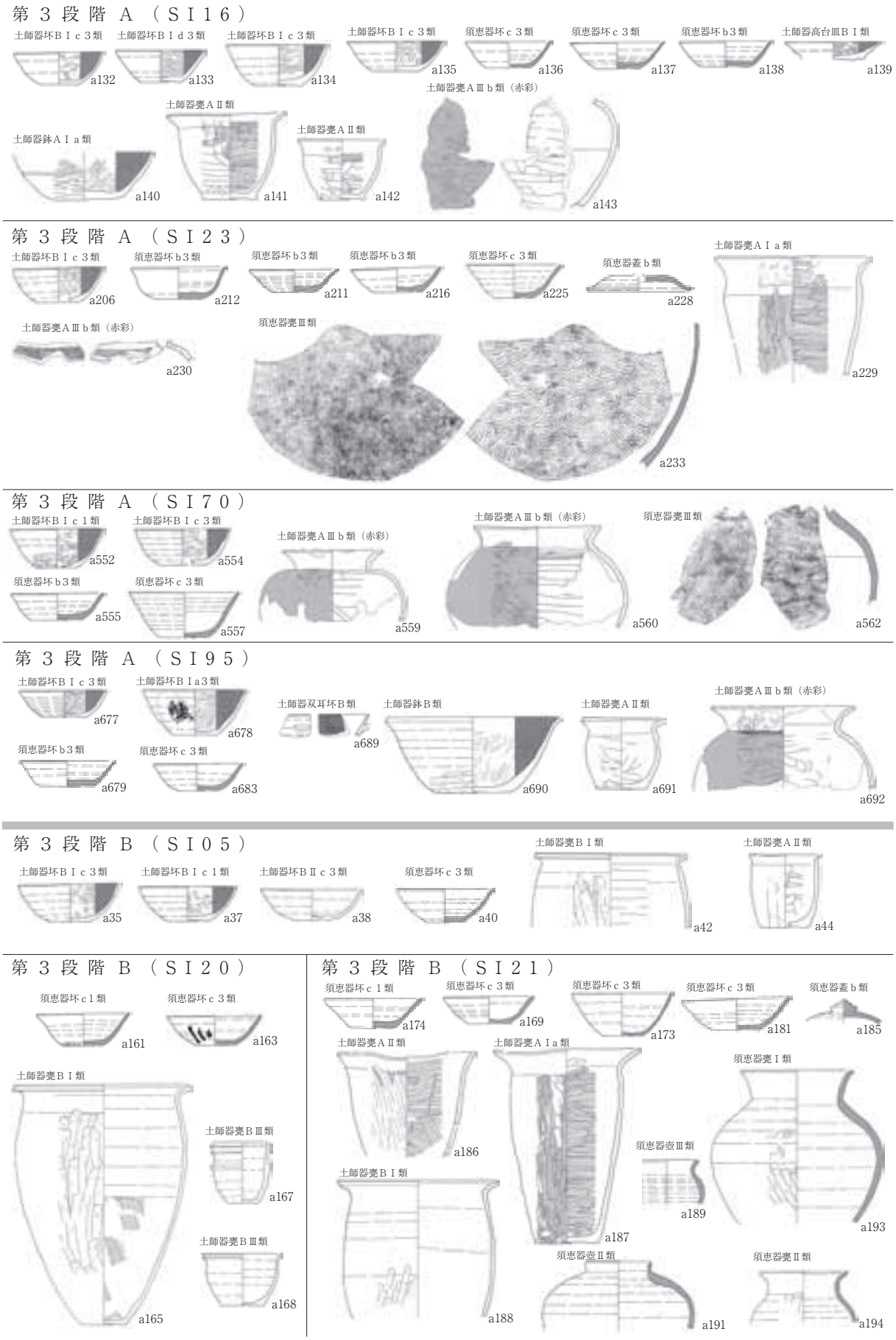
第２段階Ａ（ＳＩ１３５）



第 321 図　古代土器の各段階資料（3）

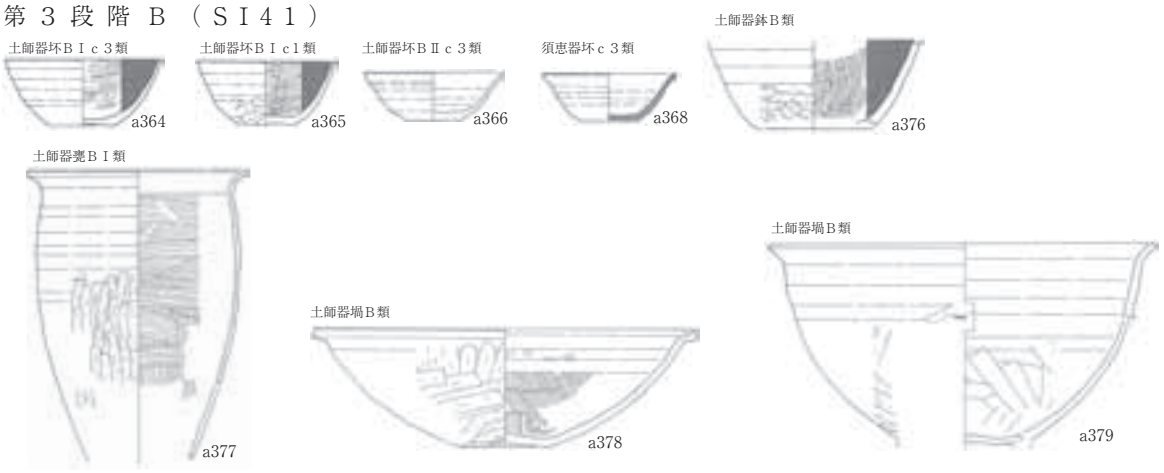


第 322 図　古代土器の各段階資料（4）

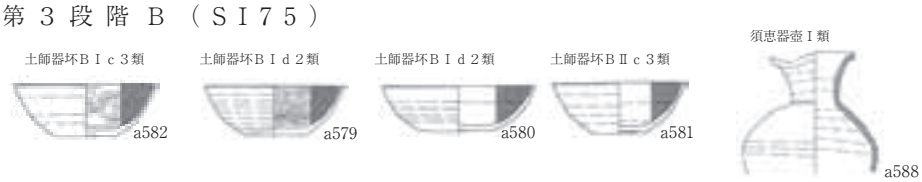


第 323 図　古代土器の各段階資料（5）

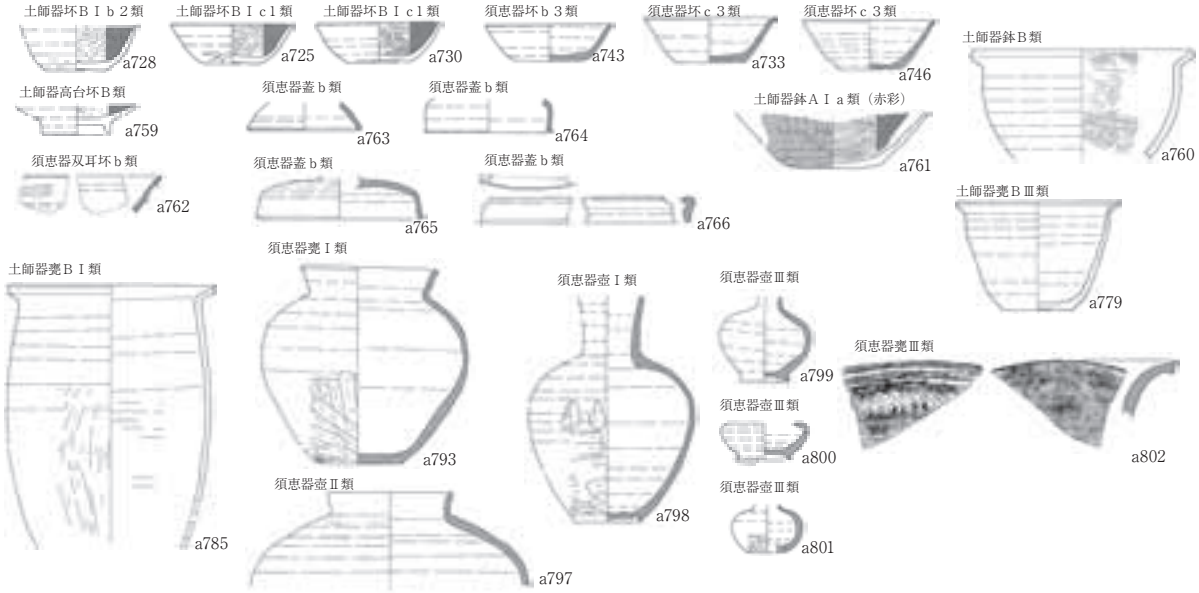
第３段階Ｂ（ＳＩ４１）



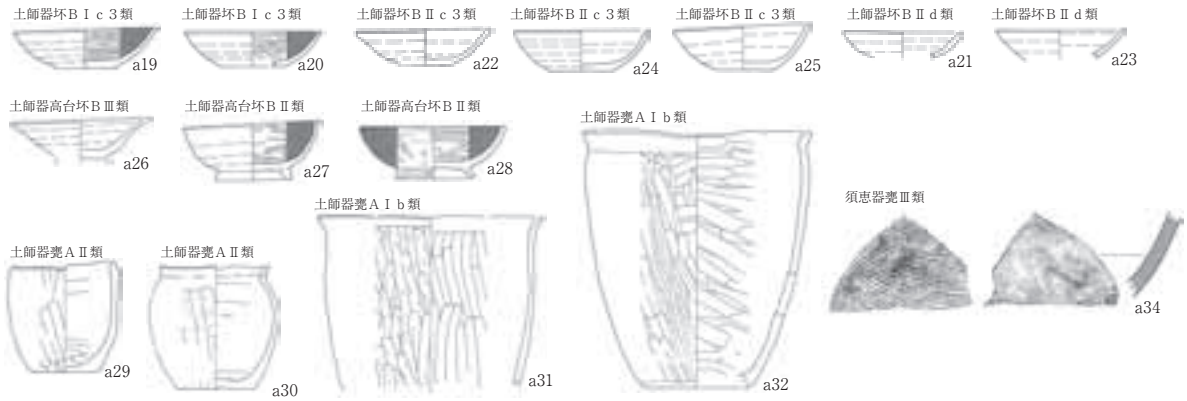
第３段階Ｂ（ＳＩ７５）



第３段階Ｂ（ＳＩ９９）



第４段階（ＳＩ０４）



第 324 図　古代土器の各段階資料（6）

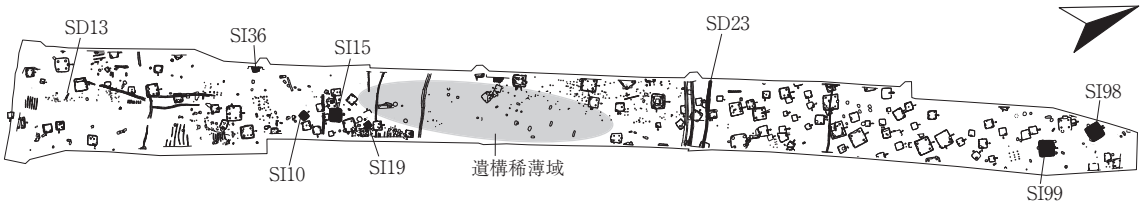
第 24 表　遺構別古代土器組成

				土師器																															須恵器									合計
				坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	坏	高台坏	高台坏	高台坏	高台坏	高坏	高台皿	高台皿	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	甕	坏	坏	坏	坏	高台坏	壺	甕	甕	甕	
				有段丸	有段平	無段丸	無段平	甕に似る	内黒・静・K再	内黒・静	内黒・箆	内黒・糸・手再	内黒・糸・K再	内黒・糸	内黒・不・手再	内黒・不・K再	ロクロ・箆	ロクロ・糸・手再	ロクロ・糸	非ロクロ	非ロクロ・深・直線的	ロクロ・体部丸み	ロクロ・外反	非ロクロ	ロクロ・外傾	ロクロ・屈曲	口縁外反	口縁短	小形	赤彩・紡錘	赤彩・肩張	ロクロ長胴	ロクロ球胴	ロクロ小形	静	箆	糸・手再	糸		長頸瓶	長胴	小形	大甕	
遺構名	組成	段階	時期	AⅠa	AⅠb	AⅡa	AⅡb	AⅢ	BⅠa2	BⅠa3	BⅠb2	BⅠc1	BⅠc2	BⅠc3	BⅠd1	BⅠd2	BⅡb3	BⅡc1	BⅡc3	A	BⅠ	BⅡ	BⅢ		BⅠ	BⅡ	AⅠa	AⅠb	AⅡ	AⅢa	AⅢb	BⅠ	BⅡ	BⅢ	a3	b3	c1	c3	b	Ⅰ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	
SI10	組成 1	第 1 段階	8c 中～後	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	18
SI15				5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
SI19				1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
SI36				3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
SI98				8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	17
SI99				2	0	5	1	0	0	0	1	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	3	1	3	5	0	4	0	3	0	23	0	1	4	0	4	75
SI11	組成 2	第 2 段階 A	8c 末～9c 初	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5	0	1	1	0	0	12
SI25				0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	20
SI34				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	0	0	0	12
SI42				0	0	0	1	0	1	0	0	2	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	14
SI45				0	0	0	6	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	6	0	1	1	0	1	25
SI59				0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	10	0	0	0	0	0	20
SI61				0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	11
SI68				0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13
SI118				0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	11
SI121				0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	5	0	0	0	0	2	22
SI135				0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	3	1	0	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	17
SI27	組成 3	第 2 段階 B	8c 末～9c 初	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	7	0	0	0	0	0	17
SI33				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	14
SI38				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	11
SI90				0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0	0	1	0	0	0	0	23
SI120				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1	0	1	0	2	0	1	0	2	1	0	0	14
SI16	組成 4	第 3 段階 A	9c 前葉～後葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	10
SI23				0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4	0	13	0	0	0	0	1	24
SI70				0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	12
SI95				0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	6	0	4	0	0	0	0	0	15
SI05	組成 5	第 3 段階 B	9c 前葉～後葉	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	10
SI20				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	6
SI21				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	15	0	0	2	1	0	22
SI41				0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	15
SI75				0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	10
SI99(2・3層)				2	0	5	1	0	0	0	1	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	3	1	3	5	0	4	0	3	0	23	0	1	4	0	4	75
SI04	組成 6	第 4 段階	10c 代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	2	1	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13

※遺構および器種は主要なもののみを抽出している

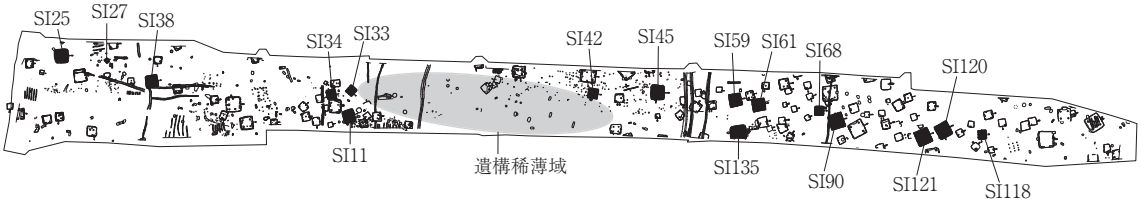
第１段階

８世紀中葉～後葉



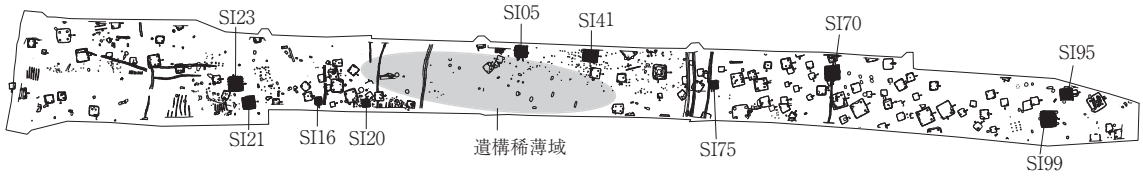
第２段階 A・B

８世紀末葉～９世紀初頭



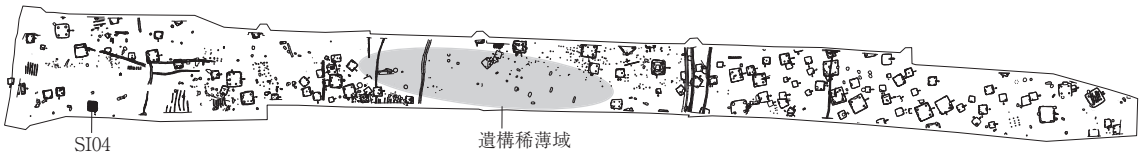
第３段階 A・B

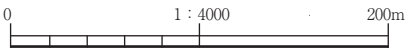
９世紀前葉～後葉



第４段階

10 世紀代





第 325 図　古代遺構分布状況

ない一方で、ロクロ回転台による回転ナデを持った球胴甕が1点のみであるが確認されている。須恵器は底部篦切の坏や糸切坏、大甕が引き続き一定数認められるものの、長頸瓶、長胴甕を組成から欠く。年代は、非ロクロ土師器坏の消失と内黒ロクロ土師器坏主体の構成、赤彩球胴甕の存在などから9世紀前葉～後葉と位置付けたい。

第3段階B（組成5）組成4にはない内外ロクロ調整のみの糸切坏（所謂赤焼坏）が一定数見られるが、第2段階に見られた篦切りのものは消失している。また、赤彩球胴甕を持たず、ロクロ長胴甕BⅠ類を有する点で組成4と対称的である。須恵器は同じく第2～3段階に見られ、第4段階には見られなかった長頸瓶・長胴甕が再び組成に加わる。年代は内外ロクロ調整のみの糸切坏（所謂赤焼土器）の存在と篦切の消失、赤彩球胴甕の消失と非ロクロ長胴甕の減少、それと入れ替わるようなロクロ長胴甕の増加などから判断して第2段階に後続するものと捉えられる。9世紀前葉～後葉と位置付けたい。

第4段階（組成6）内黒ロクロ糸切坏、内外ロクロ調整のみの糸切坏（所謂赤焼土器）、ロクロ高台坏、口縁が短く立ち上がる形状の非ロクロ長胴甕で構成される。再調整を持つ土師器坏が消失する。須恵器は坏、長頸瓶、長胴甕を欠き、大甕のみを伴う。年代は、再調整を持つ土師器坏の消失、内外ロクロナデの糸切坏（所謂赤焼土器）の存在、口縁が短く立ち上がる非ロクロ長胴甕の存在から10世紀代と位置付けたい。

(2)　遺構の時期判断

上記のように土器組成から判断した第1～第4段階の時期区分に、遺構の重複による新旧関係（第4表）を加え、竪穴住居の年代観を以下のように捉える。

第1期（第1段階：8世紀中葉～後葉）SI10・15・19・36・98・99　※SI99は複数期あり

第2期（第2段階A・B：8世紀末～9世紀初頭）SI11・25・27・33・34・38・42・45・59・61・68・90・118・120・121・135

第3期（第3段階A・B：9世紀前葉～後葉）SI05・SI16・20・21・23・41・70・75・95・99

第4期（第4段階：10世紀代）SI04

これらの他に、出土資料の少なさ等により段階特定が困難な竪穴住居が74棟ある。全体の土器組成から判断し、以下のように捉える。合わせて住居以外の遺構の帰属時期の推定も行う。

第1期の可能性が高い遺構

竪穴住居：SI31・32・35・37・69・71・72・80・84・93・107・119・128・130・131

土坑：SK134・154　焼成遺構：SX36・39・40・42・73・78・80・81・87　溝跡：SD13・23

第2期の可能性が高い遺構

竪穴住居：SI09・13・17・22・24・40・43・46・54・63・73・76・77・81・89・94・103・108・110・114・115・116・126・129・134・136　焼成遺構：SX46・90

第3期の可能性が高い遺構

竪穴住居：SI01・02・07・08・12・49・50・51・60・62・122・124

第4期の可能性が高い遺構

竪穴住居：SI28

第2～3期（9世紀代）とみられる遺構

竪穴住居：SI26・39・44・55・56・58・64・66・67・79・86・87・104・105・125・132・137

土坑：SK05・09・13・17・22・40・65・83・86・128・131・146・147・149

焼成遺構：SX06・09・53　　溝跡：SD01・02・07・18・26

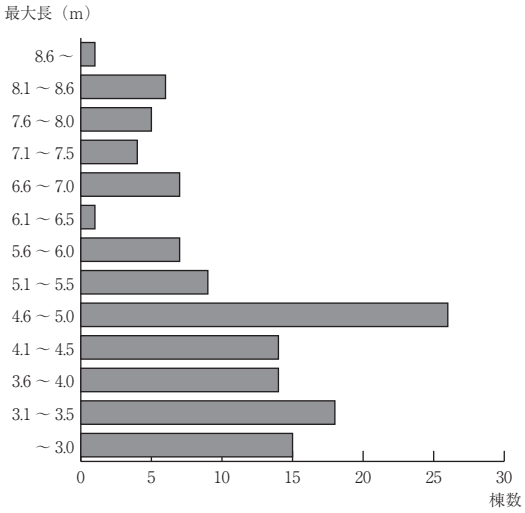
時期別の竪穴住居分布を第325図に示した。遺構密度には疎密があるが、概ね第1期：8世紀中葉～後葉では調査区南側に小規模な住居が4棟まとまり、それとは距離を隔てて北端に大型住居が2棟確認できる。第2期：8世紀末～9世紀初頭では竪穴住居の分布が調査区全域に拡大する。第3期：9世紀前葉～後葉になると主に北半において住居数の減少がみられる。第4期：9世紀末葉～10世紀前葉になると南端部に1棟を認めるのみとなる。また、全時期を通して調査区中央部の分布の稀薄さを指摘できる。これは中央部付近の旧地形が元々周囲より高かったものが、後世の耕地造成時に平坦に削られたことに主な要因があると考えられる。

(3)　竪 穴 住 居 跡

今回の中村遺跡調査においては、8～10世紀代にかけての竪穴住居跡136棟を精査した。個々の特徴については第Ⅳ章で記載した通りである。本章では全体を通じた特徴等について記載する。

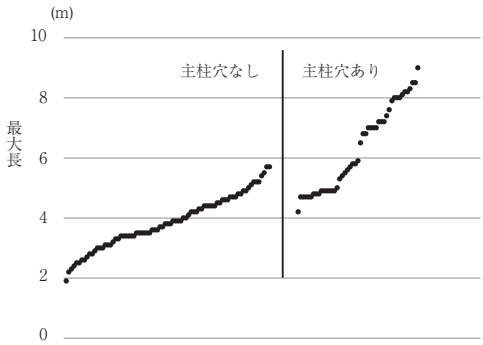
【規模】

住居跡の規模に関しては、4辺のうち最も長い辺の壁長を最大長として比較した。最小値をとるSI06（1.9ｍ）から最大値のSI99（9.0ｍ）までの幅がある。0.5ｍ刻みで集計した最大長の度数分布状況を第326図に示した。これによると最大長が確認できる127棟中で、4.6～5.0ｍの範囲にある住居跡が26棟と最も多く、4.5ｍ以下の比較的小型の住居跡が15棟前後の一定した分布を示す。一方、5.1ｍ超の住居跡は少なくなり、6.1～6.5ｍでは1棟のみ（SI43）に落ち込む。子細に見るとSI72（5.9ｍ）とSI43（6.5ｍ）の間に明らかな断絶があることから、規模の面のみに限定すれば6ｍ代前半で大型とそれ以外の区別が可能である。



第326図　竪穴住居跡規模

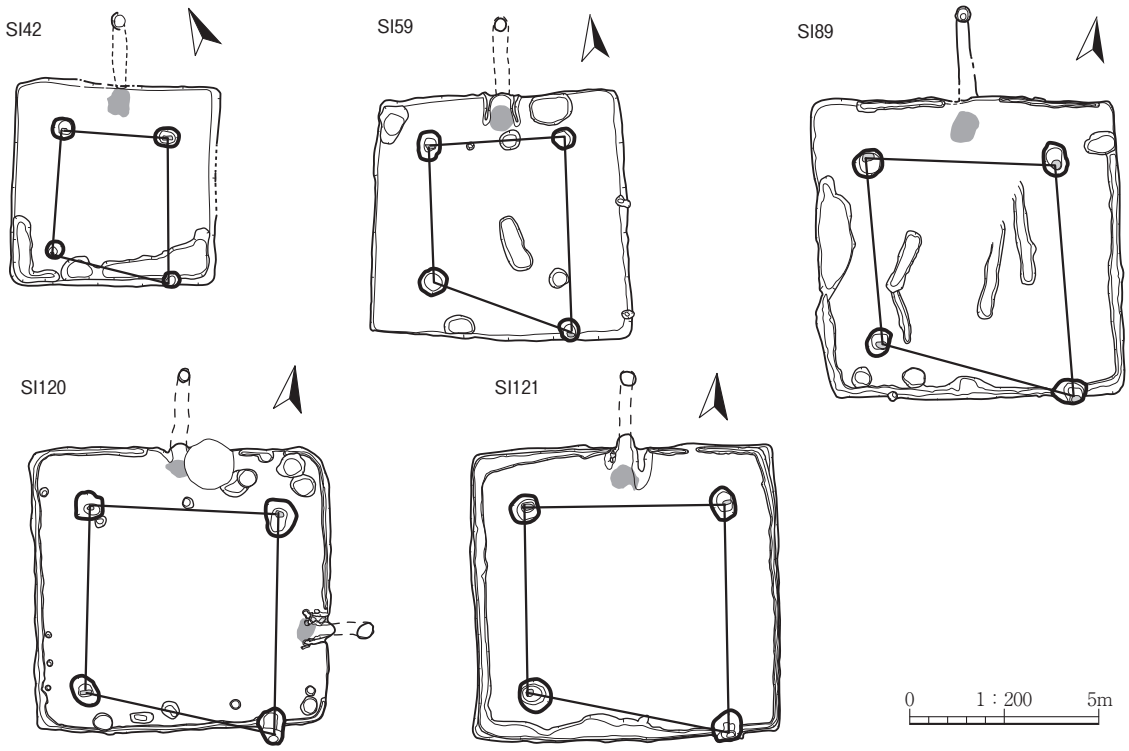
6.5ｍ超の住居跡は合計24棟を数える。7ｍ前後、8ｍ前後に比較的集中する状況であり、この中間の値を取るものはSI15（7.4ｍ）、SI25（7.6ｍ）に限られるため、大型と特大型の区分があった可能性も考えられる。いずれにせよ、大型の住居跡が136棟中24棟、単純計算では17.6％に達する状況が判明した。これらの推定時期は8世紀代から9世紀代後半にかけて継続しており、大型の住居が安定して営まれた状況を示している。千苅遺跡においても7ｍ超の住居跡が89棟中11棟（12％）存在する。大型住居跡の割合を同時代の北上盆地集落遺跡と比較すると、通常は大型住居跡は集落内で極めて僅少な存在にとどまるとされる（村田2014）のに対し、千苅・中村集落では大型住居跡の割合が突出して多いことを指摘できる。



第327図　住居跡規模と主柱穴の関連

【柱穴配置】

主柱穴を特定できた住居跡は合計47棟、特定できない住居跡は89棟である。これらの竪穴規模を確認する



第 328 図　偏った主柱穴配置の住居跡

と、前者は最大長 4 m 以上、後者は 6 m 未満の範囲に収まる。すなわち 6 m 超の住居跡では全て主柱穴が確認され、4 m 未満では確認できないのに対し、4～6 m の住居跡では主柱穴を確認できるもの 24 棟、確認できないもの 34 棟となり拮抗している状況が明らかとなった（第 327 図）。

主柱穴配置は概ね 4 本柱の方形配置となるものが多数であるが、一部に特殊な配置を見せる住居跡がある。SI42・59・89・120・121 が該当する。全て第 2 期に属する遺構である。これらはいずれも 4 基の主柱穴のうち、南東部の柱穴のみが南壁際、あるいは壁面から張り出す偏った位置にある（第 328 図）。いずれも北壁にカマドが設置され、南北の柱列が平行する点も共通する。南東部に出入り口等の施設を設けるための措置ではないかと考えている。

こうした偏った主柱穴配置は当地方の該期の集落では類例が見当たらない。愛知県豊田市高橋遺跡第 16 次調査において検出された弥生時代中期の竪穴に同様の現象が見られるが（豊田市教委 2009、森泰通氏からの教示による）、時代、地域ともに隔たりは大きく直接的な関連はないものと思われる。ただし、設計原理としては共通する点があったかも知れない。いずれにせよ類例の検索と建築学的な検討を要する部分である。

【カマド】

竪穴住居跡に伴うカマドは合計 137 基を検出した。1 棟に作り替えで複数のカマドが伴う住居跡がある一方で、カマド部分が調査区外に位置する、もしくは削平によりカマドの詳細が判明しない住居跡があり、住居総数とは一致しない。全体に共通する点は、刳り抜き式の長煙道を備えることである。煙道天井が陥没や削平で失われるものもあるが、堆積土中に天井部に起因する地山土ブロックが観察される煙道が多く、基本的には刳り抜き式が採用されたと判断している。

SI15
刳り抜き式煙道の燃焼部側壁面に長 10～15 cm 大の礫を石垣状に積み上げた状態。

SI125
刳り抜き式煙道の側壁に 30～50 cm 大の板状礫を立て並べた状態。

第 329 図　カマド煙道側壁の補強事例

煙道の大部分は素掘りの横穴状態であるが、中には側壁の補強がなされている例がある（第 329 図）。SI15 では煙道の燃焼部側両側壁に、礫を使って石垣状に構築した状態が検出された。礫の大きさは 10 cm 前後に揃っており、4～5 段に積み上げられる。SI125 でも同様に煙道の燃焼部側両側壁に、扁平楕円形の板状礫が配置されている。石組みを持つカマド煙道に類似した構造となるが、天井被覆礫は存在せず、素掘りの煙道側壁を補強した状態とみられる。ただしこれらは全体から見ればあくまで例外的な構造である。

第 25 表　カマド設置方位

方位	基数	割合
北	82	59.9
東	42	30.7
南	2	1.5
西	1	0.7
北西	5	3.6
北東	3	2.2
南東	1	0.7
南西	1	0.7
合計	137	

時期	北	東
第 1 期	21	0
第 2 期	36	12
第 2～3 期	8	9
第 3 期	8	13
第 4 期	0	2
合計	73	36

カマドの設置される壁面は検出した 137 基中、北：82 基（60％）、東：42 基（31％）、となっており、南、西壁に設置されるものは極めて少ない（第 25 表）。この傾向は千苅遺跡とも共通する状況である。また、時期別に見ると北から東へ漸変する傾向が明瞭に見て取れる（第 25 表）。なお、カマドの作り替えは 19 棟で行われているが、同一壁でカマド位置をずらす北壁→北壁、東壁→東壁のパターンが合計で 13 棟と過半数を占める。方位の変更は、北→東が 2 棟、東→北が 3 棟という状況であり、北壁から東壁への変化と逆の動きも含まれる点に注意が必要である。

【洪水堆積層】

14 棟の住居跡において、堆積土中に洪水層が観察された。層相は明黄褐色シルトの成層、通常の堆積土である黒色～黒褐色シルト層内にラミナ構造が確認できる細砂・粗砂ブロックが斑状に含まれる状態等、一様ではない。検出状況は①：堆積土下部に成層し、下部は床面に密着する状態、②：堆積土中位に成層する状態、③：堆積土上部から検出面にかけて成層する状態、の三者に区分される。ただし、②・③については遺構残存度の差によって見かけ上の違いが生じている面も考慮する必要がある。①は SI45・94 の 2 棟である。特に SI45 では 3 基検出したカマドのうち最終段階の 1 号カマド煙道に、堆積土下部と同じ洪水堆積のシルト層が観察されており、住居廃絶直後に洪水堆積層が形成されたと捉えられる。②は SI12・16・19・61・98・99 の 6 棟、③は SI04・07・120・122・133・135

の6棟がある。時期は第1期から第4期にかけての幅があり、複数回の洪水被害に起因する可能性が高いと考えられる。

これらの洪水（浸水）痕跡を残す住居跡は、調査区北端付近から南端付近にまで満遍なく分布しており、一定区域が浸水して洪水層が形成されたという状況にはない。また南の千苅遺跡でも18棟に洪水層が確認されており、その分布は千苅調査区の南側に偏在する。従って、千苅・中村遺跡全域において、特定の時期に開口していた住居が洪水被害を受けているという状況にある。

136棟中、14棟で洪水堆積層が確認されたという点を、多いと評価するか少ないと評価するかは微妙な問題かもしれない。個々の遺構時期を整理した上で、特定の時期に集中するかどうか更に検討を進める必要がある。いずれにせよ、大河に面した自然堤防上に営まれた集落は常に洪水、浸水被害を受ける危険と隣り合わせの状況だったことを物語る調査結果となった。今後は、特定の洪水堆積層がテフラと同等に鍵層となり得るかどうか、その可能性を探る試みも視野に入れるべきであろう。

(4)　焼成遺構の検討と土器生産

焼成遺構[1)]としたものは73基見つかっている。これらのうち22基・30％からは焼け弾けた土器剥片が出土しており、土器焼成遺構だったと考えられる。他方、土器剥片の出土しない遺構も51基存在する。骨片や炭化種実の出土している遺構は24基あり、全体の33％に上る。また、土器剥片と骨片・炭化種実が組み合わせで出土するものは12基、全体の16％存在する。

【時期別分布状況】

8世紀中葉～9世紀代の所産である。第1期（8世紀中葉～後葉）では調査区南端に3基、北端に4基がまとまり、同時期の住居跡と似た分布を示す。第2期以降（8世紀末～9世紀代）では調査区中央部（4区-1、4区-2、5区-1、5区-2）を避けるように、北と南に分布が2分するような傾向が認められる（第330図）。

【分類】

これらを形態・焼成面の特徴によって以下に分類し、第7表「焼成遺構一覧」中に示した。但し本遺構形態は残存の程度によるばらつきが大きく、分類基準の中間的な様相を示し判断に迷うものが少なからず混在していることをお断りしておく。

【形態】

6分類が可能である。Ⅰ：隅丸方形のもの。Ⅱ：一端が隅丸方形、他端が楕円形を呈するもの。Ⅲ：楕円形のもの。Ⅳ：円形のもの。Ⅴ：溝形或いは長楕円形を呈するもの。Ⅵ：不整形のもの。

【焼成面】

4細分が可能である。a：奥壁・側壁・床の3箇所が焼けていて、被熱状態に偏りがあるもの。b：床のみが焼けていて、被熱状態に偏りあるもの。c：床が均一に焼け、被熱状態に偏りのないもの。d：明確な焼成面がなく、焼土・炭化物ブロックがレンズ状に堆積するもの。

【出土土器剥片・土錘】

焼成遺構内から出土した焼弾け土器剥片の器種・部位・破片数の内訳を第26表に示した。当該土器剥片の定義は、器表面、或いは裏面が薄く剝離した破片を指すものとした。対象となる破片数は1434点、重量は5,466.8ｇに上る。出土した土師器の器種には坏・甕・鉢・赤彩球胴甕が確認されていることから、これらの器種を遺構内で焼成していたことはほぼ確実とみられる。器種については甕のみが出土したもの13基、坏のみが出土したもの3基、坏・甕が出土したもの5基、坏・鉢・甕が出土したもの1基となっており、1つの遺構内で単体器種を焼成した事例が多いことから、器種によっ

第 26 表　焼成遺構内出土焼け弾け土器片内訳

遺構名	分類	器種	部位	破片数	重量(g)	備考
SX01	Ⅲa	甕	口	1	33.7	分析 1
			体	13	72.5	
			底	15	180.2	
SX07	Ⅲd	坏	体	1	7.1	
			底	5	74.2	
		甕	体	10	54.3	
			底	12	227.2	
SX10	Ⅲa	甕	口	2	19.2	
			体～底	1	15.4	分析 2
			底	2	51.7	
SX11	Ⅱa	甕	体	7	72.8	
			体～底	1	15.1	分析 3
			底	3	66.1	
SX12	Ⅲa	坏	口～体	5	63.5	
			体～底	1	48.4	分析 4
SX13	Ⅳc	甕	口	2	9.4	
			体	48	161.4	
			底	9	81.9	分析 5 含む
SX16	Ⅳa	甕	体	1	3.0	
			底	3	37.0	
SX20	Ⅲb	甕	体	2	18.6	
SX36	Ⅲd	甕	口	6	19.7	
			体	49	300.6	
			底	2	29.6	
		赤彩球胴甕	体	17	122.4	分析 6 含む
SX49	Ⅱa	坏	体～底	3	34.0	
		甕	口	4	9.3	
			体	11	33.5	
			底	10	73.3	分析 7 含む
SX50	Ⅲa	坏	口	11	2.4	
			体	12	18.2	
			底	4	7.9	
SX73	Ⅰa	坏	底	1	2.2	
		甕	口	17	29.4	
			体	120	191.0	
			底	12	108.8	
		赤彩球胴甕	口	29	92.3	
			体	19	60.0	
			底	3	38.3	

遺構名	分類	器種	部位	破片数	重量(g)	備考
SX77	Ⅲb	坏	口	1	6.5	
			体	8	20.2	
			底	1	9.3	
SX78	Ⅲd	赤彩甕	体	4	7.1	
		坏	口	5	32.7	
			体	23	59.6	
		甕	体	15	28.2	
			底	1	4.6	
SX79	Ⅲa	甕	体	11	24.2	
			底	5	80.3	
SX80	Ⅲa	坏	口	2	5.4	
			体	4	7.0	
		鉢	体	1	24.1	
		甕	口	4	33.5	
			体	30	128.1	
			底	8	72.3	
SX81	Ⅱd	甕	口	1	5.3	
			底	15	228.6	
SX83	Ⅱa	甕	体	3	21.8	
			底	6	144.6	
SX84	Ⅰa	甕	口	13	93.1	
			体	556	1328.2	
			底	14	227.0	
SX87	Ⅰc	甕	口	2	5.6	
			体	11	31.1	
			底	6	45.7	
SX92	Ⅵb	甕	口	12	18.1	
			体	170	183.7	
			底	9	41.2	
SX95	Ⅰd	坏	口	1	2.0	
			体	2	0.9	
		甕	口	1	3.6	
			体	11	26.3	
			底	4	31.3	
22 遺構			合計	1434	5466.8	

て遺構を分ける意図があったと考えられる。また、その他の出土遺物として SX61 の底面から完形の土錘 26 個分が出土しており特筆される。攪乱等により土錘の出土状況には不明な点もあるが、使用されなくなった焼成遺構の窪みに土錘を投棄、もしくは保管したものであった可能性が考えられる。また、その他仮説として積極的な証拠には欠けるが、SX61 内で土錘が焼かれた可能性が考えられる。

【炭化種実・骨類】

遺構内部から炭化種実が検出されたものは 24 基・33% が該当する。内訳はイネ、オオムギ、ムギ類、コムギ、ヒエ、キビ、アワ、アズキ類、ダイズ類、オニグルミ、クリなどで、比率としては圧倒的に

イネが多い。SX02 はキビを主体とし、アワの多産も確認された。SX04・10・11・12・29・79 はイネを主体とし、SX29 では油科植物のエゴマを含むシソ属も確認されている（第 2 分冊　付編　自然科学的分析 2）。これらについては半地下式の土坑を利用した覆い型野焼きにおける草燃料の残渣、或いは炭化種実の出土に加えて少量ではあるが骨類の出土（SX11・12・14・78）も認められることから、一部は食料加工施設として併用された可能性も考えられる。

【白色生粘土】

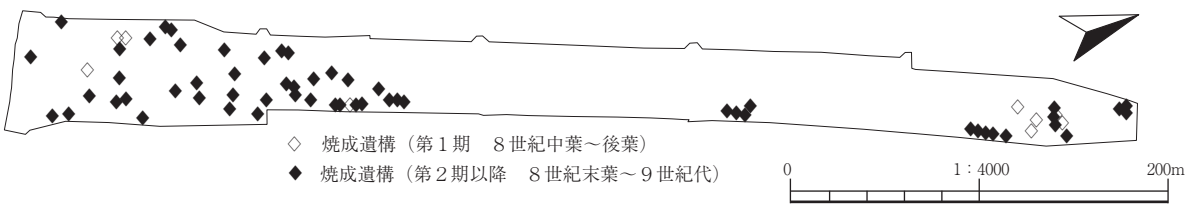
15 棟の竪穴住居内部（SI10・23・34・36・38・45・59・60・71・80・89・90・124・126・135）で白色生粘土塊が出土している。このことは、白色生粘土が土器等の素材として持ち込まれ、竪穴内部に保管された状態と推定された。この関連を裏付けるため、住居内出土の白色粘土と、焼成遺構内から得られた土師器剥片の胎土分析を実施した。その結果、化学組成の重複領域が認められるなど出土した白色粘土が土器の材料であった蓋然性の高いことを示唆する結果が得られている（第 2 分冊　付編　自然科学的分析 3）。

【ロクロピット】

北上市内では 9 世紀中葉以降、ロクロピットを伴う住居跡が検出されており、この施設については土師器生産遺跡を認定するうえで土師器焼成遺構・剥離土器片・粘土採掘坑とならぶ重要な構成要素と捉えられている（君島 2015）[2]。しかし総数 135 棟を数える竪穴住居を調査した中村遺跡内では明確にロクロピットと確認されたものはなく、同じく 89 棟を調査した千苅遺跡調査においても 1 棟のみの検出（可能性あり）にとどまっており、ロクロピットの検出と認定については今後の課題である。未検出の要因としては検出～調査時の認識不足、洪水堆積層からなる土層の判別の難しさ、或いは帰属時期による多寡の可能性がある（君島 2015）[3]。後付けではあるが、掘削された場所からの推定では SI38 Pit 8、SI81 Pit 2 等がロクロピットであった可能性がある。

【形態の違いと時期差】

望月精司氏による土師器焼成遺構の分類基準（望月 1997）を参考に、北上市内の焼成遺構の形態と時期差についてまとめた君島氏によれば、A 類：床面から奥壁寄りに被熱が偏るもので、形態は奥壁が直線的となる方形・逆台形・逆三角形などを主体とするもの、B 類：床面のみ被熱し壁面に被熱痕跡を持たないもので、形態は円形を基調とするもの、C 類：一定した被熱面の形成を持たず、円形や方形を基調とする土坑状或いは竪穴状を呈し、土坑床面が平坦で比較的広い面を形成するもの、D 類：直径 2 m 程度の浅皿状で、床面中央広範囲に被熱面が形成されるもの、E 類：A～D 以外の形態のものとした 5 分類を行っている。その上で、8 世紀後葉～9 世紀前葉においては上記 A・B・C・E 類が認められるのに対し、9 世紀中葉～後葉になると A 類が主体をなし、10 世紀前葉以降では D 類がそれに代わると述べられている（君島 2015）。ここで 8 世紀中葉～9 世紀後葉を主体とする中村遺跡の焼成遺構の形態分類結果を列記してみたい。8 世紀中葉～後葉に該当する SX36・39・40・42・73・78・80・81・87 においては Ⅰa 類-1 基・Ⅲa 類-1 基・Ⅴa 類-2 基、Ⅱb 類-1 基、Ⅰc 類-1 基、



第 330 図　焼成遺構分布状況

Ⅱd 類-1 基・Ⅲd 類-2 基（以上それぞれ A、B、C、E 類に比定）が認められ、8 世紀末～9 世紀初頭に該当する SX46・90 においてはⅡa 類-1 基・Ⅲa 類-1 基（以上、A 類に比定）が認められ、9 世紀代に該当する SX06・09・53 においてはⅢa 類-1 基、Ⅰb 類-1 基、Ⅲc 類-1 基（以上、A、B、D 類に比定）が認められる。これを君島氏の分類に換言すれば、中村遺跡においては 8 世紀中葉～後葉に該当する 9 基については A、B、C、E 類の多様な形態が認められるのに対して、8 世紀末～9 世紀初に該当する 2 基については A 類のみとなり、9 世紀代に該当する 3 基においては A、B、D 類が認められる。以上の傾向は、時期の違いはあるが概ねこれに沿うものといえる。

今回の調査結果は、素材となる粘土の保管から土器焼成までの一連の作業が集落内で継続的に行われていたことを示すものといえる。現時点では北上市周辺において焼成遺構の極端な集中が指摘されており、これを更に補強する資料を追加することとなった。

(5)　区　画　溝

集落を区画したとみられる大溝は、調査区全域から 8 条確認されている。幅 0.7～2.0 m、深さ 0.2～1.3 m で、東西方向にほぼ直線的に延びるものである。底面に水が流れた痕跡は見られず、空堀の状態だったと考えられる。この 8 条のみでは性格等についての想定は困難だが、同様な大溝については、隣接する千苅遺跡でも 3 条見つかっており、両遺跡を合わせると、千苅遺跡の南端から 145～255 m、中村遺跡においては 210 m ほどの間隔をあけ、同じような規模の溝で集落が区切られている状態が確認できることから、全体を合わせて平安時代集落内部に設けられた区画溝の可能性が高いと考えられる。出土遺物および重複関係からの推定時期は以下のようになる。

【出土遺物からの推定】

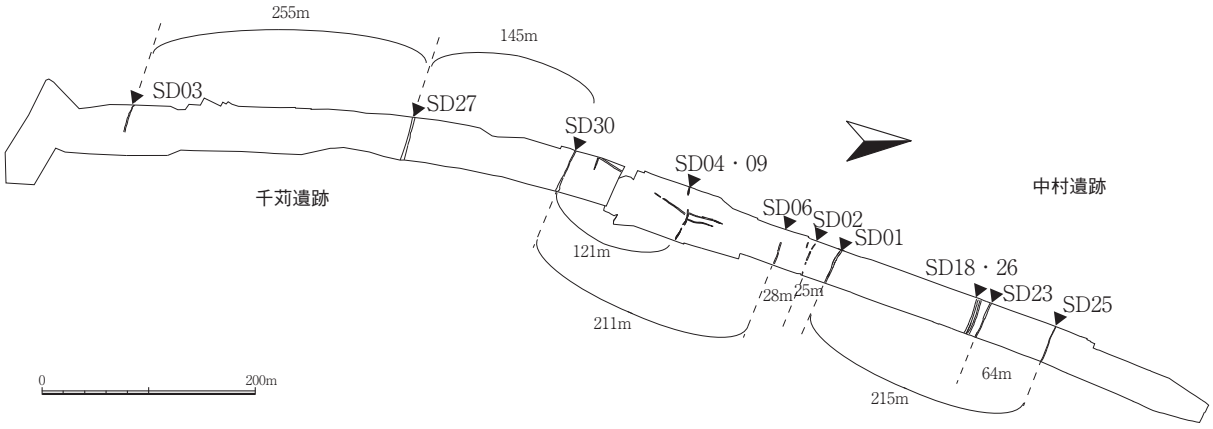
第 1 期の可能性が高いもの：SD13・23（SD23 は上位に洪水堆積層）

【重複関係からの推定】

8 世紀末～9 世紀初頭より新期：SD04・06・09・17・18・26

9 世紀前～後半代より新期：SD02・25

良好な出土遺物が伴わない為、遺構の時期判断は困難である。しかしながらⅢK 区の SD23・18・26 は同規模・同方向の溝が近接して 3 条作られていることから、特にこのエリアを区切る強い意識があったと思われる。なお、3 条の中では SD23 が最も古く、重複する住居との関係から 9 世紀前葉には埋没していたと考えられる。SD18・26 は SD23 が使用されなくなった後、9 世紀前葉以降に掘削された溝と考えられる。



第 331 図　区画溝分布状況

(6)　第２段階Ａにみられるロクロ高台坏ＢⅠ類について

この土器については1968年に沼山源喜治氏が「北上市出土土師器考」のなかで中村遺跡における『きわめて特徴的な坏形土師器の存在』を指摘しており、本報告の組成２にみられるロクロ高台坏ＢⅠ類が成形・調整の特徴からそれに該当するものではないかと考えている。沼山氏が述べた当該種の特徴は、①成形は粘土紐巻き上げによって行い、あらかたの形を整えたのち、ロクロの回転台に乗せ、回転ナデ調整を加えている、②器面調整の仕上げには篦ミガキが併用され、黒色処理を伴う、③底部には粗い篦ケズリが施され、糸切痕を全く留めていない、の３点に要約される。本遺跡出土の高台坏ＢⅠ群はa818・a963・a964・a965・a966の５点で、それぞれの特徴をまとめると次のようになる。

器形：底部からの立ち上がりで一旦、明瞭な（鈍）角をなし、その後、口縁部まで直線的に外傾して立ち上がる（a963のみ立ち上がり部分にやや丸みを持つ）。

器面調整：回転ナデ調整後、内外面ともに丁寧なミガキ調整・黒色処理（a963外面のみハケメ・ナデ調整）が施され、はっきりとしたロクロ目は一見では分からない。しかし、外形側面を全体的に見れば一定の幅で繰り返すロクロ目の凹凸が微かに認められるもので、轆轤の回転力を利用していることがわかる。

底部：ロクロの切り離し痕跡は見られず、付高台の内側をやや粗いヘラナデ～ヘラケズリ調整することによって厚さを減じ、高台を削り出している。

以上の特徴は、沼山氏の指摘に合致するものである。その成因と時期について氏は、古墳期～奈良時代の畿内地方の例を挙げ、ロクロ技術が未成熟な段階ではいったん粘土を巻き上げて略形を作った後に轆轤にかけて細部的な引き出しを行う二段階成形法が主であるが、奈良時代末期から平安時代の初期にかけて轆轤技術が瓷器製作技術の影響を受けて発展すると、小ぶりの須恵器は最初から粘土塊を轆轤回転台に据え、水引きで一気に器形を引き出す一段階成形法に変化しているとし、このような轆轤技術の発展段階を援用すれば、岩手県に轆轤技術が伝わったばかりの未成熟な段階では一段階成形法による成形は未だ困難で、器面の仕上げに依然として篦ミガキなどで技法の補いをつける必要があり、同じく底部についても篦ケズリを施して厚さを減ずる操作が必要だったのではないかと指摘している。氏は加えて中村遺跡における当該土器は比較的器厚が厚く、仕上げが丁寧で、粘土の選択も良くなされている点、大量生産のロクロ坏とは異なり、前代的な特徴を色濃く引いている点もあわせて指摘している。本遺跡におけるロクロ土師器の初現～受容期を第２段階と考える上で、このロクロ高台坏ＢⅠ類の存在は非常に象徴的である。

S=1/6

第332図　ロクロ高台坏ＢⅠ類

(7)　鉄製煮炊具・鉄製獣脚について

SI114竪穴住居内から出土した把手付鉄鍋[4]と、SI130竪穴住居床面から出土した鉄製獣脚[5]について、現在までに出土が確認されている東日本の出土事例を挙げながら若干の考察を加えたい。

【把手付鉄鍋】

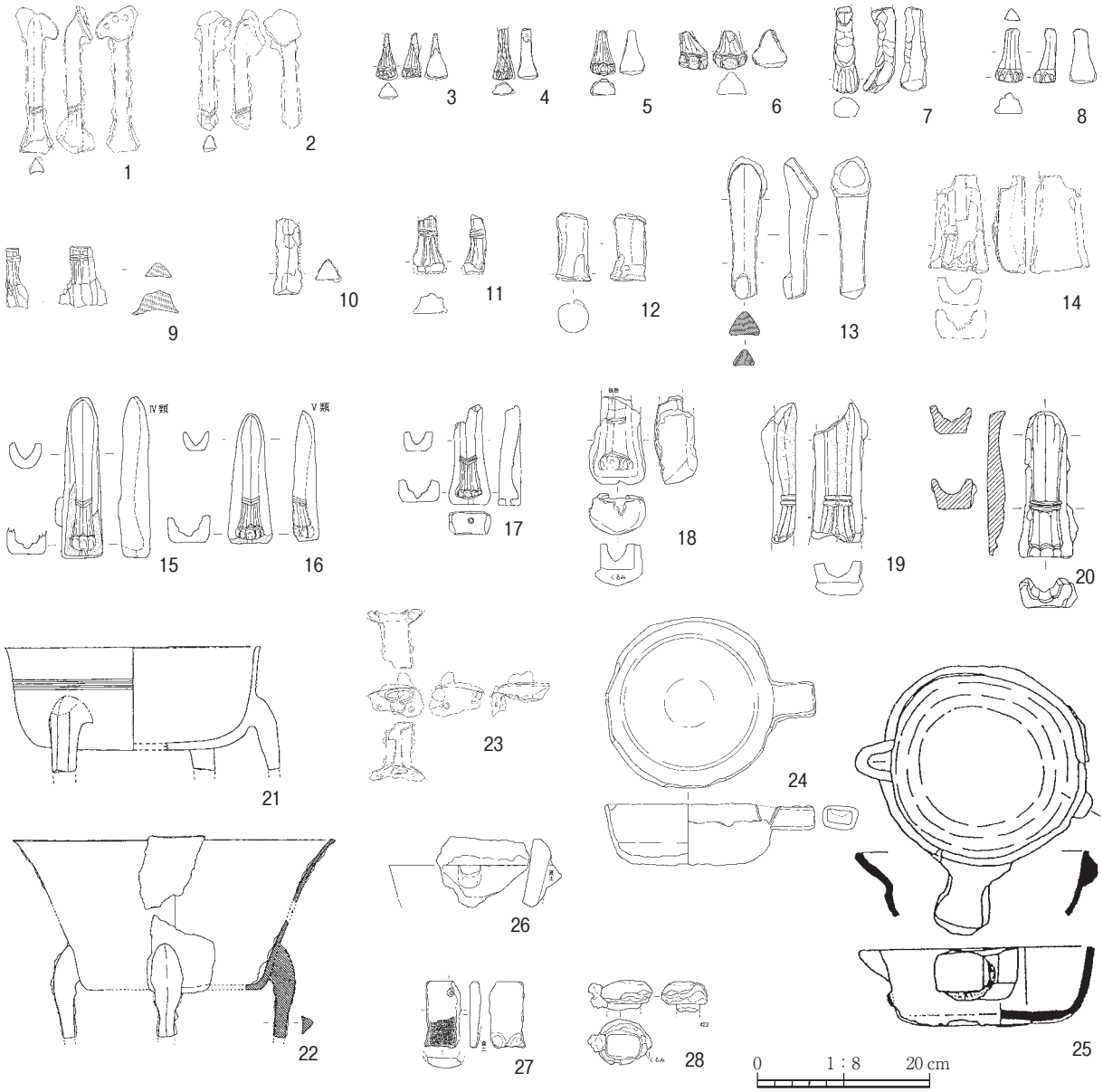
SI114 竪穴住居から 1 点出土している。e76（第 333 図 23）は把手付鉄鍋の把手～体部にかけての破片で、把手部は厚さ約 2 mm の鉄の板を C 形に折り曲げて成形されている。鍋の体部と把手は別づくりと考えられ、体部片の下端には把手を取り付けたと見られる目跡が 2 か所認められる。把手とその周辺部しか残っていないため、片口の有無や体部の形状は不明である。現在までのところ平安時代の把手付鉄鍋が出土した事例は、宮城県多賀城跡第 14 次調査（多賀城跡調査研究所 1972）の 324 号住居跡出土の資料（第 333 図 25）と、秋田県秋田城跡第 54 次調査（秋田市教委 1989）の古代整地層から出土した片手の鉄鍋（第 333 図 24）の 2 例のみである。前者は、把手と 45° のところに片口部があり、全体形状が明らかである。後者は一部が欠損しており、片口部があったか否かは不明である。他方、把手付鉄鍋の鋳型出土事例が 1 例ある。9c 中～後半にかけての鉄生産集落である茨城県川戸台遺跡（古河市教委 2012）では、獣脚付鍋、梵鐘、羽釜などの鋳型と共に把手付き片口鍋の鋳型（第 333 図 26～28）が出土している。また、8c 後葉～9c 中葉の鉄生産集落である福島県向田 A 遺跡（福島県教委 1988）では獣脚・獣脚蓋・器物・梵鐘・性格不明とされる鋳型が多量に出土している（把手付鉄鍋の鋳型としては未報告）。飯村均氏はこの〝器物〟鋳型と〝性格不明〟鋳型について、多賀城跡第 14 次調査の把手付鉄鍋の体部と片口、把手に酷似していると指摘し、実は両者が把手付鉄鍋の鋳型であったことを示唆するとともに、多賀城跡出土の把手付鉄鍋が向田 A 遺跡で作られた可能性にも言及している（飯村 2009）。

ここで本遺跡出土品と多賀城跡・秋田城跡出土品を比較してみたい。本遺跡出土品である e76（第 333 図 23）は、把手部に鍛錬工程によって作られた薄い鉄板を使用し、鋳造による別づくりの体部と後で接合したと考えられる（片口部は未確認）。把手部・体部・片口部のすべてが鋳造による多賀城・秋田城・川戸台の例とは異なる製作方法だといえる。

【鉄製獣脚・容器片】

鉄鍋、あるいは羽釜、火舎などの鉄製容器に付属していたと考えられる鉄製獣脚が 2 点、獣脚が付いていた可能性のある容器片が 1 点、いずれも SI130 竪穴住居の床面から出土している。e86（第 333 図 1）は全長 17.0 cm（現存長）、脚幅 1.7 cm、重量 275.2 g である。上部は無文で、関節部に 2 本の細い隆帯を持つ。下部には縦方向の筋が数条微かに確認できる。脚先は指の痕跡が微かに認められるが、錆による膨れのため本数は不明である。e87（第 333 図 2）は全長 13.6 cm（現存長）、脚幅 1.7 cm、重量 194.5 g である。上部は無文で、関節部に 2 本の隆帯を持つ。下部には縦方向の筋が数条微かに確認できるが、途中で欠損しており詳細は不明である。これらは同一個体と考えられ、どちらも脚部断面が三角形を呈する。これまで知られている鉄製獣脚の出土遺跡は、東京都多摩ニュータウン No.91A 遺跡（東京都埋文センター 1986）、神奈川県海老名本郷遺跡（本郷遺跡調査団 1991）、千葉県西平井根郷遺跡（流山市教委 2004）・永吉台遺跡寺西地区調査（君津郡市埋文センター 1985）、埼玉県台耕地遺跡（埼玉県埋文調査事業団 1984）、宮城県山王遺跡（宮城県教委 1996）・市川橋遺跡（多賀城市埋蔵文センター 2003）の 7 箇所が挙げられる。これらの出土資料を概観すると、多摩ニュータウン No.91A 遺跡（第 333 図 21）と永吉台遺跡（第 333 図 22）のものは獣脚の下部が残存しておらず、詳細は不明である。海老名本郷遺跡（第 333 図 13）のものは無文である。西平井根郷遺跡（第 333 図 9）のものは関節部の隆帯が 2 本と、隆帯の上に並行する隆線が認められ、脚先は 5 本指である。埼玉県台耕地遺跡（第 333 図 10～12）のものは関節部に隆帯が 2 本あり、その上下に縦方向の筋が数条入る。山王遺跡（第 333 図 3～7）・市川橋遺跡（第 333 図 8）のものは関節部の隆帯が認められない。他方、鋳型のみが確認されている遺跡は 10 箇所を数える（例外は台耕地遺跡で、製品も出土

している)。千葉県花前Ⅱ遺跡（千葉県文化財センター 1985）・押沼第 1 遺跡（千葉県文化財センター 2003)、埼玉県台耕地遺跡・菅原遺跡（埼玉県文化財調査事業団 1996）・大山遺跡（埼玉県教委 1979）・猿貝北遺跡（埼玉県埋文調査事業団 1985)、茨城県川戸台遺跡、富山県上野南遺跡（小杉町教委 1991)、福島県向田 A 遺跡・山田 A 遺跡（福島県教委 1995）・猪倉 B 遺跡（福島県教委 1996）などで、獣脚鋳型が出土している（黒沢・大澤 2003)。これらのうち、向田 A 遺跡（第 292 図 16)、



1	鉄製獣脚	中村遺跡(岩手)
2	鉄製獣脚	中村遺跡(岩手)
3	鉄製獣脚	山王遺跡(宮城)
4	鉄製獣脚	山王遺跡(宮城)
5	鉄製獣脚	山王遺跡(宮城)
6	鉄製獣脚	山王遺跡(宮城)
7	鉄製獣脚	山王遺跡(宮城)
8	鉄製獣脚	市川橋遺跡(宮城)
9	鉄製獣脚	西平井根郷遺跡(千葉)
10	鉄製獣脚	台耕地遺跡(埼玉)

11	鉄製獣脚	台耕地遺跡(埼玉)
12	鉄製獣脚	台耕地遺跡(埼玉)
13	鉄製獣脚	海老名本郷遺跡(神奈川)
14	獣脚鋳型	菅原遺跡(埼玉)
15	獣脚鋳型	向田Ａ遺跡(福島)
16	獣脚鋳型	向田Ａ遺跡(福島)
17	獣脚鋳型	猪倉Ｂ遺跡(福島)
18	獣脚鋳型	川戸台遺跡(茨城)
19	獣脚鋳型	押沼第一遺跡(千葉)
20	獣脚鋳型	花前Ⅱ遺跡(千葉)

21	三脚付鉄鍋	多摩ニュータウン No.91A 遺跡(東京)
22	三脚付鉄鍋	永吉台遺跡(千葉)
23	把手付鉄鍋	中村遺跡(岩手)
24	把手付鉄鍋	秋田城跡(秋田)
25	把手付鉄鍋	多賀城跡(宮城)
26	片口付鉄鍋鋳型	川戸台遺跡(茨城)
27	把手付鉄鍋鋳型(把手部)	
28		

第 333 図　東日本出土の鉄製獣脚（鋳型）・鉄製煮炊具

猪倉Ｂ遺跡（第 333 図 17）、川戸台遺跡（第 333 図 18）、花前Ⅱ遺跡（第 333 図 20）、押沼第１遺跡（第 333 図 19）、菅原遺跡（第 333 図 14）の鋳型は、①獣脚の上部が無文である、②関節部に２本の細い隆帯を持つ、③下部には縦方向の筋が数条確認できる、④脚先に指が表現されている、以上の点が本遺跡資料に類似する。

これらの事から、千葉・茨城・埼玉・福島等で作られた製品が、少なくとも９世紀代には北上地域まで流通していた可能性が高いといえる。今後は鉄製獣脚と鋳鉄製品生産遺跡出土の鋳型との比較を行い、更なる供給先の絞り込みを行ってゆく必要があろう[6)]。

2　総　　括

中村遺跡の調査結果を年代順に記す。

縄文時代中期～弥生時代

遺構は検出されず、遺物は調査区南端周辺の低地に散見される。

奈良時代～平安時代

調査区中央部を除くほぼ全域から遺構が検出され、８世紀中葉から 10 世紀代にかけて大規模な集落が形成されていたことが判明した。136 棟の竪穴住居の分析から、おおよそ４段階にわたる集落変遷が読み取れる。

竪穴住居跡では、４基の主柱穴のうち南東部の柱穴のみ壁際に偏る特殊な配置を持つものが５棟確認された。当地方の該期集落では類例がない。

土師器製作等に使用された焼成遺構が 73 基検出された。内部から得られた土器剥片と、住居内出土の白色粘土の成分分析の比較からは、素材となる粘土の保管から土器焼成までの一連の作業が集落内で継続的に行われた可能性が高いことが判明した。

出土土器では、前段階からの連続性に欠ける異系統な印象を抱かせる一群の存在が確認されている。第２段階Ｂの土器組成は、前段階まで普遍的に見られた体部に沈線や段を持つ非ロクロ土師器を伴わず、篦切りで再調整を全く持たないロクロ土師器および須恵器の坏が主体をなすもので、律令的な組成と言えるものである。集落におけるこの異系統土器の存在をどう解釈するか、今後該期の地域情勢を踏まえた検討が必要である。

赤彩土器が多数出土した。製作手法は非ロクロ・ロクロの２系統が認められ、器種には甕・鉢・坏がある。特筆されるのは器面にタタキ痕跡を残すロクロ成形の赤彩甕 a998 で、これまで同手法によるものは出土例が無い。このほか底部に「+」と朱書きされたロクロ坏が４点出土している。

毛抜形透蕨手刀の柄が竪穴住居内の柱穴から出土した。本県では４例目の出土である。

鉄製煮炊具（把手付鉄鍋）、鉄製獣脚などの金属製品が竪穴住居跡内から出土した。獣脚は密教法具などにみられる脚部形態であり、また把手付鉄鍋は多賀城・秋田城以外では殆ど出土例がない。

古代末～中世

掘立柱建物（鍛冶工房）内で鉄製品の製作を行っていたことが判明した。４基の炉跡の周囲からは鍛錬鍛冶に伴う鍛造剥片・粒状滓が出土している。他に坩堝片が１点出土しており、鋳造にかかわる工程も併せて行っていた可能性がある。但し、鉄滓類と坩堝以外の出土遺物は床面相当レベルから出土した古銭１点（熙寧元寶）のみであり、帰属時期については可能性の範囲に留まるものである。

ここで今回の中村遺跡調査成果の主体となる古代集落の成立と展開について再度考えてみたい。該

期の集落跡は本遺跡南側の自然堤防上に隣接する千苅遺跡でも検出されている（岩手埋文 2016）。両遺跡は同一の集落であったと考えられ、その範囲は南北約 1.5 km にわたる。全域が同時存在ではないにしても、当該地域における一大集落だったことは間違いない。折しも中村遺跡・千苅遺跡の営まれた時期は東北南部が動乱したいわゆる 38 年戦争の時期と重なる。在地の人々の動向は一様ではなく、当時の様子を伝える『続日本紀』等の文献記録からは、律令体制側に激しい抵抗をした集団が存在した一方で、なかには協力的な集団もあったことが窺える。また、律令政府が東北支配を進めるための城柵の造営と前後して、柵戸の移配に示されるような人間集団の動きが盛んにあったことが『日本紀略』等の文献記録に残されている。本遺跡における第 2 段階 B の土器の存在は第 1 段階の土器とは明らかに異質であり、系譜が異なると把握し得るものである。具体的な検討は不十分であり断定はできないが、異系統土器の存在を説明できる要素として、「移住」を想定することは可能であろう。千苅・中村遺跡において 8 世紀後半以降に大規模な集落が展開・継続した背景には、そうした律令国家側の勢力拡充と、在地勢力との共存関係があったのかも知れない。加えて、水運を利用できる大河川沿いという立地も、この場所が選択された理由の一つとして挙げることができる。今後はこれらの想定を実証すべく、両遺跡で得られた多種多様な資料についての検討を進め、古代集落の様相についての考察を深めていきたい。

註

1）本遺跡では土器剥片から土師器焼成を行ったことが明確なものと、明確な証拠はないが製炭土坑やカマド状土坑とは考え難く、遺構形態や焼成面の状態などから何らかの焼成遺構と考えられるものを「焼成遺構」として一括して扱った。
2）高前壇Ⅱ遺跡、相去遺跡、船渡Ⅰ遺跡、藤沢遺跡、煤孫遺跡、南部工業団地遺跡 D 地区では焼成遺構とロクロピットを持つ竪穴住居の組み合わせが確認されている。
3）北上市内においては 8 世紀後半～9 世紀前葉のロクロピットを伴う竪穴住居の調査事例は未確認である。
4）遺跡内出土の土師器把手付堝と区別するため、把手付鉄鍋と呼称する。
5）鍋・羽釜・火舎など鉄製の容器に付属すると考えられるが、容器片が未検出であるためどのような器種であったかは不明である。
6）中村遺跡から 100 年ほど時期は下るが、当遺跡から 4.5 km 北東側に位置する大竹廃寺の堂宇より出土した鉄鐘が福島県向田 A 遺跡の鋳型の文様と類似していることが相馬開発関連遺跡調査報告Ⅰの報文において指摘されている（福島県教委 1988）。報文では、大竹廃寺の鉄鐘が武井地区の鋳造方法と極めて近い技術によって製作された可能性があると述べられている。中村遺跡の鉄製獣脚と向田 A 遺跡の獣脚鋳型に類似する点が見いだせることとあわせて興味深い。

引用・参考文献（五十音順）

相原康二 1981「岩手県南部における古代の土器群編年試案」『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅹ』岩手県文化財調査報告 59
秋田市教育委員会秋田城跡調査事務所 1989『秋田城跡　平成元年度秋田城跡発掘調査概報』
吾妻俊典 2004「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第 6 号
飯村均 2009『中世奥羽のムラとマチ　考古学が描く列島史』財団法人東京大学出版会
石川日出志 2005「弥生中期谷起島式に後続する磨消縄文土器群」『岩手考古学』第 17 号
伊藤博幸 1990「陸奥国における黒色土師器―その展開と終焉―」『東国土器研究』第 3 号
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2005『西川目・堰向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』第 464 集
（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2016『千苅遺跡発掘調査報告書』第 652 集
氏家和典 1957「東北土師器の形式分類とその編年」『歴史』第 14 輯
大阪府立近つ飛鳥博物館 1997『平成 9 年度秋季特別展「あつれき」と「交流」―古代律令国家とみちのくの文化―』大阪府立近つ飛鳥博物館図録 13

折原覚 2008「鉄製獣脚について考える」『倉田芳郎先生追悼論文集』倉田芳郎先生追悼論文集編集委員会（株）同成社
加藤道男 1989「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢Ⅱ』芹沢長介先生還暦記念論文集
金子昭彦 2007「大洞 A' 式から青木畑式へ―岩手県金附遺跡から見た東北地方中部・縄文時代直後の土器型式―」『縄文時代』第 18 号
君島武史 2015「岩手県南の土師器生産」『北東北の古代土師器生産』岩手考古学会第 47 回研究大会資料
君津郡市埋蔵文化財センター 1985『永吉台遺跡』君津郡市埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 12 集
黒沢崇・大澤正巳 2003『千原台ニュータウン　市原市押沼第 1・第 2 遺跡（上層）』千葉県文化財センター調査報告第 449 集
古河市教育委員会 2012『川戸台遺跡』古河市埋蔵文化財調査報告書第 10 集
埼玉県教育委員会 1979『埼玉県立がんセンター埋蔵文化財発掘調査報告　大山』
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ台耕地（Ⅱ）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 33 集
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1985『猿貝北・道上・新町口』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 52 集
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1996『菅原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 169 号
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2012『大山遺跡第 12 次』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 392 集
白鳥良一 1980「多賀城跡出土土器の変遷」『宮城県多賀城跡調査研究所研究紀要』7
菅原祥夫 1997「第 9 節　東北東部」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会　真陽社
杉本良 2001「赤彩球胴甕再考（1）」『北上市立博物館研究報告』第 13 号
杉本良 2002「赤彩球胴甕再考（2）」『北上市立埋蔵文化財センター紀要』第 2 号
杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』第八（株）吉川弘文館
須藤隆 1983「東北地方の初期弥生土器―山王Ⅲ層式―」『考古学雑誌』第 68 巻第 3 号
多賀城市埋蔵文化財センター 2003『市川橋遺跡』多賀城市文化財調査報告書第 70 集
高橋静歩 2007「東北地方北部の赤彩土師器から蝦夷集団の動向を探る」『岩手考古学』第 19 号
高橋千晶 2007「第Ⅱ章　東北・北海道における 6～8 世紀の土器変遷と地域の相互関係　vii. 岩手県南部」『古代東北・北海道におけるモノ・ヒト・文化交流の研究』平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書
（財）千葉県文化財センター 1985『常盤自動車道埋蔵文化財調査報告書―花前Ⅱ-1・花前Ⅱ-2・矢船―』
（財）千葉県文化財センター 2003『千原台ニュータウン　市原市押沼第 1・第 2 遺跡（上層）』千葉県文化財センター調査報告第 449 集
津野仁 2001「中世鉄鏃の形成過程と北方系の鉄鏃」『土曜考古』第 25 号
東京都埋蔵文化財センター 1986「No.91A・462 遺跡」『多摩ニュータウン遺跡』昭和 59 年度　第 4 分冊
富山県小杉町教育委員会 1991『上野南遺跡群発掘調査報告』
豊田市教育委員会 2009『高橋遺跡―第 16 次調査―』豊田市埋蔵文化財調査報告書第 36 集
流山市教育委員会 2004『流山市西平井鰭ヶ崎地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査概報Ⅰ』vol.34
西澤正晴 2002「第 5 章・第 2 節（4）鉄製品」『島田Ⅱ遺跡第 2～4 次発掘調査報告書』第 450 集（財）岩手県文化振興事業団埋文センター
西澤正晴 2014「蕨手刀概論」『北三陸の蝦夷・蕨手刀』岩手考古学会第 46 回研究大会（野田村大会）資料
沼山源喜治 1968「北上市出土土師器考」『北上市史』第 1 巻原始・古代（1）　北上市史刊行会
平野修 2015「日本古代俘囚の移配に関する考古学的検証」『特集　移動を考える』山梨県考古学協会誌第 23 号
広島県立歴史博物館 2005『重文　広島県草戸千軒町遺跡出土品指定品目録』草戸千軒町遺跡調査研究報告 7
福島県教育委員会 1988「向田 A 遺跡」『相馬開発関連遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 215 集
福島県教育委員会 1995「山田 A 遺跡」『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅲ』福島県文化財調査報告書第 312 集
福島県教育委員会 1996「猪倉 B 遺跡」『相馬開発関連遺跡調査報告Ⅳ』福島県文化財調査報告書第 326 集
本郷遺跡調査団 1991『海老名本郷（Ⅶ）』
宮城県教育委員会 1996『山王遺跡Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第 170 集
宮城県多賀城跡調査研究所 1972『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1971』（第 12～14 次調査）
村田淳 2014「9～11 世紀の土器編年構築と竪穴建物跡等集成からみた各地区の特質 8. 稗貫・和賀地区」『9～11 世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質から見た、北東北世界の実態的研究』2011～2013 年度明治大学大久保忠和考古学振興基金奨励研究研究成果報告書
望月精司 1997「第 2 節　土師器焼成坑の分類」『古代の土師器生産と焼成遺構』窯跡研究会　真陽社
八木光則・藤村茂克 2003『蕨手刀集成』第 3 版　盛岡市文化財研究会
安田稔 1988「考察第 1 章第 4 節鋳型」『相馬開発関連遺跡発掘調査報告Ⅰ』福島県文化財調査報告書第 215 集
山田晃弘 1996「第Ⅰ章 4. 石製品（1）砥石について」『山王遺跡　多賀前地区考察編』宮城県文化財調査報告書第 117 集

報 告 書 抄 録

ふりがな	なかむらいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	中村遺跡発掘調査報告書
副書名	北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 671 集
編著者名	丸山直美、高木　晃、伊東　格
編集機関	（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地　　TEL（019）638-9001
発行年月日	2017 年 3 月 17 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （m²）	調査原因
中村遺跡（なかむらいせき）	岩手県北上市二子町字中村地内（いわてけんきたかみしふたごちょうあざなかむらちない）	03206	ME56-1385	39 度 18 分 29 秒	141 度 08 分 56 秒	2014.04.07 ～ 2014.12.22	18,290	北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）
						2015.04.16 ～ 2015.07.02	3,580	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中村遺跡	集落跡	縄文	沢跡 2 条	縄文土器・石器	
		弥生		弥生土器・土製品・石器	
		奈良・平安	竪穴住居 136 棟	土師器・須恵器 灰釉陶器 土製品 石器 金属製品	調査区全域に遺構分布。8 世紀中葉～9 世紀代を主とする。竪穴住居跡内に洪水堆積層確認。土師器焼成遺構多数分布。赤彩土器の多量出土。鉄製煮炊具（把手付鉄鍋）、鉄製獣脚、毛抜形透蕨手刀（柄）の出土。
			掘立柱建物 2 棟		
			土坑 137 基		
			焼成遺構 73 基		
			焼土 16 基		
			溝跡 19 条		
			畝間状遺構 7 箇所		
			柱穴列 1 条		
			柱穴状小土坑 516 個		
		平安後期～中世	掘立柱建物跡 2 棟（鍛冶工房）	古銭・鉄滓類・羽口・坩堝	鍛冶炉を伴う工房の検出。

要約

中村遺跡は北上川西岸の自然堤防上に立地する。出土遺物の年代は縄文時代中期から中世にかけてと幅が広いが、検出遺構の主体は奈良・平安時代である。該期の遺構は、南側に隣接する千苅遺跡でも多数検出されており、竪穴住居跡の数は合計 200 棟を超す。両遺跡の存続年代はほぼ等しく、遺構、遺物の特徴も共通することから、延長約 1.5 km にわたって自然堤防上に営まれた大規模な集落跡と評価することができる。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 671 集

中村遺跡発掘調査報告書

北上川中流部緊急治水対策事業（二子地区）関連遺跡発掘調査

〈第 1 分冊　本文・図版・表〉

印　刷　平成 29 年 3 月 7 日

発　行　平成 29 年 3 月 17 日

編　集　（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡 11 地割 185 番地

電話（019）638-9001

発　行　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

〒020-0066　岩手県盛岡市上田 4 丁目 2-2

電話（019）624-3131

（公財）岩手県文化振興事業団

〒020-0023　岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号

電話（019）654-2235

印　刷　山口北州印刷株式会社

〒020-0184　岩手県盛岡市青山 4 丁目 10 番 5 号

電話（019）641-0585

©（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017